

平成 28 年度

• 2016 •

SYLLABUS

(講義概要)



京都ノートルダム女子大学

【凡 例】

- =必修科目（クラス指定される科目については別紙参照） △=選択必修科目
- ▲=選択必修科目（平成24年度以後入学者適用）
- =専攻・年度により必修となる科目
- ☆=他学部・他学科専門教育科目（どの学部・学科も履修できる科目）
- (13)=平成25年度から名称変更となった科目（[旧]の後継科目。または[読替]となる科目）
- [旧]=後継科目（▼（13）（14））に対応する変更前の科目名
- [読替]=新科目（※（13）（14））を履修すれば読替えとなる、変更前の科目名
- 隔年開講1=隔年で（西暦が奇数の年に）開講される科目
- 隔年開講2=隔年で（西暦が偶数の年に）開講される科目
- ※=読替えが設定されている科目（[読替]で示す科目名に読替える）
- ▼=後継科目（[旧]で示す科目名から変更された科目）
- ¶=平成26年度以後入学生適用科目
- ◆=平成24年度以後入学生専用科目
- ◇=平成25年度以前入学生専用科目
- *=平成23年度以前入学生専用科目
- 英=英語英文学科履修科目
- 人=人間文化学科履修科目
- 生=生活福祉文化学科履修科目
- 心=心理学科履修科目（現=現代心理、学=学校心理、臨=臨床心理）
- 留=外国人留学生履修科目

〔資格科目〕

- 教=教職課程科目
- 中=教職課程科目（中学校）
- (英)=英語の教科に関する科目
- 国=国語の教科に関する科目
- (家)=家庭の教科に関する科目
- 小=教職課程科目（小学校のみ） 幼=教職課程科目（幼稚園のみ）
- 司教=司書教諭課程科目
- 図=司書課程科目
- 博=学芸員課程科目
- 保=保育士養成課程科目
- (保)=保育士養成課程科目（特別選択科目用）
- 社=社会福祉士受験資格に係る科目
- 精=精神保健福祉士受験資格に係る科目
- 建=二級建築士受験資格に係る科目
- イ=インテリアプランナー資格に係る科目
- レ=レクリエーションインストラクター資格に係る科目
- 健=健康管理士一般指導員受験資格に係る科目
- フ=フードスペシャリスト受験資格に係る科目
- 情=情報処理士資格に係る科目
- ウ=ウェブデザイン実務士資格に係る科目
- プ=プレゼンテーション実務士資格に係る科目
- 日=日本語教員養成課程科目
- ホ=ホスピタリティプログラム科目
- 子=子ども未来プログラム科目
- 医=医療サポート語学プログラム科目
- エ=エアラインプログラム科目

共通教育科目

共通	10103101	○ ノートルダム学 I A	前期隔週	…	9
共通	10103102	○ ノートルダム学 I B	前期隔週	…	9
共通	10103103	○ ノートルダム学 I C	前期隔週	…	9
共通	10103104	○ ノートルダム学 I D	前期隔週	…	9
共通	10103201	○ ノートルダム学 II A	後期隔週	…	10
共通	10103202	○ ノートルダム学 II B	後期隔週	…	10
共通	10103203	○ ノートルダム学 II C	後期隔週	…	10
共通	10103204	○ ノートルダム学 II D	後期隔週	…	10
共通	10103301	○ ノートルダム学 III	集中	…	10
共通	10158101	女性とライフキャリア A	前期	…	80
共通	10158102	女性とライフキャリア B	後期	…	80
共通	10155601	ホスピタリティ入門 A	前期	…	75
共通	10155602	ホスピタリティ入門 B	後期	…	75
共通	10157001	ホスピタリティ 京都	前期	…	78
共通	10154201	キャリア形成 A	前期	…	71
共通	10154202	キャリア形成 B	後期	…	71
共通	10157101	女性の育てとライフキャリア	前期後半	…	78
共通	10158001	キャリア形成ゼミ	集中	…	80
共通	10157201	児童館実践演習	通年	…	78
共通	10184001	インターンシップ A	集中	…	89
共通	10184002	インターンシップ B	集中	…	90
共通	10184003	インターンシップ C	集中	…	90
共通	10101201	○ ※キリスト教入門 A	前期	…	1
共通	10101202	○ ※キリスト教入門 B	後期	…	1
共通	10101203	○ ※キリスト教入門 C	前期	…	1
共通	10101204	○ ※キリスト教入門 D	後期	…	1
共通	10101205	○ ※キリスト教入門 E	前期	…	1
共通	10101206	○ ※キリスト教入門 F	後期	…	1
共通	10102901	○ 宗教音楽 I A	前期隔週	…	7
共通	10102902	○ 宗教音楽 I B	前期隔週	…	7
共通	10102903	○ 宗教音楽 I C	前期隔週	…	8
共通	10102904	○ 宗教音楽 I D	前期隔週	…	8
共通	10103001	○ 宗教音楽 II A	後期隔週	…	8
共通	10103002	○ 宗教音楽 II B	後期隔週	…	8
共通	10103003	○ 宗教音楽 II C	後期隔週	…	8
共通	10103004	○ 宗教音楽 II D	後期隔週	…	9
共通	10102101	△ キリスト教思想	後期	…	5
共通	10102401	△ 日本文化と宗教	前期	…	6
共通	10102501	△ 西洋思想	前期	…	6
共通	10102601	△ 死の哲学	前期	…	6
共通	10102701	△ キリスト教的死生観	後期	…	7
共通	10154801	△ 聖書と文化 A	前期	…	73
共通	10154802	△ 聖書と文化 B	後期	…	73
共通	10102001	▲ キリスト教音楽 A	前期	…	5
共通	10102002	▲ キリスト教音楽 B	後期	…	5
共通	10151601	文章表現法 A	前期	…	62
共通	10151602	文章表現法 B	後期	…	62
共通	10101901	○ 情報演習 I A	前期	…	3
共通	10101902	○ 情報演習 I B	前期	…	3
共通	10101903	○ 情報演習 I C	前期	…	4
共通	10101904	○ 情報演習 I D	前期	…	4
共通	10101905	○ 情報演習 I E	前期	…	4
共通	10101906	○ 情報演習 I F	後期	…	4
共通	10101907	○ 情報演習 I G	後期	…	4
共通	10101908	○ 情報演習 I H	後期	…	4
共通	10153501	情報演習 II A	前期	…	70
共通	10153502	情報演習 II B	後期	…	70
共通	10153503	情報演習 II C	後期	…	70
共通	10152401	情報処理 A	前期	…	66
共通	10152402	情報処理 B	前期	…	66
共通	10152403	情報処理 C	前期	…	67
共通	10152404	情報処理 D	後期	…	67
共通	10152405	情報処理 E	後期	…	67
共通	10152406	情報処理 F	後期	…	67
共通	10152407	情報処理 G	後期	…	68
共通	10152408	情報処理 H	後期	…	67
共通	10101501	● ※健康スポーツ演習 Q	前期	…	2
共通	10101502	● ※健康スポーツ演習 S	後期	…	2
共通	10101503	● ※健康スポーツ演習 T	後期	…	2
共通	10101504	● ※健康スポーツ演習 U	前期	…	3
共通	10101601	健康スポーツ実習	後期	…	3
共通	10154401	体育講義	後期前半	…	73
共通	10183501	資格英語 I	集中	…	別紙
共通	10183601	資格英語 II	集中	…	別紙
共通	10183701	認定日本語	集中	…	89
共通	10116102	○ ※英語基礎 I ('13) A	前期	…	12
共通	10116103	○ ※英語基礎 I ('13) B	前期	…	13
共通	10116104	○ ※英語基礎 I ('13) C	前期	…	13
共通	10116105	○ ※英語基礎 I ('13) D	前期	…	14
共通	10116106	○ ※英語基礎 I ('13) E	前期	…	14
共通	10116107	○ ※英語基礎 I ('13) F	前期	…	14
共通	10116108	○ ※英語基礎 I ('13) G	前期	…	15
共通	10116109	○ ※英語基礎 I ('13) H	前期	…	15
共通	10116110	○ ※英語基礎 I ('13) J	前期	…	16
共通	10116111	○ ※英語基礎 I ('13) K	前期	…	16
共通	10116302	○ ※英語総合 I ('13) A	前期	…	21
共通	10116303	○ ※英語総合 I ('13) B	前期	…	22
共通	10116304	○ ※英語総合 I ('13) C	前期	…	22
共通	10116305	○ ※英語総合 I ('13) D	前期	…	22
共通	10116306	○ ※英語総合 I ('13) E	前期	…	23
共通	10116307	○ ※英語総合 I ('13) F	前期	…	23
共通	10116308	○ ※英語総合 I ('13) G	前期	…	23
共通	10116309	○ ※英語総合 I ('13) H	前期	…	24
共通	10116310	○ ※英語総合 I ('13) J	前期	…	24
共通	10116311	○ ※英語総合 I ('13) K	前期	…	24
共通	10116202	○ ※英語基礎 II ('13) A	後期	…	17
共通	10116203	○ ※英語基礎 II ('13) B	後期	…	17
共通	10116204	○ ※英語基礎 II ('13) C	後期	…	18
共通	10116205	○ ※英語基礎 II ('13) D	後期	…	18
共通	10116206	○ ※英語基礎 II ('13) E	後期	…	18
共通	10116207	○ ※英語基礎 II ('13) F	後期	…	19
共通	10116208	○ ※英語基礎 II ('13) G	後期	…	19
共通	10116209	○ ※英語基礎 II ('13) H	後期	…	20
共通	10116210	○ ※英語基礎 II ('13) J	後期	…	20
共通	10116211	○ ※英語基礎 II ('13) K	後期	…	21
共通	10116402	○ ※英語総合 II ('13) A	後期	…	25
共通	10116403	○ ※英語総合 II ('13) B	後期	…	25
共通	10116404	○ ※英語総合 II ('13) C	後期	…	26
共通	10116405	○ ※英語総合 II ('13) D	後期	…	26
共通	10116406	○ ※英語総合 II ('13) E	後期	…	26
共通	10116407	○ ※英語総合 II ('13) F	後期	…	27
共通	10116408	○ ※英語総合 II ('13) G	後期	…	27

共通	10116409	○ ※英語総合Ⅱ (13) H	後期	…	28	共通	10124503	朝鮮語Ⅱ C	後期	…	50
共通	10116410	○ ※英語総合Ⅱ (13) J	後期	…	28	共通	10124601	朝鮮語Ⅲ	前期	…	50
共通	10116411	○ ※英語総合Ⅱ (13) K	後期	…	28	共通	10124701	朝鮮語Ⅳ	後期	…	51
共通	10115501	○ 英語Ⅲ(リーディング&ライティング)	前期集中	…	11	共通	10124801	朝鮮語Ⅴ	前期	…	51
共通	10115601	○ 英語Ⅳ(リーディング&ライティング)	後期集中	…	11	共通	10124901	朝鮮語Ⅵ	後期	…	52
共通	10119101	▼ 英語応用 a (A)	前期	…	29	共通	10125001	中国語Ⅰ A	前期	…	52
共通	10119102	▼ 英語応用 a (B)	前期	…	29	共通	10125002	中国語Ⅰ B	前期	…	52
共通	10119103	▼ 英語応用 a (C)	後期	…	30	共通	10125003	中国語Ⅰ C	前期	…	52
共通	10119104	▼ 英語応用 a (D)	後期	…	30	共通	10125004	中国語Ⅰ D	前期	…	52
共通	10119201	▼ 英語応用 b (A)	後期	…	31	共通	10125101	中国語Ⅱ A	後期	…	53
共通	10119202	▼ 英語応用 b (B)	後期	…	31	共通	10125102	中国語Ⅱ B	後期	…	53
共通	10119203	▼ 英語応用 b (C)	後期	…	31	共通	10125103	中国語Ⅱ C	後期	…	53
共通	10119301	▼ 英語応用 c (A)	前期	…	32	共通	10125104	中国語Ⅱ D	後期	…	53
共通	10119302	▼ 英語応用 c (B)	前期	…	32	共通	10125201	中国語Ⅲ	前期	…	54
共通	10119401	英語応用 d (A)	前期	…	33	共通	10125301	中国語Ⅳ	後期	…	54
共通	10119402	英語応用 d (B)	前期	…	33	共通	10126001	中国語Ⅴ	前期	…	58
共通	10119403	英語応用 d (C)	後期	…	34	共通	10126101	中国語Ⅵ	後期	…	58
共通	10119404	英語応用 d (D)	後期	…	34	共通	10156101	※アラビア語Ⅰ	前期	…	76
共通	10119501	▼ 英語応用 e (A)	前期	…	34	共通	10156201	※アラビア語Ⅱ	後期	…	76
共通	10119502	▼ 英語応用 e (B)	後期	…	35	共通	10156301	アラビア語Ⅲ	前期	…	77
共通	10119601	▼ 英語応用 f (A)	前期	…	36	共通	10156401	アラビア語Ⅳ	後期	…	77
共通	10119602	▼ 英語応用 f (B)	後期	…	36	共通	10125401	留 日本語講読Ⅰ	前期	…	55
共通	10119701	▼ 英語応用 g (A)	前期	…	37	共通	10125501	留 日本語講読Ⅱ	後期	…	55
共通	10119702	▼ 英語応用 g (B)	後期	…	37	共通	10125601	留 日本語表現Ⅰ	前期	…	56
共通	10119801	▼ 英語応用 h (A)	後期	…	38	共通	10125701	留 日本語表現Ⅱ	後期	…	56
共通	10119802	▼ 英語応用 h (B)	後期	…	38	共通	10125801	留 日本語特講Ⅰ	前期	…	57
共通	10119901	英語応用 i (A)	前期	…	39	共通	10125901	留 日本語特講Ⅱ	後期	…	57
共通	10119902	英語応用 i (B)	前期	…	39	共通	10154101	留 資格日本語集中	…	71	
共通	10120001	▼ 英語応用 j	後期	…	40	共通	10153401	人間学	後期	…	69
共通	10121401	英会話(初級)A	前期	…	40	共通	10151001	日本古代中世史A	前期	…	58
共通	10121402	英会話(初級)B	前期	…	40	共通	10151002	日本古代中世史B	前期	…	59
共通	10121501	英会話(中級)	後期	…	40	共通	10151101	日本近世近代史A	後期	…	59
共通	10123001	ドイツ語Ⅰ	前期	…	41	共通	10151102	日本近世近代史B	後期	…	59
共通	10123101	ドイツ語Ⅱ	後期	…	41	共通	10151201	西洋史A	前期	…	60
共通	10123201	ドイツ語Ⅲ	前期	…	42	共通	10151202	西洋史B	後期	…	60
共通	10123301	ドイツ語Ⅳ	後期	…	42	共通	10151301	東洋史	前期	…	61
共通	10123401	フランス語ⅠA	前期	…	43	共通	10151401	日本文学	後期	…	61
共通	10123402	フランス語ⅠB	前期	…	43	共通	10151501	外国文学	前期	…	62
共通	10123403	フランス語ⅠC	前期	…	43	共通	10154301	心理学概論A	前期	…	72
共通	10123501	フランス語ⅡA	後期	…	44	共通	10154302	心理学概論B	後期	…	72
共通	10123502	フランス語ⅡB	後期	…	44	共通	10152101	文化人類学A	後期	…	65
共通	10123503	フランス語ⅡC	後期	…	44	共通	10152102	文化人類学B	後期	…	65
共通	10123601	フランス語Ⅲ	前期	…	45	共通	10151701	法学概論	前期	…	63
共通	10123701	フランス語Ⅳ	後期	…	45	共通	10151801	日本国憲法A	前期	…	63
共通	10123801	フランス語Ⅴ	前期	…	46	共通	10151802	日本国憲法B	後期	…	63
共通	10123901	フランス語Ⅵ	後期	…	46	共通	10151901	経済学概論A	前期	…	64
共通	10124001	スペイン語ⅠA	前期	…	47	共通	10151902	経済学概論B	後期	…	64
共通	10124002	スペイン語ⅠB	前期	…	47	共通	10152001	社会学概論	前期	…	64
共通	10124101	スペイン語ⅡA	後期	…	47	共通	10152201	女性学概論A	前期	…	65
共通	10124102	スペイン語ⅡB	後期	…	48	共通	10152202	女性学概論B	後期	…	65
共通	10124201	スペイン語Ⅲ	前期	…	48	共通	10155201	女性の権利A	前期	…	74
共通	10124301	スペイン語Ⅳ	後期	…	48	共通	10155202	女性の権利B	後期	…	74
共通	10124401	朝鮮語ⅠA	前期	…	49	共通	10152301	ボランティア概論A	前期	…	66
共通	10124402	朝鮮語ⅠB	前期	…	49	共通	10152302	ボランティア概論B	後期	…	66
共通	10124403	朝鮮語ⅠC	前期	…	49	共通	10157301	実践の子ども学	夏期集中	…	79
共通	10124501	朝鮮語ⅡA	後期	…	50	共通	10157401	子どもと子育てのための生活環境学	前期前半	…	79
共通	10124502	朝鮮語ⅡB	後期	…	50	共通	10152501	地球と宇宙の科学A	前期	…	69

共通	10152502	地球と宇宙の科学 B	後期	…	69
共通	10152601	環境学概論	後期	…	69
共通	10159001	医学概論 I	前期集中	…	81
共通	10159101	医学概論 II	集中	…	81
共通	10159201	病児の発達と支援	春期集中	…	82
共通	10155301	生命倫理 A	前期	…	75
共通	10155302	生命倫理 B	後期	…	75
共通	10154901	▼身近な自然科学入門	前期	…	74
共通	10154701	暮らしの統計学	後期	…	73
共通	10183101	ボランティア実践	集中	…	89
共通	10181191	特定目的海外研修A(英語海外研修I)	集中	…	83
共通	10181192	特定目的海外研修A(英語海外研修III)	集中	…	84
共通	10181193	特定目的海外研修B(社会福祉海外研修)	集中	…	85
共通	10181194	特定目的海外研修A(韓国語海外研修)	集中	…	86
共通	10181195	特定目的海外研修A(海外インターンシップ研修II)	集中	…	87
共通	10181196	特定目的海外研修A(海外インターンシップ研修III)	集中	…	88

人間文化学部共通科目

英人	22900107	○基礎演習 I W	集中	…	225
英人	22900207	○基礎演習 II W	集中	…	227
英人	18010101	☆医療サポート英語 I	前期	…	90
英人	18010201	☆医療サポート英語 II	未定	…	91
英人	18010301	☆医療サポート語学プログラム病院研修	集中	…	91

人間文化学部英語英文学科専門教育科目

英文	20101001	○ Reading I A	前期	…	92
英文	20101002	○ Reading I B	前期	…	92
英文	20101003	○ Reading I C	前期	…	93
英文	20101004	○ Reading I D	前期	…	94
英文	20101101	○ Reading II A	後期	…	94
英文	20101102	○ Reading II B	後期	…	94
英文	20101103	○ Reading II C	後期	…	95
英文	20101104	○ Reading II D	後期	…	96
英文	20102001	○ Writing I A	前期	…	101
英文	20102002	○ Writing I B	前期	…	101
英文	20102003	○ Writing I C	前期	…	101
英文	20102004	○ Writing I D	前期	…	102
英文	20102101	○ Writing II A	後期	…	102
英文	20102102	○ Writing II B	後期	…	102
英文	20102103	○ Writing II C	後期	…	103
英文	20102104	○ Writing II D	後期	…	103
英文	20201201	○ Reading and Writing I	前期集中	…	115
英文	20201401	○ Reading and Writing II	後期集中	…	115
英文	20204201	○ Advanced Reading I A	前期	…	120
英文	20204202	○ Advanced Reading I B	前期	…	120
英文	20204203	○ Advanced Reading I C	前期	…	121
英文	20204204	○ Advanced Reading I D	前期	…	121
英文	20204205	○ Advanced Reading I E	前期集中	…	122
英文	20204302	○ Advanced Reading II B	後期	…	122
英文	20204303	○ Advanced Reading II C	後期	…	122
英文	20204304	○ Advanced Reading II D	後期	…	123
英文	20204305	○ Advanced Reading II E	後期集中	…	123
英文	20204401	○ Advanced Writing I A	前期	…	124
英文	20204402	○ Advanced Writing I B	前期	…	124
英文	20204403	○ Advanced Writing I C	前期	…	124

英文	20204404	○ Advanced Writing I D	前期	…	125
英文	20204405	○ Advanced Writing I E	前期集中	…	125
英文	20204502	○ Advanced Writing II B	後期	…	125
英文	20204503	○ Advanced Writing II C	後期	…	126
英文	20204504	○ Advanced Writing II D	後期	…	126
英文	20204505	○ Advanced Writing II E	後期集中	…	127
英文	20103101	○ * Listening I A	前期	…	105
英文	20103102	○ * Listening I B	前期	…	105
英文	20103103	○ * Listening I C	前期	…	106
英文	20103104	○ * Listening I D	前期	…	106
英文	20103201	○ * Listening II A	後期	…	107
英文	20103202	○ * Listening II B	後期	…	107
英文	20103203	○ * Listening II C	後期	…	107
英文	20103204	○ * Listening II D	後期	…	108
英文	20104101	○ * Speaking I A	前期	…	110
英文	20104102	○ * Speaking I B	前期	…	110
英文	20104103	○ * Speaking I C	前期	…	111
英文	20104104	○ * Speaking I D	前期	…	111
英文	20104201	○ * Speaking II A	後期	…	112
英文	20104202	○ * Speaking II B	後期	…	112
英文	20104203	○ * Speaking II C	後期	…	112
英文	20104204	○ * Speaking II D	後期	…	113
英文	20103301	○ * Advanced Listening I A	前期	…	108
英文	20103302	○ * Advanced Listening I B	前期	…	109
英文	20103303	○ * Advanced Listening I C	前期	…	109
英文	20103402	○ * Advanced Listening II B	後期	…	109
英文	20103403	○ * Advanced Listening II C	後期	…	110
英文	20104301	○ * Advanced Speaking I A	前期	…	113
英文	20104302	○ * Advanced Speaking I B	前期	…	114
英文	20104303	○ * Advanced Speaking I C	前期	…	114
英文	20104402	○ * Advanced Speaking II B	後期	…	114
英文	20104403	○ * Advanced Speaking II C	後期	…	115
英文	20101401	○ Academic Reading I	前期	…	96
英文	20101402	○ Academic Reading I	前期	…	96
英文	20101403	○ Academic Reading I	前期	…	96
英文	20101404	○ Academic Reading I	前期	…	96
英文	20101405	○ Academic Reading I	前期	…	96
英文	20101406	○ Academic Reading I	前期	…	97
英文	20101407	○ Academic Reading I	前期	…	97
英文	20101408	○ Academic Reading I	前期	…	97
英文	20101409	○ Academic Reading I	前期	…	97
英文	20101411	○ Academic Reading I	前期	…	97
英文	20101412	○ Academic Reading I	前期	…	97
英文	20101501	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101502	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101503	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101504	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101505	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101506	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101507	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101508	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101509	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101511	○ Academic Reading II	後期	…	98
英文	20101512	○ Academic Reading II	後期	…	99
英文	20205001	○ Academic Writing I A	前期	…	127
英文	20205002	○ Academic Writing I B	前期	…	127
英文	20205003	○ Academic Writing I C	前期	…	128

英文	20205004	○ Academic Writing I D	前期	…	128	英文	20301102	○ ※英語英文学基礎演習 I B	前期	…	138
英文	20205005	○ Academic Writing I E	前期	…	129	英文	20301103	○ ※英語英文学基礎演習 I C	前期	…	138
英文	20205101	○ Academic Writing II A	後期	…	129	英文	20301104	○ ※英語英文学基礎演習 I D	前期集中	…	138
英文	20205102	○ Academic Writing II B	後期	…	130	英文	20301201	○ ※英語英文学基礎演習 II A	後期	…	138
英文	20205103	○ Academic Writing II C	後期	…	130	英文	20301202	○ ※英語英文学基礎演習 II B	後期	…	138
英文	20205104	○ Academic Writing II D	後期	…	131	英文	20301203	○ ※英語英文学基礎演習 II C	後期	…	138
英文	20205105	○ Academic Writing II E	後期	…	131	英文	20301204	○ ※英語英文学基礎演習 II D	後期集中	…	139
英文	20206101	※Communication Skills I	前期	…	134	英文	20501201	○ 英米文学概論 A	前期	…	145
英文	20206201	※Communication Skills II	後期	…	135	英文	20501202	○ 英米文学概論 B	後期	…	145
英文	20205401	英会話 III	前期	…	132	英文	20521001	○ 言語学概論 A	前期	…	149
英文	20205501	英会話 IV	後期	…	132	英文	20521002	○ 言語学概論 B	後期	…	149
英文	20203201	○ Advanced English	前期集中	…	116	英文	20541101	○ ※コミュニケーション学概論 A	前期	…	160
英文	20205601	☆ 英文法 I A	前期	…	132	英文	20541102	○ ※コミュニケーション学概論 B	後期	…	160
英文	20205602	☆ 英文法 I B	前期	…	133	英文	20302001	※ 専門講読 I a	前期	…	139
英文	20205701	☆ 英文法 II A	後期	…	133	英文	20302101	※ 専門講読 I b	前期	…	139
英文	20205702	☆ 英文法 II B	後期	…	134	英文	20302201	※ 専門講読 I c A	前期	…	140
英文	20529001	☆ 英文法 III	前期	…	155	英文	20302202	※ 専門講読 I c B	後期	…	140
英文	20529101	☆ 英文法 IV	後期	…	155	英文	20302301	※ 専門講読 I d A	前期	…	141
英文	20203301	イングリッシュ・チャレンジ I	集中	…	別紙	英文	20302302	※ 専門講読 I d B	後期	…	141
英文	20203401	イングリッシュ・チャレンジ II	集中	…	別紙	英文	20302401	¶ 専門講読 II a	後期	…	142
英文	20203501	英語キャリア戦略	前期	…	116	英文	20302501	※ 専門講読 II b	後期	…	142
英文	20203601	☆ T O E I C I A	前期	…	116	英文	20302601	※ 専門講読 II c A	後期	…	143
英文	20203602	☆ T O E I C I B	前期	…	117	英文	20302602	※ 専門講読 II c B	前期	…	143
英文	20203603	☆ T O E I C I C	前期	…	117	英文	20302701	※ 専門講読 II d A	後期	…	144
英文	20203701	☆ T O E I C II A	後期	…	118	英文	20302702	※ 専門講読 II d B	前期	…	144
英文	20203702	☆ T O E I C II B	後期	…	118	英文	20601101	※Global English Lecture I a	前期	…	170
英文	20203703	☆ T O E I C II C	後期	…	119	英文	20602101	※Global English Lecture II a	後期	…	171
英文	20203801	☆ T O E I C III	前期	…	119	英文	20603101	※Global English Lecture III a	前期	…	172
英文	20203901	☆ T O E I C IV	後期	…	120	英文	20604101	※Global English Workshop I a	前期	…	172
英文	20206501	☆ T O E F L I	前期	…	135	英文	20605101	¶ Global English Workshop II a	後期	…	173
英文	20206601	☆ T O E F L II	後期	…	135	英文	20601201	※Global English Lecture I b	後期	…	170
英文	20102601	¶ Writing Lab I	前期	…	104	英文	20602201	※Global English Lecture II b	後期	…	171
英文	20102701	¶ Writing Lab II	後期	…	104	英文	20603201	※Global English Lecture III b	前期	…	172
英文	20101601	¶ Reading Lab I	前期	…	99	英文	20601301	¶ Global English Lecture I c	前期	…	171
英文	20101701	¶ Reading Lab II	後期	…	99	英文	20603301	¶ Global English Lecture III c	前期	…	172
英文	20102801	¶ Writing Lab III	前期	…	104	英文	20604301	※Global English Workshop I c	後期	…	173
英文	20102901	¶ Writing Lab IV	後期	…	105	英文	20600101	¶ Global English Colloquium I	前期	…	168
英文	20101801	¶ Reading Lab III	前期	…	100	英文	20600201	¶ Global English Colloquium II	後期	…	169
英文	20101901	¶ Reading Lab IV	後期	…	100	英文	20600501	¶ 海外留学事前指導	前期	…	169
英文	20548201	☆ スピーチ I	前期	…	164	英文	20600601	¶ 海外留学事後指導	前期	…	169
英文	20548301	☆ スピーチ II	後期	…	164	英文	20512401	☆ ※ 英文学の歴史	前期	…	148
英文	20561201	☆ 同時通訳入門 A	前期	…	165	英文	20512201	☆ 米文学の歴史	前期	…	147
英文	20561202	☆ 同時通訳入門 B	後期	…	165	英文	20504901	☆ 映画論	後期	…	145
英文	20569001	☆ 同時通訳法 I	前期	…	167	英文	20508801	☆ 児童文学	前期	…	146
英文	20569101	☆ 同時通訳法 II	後期	…	168	英文	20512301	☆ 文学と女性	後期	…	147
英文	20206901	☆ ※ ビジネス英語	後期	…	136	英文	20512501	☆ 英語圏文化	後期	…	148
英文	20208001	☆ 海外留学 I a	後期集中	…	136	英文	20512601	☆ アメリカの社会と文化	後期	…	149
英文	20208101	☆ 海外留学 I b	前期集中	…	136	英文	20510901	個別文学・文化研究 I	半年	…	146
英文	20208201	☆ 海外留学 II a	後期集中	…	136	英文	20511001	個別文学・文化研究 II	半年	…	146
英文	20208301	☆ 海外留学 II b	前期集中	…	137	英文	20523101	☆ 英語の歴史	前期	…	150
英文	20208401	☆ 海外留学 III a	後期集中	…	137	英文	20527501	☆ ※ ことばのしくみ	後期	…	151
英文	20208501	☆ 海外留学 III b	前期集中	…	137	英文	20527001	☆ ことばと社会	後期	…	150
英文	20208601	☆ 海外留学 III c	後期集中	…	137	英文	20527601	☆ ※ ことばと認知	前期	…	151
英文	20208701	☆ 海外留学 III d	前期集中	…	137	英文	20529201	☆ 英語のサウンド研究	前期	…	156
英文	20208801	☆ 海外留学 III e	後期集中	…	137	英文	20543201	☆ 対人コミュニケーション	前期	…	161
英文	20208901	☆ 海外留学 III f	前期集中	…	137	英文	20543401	☆ ※異文化間コミュニケーション	後期	…	161
英文	20301101	○ ※英語英文学基礎演習 I A	前期	…	137	英文	20546901	☆ 言語,文化,コミュニケーション	後期	…	162

英文	20543801	☆	コンピュータネットワークコミュニケーションA	前期	…	161
英文	20543802	☆	コンピュータネットワークコミュニケーションB	後期	…	162
英文	20543901	☆	マルチメディア研究	前期	…	162
英文	20547201		個別コミュニケーション研究I	半年	…	163
英文	20547301		個別コミュニケーション研究II	半年	…	163
英文	20529301		英語科教育法I	前期	…	156
英文	20529401		英語科教育法II	後期	…	157
英文	20529501		英語科教育法III	前期	…	158
英文	20529502		英語科教育法III	後期	…	158
英文	20529601		英語科教育法IV	後期	…	159
英文	20528101	☆	児童英語教育I	前期	…	152
英文	20528201	☆	児童英語教育II	後期	…	153
英文	20528401	☆	※子どものための英語教育I	前期	…	153
英文	20528501	☆	※子どものための英語教育II	後期	…	154
英文	20530301	☆	※応用言語学	前期	…	159
英文	20565001	☆	外国語としての日本語	前期	…	165
英文	20565201	☆	子ども英語のための音声指導	前期	…	166
英文	20566001		スクールインターンシップ	後期	…	166
英文	20527901		個別英語学研究I	半年	…	152
英文	20528001		個別英語学研究II	半年	…	152
英文	20701001		ホスピタリティ論I	前期	…	174
英文	20701101	☆	ホスピタリティ論II	後期	…	174
英文	20701201	☆	エアライン・ビジネス論	後期	…	175
英文	20701301	☆	エアライン・サービス論	前期	…	175
英文	20701501	☆	ホテルビジネス研究	夏期集中	…	176
英文	20701601		ホスピタリティ・スキルA	前期	…	176
英文	20701602		ホスピタリティ・スキルB	前期	…	176
英文	20701701		フィールド研究	前期	…	177
英文	20701901	☆	接遇のための日本語	後期	…	178
英文	20701801	☆	接遇のための英語	後期	…	177
英文	20702101		ビジネスマナー演習A	後期	…	178
英文	20702102		ビジネスマナー演習B	後期	…	178
英文	20702201		キャリアデベロップメントA	後期	…	179
英文	20702202		キャリアデベロップメントB	後期	…	179
英文	20702401		エアライン研修	集中	…	179
英文	20703001	☆	医療サポート英語I	前期	…	91
英文	20703101	☆	医療サポート英語II	未定	…	91
英文	20703201	☆	医療サポート語学プログラム病院研修	夏期集中	…	92
英文	20547401	☆	プレゼンテーション概論	前期	…	163
英文	22508901	☆	プレゼンテーション演習	後期	…	203
英文	20901301	○	英語英文学演習I	前期	…	182
英文	20901302	○	英語英文学演習I	前期	…	182
英文	20901304	○	英語英文学演習I	前期	…	183
英文	20901305	○	英語英文学演習I	前期	…	183
英文	20901306	○	英語英文学演習I	前期	…	184
英文	20901307	○	英語英文学演習I	前期	…	184
英文	20901308	○	英語英文学演習I	前期	…	185
英文	20901309	○	英語英文学演習I	前期	…	185
英文	20901311	○	英語英文学演習I	前期	…	186
英文	20901312	○	英語英文学演習I	前期	…	187
英文	20901401	○	英語英文学演習II	後期	…	187
英文	20901402	○	英語英文学演習II	後期	…	188
英文	20901404	○	英語英文学演習II	後期	…	188
英文	20901405	○	英語英文学演習II	後期	…	189
英文	20901406	○	英語英文学演習II	後期	…	189
英文	20901407	○	英語英文学演習II	後期	…	190
英文	20901408	○	英語英文学演習II	後期	…	190

英文	20901409	○	英語英文学演習II	後期	…	191
英文	20901411	○	英語英文学演習II	後期	…	191
英文	20901412	○	英語英文学演習II	後期	…	192
英文	20901102	○	卒業研究	集中	…	180
英文	20901103	○	卒業研究	集中	…	180
英文	20901104	○	卒業研究	集中	…	180
英文	20901105	○	卒業研究	集中	…	180
英文	20901106		卒業研究	集中	…	180
英文	20901107	○	卒業研究	集中	…	180
英文	20901108	○	卒業研究	集中	…	181
英文	20901112	○	卒業研究	集中	…	181
英文	20901201	●	スペシャリストセミナー	通年	…	181

人間文化学部人間文化学科専門教育科目

人文	22302101	○	※日本語コミュニケーションI	前期	…	194
人文	22302201	○	※日本語コミュニケーションII A	後期	…	194
人文	22302202	○	※日本語コミュニケーションII B	後期	…	194
人文	22302301	○	※日本語コミュニケーションIII	前期	…	195
人文	22508301		国文学概論	前期	…	201
人文	22507901		国語学概論	前期	…	200
人文	22508501	☆	▼日本古典文学講読	後期	…	202
人文	22508101	☆	日本語文法	後期	…	200
人文	22521301	☆	日本語研究	後期	…	212
人文	22508401		書写研究	前期	…	201
人文	22508701		▼日本文学特講	後期	…	202
人文	22505901	☆	日本伝統文化論	前期	…	197
人文	22521001	☆	日本年中行事論	後期	…	210
人文	22510701	☆	京都学	後期	…	206
人文	22521101	☆	京都フィールドワーク研究A	前期	…	211
人文	22521102	☆	京都フィールドワーク研究B	後期	…	211
人文	22521201		日本語教育入門	前期	…	212
人文	22301301	☆	日本文化論	後期	…	193
人文	22508801	☆	日本語表現	後期	…	203
人文	22509001	☆	日本語の朗読	前期	…	204
人文	22509101	☆	スピーチの基礎	前期	…	204
人文	22509601	☆	▼キャリアとコミュニケーション	前期	…	206
人文	22509301	☆	古文書読解	後期	…	205
人文	22401501	☆	現代ジャーナリズム論	後期	…	196
人文	22515001	☆	インターネット社会論	後期	…	207
人文	22531101	☆	情報科学応用	前期	…	213
人文	22515301	☆	情報科学概論A	前期	…	208
人文	26501801	☆	情報科学概論B	後期	…	338
人文	22531201	☆	情報科学演習I	前期	…	213
人文	22531301	☆	情報科学演習II	後期	…	214
人文	22515701	☆	子どもの読書とメディア	後期	…	208
人文	22516701	☆	▼昔話とストーリーテリング	前期	…	210
人文	22531401		現代出版事情	後期	…	214
人文	22516401	☆	出版文化史	前期	…	209
人文	22533001	*	▼情報サービス演習I	後期	…	396
人文	22532101	◆	ウェブデザインI	前期	…	214
人文	22532201	◆	ウェブデザインII	後期	…	215
人文	22532301	◆	ウェブデザイン演習	後期	…	216
人文	22532401	◆	ウェブプログラミング演習	後期	…	216
人文	22532501	◆	マルチメディア演習	前期	…	217
人文	22516901		グラフィックデザインと冊子制作	前期	…	210
人文	22532601	◆	色彩デザイン論	前期	…	218

人文	22516501	☆ ▼博物館情報・メディア論	後期	…	209
人文	22532901	▼図書館情報技術論	前期	…	218
人文	22301201	比較文化概論	前期	…	193
人文	22401401	☆ 国際関係論	前期	…	196
人文	22506801	☆ ヨーロッパ文化論	後期	…	198
人文	22505001	☆ 言語文化概論	前期	…	197
人文	22542301	☆ ▼日中近代語彙比較論	後期	…	220
人文	22542401	☆ ▼漢文学入門	前期	…	221
人文	22543201	☆ ▼朝鮮文化論	前期	…	222
人文	22542601	☆ ▼アラブ文学特講	後期	…	221
人文	22507301	☆ 多文化理解	後期	…	199
人文	22507401	☆ 中東文化論	前期	…	199
人文	22541301	☆ キリスト教美術概論	前期	…	219
人文	22543801	☆ 西洋美術史 I	前期	…	224
人文	22543901	☆ ▼西洋美術史 II	後期	…	224
人文	22509501	☆ 西洋美術史特講	後期	…	206
人文	22542901	博物館概論	前期	…	221
人文	22541701	☆ 芸術への誘い	前期	…	219
人文	22510301	☆ 音楽学特講	後期	…	206
人文	22543501	☆ 音楽文化概論	前期	…	223
人文	22543601	☆ 歌曲論	後期	…	223
人文	22543701	☆ 典礼音楽特講	後期	…	224
人文	22543101	☆ ▼西洋思想史(古代・中世)	前期	…	222
人文	22401101	☆ 西洋思想史(近世)	後期	…	195
人文	22541901	☆ 哲学とキリスト教	前期	…	219
人文	22542001	☆ 日本思想	後期	…	220
人文	22401801	☆ 日本美術史	前期	…	197
人文	22509401	☆ 日本美術特講	前期	…	205
人文	22543301	☆ ▼キリスト教とラテン語 I	後期	…	223
人文	22900101	○ 基礎演習 I P	前期	…	225
人文	22900102	○ 基礎演習 I Q	前期	…	225
人文	22900103	○ 基礎演習 I R	前期	…	225
人文	22900104	○ 基礎演習 I S	前期	…	225
人文	22900105	○ 基礎演習 I T	前期	…	225
人文	22900201	○ 基礎演習 II P	後期	…	226
人文	22900202	○ 基礎演習 II Q	後期	…	226
人文	22900203	○ 基礎演習 II R	後期	…	226
人文	22900204	○ 基礎演習 II S	後期	…	226
人文	22900205	○ 基礎演習 II T	後期	…	226
人文	22901201	○ ※ 発展演習 I	前期	…	239
人文	22901202	○ ※ 発展演習 I	前期	…	240
人文	22901203	○ ※ 発展演習 I	前期	…	240
人文	22901204	○ ※ 発展演習 I	前期	…	241
人文	22901205	○ ※ 発展演習 I	前期	…	241
人文	22901206	○ ※ 発展演習 I	前期	…	242
人文	22901301	○ ※ 発展演習 II	後期	…	242
人文	22901304	○ ※ 発展演習 II	後期	…	243
人文	22901305	○ ※ 発展演習 II	後期	…	243
人文	22901306	○ ※ 発展演習 II	後期	…	243
人文	22900501	○ 専門演習 I	前期	…	227
人文	22900502	○ 専門演習 I	前期	…	228
人文	22900503	○ 専門演習 I	前期	…	228
人文	22900504	○ 専門演習 I	前期	…	229
人文	22900505	○ 専門演習 I	前期	…	229
人文	22900506	○ 専門演習 I	前期	…	230
人文	22900507	○ 専門演習 I	前期	…	230
人文	22900508	○ 専門演習 I	前期	…	231

人文	22900509	○ 専門演習 I	前期	…	231
人文	22900511	○ 専門演習 I	前期	…	232
人文	22900512	○ 専門演習 I	前期	…	232
人文	22900601	○ 専門演習 II	後期	…	233
人文	22900602	○ 専門演習 II	後期	…	233
人文	22900603	○ 専門演習 II	後期	…	234
人文	22900604	○ 専門演習 II	後期	…	234
人文	22900605	○ 専門演習 II	後期	…	234
人文	22900606	○ 専門演習 II	後期	…	235
人文	22900607	○ 専門演習 II	後期	…	235
人文	22900608	○ 専門演習 II	後期	…	236
人文	22900609	○ 専門演習 II	後期	…	236
人文	22900611	○ 専門演習 II	後期	…	237
人文	22900612	○ 専門演習 II	後期	…	237
人文	22901101	○ 卒業研究集中	…	237	
人文	22901102	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901103	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901104	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901105	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901106	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901107	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901108	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901109	○ 卒業研究集中	…	238	
人文	22901110	○ 卒業研究集中	…	239	
人文	22901111	○ 卒業研究集中	…	239	
人文	22901112	○ 卒業研究集中	…	239	

生活福祉文化学部専門教育科目

生福	24301301	○ 生活福祉文化概論	前期集中	…	244
生福	24402301	○ ライフデザイン基礎論	前期	…	246
生福	24402401	○ ソーシャルワーク基礎論	前期	…	246
生福	24402501	○ 生活福祉文化基礎演習 I A	前期	…	247
生福	24402502	○ 生活福祉文化基礎演習 I B	前期	…	247
生福	24402503	○ 生活福祉文化基礎演習 I C	前期	…	247
生福	24402504	○ 生活福祉文化基礎演習 I D	前期	…	247
生福	24402505	○ 生活福祉文化基礎演習 I E	前期	…	247
生福	24402506	○ 生活福祉文化基礎演習 I F	前期	…	247
生福	24402507	○ 生活福祉文化基礎演習 I G	前期	…	248
生福	24402508	○ 生活福祉文化基礎演習 I H	前期	…	248
生福	24402601	○ 生活福祉文化基礎演習 II A	後期	…	248
生福	24402602	○ 生活福祉文化基礎演習 II B	後期	…	248
生福	24402603	○ 生活福祉文化基礎演習 II C	後期	…	248
生福	24402604	○ 生活福祉文化基礎演習 II D	後期	…	248
生福	24402605	○ 生活福祉文化基礎演習 II E	後期	…	249
生福	24402606	○ 生活福祉文化基礎演習 II F	後期	…	249
生福	24402607	○ 生活福祉文化基礎演習 II G	後期	…	249
生福	24402608	○ 生活福祉文化基礎演習 II H	後期	…	249
生福	24402701	○ 生活福祉文化基礎演習 III A	前期	…	249
生福	24402702	○ 生活福祉文化基礎演習 III B	前期	…	249
生福	24402703	○ 生活福祉文化基礎演習 III C	前期	…	250
生福	24402704	○ 生活福祉文化基礎演習 III D	前期	…	250
生福	24402705	○ 生活福祉文化基礎演習 III E	前期	…	250
生福	24402706	○ 生活福祉文化基礎演習 III F	前期	…	250
生福	24402707	○ 生活福祉文化基礎演習 III G	前期	…	250
生福	24402801	○ 生活福祉文化基礎演習 IV A	後期	…	250
生福	24402802	○ 生活福祉文化基礎演習 IV B	後期	…	250

生福	24402803	○	生活福祉文化基礎演習Ⅳ C	後期	…	251	生福	24521301	☆	保育学(実習及び家庭看護を含む)	後期	…	278
生福	24402804	○	生活福祉文化基礎演習Ⅳ D	後期	…	251	生福	24521401	☆	健康科学概論	前期	…	278
生福	24402805	○	生活福祉文化基礎演習Ⅳ E	後期	…	251	生福	24521501		家庭科教育法Ⅰ(生活の自立と衣食住)	前期	…	279
生福	24402806	○	生活福祉文化基礎演習Ⅳ F	後期	…	251	生福	24521601		家庭科教育法Ⅱ(家族・家庭生活と福祉)	後期	…	279
生福	24402807	○	生活福祉文化基礎演習Ⅳ G	後期	…	251	生福	24521701		家庭科教育法Ⅲ(指導法と教材作成)	前期	…	280
生福	24511701	☆	衣生活学-福祉の視点より-	前期	…	262	生福	24521801		家庭科教育法Ⅳ(模擬授業)	後期	…	280
生福	24512101	☆	衣生活材料学	前期	…	264	生福	24401401	☆	社会福祉原論Ⅰ	前期	…	244
生福	24512201	☆	アパレルデザイン	後期	…	264	生福	24801901	☆	社会福祉原論Ⅱ	後期	…	324
生福	24520001		アパレル造形学(実習を含む)	前期	…	272	生福	24506901	☆	老人福祉論Ⅰ	前期	…	256
生福	24511801	☆	衣生活情報論	後期	…	263	生福	24802001	☆	老人福祉論Ⅱ	後期	…	325
生福	24511901	☆	衣生活文化史	前期	…	263	生福	24527401	☆	障害者福祉論	後期	…	290
生福	24512001	☆	服飾文化論	後期	…	264	生福	24527501	☆	児童福祉論	前期	…	291
生福	24501601	☆	食品学	前期	…	251	生福	24525001	☆	社会福祉援助技術Ⅰ	前期	…	284
生福	24511001	☆	食品安全性学	後期	…	261	生福	24525101	☆	社会福祉援助技術Ⅱ	後期	…	285
生福	24510901		食品加工学(実験を含む)	後期	…	260	生福	24525201	☆	社会福祉援助技術Ⅲ	前期	…	285
生福	24515001		食品官能評価論	前期	…	270	生福	24525301	☆	社会福祉援助技術Ⅳ	後期	…	286
生福	24515101	☆	食品流通論	後期	…	271	生福	24527601	☆	社会福祉援助技術Ⅴ	前期	…	291
生福	24511101	☆	栄養学概論	前期	…	261	生福	24527701	☆	社会福祉援助技術Ⅵ	後期	…	292
生福	24515201	☆	フードスペシャリスト論	前期	…	271	生福	24507301		社会福祉援助技術演習Ⅰ A	通年	…	257
生福	24501901	☆	調理学	前期	…	252	生福	24507358		社会福祉援助技術演習Ⅰ Y	通年	…	257
生福	24520101		ベーシッククイズイン(基礎調理実習)	前期	…	272	生福	24507359		社会福祉援助技術演習Ⅰ Z	通年	…	258
生福	24520201		アドバンスクイズイン(応用調理実習)	後期	…	272	生福	24802501		社会福祉援助技術演習Ⅱ	通年	…	325
生福	24520301	☆	フードコーディネーター論	後期	…	273	生福	24527801		社会福祉援助技術演習Ⅲ	前期	…	292
生福	24511201	☆	ライフステージと食生活	後期	…	262	生福	24527901		社会福祉援助技術実習指導Ⅰ	後期	…	292
生福	24520401	☆	住環境学(製図を含む)	後期	…	273	生福	24528001		社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	前期	…	293
生福	24502401	☆	住生活学	後期	…	253	生福	24514101		社会福祉援助技術実習指導Ⅲ	後期集中	…	268
生福	24502501	☆	住宅論	前期	…	253	生福	24514001		社会福祉援助技術現場実習	集中	…	268
生福	24502601	☆	住居史	後期	…	254	生福	24507401	☆	医学一般Ⅰ	前期	…	258
生福	24502301	☆	空間意匠論	後期	…	252	生福	24802901	☆	医学一般Ⅱ	前期	…	326
生福	24512501	☆	福祉住環境学	前期	…	265	生福	24401601	☆	社会保障論Ⅰ	前期	…	245
生福	24521901		住居製図Ⅰ	前期	…	281	生福	24803001	☆	社会保障論Ⅱ	後期	…	326
生福	24522001		住居製図Ⅱ	後期	…	281	生福	24506701	☆	公的扶助論	後期	…	256
生福	24512901		住計画演習Ⅰ	前期	…	266	生福	24528101	☆	地域福祉論Ⅰ	前期	…	294
生福	24513001		住計画演習Ⅱ	後期	…	267	生福	24528201	☆	地域福祉論Ⅱ	後期	…	294
生福	24522101		設計方法論	前期	…	282	生福	24528301	☆	福祉行財政と福祉計画	前期	…	295
生福	24522201		建築法規	後期	…	282	生福	24514201		社会福祉運営論	前期	…	269
生福	24512701	☆	建築一般構造	前期	…	266	生福	24528401	☆	就労支援	前期	…	295
生福	24522301		建築構造力学	前期	…	283	生福	24528501	☆	権利擁護と成年後見制度	前期	…	295
生福	24522401		建築施工	後期	…	283	生福	24528601	☆	更生保護制度	前期前半	…	296
生福	24512601	☆	建築材料学	前期	…	265	生福	24525401	☆	ボランティアマネジメント論	前期	…	286
生福	24522501	☆	西洋建築史	前期	…	284	生福	24514501	☆	社会福祉調査法Ⅰ	後期	…	269
生福	24801201	☆	デザイン論Ⅰ	前期	…	323	生福	24514601	☆	社会福祉調査法Ⅱ	前期	…	270
生福	24801301	☆	デザイン論Ⅱ	後期	…	323	生福	24513701	☆	社会福祉史	後期	…	別紙
生福	24801101		色彩学 A	前期	…	322	生福	24507501	☆	介護概論	前期	…	259
生福	24801102		色彩学 B	前期	…	322	生福	24508801		介護技術	後期	…	260
生福	24801401	☆	家庭電気・機械及び情報処理	前期	…	324	生福	24525801	☆	精神医学Ⅰ	前期	…	360
生福	24520501	☆	京都衣生活論	後期	…	274	生福	24525901	☆	精神医学Ⅱ	後期	…	360
生福	24520601	☆	京都食生活論	後期	…	274	生福	24526001	☆	精神保健学Ⅰ	前期	…	287
生福	24520701	☆	京都住生活論	前期	…	274	生福	24526101	☆	精神保健学Ⅱ	後期	…	287
生福	24520801		京都生活産業実習	通年	…	275	生福	24526201	☆	精神科リハビリテーション学Ⅰ	前期	…	287
生福	24520901	☆	ビジネスの基礎	前期	…	275	生福	24526301	☆	精神科リハビリテーション学Ⅱ	後期	…	288
生福	24521001	☆	マーケティング論	前期	…	276	生福	24526401	☆	精神保健福祉論Ⅰ	前期	…	288
生福	24521101	☆	女性起業論	前期	…	277	生福	24526501	☆	精神保健福祉論Ⅱ	後期	…	289
生福	24502701	☆	家庭管理	前期	…	254	生福	24526601	☆	精神保健福祉論Ⅲ	前期	…	289
生福	24502801	☆	家庭経済	前期	…	255	生福	24528701	☆	◆精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	後期	…	296
生福	24503001	☆	家族関係	後期	…	255	生福	24526901	☆	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	前期	…	289
生福	24521201	☆	消費者教育	前期	…	277	生福	24527001	☆	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	後期	…	290

生福	24528801	精神保健福祉援助演習(専門) I	後期	…	297
生福	24528901	精神保健福祉援助演習(専門) II	前期	…	297
生福	24529001	精神保健福祉援助実習指導	後期	…	297
生福	24529101	精神保健福祉援助実習 I	集中	…	298
生福	24529201	精神保健福祉援助実習 II	集中	…	298
生福	24529301	精神保健福祉援助実習 III	集中	…	299
生福	24401701	☆ レクリエーション論	前期	…	245
生福	24508301	リハビリテーション論	後期	…	259
生福	24530001	保育原理 I	後期	…	299
生福	24530101	保育原理 II	前期	…	299
生福	24530201	養護原理	後期	…	300
生福	24530301	教育学	後期	…	300
生福	24534101	☆ 保育の心理学 I	後期	…	316
生福	24534258	保育の心理学 II Z	前期	…	316
生福	24534259	保育の心理学 II P	前期	…	316
生福	24530601	☆ 小児保健 I	前期	…	301
生福	24530701	☆ 小児保健 II	後期	…	302
生福	24534358	小児保健演習 Z	夏期集中	…	317
生福	24534359	小児保健演習 P	前期	…	317
生福	24530958	小児栄養 Z	前期	…	302
生福	24530959	小児栄養 P	前期	…	303
生福	24513401	家族援助論	前期	…	267
生福	24534459	保育課程論	前期	…	318
生福	24534558	保育内容総論 Z	後期後半	…	318
生福	24534559	保育内容総論 P	後期後半	…	319
生福	24531058	保育内容 I Z	後期前半	…	303
生福	24531059	保育内容 I P	後期前半	…	304
生福	24531158	保育内容 II Z	前期	…	304
生福	24531159	保育内容 II P	前期	…	304
生福	24531258	保育内容 III Z	前期	…	305
生福	24531259	保育内容 III P	前期	…	305
生福	24531358	乳児保育 Z	後期	…	306
生福	24531359	乳児保育 P	後期	…	306
生福	24531458	障害児保育 Z	後期	…	307
生福	24531459	障害児保育 P	後期	…	307
生福	24531558	養護内容 Z	集中	…	307
生福	24531559	養護内容 P	後期	…	308
生福	24534658	保育相談支援 Z	前期	…	319
生福	24531657	基礎技能音楽 I Y	前期	…	308
生福	24531658	基礎技能音楽 I Z	前期	…	308
生福	24531659	基礎技能音楽 I P	前期	…	308
生福	24531757	基礎技能音楽 II Y	後期	…	309
生福	24531758	基礎技能音楽 II Z	後期	…	309
生福	24531759	基礎技能音楽 II P	後期	…	309
生福	24531858	基礎技能造形 Z	前期	…	309
生福	24531859	基礎技能造形 P	後期	…	310
生福	24531958	基礎技能体育 Z	前期	…	310
生福	24531959	基礎技能体育 P	後期	…	311
生福	24532001	基礎技能演習	後期	…	311
生福	24532701	子どもと言語表現	前期	…	315
生福	24534701	保育実習指導 I	前期	…	320
生福	24534801	保育実習指導 II A	後期	…	320
生福	24534802	保育実習指導 II B	前期	…	321
生福	24534901	保育実習指導 III A	後期	…	321
生福	24534902	保育実習指導 III B	前期	…	322
生福	24532201	保育実習 I - 1	集中	…	312
生福	24532301	保育実習 I - 2	集中	…	312

生福	24532401	保育実習 II A	集中	…	313
生福	24532402	保育実習 II B	集中	…	313
生福	24532501	保育実習 III A	集中	…	314
生福	24532502	保育実習 III B	集中	…	314
生福	24532601	保育総合演習	前期	…	315
生福	24901001	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901002	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901003	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901004	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901005	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901006	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901007	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901008	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901009	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901010	○ 生活福祉文化特論	通年	…	327
生福	24901011	○ 生活福祉文化特論	通年	…	328
生福	24901012	○ 生活福祉文化特論	通年	…	328
生福	24901013	○ 生活福祉文化特論	通年	…	328
生福	24901014	○ 生活福祉文化特論	通年	…	328
生福	24901015	○ 生活福祉文化特論	通年	…	328
生福	24901016	○ 生活福祉文化特論	通年	…	328
生福	24901017	○ 生活福祉文化特論	通年	…	328
生福	24901102	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901103	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901104	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901105	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901106	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901107	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901108	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901109	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901110	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901111	○ 卒業研究	集中	…	329
生福	24901112	○ 卒業研究	集中	…	330
生福	24901113	○ 卒業研究	集中	…	330
生福	24901114	○ 卒業研究	集中	…	330
生福	24901115	○ 卒業研究	集中	…	330
生福	24901116	○ 卒業研究	集中	…	330
生福	24901117	○ 卒業研究	集中	…	330

心理学部専門教育科目

心理	26311001	○ 心理学基礎演習 I	前期	…	336
心理	26311101	○ 心理学基礎演習 II	後期	…	336
心理	26301101	○ 心理学概論(心と行動)	後期	…	330
心理	26301201	○ 心理学概論(心と社会)	前期	…	331
心理	26303301	● ※ 心理統計法 I A	前期	…	334
心理	26303302	● ※ 心理統計法 I B	前期	…	334
心理	26303401	● ※ 心理統計法 II A	後期	…	335
心理	26303402	● ※ 心理統計法 II B	後期	…	335
心理	26301701	● ※ 心理テスト入門(13)	前期	…	332
心理	26301801	● ※ 心理テスト実習(13)	後期	…	332
心理	26303501	● ※ 心理学研究法	前期	…	335
心理	26302801	● 初級実験実習 I	前期	…	333
心理	26302901	● 初級実験実習 II	後期	…	333
心理	26510701	現代社会調査入門	前期	…	353
心理	26301401	● 質問紙調査法	前期	…	331
心理	26806101	● ※ 推測統計学 I A	前期	…	374

心理	26806102	● ※推測統計学Ⅰ B	前期	…	374
心理	26806201	● ※推測統計学Ⅱ A	後期	…	375
心理	26806202	● ※推測統計学Ⅱ B	後期	…	375
心理	26303201	中級実験実習	後期	…	334
心理	26802101	心理学情報処理 A	前期	…	359
心理	26802102	心理学情報処理 B	後期	…	359
心理	26505201	● ☆児童心理学	前期	…	345
心理	26502201	● 学校教育の心理学	後期	…	339
心理	26510601	生活環境の心理学	前期	…	352
心理	26801401	☆ 知覚心理学	後期	…	357
心理	26506201	▼現代青年の心理学(13)	後期	…	348
心理	26506101	☆ ▼対人関係の心理学(13)	前期	…	348
心理	26510401	▼パーソナリティ心理学(13)	後期	…	351
心理	26502101	学習の心理学	前期	…	339
心理	26505401	☆ 乳幼児心理学	前期	…	346
心理	26510301	家族心理学	後期	…	351
心理	26801601	☆ 認知心理学	夏期集中	…	358
心理	26501701	▼現代社会の心理学(13)	後期	…	338
心理	26510801	産業心理学	後期	…	353
心理	26511001	現代社会調査演習Ⅰ	前期	…	353
心理	26511101	現代社会調査演習Ⅱ	後期	…	354
心理	26801201	神経心理学	後期	…	357
心理	26506001	☆ 障害児心理学	前期	…	347
心理	26805301	犯罪心理学	後期	…	372
心理	26802001	心理関係法規論	夏期集中	…	358
心理	26502601	● 学校教育概論	前期	…	340
心理	26401701	● 臨床心理学概論	後期	…	337
心理	26510001	● カウンセリング概論	前期	…	350
心理	26503101	保育概論	後期	…	342
心理	26510101	無意識の心理学	後期	…	350
心理	26509501	臨床心理アセスメント	後期	…	348
心理	26501601	☆ 教育方法学	前期	…	337
心理	26505501	☆ 老年期の心理学	前期	…	346
心理	26505601	☆ 発達検査論	後期	…	347
心理	26503201	学校臨床心理学	前期	…	342
心理	26502501	教育相談論	後期	…	340
心理	26503301	生徒指導・進路指導	後期	…	343
心理	26510501	▼心理療法医論(13)	前期	…	352
心理	26802301	☆ ▼精神医学Ⅰ	前期	…	360
心理	26802401	☆ ◆精神医学Ⅱ	後期	…	360
心理	26503701	環境教育	後期	…	343
心理	26503901	☆ 情報教育 A	後期	…	343
心理	26503902	☆ 情報教育 B	後期	…	344
心理	26802601	心理学英文講読(基礎)	前期	…	361
心理	26802201	心理学英文講読	後期	…	359
心理	26502901	教育社会学 A	前期	…	341
心理	26503001	教育課程論(初)	前期	…	341
心理	26501501	☆ 教育評価	後期	…	337
心理	26504001	食と健康の教育	後期	…	344
心理	26509601	● 臨床相談実習	前期	…	349
心理	26520001	臨床相談演習	後期	…	354
心理	26521001	心理・教育フィールド研修 a	集中	…	355
心理	26521101	心理・教育フィールド研修 b	集中	…	355
心理	26521201	心理・教育フィールド研修 c	集中	…	356
心理	26521301	心理・教育フィールド研修 d	集中	…	356
心理	26522001	☆ 現代ジャーナリズム論	後期	…	196
心理	26524001	☆ ビジネスの基礎	前期	…	275

心理	26524101	☆ マーケティング論	前期	…	276
心理	26808001	教職専門ゼミナール	前期	…	376
心理	26803001	国語科教育	前期	…	361
心理	26807001	書写	後期	…	375
心理	85010102	書写	後期	…	375
心理	26803101	社会科教育	前期	…	362
心理	26803201	算数科教育	前期	…	362
心理	26803301	理科教育	前期	…	363
心理	26803401	生活科教育	前期	…	363
心理	26803501	音楽科教育 A	前期	…	363
心理	26803502	音楽科教育 B	前期	…	364
心理	26803503	音楽科教育 C	前期	…	364
心理	26803601	図工科教育	後期	…	364
心理	26803701	家庭科教育	後期	…	365
心理	26803801	体育科教育	前期	…	365
心理	26803901	国語科指導法	後期	…	366
心理	26804001	社会科指導法	後期	…	366
心理	26804101	算数科指導法	後期	…	366
心理	26804201	理科指導法	後期	…	367
心理	26804301	生活科指導法	後期	…	367
心理	26804401	音楽科指導法	前期	…	368
心理	26804501	図工科指導法	前期	…	368
心理	26804601	家庭科指導法	前期	…	369
心理	26804701	体育科指導法	前期	…	369
心理	26804801	保育内容指導法(健康)	後期	…	369
心理	26804901	保育内容指導法(人間関係)	前期	…	370
心理	26805001	保育内容指導法(環境)	後期	…	370
心理	26805101	保育内容指導法(言葉)	前期	…	371
心理	26805201	保育内容指導法(表現)	後期	…	371
心理	26805601	教師論 A	前期	…	372
心理	26805701	教育学	後期	…	300
心理	26805801	道徳の指導法 A	前期集中	…	373
心理	26805901	特別活動の指導法 A	前期	…	374
心理	26821001	☆ 児童英語教育Ⅰ	前期	…	152
心理	26821101	☆ 児童英語教育Ⅱ	後期	…	153
心理	26821201	☆ 子どものための英語教育Ⅰ	前期	…	153
心理	26821301	☆ 子どものための英語教育Ⅱ	後期	…	154
心理	26509901	● 臨床心理学文献講読	前期	…	349
心理	26901401	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	378
心理	26901402	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901403	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901404	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901405	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901406	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901407	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901408	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901409	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901410	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901411	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	379
心理	26901412	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380
心理	26901413	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380
心理	26901414	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380
心理	26901415	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380
心理	26901416	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380
心理	26901417	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380
心理	26901418	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380
心理	26901419	○ 心理学演習Ⅰ	通年	…	380

心理	26901501	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901502	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901503	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901504	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901505	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901506	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901507	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901509	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901510	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901511	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	381
心理	26901512	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	382
心理	26901513	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	382
心理	26901514	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	382
心理	26901515	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	382
心理	26901517	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	382
心理	26901518	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	382
心理	26901519	○	心理学	演習Ⅱ	集中	…	382
心理	26901301	○	卒業	研究	集中	…	376
心理	26901302	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901303	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901304	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901305	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901306	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901307	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901309	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901310	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901311	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901312	○	卒業	研究	集中	…	377
心理	26901313	○	卒業	研究	集中	…	378
心理	26901314	○	卒業	研究	集中	…	378
心理	26901315	○	卒業	研究	集中	…	378
心理	26901317	○	卒業	研究	集中	…	378
心理	26901318	○	卒業	研究	集中	…	378
心理	26901319	○	卒業	研究	集中	…	378

資格関係

教職	80001001		教師論	A	前期	…	382
教職	80001002		教師論	B	前期	…	383
教職	80001101		教育	学	後期	…	301
教職	80001201		発達と学習の教育心理		前期	…	383
教職	80001301		教育社会学	A	前期	…	341
教職	80003002		教育経営論	B	後期	…	345
教職	80001401		教育課程論		前期	…	384
教職	80004401		国語科教育法	I	前期	…	389
教職	80004501		国語科教育法	II	後期	…	389
教職	80004601		国語科教育法	III	前期	…	390
教職	80004701		国語科教育法	IV	後期	…	390
教職	80001901		道徳の指導法	A	前期集中	…	373
教職	80001902		道徳の指導法	B	前期集中	…	384
教職	80002001		特別活動の指導法	A	前期	…	374
教職	80002002		特別活動の指導法	B	前期	…	385
教職	80002101		教育の方法及び技術		後期	…	385
教職	80002201		生徒指導・進路指導の理論及び方法		夏期集中	…	386
教職	80002301		教育相談の理論及び方法		後期集中	…	386
教職	80002501		教育実習事前事後指導	A	通年	…	387
教職	80002502		教育実習事前事後指導	B	通年	…	387

教職	80002601		教育実習	I	集中	…	388
教職	80002701		教育実習	II	集中	…	388
教職	80105101		教職実践演習(中・高)		後期後半	…	393
教職	80105001		教職実践演習(幼・小)		後期後半	…	392
教職	80103901		小学校教育実習	I	集中	…	391
教職	80104001		小学校教育実習	II	集中	…	391
教職	80104101		幼稚園教育実習	I	集中	…	391
教職	80104201		幼稚園教育実習	II	集中	…	392
教職	80201001		介護等体験		集中	…	393
司教	92000101		学校経営と学校図書館		前期	…	404
司教	92000201		学校図書館メディアの構成		後期	…	404
司教	92000301		学習指導と学校図書館		前期	…	405
司教	92000401		読書と豊かな人間性		後期	…	405
司教	92000501		情報メディアの活用		前期	…	406
司書	90001001		生涯学習概論		後期	…	394
司書	90001101		図書館概論		前期	…	394
司書	90101101		▼図書館制度・経営論		後期	…	395
司書	90101201		◆図書館情報技術論		前期	…	218
司書	90101301		▼図書館サービス概論		前期	…	395
司書	90101401		▼情報サービス論		前期	…	396
司書	90002101		児童サービス論		前期	…	394
司書	90101501		▼情報サービス演習Ⅰ		後期	…	396
司書	90101601		▼情報サービス演習Ⅱ		後期	…	397
司書	90101701		▼図書館情報資源概論		後期	…	397
司書	90101801		▼情報資源組織論		前期	…	398
司書	90102601		※情報資源組織演習Ⅰ		後期	…	401
司書	90102701		※情報資源組織演習Ⅱ		後期	…	401
司書	90102201		▼図書館サービス特論		夏期集中	…	399
司書	90102001		▼図書館情報資源特論		前期前半	…	398
司書	90102301		* ▼図書・図書館史		前期	…	399
司書	90102401		図書館総合演習		後期	…	400
司書	90102501		◆図書館実習		通年	…	400
学芸	91000201		博物館概論		前期	…	221
学芸	91000301		博物館経営論		後期	…	401
学芸	91000401		博物館資料論		前期	…	402
学芸	91001001		◆博物館資料保存論		後期	…	403
学芸	91001101		◆博物館展示論		後期	…	403
学芸	91001201		博物館教育論		後期	…	404
学芸	91000801		博物館実習Ⅰ		前期	…	402
学芸	91000901		博物館実習Ⅱ		集中	…	403
ウェブ	92301001		ウェブデザインⅠ		前期	…	215
ウェブ	92301101		ウェブデザインⅡ		後期	…	215
ウェブ	92301201		ウェブデザイン演習		後期	…	216
ウェブ	92301301		ウェブプログラミング演習		後期	…	216
ウェブ	92301401		マルチメディア演習		前期	…	217
ウェブ	92301501		色彩デザイン論		前期	…	218
プレ	94001001		応用プレゼンテーション演習		前期	…	409
日語	92205601		日本語教育入門		前期	…	212
日語	92205701		日本語教授法		後期	…	406
日語	92207501		国語学概論		前期	…	200
日語	92205801		日本語教育実習Ⅰ		前期	…	407
日語	92205901		日本語教育実習Ⅱ		後期集中	…	407
日語	92206001		日本語教育実習Ⅲ		集中	…	408
日語	92210101		日本語教育実習Ⅳ		集中	…	408

講義コード	10101201
科目名	キリスト教入門A
担当者	中里 郁子
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2009
参考文献	授業中に紹介する。
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力

講義コード	10101205
科目名	キリスト教入門E
担当者	中里 郁子
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2009
参考文献	授業中に紹介する。
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力

講義コード	10101202
科目名	キリスト教入門B
担当者	中里 郁子
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2009
参考文献	授業中に紹介する。
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力

講義コード	10101206
科目名	キリスト教入門F
担当者	中里 郁子
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2009
参考文献	授業中に紹介する。
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力

講義コード	10101203
科目名	キリスト教入門C
担当者	中里 郁子
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2009
参考文献	授業中に紹介する。
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力

講義コード	10101204
科目名	キリスト教入門D
担当者	中里 郁子
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2009
参考文献	授業中に紹介する。
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本学の教育理念にとって、カトリック(キリスト教)の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学ぶ。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、現代社会へのメッセージとして受け止める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1 聖書の成立と構成 2 救いの歴史と契約 3 イエス・キリストの新しい契約 4 神の国のメッセージ 5 イエス・キリストの教えとわざ 6 現代における福音の意義

3. Course Method (教育・学習の方法)

1 授業方法 (1)講義を中心とするが、聖書を共に読み、共にその意味を考え発言するよう受講者の授業への積極的参加が望まれる。(2)随時参考資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予め配布される資料と示された聖書の箇所を事前に読んで授業に臨む。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業への取り組み(30パーセント)、レポート(70パーセント)によって評価する。

2. 3分の2以上の出席を必要とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 人間と宗教
- 第2回 キリスト教と聖書
- 第3回 福音と現代社会
- 第4回 教会の秘跡
- 第5回 創造物語
- 第6回 出エジプトとシナイ契約
- 第7回 キリスト教の思想
- 第8回 救いの歴史
- 第9回 放蕩息子
- 第10回 神の国
- 第11回 愛とゆるし
- 第12回 善きサマリア人
- 第13回 狭き門
- 第14回 受難物語と復活
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

「キリスト教の思想」は、ゲスト講師による講演に出席する。

講義コード	10101501			
科目名	健康スポーツ演習Q スポーツの理論と実践			
担当者	野村 照夫・野村 晴美			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10101502			
科目名	健康スポーツ演習S スポーツの理論と実践			
担当者	野村 照夫・野村 晴美			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。
2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- (1) スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。
屋外はテニスコート・グラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。
- (2) 簡単なスポーツテストを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

受講態度・技能水準 (60点)、小レポート・レポート・課題 (40点) として総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツテスト (握力、反復横とび、上体起こしなどを測定)
- 第3回 テニス: ストローク
- 第4回 テニス: サーブ
- 第5回 テニス: ゲーム
- 第6回 ウォーキング
- 第7回 バドミントン: ストローク
- 第8回 バドミントン: サーブ
- 第9回 バドミントン: ゲーム
- 第10回 卓球: ストローク
- 第11回 卓球: サーブ
- 第12回 卓球: ゲーム
- 第13回 トレーニング: 機器の使い方と実践
- 第14回 コンディショニング: ストレッチとからだほぐし
- 第15回 スポーツと健康: まとめとレポート課題

6. Special Information (留意事項)

実技の回は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて活動に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

講義コード	10101503			
科目名	健康スポーツ演習T スポーツの理論と実践			
担当者	野村 照夫			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。
2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- (1) スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。
屋外はテニスコート・グラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。
- (2) 簡単なスポーツテストを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

受講態度・技能水準 (60点)、小レポート・レポート・課題 (40点) として総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツテスト (握力、反復横とび、上体起こしなどを測定)
- 第3回 テニス: ストローク
- 第4回 テニス: サーブ
- 第5回 テニス: ゲーム
- 第6回 ウォーキング
- 第7回 バドミントン: ストローク
- 第8回 バドミントン: サーブ
- 第9回 バドミントン: ゲーム
- 第10回 卓球: ストローク
- 第11回 卓球: サーブ
- 第12回 卓球: ゲーム
- 第13回 トレーニング: 機器の使い方と実践
- 第14回 コンディショニング: ストレッチとからだほぐし
- 第15回 スポーツと健康: まとめとレポート課題

6. Special Information (留意事項)

実技の回は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて活動に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

講義コード	10101504			
科目名	健康スポーツ演習U スポーツの親しみ方			
担当者	住本 純			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

スポーツの実践を通して、体を動かす楽しさや爽快感を知る。その上で、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成することを目標とする。
自分自身の健康や体力にも目を向け、生活をより健康的に送る力を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・様々なスポーツを経験し、運動の楽しさを実感する。
- ・スポーツを通して、他者と積極的に関わりを持つ。
- ・スポーツテストにより、自分自身の健康と体力について考える機会とする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・スポーツ実技は、屋外・屋内の施設を利用する。
- ・スポーツテストを行う。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・日ごろの体調管理(食生活、睡眠等)に気をつけておく。
- ・授業で取り組むスポーツについて関心を持ち、メディア等で情報を得ておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(70%)、小レポート(30%)として、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツテスト(握力、反復横とび、上体おこし等)
- 第3回 テニス①(基本技術:サーブ・ストローク・ボレーの説明と練習)
- 第4回 テニス②(基本技術の習熟と多様なゲーム)
- 第5回 テニス③(シングルス形式のゲーム)
- 第6回 テニス④(ダブルス形式のゲーム)
- 第7回 バドミントン①(基本技術:サーブ・ハイクリア・スマッシュ等の説明と練習)
- 第8回 バドミントン②(ミニゲームと試合の進め方)
- 第9回 バドミントン③(シングルス・ダブルス形式のゲーム)
- 第10回 卓球①(ルール説明と基本練習)
- 第11回 卓球②(シングルス・ダブルス形式のゲーム)
- 第12回 ニューススポーツ①(ソフトバレーボール等)
- 第13回 ニューススポーツ②(アルティメット等)
- 第14回 トレーニング、コンディショニング
- 第15回 スポーツと健康について、まとめ(講義)

6. Special Information (留意事項)

実技では、運動できる服装(ジャージ、運動靴等)で参加すること。
スポーツに親しむことを重要な課題としているので、積極的な態度でスポーツに取り組むこと。

講義コード	10101601			
科目名	健康スポーツ実習			
担当者	野村 晴美			
単位数	1	配当学年	12	
資格	[教][保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	保育士必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、

健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。
- ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。
- ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、中間と強力し切磋琢磨し合う能力、コミュニケーション能力の向上を図る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ①授業方法=トレーニング・ストレッチ・各種スポーツの実践を中心に行う。特にトレーニングやストレッチに関しては、身体どの部位に効果があるのかを理解した上で、普段の生活の中でも実践可能なスキルを養成する。
- ②資料=必要に応じ、随時プリントを配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

受講態度・取り組み(60%)、体力・技能水準(20%)、小レポート・レポート・課題(20%)として総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 体力テスト
- 第3回 テニス:ストローク
- 第4回 テニス:サーブ
- 第5回 テニス:ゲーム
- 第6回 ウォーキング
- 第7回 バドミントン:ストローク
- 第8回 バドミントン:サーブ
- 第9回 バドミントン:ゲーム
- 第10回 卓球:ストローク
- 第11回 卓球:サーブ
- 第12回 卓球:ゲーム
- 第13回 トレーニング機器の使い方と実践
- 第14回 ストエッチと体ほぐし
- 第15回 まとめとレポート課題

6. Special Information (留意事項)

初回の授業より身体活動を行うので、運動用のウェア・シューズを着用し、トレーニングルームに集合すること。(教室変更の際は、口頭あるいはボードで連絡します)

講義コード	10101901			
科目名	情報演習 I A			
担当者	吉田 智子			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101902			
科目名	情報演習 I B			
担当者	吉田 智子			
単位数	1	配当学年	1	
資格	[情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10101903		
科目名	情報演習 I C		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

講義コード	10101904		
科目名	情報演習 I D		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

講義コード	10101905		
科目名	情報演習 I E		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

講義コード	10101906		
科目名	情報演習 I F		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

講義コード	10101907		
科目名	情報演習 I G		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

講義コード	10101908		
科目名	情報演習 I H		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

今日の情報化社会では、コンピュータはビジネスや業務を遂行するツールとして利用されている。本コースは、企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通してそれらの基本スキルを習得し、社会へ出る前のIT基礎力を養うことを目的とする。さらに、学内のコンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用方法など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念・操作（ファイル管理、印刷方法など）を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性 2. E-Mail・WWWの利用と情報倫理（ITリテラシー） 3. 大学図書館を中心とした蔵書検索 4. タッチタイピング 5. 日本語文書作成 6. 表計算ソフト 7. プレゼンテーションソフト 8. ファイル管理

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習を中心に授業を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

復習を兼ねた課題を作成してもらうので期日までに提出すること。さらに、最終日に実施する「実技確認テスト」は必ず受けること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度（40%）、課題（20%）、実技確認テスト（40%）の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、タイピング指導、文字・文章入力、ファイル管理
- 第2回 E-Mail (Activemail) の利用とWeb検索基礎
- 第3回 Word2013を利用した日本語文書作成（基本機能、書式設定、印刷など）
- 第4回 Word2013での表作成機能（表を作成するための基本機能・応用機能など）
- 第5回 Word2013での図形描写機能（基本的な図形描画、表現力をアップする機能など）
- 第6回 Excel2013を利用した表計算（入力、四則演算、オートフィルなど）
- 第7回 Excel2013を利用した表計算（書式設定、基本的な関数、グラフなど）
- 第8回 Excel2013を利用した表計算（データベース、総まとめ）
- 第9回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用、大学内コンピュータシステム利用のパスワードの変更
- 第10回 PowerPoint2013でのスライド作成（スライドデザイン、レイアウト、編集機能など）
- 第11回 PowerPoint2013でのスライド作成（画像利用、アニメーションの作成など）
- 第12回 Word2013での長文作成（改ページ、ページ番号、目次、ウィザード・テンプレートの利用など）
- 第13回 Word2013でのコンテンツ作成（コンテンツの作成、書式設定、図形描画など）
- 第14回 総合復習
- 第15回 まとめ（実技確認テスト中心）

6. Special Information (留意事項)

P検（ICTプロフィシエンシー検定）3級以上をすでに取得している学生、あるいは今年度の授業最終日までに取得証明の書類を提出できた学生は、この科目の単位の修得を認めます。該当すると思われる学生は、履修登録をした上で、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出てください。ただし、検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能です。その場合、評価の点数を得ることができず（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述されます）。

講義コード	10102001			
科目名	キリスト教音楽A ミサ曲を学ぶ			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミサ曲 ラテン語・教会音楽ハンドブック』 ミカ尻正 ショパン			
参考文献	『バッハ小伝』 フォルケル 白水Uブックス 2003年 『神には栄光 人の心に喜び』 ヘレーネ・ヴェアテマン 日本基督教団出版局 2006年 そのほか授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	10102002			
科目名	キリスト教音楽B ミサ曲を学ぶ			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミサ曲 ラテン語・教会音楽ハンドブック』 ミカ尻正 ショパン			
参考文献	『バッハ小伝』 フォルケル 白水Uブックス 2003年 『神には栄光 人の心に喜び』 ヘレーネ・ヴェアテマン 日本基督教団出版局 2006年 そのほか授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

ミサ曲は古くから多くの作曲家によって手がけられ現代にまで続いている。この授業では、中世からバロック時代にかけてのミサ曲の変遷とJ.S.バッハ作曲の<ロ短調ミサ曲>、更に古典派のミサ曲までを範囲として学ぶ。ミサ曲と典礼との関わりやバッハの音楽の宗派を超えた普遍性などについても考えたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) ミサ曲のテキストと典礼との関連を理解するように務める。
- (2) J.S.バッハの音楽の特徴や他の時代の音楽との比較をする。
- (3) 中世からロマン派までの音楽を味わう。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業実施方法 講義。レポートを課すことがある。
2. 学習の方法 音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。
3. 使用教材 テキスト、プリント、CD、DVD等。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業以外にも月例の学内ミサに積極的に参加するなどキリスト教に親しむ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、出席率・授業参加度(30点)、レポート2回(70点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合(6回欠席)は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ミサとミサ曲について
- 第2回 ミサ曲の歴史 ～グレゴリオ聖歌～
- 第3回 中世のミサ曲 ～ギョーム・ド・マシヨ～
- 第4回 ルネッサンスのミサ曲 ～ギョーム・デュファイ、ジョスカン・デ・プレ～
- 第5回 宗教改革時代のミサ曲 ～パレストリーナ～
- 第6回 初期バロックのミサ曲 ～モンテヴェルディ～
- 第7回 後期バロックのミサ曲 ～シャルパンティエ～
- 第8回 バッハ<ロ短調ミサ曲>①キリエ
- 第9回 バッハ<ロ短調ミサ曲>②グロリア
- 第10回 バッハ<ロ短調ミサ曲>③クレド
- 第11回 バッハ<ロ短調ミサ曲>④その他
- 第12回 古典派のミサ曲～モーツァルト①～
- 第13回 古典派のミサ曲～モーツァルト②～

第14回 古典派のミサ曲～ベートーヴェン①～

第15回 古典派のミサ曲～ベートーヴェン②～

6. Special Information (留意事項)

授業外の積極的学習として、月例ミサへの出席と聖歌隊の参加を奨励し、平常点に加えます。

講義コード	10102101			
科目名	キリスト教思想 イエス・キリスト探究			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	パスカル『要約イエス・キリスト伝』(プリント配付)			
参考文献				
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

あらゆるキリスト教思想の核心に存するのはイエス・キリストである。ところが肝心要のそのイエス・キリストが何者であるかについて、これ迄絶えず論争がなされてきた。聖書学が成立している現代においてもそうであるし、将来においても恐らく同様であろう。

そのような問題であることを充分自覚しつつ、17世紀フランスの自然科学者であると同時にカトリック思想家であったパスカルのイエス・キリスト観を吟味することを通して、イエス・キリストとは何者であるのかを共に探究したい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) イエス研究史を概観して、イエスとは何者であるかについての理解が絶えず揺れ動いてきたことを確認する。
- 2) パスカル著『要約イエス・キリスト伝』を精読して、パスカルのイエス・キリスト理解の持つ現代的意義を考える。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用してレポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 授業方法：講義と講読の併用。
- 2) 学習方法：テキストの予習。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1) 必ずテキストを予習してくる。その際絶えず聖書を参照すること。
- 2) 詳細は授業中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以って総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 イエス研究史概観
- 第3回 パスカルの神観
- 第4回 パスカル著『要約イエス・キリスト伝』講読：導入
- 第5回 同上：前文
(1) 全体の結論
(2) 注(執筆目的など)
- 第6回 同上：公生活以前
(1) 降誕前の出来事(BC1年～AD1年)
(2) 私生活(AD1年～AD33年)
- 第7回 同上：公生活1年目(AD34年始め～AD35年3月頃)(神人)
- 第8回 同上：同上続き(神の国)
- 第9回 同上：公生活2年目(AD35年3月頃～AD36年3月頃)(苦しみ
の癒し)
- 第10回 同上：同上続き(蘇生)
- 第11回 同上：公生活3年目(AD36年3月頃～AD37年3月頃)(ファリサイ人)
- 第12回 同上：同上続き(マリア)
- 第13回 同上：公生活4年目(AD37年3月頃～5月)(十字架)
- 第14回 同上：同上続き(復活)
- 第15回 まとめ：パスカルのイエス・キリスト観が持つ永遠性

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10102401			
科目名	日本文化と宗教			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『十牛図—自己の現象学』 上田閑照・柳田聖山共著 ちくま学芸文庫			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

鈴木大拙によれば、日本文化の根底に在るのは禅精神である。その禅精神を絵解きした「十牛図」をカトリック精神によって解説することを試みる。受講生は将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。後期講義「日本思想」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 西洋十七世紀のカトリック思想家バスカルの、哲学とキリスト教の関係について、神学者サシと交わした対話の記録である『サシとの対話』を絶えず念頭におきつつ、
- 2) 禅宗の「十牛図」(人間が本来の自己と世界を見出す過程を絵解きしたもの)を哲学的に考察した上田閑照・柳田聖山共著『十牛図—自己の現象学』を精読する。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用してレポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 授業方法: 講義と講読の併用。
- 2) 学習方法: テキストの予習。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。教示された参考文献や配付されたプリントを読んできると。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以って総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切である。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 『サシとの対話』と『十牛図』の対比
- 第3回 『十牛図』講読: 第一尋牛～第二見跡
- 第4回 同上: 第一尋牛～第二見跡
- 第5回 同上: 第三見牛～第五牧牛
- 第6回 同上: 第三見牛～第五牧牛
- 第7回 同上: 第六騎牛帰家～第七忘牛存人 (第六に重点をおきつつ)
- 第8回 同上: 第六騎牛帰家～第七忘牛存人 (第七に重点をおきつつ)
- 第9回 同上: 第八人牛俱忘 (親鸞の場合)
- 第10回 同上: 第八人牛俱忘 (キルケゴールの場合)
- 第11回 同上: 第九返本還源 (水は自ら流る)
- 第12回 同上: 第九返本還源 (花は自ら紅)
- 第13回 同上: 第十入テン垂手 (自覚覚他)
- 第14回 同上: 第十入テン垂手 (自他という二倍になった自己)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10102501			
科目名	西洋思想 苦しみの意味			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	バスカル『病の善用を神に求める祈り』(プリント配布)			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

苦しみに意味はあるのか。この根本問題を、西洋古典を精読しつつ、共に考えたい。受講者は「死の哲学」(前期)と「キリスト教的死生観」(後期)を履修していることが望ましい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 西洋十七世紀のキリスト教思想家バスカルの著作(『病の善用を神に求める祈り』)を精読する。
- 2) その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 授業方法: 講義と講読の併用。
- 2) 学習方法: テキストの予習。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。教示された参考文献や配付されたプリントを読んできると。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以って総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切である。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 苦しみの問題と死の問題の連関、キリスト教的立場の死の理解
- 第3回 『病の善用を神に求める祈り』講読: 「一種の死」としての病苦
- 第4回 同上: 「一種の死」としての病苦 (死の構造)
- 第5回 同上: 「一種の死」としての病苦 (苦しみの構造)
- 第6回 同上: 神からキリストへの移行 (神について)
- 第7回 同上: 神からキリストへの移行 (キリストについて)
- 第8回 同上: キリスト教的回心 (恩寵)
- 第9回 同上: キリスト教的回心 (罪の自覚)
- 第10回 同上: キリスト教的回心 (光と闇)
- 第11回 同上: 善と悪 (善とは何か)
- 第12回 同上: 善と悪 (悪とは何か)
- 第13回 同上: 善と悪
- 第14回 同上: キリストの「受難」との一致 (キリストの「受難」)
- 第15回 同上: キリストの「受難」との一致、まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10102601			
科目名	死の哲学			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『死を見つめる心』 岸本英夫 講談社文庫			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

死は人生で最大の問題であるが、この問題を哲学的に考察し、受講生が将来自分自身の死生観を確立するためのヒントを提示する。後期の「キリスト教的死生観」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 臨死体験の考察。

- 死に対する様々な態度あるいは考え方の考察。
- 上記1、2と並行して、各自で岸本英夫著『死を見つめる心』を読み、レポート提出。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキスト熟読、講義・講読への積極的参加、レポート作成。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

岸本英夫著『死を見つめる心』(講談社文庫)を予め熟読しておく。授業は受講者が上記書を熟読していることを前提して進める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポート[60%]を以て総合的に行う。なお、ちょうど数学のように、前回学んだことを前提して次に進みます。従って欠席すると、授業がわからなくなります。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 二つのタブー(性)
- 第3回 二つのタブー(死)
- 第4回 二つのタブー(タブーの崩壊)
- 第5回 臨死体験の考察(立花隆)
- 第6回 臨死体験の考察(ムーディ)
- 第7回 臨死体験の考察(キューブラ・ロス)
- 第8回 「死に対する様々な態度あるいは考え方の考察」の全体像(無神論、汎神論)
- 第9回 「死に対する様々な態度あるいは考え方の考察」の全体像(有神論)
- 第10回 死の忘却(新聞記事)
- 第11回 死の忘却(慰蔵)
- 第12回 末期の目をもって生きる(正岡子規)
- 第13回 末期の目をもって生きる(末期ガン患者)
- 第14回 末期の目をもって生きる(学生の体験)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10102701			
科目名	キリスト教的死生観			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『アウグスティヌス講話』 山田晶 講談社学術文庫 『パスカルの手紙』(プリント配布)			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

死は人生で最大の問題であるが、この問題を哲学的に考察し、受講生が将来自分自身の死生観を確立するためのヒントを提示する。前期の「死の哲学」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 死に対する様々な態度あるいは考え方の考察。
- 十七世紀フランスの自然科学者にしてカトリック思想家であったパスカルが、その父の死に際して書いた手紙(内容的には、死の神学が展開された論文)の精読。
- 上と並行して、各自で山田晶著『アウグスティヌス講話』を読み、レポート提出。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキスト熟読、講義・講読への積極的参加、レポート作成。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

山田晶著『アウグスティヌス講話』(講談社学術文庫)を予め熟読しておく。授業は受講者が上記書を熟読していることを前提して進める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポート[60%]を以て総合的に行う。なお、ちょうど数学のように、前回学んだことを前提して次に進みます。従って欠席すると、授業がわからなくなります。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 前期講義「死の哲学」の要約
- 第3回 無神論的立場の死の理解、虚無の自覚(無神論)
- 第4回 無神論的立場の死の理解、虚無の自覚(虚無)
- 第5回 汎神論的立場の死の理解(二重世界)
- 第6回 汎神論的立場の死の理解(ストア哲学)
- 第7回 キリスト教的立場の死の理解(原罪に対する罰)
- 第8回 キリスト教的立場の死の理解(原罪からの浄化)
- 第9回 パスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察(死と三位一体の神)
- 第10回 パスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察(イエス・キリストの考察)
- 第11回 パスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察(聖なるキリスト者の生と死)
- 第12回 パスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察(自己愛と死の恐怖)
- 第13回 パスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察(天国・煉獄・地獄)
- 第14回 パスカルの手紙に開陳された「死の神学」の考察(私審判と公審判)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10102901			
科目名	宗教音楽 I A キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。			
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10102902			
科目名	宗教音楽 I B キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。			
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(前期)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10102903		
科目名	宗教音楽ⅠC キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。		
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
備考	必修(前期) クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10102904		
科目名	宗教音楽ⅠD キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。		
参考文献	『キリスト教音楽と歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年 『キリスト教音楽と歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
備考	必修(前期) クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせ。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また年間の大学行事で歌う聖歌等の練習も授業内で行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。
- (2) 学歌をはじめさまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD、DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次の範囲に目を通しておく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で歌う聖歌の楽譜を適宜配布するので歌えるように予習しておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、出席率・授業参加度(30点)、まとめ試験(50点)、レポート(20点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 宗教音楽とは および学歌の練習
- 第2回 教会暦と音楽
- 第3回 ミサ式次第について①ミサとは
- 第4回 ミサ式次第について②導入

第5回 ミサ式次第について③内容

第6回 オルガンとその音楽①オルガンのしくみ、イタリアのオルガン

第7回 オルガンとその音楽②オランダ・ドイツのオルガン

6. Special Information (留意事項)

授業外の積極的学習として、月例ミサへの出席と聖歌隊の参加を奨励し、平常点に加えます。

講義コード	10103001		
科目名	宗教音楽ⅡA キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年		
参考文献	『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
備考	必修(後期) クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10103002		
科目名	宗教音楽ⅡB キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年		
参考文献	『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
備考	必修(後期) クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10103003		
科目名	宗教音楽ⅡC キリスト教音楽入門		
担当者	久野 将健		
単位数	0.5	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年		
参考文献	『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年		
備考	必修(後期) クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10103004			
科目名	宗教音楽ⅡD キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年			
参考文献	『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(後期) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10103031			
科目名	宗教音楽ⅡT キリスト教音楽入門			
担当者	久野 将健			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『キリスト教と音楽』 金澤正剛 音楽之友社 2007年 『キリスト教音楽の歴史』 川端純四郎 日本基督教団出版局 1999年			
参考文献	『キリスト教音楽の歴史』 金澤正剛 日本基督教団出版局 2005年 『宗教音楽対訳集成』 吉村恒編 国書刊行会 2007年			
備考	必修(後期) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

宗教音楽Ⅰと同様、この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。後期はJ.S.バッハやモーツァルトの宗教音楽、レクイエム、アドヴェント、クリスマスに関連した音楽、更にはフランスのオルガン音楽を学ぶ。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また大学行事で歌う聖歌も授業内で練習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- さまざまなキリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。
- さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するよう努める。
- 学歌をはじめさまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で歌う聖歌の楽譜をあらかじめ配布するので予習しておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、出席率・授業参加度(30点)、まとめ試験(50点)、レポート(20点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタークを学ぶ～
- 第2回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴く～
- 第3回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴く～
- 第4回 物故者・追悼ミサ(11月)に出席
- 第5回 アドヴェント(待降節)の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
- 第6回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～
- 第7回 フランスのオルガン音楽

6. Special Information (留意事項)

授業外の積極的学習として、月例ミサへの出席と聖歌隊の参加を奨励し、平常点に加えます。

講義コード	10103101			
科目名	ノートルダム学ⅠA			
担当者	宮永 泉・萩原 暢子・畠山 寛・笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10103102			
科目名	ノートルダム学ⅠB			
担当者	宮永 泉・萩原 暢子・畠山 寛・笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10103103			
科目名	ノートルダム学ⅠC			
担当者	萩原 暢子・宮永 泉・廣瀬 直哉・笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10103104			
科目名	ノートルダム学ⅠD			
担当者	萩原 暢子・宮永 泉・廣瀬 直哉・笹岡 隆甫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修(前期) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、時間的世界を見据えるキャリア教育(知育)と永遠の世界を見据える自校教育(徳育)を組み合わせたものであり、受講者がノートルダム精神(「時」と「永遠」の両方を見据えて生きる精神)の基礎を学び、知性と品性を兼ね備えた人間に成ろうと自ら努力するようになることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) カトリック精神を学ぶ。(2) 日本伝統文化を学ぶ。(3) 現実社会の諸相を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義・体験学習などの併用。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示する。配付されたプリントを読んでくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

受講態度30%、各授業毎に提出するレポート40%、まとめテスト30%で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ノートルダム精神—自校教育とキャリア教育— (宮永泉)
 第2回 人と交わる (フレッシュマン・セミナー) (各学科教員)
 第3回 人間関係のあり方 (A B: 畠山寛、C D: 廣瀬直哉)
 第4回 華道に学ぶ—心豊かな日常生活への姿勢— (笹岡隆甫)
 第5回 聖母マリアの生き方に学ぶ (ノートルダム教育修道女会)
 第6回 教会に親しむ—河原町教会でのミサ— (カトリック教育センター)
 第7回 キャリアデザインの考え方 (キャリアセンター)
 第8回 まとめテスト (A B: 宮永泉、C D: 萩原暢子)

6. Special Information (留意事項)

宗教音楽Ⅱ (1年次生必修) と隔週で授業を実施する。但し、一斉授業の実施に伴う授業日の振り替え等があるので、配布プリントや掲示に従うこと。

講義コード	10103201
科目名	ノートルダム学Ⅱ A
担当者	宮永 泉・萩原 暢子
単位数	1 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	必修 (後期) クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

講義コード	10103202
科目名	ノートルダム学Ⅱ B
担当者	宮永 泉・萩原 暢子
単位数	1 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	必修 (後期) クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

講義コード	10103203
科目名	ノートルダム学Ⅱ C
担当者	萩原 暢子・宮永 泉
単位数	1 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	必修 (後期) クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

講義コード	10103204
科目名	ノートルダム学Ⅱ D
担当者	萩原 暢子・宮永 泉
単位数	1 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	必修 (後期) クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

講義コード	10103231
科目名	ノートルダム学Ⅱ T
担当者	宮永 泉・萩原 暢子
単位数	1 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	必修 (後期) クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、時間的世界を見据えるキャリア教育 (知育) と永遠の世界を見据える自校教育 (徳育) を組み合わせたものであり、受講者がノートルダム精神 (「時」と「永遠」の両方を見据えて生きる精神) の基礎を学び、知性と品性を兼ね備えた人間に成ろうと自ら努力するようになることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(1) カトリック精神を学ぶ。(2) 日本伝統文化を学ぶ。(3) 現実社会の諸相を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義・体験学習などの併用。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示する。配付されたプリントを読んでくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

受講態度30%、各授業毎に提出するレポート40%、まとめテスト30%で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 茶道に学ぶ—もてなしの心と他者へのふるまい— (千万紀子)
 第2回 自校を知る (A B: 宮永泉、C D: 萩原暢子)
 第3回 永遠の視点を持って現代社会を生きる (ノートルダム教育修道女会)
 第4回 コミュニケーションのあり方 (キャリアセンター)
 第5回 宗教心と自立心 (ノートルダム教育修道女会)
 第6回 マナーと自己表現—姿勢・態度・服装— (キャリアセンター)
 第7回 キャリアデザインの実践に向けて (キャリアセンター)
 第8回 まとめテスト (A B: 宮永泉、C D: 萩原暢子)

6. Special Information (留意事項)

宗教音楽Ⅱ (1年次生必修) と隔週で授業を実施する。但し、一斉授業の実施に伴う授業日の振り替え等があるので、配布プリントや掲示に従うこと。

講義コード	10103301
科目名	ノートルダム学Ⅲ
担当者	宮永 泉・萩原 暢子・中里 郁子・久野 将健
単位数	1 配当学年 4
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	必修
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 コミュニケーションする力 創造・発信する力 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

卒業して社会人となることを目前に控え、本学で学んだ大学生活を静かに振り返ることを通じて自己の成長を自覚すると共に、社会に出る心構えとしてノートルダム精神(「永遠」を見据えつつ「此の世」でしっかり生きる精神)を再度自覚し直志を固めることをねらいとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1、社会人としての自覚を持ち、ノートルダム精神を再認識して卒業に臨む。
- 2、黙想会を通して本学での学生生活を静かに振り返り積極的な自己評価を行う。
- 3、卒業後のライフデザインを描くことができる。
- 4、卒業式に向けての準備と心構え。

3. Course Method (教育・学習の方法)

この授業では社会人となる心構えとライフプランニングを明確にもつことを目指す。そのため講義だけでなく、実践的な学びやワークショップなど体験型の学びを主とした形式を取る予定。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。配付されたプリントを読んでくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席を重視すると共に、授業態度や各授業ごとのコメントや感想等の提出、キャリア形成自己評価などを総合して評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会人としての自立とノートルダム精神 (宮永泉)
- 第2回 自分らしく生きる－聖書のまなざし－ (中里郁子)
- 第3回 職業に就いて自立するために (キャリアセンター)
- 第4回 女性の権利とライフデザイン (キャリアセンター)
- 第5回 黙想会 (ノートルダム教育修道女会)
- 第6回 各学科で担当 (学科教員)
- 第7回 4年間の学修成果の確認 (学科教員)
- 第8回 卒業式を迎えるにあたって (久野将健)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10115501		
科目名	英語Ⅲ (リーディング & ライティング)		
担当者	東郷 多津		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『50語フリップライティング』 静哲人 松柏社 2014 『New Master English』 北山長貴、Margaert Yamanaka、福井慶一郎 成美堂 2016		
参考文献			
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に総合的な英語能力ができるだけ向上することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 様々な実践的な場面での英語読み書きに関する運用経験
- 2) リーディング (200～300語程度) とライティング (50～100語) の統合練習
- 3) 語彙力の向上 (当初は2000語の語彙を確実なものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000語獲得にチャレンジする)

3. Course Method (教育・学習の方法)

・リーディング:

1回の授業で1Lessonのリーディング教材を読み進めていきます。適宜、語意や文法事項の再確認を行いながら、英語のパラグラフの構造を学ぶことで、平易な英文を読む力を高めます。

・ライティング:

リーディングで扱った内容について、50語の英語のパラグラフで自分自身についてだけではなく、より長いエッセイの中で、自分の意見を表現したり、情報を正しく伝達する力を身につけます。そのために、英語の発想で文を書くこと、英語のパラグラフの考え方を身につけることも求められます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

リーディングにおいては予習が必要です。分からない単語は辞書で調べてから授業に臨んでください。

ライティングにおいては前回の課題が終了できなかった場合、必ず完成させて次回の授業はじめに提出してください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は以下の点に基づいて総合的に行います。

- ・授業参加点 (予習を含む) (20%)
- ・英作文・課題点(80%)

※テキストや辞書がない場合は、授業参加点が入りません。

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点なくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。また、やむをえず欠席した場合は、必ず課題を提出してください。

※予習ができていない場合は、授業参加点が入りませんので、必ず予習してください。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 NEM : Lesson 1 It's a Long Way to the Top
- 第3回 NEM : Lesson 2 Shingapore's Chingay Parade
- 第4回 NEM: Lesson 3 English, for Better or for Worse
- 第5回 50語 : Unit 2 他人の言動で嬉しいこと
- 第6回 NEM : Lesson 4 How Important Is Education to You
- 第7回 NEM : Lesson 5 From Anime to
- 第8回 NEM : Lesson 6 The Storm
- 第9回 50語 : Unit 3 夢の職業
- 第10回 NEM : Lesson 7 Public Works for the State and the Citizens
- 第11回 NEM : Lesson 8 Riding an Old Steam Train
- 第12回 NEM : Lesson 9 Farm Stays
- 第13回 50語 : Unit 4: もう一度生まれるなら
- 第14回 NEM : Lesson 10 Is Sunshine Really Bad for Us?
- 第15回 NEM : Lesson 11 What's in a Name?
- 第16回 NEM : Lesson 12 You Are What You Eat
- 第17回 NEM : Lesson 13 A Car for the Blind?
- 第18回 NEM : Lesson 14 Talking Drums
- 第19回 NEM : Lesson 15 The Future for Farmers
- 第20回 50語 : Unit 5 今凝っていること
- 第21回 NEM : Lesson 16 The Extraordinary Steve Jobs
- 第22回 NEM : Lesson 17 A Cool Memory
- 第23回 NEM : Lesson 18 Holmes? Watson?
- 第24回 50語 : Unit 6 いつかやってみようこと
- 第25回 NEM : Lesson 19 Aussie English
- 第26回 NEM : Lesson 20 Garfield
- 第27回 NEM : Lesson 21 Climbing
- 第28回 50語 : Unit 7 行ってみたい場所・国
- 第29回 NEM : Lesson 22 Lost in Translation
- 第30回 NEM : Lesson 26 "What if..."

6. Special Information (留意事項)

○授業中に辞書を使用しますので、辞書 (最低限、英和辞典) は必ず持参してください。

○テキスト、筆記用具を必ず持参してください。

※これらがなくて授業を受けられない場合、授業参加点は加算されません。また、予習をしていない場合も授業参加点は加算されません。

講義コード	10115601		
科目名	英語Ⅳ (リーディング & ライティング)		
担当者	東郷 多津		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『50語フリップライティング』 静哲人 松柏社 2014 『続・世界の常識：違いを知ったら世界も変わる』 川田伸道 朝日出版社 2016		
参考文献			
備考	週2コマ 必修 クラス指定 (心理学科)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、1年次に学習した英語リーディングおよびライティングを基礎に、さらに実的な英語運用能力を開発します。「読むこと」と「書くこと」は1年次では別個のスキルとしてクラスが分けられていますが、2年次では、クラスの名称に示されているように、「読むこと」によって「書くこと」を、そして「書くこと」によって「読むこと」を学ぶためにそれぞれのトレーニングがひとつに統合されます。つまり、言語の訓練がより実際の言語運用の現場に即して構成されることとなります。クラス担当者は、客観的な第三者テストによって得られる学生諸君の現実の英語運用能力に対応するトレーニングのメニューを用意します。そして学生諸君がトレーニングを自己点検して、自覚的な学習プランを組み立てることができるよう助けます。クラス終了時に総合的な英語能力ができるだけ向上することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 様々な実践的な場面での英語読み書きに関する運用経験
- 2) リーディング (200~300語程度) とライティング (50~100語) の統合練習
- 3) 語彙力の向上 (当初は2000語の語彙を確実なものにすることを目標とする。さらに飛躍して、3000語獲得にチャレンジする)

3. Course Method (教育・学習の方法)

・リーディング:

1回の授業で1Unitのリーディング教材を読み進めていきます。適宜、語彙や文法事項の再確認を行いながら、英語のパラグラフの構造を学ぶことで、平易な英文を読む力を高めます。

・ライティング:

リーディングで扱った内容について、50語の英語のパラグラフで自分自身についてだけではなく、より長いエッセイの中で、自分の意見を表現したり、情報を正しく伝達する力を身につけます。そのために、英語の発想で文を書くこと、英語のパラグラフの考え方を身につけることも求められます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

リーディングにおいては予習が必要です。分からない単語は辞書で調べてから授業に臨んでください。

ライティングにおいては前回の課題が終了できなかった場合、必ず完成させて次回の授業はじめに提出してください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は以下の点に基づいて総合的にを行います。

・授業参加点 (予習を含む) (20%)

・英作文・課題点(80%)

※テキストや辞書がない場合は、授業参加点が入りません。

※必ず課題を提出してください。

※予習ができていない場合は、授業参加点が入りません。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 オリエンテーション

第2回 続・世界の常識: Unit 1 Given Name First Is Not the Rule in Many Places (Reading)

第3回 続・世界の常識: Unit 1 Grammar Point

第4回 続・世界の常識: Unit 2 New Year's Day

第5回 続・世界の常識: Unit 2 Grammar Point

第6回 50語: Unit 8 やめようと思ってもやめられないこと

第7回 続・世界の常識: Unit 3 Laundry

第8回 続・世界の常識: Unit 3 Grammar Point

第9回 50語: Unit 9 私が~を好きなわけ

第10回 続・世界の常識: Unit 4 How Do You Write the Date?

第11回 続・世界の常識: Unit 4 Grammar Point

第12回 続・世界の常識: Unit 6 A Global Beauty Standard

第13回 続・世界の常識: Unit 6 Grammar Point

第14回 50語: Unit 10 私に影響を与えた人

第15回 続・世界の常識: Unit 8 Forks, Chopsticks or Hands?

第16回 続・世界の常識: Unit 8 Grammar Point

第17回 50語: Unit 11 時分に関して好きなどころ

第18回 続・世界の常識: Unit 9 A Friendly Way to Greet Foreigners

第19回 続・世界の常識: Unit 9 Grammar Point

第20回 50語: Unit 12 自分に関して直したいところ

第21回 続・世界の常識: Unit 11 Japanese Animation Heroes Have Fans All Over the World

第22回 続・世界の常識: Unit 11 Grammar Point

第23回 続・世界の常識: Unit 12 American Work Hours and Overtime

第24回 50語: Unit 13 私の理想の休日

第25回 続・世界の常識: Unit 13 The Globalization of Christmas

第26回 続・世界の常識: Unit 13 Grammar Point

第27回 50語: Unit 14 今までの最悪の出来事

第28回 続・世界の常識: Unit 15 Do People's Names Change after Marriage?

第29回 続・世界の常識: Unit 15 Grammar Point

第30回 50語: Unit 15 今までの最高の出来事

6. Special Information (留意事項)

○授業中に辞書を使用しますので、辞書 (最低限、英和辞典) は必ず持参してください。

○テキスト、筆記用具を必ず持参してください。

※これらがなくて授業を受けられない場合、授業参加点は加算されません。また、予習をしていない場合も授業参加点は加算されません。

講義コード	10116102			
科目名	英語基礎 I A World Issues			
担当者	村上 裕美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	Jessica Williams.(2007) 50 Facts That Should Change the world.			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この講義では国連がかかげる Millennium Development Goals (MDGs) の世界に蔓延する問題研究を通して英語の読解力、語彙運用および文法力を養い、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を養います。

さらに、資料として取り上げる英文を通して意見を構築し、さまざまなテーマについて考える機会を提供します。易しい、読みやすい英文で世界を知る機会としましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力と語彙力を養います。

また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。読みとりの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループでプレゼンテーションで発表します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト (復習テストおよび小テスト) 60%

取り組み (提出物・予習・発表・プレゼンテーション) 40%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 オリエンテーション

英語力自己診断

第2回 8つの世界の問題点を学ぶ

(英文の特徴と構成)

第3回 世界の貧困について学ぶ

(形容詞と名詞)

第4回 世界の識字率と就学率

(データを読み取る)

第5回 世界の乳児死亡率について

(名詞)

第6回 世界の性差について

(接続詞)

第7回 第1回プレゼンテーション

第8回 第1回まとめテスト

第9回 世界に蔓延する病気について

(語彙のコロケーション)

第10回 世界の飢餓について

(形容詞と不定代名詞)

第11回 健康的な生活環境

(助動詞と条件文)

- 第12回 環境問題
(総合的な文法学習)
- 第13回 A New Sustainable Development Agenda
(総合的な文法学習)
- 第14回 第2回まとめテスト
- 第15回 第2回プレゼンテーション

6. Special Information (留意事項)

遅刻もしくは欠席は著しくその学習効果を減じます。
欠席1回につき3点減点します。十分注意してください。
携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116103			
科目名	英語基礎 I B 楽しむ英語へ			
担当者	寺西 みどり			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[Power-Up English] Jacetリスニング研究会 南雲堂 2015年			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

基礎英語から中級への移行を意識し、また、近年英語のコミュニケーション能力が重視されていることを受け、使える英語の習得を目指す

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文法の復習と語彙力の向上
2. リスニングと発音実習
3. 和訳によらない読解
4. 筆記体に取り組む
5. 映画鑑賞(英語の字幕を読む・重要な台詞の理解)

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。

CDを聴き、実際に発音する。

各章の読み物を意識する。

映画鑑賞から得た英語表現を確認する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教科書の本文を前もって読み、わからない単語や表現をチェックしておく。
復習を奨める。

必ず英和辞書を持って来ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則として授業回数の3分の2以上の出席者に対して評価を行なう。

小テストと授業参加度等を平常点として50%、前期末の理解度テストが50%。

遅刻・欠席は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・模擬授業・筆記体
- 第2回 文の強勢とポーズ
"Welcome to College"を読む
- 第3回 英語のリズム・動詞
"Course Registration"を読む
- 第4回 映画鑑賞他
- 第5回 イントネーション・文型
"Do It Yourself"を読む
- 第6回 消える音・現在形と過去形
"The Guardian of Love"を読む
- 第7回 消える音・未来表現
"Low-Cost Carriers"を読む
- 第8回 映画鑑賞他
- 第9回 消える音・進行形
"An Indian Restaurateur"を読む
- 第10回 つながる音・完了形
"Global Self-Help Revolution"を読む
- 第11回 つながる音・助動詞
"Achilles Tendon Rupture"を読む
- 第12回 映画鑑賞他
- 第13回 つながる音・受動態
"Aluminium-can Recycling"を読む

- 第14回 音の同化・不定詞
"Alternative Medicine"を読む

- 第15回 音の同化・分詞
理解度調査とまとめ

6. Special Information (留意事項)

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

講義コード	10116104			
科目名	英語基礎 I C			
担当者	石川 真美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[Two Sides to Every Discussion] Jonathan Lynch, Kotaro Shitori 成美堂 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

様々な事柄に関して、自分の意見を持ち、それを英語で表現する能力の養成を目指します。そのために、高校までに学んだ文法と語彙の知識を整理し、さらに語彙を増やし、英語を受容する力(「読むこと」「聞くこと」)だけではなく、英語を産出する力(「書くこと」「話すこと」)の増強を目標にします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文法知識の整理
2. 語彙力の向上
3. 英語の産出に向けた基礎的能力の養成

3. Course Method (教育・学習の方法)

読解問題を通して、既習の文法知識を整理し、基本語彙の定着をはかります。また、音読をすることで、スピーキングの基礎力を養成します。さらに、平易な作文の練習を通して、自分の意見を英語で表現する練習をします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますののでしっかり復習しましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業評価は小中テストの結果(50%)、課題の提出回数(30%)、授業に向かう姿勢(20%)から総合的に判断します

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 University Entrance in Autumn
- 第3回 Unit 2 High School Sports Clubs
- 第4回 Unit 3 Fingerprint Attendance System
- 第5回 Review
- 第6回 Unit 4 Foreign Sports Players
- 第7回 Unit 5 Experiences vs. Material Goods
- 第8回 Unit 6 First Date
- 第9回 Unit 7 Consumption Tax
- 第10回 Review
- 第11回 Unit 8 Female Pop Groups
- 第12回 Unit 9 Social Networking Service
- 第13回 Unit 10 Using Smartphones while Walking
- 第14回 Review
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116105			
科目名	英語基礎 I D			
担当者	伊村 大樹			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし(プリントを使用)			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション 読解のための文型・文法1
- 第2回 読解のための文型・文法2
- 第3回 英語のことわざー前置詞句の働き1
- 第4回 英語のことわざー前置詞句の働き2
- 第5回 英語のことわざー前置詞句の働き3
- 第6回 受動態を含む読解1
- 第7回 受動態を含む読解2
- 第8回 複文(接続詞・関係詞)を含む読解1
- 第9回 複文(接続詞・関係詞)を含む読解2
- 第10回 分詞を含む読解1
- 第11回 分詞を含む読解2
- 第12回 総合的読解演習ー英語圏の文化を学ぶ1
- 第13回 総合的読解演習ー英語圏の文化を学ぶ2
- 第14回 まとめ試験
- 第15回 試験の返却と解説

6. Special Information (留意事項)

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストのリスニング課題の聞きとりを行う。
2. 語彙・表現を身につける。
3. テキスト本文の内容を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

本授業では、リスニングを中心とする多くのトレーニングによって、英語能力の向上をめざします。また、語彙や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。本授業は、様々な英語の変種に触れることで、日本語の影響を受けた英語もその変種の一つだという認識を持つことを目標としています。扱う英語はロンドン周辺のイギリス英語ですが、適宜別の音声も取り入れていきます。特に、リスニングの達成度次第では、シラバスの予定よりもマイナーな方言(参考文献に収録)のリスニングを積極的に取り入れていきます。受講生のみなさんは、授業以外でも多くの英語に触れるよう心がけてください。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回行う小テストに備え、予習をしてください。範囲は授業中に連絡します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト(35%)、まとめ時に行う小テスト(35%)、授業中の課題・発言など(30%)の総合評価とします。授業に欠席すると小テストが受けられなくなるためご注意ください。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter1 01 忘れ物をしちやっみたい p.013
02 天気予報をチェック p.017
- 第3回 Chapter1 03 ノー制服デー、何を着ていく? p.021
04 プロコリーも食べなくちゃだめ! p.025
- 第4回 Chapter1 05 楽しいショッピング p.029
06 ここでニュースです p.033
- 第5回 Chapter1 07 赤ちゃんの落とし物 p.037
08 昨日の夜、あなたの家に... p.041
- 第6回 Chapter1 09 郵便局にて p.045
10 何時に、どこに集合? p.049
- 第7回 Chapter1 11 メラニーはいますか? p.053
Chapter2 12 すいません、渋滞していて p.059
- 第8回 アメリカ英語とイギリス英語聞き比べ
- 第9回 Chapter2 13 ウォーカー・ホテルズのご案内 p.063
14 シムズ部長のご予定は p.067
- 第10回 Chapter2 15 彼女のプレゼン、光ってたね p.073
16 新しい機器を導入したいんです p.077
- 第11回 Chapter2 17 注文と違うものが届きました p.081
18 ファクス機の使い方 p.087
- 第12回 Chapter2 19 1週間の支店研修 p.091
20 書類の山に埋もれていたもの p.097
- 第13回 Chapter2 21 会議を終えるにあたって p.101
Chapter3 22 運転手さん、景気はどう? p.107
- 第14回 Chapter3 23 彼氏と彼女とストーンヘンジ p.111
24 イギリスの名物が食べたい! p.117
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116106			
科目名	英語基礎 I E			
担当者	伊藤 薫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『究極のイギリス英語リスニング Standard』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
参考文献	『ダボス会議で聞く 世界の英語』 鶴田知佳子・柴田真一 コスモピア株式会社 2008 『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

イギリス英語の発音に触れ、英語に様々な方言があることを理解し、聞き取れるようにする。また、ネイティブ・ノンネイティブの別を問わず、聞き慣れないアクセントの英語でも理解しようとする姿勢を身につける。

講義コード	10116107			
科目名	英語基礎 I F			
担当者	伊藤 薫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『究極のイギリス英語リスニング Standard』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
参考文献	『ダボス会議で聞く 世界の英語』 鶴田知佳子・柴田真一 コスモピア株式会社 2008 『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

イギリス英語の発音に触れ、英語に様々な方言があることを理解し、聞き取れるようにする。また、ネイティブ・ノンネイティブの別を問わず、聞き慣れないアクセントの英語でも理解しようとする姿勢を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストのリスニング課題の聞きとりを行う。
2. 語彙・表現を身につける。
3. テキスト本文の内容を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

本授業では、リスニングを中心とする多くのトレーニングによって、英語能力の向上をめざします。また、語彙や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。本授業は、様々な英語の変種に触れることで、日本語の影響を受けた英語もその変種の一つだという認識を持つことを目標としています。扱う英語はロンドン周辺のイギリス英語ですが、適宜別の音声も取り入れて行きます。特に、リスニングの達成度次第では、シラバスの予定よりもマイナーな方言(参考文献に収録)のリスニングを積極的に取り入れていきます。受講生のみなさんは、授業以外でも多くの英語に触れるよう心がけてください。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回行う小テストに備え、予習をしてください。範囲は授業中に連絡します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト(35%)、まとめ時に行う小テスト(35%)、授業中の課題・発言など(30%)の総合評価とします。授業に欠席すると小テストが受けられなくなるためご注意ください。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | Chapter1 01 忘れ物をしちゃったみたい p.013
02 天気予報をチェック p.017 |
| 第3回 | Chapter1 03 ノー制服デー、何を着ていく? p.021
04 ブロccoliも食べなくちゃだめ! p.025 |
| 第4回 | Chapter1 05 楽しいショッピング p.029
06 ここでニュースです p.033 |
| 第5回 | Chapter1 07 赤ちゃんの落とし物 p.037
08 昨日の夜、あなたの家に... p.041 |
| 第6回 | Chapter1 09 郵便局にて p.045
10 何時に、どこに集合? p.049 |
| 第7回 | Chapter1 11 メラニーはいますか? p.053
Chapter2 12 すいません、渋滞していて p.059 |
| 第8回 | アメリカ英語とイギリス英語聞き比べ |
| 第9回 | Chapter2 13 ウォーカー・ホテルズのご案内 p.063
14 シムズ部長のご予定は p.067 |
| 第10回 | Chapter2 15 彼女のプレゼン、光ってたね p.073
16 新しい機器を導入したいんです p.077 |
| 第11回 | Chapter2 17 注文と違うものが届きました p.081
18 ファクス機の使い方 p.087 |
| 第12回 | Chapter2 19 1週間の支店研修 p.091
20 書類の山に埋もれていたもの p.097 |
| 第13回 | Chapter2 21 会議を終えるにあたって p.101
Chapter3 22 運転手さん、景気はどう? p.107 |
| 第14回 | Chapter3 23 彼氏と彼女とストーンヘンジ p.111
24 イギリスの名物が食べたい! p.117 |
| 第15回 | まとめ |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116108		
科目名	英語基礎 I G		
担当者	伊村 大樹		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	特になし(プリントを使用)		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | イントロダクション 読解のための文型・文法1 |
| 第2回 | 読解のための文型・文法2 |
| 第3回 | 英語のことわざ—前置詞句の働き1 |
| 第4回 | 英語のことわざ—前置詞句の働き2 |
| 第5回 | 英語のことわざ—前置詞句の働き3 |
| 第6回 | 受動態を含む読解1 |
| 第7回 | 受動態を含む読解2 |
| 第8回 | 複文(接続詞・関係詞)を含む読解1 |
| 第9回 | 複文(接続詞・関係詞)を含む読解2 |
| 第10回 | 分詞を含む読解1 |
| 第11回 | 分詞を含む読解2 |
| 第12回 | 総合的読解演習—英語圏の文化を学ぶ1 |
| 第13回 | 総合的読解演習—英語圏の文化を学ぶ2 |
| 第14回 | まとめの試験 |
| 第15回 | 試験の返却と解説 |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116109			
科目名	英語基礎 I H			
担当者	石川 真美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Laugh and Learn』 Keiko Kimura, Kenjiro Tagawa, Elaine Jones 南雲堂 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

簡単な英語文を自信を持って読むことができる能力と、具体的な事柄を英語で表現する能力の開発を目指します。そのために、高校までに学んだ文法と語彙の知識を整理し、それらの定着させることを目標にします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文法知識の復習と整理
2. 語彙力の向上
3. 英語の産出に向けた基礎的能力の養成

3. Course Method (教育・学習の方法)

文法事項を中心とした練習問題を通して、既習の文法知識を整理し、基本語彙の定着をはかります。特に、平易なライティングの練習を通して、英語が使えるようになることを目指します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますのでしっかり復習しましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業評価は小中テストの結果 (50%)、課題の提出 (30%)、授業に向かう姿勢(20%)から総合的に判断します。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | Unit 1 一般動詞とbe動詞 (現在形) ; A Very Smart Dog |
| 第3回 | Unit 2 一般動詞とbe動詞 (過去形) ; The Gift |
| 第4回 | Unit 2 一般動詞とbe動詞 (過去形) ; The Gift |
| 第5回 | Unit 3 疑問文 ; An Amazing Talking Dog |
| 第6回 | Unit 3 疑問文 ; An Amazing Talking Dog |
| 第7回 | Unit 4 否定文 ; English Language |
| 第8回 | Unit 4 否定文 ; English Language |
| 第9回 | Unit 5 文型と文の要素 ; It Hurts! |

- 第10回 Unit 5 文型と文の要素 : It Hurts!
 第11回 Unit 6 進行形 : Cold Cream
 第12回 Unit 6 進行形 : Cold Cream
 第13回 Unit 7 受動態 : Diet Problem
 第14回 Unit 7 受動態 : Diet Problem
 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116110			
科目名	英語基礎 I J			
担当者	寺西 みどり			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Laugh and Learn』 Keiko Kimura他 南雲堂 2015年1月			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語学習の基盤を構築し直す。
 英文の基本的な仕組みを理解する。
 繰り返し学習で会得した基礎力で簡単な読解を試み、苦手意識を軽減する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 単語の復習と語彙力の向上
2. 初級基本英文法の確認
3. 和訳によらない読解
4. 筆記体に取り組む
5. 映画鑑賞(英語の字幕を読む・重要な台詞の理解)

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の課題である単語暗記を実行する。
 読解は講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。
 文法の説明は極力減らす。
 映画鑑賞から得た英語表現を確認する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

わからない単語や表現をチェックしておく。
 単語テストに向けて暗記の努力をする。
 復習を奨める。
 必ず英和辞書を持って来ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則として授業回数3分の2以上の出席者に対して評価を行なう。
 小テストと授業参加度等を平常点として50%、前期末の理解度テストが50%。

遅刻・欠席は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・筆記体・模擬授業
 第2回 一般動詞とbe動詞
 "A Very Smart Dog"を読む
 第3回 一般動詞とbe動詞
 "The Gift"を読む
 第4回 映画鑑賞他
 第5回 疑問文
 "An Amazing Talking Dog"を読む
 第6回 否定文
 "English Language"を読む
 第7回 文型と文の要素
 第8回 "It Hurts"を読む
 第9回 映画鑑賞他
 第10回 進行形
 第11回 "Cold Cream"を読む
 第12回 映画鑑賞他
 第13回 受動態
 第14回 "Diet Problem"を読む
 第15回 理解度調査とまとめ

6. Special Information (留意事項)

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

講義コード	10116111			
科目名	英語基礎 I K World Issues			
担当者	村上 裕美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	学習用テキストとして英文資料を講義時もしくは事前に毎回配布します。			
参考文献	Jessica Williams.(2007) 50 Facts That Should Change the world.			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この講義では国連がかかげる Millennium Development Goals (MDGs)の世界に蔓延する問題研究を通して英語の読解力、語彙運用および文法力を養い、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を養います。
 さらに、資料として取り上げる英文を通して意見を構築し、さまざまなテーマについて考える機会を提供します。

易しい、読みやすい英文で世界を知る機会としましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力と語彙力を養います。
 また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。読み通りの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループでプレゼンテーションで発表します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト(復習テストおよび小テスト) 60%

取り組み(提出物・予習・発表・プレゼンテーション) 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
英語力自己診断
第2回 8つの世界の問題点のアウトラインを学ぶ
(英文の特徴と構成)
第3回 世界の貧困について学ぶ
(形容詞と名詞)
第4回 世界の初等教育の現状
(データを読み取る)
第5回 世界の乳児死亡率について
(名詞)
第6回 世界の性差について
(接続詞)
第7回 第1回プレゼンテーション
第8回 第1回まとめテスト
第9回 世界に蔓延する病気について
(語彙のコロケーション)
第10回 世界の飢餓について
(形容詞と不定代名詞)
第11回 健康的な生活環境
(助動詞と条件文)
第12回 環境問題
(総合的な文法学習)
第13回 A New Sustainable Development Agenda
(総合的な文法学習)
第14回 第2回まとめテスト
第15回 第2回プレゼンテーション

6. Special Information (留意事項)

毎回学習テーマを掲げて、半期で一通りの読みとりに必要な基本文法を習得するデザインですので、遅刻もしくは欠席は著しくその学習効果を減じます。欠席は5回以上になると単位認定が不可能となります。十分注意してください。携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116202			
科目名	英語基礎Ⅱ A World Issues			
担当者	村上 裕美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Jessica Williams.(2007) 50 Facts That Should Change the world.			
参考文献	文法書や多読用の書物は毎回の授業で紹介しますが、参考URLでも紹介しています。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この講義では前期に学んだ国連がかかげる Millennium Development Goals (MDGs)の世界に蔓延する問題をもとに書かれた英文を読みます。前期に学んだ語彙や文法力を活用して英語の読解力、語彙運用および文法力を養い、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を養います。さらに、資料として取り上げる英文を通して意見を構築し、さまざまなテーマについて考える機会を提供します。易しい、読みやすい英文で世界を知る機会としましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力と語彙力を養います。また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。読みとりの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループでプレゼンテーションで発表します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト(復習テストおよび小テスト) 60%

取り組み(提出物・予習・発表・プレゼンテーション) 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
英語力自己診断
- 第2回 A New Sustainable Development Agenda概要
(英文の特徴と構成)
- 第3回 世界の貧困 (Part 2)
(形容詞と名詞)
- 第4回 世界の初等教育 (Part 2)
(データを読み取る)
- 第5回 世界の乳児死亡率 (Part 2)
(名詞)
- 第6回 世界の性差 (Part 2)
(接続詞)
- 第7回 第1回プレゼンテーション
- 第8回 第1回まとめテスト
- 第9回 世界に蔓延する病気 (Part 2)
(語彙のコロケーション)
- 第10回 世界の飢餓 (Part 2)
(形容詞と不定代名詞)

- 第11回 健康的な生活環境 (Part 2)
(助動詞と条件文)
- 第12回 環境問題 (Part 2)
(総合的な文法学習)
- 第13回 A New Sustainable Development Agenda
(総合的な文法学習)
- 第14回 第2回まとめテスト
- 第15回 第2回プレゼンテーション

6. Special Information (留意事項)

欠席は1回につき3点減点します。十分注意してください。携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116203			
科目名	英語基礎Ⅱ B			
担当者	寺西 みどり			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[Power-Up English] Jacetリスニング研究会 南雲堂 2015年			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

基礎英語から中級英語への移行を意識し、また、近年英語コミュニケーション能力が重視されていることを受け、使える英語の習得を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文法の復習と語彙力の向上
2. リスニングと発音
3. 和訳によらない読解
4. 筆記体に取り組む
5. 映画鑑賞(英語の字幕を読む・重要な台詞の理解)

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。リスニングと発音実習。

映画鑑賞から得た英語表現を確認する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教科書の本文を前もって読み、わからない単語や表現をチェックしておく。復習を奨める。

必ず英和辞書を持って来ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則として授業回数の3分の2以上の出席者に対して評価を行なう。

小テストと授業参加度等を平常点として50%、後期末の理解度テストが50%。

遅刻・欠席は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 弱形と強形・動名詞
"Smart Shopping"を読む
- 第2回 否定短縮・形容詞と副詞
"Job Hunting"を読む
- 第3回 be動詞と助動詞の短縮・名詞代名詞
"The Shadow of a Great Artist"を読む
- 第4回 映画鑑賞他
- 第5回 疑問詞の聞き取り・前置詞
"Everyday Japan and Matsuri Japan"を読む
- 第6回 展開を予期して聴く・接続詞
"The Declining Birthrate"を読む
- 第7回 無声音化と有声音化・否定表現
"Narrow Escape"を読む
- 第8回 映画鑑賞他
- 第9回 まぎらわしい音・名詞構文
"Invitation to Hokkaido"を読む
- 第10回 数量表現・比較 I
"The World's Most Popular Sport?"を読む
- 第11回 数量表現・比較 II
"Quality of Life"を読む
- 第12回 映画鑑賞他
- 第13回 知っているつもり英語・関係詞 I
"Television Prime Time"を読む

第14回 通じているつもり英語・関係詞II

"Loanwords in Japan"を読む

第15回 アメリカ英語の特徴・仮定法

理解度調査とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116204			
科目名	英語基礎ⅡC			
担当者	石川 真美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Two Sides to Every Discussion』 Jonathan Lynch, Kotaro Shitori 成美堂 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

様々な事柄に関して、自分の意見を持ち、それを英語で表現する能力の養成を目指します。そのために、高校までに学んだ文法と語彙の知識を整理し、さらに語彙を増やし、英語を受容する力(「読むこと」「聞くこと」)だけでなく、英語を産出する力(「書くこと」「話すこと」)の増強を目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文法知識の整理

2. 語彙力の向上

3. 英語の産出に向けた基礎的能力の養成

3. Course Method (教育・学習の方法)

読解問題を通して、既習の文法知識を整理し、基本語彙の定着をはかります。また、音読をすることで、スピーキングの基礎力を養成します。さらに、平易な作文の練習を通して、自分の意見を英語で表現する練習をします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますのでしっかり復習しましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業評価は小中テストの結果 (50%)、課題の提出回数 (30%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 11 iPhones vs. Android

第3回 Unit 12 Video Gaming

第4回 Unit 13 Celebrating Foreign Festivals

第5回 Review

第6回 Unit 14 Eating on the Train

第7回 Unit 15 Ramen

第8回 Unit 16 Bread vs. Rice

第9回 Unit 17 Blood Types

第10回 Review

第11回 Unit 18 Cosmetic Surgery

第12回 Unit 19 Ear Piercing

第13回 Unit 20 Wearing Perfume

第14回 Review

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116205			
科目名	英語基礎ⅡD			
担当者	伊村 大樹			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし(プリントを使用)			
参考文献	Psychology: A Very Short Introduction (Gillian Butler and Freda McManus, Oxford University Press) A Short History of the World (H. G. Wells)			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

英語基礎Ⅰまでで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。読解の教材として心理学の入門書やH. G. ウェルズ『世界史概観』といった一般書を用い、より高度な英文に触れる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・文型の基礎を理解する
- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書はありません。英語基礎Ⅰに引き続き、プリントを配布して教材とします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かせず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 読解のための英文法再論

第2回 心理学的事例報告1 知覚の仕組み

第3回 心理学的事例報告2 環境の学習効果

第4回 心理学的事例報告3 記憶術

第5回 心理学的事例報告4 論理思考と言語

第6回 心理学的事例報告5 モチベーションとパフォーマンス

第7回 心理学的事例報告6 生得的抽象概念

第8回 心理学的事例報告7 早期教育の効果—ヘッドスタート事業

第9回 心理学的事例報告8 権威と従順—ミルグラム実験

第10回 世界宗教の誕生1 ブッダの生涯

第11回 世界宗教の誕生2 ユダヤ教とその予言者たち

第12回 世界宗教の誕生3 イエスの教え

第13回 世界宗教の誕生4 ムハンマドとイスラム

第14回 まとめテスト

第15回 テスト返却と解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116206			
科目名	英語基礎ⅡE			
担当者	伊藤 薫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『究極のイギリス英語リスニング Standard』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
参考文献	『タボス会議で聞く 世界の英語』 鶴田知佳子・柴田真一 コスモピア株式会社 2008 『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

イギリス英語の発音に触れ、英語に様々な方言があることを理解し、聞き

取れるようにする。また、ネイティブ・ノンネイティブの別を問わず、聞き慣れないアクセントの英語でも理解しようとする姿勢を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストのリスニング課題の聞きとりを行う。
2. 語彙・表現を身につける。
3. テキスト本文の内容を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

本授業では、リスニングを中心とする多くのトレーニングによって、英語能力の向上をめざします。また、語彙や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。本授業は、様々な英語の変種に触れることで、日本語の影響を受けた英語もその変種の一つだという認識を持つことを目標としています。扱う英語はロンドン周辺のイギリス英語ですが、適宜別の音声も取り入れて行きます。特に、リスニングの達成度次第では、シラバスの予定よりもマイナーな方言(参考文献に収録)のリスニングを積極的に取り入れていきます。受講生のみなさんは、授業以外でも多くの英語に触れるよう心がけてください。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回行う小テストに備え、予習をしてください。範囲は授業中に連絡します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト(35%)、まとめ時に行う小テスト(35%)、授業中の課題・発言など(30%)の総合評価とします。授業に欠席すると小テストが受けられなくなるためご注意ください。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション
第2回	Chapter3 25 ロンドン塔へようこそ p.121 26 こんなすてきなお天気の日 p.125
第3回	Chapter3 27 ビールの本場で何を飲む? p.129 28 フィッシュ・アンド・チップス p.133
第4回	Chapter3 29 ワーズワースのふるさとへ p.137 30 ハワース・ブロンテ博物館 p.141
第5回	Chapter3 31 演劇、それともミュージカル? p.145 Chapter4 32 ビッグベンの鐘の音 p.151
第6回	Chapter4 33 イギリス人と友達になる方法 p.155 34 ロンドン内 p.161
第7回	Chapter4 35 スヌーカーのルール p.165 36 ボール・ボツの半生 p.169
第8回	世界の英語聞き比べ
第9回	Chapter4 37 ティーは紅茶にあらず! p.173 38 違う言葉、同じ意味 p.177
第10回	Chapter4 39 サッカーの楽しみ p.181 40 プリティッシュ・インベージョン p.187
第11回	Chapter5 41 女王と首相 p.193 42 到着が遅れております電車は... p.197
第12回	Chapter5 43 スランプに落ちたシェークスピア p.201 44 サンドイッチの誕生 p.205
第13回	Chapter5 45 招かれざる客 p.209 世界の英語聞き比べ
第14回	世界の英語聞き比べ
第15回	まとめ

6. Special Information (留意事項)

き慣れないアクセントの英語でも理解しようとする姿勢を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストのリスニング課題の聞きとりを行う。
2. 語彙・表現を身につける。
3. テキスト本文の内容を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

本授業では、リスニングを中心とする多くのトレーニングによって、英語能力の向上をめざします。また、語彙や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。本授業は、様々な英語の変種に触れることで、日本語の影響を受けた英語もその変種の一つだという認識を持つことを目標としています。扱う英語はロンドン周辺のイギリス英語ですが、適宜別の音声も取り入れて行きます。特に、リスニングの達成度次第では、シラバスの予定よりもマイナーな方言(参考文献に収録)のリスニングを積極的に取り入れていきます。受講生のみなさんは、授業以外でも多くの英語に触れるよう心がけてください。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回行う小テストに備え、予習をしてください。範囲は授業中に連絡します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト(35%)、まとめ時に行う小テスト(35%)、授業中の課題・発言など(30%)の総合評価とします。授業に欠席すると小テストが受けられなくなるためご注意ください。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション
第2回	Chapter3 25 ロンドン塔へようこそ p.121 26 こんなすてきなお天気の日 p.125
第3回	Chapter3 27 ビールの本場で何を飲む? p.129 28 フィッシュ・アンド・チップス p.133
第4回	Chapter3 29 ワーズワースのふるさとへ p.137 30 ハワース・ブロンテ博物館 p.141
第5回	Chapter3 31 演劇、それともミュージカル? p.145 Chapter4 32 ビッグベンの鐘の音 p.151
第6回	Chapter4 33 イギリス人と友達になる方法 p.155 34 ロンドン内 p.161
第7回	Chapter4 35 スヌーカーのルール p.165 36 ボール・ボツの半生 p.169
第8回	世界の英語聞き比べ
第9回	Chapter4 37 ティーは紅茶にあらず! p.173 38 違う言葉、同じ意味 p.177
第10回	Chapter4 39 サッカーの楽しみ p.181 40 プリティッシュ・インベージョン p.187
第11回	Chapter5 41 女王と首相 p.193 42 到着が遅れております電車は... p.197
第12回	Chapter5 43 スランプに落ちたシェークスピア p.201 44 サンドイッチの誕生 p.205
第13回	Chapter5 45 招かれざる客 p.209 世界の英語聞き比べ
第14回	世界の英語聞き比べ
第15回	まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116207			
科目名	英語基礎Ⅱ F			
担当者	伊藤 薫			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『究極のイギリス英語リスニング Standard』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
参考文献	『ダボス会議で聞く 世界の英語』 鶴田知佳子・柴田真一 コスモビア株式会社 2008 『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』 英語出版編集部 株式会社アルク 2009			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

イギリス英語の発音に触れ、英語に様々な方言があることを理解し、聞き取れるようにする。また、ネイティブ・ノンネイティブの別を問わず、聞き

講義コード	10116208			
科目名	英語基礎Ⅱ G			
担当者	伊村 大樹			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし(プリントを使用)			
参考文献	Psychology: A Very Short Introduction (Gillian Butler and Freda McManus, Oxford University Press) A Short History of the World (H. G. Wells)			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

英語基礎Ⅰまでで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。読解の教材として心理学の入門書やH. G. ウェルズ『世界史概観』といった一般書を用い、より高度な英文に触れる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・文型の基礎を理解する

- ・読解に集中した文法の整理
- ・流れに乗った読解

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書はありません。英語基礎 I に引き続き、プリントを配布して教材とします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 読解のための英文法再論
- 第2回 心理学的事例報告1 知覚の仕組み
- 第3回 心理学的事例報告2 環境の学習効果
- 第4回 心理学的事例報告3 記憶術
- 第5回 心理学的事例報告4 論理思考と言語
- 第6回 心理学的事例報告5 モチベーションとパフォーマンス
- 第7回 心理学的事例報告6 生得的抽象概念
- 第8回 心理学的事例報告7 早期教育の効果—ヘッドスタート事業
- 第9回 心理学的事例報告8 権威と従順—ミルグラム実験
- 第10回 世界宗教の誕生1 ブッダの生涯
- 第11回 世界宗教の誕生2 ユダヤ教とその予言者たち
- 第12回 世界宗教の誕生3 イエスの教え
- 第13回 世界宗教の誕生4 ムハンマドとイスラム
- 第14回 まとめテスト
- 第15回 テスト返却と解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116209			
科目名	英語基礎 II H			
担当者	石川 真美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Laugh and Learn』 Keiko Kimura, Kenjiro Tagawa, Elaine Jones 南雲堂 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

簡単な英語文を、自信を持って読むことができる能力と、具体的な事柄を英語で表現する能力の開発を目指します。そのために、高校までに学んだ文法と語彙の知識を整理し、それらの定着させることを目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文法知識の復習と整理
2. 語彙力の向上
3. 英語の産出に向けた基礎的能力の養成

3. Course Method (教育・学習の方法)

文法事項を中心とした練習問題を通して、既習の文法知識を整理し、基本語彙の定着をはかります。特に、平易なライティングの練習を通して、英語が使えるようになることを目指します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習として、テキストの練習問題に取り組んで下さい。わかりにくいところをチェックし、授業でその部分を確認してください。頻繁に小テストをしますのでしっかり復習しましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業評価は小中テストの結果 (50%)、課題の提出 (30%)、授業に向かう姿勢 (20%) から総合的に判断します。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 8 助動詞 (1) ; Memory Problem (1)
- 第3回 Unit 8 助動詞 (1) ; Memory Problem (1)
- 第4回 Unit 9 助動詞 (2) ; Memory Problem (2)
- 第5回 Unit 9 助動詞 (2) ; Memory Problem (2)
- 第6回 Unit 10 現在完了 ; A good Chess Player
- 第7回 Unit 11 動名詞と不定詞 ; A Mime in a Zoo (1)

- 第8回 Unit 11 動名詞と不定詞 ; A Mime in a Zoo (1)
- 第9回 Unit 12 to不定詞 ; A Mime in a Zoo (2)
- 第10回 Unit 12 to不定詞 ; A Mime in a Zoo (2)
- 第11回 Unit 13 分詞 ; A Mime in a Zoo (3)
- 第12回 Unit 13 分詞 ; A Mime in a Zoo (3)
- 第13回 Unit 14 第5文型 ; A Snail's Fast New Car
- 第14回 Unit 14 第5文型 ; A Snail's Fast New Car
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116210			
科目名	英語基礎 II J			
担当者	寺西 みどり			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Laugh and Learn』 Keiko Kimura他 南雲堂 2015年1月			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語学習の基盤を構築しなおす。基礎的な英文法と語彙を確認、会得する。繰り返し学習によってえた基礎力で読解を試み、苦手意識を軽減する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 単語の復習と語彙力の向上
2. 初級基本英文法の確認
3. 和訳によらない読解
4. 筆記体に取り組む
5. 映画鑑賞(英語の字幕を読む・重要な台詞の理解)

3. Course Method (教育・学習の方法)

単語テストに備え課題の単語を暗記する。読解は講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。文法の説明は極力減らす。

映画鑑賞から得た英語表現を確認する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

基礎英語 I と同様に、テキストを用いて授業を進める。教科書の本文を前もって読み、わからない単語や表現をチェックしておく。復習を奨める。

必ず英和辞書を持って来ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則として授業回数の3分の2以上の出席者に対して評価を行なう。小テストと授業参加度等を平常点として50%、後期末の理解度テストが50%。

遅刻・欠席は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 助動詞 (1)
- 第2回 "Memory Problem 1"を読む
- 第3回 助動詞 (2)
- "Memory Problem 2"を読む
- 第4回 映画鑑賞他
- 第5回 現在完了
- "A Good Chess Player"を読む
- 第6回 動名詞と不定詞
- 第7回 "a Mime in a Zoo 1"を読む
- 第8回 不定詞
- "a Mime in a Zoo 2"を読む
- 第9回 映画鑑賞他
- 第10回 分詞
- 第11回 "a Mime in a Zoo 3"を読む
- 第12回 第5文型
- 第13回 "A Snail's Fast New Car"を読む
- 第14回 映画鑑賞他
- 第15回 理解度調査とまとめ

6. Special Information (留意事項)

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

講義コード	10116211			
科目名	英語基礎Ⅱ K World Issues			
担当者	村上 裕美			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Jessica Williams.(2007) 50 Facts That Should Change the world.			
参考文献	文法書や多読用の図書は毎回の授業で紹介しますが、参考URLでも紹介しています			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この講義では前期に学んだ国連がかかげる Millennium Development Goals (MDGs)の世界に蔓延する問題をもとに書かれた英文を読みます。前期に学んだ語彙や文法力を活用して英語の読解力、語彙運用および文法力を養い、将来専門分野の英文資料を読むための基礎力を養います。さらに、資料として取り上げる英文を通して意見を構築し、さまざまなテーマについて考える機会を提供します。易しい、読みやすい英文で世界を知る機会としましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語の知識を活用し、行間も含め英文の内容を正確に読み取り、そこに現れる主題、メッセージを読み取る力と語彙力を養います。また、正しく英文を読み取る上で必要な文法力をテーマ別に毎回学習します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の授業では、様々な世界の問題点を取り上げ、授業者が作成した教材を使用して学習します。

また、各テーマに関する意見を英文で作成し、自身の考えを表現、主張する機会とし、英語によるプレゼンテーションも実施します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

準備学習のために、次回の授業で使用する教材を配布します。その教材について単語を調べ内容を読み取る事前学習の準備をしてください。読みとりの正確さを確認するために予習学習内容の小テストを実施します。また、時には学習内容を復習し、次回の授業で小テストを実施することもあります。

授業時に予習をして不明だった箇所を講義にて学習しましょう。

また、英文のテーマや本文中に出てくる内容について事前にインターネット等を利用して調べ、背景知識を豊かにしましょう。その成果を個人またはグループでプレゼンテーションで発表します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト(復習テストおよび小テスト) 60%

取り組み(提出物・予習・発表・プレゼンテーション) 40%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション 英語力自己診断
第2回	A New Sustainable Development Agenda概要 (英文の特徴と構成)
第3回	世界の貧困(Part 2) (形容詞と名詞)
第4回	世界の初等教育(Part 2) (データを読み取る)
第5回	世界の乳児死亡率(Part 2) (名詞)
第6回	世界の性差(Part 2) (接続詞)
第7回	第1回プレゼンテーション
第8回	第1回まとめテスト
第9回	世界に蔓延する病気(Part 2) (語彙のコロケーション)
第10回	世界の飢餓(Part 2) (形容詞と不定代名詞)
第11回	健康的な生活環境(Part 2) (助動詞と条件文)
第12回	環境問題(Part 2) (総合的な文法学習)
第13回	A New Sustainable Development Agenda (総合的な文法学習)
第14回	第2回まとめテスト

第15回 第1回プレゼンテーション

6. Special Information (留意事項)

欠席は1回につき3点減点します。十分注意してください。携帯電話の辞書機能は教室では使用を認めません。辞書もしくは電子辞書を毎回持参して下さい。

講義コード	10116302			
科目名	英語総合Ⅰ A 日本語に惑わされない英語表現			
担当者	森 ユキエ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[English Checklist] 小中秀彦 NAN'UN-DO 2009 [Interactive English Book for the TOEIC Test Book 1] 内田雅克 他 松柏社 2013			
参考文献	授業中に指示、または別途配布する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

これまでに学習してきた英語を基礎に、さらに実際の英語運用能力を開発することに重点を置きます。日本語を直訳することによって起こる英語表現の間違いを豊富な文例で指摘し、正確な英作文が書けるように学習します。英作文の訓練が実際の英会話にも大いに役立つように、授業は構成されています。また[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 文法習得とライティングの統合練習
- 3) 語彙力の向上 ([TOEIC]対策も含む)

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 毎回、惑わされやすい日本語をどのように英語で表現するか、文例を参考に文法事項も加えて解説する。
- 2) テキストの問題に取り組み、自分で英作文しながら文構造を理解する。
- 3) CD,DVD を利用して、日常的に使用する語彙を習得し、それによって読解能力を高め、作文能力の強化をはかる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1) 授業で学習した箇所を必ず復習する。
- 2) 授業で指示された該当箇所を丁寧に辞書を引いて予習する。
- 3) 毎回課題が出るので、それを次回までに仕上げてくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度(30%)、小テストを含む提出課題(40%)、授業時の課題(30%)の総合評価とする。

欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Introduction 日本語に引きずられない自然な英語表現とは何か
第2回	1 Intransitive Verbs (自動詞) 文法解説・練習問題・英作文
第3回	2 Transitive Verbs (他動詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 1 Health
第4回	3 Tense (基本時制) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 2 Shopping
第5回	4 Progressive Form & Perfect Form (進行形・完了形) 文法解説・宿題の解答
第6回	5 Phrasal Verbs (句動詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 3 Sports
第7回	6 Nouns (名詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 4 Travel
第8回	English Checklist 1-6 小テストとその解説
第9回	Book 1 Lesson 1-4 応用問題とその解説
第10回	7 Articles (冠詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 5 Art & Design
第11回	8 Pronouns (代名詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 6 Nature
第12回	9 Adjectives (形容詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 7 Social Issues
第13回	10 Adverbs (副詞) 文法解説・宿題の解答 Book 1 Lesson 8 Gender
第14回	English Checklist 7-10 小テストとその解説
第15回	Book 1 Lesson 5-8 応用問題とその解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116303			
科目名	英語総合 I B 思ったことを的確に伝えるためのライティング			
担当者	藤本 幸治			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready to Write 1』 K. Blanchard Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に読み、書けるようにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に読み、書けるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指定された予習範囲の単語の意味調べ

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (30%)、まとめのテスト (40%)

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	writing about yourself
第2回	writing about yourfamily
第3回	review of the chapters
第4回	writing about your activities
第5回	giving instructions
第6回	writing about your day
第7回	review of the chapters
第8回	writing about your favorite movies
第9回	review of the assignment
第10回	voca-grammar training 1
第11回	voca-grammar training 2
第12回	review of the text
第13回	writing a short essay on your own topic
第14回	comments on the essays
第15回	review of the semester

6. Special Information (留意事項)

予習と復習は必須です。

講義コード	10116304			
科目名	英語総合 I C			
担当者	松本 ドロタ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

別紙

講義コード	10116305			
科目名	英語総合 I D 主体的に英作文を書こう！			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『伝えるためのライティング』(東郷多津・田中美和子) 2015年 (テキストの取得方法については、第1回目の授業の中で説明します。)			
参考文献	『FOREST 7th edition』ピアソン桐原 2013年			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースの目標は、伝えたいと思う内容を、より正しい英文で表すことができるようになる力を、プロジェクトを通して、学生自身が主体的に身に付けることです。そのために、基礎的な文法や「パラグラフ(段落)」を組み立てる方法などライティングの技術を協働学習を通して習得します。また、いろいろなプロジェクトを通して、クラスメイトと共同で、あるいは一人で、伝えたいと思う内容を見つけ、それを充実させる練習を積み重ねます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
3. 1つの話題について、数文をうまくつなげ、まとめて書くこと
4. よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって英文を書くこと
5. 多種のプロジェクトに取り組み、内容を充実させる方法を学ぶこと

3. Course Method (教育・学習の方法)

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは、グループ作業に取り組みながら、英語で作文することが求められます。教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきましょう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるように、必要なことがあれば、その準備をして次の授業に臨みましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

・授業参加点(予習、発表及び課題提出点を含む)(40%)、

・英作文・課題点(まとめの英作文を含む)(60%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション
第2回	PBL1:心の地図を使って自分を表現する①:心の地図の作成
第3回	PBL1:心の地図を使って自分を表現する②:心の地図を使ってライティング
第4回	PBL2:4コマストーリーを書く①:短い物語の完成
第5回	PBL2:4コマストーリーを書く②:発表、修正、提出
第6回	PBL3:絵本翻訳①:絵本(日本語)1の選択と翻訳
第7回	PBL3:絵本翻訳②:絵本(日本語)2の選択と翻訳
第8回	PBL3:絵本翻訳③:絵本(英語)1、2と自分の翻訳比較と考察
第9回	PBL4:ポスターづくり①:ポスター構想と原稿作成
第10回	PBL4:ポスターづくり②:ポスターの完成
第11回	PBL4:ポスター発表
第12回	PBL4:ポスター発表のまとめと英作文
第13回	まとめの英作文①英作文を書く:英作文の下書き完成
第14回	まとめの英作文②発表、修正して提出:英作文の発表、修正、提出
第15回	前期の振り返りと自己評価

6. Special Information (留意事項)

この授業では、辞書を持って授業に出席する、その上でライティングに関わる活動に参加する、これら2つが最も求められます。

講義コード	10116306			
科目名	英語総合 I E 主体的に英作文を書こう！			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『伝えるためのライティング』（東郷多津・田中美和子） 2016年 (テキストの取得方法については、第1回目の授業の中で説明します。)			
参考文献	『FOREST 7th edition』ピアソン桐原 2013年			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースの目標は、伝えたいと思う内容を、より正しい英文で表すことができるようになる力を、プロジェクトを通して、学生自身が主体的に身に付けることです。そのために、基礎的な文法や「パラグラフ（段落）」を組み立てる方法などライティングの技術を協働学習を通して習得します。また、いろいろなプロジェクトを通して、クラスメイトと共同で、あるいは一人で、伝えたいと思う内容を見つけ、それを充実させる練習を積み重ねます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
3. 1つの話題について、数文をうまくつなげ、まとめて書くこと
4. よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって英文を書くこと
5. 多種のプロジェクトに取り組み、内容を充実させる方法を学ぶこと

3. Course Method (教育・学習の方法)

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは、グループ作業に取り組みながら、英語で作文することが求められます。教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきましょう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるように、必要なことがあれば、その準備をして次の授業に臨みましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、自己管理できるように、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

- ・授業参加点（予習、発表及び課題提出点を含む）(40%)、
- ・英作文・課題点（まとめの英作文を含む）(60%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 PBL1：心の地図を使って自分を表現する①：心の地図の作成
 第3回 PBL1：心の地図を使って自分を表現する②：心の地図を使ってライティング
 第4回 PBL2：4コマストーリーを書こう①：短い物語の完成
 第5回 PBL2：4コマストーリーを書こう②：発表、修正、提出
 第6回 PBL3：絵本翻訳①：絵本（日本語）1の選択と翻訳
 第7回 PBL3：絵本翻訳②：絵本（日本語）2の選択と翻訳
 第8回 PBL3：絵本翻訳③：絵本（英語）1、2と自分の翻訳比較と考察
 第9回 PBL4：ポスターづくり①：ポスター構想と原稿作成
 第10回 PBL4：ポスターづくり②：ポスターの完成
 第11回 PBL4：ポスター発表
 第12回 PBL4：ポスター発表のまとめと英作文
 第13回 まとめ英作文①英作文を書く：英作文の下書き完成
 第14回 まとめ英作文②発表、修正して提出：英作文の発表、修正、提出
 第15回 前期の振り返りと自己評価

6. Special Information (留意事項)

この授業では、辞書を持って授業に出席する、その上でライティングに関わる活動に参加する、これら2つが最も求められます。

講義コード	10116307			
科目名	英語総合 I F			
担当者	吉野 啓子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Let's Check Out the UK』 Paul Chris McVay Kinseido			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースの目標は、英語に親しむ事。簡単な英語を読む、聞く、話す、書くことを前提に、「英語は苦手」意識から、少しでも外れるという目標を掲げています。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 語彙を出来るだけ増やすこと
3. 速読速解に重点を置く

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・ テキストを読み、内容を理解する。
- ・ その中にある重要単語や語彙についてさらに学習し、英作文や会話に利用できるまでにする。
- ・ 単元が終わるごとに、習得度をみる意味で、テストをする。
- ・ その後、間違った箇所をノートに訂正し、完全習得をめざす意味で、ノート提出を行う。
- ・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・ 出来る範囲でテキストを読み、あらかじめ辞書等を使って準備をする。
- ・ 重要単語やイディオム等は、その都度暗記するように心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度40% 試験30%、提出物等30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 "Day 1, 国名について"
 第3回 "Day 2, 国名について" まとめ
 第4回 "Day 3, パブと飲酒"
 第5回 "Day 4, パブと飲酒" まとめ
 第6回 "Day 5, 湖水地方"
 第7回 "Day 6, 湖水地方" まとめ
 第8回 "Day 7, 美術館"
 第9回 "Day 8, 美術館" まとめ
 第10回 "Day 9, 民族社会のイギリス"
 第11回 "Day 10, 民族社会のイギリス" まとめ
 第12回 "Day 11, 大学について"
 第13回 "Day 12, 大学について" まとめ
 第14回 "Day 13, ブックメーカー"
 第15回 "Day 14, ブックメーカー" まとめ

6. Special Information (留意事項)

この授業では、辞書を持って授業に出席する、その上でライティングに関わる活動に参加する、これら2つが最も求められます。

講義コード	10116308			
科目名	英語総合 I G 主体的に英作文を書こう！			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『伝えるためのライティング』（東郷多津・田中美和子） 2015年 (テキストの取得方法については、第1回目の授業の中で説明します。)			
参考文献	『FOREST 7th edition』ピアソン桐原 2013年			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースの目標は、伝えたいと思う内容を、より正しい英文で表すことができるようになる力を、プロジェクトを通して、学生自身が主体的に身に付けることです。そのために、基礎的な文法や「パラグラフ(段落)」を組み立てる方法などライティングの技術を協働学習を通して習得します。また、いろいろなプロジェクトを通して、クラスメイトと共同で、あるいは一人で、伝えたいと思う内容を見つけ、それを充実させる練習を積み重ねます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
3. 1つの話題について、教文をうまくつなげ、まとめて書くこと
4. よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって英文を書くこと
5. 多種のプロジェクトに取り組み、内容を充実させる方法を学ぶこと

3. Course Method (教育・学習の方法)

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは、グループ作業に取り組みながら、英語で作文することが求められます。教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきましょう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるよう、必要なことがあれば、その準備をして次の授業に臨みましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

- ・授業参加点(予習、発表及び課題提出点を含む)(40%)、
- ・英作文・課題点(まとめの英作文を含む)(60%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PBL1:心の地図を使って自分を表現する①:心の地図の作成
- 第3回 PBL1:心の地図を使って自分を表現する②:心の地図を使ってライティング
- 第4回 PBL2:4コマストーリーを書こう①:短い物語の完成
- 第5回 PBL2:4コマストーリーを書こう②:発表、修正、提出
- 第6回 PBL3:絵本翻訳①:絵本(日本語)1の選択と翻訳
- 第7回 PBL3:絵本翻訳②:絵本(日本語)2の選択と翻訳
- 第8回 PBL3:絵本翻訳③:絵本(英語)1、2と自分の翻訳比較と考察
- 第9回 PBL4:ポスターづくり①:ポスター構想と原稿作成
- 第10回 PBL4:ポスターづくり②:ポスターの完成
- 第11回 PBL4:ポスター発表
- 第12回 PBL4:ポスター発表のまとめと英作文
- 第13回 まとめ英作文①英作文を書く:英作文の下書き完成
- 第14回 まとめ英作文②発表、修正して提出:英作文の発表、修正、提出
- 第15回 前期の振り返りと自己評価

6. Special Information (留意事項)

この授業では、辞書を持って授業に出席する、その上でライティングに関わる活動に参加する、これら2つが最も求められます。

講義コード	10116309		
科目名	英語総合 I H		
担当者	中村 央希		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

別紙

講義コード	10116310			
科目名	英語総合 I J 基礎英語を通して学ぶ書くための英語			
担当者	藤本 幸治			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready to Write』 K.Blanchard Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に読み、書けるようにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に読み、書けるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

知らない単語の意味の確認を電子辞書で行う

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、小テスト・レポート(30%)、まとめのテスト(40%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 writing about yourself 1
- 第2回 writing about yourself 2
- 第3回 review of the chapter
- 第4回 writing about your friend 1
- 第5回 rriting about your friend 2
- 第6回 review of the chapter and assignment
- 第7回 writing about your activities 1
- 第8回 writing about your activities 2
- 第9回 review of the chapter
- 第10回 giving instructions 1
- 第11回 giving instructions 2
- 第12回 review of the chapter
- 第13回 writing about your day 1
- 第14回 writing about your day 2
- 第15回 review of the semester

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116311			
科目名	英語総合 I K 基礎英語復習と英語リーディング			
担当者	森 ユキエ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Primer <Revised Edition>』 Tetsuzo Sato NAN'UN-DO 2012			
参考文献	授業中に指示、または別途配布する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語全体の根底にある文法・語法などを再度復習し、それを英語リーディング・ライティングにつなげ、さらに実的な英語運用能力を開発することに重点を置きます。テキストの解説を聞くだけの授業ではなく、問題を解いたり英作文をしたりする中で、実際の英語運用の経験を積みみます。さらに[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 英語基礎の総合学習
- 3) 語彙力の向上

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 毎回テキスト・配布資料に沿って、文の構造や文法について学習し、「読むこと」と「書くこと」のスキル向上を目指す。
- 2) CD・DVD を利用し、日常的に使用する語彙を習得し、読解能力・作文能力の強化をはかる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1) 毎回新しいユニットに進むので、指示された箇所の単語を必ず予習すること
- 2) 毎回課題が出るので、それを必ず仕上げてくること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度(30%)、小テスト・レポート(40%)、英作文を含む提出課題(30%)とする。授業中の態度や努力を評価の対象とする。欠席・遅刻は減点対象となる。欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction 英語学習の方法(辞書の選び方・引き方等)
- 第2回 English Primer Unit 1 be 動詞 基本・発展問題・長文問題
- 第3回 English Primer Unit 2 一般動詞(現在)
- 第4回 English Primer Unit 3 一般動詞(過去)
- 第5回 English Primer Unit 4 進行形
- 第6回 English Primer Unit 5 未来形
- 第7回 English Primer Unit 6 助動詞
- 第8回 English Primer まとめのテストと解説
- 第9回 English Primer Unit 7 名詞・冠詞
- 第10回 English Primer Unit 8 代名詞
- 第11回 English Primer Unit 9 前置詞
- 第12回 English Primer Unit 10 形容詞・副詞
- 第13回 English Primer Unit 11 比較
- 第14回 English Primer Unit 12 命令文・感嘆文
- 第15回 English Primer まとめのテストと解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116402			
科目名	英語総合ⅡA 日本語に惑わされない英語表現			
担当者	森 ユキコ			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『English Checklist』 小中秀彦 NAN'UN-DO 2009 『Interactive English Book for the TOEIC Test Book 1』 内田雅克 他 松柏社 2013			
参考文献	授業中に指示、または別途配布する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

これまでに学習してきた英語を基礎に、さらに実用的な英語運用能力を開発することに重点を置きます。日本語を直訳することによって起こる英語表現の間違いを豊富な文例で指摘し、正確な英作文が書けるように学習します。英作文の訓練が実際の英会話にも大いに役立つように、授業は構成されています。また[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 文法習得とライティングの統合練習
- 3) 語彙力の向上 ([TOEIC]対策も含む)

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 毎回、惑わされやすい日本語をどのように英語で表現するか、文例を参考に文法事項も加えて解説する。
- 2) テキストの問題に取り組み、自分で英作文しながら文構造を理解する。
- 3) CD/DVD を利用して、日常的に使用する語彙を習得し、それによって読解能力を高め、作文能力の強化をはかる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1) 授業で学習した箇所を必ず復習する。
- 2) 授業で指示された該当箇所を丁寧に辞書を引いて予習する。
- 3) 毎回課題(穴埋め問題・英作文など)が出るので、それを次回までに

仕上げてくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度(30%)、小テストを含む提出課題(40%)、授業時の課題(30%)の総合評価とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction 英作文のコツ(辞書の選び方・引き方など)
- 第2回 11 Voice(態) 文法解説・練習問題・英作文
- 第3回 12 Infinitives(不定詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 9 Entertainment
- 第4回 13 Gerunds(動名詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 10 Comparative Culture
- 第5回 14 Participles(分詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 11 Science
- 第6回 15 Prepositions(前置詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 12 Environment
- 第7回 English Checklist 11-15 小テストとその解説
- 第8回 Book 1 Lesson 9-12 応用問題とその解説
- 第9回 16 Conjunctions & Interrogatives(接続詞・疑問詞)
文法解説・宿題の解答
- 第10回 17 Relatives(関係詞) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 13 Sleep & Dream
- 第11回 18 Comparison(比較) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 14 Taste
- 第12回 19 Negation(否定) 文法解説・宿題の解答
Book 1 Lesson 15 Biodiversity
- 第13回 20 Subjunctive Mood(仮定法) 文法解説・宿題の解答
- 第14回 English Checklist 16-20 小テストとその解説
- 第15回 Book 1 Lesson 13-15 応用問題とその解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116403			
科目名	英語総合ⅡB 英語でエッセイを書こう。			
担当者	藤本 幸治			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready to Write 1』 K. Blanchard Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

中級レベル(TOEIC500-600)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに中級レベル(TOEIC500-600)の英語を完全に読み、書けるようにする。また、パラグラフライティングを行うことで、論理的な英文を読み、書く力の基礎を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

中学校~高校までの単語、構文を十分に活用し、正しい英文を書いて、読めるようになるために大別して3つの課題を消化する。

- 1) 場所についての説明を読み、書く。
- 2) 作業工程についての英文を読み、書いてみる。
- 3) 自分の意見を相手に正確に伝える英文をパラグラフで構成する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

分からない単語の意味を辞書で調べる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、小テスト・レポート(30%)、まとめのテスト(40%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Writing descriptions 1
- 第2回 writing descriptions 2
- 第3回 Writing about places 1
- 第4回 writing about places 2
- 第5回 review of the chapters
- 第6回 review of the assignment

- 第7回 writing about your own topic 1
- 第8回 writing about your own topic 2
- 第9回 review of the essays
- 第10回 writing about your opinion 1
- 第11回 writing about your opinion 2
- 第12回 review of the chapter
- 第13回 preparation for the final essay 1
- 第14回 preparation for the final essay 2
- 第15回 review of the semester

6. Special Information (留意事項)

指定された予習、復習は必須事項です。

講義コード	10116404		
科目名	英語総合ⅡC		
担当者	松本 ドロタ		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

別紙

3. Course Method (教育・学習の方法)

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは、グループ作業に取り組みながら、英語で作文することが求められます。教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきましょう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるよう、必要なことがあれば、その準備をして次の授業に臨みましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

- ・授業参加点 (予習、発表及び課題提出点を含む) (40%)、
- ・英作文・課題点 (まとめの英作文を含む) (60%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PBL1: ショートストーリーを書く①: ショートストーリーの構想
- 第3回 PBL1: ショートストーリーを書く②: ショートストーリーの清書とイラストの完成
- 第4回 PBL1: ショートストーリーの品評会
- 第5回 PBL2: ポスターづくり①: ポスター構想と原稿作成
- 第6回 PBL2: ポスターづくり②: ポスターの完成と発表練習
- 第7回 PBL2: ポスター発表
- 第8回 PBL3: ポスター発表のまとめと英作文
- 第9回 PBL4: 絵本づくり①: 物語の構成
- 第10回 PBL4: 絵本づくり②: 物語の完成
- 第11回 PBL4: 絵本づくり③: 絵本の完成
- 第12回 PBL4: 絵本の品評会
- 第13回 まとめの英作文①: 英作文の下書き完成
- 第14回 まとめの英作文②: 英作文の発表、修正、提出
- 第15回 後期の振り返りと自己評価

6. Special Information (留意事項)

この授業では、辞書を持って授業に出席する、その上でライティングに関わる活動に参加する、これら2つが最も求められます。

講義コード	10116405			
科目名	英語総合ⅡD 主体的に英作文を書こう！			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『もっと伝えるためのライティング』(東郷多津・田中美和子) 2016年 (テキストの取得方法については、第1回目の授業の中で説明します。)			
参考文献	『FOREST 7th edition』ピアソン桐原 2013年			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースの目標は、伝えたいと思う内容を、より正しい英文で表すことができるようになる力を、プロジェクトを通して、学生自身が主体的に身に付けることです。そのために、基礎的な文法や「パラグラフ(段落)」を組み立てる方法などライティングの技術を、協働学習を通して習得します。また、いろいろなプロジェクトを通して、クラスメイトと共同で、あるいは一人で、伝えたいと思う内容を見つけ、それを充実させる練習を積み重ねます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
3. 1つの話題について、数文をうまくつなげ、まとめて書くこと
4. よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって英文を書くこと
5. 多種のプロジェクトに取り組み、内容を充実させる方法を学ぶこと

講義コード	10116406			
科目名	英語総合ⅡE 主体的に英作文を書こう！			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『もっと伝えるためのライティング』(東郷多津・田中美和子) 2016年 (テキストの取得方法については、第1回目の授業の中で説明します。)			
参考文献	『FOREST 7th edition』ピアソン桐原 2013年			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースの目標は、伝えたいと思う内容を、より正しい英文で表すことができるようになる力を、プロジェクトを通して、学生自身が主体的に身に付けることです。そのために、基礎的な文法や「パラグラフ(段落)」を組み立てる方法などライティングの技術を、協働学習を通して習得します。また、いろいろなプロジェクトを通して、クラスメイトと共同で、あるいは一人で、伝えたいと思う内容を見つけ、それを充実させる練習を積み重ねます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
3. 1つの話題について、数文をうまくつなげ、まとめて書くこと
4. よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって英文を書くこと
5. 多種のプロジェクトに取り組み、内容を充実させる方法を学ぶこと

3. Course Method (教育・学習の方法)

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは、グループ作業に取り組みながら、英語で作文することが求められます。教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきましょう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるよう、必要なことがあれば、その準備をして次の授業に臨みましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

- ・授業参加点(予習、発表及び課題提出点を含む)(40%)、
- ・英作文・課題点(まとめの英作文を含む)(60%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PBL1: ショートストーリーを書く①: ショートストーリー1の完成
- 第3回 PBL1: ショートストーリーを書く②: ショートストーリー2の完成
- 第4回 PBL1: ショートストーリーの品評会
- 第5回 PBL2: ポスターづくり①: ポスター構想と原稿作成
- 第6回 PBL2: ポスターづくり②: ポスターの完成と発表練習
- 第7回 PBL2: ポスター発表
- 第8回 PBL3: ポスター発表のまとめと英作文
- 第9回 PBL4: 絵本づくり①: 物語の構成
- 第10回 PBL4: 絵本づくり②: 物語の完成
- 第11回 PBL4: 絵本づくり③絵本の完成
- 第12回 PBL4: 絵本の品評会
- 第13回 まとめの英作文①: 英作文の下書き完成
- 第14回 まとめの英作文②: 英作文の発表、修正、提出
- 第15回 後期の振り返りと自己評価

6. Special Information (留意事項)

この授業では、辞書を持って授業に出席する、その上でライティングに関わる活動に参加する、これら2つが最も求められます。

講義コード	10116407			
科目名	英語総合ⅡF 主体的に英作文を書こう!			
担当者	吉野 啓子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Let's Check Out the UK』 Paul Chris McVay Kinseido			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

簡単な英語での、読み、書き、話す、聞く、書くが出来ることを第一の目標として掲げている

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 語彙を出来る限り増やす
3. 速読、速解が出来ること

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・ テキストを読み、内容を理解する。
- ・ 各単元にある重要単語や語彙についてさらに理解を深め英作文や会話に利用できるまでにする。
- ・ 単元が終わるごとに、習得度をみる意味で、テストをする。
- ・ その後、間違った箇所をノートに訂正し、完全習得を目指す意味で、ノート提出を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・ 出来る範囲でテキストを読み、あらかじめ辞書等を使って準備をする。
- ・ 重要単語やイディオム等は、その都度暗記するように心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度40% 提出物30% 試験30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 "Day 1, イギリスの料理"
- 第3回 "Day 2, イギリスの料理" まとめ
- 第4回 "Day 3, 8月のエディンバラ"
- 第5回 "Day 4, 8月のエディンバラ" まとめ
- 第6回 "Day 5, チョコレートの原料"
- 第7回 "Day 6, チョコレートの原料" まとめ
- 第8回 "Day 7, ロンドンタクシー"
- 第9回 "Day 8, ロンドンタクシー" まとめ
- 第10回 "Day 9, ウェールズ語"
- 第11回 "Day 10, ウェールズ語" まとめ
- 第12回 "Day 11, 英国スタイル"
- 第13回 "Day 12, 英国スタイル" まとめ
- 第14回 "Day 13, シェイクスピア"
- 第15回 "Day 14, シェイクスピア" まとめ

6. Special Information (留意事項)

必ず、準備をすること

講義コード	10116408			
科目名	英語総合ⅡG 主体的に英作文を書こう!			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『もっと伝えるためのライティング』(東郷多津・田中美和子) 2015年 (テキストの取得方法については、第1回目の授業の中で説明します。)			
参考文献	『FOREST 7th edition』ピアソン桐原 2013年			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースの目標は、伝えたいと思う内容を、より正しい英文で表すことができるようになる力を、プロジェクトを通して、学生自身が主体的に身に付けることです。そのために、基礎的な文法や「パラグラフ(段落)」を組み立てる方法などライティングの技術を、協働学習を通して習得します。まだ、いろいろなプロジェクトを通して、クラスメイトと共同で、あるいは一人で、伝えたいと思う内容を見つけ、それを充実させる練習を積み重ねます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために英文法を復習すること
3. 1つの話題について、数文をうまくつなげ、まとめて書くこと
4. よいパラグラフとは何かを理解して、その構成にしたがって英文を書くこと
5. 多種のプロジェクトに取り組み、内容を充実させる方法を学ぶこと

3. Course Method (教育・学習の方法)

クラスは主としてプロジェクト形式で行われます。クラスでは、グループ作業に取り組みながら、英語で作文することが求められます。教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図り、英語の作文練習につなげていきましょう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるよう、必要なことがあれば、その準備をして次の授業に臨みましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行う。

- ・授業参加点(予習、発表及び課題提出点を含む)(40%)、
- ・英作文・課題点(まとめの英作文を含む)(60%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PBL1: ショートストーリーを書く①: ショートストーリーの構想
- 第3回 PBL1: ショートストーリーを書く②: ショートストーリーの清書とイラストの完成
- 第4回 PBL1: ショートストーリーの品評会
- 第5回 PBL2: ポスターづくり①: ポスター構想と原稿作成
- 第6回 PBL2: ポスターづくり②: ポスターの完成と発表練習
- 第7回 PBL2: ポスター発表
- 第8回 PBL3: ポスター発表のまとめと英作文
- 第9回 PBL4: 絵本づくり①: 物語の構成
- 第10回 PBL4: 絵本づくり②: 物語の完成
- 第11回 PBL4: 絵本づくり③絵本の完成
- 第12回 PBL4: 絵本の品評会
- 第13回 まとめの英作文①: 英作文の下書き完成
- 第14回 まとめの英作文②: 英作文の発表、修正、提出
- 第15回 後期の振り返りと自己評価

6. Special Information (留意事項)

この授業では、辞書を持って授業に出席する、その上でライティングに関わる活動に参加する、これら2つが最も求められます。

講義コード	10116409		
科目名	英語総合ⅡH		
担当者	中村 央希		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

別紙

講義コード	10116410		
科目名	英語総合ⅡJ 英語で鍛える初歩的論理的思考と表現法		
担当者	藤本 幸治		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『Ready to Write』 K.Blanchard Longman 2010		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

中級レベル(TOEIC500-600)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに中級レベル(TOEIC500-600)の英語を完全に読み、書けるようにする。また、パラグラフライティングを行うことで、論理的な英文を読み、書く力の基礎を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

中学校～高校までの単語、構文を十分に活用し、正しい英文を書いて、読めるようになるために大別して3つの課題を消化する。

- 1) 場所についての説明を読み、書く。
- 2) 作業工程についての英文を読み、書いてみる。
- 3) 自分の意見を相手に正確に伝える英文をパラグラフで構成する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指定されたテキストの予習と単語の意味調べ

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、小テスト・レポート(30%)、まとめのテスト(40%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 writing descriptions 1
- 第2回 writing descriptions 2
- 第3回 review of the chapter and assignment
- 第4回 writing about places 1
- 第5回 writing about places 2
- 第6回 review of the chapter
- 第7回 writing a narrative 1
- 第8回 writing a narrative 2
- 第9回 review of the chapter
- 第10回 expressing your opinion 1
- 第11回 expressing your opinion 2
- 第12回 expressing your opinion 3
- 第13回 preparation for the final essay 1
- 第14回 preparation for the final essay 2
- 第15回 review of the semester

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10116411		
科目名	英語総合ⅡK 基礎英語復習と英語ライティング		
担当者	森 ユキエ		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『English Primer <Revised Edition>』 Tetsuzo Sato NAN'UN-DO 2012		
参考文献	授業中に指示、または別途配布する。		
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

英語全体の根底にある文法・語法などを再度復習し、それを英語リーディング・ライティングにつなげ、さらに実際の英語運用能力を開発することに重点を置きます。テキストの解説を聞くだけの授業ではなく、問題を解いたり英作文をしたりする中で、実際の英語運用の経験を積みまます。さらに[TOEIC]での成果が向上することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 様々な現場での実際の英語運用の経験
- 2) 英語基礎の総合的学習
- 3) 語彙力の向上

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 毎回テキスト・配布資料に沿って、文の構造や文法について学習し、「読むこと」と「書くこと」のスキル向上を目指す。
- 2) CD・DVD を利用し、日常的に使用する語彙を習得し、読解能力・作文能力の強化をはかる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1) 毎回新しいユニットに進むので、指示された箇所の単語を必ず予習すること
- 2) 毎回課題が出るので、それを必ず仕上げてくること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度(30%)、小テスト・レポート(40%)、英作文を含む提出課題(30%)とする。授業中の態度や努力を評価の対象とする。欠席・遅刻は減点対象となる。欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction 英語学習の方法(日本語に惑わされない英語表現とは)

- 第2回 English Primer Unit 13 接続詞 (1) 基本・発展問題・長文問題
 第3回 English Primer Unit 14 不定詞 (1)・動名詞 (1)
 第4回 English Primer Unit 15 受動態
 第5回 English Primer Unit 16 完了形
 第6回 English Primer Unit 17 接続詞 (2) (時制の一致を含む)
 第7回 English Primer Unit 18 5つの基本文型
 第8回 English Primer まとめのテストと解説
 第9回 English Primer Unit 19 各種疑問文
 第10回 English Primer Unit 20 不定詞 (2)
 第11回 English Primer Unit 21 It の特別用法
 第12回 English Primer Unit 22 分詞・動名詞 (2)
 第13回 English Primer Unit 23 関係代名詞
 第14回 English Primer Unit 24 仮定法
 第15回 English Primer まとめのテストと解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119101			
科目名	英語応用 a (A)			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『English Firsthand Success (4th Edition)』 Michael Rost Pearson Longman 2010			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101178英語応用Ⅳ リビングイングリッシュ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation, Behavior 100%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
 第2回 English Firsthand Unit 1- Introducing yourself
 第3回 English Firsthand Unit 1- Greeting people
 第4回 English Firsthand Unit 1- Exchanging information
 第5回 English Firsthand Unit 2- Describing clothing
 第6回 English Firsthand Unit 2- Talking about fashion
 第7回 English Firsthand Unit 2- Talking about unusual fashion
 第8回 English Firsthand Unit 3- How do you stay healthy?
 第9回 English Firsthand Unit 3- What makes you happy?
 第10回 English Firsthand Unit 3- Giving advice
 第11回 English Firsthand Unit 4- Giving directions
 第12回 English Firsthand Unit 4- Asking for directions
 第13回 English Firsthand Unit 4- Following directions
 第14回 English Firsthand Unit 4- Understanding map directions
 第15回 English Workshop

6. Special Information (留意事項)

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.
 Schedule subject to change.

講義コード	10119102			
科目名	英語応用 a (B) 英語応用 a (B) : English Communication Strategy			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『New Time to Communicate』 Eric Bray Nan' undo 2015			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101178英語応用Ⅳ リビングイングリッシュ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, being active, attentive and using English only.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Meeting People
 第2回 Greeting to Know Your Classmates
 第3回 Talking About Classes
 第4回 Talking About Your Daily Life
 第5回 Talking About People-Personality
 第6回 Talking About People-Appearance
 第7回 Talking About Last Weekend
 第8回 Talking About the Vacation
 第9回 Talking About Going Out on the Town
 第10回 Talking About Foods and Recipes
 第11回 Talking About Travel
 第12回 Talking About Hometowns
 第13回 Talking About Your Opinions
 第14回 Talking About Future Plans
 第15回 Review and Practice

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119103			
科目名	英語応用 a (C) 英語応用 a (C): English Communication Strategies			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	There will be no textbook for this course. The instructor will provide handouts, worksheets, etc., for you.			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101178英語応用Ⅳ リビングイングリッシュ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will focus on improving ORAL COMMUNICATION SKILLS. This course is intended for students who want to improve their CONVERSATION FLUENCY. Special emphasis will be placed on CONVERSATIONAL STRATEGIES and structures required for everyday living situations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will become more confident at expressing themselves in English in various types of CONVERSATIONAL settings. Students will also become familiar with skills for extending a CONVERSATION and giving appropriate CONVERSATIONAL responses.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will practice CONVERSATIONS about various topics with classmates and the teacher. This course will be taught entirely (100%) in English.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students must complete the homework before class and come to class on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation: 40%

In-Class Activities/Tasks/Quizzes, Etc.: 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introductions.
The course schedule will be flexible depending on the flow of the class and the English level of students.
- 第2回 Using REJOINDERS
- 第3回 USING REJOINDERS
- 第4回 Asking FOLLOW-UP Questions
- 第5回 Asking FOLLOW-UP Questions
- 第6回 Asking Someone to REPEAT
- 第7回 Asking Someone to REPEAT
- 第8回 ECHOING Someone
- 第9回 ECHOING Someone
- 第10回 CONFIRMATION Questions
- 第11回 CLARIFICATIONS with Question Words
- 第12回 KEEPING or KILLING a Conversation
- 第13回 Getting a RESPONSE
- 第14回 Responding with DETAILS
- 第15回 Expressing OPINIONS

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119104			
科目名	英語応用 a (D) 英語応用 a (D): English Communication Strategy			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『New Time to Communicate』 Eric Bray Nan' undo 2015			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101178英語応用Ⅳ リビングイングリッシュ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, being active, attentive and using English only.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Meeting People
- 第2回 Greeting to Know Your Classmates
- 第3回 Talking About Classes
- 第4回 Talking About Your Daily Life
- 第5回 Talking About People-Personality
- 第6回 Talking About People-Appearance
- 第7回 Talking About Last Weekend
- 第8回 Talking About the Vacation
- 第9回 Talking About Going Out on the Town
- 第10回 Talking About Foods and Recipes
- 第11回 Talking About Travel
- 第12回 Talking About Hometowns
- 第13回 Talking About Your Opinions
- 第14回 Talking About Future Plans
- 第15回 Review and Practice

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119201			
科目名	英語応用 b (A) 英語応用 b: English for Travel Abroad			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『English Firsthand Success (4th Edition)』 Michael Rost Pearson Longman			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101180英語応用VI 旅行のための英語			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course is designed to help to prepare students for a study abroad trip. Students will engage in a variety of activities using role-plays, activities, pair work, and group work to learn about various aspects of English speaking countries. The goal in this course is for students to be able to understand and use "survival Travel English" when they travel abroad (e.g., how to pass through immigration, how to exchange money, how to order a meal, how to check in/out of a hotel, etc.) In addition, students will improve their overall English skills and knowledge of countries and places around the world.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! Every student is expected to actively participate!

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice for traveling abroad. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class participation, and Behavior 100%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
- 第2回 English Firsthand Unit 5
- 第3回 English Firsthand Unit 5/ Choosing a Study Abroad Country
- 第4回 English Firsthand Unit 6
- 第5回 English Firsthand Unit 6/ Getting and Using a Phone Abroad
- 第6回 English Firsthand Unit 7
- 第7回 English Firsthand Unit 7/ Homestays
- 第8回 English Firsthand Unit 8
- 第9回 English Firsthand Unit 8/ Cultureshock
- 第10回 English Firsthand Unit 9
- 第11回 English Firsthand Unit 9/ Money, Credit Cards, Travelers Checks
- 第12回 English Firsthand Unit 10
- 第13回 English Firsthand Unit 10/ Safety and Being Street Smart
- 第14回 English Firsthand Unit 10/ Getting Around Town - Transportation
- 第15回 English Workshop

6. Special Information (留意事項)

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	10119202			
科目名	英語応用 b (B) 英語応用 b (B): English for Travel Abroad			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Get Ready to Go! Homestay Adventures』 Fuller & Cleary Macmillan Language House 2008			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101180英語応用VI 旅行のための英語			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course is designed to help prepare students for traveling abroad to foreign countries and experiencing a homestay.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will get many opportunities to understand and practice essential language focusing on everyday homestay situations.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Weekly written homework must be completed before class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Final grades will be based on class participation, weekly written homework and a speaking test.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction & Self Introduction.
- 第2回 I Have a Dream.
- 第3回 First Day in America.
- 第4回 Make Yourself at Home.
- 第5回 Help Yourself.
- 第6回 Everybody's Got a Job.
- 第7回 It's 50% Off.
- 第8回 Cooking is Easy.
- 第9回 Weekend Fun.
- 第10回 A Day to Celebrate.
- 第11回 How are Classes Going?
- 第12回 You'll Like this Place.
- 第13回 I'll Miss You.
- 第14回 Speaking Test.
- 第15回 Final Review.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119203			
科目名	英語応用 b (C) 英語応用 b: English for Travel Abroad			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『English Firsthand Success (4th Edition)』 Michael Rost Pearson Longman			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101180英語応用VI 旅行のための英語			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course is designed to help prepare students for a study abroad trip. Students will engage in a variety of activities using role-plays, activities, pair work, and group work to learn about various aspects of English speaking countries. The goal in this course is for students to be able to understand

and use "survival Travel English" when they travel abroad (e.g. how to pass through immigration, how to exchange money, how to order a meal, how to check in/out of a hotel, etc.) In addition, students will improve their overall English skills and knowledge of countries and places around the world.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! Every student is expected to actively participate!

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice for traveling abroad. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class participation, and Behavior 100%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
- 第2回 English Firsthand Unit 5
- 第3回 English Firsthand Unit 5/ Choosing a Study Abroad Country
- 第4回 English Firsthand Unit 6
- 第5回 English Firsthand Unit 6/ Getting and Using a Phone Abroad
- 第6回 English Firsthand Unit 7
- 第7回 English Firsthand Unit 7/ Homestays
- 第8回 English Firsthand Unit 8
- 第9回 English Firsthand Unit 8/ Cultureshock
- 第10回 English Firsthand Unit 9
- 第11回 English Firsthand Unit 9/ Money, Credit Cards, Travelers Checks
- 第12回 English Firsthand Unit 10
- 第13回 English Firsthand Unit 10/ Safety and Being Street Smart
- 第14回 English Firsthand Unit 10/ Getting Around Town - Transportation
- 第15回 English Workshop

6. Special Information (留意事項)

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	10119301		
科目名	英語応用c (A) 英語応用c: Preparation for Study Abroad		
担当者	Jodie Campbell		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『Door To Door: A Complete Study Abroad Guide』 Greg Minehane Perceptia Press 2012		
参考文献			
備考	定員25人 <旧>101180英語応用Ⅶ 留学のための英語		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will focus on preparing students for studying abroad. Students will be given various tasks to complete throughout the course. These tasks will help students develop their self-reliance. In addition, students will improve their overall English skills, especially those skills needed to be a successful student studying abroad.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will improve their overall English skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas and opinions effectively using English. Students will become more comfortable and confident using English. They will become more autonomous and self-reliant in their approach to learning. They will become more prepared for study abroad.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be taught entirely (= 100%) IN ENGLISH. Students will

engage in pair and group discussions. Every student is expected to actively participate and share their ideas and opinions.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students must do homework before class and come to class ON TIME.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), assignments, tasks, quizzes, presentations, etc.

CLASS PARTICIPATION 40%

ASSIGNMENTS, TASKS, QUIZZES, PRESENTATIONS, ETC. 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction
The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.
- 第2回 Before You Go: Talking About Myself
- 第3回 Before You Go: Introducing My Family
- 第4回 Before You Go: My Typical Day
- 第5回 Before You Go: My Hometown & Visiting Popular Tourist Attractions in JAPAN
- 第6回 Before You Go: Japanese Holiday & Festivals
- 第7回 Homestay Guide: Homestay Advice
- 第8回 Homestay Guide: Culture & Manners
- 第9回 Homestay Guide: Security & Safety
- 第10回 Homestay Guide: Money Matters
- 第11回 Country Guide: Australia
- 第12回 Country Guide: Canada
- 第13回 Country Guide: The United Kingdom
- 第14回 Country Guide: The United States
- 第15回 Concluding Activities

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended.

講義コード	10119302		
科目名	英語応用c (B) 英語応用c (B) English for Study Abroad		
担当者	Jacoba Akazawa		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『Adventures Abroad. English for Successful Travel』 Fuller & Cleary Macmillan Language House 2007		
参考文献			
備考	定員25人 <旧>101180英語応用Ⅶ 留学のための英語		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will focus on preparing students for studying abroad. Students will be given various tasks to complete throughout the course. These tasks will help students develop their awareness and self-reliance.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will get many opportunities to understand and practice essential language focusing on study abroad or just travel for fun. After completing the course students will be better equipped to navigate through everyday travel situations.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Weekly written homework must be completed before class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Final grades will be based on class participation, weekly written homework and a speaking test.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction & Self Introduction.
- 第2回 Here's Your Boarding Pass
- 第3回 So, Where Are You From?

- 第4回 A Good Hotel at a Great Price.
- 第5回 Planning a Day Trip.
- 第6回 Next Stop, Chicago!
- 第7回 A Buffalo Burger?
- 第8回 Walking Around Oxford
- 第9回 Shopping In London
- 第10回 Oh, No! Where's my Passport?
- 第11回 Ouch! That Hurts!
- 第12回 Tell Me About Your Trip
- 第13回 Be a Street-Smart Traveler
- 第14回 Australian English
- 第15回 Final Review.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119401			
科目名	英語応用 d (A) 英語応用 d (A): Hospitality English			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教][ホ]			
前提科目				
テキスト	There will be no textbook for this course. The instructor will provide handouts, worksheets, etc., for you.			
参考文献				
備考	定員25人 おもてなし英会話			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help prepare students to use English for work in the TOURISM, HOSPITALITY and TRAVEL industries. Classes will cover a variety of situations, including travel agencies and hotels. Students will learn tourism-related vocabulary and practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be taught entirely (= 100%) IN ENGLISH.

Students will participate in pairs and small groups to practice dialogs, role-play activities, and discuss questions related to a variety of HOSPITALITY situations.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher before the class day, and ON TIME!

NOTE: If homework, any assignment, any role-play, etc. is LATE, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), role-plays, assignments, tasks, quizzes, etc.

CLASS PARTICIPATION 40%

ROLE-PLAYS, ASSIGNMENTS, TASKS, QUIZZES, ETC. 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to the course. Students will learn about: the general instructional objectives of the course, the goals of the course, the learning strategies of the course, and the course evaluation and assessment.
Unit 1: Using English at an Airport
- 第2回 Unit 2: Using English at an Airport continued
- 第3回 Unit 3: Checking In at a Hotel
- 第4回 Unit 4: Checking In at a Hotel continued
- 第5回 Unit 5: A Tour Guide
- 第6回 Unit 6: A Tour Guide continued
- 第7回 Unit 7: Directions
- 第8回 Unit 8: Directions continued
- 第9回 Unit 9: Health Problems
- 第10回 Unit 10: Health Problems
- 第11回 Unit 11: Symptoms and Injuries

- 第12回 Unit 12: Symptoms and Injuries
- 第13回 Unit 13: At a Doctor's Office
- 第14回 Unit 14: Review or All Units
- 第15回 Unit 15: Concluding Activities

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	10119402			
科目名	英語応用 d (B) 英語応用 d (B): Hospitality English			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教][ホ]			
前提科目				
テキスト	『Be My Guest-English for the Hotel Industry』 Francis O' Hara Cambridge University Press September 2002			
参考文献				
備考	定員25人 おもてなし英会話			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries. Classes will cover a variety of situations including travel agencies, hotels, restaurants, or even just helping a stranger on the street. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing will also be required.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures for using "English in daily life in Japan" through listening activities and pair work (or group work) conversational practice.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Weekly written homework must be completed before class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, being active, attentive and using English only.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 The check-in
- 第3回 The hotel bedroom
- 第4回 Bathroom & porter
- 第5回 Services in the hotel
- 第6回 Locations of facilities
- 第7回 Room services
- 第8回 Problems & solutions
- 第9回 Taking bar orders
- 第10回 In the restaurant (1)
- 第11回 In the restaurant (2)
- 第12回 Places to visit
- 第13回 Enquiries
- 第14回 Using the phone
- 第15回 The check-out

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119403			
科目名	英語応用 d (C) 英語応用 d (C): Hospitality English			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教][ホ]			
前提科目				
テキスト	There will be no textbook for this course. The instructor will provide handouts, worksheets, etc., for you.			
参考文献				
備考	定員25人 おもてなし英会話			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help prepare students to use English for work in the TOURISM, HOSPITALITY and TRAVEL industries. Classes will cover a variety of situations, including travel agencies and hotels. Students will learn tourism-related vocabulary and practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be able to handle various HOSPITALITY situations with confidence and fluency.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be taught entirely (= 100%) IN ENGLISH.

Students will participate in pairs and small groups to practice dialogs, role-play activities, and discuss questions related to a variety of HOSPITALITY situations.

・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher before the class day, and ON TIME!

NOTE: If homework, any assignment, any role-play, etc. is LATE, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), role-plays, assignments, tasks, quizzes, etc.

CLASS PARTICIPATION 40%

ROLE-PLAYS, ASSIGNMENTS, TASKS, QUIZZES, ETC. 60%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Introduction to the course. Students will learn about: the general instructional objectives of the course, the goals of the course, the learning strategies of the course, and the course evaluation and assessment.

Unit 1: Using English at an Airport

第2回 Unit 2: Using English at an Airport continued

第3回 Unit 3: Checking In at a Hotel

第4回 Unit 4: Checking In at a Hotel continued

第5回 Unit 5: A Tour Guide

第6回 Unit 6: A Tour Guide continued

第7回 Unit 7: Directions

第8回 Unit 8: Directions continued

第9回 Unit 9: Health Problems

第10回 Unit 10: Health Problems continued

第11回 Unit 11: Symptoms and Injuries

第12回 Unit 12: Symptoms and Injuries

第13回 Unit 13: At a Doctor's Office

第14回 Unit 14: Review of All Units

第15回 Unit 15: Concluding Activities

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended.

講義コード	10119404			
科目名	英語応用 d (D) 英語応用 d (D): Hospitality English			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[教][ホ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『Be My Guest-English for the Hotel Industry』 Francis O' Hara Cambridge University Press September 2002			
備考	定員25人 おもてなし英会話			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries. Classes will cover a variety of situations including travel agencies, hotels, restaurants, or even just helping a stranger on the street. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing will also be required.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures for using "English in daily life in Japan" through listening activities and pair work (or group work) conversational practice.

・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Weekly written homework must be completed before class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, being active, attentive and using English only.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Introduction

第2回 The check-in

第3回 The hotel bedroom

第4回 Bathroom & porter

第5回 Services in the hotel

第6回 Locations of facilities

第7回 Room services

第8回 Problems & solutions

第9回 Taking bar orders

第10回 In the restaurant (1)

第11回 In the restaurant (2)

第12回 Places to visit

第13回 Enquiries

第14回 Using the phone

第15回 The check-out

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119501			
科目名	英語応用 e (A) リスニング初級 - 映画で英語			
担当者	東郷 多津			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	受講生のみなさんに応じて、映画を選択します。毎時プリントを配布します。			
参考文献				
備考	定員25人 <旧>101176英語応用Ⅱ リスニング(初級)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国際社会において「相手の言っていることを理解する」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、必要な英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点をしばって練習します。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用しながら習得することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

実際の映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英単語を見て正確に発音できるようになる。
3. 英語の発音を正確に聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、音声や映像を利用して、英語の語、句、文の聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習をします。具体的には以下の活動を含みます。

- Vocabulary: 日常的に使用する基本語彙を習得する
- Reading: 字幕を素早く読んで、内容を把握する
- Listening: 字幕無しで台詞を聞き取る
- Speaking: 映画のシーンに合わせて台詞を言う

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントを取りにきて、翌週の授業までに課題を済ませてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は以下を目安として総合的に判断します。

- 授業参加点 10%
- 小テスト点 40%
- 中テスト点 50%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
※授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。
- 第2回 ※1本の映画 "Mulan" を Scene ごとに区切って学習します
1 皇帝の決断
- 第3回 2 仲人の前で
- 第4回 3 遅咲きの花
- 第5回 4 父のために
- 第6回 5 強力な守護神
- 第7回 6 優秀な新兵たち
- 第8回 7 さあ、仕事に取りかかろう！
- 第9回 8 いざ、出陣！
- 第10回 9 われらが英雄、Ping
- 第11回 10 暴露
- 第12回 11 皇帝救出
- 第13回 12 Mulan 故郷に戻る
- 第14回 まとめのテスト
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

- リスニング初級者対象です。
- 欠席をせずに、根気強く英語を聞こうとする姿勢のある学生のみさんの受講をお勧めします。
- 授業中に辞書を使用しますので、辞書（最低限、英和辞典）は必ず持参してください。
- 筆記用具、辞書などがなくて授業を受けられない場合、授業参加度は加算されません。

講義コード	10119502		
科目名	英語応用 e (B) リスニング初級 - 映画で英語		
担当者	東郷 多津		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	受講生のみなさんに応じて、映画を選択します。 毎時プリントを配布します。		
参考文献			
備考	定員25人 <旧>101176英語応用Ⅱ リスニング(初級)		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

国際社会において「相手の言っていることを理解する」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、必要な英語力を身に付ける第一歩として、特にリスニング力強化に焦点をしばって練習します。まず、英語の音声と文字情報を連動させる学習から始め、英語特有のリズム、イントネーション、発音などを、いつでもどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用しながら習得することを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

実際の映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英単語を見て正確に発音できるようになる。
3. 英語の発音を正確に聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、音声や映像を利用して、英語の語、句、文の聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習をします。具体的には以下の活動を含みます。

- Vocabulary: 日常的に使用する基本語彙を習得する
- Reading: 字幕を素早く読んで、内容を把握する
- Listening: 字幕無しで台詞を聞き取る
- Speaking: 映画のシーンに合わせて台詞を言う

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントを取りにきて、翌週の授業までに課題を済ませてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は以下を目安として総合的に判断します。

- 授業参加点 10%
- 小テスト点 40%
- 中テスト点 50%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけではなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
※授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。
- 第2回 ※1本の映画 "Little Princess" を Scene ごとに区切って学習します
1 India
- 第3回 2 New York
- 第4回 3 First Day in the Seminary
- 第5回 4 After Minchin goes to bed
- 第6回 5 Bad News
- 第7回 6 Magic Circle
- 第8回 7 Tell Me about India
- 第9回 8 Still Be a Friend
- 第10回 9 Rescue
- 第11回 10 Disclosure
- 第12回 11 Escape on a Stormy Night
- 第13回 12 Going Back Home
- 第14回 まとめのテスト

第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

- リスニング初級者対象です。
- 欠席をせずに、根気強く英語を聞こうとする姿勢のある学生のみさんの受講をお勧めします。
- 授業中に辞書を使用しますので、辞書（最低限、英和辞典）は必ず持参してください。
- 筆記用具、辞書などがなくて授業を受けられない場合、授業参加度は加算されません。

講義コード	10119601		
科目名	英語応用 f (A) リスニング中級-もっと映画で英語		
担当者	東郷 多津		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『「ブラダを着た悪魔」で学ぶコミュニケーション英語』 Aline Trosh McKenna 松柏社 2016		
参考文献			
備考	定員25人 <旧>101177英語応用Ⅲ リスニング(中級)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国際社会において「相手の言うことがわかる」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、さらなるリスニング力強化を目指して練習します。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指します。

本コースではどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用します。つまり、このコースでは、単なるリスニングの練習だけでなく、身の回りにある機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する練習も行います。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語によるドラマ・映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英語の発音を正確に聞いたり発声したりできる。
3. より早いスピードあるいはより複雑な内容の英語の会話が聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、音声や映像を利用して、英語の句、文、会話などの聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習を行います。具体的には以下の活動を含みます。

- Vocabulary: 日常に使用する基本語彙を習得する
- Reading: テキストを素早く読んで、内容を把握する
- Listening: ドラマの台詞を聞き取る
- Writing: 聞き取った単語を正確に書き取る
- Speaking: ドラマのシーンに合わせて台詞を言う

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならず課題を翌週の授業までに済ませてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は以下を目安として総合的に判断します。

- 授業参加点 20%
- 小テスト点 40%
- 中テスト点 40%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点がなくなるだけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Orientation

授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。

第2回 ※1本の映画 "The Devil Wears Prada" をシーン別に区切って学習します。

1 Job Interview

第3回 2 First Day on the Job

第4回 3 Hurricane on the Weekend

第5回 4 Andy's Makeover

第6回 5 Andy Meets Christian

第7回 6 Miranda's Request

第8回 7 Nate's Birthday

第9回 8 Andy's Decision

第10回 9 Breakup with Nate

第11回 10 The Dream Job

第12回 11 Announcement at the Party

第13回 12 Andy's Final Choice

第14回 まとめテスト

第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

●リスニング中級者対象のクラスです。

◎授業中に指示した活動を行わない場合、単位は保証されませんので、安易な受講はおすすめしません。最後まで授業を続けるために以下の目安を参考にしてください。(目安:「リスニング初級」の単位を修得した学生、および、TOEIC400点前後、またはTOEICリスニングスコア200点以上)

●授業中に辞書を使用しますので、辞書（最低限、英和辞典）は必ず持参してください。

●筆記用具、辞書などがなくて授業を受けられない場合、授業参加点および課題点は加算されません。

講義コード	10119602		
科目名	英語応用 f (B) リスニング中級-もっと映画で英語		
担当者	東郷 多津		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	受講生のみなさんに応じて、映画を選択します。 毎時プリントを配布します。		
参考文献			
備考	定員25人 <旧>101177英語応用Ⅲ リスニング(中級)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国際社会において「相手の言うことがわかる」ことは非常に重要です。そのためには総合的な英語力を向上させる必要がありますが、本コースでは、さらなるリスニング力強化を目指して練習します。英語特有のリズム、イントネーション、発音などを理解しながら、さらに自然で、複雑な文や会話をいつでも習得することを目指します。

本コースではどこでも誰にでも手に入る映画や唄やラジオ劇などを利用します。つまり、このコースでは、単なるリスニングの練習だけでなく、身の回りにある機会を生きた英語学習法として利用する方法を習得する練習も行います。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語によるドラマ・映画を利用することにより、以下の課題習得を目指します。

1. 英語への興味が深まる。
2. 英語の発音を正確に聞いたり発声したりできる。
3. より早いスピードあるいはより複雑な内容の英語の会話が聞き取れるようになる。
4. 自然な日常表現を覚えることができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、音声や映像を利用して、英語の句、文、会話などの聞き取り練習を行います。また、それらについて音声上の特徴を理解した上で発声の練習を行います。具体的には以下の活動を含みます。

- Vocabulary: 日常に使用する基本語彙を習得する
- Reading: テキストを素早く読んで、内容を把握する
- Listening: ドラマの台詞を聞き取る
- Writing: 聞き取った単語を正確に書き取る
- Speaking: ドラマのシーンに合わせて台詞を言う

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

欠席した場合は翌週の課題に影響しますので、かならずプリントをもらって課題を翌週の授業までに済ませてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は以下を目安として総合的に判断します。

- 授業参加点 20%
- 小テスト点 40%
- 中テスト点 40%

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点だけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※テストは基本的に授業の最初に行います。遅刻をするとテストが受けられませんので注意してください。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は大きく減点されます。また、6回以上欠席した場合は原則として単位が認定されません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
授業予定の詳細については初回の授業で説明します。受講希望者はできるだけ初回の授業に出席してください。
- 第2回 ※1本の映画 "While You Were Sleeping" をシーン別に区切って学習します。
1 思い出から現実へ
- 第3回 2 突然の出来事
- 第4回 3 真夜中の病院
- 第5回 4 遅れたクリスマス
- 第6回 5 質問攻め
- 第7回 6 婚約プレゼント
- 第8回 7 シカゴの夜
- 第9回 8 それぞれの悩み
- 第10回 9 誤解
- 第11回 10 目覚め
- 第12回 11 揺れる気持ち
- 第13回 12 プロポーズ
- 第14回 13 あなたが寝る間に
- 第15回 まとめテストとReview

6. Special Information (留意事項)

●リスニング中級者対象のクラスです。

◎授業中に指示した活動を行わない場合、単位は保証されませんので、安易な受講はお勧めしません。最後まで授業を続けるために以下の目安を参考にしてください。(目安:「リスニング初級」の単位を修得した学生、および、TOEIC400点前後、またはTOEICリスニングスコア200点以上)

●授業中に辞書を使用しますので、辞書(最低限、英和辞典)は必ず持参してください。

●筆記用具、辞書などがなくて授業を受けられない場合、授業参加点および課題点は加算されません。

講義コード	10119701			
科目名	英語応用 g (A) Extensive Reading			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	Graded Readers (図書館2階閲覧室 Readers コーナーに置いてあります。)			
参考文献				
備考	定員50人 <旧>101175英語応用 I 小説を読もう			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

このコースの目的は、英語を多読 (extensive reading) することによって、英語の学力を全体的にのばし、英語学習を楽しむことです。受講生は、多くの英語文献 (平易で楽しめる教材) を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになるでしょう。このクラスの受講生は English graded readers の教材を図書館から借りることができます。それらの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持ちます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will become better readers, increase their knowledge of vocabulary, improve their listening and speaking skills, and experience increased motivation to learn English.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will have time in class for sustained silent reading. Additionally, students will work together to discuss the books they have read. In order to keep track of the books they have read, students will use an online quiz system that is designed to check whether they have read the books.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading at least one book per week and preparing short presentations for their classmates.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Weekly reading assignments: 50%

Presentations: 30%

Participation in group discussions: 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to Extensive Reading and the M-Reader Website
- 第2回 Reading and You Questionnaire
- 第3回 Quick Book Questionnaire
- 第4回 Instant Book Report
- 第5回 Book Review Round Robin
- 第6回 The Story and Me
- 第7回 Draw a Picture
- 第8回 Poster Presentations
- 第9回 Shared Dictation
- 第10回 Sentence Detective
- 第11回 Haiku Book Summaries
- 第12回 Alliteration, Metaphor, and Simile
- 第13回 What Comes Next?
- 第14回 The Book vs the Movie
- 第15回 Book Presentations

6. Special Information (留意事項)

An English-English dictionary is highly recommended.

Please read the graded reader books in the library and the Immersion Space! Read as much as you can every day.

The class schedule is subject to change.

講義コード	10119702			
科目名	英語応用 g (B) ネット上で英語の童話を読もう			
担当者	小林 順			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	Beatrix Potter, Peter Rabbit Aesop fables			
参考文献				
備考	定員50人 <旧>101175英語応用 I 小説を読もう			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

このクラスでは、あなたたちのこれまでの読書経験と英語学習の接点を探ります。実用的で社会的なコミュニケーションを重視する英語の学習ではなく、物語の「読み」を楽しむ学習にチャレンジしましょう。童話を読みましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 英語テキスト読解の経験を積む
- 2 童話の言語の特徴を知る
- 3 外国語学習の楽しさを知る

3. Course Method (教育・学習の方法)

このクラスでは「読む」ことを楽しみます。正確な「読み」の楽しみを経験してみましょう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

常に辞書を参照して語彙の不足を補い、さらに文構造については適宜文法解説書などを参照してください。クラスでの練習はいわゆる英文和訳作業を基本とします。英文テキストの翻訳作業を行います。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績の30%は授業参加度。期末試験が70%。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 テキストを探す。タブレットかスマホあるいはノートパソコン

- を持参。
- 第2回 Peter Rabbitをディスプレイに映し出してみよう。
- 第3回 一文ずつ丁寧に音読して意味を理解しよう。
- 第4回 ピーターの性格を表すワードを見つけよう。
- 第5回 ピーターはなぜ衣服を身につけているのでしょうか。
- 第6回 ピーターと兄弟姉妹の違いを読み取ろう。
- 第7回 ピーターが入る庭の持ち主は人間なのかウサギなのか？
- 第8回 人間はウサギをどうしようとしているのか？
- 第9回 ピーターの父親の悲劇とは？
- 第10回 ピーターが遭遇する危険を列挙しよう。
- 第11回 もし、捕まっていたら、ピーターはどうなったでしょう？
- 第12回 マグレガーは人間のでしょうか？
- 第13回 作者Beatix Potterとはどのような人だったのでしょうか？
- 第14回 農園経営と文筆活動の関係を探ろう。
- 第15回 プレゼンテーションにチャレンジしよう。テーマは、ウサギと農園です。

6. Special Information (留意事項)

特になし。

講義コード	10119801			
科目名	英語応用 h (A) 実用英語基礎			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Framework English Grammar in 23 Lessons 7th Edition』 桐原書店編集部 株式会社 ピアソン桐原 2014			
参考文献	『総合英語フォレスト6th edition』 石黒昭博 株式会社桐原書店 2009			
備考	定員40人 <旧>101179英語応用V 実用英語基礎			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、これまでの英語学習について、ある程度の初歩の積み重ねができた学生のために、次の段階の基礎的文法の復習を応援するものです。文法項目としては、分詞、比較、関係詞、仮定法を、英語文法を俯瞰して学び、確実な語彙として1500語程度を習得します。そしてこのような基礎の上に、英語の文書を読み、翻訳して発表することを具体的目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 基本英文法の復習と習得
- 標準的な語彙力を身に付ける
- 自分が感動する英語の文書を探して発表する

3. Course Method (教育・学習の方法)

英語の文書をいろいろと読み、自分が感動するものを探すためには、文法力と標準的な語彙力の両方が必要となります。最終的な発表に向けて、分詞から仮定法まで、英文法の核となる概念をとらえ、意味の違いを理解していきます。そして、小テストやまとめのテストで語彙力や表現力の増強を試み、英語の文書を読む能力を身に付けます。そして、英語で読んで感動するという体験をして、それを日本語に翻訳して発表します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業には、必ず英和辞書を持ってきてください。そして、授業が終わったら、その日の授業の復習をして、次の授業のために予習をしておきましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加点30 小テスト20 発表20 理解度テスト30
欠席および遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1 オリエンテーション 品詞、分詞 (1)
- 第2回 2 分詞 (2)
- 第3回 3 分詞 (3) plus
- 第4回 4 まとめ1
- 第5回 5 比較 (1) (2)
- 第6回 6 比較 (3)
- 第7回 7 比較plus、関係詞 (1)
- 第8回 8 まとめ2
- 第9回 9 関係詞 (2) (3)
- 第10回 10 複合関係詞
- 第11回 11 仮定法 (1)

- 第12回 12 仮定法 (2) plus
- 第13回 13 英語で読んでみよう1
- 第14回 14 英語で読んでみよう2
- 第15回 15 まとめ3

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119802			
科目名	英語応用 h (B) 大学生の総合基礎英語			
担当者	森 ユキユ			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Slow & Steady』 T. SATO, Y. KOTEGAWA, M. KIDO, Y. SHIMAI & F. SHIMOSONO 南雲堂 2015			
参考文献				
備考	定員40人 <旧>101179英語応用V 実用英語基礎			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語学習は読み・書き・対話いずれの練習においても時間をかけて積み重ねることが大切であり、初歩の練習段階でこの積み重ねにつまずくとそれ以降の練習の成果がなかなか得られなくなる。英語学習の成果が得られない学習者の中でこのつまずきを経験している学習者は多い。本コースはこれまでの英語学習において初歩の積み重ねが不十分であった学生諸君のために英語の基礎学習再チャレンジを応援する。15レッスン修了時は、基礎的文法事項の習得、確実な語彙として1200語程度獲得、そしてgraded readers (語彙1200語程度) が強いストレスなしに読解できるようになること、さらにそれらの積み重ねを基礎に英語で初歩の対話ができるようになることを具体的目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

この科目の教育・学習の個別課題は、基本的な英文法をおさらいすることです。また、それらを通じて実際の英語の会話表現を向上させることにあります。みんなが理解できるようにゆっくり進めます。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、基本的には毎回1章ずつテキストを進めながら、基本的な英文法をおさらいします。日常の会話の中に、英文法の知識が詰まっていることを確認することによって、会話力、聴く力、読解力、英作力の向上を目指して学習していきます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

復習を中心に勉強していただきますが、予習を課すこともあります。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加点(小テストを含む) 40%

中間テスト 30%

期末テスト 30%

※テキストや辞書がない場合は、授業参加点が入りません。

※1回ずつの授業の積み重ねが重要です。できるだけ授業に多く出席してください。欠席は、授業参加点なくなるだけでなく、最終獲得できる英語力にも大きく影響しますので注意してください。

※遅刻した場合はテスト点がなくなり、評価に影響します。

※授業の性質上出席が重視されますので、4回以上欠席した場合は減点が大きくなり、単位が認定されないことがあります。また、原則として6回以上の欠席は単位が認定されません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Chapter 1: 5つの基本文型
- 第2回 Chapter 2: 動詞
- 第3回 Chapter 3: 進行形・未来形・助動詞
- 第4回 Chapter 4: 名詞・冠詞・代名詞
- 第5回 Chapter 5: 前置詞・接続詞 <I>
- 第6回 Chapter 6: 形容詞・副詞と比較級
- 第7回 Chapter 7: 命令文・感嘆文
Chapter 8: 不定詞
- 第8回 まとめ試験と解説
- 第9回 Chapter 9: 動名詞と分詞
- 第10回 Chapter 10: 各種疑問文・Itの特別用法
- 第11回 Chapter 11: 受動態
- 第12回 Chapter 12: 完了形
- 第13回 Chapter 13: 接続詞 <II>
- 第14回 Chapter 14: 仮定法

6. Special Information (留意事項)

この授業には、必ず辞書を持ってきて下さい。携帯の辞書ではなく、電子辞書・冊子辞書のどちらかに限ります。

講義コード	10119901			
科目名	英語応用 i (A) 英語の読み書き ABC			
担当者	田中 美和子			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Framework English Grammar in 23 Lessons 7th Edition』 桐原書店編集部 株式会社 ピアソン桐原 2014			
参考文献	『意味順』英語学習法』 田地野彰 ディスカバー・トゥ エンティワン 2011			
備考	定員40人 英語の読み書き ABC			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、特に初歩の積み重ねが必要な学生のために、英語の基礎的な文法学習へのチャレンジを応援します。本授業の修了時は、基礎的な文法事項の復習と、確実な語彙として1200語程度を習得、そしてこれら基礎的な知識を、英語の「発信」につなげることを具体的目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 初級基本英文法の復習をする
2. 動詞の活用など基本的な語彙力を身に付ける
3. 自分の感動を英語で表現できるようになる

3. Course Method (教育・学習の方法)

初級基本文法の復習を基礎から始め、語彙力、表現力をつけていきます。そして、基本的文法を土台にして確実な「語彙力の増強」を試みます。さらに文法的知識を活用して、日本語文から英語に「翻訳」することに挑戦して、それを発表します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業には、必ず電子辞書を持ってきてください。そして、授業が終わったら、その日の授業の復習をして、次の授業のために予習をしておきましょう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加点30 小テスト20 発表20 理解度テスト30

欠席および遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 品詞と文の要素
- 第2回 文の種類：肯定文、否定文、疑問文
- 第3回 文の種類：命令文、感嘆文、存在文
- 第4回 まとめ1
- 第5回 時制：現在形と現在進行形
- 第6回 時制：過去形と過去進行形、未来と未来進行形
- 第7回 現在完了、過去完了、未来完了
- 第8回 まとめ2
- 第9回 助動詞(1)(2)(3)
- 第10回 能動態と受動態(1)(2)
- 第11回 不定詞(1)(2)
- 第12回 動名詞
- 第13回 日本語を英語にしてみよう1
- 第14回 日本語を英語にしてみよう2
- 第15回 まとめ3

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10119902			
科目名	英語応用 i (B) 実用英語基礎			
担当者	森 ユキエ			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Forerunner to Power-Up English』 Jacetリスニング研究会 NAN'UN-DO 2013			
参考文献	参考文献に関しては授業時に紹介する。			
備考	定員40人 英語の読み書き ABC			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語全体の基礎である文法・語法などを再度復習し、それを英語のリーディング・ライティングにつなげ、さらに実際の英語運用能力を開発することに重点を置く。

テキストの解説を聞くだけの授業ではなく、問題を解いたり、英作文をしたりする中で、実際の英語運用の経験を積むことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 基本英文法の復習と習得
2. 標準的な語彙力を身に付ける
3. 文章表現力の開発

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストでは大学生の主人公Kazuが、アメリカからの留学生Susanと出会い、日本の文化や社会を紹介しながら、彼も異文化体験をするというストーリーを扱う。

日常生活で使われる英語表現、その際に必要な基本文法を学習することを通じて、英語を単なる知識としてではなく、自ら発信できるようになるまで練習する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業には、必ず英和辞書を持ってこよう。携帯・スマホの辞書ではなく、電子辞書・冊子辞書のどちらかに限る。

そして、授業が終わったら、その日の授業の復習をして、次の授業のために予習をしておくことが求められる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加点 40% 小テスト 20% 理解度テスト 40%

欠席および遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 授業の説明・英語の学習法
- 第2回 初対面の挨拶 (文法事項) 名詞
- 第3回 家族・ペットに関する説明 動詞1
- 第4回 趣味の表現 動詞2
- 第5回 大学生活 代名詞
- 第6回 食べ物 疑問詞
- 第7回 まとめ試験と解説
- 第8回 道案内 助動詞1
- 第9回 日本文化紹介 助動詞2
- 第10回 観光案内 過去形・現在形・未来形
- 第11回 航空券をNetでGet 現在進行形
- 第12回 空港で 接続詞
- 第13回 ホテル 不定詞
- 第14回 レストラン 形容詞
- 第15回 まとめ試験と解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10120001			
科目名	英語応用 j English for Academic Purposes			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Academic Writing Skills 1』 Peter Chin Cambridge University Press 2011			
参考文献				
備考	<旧>101182英語応用Ⅷ アカデミックイングリッシュ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

このクラスの教育目標はきわめて現実的である。日本国内の大学院進学を目指している学生諸君が入試などで評価される英語能力が高い「英語読解能力」であることを前提として、このクラスはその能力育成を目指します。このクラスでは、受講生が興味をもつ題材について読み、議論することに重きをおきます。また、研究の進め方を学び、また研究内容を短いサッチーパーとしてまとめ、口頭での発表をする機会を持ちます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will acquire essential reading, writing, speaking, and discussion skills for academic purposes. They will also gain greater confidence in effectively expressing their ideas and opinions in English.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading, preparing for discussion, conducting research, writing, and preparing presentations.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

30% Class Participation and Discussion

35% Mini Research Paper

35% Oral Presentation

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to Academic Skills
- 第2回 Getting Ready to Write
- 第3回 Writing a Paragraph
- 第4回 Writing a Coherent Paragraph
- 第5回 Editing a Paragraph
- 第6回 From Paragraph to Essay
- 第7回 Writing an Essay
- 第8回 Editing an Essay
- 第9回 Paraphrasing and Summarizing
- 第10回 Citing Sources
- 第11回 Developing and Organizing a Research Essay
- 第12回 Supporting Arguments
- 第13回 Editing a Research Essay
- 第14回 Oral Presentations
- 第15回 Oral Presentations

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10121401			
科目名	英会話 (初級) A			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Let' s Talk 1 (2nd Edition)』 L. Jones Cambridge University Press 2008 L. Jones, Let' s Talk 1 (Cambridge University Press) 2nd Edition ISBN978-0-521-69281-6			
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10121402			
科目名	英会話 (初級) B			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Let' s Talk 1 (2nd Edition)』 L. Jones Cambridge University Press 2008 L. Jones, Let' s Talk 1 (Cambridge University Press) 2nd Edition ISBN978-0-521-69281-6			
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation and Behavior 100%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
- 第2回 Let's Talk Getting Started Unit
- 第3回 Let's Talk Unit 1A - Let's get to know eachother!
- 第4回 Let's Talk Unit 2A - What do they look like?
- 第5回 Let's Talk Unit 2B - Your personality
- 第6回 Let's Talk Unit 3A - What are your interests?
- 第7回 Let's Talk Unit 3B - What sports do you like?
- 第8回 Let's Talk Unit 4A - Families
- 第9回 Let's Talk Unit 4B - Friends
- 第10回 Let's Talk Unit 5A - Shopping and clothing
- 第11回 Let's Talk Unit 5B - Saving and spending
- 第12回 Let's Talk Unit 6A - How was your trip?
- 第13回 Let's Talk Unit 6B - Travel near and far
- 第14回 Let's Talk Unit 7A - Eating out
- 第15回 English Workshop

6. Special Information (留意事項)

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	10121501			
科目名	英会話 (中級)			
担当者	Eric Hail			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『Let' s Talk 1 (2nd Edition)』 L. Jones Cambridge University Press 2008			
参考文献				
備考	英語英文学科は履修できない			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The focus of this course is the improvement of the oral communicational

abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation and Behavior 100%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
- 第2回 Let's Talk Unit 7B - Food around the world
- 第3回 Let's Talk Unit 8A - Lets see a movie!
- 第4回 Let's Talk Unit 8B - Whats on TV tonight?
- 第5回 Let's Talk Unit 9A - A healthy lifestyle
- 第6回 Let's Talk Unit 9B - Sleep and dreams
- 第7回 Let's Talk Unit 10A - Improve your memory
- 第8回 Let's Talk Unit 10B - Good advice
- 第9回 Let's Talk Unit 11B - Plenty to do
- 第10回 Let's Talk Unit 12A - Holidays
- 第11回 Let's Talk Unit 12B - Good manners
- 第12回 Let's Talk Unit 14A - My dream home
- 第13回 Let's Talk Unit 14B - Unusual homes
- 第14回 Let's Talk Unit 16A - Hopes and dreams
- 第15回 English Workshop

6. Special Information (留意事項)

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

講義コード	10123001		
科目名	ドイツ語Ⅰ ドイツ語という新しい世界		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業において伝える。		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ドイツ語は英語と同じく、日本語とはまったく言語系統の違う言語であり、また英語と比べて、その文法は複雑であると考えられている。しかしドイツ語と英語とは近親言語であるのだから、これまでに大学入学以前に身につけた英語の基本的知識を活用し、英語の基本単語とドイツ語の単語の類似性に着目するなど、英語の基礎知識をドイツ語学習に活かしていく。授業では、できるかぎり多くのドイツ語の話しことば・書きことばの基本的な用例にあたり、前期授業終了時には、日常の日本語を簡単なドイツ語で表現できるようになることを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 英語の基本単語とドイツ語の単語との類似性を実際に調べてみて、ドイツ語の単語をおぼえるのは、まったくゼロからの作業ではないと安心感をいкакようにする。
2. 英語の基礎知識を確認しながら英語とドイツ語それぞれの基本文法を比較し、両者の類似に気づき、それを学習に活かすことで、ドイツ語学習において難解な文法を偏重することの無意味さを確認する。
3. 英語とドイツ語の近親性を利用して、考えを平明なドイツ語で書き表す。

3. Course Method (教育・学習の方法)

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学

習を目指す。特に将来の専攻上ドイツ語が必要となる者は、いかなる難解な言語的問題も地道な基礎の積み上げが解決するのだということを心に留め、出発点での基本から大切に学んでいくこと。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。復習が予習より重要であることを念頭におき、学習することが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ドイツ語という言語の世界言語の中の位置づけードイツ語の特色
- 第2回 ドイツ語のアルファベットと発音
- 第3回 ドイツ語単語の発音
- 第4回 動詞の現在人称変化(主語による動詞の形の変化)、簡単なあいさつ表現
- 第5回 人称変化練習問題
- 第6回 名詞の性と冠詞
- 第7回 名詞の性と冠詞、ドイツ語の文構造
- 第8回 定冠詞と不定冠詞練習問題
- 第9回 定冠詞と名詞の格変化
- 第10回 定冠詞と名詞の格変化練習問題
- 第11回 不定冠詞の格変化
- 第12回 不定冠詞の格変化練習問題
- 第13回 助動詞とその現在人称変化
- 第14回 助動詞の現在人称変化練習問題
- 第15回 不規則動詞の現在人称変化と前期全学習のまとめ

6. Special Information (留意事項)

ドイツ語Ⅰの履修者は、ドイツ語Ⅱを引きつづき履修することが望ましい。

講義コード	10123101		
科目名	ドイツ語Ⅱ 初級からの発展		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業において伝える。		
参考文献			
備考	『ドイツ語Ⅰ』を履修済み又はそれと同程度のドイツ語学力を有すること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ドイツ語Ⅰでは、ドイツ語と英語の近親性に留意しながら英語の基本的な知識を活用することで、学習をすすめたが、ドイツ語Ⅱでは、ドイツ語と英語の文法の近親性にも着目することで、ドイツ語Ⅰで学んだ初級文法をより効率的な学習をする。そのことにより、ドイツ語そのものへの親近感を持ち、それぞれの単元で学んだ知識を織り込みながら、自己表現としてのドイツ語作文などをこころみ、ドイツ語の話しことば・書きことばのさらに微妙な表現を修得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 英語の基本単語とドイツ語の単語との類似性を実際に調べてみて、ドイツ語の単語をおぼえるのは、まったくゼロからの作業ではないと安心感をいкакようにする。
2. 英語の基礎知識を確認しながら英語とドイツ語それぞれの基本文法を比較し、両者の類似に気づき、それを学習に活かすことで、ドイツ語学習において難解な文法を偏重することの無意味さを確認する。
3. ドイツ語Ⅰで学んだことを応用し、さらに微妙な表現の仕方を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、ドイツ語Ⅰで習得した基本をもとに、それをコミュニケーションの手段としてのドイツ語の表現に有機的に応用していく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。特にドイツ語IIの学習においては、ドイツ語Iで学んだ基礎が重要であることを念頭におき、各単元の復習を常に心がけながら学習することが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 前置詞の概念とその特色の説明"
- 第2回 前置詞とその格支配、分離動詞
- 第3回 前置詞とその格支配練習問題
- 第4回 名詞の複数形、複数の格変化
- 第5回 zu不定詞
- 第6回 名詞の複数形と複数の格変化練習問題
- 第7回 zu不定詞練習問題
- 第8回 形容詞(付加語形)の格変化
- 第9回 形容詞の名詞化、現在分詞とその用法
- 第10回 形容詞練習問題
- 第11回 動詞の過去人称変化(動詞の3基本形)、非人称のes
- 第12回 動詞の過去人称変化練習問題
- 第13回 現在完了形、過去完了形
- 第14回 現在完了形、過去完了形練習問題
- 第15回 再帰代名詞と再帰代名詞関連練習問題と後期全学習のまとめ

6. Special Information (留意事項)

ドイツ語IIの履修者は、原則としてドイツ語Iを履修した者とする。

講義コード	10123201		
科目名	ドイツ語III 本格的なドイツ語を学ぶ		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業において伝える。		
参考文献			
備考	『ドイツ語II』を履修済み又はそれと同程度のドイツ語学力を有すること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ドイツ語I・IIにおいて、英語の知識に照らして自然な修得を試みたドイツ語文法に、ドイツ語IIIで学ぶ単元を有機的に関連させて理解することを試みる。具体的には、ドイツ語学習全体の中で最も困難な項目のひとつとされる関係代名詞を中心に、中学および高校の英語学習以来多くの学習者が持つ苦手意識をドイツ語において払拭できるようにし、過去形や完了形などの単元で学ぶことを織り交ぜながら、実生活の表現に应用することを試みる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 初級(ドイツ語I・II)と同様、英語の基本単語とドイツ語の単語との近親性に注目しながら、ドイツ語のヴォキャブラリーの増加を図る。
2. ドイツ語IIIでは、関係代名詞を中心に学ぶ。中学校の英語学習以来多くの学習者が持つ、この文法項目に対する苦手意識をなくし、実際の表現において応用することを試みる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、初級で習得した基本をもとに、視聴覚教材も使用しながら、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な習得を目指す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。ドイツ語IIIの学習においては、関係代名詞が最も重要な学習課題である。これは、ドイツ語IとIIで学んだ単元と関わるが多く、学習者自らこれまでに学んだ全単元の復習を常に心がけながら学習することが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ドイツ語IとIIの学習内容の確認
- 第2回 ドイツ語IとIIの重要単元の復習
- 第3回 ドイツ語IIIの学習内容の展望
- 第4回 関係代名詞の概念説明
- 第5回 ドイツ語関係代名詞と英語関係代名詞の比較
- 第6回 関係代名詞基礎練習問題
- 第7回 指示代名詞
- 第8回 指示代名詞基礎練習問題
- 第9回 不定関係代名詞(先行詞のない関係代名詞)の概念説明
- 第10回 ドイツ語の不定関係代名詞と英語の不定関係代名詞の比較
- 第11回 不定関係代名詞基礎練習問題
- 第12回 関係代名詞応用練習問題
- 第13回 指示代名詞応用練習問題
- 第14回 不定関係代名詞応用練習問題
- 第15回 前期全学習のまとめ

6. Special Information (留意事項)

ドイツ語IIIの履修者は、ドイツ語IVを引きつづき履修することが望ましい。

講義コード	10123301		
科目名	ドイツ語IV ドイツ語で自己表現をしてみよう		
担当者	小川 光		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『Deutschlernen Deutschland kennenlernen [3., neu bearbeitete Aus-gabe]』 信岡資生 三修社 辞書は、担当者が経験から薦められるものを授業において伝える。		
参考文献			
備考	『ドイツ語III』を履修済み又はそれと同程度のドイツ語学力を有すること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ドイツ語IVは、教科書に準拠した過程の最終部分、ドイツ語学習の集大成であり、最初にこれまでドイツ語I、II、IIIで学んだドイツ語文法の総復習をする。ドイツ語IVで学ぶ接続法と語法は、ドイツ語学習の最難関といわれるが、ここでも英語文法との比較と対照により理解を可能ながざり容易にする。接続法は英語の仮定法に対応し、加えて英語文法の時制の一致とも関連することを理解し、接続法の確実に修得を目指す。また、ドイツ語の基本的な会話や手紙文、日常の書きことばの表現が可能になることを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 初級(ドイツ語I・II)と同様、英語の基本単語とドイツ語の単語との近親性に注目しながら、ドイツ語のヴォキャブラリーの増加を図る。
2. ドイツ語IVでは、ドイツ語学習の難所といわれる「接続法」なるものを中心に学ぶ。接続法は文法書にいたずらに難解に示されているために難しく見えるだけで、英語とドイツ語それぞれの基本文法を比較することで、難解そうな文法を平易なものとして理解できるようにする。そして、理解できたものを活用しながら、ドイツ語作文なども試みる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

登録者数によるが、可能な限り教員と学生双方向の意思疎通のある学習を図りながら、初級で習得した基本をもとに、視聴覚教材も使用しながら、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な習得を目指す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習・復習は必須であり、予習は必ず既習の授業の内容を反復と確認をした上で行うこと。ドイツ語IVの学習においては、接続法が最も重要な学習課題である。この学習には、ドイツ語I～IIIで学んだことの総動員が必要となる。したがって、学習者自らこれまでに学んだ全単元の復習を常に心がけながら学習することが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

全授業数の3分の1を欠席すると評価対象にならない。また、一度の欠席

によっても理解が大変遅れるので、毎回の出席は絶対条件。評価は、授業中の質問への正答率への評価20%、まとめフィードバック・テスト80%とする。特に、初回の授業において授業の方針その他の重要な注意を話すので、それらをしっかりと確認すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ドイツ語I～IIIの学習内容の確認
- 第2回 ドイツ語I～IIIの重要単元の復習
- 第3回 ドイツ語IVの学習の展望
- 第4回 再帰代名詞、未来形、命令形
- 第5回 再帰代名詞、未来形、命令形練習問題
受動態の概念説明
ドイツ語受動態と英語の受動態の比較
- 第6回 受動態練習問題
- 第7回 形容詞・副詞の比較級と最上級
- 第8回 形容詞・副詞の比較級と最上級練習問題
- 第9回 接続法の概念説明
- 第10回 ドイツ語接続法と英語仮定法の比較
- 第11回 間接話法、非現実話法(仮定法)、要求話法
- 第12回 接続法第1式と接続法第2式基礎練習問題
- 第13回 接続法第1式と接続法第2式応用練習問題
- 第14回 基数、時刻表現、序数、日付表現
- 第15回 後期全学習のまとめ

6. Special Information (留意事項)

ドイツ語IVの履修者は、原則としてドイツ語IIIを履修した者とする。

講義コード	10123401			
科目名	フランス語 I A フランス語初級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミニ・ドウ・コンセル』 大阪日仏センター 朝日出版 2003			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10123402			
科目名	フランス語 I B フランス語初級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミニ・ドウ・コンセル』 大阪日仏センター 朝日出版 2003			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

あらゆる言語はまずコミュニケーションの手段として存在する。そこで、人間における言語の学習過程の第一歩を考えると、コミュニケーションとは、「しゃべる」「聞かせる」という二つの行為より成り立っている。初心者を対象としたこの科目では、そうしたコミュニケーションの基本的構成要素となる発音の訓練、基礎文法、簡単な文章の作成などを習得することにより、実際に今日のフランスで使われている生きたフランス語を学ぶことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. フランス語特有の音声に注意しながら、基本的発音訓練を行う。
2. フランス語を用いて正しく話し、かつ文章を書くために欠かせないのが、動詞の活用である。従って、基本的動詞の活用を学ぶ。
3. 初歩的な文章を例として採り上げながら、フランス語の文章構造(構文)を分析すると同時に、基礎文法を学ぶ。
4. フランス人が普通にしゃべる会話や、発音する単語などを聞くことで、フランス語のもつ「音色(ねいろ)」を耳に馴染ませる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

視聴覚教材をできるだけ活用して、上記の個別課題を念頭におきつつ、コミュニケーションの手段としてのフランス語の基礎をつくる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各レッスンごとに、日常生活を描いたスケッチと練習問題があるので、必ず毎レッスンごとに予習と復習をするように心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業の参加度が(40%)、試験が(60%)として評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 第1課：出会い・別れのあいさつ
- 第2回 第1課：出会い・別れのあいさつ/
基礎知識：アルファベット・数/男性・女性
- 第3回 第2課：視聴者参加のテレビ・ゲーム
不定冠詞・職業・国籍
- 第4回 第2課：人称代名詞主語・動詞活用(不定法と活用)、否定文
- 第5回 第3課：電話での会話
人称代名詞自立形・動詞(行く・来る)
- 第6回 第3課：定冠詞の縮約・発音と綴り
- 第7回 第4課：カフェにて
数(60-1000)・喫茶店で注文する・
- 第8回 第4課：動詞(好き・持つ・取る)
アクセント記号のまとめ・発音と綴り
- 第9回 第5課：買い物
動詞(欲しい)・部分冠詞・否定のde
- 第10回 第5課：分量表現・中性代名詞・疑問文の3つの形
- 第11回 第6課：最近はどうしてる?
近況を述べる・職場・曜日
- 第12回 第6課：レジャー・動詞(する)・命令法
発音と綴り
- 第13回 第7課：本屋さんにて
場所の表現・序数形容詞
- 第14回 第7課：形容詞・指示形容詞
- 第15回 第8課：パカンス
身の回りの物・家族・所有形容詞

6. Special Information (留意事項)

週1回なので、出席することが大切です。

講義コード	10123403			
科目名	フランス語 I C			
担当者	崔 達用			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「言葉は光だった」。世界は言葉の光に照らしだされることではじめてわれわれ人間の前にたち現れる。言葉の光によってわれわれは日々世界の創造に参画しているといってもよい。人間にとっての世界は言葉とともに存在しているから。この言葉を鍛錬すると、理性には整然とした秩序が生まれ、感情には繊細な感受性が深い陰影を落とすようになる。また「知は力なり」という。その人間の知恵と知識は言葉なくしてはありえない。よって、命ある言葉、言葉の妙なる働きを、言葉の無上の大切さを知らねばならない。これを外国語習得の目標として立てる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

「明晰でないものはフランス語ではない」。フランス語は明快な言語である。文の構造である文法が幾何学のように整然としている。おそらく、フランス語ほど学びやすい外国語はないに違いない。「なによりも音楽を」。フランスの詩人たちは幾世代にもわたり、自国の詩を可能な限り音楽に近づけたいと苦心した。フランス語は、その音声が音楽のように滑らかで美しい言語である。この明晰さと音楽性を実感していただきたい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

教材は、すべて私自身が作成する。市販の語学テキストは使用しない。テキストはその都度前もってプリント配布する。学習したことが十分に「血と肉」となって身につくように復習テストが毎回行われる。これはまた、各自が学習した内容の理解度を確認するためのものでもある。したがって、答案用紙は添削されて次週に返却される。こうして年間を通して講義の再確認と復習がたえず行われるので、学期末の定期試験は実施しない。毎週

フランス語に注いだ情熱と努力が君の成績となる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学習した授業内容をしっかりノートに書きとめ、それを理解して次回の復習テストに備えておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(20%)、ノート作成(30%)、毎週の確認テスト(50%)の総合評価によるものとする。欠席・遅刻は減点対象となります。欠席回数が3分の1を超過した場合、原則として単位は与えません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 アルファベットと綴字記号 発音記号
- 第2回 名詞の性数と不定冠詞 音節と発音 挨拶
- 第3回 指示代名詞ce 疑問文と否定文 疑問代名詞que
- 第4回 主語人称代名詞 定冠詞 前置詞 疑問副詞ou
- 第5回 形容詞の性数一致 疑問副詞 comment
- 第6回 動詞etre 国名と国籍
- 第7回 動詞avoir 否定冠詞de 疑問副詞combien 数(1-10)
- 第8回 所有形容詞(1)指示形容詞 人称代名詞強勢形 数(11-20)
- 第9回 所有形容詞(2)疑問代名詞qui 数(21-60)
- 第10回 動詞aller 時間表現 数(61-100)
- 第11回 動詞venir 年齢表現 部分冠詞
- 第12回 動詞faire 職業・身分 挨拶(2)
- 第13回 第一規則動詞(-er動詞) 疑問形容詞
- 第14回 第二規則動詞(-ir動詞) il y a 構文
- 第15回 非人称構文 天気表現 avoir 成句

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10123501			
科目名	フランス語ⅡA フランス語初級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミニ・ドウ・コンセル』 大阪日仏センター 朝日出版 2003			
参考文献				
備考	「フランス語」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10123502			
科目名	フランス語ⅡB フランス語初級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『ミニ・ドウ・コンセル』 大阪日仏センター 朝日出版 2003			
参考文献				
備考	「フランス語」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

あらゆる言語はまずコミュニケーションの手段として存在する。そこで、人間における言語の学習過程の第一歩を考えると、コミュニケーションとは、「しゃべる」「聞き取る」という二つの行為より成り立っている。基本的に、初心者を対象としたこの科目では、そうしたコミュニケーションの基本的構成要素となる発音の訓練、基礎文法、簡単な文章の作成などを習得することにより、実際に今日のフランス社会で使われている生きたフランス語を学ぶことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. フランス語特有の音色(ねいろ)に注意しながら、基本的発音の訓練を行う。
2. フランス語を用いて正しく話し、かつ文章を書くために欠かせないのが、動詞の活用である。従って、基本的動詞の活用を学ぶ。

3. 簡単な文章を例として採り上げながら、フランス語の文章構造(構文)を分析すると同時に、基礎文法を学ぶ。

4. フランス人が普通にしゃべる会話や、発音する単語などを聞くことで、フランス語のもつ「音色(ねいろ)」に耳を馴染ませる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

視聴覚教材をできるだけ活用して、上記の個別課題を念頭に置きつつ、コミュニケーションの手段としてのフランス語の基礎をつくる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各レッスンごとに、日常生活を描いたスケッチと練習問題があるので、必ず毎レッスンごとに予習と復習をするように心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業の参加度が(40%)、試験が(60%)として評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 第8課: バカンス
動詞(出かける)・否定疑問文に対する肯定の答え・命令法の否定形
- 第2回 第9課: 週末の予定
身の回りの物(2)・天候の表現
- 第3回 第9課: 国名につく前置詞・動詞+動詞不定法・
- 第4回 第9課: 動詞(できる・～ねばならない・知っている)
- 第5回 第9課: 近接未来
- 第6回 第10課: 昨日は何をしましたか
過去を述べる
- 第7回 第10課: 日付の表現・時間の表現
- 第8回 第10課: 複合過去形
- 第9回 第11課: 探偵小説
小説・映画・番組のジャンル
- 第10回 第11課: 時に関する疑問文
- 第11回 第11課: 人称代名詞直接目的補語・疑問形容詞
- 第12回 第12課: 子供の頃の思い出
過去を述べる
- 第13回 第12課: 感情の表現
- 第14回 第12課: 半過去・人称代名詞間節目的保護
- 第15回 全体のまとめ

6. Special Information (留意事項)

週1回なので、出席することが大切です。

講義コード	10123503			
科目名	フランス語ⅡC			
担当者	崔 達用			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献				
備考	「フランス語」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「言葉は光だった」。世界は言葉の光に照らされることがはじめてわれわれ人間の前にたち現れる。言葉の光によってわれわれは日々世界の創造に参画しているといってもよい。人間にとっての世界は言葉とともに存在しているから。この言葉を鍛錬すると、理性には整然とした秩序が生まれ、感情には繊細な感受性が深い陰影を落とすようになる。また「知は力なり」という。その人間の知恵と知識は言葉なくしてはありえない。よって、命ある言葉を、言葉の妙なる働きを、言葉の無上の大切さを知らねばならない。これを外国語習得の目標として立てる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

「明晰でないものはフランス語ではない」。フランス語は明快な言語である。文の構造である文法が幾何学のように整然としている。おそらく、フランス語ほど学びやすい外国語はないに違いない。「なによりも音楽を」。フランスの詩人たちは幾世代にもわたり、自国の詩を可能な限り音楽に近づけたいと苦心した。フランス語は、その音声音楽のように滑らかで美しい言語である。この明晰さと音楽性を実感していただきたい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

教材は、すべて私自身が作成する。市販の語学テキストは使用しない。テキストはその都度前もってプリント配布する。学習したことがらが十分に「血と肉」となって身につくように復習テストが毎回行われる。これはまた、各自が学習した内容の理解度を確認するためのものでもある。したがって、答案用紙は添削されて次週に返却される。こうして年間を通して講義の再

確認と復習がたえず行われるので、学期末の定期試験は実施しない。毎週フランス語に注いだ情熱と労力が君の成績となる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学習した授業内容をしっかりノートに書きとめ、それを理解して次回の復習テストに備えておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(20%)、ノート作成(30%)、毎週の確認テスト(50%)の総合評価によるものとする。欠席・遅刻は減点対象となります。欠席回数が3分の1を超過した場合、原則として単位は与えません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 前期学習内容の総復習
- 第2回 人称代名詞直接目的補語 動詞 connaitre
- 第3回 人称代名詞間接目的補語 動詞 écrire
- 第4回 比較級 指示代名詞 命令形(1) 動詞 pouvoir と vouloir.
- 第5回 最上級 関係代名詞 qui と que 動詞 prendre と partir.
- 第6回 疑問代名詞 前置詞+疑問代名詞 動詞 attendre
- 第7回 代名動詞 se promener 命令形(2) 疑問副詞 pourquoi
- 第8回 代名動詞再帰的用法 関係代名詞 ou
- 第9回 代名動詞相互的用法 関係代名詞 dont
- 第10回 代名動詞受身的用法 近接未来と近接過去
- 第11回 代名動詞本質的用法 単純未来
- 第12回 複合過去(avoir+p.p.) 中性代名詞 y 詩《une chanson》を読む
- 第13回 複合過去(être+p.p.) 中性代名詞 en
- 第14回 大過去と前未来
- 第15回 詩《Pour Toi Mon Amour》を読む

6. Special Information (留意事項)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業の参加度が40%、試験が60%として評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 第1課：窓口にて
人物の説明
- 第2回 第1課：こちらは「どなた」ですか
- 第3回 第3課：あいさつ
挨拶と人の紹介
- 第4回 第3課：公共の場所・定冠詞・動詞(行く)
- 第5回 第7課：小さな町
場所・位置関係の表現
- 第6回 第7課：町の建物・指示形容詞
- 第7回 第8課：ほくの両親の家
所有の表現
- 第8回 第8課：家・部屋・家族
- 第9回 第8課：所有形容詞
- 第10回 第10課：道に迷ったら
話しかける
- 第11回 第10課：道を尋ねる
- 第12回 第10課：地下鉄に乗る
- 第13回 第12課：水道の修理
時の表現
- 第14回 第12課：月・日付・疑問文の作り方
- 第15回 第12課：時に関する疑問文・動詞(～ができる)

6. Special Information (留意事項)

外国語学習には、辞書が不可欠です。小辞典でもかまわないので、仏和辞典を必ず準備すること。電子辞書でも可。

講義コード	10123601			
科目名	フランス語Ⅲ フランス語中級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『De Concert 1』 大阪日仏センター 朝日出版 1992			
参考文献				
備考	「フランス語Ⅱ」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10123701			
科目名	フランス語Ⅳ フランス語中級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『De Concert 1』 大阪日仏センター 朝日出版 1992			
参考文献				
備考	「フランス語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

フランス語Ⅲ(中級)を受講する者は、すでにフランス語Ⅱ(初級)を終えている場合、もしくは初級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわららず通用する命題である。そこで、初級の基礎学習より一歩踏み込んで、自らの考え・意見をフランス語で表現する力、更に生のフランス語を聞き取り、理解する能力、即ちコミュニケーションを行う能力を育むことを目指す。また、同時に、一つのジャンルにとらわれることなく、多種多様な分野から随時適切な文献を選択し、読解能力を培い、文法上の知識、作文能力なども強化することを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. フランス語を能動的に使えるように、発音訓練も含めて、会話能力をつける。
2. ある程度長い文章を採り上げながら、フランス語の文章構造を分析すると同時に、初級より多少高度な文法を学ぶ。
3. 自分の意見をフランス語で述べるができるように、ある程度長い文章を作成する。
4. フランス人が普通にしゃべっている言葉を耳で聞いて理解する聴解能力をつける。
5. 各課の最初にある会話を、クラス全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することで、正しい発音とイントネーションを学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。動詞活用表と仏和辞典は各自、必ず購入すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ① 週1回のクラスであることから、必ず自宅で予習・復習をすること。
- ② フランス語の発声方法を教えるので、自宅で発声訓練を行うこと。
- ③ 使用するテキストに含まれる練習問題は、事前に予習しておくこと。

1. Course Description (科目の教育目標)

フランス語Ⅳ(中級)を受講する者は、すでにフランス語Ⅲ(初級)を終えている場合、もしくは初級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわららず通用する命題である。そこで、初級の基礎学習より一歩踏み込んで、自らの考え・意見をフランス語で表現する力、更に生のフランス語を聞き取り、理解する能力、即ちコミュニケーションを行う能力を育むことを目指す。また、同時に、一つのジャンルにとらわれることなく、多種多様な分野から随時適切な文献を選択し、読解能力を培い、文法上の知識、作文能力なども強化することを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. フランス語を能動的に使えるように、発音訓練も含めて、会話能力をつける。
2. ある程度長い文章を採り上げながら、フランス語の文章構造を分析すると同時に、初級より多少高度な文法を学ぶ。
3. 自分の意見をフランス語で述べるができるように、ある程度長い文章を作成する。
4. フランス人が普通にしゃべっている言葉を耳で聞いて理解する聴解能力をつける。
5. 各課の最初にある会話を、クラス全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することにより、正しい発音とイントネーションを学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。なお、動詞活用表と仏和辞典は各自、必ず購入すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ① 週1回のクラスであることから、必ず自宅で予習・復習をすること。
- ② フランス語の発声方法を教えるので、自宅での発声訓練を継続すること。
- ③ 使用するテキストに含まれる練習問題は、事前に予習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業の参加度が40%、試験が60%として評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	第13課：遅刻です etreを伴う動詞・複合過去
第2回	第13課：否定疑問文に対する肯定の答え
第3回	第13課：動詞の活用（出発する・～時間をかける）
第4回	第15課：お菓子を作ろう 素材の表現
第5回	第15課：動詞の活用（終える）
第6回	第15課：不定冠詞・部分冠詞・定冠詞
第7回	第16課：天気予報 国名につく前置詞
第8回	第16課：天気に関する表現
第9回	第16課：方角の表現
第10回	第18課：履歴書 過去分詞の一致
第11回	第18課：関係代名詞
第12回	第18課：動詞の活用（待つ・知っている）
第13回	第19課：来週の予定 動詞の活用（ねばならない・その事を知っている）
第14回	第19課：不定法
第15回	全体のまとめ

6. Special Information (留意事項)

フランス語（中級）の学習は、フランス語IIIとIVでセットになっているので、IVを履修する者は、IIIも履修するようにして下さい。外国語学習には、辞書が不可欠です。小辞典でもかまわないので、仏和辞典を必ず準備すること。電子辞書でも可。

講義コード	10123801			
科目名	フランス語V フランス語 中～上級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	現在、フランスで用いられているものを随時選択し、使用する。従って、受講生には、プリントをテキストとして配布する。			
参考文献				
備考	「フランス語IV」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

フランス語V（上級）を受講する者は、すでにフランス語IV（中級）を終えている場合、あるいは中級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわらず通用する命題である。そこで、このクラスでは、とりわけ実践的フランス語の運用能力を習得することを目指す。具体的には、生のフランス語を聞き取り、理解する能力を育むと共に、自らの考え・意見を簡単なフランス語で表現することができるレベルを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. フランス人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する訓練を行う。
2. 自分が欲しい情報を得る、あるいは相手に情報を与える表現の練習。更に、自分が置かれたある状況において反応する、あるいは相手との情報交換をするといった具体的訓練をする。
3. 実際にフランスに行ったとき、日常生活で最低限必要なことを、他人に頼らず自分一人で行えるようになることを目指す。
4. 各課に、フランス人の日常生活を採り上げたスケッチがあるので、クラス全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することにより、正しい発音とイントネーションを学ぶ。また、実際にフランス語圏へ行った際、役に立つ口語表現を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。他方において、印刷された教材については、現在フランスで用いられているものから随時選択し、使用する。受講生にとって、中級からの移行がスムーズに行われるよう、難易度的には中級のテキストと比べ、それほ

ど大きな相違はない。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ① 週1回のクラスでは、外国語の習得とりわけ上級では限界があるので、必ず自宅で予習・復習をすること。
- ② フランス語の発音及び発生訓練を自宅で続けること。
- ③ フランス語の録音されたテープを日常的に聴いて、フランス語の音色に耳を慣らす訓練を行うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業の参加度が40%、試験が60%として評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	第1課：自己紹介（スケッチ）、ロールプレイと発音練習／会話（応用編）と関連文法
第2回	第1課：応用と練習問題
第3回	第2課：「フランス語は話せますか」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習／会話（応用編）と関連文法
第4回	第2課：応用と練習問題
第5回	第3課：「あなたのお名前は」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習／会話（応用編）と関連文法
第6回	第3課：応用と練習問題
第7回	第4課：「この人は女優です。何と美しい人でしょう・・・」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習／会話（応用編）と関連文法
第8回	第4課：応用と練習問題
第9回	1課から4課までの「復習とまとめ」
第10回	第5課：「彼女には子供が7人います」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習／会話（応用編）と関連文法
第11回	第5課：応用と練習問題
第12回	第6課：「誕生日おめでとう」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習／会話（応用編）と関連文法
第13回	第6課：応用と練習問題
第14回	第7課：「それはいくらですか」（スケッチ）、ロールプレイと発音練習、応用練習／会話（応用編）と関連文法
第15回	第7課：応用と練習問題

6. Special Information (留意事項)

フランス語（上級）の学習は、フランス語VとVIがセットになっているので、Vを履修する者は、VIも履修するようにして下さい。外国語学習には、辞書が不可欠です。仏語辞典（できれば中辞典）、あるいは電子辞書のどちらかを必ず準備すること。学生一人一人の積極的参加が求められるので、そのつもりで選択してください。

講義コード	10123901			
科目名	フランス語VI フランス語上級			
担当者	野田 四郎			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	現在、フランスで用いられているものを随時選択し、使用する。			
参考文献				
備考	「フランス語V」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

フランス語VI（上級）を受講する者は、すでにフランス語IV（中級）を終えている場合、あるいは中級修了と同じ程度のフランス語学力を有することを前提としている。勿論、「言語はまずコミュニケーションの手段として存在する」という基本的考えは、その学習対象の難易度いかにかわらず通用する命題である。そこで、このクラスでは、とりわけ実践的フランス語の運用能力を習得することを目指す。具体的には、生のフランス語を聞き取り、理解する能力を育むと共に、自らの考え・意見を簡単なフランス語で表現することができるレベルを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. フランス人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解する訓練を行う。
2. 自分が欲しい情報を得る、あるいは相手に情報を与える表現の練習。更に、自分が置かれたある状況において反応する、あるいは相手との情報交換をするといった具体的訓練をする。
3. 実際にフランスに行ったとき、日常生活で最低限必要なことを、他人に頼らず自分一人で行えるようになる

ることを目指す。4. 各課に、フランス人の日常生活を採り上げたスケッチがあるので、クラス全員が二人一組となり、「ロールプレイ」形式で練習することにより、正しい発音とイントネーションを学ぶ。また、実際にフランス語圏へ行った際、役に立つ口語表現を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

視聴覚教材をできるだけ活用して、フランス語を能動的に使う訓練を行う。他方において、印刷された教材については、現在フランスで用いられているものから随時選択し、使用する。受講生にとって、中級からの移行がスムーズに行われるよう、難易度的には中級のテキストと比べ、それほど大きな相違はない。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

① 週1回のクラスでは、外国語の習得とりわけ上級では限界があるので、必ず自宅で予習・復習をすること。② フランス語の発音及び発声訓練を自宅で続けること。③ フランス語の録音されたテープを日常的に聴いて、フランス語の音色に耳を慣らす訓練を行うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業の参加度が40%、試験が60%として評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 第8課:「お勘定おねがいします」(スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話(応用編)と関連文法
 第2回 第8課:応用と練習問題
 第3回 「復習とまとめ」5課～8課
 第4回 第9課:「どこにお出かけですか」(スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話(応用編)と関連文法
 第5回 第9課:応用と練習問題
 第6回 第10課:「レジは、奥の左手にあります」(スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話(応用編)と関連文法
 第7回 第10課:応用と練習問題
 第8回 第11課:「部屋数3つのアパートを探しています」(スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話(応用編)と関連文法
 第9回 第11課:応用と練習問題
 第10回 第12課:「B棟はどこですか」(スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話(応用編)と関連文法
 第11回 第12課:応用と練習問題
 第12回 第13課:「シシル、出かける用意できた?」(スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話(応用編)と関連文法
 第13回 第13課:応用と練習問題
 第14回 第14課:「人生は:地下鉄・仕事・睡眠!!」(スケッチ)、ロールプレイと発音練習、応用練習/会話(応用編)と関連文法
 第15回 第14課:応用と練習問題

6. Special Information (留意事項)

フランス語上級のクラスは、フランス語VとVIでセットになっているので、上級の履修を希望する者は、フランス語Vとフランス語VIを履修するようにしてください。外国語学習には、辞書が不可欠です。仏和辞典(できれば中辞典)、あるいは電子辞書のどちらかを必ず準備すること。学生一人一人の積極的参加が求められるので、そのつもりで選択してください。

講義コード	10124001			
科目名	スペイン語ⅠA			
担当者	シルビア・バリオス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『amber』 高松英樹 弘学社 2013			
参考文献	『スペイン語語彙練習帳』 GIDE 朝日出版社 2008			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124002			
科目名	スペイン語ⅠB			
担当者	シルビア・バリオス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『amber』 高松英樹 弘学社 2013			
参考文献	『スペイン語語彙練習帳』 GIDE 朝日出版社 2008			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1年間で、文字と発音から始め、接続法現在の初歩までを扱う予定です。スペイン・ラテンアメリカ学科の他のスペイン語科目(講読や作文、会話)と共通のテキストを用い、密接な連携を保つ一方、同時にもう1つのテキストで文法の練習問題に取り組み、習ったことを実際に使いながら文法の基礎を身につけます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解します。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をします。

3. Course Method (教育・学習の方法)

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらいます。考え易いように、ヒントが与えられます。授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示しますのでテキストの該当箇所を事前に読んでおいて下さい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎週テキストの進み具合に合わせて練習問題の宿題を出します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として70%、期末テストの結果を30%で計算する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1.動詞HAYと場所の副詞。
 第2回 2.名詞の性、名詞の数、冠詞、不規則動詞
 第3回 3.規則動詞現在進行形
 第4回 4.不規則動詞現在進行形
 第5回 5.主語人称代名詞、動詞+目的語
 第6回 6.状態の表現、直接目的語
 第7回 7.動詞GUSTARの活用と用法、間接目的語
 第8回 8.動詞間接目的語、間接話法
 第9回 9.動詞直説法現在の不規則変化
 第10回 10.規則動詞、点過去
 第11回 11.規則動詞、線過去
 第12回 12.規則動詞、未来
 第13回 13.規則動詞 現在分詞
 第14回 14.規則動詞 現在分詞
 第15回 15.目的格人称代名詞、現在完了

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10124101			
科目名	スペイン語ⅡA			
担当者	シルビア・バリオス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『amber』 高松英樹 弘学社 2013			
参考文献	『スペイン語Ⅰ』 履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124102			
科目名	スペイン語Ⅱ B			
担当者	シルビア・パリス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	[Ambar] 高松英樹 弘学社 2013			
参考文献				
備考	「スペイン語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむ事は、今日の国際化時代に応じるためにも、望ましい事です。他民族のものの考え方、生き方少しでも理解していくことは、大学に於ける語学教育としては非常に大切な事であると思います。人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となって、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となる事を願っています。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解します。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をします。

3. Course Method (教育・学習の方法)

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらいます。考え易いように、ヒントが与えられます。授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示しますのでテキストの該当箇所を事前に読んでおいて下さい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎週テキストの進み具合に合わせて練習問題の宿題を出します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として70%、期末テストの結果を30%で計算する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1.直説法点過去(完了過去)
- 第2回 2.直説法点過去(完了過去)の不規則変化
- 第3回 3.中性定冠詞のLo、Ejercicios 8.
- 第4回 4.直説法線過去(不完了過去)の活用と用法 Ejercicios 9
- 第5回 5.無主語文、副詞mente、不定語と否定語
- 第6回 6.再帰動詞の用法、Ejercicios10
- 第7回 7.無人称文、関係詞que Ejercicios11
- 第8回 8.現在分詞の語形と用法
- 第9回 9.過去分詞の語形と用法
- 第10回 10.直接法現在完了の活用と用法 Ejercicios 12
- 第11回 11.受動態
- 第12回 12.直説法未来の活用と用法、比較表現Ejercicios 13
- 第13回 13.感嘆文、Ejercicios14
- 第14回 14.接続法現在の活用、名詞節における接続法、願望文
- 第15回 15.肯定命令、否定命令、Ejercicios15

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10124201			
科目名	スペイン語Ⅲ			
担当者	シルビア・パリス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	[Ambar] 高松英樹 弘学社 2013			
参考文献				
備考	「スペイン語Ⅱ」履修済み又はスペイン語検定4級程度の理解力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむ事は、今日の国際化時代に応じるためにも、望ましい事です。他民族のものの考え方、生き方少しでも理解していくことは、大学に於ける語学教育としては非常に大切な事であると思います。人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となって、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となる事を願っています。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解します。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をします。

3. Course Method (教育・学習の方法)

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらいます。考え易いように、ヒントが与えられます。授業では、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示するのでテキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

付属学生ノートはAmbarと連動した補助教材です。授業の前に学生ノートにひととおり目を通し、何か書いてあるかを見て下さい。練習問題として宿題を出します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として70%、期末テストの結果を30%で計算する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1.すでに知っているスペイン語のことは
- 第2回 2.自己紹介、挨拶、国名と国名形容詞
- 第3回 3.動詞と場所の副詞、ejercicios.
- 第4回 4.スペイン料理の解説、Tener動詞の活用と用法
- 第5回 5.旅行と私、季節、人の状態を表す形容詞Ejercicios
- 第6回 6.不規則動詞の活用と用法、時刻の表し方Ejercicios
- 第7回 7.不規則動詞の活用と用法、Hay.
- 第8回 8.否定文、疑問文、感嘆文Ejercicios
- 第9回 9.体調表現、不規則動詞の活用Ejercicios.
- 第10回 10.条件文 Ejercicios
- 第11回 11.その他の-IR型不規則動詞
- 第12回 12.等位接続詞、Ejercicios
- 第13回 13.前置詞の用法、Ejercicios
- 第14回 14.規則動詞未来の活用と用法、接続詞Ejercicios
- 第15回 15. 接続法命令Ejercicios

6. Special Information (留意事項)

本コースのⅢⅣとは、ⅠⅡコースとは異なり学習者は実際的なコミュニケーションの場にスペイン語が話せる現場を想定している。

それはクラスにおけるディスカッションであったり、指導教員との面接場面であったりします。

講義コード	10124301			
科目名	スペイン語Ⅳ			
担当者	シルビア・パリス 木野			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	[Ambar] 高松英樹 弘学社 2013			
参考文献	「スペイン語語彙練習帳」 GIDE 朝日出版社 2008			
備考	「スペイン語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1年間で、文字と発音から始め、接続法現在の初歩までを扱う予定です。スペイン・ラテンアメリカ学科の他のスペイン語科目(講読や作文、会話)と共通のテキストを用い、密接な連携を保つ一方、同時にもう1つのテキストで文法の練習問題に取り組み、習ったことを実際に使いながら文法の基礎を身につけましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

スペイン人が普通にしゃべっている言葉を聞いて理解します。自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった具体的な練習をします。

3. Course Method (教育・学習の方法)

スペイン語の教科書に書かれている重要なポイントをまとめつつ、質問形式で受講者に答えてもらいます。考え易いように、ヒントが与えられます。授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業の復習をしておくこと。CDの聞き取りも必要です。

毎回の授業では、次回授業で取り上げる内容を指示するのでテキストの該当箇所を事前に読んでおいて下さい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

付属学生ノートはAmbarと連動した補助教材です。授業の前に学生ノートにひととおり目を通し、何か書いてあるかを見て下さい。練習問題として宿題を出します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加点、小テスト、提出物をまとめて平常点として70%、期末テストの結果を30%で計算する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1.復習、直説法現在 interesar,dejar,quedar
- 第2回 2.Interesar,dejar,quedar の活用と用法趣味と仕事
- 第3回 3.比較活用、poder, querer の用法
- 第4回 4.empezar a ir a、物語、ejercicios
- 第5回 5.直説法点過去(完了過去) 再帰動詞
- 第6回 6.点過去、中性定冠詞 LO、受動態
- 第7回 7.直説法線過去(不完了過去) 受動態
- 第8回 8.無主語文、副詞、不定語と否定後
- 第9回 9.無人称文、関係詞、現在分詞
- 第10回 10.過去分詞の語形と用法 ejercicios
- 第11回 11.規則動詞、過去完了の活用と用法 ejercicios
- 第12回 12.丁寧表現、買い物に行く
- 第13回 13.動詞未来活用と用法、古い ejercicios
- 第14回 14.規則動詞命令活用
- 第15回 15.接続法現在活用、否定命令

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10124401			
科目名	朝鮮語 I A ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124402			
科目名	朝鮮語 I B ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124403			
科目名	朝鮮語 I C ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本と朝鮮半島は隣国であり、長い交流の歴史を共有してきました。とりわけ近年、日本と韓国の政治・経済・文化的交流が急進展する中で、朝鮮語を学ぶ人が急増しています。

ハングル(韓国文字)はわずか19個の子音字と21個の母音字の組み合わせで構成された非常に合理的な文字なので、簡単に学ぶことができます。また朝鮮語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語と言えるでしょう。

初級では、ハングルの読み書きをマスターし、初歩的な文法や会話を学ぶことができます。これだけでも手軽な韓国旅行に大変役立ちます。旅行に役立つ情報や豆知識も学んでいきます。ぜひハングル・ワールドへの旅立ちを!

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. ハングルの特徴・構成を理解し、読み書きをマスターします。
2. 平仮名のハングル表記法を学び、人名や地名をハングルで書けるようになります。
3. 朝鮮語と日本語の共通点・類似性を理解し、簡単な挨拶、自己紹介、初歩的な文法を学びます。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義とグループ学習を併用しながら、楽しく効率的に学んでいきます。随時、CDも利用します。
2. 朝鮮半島の文化や韓国旅行の豆知識なども学びます。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 教材は『韓国語初級』(李昌圭著。白帝社)。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習より復習に重点を置いて学習することが大切です。授業で学んだ文法をよく復習すると共に、テキストに載っている例文の読み書きを何度も繰り返しして下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、定期試験(60%)、小テスト(20%)を基準としながら、授業参加度・理解度・課題提出等(20%)も考慮して総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 韓国語について。韓国語とハングルの概要を理解。ハングルの平音。
- 第2回 平音
- 第3回 激音
- 第4回 濃音、合成母音
- 第5回 合成母音
- 第6回 パッチム。連音。
- 第7回 連音。人名・地名をハングルで書く。ハングルを全てマスター
- 第8回 会話学習開始。私は学生です。(文法)
- 第9回 私は学生です。(練習問題)
- 第10回 あの方はだれですか。(文法)
- 第11回 あの方はだれですか。(練習問題)
- 第12回 これは何ですか。(文法)
- 第13回 これは何ですか。(練習問題)
- 第14回 小テスト・復習
- 第15回 復習・会話練習

6. Special Information (留意事項)

ハングルを習得し韓国語の基礎を学習する段階では、階段を1段ずつ上るように着実に学んでいくので、決して欠席や遅刻をしないこと。

講義コード	10124501			
科目名	朝鮮語Ⅱ A ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124502			
科目名	朝鮮語Ⅱ B ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10124503			
科目名	朝鮮語Ⅱ C ハングル・ワールドへの旅立ち			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅰ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本と朝鮮半島は隣国であり、長い交流の歴史を共有してきました。とりわけ近年、日本と韓国の政治・経済・文化的交流が急進展する中で、朝鮮語を学ぶ人が急増しています。

ハングル(韓国文字)はわずか19個の子音字と21個の母音字の組み合わせで構成された非常に合理的な文字なので、簡単に学ぶことができます。また朝鮮語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語と言えるでしょう。

初級では、ハンガルの読み書きをマスターし、初歩的な文法や会話を学ぶことができます。これだけで手軽な韓国旅行に大変役立ちます。また旅行に役立つ情報や豆知識も学んでいきます。ぜひハングル・ワールドへの旅立ちを!

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. ハングルの特徴・構成を理解し、読み書きをマスターします。
2. 平仮名のハングル表記法を学び、人名や地名をハングルで書けるようになります。
3. 朝鮮語と日本語の共通点・類似性を理解し、簡単な挨拶、自己紹介、初歩的な文法を学びます。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義とグループ学習を併用しながら、楽しく効率的に学んでいきます。
2. 随時、CDも利用します。
3. 朝鮮半島の文化や韓国旅行の豆知識なども学びます。
4. 進度に応じて小テストを行います。
5. 教材は「韓国語初級」(李昌圭著。白帝社)。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習より復習に重点を置いて学習することが大切です。授業で学習した文法をよく復習すると共に、テキストに載っている例文の読み書きを何度も繰り返して下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、定期試験(60%)、小テスト(20%)を基準としながら、授業参加度・理解度・課題提出等(20%)も考慮して総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ここはどこですか。(文法)
- 第2回 ここはどこですか。(練習問題)
- 第3回 ここはどこですか。(翻訳)
- 第4回 今日は何をしますか。(文法)
- 第5回 今日は何をしますか。(練習問題)
- 第6回 今日は何をしますか。(翻訳)
- 第7回 土曜日には何をなさいますか。(文法)
- 第8回 土曜日には何をなさいますか。(練習問題)
- 第9回 土曜日には何をなさいますか。(翻訳)
- 第10回 今日は何月何日ですか。(文法)
- 第11回 今日は何月何日ですか。(練習問題)
- 第12回 今日は何月何日ですか。(翻訳)
- 第13回 今日は何月何日ですか。復習。
- 第14回 小テスト・復習
- 第15回 復習・会話練習

6. Special Information (留意事項)

韓国語の学習は、階段を1段ずつ上るように着実に進んでいくので、決して欠席休講や遅刻をしないこと。

講義コード	10124601			
科目名	朝鮮語Ⅲ アンニョンハセヨ! 人と文化との出逢い			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語初級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

初級で学んだことをより発展させ、基本的な文法を修得することができまます。聞き取り、テープの聴取、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力が向上します。きっと、いつの間にか、旅行会話力や情報誌の読解力が身につけてきた自分に驚くときが来ることでしょう。

またサッカーW杯日韓共催や韓流によって一層身近になった韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や最近の映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいきましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 初級で学んだ内容を復習し確実にマスターします。
2. 日常会話に必要な文法を学びます。
3. やや高度な文章の翻訳を行い、対話の練習をします。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義とグループ学習を併用しながら、学生同士で対話の練習をします。
2. 随時、CDやビデオも利用します。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 日常会話に必要な文章を韓国語から日本語に、日本語から韓国語に訳し、口で言えるようにします。
5. 教材は、「韓国語初級」(李昌圭著。白帝社)を使用。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、定期試験(60%)、小テスト(20%)を基準としながら、授業参加度・理解度・課題提出等(20%)も考慮して総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 復習
- 第2回 何時に起きますか。(文法)
- 第3回 何時に起きますか。(練習問題)
- 第4回 何時に起きますか。(会話)
- 第5回 どこに行かれますか。(文法)
- 第6回 どこに行かれますか。(練習問題)
- 第7回 どこに行かれますか。(会話)
- 第8回 昨日は私の誕生日でした。(文法)
- 第9回 昨日は私の誕生日でした。(練習問題)
- 第10回 昨日は私の誕生日でした。(会話)
- 第11回 以後、中級テキスト使用。サッカーをお好きですか。(文法)
- 第12回 サッカーをお好きですか。(練習問題)
- 第13回 サッカーをお好きですか。(会話)。復習
- 第14回 小テスト・復習
- 第15回 復習・会話練習

6. Special Information (留意事項)

韓国語の学習は、階段を1段ずつ上るように着実に進んでいくので、決して欠席や遅刻をしないこと。

講義コード	10124701			
科目名	朝鮮語Ⅳ アンニョンハセヨ！ 人と文化との出逢い			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語中級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	『朝鮮語Ⅲ』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

IからⅢで学んだことをより発展させ、基本的な文法を修得することができます。聞き取り、テープの聴取、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力が向上します。きっと、いつの間にか、旅行会話力や情報誌の読解力が身につけてきた自分に驚くときが来ることでしょう。

また韓流やKポップなどによって一層身近になった韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や最近の映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいきましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んだ内容を復習し確実にマスターします。
- 2. 日常会話に必要な文法を学びます。
- 3. より高度な文章の翻訳を行い、対話の練習をします。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1. 講義とグループ学習を併用しながら、学生同士で対話の練習をします。
- 2. 毎回、一人ずつ朝鮮語で3分間スピーチを行います。
- 3. 進度に応じて小テストを行います。
- 4. 日常会話に必要な文章を朝鮮語から日本語に、日本語から朝鮮語に訳し、口で言えるようにします。
- 5. 教材は、「韓国語中級」(李昌圭著。白帝社)を使用。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、定期試験(60%)、小テスト(20%)を基準としながら、授業参加度・理解度・課題提出等(20%)も考慮して総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 明日は何をなさいますか。(文法)
- 第2回 明日は何をなさいますか。(練習問題)
- 第3回 明日は何をなさいますか。(会話)
- 第4回 郵便局に行く。(文法)
- 第5回 郵便局に行く。(練習問題)
- 第6回 郵便局に行く。(会話)
- 第7回 喫茶店にて。(文法)
- 第8回 喫茶店にて。(練習問題)

- 第9回 喫茶店にて。復習
- 第10回 郵便局に行く。復習
- 第11回 韓国料理店で。(文法)
- 第12回 韓国料理店で。(練習問題)
- 第13回 韓国料理店で。(会話)
- 第14回 小テスト。復習
- 第15回 復習・会話練習

6. Special Information (留意事項)

韓国語の学習は、階段を1段ずつ上るように着実に進んでいくので、決して欠席や遅刻をしないこと。

講義コード	10124801			
科目名	朝鮮語Ⅴ 人と文化を結ぶ橋			
担当者	高 賛 侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語中級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	『朝鮮語Ⅳ』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「朝鮮語Ⅲ・Ⅳ」履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

さらに高度な目標に向かって、重要な文法をすべてマスターすることができます。韓国旅行に行けば、自分の力でコースを選んだり、ショッピングを楽しんだりできるほどの会話力が身につきます。辞書さえあれば、新聞、雑誌が読める読解力を持ち、ハンゲル版のネットサーフィンを楽しみ、日記やメールを書けるようになります。

また日本と朝鮮半島の歴史や文化交流についても学びながら、両国間の橋渡し役としての役割などについても語り合ってみましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 高度な文章の翻訳
- 2. 実践的な会話の反復練習
- 3. 自分の意志を朝鮮語で書き、話す能力の向上

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義とグループ学習を併用しながら、高度な会話力の向上に重点を置きます。

- 2. 毎回、一人ずつ朝鮮語による3分間スピーチを行います。
- 3. 進度に応じて小テストを行います。
- 4. 教材は、「韓国語中級」(李昌圭著。白帝社)。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、定期試験(60%)、小テスト(20%)を基準としながら、授業参加度・理解度・課題提出等(20%)も考慮して総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 復習
- 第2回 道を尋ねる。(文法)
- 第3回 道を尋ねる。(練習問題)
- 第4回 道を尋ねる。(会話)
- 第5回 地下鉄駅にて。(文法)
- 第6回 地下鉄駅にて。(練習問題)
- 第7回 地下鉄駅にて。(会話)
- 第8回 タクシーに乗る。(文法)
- 第9回 タクシーに乗る。(練習問題)
- 第10回 タクシーに乗る。(会話)
- 第11回 約束をする。(文法)
- 第12回 約束をする。(練習問題)
- 第13回 約束をする。(会話)
- 第14回 小テスト・復習
- 第15回 復習・会話練習

6. Special Information (留意事項)

韓国語の学習は、階段を1段ずつ上るように着実に進んでいくので、決して欠席や遅刻をしないこと。

講義コード	10124901			
科目名	朝鮮語Ⅵ 人と文化を結ぶ橋			
担当者	高 賛侑			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『韓国語中級』 李昌圭 白帝社			
参考文献				
備考	「朝鮮語Ⅴ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「朝鮮語Ⅳ・Ⅴ」を履修済み、もしくは同じ程度の学力を有する学生を対象とします。

さらに高度な目標に向かって、重要な文法をすべてマスターすることができます。韓国旅行に行けば、自分の力でコースを選んだり、ショッピングを楽しんだりできるほどの会話が身につきます。辞書さえあれば、新聞、雑誌が読める読解力を持ち、ハンゲル版のネットサーフィンを楽しみ、日記やメールを書けるようになります。また日本と朝鮮半島の歴史や文化交流についても学びながら、両国間の橋渡し役としての役割などについても語り合ってみましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 高度な文章の翻訳
2. 実践的な会話の反復練習
3. 自分の意志を朝鮮語で書き、話す能力の向上

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義とグループ学習を併用しながら、高度な会話力の向上に重点を置きます。

2. 毎回、一人ずつ朝鮮語による3分間スピーチを行います。
3. 進度に応じて小テストを行います。
4. 教材は、「韓国語中級」(李昌圭著。白帝社)。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

復習に重点を置きつつ、各課の練習問題を解いて下さい。特に宿題は必ず提出して下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、定期試験(60%)、小テスト(20%)を基準としながら、授業参加度・理解度・課題提出等(20%)も考慮して総合的に行います。語学の学習は段階的に進んでいくので、欠席・遅刻は減点対象となります。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 復習
- 第2回 天気。(文法)
- 第3回 天気。(練習問題)
- 第4回 天気。(会話)
- 第5回 電話をかける。(文法)
- 第6回 電話をかける。(練習問題)
- 第7回 電話をかける。(会話)
- 第8回 ショッピング。(文法)
- 第9回 ショッピング。(練習問題)
- 第10回 ショッピング。(会話)
- 第11回 会話集プリント(案内)
- 第12回 会話集プリント(品選び)
- 第13回 会話集プリント(支払い)
- 第14回 小テスト。復習
- 第15回 復習。会話

6. Special Information (留意事項)

韓国語の学習は、階段を1段ずつ上るように着実に進んでいくので、決して欠席や遅刻をしないこと。

講義コード	10125001			
科目名	中国語ⅠA			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社 『一歩進んだ中国語文法』 荒川清秀 大修館			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125002			
科目名	中国語ⅠB			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社 『一歩進んだ中国語文法』 荒川清秀 大修館			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125003			
科目名	中国語ⅠC			
担当者	王 嵐			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社 『一歩進んだ中国語文法』 荒川清秀 大修館			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125004			
科目名	中国語ⅠD			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015年			
参考文献	『漢語学習詞典』 相原 茂 朝日出版社 『一歩進んだ中国語文法』 荒川清秀 大修館			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことが本授業の目標である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 簡単な日常会話をいくつか身につける。
3. 現代中国事情もある程度学習する。
4. 中国語検定準4級に挑戦してみる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

本教科書では、課ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は出席及び授業態度(30点)、試験(70点)により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。
中国語についての紹介
- 第2回 声調
- 第3回 単母音と複合母音音
- 第4回 子音
- 第5回 名前の言い方
- 第6回 判断文“是”
- 第7回 疑問詞疑問文
- 第8回 動詞述語文
- 第9回 数詞の使い方
- 第10回 形容詞述語文
- 第11回 時の言い方
- 第12回 時刻の言い方
- 第13回 比較の言い方
- 第14回 量詞について
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125103			
科目名	中国語ⅡC			
担当者	王 嵐			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』朱捷 朱鳳 白帝社 2015			
参考文献	『漢語学習詞典』相原 茂 朝日出版社 『一步進んだ中国語文法』荒川清秀 大修館			
備考	『中国語I』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125104			
科目名	中国語ⅡD			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』朱捷 朱鳳 白帝社 2015			
参考文献	『漢語学習詞典』相原 茂 朝日出版社 『一步進んだ中国語文法』荒川清秀 大修館			
備考	『中国語I』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125101			
科目名	中国語ⅡA			
担当者	朱 鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』朱捷 朱鳳 白帝社 2015			
参考文献	『漢語学習詞典』相原 茂 朝日出版社 『一步進んだ中国語文法』荒川清秀 大修館			
備考	『中国語I』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	10125102			
科目名	中国語ⅡB			
担当者	柴 礼敏			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』朱捷 朱鳳 白帝社 2015			
参考文献	『漢語学習詞典』相原 茂 朝日出版社 『一步進んだ中国語文法』荒川清秀 大修館			
備考	『中国語I』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業は中国語Iに引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせたい。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 簡単な日常会話をいくつか身につける。
3. 中国現代事情もある程度学習する。
4. 中国語検定準4級に挑戦してみる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テープを聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

本教科書には課ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は出席及び授業態度(30点)、試験(70点)により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。
前期学んだ中国語の復習
- 第2回 程度・度合いを指す指示詞
- 第3回 連動文
- 第4回 願望表現
- 第5回 選択疑問文
- 第6回 完了形
- 第7回 進行形
- 第8回 経験相
- 第9回 いくつかの副詞「才」「就」「太…了」について
- 第10回 程度補語
- 第11回 前置詞の「在」
- 第12回 修飾語としての疑問詞

第13回 趣味、嗜好の言い方

第14回 時間の量の表現

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125201		
科目名	中国語Ⅲ		
担当者	朱鳳		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『語順から学ぶ中国語2改訂版』朱捷 朱鳳 白帝社 2015年		
参考文献	『漢語学習辞典』相原 茂 朝日出版社 『一步進んだ中国語文法』荒川清秀 大修館		
備考	「中国語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力		

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業はすでに一年間中国語を学習した学生を対象とするものである。初級で学習した日常会話や基本的な文法を確認しながら、より高度な中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、初級と中級の会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も繰り返し練習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 発音と文法の復習。
2. 日常会話をさらにグレードアップする。
3. 中国語検定試験準4級合格を目指す。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テープを使い、聞き取り練習をする。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業態度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。
初級中国語の復習
- 第2回 方向補語 (1)
- 第3回 様々な前置詞「到」「対」「除了」
- 第4回 理由と原因を言う時表現
- 第5回 結果補語 (1)
- 第6回 副詞「有点儿」と数量詞「一点儿」
- 第7回 使役文
- 第8回 方向補語 (2)
- 第9回 存現文
- 第10回 受動の表現
- 第11回 間接目的語
- 第12回 処置文「把」の使い方
- 第13回 変化を表す「了」
- 第14回 推量の表現
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125301		
科目名	中国語Ⅳ		
担当者	朱鳳		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『語順から学ぶ中国語2改訂版』朱捷 朱鳳 白帝社 2015年		
参考文献	『漢語学習辞典』相原 茂 朝日出版社 『一步進んだ中国語文法』荒川清秀 大修館		
備考	「中国語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 主体的に行動する力		

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業は中国語Ⅲを終了した学生、あるいは同等程度のレベルのある学生を対象とするものである。中国人と簡単なコミュニケーションができる程度の中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、初級と中級の会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も繰り返し練習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 発音と文法の復習。
2. 日常会話をさらにグレードアップする。
3. 中国語検定試験準4級合格を目指す。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テープを使い、聞き取り練習をする。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業態度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 使用する教科書の第6課から第10課まで授業する予定。
前期の復習
- 第2回 動詞の持続と状態について
- 第3回 主述述語文
- 第4回 目的を表す「为了」
- 第5回 結果補語 (2)
- 第6回 可能補語 (1)
- 第7回 許可、可能の表現
- 第8回 仮定文
- 第9回 方向補語 (3)
- 第10回 変化を表す「了」
- 第11回 兼語式連動文
- 第12回 可能補語 (2)
- 第13回 中国語における補語発達の理由
- 第14回 間接目的語 (2)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125401			
科目名	日本語講読Ⅰ			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』			
備考	必修 外国人留学生履修科目（留学生以外は履修できない）クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化 2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得 3. 日本語の自然な発話の習得 4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料(教材)を配布します。また、学生各自が情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に生命倫理・「ことば」に見るジェンダーなど。2. 毎回シャドーイング練習を行います。3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集(新聞・インターネットなど)を課します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席・授業参加度(40%)、提出課題(10%)、小テスト(20%)、到達度確認テスト(30%)に基づいて総合的に行います。遅刻3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介
- 第2回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』p.24、聴解
- 第3回 シャドーイング練習②同p.26、文章読解①〈遺伝子組み換え〉
- 第4回 シャドーイング練習③同p.28、文章読解②〈生命倫理〉
- 第5回 キーワードネット検索・発表
- 第6回 シャドーイング練習④同p.30、文章読解③〈出生前診断〉
- 第7回 シャドーイング練習⑤同p.32、文章読解④〈遺伝子診断〉
- 第8回 シャドーイング練習⑥同p.46、ディスカッション〈生命倫理〉
- 第9回 シャドーイング練習⑦同p.48、文章読解⑤〈ジェンダーとは?〉
- 第10回 シャドーイング練習⑧同p.50、文章読解⑥〈ことばに焼きつけられているもの〉
- 第11回 シャドーイング練習⑨同p.52、文章読解⑦〈夫婦別姓〉
- 第12回 シャドーイング練習⑩同p.66、文章読解⑧〈草食系男子〉
- 第13回 シャドーイング練習⑪同p.68、ディスカッション〈ジェンダー〉
- 第14回 到達度確認テスト
- 第15回 到達度確認テスト解答とフィードバック

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125501			
科目名	日本語講読Ⅱ			
担当者	稲垣 顕子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』			
備考	必修 外国人留学生履修科目（留学生以外は履修できない）クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化 2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得 3. 日本語の自然な発話の習得 4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料(教材)を配布します。また、学生各自が興味のあるものを情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に環境問題、他 2. 毎回シャドーイング練習を行います。3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集(新聞・インターネットなど)を課します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席・授業参加度(30%)、課題発表・(20%)、小テスト(20%)、到達度確認テスト(30%)に基づいて総合的に行います。遅刻3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』p.70、文章読解①〈地球温暖化〉
- 第2回 シャドーイング練習②同p.72、文章読解②〈大気汚染〉
- 第3回 シャドーイング練習③同p.74、発表・意見交換①〈オゾン層の破壊〉
- 第4回 シャドーイング練習④同p.76、文章読解③〈廃棄物の増加〉
- 第5回 シャドーイング練習⑤同p.84、文章読解④〈環境破壊〉
- 第6回 シャドーイング練習⑥同p.86、発表・意見交換②〈森林の減少〉
- 第7回 シャドーイング練習⑦同p.88、文章読解⑤〈環境商品の選択〉
- 第8回 シャドーイング練習⑧同p.90、文章読解⑥〈気候変動締約国会議〉
- 第9回 シャドーイング練習⑨同p.102、発表・意見交換④〈江戸のリサイクル社会〉
- 第10回 シャドーイング練習⑩同p.104 発表・意見交換③〈リサイクル〉
- 第11回 シャドーイング練習⑪同p.106 文章読解⑦〈イヤと言う勇気〉
- 第12回 シャドーイング練習⑫同p.108 文章読解⑧〈いじめを防ぐ加害者と向き合おう〉
- 第13回 シャドーイング練習⑬同p.110 発表・意見交換⑤〈豊かな生活とは?〉
- 第14回 到達度確認テスト
- 第15回 到達度確認テスト解答とフィードバック

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125601			
科目名	日本語表現Ⅰ			
担当者	高岸 雅子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途指示			
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』 浜田麻里他著 くろしお出版 『アカデミック・プレゼンテーション入門』 三浦香苗他著 ひつじ書房 『日本語口頭発表と討論の技術 ～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』 東海大学留学生センター口頭発表教材研究会 東海大学出版会 『小論文への12のステップ』 友松悦子著 スリーエーネットワーク 『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』 石黒圭・筒井千絵著 スリーエーネットワーク 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』 (大島弥生他著、ひつじ書房)			
備考	必修 外国人留学生履修科目 (留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
3. 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

まず、小論文やレポートを作成するための知識や方法を学びます。そして日本の社会問題を扱った読み物を教材に精読や速読を行なうことによって、高いレベルでの長文読解力を身につけます。それらの教材から得た情報に基づきレポートを作成し、口頭発表を行ないます。さらに質問紙調査用紙を作成し、実際に質問紙調査を行ないます。こうしたクラス活動を進めていく中で、学生たちは、発表用レポート、発表のための提示用資料、質問紙調査計画書、調査票などを、その都度設定された提出期限までに仕上げることが求められます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業では、自分の感じたことや思いを述べる「感想文」ではなく、客観的な根拠を提示しながら読み手を論理的に説得する「論述文」を書くことが求められます。そのため『小論文への12のステップ』『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』などのテキストの問題に取り組みながら論文の書き方の基礎から学習し、『大学生と留学生のための論文ワークブック』の「序論、本論、結びの役割と書き方」の章を参考にしながら論文形式のレポートを書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章を参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、口頭発表の練習をする、などの準備をします。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度30%、1回目の口頭発表10%、2回目の口頭発表20%、論文形式のレポート作成20%、プロジェクトワーク(質問紙調査計画書、調査票作成)20%に基づいて総合的に行います。遅刻は3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 口頭発表の仕方を学ぶ。『外国人留学生研究発表小論文集』(2006-2013)に掲載されている先輩留学生の調査報告書を読み、第一回口頭発表のテーマを決める。
- 第2回 論文の「序論・本論・結論」という構成を学ぶ。
- 第3回 第一回口頭発表で全員が発表する。そこで、各自が選んだ「先輩留学生が書いた調査報告書」を紹介する。
- 第4回 日本や他の国々の社会問題について書かれた論説文や新聞記事を読み、第二回口頭発表のテーマを決める。

- 第5回 選んだテーマに関連した先行研究や調査報告書をさらに収集し、それらの資料に基づき「報告書」の構想を練る。
- 第6回 報告書を作成する(1) (「序論」を書く)。
- 第7回 報告書を作成する(2) (「本論」「結論」を書く)。
- 第8回 報告書を作成する(3) (「引用の仕方」を学び、報告書の最後に「参考・引用文献」を書く。発表用資料(おもにパワーポイント)を作成する)。
- 第9回 第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う(1)。クラスメートの発表を批評する。
- 第10回 第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う(2)。クラスメートの発表を批評する。口頭発表のフィードバックをする。
- 第11回 「質問紙調査票」の作り方を学ぶ。質問紙調査の実施方法、対象者、調査目的を考えて「質問紙調査計画書」を書く。
- 第12回 質問紙調査計画書をもとに、質問紙調査票を作成する。
- 第13回 ピア・ラーニングを行う(1) (ペアで、お互いの質問紙調査票に回答し合い、不備な点を指摘し合い、質問紙調査票を訂正する)。
- 第14回 ピア・ラーニングを行う(2) (ペアで、訂正した調査票を再び検討し合い、質問紙調査票を完成させる)。
- 第15回 質問紙調査票の最終チェックを行う。質問紙調査実施時に注意する点を確認する。反省とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125701			
科目名	日本語表現Ⅱ			
担当者	高岸 雅子			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途指示			
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』 浜田麻里他著 くろしお出版 『アカデミック・プレゼンテーション入門』 三浦香苗他著 ひつじ書房 『日本語口頭発表と討論の技術 ～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』 東海大学留学生センター口頭発表教材研究会編 東海大学出版会 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』 大島弥生他著 ひつじ書房 『小論文への12のステップ』 友松悦子著 スリーエーネットワーク 『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』 (石黒圭・筒井千絵著、スリーエーネットワーク)			
備考	必修 外国人留学生履修科目 (留学生以外は履修できない) クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で発表し、文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
3. 提示用資料を使用した効果的なプレゼンテーションの方法の習得
4. 論理的で説得力のある主張の仕方、相手の話を理解し分析する聞き方、相手の意見の矛盾を発見しそれを的確に指摘する方法などの習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

夏期休暇中に収集した質問紙調査の結果などをもとに、調査の途中経過報告書、調査報告書を作成し、その都度設定された期限までに提出することが求められます。また作成した調査報告書をもとに発表原稿、発表資料、提示用資料を準備し、『外国人留学生研究発表会』において口頭発表を行います。ディベート形式の討論の場においては、決められたルールに従って積極的に討論に参加することが求められます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

「口頭発表」に向けて、まず『大学生と留学生のための論文ワークブック』の「序論、本論、結びの役割と書き方」の章を参考にしながら「調査報告書」を書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章を参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、口頭発表の練習をする、などの準備をします。そして「ディベート形式の討論」に向けて、『日本語口頭発表と討論の技術～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』の「討論」の章を読んで討論の方法とルールを学びます。そしてテーマに関連した資料を探しそれをもとに自己の主張をまとめて基調演説を考え、さらに相手の基調演説や反論を予測し、その解答を考えるなどの準備をします。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度30%、調査報告書作成30%、口頭発表25%、ディベート形式の討論15%に基づいて総合的に行います。遅刻は3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 「質問紙調査の進み具合」の中間報告をする。質問紙調査によって得られたデータをもとに、「調査報告書」の全体の流れを考え、「構成表」を作成する。
- 第2回 ビア・ラーニングを行う(1)(ペアで、お互いが作った構成表を検討し合い、構成表を訂正する)。
- 第3回 ビア・ラーニングを行う(2)(構成表の訂正版を再度ペアで検討し合い、全体の流れを決める)。
- 第4回 調査報告書を作成する(1)〔「序論」を書く〕。
- 第5回 調査報告書を作成する(2)〔「本論」を書く〕。
- 第6回 調査報告書を作成する(3)〔「結論」を書く〕。
- 第7回 調査報告書を作成する(4)(配布用資料(レジュメ)を作成する)。質疑応答の表現を学ぶ。
- 第8回 調査報告書を作成する(5)(発表用資料(おもにパワーポイント)を作成する)。
- 第9回 第三回口頭発表の練習を行う(1)クラスメートの発表を批評する。
- 第10回 第三回口頭発表の練習を行う(2)口頭発表のフィードバックをする。
- 第11回 学内で開催予定の『外国人留学生研究発表会』において第三回口頭発表を行う。
- 第12回 『外国人留学生研究発表会』における第三回口頭発表のフィードバックをする。
ディベート形式の討論について学ぶ。13回目授業のディベートのテーマを「身近な問題」から選び、役割を決める。
- 第13回 ディベート形式の討論の練習を行う。14回目授業のディベートのテーマを「価値論題(ある考えが良いか悪いかなど価値に関する論題を議論する)」から選び、役割を決める。
- 第14回 ディベート形式の討論を行う(1)。15回目授業のディベートのテーマを「政策論題(政府が打ち出したある政策に賛成か反対かを議論する)」から選び、役割を決める。
- 第15回 ディベート形式の討論を行う(2)。反省とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125801			
科目名	日本語特講 I			
担当者	田中 貴子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	毎回、プリントを配布する。			
参考文献	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』 『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』アルク 『上級学習者のための日本語読解ワークブック』アルク 『新完全マスター日本語能力試験N1』スリーエーネットワーク 『インタビュープロジェクト日本人の価値観発見』くろしお出版 『超級表現+使える名句』			
備考	必修 外国人留学生履修科目(留学生以外は履修できない)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本における新聞、小説、論説など幅広い分野の文章を読んだり、テレビ、ビデオなどの教材を視聴したりして日本の文化や思想への認識を深める。発表、ディスカッションなどの学習活動を通して、日本語運用能力を自主的に身につける。同時に現代日本社会の諸問題を考察して自分の考えをまとめ、わかりやすく論理的に文章化することで書く力も養う。また、毎回、文法・語彙・漢字などの言語知識の宿題を課し、次回クイズを行う。これらを通して、日本語表現力をさらに豊かにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 講義だけでなく自主的に学習する方法を学ぶ。
- 2. 各テーマに沿った文献、資料、グラフなどを読んだり聞いたりする力をつける。
- 3. ディスカッションや発表を通じて、適切な話し方や自分の考えをまとめて書く力を身につける。
- 4. 日本の文化を知り、異文化に関する認識を深める。
- 5. 宿題およびクイズにより、さらに高度な日本語の表現を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

各テーマに沿って様々な資料を読んだり、聞いたりする。

各テーマに関する考えをまとめてディスカッションを行う。

内容についてのタスクや作文を行う。

言語知識(文法・語彙・漢字など)に関するタスクおよびクイズを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学生は各テーマに沿った資料を読んでくこと。

言語知識の宿題を自主学習。次週の小クイズに準備することが求められる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、出席率、授業参加度(30%)、提出課題(40%)、試験(30%)により総合的に行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本語の世界
- 第3回 日本の文化
- 第4回 日本人の行動様式
- 第5回 言語とコミュニケーション
- 第6回 食生活
- 第7回 異文化理解
- 第8回 環境と人間
- 第9回 民話・昔話
- 第10回 少子高齢化社会
- 第11回 季節感
- 第12回 教育と学び
- 第13回 科学と技術
- 第14回 現代の社会
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10125901			
科目名	日本語特講 II			
担当者	日比 伊奈穂			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 外国人留学生履修科目(留学生以外は履修できない)クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

話す・聞く・読む・書くの4技能を駆使し、総合的な日本語力を養うことを目標とする。特に、プレゼンテーションや論文のための基本技能を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・様々な話題の文章を読んで理解する、また、話を聞いて理解する。
- ・わかりやすく的確に説明し、説得力をもって意見が言えるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・社会、文化に関するものを中心に様々な文章を読み、語彙を増やす。

・様々なテーマのTV番組を見て内容を理解し、文章にまとめる。

・読解教材、視聴教材をもとに、討論を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日頃から様々な話題に関心を持つこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点 (授業参加度等): 40%、課題・試験: 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の地理・気候風土
- 第3回 日本の食文化
- 第4回 日本の宗教
- 第5回 日本の伝統芸能
- 第6回 日本のポップ・カルチャー (1) —アニメ・漫画
- 第7回 日本のポップ・カルチャー (2) —芸能
- 第8回 日本のポップ・カルチャー (3) —ファッション
- 第9回 日本の教育
- 第10回 日本の経済・ビジネス
- 第11回 比較文化 (1) グループ発表・討論
- 第12回 比較文化 (2) グループ発表・討論
- 第13回 比較文化 (3) グループ発表・討論
- 第14回 比較文化 (4) グループ発表・討論
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10126001			
科目名	中国語V 中国語検定試験対策授業			
担当者	朱鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015 『語順から学ぶ中国語2改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015			
参考文献				
備考	『中国語IV』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業は中国語上級レベルの授業である。初級と中級を学習した教科書を利用して、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指して、必要な文法と単語を中心に学習することも本授業の目標の一つである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定試験準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また小テストも実施する予定。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業態度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 中国語検定試験準4級の単語-単語の範囲
- 第2回 中国語検定試験準4級の文法-肯定文、否定文
- 第3回 中国語検定試験準4級のリスニング-ピンインのリスニング
- 第4回 中国語検定試験準4級の漢字-中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第5回 中国語検定試験準4級の文章-読解
- 第6回 中国語検定試験準4級の翻訳-日本語から中国語へ
- 第7回 模擬テスト-2014年の過去問を中心に
- 第8回 中国語検定試験準4級の単語-単語の理解と覚え方
- 第9回 中国語検定試験準4級の文法-疑問文、仮定文
- 第10回 中国語検定試験準4級のリスニング-短文のリスニング
- 第11回 中国語検定試験準4級の漢字-書き方
- 第12回 中国語検定試験準4級の文章-作文
- 第13回 中国語検定試験準4級の翻訳-中国語から日本語へ

第14回 模擬テスト-2015年の過去問を中心に

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10126101			
科目名	中国語VI 中国語検定試験対策授業			
担当者	朱鳳			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『語順から学ぶ中国語1改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015 『語順から学ぶ中国語2改訂版』 朱捷 朱鳳 白帝社 2015			
参考文献				
備考	『中国語V』履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は中国語Vを受けた学生、あるいは同レベルに達した学生を対象にし、中国語検定試験準4級、4級を受けることを目標にする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

中国語Vに引き続き、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定試験準4級、4級と3級に必要な単語を覚え、文章の読解力をヒアリング能力を向上させる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業ごとに学生に宿題を用意している。繰り返し宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業態度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 中国語検定試験4級の単語-単語の範囲
- 第2回 中国語検定試験4級の文法-肯定文、否定文
- 第3回 中国語検定試験4級のリスニング-ピンインのリスニング
- 第4回 中国語検定試験4級の漢字-中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第5回 中国語検定試験4級の文章-読解
- 第6回 中国語検定試験4級の翻訳-日本語から中国語へ
- 第7回 模擬テスト-2014年の過去問を中心に
- 第8回 中国語検定試験4級の単語-単語の理解と覚え方
- 第9回 中国語検定試験4級の文法-疑問文、仮定文
- 第10回 中国語検定試験4級のリスニング-短文のリスニング
- 第11回 中国語検定試験4級の漢字-書き方
- 第12回 中国語検定試験4級の文章-作文
- 第13回 中国語検定試験4級の翻訳-中国語から日本語へ
- 第14回 模擬テスト-2015年の過去問を中心に
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10151001			
科目名	日本古代中世史A			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151002			
科目名	日本古代中世史B			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151101			
科目名	日本近世近代史A			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

皆さんの中には「歴史嫌い」の人も多いと思います。その原因は暗記中心の中・高校の歴史の授業にあると思います。私たちが進むべき正しい未来を選択するには、正しい現在社会の理解がまず必要です。これには当該の社会がどのように成立してきたかという、正しい歴史認識が必要不可欠です。すなわち歴史学は正しい歴史認識＝現在社会の理解のためという、すぐれて現在の学問なのです。本講義は従来歴史学が対象としなかった、日常性を重視した「身近な歴史学」を基本に進め、正しい日本（日本論）の理解を努めたいと思います。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 中・高校の日本史の授業のように、日本史は「政治過程の概観」（鎌倉幕府と朝廷との対立経緯等）、「政治制度の説明」（徳川将軍が大名を支配する幕藩体制等）、「経済構造の解説」（江戸時代の農業の発展等）、と考える歴史意識や先入観を排除することに重点を置く。
2. 身近なもののすべてに歴史があること＝多様な歴史の存在を認識してもらう。
3. 多様なものが連続あるいは消滅し、変化しつつ現在に至る点を理解してもらい、社会が不変でなく、未来に向かい変化していることを理解してもらう。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
 - (1) 配布プリントを使用し、講義形式で行う。必要に応じてビデオ等を使用する。
 - (2) 講義は従来の平安時代の歴史の次に、鎌倉時代が来るという時間経過の授業ではなく、身近な歴史を重視する立場から、5編のテーマにそった授業を行う。
 - (3) 毎講義終了時、小ペーパーに当該講義の意見を記述し提出してもらう。これは出欠確認でもある。
2. テキスト・文献等

テキストは特に使用しない。参考文献等は講義時に適宜紹介する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、確認テストまたはレポート（人数による）で行う。原則的にテストの点数で単位認定行う。
2. 講義3分の2以上の出席をテスト（レポート）の参加（提出）資格とする。
3. 毎講義時に提出してもらう当該講義の意見の記述は、特に必要と判断される場合に評価の参考とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 基礎知識編－身近な日本史について
- 第2回 生活編－トイレの文化史 (1) トイレの民俗、古代・中世
- 第3回 生活編－トイレの文化史 (2) 古代・中世
- 第4回 生活編－トイレの文化史 (3) 近世への展望
- 第5回 生活編－トイレの文化史 (4) きたない？文化史
- 第6回 自然編－犬と猫と鼠 (1) 中世前期
- 第7回 自然編－犬と猫と鼠 (2) 中世後期
- 第8回 自然編－犬と猫と鼠 (3) 変化する自然観
- 第9回 自然編－犬と猫と鼠 (4) 犬の骨から何がわかる
- 第10回 政治編－日本国はいつから (1) 倭国と日本国
- 第11回 政治編－日本国はいつから (2) 日本国ができる
- 第12回 社会編－環境という社会問題 (1) 環境問題とは
- 第13回 社会編－環境という社会問題 (2) 中世の自然と人間
- 第14回 社会編－環境という社会問題 (3) 近世の自然と人間
- 第15回 総まとめと確認テスト

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10151102			
科目名	日本近世近代史B			
担当者	大喜 直彦			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

皆さんの中には「歴史嫌い」の人も多いと思います。その原因は暗記中心の中・高校の歴史の授業にあると思います。私たちが進むべき正しい未来を選択するには、正しい現在社会の理解がまず必要です。これには当該の社会がどのように成立してきたかという、正しい歴史認識が必要不可欠です。すなわち歴史学は正しい歴史認識＝現在社会の理解のためという、すぐれて現在の学問なのです。本講義は従来歴史学が対象としなかった、日常性を重視した「身近な歴史学」を基本に進め、正しい日本（日本論）の理解を努めたいと思います。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 中・高校の日本史の授業のように、日本史は「政治過程の概観」（鎌倉幕府と朝廷との対立経緯等）、「政治制度の説明」（徳川将軍が大名を支配する幕藩体制等）、「経済構造の解説」（江戸時代の農業の発展等）、と考える歴史意識や先入観を排除することに重点を置く。
2. 身近なもののすべてに歴史があること＝多様な歴史の存在を認識してもらう。
3. 多様なものが連続あるいは消滅し、変化しつつ現在に至る点を理解してもらい、社会が不変でなく、未来に向かい変化していることを理解してもらう。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
 - (1) 配布プリントを使用し、講義形式で行う。必要に応じてビデオ等を使用する。
 - (2) 講義は従来の平安時代の歴史の次に、鎌倉時代が来るという時間経過の授業ではなく、身近な歴史を重視する立場から、5編のテーマにそった授業を行う。
 - (3) 毎講義終了時、小ペーパーに当該講義の意見を記述し提出してもらう。これは出欠確認でもある。
2. テキスト・文献等

テキストは特に使用しない。参考文献等は講義時に適宜紹介する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、確認テストまたはレポート（人数による）で行う。原則的にテストの点数で単位認定行う。
2. 講義3分の2以上の出席をテスト（レポート）の参加（提出）資格とする。
3. 毎講義時に提出してもらう当該講義の意見の記述は、特に必要と判断される場合に評価の参考とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 基礎知識編－日本史の現状と展望
- 第2回 生活編－見世物 (1) 見世物の時代
- 第3回 生活編－見世物 (2) 芸能と見世物
- 第4回 生活編－見世物 (3) 四条境界の話題

- 第5回 生活編－見世物 (4) 福祉の時代と見世物
- 第6回 自然編－カッパの話 (1) 人間と自然
- 第7回 自然編－カッパの話 (2) カッパの伝承
- 第8回 自然編－カッパの話 (3) カッパに出会った人々
- 第9回 自然編－カッパの話 (4) カッパのモデルになった人々
- 第10回 社会編－古文書を楽しむ (1) 本物の古文書と偽物の古文書
- 第11回 社会編－古文書を楽しむ (2) 江戸時代の女性の手紙を読む
- 第12回 政治編－切腹の心 (1) 本当にあった切腹
- 第13回 政治編－切腹の心 (2) 切腹の歴史
- 第14回 政治編－切腹の心 (3) 切腹の意味
- 第15回 総まとめと確認テスト

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10151201			
科目名	西洋史A イギリス文化史			
担当者	坂本 優一郎			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『イギリス文化史入門』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 1994 『イギリス文化史』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 2010 『路地裏の大英帝国—イギリス都市生活史—』 角山榮・川北稔 (編著) 平凡社 1982 『新版世界各国史11 イギリス史』 川北稔 (編) 山川出版社 1998 『世界各国歴史大系 イギリス史2—近世—』 今井宏 (編) 山川出版社 1990 村岡健次・木畑洋一 (編) 『世界歴史大系 イギリス史3—近現代—』 (山川出版社、1991年) 村岡健次・川北稔 (編著) 『イギリス近代史—宗教改革から現代まで—』 (ミネルヴァ書房、1986年) その他の参考文献は、講義中に指示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151202			
科目名	西洋史B イギリス文化史			
担当者	坂本 優一郎			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『イギリス文化史入門』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 1994 『イギリス文化史』 井野瀬久美恵 (編) 昭和堂 2010 『路地裏の大英帝国—イギリス都市生活史—』 角山榮・川北稔 (編著) 平凡社 1982 『新版世界各国史11 イギリス史』 川北稔 (編) 山川出版社 1998 『世界各国歴史大系 イギリス史2—近世—』 今井宏 (編) 山川出版社 1990 村岡健次・木畑洋一 (編) 『世界歴史大系 イギリス史3—近現代—』 (山川出版社、1991年) 村岡健次・川北稔 (編著) 『イギリス近代史—宗教改革から現代まで—』 (ミネルヴァ書房、1986年) その他の参考文献は、講義中に指示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

いわゆる「西洋史学」があつた空間は、ヨーロッパ大陸をはじめとして、近世・近代以降ヨーロッパ人が進出したほとんどすべての地域にわたる。この講義では、とりわけヨーロッパ文明を体現した近代イギリスの歩みに着

目し、文明としてのヨーロッパがいかに自己を形成し、さらには世界各地の地域と相互交渉をもつていたのかについて、歴史的に考察する。そのためには、政治・経済・社会の諸局面についてバランスがとれた理解が必要とされるが、本講義では「文化史」のアプローチを採用したい。ここでいう「文化史」とは、高等学校世界史における「偉大な文化人」が生み出した諸成果（ハイ・カルチャー）ではなく、社会の中で人びとが暗黙のうちに了解していた事項や社会の規範を歴史的に理解することを意味する。そのうえで、社会学や人類学・文学といった歴史学に隣接する諸科学の成果を援用しつつ、近代イギリスの歴史的経験を「文化史」の立場から総合的に理解することを目的とする。講義では、もっぱらイギリスの歴史的な経験がとありあつかわれる。したがって、高等学校の「世界史」のような各国別の歴史が展開されるわけではないことに留意されたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. イギリスの近世から現代に至る基本的な歴史について理解を深める。
2. 歴史学の理論的な側面（政治史・経済史・社会史・文化史）を、近現代イギリスの事例に即して理解する。
3. イギリス帝国の歴史的な経験から、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との接触・相互交渉・衝突について理解する。
4. 「文化史」と隣接諸科学との関係を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
 - (1) 講義形式で授業をすすめる。基本的にパワー・ポイントを援用する。
 - (2) 視覚資料（画像・写真・ビデオ・映画など）をできるだけ利用する。
 - (3) 宿題を課し、報告してもらうことがある。
 - (4) 講義の進め方などについてアンケートをおこない、可能な限りフィードバックする。
2. 学習の方法
 - (1) 参考文献を利用して、講義内容を確認することが推奨される。
 - (2) わからない点については、講義終了時に積極的に質問することが望まれる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回の授業冒頭でその回のポイントを1～3点ほど明示する。それらのポイントにそくして前回の授業内容を整理し復習したうえで、授業に臨むことが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート（100%）によって評価する。なお、正当な理由がない欠席が5回以上におよんだ場合は、単位は認定されない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入－イギリスという国－
- 第2回 イギリス社会のありかた
- 第3回 民衆文化論（1）：歴史学・史料・「民衆文化」
- 第4回 民衆文化論（2）：「妻売り」
- 第5回 民衆文化論（3）：シャリヴァリと民衆文化論
- 第6回 民衆文化論（4）実践編：ホガスと民衆文化
- 第7回 帝国と文化（1）：18世紀の物質文化—茶とコットン
- 第8回 帝国と文化（2）：「アメイジング・グレイス」の世界1 奴隷制と奴隷貿易
- 第9回 帝国と文化（3）：「アメイジング・グレイス」の世界2 奴隷制の廃止とウィリアム・ウィルバーフォース
- 第10回 帝国と文化（4）：19世紀の精神文化と20世紀の衰退
- 第11回 現代イギリスと文化（1）：衰退するイギリスと国際関係
- 第12回 現代イギリスと文化（2）：ジェントルマンと労働者階級
- 第13回 現代イギリスと文化（3）：都市と農村
- 第14回 現代イギリスと文化（4）：エスニック・マイノリティ
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義中の私語と携帯電話の使用など、他の受講生に迷惑を及ぼすと考えられる行為は厳禁する。目に余る場合は、退場の上、以後の受講を認めない場合もありうる。

講義コード	10151301		
科目名	東洋史 20世紀の中国		
担当者	小都 晶子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『新・図説 中国近現代史：日中新時代の見取図』 田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司 法律文化社 2012年		
参考文献	別途指示する		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力		
	思考・解決する力	✓	
	共生・協働する力		✓

1. Course Description (科目の教育目標)

20世紀の中国は大きく変化した。清朝の崩壊から、日中戦争をへて、戦後は社会主義による独自の発展と混乱の時代を経験してきた。さらに近年は、社会主義市場経済による新たな発展の方向を模索している。本講義の目的は、日本と一衣帯水の関係にある中国の近現代史を理解し、あわせて現在の中国に対する認識を深めることである。受講者には、中国の近代を日本のそれとは異なるものとして把握し、国際的視野に立って、日本と中国、日本とアジアの関係を見直すための契機としてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 中国近現代史の流れを習得する。
- 中国近現代史に対する理解を通して、現在の中国、さらに現在の日中関係についての認識を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・授業方法

- ①授業はパワーポイントを利用した講義形式で実施する。
- ②随時、関連する映像資料を見る。
- ③プリントを配布する。

・学習方法

- ①講義を通して、中国近現代史に関する理解を深める。
- ②授業で理解を深められたこと、疑問点などを数回実施の課題によって提出する。
- ③授業で取り上げられた個別の内容を学習し、定期試験を受ける。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、授業後にテキストの該当部分を読んでしっかりと復習すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績は、定期試験(50%)、授業時の課題(数回実施、50%)の総合評価とする。また欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として成績評価の対象としない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 近代世界と中国
- 第2回 清朝の斜陽
- 第3回 世界秩序の変動
- 第4回 革命と中国の出發
- 第5回 北洋軍閥政権
- 第6回 「南京の十年」
- 第7回 重慶政権と「八年抗戦」
- 第8回 内戦と革命をめぐる中国政治
- 第9回 中華民国期「中国」の諸相
- 第10回 社会主義建設期
- 第11回 改革開放政策の開始
- 第12回 社会主義市場経済への転換
- 第13回 台湾・香港の60年
- 第14回 グローバル化の時代：21世紀の中国
- 第15回 日中新時代の見取図

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10151401		
科目名	日本文学		
担当者	長沼 光彦		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	プリント配布		
参考文献	『読むための理論』 石原千秋・他 世織書房 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 『小説の方法』 真銅正宏 萌書房		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

日本文学には、様々な表現がある。まずは高校の教科書に載っていた小説や詩、物語や短歌だけが文学ではないことは知っておこう。文学に対する考え方は時代によって異なる。現在の評論や研究の世界では、大衆文学やライトノベルを取り上げるものもあり、文学の概念は以前よりも広がっている。本講義では、日本の近現代文学を中心に、文学表現とは何かを考える。その際に、マンガや映画など他の文化表現をとりあげる場合もあるが、主たる課題は、日本文化における言語表現の特徴を考えることである。小説の表現上の工夫など、日本語による文章表現の方法に興味を持つ学生に受講を勧める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・文学表現の鑑賞法を知り、表現の豊かさを理解する。
- ・具体的な文学表現にふれ、日本文学の特徴を理解する。
- ・近年の批評・研究を参照し、日本文学の今日的意義を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・配布したプリントにより、様々な文学表現に実際に触れ、講義をとおして、文学表現に対する理解を深める。

・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に関わる簡単なワーク作業を行うか、または感想・意見をまとめて提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・授業で紹介した参考文献や小説作品を実際に自分で読んでみる。
- ・紹介したもの以外にも読書体験を広げ、日本語表現について自分の考えをまとめる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、毎時間の意見文(30%)、学期末のレポート(40%)により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 文学とは何か
- 第2回 小説の三人称と一人称
- 第3回 描写とは何か
- 第4回 風景描写と心理描写
- 第5回 描写論の生まれた時代背景
- 第6回 日本近代小説の始まり
- 第7回 近代小説の様々な表現論
- 第8回 文学思想と表現
- 第9回 客観性と主観性
- 第10回 写実と描写
- 第11回 写生論
- 第12回 夢の表現
- 第13回 一人称と語り
- 第14回 様々な表現の可能性
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

講義コード	10151501			
科目名	外国文学			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「レ・ミゼラブル」にチャレンジ

ビクトル・ユゴーの代表作、その舞台は19世紀フランス、徒刑囚ジャンバル・ジャンの物語。ブロードウェイ（ニューヨーク）とウェスト・エンド（ロンドン）のロングラン・ミュージカル。映画化されて、世界的に大ヒット。フランス語の原作が英語で舞台化そして映画化され、グローバルに注目を浴びた長編小説、それに挑みましょう。ただし、日本語訳を読みます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 オンライン上の無料テキストをダウンロード。
- 2 英訳もダウンロード。
- 3 グループ担当部分を決める。
- 4 担当部分の紹介・解説。
- 5 作品全体のレビュー。
- 6 作品のテーマについて議論。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストをオンライン上に探し、ダウンロードして、「読む」。読み取ったことを発表。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストは前もって味読しておきましょう。英訳テキストを適宜参照します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

テスト（プレゼンテーションを含む）が評価の70パーセント。授業参加度が30パーセント。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 テキスト、日本語訳のダウンロード。「青空文庫」に所蔵の日本語訳を選ぶ。
- 第2回 英語テキストのダウンロード。オンライン・ライブラリである"Project Gutenberg"に所蔵の英語訳を選ぶ。
- 第3回 日本語訳の章立てに沿って担当部分決定する、担当はグループ単位とする。
- 第4回 第1回プレゼンテーション。作品のプロット（粗筋）を簡潔に書き表す。（その1）ジャンバルジャンの変身、徒刑囚から企業家への。
- 第5回 第2回プレゼンテーション。作品のプロット（粗筋）を簡潔に書き表す。（その2）市街戦（パリコミューン）と主要人物たちの生き方と死にざま。
- 第6回 第3回プレゼンテーション。中心的登場人物の人物像を簡潔に表す。（その1）。特に、ジャン・バル・ジャンを中心に。
- 第7回 第4回プレゼンテーション。中心的登場人物の人物像を簡潔に表す。（その2）。とくに、ジャベールを中心に。
- 第8回 第5回第一回プレゼンテーション。作品のテーマにつて発表。
- 第9回 第6回第二回プレゼンテーション。作品の背景について発表。パリの市街戦の原因を中心に。
- 第10回 第1回作品全体のレビュー1。徒刑囚、ジャン・バル・ジャンの市民性と宗教性を中心に。
- 第11回 第2回作品全体のレビュー2。19世紀フランスの社会変動と市民としてのジャン・バル・ジャンの養女コゼットの恋に焦点を当てて。
- 第12回 19世紀前半のフランスの市民革命史とレ・ミゼラブルとの関係について解説。
- 第13回 ビクトル・ユゴーの紹介と解説。ユゴーの波乱万丈の生涯と作品レ・ミゼラブル誕生について。
- 第14回 小説黄金時代である19世紀とユゴーをはじめとするフランス小説史の紹介と解説を兼ねて、例えば、スタンダールの作品、「赤と黒」とレ・ミゼラブルの比較を試みる。
- 第15回 まとめ。ミュージカル版レ・ミゼラブルと原作の比較。市街戦の、あるいは下水道の描写を比べてみる。

6. Special Information (留意事項)

スマホやタブレットを所持しない学生は、オンラインからダウンロードし

て印刷で対応できます。あるいは、本を購入。

講義コード	10151601			
科目名	文章表現法A 日本語アカデミック・ライティング入門			
担当者	久保 圭			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[国][情]			
前提科目				
テキスト	プリントなど、資料は授業内で随時配布する。			
参考文献				
備考	定員50人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151602			
科目名	文章表現法B 日本語アカデミック・ライティング入門			
担当者	久保 圭			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[国][情]			
前提科目				
テキスト	プリントなど、資料は授業内で随時配布する。			
参考文献				
備考	定員50人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

レポートや論文など、大学生に求められるアカデミック・ライティングに必要な基礎的な能力（語彙力、表現力、文章構成力、論理的思考力、批判的思考力など）の総合的な向上を目標とする。さまざまな事柄に対して思考をめぐらせ、自らの主張をわかりやすく正確な文章で伝えることができるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 日本語文章作成における基礎的な能力（語彙力、表現力、文章構成力など）を養う
- 2) 資料や文献から必要な情報を選び取り、適切な形式で利用できるようになる
- 3) 基本的な文章構成について学ぶことで、より伝わりやすい論述ができるようになる
- 4) 大学生活や実社会におけるさまざまな文章表現に対し、柔軟かつ適切に対応することができる素地を身につける

3. Course Method (教育・学習の方法)

本科目では、講義によって文章表現のルールやマナーについての理解を深め、また、指定されたテーマについて文章を作成することにより文章表現力を磨いていく。最終試験として予定している自由課題文では、各自でテーマを設定し、講義内容を活用して文章を作成する。

なお、授業内容についての理解を確認するための小テストを定期的実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1) 指定された課題文のテーマに関する知識と見識を深めるための努力をすること。課題文は、基本的に授業時間内で作成するように計画されているが、時間内に作成できなかった場合、次の授業までに完成させ、提出するようにする（原則として、それ以降の提出は認めない）
- 2) 小テストによって授業内容への理解を確認することがあるので、必ず復習をすること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

積極性（15%）、小テスト（15%）、課題などの提出物（40%）、自由課題文（30%）から評価を算出する。全授業回数2/3以上の出席、および最終試験である自由課題文の提出が単位取得の条件となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス／作文とレポート・論文との違い
- 第2回 レポート・論文に求められる思考
- 第3回 引用のルール／参考文献リストの書きかた
- 第4回 他者の主張を正しく理解する
- 第5回 他者の主張を批評する／反論と指摘
- 第6回 論理的な表現とは／話し言葉と書き言葉
- 第7回 自由課題文の作成①：課題の発見とリサーチ・クエスチョン
- 第8回 リサーチ・クエスチョンから調査方針を決める

- 第9回 情報を集める／必要な情報を選び取る
- 第10回 リサーチ・クエスチョンを再検討する
- 第11回 自由課題文の作成②：アウトラインを書く
- 第12回 伝わりやすい展開を考える／章立てをする
- 第13回 自由課題文の作成③：推敲する
- 第14回 レポート・論文と卒業論文との違い／さまざまな文章表現
- 第15回 自由課題文の発表と評価／まとめ

- 第13回 行政法（2）行政不服審査、行政訴訟
- 第14回 社会福祉と法（1）
福祉サービスの基本構造
- 第15回 社会福祉と法（2）
福祉サービスを提供する側の法律問題
福祉サービスを受ける側の法律問題

6. Special Information (留意事項)

6. Special Information (留意事項)

- 1) 初回の授業から参加すること
- 2) 情報演習室を使用して講義をおこなう場合がある。教室変更の連絡は適宜おこなうが、各自での確認も怠らないようにすること

講義コード	10151701		
科目名	法学概論 法の役割 特に日常生活において問題となる法律問題の検討		
担当者	上北 武男		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	特になし。教材として、資料を配布する。		
参考文献	学習用六法（ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）などから各自選択） 他に、参考資料を配布する予定		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

講義コード	10151801		
科目名	日本国憲法A 憲法と人権		
担当者	横山 真紀		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『18歳から考える人権』 戸常寿（編） 法律文化社 2015		
参考文献	授業中、必要に応じて指示します。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 社会生活における法の作用や役割について理解する
2. 憲法、民法及び行政法の基礎を学ぶ
3. 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、社会福祉士に必要な知識を身につける

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 法に対する違和感をなくする
2. 憲法と法律の関係を知る
3. 取引の世界での法の役割を学ぶ
4. 家族関係を規律する法を学ぶ
5. 日常生活から生ずる争いの解決方法を知る
6. 裁判所による争いの解決方法を学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

受講者の数にもよるが、多人数でなければ、講義とディスカッション（双方向授業）を併用する。可能なかぎり受講者に発言の機会を与える。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

配布資料がある場合には、内容が正確に理解できなくても予め読んでくること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート1回 (20点)

期末試験 80点

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会生活と法
法化社会、日常的な法律問題
- 第2回 憲法（1）基本原理
国民主権、平和主義
- 第3回 憲法（2）基本的人権
人権不可侵、個人の尊重、男女平等、自由権、生存権、参政権
- 第4回 憲法（3）基本的人権と公共の福祉
- 第5回 憲法（4）議院内閣制、統治組織
- 第6回 民法（1）総則（成年後見を含む）
私権と公共の福祉、信義誠実の原則、権利濫用の禁止、個人の尊厳
- 第7回 民法（2）物権
所有権の絶対、担保物権（先取特権、抵当権など）
- 第8回 民法（3）契約
売買、賃貸借、借地借家法、雇傭、労働契約
- 第9回 民法（4）不法行為
過失責任、無過失責任、損害賠償義務の範囲
- 第10回 民法（5）親族
親子、婚姻、離婚、養子縁組など
- 第11回 民法（6）相続
法定相続分、遺言、遺言の方式
- 第12回 行政法（1）行政法学、行政手続
行政処分、行政裁量、行政手続法

講義コード	10151802		
科目名	日本国憲法B 憲法と人権		
担当者	横山 真紀		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『18歳から考える人権』 戸常寿（編） 法律文化社 2015		
参考文献	授業中、必要に応じて指示します。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「憲法」は国の基本法です。その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書です。皆さんのこの授業での目的は、このような「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方があるのかを学ぶことにあります。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①憲法とは何か ②権力分立の意義 ③人権保障の意義 ④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考える） ⑤国際社会における日本国憲法（特に人権の視点から）

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストには具体例があがっており、それに関連する憲法の条文の意味や内容などを考えていきます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指定テキストの該当箇所を毎回、目をおしてもらうために、「講義ノート」（授業初回の際に説明します）の簡単な課題を考えてきてもらいます。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則、期末試験で評価します。試験は文章で書かれて文章で説明するものです。（*成績評価の方法は、開講後、履修登録者の人数によっては変更されることもあります。）

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義ガイダンス（授業の進め方等の説明、法学の入門的な話）
- 第2回 憲法とは何か
- 第3回 憲法の歴史
- 第4回 基本的人権とは何か
- 第5回 法の下での平等
- 第6回 思想・良心の自由
- 第7回 信教の自由・政教分離
- 第8回 表現の自由（特に差別的表現の問題）
- 第9回 職業選択の自由
- 第10回 教育を受ける権利
- 第11回 生存権（社会保障の仕組み）
- 第12回 国会の仕組み
- 第13回 議院内閣制

第14回 裁判所
第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業予定は、開講後、変更されることがあります。

講義コード	10151901		
科目名	経済学概論A 経済学の基本的な考え方を学ぼう		
担当者	小島 秀信		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日][情][プ]		
前提科目			
テキスト	特になし		
参考文献	『マンキュー 入門経済学』 グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2008年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10151902		
科目名	経済学概論B 経済学の基本的な考え方を学ぼう		
担当者	小島 秀信		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日][情][プ]		
前提科目			
テキスト	特になし		
参考文献	『マンキュー 入門経済学』 グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2008年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

社会人として企業などで活躍するためには、何といても経済に関する知識が不可欠である。本講義では、経済学の基本的な考え方を分かりやすく解説し、社会情勢や経済ニュースを深く理解できる「力」を習得することを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・経済学の考え方の基礎を学ぶ
- ・家計や企業の行動から経済政策まで、その仕組みを理論的に学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義は基本的にレジュメ中心で行う予定であるが、必要に応じて参考文献を紹介する。

難しい数学を用いず、分かりやすさ第一で講義する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業は、前回までの授業内容を理解しているという前提で行われるため復習を心がけること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席・アンケート (平常点: 30%)

期末のまとめの確認テスト (平常点: 70%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション～経済学とは～
- 第2回 経済学の考え方
- 第3回 インフレとデフレ
- 第4回 GDPとは
- 第5回 お金とは
- 第6回 中央銀行の働き
- 第7回 金融政策
- 第8回 IS-LM分析とは
- 第9回 無差別曲線とは
- 第10回 所得と財
- 第11回 企業の意思決定のしくみ
- 第12回 市場の効率性
- 第13回 財政のはたらき
- 第14回 国際経済の考え方
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・授業中は周りの人に迷惑をかける行為をしないようにすること。
- ・授業予定については、進行の都合により、大幅に変更される可能性がある

ある。

講義コード	10152001		
科目名	社会学概論		
担当者	翁 和美		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[社][精][情][プ][日]		
前提科目			
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	適宜指示する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「社会とは何か」と問われれば、多くの人は、答えに窮するだろう。それは、自らが生まれ育ち所属する社会が私たちにあって自明であり、その自明性を問いかけることがないほど私たちが社会化されているからである。程度の差はあれ、私たちは誰しもが社会的存在である。この講義では、社会的存在である人間を理解することを第一の目的にする。先人がいかに社会を明らかにし、それと向き合ってきたのかをたどるとともに、私たちが生きている現代社会の具体的な状況・文脈を取り上げて「社会とは何か」を考えていく。本講義を通じて、受講生は自分なりの社会のイメージや概念を培うことが求められる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

社会的存在である人間を理解するための補助線となる用語や概念をあつかうことができるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回テーマに合わせて、講義形式で解説を行なう。また、講義中に学生が意見を提示し合う機会やディスカッションする機会を設ける。講義後、受講生は、リアクション・ペーパーを作成することが指示されることがあるが、そこに他受講生の意見やディスカッションを通じて深めた自身の考えを表明するとともに不明な点について質問をするようにする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

準備学習は必要ない代わりに、しっかり復習をするようにする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

リアクション・ペーパー (配分: 30%) と最終課題 (配分: 70%) で総合的に評価する。リアクション・ペーパーに関しては、回を重ねるにしたがって配点を高くする。最終課題は、リアクション・ペーパーの内容に応じて決定する。なお、欠席回数による失格条件は設定しないが、リアクション・ペーパーの提出が評価に反映する一方、講義内容を反映していない最終課題は無効となるので、欠席は失格につながる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会と社会学
- 第2回 産業社会とその組織
- 第3回 ジェンダー
- 第4回 教育と学校制度
- 第5回 近代国民国家と民族
- 第6回 大衆社会論
- 第7回 文化と貧困
- 第8回 逸脱・選別と排除のメカニズム
- 第9回 家族
- 第10回 応用1: 自己決定・自己責任論
- 第11回 応用2: 介入と他者関係性
- 第12回 精神医学と精神医療 (1) 教材の視聴
- 第13回 精神医学と精神医療 (2) 教材の解説
- 第14回 認知症患者と福祉の場
- 第15回 応用3: 私的領域の社会化

6. Special Information (留意事項)

講義予定は受講生の状況によって変更する。とりわけ、応用編と実践編は、受講生のリアクション・ペーパーの内容に応じて決定する。実習や就職活動などで長期に欠席する場合は単位修得に影響するので事前に相談するようにする。

講義コード	10152101			
科目名	文化人類学A 文化をテロに結び付けないために			
担当者	橋 健一			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは用いないが、資料やレジュメを適宜配布する。			
参考文献	『神話と意味』 レヴィ=ストロース みすずライブラリー 『身体の零度』 三浦雅士 講談社選書メチエ 『定本想像の共同体』 ベネディクト・アンダーソン 書籍工房早山			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152102			
科目名	文化人類学B 文化をテロに結び付けないために			
担当者	橋 健一			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは用いないが、資料やレジュメを適宜配布する。			
参考文献	『神話と意味』 レヴィ=ストロース みすずライブラリー 『身体の零度』 三浦雅士 講談社選書メチエ 『定本想像の共同体』 ベネディクト・アンダーソン 書籍工房早山			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

文化は、本来創造的なもので、私たちに人間的なつながりをもたらしてくれる。だが文化は、一歩間違えると他者との争いに結びつき、文化が原因でテロに至ることもある。この授業では、参加者が、文化の基本的な調べ方と考え方を学んだ上で、文化が争いに結びつく条件を理解し、文化を創造的に開いていく道筋を理解することを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・文化進化論、文化機能主義、構造主義、記号論といった文化人類学の理論の基本を理解する。
- ・文化資料の蒐集と分類、機能主義的分析、記号論的分析の手法の基礎を習得する。
- ・神話、儀礼、身体加工、交換贈与、貨幣、資本主義、産業社会の構造を理解する。
- ・現代のナルシズムや紛争・テロなどの問題と文化との関係を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、豊富な具体的資料(映像中心)を紹介、分析を進めつつ、個別の課題について問題提起する。受講者も、ファッションの問題などを通し、今の時代を考えることが求められる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

芸術家の岡本太郎氏はかつてバリで文化人類学を学び、「獣の奏者エリン」で知られる童話作家の上橋菜穂子氏は文化人類学者でもある。両氏の著述に目を通しておくことで、授業の理解が容易になるので、お勧めしたい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の提出物や授業時間内の課題などから授業の参加度、理解度を確認し、評価をおこなう。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 文化とは何か? : 動物と人間の境界を考える。
- 第2回 世界の文化を集めよう : 民族博覧会の方法。
- 第3回 文化進化論と機能主義 : 異文化をどう考えるか?
- 第4回 文化が何の役に立っているのか考えよう : 社会構造の調査方法。
- 第5回 構造主義と記号論 : 文化の仕組みを考える。
- 第6回 人はなぜ昔話や神話を語るのか? : 昔話や神話の仕組みを考える。
- 第7回 人はなぜ儀礼をおこなうのか? : 儀礼の仕組みを考える。

- 第8回 人はなぜ装うのか? : 伝統的ファッションの仕組みを考える。
- 第9回 人はなぜ贈り物をするのか? : 贈与の仕組みを考える。
- 第10回 人はなぜ交換するのか? : 市の仕組みを考える。
- 第11回 人はなぜお金を使うのか? : 貨幣の仕組みを考える。
- 第12回 人はなぜお金儲けに励むのか? : 資本主義の仕組みを考える。
- 第13回 人はなぜ個性を求めるとのか? : 近代的ファッションの仕組みを考える。
- 第14回 人はなぜ傷つけ合うのか? : 現代の民族紛争、人種差別について考える。
- 第15回 人はどうしたらわかりあえるのか? : 文化の違いと交渉可能性を考える。

6. Special Information (留意事項)

この講義は、「文化の調べ方」「文化についての考え方」を学ぶことを目指しているため、異文化を紹介する授業ではないことを理解して受講してほしい。

講義コード	10152201			
科目名	女性学概論A 歴史における日米の女性			
担当者	寺西 みどり			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	特定のテキストはない			
参考文献	随時紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152202			
科目名	女性学概論B 歴史における日米の女性			
担当者	寺西 みどり			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	特定のテキストはない			
参考文献	随時紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

男性中心とされる歴史において女性性は社会とどのように係わりいかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を歴史的に考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会や、修道女考察も行なう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 女性学・女性史の始まり
2. 女性と社会進出・女性解放運動
3. アメリカ史・日本史の概観、社会背景と女性の変容を考察する
4. 修道女の場合
5. 映画鑑賞や読書により、個別の女性の生涯について考えたり、職業と家庭について考える

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義を中心とする
2. 映画鑑賞と講義内容を関連づける

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 「アメリカ文化」を自分なりにイメージしてみる。
2. 日本史の流れ(高校教科書の目次程度でよい)に目を通しておくこと。上記二点は発表や提出課題ではなく、講義を聴きやすくするためです。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が全授業回数の3分の1を超えると原則として評価対象外とする。
2. 期末のレポート(複数の課題を出す)で評価を行なう。レポートは授業内容に基づいて書くことを前提とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 コース概説・女性学とは・女性学の歴史・女性の分類
- 第2回 アメリカの女性:フェミニズム第1波
- 第3回 アメリカの女性:19世紀

- 第4回 アメリカの女性:フェミニズム第2波
 第5回 映画鑑賞:フェミニズム第2波の流れとしての女性心理
 第6回 日本の女性:平安時代~江戸時代
 第7回 日本の女性:明治時代~現代
 第8回 映画鑑賞:平塚らいてうと市川房枝
 第9回 TV番組鑑賞:現代日本女性の職業と子育てに関する座談会
 第10回 映画鑑賞1:職業や家庭生活について現代アメリカの男女の意識
 第11回 映画鑑賞2:職業や家庭生活について現代アメリカの男女の意識
 第12回 修道女概論
 第13回 映画鑑賞:第二次世界大戦以前のヨーロッパの修道院生活
 第14回 映画鑑賞:前回に続く、修道女の社会的使命と個人的感情について
 第15回 ノートルダム教育修道女会について

6. Special Information (留意事項)

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

講義コード	10152301			
科目名	ボランティア概論A 共に生きる道			
担当者	沼野 尚美			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。例題・例示をあげる。			
参考文献	『人の生き方としてのボランティア』 徳久球雄編 嵯峨野書院 1997 『ボランティアのための福祉心理学』 藤野信行 NHK出版 2000			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152302			
科目名	ボランティア概論B 共に生きる道			
担当者	沼野 尚美			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。例題・例示をあげる。			
参考文献	『人の生き方としてのボランティア』 徳久球雄編 嵯峨野書院 1997 『ボランティアのための福祉心理学』 藤野信行 NHK出版 2000			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

キリスト教に影響された西欧倫理を土台にもつボランティアの性格は、日本において変化がみられ、ボランティア理解はあいまいである。ボランティアは、自由や正義のために、またよりよい社会のために、自ら進んでする活動であり、共に生きる社会の実現をめざし、相手の立場に立ってものを考え行動する心のはたらきが不可欠である。ここではまず基礎から、ボランティアの根本精神の理解と、多種のボランティア活動への認識に入ろうとするものである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. ボランティアの理念とは何かを理解する。
2. 共に生きる心を、聖書から理解する。
3. ボランティア活動には多種類あり、一人ひとりが必要とされていることを知る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
講義形式とする。
2. 学習方法
(1) 大切な根本精神を理解するよう努力すること。
(2) 講義内容を知識として留めるだけでなく、活動に参加してみようと考えることが大切である。

3. テキスト・参考文献

テキストは使用しない。例題・例示をあげる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ① 講義内容を家族や友達同志と話し合う。
- ② 講義内容にそった本を読んでみる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度 (40%)、レポート (50%)、クラス・レスポンス (10%) に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は減点対象となる。

欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ボランティアとは (語源、性格)
- 第3回 ボランティアとは (役割、思想)
- 第4回 ボランティアと聖書との関係
- 第5回 ボランティアと聖書のたとえ話
- 第6回 ボランティアと人との関わり
- 第7回 日本国内ボランティア活動の種類
- 第8回 NGOとNPO
- 第9回 ホスピスボランティア
- 第10回 ボランティア・コーディネーターとは
- 第11回 自立への援助とは
- 第12回 ボランティア活動の心得え
- 第13回 障がい者と共に生きるとは
- 第14回 高齢者と共に生きるとは
- 第15回 まとめと補充

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10152401			
科目名	情報処理A ~ネットワークリテラシーを身につける~			
担当者	伊藤 泰子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[教][情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	『改訂新版インターネット講座』 吉田智子 他著 北大路書房 2014			
参考文献				
備考	定員26人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152402			
科目名	情報処理B ~ネットワークリテラシーを身につける~			
担当者	伊藤 泰子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[教][情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	『改訂新版インターネット講座』 吉田智子 他著 北大路書房 2014			
参考文献				
備考	定員26人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10152403		
科目名	情報処理C ～ネットワークリテラシーを身につける～		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『改訂新版インターネット講座』 吉田智子 他著 北大路書房 2014		
参考文献			
備考	定員26人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152404		
科目名	情報処理D ～ネットワークリテラシーを身につける～		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『改訂新版インターネット講座』 吉田智子 他著 北大路書房 2014		
参考文献			
備考	定員26人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

インターネット上で使えるさまざまなサービス(機能)は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力(ネットワークリテラシー)を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・大学で利用するパソコンのOS (Windows と Linux)
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・Webページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解

- ・プログラミング実習(体験)
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・HTMLとCSSによるWebページ制作実習

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、レポート・課題(20%)、期末試験(50%)の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コンピュータの基礎知識
- 第3回 インターネット上の機能(電子メール、Webページなど)の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第4回 ディレクトリ(フォルダ)の階層構造の理解
OS(WindowsとUnix系OS)の理解、起動と切り替え
- 第5回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割

- 第6回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第7回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第8回 Webページ制作実習(1) HTML基本
- 第9回 Webページ制作実習(2) HTML応用
- 第10回 Webページ制作実習(3) CSS基本
- 第11回 Webページ制作実習(4) CSS応用
- 第12回 プログラミング実習
- 第13回 Webページ課題作成(1) サイト企画
- 第14回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
- 第15回 ファイル転送によるWebページの学内公開、まとめ

6. Special Information (留意事項)

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

講義コード	10152405		
科目名	情報処理E ～ネットワークリテラシーの習得とプログラミング体験～		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『改訂新版 インターネット講座』 吉田智子、他著 北大路書房 2014		
参考文献			
備考	定員26人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152406		
科目名	情報処理F ～ネットワークリテラシーの習得とプログラミング体験～		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『改訂新版 インターネット講座』 吉田智子、他著 北大路書房 2014		
参考文献			
備考	定員26人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152408		
科目名	情報処理H ～ネットワークリテラシーの習得とプログラミング体験～		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[教][情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	『改訂新版 インターネット講座』 吉田智子、他著 北大路書房 2014		
参考文献			
備考	定員26人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

インターネット上で使えるさまざまなサービス(機能)は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力(ネットワークリテラシー)を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する

方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。

さらに、コンピュータの本質を理解するために、PEN(Programming Environment for Novices)と呼ばれる初学者向けプログラミング環境を用いた、実習も行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・大学で利用するパソコンのOS (Windows と Linux)
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・Webページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング体験 (入門と活用)
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・HTMLとCSSによるWebページ制作実習

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、レポート・課題 (20%)、まとめとしての期末試験 (50%) の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、コンピュータの基礎知識
- 第2回 インターネット上の機能 (電子メール、Webページなど) の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第3回 OS (Windows と Linux) の理解、起動と切り替え、ディレクトリ (フォルダ) の階層構造の理解
- 第4回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解
- 第5回 プログラミング入門(1) ~PENを用いてマイコンボード制御 マイコン基礎~
- 第6回 プログラミング入門(2) ~PENを用いてマイコンボード制御 逐次処理~
- 第7回 プログラミング入門(3) ~PENを用いてマイコンボード制御 繰り返し処理~
- 第8回 プログラミング入門(4) ~PENを用いてマイコンボード制御 条件分岐~
- 第9回 プログラミング活用 ~マイコンボード制御の活用~
- 第10回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第11回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第12回 HTMLとCSSによるWebページ制作実習(1)~HTMLによるWebページの作成~
- 第13回 HTMLとCSSによるWebページ制作実習(2)~CSSによるWebページの装飾~
- 第14回 ファイル転送によるWebページの学内公開
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

講義コード	10152407			
科目名	情報処理 G ~ネットワークリテラシーの習得とプログラミング体験~			
担当者	中村 亮太			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[教][情][日][ウ]			
前提科目				
テキスト	『改訂新版 インターネット講座』 吉田智子、他著 北大路書房 2014			
参考文献				
備考	定員26人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

インターネット上で使えるさまざまなサービス (機能) は、新しいコミュ

ニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力 (ネットワークリテラシー) を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。

さらに、コンピュータの本質を理解するために、PEN(Programming Environment for Novices)と呼ばれる初学者向けプログラミング環境を用いた、実習も行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・大学で利用するパソコンのOS (Windows と Linux)
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・Webページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング体験 (入門と活用)
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・HTMLとCSSによるWebページ制作実習

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加 (30%)、レポート・課題 (20%)、まとめとしての期末試験 (50%) の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、コンピュータの基礎知識
- 第2回 インターネット上の機能 (電子メール、Webページなど) の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第3回 プログラミング入門(1) ~PENを用いてマイコンボード制御 マイコン基礎~
- 第4回 プログラミング入門(2) ~PENを用いてマイコンボード制御 逐次処理~
- 第5回 プログラミング入門(3) ~PENを用いてマイコンボード制御 繰り返し処理~
- 第6回 プログラミング入門(4) ~PENを用いてマイコンボード制御 条件分岐~
- 第7回 プログラミング活用 ~マイコンボード制御の活用~
- 第8回 OS (Windows と Linux) の理解、起動と切り替え、ディレクトリ (フォルダ) の階層構造の理解
- 第9回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解
- 第10回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第11回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第12回 HTMLとCSSによるWebページ制作実習(1) ~HTMLによるWebページの作成~
- 第13回 HTMLとCSSによるWebページ制作実習(2) ~CSSによるWebページの装飾~
- 第14回 ファイル転送によるWebページの学内公開
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

講義コード	10152501		
科目名	地球と宇宙の科学A 地球環境のしくみ		
担当者	玉井 雅人		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	使用しない。		
参考文献	『地震・プレート・陸と海-地学入門-』 深尾良夫 岩波書店 1985 『新版地球進化論』 松井孝典 岩波書店 2010 その他は、必要があれば授業中に紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10152502		
科目名	地球と宇宙の科学B 地球環境のしくみ		
担当者	玉井 雅人		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	使用しない。		
参考文献	『地震・プレート・陸と海-地学入門-』 深尾良夫 岩波書店 1985 『新版地球進化論』 松井孝典 岩波書店 2010 その他は、必要があれば授業中に紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

地球環境がどのように機能しているのかを学び、その科学的な理解を深めることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 地球内部の構造と大地の動きについて理解し、それに基づいて、地殻変動現象(地震・火山活動・造山運動)のしくみを説明できる。
- 大気と太陽エネルギーの性質について理解し、それに関連した地球環境問題(オゾン層の破壊・地球温暖化)を考えるための科学的基礎を養う。
- 地球形成時と現在の地球環境の比較を通じて、大気の進化と生命との関係性を概観できる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 授業方法: 講義形式で行う。必要な場合は資料プリントを配布する。
- 学習方法: 授業中は、講義内容を、その場で理解するように努めること。授業後には、ノートや資料プリントを見直して、理解を確認しておくことが望ましい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

ノートや資料プリントを見直して、前回までの講義内容を理解しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験(学期末の筆記試験により、講義内容全体の理解度を判断する)(80%)

平常点(講義内容の簡単なまとめや感想により、授業への集中度を判断する)(20%)

5. Course Schedule (授業予定)

- ガイダンス・地球環境とは?
- 地球内部の構造1(地震波の性質)
- 地球内部の構造2(地球内部の大構造)
- アイソスタシー(大陸と海洋の地下構造)
- 大陸移動説
- 海洋底拡大説
- プレートテクトニクス
- プレート境界での地殻変動現象(地震・火山活動・造山運動)
- 日本列島での地殻変動現象(地震・火山活動・造山運動)
- 大気と太陽エネルギー
- 大気による紫外線の吸収
- 地球の熱収支と温室効果
- 地球の誕生
- 大気の進化と生命1(酸素の発生)

第15回 大気の進化と生命2(二酸化炭素の固定)

6. Special Information (留意事項)

概ね上記の順に講義を進める予定であるが、変更する場合もある。

講義コード	10152601		
科目名	環境学概論		
担当者	豊田 陽介		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

授業を通じて、深刻さを増す環境問題と現代社会のライフスタイルが直結していることに気づくことを目指す。生身の自分を取りまく環境がどのようなものであるかを考える機会にし、その上で、受講者および授業者が同時代、同社会に生きる「人」として共に生きていく姿について考えていきたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 「環境」、「環境問題」について理解する
- 環境問題とライフスタイル(および自分)との関連に気づく
- 今後の社会(および自分)のビジョンについて考える

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義が主であるが、受講者が考え、体験する機会とするために教室の条件下で行なえるワークを取り入れる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

「自習のテーマ」を授業(レジュメ)にて提示する

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

筆記試験70%、授業参加度30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 環境問題とははじめ
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(1)地球温暖化問題
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(2)エネルギー問題
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(3)生物多様性
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(4)水環境
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(5)交通問題
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(6)オゾン層破壊
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(7)森林保全・活用
- 地球環境問題と私達の社会、暮らし(8)廃棄物・ごみ問題
- 持続可能な社会づくり(1)地域資源を活かしたまちづくり
- 持続可能な社会づくり(2)アグリツーリズムとスローフード
- 持続可能な社会づくり(3)グリーン経済とローカルベンチャー
- 持続可能な社会づくり(4)エネルギー自立と地域の再生
- 持続可能な社会づくり(5)環境教育とひとづくり
- 持続可能な社会づくり(6)市民とメディアの役割

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10153401		
科目名	人間学		
担当者	宮永 泉		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『パンセ』 バスカル(由木康訳) 白水社		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

現代は科学の時代であるが、同時に思想的混迷の時代でもある。このような時代状況を踏まえた上で、人間は一体何のために生きているのか、また如何に生きるべきなのかを、十七世紀フランスの自然科学者にしてカトリック思想家であったパスカルの著作を精読しつつ、共に考えたい。哲学の授業なので、受講者は2回生以上であることが望ましい。前期講義「哲

学とキリスト教」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) パスカルの思想上の主著である『パンセ』を精読する。
- 2) 上と並行して、各自『パンセ』を読み、レポート提出。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用してレポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1) 授業方法： 講義と講読の併用。

2) 学習方法： テキストの予習。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

パスカル著 (由木康訳) 『パンセ』(白水社) について、授業で読む箇所を必ず予習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポート[60%]を以って総合的に行う。毎回必ず予習をして授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型

第2回 パスカルについての概説

第3回 『サンとの対話』と『パンセ』の関係

第4回 『パンセ』講読： 断章60

第5回 同上： 断章61

第6回 同上： 断章62

第7回 同上： 断章63

第8回 同上： 断章64～68

第9回 同上： 断章69～71

第10回 同上： 断章72 (無限大)

第11回 同上： 断章72 (無限小)

第12回 同上： 断章72 (自己の存在)

第13回 同上： 断章72 (体と魂)

第14回 同上： 断章73

第15回 同上： 断章73、まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10153503		
科目名	情報演習ⅡC		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	授業内で、「情報リテラシー アプリ編 (Microsoft Word 2013/Microsoft Excel 2013/Microsoft PowerPoint 2013 対応)」(定価：1800円)を1500円程度で購入していただきます。		
参考文献			
備考	定員35人 「情報演習Ⅱ」を履修していることが望ましい		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、「情報演習Ⅰ」の内容をすでに学んでいることを前提に授業を進める。大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、およびプレゼンテーションソフトの実習を通して応用スキルを習得し、社会へ出る前のIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト (Microsoft Office 2013製品) の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist 【MOS】 資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本語文書ソフト 2. 表計算ソフト (表計算、グラフ、データベース、関数) 3. プレゼンテーションソフト 4. ソフトとソフト間の相互利用

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習を中心に授業を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

復習を兼ねた課題を作成してもらうので期日までに提出すること。さらに、授業最終日に実施される「実技確認テスト」を必ず受けること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (40%)、課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、表計算ソフトの基本操作 (入力、罫線、基本的な関数など)
- 第2回 表計算ソフトの基本操作 (絶対参照、印刷設定、グラフなど)
- 第3回 表計算ソフトの応用操作 (vlookup関数・if関数など)
- 第4回 表計算ソフトの応用操作 (関数を組み合わせて使用、表示形式など)
- 第5回 表計算ソフトの応用操作 (データベース、3D集計、条件付き書式など)
- 第6回 表計算ソフトの応用操作 (高度なグラフ、ソフト間の相互利用など)
- 第7回 表計算ソフトの応用操作 (ピボットテーブル、マクロなど)
- 第8回 プレゼンテーションソフト (コンテンツの作成・書式設定、プレゼンテーションの管理と実行など)
- 第9回 プレゼンテーションソフト (特殊効果の設定、印刷設定、役立つ機能など)
- 第10回 日本語文書作成ソフト (表現力をアップする機能、長文レポートの編集など)
- 第11回 日本語文書作成ソフト (コンテンツの作成、文書の書式設定と管理など)
- 第12回 Microsoft Office Specialist 【MOS】 (Word2013・Excel2013) 対策(1)Wordに関する模擬問題
- 第13回 Microsoft Office Specialist 【MOS】 (Word2013・Excel2013) 対策(2)Excelに関する模擬問題
- 第14回 総合実習
- 第15回 まとめ (実技確認テスト中心)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10153501		
科目名	情報演習ⅡA		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	授業内で、「情報リテラシー アプリ編 (Microsoft Word 2013/Microsoft Excel 2013/Microsoft PowerPoint 2013 対応)」(定価：1800円)を1500円程度で購入していただきます。		
参考文献			
備考	定員35人 「情報演習Ⅱ」を履修していることが望ましい		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

講義コード	10153502		
科目名	情報演習ⅡB		
担当者	吉田 智子		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[情][日][ウ]		
前提科目			
テキスト	授業内で、「情報リテラシー アプリ編 (Microsoft Word 2013/Microsoft Excel 2013/Microsoft PowerPoint 2013 対応)」(定価：1800円)を1500円程度で購入していただきます。		
参考文献			
備考	定員35人 「情報演習Ⅱ」を履修していることが望ましい		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

講義コード	10154101		
科目名	資格日本語 日本留学試験に挑戦		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	123
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	留学生以外は履修できない		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

外国人留学生在が本学での学修に対応できる日本語の能力を維持し、またそれをいっそう向上させることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

日本留学試験の過去問にとりくみ、その出題傾向に慣れる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

日本留学試験に受験し、高得点を獲得する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日本留学試験過去問題集にとりくむ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

単位認定のために求められる成果の基準は以下のとおり。

日本留学試験における日本語の得点290点以上

平成23年度以降入学者：290点以上：可 330点以上：良、360点以上：優
400点以上：秀

平成22年度以前入学者：290点以上：C、330点以上：B、360点以上：A

単位認定を希望する者は、単位認定申請書(教務委員会様式)及び独立行政法人学生支援機構の成績通知書の原本(受験した日から3年以内のもの)を教務課に提出すること。

提出期日：単位認定を希望する学期の授業最終日

5. Special Information (留意事項)

講義コード	10154201		
科目名	キャリア形成A 自らが輝く人生を考えると共に、社会に求められるコミュニケーション力を磨く		
担当者	荒尾 千春		
単位数	2	配当学年	23
資格	[情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	講義内で適宜案内する。		
備考	定員40人 <旧>101554キャリア形成I・101555キャリア形成II		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

講義コード	10154202		
科目名	キャリア形成B 自らが輝く人生を考えると共に、社会に求められるコミュニケーション力を磨く		
担当者	荒尾 千春		
単位数	2	配当学年	23
資格	[情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	講義内で適宜案内する。		
備考	定員40人 <旧>101554キャリア形成I・101555キャリア形成II		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

大学生活の中盤を迎え、かつ、就職活動を控える2、3回生を対象に、将

来を考える機会とする。「働く」ことに対する意義を自ら考えると共に、「なりたいたい姿」「あるべき姿」などの目標設定ができ、また、社会に求められるコミュニケーションスキルやビジネスマナーをトレーニングによって身に付けることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

①活躍している女性のロールモデルを知ること、自己効力感を感じることが出来る。

②自分の思いを論理的に伝えることが出来るようになる。

③社会に求められるコミュニケーションスキルを体得できる。

④TA分析により、他者と自分との違いを知ること、自律的・自発的にコミュニケーションを改善する意識が生じる。

⑤就職活動にも活かされるビジネスマナーを知ることができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

プリントなどの資料を活用し講義を進めると共に、グループワークやディスカッション、発表の機会を多く設ける。またコミュニケーションに必要な要素のトレーニングを行う。さらに、「授業での気づき」の小レポートの提出を求める。傾聴し、意見をまとめたり、発言したりと積極的に参加すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業のはじめに、前回の授業の振り返りをするので、復習をすること。授業中は、ニュースや新聞の情報を取り上げるので、情報収集を心掛けて参加すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・態度(50%)、小レポート(20%)、最終レポート(30%)で総合評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 講義の目的、講義の進め方
- 第2回 「働く」とはどういうことであるか、について考える
～働く意義、女性の活躍を考える～
- 第3回 ワーク・ライフ・バランスとは
～先進企業事例～
- 第4回 ダイバーシティとは
～組織に求められる多様な人材～
- 第5回 コミュニケーションスキル(1)
～見た目の印象アップトレーニング～
- 第6回 コミュニケーションスキル(2)
～声の印象アップトレーニング～
- 第7回 コミュニケーションスキル(3)
～傾聴力とは、傾聴力トレーニング～
- 第8回 交流分析(TA分析)
～自分を知り、他人を知る～
- 第9回 プレゼン力を高める
～論理的に伝えるトレーニング～
- 第10回 ライフラインチャートで振り返る
～これまでのキャリア(経歴)を振り返り、モチベーションアップのポイントや、目標設定の仕方を考える～
- 第11回 自己PRを考える1
～印象、話の組み立て方、効果的な内容を考える～
- 第12回 自己PRを考える2
～印象、話の組み立て方、効果的な内容を考える～
- 第13回 コミュニケーションスキル(4)
～相手に安心感を与える言葉の表現～
- 第14回 就職活動で評価されるビジネスマナー
～電話応対の基礎、E-mail～
- 第15回 コミュニケーションスキル(5)
～アサーションの表現～
講義のまとめ

6. Special Information (留意事項)

毎回、ディスカッションやグループ内発表、全体発表などを行う。考える、書いてまとめる、発言するなど、積極的に講義に参加することを求める。

講義コード	10154301			
科目名	心理学概論A			
担当者	山形 恭子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[社][精][日][ブ]			
前提科目				
テキスト	授業ではテキストを使用しませんが、毎回、プリントを配布します。			
参考文献	『よくわかる心理学』 無藤隆ほか ミネルヴァ書房 2009 『グラフィック心理学』 北尾ほか サイエンス社 1997 『はじめてふれる心理学第2版』 榎本博明 サイエンス社 2014 講義中に適宜紹介します。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学とは人の「心」と「行動」に関するメカニズムを実験・調査などの実証的方法を用いて解明しています。本授業では人の「心」と「行動」についてこれまで明らかにされてきた心理学の研究成果を紹介します。人の「心」と「行動」は多様ですが、人は環境との関わりを通じて周囲の世界（外界）を認識し、自己や他者や集団を理解して社会生活を送っています。本授業ではこのような人の特性・認識の仕方ならびに自己・他者・集団に関してその心理学理論と支援方法を学習し、人に関する理解を深めます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 人の「心」と「行動」に関する多様な働きを学びます。
2. 人が外界の情報を処理し認識する知覚・学習・思考・言語の働きを学びます。
3. 人の加齢にともなう成長・発達について学びます。
4. 社会生活における自己と他者、個人と集団との関係について学びます。
5. 現在の複雑な社会における心の健康や病理について理解します。
6. これらの心理学理論とその支援の方法を学びます。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・授業は配布プリントを使用し、パワーポイントを用いておこないます。
- ・受講生の皆さんはノートを取り、授業終了後に復習のために利用して下さい。
- ・授業では随時実験や質問紙調査をおこない、自己理解などを深めますので積極的に参加して下さい。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
 - ・参考文献をあらかじめ読んでおいてください。
 - ・授業でわからない箇所があれば積極的に質問して理解するように努めて下さい。
 - ・自分で心理学の参考図書や辞典、事典にあたって調べて下さい。
 - ・心理学は身近な学問ですので自分の日常行動や社会生活と照らし合わせて理解するように努めて下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

最終テスト (50%)、授業中に課すレポート (25%) ならびに授業参加度 (25%) に基づいて総合的に評価します。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 心理学の目的と方法
- 第2回 知覚 外界を知る
- 第3回 記憶と学習 経験と知識の獲得
- 第4回 思考と言語 考えることのしくみ
- 第5回 発達 子どもから青年期へ
- 第6回 発達 青年期から成人へ
- 第7回 パーソナリティ 個性を知る
- 第8回 感情 その表出と制御
- 第9回 動機づけ
- 第10回 自己 自分を知る
- 第11回 対人認知 他者を知る
- 第12回 人間関係 家族・友人・恋人との関係を知る
- 第13回 集団と個人
- 第14回 心の健康
- 第15回 心の病理

6. Special Information (留意事項)

授業内容に関する疑問や不明な箇所があれば積極的に質問し、また、自分で心理学文献・辞典・事典を調べて理解するように努めて下さい。また、復習は授業内容の理解のために大切ですので、必ずプリントや参考図書を参照するなどして積極的におこなって下さい。

講義コード	10154302			
科目名	心理学概論B			
担当者	服部 郁子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[社][精][日][ブ]			
前提科目				
テキスト	「心理学 第2版」 梅本義夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延 (共著) サイエンス社			
参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学とは「心」を対象とした非常に幅広い学問である。「心理学」と言われたときに一般的にイメージされやすい臨床的なものから、知覚や思考といった認知過程、個人と集団や社会との関わりまで、さまざまな研究がある。この講義では、認知的な基礎研究を中心に、心理学の様々な研究領域とそこで積み重ねられてきた知見を幅広く概観する。また、この講義では、さまざまな視覚教材や実習教材を使うことで、心理学とはどのような学問であるのかを初めて学ぶ人にもわかりやすく理解してもらうことを目指している。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 心理学研究の基本的な考え方
2. 脳の基本構造とところ
3. 記憶の性質としくみ
4. 認知と情動
7. 学習
8. 発達
9. 社会とところ

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・パワーポイントおよび教科書を用いて講義をおこなう。
- ・授業では、教科書の該当する章の記述内容、図・表等を参照しながら講義を進めていくので、授業開始までに教科書を留意しておくこと。ただし、教科書にない最新の研究やより詳しい説明も適宜行うので、各自で必ずノートを取り、ノートも合わせて復習すること。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
 - ・各回の講義前に、教科書の該当部分を予習しておくこと。
 - ・教科書、プリントおよび自分のノートを参照して、前回の内容を復習すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- ・小テスト(40%)と最終日の試験(60%)に基づいて評価し、総合点で60点以上であれば合格とする。
- ・小テストは、基本的に毎回授業の開始時に10分程度行う。遅刻者は受験できないものとする。
- ・小テストは、前の回の授業内容から出題する。
- ・最終日の試験は全範囲から出題する。ただし、出席が、最終試験日を除く授業日の60%以上(9回以上)に満たない者は受験資格がないものとする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の概要と導入
 - ・この授業で扱う心理学とはどのようなものか
 - ・成績評価方法等、受講に関する諸注意
- 第2回 心理学研究の基本的な考え方
 - ・心理学研究の歴史とアプローチ
- 第3回 脳とところ
 - ・脳の基本構造とところ
- 第4回 記憶の性質としくみ (1) - 感覚記憶、短期記憶、長期記憶 -
- 第5回 記憶の性質としくみ (2) - 宣言的記憶 -
- 第6回 記憶の性質としくみ (3) - 手続き的記憶 -
- 第7回 学習と行動 (1) - レスポンデント条件付け -
- 第8回 学習と行動 (2) - オペラント条件付け -
- 第9回 学習における社会の役割
- 第10回 情動と動機づけ
- 第11回 心と身体の発達 (1) - 認知発達 -
- 第12回 心と身体の発達 (2) - 心の理論 -
- 第13回 社会の中のところ (1) - 対人認知、自己認知 -
- 第14回 社会の中のところ (2) - 判断と社会的影響 -
- 第15回 試験と解説、講義のまとめ

6. Special Information (留意事項)

最終日の試験では、教科書、参考書、ノートなどの使用は一切不可とする。授業をきちんと聴いて、教科書の該当する章を予習、復習し、講義内容をあらかじめよく理解しておくこと。

講義コード	10154401		
科目名	体育講義		
担当者	住本 純		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[教][保]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『教養としての体育原理』 友添秀則・岡出美則編著 大修館書店		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・現代の健康に関する問題について理解する。
- ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。
- ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。
- ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。
- ・資料については、授業中に適宜配布する。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・日常生活における、自己の健康に目を向けておく。
- ・現代の学校体育や子どもたちの健康に関する問題に関心を示し、幅広く情報を得ておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度、受講態度 (20点) テスト (60点)、小レポート (20点) として総合評価を行う。原則、すべての講義に出席することを求める。合計得点が60点に満たない場合、単位認定には至らない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 現代生活における健康、スポーツ、学校体育の諸問題
- 第2回 運動と健康
- 第3回 健康と栄養 (ウエイトコントロール)
- 第4回 スポーツ、運動と心理 (ストレス等)
- 第5回 子ども発育・発達と健康
- 第6回 体育と指導者 (コーチングとティーチング)
- 第7回 スポーツとジェンダー、女性の健康
- 第8回 (45分) : スポーツとビジネス、メディア
- 第9回 テスト

6. Special Information (留意事項)

積極的にディスカッションやその他の作業に取り組むこと。

講義コード	10154701		
科目名	暮らしの統計学		
担当者	廣瀬 直哉		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『統計数字を読み解くセンス』 青木繁伸 化学同人 2009 『マンガでわかる統計学』 高橋信 オーム社 2004 『悩めるみんなの統計学入門』 中西達夫 技術評論社 2010		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても、数学の中で学んでもらいたい分野の上位にあげられることが多い。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 統計データの種類や集計法の理解
2. グラフの種類と特徴の理解
3. 統計データの代表的な指標の理解
4. 二変量データの表現の理解

3. Course Method (教育・学習の方法)

PowerPoint、Excelなどを使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。また、授業時に簡単な演習を行ってもらう。テキストは使用せず、必要な授業資料等は、配布またはWebから入手する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業前に授業資料を読んで予習しておく。また、Moodleで復習課題やレポート課題を提出する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題レポートを数回提出してもらう。テストは行わず、提出物(100%)に基づき評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 データの信頼性
- 第3回 データの種類
- 第4回 様々なグラフ
- 第5回 代表値
- 第6回 散布度
- 第7回 課題演習
- 第8回 調査の方法
- 第9回 分布
- 第10回 標準化
- 第11回 2変数の関係
- 第12回 相関と因果
- 第13回 帰帰
- 第14回 確率的思考
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業データの入手、レポートや課題の提出はMoodleを使って行う予定である。

本科目の目標は、統計データの理解であるので、複雑な計算式等はありませんが、理解のためには多少の計算や数式を行うので、最低限の数学的な素養は必要である。

講義コード	10154801		
科目名	聖書と文化A		
担当者	中里 郁子		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『新共同訳『聖書』(旧約聖書統編つき)』 日本聖書協会		
参考文献	参考文献は授業中に紹介する。		
備考	選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10154802		
科目名	聖書と文化B		
担当者	中里 郁子		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『新共同訳『聖書』(旧約聖書統編つき)』 日本聖書協会		
参考文献	参考文献は授業中に紹介する。		
備考	選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

新約聖書の福音書に描かれるイエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、キリスト教成立以前のありのままの人間としてのイエスを探究し、当時の人々にとってイエスが信仰の対象となるに至る過程をイエス時代の文化との関係において理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 福音書に描かれるイエスの言葉と行為
- 2 イエス時代のユダヤ人の文化

- 3 イエス時代の人々の生活
- 4 イエスの裁判とユダヤ人の伝統
- 5 イエスへの信仰

3. Course Method (教育・学習の方法)

1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、参考文献を調べて積極的に授業に参加するよう促す。
2 随時参考資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

関連する聖書の箇所をあらかじめ読んで授業に臨む。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 1. 授業への取り組み (30%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。
- 2. 3分の2以上の出席を必要とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イエスの時代の文化的背景
- 第3回 イエスと当時の人々
- 第4回 イエスによる赦し
- 第5回 イエスによる癒し
- 第6回 ユダヤ社会における連帯とイエス
- 第7回 キリスト教の思想
- 第8回 古代ユダヤ人の時の観念と歴史感覚
- 第9回 神殿の清め
- 第10回 初代教会の共同体
- 第11回 神の国の到来
- 第12回 ユダヤ人のメシア待望
- 第13回 ユダヤ人の殉教の伝統とイエスの裁判
- 第14回 イエスへの信仰
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

キリスト教の思想に関して、ゲスト講師等による講演に出席することもある。

- 第10回 とける
- 第11回 燃える
- 第12回 調べ学習① (テーマ決定、資料収集)
- 第13回 調べ学習② (まとめ・発表資料の作成)
- 第14回 発表
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

受講者の関心や人数、教材の準備状況によって学習内容を変更することがあります。

講義コード	10155201			
科目名	女性の権利A			
担当者	藤田 朋子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10155202			
科目名	女性の権利B			
担当者	藤田 朋子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10154901			
科目名	身近な自然科学入門			
担当者	小川 博士			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし 授業の資料は、適宜提示する。			
参考文献	その都度、紹介する。			
備考	定員32人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見ることができるようになることを目指したい。このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」へとつながるものである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・ 身近に見られる科学的現象に関心をもつことができる。
- ・ 身近な科学的現象から基礎的な科学的知識の理解を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義に加え、観察・実験、クラブ活動を行う予定である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

課題レポートのテーマ決定のために、日常生活の中で見られる科学的現象に意識的になっておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題レポート70%、授業参加度30%で評価する。
出席回数が授業全体の2/3未満である場合には不可とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本付近の気象
- 第3回 気象情報とその利用
- 第4回 人体①：消化器系 (口～胃)
- 第5回 人体②：消化器系 (十二指腸～肛門)
- 第6回 人体③：呼吸器系
- 第7回 遺伝
- 第8回 音
- 第9回 光

1. Course Description (科目の教育目標)

学生が今後社会で出会うかもしれない出来事を想定し、それらを社会制度や女性にとっての権利と結び付けて考えること。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・ 教育
- ・ 労働
- ・ 女性の権利

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時にプリントを配布するとともに、課題提出を求める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日常生活において、女性に関するトピックスなどに関心を持つこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50%)、課題・試験 (50%) に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論
- 第2回 「これからの人生」日本と諸外国の女性の現状
- 第3回 「今までの学校生活で出会ったかもしれないこと」教育の変遷、女子教育
- 第4回 「学生生活で出会うかもしれないこと」女性に対する暴力、DV、ストーカー規制法
- 第5回 「卒業後に出会うかもしれないこと～就職編①」女性労働の変遷と現状、男女雇用機会均等法
- 第6回 「卒業後に出会うかもしれないこと～就職編②」労働者の権利、パワーハラスメント、労働基準法
- 第7回 「卒業後に出会うかもしれないこと～就職編③」働く女性の権利
- 第8回 「社会で出会うかもしれないこと①」婚姻制度
- 第9回 「ワーク・ライフ・バランス」
- 第10回 「社会で出会うかもしれないこと②」女性のからだに関する法制度
- 第11回 「社会で出会うかもしれないこと③」子育てと女性、育児休業、マタニティハラスメント
- 第12回 「社会で出会うかもしれないこと④」女性を取り巻く経済状況、年金、貧困
- 第13回 「社会で出会うかもしれないこと⑤」防災、女性視点の防災の必要性

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10155301		
科目名	生命倫理 A 医療技術の進歩と我々の生命観		
担当者	松井 吉康		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	なし		
参考文献	授業中に指示する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10155302		
科目名	生命倫理 B 医療技術の進歩と我々の生命観		
担当者	松井 吉康		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	なし		
参考文献	授業中に指示する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「臓器移植」「薬害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし

3. Course Method (教育・学習の方法)

倫理学についての基本的知識を習得した後、様々な問題についてドキュメンタリーを見せ、それらについて考えてもらう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

普段から自分の身の回りで起こっている出来事やニュースなどで報じられる医療問題、社会問題について関心を持つようにしておくことが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

主に最終試験による。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 倫理学とは
- 第3回 現代社会の善悪の基準
- 第4回 薬害
- 第5回 差別を知る
- 第6回 卵子老化
- 第7回 新型うつ・1
- 第8回 新型うつ・2
- 第9回 出生前診断
- 第10回 様々な障がい
- 第11回 性と生
- 第12回 中絶、減胎手術
- 第13回 出産のリスク
- 第14回 ダウン症
- 第15回 「私」と「私の生命」

6. Special Information (留意事項)

出来るだけ質疑応答の多い授業にしたいと思っています。教師が毎回、様々な問いを投げかけますが、学生の側からも色々な質問や発言が出てくる事を期待しています。

講義コード	10155601		
科目名	ホスピタリティ入門 A		
担当者	岩田 真理子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[ホ][医]		
前提科目			
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。		
参考文献	別途指示		
備考	定員100人 英語英文学科は履修できない		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10155602		
科目名	ホスピタリティ入門 B		
担当者	岩田 真理子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[ホ][医]		
前提科目			
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。		
参考文献	別途指示		
備考	定員100人 英語英文学科は履修できない		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なことについても学ぶ。
・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日常生活でのホスピタリティを体得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出来るだけ実践する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション-ホスピタリティへのアプローチ
ホスピタリティの概念を理解する。本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する。
- 第2回 ホスピタリティとは一言からアプローチ
「ホスピタリティ」の語源からアプローチする。ホスピタリティの定義とはどのようなものであるのかを考察する。
- 第3回 ホスピタリティと人間-人間の感情とホスピタリティ
ホスピタリティを提供する動物としての人間の存在からホスピタリティを紐解いていく試みをする。
- 第4回 ホスピタリティと文化①-文化・感情表現・地域のおもてなし
ホスピタリティの表出の仕方、感じ方などに文化や時代による違いなど、地域や文化・文明による差異を考察してみる。
- 第5回 ホスピタリティと文化②-歴史とホスピタリティ
ホスピタリティの歴史を考察する。時代の変遷と社会の変遷においてなにか変わりがあるのかないのかを考察する。
- 第6回 ホスピタリティと産業①-産業構造の変化とホスピタリティの重要性-
サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。
- 第7回 ホスピタリティと産業②-産業・社会の変化とホスピタリティ

を考慮-

ホスピタリティ産業の変化を予測し、社会の変化にともなってホスピタリティ産業というものの変化を推測してみる。

- 第8回 ホスピタリティと産業③-エアラインにおけるホスピタリティ-
航空機を運航する商品とはどのような特徴があるのかを考える。実際のエアライン (ANA) をモデルとして考えてみる。
- 第9回 ホスピタリティとチームワーク-チームの力と個人の力-
企業や地域社会など、ホスピタリティをチームで生み出す為に必要な要素とは何かを検討する。
- 第10回 ホスピタリティとコミュニケーション-相互作用を生み出すコミュニケーション-
ホスピタリティを相手に伝えるためにはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。
- 第11回 点と点をむすぶホスピタリティマインド-地域とホスピタリティとの関係-
人は航空機によって点と点を移動する。地域と航空輸送との関係からホスピタリティを考える。
- 第12回 ホスピタリティと観光産業①-観光産業で発揮されるホスピタリティ-
ホスピタリティが観光産業の中で発揮されるべきこととその必要性を考える。
- 第13回 ホスピタリティと観光産業②-旅行者心理を考える-
観光の主体である旅行者についてとりあげ、旅行者にとってのホスピタリティはどのようにあるべきかを考える。
- 第14回 ホスピタリティと観光産業③-現在の(場所)での観光産業でホスピタリティが発揮できるもの-
観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える。
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	10156101			
科目名	アラビア語 I			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『初歩のアラビア語』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011			
参考文献	『パスポート日本語アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 2004 『パスポート初級アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 1997			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 28文字から成るアラビア語のアルファベットの書き方・発音を学ぶ。
2. 教科書の基本文や会話を理解し、文法を学ぶ。
3. ドリルで応用力をつける。
4. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
2. 授業で十分に理解する。
3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
2. 小テストがある場合は、それに備える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。

5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 アラビア語とは
- 第2回 「こんにちは」アラビア語のアルファベット
- 第3回 「おはよう」アラビア語のアルファベット
- 第4回 「またお会いするまで」アラビア語のアルファベット
- 第5回 「こんばんは」アラビア語のアルファベット
- 第6回 「ありがとう」アラビア語のアルファベット
- 第7回 「ようこそ」アラビア語のアルファベット
- 第8回 「お元気ですか」アラビア語のアルファベット以外の文字と記号
- 第9回 「アッサラーム・アライクム」太陽文字と月文字
- 第10回 「あなたの名前は？」〇〇人という表現、数字1~10
- 第11回 「私の名前は…」名前の書き方
- 第12回 「はい」「いいえ」格について
- 第13回 「ごめんなさい」名詞の性について
- 第14回 「あなたは学生ですか」独立人称代名詞
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

講義コード	10156201			
科目名	アラビア語 II			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	1	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	『初歩のアラビア語』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011			
参考文献	『パスポート日本語アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 2004 『パスポート初級アラビア語辞典』 本田幸一他編 白水社 1997			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目の目標は、「アラビア語 I」で培ったアラビア語の読み・書き・聞く・話す能力をさらに伸ばし、応用力をつけていくことである。基本フレーズとスキットに含まれる文法を理解し、文法に関連付けたコミュニケーション能力を高める。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、出身の表現、場所の尋ね方、家族の紹介、数詞(基数)、単数・双数・複数、動詞未完了形、動詞完了形、語根と語形パターン、等位文の否定、疑問詞などを学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教科書の基本文や会話を理解しながら、文法を学ぶ。
2. ドリルで応用力をつける。
3. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
2. 授業で十分に理解する。
3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
2. 小テストがある場合は、それに備える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。

5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 前期の復習
- 第2回 「モスクはどこですか」定冠詞
- 第3回 「それはここから近いですか」形容詞
- 第4回 「こちらはどなたですか」接尾人称代名詞
- 第5回 「これは私の父です」「〇〇があります」指示代名詞
- 第6回 「いつもみなさんがお元気でありますように」イダーファ
- 第7回 「あなたたちは車を持っていますか」前置詞を使った所有表現
- 第8回 「これらのお寺や神社は素晴らしいです」双数・複数
- 第9回 「2つの有名な公園があります」名詞と形容詞の一致

- 第10回 「アラビア語を勉強しています」動詞未完了形
 第11回 「この石けんはいくらですか」動詞未完了形
 第12回 「パレスチナ料理を食べましたか」動詞完了形・語根
 第13回 「私は彼がとても好きなの」等位文の否定ライサ
 第14回 「彼は日本では知られていないよ」自己紹介
 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

前期科目「アラビア語Ⅰ」の履修者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。
 回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

講義コード	10156301		
科目名	アラビア語Ⅲ		
担当者	鷲見 朗子		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	参考文献を組み合わせたものを授業で配布する。		
参考文献	『AlKitaab Part1 2nd ed.』 AlBatal Georgetown UP 『Mastering Arabic 1 2nd ed.』 Wightwick Hippocrene 『初歩のアラビア語』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011 参考URLにあげたコンテンツも授業で使用する。		
備考	定員40人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目の目標は、「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」で学んだことを基盤に、4技能(読み・書き・聞く・話す)を統合的に活用でき、正しい文法知識に基づいた、より高度なコミュニケーション能力を伸ばすことである。また、スキットと会話表現を通じて、新しい語彙、動詞活用、正しい発音を習得することである。内容としては、現在の習慣や状況の説明、既に起こったことの説明、数詞(序数)、時刻、第2形～第10形の動詞派生形とその活用などを学習する。アラビア語学習のなかでアラブ文化の理解もさらに育んでいく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. コミュニケーション力を伸ばす。
2. 文法事項を正確に理解する。
3. 語彙・表現力をつける。
4. 正しい発音を身につける。
5. アラブ文化の理解を促進する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. ペア・グループ学習
2. 講義
3. 演習

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 予習・復習
2. CD, DVDの視聴
3. 小テストに備えて学習

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加20%、小テスト・宿題30%、試験50%。

5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「ジュハーが好きです」疑問詞
- 第3回 「いつ旅行から帰りましたか」(動詞の復習)
- 第4回 「いつ旅行から帰りましたか」(語根と語形パターン)
- 第5回 「私は彼がとても好きなの」(曜日の表現)
- 第6回 「私は彼がとても好きなの」(月の表現)
- 第7回 「僕は教師だったんだ」(カーナの活用)
- 第8回 「僕は教師だったんだ」(ライサの活用)
- 第9回 「何時ですか」(数の表現)
- 第10回 「何時ですか」(時間の表現)
- 第11回 「3本のペンがあります」(基数と序数 0～10)
- 第12回 「3本のペンがあります」(基数と序数 11～19)
- 第13回 「ジュースが飲みたいです」(動詞未完了接続法の活用)
- 第14回 「ジュースが飲みたいです」(動詞未完了接続法の用法)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」の単位取得者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。
 受講生の理解の進み具合によって、授業内容の進度を調整する場合もある。また、回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

講義コード	10156401		
科目名	アラビア語Ⅳ		
担当者	鷲見 朗子		
単位数	1	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	参考文献を組み合わせたものを授業で配布する。		
参考文献	『AlKitaab Part1 2nd ed.』 AlBatal Georgetown UP 『Mastering Arabic 1 2nd ed.』 Wightwick Hippocrene 『初歩のアラビア語 '11』 鷲見朗子 放送大学教育振興会 2011 参考URLにあげたコンテンツも授業で使用する。		
備考	定員40人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目の目標は、「アラビア語Ⅰ」「アラビア語Ⅱ」「アラビア語Ⅲ」で学んだことを土台に、文法に関連付けた、よりレベルの高いコミュニケーション能力をつけ、応用力を高めることである。バランスのとれた4技能(読み・書き・聞く・話す)の育成にも力を入れる。また、スキット、会話表現を通じて、語彙力を拡充し、より正しい発音を習得することをめざす。内容としては、仮定の出来事の表現、命令形を使った表現、受け身の表現、比較の表現などを学習する。アラビア語学習のなかでアラブ文化の理解もさらに深めていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. コミュニケーション力を伸ばす。
2. 文法事項を正確に理解する。
3. 語彙・表現力をつける。
4. 正しい発音を身につける。
5. アラブ文化の理解を促進する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. ペア・グループ学習
2. 講義
3. 演習

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 予習・復習
2. CD, DVDの視聴
3. 小テストに備えて学習

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加20%、小テスト・宿題30%、試験50%。

5回以上の欠席者には単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクションと復習
- 第2回 「毎朝何時に起きますか」(日常行動の表現)
- 第3回 「毎朝何時に家を出ますか」(日常行動の表現)
- 第4回 「月曜日に彼女に会いました」(曜日・月)
- 第5回 「月曜日に彼女に会いました」(日付)
- 第6回 「砂糖を1袋とりんごを3つください」(動詞命令形単数)
- 第7回 「砂糖を1袋とりんごを3つください」(動詞命令形複数)
- 第8回 「犬はテーブルの下にいます」(前置詞の復習)
- 第9回 「犬はテーブルの下にいます」(接尾人称代名詞の復習)
- 第10回 「今日は何度ですか」(基数と序数 11～19)
- 第11回 「今日は何度ですか」(基数と序数 20～100)
- 第12回 「親愛なるアフマドへ」(はがきの書き方)
- 第13回 「親愛なるアフマドへ」(手紙の書き方)
- 第14回 「大学ではアラブ文学を専攻しています」(教育についての表現)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

「アラビア語Ⅲ」の履修者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。
 受講生の理解の進み具合によって、授業内容の進度を調整する場合もある。また、回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーを招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム

ム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

講義コード	10157001		
科目名	ホスピタリティ京都		
担当者	長沼 光彦 笹岡 隆甫		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日][ホ]		
前提科目			
テキスト	プリント配布		
参考文献	『文化としてのマナー（日本の50年 日本の200年）』 熊倉功夫 岩波書店 『茶の湯入門』 熊倉功夫 平凡社 『いけばな—知性で愛する日本の美』 笹岡隆甫 新潮新書 『香清話—香に聞く、香を聞く』 畑正高 淡交社		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

京都のもてなしの文化について考えるオムニバス形式の授業である。京都を中心に活躍するゲスト講師の方々をお迎えして話をうかがう。ライフキャリア・プログラム「京都ホスピタリティ・プログラム」の導入となる。華道・茶道など日本の伝統文化を継承する方、旅行業界・ホテル業界など現代の京都で活躍する方の貴重な話をうかがい、京都とホスピタリティ（もてなし）に関わる理念と実践について、広く具体的に学ぶことが目標となる。また、プログラム全体の目的を知り心構えをすると共に、自分の専門分野と結びつけながら、興味を広げよう。授業の多くの回は、ゲスト講師の方々をお迎えして進めていくため、積極的に有益な話を聞き取る姿勢が求められる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・京都を中心とした日本文化とホスピタリティの関わりを知る。
- ・ホスピタリティ実践のために必要な心構えを知る。
- ・人の関わりと文化について自分なりの考えを持つことができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・講義とおして、様々なホスピタリティの理念や実践を知り、京都の文化に対する理解を深める。
- ・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に対する感想・意見をまとめて提出する。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・授業で紹介した参考文献などを実際に自分で読んでおく。
- ・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、京都の文化について考えを深める。
- ・授業で紹介された京都の地を実際に自分で歩いてみる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度（30%）、毎時間の意見文（30%）、学期末のレポート（40%）により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 はじめに
- 第2回 日本の伝統文化ともてなし
- 第3回 華道ともてなし① 華道の基礎知識
- 第4回 華道ともてなし② 華道の精神
- 第5回 華道ともてなし③ 華道と人の関わり
- 第6回 華道ともてなし④ 華道と社会
- 第7回 華道ともてなし⑤ 華道と京都の環境
- 第8回 京都のもてなしと現代
- 第9回 現代京都のもてなし① 和食
- 第10回 現代京都のもてなし② 香道
- 第11回 現代京都のもてなし③ 和菓子
- 第12回 現代京都のもてなし④ 報道
- 第13回 現代京都のもてなし⑤ 旅館
- 第14回 現代京都のもてなし⑥ 寺社
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

講義コード	10157101		
科目名	女性の子育てとライフキャリア		
担当者	岩崎 れい		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト	プリント配布		
参考文献	授業中に紹介		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

現代日本の子育ておよび女性のライフキャリアの現状や課題について、基本的な知識を得るとともに、企業や教育現場、地域社会など、さまざまな分野で活躍している「母」「父」の立場の方や関連する仕事をしている方にお話をうかがい、受講生自身の生き方について考えます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 現代女性を取り巻く現状について学びます。
2. さまざまな事例を知り、そこから生き方のヒントを得て、自分の生き方を考えます。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義によって基本的な知識を得るとともに、外部講師のお話から、女性の生き方について深く考察します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日頃から新聞をよく読み、現代日本の子育てを取り巻く環境に関心を持つようにしてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中の課題50%、筆記試験50%の割合で評価します。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 子育てとライフキャリアを考える（入門）
※5月30日4講時後半（15:40～16:25）に実施：〈子どもと子育てのための生活環境学〉終了後
- 第2回 女性の子育て環境 法律と現状
- 第3回 外部講師による講義1 ワークライフバランス
- 第4回 外部講師による講義2 父の視点から見た育児
- 第5回 外部講師による講義3 雑誌に見る子育ての動向
- 第6回 外部講師による講義4 仕事と子育ての両立
- 第7回 外部講師による講義5 働くということ
- 第8回 子育てとライフキャリアを考える（まとめ）

6. Special Information (留意事項)

1. 授業の順番を変更する場合があります。
2. 外部講師には、子育てとキャリアの両立、女性にとってのキャリアパスなどの視点からお話いただきます。予定の詳細は授業時に配布します。
3. 〈子どもと子育てのための生活環境学〉とは、同じ時間帯に開講しており、学期の前半が〈子どもと子育てのための生活環境学〉、後半が本科目〈女性の子育てとライフキャリア〉です。いずれも子ども未来プログラムの属する科目であり、同時履修が望ましいでしょう。

講義コード	10157201		
科目名	児童館実践演習		
担当者	岩崎 れい 矢島 雅子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

児童館でのお話会、行事企画、支援の必要な子どもの介助などを実践的に学び、授業で得た知識を現場に生かしていく演習です。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 児童館における子どもの支援に必要な知識・技術を学びます。
2. 学んだことを実践的に生かす方法を習得します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

以下のうち1つ以上の実習に参加してください。

1. 学童クラブにおける支援の必要な子どもの介助

2. 学童クラブ等における児童館の仕事の補助

3. 行事の企画への参加

4. 行事や学童クラブ等におけるお話会の実施

<Course Schedule (授業予定)>

オリエンテーション (4月11日5講時)

事前指導① (4月18日5講時)

事前指導② (4月25日5講時)

児童館における実習

事後指導① (1月16日5講時)

事後指導② (1月23日5講時)

成果発表会 (1月30日5講時)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自が参加する実習に必要な知識を確実に得ておくこと、準備段階から打ち合わせ等に必ず参加することを心がけてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習報告書・レポート70%、成果報告会での発表30%の割合で評価します。

5. Special Information (留意事項)

事前事後指導にも必ず参加すること。特に事前授業は欠席すると実習に参加できませんので、注意してください。

外部での実習は、先方に負担をかけていることを忘れずに、自覚をもって取り組んでください。

インする

第6回 プレイフル・ラーニング: ワークショップの源流と学びの未来

第7回 ワークショップデザインの方法

第8回 MIT Media Lab.Lifelong Kindergarten Groupのビジョンとミッション

Scratchの紹介

簡単なアニメーションをつくらう

第9回 ミュージックビデオの制作1

self portraitを撮る

第10回 ミュージックビデオの制作2

撮影した写真を取り込んで、ビデオ素材をつくる

第11回 ミュージックビデオの制作3

ビデオ素材を編集

第12回 ビデオドキュメンテーションとリフレクション

第13回 五感を撮るプロジェクト1

五感をデジカメで撮ってくる

第14回 五感を撮るプロジェクト2

五感アルバムの作成

第15回 実践の子ども学「展覧会」

6. Special Information (留意事項)

授業のワークショップの様子をビデオで記録し、その場で編集し、受講者全員で視聴する。

講義コード	10157301		
科目名	実践の子ども学 創造的学びを挑発する学習環境デザイン		
担当者	上田 信行		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト	『プレイフル・シンキングー仕事を楽しくする思考法』 上田信行 宣伝会議 2009		
参考文献	『プレイフル・ラーニングーワークショップの源流と学びの未来』 上田信行・中原淳 三省堂 2013 『協同と表現のワークショップー学びのための環境のデザイン』 茂木一司編著 東信堂 2010		
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	10157401		
科目名	子どもと子育てのための生活環境学		
担当者	中村 久美, 牛田 好美, 加藤 佐千子, 竹原 広実		
単位数	1	配当学年	1234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト	毎回の担当教員が資料を配布		
参考文献	授業の中で、関連参考図書を紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

現代社会を生きる子どもの可能性を、ワークショップなどの実践を通して探求することができる。学びとは何かを根源的に問い直し、これからの時代に必要な子ども学とのビジョンとミッションを描く。子どもたちの創造力を刺激するための「空間」「道具(オブジェクト)」「学びの共同体」「活動」をデザインし、ワークショップを展開できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

MIT (マサチューセッツ工科大学) Media LabのLifelong kindergarten groupが開発しているプログラミング言語Scratchの紹介を通して、新しい学習環境デザインの可能性を探る。カメラでself portraitを撮って、その素材を使ってミュージックビデオの制作を実際に行う。これらの経験をベースにして多様な「学びの場のデザイン」を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にワークショップを行い、そのプロセスをビデオで記録、編集する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教科書をよく読んで、重要概念を整理する。

授業で撮ったビデオ素材を使って、ミュージックビデオの編集をMacintoshのiMovieソフトを使って行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)ワークショップへの貢献度(30%)、プレゼンテーション(10%)、レポート(30%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 実践の子ども学とは何か

第2回 実践の子ども学研究へのアプローチ1: セサミストリートにおける構成的評価の方法

第3回 実践の子ども学研究へのアプローチ2: 構成主義的な学習環境をどうデザインするか

第4回 実践の子ども学研究へのアプローチ3: 学びの動機づけとメタ認知

第5回 「空間」「道具(オブジェクト)」「学びの共同体」「活動」をデザ

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもの発達にとって、さらにその子どもを育てる親も含めた子育て世帯や親子の暮らしにとって重要な生活環境の問題を、「衣」「食」「住」「家族」の視点から考える。社会状況や政府の少子化対策、女性の生き方など、子どもと子育て世帯をめぐる諸情勢と関連付けて理解し、将来の自己の問題として主体的に考えていけるようにすることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・子どもと子育て世帯をめぐる社会問題を理解する

・子どもの発達、および子育てにとって必要な生活環境条件を理解する

・子どもが成長していくことや子どもを育てていくことの価値意識をもつ

3. Course Method (教育・学習の方法)

・毎回の授業を振り返るとともに、7回にわたるオムニバス授業を、自分で総合し、子どもと子育てのための「生活環境」像を構築する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・シラバスによって授業展開を理解しておく

・新聞の家庭欄、生活欄を読む習慣をつける

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の授業参加度(50%)とまとめの課題(50%)で評価する

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 「子どもと子育てのための生活環境学」概説(中村)

子どもと子育てでファッション1-子どもの成長と衣生活(牛田)

第2回 子どもと子育てでファッション2-マタニティ時期とファッション(牛田)

第3回 子どもと母親の食生活(藤原)

第4回 子どもの成長と食生活(藤原)

第5回 子どもの遊びと住環境(竹原)

第6回 子どもと家族の住空間1-子ども室をめぐる問題(中村)

第7回 子どもと家族の住空間2-子育て世帯の新たな居住の形(中村)

第8回 まとめ(中村)

6. Special Information (留意事項)

8回目の授業は、前半45分で本授業のまとめを行い、後半は〈女性の子育てとライフキャリア〉の第1回目の授業になります。〈女性の子育てとライフキャリア〉とは、同じ時間帯に開講しており、学期の前半が〈子どもと子育てのための生活環境学〉、後半が〈女性の子育てとライフキャリア〉です。いずれも子ども未来プログラムの属する科目であり、同時履修が望ましいでしょう

講義コード	10158001			
科目名	キャリア形成ゼミ			
担当者	萩原 暢子・酒井 久美子・長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[情][ブ][ホ][子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会で必要とされる力を社会人基礎力*1と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動する「場」をゼミとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。

*1社会人基礎力とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」の3つの能力と12の能力要素をH18年に経済産業省が定義づけしたものである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①各ゼミに関連した業界分析、職業知識、また情報収集力、分析力をつけること。
- ②企画書を作成する力をつけること。
- ③グループでの協力力や、コミュニケーション力をつけること。
- ④企画を立案し、実行する力を身につけること。
- ⑤企画を伝える力、プレゼンテーション力を身につけること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

ゼミごとに取り込むべき課題を十分に認識し、情報収集、分析をして取り組むこと。

・実践演習は学外での活動が中心となるため、マナー、社会人としての心構えなど事前の指導をしっかりと受け、事前指導から終了後の報告会まで積極的に参加すること。

・グループワークや他者との協同作業が中心となるため、積極的なコミュニケーションを心がけること。

・具体的なスケジュールはキャリアセンターの指示に従うこと。

・事前の指導から成果発表まで必ず出席し、やむをえず欠席する場合は担当教員の指示に従うこと。

・キャリア形成ゼミの活動については、専用の報告書に従って作成し、提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・キャリア形成ゼミの説明会に参加して、ゼミの目的などを理解する。
- ・自分が選んだゼミ(企業など)の活動内容を理解し、概要についてパンフレットなどで下調べをしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

参加態度(50%)、企画書、成果に対する評価(30%)、最終プレゼンに対する評価(20%)を基本とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マナー研修等事前研修
- 第3回 講義
- 第4回 現場見学
- 第5回 現場実践等の情報収集
- 第6回 企画のテーマ設定から企画立案①
- 第7回 企画のテーマ設定から企画立案②
- 第8回 中間発表①
- 第9回 中間発表②
- 第10回 グループワーク①
- 第11回 グループワーク②
- 第12回 現場にて企画実施、プレゼンテーション①
- 第13回 現場にて企画実施、プレゼンテーション②
- 第14回 成果の確認
- 第15回 最終の成果発表

6. Special Information (留意事項)

・各ゼミの内容については、旅行プランナー、ウエディングプランナー、編集倶楽部、町づくりプランナーなどを予定しているが、詳細については4月中にキャリア形成ゼミの説明会を実施するので、必ず出席し、確認すること。

・キャリア形成ゼミ手引書及び実施報告書を配布するので、各ゼミの担当の先生の指示に従いプログラムの内容を確認し、また報告書に状況を記載しながら進めていくこと。

・各ゼミによって一定の人数が集まらなければ実施しないゼミや定員が決まっているゼミもあるので説明会時に確認すること。

講義コード	10158101			
科目名	女性とライフキャリアA			
担当者	青木 加奈子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし。			
参考文献	『女性とライフキャリア』 矢澤澄子・岡村清子(編) 勁草書房 2009 そのほか、講義内で適時指定する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	10158102			
科目名	女性とライフキャリアB			
担当者	青木 加奈子			
単位数	2	配当学年	12	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし。			
参考文献	『女性とライフキャリア』 矢澤澄子・岡村清子(編) 勁草書房 2009 そのほか、講義内で適時指定する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

学生生活を終えた後の長い人生を「いかに生きるか」を考えるために必要な知識を得るとともに女性の特性を認識しながら自己のライフプラン、キャリアデザインを考えることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

自分の人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身に付け、考える力を養成する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・ライフキャリアの多様性を知り、それぞれのキャリアで直面するであろう課題を考える。

・自分らしく生き、社会に貢献するために必要なことを考える。

・自分のライフキャリアプランを作成する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末レポート 50%、授業中の課題 30%、受講態度 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション：ライフキャリアを考えるということ
- 第2回 「主体的な」ライフキャリアとはなにか?
- 第3回 日本女性の働き方の特徴
- 第4回 女性が働くということ
- 第5回 正規雇用者としてのライフキャリア(1) 利点
- 第6回 正規雇用者としてのライフキャリア(2) 課題
- 第7回 非正規雇用者としてのライフキャリア(1) 利点
- 第8回 非正規雇用者としてのライフキャリア(2) 課題
- 第9回 専業主婦としてのライフキャリア 利点と課題
- 第10回 子育て環境の現状
- 第11回 女性の貧困問題
- 第12回 ボランティア・NPOで働くということ
- 第13回 デンマーク女性のライフキャリア戦略
- 第14回 ライフキャリアプランを立てる
- 第15回 授業のまとめ

6. Special Information (留意事項)

女性とライフキャリアA、Bは同じ内容になります。前期ではAを、後期ではBを受講すること。

講義コード	10159001		
科目名	医学概論Ⅰ 医療英語に必要な医学の基礎知識		
担当者	萩原 暢子・河瀬 雅紀		
単位数	2	配当学年	123
資格	[医]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

医療語学プログラムの基礎となる医療用語および代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解していく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 医療における基礎的な用語を使うことができる
2. 代表的な疾患の概念を説明できる
3. 代表的な疾患の診断・検査法を説明できる
4. 代表的な疾患の治療方法を説明できる
5. 代表的な疾患の予防法について説明できる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 生活習慣病の代表的な疾患(糖尿病、脳卒中、心臓病、高血圧など)について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
2. 代表的な悪性腫瘍(胃がん、大腸がん、肺がん、白血病)について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
3. 代表的な消化器系疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
4. 代表的な呼吸器疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
5. 代表的な内分泌疾患、腎臓病、膠原病、血液疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
6. 代表的な精神疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
7. 代表的な婦人科疾患、小児疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
8. その他日常の診療で遭遇することの多い疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で、プリント、配付資料およびパワーポイント・視聴覚教材を使用する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

該当箇所を参考図書で予習する。講義内容について、復習をしっかりと行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(20%)と毎回行う確認試験(80%)により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 糖尿病について
- 第2回 血液疾患について
- 第3回 高血圧について
- 第4回 脳卒中について
- 第5回 呼吸器の炎症性疾患、喘息について
- 第6回 腎臓疾患、膠原病について
- 第7回 心臓疾患について
- 第8回 消化器がん(胃がん、大腸がんなど)について
- 第9回 甲状腺疾患、その他の主な内分泌疾患について
- 第10回 婦人科疾患について
- 第11回 肺がんについて
- 第12回 肝臓・胆のう・膵臓の炎症性疾患について
- 第13回 小児疾患について
- 第14回 精神疾患について
- 第15回 頭痛、めまい、腰痛など

6. Special Information (留意事項)

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント(レジュメ)を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。
- ・前期、月2回程度の土曜日集中講義とする。
- ・授業の内容は、担当者により多少前後することがある。

講義コード	10159101		
科目名	医学概論Ⅱ グローバル化時代に対応する医学の基礎知識を学ぶ		
担当者	河瀬 雅紀・萩原 暢子・須川 いずみ・岩田 真理子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[医]		
前提科目	101590 [医学概論Ⅰ]		
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

医学概論Ⅰで習得した基礎知識をグローバル化時代に求められる実践知へと導くことを目的とする。そのため、医療現場に立ち会った時に、何をどのように医療者および患者・家族に伝えるべきか、適切は判断とその伝達のスキルを学ぶ。また、これらの情報のやりとりには必要は基礎的な英語を習得する。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 主な診療場面で実施される問診の基礎的な内容を説明できる
2. 主な診療場面で実施される検査法の基礎的な内容を説明できる
3. 主な診療場面で実施される治療法の基礎的な内容を説明できる
4. 主な診療場面での患者と医療者とのコミュニケーションについて、情報のやりとりに必要な基礎的な英語を使うことができる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

総合診療等問診が重視される場面をはじめ、検査、治療、手術、出産、救急対応等、それぞれの場面にに応じて、医療者および患者・家族の双方に必要な説明ができるよう、現場の医療スタッフからも指導を受ける。併せて、情報のやりとりに必要な英語の専門用語の基礎も習得する。

1. 総合診療部や神経内科・精神科などで行われる問診の基礎的な内容を説明できる
2. 血液検査、内視鏡検査、放射線検査などの基礎的な内容を説明できる
3. 内科的治療・外科的治療(妊娠・出産・救急を含む)の基礎的な内容を説明できる
4. 総合診療部や救急など主な診療場面で、情報のやりとりに必要な基礎的な英語を使うことができる

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で、テキスト、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

該当箇所を医学概論Ⅰにて用いた資料で確認しておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(20%)と確認試験(80%)により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 総合診療部について(1) - 外部講師
- 第3回 総合診療部について(2) - 外部講師
- 第4回 神経内科での問診 - 外部講師
- 第5回 精神科・心療内科での問診 - 外部講師
- 第6回 医学的検査(血液検査、内視鏡検査など)について - 外部講師
- 第7回 医学的検査(放射線検査など)について - 外部講師
- 第8回 内科的治療について - 外部講師
- 第9回 手術等外科的治療について(1) - 外部講師
- 第10回 手術等外科的治療について(2) - 外部講師
- 第11回 手術等外科的治療について(3) - 外部講師
- 第12回 妊娠・出産と診療 - 外部講師
- 第13回 救急の診療について - 外部講師
- 第14回 確認テスト
- 第15回 講評

6. Special Information (留意事項)

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント(レジュメ)を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	10159201			
科目名	病児の発達と支援 小児医療ボランティアを学ぶ			
担当者	萩原 暢子・石井 浩子・伊藤 一美・岩崎 れい・植田 恵理子・河瀬 雅紀・工藤 哲夫・神月 紀輔・薦田 未央・高井 直美・畠山 寛			
単位数	2	配当学年	123	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『その日のまえに』 重松 清 文春文庫 2012			
備考	定員25人			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

病気を抱える子どもたちの苦しみを理解し、発達を支援する方法を学ぶ。すなわち、小児科病棟でのボランティア活動をモデルに、病気の子どもたちのサポートのあり方を理解していく。そこで、小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師などの立場から概説する。次に、子どもたちが直面する疾患の基本的な知識や心のケアについて学ぶ。また、子どもたちをサポートするための発達に沿った遊びの役割や手技などの実践を学習する。院内学級での支援についても、現場を見学し、院内学級を担当している講師からその実際を学ぶ。さらに、ボランティアをする学生自身のケアについても学ぶ。(オムニバス式/全15回)

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師の立場から学ぶ。
2. 小児の疾患について、基礎的な知識や心のケアを学ぶ。
3. 子どもたちの発達に沿った遊びについて学ぶ。
4. 院内学級での学び支援について学ぶ。
5. ボランティアをする学生自身のケアについて学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方式
講義形式を中心に、グループに分かれて演習形式や、現場への見学実習が含まれる。
2. 学習方法
 - (1) プリントに沿って行う。
 - (2) パワーポイントを用いて、イメージを作っていく。
 - (3) グループに分かれた演習では、ディスカッション中心で行う。
 - (4) 見学実習では、現場での説明を行う。
3. テキスト・参考文献
 - (1) テキストは用いない。
 - (2) 参考文献は、「その日のまえに」(文春文庫)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・「ボランティア活動」について、自分で学習し、イメージを作っておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、授業参加度(30%)、最終レポート(70%)とする。
2. 欠席については、詳細を留意事項で示す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション(府立医大小児医療センター見学を含む 担当:全員)
- 第2回 グループの理解(担当:府立医大看護師長、河瀬)(府立医大での学習)
- 第3回 ボランティア1(小児ボランティアの必要性とその難しさについて 担当:YMCAより派遣講師)(府立医大での学習)
- 第4回 小児医療概論1(子どもの病気とこころ 担当:河瀬)(府立医大での学習)
- 第5回 ボランティア2(ボランティアへの期待 担当:小児科医師、センター看護師長、萩原、河瀬)(府立医大での学習)
- 第6回 小児医療概論2(子どもの病気について① 担当:萩原)(府立医大での学習)
- 第7回 小児医療概論3(子どもの病気について② 担当:萩原)(府立医大での学習)
- 第8回 子どもの発達と遊び1(子どもの発達の特徴 担当:畠山、石井、植田、伊藤、薦田)
- 第9回 子どもの発達と遊び2(子どもの発達と発達に沿った遊び 担当:石井、植田、畠山、伊藤、薦田)
- 第10回 子どもの発達と遊び3(実際の遊びを体験してみよう 担当:伊藤、薦田、石井、植田、畠山)

- 第11回 子どもの発達と遊び4(お話会の企画と方法 担当:岩崎)
- 第12回 子どもの学び1(桃陽総合支援学校府立医大分教室での取り組みについて 担当:工藤、神月、高井)
- 第13回 子どもの学び2(長期入院・短期入院の児童生徒の学習の実態と問題点 担当:工藤、神月、高井)(桃陽総合支援学校での見学実習①)
- 第14回 子どもの学び3(桃陽総合支援学校の取り組みなど 担当:工藤、神月、高井)(桃陽総合支援学校での見学実習②)
- 第15回 総括 振り返り、グループワークと発表(担当:全員)

6. Special Information (留意事項)

- 1) 2月中の集中講義となる。京都府立医科大学で実施される授業の日程は、授業の中で説明があるので、集合時間と場所を確認すること。
- 2) 講義の順番は、府立医大の都合で多少前後することがあるので、配布される授業スケジュールで確認すること。
- 3) 全授業出席することが、合格の条件となる。ただし、指定の授業以外で4回以内の欠席であれば、当該授業のDVD視聴とレポートにより、担当教員の承認が得られれば出席扱いとなる。
- 4) 指定の授業(第1回～第3回、第5回、第13回、第14回)を1回でも欠席すると、不合格となる。
- 5) この科目は、府立医科大学附属病院小児医療センターでの実践講座に引き継がれる。実践講座に参加するためには、この科目の修了が必須条件となっている。

講義コード	10181191			
科目名	特定目的海外研修A（英語海外研修I）			
担当者	ハワイ大学専任教員			
単位数	2	配当学年	123	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	アメリカのハワイ大学が実施する「3週間集中英語プログラム」に参加する形態をとる。定員20名（最少催行人数8名）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- (1) スピーキングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得し、短期間で英会話能力を向上させる。
- (2) アメリカ（ハワイ）の生活、文化、自然、歴史、社会等への理解を深める。
- (3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身につける。
- (4) アメリカ人との交流やホームステイを通して英語による日常生活の実際を体験する。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) English Class
ハワイ大学が実施するプログラムは5段階のレベルに分かれており、参加者のレベルに応じたクラスで学ぶことができる。どのレベルにおいても、発音、イディオム、聴解力の強化を図り、ディスカッションでの発話力や英会話の応用力を伸ばす。English for Everyday Life, Class Discussion など、授業ごとの指導テーマに基づいて学習する。
- (2) Interchange with UH students
研修期間中に5回程度、ハワイ大学の学生といろいろな場面を想定し、英語による会話練習を行う。ネイティブスピーカーとのコミュニケーション能力の向上を図り、英語で表現することに馴れる。また、同年代のアメリカ人学生の考え方を理解する。
- (3) Off-campus Activities
エクササイズや課題学習を通して、アメリカやハワイの社会、文化、歴史に親しみながら、語彙力を強化し、語法の修得に努める。

3. 教育・学習の方法

- (1) 海外研修日程（予定）（22日間）
平成29年2月5日（日）～2月26日（日）
- (2) 研修先大学
ハワイ大学マノア校（アメリカ）
- (3) 授業計画
ハワイ大学マノア校にて3週間の集中研修を受講する（1日平均4時間×15日間＝計60時間）。
- (4) 学習方法
 - ① 研修初日にプレースメントテストがあり、参加者の英語のレベルに応じたクラスに配属される。
 - ② 毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度や英語による積極的な発言力を重視する。
 - ③ グループディスカッション等に対する積極的な取り組み、英語による積極的な発言が求められる。
 - ④ 研修先大学で研修中は日本語を話さないようにする。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) 英語の語彙数を増やしておくこと。
- (2) 旅行書やインターネット等でアメリカ（ハワイ）について事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

5. 評価方法

研修先大学での授業参加度、授業態度、課題、発表、テスト等に基づいて評価する。研修終了時にハワイ大学マノア校より授与される修了証書をもって帰国後に単位を認定する。（「特定目的海外研修A」：2単位）

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講者が最少催行人数（8名）に達しない場合、または研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (3) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション（平成29年1月13日（金）予定）に必ず出席すること。
- (4) 往路と復路のみ引率者が同行する。研修期間中の2月9日（木）～2月23日（木）は、ハワイ大学の担当者が本学の引率者に代わって緊急時の対応にあたる。

日 程	地 名	摘 要	宿 泊
2月5日（日）	関西空港発 ホノルル着	空路、ハワイ（ホノルル）へ（日付変更線通過） 着後、ホームステイ先へ	ホ ー ム ス テ イ
2月6日（月） ↓ 2月24日（金）	ホ ノ ル ル	ハワイ大学マノア校にて3週間の英語研修	ホ ー ム ス テ イ
2月25日（土） 2月26日（日）	ホノルル発 関西空港着	空路、日本へ 帰国	機 内 泊

（交通機関及び現地の都合により変更することがある）

講義コード	10181192			
科目名	特定目的海外研修A（英語海外研修Ⅲ）			
担当者	レジャイナ大学専任教員			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	カナダのレジャイナ大学が実施する「3週間集中英語プログラム」に参加する形態をとる。定員20名（最少催行人数8名）			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- (1) 英会話を中心とした英語コミュニケーションスキルを磨き、総合的な英語運用能力を向上させる。
- (2) カナダの生活、文化、自然、歴史、社会事情等の理解を深める。
- (3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身につける。
- (4) カナダ人学生との交流やホームステイを通して海外での日常生活の実際を体験する。

2. 教育・学習の個別課題

(1) Intensive English

レジャイナ大学が実施する英語のレベル別クラスで学ぶ。どのクラスにおいても、話す力、聴く力に重点をおいた総合的なコミュニケーション技法、発音、語彙力を向上させる。また、電話、手紙などの英語によるコミュニケーションスキルを磨き、実践的で正確なスピーキングとライティング能力を身につける。

(2) Conversation Session

小グループに分かれてカナダ人会話パートナーと会話練習やディスカッションを行なう。ネイティブスピーカーとの会話を通して自然な英語の発話に慣れ、同年代のカナダ人学生の考え方を理解する。

(3) Canadian Issues

カナダの歴史、多様な文化、社会、生活様式などへの理解を深める。

(4) Personal Research

カナダの多文化社会などの学習テーマに沿って個別研究と発表を行なう。

(5) 異文化体験

レジャイナ市が主催するいろいろなジャンルの音楽ライブやオーケストラの演奏、様々な国の文化や料理、アート等のイベント等に参加し、異文化体験や異文化交流を行う。

3. 教育・学習の方法

- (1) 海外研修日程（予定）
平成28年8月7日（日）～8月28日（日）（22日間）
- (2) 研修先大学
レジャイナ大学（カナダ）
- (3) 授業計画
レジャイナ大学にて3週間の授業を受講する（1日平均5時間×15日間＝計75時間）。
- (4) 学習方法
 - ① 研修初日にプレースメントテストがあり、参加者の英語レベルに応じたクラスに配属される。
 - ② 毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、努力度や英語による積極的な発言が望まれる。研修中は、全ての授業とアクティビティに参加する。
 - ③ 研修期間中は、英語のみを使用することが求められ、日本語を一切話さないようにする。
 - ④ 研修のまとめとして、個人別に10分間の課題研究発表を口頭で行うことが求められる。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) 英語の語彙数を増やしておくこと。
- (2) 旅行書やインターネット等でカナダについて事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

5. 評価方法

研修先大学での授業参加度、授業態度、課題、発表、テスト等に基づいて評価する。研修終了時にレジャイナ大学より授与される修了証書をもって帰国後単位を認定する。（「特定目的海外研修A」：2単位）

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講者が最少催行人数（8名）に達しない場合、または研修先の情勢によって研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (3) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション（7月1日（金）予定）に必ず出席すること。
- (4) 往路と復路のみ引率者が同行する。研修期間中の8月11日（木）～8月24日（水）は、レジャイナ大学の担当者が本学の引率者に代わって緊急時の対応にあたる。

日 程	地 名	摘 要	宿 泊
8月7日（日）	関西空港発 レジャイナ着	空路、カナダ・レジャイナへ（バンクーバー経由予定） 着後、ホームステイ先へ	機 内 泊 ホ ー ム ス テ イ
8月8日（月） ↓ 8月26日（金）	レ ジャ イ ナ	レジャイナ大学にて3週間の英語研修	ホ ー ム ス テ イ
8月27日（土） 8月28日（日）	レ ジャ イ ナ 発 伊 丹 空 港 着	空路、日本へ（バンクーバー経由予定）（日付変更線通過） 帰国（成田経由）	機 内 泊

（交通機関及び現地の都合により変更することがある）

講義コード	10181193			
科目名	特定目的海外研修B (社会福祉海外研修)			
担当者	酒井 久美子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	研修国：デンマーク 定員 20 名 (最少催行人数 8 名)			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

テーマ：デンマークの暮らしと文化

- (1) なぜデンマークが生活大国、福祉先進国といわれるのか、その根底にある国民の考え方、教育のあり方、福祉の現状などについて学ぶ。
- (2) デンマークの人々の暮らしと文化・教育、高齢者、児童、障がい者と福祉サービスとの関わりについて実地に学ぶ。
- (3) デンマークの人々との交流や日常生活に触れ、国際理解や国際的な視野を広げる。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) デンマークにおける社会福祉への取り組みと理念
- (2) デンマークの社会、文化、教育、医療制度、生活環境
- (3) デンマークの児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉
- (4) バリアフリー住宅や商業施設に見る住環境整備
- (5) デンマークにおける暮らしと文化などの点について学び、考える。特に、日本との違いや今後の日本の教育、福祉制度について考える。

3. 教育・学習の方法

- (1) 事前講義・事後指導
下記の事前講義、事後指導 (計 5 回 いずれも 16:35 ~18:05) を必ず受講すること。具体的な日程は後日調整のうえ、決定する。
①デンマークの社会と文化

- ②デンマークの福祉全般
- ③デンマークの教育と児童福祉
- ④デンマークの高齢者・障がい者福祉
- ⑤事後指導
- (2) 海外研修
平成 28 年 9 月 6 日 (火) ~9 月 16 日 (金) (11 日間)
- (3) 研修先
ノーフェンスホイスコーレ
(ボーゲンセ、コペンハーゲン)
- (4) 学習方法
①事前講義、事後指導は必ず出席すること。海外研修における積極的な受講姿勢が望まれる。
②事前講義テキスト
野村武夫著『ノーマライゼーションが生まれた国・デンマーク』(ミネルヴァ書房) ほか
③研修のまとめとして、パワーポイントによる発表とディスカッションが求められる。

4. 準備学習の具体的な方法

デンマークについてインターネット等で事前知識を得ること (地理、歴史、文化等)。

5. 評価方法

事前・事後講義の授業参加度、海外研修時の課題、参加態度、発表等に基づいて評価し、帰国後単位を認定する。(「特定目的海外研修 B」: 2 単位)

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに 4 月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講者が最少催行人数 (8 名) に達しない場合、または研修先の情勢によって研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、現地受入機関および交通機関などの都合により変更になることがある。
- (3) 研修参加決定者は、事前講義・事後指導 (計 5 回) および渡航前オリエンテーション (7 月 21 日 (木) 予定) に必ず出席すること。

日 程	地 名	摘 要	宿 泊
9 月 6 日 (火)	関西国際空港発 コペンハーゲン着 ボーゲンセ着	空路、デンマークへ (アムステルダム経由予定) コペンハーゲン着後、ボーゲンセへ移動 ノーフェンスホイスコーレに到着	
9 月 7 日 (水)	ボーゲンセ	ノーフェンスホイスコーレ (Nordfyns Folkehøjskole) にて研修 ・「デンマークについて」の講義 ・高齢者センター (特別養護老人ホーム) への訪問 ・高齢者デイケアセンターへの訪問 ・家庭医療制度を学ぶため診療所にて研修 ・学童保育所と国民学校の訪問と交流 ・知的障がい者グループホームへの訪問と交流 ・知的障がい者作業所への訪問 ・幼稚園の訪問と交流 ・ノーフェンスホイスコーレで学んでいる学生たちとのディスカッション	ボーゲンセ泊
9 月 13 日 (火)			
9 月 14 日 (水)	ボーゲンセ発 コペンハーゲン着	ボーゲンセ発 コペンハーゲンへ移動 ・デンマーク社会省を訪問、事務次官補による講義	コペンハーゲン泊
9 月 15 日 (木)	コペンハーゲン発	空路、日本へ (アムステルダム経由予定)	機 内 泊
9 月 16 日 (金)	関西国際空港着	帰国	

(交通機関および現地の都合により変更する場合があります)

講義コード	10181194			
科目名	特定目的海外研修A（韓国語海外研修）			
担当者	韓国カトリック大学専任教員			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	韓国カトリック大学が実施する「集中韓国語・韓国文化研修」に個別参加する形態をとる。1名から参加可能。現地大学での授業は語学カ別クラス編成で、1クラス10名程度。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- (1) 韓国語（初級～中級）の会話を中心とした集中語学研修を通して、基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力を磨く。特に韓国語を聴く力、話す力を伸ばすことに重点をおく。
- (2) 韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等への理解を深める。
- (3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度を身につける。
- (4) 韓国の大学におけるキャンパスライフを通して、韓国大学生との交流を深める。

2. 教育・学習の個別課題

- (1) 韓国語授業
1日4時間の韓国語授業を受講し短期間で集中的に聴く、話す、読む、書く能力を総合的に磨き、日常生活に必要とされる実用的な会話を習得する。
- (2) 韓国文化研修
韓国文化を学ぶための体験授業があり、韓国の工芸、料理、映画等をはじめ、韓国の伝統芸能に触れるフィールドワークが実施される。
- (3) 韓国大学生との会話練習
韓国カトリック大学の学生がチューターとなり韓国語の発音や会話訓練を行う。また、クラブ活動や文化活動を通して韓国語を実際に使う機会を設ける。
- (4) 実地見学
週1回はキャンパスを離れて実地見学を行う。朝鮮王朝の宮殿である景福宮やテレビ局等を訪ね、韓国の歴史や文化を実地に見学する。

3. 教育・学習の方法

- (1) 海外研修日程（予定）
平成28年8月7日（日）～8月20日（土）14日間
- (2) 研修先大学 韓国カトリック大学（韓国・富川市）
- (3) 研修スケジュール（予定）下表のとおり。
- (4) 授業計画

日程	地名	摘要	宿泊
8月7日（日）	関西国際空港発	空路、韓国（ソウル）へ 着後、空港出迎え。韓国カトリック大学へ	大学寮泊
8月8日（月） ↓ 8月19日（金）	富川	韓国カトリック大学にて 約2週間の韓国語研修	大学寮泊
8月20日（土）	ソウル発 関西国際空港着	大学から空港まで送迎。空路、日本へ 帰国	

韓国カトリック大学にて14日間の研修を合計60時間受講する。

- ① 韓国語授業・実習：計35時間
 - ② 韓国文化等講義：計4時間
 - ③ 韓国文化見学：計14時間
 - ④ 文化交流：計7時間
- (5) 学習方法
- ① 現地到着後にプレースメントテストを行い、各自の韓国語レベルに応じてクラス編成が行われる。
 - ② 毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度や韓国語による積極的な発言が重視される。
 - ③ 韓国大学生や他大学からの学生との交流活動には積極的に参加し、韓国語で会話する。
 - ④ 時間を厳守し、遅刻、欠席をしないようにする。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) 韓国語に少しでも触れておくこと。
- (2) 旅行書やインターネット等で韓国について事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

5. 評価方法

研修先大学での授業参加度、授業態度、課題、発表、テスト等に基づいて評価を行い、研修終了時に韓国カトリック大学より授与される修了証書をもって、帰国後に本学における単位を認定する。（「特定目的海外研修A」：2単位）

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 韓国カトリック大学が実施するプログラムに参加するため、初級程度の韓国語の知識が必要となる。また、欠席や遅刻過多の場合は、プログラム修了が認められず、単位が認定されない場合がある。
- (3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、参加者の前期定期試験の終了日程、現地受入機関や交通機関などの都合により変更になることがある。
- (4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション（6月21日（火）予定）に必ず出席すること。
- (5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率者は同行しない。
- (6) 本研修は本学の定期試験と重なる可能性があるため、各自が定期試験を終えてから出発するものとする。レポート提出については、提出期限が海外研修と重なる場合でも、海外研修出発以前に提出しなければならない。また、補講と重なる場合も教務課で手続きを行うこと。

（交通機関及び現地の都合により変更することがある）

講義コード	10181195			
科目名	特定目的海外研修A (海外インターンシップ研修Ⅱ)			
担当者	片山 裕			
単位数	2	配当学年	(夏期) 1234 (春期) 123	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	研修国：オーストラリア 個別参加の形態をとる。1名から参加可能。 履修条件は申請時 TOEIC470 以上。インターンシップ開始時 TOEIC500 以上。			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- (1) 海外の職場で実際に英語を使って仕事をすることを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力の涵養、積極性や責任感、キャリア意識を身につける。
- (2) オーストラリアの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身につける。
- (3) オーストラリア人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

2. 教育・学習の個別課題

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力の目安は以下のとおりである。

派遣先	主な業務	語学力目安
一般企業	一般事務の補助業務、大学や専門学校等での学校事務等	TOEIC 550 以上
観光関連企業	ホテルや旅行会社の補助業務、ガイドアシスタント、空港アシスト、観光局での事務アシスタント等	TOEIC 550 以上
幼児教育機関	保育園や幼稚園で先生の補助業務、子供の出席管理、遊び相手、食事補助等	TOEIC 500 以上
福祉施設	高齢者福祉施設での介護補助、食事手伝い、ベッドメイキング、話し相手等、介護のアシスタント業務	TOEIC 500 以上
学校 (小中高) 日本語教育	小・中・高校等で日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、ゲーム、会話補助等	TOEIC 600 以上

3. 教育・学習の方法

- (1) 海外研修日程（予定）夏期または春期のいずれかを選択する。
 - ① 夏期開講
平成 28 年 8 月 18 日（木）～9 月 8 日（木）22 日間
 - ② 春期開講
平成 29 年 2 月 9 日（木）～3 月 2 日（木）22 日間
- (2) 研修（インターンシップ）先
ブリスベン市内の企業、団体等
- (3) 研修計画
1 日平均 7 時間×約 3 週間
- (4) 学習方法
 - ① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションや現地でのインターンシップ事後指導に必ず出席すること。
 - ② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。
 - ③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) ビジネス英語に関する語彙や文書に少しでも触れておく。
- (2) 旅行書やインターネットでオーストラリアの事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化など）。

5. 評価方法

インターンシップ先での研修参加度・態度、研修先機関からの評価、課題、レポート等に基づいて評価を行い、研修終了時にオセアニア交流センターより授与される修了証書をもって、帰国後に本学における単位を認定する。
〔特定目的海外研修 A〕：2 単位

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに 4 月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講申込時に、TOEIC 成績通知書を提出すること。
- (3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計 2 回（夏期の場合 第 1 回目：6 月 23 日（木）、第 2 回目：7 月 14 日（木）予定、春期の場合 第 1 回目：12 月 8 日（木）、第 2 回目：平成 29 年 1 月 12 日（木）予定）に必ず出席すること。
- (5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、オセアニア交流センター・ブリスベン事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

夏期	春期	地名	摘要	宿泊
8/18 (木) 8/19 (金)	2/ 9 (木) 2/10 (金)	関西国際空港発 ブリスベン着	空路、オーストラリアへ（乗継予定） 着後、空港で出迎え、ホームステイ先へ	機内泊 ホームステイ
8/20 (土) ↓ 9/ 6 (火)	2/11 (土) ↓ 2/28 (火)	ブリスベン	インターンシップ先で約 3 週間の就業体験	ホームステイ
9/ 7 (水) 9/ 8 (木)	3/ 1 (水) 3/ 2 (木)	ブリスベン発 関西国際空港着	空路、日本へ（乗継予定） 帰国	

（交通機関及び現地の都合により変更することがある）

講義コード	10181196			
科目名	特定目的海外研修A (海外インターンシップ研修Ⅲ)			
担当者	片山 裕			
単位数	2	配当学年	(春期) 23	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	研修国：アメリカ 個別参加の形態をとる。1名から参加可能。 積極性と行動力、責任感が求められる。			
科目読替				
社会 基 礎 能 力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. 科目の教育目標

- (1) アメリカのシリコンバレーにある米国企業・団体、日系企業等で実践的な就業体験を行うことにより、グローバルな視点と国際性、コミュニケーション能力、積極性や責任感、キャリア意識を身につける。
- (2) アメリカの生活、経済、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して多様な価値観や考え方を学ぶ。
- (3) アメリカ人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

2. 教育・学習の個別課題

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。英語の語学力が高い場合は、アメリカ人指導員のもとで英語による実務研修を行う。英語の語学力が低い場合は、日系企業で日本人指導員のもとで実務研修を行う。主な業務内容と必要とされる英語力の目安は以下のとおりである。

企業(例)・業種	研修内容	英語力の目安
米国企業・団体※	マーケティングリサーチ、企画プランニング、在庫管理、営業補佐等の実務を体験する。	TOEIC 730以上が望ましい
日系企業	企画プランニング、リサーチなどのサポート業務を体験する。	日常会話程度
旅行会社	カスタマーサポート、企画、マーケティング、WEBサポート	日常会話程度
食品製造	食品分析、マーケティング	英語力問わず
アパレル貿易	営業管理、WEB政策、在庫管理	英語力問わず
教育関係	日本語教師のアシスト、日本文化紹介、発音指導、会話補助等	日常会話程度

※ソフトウェア・WEB開発、機械開発、貿易商社、通販会社、流通、出版・メディア、食品開発・販売、デザイン会社、美容関連、会計事務所、幼児教育施設、福祉事務所等

3. 教育・学習の方法

- (1) 海外研修日程（予定）
春期開講
平成29年2月10日（金）～3月5日（日）24日間
- (2) 研修（インターンシップ）先
アメリカ・カリフォルニア州シリコンバレーに所在する企業等
- (3) 研修計画
1日平均7時間×約3週間
- (4) 学習方法
 - ① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションに必ず出席すること。また、現地で行われるビジネス講座、実習課題のプレゼンテーションに参加すること。
 - ② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。
 - ③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

4. 準備学習の具体的な方法

- (1) ビジネス英語に関する語彙や文書に少しでも触れておく。
- (2) 旅行書やインターネットで渡航先地域の事前知識を得ること（地理、歴史、文化など）。

5. 評価方法

インターンシップ先での研修参加度・態度、研修先機関からの評価、課題、レポート等に基づいて評価を行い、研修終了時にオセアニア交流センターより授与される修了証書をもって、帰国後に本学における単位を認定する。（「特定目的海外研修A」：2単位）

6. 留意事項

- (1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月又は10月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 申込時に、TOEIC成績通知書の提出を求められることがある。また、受け入れ企業・団体の担当者によるスカイプでの面接を行う。面接の結果、不採用となる場合もある。
- (3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回（第1回目：12月8日（木）、第2回目：平成29年1月12日（木）予定）に必ず出席すること。
- (5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、オセアニア交流センターのカリフォルニア在住日本人アドバイザーが現地での対応にあたる。

春期	地名	摘要	宿泊
2/10（金） 2/10（金）	関西国際空港発 サンフランシスコ着	空路、アメリカへ 着後、空港で出迎え、ホームステイ先へ	機内泊 ホームステイ
2/11（土） ↓ 3/3（金）	シリコンバレー	インターンシップ先で約3週間の就業体験	ホームステイ
3/4（土） 3/5（日）	サンフランシスコ発 関西国際空港着	空路、日本へ 帰国	機内泊

（交通機関及び現地の都合により変更することがある）

講義コード	10183101			
科目名	ボランティア実践			
担当者	古庵 晶子			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

幼稚園、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校において各教科や、部活動の指導補助などの教育活動を支援するという目的の京都府教育委員会や京都市教育委員会及び各自治体の学生ボランティア事業に参加する。この事業の実施目的を理解し、参加するための方法や心構えについて学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

授業目的について理解する。
各学校の教育支援活動に参加する。
活動に参加した結果をまとめる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

オリエンテーション、事前指導に参加する。
実施要項に基づき、書類等を作成する。
大学の授業に支障をきたさないように活動する。
教育現場の実際を学ぶ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学生ボランティア事業等の情報をインターネット等で収集する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題レポートの提出

各教育委員会からの報告書

学生ボランティアの述べ30時間以上参加すること
上記のことをすべて満たすことで単位は修得できる

5. Special Information (留意事項)

自らの意思でボランティアに参加することと、大学外で活動するという認識で、責任のある行動を取ること

講義コード	10183701			
科目名	認定日本語 日本語検定3級～2級合格をめざして			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

言語力の育成が社会的要請として重視されるなか、大学生として一定の国語力を習得することは、きわめて重要な学習課題である。この科目は、本学学生が国語力を向上させるために自主的・積極的に学習を積み重ね、かつその成果として資格が取得できるように、「日本語検定試験」合格を単位として認定するものである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

社会人として必要な、漢字の読み書き、語彙、敬語表現、文章読解等、国語に関する能力を総合的に習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

各自、公式テキスト等で日本語検定試験の過去問題や練習問題にとりくみ、自学自習を重ね、6月もしくは11月に実施される日本語検定を受検する。3級以上の合格認定を受けた者に、単位を与える。合格後3年以内に申請すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

以下の文献により、各自学習を進めること。

東京書籍『日本語検定 公式練習問題集2級』1,000円

東京書籍『日本語検定 公式練習問題集3級』900円

東京書籍『日本語検定 公式2級 過去問題集』1,000円

東京書籍『日本語検定 公式3級 過去問題集』900円

東京書籍『公式領域別問題集 敬語』1,200円

東京書籍『公式領域別問題集 語彙・言葉の意味』1,200円

東京書籍『公式領域別問題集 文法』1,200円

東京書籍『公式領域別問題集 漢字・表記』1,200円

東京書籍『日本語検定必勝単語帳 入門編』1,050円

東京書籍『日本語検定必勝単語帳 応用編』1,050円

東京書籍『日本語検定公式テキスト 日本語上級』1,575円

東京書籍『日本語検定公式テキスト 日本語中級』1,470円

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

単位認定のために求められる成果の基準は以下のとおり。

日本語検定試験：3級以上

単位認定を希望する者は、単位認定申請書(教務委員会様式)及びNPO法人日本語検定委員会が実施する日本語検定試験個人カルテ及び認定証の原本(受験した日から3年以内のもの)を教務課に提出すること。

提出期日：単位認定を希望する学期の授業最終日

5. Special Information (留意事項)

講義コード	10184001			
科目名	インターンシップA			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情][ブ][ホ][子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

景気の回復が不透明な時代に入り、求人数の減少、就職環境は非常に難しくなっている。学生が就業体験の実習に取り組むことにより、社会の厳しさや難しさを学ぶことはもとより、一般常識の習得、さらにはコミュニケーション能力や積極性の重要性を実感し、明確なキャリア意識の確立を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・参加する前に各自十分に企業研究を行うこと
- ・実際の就業体験から得られた仕事に対する明確な目的・ビジョンに基づき、進路選択をしていくこと。
- ・就業体験により、明確な目的意識を持ち、意欲的に勉強や学生生活を送り、ひいては自分のキャリアプランを考えていくこと。

3. Course Method (教育・学習の方法)

履修に関しては、キャリアセンターからの指示に従うこと。
キャリアセンターからの連絡、指示は掲示によることが多いので、各自で掲示板を確認し、把握しておくこと。

実習期間は実働10日以上を原則としている。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること

・実習に行く前に指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。

・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。

・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

・事前指導、実習中、事後指導の授業参加度およびプレゼンテーション、最終レポートにより総合的に評価する。

・遅刻、欠席厳禁。

5. Special Information (留意事項)

自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。

講義コード	10184002			
科目名	インターンシップB プログレスコース			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情][ブ][ホ][子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(コオプ教育)は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。

本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

プロジェクトを通して、さまざまな角度から実社会を見つめ、現状を把握する力、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることが目標です。受入れ先が提示したプロジェクトのテーマに沿って成果重視の活動を行うプログラムとなっており、受入れ先にとってもメリットとなっています。そのため専門性や独創性および協調性が求められます。講義では、具体的にプロジェクトを推進しながら目標を修正し、そのつど受入れ先とすりあわせながら検討を重ねていきます。

3. Course Method (教育・学習の方法)

6月～11月の約5ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO等)が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること
- ・実習に行く前に指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。
- ・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。
- ・体調管理を万全に整えること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

※以下の3項目を成績評価基準とします。

- ①実習状況
 - ②平常点(事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価)
 - ③課題(事前学習レポート、事後学習レポート、プロジェクト報告書等)
- ①にて50% ②～③にて50% 計100%

5. Special Information (留意事項)

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前にWeb申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。

[Web申込期間]2016年4月22日(金)9:00～5月5日(木)17:00

[出願・面接日]2016年5月6日(金)16:00～18:30、5月7日(土)10:00～15:00

なお、説明と相談会が2016年4月16日(土)18時から行われますので、詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都にお問い合わせください。

講義コード	10184003			
科目名	インターンシップC ビジネス・パブリックコース			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[情][ブ][ホ][子]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(コオプ教育)は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。

本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

事前学習→実習→事後学習という体系化された学習プログラムを通じて、実社会への理解を深め、社会性や職業観を身につけるとともに、実習後の学生生活における課題の整理と目標を明らかにすることを目指します。

事前学習・事後学習では、業界・業種別、或いは行政・非営利組織(NPO・NGO等)別にクラスを編成し、他大学の学生と共に業界研究やディスカッション等を行うことで、目標達成に向かいます。

3. Course Method (教育・学習の方法)

8月中旬～9月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO等)において2週間～1ヶ月程度の実習を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること
- ・実習に行く前に指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。
- ・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。
- ・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

※以下の3項目を成績評価基準とします。

- ①実習状況
 - ②平常点(事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価)
 - ③課題(事前学習レポート、事後学習レポート、プロジェクト報告書等)
- ①にて50% ②～③にて50% 計100%

5. Special Information (留意事項)

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前にWeb申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。

[Web申込期間]2016年4月22日(金)9:00～5月5日(木)17:00

[出願・面接日]2016年5月6日(金)16:00～18:30、5月7日(土)10:00～15:00

なお、説明と相談会が2016年4月16日(土)18時から行われますので、詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都にお問い合わせください。

講義コード	18010101			
科目名	医療サポート英語 I			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『Because We Care』 Inoue & Ihara センゲージラーニング			
参考文献	『講義録 医学英語 I』 清水雅子 メディカルビュー社 2011年 『そのまま使える病院英語表現5000』 仁木久恵等 医学書院 2009年			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20703001			
科目名	医療サポート英語Ⅰ			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『Because We Care』 Inoue & Ihara センゲージラーニング			
参考文献	『講義録 医学英語Ⅰ』 清水雅子 メディカルビュー社 2011年 『そのまま使える病院英語表現5000』 仁木久恵等 医学書院 2009年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本学が京都府立医科大学と提携した契機に、本学が今まで取り組んできたホスピタリティを基盤に語学力のある高度な医療サポートスタッフの養成を考えている。まずは、将来の医療現場で役立つような医学的英語の基礎力をこのクラスでは養成する。特に病院での受付を英語でできるように訓練する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 医療関係英語語彙の習得
2. 医療に使われる基本的英語フレーズの習得
3. 医療現場で役立つ実践的英語の基礎力養成

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 医療文献のリーディング
 2. 語彙テスト
 3. フレーズの練習
 4. ロールプレイ
 5. 医療英語演習
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 医療語彙学習
2. 予備的医療知識習得
3. CDでの練習
4. 課題準備

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業態度30%、課題30%、クイズ10%、試験30%で総合的に判断する。欠席、遅刻は減点の対象である。授業回数の三分の一以上欠席した場合、基本的に単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 専門科目と専門医の名称
- 第3回 身体の部位名
- 第4回 筋骨格系部位名受付での英語
- 第5回 循環器系
- 第6回 呼吸器系
- 第7回 消化器系
- 第8回 患者の問診援助
- 第9回 症状の英語1
- 第10回 症状の英語2
- 第11回 診察の説明
- 第12回 検査の説明
- 第13回 薬剤投与の説明
- 第14回 治療と処置
- 第15回 まとめとその他

6. Special Information (留意事項)

学生のレベルによって中身が変わる可能性がある。

講義コード	18010201			
科目名	医療サポート英語Ⅱ			
担当者	(未定)			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目	180101 [医療サポート英語Ⅰ]			
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	20703101			
科目名	医療サポート英語Ⅱ			
担当者	(未定)			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目	180101 [医療サポート英語Ⅰ]			
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

別紙

講義コード	18010301			
科目名	医療サポート語学プログラム病院研修			
担当者	須川 いずみ			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『Because We Care』 Inoue & Ihara センゲージラーニング 2012年			
参考文献	『講義録 医学英語Ⅰ』 清水雅子 メディカルビュー社 2011年 『そのまま使える病院英語表現5000』 仁木久恵等 医学書院 2009年			
備考	原則として、履修しようとする年度にプログラムを修了見込である者のみ履修可能			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20703201			
科目名	医療サポート語学プログラム病院研修			
担当者	須川 いずみ			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『Because We Care』 Inoue & Ihara センゲージ・ラーニング 2012年			
参考文献	『講義録 医学英語 I』清水雅子 メディカルビュー社 2011年 『そのまま使える病院英語表現5000』仁木久恵等 医学書院 2009年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

京都府立医科大学と提携した契機に、本学が今までエアラインプログラムで取り組んできたホスピタリティと英語を使って、京都を訪れる外国人の患者のために医療サポートができる人材育成が目的である。病院の受付から医療従事者と患者との意思疎通がスムーズになるように通訳ができるような人材を養成したい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 医療への深い理解
2. 医療現場で使われる英語の習得
3. 医療現場で即戦力になれるようにする

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 病院見学
2. 各部署の把握
3. 医療知識の習得
4. 医療英語の練習と実践

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 医療英語の復習
2. 医療英語のフレーズの練習
3. ロールプレイ

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業と研修への参加態度50%、課題20%、試験30%で総合的に判断する。研修での遅刻や、欠席した場合、基本的に単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 事前授業
- 第2回 事前授業
- 第3回 オリエンテーション (感染チェック)
- 第4回 病院見学に当たっての病院概要と国際化の取り組み
- 第5回 総合案内と受付～診療科受付
- 第6回 診察室
- 第7回 臨床検査部、放射線部、内視鏡室
- 第8回 リハビリテーション部
- 第9回 薬剤部と栄養管理部
- 第10回 病棟
- 第11回 小児医療センター
- 第12回 緩和ケア病棟
- 第13回 入退院センターと地域連携室
- 第14回 医療通訳者の講話「外国人患者対応について」
- 第15回 事後授業とまとめ

6. Special Information (留意事項)

本研修は京都府立医科大学で行う研修であり、学生と異なる社会人としてのけじめのある態度と身だしなみが必要である。スーツ着用、茶髪不可、音の出ない靴必要。

講義コード	20101001			
科目名	Reading I A			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『ACTIVE Skills for Reading 1』 Neil J. Anderson Heinle Cengage 2013			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading-based assignments. Students must meet the teacher's attendance requirements to receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to ACTIVE Reading
- 第2回 A Restaurant for Change, Predicting
- 第3回 Let's Make Blueberry Muffins, Scanning
- 第4回 Computer Beats Champs, Reading for Details
- 第5回 The Most Useful Inventions, Scanning
- 第6回 Want to Study Abroad?, Using Subheadings
- 第7回 My Travel Journal, Reading for Details
- 第8回 Fluency Strategy: SQ3R
- 第9回 A Student Budget, Skimming for Main Ideas
- 第10回 My Money, Identifying Supporting Details
- 第11回 Cell Phone Etiquette, Identifying Transition Words
- 第12回 Smartphone Apps for Travelers, Making Inferences
- 第13回 The Olympic Flame, Skimming for the Main Idea
- 第14回 Unusual Olympic Sports, Reading for Details
- 第15回 Fluency Strategy: KWL

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20101002			
科目名	Reading I B A student-centered reading SKILLS course			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Reading Power 2 (4th Ed.)』 Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky Pearson Longman 2009			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the SKILLS and STRATEGIES that are involved in the reading process. This course is NOT a translation course! Vocabulary acquisition (vocabulary learning) will also be worked on extensively!

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to read well, IN ENGLISH, via 4 ways:

- i) EXTENSIVE READING: reading a book that you choose and reading a lot
- ii) VOCABULARY BUILDING: learning new words
- iii) COMPREHENSION SKILLS: learning to understand what you read
- iv) READING FASTER: learning to read faster and understand more in English

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time!

NOTE: The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, and Extensive Reading book reports.

Class Participation 40%

Tests / Quizzes / Etc. 30%

Extensive Reading Book Reports 30%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class. The following is a suggestion.

Introduction to the Course

第2回 Extensive Reading, Guidelines for Learning Vocabulary, Previewing, Faster Reading

第3回 Extensive Reading, Guidelines for Learning Vocabulary, Previewing, Faster Reading

第4回 Extensive Reading, Learning New Words from Your Reading, Scanning, Faster Reading

第5回 Extensive Reading, Learning New Words from Your Reading, Scanning, Faster Reading

第6回 Extensive Reading, Guessing Meaning from Context, Making Inferences, Faster Reading

第7回 Extensive Reading, Guessing Meaning from Context, Making Inferences, Faster Reading

第8回 Extensive Reading, Word Parts, Focusing on the Topic, Faster Reading

第9回 Extensive Reading, Word Parts, Focusing on the Topic, Faster Reading

第10回 Extensive Reading, How Words Are Used Together, Understanding Paragraphs, Faster Reading

第11回 Extensive Reading, How Words Are Used Together, Understanding Paragraphs, Faster Reading

第12回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Identifying the Pattern, Faster Reading

第13回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Identifying the Pattern, Faster Reading

第14回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Thinking in English, Faster Reading

第15回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Thinking in English, Faster Reading

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace according to the unique characteristics and level of the class.

講義コード	20101003			
科目名	Reading I C			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Basic Reading Power1 Third Edition』 Linda Jeffries/ Beatrice S Mikulecky Pearson Longman Publishers			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The readings and assignments in this class will cover a variety of topics and a variety of reading skills. Reading skills will be taught to promote fluency and accuracy. These skills will hopefully lead to success in the reading of academic texts.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop reading skills that will be useful in their further academic studies and any reading that they may do later in their life.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all in class tasks and homework assignments on time. These tasks and assignments may be done individually, in pairs or in small groups. Each of these tasks and assignments will re-enforce the reading skills that the students are developing.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of class activities, homework assignments, and tests. Students must meet the teacher's attendance requirements in order to receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Identifying Main Ideas in Paragraphs

第2回 Scanning

第3回 Identifying Meaning from Context

第4回 Skimming for the Main Idea

第5回 Recognizing Points of View

第6回 Recognizing Reference Words, Recognizing Signal Words

第7回 Predicting the Topic

第8回 Ignoring Unknown Words

第9回 Identify Main Ideas and Details

第10回 Previewing and Predicting

第11回 Recognizing the Author's Purpose

第12回 Making Inferences

第13回 Summarizing

第14回 Identifying Supportive Details

第15回 Distinguishing Fact from Opinion

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Each of the following skills will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The skills will be introduced, practiced and developed in the order needed by the class.

講義コード	20101004			
科目名	Reading I D			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Let's Check Out the UK!』 Paul Chris McVay Kinseido The course textbook is to be announced by the teacher.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their receptive and productive vocabulary.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading-based assignments. Students must meet the teacher's attendance requirements to receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class. The following is a suggestion.
- 第2回 Scanning
- 第3回 Scanning
- 第4回 Skimming
- 第5回 Skimming
- 第6回 Finding details
- 第7回 Finding details
- 第8回 Critical reading
- 第9回 Critical reading
- 第10回 Reading with intonation
- 第11回 Reading with intonation
- 第12回 Understanding genre
- 第13回 Understanding genre
- 第14回 Reading for writing
- 第15回 Reading for writing

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20101101			
科目名	Reading II A			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『ACTIVE Skills for Reading 1』 Neil J. Anderson Heinle Cengage 2013			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading-based assignments. Students must meet the teacher's attendance requirements to receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 The World's Oldest Universities, Identifying Supporting Details
- 第3回 Modern Engineering Wonders, Scanning
- 第4回 Which English Will We Speak?, Identifying Main Ideas
- 第5回 Sign Language, Distinguishing Main Idea and Supporting Details
- 第6回 How Do You Celebrate?, Scanning
- 第7回 Edinburgh Festival Journal, Reading for Details
- 第8回 Fluency Strategy: Dealing with Unknown Words
- 第9回 The Age of Adulthood, Predicting
- 第10回 Firsts in Life, Making Inferences
- 第11回 Are you an Ophiuchus?, Summarizing
- 第12回 Predicting Earthquakes, Identifying Transition Words
- 第13回 A Japanese Folktale, Recognizing Sequence of Events
- 第14回 Internet Hoaxes, Identifying Cause and Effect
- 第15回 Fluency Strategy: Reading ACTIVELY

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20101102			
科目名	Reading II B A student-centered reading SKILLS course			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Reading Power 2 (4th Ed.)』 Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky Pearson Longman 2009			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the SKILLS

and STRATEGIES that are involved in the reading process. This course is NOT a translation course! Vocabulary acquisition (vocabulary learning) will also be worked on extensively!

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to read well, IN ENGLISH, via 4 ways:

- i) EXTENSIVE READING: reading a book that you choose and reading a lot
- ii) VOCABULARY BUILDING: learning new words
- iii) COMPREHENSION SKILLS: learning to understand what you read
- iv) READING FASTER: learning to read faster and understand more in English

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time!

NOTE: The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, and Extensive Reading book reports.

Class Participation 40%

Tests / Quizzes / Etc. 20%

Extensive Reading Book Reports 30%

Vocabulary Portfolio 10%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class. The following is a suggestion.

Introduction to the Course

第2回 Extensive Reading, Guidelines for Learning Vocabulary, Previewing, Faster Reading

第3回 Extensive Reading, Guidelines for Learning Vocabulary, Previewing, Faster Reading

第4回 Extensive Reading, Learning New Words from Your Reading, Scanning, Faster Reading

第5回 Extensive Reading, Learning New Words from Your Reading, Scanning, Faster Reading, Extensive Reading, Learning New Words from Your Reading, Scanning, Faster Reading

第6回 Extensive Reading, Guessing Meaning from Context, Making Inferences, Faster Reading

第7回 Extensive Reading, Guessing Meaning from Context, Making Inferences, Faster Reading

第8回 Extensive Reading, Word Parts, Focusing on the Topic, Faster Reading

第9回 Extensive Reading, Word Parts, Focusing on the Topic, Faster Reading

第10回 Extensive Reading, How Words Are Used Together, Understanding Paragraphs, Faster Reading

第11回 Extensive Reading, How Words Are Used Together, Understanding Paragraphs, Faster Reading

第12回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Identifying the Pattern, Faster Reading

第13回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Identifying the Pattern, Faster Reading

第14回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Thinking in English, Faster Reading

第15回 Extensive Reading, How Words Work in Sentences, Thinking in English, Faster Reading

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace according to the unique characteristics and level of the class.

講義コード	20101103			
科目名	Reading II C			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Basic Reading Power1 Third Edition』 Linda Jeffries/ Beatrice S Mikulecky Pearson Longman Publishers			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The readings and assignments in this class will cover a variety of topics and a variety of reading skills. Reading skills will be taught to promote fluency and accuracy. These skills will hopefully lead to success in the reading of academic texts. This course is a continuation of the skills introduced, practiced and developed in reading I C.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop reading skills that will be useful in their further academic studies and any reading that they may do later in their life.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all in class tasks and homework assignments on time. These tasks and assignments may be done individually, in pairs or in small groups. Each of these tasks and assignments will re-enforce the reading skills that the students are developing.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of class activities, homework assignments, and tests. Students must meet the teacher's attendance requirements in order to receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 Identifying Main Ideas in Paragraphs

第2回 Scanning

第3回 Identifying Meaning from Context

第4回 Skimming for the Main Idea

第5回 Recognizing Points of View

第6回 Recognizing Reference Words, Recognizing Signal Words

第7回 Predicting the Topic

第8回 Ignoring Unknown Words

第9回 Identify Main Ideas and Details

第10回 Previewing and Predicting

第11回 Recognizing the Author's Purpose

第12回 Making Inferences

第13回 Summarizing

第14回 Identifying Supportive Details

第15回 Distinguishing Fact from Opinion

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Each of the following skills will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The skills will be introduced, practiced and developed in the order needed by the class.

講義コード	20101104			
科目名	Reading II D			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Let's Check Out the UK!』 Paul Chris McVay and N Kawada Kinseido The course textbook is to be announced by the teacher.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their receptive and productive vocabulary.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading-based assignments. Students must meet the teacher's attendance requirements to receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class. The following is a suggestion.

- 第2回 Scanning
- 第3回 Scanning
- 第4回 Skimming
- 第5回 Skimming
- 第6回 Finding details
- 第7回 Finding details
- 第8回 Critical reading
- 第9回 Critical reading
- 第10回 Reading with intonation
- 第11回 Reading with intonation
- 第12回 Understanding genre
- 第13回 Understanding genre
- 第14回 Reading for writing
- 第15回 Reading for writing

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20101401			
科目名	Academic Reading I			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	20101402			
科目名	Academic Reading I			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	20101403			
科目名	Academic Reading I			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	20101404			
科目名	Academic Reading I			
担当者	橘堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	20101405			
科目名	Academic Reading I			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	20101406		
科目名	Academic Reading I		
担当者	小林 順		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力	主体的に行動する力

講義コード	20101412		
科目名	Academic Reading I		
担当者	吉野 啓子		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力	主体的に行動する力

講義コード	20101407		
科目名	Academic Reading I		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力	主体的に行動する力

講義コード	20101408		
科目名	Academic Reading I		
担当者	須川 いずみ		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力	主体的に行動する力

講義コード	20101409		
科目名	Academic Reading I		
担当者	杉村 美奈		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力	主体的に行動する力

講義コード	20101411		
科目名	Academic Reading I		
担当者	東郷 多津		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、英語英文学演習(ゼミ)に所属して本格的に学術活動(卒業研究に向けた学習)を開始する3年次生を対象とし、卒業研究作成のために必要となる英語文献(学術論文、専門書、等)を適切かつ効率よく読み、要約し、記録する技術の獲得を目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

自らの卒業研究に必要な英語学術論文、専門書等を：

- <1> 適切に収集する技術の習得
- <2> 精読し、適切かつ効率よく理解する技術の習得
- <3> 要約し、参考・引用文献として記録する技術の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

本科目は、学術論文・著書の講読演習、要約演習、引用演習を中心に展開される。一般的な論文・著書ではなく、各々の卒業論文トピックに直接(または間接的に)関連する文献を選択し、各学生が行う講読演習に対して担当教員が個別かつ具体的な指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- (1) 担当教員との協議により、各学生の卒業論文トピックに適切な Reading Assignments (学術論文、著書、または著書の一部)を複数(各学期5本程度)決定する。
- (2) それぞれの Reading Assignment に対して、要約および Critical Review を作成する。
- (3) 作成した要約、Critical Review に対するフィードバックに基づき、各 Assignment の要約・Critical Review に関して2回程度の Revision を行う。
- (4) 学期を通じて作成した Critical Reviews をまとめ、各々の卒業論文作成で利用できるよう、擬似的に" Literature Review" の章(またはセクション)を完成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題1 (Reading Assignment 1): 25%
 課題2 (Reading Assignment 2): 25%
 課題3: (Reading Assignment 3): 25%
 Literature Review: (Reading Assignment 4): 25%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation と Reading Assignments に関する協議1
- 第2回 Reading Assignments に関する協議2 と決定
- 第3回 Reading Assignment 課題1
- 第4回 Reading Assignment 課題1: Revision 1
- 第5回 Reading Assignment 課題1: Revision 2
- 第6回 Reading Assignment 課題2
- 第7回 Reading Assignment 課題2: Revision 1
- 第8回 Reading Assignment 課題2: Revision 2
- 第9回 Reading Assignment 課題3
- 第10回 Reading Assignment 課題3: Revision 1
- 第11回 Reading Assignment 課題3: Revision 2
- 第12回 Literature Review (Chapter or Section)
- 第13回 Literature Review (Chapter or Section): Revision 1
- 第14回 Literature Review (Chapter or Section): Revision 2
- 第15回 Literature Review 発表

6. Special Information (留意事項)

本科目は主に個人指導の形態を取るため、定められた開講時間以外に講義(指導)を行うことがある。時間の変更、講義(指導)形態については担当教員の指示に従うこと。

講義コード	20101501		
科目名	Academic Reading II		
担当者	York Weatherford		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101506		
科目名	Academic Reading II		
担当者	小林 順		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101502		
科目名	Academic Reading II		
担当者	大川 淳		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101507		
科目名	Academic Reading II		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101503		
科目名	Academic Reading II		
担当者	沖原 勝昭		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101508		
科目名	Academic Reading II		
担当者	須川 いずみ		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101504		
科目名	Academic Reading II		
担当者	橋堂 弘文		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101509		
科目名	Academic Reading II		
担当者	杉村 美奈		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101505		
科目名	Academic Reading II		
担当者	Robert Kritzer		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101511		
科目名	Academic Reading II		
担当者	東郷 多津		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓

講義コード	20101512		
科目名	Academic Reading II		
担当者	吉野 啓子		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、英語英文学演習(ゼミ)に所属して本格的に学術活動(卒業研究に向けた学習)を開始する3年次生を対象とし、卒業研究作成のために必要となる英語文献(学術論文、専門書、等)を適切かつ効率よく読み、要約し、記録する技術の獲得を目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

自らの卒業研究に必要な英語学術論文、専門書等を：

- <1> 適切に収集する技術の習得
- <2> 精読し、適切かつ効率よく理解する技術の習得
- <3> 要約し、参考・引用文献として記録する技術の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

本科目は、学術論文・著書の講読演習、要約演習、引用演習を中心に展開される。一般的な論文・著書ではなく、各々の卒業論文トピックに直接(または間接的に)関連する文献を選択し、各学生が行う講読演習に対して担当教員が個別かつ具体的な指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- (1) 担当教員との協議により、各学生の卒業論文トピックに適切な Reading Assignments (学術論文、著書、または著書の一部)を複数(各学期5本程度)決定する。
- (2) それぞれのReading Assignmentに対して、要約およびCritical Reviewを作成する。
- (3) 作成した要約、Critical Reviewに対するフィードバックに基づき、各Assignmentの要約・Critical Reviewに関して2回程度のRevisionを行う。
- (4) 学期を通じて作成したCritical Reviewsをまとめ、各々の卒業論文作成で利用できるよう、擬似的に”Literature Review”の章(またはセクション)を完成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題1 (Reading Assignment 1): 25%

課題2 (Reading Assignment 2): 25%

課題3 (Reading Assignment 3): 25%

Literature Review: (Reading Assignment 4): 25%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation and Reading Assignmentsに関する協議1
- 第2回 Reading Assignmentsに関する協議2と決定
- 第3回 Reading Assignment 課題1
- 第4回 Reading Assignment 課題1: Revision 1
- 第5回 Reading Assignment 課題1: Revision 2
- 第6回 Reading Assignment 課題2
- 第7回 Reading Assignment 課題2: Revision 1
- 第8回 Reading Assignment 課題2: Revision 2
- 第9回 Reading Assignment 課題3
- 第10回 Reading Assignment 課題3: Revision 1
- 第11回 Reading Assignment 課題3: Revision 2
- 第12回 Literature Review (Chapter or Section)
- 第13回 Literature Review (Chapter or Section): Revision 1
- 第14回 Literature Review (Chapter or Section): Revision 2
- 第15回 Literature Review 発表

6. Special Information (留意事項)

本科目は主に個人指導の形態を取るため、定められた開講時間以外に講義(指導)を行うことがある。時間の変更、講義(指導)形態については担当教員の指示に従うこと。

講義コード	20101601			
科目名	Reading Lab I			
担当者	York Weatherford			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Students will choose Graded Readers from the library based on their own levels and interests. Students will also need to purchase a WordEngine account for online vocabulary study.			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop their reading fluency and expand their vocabularies through extensive reading and vocabulary study.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will read self-selected books from the library's Graded Readers collection on a regular basis and they will take online quizzes and/or write book reports to demonstrate their progress. In addition, students will complete online vocabulary activities and quizzes.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will develop reading skills and vocabulary knowledge through individual extensive reading and vocabulary activities.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are required to select their own books from the library and read them regularly. In addition, students must complete the online quizzes and activities in their own time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the completion of the reading and vocabulary activities as follows:

50% Reading Quizzes and Book Reports

50% Vocabulary Quizzes and Activities

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to Extensive Reading
- 第2回 Vocabulary & Reading Quiz 1
- 第3回 Vocabulary & Reading Quiz 2
- 第4回 Vocabulary & Reading Quiz 3
- 第5回 Vocabulary & Reading Quiz 4
- 第6回 Vocabulary & Reading Quiz 5
- 第7回 Vocabulary & Reading Quiz 6
- 第8回 Vocabulary & Reading Quiz 7
- 第9回 Vocabulary & Reading Quiz 8
- 第10回 Vocabulary & Reading Quiz 9
- 第11回 Vocabulary & Reading Quiz 10
- 第12回 Vocabulary & Reading Quiz 11
- 第13回 Vocabulary & Reading Quiz 12
- 第14回 Vocabulary & Reading Quiz 13
- 第15回 Vocabulary & Reading Quiz 14

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20101701			
科目名	Reading Lab II			
担当者	York Weatherford			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Students will choose Graded Readers from the library based on their own levels and interests. Students will also need to purchase a WordEngine account for online vocabulary study.			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop their reading fluency and expand their vocabularies through extensive reading and vocabulary study.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will read self-selected books from the library's Graded Readers collection on a regular basis and they will take online quizzes and/or write book reports to demonstrate their progress. In addition, students will complete online vocabulary activities and quizzes.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will develop reading skills and vocabulary knowledge through individual extensive reading and vocabulary activities.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are required to select their own books from the library and read them regularly. In addition, students must complete the online quizzes and activities in their own time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the completion of the reading and vocabulary activities as follows:

50% Reading Quizzes and Book Reports

50% Vocabulary Quizzes and Activities

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Vocabulary & Reading Quiz 1
- 第3回 Vocabulary & Reading Quiz 2
- 第4回 Vocabulary & Reading Quiz 3
- 第5回 Vocabulary & Reading Quiz 4
- 第6回 Vocabulary & Reading Quiz 5
- 第7回 Vocabulary & Reading Quiz 6
- 第8回 Vocabulary & Reading Quiz 7
- 第9回 Vocabulary & Reading Quiz 8
- 第10回 Vocabulary & Reading Quiz 9
- 第11回 Vocabulary & Reading Quiz 10
- 第12回 Vocabulary & Reading Quiz 11
- 第13回 Vocabulary & Reading Quiz 12
- 第14回 Vocabulary & Reading Quiz 13
- 第15回 Vocabulary & Reading Quiz 14

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20101801			
科目名	Reading Lab III			
担当者	York Weatherford			
単位数	0.5	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	Students will choose Graded Readers or novels from the library based on their own levels and interests. Students will also use the Moodle online learning system for discussion and vocabulary study.			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop their reading fluency and expand their vocabularies through extensive reading and vocabulary study.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will read self-selected books from the library's Graded Readers collection on a regular basis and they will take online quizzes and/or write book reports to demonstrate their progress. Students may also choose to read novels or other books that are not graded readers. In addition, students will discuss the books they have read through online forums, and keep track of new vocabulary and concepts with personal online glossaries.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will develop reading skills and vocabulary knowledge through individual extensive reading and vocabulary activities.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are required to select their own books from the library and read them regularly. In addition, students must complete the online quizzes and activities in their own time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the completion of the reading and vocabulary activities as follows:

50% Reading Quizzes and Book Reports

25% Online Forums

25% Vocabulary Activities

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Reading Quiz/Report 1
- 第3回 Reading Quiz/Report 2
- 第4回 Reading Quiz/Report 3
- 第5回 Reading Quiz/Report 4
- 第6回 Reading Quiz/Report 5
- 第7回 Reading Quiz/Report 6
- 第8回 Reading Quiz/Report 7
- 第9回 Reading Quiz/Report 8
- 第10回 Reading Quiz/Report 9
- 第11回 Reading Quiz/Report 10
- 第12回 Reading Quiz/Report 11
- 第13回 Reading Quiz/Report 12
- 第14回 Reading Quiz/Report 13
- 第15回 Reading Quiz/Report 14

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20101901			
科目名	Reading Lab IV			
担当者	York Weatherford			
単位数	0.5	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	Students will choose Graded Readers or novels from the library based on their own levels and interests. Students will also use the Moodle online learning system for discussion and vocabulary study.			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop their reading fluency and expand their vocabularies through extensive reading and vocabulary study.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will read self-selected books from the library's Graded Readers collection on a regular basis and they will take online quizzes and/or write book reports to demonstrate their progress. Students may also choose to read novels or other books that are not graded readers. In addition, students will discuss the books they have read through online forums, and keep track of new vocabulary and concepts with personal online glossaries.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will develop reading skills and vocabulary knowledge through individual extensive reading and vocabulary activities.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are required to select their own books from the library and read them regularly. In addition, students must complete the online quizzes and activities in their own time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the completion of the reading and vocabulary activities as follows:

50% Reading Quizzes and Book Reports

50% Vocabulary Activities

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Reading Quiz/Report 1
- 第3回 Reading Quiz/Report 2
- 第4回 Reading Quiz/Report 3
- 第5回 Reading Quiz/Report 4
- 第6回 Reading Quiz/Report 5
- 第7回 Reading Quiz/Report 6
- 第8回 Reading Quiz/Report 7
- 第9回 Reading Quiz/Report 8

- 第10回 Reading Quiz/Report 9
- 第11回 Reading Quiz/Report 10
- 第12回 Reading Quiz/Report 11
- 第13回 Reading Quiz/Report 12
- 第14回 Reading Quiz/Report 13
- 第15回 Reading Quiz/Report 14

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102001			
科目名	Writing I A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Great Writing 2 Great Paragraphs』 Folse et al. National Geographic Learning/Cengage Learning 2014			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This is a course in paragraph-writing.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs. They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will work in pairs and individually.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will do the assigned homework.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

30% attendance and participation

70% written work

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Paragraphs 1
- 第3回 Paragraphs 2
- 第4回 Original writing
- 第5回 Developing ideas 1
- 第6回 Developing ideas 2
- 第7回 Original writing
- 第8回 Topic sentences 1
- 第9回 Topic sentences 2
- 第10回 Original writing
- 第11回 Supporting and concluding sentences 1
- 第12回 Supporting and concluding sentences 2
- 第13回 Original writing
- 第14回 Paragraph review 1
- 第15回 Paragraph review 2

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102002			
科目名	Writing I B			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Let's Write in English Mode』 大井恭子、伊藤文彦 研究社 2016 The teacher will assign texts.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop the skills needed for success

in academic contexts. Writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency, accuracy, and critical engagement. Critical thinking skills will also be developed. Writing skills will develop topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. This will progress to essay writing. Students will increase their receptive and productive vocabularies.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge in learning good practices of accuracy and critical engagement in their writing.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student failing to meet the teachers attendance requirements will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 The schedule for instruction will be flexible. The following is a guideline.
- 第2回 Planning and outlining
- 第3回 Planning and outlining
- 第4回 The thesis statement
- 第5回 Topic sentences
- 第6回 Topic sentences
- 第7回 Paragraph writing
- 第8回 Paragraph writing
- 第9回 Paragraph writing
- 第10回 Editing
- 第11回 Editing
- 第12回 The essay: first draft
- 第13回 The essay: second draft
- 第14回 Signposting
- 第15回 Putting it all together

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102003			
科目名	Writing I C			
担当者	田中 祐子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing Facilitator『構造から学べるパラグラフライティング入門』 静哲人 松柏社			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、将来、英文で学術的なエッセイや文章を書くための準備として、さまざまなパラグラフの書き方の練習を通じて、自分の主張を英語的なパラグラフとして効果的に表現することを目標とします。授業では各ユニットのテーマを踏まえたパラグラフの構造を理解し、書き方を練習します。表現力を高めるために和文英訳の練習も行うので、辞書等を持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. テキストに沿って様々なテーマのパラグラフの表現方法を学ぶ
- 2. パラグラフライティングの練習
- 3. 語彙力と表現力の強化

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストのモデル・パラグラフの構造の把握および読解と、英作文を行っていきます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、前もってテキストに目を通しておくこと。気になる点を授業で確認するようにして下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30%

Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction 授業の進め方の説明・課題プリントの配布など
- 第2回 Unit 1 A Paragraph as a Product
- 第3回 Unit 1 A Paragraph as a Product
- 第4回 Unit 2 Writing a Topic Sentence
- 第5回 Unit 2 Writing a Topic Sentence
- 第6回 Unit 3 Writing Supporting Sentences
- 第7回 Unit 3 Writing Supporting Sentences
- 第8回 Unit 4 Writing a Concluding Sentence
- 第9回 Unit 4 Writing a Concluding Sentence
- 第10回 Unit 5 Explaining Your Character
- 第11回 Unit 5 Explaining Your Character
- 第12回 Unit 5 Explaining Your Character
- 第13回 Unit 6 Describing Your Daily Life
- 第14回 Unit 6 Describing Your Daily Life
- 第15回 Summary

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102004			
科目名	Writing I D			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Primary Course on Paragraph Writing』 Yoshihito Sugita, Richard R. Caraker SEIBIDO 最新版 The teacher will assign texts.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop the skills needed for success in academic contexts. Writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency, accuracy, and critical engagement. Critical thinking skills will also be developed. Writing skills will develop topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. This will progress to essay writing. Students will increase their receptive and productive vocabularies.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge in learning good practices of accuracy and critical engagement in their writing.

・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student failing to meet the teachers attendance requirements will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 The schedule for instruction will be flexible. The following is a guideline.
- 第2回 Planning and outlining
- 第3回 Planning and outlining
- 第4回 The thesis statement
- 第5回 Topic sentences
- 第6回 Topic sentences
- 第7回 Paragraph writing
- 第8回 Paragraph writing
- 第9回 Paragraph writing
- 第10回 Editing
- 第11回 Editing
- 第12回 The essay: first draft
- 第13回 The essay: second draft
- 第14回 Signposting

第15回 Putting it all together

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102101			
科目名	Writing II A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Great Writing 2 Great Paragraphs』 Folse et al. National Geographic Learning/Cengage Learning 2			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This is a course in paragraph writing.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs. They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will work in pairs and individually.

・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will do the assigned homework.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

30% attendance and participation

70% written work

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Definition paragraphs 1
- 第2回 Definition paragraphs 2
- 第3回 Original writing
- 第4回 Process paragraphs 1
- 第5回 Process paragraphs 2
- 第6回 Original writing
- 第7回 Descriptive paragraphs 1
- 第8回 Descriptive paragraphs 2
- 第9回 Original writing
- 第10回 Opinion Paragraphs 1
- 第11回 Opinion Paragraphs 2
- 第12回 Original writing
- 第13回 Narrative paragraphs 1
- 第14回 Narrative paragraphs 2
- 第15回 Original writing

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102102			
科目名	Writing II B			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	The teacher will assign texts.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop the skills needed for success in academic contexts. Writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency, accuracy, and critical engagement. Critical thinking skills will also be developed. Writing skills will develop topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. This will progress to essay writing. Students will increase their receptive and productive vocabularies.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge in learning good practices of accuracy and critical engagement in their writing.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student failing to meet the teachers attendance requirements will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 The schedule for instruction will be flexible. The following is a guideline.
- 第2回 Planning and outlining
- 第3回 Planning and outlining
- 第4回 The thesis statement
- 第5回 Topic sentences
- 第6回 Topic sentences
- 第7回 Paragraph writing
- 第8回 Paragraph writing
- 第9回 Paragraph writing
- 第10回 Editing
- 第11回 Editing
- 第12回 The essay: first draft
- 第13回 The essay: second draft
- 第14回 Signposting
- 第15回 Putting it all together

6. Special Information (留意事項)

- 第5回 Unit 9 Comparing and Contrasting
- 第6回 Unit 9 Comparing and Contrasting
- 第7回 Unit 9 Comparing and Contrasting
- 第8回 Unit 10 Explaining Japanese Culture
- 第9回 Unit 10 Explaining Japanese Culture
- 第10回 Unit 10 Explaining Japanese Culture
- 第11回 Unit 12 Summarizing What You Have Read
- 第12回 Unit 12 Summarizing What You Have Read
- 第13回 Unit 12 Summarizing What You Have Read
- 第14回 Unit 12 Summarizing What You Have Read
- 第15回 Summary

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102104			
科目名	Writing II D			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Primary Course on Paragraph Writing』 Yoshihito Sugita, Richard R. Caraker SEIBIDO 最新版 The teacher will assign texts.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop the skills needed for success in academic contexts. Writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency, accuracy, and critical engagement. Critical thinking skills will also be developed. Writing skills will develop topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. This will progress to essay writing. Students will increase their receptive and productive vocabularies.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge in learning good practices of accuracy and critical engagement in their writing.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student failing to meet the teachers attendance requirements will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 The schedule for instruction will be flexible. The following is a guideline.
- 第2回 Planning and outlining
- 第3回 Planning and outlining
- 第4回 The thesis statement
- 第5回 Topic sentences
- 第6回 Topic sentences
- 第7回 Paragraph writing
- 第8回 Paragraph writing
- 第9回 Paragraph writing
- 第10回 Editing
- 第11回 Editing
- 第12回 The essay: first draft
- 第13回 The essay: second draft
- 第14回 Signposting
- 第15回 Putting it all together

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20102103			
科目名	Writing II C			
担当者	田中 祐子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing Facilitator 『構造から学べるパラグラフライティング入門』 静哲人 松柏社			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、将来、英文で学術的なエッセイや文章を書くための準備として、さまざまなパラグラフの書き方の練習を通じて、自分の主張を英語的なパラグラフとして効果的に表現することを目標とします。授業では各ユニットのテーマを踏まえたパラグラフの構造を理解し、書き方を練習します。表現力を高めるために和文英訳の練習も行うので、辞書等を持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストに沿って様々なテーマのパラグラフの表現方法を学ぶ
2. パラグラフライティングの練習
3. 語彙力と表現力の強化

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストのモデル・パラグラフの構造の把握および読解と、英作文を行っていきます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、前もってテキストに目を通しておくこと。気になる点を授業で確認するようにして下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30%

Essays and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 前期の見直し
- 第2回 Unit 7 Expressing an Opinion
- 第3回 Unit 7 Expressing an Opinion
- 第4回 Unit 7 Expressing an Opinion

講義コード	20102601			
科目名	Writing Lab I			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Materials will be distributed by the teacher based on the needs of the class.			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Each week the students will turn in a writing assignment based on the topic given by the teacher. Class meetings will be held based on a schedule given to the students on the first day of class.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course is to help the students develop writing skills that will be useful in their academic studies and in various life situations that require writing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all writing assignments on time. These assignments will re-enforce basic writing skills and expand the students' creativity and their ability to express in writing their thoughts and ideas.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will turn in all writing assignments on Wednesday so that they can be evaluated and returned by class on Friday.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all writing assignments and worksheets.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Types of Sentences
- 第2回 Capitalization
- 第3回 Punctuation
- 第4回 Adjectives
- 第5回 Adverbs
- 第6回 Articles
- 第7回 Prepositions and Prepositional Phrases
- 第8回 Connectors
- 第9回 Transition Words
- 第10回 Verb Tenses
- 第11回 Infinitives
- 第12回 Participles
- 第13回 Gerunds
- 第14回 Adjective Clauses
- 第15回 Adverb Clauses

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Each of the following skills will be introduced practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each skill will be based on the needs of each class.

講義コード	20102701			
科目名	Writing Lab II			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	0.5	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Materials will be distributed by the teacher based on the needs of the class.			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Each week the students will turn in a writing assignment based on the topic given by the teacher. Class meetings will be held based on a schedule given to the students on the first day of class. This class is a continuation of the

writing skills introduced, practiced and developed in Writing Lab I.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course is to help the students develop writing skills that will be useful in their academic studies and in various life situations that require writing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all writing assignments on time. These assignments will re-enforce basic writing skills and expand the students' creativity and their ability to express in writing their thoughts and ideas.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will turn in all writing assignments on Wednesday so that they can be evaluated and returned by class on Friday.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all writing assignments and worksheets.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Types of Sentences
- 第2回 Capitalization
- 第3回 Punctuation
- 第4回 Adjectives
- 第5回 Adverbs
- 第6回 Articles
- 第7回 Prepositions and Prepositional Phrases
- 第8回 Connectors
- 第9回 Transition Words
- 第10回 Verb Tenses
- 第11回 Infinitives
- 第12回 Participles
- 第13回 Gerunds
- 第14回 Adjective Clauses
- 第15回 Adverb Clauses

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Each of the following skills will be introduced practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each skill will be based on the needs of each class.

講義コード	20102801			
科目名	Writing Lab III			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	0.5	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	[Writing Journal: Topics to Write About] Graeme Beals R.I.C. Publications 1999			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is to help students develop their WRITING FLUENCY and ACCURACY through independent JOURNAL WRITING

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

This course will promote students' WRITING SKILLS by giving students the opportunity to express their thoughts, feelings and ideas on a wide range of high-interest writing themes while assisting with the development of WRITING SKILLS by providing an excellent tool to practice regular writing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course DOES NOT meet every week, but you are expected to develop your WRITING SKILLS by completing 3 or more topics in your writing journal every week.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are required to fulfill the evaluation criteria for the assignments (refer to the schedule).

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Your grade in this course will be based on three writing assignments and an overall evaluation of your JOURNAL WRITING.

Assignment #1: 30%

Assignment #2: 30%

Assignment #3: 30%

Overall Evaluation: 10%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Journal Writing Topics #1 ~ #15
第2回	Journal Writing Topics #1 ~ #15
第3回	Journal Writing Topics #1 ~ #15
第4回	Journal Writing Topics #1 ~ #15
第5回	Journal Writing Topics #1 ~ #15 Assignment #1
第6回	Journal Writing Topics #16 ~ #30
第7回	Journal Writing Topics #16 ~ #30
第8回	Journal Writing Topics #16 ~ #30
第9回	Journal Writing Topics #16 ~ #30
第10回	Journal Writing Topics #16 ~ #30 Assignment #2
第11回	Journal Writing Topics #31 ~ #45
第12回	Journal Writing Topics #31 ~ #45
第13回	Journal Writing Topics #31 ~ #45
第14回	Journal Writing Topics #31 ~ #45
第15回	Journal Writing Topics #31 ~ #45 Assignment #3

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20103101		
科目名	Listening I A		
担当者	(未定)		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20102901			
科目名	Writing Lab IV This course is a continuation of Writing Lab III.			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	0.5	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Writing Journal: Topics to Write About』 Graeme Beals R.I.C. Publications. T			
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is to help students develop their writing fluency and accuracy through independent journal writing.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The students will get the opportunity to express their thoughts, feelings and ideas on a wide range of high-interest writing themes while assisting with the development of writing skills by providing an excellent tool to practice regular writing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course does not meet every week, but the students are expected to develop their writing skills by completing topics in their writing journal.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Complete 4 or more topics in the writing journal every week.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

The grade in this course will be based on three writing assignments and an overall evaluation of the journal writing.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Topic 1-3
第2回	Topic 4-6
第3回	Topic 7-9
第4回	Topic 10-12
第5回	Topic 13-15
第6回	Topic 16-18
第7回	Topic 19-21
第8回	Topic 22-24
第9回	Topic 15-27
第10回	Topic 18-30
第11回	Topic 31-33
第12回	Topic 34-36
第13回	Topic 37-39
第14回	Topic 40-42
第15回	Topic 43-45

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20103102			
科目名	Listening I B			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Top-Up Listening 2 Second Edition』 Chris Cleary, Terry Cooney, Bill Holden Abax 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to comprehend spoken English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Course Introduction
第2回	Meeting and greeting people, Sentence stress
第3回	Likes and dislikes, Sentence stress
第4回	Making travel arrangements, Weak forms
第5回	Money and prices, Weak vowels
第6回	Buying things in a shop, Linking sounds
第7回	Describing your family, Sentence stress
第8回	Ordering food and drink, Mixed sounds
第9回	Talking about the weekend, Disappearing sounds
第10回	Understanding phone calls, Dropped sounds
第11回	Describing occupations, Sentence stress

- 第12回 Following directions, Sentence stress
 第13回 Describing daily routines, Weak vowels
 第14回 Buying tickets over the phone, Weak forms
 第15回 Describing location/objects in a room, Guessing meaning through patterns

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20103103			
科目名	Listening I C			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Communication Spotlight (High Beginner), 2nd Edition』 Alastair Graham-Marr ABAX Publishing, 2012.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to comprehend spoken English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 "What's your major?"
 第2回 "I like action movies" (Part 1)
 第3回 "I like action movies" (Part 2) and test
 第4回 "How much is that?" (Part 1)
 第5回 "How much is that?" (Part 2) and test
 第6回 "Is that your cousin?" (Part 1)
 第7回 "Is that your cousin?" (Part 2) and test
 第8回 "How was your weekend?" (Part 1)
 第9回 How was your weekend?" (Part 2) and test
 第10回 "What do you do?" (Part 1)
 第11回 "What do you do?" (Part 2) and test
 第12回 "I get to work at eight" (Part 1)
 第13回 "I get to work at eight" (Part 2) and test
 第14回 "It's in front of the lamp" (Part 1)
 第15回 "It's in front of the lamp" (Part 2) and test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20103104			
科目名	Listening I D			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Word by Word Basic Picture Dictionary Japanese/English Second Edition』 Steven J. Molinsky and Bill Bliss Pearson Longman Publishers			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to listen to and understand English conversations, audio tapes, news programs, etc. based on the various events and activities of daily life.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English listening skills that they can use confidently in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will reinforce basic listening skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and listening activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introducing and Talking about Yourself, Family Members
 第2回 Classroom, Classroom Objects, Classroom Activities, People and Places at School, School Subjects
 第3回 Everyday Activities, Leisure Activities
 第4回 Everyday Conversation
 第5回 The Weather, Cardinal Numbers, Ordinal Numbers, Time, Coins, Calendar, Time Expressions and Seasons
 第6回 Communities, Apartment Buildings
 第7回 House-Inside and Outside, Repairs, Cleaning
 第8回 Places Around Town, The City
 第9回 People and Physical Descriptions, Describing People, Things, Physical States, and Emotions
 第10回 Food: Fruits, Vegetables, Meat, Poultry, Seafood, Dairy Products, Juices, Beverages, Snack Foods Deli, Frozen Foods, Groceries
 第11回 The Supermarket, Containers and Quantities, Units of Measure, Food Preparation and Recipes
 第12回 Fast Food, Restaurants,
 第13回 Clothing, The Department Store
 第14回 Video, Audio, Telephones, Cameras and Computers, The Bank, The Post Office, The library, Community Institutions
 第15回 The Body, Ailments, Symptoms, Injuries, Medical Emergencies and Illnesses, The Hospital
 Medical Advice, Medicine, Personal Hygiene, Baby Care

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20103201		
科目名	Listening II A		
担当者	(未定)		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20103202			
科目名	Listening II B			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Top-Up Listening 2 Second Edition』 Chris Cleary, Terry Cooney, Bill Holden Abax 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to comprehend spoken English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Following a news broadcast, Linking sounds
- 第2回 Talking about school subjects, Blended sounds
- 第3回 Buying an airline ticket, Dropped sounds
- 第4回 Giving instructions, weak vowels
- 第5回 Meeting people in formal situations, Mixed sounds
- 第6回 Describing current actions, Sentence stress
- 第7回 Greeting friends and making small talk, Helping sounds
- 第8回 Talking about the future, Casual English: gonna
- 第9回 Asking for information, Sentence stress
- 第10回 Describing foods, Sentence stress
- 第11回 Describing different places, Shared sounds

第12回 Large numbers, Understanding tone groups

第13回 Holiday plans, Weak forms

第14回 Giving directions, Vowel intrusion

第15回 Asking for information, Blended sounds

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20103203			
科目名	Listening II C Australia			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	No text required. Students will be provided with weekly printed materials.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to comprehend spoken English. This will be achieved by learning about Australian history, culture, economics, and politics reflecting on similarities and differences between the Australian culture and that of their own.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Welcome back and introduction to the course
- 第2回 About Australian Nature
- 第3回 The Aboriginal Heritage
- 第4回 Playing the Didgeridoo
- 第5回 Multicultural Australia
- 第6回 Economy and Politics
- 第7回 Education
- 第8回 A letter from Junko
- 第9回 Ozzie Summer
- 第10回 Food
- 第11回 Poster presentation
- 第12回 Volunteering
- 第13回 Australian Sports
- 第14回 Inside the Front Door
- 第15回 Understanding Australian English

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20103204			
科目名	Listening II D			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[Word by Word Basic Picture Dictionary Japanese/English Second Edition] Steven J. Molinsky and Bill Bliss Pearson Longman Publishers			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to listen to and understand English conversations, audio tapes, news programs, etc. based on the various events and activities of daily life. This course will continue the work started in Listening I D.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English listening skills that they can use confidently in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will re-enforce basic listening skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and listening activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introducing and Talking about Yourself, Family Members
- 第2回 Occupations, Job Search, The Factory, The Construction Site, Job Safety
- 第3回 Transportation-Public, Traffic Signs, Airport, Types of Travel
- 第4回 Places to Visit, Hotel Communication, Tourist Activities, Tourist Communication
- 第5回 Sports, Entertainment,
- 第6回 Everyday Activities, Leisure Activities, Everyday Conversation
- 第7回 The Weather
- 第8回 Apartment Buildings
- 第9回 House-Inside and Outside, Repairs, Cleaning
- 第10回 The City, Places Around Town: The Department Store, The Bank, The Post Office, The library, Community Institutions
- 第11回 People and Physical Descriptions, Describing People, Things, Physical States, and Emotions
- 第12回 Food: Fruits, Vegetables, Meat, Poultry, Seafood, Dairy Products, Juices, Beverages, Snack Foods
- 第13回 Fast Food, Restaurants,
- 第14回 The Supermarket, Containers and Quantities, Deli, Frozen Foods, Groceries, Units of Measure, Food Preparation and Recipes
- 第15回 The Body, Ailments, Symptoms, Injuries, Medical Emergencies and Illnesses, The Hospital, Medical Advice, Medicine, Personal Hygiene

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20103301			
科目名	Advanced Listening I A			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	[Cubic Listening: Over to Our Reporter (2nd Ed.)] Timothy Kiggell, Peter Bellars, Kate Chandler, & Helen Donald MacMillan Language House 2008 An additional listening textbook may be announced at a later date.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to DEVELOP ADVANCED LISTENING SKILLS needed to comprehend spoken English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely (= 100%) in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, a PowerPoint presentation, and a listening proficiency exam.

Class Participation 40%

Tests/Quizzes 30%

PowerPoint Presentation 10%

Listening Proficiency Exam 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Listening for main ideas
- 第3回 Listening for rhetorical questions
- 第4回 Listening for bias
- 第5回 Listening for summaries
- 第6回 Listening for reasons and explanations
- 第7回 Listening to understand a sequence of events
- 第8回 Listening for similarities and differences
- 第9回 Listening for supporting statements
- 第10回 Listening to categorize information
- 第11回 Listening for cause and effect relationships
- 第12回 Listening to understand vocabulary from context
- 第13回 Listening for note taking
- 第14回 Listening for organization
- 第15回 Listening for problems and solutions

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the needs, ability, and level of the class.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20103302			
科目名	Advanced Listening I B			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Communication Spotlight 2nd edition : Pre-Intermediate. Speaking Strategies & Listening Skills』 Alastair Graham- Marr Abax ELT Publishing Abax ELT Publishing			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to comprehend spoken English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 "Can I get your name?"
- 第2回 "How do you spell that" (Part 1)
- 第3回 "How do you spell that" (Part 2) and test
- 第4回 "I usually get up at six" (Part 1)
- 第5回 "I usually get up at six" (Part 2) and test
- 第6回 "What do you call it?" (Part 1)
- 第7回 "What do you call it?" (Part 2) and test
- 第8回 "That' s my cousin" (Part 1)
- 第9回 "That' s my cousin" (Part 2) and test
- 第10回 "It' s next to the window" (Part 1)
- 第11回 "It' s next to the window" (Part 2) and test
- 第12回 "How much was it" (Part 1)
- 第13回 "How much was it" (Part 2) and test
- 第14回 "Are you gonna go to France?" (Part 1)
- 第15回 "Are you gonna go to France?" (Part 2) and final test

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20103303			
科目名	Advanced Listening I C			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Word by Word Picture Dictionary Second Edition』			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to listen to and understand English conversations, audio tapes, news programs, etc. based on the various events and activities of daily life.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English listening skills that they can use confidently in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will reinforce basic listening skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and listening activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Birthdays and Gifts, Telling About Friendships
- 第2回 Food: Buying Food, Being a Guest at Mealtime, Describing Food Preferences, Describing Food, Eating in a Restaurant, Recipes
- 第3回 Telling About the Future: Probability, Possibility, Warnings
- 第4回 Making Comparisons
- 第5回 Giving Advice, Expressing Opinions, Expressing Agreement and Disagreement
- 第6回 Describing People, Places, Things ,
- 第7回 Shopping in a Department Store
- 第8回 Getting Around Town, Public Transportation
- 第9回 Consequences of Actions ,
- 第10回 Describing Ongoing Past Activities
- 第11回 Expressing Past and Future Ability and Obligation, Describing Plans an Intentions
- 第12回 Medical Examinations, Medical Advice, Health, Nutrition
- 第13回 Describing Future Activities, Expressing Time and duration, Making Plans by Telephone
- 第14回 Offering Help, Indicating Ownership
- 第15回 Household Problems

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20103402			
科目名	Advanced Listening II B Global Citizenship			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『You, Me and the World:Second Edition』 David Peaty Kinseido 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to comprehend spoken English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Welcome and introduction to the course
- 第2回 Waste and Recycling
- 第3回 Endangered Species
- 第4回 Rainforests
- 第5回 Global Warming
- 第6回 Energy
- 第7回 Developing Countries
- 第8回 Human Rights
- 第9回 Tourism
- 第10回 Poster presentation
- 第11回 Peace and Conflict
- 第12回 Gender Issues
- 第13回 "Refugees
- 第14回 The United Nations
- 第15回 Review quiz

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20103403			
科目名	Advanced Listening II C			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Word by Word Picture Dictionary Second Edition』			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to listen to and understand English conversations, audio tapes, news programs, etc. based on the various events and activities of daily life. This course will continue the work started in Advanced Listening I C.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English listening skills that they can use confidently in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will reinforce basic listening skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and listening activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Birthdays and Gifts, Telling About Friendships
- 第2回 Food: Buying Food, Being a Guest at Mealtime, Describing Food Preferences, Describing Food, Eating in a Restaurant, Recipes
- 第3回 Telling About the Future: Probability, Possibility, Warnings
- 第4回 Making Comparisons
- 第5回 Giving Advice, Expressing Opinions, Expressing Agreement and Disagreement
- 第6回 Describing People, Places, Things ,
- 第7回 Shopping in a Department Store
- 第8回 Getting Around Town, Public Transportation
- 第9回 Consequences of Actions ,
- 第10回 Describing Ongoing Past Activities
- 第11回 Expressing Past and Future Ability and Obligation, Describing Plans an Intentions
- 第12回 Medical Examinations, Medical Advice, Health, Nutrition
- 第13回 Describing Future Activities, Expressing Time and duration, Making Plans by Telephone
- 第14回 Offering Help, Indicating Ownership

第15回 Household Problems

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics from the list below will be The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20104101		
科目名	Speaking I A		
担当者	(未定)		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

別紙

講義コード	20104102			
科目名	Speaking I B			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Communication Spotlight Second Edition: High-Beginner』 Alastair Graham-Marr Abax 2013			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain confidence in speaking with people from a variety of backgrounds.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on a the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to the course
- 第2回 Classroom English
- 第3回 Talking about likes and dislikes
- 第4回 Asking for repetition
- 第5回 Fluency with money and prices
- 第6回 Asking questions
- 第7回 Describing your family
- 第8回 Repeating key information
- 第9回 Talking about the weekend
- 第10回 Asking questions for involvement
- 第11回 Describing occupations
- 第12回 Using examples
- 第13回 Describing a location/objects in the room
- 第14回 Shadowing
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20104103			
科目名	Speaking I C			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『New Time to Communicate』 Eric Bray Nan' undo 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain confidence in speaking with people from a variety of backgrounds.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Tests 30%

Final speaking exam 10%

Presentations 20%

In-class participation, homework, and written work 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Answer Plus
- 第2回 Rejoinders
- 第3回 Follow-up Questions
- 第4回 Confirmation Questions
- 第5回 Clarification Questions
- 第6回 Maintaining or Ending a Conversation
- 第7回 Expressing Probability
- 第8回 Interrupting
- 第9回 Echoing
- 第10回 Making Requests, Responses, and Excuses
- 第11回 Getting a Response
- 第12回 Asking for Details
- 第13回 Making Comparisons
- 第14回 Finding the Right Word
- 第15回 Explaining Word Meanings

6. Special Information (留意事項)

This will be a very interactive course.

Bring a dictionary to every class.

Attendance is necessary.

You need to participate actively in each class. Take every opportunity to speak in English.

講義コード	20104104			
科目名	Speaking I D			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Word by Word Basic Picture Dictionary Japanese/English Second Edition』 Steven J. Molinsky and Bill Bliss Pearson Longman Publishers			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to speak confidently in English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English speaking skills that they can use in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will reinforce basic speaking skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and listening activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introducing and Talking about Yourself, Family Members
- 第2回 Classroom, Classroom Objects, Classroom Activities, People and Places at School, School Subjects
- 第3回 Everyday Activities, Leisure Activities
- 第4回 Everyday Conversation
- 第5回 The Weather, Cardinal Numbers, Ordinal Numbers, Time, Coins, Calendar, Time Expressions and Seasons
- 第6回 Communities, Apartment Buildings
- 第7回 House-Inside and Outside, Repairs, Cleaning
- 第8回 Places Around Town, The City
- 第9回 People and Physical Descriptions, Describing People, Things, Physical States, and Emotions
- 第10回 Food: Fruits, Vegetables, Meat, Poultry, Seafood, Dairy Products, Juices, Beverages, Snack Foods Deli, Frozen Foods, Groceries
- 第11回 The Supermarket, Containers and Quantities, Units of Measure, Food Preparation and Recipes
- 第12回 Fast Food, Restaurants,
- 第13回 Clothing, The Department Store
- 第14回 Video, Audio, Telephones, Cameras and Computers, The Bank, The Post Office, The library, Community Institutions
- 第15回 The Body, Ailments, Symptoms, Injuries, Medical Emergencies and Illnesses, The Hospital Medical Advice, Medicine, Personal Hygiene, Baby Care

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20104201		
科目名	Speaking II A		
担当者	(未定)		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20104202			
科目名	Speaking II B			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Communication Spotlight Second Edition: High Beginner』 Alastair Graham-Marr Abax 2013			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain further confidence in speaking with people from a variety of backgrounds.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Talking about school subjects
- 第2回 Paraphrasing
- 第3回 Giving instructions
- 第4回 Asking for help
- 第5回 Describing current actions
- 第6回 Repetition and paraphrasing
- 第7回 Talking about the future
- 第8回 Asking questions
- 第9回 Describing foods
- 第10回 Circumlocution

- 第11回 Fluent with large numbers
- 第12回 Hesitation devices
- 第13回 Giving directions
- 第14回 Shadowing
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

講義コード	20104203			
科目名	Speaking II C			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Communication Spotlight (High Beginner), 2nd Edition,』 Alastair Graham-Marr ABAX Publishing 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain further confidence in speaking with people from a variety of backgrounds.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the following:

Tests 30%

Final speaking exam 10%

Presentations 20%

In-class participation, homework, and written work 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Starting a Conversation
- 第2回 Making and Accepting/Declining Invitations
- 第3回 Changing the Topic
- 第4回 Giving Compliments
- 第5回 Asking for and Giving Permission
- 第6回 Asking for and Giving Advice
- 第7回 Making and Accepting/Declining an Offer
- 第8回 Getting Time to Think
- 第9回 Asking for Favors
- 第10回 Asking for and Expressing Opinions
- 第11回 Summarizing
- 第12回 Making Inferences
- 第13回 Giving Presentations
- 第14回 Asking and Responding to Questions about a Presentation
- 第15回 Student Presentations

6. Special Information (留意事項)

This will be a very interactive course.

Bring a dictionary to every class.

Attendance is necessary.

You need to participate actively in each class. Take every opportunity to speak in English.

講義コード	20104204			
科目名	Speaking II D			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[Word by Word Basic Picture Dictionary Japanese/English Second Edition] Steven J. Molinsky and Bill Bliss Pearson Longman Publishers			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to speak confidently in English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English speaking skills that they can use in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will re-enforce basic listening skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and listening activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introducing and Talking about Yourself, Family Members
- 第2回 Occupations, Job Search, The Factory, The Construction Site, Job Safety
- 第3回 Transportation-Public, Traffic Signs, Airport, Types of Travel
- 第4回 Places to Visit, Hotel Communication, Tourist Activities, Tourist Communication
- 第5回 Sports, Entertainment,
- 第6回 Everyday Activities, Leisure Activities, Everyday Conversation
- 第7回 The Weather
- 第8回 Apartment Buildings
- 第9回 House-Inside and Outside, Repairs, Cleaning
- 第10回 The City, Places Around Town: The Department Store, The Bank, The Post Office, The library, Community Institutions
- 第11回 People and Physical Descriptions, Describing People, Things, Physical States, and Emotions
- 第12回 Food: Fruits, Vegetables, Meat, Poultry, Seafood, Dairy Products, Juices, Beverages, Snack Foods
- 第13回 Fast Food, Restaurants,
- 第14回 The Supermarket, Containers and Quantities, Deli, Frozen Foods, Groceries, Units of Measure, Food Preparation and Recipes
- 第15回 The Body, Ailments, Symptoms, Injuries, Medical Emergencies and Illnesses, The Hospital, Medical Advice, Medicine, Personal Hygiene

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20104301			
科目名	Advanced Speaking I A			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	A textbook may be announced later.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to DEVELOP ADVANCED SKILLS needed to COMMUNICATE effectively in English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely (100%) in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, a PowerPoint presentation, and a speaking proficiency exam.

Class Participation 40%

Tests/Quizzes 30%

PowerPoint Presentation 10%

Speaking Proficiency Exam 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to the course. Students will learn about: the general instructional objectives of the course, the goals of the course, the learning strategies of the course, and the course evaluation and assessment.
Unit 1: DISCUSSION SKILLS: Giving & Asking For an Opinion
- 第2回 Unit 2: DISCUSSION SKILLS: Giving & Asking For an Opinion continued
- 第3回 Unit 3: DISCUSSION SKILLS: Agreeing & Disagreeing
- 第4回 Unit 4: DISCUSSION SKILLS: Agreeing & Disagreeing continued
- 第5回 Unit 5: DISCUSSION SKILLS: Explaining
- 第6回 Unit 6: DISCUSSION SKILLS: Explaining continued
- 第7回 Unit 7: DISCUSSION SKILLS: Making Suggestions
- 第8回 Unit 8: DISCUSSION SKILLS: Making Suggestions continued
- 第9回 Unit 9: DISCUSSION SKILLS: Interrupting
- 第10回 Unit 10: DISCUSSION SKILLS: Interrupting continued
- 第11回 Unit 11: DISCUSSION SKILLS: Questioning
- 第12回 Unit 12: DISCUSSION SKILLS: Questioning continued
- 第13回 PowerPoint Presentation Group A
- 第14回 PowerPoint Presentation Group B
- 第15回 Speaking Proficiency Exam

6. Special Information (留意事項)

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics and level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20104302			
科目名	Advanced Speaking I B			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Communication Spotlight 2nd edition : Pre-Intermediate. Speaking Strategies & Listening Skills』 Alastair Graham- Marr Abax ELT Publishing 2014			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain confidence in speaking with people from a variety of backgrounds.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Tests 30%

Final speaking exam 10%

Presentations 20%

In-class participation, homework, and written work 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Rejoinders
- 第2回 Follow-up Questions
- 第3回 Confirmation Questions
- 第4回 Clarification Questions
- 第5回 Maintaining or Ending a Conversation
- 第6回 Expressing Probability
- 第7回 Interrupting
- 第8回 Echoing
- 第9回 Making Requests, Responses, and Excuses
- 第10回 Getting a Response
- 第11回 Asking for Details
- 第12回 Making Comparisons
- 第13回 Finding the Right Word
- 第14回 Explaining Word Meanings
- 第15回 Final Speaking Test

6. Special Information (留意事項)

Students need to participate actively in each class.

講義コード	20104303			
科目名	Advanced Speaking I C			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Word by Word Picture Dictionary Second Edition』			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to speak confidently in English. The students will develop the vocabulary necessary to speak comfortably in most English situations in which they may find themselves.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English speaking skills that they can use confidently in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will reinforce basic speaking skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and speaking activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Birthdays and Gifts, Telling About Friendships
- 第2回 Food: Buying Food, Being a Guest at Mealtimes, Describing Food Preferences, Describing Food, Eating in a Restaurant, Recipes
- 第3回 Telling About the Future: Probability, Possibility, Warnings
- 第4回 Making Comparisons
- 第5回 Giving Advice, Expressing Opinions, Expressing Agreement and Disagreement
- 第6回 Describing People, Places, Things,
- 第7回 Shopping in a Department Store
- 第8回 Getting Around Town, Public Transportation
- 第9回 Consequences of Actions,
- 第10回 Describing Ongoing Past Activities
- 第11回 Expressing Past and Future Ability and Obligation, Describing Plans and Intentions
- 第12回 Medical Examinations, Medical Advice, Health, Nutrition
- 第13回 Describing Future Activities, Expressing Time and duration, Making Plans by Telephone
- 第14回 Offering Help, Indicating Ownership
- 第15回 Household Problems

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20104402			
科目名	Advanced Speaking II B			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Communication Spotlight 2nd edition : Pre-Intermediate. Speaking Strategies & Listening Skills』 Alastair Graham- Marr Abax ELT Publishing 2014			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain further confidence in speaking with people from a variety of backgrounds.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Tests 30%

Final speaking exam 10%

Presentations 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Starting a Conversation
- 第2回 Making and Accepting/Declining Invitations
- 第3回 Changing the Topic
- 第4回 Giving Compliments
- 第5回 Asking for and Giving Permission
- 第6回 Asking for and Giving Advice
- 第7回 Making and Accepting/Declining an Offer
- 第8回 Getting Time to Think
- 第9回 Asking for Favors
- 第10回 Asking for and Expressing Opinions
- 第11回 Summarizing
- 第12回 Making Inferences
- 第13回 Giving Presentations
- 第14回 Asking and Responding to Questions about a Presentation
- 第15回 Student Presentations

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20104403			
科目名	Advanced Speaking II C			
担当者	Sr. Mary Hope Billing			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	[Word by Word Picture Dictionary Second Edition]			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Through various activities students will develop their ability to speak confidently in English. The students will develop the vocabulary necessary to speak comfortably in most English situations in which they may find themselves. This course will continue the work started in Advanced Speaking I C

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The aim of this course to help the students develop English speaking skills that they can use confidently in the daily experiences of their lives.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will complete all assignments on time. These assignments will reinforce basic speaking skills. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on the successful completion of all assignments, worksheets and speaking activities.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Birthdays and Gifts, Telling About Friendships
- 第2回 Food: Buying Food, Being a Guest at Mealtime, Describing Food Preferences, Describing Food, Eating in a Restaurant, Recipes
- 第3回 Telling About the Future: Probability, Possibility, Warnings
- 第4回 Making Comparisons
- 第5回 Giving Advice, Expressing Opinions, Expressing Agreement and Disagreement
- 第6回 Describing People, Places, Things ,
- 第7回 Shopping in a Department Store
- 第8回 Getting Around Town, Public Transportation
- 第9回 Consequences of Actions ,
- 第10回 Describing Ongoing Past Activities
- 第11回 Expressing Past and Future Ability and Obligation, Describing Plans an Intentions
- 第12回 Medical Examinations, Medical Advice, Health, Nutrition
- 第13回 Describing Future Activities, Expressing Time and duration, Making Plans by Telephone
- 第14回 Offering Help, Indicating Ownership

第15回 Household Problems

6. Special Information (留意事項)

The course schedule will be flexible based on the needs of the class. Topics will be introduced, practiced and developed at a speed compatible with the learning style of the students in the class. The length of time spent on each topic will be based on the needs of the students. Topics will be added or subtracted as the teacher assesses the needs of the class.

講義コード	20201201			
科目名	Reading and Writing I			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	The teacher will provide students with workbooks for the course modules.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20201401			
科目名	Reading and Writing II			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	Teacher will give students workbooks for each module.			
参考文献				
備考	必修 週2コマ クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. As in the first semester, reading and writing skills will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures

and vocabulary will continue to be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be further developed. Writing skills in the second semester will focus on cohesion and coherence at the paragraph level. Students will continue to increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn an additional 500 new words in the second semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary ability through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

ど将来の自分の夢を探るように、毎回オムニバス形式でそれぞれの業界のゲストを招いて職場の話だけでなく、どういう人材を希望しているのか、どんなことを準備してほしいのかを話してもらおう。就職のための戦略と一緒に考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 講演を聴いて内容を理解できる。 2. 講演の内容を整理できる。
3. 自分の将来構想を考える。 4. 努力目標をつくれる。 5. 英語で通信及び履歴書作成

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講演をしっかりと聴く。 2. 質問を考える。 3. テーマによってグループで話し合う。 4. 課題文を仕上げる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回レポートの提出を課すので、意見をまとめる練習が要る。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席率・授業態度 (40%) レポート (30%) 試験 (30%) で総合的に評価する。欠席、遅刻は減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 女の生き方と仕事
- 第3回 エアライン
- 第4回 テレビ
- 第5回 データベース：就職カルテ
- 第6回 国際特許
- 第7回 輸入ブランドとボランティア
- 第8回 エアライン
- 第9回 雑誌
- 第10回 新聞
- 第11回 SPI
- 第12回 金融
- 第13回 ホテル
- 第14回 広告
- 第15回 総括とフィードバック

6. Special Information (留意事項)

ゲストの都合で順番が変わる可能性があります。

講義コード	20203201		
科目名	Advanced English		
担当者	大川 淳		
単位数	2	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20203601		
科目名	TOEIC I A TOEICの高得点を獲得する		
担当者	森 美恵子		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『GREEN LIGHT FOR THE TOEIC TEST』 Maiko Tsuchiya Yoshie Shimai Samuel Paolo M. Adamos CENGAGE Learning 2016 TOEIC テストは2016年5月の公開テストから新形式となります。 IP (Institutional Program) 学内テストもそれに準じて新形式となります。いち早く新形式の対策に応じたレベルのテキストです。		
参考文献	『新公式問題集 7?』 国際コミュニケーション 2016? スコア・アップのためのstrategy プリントは授業中に適宜指示する		
備考	定員40人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

講義コード	20203501		
科目名	英語キャリア戦略		
担当者	須川 いずみ		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	プリント		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、英語英文学科に入学してきた学生が、卒業後の夢を描いて4年間をそれぞれ充実して過ごせるように自分の可能性について考える場を提供する。教員、秘書、航空関係、ホテル、マスコミ、金融、アパレルな

1. Course Description (科目の教育目標)

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、あるいは海外出張・昇進・昇格の要件として利用されており、また、英語を使用する職種では社員採用の際の評価の一部として利用される場合もあります。本科目ではTOEIC(R)テストに必要な基礎的あるいは応用的な英語力の習得を目指し、その結果としてTOEICで高得点を獲得することを目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける

4. 400点～500点スコアをのばす

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. TOEICの出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (=解法) のポイントをおさえる。
3. ストラテジー定着のために同じような問題を繰り返し解く。
4. 進捗状況を確認する。

TOEICテストに準拠した問題集等を使用し、難易度の低い問題からスタートし、段階的にレベルをあげていきます。練習問題を解きながら重要ポイントを繰り返し学び、自然にスキルを身につけます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教室で指示した教材を予習する

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

語彙テスト20% 中間、期末試験60% 提出物20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 TOEICとは? Orientation Pre-test
- 第2回 Unit 1 Daily Life 名詞と代名詞
- 第3回 Unit 2 Health 動詞・形容詞・副詞
- 第4回 Unit 3 Education 時制 1
- 第5回 Unit 4 Travel 時制 2
- 第6回 Unit 5 Transportation 前置詞
- 第7回 Unit 6 Shopping 接続詞
- 第8回 Unit 7 Restaurant 不定詞 1
- 第9回 Unit 8 Entertainment 不停詞 2
- 第10回 Unit 9 Trouble 動名詞
- 第11回 Unit 10 Office 1 分詞
- 第12回 Unit 11 Office 2 仮定法
- 第13回 Unit 12 News 関係代名詞
- 第14回 Unit 13 Ads 関係副詞
- 第15回 まとめ復習テスト

6. Special Information (留意事項)

・初めてTOEICを受験する学生から400～500点をを目指す学生に適当なレベルのクラスです。

・授業で勉強した聴解および読解能力は繰り返し復習することで定着し、TOEICのスコアをあげることができます。

Note: TOEICはTest of English for International Communicationの略称です。

講義コード	20203602			
科目名	TOEIC I B TOEICの高得点を獲得する A beginning-level TOEIC course for students who need to start preparing for the TOEIC test.			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	The textbook will be announced later.			
参考文献	授業中に適宜指示する			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、あるいは海外出張・昇進・昇格の要件として利用されており、また、英語を使用する職種では社員採用の際の評価の一部として利用される場合もあります。本科目ではTOEIC(R)テストで必要な基礎的あるいは応用的な英語力の習得を目指し、その結果としてTOEICで高得点を獲得することを目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
4. 400点～500点スコアをのばす

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. TOEICの出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (=解法) のポイントをおさえる。
3. ストラテジー定着のために同じような問題を繰り返し解く。
4. 進捗状況を確認する。

TOEICテストに準拠した問題集等を使用し、難易度の低い問題からスタートし、段階的にレベルをあげていきます。練習問題を解きながら重要ポイントを繰り返し学び、自然にスキルを身につけます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教室で指示した教材を予習する

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, a final TOEIC test, and a TOEIC vocabulary portfolio.

Class Participation 40%

Tests/Quizzes 20%

Final TOEIC Test 20%

TOEIC Vocabulary Portfolio 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教科書のChapter 1～Chapter 7には下記の内容のTOEIC テストと同じパターンの練習問題が含まれている。
リスニング・Photographs 写真描写問題・Question-Reponse 応答問題・Short Conversations 会話問題・Short Talks 説明文問題
リーディング・Short Talks 説明文問題・Incomplete Sentences 短文穴埋め問題・Text Completion 長文穴埋め問題・Reading Comprehension 読解問題
オリエンテーション プレテスト
- 第2回 Unit 1 Event. Listening問題
- 第3回 Unit 2 Event. Reading 問題、文法
- 第4回 Unit 3 . Listening問題
- 第5回 Unit 4 . Eating Out. Reading 問題、
- 第6回 Unit 5 . Shopping. Reading問題
- 第7回 Unit 6 . Shopping. Reading 問題、
- 第8回 Reading Tips「リーディング、点数アップへの秘訣!
- 第9回 Unit 7 . Housing. Reading 問題、
- 第10回 Unit 8 . Employment. Listening問題
- 第11回 Unit 9 . Employment. Reading 問題、
- 第12回 Unit 10 . Personnel. Listening 問題
- 第13回 Unit 11 . Personnel. Reading 問題、
- 第14回 Unit 12 . Office. Listening問題、Reading 問題、
- 第15回 まとめ復習テスト

6. Special Information (留意事項)

・初めてTOEICを受験する学生から400～500点をを目指す学生に適当なレベルのクラスです。

・授業で勉強した聴解および読解能力は繰り返し復習することで定着し、TOEICのスコアをあげることができます。

Note: TOEICはTest of English for International Communicationの略称です。

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class depending on the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20203603			
科目名	TOEIC I C			
担当者	松本 ドロタ			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20203701			
科目名	TOEIC II A TOEIC TESTで高得点を習得する			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 650』 Masahiko Yamaguchi, Hiroko Matsuur, Michael Howard, George W. Pifer SENGAGE Learning 2016 『改定版TOEIC テスト文法・語彙出るとこだけ!問題集』 小石裕子 アルク 2015 2016年5月の公開テストからTOEICは新形式となります。 新形式に対応したテキストです。			
参考文献	スコア・アップのための独自教材は教室で適宜配布・指示する			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

TOEICテストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、あるいは海外出張・昇進・昇格の要件として利用されており、また、英語を使用する職種では社員採用の際の評価の一部として利用される場合もあります。本科目ではTOEICテストに必要な基礎的あるいは応用的な英語力の習得を目指し、その結果としてTOEICで高得点を獲得することを目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- TOEICテストの新形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
- TOEICテストでよく使用される語彙を身につける
- TOEICテストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
- 400点～500点にスコアをのぼす

3. Course Method (教育・学習の方法)

- TOEICの出題形式や意図を理解する。
- 解答ストラテジー (=解法) のポイントをおさえる。
- ストラテジー定着のために同じような問題を繰り返し解く。
- 進捗状況を確認する。

TOEICテストに準拠した問題集等を使用し、難易度の低い問題からスタートし、段階的にレベルを上げていきます。練習問題を解きながら重要ポイントを繰り返し学び、自然にスキルを身につけます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

後期が始まる前、夏休み中に新公式問題集Vol. 7 (TOEIC IAのクラスで学習済み) 未学習者は自主学習のこと。
毎回クラス初めにTOEIC類出用語Quizを実施、そのために前回の内容を十分に復習すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

語彙テスト20% 中間、期末試験60% 提出物20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教科書の各Lessonには下記の内容のTOEIC テストと同じパターンの練習問題が含まれている。
リスニング・Photographs 写真描写問題・Question-Reponse 応答問題・Short Conversations 会話問題・Short Talks 説明文問題
リーディング・Short Talks 説明文問題・Incomplete Sentences 短文穴埋め問題・Text Completion 長文穴埋め問題・Reading Comprehension 読解問題
オリエンテーション プレテスト
- 第2回 Unit 1 提案一時制1
第3回 Unit 2 確認一時制2
第4回 Unit 3 会話を始める一助動詞
第5回 Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング
第6回 Unit 5 義務一代名詞
第7回 unit 6 理由一前置詞
第8回 unit 7 苦情一接続詞
第9回 Unit 8 交通情報一スキヤニング
第10回 Unit 9 Yes/Noで応える質問一関係詞
第11回 Unit 10 意見一分詞構文
第12回 Unit 11 意見の一致・不意一致一仮定法

- 第13回 Unit 12 会議一スキミング
第14回 Summing Up for strategies
第15回 Post Test

6. Special Information (留意事項)

450～500目標には650のテキストが必携、また留学を目指す学生に適切なレベルのクラスです。

・授業で勉強した聴解および読解能力は繰り返し復習することで定着し、TOEICのスコアをあげることができます。

Note: TOEICはTest of English for International Communicationの略称です。

講義コード	20203702			
科目名	TOEIC II B TOEIC TESTで高得点を習得する A beginning-level TOEIC course for students who need to start preparing for the TOEIC test.			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	The textbook will be announced later.			
参考文献	教室で適宜指示する			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

TOEICテストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、あるいは海外出張・昇進・昇格の要件として利用されており、また、英語を使用する職種では社員採用の際の評価の一部として利用される場合もあります。本科目ではTOEICテストに必要な基礎的あるいは応用的な英語力の習得を目指し、その結果としてTOEICで高得点を獲得することを目標とします。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- TOEICテストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
- TOEICテストでよく使用される語彙を身につける
- TOEICテストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
- 400点～500点にスコアをのぼす

3. Course Method (教育・学習の方法)

- TOEICの出題形式や意図を理解する。
- 解答ストラテジー (=解法) のポイントをおさえる。
- ストラテジー定着のために同じような問題を繰り返し解く。
- 進捗状況を確認する。

TOEICテストに準拠した問題集等を使用し、難易度の低い問題からスタートし、段階的にレベルを上げていきます。練習問題を解きながら重要ポイントを繰り返し学び、自然にスキルを身につけます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

後期が始まる前、夏休み中に新公式問題集Vol. 4か5を自主学習のこと。
毎回クラス初めにTOEIC類出用語Quizを実施、そのために前回の内容を十分に復習すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, a final TOEIC test, and a TOEIC vocabulary portfolio.

Class Participation 40%

Tests/Quizzes 20%

Final TOEIC Test 20%

Vocabulary Portfolio 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教科書の各Lessonには下記の内容のTOEIC テストと同じパターンの練習問題が含まれている。
リスニング・Photographs 写真描写問題・Question-Reponse 応答問題・Short Conversations 会話問題・Short Talks 説明文問題
リーディング・Short Talks 説明文問題・Incomplete Sentences 短文穴埋め問題・Text Completion 長文穴埋め問題・Reading Comprehension 読解問題
オリエンテーション プレテスト
- 第2回 Lesson 25 Financial Statements
第3回 Lesson 26 Banking
第4回 Lesson 27 Accounting

- 第5回 Lesson 28 Investments
- 第6回 Lesson 29 Taxes
- 第7回 Lesson 30 Financial Statements
- 第8回 Lesson 31 Restaurants and Events
- 第9回 Lesson 32 Eating Out
- 第10回 Lesson 33 Ordering Lunch
- 第11回 Lesson 34 Cooking as career
- 第12回 Lesson 35 Events
- 第13回 Lesson 36 General Travel
- 第14回 Lesson 37 Airlines
- 第15回 Lesson 38 Trains

6. Special Information (留意事項)

・初めてTOEICを受験する学生から400～500点をを目指す学生に適切なレベルのクラスです。

・授業で勉強した聴解および読解能力は繰り返し復習することで定着し、TOEICのスコアをあげることができます。

Note : TOEICはTest of English for International Communicationの略称です。

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class depending on the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20203703			
科目名	TOEIC II C			
担当者	松本 ドロタ			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

別紙

講義コード	20203801			
科目名	TOEIC III			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『ESSENTIAL WORD FOR THE TOEIC 5TH EDITION』 Dr. Lin Hougheed BARRON'S 2010 『改定版TOEIC テスト文法・語彙出るとこだけ!問題集』 小石祐子 アルク 2015 TOEIC 模擬テスト 50回分 本番を想定した、本格的なテキストです。 2016年5月の公開テストから新形式となります。このテキストは万能ですが、新形式に慣れるために一部プリント教材を導入します。			
参考文献	『新アメリカ文化事典』 森美恵子 他 成美堂 2000			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語学習の秘訣は「壮大な慣れ」です。TOEICを受験するという行為は英語を学習するためのとてもよい動機とエネルギーをあたえてくれます。もちろん、TOEICで高得点を取ると就職や転職に役立ちます。せっかく勉強してきた英語力ですから、ビジネスや旅行などで活用できるレベルにすることが目標です。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

リスニングで365点を達成して、リーディングでも同じ点を取れば730点を達成できます。目標とするスコアは高いほうがいいです。まずは各セクションを250前後からスタートして、このTOEICIIIのコースでTOEICの問題攻略のこつをつかみます。自分にあった学習方法でスコアアップを目指します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

リスニングは米、英、加、豪に慣れること。4つのパートの特色を踏まえて訓練すること。特にリスニングのパート4はフライト関係のアナウンスメントの訓練に役に立ちます。リーディングは文法問題の鉄則と速読の訓練問題をやります。

TOEICのspeakingとWriting TESTのトライアルもする予定です。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

TOEIC 600, 730, 860とチャレンジするためには、スピードリスニングとスピードリーディングが必要となる。図書館、AVルームの教材を利用して、たくさん聞く、速読の訓練のため、英字新聞、百科事典英語、日本語の速読要約練習が必要。クラスでも、具体的にアドバイスあり。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Voca(単語) テスト20%, 中間テスト30%, 期末テスト30% Presentation(課題発表) 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation & Review
Test 1 Listening Part 1 + Target
- 第2回 Test 2,3 Listening Part 2&3 Target
Listening Part 4 + Target
- 第3回 Test 4,5 Reading Part 5 & 6 + Target
- 第4回 Test 6,7 Reading Part 7 + Target
- 第5回 Test 8,9 Listening Part 1 + Target
- 第6回 Test 10,11 Listening Part 2&3 Target
Listening Part 4 + Target
- 第7回 Test 12,13 Reading Part 5 & 6 + Target
- 第8回 Test 14,15 Reading Part 7 + Target
- 第9回 Test Summing Up 1 + Target
- 第10回 Test 16,17 Listening Part 2&3 Target
Listening Part 4 + Target
- 第11回 Test 18,19 Reading Part 5 & 6 + Target
- 第12回 Test 20,21 Reading Part 7 + Target
- 第13回 Test 22,23 Listening Part 1 + Target
Listening Part 2&3 Target
- 第14回 Test 24,25 Listening Part 4 + Target
Reading Part 5 & 6 + Target
- 第15回 Test Summing Up Part II & Target

6. Special Information (留意事項)

すでにTOEICスコア500以上の取得者はTOEIC IIIを履修してなくても受講できます。また、同時通訳法I,IIは500以上のスコアが必要です。TOEIC II,IIIはできるかぎり、履修することを薦めます。

このTOEICIIIコースは、定員30名の少数精鋭主義です。ハイスコア600から730が目標です。

講義コード	20203901			
科目名	TOEIC IV TOEICアドバンスコース			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『TOEICテスト究極の模試600問』 ヒロ前田他 アルク 2013 『改定版 TOEIC TEST 文法・語彙出るとこだけ問題集』 小石祐子 アルク 2015 超上級問題+プロの極意は、上級者が落としている問題をテスト分析のプロが徹底再現したテキストである。自分が苦手な問題タイプを知ることができる問題演習を通して学習する。			
参考文献	『手ごたえありTOEICテスト難解模試』 Craig Brantley Jリサーチ出版 2015 『新toeicテスト「直前」模試3回分』 ヒロ前田 アルク 2013 『TOEICテストBEYOND 990』 ヒロ前田 アルク 2013			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

2016年5月の公開テストから新形式となります。下記問題集と合わせて、新形式の問題を随時取り入れての学習内容となります。
集中力・記憶力・論理的思考力を鍛えることを目標とする。リスニングでは、語順通りに理解できるようになる、「スリーステップ・リスニング」を行い、リーディングでは、速読力がアップする「スピード・リスニング」も導入する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

TOEIC I, II, IIIと履修してきたので、今までの問題集の再復習と、このテキストでの極意を理解し、さらに自己学習が要求される。問題数を多く、解けば、解くほど、こつがつかめるので、多くの問題集にあたること。また、リスニングのために、日ごろより、時事英語、例：CNNstudent News など聞くことよ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

Part 1:細かい発音の違いを聞き取る/豊かな表現力を身につける/めだたないものに注目する Part 2:質問と「接的な応答」の間にあるストーリーを想像する。Part 3の会話文の形式の大幅に変更にあわせる、Part 4:訳ではなく「メッセージ」を概念的に把握する。Part 5: 意味ではなく「語法」の知識を駆使する。Part 6と7は新形式の問題をとりいれます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

新形式公式問題集7が2016年春には出版予定です。是非トライすること。公式問題集は6巻まであります。しかし、新形式ではありませんが参考までに全部しておくこと。問題に慣れるために、「解答時間が短い」、「問題数が多い」「正解が複数ある」など 問題で真の力を高めるためには、公式問題集すべてに習熟することが近道です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

模擬試験3回60% 語彙テスト20% Presentation (課題発表) 20%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Orientation & Introduction *& TOEIC strategies	
第2回	Part 1 + 戦略	
第3回	Part 2 + 戦略	
第4回	Part 3 + 戦略	
第5回	Part 4 + 戦略	第一回模試
第6回	Part 5 + 戦略	
第7回	Part 6 + 戦略	
第8回	Part 7 + 戦略	
第9回	Part 1 極意	
第10回	Part 2 極意	第二回模試
第11回	Part 3 極意	
第12回	Part 4 極意	
第13回	Part 5 極意	
第14回	Part 6 極意	
第15回	Part 7 極意	第三回模試

6. Special Information (留意事項)

プリント教材あり

講義コード	20204201			
科目名	Advanced Reading I A			
担当者	York Weatherford			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『ACTIVE Skills for Reading 2』 Neil J. Anderson Heinle Cengage 2013			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading-based assignments. Students must meet the teacher's attendance requirements to receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Course Introduction
第2回	Exam Time, Reading Test Instructions
第3回	Going Abroad, Reading and Understanding Immigration Forms
第4回	Movie Makers, Understanding the Use of Italics
第5回	Are Human Beings Getting Smarter?, Fluency Strategy: PRO
第6回	Young Athletes, Using Dates
第7回	The Amazing Human Body, Finding the Right Doctor
第8回	Leisure Time, Using Key Words for Internet Searches
第9回	Puzzle Maker, Fluency Strategy: PQR+E
第10回	A World of Music, Dictionary Usage: Choosing the Right Word
第11回	Career Paths, Searching for a Job Online
第12回	The Story of Chocolate, Dictionary Usage: Choosing the Right Definition
第13回	The Secrets of Advertising, Advertising and Psychology
第14回	Food and the Environment, Understanding Units of Measure
第15回	Living for the Future, Reading Numbers in Text

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

講義コード	20204202			
科目名	Advanced Reading I B			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Weaving it Together 3, fourth edition』 Broukal National Geographic Learning/Cengage Learning 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their

reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary depending on the teacher

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance : 20% Homework and classroom performance : 80%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Student Introduction Activities Course Introduction
第2回	Symbols-Reading I Class 1
第3回	Symbols-Reading I Class 2
第4回	Symbols-Reading 2 Class 1
第5回	Symbols-Reading 2 Class 2
第6回	Customs-Reading 1 Class 1
第7回	Customs-Reading 1 Class 2
第8回	Customs-Reading 2 Class 1
第9回	Customs-Reading 2 Class 2
第10回	Mind and Body-Reading 1 Class 1
第11回	Mind and Body-Reading 1 Class 2
第12回	Mind and Body-Reading 1 Class 3
第13回	Mind and Body-Reading 2 Class 1
第14回	Mind and Body-Reading 2 Class 2
第15回	Mind and Body-Reading 2 Class 3

6. Special Information (留意事項)

The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.

講義コード	20204203			
科目名	Advanced Reading I C A student-centered reading SKILLS course			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『More Reading Power 3 (3rd Ed.)』 Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky Pearson Longman 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the SKILLS and STRATEGIES that are involved in the reading process. This course is NOT a translation course! Vocabulary acquisition (vocabulary building) will also be worked on extensively.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will improve their reading, IN ENGLISH, via 4 ways:

i) EXTENSIVE READING: reading a lot of books that students choose and that they enjoy reading, as well as guidance for dealing with new vocabulary in extensive reading

ii) VOCABULARY BUILDING: learning how to study vocabulary, as well as guidance in vocabulary learning methods: selecting useful vocabulary, dictionary work, guessing meaning from context, analyzing word parts and word families, noticing and learning collocations, and understanding referents

iii) COMPREHENSION SKILLS: understanding and following ideas in English, as well as teaching reading skills such as scanning and reviewing, making inferences, and identifying patterns.

iv) READING FLUENCY (Reading Faster): learning to read faster and with understanding, as well as building awareness of reading speed while providing strategies and exercises for increasing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (= 100%) IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time! The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher ON TIME!

If you are ABSENT for a test or quiz, you will get 0%!

If homework, an assignment, or a book report is LATE, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, and Extensive Reading book reports.

Class Participation 40%

Tests/Quizzes 20%

Extensive Reading Book Reports 30%

Vocabulary Portfolio 10%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include Extensive Reading, Vocabulary Building, Comprehension Skills, and Reading Fluency (Reading Faster). The week-by-week lesson plans will be decided individually by the instructor of each section.

The schedule for instruction may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

6. Special Information (留意事項)

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20204204			
科目名	Advanced Reading I D			
担当者	吉野 啓子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Basic Interactive Reader』 Naoko ogawa yumiko Yoshida, Mariko miyajima Kinseido			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary depending on the teacher

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30% Homework and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204205			
科目名	Advanced Reading I E			
担当者	小山 哲春			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	Teacher will give students workbooks for each module.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. As in the first semester, reading and writing skills will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will continue to be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be further developed. Writing skills in the second semester will focus on cohesion and coherence at the paragraph level. Students will continue to increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn an additional 500 new words in the second semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary ability through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204302			
科目名	Advanced Reading II B			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	[Weaving it Together 3, fourth edition] Broukal National Geographic Learning/Cengage Learning 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance : 20% Homework and classroom performance : 80%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 People Making a Difference-Reading 1 Class 1
- 第2回 People Making a Difference-Reading 1 Class 2
- 第3回 People Making a Difference-Reading 1 Class 3
- 第4回 People Making a Difference-Reading 2 Class 1
- 第5回 People Making a Difference-Reading 2 Class 2
- 第6回 People Making a Difference-Reading 2 Class 3
- 第7回 Food-Reading 1 Class 1
- 第8回 Food-Reading 1 Class 2
- 第9回 Food-Reading 1 Class 3
- 第10回 Food-Reading 2 Class 1
- 第11回 Food-Reading 2 Class 2
- 第12回 Food-Reading 2 Class 3
- 第13回 Language-Reading 1 Class 1
- 第14回 Language-Reading 1 Class 2
- 第15回 Language-Reading 1 Class 3

6. Special Information (留意事項)

The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.

講義コード	20204303			
科目名	Advanced Reading II C A student-centered reading SKILLS course			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	[More Reading Power 3 (3rd Ed.)] Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky Pearson Longman 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course is a continuation of Advanced Reading I. The aim of this course is for students to continue developing the SKILLS and STRATEGIES

that are involved in the reading process. This course is NOT a translation course! Vocabulary acquisition (vocabulary building) will also be worked on extensively.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will improve their reading, IN ENGLISH, via 4 ways:

- i) EXTENSIVE READING: reading a lot of books that students choose and that they enjoy reading, as well as guidance for dealing with new vocabulary in extensive reading
- ii) VOCABULARY BUILDING: learning how to study vocabulary, as well as guidance in vocabulary learning methods: selecting useful vocabulary, dictionary work, guessing meaning from context, analyzing word parts and word families, noticing and learning collocations, and understanding referents
- iii) COMPREHENSION SKILLS: understanding and following ideas in English, as well as teaching reading skills such as scanning and reviewing, making inferences, and identifying patterns.
- iv) READING FLUENCY (Reading Faster): learning to read faster and with understanding, as well as building awareness of reading speed while providing strategies and exercises for increasing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (= 100%) IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time! The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the instructor ON TIME!

If you are ABSENT for a test or quiz, you will get 0%!

If homework, an assignment, or a book report is LATE, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), tests/quizzes, Extensive Reading book reports, and a vocabulary portfolio.

Class Participation 40%

Tests/Quizzes 20%

Extensive Reading Book Reports 30%

Vocabulary Portfolio 10%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include Extensive Reading, Vocabulary Building, Comprehension Skills, and Reading Fluency (Reading Faster). The week-by-week lesson plans will be decided individually by the instructor of each section.

The schedule for instruction may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

6. Special Information (留意事項)

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended.

講義コード	20204304			
科目名	Advanced Reading II D			
担当者	吉野 啓子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Basic Interactive Reader』 Yumiko Yoshida Mariko Miyajima Kinseido			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) The purpose of this course is to continue to help students improve their reading skills, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This course is a continuation of Advanced Reading I) Individual instructors will provide readings for each class appropriate to the level of the students. Emphasis will be placed on vocabulary acquisition and strategies for reading quickly without translating into Japanese. In addition, all instructors will continue with the JACET 8000 vocabulary program that was started in Reading and Writing I/II, and students will be tested on vocabulary every

week. Furthermore, the Extensive Reading program initiated in Reading and Writing I/II will also be continued, with students reading between two and five books a month, depending on their level, and writing short reports on what they have read.

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This course is a continuation of Advanced Reading I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and vocabulary quizzes : 30%

Homework and classroom performance : 70%

5. Course Schedule (授業予定)

The Advanced Reading syllabus will include intensive reading, extensive reading, and vocabulary building. The week-by-week lesson plans will be decided individually by the teacher of each section.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204305			
科目名	Advanced Reading II E			
担当者	小山 哲春			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	The teacher will provide students with workbooks for the course modules.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204401		
科目名	Advanced Writing I A		
担当者	York Weatherford		
単位数	1	配当学年	2
資格	[英]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20204402			
科目名	Advanced Writing I B			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	[Weaving it Together 3, fourth edition] Broukal National Geographic Learning/Cengage Learning 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The development of paragraphs and the composition of short essays will be stressed. Students will review the topic sentence and learn how to use a thesis statement to help them organize their essays coherently.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Will vary according to the teacher.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance : 20%

Essays and classroom performance : 80%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Student Introduction Activities
Course Introduction
- 第2回 Symbols-Reading 1
Class 1
- 第3回 Symbols-Reading 1
Class 2
- 第4回 Symbols-Reading 2
Class 1
- 第5回 Symbols-Reading 2
Class 2
- 第6回 Customs-Reading 1
Class 1
- 第7回 Customs-Reading 1

- Class 2
- 第8回 Customs-Reading 2
Class 1
- 第9回 Customs-Reading 1
Class 2
- 第10回 Mind and Body-Reading 1
Class 1
- 第11回 Mind and Body-Reading 1
Class 2
- 第12回 Mind and Body-Reading 1
Class 3
- 第13回 Mind and Body-Reading 2
Class 1
- 第14回 Mind and Body-Reading 2
Class 2
- 第15回 Mind and Body-Reading
Class 3

6. Special Information (留意事項)

The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.

講義コード	20204403			
科目名	Advanced Writing I C From Paragraph to ESSAY			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	[Ready To Write 3: From Paragraph to Essay] Karen Blanchard & Christine Root Pearson Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to help students improve their ability to express themselves in writing building on the foundations in Reading and Writing I/II. This course teaches students composition skills they need to be successful writers in and out of the classroom, as well as writing more than paragraph-level pieces (e.g., ESSAY WRITING & Academic Writing).

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

i) The activities in this course will help students apply organizational principles to major rhetorical forms, such as process, classification, cause and effect, comparison and contrast, and problem and solution essays.

ii) Extensive and guided practice will lead students through the steps of the writing process: prewriting, writing, revising, and editing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (= 100%) IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time! The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays ON TIME!

NOTE: If homework or your paragraph or essay writing is LATE, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), paragraph and essay writing, and journal writing.

CLASS PARTICIPATION 40%

PARAGRAPH & ESSAY WRITING 40%

JOURNAL WRITING 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Chapter 1: Getting Ready to Write
- 第3回 Chapter 1: Getting Ready to Write
- 第4回 Chapter 1: Getting Ready to Write
- 第5回 Chapter 2: Writing Paragraphs
- 第6回 Chapter 2: Writing Paragraphs

- 第7回 Chapter 2: Writing Paragraphs
- 第8回 Chapter 3: Revising and Editing
- 第9回 Chapter 3: Revising and Editing
- 第10回 Chapter 3: Revising and Editing
- 第11回 Chapter 4: Writing Essays
- 第12回 Chapter 4: Writing Essays
- 第13回 Chapter 4: Writing Essays
- 第14回 Chapter 5: Process Essays
- 第15回 Chapter 5: Process Essays

6. Special Information (留意事項)

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20204404			
科目名	Advanced Writing I D			
担当者	田中 祐子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Research & Write : Essential Skills for Academic Writing』 Andy Boon Macmillan Education 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will develop their basic research and writing skills necessary for academic writing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

At first students will collect primary data by developing questionnaires, interviews and observations to support their writing. Finally they will use secondary data, learning how to summarize and paraphrase other people's writing to support their research.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Weekly written homework must be completed before class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, completion of written assignments and completion of all the exercises in their text book.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction & Self Introduction
- 第2回 Making Questionnaires
- 第3回 Writing up Questionnaire Results
- 第4回 Topic Sentences
- 第5回 Writing Topic Sentences
- 第6回 Interviewing
- 第7回 Analyzing Interview Data
- 第8回 Understanding Supporting Sentences
- 第9回 Staying On-Topic
- 第10回 Conducting Observations
- 第11回 Ethics
- 第12回 Analyzing Your Observation Data
- 第13回 Concluding Sentences
- 第14回 Writing Concluding Sentences
- 第15回 Final Review

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204405			
科目名	Advanced Writing I E			
担当者	小山 哲春			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	The teacher will provide students with workbooks for the course modules.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20204502			
科目名	Advanced Writing II B			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Weaving it Together 3, fourth edition』 Broukal National Geographic Learning/Cengage Learning 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(This class is a continuation of Advanced Writing I) The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

3. Course Method (教育・学習の方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance : 20%

Essays and classroom performance : 80%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	People Making a Difference-Reading 1 Class 1
第2回	People Making a Difference-Reading 1 Class 2
第3回	People Making a Difference-Reading 1 Class 3
第4回	People Making a Difference-Reading 2 Class 1
第5回	People Making a Difference-Reading 2 Class 2
第6回	People Making a Difference-Reading 2 Class 3
第7回	Food-Reading 1 Class 1
第8回	Food-Reading 1 Class 2
第9回	Food-Reading 1 Class 3
第10回	Food-Reading 2 Class 1
第11回	Food-Reading 2 Class 2
第12回	Food-Reading 2 Class 3
第13回	Language-Reading 1 Class 1
第14回	Language-Reading 1 Class 2
第15回	Language-Reading 1 Class 3

6. Special Information (留意事項)

(This class is a continuation of Advanced Writing I)

The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.

講義コード	20204503			
科目名	Advanced Writing II C From Paragraph to ESSAY			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Ready To Write 3: From Paragraph to Essay』 Karen Blanchard & Christine Root Pearson Longman 2010			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This class is a continuation of Advanced Writing I. The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing building on the foundations in Reading and Writing I/II. This course teaches students composition skills they need to be successful writers in and out of the classroom, as well as writing more than paragraph-level pieces (e.g., ESSAY WRITING & ACADEMIC WRITING).

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- The activities in this course will help students apply organizational principles to major rhetorical forms, such as process, classification, cause and effect, comparison and contrast, and problem and solution essays.
- Extensive and guided practice will lead students through the steps of the writing process: prewriting, writing, revising, and editing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (= 100%) IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time! The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays ON TIME!

NOTE: If homework or your paragraph or essay writing is LATE, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), paragraph and essay writing, and journal writing.

CLASS PARTICIPATION 40%

PARAGRAPH & ESSAY WRITING 40%

JOURNAL WRITING 20%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Course Introduction
第2回	Chapter 5: Process Essays
第3回	Chapter 6: Division and Classification Essays
第4回	Chapter 6: Division and Classification Essays 1
第5回	Chapter 6: Division and Classification Essays 2
第6回	Chapter 7: Cause and Effect Essays
第7回	Chapter 7: Cause and Effect Essays
第8回	Chapter 7: Cause and Effect Essays
第9回	Chapter 8: Comparison and Contrast Essays
第10回	Chapter 8: Comparison and Contrast Essays
第11回	Chapter 8: Comparison and Contrast Essays
第12回	Chapter 9: Problem-Solving Essays
第13回	Chapter 9: Problem-Solving Essays
第14回	Chapter 9: Problem-Solving Essays
第15回	Review Journal Writing

6. Special Information (留意事項)

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20204504			
科目名	Advanced Writing II D			
担当者	田中 祐子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『Research & Write : Essential Skills for Academic Writing』 Andy Boon Macmillan Education 2015			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading and Writing I/II.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will develop their basic research and writing skills necessary for academic writing.

3. Course Method (教育・学習の方法)

At first students will collect primary data by developing questionnaires, interviews and observations to support their writing. Finally they will use secondary data, learning how to summarize and paraphrase other people's writing to support their research.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Weekly written homework must be completed before class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students will be evaluated based on class participation, completion of written assignments and completion of all the exercises in their text book.

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	What is an Essay?
第2回	Writing Introductions
第3回	Writing Supporting Paragraphs
第4回	Finding Secondary Data Sources
第5回	Taking Secondary Data Notes
第6回	Culture Shock

- 第7回 Quoting Secondary Data
- 第8回 Citations & End Reference Lists
- 第9回 Plagiarism
- 第10回 Summarizing
- 第11回 Paraphrasing
- 第12回 Understanding the Two Sides of an Argument
- 第13回 Organizing your Argument Essay
- 第14回 Looking Back & Looking Forward
- 第15回 Final Review

6. Special Information (留意事項)

This class is a continuation of Advanced Writing I

講義コード	20204505			
科目名	Advanced Writing II E			
担当者	小山 哲春			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	The teacher will provide students with workbooks for the course modules.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading and writing will be taught in thematically organized units of study to promote fluency and accuracy. Previously studied grammatical structures and vocabulary will initially be reviewed before being built upon. Critical reading skills will also be developed. Writing skills in the first semester will focus on penmanship and the proper use of topic sentences, supporting sentences, and punctuation at the paragraph level. Students will increase their vocabulary knowledge at both the receptive and productive levels.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Active participation in all classroom-based activities is required. All students will read self-selected books from the Extensive Reading collection on a regular basis. Students are expected to learn 500 new words in the first semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will contextualize and develop grammar and vocabulary knowledge through extensive reading.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will be required to prepare for classes by completing all homework assignments in a timely manner.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Student assessment will be based on classroom participation, quizzes, and the completion of reading and writing assignments. Any student absent to more than 10 classes will not receive a passing grade.

5. Course Schedule (授業予定)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205001			
科目名	Academic Writing I A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『MLA 英語論文作成ガイド』			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course builds upon what was learned in the second-year Advanced Writing course. Students practice writing longer essays that become more academic in nature by the end of the semester.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to edit and improve their own writing by producing several drafts of each essay. They will learn how to formulate topics that are of interest to themselves and their audience and to evaluate critically their own writing and the writing of others. Students are expected to understand how to avoid plagiarism by properly acknowledging their sources.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Teachers will regularly assign writing projects. Student writing may be discussed in class and used as models, and students should expect help and criticism not only from the teacher but from their classmates as well.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance, class participation, completion of all drafts: 30% Essays: 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introductory class
- 第2回 Narrative essay first draft
- 第3回 Narrative essay second draft
- 第4回 Narrative essay third draft : peer consultation
- 第5回 Narrative essay fourth draft : teacher consultation
- 第6回 Narrative essay fourth draft : teacher consultation continued
- 第7回 Narrative essay final draft : introduction to persuasive essay
- 第8回 Persuasive essay first draft
- 第9回 Persuasive essay second draft
- 第10回 Persuasive essay third draft : peer consultation
- 第11回 Persuasive essay fourth draft : teacher consultation
- 第12回 Persuasive essay fourth draft : teacher consultation
- 第13回 Grammar review
- 第14回 Persuasive essay final draft : in-class writing
- 第15回 Persuasive essay returned : consultations.

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly and to complete all writing assignments.

講義コード	20205002			
科目名	Academic Writing I B 英文表現演習			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

受講生が興味を持っている一般的な話題について、関係する資料(日・英語)を調べ、それを英文でまとめ、最後に、口頭でも発表できるようにすることを旨とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

本授業では、以下の活動を通して、英文のライティングスキルを向上させる。

- ・書くテーマの選択
- ・そのテーマについての調査
- ・英文資料の要約
- ・和文資料からの英訳
- ・英文原稿の作成と口頭発表

3. Course Method (教育・学習の方法)

教員が導入し解説したジャンルに基づいて、受講生はテーマを選択し、関係資料を調査して、書く内容を決定する。各受講生はその内容を英文で表現し、英文原稿を作成する。受講生は数名のグループに分かれ、グループ毎に英文の相互チェックを行う。教員は適宜グループのチェック作業に加わり、英文作成上の指導を行う。完成した英文をもとに、各受講生はクラスで口頭発表する。このサイクルを2、3回繰り返して、英文を書き、書

いた英文をチェックすることを学習する。

・ **Class Preparation (準備学習の具体的な方法)**

本授業の課題作業として、書く題材の探索、関連資料の読解、和文の英訳、英文作成、英文原稿の暗記、口頭発表の練習などにまがるので、毎回指示を出す。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

口頭発表を含む出席点 (50%)、作成した英文原稿 (50%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業方針の説明と英文ライティング(1)のテーマ導入
- 第2回 英文(1)テーマ決定と調査
- 第3回 英文(1)の原稿作成
- 第4回 英文(1)原稿のグループチェック、個別指導
- 第5回 英文(1)のグループ内発表、全体発表、講評
- 第6回 英文(2)のテーマ導入
- 第7回 英文(2)のテーマ決定と調査
- 第8回 英文(2)の原稿作成
- 第9回 英文(2)原稿のグループチェック、個別指導
- 第10回 英文(2)のグループ内発表、全体発表、講評
- 第11回 英文(3)のテーマ導入
- 第12回 英文(3)のテーマ決定と調査
- 第13回 英文(3)の原稿作成
- 第14回 英文(3)原稿のグループチェック、個別指導
- 第15回 英文(3)のグループ内発表、全体発表、講評

6. Special Information (留意事項)

毎回出される課題を確実にこなして、授業に臨むこと。

講義コード	20205003			
科目名	Academic Writing I C			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『MLA 英語論文作成ガイド』 Joseph F. Trimmer Cengage 2010 An additional textbook may be announced later.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The objective of this class is to acquaint students with the specific skills used for writing academic research papers. As many Notre Dame students study abroad, one additional purpose is to prepare them for writing assignments made by foreign teachers in foreign countries.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to critically evaluate their own work. This course will develop students' academic writing skills by:

- i) choosing and researching topics
- ii) reviewing typical parts and formats of essays
- iii) providing step-by-step practice of the drafting process
- iv) using academic language (e.g., In-text transition words; paragraph transition words; adverbs; etc.)
- v) citing references
- vi) a special emphasis will be placed on quotations and paraphrasing in academic journals and articles/papers

In addition, basic sentence structure (Simple, Compound, & Complex Sentences) will be reviewed.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (= 100%) IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time! The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

・ **Class Preparation (準備学習の具体的な方法)**

Students should do all homework assigned by the instructor, including completion of all prewriting, outlines, first drafts, and their final academic research papers. ON TIME!

NOTE: If any prewriting, outlines, first drafts, or final academic research papers is late, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), academic research writing, and journal writing.

CLASS PARTICIPATION 40%

ACADEMIC RESEARCH WRITING 40%

JOURNAL WRITING 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Introduction to the course. Students will learn about: the general instructional objectives of the course, the goals of the course, the learning strategies of the course, and the course evaluation and assessment.
Unit 1: PREWRITING: Preparation and Research; What is a Research Paper?; Topics
- 第2回 Unit 2: PREWRITING: Preparation and Research; Sources
- 第3回 Unit 3: ORGANIZING YOUR PAPER: The Beginning Thesis Statement
- 第4回 Unit 4: ORGANIZING YOUR PAPER: The Working Outline
- 第5回 Unit 5: ORGANIZING YOUR PAPER: Revising the Thesis Statement and Working Outline
- 第6回 Unit 6: WRITING THE FIRST DRAFT: Spelling, Typing, and Word Processing
- 第7回 Unit 7: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the First Draft
- 第8回 Unit 8: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the Title; Style
- 第9回 Unit 9: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the Introduction
- 第10回 Unit 10: WRITING THE FIRST DRAFT: Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
- 第11回 Unit 11: WRITING THE FIRST DRAFT: Tense, Transitions, and Awkward Sentences; Writing the Conclusion
- 第12回 Unit 12: WRITING THE FIRST DRAFT: Citing and Quoting Sources
- 第13回 Unit 13: EVALUATING AND REWRITING YOUR PAPER: Evaluating and Rewriting Your Paper
- 第14回 Unit 14: EVALUATING AND REWRITING YOUR PAPER: Common Problems with Punctuation, Grammar, and Vocabulary
- 第15回 Unit 15: Sample Literature Paper in MLA Style

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20205004			
科目名	Academic Writing I D			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs』 Hisatake Jimbo, Richard B. Murto Macmillan 2012			
参考文献	授業時に適宜紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、基礎的な英語のライティングを学び、また英語で文章を「書く」経験を通じ、論理的思考を修得することを目的とする。文法を正しく使い、また類義語辞典や、活用辞典を活用して、アカデミックな英文作成を行う。授業ではライティングスキルを一つ一つ習得し、効果的な「書き方」の理解を深めるとともに、エッセイを書くことによって、思考を紙面に迅速に刻み込む練習を反復する。日本語を英語に和訳するという作業にならないよう注意し、アイデアをそのまま英語で書くということを心がけてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 英訳の作業をするのではなく、アイデアをそのまま英語で表現する。
- 2 パラグラフの構造を理解し、論理的にアイデアを組み立てていく。
- 3 推敲を重ね、よりアカデミックな表現法を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多く

の英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点 25%

エッセイ 25%

定期試験 50%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 The topic Sentence of the Paragraph
- 第3回 The Topic Sentence of the Paragraph
- 第4回 The Specific Details of the Paragraph
- 第5回 The Specific Details of the Paragraph
- 第6回 Time Order
- 第7回 Time Order
- 第8回 Review
- 第9回 Space Order
- 第10回 Space Order
- 第11回 Process and Direction
- 第12回 Process and Direction
- 第13回 Cause and Effect
- 第14回 Cause and Effect
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

授業の進度、学生の理解度に応じて予定を変更することがある。

- 第5回 Unit 12 E-mail Writing
- 第6回 Unit 12 E-mail Writing
- 第7回 Unit 4 Narratives: Traveling in London
- 第8回 Unit 4 Narratives: Traveling in London
- 第9回 Unit 5 Description: Abbey Road
- 第10回 Unit 5 Description: Abbey Road
- 第11回 Unit 6 Classification: Individuality Emphasized in Exams
- 第12回 Unit 6 Classification: Individuality Emphasized in Exams
- 第13回 Unit 11 Essay Writing
- 第14回 Unit 11 Essay Writing
- 第15回 Unit 11 Essay Writing

6. Special Information (留意事項)

特になし。

講義コード	20205101			
科目名	Academic Writing II A			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『MLA 英語論文作成ガイド』			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20205005			
科目名	Academic Writing I E			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を書き、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。まずは、エッセイを書く前段階として、トピックの選び方、アウトラインの組み立て、トピック・センテンスの書き方等を学びます。つぎに、パラグラフの様々な展開法を学習します。最終的に、4～5パラグラフから成るエッセイ(400 words程度)に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。
- 2 様々な展開法を適切に用いてパラグラフを書くことができる。
- 3 身近な話題について、4～5パラグラフから成るエッセイを書けるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and Class Participation 15%

Class Activities and Submitted Papers 55%

Final Essay 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業説明、Diagnostic Writing
- 第2回 Unit 1 Pre-Writing
- 第3回 Unit 2 Drafting
- 第4回 Unit 3 Revision/Proof-Reading

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will continue the work begun in Academic Writing I. Students will practice writing expository prose.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

One of the major goals of the course is to help get students ready to embark on an extended research project, their graduation theses. Therefore, student writing should become progressively more complex and sophisticated in the course of the semester.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Teachers will regularly assign writing projects. Student writing may be discussed in class and used as models, and students should expect help and criticism not only from the teacher but from their classmates as well.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance, class participation, completion of all drafts: 30% Essays: 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to informative essay
- 第2回 Informative essay first draft
- 第3回 Informative essay second draft
- 第4回 Informative essay third draft: peer consultation
- 第5回 Informative essay fourth draft: teacher consultation
- 第6回 Informative essay fourth draft: teacher consultation continued
- 第7回 Informative essay final draft: introduction to informative essay with references
- 第8回 Informative essay with references first draft
- 第9回 Informative essay with references second draft
- 第10回 Informative essay with references third draft: peer consultation
- 第11回 References workshop
- 第12回 Informative essay with references fourth draft: teacher consultation
- 第13回 Informative essay with references fourth draft: teacher consultation
- 第14回 Informative essay returned: consultations
- 第15回 Informative essay with references final draft

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly and to complete all writing assignments.

講義コード	20205102			
科目名	Academic Writing II B 英文レポート作成演習			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語および英語文化に関するテーマについて、関係する資料(日・英語)を調べ、それを英文でまとめ、最後に、口頭でも発表できるようになることを目指す。授業で課されるレポートや小論文を英語で作成できる基礎力を養成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

本授業では、以下の活動を通して、英文のレポートや小論文を作成する練習を行う。

- ・書くテーマの選択と調査
- ・英文資料の要約と和文資料からの英訳
- ・英文の構成
- ・引用表記と参考文献リストの作成
- ・英文推敲と口頭発表

3. Course Method (教育・学習の方法)

教員が導入し解説した英語関係の諸分野に基づいて、受講生はテーマを選択し、関係資料を調査して、書く内容を決定する。各受講生はその内容を英文で表現し、英文原稿を作成する。受講生は4、5名のグループに分かれ、グループ毎に英文の相互チェックを行う。教員は適宜英文レポートの構成や引用表記について講義と個別指導を行う。完成した英文をもとに、各受講生はクラスで口頭発表する。このサイクルを2回繰り返して、英文を書き、書いた英文をチェックすることを学習する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

本授業の課題作業として、書く題材の探索、関連資料の読解、和文の英訳、英文作成、英文原稿の暗記、口頭発表の練習などにまたがるので、毎回指示を出す。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

口頭発表を含む出席点(40%)、作成した英文原稿(60%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業方針説明と英文ライティング(1)のテーマ導入
- 第2回 英文(1)テーマ決定と調査
- 第3回 英文(1): イントロダクション原稿作成
- 第4回 英文(1)イントロ原稿のグループチェック、個別指導
- 第5回 英文(1)グループ内発表、全体発表、講評
- 第6回 英文(1)全体構成と引用表記の指導
- 第7回 英文(1)本体原稿作成
- 第8回 英文(1)全体原稿のグループチェック、個別指導
- 第9回 英文(2)テーマ決定、資料調査
- 第10回 英文(2)原稿作成
- 第11回 英文(2)原稿推敲
- 第12回 英文(2)原稿グループチェック
- 第13回 英文(2)原稿個別指導
- 第14回 英文(2)グループ内発表、個別指導
- 第15回 英文(2)全体発表、講評

6. Special Information (留意事項)

毎回出される課題、特に英文原稿の作成を確実にこなして、授業に臨むこと。

講義コード	20205103			
科目名	Academic Writing II C			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『MLA 英語論文作成ガイド』 Joseph F. Trimmer Cengage 2010 An additional textbook may be announced later.			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The objective of this class is to acquaint students with the specific skills used for writing academic research papers. As many Notre Dame students study abroad, one additional purpose is to prepare them for writing assignments made by foreign teachers in foreign countries.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn to critically evaluate their own work. This course will develop students' academic writing skills by:

- choosing and researching topics
- reviewing typical parts and formats of essays
- providing step-by-step practice of the drafting process
- using academic language (e.g., In-text transition words; paragraph transition words; adverbs; etc.)
- citing references
- a special emphasis will be placed on quotations and paraphrasing in academic journals and articles/papers

In addition, basic sentence structure (Simple, Compound, & Complex Sentences) will be reviewed.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE CONDUCTED ENTIRELY (= 100%) IN ENGLISH! In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students are expected to complete their homework on time! The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the instructor, including completion of all prewriting, outlines, first drafts, and final research papers, ON TIME!

NOTE: If any prewriting, outlines, first drafts, or final research paper is LATE, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), academic research writing, and journal writing.

CLASS PARTICIPATION 40%

ACADEMIC RESEARCH WRITING 40%

JOURNAL WRITING 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1: Introduction to the course. Students will learn about: the general instructional objectives of the course, the goals of the course, the learning strategies of the course, and the course evaluation and assessment.
Unit 1: PREWRITING: Preparation and Research; Finding a Topic
- 第2回 Unit 2: PREWRITING: Preparation and Research; Sources of Information
- 第3回 Unit 3: ORGANIZING YOUR PAPER: The Beginning Thesis Statement
- 第4回 Unit 4: ORGANIZING YOUR PAPER: The Working Outline
- 第5回 Unit 5: ORGANIZING YOUR PAPER: Revising the Thesis Statement and Working Outline
- 第6回 Unit 6: WRITING THE FIRST DRAFT: Spelling, Typing, and Word Processing
- 第7回 Unit 7: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the First Draft
- 第8回 Unit 8: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the Title; Style
- 第9回 Unit 9: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the Introduction; Support, Accuracy, and Logic

- 第10回 Unit 10: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the Body: Tense, Transitions, and Awkward Sentences
 第11回 Unit 11: WRITING THE FIRST DRAFT: Writing the Conclusion
 第12回 Unit 12: WRITING THE FIRST DRAFT: Citing and Quoting Sources; Writing the Bibliography
 第13回 Unit 13: EVALUATING AND REWRITING YOUR PAPER: Evaluating and Rewriting Your Paper
 第14回 Unit 14: EVALUATING AND REWRITING YOUR PAPER: Common Problems with Punctuation, Grammar, and Vocabulary
 第15回 Unit 15: Sample Literature Paper in MLS Style

6. Special Information (留意事項)

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended.

講義コード	20205104		
科目名	Academic Writing II D		
担当者	大川 淳		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト	『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs』 Hisatake Jimbo, Richard B. Murto Macmillan 2012		
参考文献	授業時に適宜紹介する。		
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、基礎的な英語のライティングを学び、また英語で文章を「書く」経験を通じ、論理的思考を修得することを目的とする。文法を正しく使い、また類義語辞典や、活用辞典を活用して、アカデミックな英文作成を行う。授業ではライティングスキルを一つ一つ習得し、効果的な「書き方」の理解を深めるとともに、エッセイを書くことによって、思考を紙面に迅速に刻み込む練習を反復する。日本語を英語に和訳するという作業にならないよう注意し、アイデアをそのまま英語で書くということを心がけてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 英訳の作業をするのではなく、アイデアをそのまま英語で表現する。
- 2 パラグラフの構造を理解し、論理的にアイデアを組み立てていく。
- 3 推敲を重ね、よりアカデミックな表現法を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点 25%

エッセイ 25%

定期試験 50%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Examples
- 第3回 Examples
- 第4回 Definition
- 第5回 Definition
- 第6回 Review
- 第7回 Classification
- 第8回 Classification
- 第9回 Comparison and Contrast
- 第10回 Comparison and Contrast
- 第11回 Review
- 第12回 Counterargument
- 第13回 Counterargument
- 第14回 Writing an Essay
- 第15回 Writing an Essay

6. Special Information (留意事項)

授業の進度、学生の理解度に応じて予定を変更することがある。

講義コード	20205105		
科目名	Academic Writing II E		
担当者	小林 順		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を使い、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・エッセイを書くことを目標とします。まずは、エッセイを書く前段階として、トピックの選び方、アウトラインの組み立て、トピック・センテンスの書き方等を学びます。つぎに、パラグラフの様々な展開法を学習します。最終的に、4～5パラグラフから成るエッセイ(400 words程度)に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。
- 2 様々な展開法を適切に用いてパラグラフを書くことができる。
- 3 身近な話題について、4～5パラグラフから成るエッセイを書けるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and Class Participation 15%

Class Activities and Submitted Papers 55%

Final Essay 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業説明、Diagnostic Writing
- 第2回 Unit 1 Pre-Writing, Unit 2 Drafting, Unit 3 Revision/Proof-Reading
- 第3回 Unit 13 Resume Writing
- 第4回 Unit 13 Resume Writing
- 第5回 Unit 7 Contrast: The Difference between London and Tokyo
- 第6回 Unit 7 Contrast: The Difference between London and Tokyo
- 第7回 Unit 8 Problem Solving: Ways to Release Stress
- 第8回 Unit 8 Problem Solving: Ways to Release Stress
- 第9回 Unit 9 Cause and Effect: The Status of Japanese Women
- 第10回 Unit 9 Cause and Effect: The Status of Japanese Women
- 第11回 Unit 10 Personal Opinion: Mr. Bean
- 第12回 Unit 10 Personal Opinion: Mr. Bean
- 第13回 Final Essay Writing
- 第14回 Final Essay Writing
- 第15回 Final Essay Writing

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205401			
科目名	英会話Ⅲ			
担当者	Michael Barr			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[英][医]			
前提科目				
テキスト	『Contemporary Topics 1』 Helen Solorzano and Laurie Fraiser Pearson Longman 2009			
参考文献				
備考	定員15人 「英会話Ⅰ・Ⅱ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This is a discussion based course with an emphasis on academic listening. The course will cover speaking and listening. The material will be based on university style recorded lectures of contemporary topics.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

To improve listening to extended speech and to develop academic note taking skills. Students will be using notes to talk about the content of the lectures. Discussion strategies will be used for small group discussions.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Through listening, note taking and discussion students will gain valuable skills to feel confident in a lecture class. We will watch authentic websites about the same topic.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Homework will be assigned every week. You will also have assignments which require searching English web sites and contribute materials and discussion topics.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

50% class participation

50% homework assignments

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1 psychology of happiness
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Internet website
- 第4回 Unit 2 learning languages
- 第5回 Unit 2
- 第6回 Internet website of topic
- 第7回 Unit 3 sleep issues
- 第8回 Unit 3
- 第9回 watch web news report
- 第10回 Unit 4 negotiation
- 第11回 Unit 4
- 第12回 internet material
- 第13回 Unit 5 talking about art
- 第14回 Unit 5
- 第15回 Presentation

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205501			
科目名	英会話Ⅳ			
担当者	Michael Barr			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Contemporary Topics』 Helen Solorzano and Laurie Fraiser Pearson Longman 2009			
参考文献				
備考	定員15人 「英会話Ⅲ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This is a discussion based course with an emphasis on academic listening. The course will cover speaking and listening. The material will be based on university style recorded lectures of different topics.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

To improve listening to extended speech and to develop academic note taking skills. Students will be using notes to talk about the content of the listening material. There will be small group discussions about the topics.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Through listening and note taking students will gain valuable skills to feel confident in a lecture class. We will watch authentic websites about the same topic content.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Homework will be assigned every week. You will also have assignments which require searching English web sites and contribute materials and discussion topics.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

50% class participation

50% homework assignments

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 6 using technology in daily life
- 第2回 Unit 6
- 第3回 web search
- 第4回 Unit 8 GMO foods
- 第5回 Unit 8
- 第6回 video and discussion
- 第7回 Unit 9 space and UFO
- 第8回 Unit 10 Adventurers
- 第9回 Unit 10
- 第10回 internet website about topic
- 第11回 Unit 11 Ethics in business
- 第12回 Unit 11
- 第13回 free topic
- 第14回 free topic
- 第15回 free topic

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205601			
科目名	英文法ⅠA 英語を正しく使うための英文法Ⅰ			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Grammar in Use with Answers and CD-ROM: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English.(4th Ed.) Paperback.』 R. Murphy Cambridge U.P. 2012			
参考文献	『大学生のための英文法』 伊藤健三ほか 開拓社 2009 『英文法解説』 江川泰一郎 金子書房 2000 『Basic Grammar in Use』 R. Murphy cambridge U.P. 2011			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. You are expected to be aware of the basic concepts of grammar, which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: (1) You should be aware that words belong to different parts of speech, such as nouns, verbs, adjectives, prepositions, etc. (2) You should be aware of the patterns the verbs take; e.g. intransitives, transitives, etc. (3) You should be aware that, for each verb, the form it takes when in the present and past tenses, or the form each take when put in different aspects; i.e., progressive and perfect aspects, or the form each take in different voices; i.e., active and passive voices. (4) You should be aware of some of the concepts used when talking about grammars of languages, such as subject, object, modification, etc. (5) You should be aware of names of constructions and what they mean, such as Relative Clauses, Yes-No questions, etc. (6) You should be aware of the different types of sentences, such as declarative, interrogative, and imperative sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section of the book you will be using before going to class. After the class, make sure you understood the parts that were gone over in class and move on to the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class + the scores you receive in the exercises (notebooks you submit)(60%), and the score of the test given at the end of the semester (40%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (The order and the topics of presentation may not coincide with the list below, but most of the topics listed will be covered in each class.) Lecture: 1. Parts of Speech: Nouns and Verbs
- 第2回 Parts of Speech: Adjectives and Adverbs
- 第3回 Parts of Speech: Prepositions and Connectives
- 第4回 Grammatical Functions: Subject and Predicate
- 第5回 Grammatical Functions: Object and Complement
- 第6回 Verbs and Sentence Types: SV (intransitive) and SVO (transitive)
- 第7回 Verbs and Sentence Types: SVC and SVOC (modification)
- 第8回 Verbs and Sentence Types: SVOO (ditransitive)
- 第9回 Types of Sentences: Declarative Sentences
- 第10回 Types of Sentences: Interrogative Sentences
- 第11回 Types of Sentences: Imperative Sentences
- 第12回 Tenses: Present and Past
- 第13回 Aspects and Moods: Progressive and Perfect, Active and Passive
- 第14回 Constructions: Yes-No Questions/Wh-Questions, Relative Clauses
- 第15回 Complex Sentences: That-complement, Infinitives, and Wh-complements

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205602		
科目名	英文法 I B Your First Step to English Grammar!		
担当者	東郷 多津		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『Introduce Japan in Easy English』 Yukari Aiko & Yuka Ikeda 朝日出版社 2016		
参考文献	『FOREST 6th edition』 Kirihara Shoten 2013		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of grammar, specifically English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. We expect you to be aware of the basic concepts of grammar, which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: (1) You should be aware that words belong to different parts of speech, such as nouns, verbs, adjectives, prepositions, etc. (2) You should be aware of the patterns the verbs take; e.g. intransitives, transitives, etc. (3) You should be aware that, for each verb, the form it takes when in the present and past tenses, or the form each take when put in different aspects; i.e., progressive and perfect aspects, or the form each take in different voices; i.e., active and passive voices. (4) You should be aware of some of the concepts used when talking about grammars of languages, such as subject, object, modification, etc. (5) You should be aware of names of constructions and what they mean, such as Relative Clauses, Yes-No questions, etc. (6) You should be aware of the different types of sentences, such as declarative, interrogative, and imperative sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section of the book you will be using before going to class. After the class, make sure you understood the parts that were gone over in class and move on to the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class, the scores you receive in the exercises you do(40%), and the scores of quizzes(60%) given in class.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (The order and the topics of presentation may not coincide with the list below, but most of the topics listed will be covered in each class.) Orientation
- 第2回 Unit 0-1 学習を始める前に① 品詞
- 第3回 Unit 0-2 学習を始める前に② 語、句、文
- 第4回 Unit 0-3 学習を始める前に③ 名詞、代名詞、動詞
- 第5回 Unit 1 空港で(文型①)
- 第6回 Unit 2 マンションに到着(文型②)
- 第7回 Unit X1 時制
- 第8回 Unit 3-1 お客様を迎える(不定詞①)
- 第9回 Unit 3-2 お客様を迎える(動名詞)
- 第10回 Review (Unit 0-3)
- 第11回 Unit 4 デパート地下でお買い物(不定詞②)
- 第12回 Unit 5 お花見(分詞)
- 第13回 Unit 6 浅草へ行こう!(接続詞①)
- 第14回 Unit 7 秋葉原を散策(接続詞②)
- 第15回 Review (Chap.4-7)

6. Special Information (留意事項)

This class is for learners who want to study English grammar again from the VERY BEGINNING LEVEL. Students should bring an English-Japanese dictionary with them.

講義コード	20205701		
科目名	英文法 II A 英語を正しく使うための英文法 II		
担当者	中原 勝昭		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『Grammar in Use with Answers and CD-ROM: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English.(4th Ed.) paperback』 R. Murphy Cambridge U.P. 2012		
参考文献	『大学生のための英文法』 伊藤健三ほか 開拓社 2009 『英文法解説』 江川泰一郎 金子書房 2000 『Basic Grammar in Use (3rd E)』 R. Murphy cambridge U.P. 2011		
備考	『英文法I』履修者であること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. We expect you to be aware of the basic concepts of grammar which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: 1. You should be aware of the many types of sentences that you experience while learning to speak English. 2. You should be aware of the different types of complements that are at work. 3. You should be aware of the kind of complements taken by different verbs. 4. You should be aware of some of the concepts used when talking about grammar of English, such as 'finite vs. non-finite,' 'to infinitives,' etc. 5. You should be aware of names of constructions and what they mean, such as simple, complex, compound sentences, etc.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We

will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section that will be covered before going to class. After class, make sure you understood all that had been gone over in class and go on to the readings for the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class + the scores you receive in the exercises (notebooks you submit) (60%), and the score of the test given at the end of the semester (40%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 The following topics will be treated in the second semester, but not necessarily in the order given. Topics: 1. Simple, Compound, and Complex Sentences
- 第2回 Different Classes of Verbs
- 第3回 Psychological Verbs; 'interest,' 'worry,' 'amaze,' etc.
- 第4回 Types of Complements
- 第5回 Verbs Taking Questions
- 第6回 Finite Complements
- 第7回 Non-finite Complements
- 第8回 To-infinitive Complements
- 第9回 Different Types of Movements
- 第10回 Movement of Verbs
- 第11回 Movement of Noun Phrases
- 第12回 Movement of Wh-words
- 第13回 Movement of Adverbial Phrases and Clauses
- 第14回 Back to Basics: Word Order
- 第15回 Some Differences between English and Japanese

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20205702			
科目名	英文法ⅡB Your First Step to English Grammar!			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『Introduce Japan in Easy English』 Yukari Aiko & Yuka Ikeda 朝日出版社 2016			
参考文献	『FOREST 6th edition』 Kirihara Shoten 2013			
備考	「英文法Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to make you, the students, aware of the basic concepts of grammar, specifically English grammar. This is to help you in reading, writing, listening, and speaking classes. We expect you to be aware of the basic concepts of grammar, which are used in these English classes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

What we expect you to be aware of after the course: (1) You should be aware that words belong to different parts of speech, such as nouns, verbs, adjectives, prepositions, etc. (2) You should be aware of the patterns the verbs take; e.g., intransitives, transitives, etc. (3) You should be aware that, for each verb, the form it takes when in the present and past tenses, or the form each take when put in different aspects; i.e., progressive and perfect aspects, or the form each take in different voices; i.e., active and passive voices. (4) You should be aware of some of the concepts used when talking about grammars of languages, such as subject, object, modification, etc. (5) You should be aware of names of constructions and what they mean, such as Relative Clauses, Yes-No questions, etc. (6) You should be aware of the different types of sentences, such as declarative, interrogative, and imperative sentences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will explain each of the above in class and you will do exercises or other forms of practice to see if you understand what has been explained. We will expect you to do the exercises in class and compare your answers with those of other students.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Make sure you read the chapter or section of the book you will be using before going to class. After the class, make sure you understood the parts

that were gone over in class and move on to the next lesson.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades will be determined by your participation in class, the scores you receive in the exercises you do(40%), and the scores of quizzes(60%) given in class.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (The order and the topics of presentation may not coincide with the list below, but most of the topics listed will be covered in each class.) Orientation
- 第2回 Unit X2 時制(Review)と完了形
- 第3回 Unit 8 平和への祈り (過去完了形)
- 第4回 Unit X3 態①
- 第5回 Unit X4 比較級①
- 第6回 Unit 9 京都旅行 (話法①)
- 第7回 Unit 10 茶道初体験 (話法②)
- 第8回 Review (Unit X2-10)
- 第9回 Unit 11 京都の思い出 (関係代名詞①)
- 第10回 Unit 12 日本滞在最後の日 (関係代名詞②)
- 第11回 Unit X5 前置詞
- 第12回 Unit 13 日本の自称を英語で説明 (関係副詞)
- 第13回 Unit 14 最後の晩餐 (仮定法①)
- 第14回 Unit 15 別れの時 (仮定法②)
- 第15回 Review (Unit 11-15)

6. Special Information (留意事項)

This class is for learners who want to study English grammar again from the VERY BEGINNING LEVEL. Students should bring an English-Japanese dictionary with them.

講義コード	20206101			
科目名	Communication Skills I			
担当者	Michael Barr			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Reading Keys Book 2』 Miles Craven Macmillan 2009			
参考文献				
備考	定員20人 「Speaking I・II」、「Listening I・II」、「Advanced Speaking I・II」、「Advanced Listening I・II」履修者であること			
科目読替	202052「英会話Ⅰ」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This is a discussion based course that will use authentic reading text as a basis for discussion. Emphasis in class is on speaking and you will be expected to participate and speak only in English. Vocabulary and grammar study will be part of the preparation, as introduced with the reading section. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions in English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas as well as strategies for glean meaning from content.

3. Course Method (教育・学習の方法)

The class will include activities to strengthen critical thinking skills by brainstorming, supporting opinions, considering values, making decisions, problem solving and analyzing issues based on authentic English text.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

There will be weekly homework assignments. You will be expected to search English web sites and contribute materials and discussion topics. Students will give presentations.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 50% class participation
- 50% presentation/written reports and homework

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 1 Study Abroad
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 2 Alternative Education

- 第4回 Unit 2
- 第5回 reports/presentation
- 第6回 Unit 3 Relationships
- 第7回 Unit 3
- 第8回 Unit 4 Family matters
- 第9回 Unit 4
- 第10回 reports/presentation
- 第11回 Unit 5 Music
- 第12回 Unit 5
- 第13回 Unit 6 Music and the mind
- 第14回 Unit 6
- 第15回 discussion topic

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20206201			
科目名	Communication Skills II			
担当者	Michael Barr			
単位数	1	配当学年		
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『Reading Keys Book 2』 Miles Craven Macmillan 2009			
参考文献				
備考	定員20人 「Communication Skills I」履修者であること			
科目読替	202053「英会話II」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This is a discussion based course that will use authentic reading text as a basis for discussion. Emphasis in class is on speaking and you will be expected to participate fully in English only. Vocabulary and grammar study will be part of the preparation, as introduced with the reading section. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions in English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas and various ways of glean meaning from content.

3. Course Method (教育・学習の方法)

The class will include activities to strengthen critical thinking skills by brainstorming, supporting opinions, considering values, making decisions, problem solving and analyzing issues based on authentic English text.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

There will be weekly homework assignments. You will be expected to search English web sites and contribute materials and discussion topics. Students will give presentations.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Evaluation:

50% class participation

50% presentation/written reports and homework

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Unit 7 what makes you happy
- 第2回 Unit 7
- 第3回 Unit 8 Positive thinking
- 第4回 Unit 8 Disabilities
- 第5回 reports/presentation
- 第6回 Unit 11 Alternative medicine
- 第7回 Unit 11
- 第8回 Unit 12 Health
- 第9回 Unit 12
- 第10回 reports/presentation
- 第11回 Unit 15 gender roles
- 第12回 Unit 15
- 第13回 Unit 16 Women in the workplace
- 第14回 Unit 16
- 第15回 final activity

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20206501			
科目名	TOEFL I TOEFL I			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	No text required. Students will be provided with weekly printed materials.			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic institutions when assessing student's prior to acceptance. This course will aim to increase students' fluency while also increasing their TOEFL scores.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

This course will familiarize students the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn grammar points, vocabulary and speaking exercises in pairs and as a group as well as how to study at home for this test.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation 40%, Homework 30%, Tests and Quizzes 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 TOEFL Introduction
- 第2回 Practice Test
- 第3回 TOEFL Vocabulary Introduction
- 第4回 Vocabulary Learning Strategies
- 第5回 Building Test Skills
- 第6回 Clauses and Sentence Structure I
- 第7回 Clauses and Sentence Structure II
- 第8回 Practice Test
- 第9回 Verbs and Verbals
- 第10回 Referents
- 第11回 Nouns
- 第12回 Prepositional Phrases I
- 第13回 Prepositional Phrases II
- 第14回 Speed Speaking
- 第15回 Practice Test

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20206601			
科目名	TOEFL II TOEFL II			
担当者	Jacoba Akazawa			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	No text required. Students will be provided with weekly printed materials.			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic institutions when assessing student's prior to acceptance. This course will aim to increase students' fluency while also increasing their TOEFL scores.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

This course will familiarize students the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will learn grammar points, vocabulary and speaking exercises in pairs and as a group as well as how to study at home for this test.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation 40%, Homework 30%, Tests and Quizzes 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 TOEFL Practice Test
- 第2回 Reading Skills and mini-test
- 第3回 Making inferences and drawing conclusions I
- 第4回 Making inferences and drawing conclusions II
- 第5回 Integrated Writing I
- 第6回 Integrated Writing II
- 第7回 Practice with Cohesion
- 第8回 Practice Test
- 第9回 Independent Speaking Tasks I
- 第10回 Independent Speaking Tasks II
- 第11回 Integrated Listening and Speaking Tasks I
- 第12回 Integrated Listening and Speaking Tasks II
- 第13回 Independent Writing
- 第14回 Test Strategies and Preparation
- 第15回 Practice Test

6. Special Information (留意事項)

of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), role-plays, assignments, tasks, quizzes, etc., and a business vocabulary portfolio.

Class Participation 40%

Role-Plays, Assignments, Tasks, Quizzes, Etc. 40%

Business Vocabulary Portfolio 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Unit 1: Job Hunting
- 第3回 Unit 2: Job Interviews
- 第4回 Unit 3: Company Profile
- 第5回 Unit 4: Job Description
- 第6回 Unit 5: Email - Announcing a Meeting
- 第7回 Unit 6: Meeting Business Associates at the Airport
- 第8回 Unit 7: At the Reception Desk
- 第9回 Unit 8: Introductions & Exchanging Business Cards
- 第10回 Unit 9: Opening Remarks at a Meeting
- 第11回 Unit 10: Presentation
- 第12回 Unit 11: Negotiation
- 第13回 Unit 12: Invitation to Dinner
- 第14回 Review
- 第15回 Concluding Activities

6. Special Information (留意事項)

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics and level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20206901		
科目名	ビジネス英語 Basic Communication Skills for International Business Situations		
担当者	Jodie Campbell		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ブ]		
前提科目			
テキスト	『Let's Get Down to Business: Basic Communication Skills for International Business Situations』 Kazushige Tsuji, Setsu Tsuji, & Margaret M. Lieb MacMillan Language House 2011		
参考文献			
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will introduce various topics and vocabulary related to BUSINESS ENGLISH. The course will focus on all four language skills (speaking, listening, reading, and writing) in BUSINESS SITUATIONS. The course will also help increase your TOEIC score and your business vocabulary.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will be able to comprehend and discuss basic topics related to business. Students will obtain and memorize vocabulary related to business topics. Students will discuss the business topics from the textbook with classmates and the teacher.

3. Course Method (教育・学習の方法)

THIS COURSE WILL BE TAUGHT 100% IN ENGLISH! ACTIVE PARTICIPATION in all classroom-based activities is required! Most of the course will involve in-class activities based on the topics and language acquisition targets given by the instructor. Students will be given short exams and quizzes when appropriate. Some written homework will be assigned.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to prepare for lessons beforehand and be ready to share their opinions and ideas with classmates.

If you are ABSENT for a test, quiz, or role-play, you will get 0%!

If homework or an assignment is LATE, you will get 0%!

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace

講義コード	20208001		
科目名	海外留学 I a		
担当者	小林 順		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

講義コード	20208101		
科目名	海外留学 I b		
担当者	小林 順		
単位数	1	配当学年	23
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

講義コード	20208201		
科目名	海外留学 II a		
担当者	小林 順		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

講義コード	20208301		
科目名	海外留学Ⅱ b		
担当者	小林 順		
単位数	2	配当学年	23
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

講義コード	20208801		
科目名	海外留学Ⅲ e		
担当者	小林 順		
単位数	4	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

講義コード	20208401		
科目名	海外留学Ⅲ a		
担当者	小林 順		
単位数	4	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

講義コード	20208901		
科目名	海外留学Ⅲ f		
担当者	小林 順		
単位数	4	配当学年	23
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

講義コード	20208501		
科目名	海外留学Ⅲ b		
担当者	小林 順		
単位数	4	配当学年	23
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

講義コード	20208601		
科目名	海外留学Ⅲ c		
担当者	小林 順		
単位数	4	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

講義コード	20208701		
科目名	海外留学Ⅲ d		
担当者	小林 順		
単位数	4	配当学年	23
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本学の正規留学規定(セメスター認定留学、米国姉妹大学留学、グローバル英語留学)による留学先で履修した科目を本学の単位として認定するための科目である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

日本の環境では達成することの難しい語学(英語)力向上を目標とし、英語圏の大学で非日本語話者とインタラクションを行いながら語学(英語)専門教育を最大限に有効活用することが課題となる。狭義には、留学先の専門機関で提供される科目の個別課題に従う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

留学先の提供科目において指導される教育・学習方法に従う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

留学先の提供科目において指示される準備学習方法に従うだけでなく、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、英語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

留学先の授業時間、授業内容、成績等を精査し、適切と認められたものを本学の卒業単位として認定する。海外留学Ⅰは1単位分の授業を、海外留学Ⅱは2単位分の授業を、そして海外留学Ⅲは4単位分の授業履修を認定する。

5. Special Information (留意事項)

講義コード	20301101		
科目名	英語英文学基礎演習Ⅰ A		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	1
資格	[ブ]		
前提科目			
テキスト	『知のツールボックス』 専修大学出版企画委員会編 専修大学出版局 2009		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓ ✓ ✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力 ✓

講義コード	20301102			
科目名	英語英文学基礎演習 I B			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『知のツールボックス』 専修大学出版企画委員会編 専修大学出版局 2009			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20301103			
科目名	英語英文学基礎演習 I C			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『知のツールボックス』 専修大学出版企画委員会編 専修大学出版局 2009			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20301104			
科目名	英語英文学基礎演習 I D			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『知のツールボックス』 専修大学出版企画委員会編 専修大学出版局 2009			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自律的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

2回の全体講義および演習と1回の個別セッションに分かれての演習(計三週間)を1セットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- (1) In-class Short Papers 60%
- (2) Group Presentation 20%
- (3) Individual Paper 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、学会紹介/大学の魅力、有意義な大学生活と環境(0章: プロローグ)、個別セッション
- 第2回 ノートのとり方と考えの作り方(1章)/英語学習について
- 第3回 個別セッション (Mind Map, etc.)
- 第4回 ノートのとり方(1章)/情報収集(2章)
- 第5回 インターネット(7章)
- 第6回 個別セッション (Library Session, etc.)
- 第7回 文書の読み方/様々な読み方(3章)
- 第8回 女性と教育
- 第9回 個別セッション (Preparing for Group Presentation, etc.)
- 第10回 クリティカル・シンキング(4章)/テーマの選び方(5章)/情報の整理(2章)
- 第11回 プレゼンテーション(6章)
- 第12回 個別セッション (Group Presentation)
- 第13回 書くことの重要性(5章)/レポートや論文を書く(5章)/剽窃
- 第14回 テストの準備と受け方(0章プロローグ) (Individual Paper)
- 第15回 個Paper Presentation (Individual)/Review

6. Special Information (留意事項)

クラス指定

講義コード	20301201			
科目名	英語英文学基礎演習 II A			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20301202			
科目名	英語英文学基礎演習 II B			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20301203			
科目名	英語英文学基礎演習 II C			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20301204			
科目名	英語英文学基礎演習ⅡD			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目では、前期基礎演習Ⅰで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二次数以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよびAcademic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
- 上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二次数以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
- 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した1領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学期を通じ、Critical Literature Review（4本）、Outline、Proposal、Draft（2回）を提出し、さらに2回のPeer Reviewを行う。これらの演習を総合して、最終的に研究論文を完成させる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加（出席、講義へのリアクション、作業、グループワーク等への貢献）15%

授業内課題（指定された授業時に提出：10回を予定）20%

Paper 1 (Critical Literature Review 4回) 30%

Paper 2 (Research Paper：試験に相当：授業内で解説) 35%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
- 第2回 Session One 第1日：Lecture on Communication
- 第3回 Session One 第2日：Lecture on Linguistics
- 第4回 Session One 第3日：Lecture on Literature & Cultural Studies
- 第5回 Session One 第4日：Lecture on SLAT
- 第6回 Session One 第5日：Session 2 Orientation
- 第7回 Session Two 第1日：Feedback on Paper 1
- 第8回 Session Two 第2日：Paper Analysis 1
- 第9回 Session Two 第3日：Paper Analysis 2
- 第10回 Session Two 第4日：Group Discussion: Oral Presentation
- 第11回 Session Two 第5日：Group Discussion: Peer Review Exercise 1
- 第12回 Session Two 第6日：Group Discussion: Peer Review Exercise 2
- 第13回 Session Two 第7日：Creative Writing
- 第14回 Feedbacks
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20302001			
科目名	専門講読Ⅰa アイルランド系作家短編小説			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[Essential English Grammar for TOEIC Test] Calcote NAN'UN-DO 2014年 Necessary materials will be provided in classes.			
参考文献	Proper information will be given whenever necessary.			
備考				
科目読替	205033「詩の研究」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to develop their reading fluency and their knowledge of the background of the authors and their stories. Classes will cover a variety of texts, so students will learn how to read them deeply and analyze them.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will read short stories of the authors of Irish origin and learn how to read and analyze the layers of the texts beneath the surface. They will also study the background of the authors and their stories namely the culture and the history of the Irish.

3. Course Method (教育・学習の方法)

- Reading assignment
- Close reading
- Study of the texts
- Viewing the films based on the stories
- Presentations and discussion
- Writing reports

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Precise instructions will be given in classes.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class participation 40%, assignment 30%, examinations 30%.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Close reading of Frank O'Connor's "Christmas Morning"
- 第3回 Close reading of Frank O'Connor's "Christmas Morning"
- 第4回 Close reading of Frank O'Connor's "Christmas Morning"
- 第5回 Close reading of Frank O'Connor's "Christmas Morning"
- 第6回 Group discussions and practice speed reading
- 第7回 Close reading of James Joyce's "Araby"
- 第8回 Close reading of James Joyce's "Araby"
- 第9回 Close reading of James Joyce's "Araby"
- 第10回 Close reading of James Joyce's "Araby"
- 第11回 Viewing the film of "Araby" and group discussions
- 第12回 Viewing the film of F.Scott Fitzgerald's "Bernice Bobs Her Hair"
- 第13回 Understanding "Bernice Bobs Her Hair"
- 第14回 Grammar review
- 第15回 Feedback

6. Special Information (留意事項)

The contents of the class will be changed depending the levels of the students.

講義コード	20302101			
科目名	専門講読Ⅰb Invitation to American Literature			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[Best Stories of William Saroyan] William Saroyan Seibi-do 1982			
参考文献				
備考				
科目読替	205039「劇の研究」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course aims at developing reading skills and understanding what the critical reading is. Reading William Saroyan's short novels, it is necessary to read the text accurately, moreover, think of how the text composed. This course urges you to find out your own answer for the question what the story implies in order that you can achieve the ability to think from various viewpoints.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. To be a good reader, it is necessary to understand vocabulary, grammar, and how the text composed.
2. To read more critically, you should raise your own questions such as why this word is used here, or what this enigmatic sentence implies.
3. To find out the answers for such questions, it is necessary to read from various viewpoints.
4. This course encourages you to understand rhetoric, semantics, and historical background, that is, the context of the text.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course requires you to read the story before the lecture lest you misunderstand it. If you cannot understand particular sentences, you must not hesitate to ask questions.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

In the first lecture, I will instruct you how to prepare.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation, Contribution Mark and Vocabulary Quizzes 40 %
Term Examination 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 "The Cat"
- 第3回 "The Cat"
- 第4回 "Laughing Sam"
- 第5回 "Laughing Sam"
- 第6回 "Locomotive 38, the Ojibway"
- 第7回 "Locomotive 38, the Ojibway"
- 第8回 "Locomotive 38, the Ojibway"
- 第9回 "Locomotive 38, the Ojibway"
- 第10回 "The Pomegranate Trees"
- 第11回 "The Pomegranate Trees"
- 第12回 "The Pomegranate Trees"
- 第13回 "The Pomegranate Trees"
- 第14回 "The Pomegranate Trees"
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

The schedule might be changed according to the progress and students' comprehension.

講義コード	20302201
科目名	専門講読 I c A
担当者	杉村 美奈
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	『The Wonderful World of Language - クリスタルのことばの世界』 David Crystal (著), 岡田伸夫 (編注) 成美堂 2011
参考文献	
備考	
科目読替	180015 「学びの扉V・ことば学」
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

基礎語学科目 (特に Reading I/II, Advanced Reading I/II) で培われる基盤的英語読解能力を応用し、英語英文学科で専門的に学んでいく学術的内容を原書文献で読み進める授業となる。

このクラスでは言語学・英語学の専門的な学びに必要となる文献を原書で購読し、学術的な読解力と基礎的専門知識の両方を涵養することを目標とする。専門講読を通じて我々が日々当たり前のように使用している「ことば」(言語)について考えていきたい。ここでいう「言語」とは思想や意思の伝達といったコミュニケーションの道具としての意味ではなく、「言語そのもの」の性質を意味する。「なぜ我々はいとも簡単に母語を話し、また理解する事ができるのか」といった疑問や、「文法に良い/悪いは存在するのか」といったテーマを始め「言語はどのような規則に基づいて成り立っているのか」について深く考察することで、人間のみに備った能力である

「言語」の本質に迫りたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 言語とは何かという言語の本質に迫る。
2. 言語の科学的側面を考察する。
3. 言語の社会的側面を考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業スタイルは「講義と演習」とする。毎回のテーマに沿ったリーディング課題が課されるため、授業までには必ず読んでくることを前提として授業を進める。講義ではリーディング課題で読み取るべき重要なポイントや補足的説明を加えることを目的とし、その後、与えられたテーマについてディスカッションをペア、またはグループで行ってもらい、最終的に個人で意見をまとめる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

言語に関するさまざまなテーマを扱い、それについて議論をしていくのがこのクラスの基本的なスタイルであるので、自発的に「考える」ことを常に心がけてほしい。次のクラスで議論する事をあらかじめ伝えるので自分なりに意見をまとめておく事が期待される。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加 (ワークシート、ディスカッション、プレゼンテーションなど) 30%, レポート 70% の総合評価とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction: What is language?
- 第2回 From cries to words
- 第3回 Making vibrations, pronouncing sounds
- 第4回 Discovering grammar
- 第5回 Grammar rules and variations
- 第6回 Accents and dialects
- 第7回 Being bilingual
- 第8回 The languages of the world
- 第9回 Sign language
- 第10回 Dying languages
- 第11回 Language change
- 第12回 Language variation
- 第13回 Language for Feelings
- 第14回 Political Correctness
- 第15回 Applied Linguistics

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20302202
科目名	専門講読 I c B
担当者	小林 順
単位数	2 配当学年 1
資格	
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	
科目読替	180015 「学びの扉V・ことば学」
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

別紙

- 第5回 通訳の種類
- 第6回 職業としての通訳
- 第7回 翻訳とテクノロジー
- 第8回 職業としての翻訳
- 第9回 メディアと翻訳・通訳
- 第10回 翻訳・通訳と教育
- 第11回 翻訳学
- 第12回 翻訳的行為
- 第13回 通訳学
- 第14回 隣接分野
- 第15回 まとめ&レポート課題の説明

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20302301		
科目名	専門講読 I d A 翻訳論		
担当者	冲原 勝昭		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる翻訳通訳学』 鳥飼攻美子 編著 ミネルバ書房 2013		
参考文献			
備考			
科目読替	205055「翻訳論(英日)」		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

ひとつの言語で表現された内容を別の言語に移し替えるプロセスにはどのような問題が含まれているのかを、理論面と実際面において考察し、翻訳・通訳という活動について理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

以下について理解を深める。

1. 翻訳・通訳とはどのような活動であるか。
2. 翻訳・通訳の背景と周辺
3. 日英・英日間の翻訳作業の実際
4. 翻訳・通訳と英語教育

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストの講読を中心に、受講学生の担当・発表を交えて、毎回の授業を進めていく。適宜、テキストに関係した英語の論文も取り上げる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、テキストの進む範囲を事前に指定するので、受講生は概要と質問を考えてくる。また、学生は輪番でレポーターとなり、担当範囲の内容を紹介・説明し、クラスでの話し合いの話題を提供する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席&発表担当：60%

期末レポート：40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本科目の内容、授業の方針等の説明。翻訳・通訳についてのイントロ
- 第2回 日本の翻訳・通訳史
- 第3回 世界の翻訳・通訳史
- 第4回 翻訳・通訳者の役割

講義コード	20302302		
科目名	専門講読 I d B 世界の英語と文化のコンテキスト		
担当者	冲原 勝昭		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『世界の英語と社会言語学』 Kachru & Smith, 井上ほか 訳 慶応義塾大学出版会 2013		
参考文献	『Longman dictionary of language teaching and applied linguistics. 4th ed』 Jack C. Richards and Richard Schmidt Longman 2010		
備考			
科目読替	205055「翻訳論(英日)」		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

社会言語的な観点から、世界中に拡散している現代英語の使われ方を眺め、日本の学校で英語を学ぶことの意味を考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

本授業では、以下のテーマについて、理解を深める。

- ・世界の中の英語
- ・ことばを通じた相互行為
- ・文化のコンテキスト
- ・言語の変位

3. Course Method (教育・学習の方法)

本授業は、指定のテキストの講読を中心として進める。はじめに、教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生はテーマ毎に分担し、テキストの要約を発表し、全員で討議する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指定されたテキストの範囲や課題について、教員が予告指示したことに対して、受講生は担当を決めて準備し、輪番で発表する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

担当・ノート提出による出席点 (60%) と期末レポート (40%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業方針の説明、世界の中の英語
- 第2回 ことばの相互行為へのアプローチ
- 第3回 協調としての相互行為
- 第4回 文化のコンテキスト
- 第5回 ポライトネスの諸要因
- 第6回 理解度と対話者
- 第7回 言語の変位
- 第8回 音とリズム
- 第9回 句と文
- 第10回 単語とコロケーション
- 第11回 話しことばと書きことば
- 第12回 会話の相互行為
- 第13回 書きことばの相互行為
- 第14回 世界の英語文学
- 第15回 世界の英語のイデオロギー、まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20302401			
科目名	専門講読Ⅱ a			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Wonderful World of Language - クリスタルのことばの世界』 David Crystal (著) 岡田伸夫 (編注) 成美堂 2011			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course provides tools to increase your enjoyment and capacity for understanding what language is, using a textbook containing a variety of intriguing linguistic topics. Emphasis is placed on the characteristics of language such as language acquisition, sounds and meaning of a word or a sentence, and so on. The goal is thus to gain insight into human language from a linguistics point of view.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. To understand what language is.
2. To investigate language from a scientific point of view.
3. To study language from a social point of view.

3. Course Method (教育・学習の方法)

In each class, we will read a chapter on an aspect of language from the textbook. There will be group presentations on an assigned chapter, and worksheets will be provided according to the topic. Reading assigned chapters before class is mandatory, and active participation in discussion is encouraged. All class activities will be conducted in English.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

As stated above, active participation in discussion is highly encouraged, and thus reading an assigned chapter before class is mandatory. In addition, you are expected to share your views and opinions, so focus should be placed on what YOU think of each topic in reading the materials.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation (Worksheets, Discussion) 30%, Short Paper 70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction: What is language?
- 第2回 From cries to words
- 第3回 Making vibrations, pronouncing sounds
- 第4回 Discovering grammar
- 第5回 Grammar rules and variations
- 第6回 Accents and dialects
- 第7回 Being bilingual
- 第8回 The languages of the world
- 第9回 Sign language
- 第10回 Dying languages
- 第11回 Language change
- 第12回 Language variation
- 第13回 Language for feelings
- 第14回 Political Correctness
- 第15回 Applied Linguistics

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20302501			
科目名	専門講読Ⅱ b			
担当者	新井 康友			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	The copies of papers we will be using in class will be distributed to you in class.			
参考文献	References will be given in class for each paper before reading the paper.			
備考				
科目読替	205058 [翻訳論 (日英)]			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course is designed to have you read some an article written for academic purpose concerning human language. It will be written from a biological point of view concerning human language.

You will have difficulty understanding what the paper say at first, but as you read on, you will begin to understand not only what is written, but what concerns the field of linguistics.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The purpose of reading papers on language is to see what concerns the scholarly world has on language at present. You will also see what interests the field has about language. You may not share these interests, but they are what are of concern in the scholarly world. It is important to learn to understand what is expressed by the language used in these fields; that is, the vocabulary used in the field and the meaning expressed by the language used.

3. Course Method (教育・学習の方法)

We will read and discuss what is written. We may sometimes rely on translation to try to understand what is written or we may ask questions and seek answers in order to clarify a passage. We must seek ways to express what we understand. We will also go over the vocabulary used in the page we read on the day.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

In order to read something written in a foreign language, we need to know the words used in the text. You will be responsible to go over the words you do not understand and translate passages into Japanese when asked to do so.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

You will be evaluated by your performance in class, namely, to get a passing grade on the vocabulary quiz you will be given and to translate a passage when asked to, ask and answer questions in class, and to discuss matters that come up as we read on. 40 percent of your grade will be based on this. I will give quizzes on the passage we read in the previous class and a middle and final quizzes on the parts we read in the beginning seven weeks and the final seven weeks. 60 percent of your grade will be based on this.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introducing the paper on biological perspective of language.
- 第2回 First vocabulary quiz on the first page of the paper. Read out loud the first page of the paper and question and answer session on it.
- 第3回 Second vocabulary quiz on the second page of the paper. Read out loud the second page of the paper and question and answer session on it.
- 第4回 Third vocabulary quiz on the third page of the paper. Read out loud the third page of the paper and question and answer session on it.
- 第5回 Fourth vocabulary quiz on the fourth page of the paper. Read out loud the fourth page of the paper and question and answer session on it.
- 第6回 Fifth vocabulary quiz on the fifth page of the paper. Read out loud the fifth page of the paper and question and answer session on it.
- 第7回 Sixth vocabulary quiz on the sixth page of the paper. Read out loud the sixth page of the paper and question and answer session on it.
- 第8回 Summary of the first six pages of the paper with quiz on vocabulary and contents.
- 第9回 Seventh vocabulary quiz on the seventh page of the paper. Read out loud the seventh page of the paper and question and answer

- session on it.
- 第10回 Eighth vocabulary quiz on the eighth page of the paper. Read out loud the eighth page of the paper and question and answer session on it.
- 第11回 Ninth vocabulary quiz on the ninth page of the paper. Read out loud the ninth page of the paper and question and answer session on it.
- 第12回 Tenth vocabulary quiz on the tenth page of the paper. Read out loud the tenth page of the paper and question and answer session on it.
- 第13回 Eleventh vocabulary quiz on the eleventh page of the paper. Read out loud the eleventh page of the paper and question and answer session on it.
- 第14回 Twelfth vocabulary quiz on the twelfth page of the paper. Read out loud the twelfth page of the paper and question and answer session on it.
- 第15回 Summary and quiz on the second half from pages 7th to 12th.

6. Special Information (留意事項)

We will also see videos related to the text. We will also use the Internet to search for information related to the text. We should be able to go through a text but if not it is recommended that you finish the paper in your own time.

講義コード	20302601			
科目名	専門講読Ⅱc A アイルランド系作家の短編小説と英語読解演習			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント			
参考文献	授業時に個別に指示する。			
備考				
科目読替	180014 [学びの扉Ⅳ・文学]			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

アイルランド系文学の短編を英語読解するだけでなく、テキストに折り込まれた何層もの意味を分析する能力を培う。また、作家・作品の背景となるアイルランドの文化、歴史、思想を学び、より深く個別作品を理解できるようにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文学は高度な英語なので、その英語が読めるように英語読解能力を培う。
2. 文法の総復習をして読解力をつける。
3. テキスト分析できる方法を学ぶ。
4. 作家・作品の背景に関する知識を習得する。
5. 文学研究に興味を持てるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 予習
 2. 文法復習
 3. 部分的に精読
 4. レポート提出
 5. 発表、ディスカッション
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業時に詳細に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度40%、課題30%、テスト30%で総合的に評価する。
欠席、遅刻、早退は減点対象。欠席が三分の一を超えた場合、基本的に単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英語単語演習とフランク・オコーナーの"Christmas Morning"の精読
- 第3回 英語単語演習とフランク・オコーナーの"Christmas Morning"の精読
- 第4回 イディオム演習とフランク・オコーナーの"Christmas Morning"の精読
- 第5回 イディオム演習とフランク・オコーナーの"Christmas Morning"の精読
- 第6回 グループディスカッションと多読練習
- 第7回 英語読解演習とジェイムズ・ジョイスの"Araby"の精読

- 第8回 英語読解演習とジェイムズ・ジョイスの"Araby"の精読
- 第9回 英語読解演習とジェイムズ・ジョイスの"Araby"の精読
- 第10回 英語読解演習とジェイムズ・ジョイスの"Araby"の精読
- 第11回 DVD鑑賞とグループディスカッション
- 第12回 F.スコット・フィッツジェラルドの"Bernice Bobs Her Hair"のビデオ鑑賞
- 第13回 "Bernice Bobs Her Hair"の読解と解説
- 第14回 副本の文法復習と読解
- 第15回 まとめとその他

6. Special Information (留意事項)

英語単語・読解等のトレーニングも毎回入れる。学生のレベルによって内容を変更する場合がある。

講義コード	20302602			
科目名	専門講読Ⅱc B 英国近代小説			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	[To the Light house] Virginia woolf Penguin Books			
参考文献	授業時に個別に指示する。			
備考				
科目読替	180014 [学びの扉Ⅳ・文学]			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

まずは、イギリス文学の価値をいろんな角度から理解する事を目標とする。この作品は、難解な部分もあるが、そこから文学の神髄を究めることができる。またそうすることで、いろんな作品に対する興味もわいてくると思うからである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文学を通して、英語読解能力を培う。
2. 文学研究に興味を持てるようにする。
3. 作家・作品の背景に関する知識を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 予習
 2. 文法復習
 3. 部分的に精読
 4. レポート提出
 5. 発表、ディスカッション
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業時に詳細に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度40%、課題30%、テスト30%で総合的に評価する。
欠席、遅刻、早退は減点対象。出席の三分の一以上欠席の場合、基本的に単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Part 1 Chapter 1~3
- 第3回 Part 1 Chapter 4~6
- 第4回 Part 1 Chapter 7~9
- 第5回 Part 1 Chapter 10~12
- 第6回 Part 1 Chapter 13~15
- 第7回 Part 1 Chapter 16~19
- 第8回 Part 2 Chapter 1~3
- 第9回 Part 2 Chapter 4~6
- 第10回 Part 2 Chapter 7~10
- 第11回 Part 3 Chapter 1~3
- 第12回 Part 3 Chapter 4~6
- 第13回 Part 3 Chapter 7~9
- 第14回 Part 3 Chapter 10~13
- 第15回 まとめとその他

6. Special Information (留意事項)

原文に親しむために、あらかじめ準備をしておく。

講義コード	20302701			
科目名	専門講読Ⅱ d A アメリカ文学への招待			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『American Families』 John Updike, Bernard Malamud, Kate Chopin, Raymond Carver, E.L. Doctorow 三修社 1991			
参考文献	講義中に適宜指示する。			
備考				
科目読替	180016 「学びの扉Ⅵ・女性学」			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、アメリカ文学の短編集を読み、基礎的な reading skill を習得することと、それぞれの作品を多角的な視点で解釈することを目的とする。テキストは全て原作で構成されており、生の英語文学に触れることを通じ、英語を正確に読む力を養う。また授業で扱う短編小説群は家族にまつわるストーリーで構成されている。一見すると、起承転結のない平凡な物語に見えるが、深くテキストを掘り下げることによって、様々な解釈が生み出されるものばかりである。ただ単に英語の文章を読むのではなく、一文一文丁寧に検証することによって、様々な意味を浮き彫りにし、文学が孕む無限の解釈の可能性を探っていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文学を正確に読むために、語と語のつながりを、前置詞に至る次元まで正確に読む。
2. 一文一語にこだわり解釈の可能性を見出す。
3. それぞれの作品の時代背景や、作家の自伝的要素に触れ、それらがテキストにどのように影響しているかを考察する。
4. 文学作品を英語で読む楽しみを覚える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、一文づつ意味をたどっていく。難しい箇所、また不可解な箇所について、時間を割き、テキストの検証を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

開講時に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点 (授業への貢献度) 30%

レポート 20%

期末試験 50%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Cate Chopin "Regret"
- 第3回 Cate Chopin "Regret"
- 第4回 Cate Chopin "Regret"
- 第5回 Review
- 第6回 Bernard Malamud "My Son the Murderer"
- 第7回 Bernard Malamud "My Son the Murderer"
- 第8回 Bernard Malamud "My Son the Murderer"
- 第9回 Review
- 第10回 E.L. Doctorow "The Writer in the Family"
- 第11回 E.L. Doctorow "The Writer in the Family"
- 第12回 E.L. Doctorow "The Writer in the Family"
- 第13回 E.L. Doctorow "The Writer in the Family"
- 第14回 E.L. Doctorow "The Writer in the Family"
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20302702			
科目名	専門講読Ⅱ d B シャーロック・ホームズへの招待			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	講義中に適宜指示する。			
備考				
科目読替	180016 「学びの扉Ⅵ・女性学」			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業は、Arthur Conan Doyle の "Scandal in Bohemia" を読み、基礎的な reading skill を習得することと、作品を多角的な視点から解釈することを目的とする。テキストは原作を、オンラインに公開されているバージョンを用いて、生の英語文学に触れることを通じ、英語を正確に読む力を養うとどうじに、深くテキストを掘り下げることによって、様々な解釈を体験を試みたい。文学が孕む無限の解釈の可能性を探っていく、語りを自分流に試みたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 文学を正確に読むために、語と語のつながりを、前置詞に至る次元まで正確に読む。
2. 一語一文といども疎かにすることなく多様な解釈の可能性を見出す。
3. 作品の時代背景や、作家の自伝的要素に触れ、それらがテキストにどのように影響しているかを考察する。
4. 文学作品を英語で読む楽しみを覚える。
5. 自分流の語りにチャレンジしてみる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、一文づつ意味をたどっていく。難しい箇所、また不可解な箇所について、時間を割き、テキストの検証を行う。語りの面白さを体験する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

開講時に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点 (授業への貢献度) 30%

レポート 20%

期末試験 50%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 オンラインにテキストを探索: Arthur Conan Doyle, "Scandal in Bohemia"
- 第3回 "Scandal in Bohemia" 読解1
- 第4回 "Scandal in Bohemia" 読解2
- 第5回 Sherlock Holmes の人物像を解釈1
- 第6回 Sherlock Holmes の人物像を解釈2
- 第7回 Doctor Watson の役割を解釈1
- 第8回 Doctor Watson の役割を解釈2
- 第9回 "Scandal in Bohemia" さらに読解1 (19世紀末の雰囲気)
- 第10回 "Scandal in Bohemia" さらに読解2 (20世紀初頭の雰囲気)
- 第11回 "Scandal in Bohemia" さらに読解3 (物語の円環的構造)
- 第12回 "Scandal in Bohemia" さらに読解4 (自分流に語る試み1)
- 第13回 "Scandal in Bohemia" さらに読解5 (自分流に語る試み2)
- 第14回 "Scandal in Bohemia" 読解のまとめ1 (自分をワトソン流に語る試み1)
- 第15回 "Scandal in Bohemia" 読解のまとめ2 (自分をワトソン流に語る試み2)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20501201			
科目名	英米文学概論A Introduction to English and American Literature			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『A Guide to Literary Study』 Leon T. Dickinson Naundo 2007年			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to familiarize students with the essence of English and American Literature. The students will learn about three fields of literature: fiction, drama and poetry. The language of instruction in this class is mainly English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

This course aims to help students to gain a fundamental knowledge of English and American Literature with original texts, videos and references so that students can achieve greater understanding of literature itself and culture.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will study how to read original text requires such as fiction, drama and poetry. They will also acquire literary terms by listening to lectures and studying the textbook. They will also have a chance to watch videos.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students must do all assigned reading and homework. They must be ready to take a quiz after each section.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class participation (30%)

Examination (50%)

Review Quiz (20%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation
- 第2回 General Introduction to English and American literature
- 第3回 Fiction
- 第4回 Characterization
- 第5回 Film, [Back to the Future]
- 第6回 Foreshadowing
- 第7回 Point of views and Narratology
- 第8回 Drama
- 第9回 Film, [Romeo and Juliet]
- 第10回 Shakespeare and his Age
- 第11回 Drama's Grammar
- 第12回 Poetry
- 第13回 Poetry's Grammar
- 第14回 From Sonnet to Modern Poems
- 第15回 Feedback

6. Special Information (留意事項)

The contents of this course may be changed according to students abilities and preferences.

講義コード	20501202			
科目名	英米文学概論B			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『A Guide to Literary Study』 Leon T. Dickinson Naundo 2007年			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、英語英文学科の学生として最低限知っておくべき文学作品

や文学用語を教えるクラスである。小説、劇、詩の三分野を紹介しながら、具体的に作品も鑑賞する。特に物語の構造を理解するために映画を使ったり、短編や、詩などは原文をじっくり読みこなす。また、その作者や時代・文化背景についても研究する。専門分野で文学を専攻する学生のみならず、他分野に進む学生にとっても意味あるように、文学自体の魅力を紹介するつもりである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 英語講読の力をつける 2. 文学的基礎知識をつける 3. 学用語を理解し、使えるようにする 4. 個々の文学作品の鑑賞と分析

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. クラスで文学についての本を読む 2. 作品を鑑賞する 3. ビデオを観る場合もある 4. 作品について話合う 5. 小テストを受けて、採点する。 6. 課題をする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

小テストをするので、教科書とプリントの復習が毎回必要である。小テストもあるので、その準備をする。またホームワークは必ず提出のこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席・クラスレスポンス (30%) 試験 (50%) レポート・小クイズ (20%) で総合的に判断する。欠席、遅刻は減点対象である。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文学入門
- 第3回 小説について
- 第4回 性格描写
- 第5回 映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を使って物語の組み立てを学ぶ
- 第6回 伏線
- 第7回 視点とナレーター論
- 第8回 劇について
- 第9回 『ロミオとジュリエット』を使って劇の登場人物と構成について学ぶ。
- 第10回 シェイクスピアとその時代
- 第11回 劇の文法
- 第12回 詩について
- 第13回 詩の文法
- 第14回 ソネットから現代詩まで
- 第15回 まとめその他

6. Special Information (留意事項)

学生の理解度によって内容を変更する可能性がある。

講義コード	20504901			
科目名	映画論 女性映画			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント			
参考文献	『The Desire to Desire』 Mary Ann Doane Indiana Univ.Press 1987年 『フェミニスト映画/性幻想と映像表現』 E.アン・カプラン 田畑書店 1985年 『フィルム・ノワールの光と影』 編集: 遠山純生 エクスクアア・マガジン 1999年 『A Feminist Reader in Early Cinema』 Ed. J.Bean & D. Negra Duke Univ. Press 2002年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

まだ誕生して100年そこそこのメディアである映画をフェミニズムの視点で読みこなしてみようと思う。もともと映画は男性の規範だけで書き込まれた言説の一つであったわけだが、第2次世界大戦のときに期待できる観客が女性しかいなくなってしまう、女性が主役である「女性映画」というものが誕生することになる。かくして『風と共に去りぬ』の誕生である。「女性映画」を中心に映画とはどういうメディアなのかをしっかりと学ぶコースである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 近代史と映画という文化の理解 2. 映画というメディアの把握 3. 女性映画誕生の背景の理解 4. フェミニズム批評研究

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 映画観賞のあと講義形式をとる。 2. 積極的授業の参加を求める。
3. レポート、試験あり。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

親た映画の情報を整理することと、レポート提出のために準備が必要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、クラス出席レスポンス (30%)、試験 (50%)、レポート (20%)、欠席、遅刻は減点の対象である。授業総日数の2/3以上出席しなければ、評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 映画の歴史
- 第3回 映画の中の女性像
- 第4回 初期映画
- 第5回 チャップリン映画と女性
- 第6回 第二次世界大戦と映画
- 第7回 『ステラ・ダラス』と母子もの映画
- 第8回 『ギルダ』とフィルム・ノワールの悪女
- 第9回 『レベッカ』と悪夢のシンデレラ物語
- 第10回 『忘れじの面影』典型的メロドラマ
- 第11回 『風と共に去りぬ』と南北戦争
- 第12回 『風と共に去りぬ』の仕掛け
- 第13回 聖女とファミリアール
- 第14回 フェミニズム批評と映画
- 第15回 まとめとその他

6. Special Information (留意事項)

- 第7回 日本の児童文学から(2)精読
- 第8回 日本の児童文学から(2)説明・まとめ
- 第9回 欧米の主な児童文学について
- 第10回 "Peter Rabbit" 精読
- 第11回 "Peter Rabbit" 説明
- 第12回 "Peter Rabbit" まとめ
- 第13回 "Winnie-the-Pooh"
- 第14回 "Paddington Bear"
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

1. 英語力を高める目的から、受講生は予習を必要条件とする。 2. 提出物の期限は厳守する。 3. 特別な理由がない限り、遅刻や欠席は認めない。 4. 2/3以上の出席を必要とする。

講義コード	20510901		
科目名	個別文学・文化研究Ⅰ		
担当者	専任教員		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	20508801		
科目名	児童文学		
担当者	吉野 啓子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト	『日本昔ばなし 1』 講談社英語文庫 『The Tale of Peter Rabbit』 Frederick Warne		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	20511001		
科目名	個別文学・文化研究Ⅱ		
担当者	専任教員		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

人は知的、身体的に成長する。その成長過程に子供には子供の、青年期には青年期の、そして成人には成人の世界があり、其々の文化と出会う。「三つ子の魂百まで」というが、子供の世界における文化は誰もが一生持ち続けるようである。なぜなら、昔話や伝承文学などは子供向けに書かれた文学ではあるが、決して子供だけの読み物ではなく、人間全ての心をも捉えるからである。その心のふるさとである児童文学を通して、将来は人の子の母となるだろう学生に、何らかの糧となればと思うのである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 自由で創造力や、想像力の旺盛な子供の世界を知る。 2. 人為的環境で育ち、遊ぶ空間がなく、テレビやパソコンの仮想現実にとらされている現代の多くの子供が持つ問題を考える。 3. 人間性の回復、潤いのある人生を送るのに必要な心の教育とは何かを考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 西欧の児童文学を読む 2. 日本の児童文学を読む 3. それぞれの作品についての特徴や比較等を学ぶ
- 日本の児童文学については、受講者と相談して決定する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

辞書を引いて、作品全体を把握する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (30%)、小テストや提出物等 (40%)、学期末テスト (30%) に基づいて総合的に行う。欠席や遅刻は減点対象となる。欠席回数が超過した場合は、原則として単位を認めない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 児童文学について
- 第2回 日本の児童文学概要
- 第3回 世界の児童文学概要
- 第4回 日本の児童文学から(1)精読
- 第5回 日本の児童文学から(1)説明
- 第6回 日本の児童文学から(1)まとめ

1. Course Description (科目の教育目標)

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認めた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 研究課題の設定
2. 先行研究のレビュー
3. 特定の方法論/理論的枠組みの習得
4. 理論的分析

3. Course Method (教育・学習の方法)

各領域における専門的方法論を用いて研究を遂行する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各領域における専門的方法論を習得済みであること、または、担当教員の指導を受けて習得することが準備となる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題の設定 10%
方法論の理解度 10%
最終研究成果 (論文形式) 80%

5. Special Information (留意事項)

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること (ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合は

はその様式に従うこと)。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇(夏休み・春休み)を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学部長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

講義コード	20512201			
科目名	米文学の歴史			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋好枝、高田賢一 ミネルヴァ書房 1991年			
参考文献	講義中に適宜指示する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

アメリカ文学の歴史について、著名な作家と作品また時代背景を通じて、学んでいく。また、それぞれの時代に出現した作家たちの文学的手法や、思想などを理解することによって、批評的な視点から文学作品を読むスキルを習得することを目標とする。また、昨今のアメリカ合衆国が世界に及ぼす覇権的影響力に鑑みて、アメリカ文化の一翼を担う文学を学ぶことは、現代における世界情勢に対して新たな視点を習得する機会と成り得る。アメリカ文学の一連の流れを理解することによって、文学だけではなく、現代の様々な問題に対する深い思考力を養うことも、本講義の目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. アメリカ文学の特徴、歴史、また作家達の思想などを理解する。
2. 個々の作品が孕む哲学的テーマなどに触れることによって、アメリカ文学の奥行きを理解する。
3. アメリカの著名な作家とその作品についての幅広い知識を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は基本的には講義形式で、テキストに基づいて進められる。主要作品の原文の一部をできるだけ多く紹介するので、その内容を理解し文体に親しむこと。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

初回の授業で指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点 (30%)

期末試験 (70%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション：アメリカ文学史について
- 第2回 植民地時代の文学と独立革命の文学
- 第3回 アメリカン・ルネッサンス (時代背景)
- 第4回 アメリカン・ルネッサンス (作家及び作品の紹介)
- 第5回 アメリカン・ルネッサンス (まとめ)
- 第6回 南北戦争後の文学 (リアリズム小説)
- 第7回 自然主義文学
- 第8回 モダニズム文学 (時代背景)
- 第9回 モダニズム文学 (作家及び作品の紹介)
- 第10回 1920年代の文学 (時代背景)
- 第11回 1920年代の文学 (ロストジェネレーションの作家及び作品の紹介)
- 第12回 1920年代の文学 (まとめ)
- 第13回 プロレタリア文学
- 第14回 ユダヤ人文学
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20512301			
科目名	文学と女性			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Tess of the d'Urbervilles』 Thomas Hardy Penguin book			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英国文学に対する興味を深め、原文の読解力を高めることと、作品の登場人物を通して、人生や社会への係わり等を学んでいく。作者の主張や作品の特徴は勿論のことであるが、そこに登場する人物の人生を通して、生き方や社会への処し方など、「人としてどうあるべきか」という課題への認識を深めることが目標である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 原文を精読する。(従って、読解力が必要とされる)
- 2) 作者や時代背景の理解を深めるために、また作品の内容を多角的観点から理解するために、参考文献を読む。
- 3) 討論やレポートの提出なども要求される。

3. Course Method (教育・学習の方法)

作品を翻訳しながら内容を把握していく。そして作品の作者や時代背景などを理解し、作品の主題や技巧なども把握する。最後にこれらのことを踏まえて、登場人物の生き方、社会や人生の処し方について各自の考えをまとめたり、討論してさらに認識を深めていく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

基本的には、辞書を使ってテキストを読むことであるが、詳細は授業中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、小テストや提出物等 (40%)、確認試験 (30%)、に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の進め方やコースの説明など
- 第2回 作者と作品について
- 第3回 Chapter 1'5
- 第4回 Chapter 6'10
- 第5回 Chapter 11'15
- 第6回 Chapter 16'20
- 第7回 Chapter 21'25
- 第8回 Chapter 26'30
- 第9回 Chapter 31'35
- 第10回 Chapter 36'40
- 第11回 Chapter 41'45
- 第12回 Chapter 46'50
- 第13回 Chapter 51 最後までと作品のまとめ
- 第14回 作品全体の技巧や特徴などについて
- 第15回 総まとめ

6. Special Information (留意事項)

- 1) テキストを精読し、多角的な観点から作品を理解するには、しっかりと英語力が必要である。従って基礎的な能力がしっかり備わっていることが望ましい。
- 2) 自分の英語力を高める目的から、受講生は各自の予習を必要条件とする。
- 3) 提出物などの期限は厳守すること。
- 4) 特別な理由の無い限り、遅刻や欠席は認めない。また2/3以上の出席を必要とし、それが総合点数に大きく影響する。

講義コード	20512401			
科目名	英文学の歴史 国際的教養の源泉			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『初めて学ぶイギリス文学』 ミネルヴァ書店			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英文学の歴史にかんする知識は、国際人に必須の素養といえます。国文学の素養が知性を支えるいわばバックボーンとすれば、それに加えるべきグローバルな素養の柱が英文学といえます。その意味で、このクラスでは主に近世イギリス文学の歴史を紐解いて、国際人の素養を身につけることにしましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

大急ぎで古英語の時代と中英語の時代そして17世紀後半から18世紀のイギリス文学の概観をこころみます。そのためのキーワードとして「メディア」を選びます。具体的には、作家が用いた筆記用具であり、同時に出版という新たな産業の誕生となります。作家がどのような道具で執筆をおこなったような経路を経て作品を出版したのかというテーマを巡って近世までのイギリス文学史の概観を行います。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストを読むことを出発点と考えています。くわえて、ウェブ上に多彩な情報の利用にもとりくみましょう。クラスにノート・パソコンや携帯電話=新種の情報端末をもちこみ、アクセスという場面もあるかもしれません。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

クラスでとりあげる作品の下調べ。クラスで指摘する課題の下調べ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評点は100。その内訳は、期末試験が40点。小テスト20点。出席点20点。およびクラスでの勉学態度に20点。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション テキスト、関連資料の探索・収集法、ノート作成法、など。
- 第2回 テキストの通読 イギリス文学の通観
- 第3回 テキストの通読 テキスト、4章の解説、17世紀後半
- 第4回 テキストの通読 テキスト、5章の解説、18世紀前半
- 第5回 テキストの通読 テキスト、5章の解説、18世紀後半
- 第6回 ウェブ・データの利用 18世紀探索
- 第7回 ウェブ・データの利用 18世紀探索
- 第8回 ウェブ・データの利用 17世紀後半、社会背景の調査1
- 第9回 ウェブ・データの利用 18世紀前半、社会背景の調査2
- 第10回 研究テーマの特定1 学期末レポートのテーマを考える
- 第11回 研究テーマの特定2 学期末レポートのテーマ、発表
- 第12回 研究テーマの特定3 学期末レポートのテーマ、発表
- 第13回 研究方法の研究1 書物とウェブ1
- 第14回 研究方法の研究2 書物とウェブ2
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

作品を体験するには作品そのものを読むこと以外には途はない。しかし、映像化された作品はビデオ情報などを活用して体験可能であり、文学作品が多様な表現形式のための材料として扱われる場合がふえている。この点を念頭におき、オンライン上の情報・データはもとより映像・音楽などのメディアにも注意を怠ってはならない。

講義コード	20512501			
科目名	英語圏文化 イギリスに学ぼう			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『日本とイギリス—日英交流の400年』 宮永孝 山川出版 『756 日英同盟—同盟の選択と国家の盛衰』 佐久間康夫 編著 PHP新書 『概説イギリス文化史』 中野葉子編著、太田雅孝編著 ミネルヴァ書房			
備考				
科目読替	205108 [カルチュラルスタディーズ]			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

イギリスの文化に親しむためのクラスです。いくつものトピックを取りあげ、ネット上に情報・データを渉猟し、あるいは図書情報に当たり、さらに現地へ飛び実地に学び、ブリテン島の現在を過去をひも解くクラスです。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

イギリスを学ぶコースです。英語の情報・データを、なにより、読み解くことが最重要です。読み解いた内容をまとめて使いやすい情報の単位をこしらえます。道具は？あるいは筆記用具は？パソコン、インターネット・アクセス、デジタル・プレゼンテーション、などなど、それらを使って成果を表しましょう。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パソコンとインターネットを使い、課題の調査と成果を表す準備が必要。英文読解のための道具類(オンライン辞書など)の活用、オンライン指導、どこでも指導を受けられる環境など、クラスの課題にとりくむ環境をととのえたい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの下調べ。クラスで指摘する課題の下調べ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評点は100。その内訳は、期末試験が60点。小テスト20点。出席およびクラスでの勉学態度に20点。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション テキスト、関連資料の探索・収集法、ノート作成法、など。
- 第2回 テキストの通観
- 第3回 テキストの通読
- 第4回 テキストの通読
- 第5回 テキストの通読
- 第6回 課題1-5の紹介
- 第7回 課題1 (王室)の解題
- 第8回 課題2 (Fox Hunting)の解題
- 第9回 課題3 (土地制度)の解題
- 第10回 課題4 (Land RoverとJaguar)の解題
- 第11回 課題5 (London)の解題
- 第12回 学生発表 クラスで提示する課題に関する発表。
- 第13回 学生発表 クラスで提示する課題に関する発表。
- 第14回 学生発表 クラスで提示する課題に関する発表。
- 第15回 まとめ (一言であらわすイギリス)

6. Special Information (留意事項)

テキスト同様にオンライン情報を活用。自習には通信機器を活用すること。オンライン出席を希望する場合、担当者に事前に相談すること。

講義コード	20512601			
科目名	アメリカの社会と文化			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	配布プリント			
参考文献	講義中に適宜指示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では、多民族国家アメリカの国家や国民性を理解し、複眼的な視点からアメリカの文化を学ぶことを目的とする。昨今の不安定な国際情勢の中、アメリカは依然として世界の覇権を担い、良くも悪くも我々の生活にも多大な影響力を保持している。国際的な視野を習得するためには、アメリカ文化の源泉を理解することが必要である。そこで本講義では、Michael Denningらが追求した「アメリカンとはなにか」という問いにアプローチし、アメリカの国家性や国民性の根底にある「なにか」を理解することを本講義の目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. アメリカの歴史について幅広い知識を習得する。
2. アメリカの社会と文化の仕組みを、様々な視点から理解する。
3. アメリカの歴史を「国家ナラティブ」としてみなし、「アメリカンとはなにか」という問いにアプローチする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は基本的には講義形式で、配布プリントを基に進めていく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

初回の授業で指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点 (30%)

期末試験 (70%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション、アメリカとは何か
- 第2回 建国神話、アメリカ例外主義
- 第3回 アメリカとエスニシティ
- 第4回 アメリカにおける黒人の歴史
- 第5回 アメリカにおける宗教
- 第6回 アメリカ資本主義
- 第7回 アメリカとジェンダー
- 第8回 アメリカと映画
- 第9回 アメリカと医学
- 第10回 アメリカと食
- 第11回 アメリカと文学
- 第12回 アメリカと音楽
- 第13回 帝国主義国家としてのアメリカ
- 第14回 ポスト9.11
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20521001			
科目名	言語学概論A			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[英][日]			
前提科目				
テキスト	『言語学入門』 佐久間淳一 他 研究社 2004			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course provides an introduction to general linguistic theory and analysis to students with no background in formal linguistics. Students will increase their knowledge about Phonetics (speech sounds), Phonology (sound structure), Morphology (word structure), Syntax (sentence structure), and Semantics (sentence meaning). Students will also increase their skills in

observing and analyzing a variety of linguistic data.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will learn the following aspects of linguistics theory:

1. Phonetics
2. Phonology
3. Morphology
4. Syntax
5. Semantics

3. Course Method (教育・学習の方法)

Quizzes:

Quizzes will be given (usually every week) in class and be based on the material covered in class. Each quiz should take no more than 5 minutes to complete.

Assignments:

Students will complete two sets of problem sets throughout this course. Students are strongly encouraged to work in groups but must write up their assignments individually.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Both reading the textbook before class and reviewing class material after class are mandatory. Students are expected to understand the material fully in order to complete quizzes, assignments, and the final exam.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. Quizzes & Assignments: 40%

2. Final Exam: 40%

3. Class Participation: 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Phonetics: Articulation, Transcription
- 第3回 Phonetics: Phonetic Processes
- 第4回 Phonology: Phonemes, Allophones
- 第5回 Phonology: Natural Class, Syllable Structure
- 第6回 Morphology: Morphemes, Allomorphs
- 第7回 Morphology: Affixation, Word Formation
- 第8回 Summary (1-7)
- 第9回 Syntax: Phrase Structure, Constituency
- 第10回 Syntax: X-bar Theory
- 第11回 Syntax: Movement, Language Variation
- 第12回 Semantics: Ambiguity
- 第13回 Semantics: Truth Tables
- 第14回 Semantics: Presupposition, Implicature
- 第15回 Summary (9-14)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20521002			
科目名	言語学概論B			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[英][日]			
前提科目				
テキスト	『言語学入門』 佐久間淳一 他 研究社 2004			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	92208102			
科目名	言語学概論B			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『言語学入門』 佐久間淳一 他 研究社 2004			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

言語の理論とそれを用いた言語の分析の仕方を学ぶことを目標とする。扱うトピックはPhonetics (音声学)、Phonology (音韻論)、Morphology (形態論)、Syntax (統語論)、Semantics (意味論)と多岐にわたり、それぞれ言語の音声、音の機能とパターン、語の構造、文の構造、そして文の意味を深く考察する。主に英語と日本語を対象言語として扱うが、必要に応じて他言語も扱っていく。言語学の観点から見た「言語」の面白さをじっくり味わってもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Phonetics: 言語の音声
2. Phonology: 音の機能とパターン
3. Morphology: 語の構造と語形成
4. Syntax: 文の構造
5. Semantics: 文の意味

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業スタイルは「講義と演習」とする。理論の説明などは講義形式で行い、適宜練習問題などを個人やペア、またはグループワークにより行ってもらう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で習った理論を使って言語を分析するのがこのクラスの基本であるため、理論をしっかり理解していなければならない。必ず毎回の授業をしっかりと復習しておくこと、「何が分からないか」を自分で分かる様にしておくこと。分からないところはすぐに担当教員に質問することを常に心がけてほしい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. Quizzes & Assignments: 40%
2. Final Exam: 40%
3. Class Participation: 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Phonetics: Articulation, Transcription
- 第3回 Phonetics: Phonetic Processes
- 第4回 Phonology: Phonemes, Allophones
- 第5回 Phonology: Natural Class, Syllable Structure
- 第6回 Morphology: Morphemes, Allomorphs
- 第7回 Morphology: Affixation, Word Formation
- 第8回 Summary (1-7)
- 第9回 Syntax: Phrase Structure, Constituency
- 第10回 Syntax: X-bar Theory
- 第11回 Syntax: Movement, Language Variation
- 第12回 Semantics: Ambiguity
- 第13回 Semantics: Truth Tables
- 第14回 Semantics: Presupposition, Implicature
- 第15回 Summary (9-14)

6. Special Information (留意事項)

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

以下の7項目を取り上げて講義を進める。

- 1) 英語の外面史 (歴史上の出来事)の基本事項
- 2) 英語の語彙 (「本来語」の語彙と「ラテン系」の語彙の諸特性)
- 3) 語の音韻的特性 (英語の音韻法則)
- 4) 語の形態的特性 (英語の形態規則と語形成)
- 5) 米語のインパクト
- 6) 現代英語構文研究
- 7) 英語史研究と英語教育の接点

講義ノート・講義資料以外に参考文献も十分に活用し、学習内容の定着に努力してもらいたい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は、講義形式を中心とする。適宜、英文法・語彙等に関する小テストを行う。毎回の講義の最後に、次回の学習内容を予告するので、その都度、指示に従って予習をしてもらいたい。全体的には、講義ノート、講義資料、参考文献を活用して、十分な復習を実行し、講義内容の定着を図ってもらいたい。詳細については初回の授業で説明する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に指示する参考文献、資料等の該当箇所について熟読し、予習してもらおう。口頭発表を担当する場合には発表資料 (ハンドアウト) の作成を行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

本科目の成績は、学期末試験の成績 (70%)、小テスト・課題提出等の平常点 (30%) に基づいて総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論 (英語史への招待)
- 第2回 英語の歴史 (古英語の成立)
- 第3回 英語の歴史 (古英語から中英語へ)
- 第4回 英語の歴史 (フランス語の影響)
- 第5回 英語本来語の語彙とラテン系の語彙の諸特性
- 第6回 英語の音韻・形態特性と英語史の関係①
- 第7回 英語の音韻・形態特性と英語史の関係②
- 第8回 英語の歴史 (中英語から近代英語へ)
- 第9回 英語の歴史 (近代英語から現代英語へ)
- 第10回 英語と米語 (米語のインパクト)
- 第11回 英語構文研究 (言語理論および英語史)
- 第12回 英語構文研究 (言語理論および英語史)
- 第13回 英語構文研究 (言語理論および英語史)
- 第14回 英語史と英語教育の接点
- 第15回 本講義の総括

6. Special Information (留意事項)

授業に欠席した場合は、その日の授業内容を友人に尋ねるなどして確認し、次回の授業に向けて支障がないように準備を行うこと。

講義コード	20523101		
科目名	英語の歴史 英語の歴史から見た「現代英語の文法・語彙の諸相」		
担当者	児玉 一宏		
単位数	2	配当学年	234
資格	[英]		
前提科目			
テキスト	講義資料をプリントにして配布する。		
参考文献	『言語学の領域 (I)』 中島平三編 朝倉書店 2009 上記の文献以外にも、必要に応じて授業中に適宜、指示する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業では、英語が歴史的にどのように発達してきたかを概観し、現代英語の諸相 (音韻、形態、語彙、文法の諸相) についての理解を深めることを目的とする。具体的には、英語史を学習する意義を理解するために、英語の外面史と呼ばれる英語の発達にかかわる歴史上の出来事が現代英語の形成にどのような影響を与えたかを学習する。また、言語現象として、現代英語の代表的な構文 (二重目的語構文、与格構文、動詞・不変化詞構文など) を取り上げ、英語史と生成文法や認知言語学などの理論言語学の両方の観点から分析する。英語史の知見の中で英語教育に活用できる内容を教授し、現代英語の諸相をより深く理解することを目指したい。

講義コード	20527001		
科目名	ことばと社会 社会言語学入門		
担当者	川上 伊都子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	特になし。		
参考文献	『「社会のなかの言語」』 スザン ロメイン 三省堂 1997 別途指示。		
備考	『言語学概論』又は『英語の歴史』の履修者であること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

言語は、コミュニケーションの道具としてのみ使われている訳ではありません。言語は、それぞれの社会や文化と密接な関係があり、切り離して考える事はできないのです。では、言語は社会/文化の中でどのような役割や機能をはたし、また、社会/文化からどのような影響や拘束を受けているのでしょうか。人間と言語とはどの様に関係し合っているのでしょうか。これらの問いに答えるため、このコースでは、社会言語学の基礎を学びます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

現実社会での言語使用の分析研究を通して、いかに社会/文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。例えば、多言語使用、コミュニケーションタイプ・コンパタンズ、スピーチコミュニティ、など。

3. Course Method (教育・学習の方法)

参考文献、重要論文などにそっての講義、質疑応答、現実社会における諸問題に関してグループディスカッション、またレポートの提出。

1. 参考文献：スザン ロメイン「社会のなかの言語」
2. 重要論文 (適宜配布)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

受講者は、課題が出された時には、しっかり準備すること。具体的には、あたえられたテーマに関して、調べてくる事、又は指定されたものを読み、読み込んでくる事等である。、明らかに準備不足と判断される場合には、減点の対象となり得る。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、期末テスト (60%)、グループレポート+提出物 (30%)、授業参加度 (10%) に基づいて、総合的に行う。欠席回数が、3分の1を超過したばあいは、原則として単位を認めない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 What is Sociolinguistics? -- Orientation (1)
- 第2回 What is Sociolinguistics? -- Orientation (2)
- 第3回 Various Functions of Language
- 第4回 Language & Dialect (1)
- 第5回 Language & Dialect (2)
- 第6回 Competence & Performance (1)
- 第7回 Competence & Performance (2)
- 第8回 Communicative Competence(1)
- 第9回 Communicative Competence(2)
- 第10回 Speech Communities (1)
- 第11回 Speech Communities (2)
- 第12回 Speech Communities (3)
- 第13回 Register (1)
- 第14回 Register (2)
- 第15回 General Review

6. Special Information (留意事項)

宿題が出たときは、必ずして置くこと。授業には積極的に参加すること。予習が出来てない場合、又、居眠り、私語、携帯等、授業への積極的参加が認められない場合は、減点の対象となる。

講義コード	20527501			
科目名	ことばのしくみ The Structure of Language			
担当者	新井 康友			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英][日]			
前提科目				
テキスト	The readings will be provided to you in copies for each lesson.			
参考文献	References will be given at the end of each readings.			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this class is to introduce you to the ways languages have come to be described and what we have learned as a result of that. Three particular ways of describing language will be introduced; classificational, procedural, and explanatory ways. Each has left its mark on the way we understand language today.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

You will be asked to describe language in each of the ways discussed. You will also learn the way language is thought to be organized by each of the methods. You should, by the end of the term, understand the different ways in which language has come to be described.

3. Course Method (教育・学習の方法)

The way language is organized can only be understood by actually describing language in the ways each method suggests. You will thus be asked to describe language in the ways suggested. By actually describing language, you will learn the ways in which language is organized.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

You will be asked to read some material each week. You will be quizzed on the reading and describe language in the ways suggested in the readings.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

You will be evaluated on the quizzes you will receive at the beginning of each class meeting. You will also have a summary quiz on the eighth and fifteenth week. 40 percent of your grade will be based on the daily quizzes

and 60 percent on the two summary quizzes.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introducing the study of language
- 第2回 Levels of description
- 第3回 Basic Phonetics
- 第4回 Classification of Sounds
- 第5回 How sounds behave in a language
- 第6回 Phonology
- 第7回 Sounds and Words: Morphology
- 第8回 Summary of Part I
- 第9回 Classification and Categories
- 第10回 Categories and Sub-categories
- 第11回 Combining Words
- 第12回 Embeddings
- 第13回 Explaining what goes on
- 第14回 Displacement
- 第15回 Summary of Part II

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20527601			
科目名	ことばと認知 認知言語学から見た「ことばの仕組み」			
担当者	児玉 一宏			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『言語習得と用法基盤モデル』 児玉一宏・野澤 元 研究社出版 2011 テキスト以外に英文資料等の講義資料を配布する。			
参考文献	授業中に適宜、紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業の教育目標は、認知言語学の基本的な考え方を理解し、認知と構文選択の関係について考察する。特に構文文法(Construction Grammar)を取り上げ、英語構文の分析を行うとともに、構文の意味・機能についての理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

本授業の教育目標を達成するために、構文文法についての基本事項の徹底理解を目指す。特に、Adele Goldbergの先駆的な研究についての理解を前提に、構文文法の可能性や展望についても考察する。英語の使役移動構文や二重目的語構文などの文法構文を中心に取り上げる。テキストでは、第2章から第4章の内容を中心に基礎のキソからできるだけ丁寧に解説する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義を中心とする。演習では、受講者自身が言語現象についての分析を行い、その方法の妥当性について、担当者とともに検討を行う。また、適宜、小テストを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学習の方法としては、特に授業内容の復習を入れてもらいたい。テキストの該当箇所を熟読して理解を深めるとともに、授業内容の定着を図ってもらいたい。予習の仕方については、各回の授業で指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

本授業の成績は、学期末試験の結果 (70%) と小テスト・課題提出等の平常点 (30%) を総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 はじめに (序論)
- 第2回 認知言語学の考え方
- 第3回 認知言語学の考え方
- 第4回 構文文法の基礎
- 第5回 構文文法の基礎
- 第6回 構文文法の基礎
- 第7回 認知と構文：使役移動構文
- 第8回 認知と構文：使役移動構文
- 第9回 認知と構文：二重目的語構文
- 第10回 認知と構文：二重目的語構文
- 第11回 認知と構文：構文交替現象
- 第12回 認知と構文：構文交替現象
- 第13回 認知と構文：英語教育・英語学習との接点
- 第14回 認知と構文：英語教育・英語学習との接点

第15回 授業のまとめ：試験と解説

6. Special Information (留意事項)

授業を欠席した場合、当日の授業内容を友人に尋ねるなどして、次回の授業に支障がないように各自準備を行うこと。

講義コード	20527901		
科目名	個別英語学研究Ⅰ		
担当者	専任教員		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

講義コード	20528001		
科目名	個別英語学研究Ⅱ		
担当者	専任教員		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認められた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 研究課題の設定
2. 先行研究のレビュー
3. 特定の方法論/理論的枠組みの習得
4. 理論的分析

3. Course Method (教育・学習の方法)

各領域における専門的方法論を用いて研究を遂行する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各領域における専門的方法論を習得済みであること、または、担当教員の指導を受けて習得することが準備となる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題の設定 10%

方法論の理解度 10%

最終研究成果 (論文形式) 80%

5. Special Information (留意事項)

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること (ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合にはその様式に従うこと)。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇 (夏休み・春休み) を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学部長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。

この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。

詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

講義コード	20528101		
科目名	児童英語教育Ⅰ		
	子供に楽しく英語を教える 未来の国際人を育てる		
担当者	北村 友美子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日][子]		
前提科目			
テキスト	[Welcome to Learning World Yellow Book Text] Mikiko Nakamoto アプリコット出版 1996 [Welcome to Learning World Yellow Book 生徒用CD] Mikiko Nakamoto アプリコット出版 1996 毎回プリントを配布します。		
参考文献			
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

講義コード	26821001		
科目名	児童英語教育Ⅰ		
	子供に楽しく英語を教える 未来の国際人を育てる		
担当者	北村 友美子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[子]		
前提科目			
テキスト	[Welcome to Learning World Yellow Book Text] Mikiko Nakamoto アプリコット出版 1996 [Welcome to Learning World Yellow Book 生徒用CD] Mikiko Nakamoto アプリコット出版 1996 毎回プリントを配布します。		
参考文献			
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

子供たちは言語習得の天才です。楽しい歌やチャンツ、動作、活動を通じて、英語表現を覚えていきます。本講座では、楽しく英語を教えると同時に、児童英語教育を高校3年生までの英語教育の基礎段階ととらえ、英語の総合的な運用能力の習得を目的とした英語教育法を学びます。楽しいだけでは終わらない言語教育を実践できる素養を養います。学校教育の枠にとられない幼児・児童のための英語教育法です。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・配布プリントの予習
- ・welcome to Learning World YellowのCDを聞いて覚える。(次回発表)
- ・絵本の実技発表
- ・到達度評価

3. Course Method (教育・学習の方法)

一方的に講義を聴くのではなく、予習、ディスカッション、まとめ、発表を通して、実践的に学びます。小学生用テキストWelcome to Learning World Yellow Book と準拠のCDを使って、児童英語教育の実際を子供目線から学びます。授業には必ず英和・和英の辞書持参の事 (電子辞書可) (携帯電話、スマート phone 辞書は不可)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・毎回配布されるプリントの予習。
- ・小学生用テキストWelcome to Learning World Yellow Book のCDを聴いて内容を暗唱する。
- ・絵本のCDを聞いて発表の練習をする。
- ・到達度評価項目について覚えたり、練習したりする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

・出席回数が3分の2に満たない場合は、原則として評価しない 遅刻や欠席等は減点対象となる

・評価は、出席状況、授業中の参加度30%、到達度評価項目達成60% (内40%は授業の理解、20%は小学生用テキストWelcome to Learning

Worldの把握)、実技発表10%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 英語教育の目標と児童英語教育
- 第2回 日本の英語教育の問題点
- 第3回 国際人の定義 4種類の英語
- 第4回 幼児・児童の特質
- 第5回 Communicative Approach と Humanistic Approach
- 第6回 self-esteemとファシリテーターとしての教師のあり方
- 第7回 幼児・児童英語教育における songs, chants のあり方
- 第8回 幼児・児童英語教育における言語活動のあり方
- 第9回 幼児・児童英語教育のレッスンプラン
- 第10回 指導の実際1
- 第11回 指導の実際2
- 第12回 幼児・児童英語教育における絵本の役割
- 第13回 絵本の指導の実際
- 第14回 児童英語教育における評価 一到達度評価一
- 第15回 課題テストと実技発表

6. Special Information (留意事項)

児童英語教育Iでは、特に幼児、児童の低学年の教え方を中心に学びます。児童高学年の教授法は児童英語教育IIで扱います。

講義コード	20528201			
科目名	児童英語教育II 楽しく、効果的に子供たちを英語の世界に導く授業			
担当者	北村 友美子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[日][子]			
前提科目				
テキスト	『Learning World Book3改訂版Text』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 2009 『Learning World Book 3 改訂版生徒用CD』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 2009 毎回プリントを配布します。			
参考文献				
備考	定員30人 205281「児童英語教育I」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26821101			
科目名	児童英語教育II 楽しく、効果的に子供たちを英語の世界に導く授業			
担当者	北村 友美子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	『Learning World Book3改訂版Text』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 2009 『Learning World Book 3 改訂版生徒用CD』 Mikiko Nakamoto アプリコット出版 2009 毎回プリントを配布します。			
参考文献				
備考	定員30人 268210「児童英語教育I」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

児童英語教育Iでは、幼児・児童低学年を中心にその特徴と指導法を学びましたが、本講座では、児童の中学年・高学年を中心にその特徴と指導法を学びます。児童英語Iと同様に、学校教育の枠にとらわれない児童英語教育法です。卒業後、子供に英語を教えたいと考えている方の受講が望ましい。教師としての資質も向上させます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・ Learning World Book 3のCDを自宅で聞き、歌やチャンツを言えるようになる。(発表の宿題が毎回ある)
- ・ 英語のストーリーの暗唱と発表がある。
- ・ 配布プリントを予習してくる。

・ 到達度評価項目を覚えたり、言えるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・ それぞれの課題に合わせて講義、実習を行います。小学生中級用英語教材 Learning World Book 3のテキストと準拠のCDを使って、児童英語教育の実際を子供目線、指導者目線からまなびます。授業には必ず、英和・和英の辞書持参してください。
- ・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・ 事前に前期の授業内容を復習しておくこと
- ・ Learning World Book 3 の所定のページのCDを聞いて、練習してくる。
- ・ CDを聞いて英語のストーリーを暗唱する。
- ・ 到達度評価項目について覚えたり、言えるようになる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- ・ 出席回数が3分の2に満たない場合は、原則として評価しない。遅刻や欠席等は減点対象となる
- ・ 評価は、出席状況・授業中の参加態度30%到達度評価より30% Learning World Book 3の把握 30%、ストーリー発表10%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 学習者(中学年・高学年児童)の発達段階と学習上の特徴
- 第2回 コミュニケーション能力の定義
- 第3回 異文化理解
- 第4回 InputとOutput
- 第5回 発話を促す活動1
- 第6回 発話を促す活動2
- 第7回 TPRを使つての指導
- 第8回 Phonics を使つての指導
- 第9回 Story Telling
- 第10回 Story Tellingの発表
- 第11回 児童英語教育における書く指導
- 第12回 児童英語教育における読む指導
- 第13回 児童英語教育における文法の扱い
- 第14回 Taskのある授業
- 第15回 到達度評価

6. Special Information (留意事項)

英語の歌・チャンツ・storyを暗唱する課題が多くです。日頃からCDを聴く習慣を身に付けてください。

講義コード	20528401			
科目名	子どものための英語教育I 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法と具体的な指導について			
担当者	北村 友美子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	『小学校英語教育入門』 樋口忠彦(代表) 研究者 2013 毎回授業中にプリントを配布します。			
参考文献	『新しい小学校英語科教育法』 高橋美由紀・柳善和(編著) 協同出版 2011			
備考	『子どものための英語教育II』を併せて履修することが望ましい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26821201			
科目名	子どものための英語教育I 小学校外国語活動(英語教育)に効果的な教授法と具体的な指導について			
担当者	北村 友美子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	『小学校英語教育入門』 樋口忠彦(代表) 研究者 2013 毎回授業中にプリントを配布します。			
参考文献	『新しい小学校英語科教育法』 高橋美由紀・柳善和(編著) 協同出版 2011			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

2011年度より小学5、6年で外国語活動が必修となった。2020年度からは5、6年で英語が教科になり、3、4年で外国語活動が必修となる。小学校英語、外国語活動を指導できる人材が今後益々必要となるであろう。そのような状況の中、この講座では、担任として、英語専科教員として、または地域人材として、小学校外国語活動を指導する素地を養う。具体的には、子どものための英語教育Ⅰ終了時に、小学校での英語教育必修化の背景、言語習得の基礎理論や教授法について理解を深め、小学生に適した指導法について実践的に学んでいる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・教授法について調べて発表する。
- ・指導法について一つ選び、先生役として準備し、発表する。
- ・到達評価の課題

3. Course Method (教育・学習の方法)

子どものための英語教育Ⅰでは、小学校外国語活動(英語教育)の基本的な知識について、講義する。教授法については、子どもの外国語教育として効果的な教授法や、コミュニケーション能力を育成するための教授法などをとりあげ、各自が調べ発表する。指導法については、実際に体験後、各自一つの指導法を選び、教具教材を準備して、先生役と生徒役に分かれて学び合う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・教授法については、インターネットや本で調べる。
- ・指導法については、授業での体験後、指示に従い準備をする。
- ・到達評価項目について、覚えたり、練習したりする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中の参加態度20%、提出物30%、発表30%、到達度評価20%で評価を行う。意欲的に取り組むことが大切である。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 小学校外国語活動概論、小学校での授業の実際を体験
- 第2回 諸外国の小学校における外国語教育
- 第3回 第2言語習得理論
- 第4回 小学校外国語活動(英語教育)における効果的な教授法について発表・ディスカッション1
- 第5回 小学校外国語活動(英語教育)における効果的な教授法について発表・ディスカッション2
- 第6回 小学校外国語活動(英語教育)における効果的な教授法について発表・ディスカッション3
- 第7回 小学校外国語活動における歌・チャンツなど音声教材を使用した指導1
- 第8回 小学校外国語活動における歌・チャンツなど音声教材を使用した指導2
- 第9回 小学校外国語活動におけるクイズ・ゲームを通した指導
- 第10回 小学校外国語活動におけるコミュニケーション活動・自己表現活動・国際理解活動を通した指導
- 第11回 小学校外国語活動におけるプロジェクト活動を通した指導
- 第12回 指導法の発表1
- 第13回 指導法の発表2
- 第14回 指導法の発表3
- 第15回 まとめ、到達度評価

6. Special Information (留意事項)

子どものための英語教育Ⅱを履修することが望ましい。子どもの英語教育に興味・関心がある学生が履修すること。

講義コード	20528501			
科目名	子どものための英語教育Ⅱ 小学校外国語活動の模擬授業に挑戦			
担当者	北村 友美子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	『小学校英語教育入門』 樋口忠彦(代表) 研究社 2013 『Hi, friends! 1』 文部科学省 『Hi, friends! 2』 文部科学省 毎回授業の資料を配布します。			
参考文献	『新しい小学校英語科教育法』 高橋美由紀・山岡多美子柳善和(編著) 協同出版 2011			
備考	『子どものための英語教育Ⅰ』を併せて履修することが望ましい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26821301			
科目名	子どものための英語教育Ⅱ 小学校外国語活動の模擬授業に挑戦			
担当者	北村 友美子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[子]			
前提科目				
テキスト	『小学校英語教育入門』 樋口忠彦(代表) 研究社 2013 『Hi, friends! 1』 文部科学省 『Hi, friends! 2』 文部科学省 毎回授業の資料を配布します。			
参考文献	『新しい小学校英語科教育法』 高橋美由紀・山岡多美子柳善和(編著) 協同出版 2011			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

子どものための英語教育Ⅰで学んだことを基に、この講座では、模擬授業を行う。子どものための英語教育ⅠとⅡの学びの積み上げにより、実際に、小学校現場で外国語活動の実践指導ができるような下地が育っている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・受講ノートの提出
- ・模擬授業
- ・到達度評価項目の達成

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義・発表・ディスカッション・レポート形式で行う。外国語活動のビデオ授業を観察する。外国語活動の模擬授業を行うことにより、外国語活動の授業過程、学習指導案、評価の在り方等を総合的に学ぶ。また、友人の模擬授業の評価をレポートする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・配布プリントを予習、復習する。
- ・模擬授業を行う為に教具、教材作り等授業外でも十分な準備や練習を行う。
- ・到達度評価項目を覚えたり、練習したりする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中の参加態度20%、提出物20%、模擬授業40%、到達度評価20%で評価を行う。意欲的に取り組むことが大切である。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 小学校英語教育とは、子どものための英語教育Ⅰ復習
- 第2回 小学校、中学校連携
- 第3回 ICTの活用
- 第4回 指導者の役割、資質
- 第5回 教材・テキストの構成と内容
- 第6回 指導目標、年間指導計画の立て方と具体例
- 第7回 言語材料と4技能の指導
- 第8回 授業過程と授業の進め方
- 第9回 学習指導案と評価のあり方

- 第10回 授業づくり
- 第11回 模擬授業のあり方、準備
- 第12回 模擬授業と評価1
- 第13回 模擬授業と評価2
- 第14回 模擬授業と評価3
- 第15回 外国語活動の成果、課題、今後の展望、到達度評価

6. Special Information (留意事項)

子どものための英語教育Iを履修していることが望ましい。

講義コード	20529001			
科目名	英文法Ⅲ 英文法を研究し教壇で解説プレゼンテーションすることから学ぶ			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	プリントを配布し利用する。 *毎回の授業の開始時に、前時に学んだ英文法の復習小テストに『類出英文法・語法問題1000』桐原書店を利用する。必ず購入すること。			
参考文献	文法復習小テストを、『類出英文法・語法問題1000』桐原書店から出題する。 自身が利用している英文法参考書等を持参すること。			
備考	「英文法Ⅱ」履修者であること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

2年次生以上の学生（特に教職課程の学生は履修することが望ましい）が、事前に課題として設定し研究した英文法の項目を、例文等を用いて自身で解説するというプレゼンテーションの経験を通して、文法の理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語のしくみについての理解を深め、アキュラシーのある英語力を養成する。

1. 文構成に必要な要素
2. 文の構造
3. 語句の形態
4. 言語使用場面における表現の適切性

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

- (1)各自が英文法の参考書等を利用して事前研究をしながら、P.P.等を用いて英文法の解説のプレゼンテーションを実施する。その後、追加的・補足的な文法の説明を事後指導する。また、設問を利用して定着を図る。
- (2)各自の解説プレゼンテーションでは、事前の質問を受け付けるので、積極的な質問等の参加が望まれる。
- (3)毎回の授業の開始時に、前回の授業で扱った文法項目の復習小テスト（『類出英文法・語法問題1000』桐原書店利用して）を実施する。

2. 学習方法

授業の課題は各自が事前に研究しておくこと。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 自身で英文法の参考書等を利用して、「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、事前研究をしながら英文法を学び、解説プレゼンテーションの準備をする。
2. 参加者全員が、授業の文法項目の予復習をする。
3. 文法用語の意味調べ
4. 前回の授業で扱った文法復習小テスト（『類出英文法・語法問題1000』桐原書店利用）の準備

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 期末試験（80%）：授業で扱った文法項目
前回の授業で扱った文法項目の小テストの評価&授業への参加度（20%）
2. 欠席・遅刻は減点対象とする。授業総回数の3分の2以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス 英文法のプレゼンテーションのオリエンテーション
- 第2回 基本文型：授業
- 第3回 文の構造一句と節一：授業
- 第4回 助動詞一種類、配列、意味と用法：授業
- 第5回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第1グループ
- 第6回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第2グループ
- 第7回 動詞の時制など：授業
- 第8回 形容詞及び副詞の比較変化：授業

- 第9回 to-不定詞：授業
- 第10回 動名詞：授業
- 第11回 現在分詞及び過去分詞の形容詞としての用法：授業
- 第12回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第3グループ
- 第13回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第4グループ
- 第14回 受動態と能動態：授業
- 第15回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第5グループ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20529101			
科目名	英文法Ⅳ 英文法を研究し教壇で解説プレゼンテーションすることから学ぶ			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	プリントを配布し利用する。 *毎回の授業の開始時に、前時に学んだ英文法の復習の小テストに『類出英文法・語法問題1000』桐原書店を利用する。必ず購入すること。			
参考文献	文法復習小テストを、『類出英文法・語法問題1000』桐原書店から出題する。 自身が利用している英文法参考書等を持参すること。			
備考	「英文法Ⅲ」履修者であること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

2年次生以上の学生（特に教職課程の学生は履修することが望ましい）が、事前に課題として設定し研究した英文法の項目を、例文等を用いて自身で解説するというプレゼンテーションの経験を通して、文法の理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語のしくみについての理解を深め、アキュラシーのある英語力を養成する。

1. 文構成に必要な要素
2. 文の構造
3. 語句の形態
4. 言語使用場面における表現の適切性

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

- (1)各自が英文法の参考書等を利用して事前研究をしながら、P.P.等を用いて英文法の解説のプレゼンテーションを実施する。その後、追加的・補足的な文法の説明を事後指導する。また、設問を利用して定着を図る。
- (2)各自の解説プレゼンテーションでは、事前の質問を受け付けるので、積極的な質問等の参加が望まれる。
- (3)毎回の授業の開始時に、前回の授業で扱った文法項目の復習小テスト（『類出英文法・語法問題1000』桐原書店利用して）を実施する。

2. 学習方法

授業の課題は各自が事前に研究しておくこと。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 自身で英文法の参考書等を利用して、「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、事前研究をしながら英文法を学び、解説プレゼンテーションの準備をする。
2. 参加者全員が、授業の文法項目の予復習をする。
3. 文法用語の意味調べ
4. 前回の授業で扱った文法復習小テスト（『類出英文法・語法問題1000』桐原書店利用）の準備

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 期末試験（80%）：授業で扱った文法項目
前回の授業で扱った文法項目の小テストの評価&授業への参加度（20%）
2. 欠席・遅刻は減点対象とする。授業総回数の3分の2以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス 英文法のプレゼンテーションのオリエンテーション
- 第2回 関係代名詞の用法：授業
- 第3回 関係副詞の用法：授業
- 第4回 準動詞：授業
- 第5回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第1グループ
- 第6回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第2グループ
- 第7回 助動詞の用法：授業

- 第8回 完了時制：授業
- 第9回 仮定法、条件法：授業
- 第10回 分詞構文：授業
- 第11回 現在分詞及び過去分詞の形容詞としての用法：授業
- 第12回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第3グループ
- 第13回 以上の文法項目のプレゼンテーション：第4グループ
- 第14回 冠詞と前置詞の用法：授業
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20529201		
科目名	英語のサウンド研究 英語の発音と音体系のよりよい理解のために		
担当者	山内 信幸		
単位数	2	配当学年	234
資格	[英]		
前提科目			
テキスト	『発信型実践英語音声学』 石黒昭博・高坂京子・山内信幸 金星堂		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

このクラスでは、超音音声学の立場に基づいた英語音声学の基礎知識を学ぶとともに、英語音韻論に関する入門的知識を修得することを目指します。日本語の音体系に慣れている私たちにとって、異なった音体系をもつ英語の音の特徴を実践的な面からのみならず、理論的な面からも理解することこそが、「英語らしく発音できること」、つまり、ネイティブスピーカーの発音に近づくための早道といえるでしょう。まず、英語の母音・子音に関して、音が正確に聞きとれること、それを正確に発音できること（あるいは、それを正確に発音記号に転写できること）、さらに、英語のサウンドシステムの理論的背景を確実におさねながら、有機的な学習へとつなげていくことを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 音声学の基本概念を理解すること。
2. 英語の母音・子音の個々の音を正確に聞きとり、発音すること（音声転写すること）。
3. 音連続の理論的背景を理解すること。
4. 音連続を正確に聞きとり、発音すること（音声転写すること）。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

授業では、まず、音声学の基礎知識として、音声学の領域、音声器官、言語音の分類などについて概説を与え、次に、母音と子音の解説および発音練習をおこないます。さらに、音連続におけるさまざまな現象について理論的な側面から説明をおこない、できる限りさまざまな課題をこなすことで、音声学ならびに音韻論全般についての理解が深まるようになります。

2. 学習方法

この授業が、いわゆる、「発信型」のコミュニケーションに役立つものとしたので、授業中のみならず、授業外でも、積極的に英語の音に慣れ親しむよう心がけてください。ただ座っているだけでは英語らしい発音には近づくことはできません。また、いわゆる、「耳のよい人」は発音のきれいな人といわれています。不安のある向きには、音楽などによって「音感」を養っておくことをお勧めします。

授業では、該当学習項目の十分な予習・復習は要求しますが、授業の内外での各自の主体的な取り組みを最大限に評価する予定です。「授業は楽しく」をモットーとしています。皆さんの期待は裏切らないつもりです。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業の進度に応じて、該当範囲の音読を予習として課します。その際、辞書で与えられている発音記号などを転記し、正確な発音となるように努めて下さい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、平常点(授業参加：20%)、小テスト(20%)、中間・学期末に予定している2回の確認テストを総合して判断します。なお、1回欠席すれば3点、1回遅刻すれば1点を最終評価から減じることにします。また、4回以上の欠席は単位修得資格を失うことになるので、注意してください。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論
- 第2回 音声学とは

- 第3回 音声器官
- 第4回 言語音の分類
- 第5回 母音の発音
- 第6回 子音の発音
- 第7回 プロソディー入門
- 第8回 文のリズム
- 第9回 語強勢
- 第10回 句強勢
- 第11回 文強勢
- 第12回 音の変化(連結、脱落、同化)
- 第13回 文の音調
- 第14回 その他
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20529301		
科目名	英語科教育法 I 英語教育学理論演習		
担当者	橋堂 弘文		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『新編英語科教育法入門』 土屋澄男編著他 研究社 『頻出英文法・語法問題1000増補改定版』 桐原書店		
参考文献	『英語授業事例事典』 青木昭六編、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『英語科教育のフロンティア』 青木昭六編、橋堂 保育出版社 『小学校英語活動アイデアバンク』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語英語小事典』 大修館 英語教育用語辞典(大修館) ロングマン応用言語学用語辞典(南雲堂) DICTIONARY OF TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN) 中等学校時代に利用した学習参考書やドリル等		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

(英語科教育法Iの単位を修得しなければ、英語科教育法IIを受講することは出来ない。)

英語教師になる上での必須項目(4技能の各指導法の留意点、発音指導の留意点、学習指導要領の研究、学習者論、教授法、日本語・英語使用のteachingplan、学習評価など)の研究と、教育実習に際して必要となる、指導案の作成、それに基づく後期科目の模擬授業の基礎的な訓練(後期：英語科教育法II 指導案作成と模擬授業の活動)を課す。現職教員(本学卒業生を含む)との研修会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業研究会」への参加も推薦したい。また、公立校教員採用試験への対策や特に文法力の養成にも配慮したい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教材や教具等の習熟
2. 副教材等の作成
3. 評価と調整
4. クラスルーム・イングリッシュの習熟

日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあって欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどういう授業を展開してみたいか。授業外でも考え、積極的に実践発表してもらいたい。

5. 問題集を利用した文法力の養成：問題集：頻出英文法・語法問題1000(桐原書店)を使用する。授業中に指定した範囲で確認テストを実施する。
6. 日本語・英語による指導案の作成

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

グループまたは個人での研究発表や(模擬授業：後期中心)の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。

教師になるのだという自覚を持ち、積極的な参加姿勢で臨んで欲しい。

問題集：頻出英文法・語法問題1000(桐原書店)を利用して、指定した範囲の範囲の小テストを課す。小テストの平均70%以上と、TOEIC500点

以上の取得も、後期：英語科教育法Ⅱの受講のめやすとしたい。

2. 学習方法

図書館の文献や資料、研究室前の授業案集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、課題発表や授業案作成、模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションや議論の準備

文法力の養成：問題集：類出英文法・語法問題1000(桐原書店)の指定した範囲の確認テストの準備

夏季と冬季休暇中のレポート課題

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業の参加度 (20%)
2. レポートと小テスト (20%)
3. 授業中のまとめテスト (30%)
4. グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションへの積極的な態度などの評価 (30%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 プレゼン方法のトライアル練習
- 第3回 英語を学ぶこと、教えること
- 第4回 英語の指導目標と内容
- 第5回 学習者の要因
- 第6回 教師の役割と良い教師の条件
- 第7回 言語習得上の諸問題
- 第8回 英語指導の原理
- 第9回 発音の指導
- 第10回 文字と綴り字の指導
- 第11回 語彙の指導
- 第12回 文法の指導
- 第13回 リスニングの指導
- 第14回 スピーキングの指導
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

遅刻や欠課には、教職科目なので留意すること。私の関わる「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。自分で作成した教材を使用する「教材作成演習」も履修することが望ましい。

講義コード	20529401			
科目名	英語科教育法Ⅱ 英語教育学理論演習			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『新編英語科教育法入門』 土屋澄男編著他 研究社 『類出英文法・語法問題1000増補改定版』 桐原書店 『英語授業事例事典』 青木昭六編、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『英語科教育のフロンティア』 青木昭六編、橋堂 保 育出版社 『小学校英語活動アイデアバンク』 樋口忠彦編著、橋 堂 教育出版 『学校用語英語小事典』 大修館 英語教育用語辞典(大修館) ロングマン応用言語学用語辞典(南雲堂) DICTIONARY OF TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN)			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(英語科教育法Ⅰの単位を修得しなければ、英語科教育法Ⅱを受講することは出来ない。)

英語教師になる上での必須項目(4技能の各指導法の留意点、発音指導の留意点、学習指導要領の研究、学習者論、教授法、日本語・英語使用のteachingplan、学習評価など)の研究と、教育実習に際して必要となる、指導案の作成、それに基づく後期科目の模擬授業の基礎的な訓練(後期：英語科教育法Ⅱ 模擬授業中心の活動)を課す。現職教員(本学卒業生を含む)との研修会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業

研究会」への参加も推薦したい。また、公立校教員採用試験への対策や特に文法力の養成にも配慮したい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教材や教具等の習熟
2. 副教材等の作成
3. 評価と調整
4. クラスルーム・イングリッシュの習熟

日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあって欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどうという授業を展開してみたいか。授業外でも考え、積極的に実践発表してもらいたい。

5. 問題集を利用した文法力の養成：問題集：類出英文法・語法問題1000(桐原書店)を使用する。授業中に指定した範囲で確認テストを実施する。
6. 日本語・英語による指導案の作成

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

グループまたは個人での研究発表や(模擬授業：後期中心)の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。

教師になるのだという自覚を持ち、積極的な参加姿勢で臨んで欲しい。

問題集：類出英文法・語法問題1000(桐原書店)を利用して、指定した範囲の範囲の小テストを課す。

2. 学習方法

図書館の文献や資料、研究室前の授業案集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、課題発表や授業案作成、模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションや議論の準備

文法力の養成：問題集：類出英文法・語法問題1000(桐原書店)の指定した範囲の確認テストの準備

冬季休暇中のレポート課題

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業の参加度 (20%)
2. レポートと小テスト (20%)
3. 授業中のまとめテスト (30%)
4. グループまたは個人での教科書ベースの研究発表のプレゼンテーションへの積極的な態度などの総合評価 (30%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーションとリーディングの指導
- 第2回 ライティングの指導
- 第3回 言語技能を統合した指導
- 第4回 教材研究と授業の準備
- 第5回 授業案の作成と授業の進め方
- 第6回 教材と機器の活用
- 第7回 ネイティブスピーカーの活用
- 第8回 テストと評価
- 第9回 小学校の英語教育
- 第10回 これからの英語教育
- 第11回 教育実習について
- 第12回 指導案の作成指導
- 第13回 各自の指導案のプレゼンテーション
- 第14回 模擬授業の展開と考察
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

遅刻や欠課には、教職科目なので留意すること。私の関わる「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。自分で作成した教材を使用する「教材作成演習」も履修することが望ましい。

講義コード	20529501			
科目名	英語科教育法Ⅲ 教育実習指導案作成と模擬授業			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『英語科教育実習ハンドブック』 米山朝二・杉山敏・多田茂 大修館 2013 英語科教育法I使用教科書：『新編英語科教育法入門』 土屋澄男著 研究社 英語科教育法I使用教科書：『頻出英文法・語法問題1000』 (桐原書店)			
参考文献	『英語授業実例事典』 青木昭六編著、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『英語教育のフロンティア』 青木昭六編著、橋堂 保育出版社 『小学校英語活動アイデアバンクソング・ゲーム集』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語英語小事典I・II』 大修館 英語教育用語辞典 (大修館) ロングマン応用言語学辞典 (南雲堂) DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN)			
備考	英語英文学科の必修科目 (1・2年次配当分) を履修済みであること。学科の定めたTOEICの基準点を満たしていること。『英語科教育法I・II』履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20529502			
科目名	英語科教育法Ⅲ 教育実習指導案作成と模擬授業			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『英語科教育実習ハンドブック』 米山朝二・杉山敏・多田茂 大修館 2013 英語科教育法I使用教科書：『新編英語科教育法入門』 土屋澄男著 研究社 英語科教育法I使用教科書：『頻出英文法・語法問題1000』 (桐原書店)			
参考文献	『英語授業実例事典』 青木昭六編著、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『英語教育のフロンティア』 青木昭六編著、橋堂 保育出版社 『小学校英語活動アイデアバンクソング・ゲーム集』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語英語小事典I・II』 大修館 英語教育用語辞典 (大修館) ロングマン応用言語学辞典 (南雲堂) DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN)			
備考	英語英文学科の必修科目 (1・2年次配当分) を履修済みであること。学科の定めたTOEICの基準点を満たしていること。『英語科教育法I・II』履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語科教育法Iで学習した理論や学習指導要領、4言語技能の指導の留意事項に基づき、中学/高校の教科書を利用して、指導事項の精選、指導案の作成、模擬授業の準備、模擬授業、形成的な評価、他者と自己評価等の実践を、時間が許す限り行う。教育の課題や問題点、最近の話題にも触れ、公立校教員採用試験への対策にも配慮したい。現職教員(本学卒業生を含む)との研究会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業研究会」への参加も推薦したい。目の前の課題をポジティブに捕ら

え、考え行動出来る、実践的な教員としての資質を高める努力を、授業全期間通じて惜しまずしたい。文法のテキスト「頻出英文法・語法問題1000」(桐原書店)を、英語科教育法I・IIに引き続き利用して、文法・語法力の養成に努める。

特にデジタル教材やICTの取り扱いについても練習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本語文・英文使用の指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等
2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習
6. 日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあって欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどういふ授業を展開してみたいか、授業外でも日頃から考え、積極的に実践発表してもらいたい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

グループまたは個人での模擬授業の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。教師になるのだという自覚を持ち、積極的な参加姿勢で臨んで欲しい。

模擬授業終了後に、受講者全員に授業評価表を配付して、相互評価を行う。

テスト、課題の提出を求める。

「頻出英文法・語法問題1000」(桐原書店)を、英語科教育法IIに引き続き利用し、文法・語法力の養成に努める。指定した範囲の文法・語法テストを課す。

2. 学習方法

研究室前の授業案集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、授業案作成や模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等
2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業の参加度：30%
2. 指導案+模擬授業、ディスカッション、課題発表等：60%
3. レポート：10%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の内容と進め方のオリエンテーションとクラスルーム・イングリッシュの習熟練習
- 第2回 第1グループのチーム・ティーチングによる初回模擬授業準備と実施と振り返り
- 第3回 第2グループのチーム・ティーチングによる初回模擬授業準備と実施と振り返り
- 第4回 第3グループのチーム・ティーチングによる初回模擬授業準備と実施と振り返り
- 第5回 第1グループのチーム・ティーチングによる2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第6回 第2グループのチーム・ティーチングによる2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第7回 第3グループのチーム・ティーチングによる2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第8回 1人目の個人による1回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第9回 2人目の個人による1回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第10回 3人目の個人による1回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第11回 4人目の個人による1回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第12回 5人目の個人による1回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第13回 6人目の個人による1回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第14回 7人目の個人による1回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第15回 模擬授業のまとめの振り返り

6. Special Information (留意事項)

役員をしている非営利NPO法人主催の公立小中高校のスクールインターシップ「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。自分で作成した教材を使用する：スクール・インターシップを伴う「教材作成演習」も履修することが望ましい。

講義コード	20529601			
科目名	英語科教育法Ⅳ 教育実習指導案作成と模擬授業			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『英語科教育実習ハンドブック』 米山朝二・杉山敏・多田茂 大修館 2013 英語科教育法Ⅰ使用教科書：『新編英語科教育法入門』 土屋澄男著 研究社 英語科教育法Ⅰ使用教科書：『頻出英文法・語法問題1000』 (桐原書店)			
参考文献	『英語授業実例事典』 青木昭六編著、橋堂 大修館 『英語授業の組立て』 青木昭六編著、橋堂 開隆堂 『英語教育のフロンティア』 青木昭六編著、橋堂 保育出版社 『小学校英語活動アイデアバンクソング・ゲーム集』 樋口忠彦編著、橋堂 教育出版 『学校用語語彙小辞典Ⅰ・Ⅱ』 大修館 英語教育用語辞典 (大修館) ロングマン応用言語学辞典 (南雲堂) DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTIC (LONGMAN)			
備考	英語英文学科の必修科目 (1・2年次配当) を履修済みであること。学科の定めた TOEIC の基準点を満たしていること。『英語科教育法ⅠⅡ』履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語科教育法Ⅰで学習した理論や学習指導要領、4言語技能の指導の留意事項に基づき、中学/高校の教科書を利用して、指導事項の精選、指導案の作成、模擬授業の準備、模擬授業、形成的な評価、他者と自己評価等の実践を、時間が許す限り行う。教育の課題や問題点、最近の話題にも触れ、公立校教員採用試験への対策にも配慮したい。現職教員(本学卒業生を含む)との研修会「教育を考える橋の会」や現職教員の授業の研究会「英語授業研究会」への参加も推薦したい。目の前の課題をポジティブに捕らえ、考え行動出来る、実践的な教員としての資質を高める努力を、授業全期間通じて惜しまずしたい。文法のテキスト「頻出英文法・語法問題1000」(桐原書店)を、英語科教育法Ⅰに引き続き利用して、文法・語法力の養成に努める。

特にデジタル教材やICTの取り扱いについても練習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本語文・英文使用の指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等
2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習
6. 日頃から、英語教育に限らず教育問題について関心を持ち、自分なりに考えるように心がける。自分が、中学・高校の生徒であった時、英語の授業に何を期待し、どうあって欲しいと願ったか。学校教育の実態に即して、自分ならどう授業を展開してみたか、授業外でも日頃から考え、積極的に実践発表してもらいたい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

グループまたは個人での模擬授業の実施と議論。座席は、最初の講義で指定する。教師になるのだという自覚を持ち、積極的な参加姿勢で臨んで欲しい。

模擬授業終了後に、受講者全員に授業評価表を配付して、相互評価を行う。

テスト、課題の提出を求める。

『頻出英文法・語法問題1000』(桐原書店)を、英語科教育法Ⅰに引き続き利用し、文法・語法力の養成に努める。指定した範囲の文法・語法テストを課す。

2. 学習方法

研究室前の授業集や参考文献、過去に使用した教材・教具、自主作成の教材授業ビデオ等を貸し出すので、授業案作成や模擬授業実施の際に利用して欲しい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 指導案の作成；単元や本時の到達目標の作成等

2. 教材や教具等の準備
3. 副教材等の作成
4. 授業の形成評価とフィードバック
5. クラスルーム・イングリッシュの習熟練習

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業の参加度：30%
2. 指導案+模擬授業、ディスカッション、課題発表等：60%
3. レポート：10%

授業中の積極的な態度などの総合評価：2月/3月の教職課程のオリエンテーションで2年生の英語科教育法Ⅱの受講生に対して全員が模擬授業を展開する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 英語科教育法Ⅲに引き続き1人目の個人による2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第2回 2人目の個人による2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第3回 3人目の個人による2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第4回 4人目の個人による2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第5回 5人目の個人による2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第6回 6人目の個人による2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第7回 7人目の個人による2回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第8回 1人目の個人による3回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第9回 2人目の個人による3回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第10回 3人目の個人による3回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第11回 4人目の個人による3回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第12回 5人目の個人による3回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第13回 6人目の個人による3回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第14回 7人目の個人による3回目模擬授業準備と実施と振り返り
- 第15回 まとめ：各自の模擬授業の振り返り

6. Special Information (留意事項)

役員をしている非営利NPO法人主催の公立小中高校のスクールインターシップ「ドリカムスクール」や、特に教育委員会主催のスクールインターシップにも、積極的に参加して、教育現場を体験してもらいたいと思っています。自分で作成した教材を使用する：スクール・インターンシップを伴う「教材作成演習」も履修することが望ましい。

講義コード	20530301			
科目名	応用言語学 教科学習に必要な言語能力			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『学習言語とは何か：教科学習に必要な言語能力』 バトラ後藤裕子 三省堂 2011			
参考文献	『英語科教育のフロンティア』 青木昭六 編著 保育出版社 2012 『英語教育政策』 矢野安剛ほか 大修館書店 2011 『Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics (4th Ed.)』 Richards, J.C. & R. Schmidt (eds.) Longman 2010			
備考				
科目読替	205301「応用言語学Ⅰ」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

応用言語学の主要な目標は、外国語(英語)の教授・学習過程を解明し、より効果的な理論と実践についての知見を提供することである。本科目では、応用言語学の諸分野を鳥瞰しつつ、焦点を学校教育における言語(母語と外国語)の役割に当てて、教科学習に求められる言語能力とは何かを考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

本授業では、以下のテーマについて、理解を深める。

- ・「話しことば」と「書きことば」のちがひ
- ・言語能力の構成要素
- ・教科学習に必要な言語能力(=「学習言語」能力)
- ・学習言語の指導と評価

3. Course Method (教育・学習の方法)

本授業は、指定のテキストの講読を中心として進める。はじめに、教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生はテーマ毎に分担し、テキストの要約を発表し、全員で討議する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指定されたテキストの範囲や課題について、教員が予告・指示したことに

対して、受講生は担当を決めて準備し、輪番でクラス発表する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

担当を含む授業参加度 (60%) とレポート課題 (40%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロ (授業方針の説明など)
応用言語学の背景と学習言語
- 第2回 学習言語の教育的背景
- 第3回 日本とアメリカの事情
- 第4回 学習言語の定義
- 第5回 BICS と CALP
- 第6回 学習言語の構成要素
- 第7回 教科学習に必要な語彙
- 第8回 語彙力についての研究成果
- 第9回 学習言語としての書きことば
- 第10回 書きことばの特徴
- 第11回 学習言語としての話しことば
- 第12回 授業中の談話の特徴
- 第13回 音声言語能力
- 第14回 学習言語の評価
- 第15回 学習言語についてのまとめ
課題レポートについての説明

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20541101		
科目名	コミュニケーション学概論 A Introduction to Communication Studies		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	2
資格	[プ][日]		
前提科目			
テキスト	『入門コミュニケーション論』 宮原哲 松柏社 2006		
参考文献	『A First Look at Communication Theory』 Em Griffith McGraw-Hill 2011		
備考	必修		
科目読替	205410 「コミュニケーション概論」		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will survey major theories in the field of communication. The main goals of the course are (a) to facilitate the students' theoretical understanding of communication and (b) help the students develop/improve their communication competence.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- <1> Understand social scientific theories of communication
- <2> Develop objective and logical answer to the question "what is communication?"
- <3> Understand systems, processes, and influences of human communication
- <4> Develop ability to objectively and effectively monitor your own communication behaviors
- <5> Develop ability to apply your theoretical understandings of communication to practices

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course is designed to develop the student's theoretical understandings of human communication. It will also aim to increase the student's effectiveness as a communicator at the intercultural level. Achievement of these goals requires emphasis both on knowledge and practice. From the outset, the course will attempt to balance knowledge (theoretical understanding) with practical experiences, in-class exercises, and illustrative material designed to increase the student's skills.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to :

- <A> complete the weekly assigned reading materials prior to the lecture.
- complete several homework assignments during the term. Each assignment will be worth 20/25pts and will be due at the beginning of the next class period.
- <C> contribute to class discussion

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- Contribution to class discussion (20%)
- Midterm Exam (20%)
- Final Exam (40%)
- Final Paper (20%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation / Definition of Communication
- 第2回 Communication Processes / Communication Models
- 第3回 Origin of Communication / Socio-Cognitive Foundations
- 第4回 Verbal Communication
- 第5回 Non-verbal Communication
- 第6回 Perception and Communication
- 第7回 ersuasive Communication
- 第8回 Midterm Exam
- 第9回 Interpersonal Communication (1)
- 第10回 Interpersonal Communication (2)
- 第11回 Small Group Communication
- 第12回 Conflict Management
- 第13回 Intercultural Communication
- 第14回 Media and Communication
- 第15回 Communication Competence / Review

6. Special Information (留意事項)

This course will be conducted in English and English only

講義コード	20541102		
科目名	コミュニケーション学概論 B Introduction to Communication Studies		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	2
資格	[プ][日]		
前提科目			
テキスト	『入門コミュニケーション論』 宮原哲 松柏社 2006		
参考文献	『コミュニケーション学への招待』 橋本良明 大修館書店 1997 『A First Look at Communication Theory』 Em Griffith McGraw-Hill 2011		
備考	必修		
科目読替	205410 「コミュニケーション概論」		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、社会行動科学の1分野としてのコミュニケーション学の基礎を理解し、人間のコミュニケーション活動の課程と影響について理解を深めることを目的に、コミュニケーション学の諸分野である記号論、コミュニケーション哲学、対人コミュニケーション、関係コミュニケーション、グループコミュニケーション、社会的影響、メディアコミュニケーション(ジャーナリズム)、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション等について、その基礎理論を概観する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 社会科学の一分野としてのコミュニケーション学の理論的基盤と諸理論を概観すること。
- 2. 人間のコミュニケーションの成り立ち、過程、影響について理解すること。
- 3. 自らのコミュニケーション行動および能力を客観的に観察する能力を身につけること。
- 4. コミュニケーションに関する知識と理論的な理解を自らのコミュニケーション能力向上へ結びつけられるスキルを身につけること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義科目であり、指定されたトピックについて教科書を熟読し、講義を受講し、これらの活動を通して得た知識を授業内演習やディスカッションによって定着させていく方法をとる。また、講義全体を通して学習した理論的な理解を応用し、実際のコミュニケーション現象を分析することによってさらに理解を深めていく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教科書の熟読、および、自らの理論的枠組みの構築

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 出席・授業参加 (20%)
- 演習課題 (20%)
- 試験 (40%)
- 論文 (20%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入: コミュニケーションとは? / 社会科学としてのコミュニケーション学とは?
- 第2回 コミュニケーション・プロセスとコミュニケーション・モデル
- 第3回 コミュニケーションの起源 / 社会認知能力とコミュニケーション
- 第4回 言語とコミュニケーション (1)

- 第5回 言語とコミュニケーション (2)
- 第6回 非言語コミュニケーション
- 第7回 認識とコミュニケーション
- 第8回 説得のコミュニケーション
- 第9回 対人コミュニケーション (1)
- 第10回 対人コミュニケーション (2)
- 第11回 小集団コミュニケーション
- 第12回 葛藤管理コミュニケーション
- 第13回 異文化コミュニケーション
- 第14回 メディアとコミュニケーション
- 第15回 コミュニケーション能力とは (総括)

6. Special Information (留意事項)

Aセクション (Global English Course)は、講義、ディスカッション、課題の全てを英語のみで行います。

Bセクション (英語教養コース)は、原則として全て日本語で行います。

講義コード	20543201			
科目名	対人コミュニケーション Interpersonal Communication			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[プ][日][ホ][医]			
前提科目				
テキスト	Choices in Interpersonal Communication: An Intercultural Approach to Personal Encounters			
参考文献	Links to resources will be on the class Web site.			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help students understand interpersonal communication processes and become more effective and confident communicators. Each student will also strive to achieve her own personal communication goals.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Gain confidence in interpersonal encounters.
2. Understand interpersonal processes.
3. Recognize nonverbal communication patterns.
4. Improve listening skills and show empathy.
5. Improve speaking and self-disclosure skills.
6. Recognize and cope with ethical dilemmas.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. Each class will include a lecture and writing.
2. We will use KNDU email and the Web.
3. I will prepare a weekly podcast (audio).
4. Students will send email about the podcast.
5. Report: a 500-word case study and a 300-word a self-assessment in English.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read the class text.
2. Listen to the weekly podcast.
3. Send email to the instructor.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (attendance, writing) 30%, Email 20%, Report 50%.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Changing your communication behavior
- 第3回 Active listening
- 第4回 Meeting people and socializing
- 第5回 Self-disclosure and trust
- 第6回 Nonverbal communication
- 第7回 Interpersonal media
- 第8回 Conflict causes and styles
- 第9回 Conflict resolution strategies
- 第10回 Small group interaction
- 第11回 Personal beliefs and values
- 第12回 Ethics in interpersonal communication
- 第13回 Empathy and appreciation
- 第14回 A good communicator (review)
- 第15回 Evaluation and feedback

6. Special Information (留意事項)

See my Web site for more information:

<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20543401			
科目名	異文化間コミュニケーション Intercultural Communication			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英][日][ホ][医]			
前提科目				
テキスト	Changes in Intercultural Communication			
参考文献				
備考				
科目読替	205431 [異文化コミュニケーション]			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help students understand intercultural contact, appreciate cultural and individual differences, adapt to unfamiliar situations, and communicate with confidence, empathy, and integrity.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Understand identity and affiliation.
2. Identify elements of subjective culture.
3. Recognize stereotypes and prejudices.
4. Appreciate differences between people.
5. Manage intercultural anxiety and conflict.
6. Articulate important personal values.
7. Improve English communication skills.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. Each class will include a lecture and writing.
2. We will use KNDU e-mail and the Web.
3. I will prepare a weekly podcast (audio).
4. Students will send e-mail about the podcast.
5. Report: an 800-word case study in English.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read the class text.
2. Listen to the weekly podcast.
3. Send email to the instructor.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (attendance, writing) 30%, Email 20%, Report 50%.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 The study of culture
- 第3回 Intercultural contact
- 第4回 Communication on the Internet
- 第5回 Group affiliation and identity
- 第6回 Intergroup tension and prejudice
- 第7回 Outcomes of contact
- 第8回 Promoting tolerance
- 第9回 Sojourner adjustment: overview
- 第10回 Intercultural perceptions
- 第11回 Intercultural adaptation strategies
- 第12回 Empathy and world views in contact
- 第13回 Ethical dilemmas and social issues
- 第14回 Universal Declaration of Human Rights
- 第15回 Evaluation and feedback

6. Special Information (留意事項)

See my Web site for more information:

<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20543801			
科目名	コンピュータネットワークコミュニケーションA Computer-Mediated Communication (CMC)			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ウ]			
前提科目				
テキスト	Materials will be on the class Web site.			
参考文献	The class Web site will include links to examples, tutorials, and appropriate Web standards.			
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20543802		
科目名	コンピュータネットワークコミュニケーションB Computer-Mediated Communication (CMC)		
担当者	Gregory Peterson		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	Materials will be on the class Web site.		
参考文献	The class Web site will include links to examples, tutorials, and appropriate Web standards.		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

Students will learn to use the global Internet as a medium of communication in English. Topics include Internet technologies, legal and social issues, and writing skills. Each student will maintain a weekly Web log (blog) in English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Use the Internet safely and responsibly.
2. Understand legal and ethical issues.
3. Edit XHTML and CSS source files with Emacs.
4. Create accessible Web pages in English.
5. Use photographs and other media appropriately.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. We will meet in a Unix or Linux computer lab.
2. Students will maintain English Web portfolios.
3. All necessary resources will be on the Web.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read email and class Web pages.
2. Prepare weekly blog content.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Grades: participation (30%), Web logs (70%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 GNU/Linux environment
- 第2回 Managing Unix files for Web logs
- 第3回 Hypertext Markup Language (XHTML)
- 第4回 Cascading Style Sheets (CSS)
- 第5回 Using photographs in Web logs
- 第6回 Photograph editing
- 第7回 Web design for universal access
- 第8回 Web and ICT standards
- 第9回 Security and privacy
- 第10回 Ethical and legal issues
- 第11回 Online services for bloggers
- 第12回 Mobile media and citizen journalism
- 第13回 Participatory culture and youth media
- 第14回 Web log reviews
- 第15回 Course review and evaluation

6. Special Information (留意事項)

1. Class size is limited to 20 members.
2. Student Web pages are visible only on campus.
3. See my Web site for more information:
<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20543901		
科目名	マルチメディア研究 Multimedia Studies		
担当者	Gregory Peterson		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	Class materials will be available on the class Web site.		
参考文献	The class Web site will include links to current examples, tutorials, reviews, and technical information.		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

Multimedia Studies will enable you to more fully understand and appreciate digital text, photography, audio, and documentary film/video for global communication on the Internet. You will develop a critical understanding of media produced in English by learning basic principles of multimedia storytelling; media technology; and legal, ethical, and cultural issues in the use of media. We will focus on nonfiction works produced by individuals and small groups for education, journalism, and cultural exchange. The study of media will help you make sound judgments in the selection and use of media for various purposes.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Identify types and uses of media.
2. Recognize media elements and techniques.
3. Identify legal and ethical issues in media.
4. Locate, select, and analyze Internet media.
5. Use email to share links, ideas, and opinions.
6. Evaluate media content and presentation.
7. Create Web pages in HTML and CSS.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. We will meet weekly in a GNU/Linux computer lab.
2. Class sessions will include lectures, demonstrations, and practice.
3. We will share information and ideas by email.
4. Each student will create a Web portfolio that will include an essay on your use of media, reviews of media works on the Web, and a collection of digital objects such as photographs.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read class materials and notes.
2. Exchange email with classmates and the instructor.
3. Locate and review materials on the Web.
4. Prepare contents for Web portfolios.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and participation (30%), Web portfolios (70%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Storytelling with media
- 第3回 Web portfolio preparation
- 第4回 Text and typography
- 第5回 Photography and graphics
- 第6回 Sound (field recordings, interviews, narration, music)
- 第7回 Audio on the Web
- 第8回 Film and video documentaries
- 第9回 Legal and ethical issues
- 第10回 Mobile media and citizen journalism
- 第11回 Digital preservation of analog media
- 第12回 Preservation of digital media
- 第13回 Digital collections
- 第14回 Portfolio presentations
- 第15回 Review and feedback

6. Special Information (留意事項)

1. Class size is limited to 20 members.
2. All class work will be in English.
3. Student Web pages are visible only from computers on campus.
4. See my Web pages for more information: <<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>>

講義コード	20546901		
科目名	言語, 文化, コミュニケーション		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	234
資格	[英][情][ブ][ホ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『A first look at communication』 Griffin, E. McGraw Hill 2006		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では、コミュニケーションという現象の中心となる「言語」、コミュニケーションのあり方に多大な影響を与える「文化」、という二つの側面からコミュニケーションにアプローチし、そのメカニズムと現象の多様性を

考察していく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. コミュニケーションの基本的メカニズムを考察し、様々な形態のコミュニケーションの成り立ちとダイナミズムを理解する。 2. コミュニケーションにおいて言語の果たす役割を考察し、人がメッセージを受け取り理解するプロセスを理解する。 3. コミュニケーションに与える文化の影響を考察し、異文化コミュニケーションのメカニズムを理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキスト、参考文献に基づいた講義を行い、質疑応答、指定課題の理解を前提としたディスカッション等を行っていく。その他、授業内容の理解に関する試験、およびレポートの提出。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Web上に掲載する講義ノート (PowerPointスライド) をダウンロードして予習を行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席・授業参加 (20%)、個別課題 (20%)、試験 (40%)、ペーパー (20%) に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 コミュニケーションの定義
- 第2回 コミュニケーションの起源
- 第3回 コミュニケーションと記号(1): 言語記号の性質と役割
- 第4回 コミュニケーションと記号(2): 動物のコミュニケーション
- 第5回 ことばの意味の生成: 象徴的相互作用論
- 第6回 ことばの意味の伝達: 推論による意図理解
- 第7回 メッセージの役割(1): 構築主義コミュニケーション論と他者視点取得
- 第8回 メッセージの役割(2): 人中心メッセージ
- 第9回 対人コミュニケーションスキル(1): 葛藤管理
- 第10回 対人コミュニケーションスキル(2): アサーション
- 第11回 対人コミュニケーションスキル(3): 双方向議論
- 第12回 対人コミュニケーションスキル(4): 嘘と欺瞞
- 第13回 文化と認識とコミュニケーションの関係
- 第14回 異文化間コミュニケーションスキル
- 第15回 コミュニケーション能力について (総括)

6. Special Information (留意事項)

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 研究課題の設定
2. 先行研究のレビュー
3. 特定の方法論/理論的枠組みの習得
4. 理論的分析

3. Course Method (教育・学習の方法)

各領域における専門的方法論を用いて研究を遂行する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各領域における専門的方法論を習得済みであること、または、担当教員の指導を受けて習得することが準備となる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題の設定 10%
方法論の理解度 10%
最終研究成果 (論文形式) 80%

5. Special Information (留意事項)

履修登録について

条件

個別研究を履修するためには、原則として担当教員が教授する専門科目を少なくとも一科目以上履修していなければならない。

手続き

履修を希望する学生は、研究計画書を担当教員に提出し、担当教員および学科長の承認を得なければならない。研究計画書様式は教務学事課で入手すること (ただし、担当教員が別個の研究計画書の作成を指示する場合はその様式に従うこと)。

履修期間と登録について

個別研究は、各年度の前期・後期にそれぞれ集中で開講され、原則として通常の履修登録期間内に上記のプロセスを経て登録することが必要である。

ただし、研究内容によって、長期休暇 (夏休み・春休み) を利用して研究を進めることが適切であると判断される場合には、担当教員および学部長の承認を得ることによって、履修登録前に研究を開始することも可能である。この場合、夏休みを利用した研究に関してはその夏休み後の秋学期、春休みを利用した研究に関してはその春休み後の春学期に履修登録を行い、成績はそれぞれの学期末に通知される。詳しくは英語英文学科に問い合わせること。

講義コード	20547201		
科目名	個別コミュニケーション研究 I		
担当者	専任教員		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	20547301		
科目名	個別コミュニケーション研究 II		
担当者	専任教員		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

個別研究は、当該の領域の主たる科目を履修した学生が、さらに発展的な学習を進めるための科目である。個別研究を指導する学生は、①特定の研究課題を設定し、②研究計画を立て、③担当教員の指導のもとで自主的に研究を行う。原則として卒業研究と同じテーマを選ぶことは出来ないが、卒業研究の指導教員および個別研究の担当教員両方が適切かつ有益と認められた場合には、卒業研究に関連するトピックについて個別研究を行うことも可能である。

講義コード	20547401		
科目名	プレゼンテーション概論		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	234
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『実践プレゼンテーション入門』 三宅隆之 慶応義塾大学出版会 2006		
	『大学生からのプレゼンテーション入門』 中野美香 ナカニシヤ出版 2012		
	『プレゼンテーション zen デザイン』 レイノルズ, G ピアソン桐原 2010		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、現代社会におけるオーラルプレゼンテーション (パブリック・スピーキング) の重要性と方法論を理解し、実践へ応用するための素地を養うことを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. オーラルプレゼンテーションの一般的重要性や効果についての理解
2. オーラルプレゼンテーションの一般的/基本的方法論の習得
3. 様々な目的別プレゼンテーションの型の理解と、それぞれの特殊方法論の習得
4. オーラルプレゼンテーションにおける言語/非言語チャンネルの重要性と効果に関する理解
5. 情報伝達型プレゼンテーション (10-15分程度) を作成し、実演する技能の習得。

3. Course Method (教育・学習の方法)

単なる技法としてのプレゼンテーションスキルを学ぶのではなく、対人コミュニケーションの一形態としてのオーラルプレゼンテーションのあり方を理解し、効果的なプレゼンテーションを実践するための本質的原理を理解

することを旨とする。この目的の達成のため、約11週間の講義（適宜授業内での演習を含む）、および3週間の実習（グループプレゼンテーション）の組み合わせによって、オーラルプレゼンテーションの基礎的な知識と技術を身につける。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

様々な形態の準備学習が要求されるため、別途授業中に指示する。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

小レポート 25%（毎回の授業で作成）

期末レポート試験 25%

グループプレゼンテーション 30%

授業への参加/貢献 20%

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 パブリック・スピーキング概説：重要性と倫理（含オリエンテーション）
- 第2回 対人コミュニケーションとしてのプレゼンテーション：コミュニケーション論
- 第3回 プレゼンテーションの種類と目的：情報伝達/説得/調査発表/記念（ビデオ分析）
- 第4回 プレゼンテーションと聴衆：聴衆分析とリスニングスキル
- 第5回 情報の収集と管理方法： 図書館演習
- 第6回 オーラルプレゼンテーションの基本構成： 主要3要素/効果的な序論と結論
- 第7回 ログス： 妥当な議論の仕方と主張に対するサポート（根拠提示）の方法
- 第8回 エトスとパトス： 信頼性アピールと感情的アピール
- 第9回 プレゼンテーションにおける非言語チャンネル： デリバリー
- 第10回 プレゼンテーションにおける言語チャンネル： レトリックと誤謬
- 第11回 情報伝達プレゼンテーションと説得プレゼンテーションの基本
- 第12回 グループプレゼンテーション演習 (1)
- 第13回 グループプレゼンテーション演習 (2)
- 第14回 グループプレゼンテーション演習 (3)
- 第15回 総括

6. Special Information（留意事項）

プレゼンテーション実務士資格取得のための必須、および中核の科目である。

講義コード	20548201			
科目名	スピーチ I			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『SPEAKING of SPEECH』 David Harrington & Charles LeBeau MACMILLAN 2009			
参考文献	『Life Lessons for Women』 Stephanie Marston, M.EF. HCI 2010(再販) 『Inspire a Woman's Soul』 Jack Canfield,他 HCI 2010(再販) 『Working Woman's Soul』 Jack Canfield他 HCI 2010(再販)			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

スピーチの構造やスピーチの発表の方法のスキルの構築を目標とする。3種類のメッセージを理解して、ファイナル・パフォーマンスに近づけるよう努力する。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

前期はペアおよびグループ・プレゼンテーションで課題ごとの発表となる。 Reading と Writing をベースに資料収集など、役割分担で基礎的なスピーチの発表力をつける。

3. Course Method（教育・学習の方法）

スピーチの基礎を楽しく学べる。ペア、グループでストーリーを選び、輪読して、内容把握のためのディスカッション、語彙リスト、Quiz作成、発表となる。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

自分たちでチョイスしたストーリーの読み込みと発表があるので、日ごより英文になれるため、英字新聞をたくさん読むこと。映画から英米人のジェスチャーや顔の表情などを研究することを薦める。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

ペアおよびグループ活動参加と発表60%、小テスト（語彙）20% 提出物20%

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 Orientation/Introduction for Speech Class
- 第2回 How to read and how to make a presentation
- 第3回 Unit 1 Posture & Eye Contact
- 第4回 Unit 1 the foundation of the Physical Message
- 第5回 1Unit 2 Gestures
- 第6回 Unit 2 Support your words with the Physical Message
- 第7回 Unit 3 Voice Inflection emphasize key words to help the audience remember
- 第8回 presentation 1 Report 1
- 第9回 Unit 4 Effective Visuals
- 第10回 Unit 5 Explaining Visuals
- 第11回 Summing Up
- 第12回 Unit 6 The Introduction - engaging the audience from the start
- 第13回 Unit 7 The Body - using evidence and transitions
- 第14回 Unit 8 The Conclusion - simple formula for summarizing your presentation
- 第15回 Final Presentation Report 2

6. Special Information（留意事項）

前期、後期通年での受講が効果的であるが、半期のみも可能。 注意：通年登録ではなく、前期はI、後期はIIで、登録すること。

講義コード	20548301			
科目名	スピーチ II			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『The Devil Wears Prada』 Aline Brosh McKenna 松柏社 2016 Communicate in English with The Devil Wears Prada Speech Makingとして使用するテキストとしては画期的な試みです。			
参考文献	『Inspire a Woman's Soul』 Mark Victor Hansen HCI 2010(再販) 『Volunteer's Soul』 Mark Victor HCI 2010(再販)			
備考	定員30人 [スピーチ] 履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

前期に学習したSPEAKING of SPEECHの手法を実践する。今回は前年度のベストセラー「チキン・スープ」とは異なり、女性のサクセル・ストーリーを映画「プラダを着た悪魔」のDVDと台本から、チャプター毎に内容に関連するスピーチ発表となる。発表のスキルの改善と流暢さを磨く。語彙の構築にも励む。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

Reading と Writing をベースに資料収集など積極的にすること。プレゼンテーションはレシテーションとペーパーなしの発表となるのでよく準備し、事前の練習が必要となる。

3. Course Method（教育・学習の方法）

後期は個人プレゼンテーションが主体となるが、事前のディスカッション及び、輪読やquizづくりはペアまたはグループで行う。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

クラスは原則として、すべて英語で展開する。講義も発表も英語である。日ごより、簡単な表現を口にするようこころがける。ジェスチャーなど、豊かな表現力を身につける。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

ペアpresentation 30%、個人presentation 30% 内容語彙チェックテスト 20% 提出物 20%

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 Orientation
- 第2回 Special Moments Watching the movie
- 第3回 1. Job Interview
- 第4回 2. First Day on the Job
- 第5回 3. Hurricane on the Weekend
- 第6回 4. Andy's Makeover
- 第7回 5. Andy Meets Christian
- 第8回 6. Miranda's Request

- 第9回 7. Nate's Birthday
- 第10回 8. Andy's Decision
- 第11回 9. Breakup with Nate
- 第12回 10. The Dream Job
- 第13回 11. Announcement at the Party
- 第14回 12. Andy's Final Choice
- 第15回 Summing Up

6. Special Information (留意事項)

前期、後期通年での受講が効果的であるが、半期のみも可能。 注意：通年登録ではなく、前期はI、後期はIIで、登録すること。

講義コード	20561201			
科目名	同時通訳入門A			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	Textbookなし 独自の教材を毎回配布する。			
参考文献				
備考	定員48人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20561202			
科目名	同時通訳入門B			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	Textbookなし 独自の教材を毎回配布する。			
参考文献				
備考	定員48人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

通訳を志し、いずれは通訳者になるという憧れをもって外国語学習にはげている人々が多い。このクラスでは、初めて通訳訓練の学習に取り組む。通訳とは、なにかを理解し、基本的な通訳訓練を通して総合的な英語運用力のアップも目標とする。同時に英語・日本語のVoice Trainingもおこなう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 英語力 (Listening Comprehension, Speaking, Building Up Vocabulary)
2. 日本語力の強化
3. 通訳の歴史、日本での発展
4. 通訳の種類
5. 通訳者に求められるもの
6. LL装置を使った通訳訓練

3. Course Method (教育・学習の方法)

単語レベルでの発話訓練、数字の訓練、NHKの二ヶ国語放送、CNNニュースなどから、通訳の基本的な訓練のシャドウイング、プロソディ、新聞、雑誌の記事、会議からのプリントを使用(特定教科書なし)し、ゆっくり丁寧に、基礎力をつける。自宅で復習し練習をすることが大切である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

NHK 2ヶ国語放送のニュースの後追い声だし練習をしておくこと。新聞、書物は音読をこころがける。旧約聖書、ギリシャ神話など、漫画でもよいので、目をとす。英語のリズムに慣れるため、歌、映画などで、歌詞、台詞の声だし練習をする。アンドロイド、I-POD,i-PAD,から、nprでMORNING NEWSを聞く。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席、授業中の態度(熱意)、意欲的な取り組み、単語テスト、筆記テスト、オラルテストなどを総合して評価する。通訳の仕事に必要な前向きな性格とやる気で取り組む。

小テスト20% オラルテスト30% プレゼンテーション30% 提出物20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation & Introduction
- 第2回 Interpretation VS Translation
- 第3回 Voice Training in Japanese
- 第4回 Voice Training in English
- 第5回 Mother Goose I
- 第6回 Numbers I

- 第7回 Movie
- 第8回 Story / Tale
- 第9回 Newspaper
- 第10回 Mother Goose II
- 第11回 Numbers II
- 第12回 Sightseeing
- 第13回 Sightseeing
- 第14回 Presentation I
- 第15回 Presentation II

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20565001			
科目名	外国語としての日本語 日本語のことをもっと知りたい			
担当者	三原 健一			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	毎回プリントを配布する。			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考	定員30人			
科目読替	205698 [外国語としての日本語]			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語を「国語」として見るのではなく、諸言語の中の一言語として見ることによって初めて、日本語という言語の特徴を知ることができる。客観的に日本語を考察するという視点は、日本語を母語としない学習者に日本語を教える際には特に重要である。

本授業では日本語を中心に見るが、それと同時に、日本語と英語を対照させることによって、日本語の「より深い姿」を知ることが目標としている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

現代日本語(と英語)について、(1)世界の言語と日本語、(2)音声、(3)語、(4)方言、(5)関西方言、(6)文法、(7)意味の観点から考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

プリントを配布し講義形式で行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回の授業後に指示した内容について考察してくること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席・平常点(20%)及び試験(80%)の総合評価とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序説-外国語としての日本語
- 第2回 世界の言語と日本語
- 第3回 音声(1): 日本語の音声の特徴
- 第4回 音声(2): 日本語と英語の音声
- 第5回 語(1): 日本語の語(word)の構造
- 第6回 語(2): 日本語と英語の語(word)の構造
- 第7回 方言(1): 「ものの言い方」の差から方言を考える
- 第8回 方言(2): 関西方言について
- 第9回 文法(1): 日本語の統語構造
- 第10回 文法(2): 日本語と英語の統語構造
- 第11回 文法(3): 世界の言語と日本語の統語構造
- 第12回 意味(1): 日本語の情報構造
- 第13回 意味(2): 日本語の語彙と意味
- 第14回 意味(3): 意味と人間の認知
- 第15回 日本語に関する基礎知識の総まとめ

6. Special Information (留意事項)

毎回プリントを配布するので「予習」はできないが、必ず「復習」をすること。

講義コード	20565201			
科目名	子ども英語のための音声指導			
担当者	西 美都子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Enjoy! Phonics 1』 吉田晴世 受験研究社 2016年			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

平成27年に文科省が小学校における外国語教育について、

- ①アルファベットの文字や単語などの認識、
 - ②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づき、
 - ③語順の違いなど文構造への気づき等を促す指導を行う
- と公表した。それを踏まえて、子供たちが正しく読めるようにためにはどのように指導すればよいか、その指導法を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語は日本語とは違う音がたくさんある言語であるため、英語独特の音に慣れておくことで、様々な英語学習が効果的に、スムーズに進む。その土台となる音声指導法(フォニックス=「音」と「意味」と「文字」の関係性を学ぶ)のルールを理解し、子供たちに指導できるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

意味を理解し、正しく発音できる単語であれば、音を聞いて正しく綴ることができる。そのためには正しい発音をたくさん聞くことが必要である。日本では、英語の音声に触れる機会が圧倒的に少ないので、テキストや音源を使いながらフォニックスのルールを理解し、その定着につなげていく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキスト、授業時に配布するプリントの予習、復習を毎時行い授業に参加すること。

また、発表活動時においては十分な準備をして発表に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 30%

小テスト 10%

発表 20%

中間、期末 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit1 The Alphabet
- 第3回 Unit2 Phonics Alphabet
- 第4回 Unit3 Consonants
- 第5回 Unit4 Short Vowels
- 第6回 Unit5 Silent e
- 第7回 Unit6 Polite Vowels
- 第8回 Unit7 Consonant Digraphs
- 第9回 Unit8 Vowel Digraphs
- 第10回 Unit9 Consonant Blends
- 第11回 Unit10 Murmuring Vowels
- 第12回 Presentation1
- 第13回 Presentation2
- 第14回 Review1
- 第15回 Review2

6. Special Information (留意事項)

発表活動の日程、Review 1の日程については授業の進行状況に併せて調整する。

講義コード	20566001			
科目名	スクールインターシップ 小学校の外国語活動の授業実践準備と実施			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集-』 樋口編著、橋堂、金山 教育出版 『ONE WORLD Kids, アントコース, バードコース』 樋口編著、橋堂、教育出版 『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省：開隆堂 『小学校からの外国語教育』 樋口編著 研究社 『英語教育のフロンティア』 青木昭六編著、橋堂 保育出版社 『小学校英語教育の進め方』 岡秀夫・金森強 成美堂 Hi, Friends! I・II, 英語ノートI・II、小学校からの外国語教育(研究社) 小学校英語活動実践の手引き(文部科学省：開隆堂) 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集- (教育出版) 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集- (教育出版) 実践編：ONE WORLD Kids, アントコース, バードコース、(教育出版)			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

英語の授業実践なので、TOEIC 450点以上が望ましい、前提科目として「子供の為の英語教育」か「児童英語教育」を履修済みの事。教職課程/塾講師希望の3年生以上の学生の履修が望ましいが、2年生の履修も積極的なインターシップ参加希望ならば問題はない。

公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や(特区指定や研究指定校の)公立小学校における教科としての英語を指導するための必要な知識と技能を身につける。特に公立小学校での「外国語活動」の望ましい指導法をその教材作成を通して、考案・実践できるように演習を行う。その教材作成には、従来の副教材作成以外に、パワーポイント等を利用した電子黒板を利用したICT教材の作成と利用も含む。 1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」とそれ以外の英語教育のねらいと指導実践の方法を理解し、その指導案を書くことができる。 2.「外国語活動」の模擬授業あるいはインターシッププログラムで実際に授業ができる。 3.小学校英語指導のために必要な、正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアログを習得する。 4.小学校英語授業で使われる教材とそれを使った授業を見たとき、その善し悪しが判断でき、改善案を作ることができる。 5. 英語ノートに沿った教材あるいは先進的な私立小学校で開発されたデジタル教材のその作成における理論を学ぶ。理論編では、学習指導要領の小学校の外国語活動の内容を踏まえて、授業実践を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と教材作成の基礎理論を学ぶ。次に、小学校の英語活動や外国語活動で使用する英語教育の授業で使用する副教材の作成をし、模擬授業の訓練をした上で、その作成教材を利用して、公立/私立の小学校で実際の授業実践に生かす経験をする事を目指す。この授業で作成した教材や指導実践したアクティビティーは、中学校の教育実践にも生かせるものとした。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

小学校の英語活動の以下の教材作成とその活用が中心になる。①ストーリーテリング出来る紙芝居やピクチャーブック、エプロンシアター、英語の歌を利用した教材、チャンツ、ライム、フォニックス、様々なオーディオビジュアルエイズやカードなど。 ②個人/グループで作成した教材は、模擬授業をした上で、実際の小学校などの指導の経験に生かす。

3. Course Method (教育・学習の方法)

①理論編：小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論を学ぶ。

②指導方法の理解と模擬授業 ③実践編：個人/グループの教材作成。 ④実践編：公立/私立の小学校で実際の授業実践 1. この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、指導案例 自己紹介(名前、挨拶、出身、誕生日)およびフォニックスジングルの指導の体験と英語練習 自己紹介(既習のことに加えて、好きなこと、もの、趣味など)の指導の単元構成、復習の仕方 およびチャンツと歌の活用について体験と英語練習 2. 数、形、色、朝食(昼食)のメニュー、文化比較や自己表現と絡めてこのトピック

クと指導に必要な英語表現の練習、教材の収集と加工 3.絵本の活用と実習、教材の作成と提示 これまでにてできた、指導方法の実習、指導に必要な英語の練習 4.1時間の指導の組み立て方、指導者と指導形態、マルチメディア教材およびICTの活用方法 5.指導に必要な教案作成、模擬授業準備 6.サンプル授業視聴、模擬授業準備 色やそれにかためたもの(動物、食べ物、衣服他)の学習を含む授業 模擬授業 朝食もしくは昼食のメニューについての学習を含む授業 模擬授業 読みきかせの学習を含む授業 模擬授業 時刻やスケジュールの学習を含む授業 模擬授業 動作動詞(スポーツ、お手伝い、一日の行動)の学習を含む授業 模擬授業 数字や方向の学習を含む授業 模擬授業 季節と季節の行事の学習を含む授業 模擬授業 文字の指導とフォニックスの学習を含む授業 まとめと課題 ディスカッション

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
毎回の授業における教材の作成+指導案+模擬授業の準備等
公立小学校やND小学校の授業見学やスクールインターンシップは、相手先の小学校のスケジュール等で授業計画通りに進まない場合がある。
外国語活動のワークショップを土曜日や日曜日に実施し(出席を要する。)インターンシップの授業準備に充てる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

TOEIC 450点以上が望ましい、前提科目として「子供の為の英語教育」か「児童英語教育」を履修済みの事。

1. 積極的な授業への参加(科目の特質上、特に重視する。欠席を減点法で評価する。)
 2. 教材の作成+指導案+模擬授業(30%)
 4. 公立/私立の小学校で実際の授業実践と事後の評価と反省(30%)
 5. 教材作成や授業実践に対する積極的な態度(40%)
- などの総合評価

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1. 理論編:小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論(橘堂担当) テキストや資料利用、教材作成演習 学習指導要領 総合学習 英語活動 小中高の外国語
- 第2回 2. 学習指導要領 英語活動と外国語活動の相違と実践
- 第3回 3. 土曜日: 外国語活動ワークショップ(予定)
- 第4回 4. 土曜日: 外国語活動ワークショップ(予定)
- 第5回 5. 実践編: 個人/グループの教材作成(橘堂)、インターンシップ準備
- 第6回 6. 実践編: ノートルダム小学校外国語活動授業見学
- 第7回 7. ICT利用のデジタル教材作成演習①ND小学校: 行田校長先生
- 第8回 8. ICT利用のデジタル教材作成演習②ND小学校: 行田校長先生
- 第9回 9. 土曜日: 外国語活動ワークショップ(予定) インターンシップ準備
- 第10回 10. 土曜日: 外国語活動ワークショップ(予定) インターンシップ準備
- 第11回 11. 演習⑥(上記参照) インターンシップ準備
- 第12回 12. 大阪市立関目東小学校(ユネスコスクール)① インターンシップ
- 第13回 インターンシップ授業実践の事後の評価と反省、次回のインターンシップへのフィードバック
- 第14回 14. 大阪市立関目東小学校(ユネスコスクール)② インターンシップ②
- 第15回 15. まとめ 授業実践と事後の評価と反省*これ以降、実践編: 授業見学と英語活動・外国語活動インターンシップ: 大阪教育大学附属平野小学校とノートルダム小学校: 行田教頭先生実施 スクール・インターンシップ実施

6. Special Information (留意事項)

特に、作成教材を利用した公立/私立の小学校での授業実践の際には、ご迷惑の無いようしながら、教材作成、模擬授業、特に授業実践では、楽しみながら真剣に取り組んで欲しい。(学生課で傷害保険500円程度加入必要: 教育実習、介護等体験、総合演習等で既に加入している場合は不必要) 橘堂の関わるNPO法人JAE主催の産学連携「ドリカムスクール」インターンシップや、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を説教的に経験してもらいたいと思っています。他にも、以下の英文学科の英語教育領域の開講科目: 公立小学校の英語活動科目: 「こどものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」も履修することが望ましい。

講義コード	20569001			
科目名	同時通訳法 I			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	『TOEIC150点アップを目指す通訳訓練法』 越智美枝 大阪教育図書 2010			
参考文献	『新アメリカ文化事典』 森美恵子 他 成美堂 2000			
備考	定員20人 TOEIC500点前後、又は「同時通訳入門」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろうか。通訳をいろいろな角度から観察し、解剖してその中身を覗いて見よう。また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力をもっていると言われる。このクラスでは、実際の通訳訓練法を取り入れ、受講生の英語力を養成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 英語力 (Listening Comprehension, Speaking, BuildingUp Vocabulary)
2. 日本語力の強化
3. 通訳事例の鑑賞と分析 (同時通訳、逐次通訳、時差通訳)
4. Slashreading, shadowing, quickresponse
5. 通訳のプロセス
6. 通訳と翻訳の違い

3. Course Method (教育・学習の方法)

新聞、雑誌、BS放送、テレビなどからの記事を使って通訳の基本的なトレーニングを行う。現場の通訳に役に立つ実際に使われた教材で、必要な語彙を強化する。前向き志向で自分の意見を日本語でも英語でももしっかり主張できるように学習する。復習を十分にすること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

音読を常にこころがける。速読、多読をする。(対訳本を推薦) 新聞、雑誌の記事の要約練習、サイトラをする。映画の字幕声だし。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中の意欲的な取組み、単語テスト、筆記テスト、オーラルテスト、通訳テストなどの結果を総合して評価する。
授業参加度30% 小テスト10% オーラルテスト30% プレゼンテーション30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation & Introduction
- 第2回 Unit 1
社会 (自己紹介)
- 第3回 Unit 2
社会 (家族)
- 第4回 Unit 3
教育 (大学生生活)
- 第5回 Unit 4
教育 (留学)
- 第6回 Unit 5
社会 (ファッション)
- 第7回 Unit 6
医療 (メタボリック症候群)
- 第8回 Presentation Trial
- 第9回 Unit 7
日本文化 (アニメ・漫画)
- 第10回 Unit 8
教育 (ボランティア活動)
- 第11回 Unit 9
社会 (長寿社会)
- 第12回 Unit 10
国際交流 I (実践演習)
- 第13回 Unit 11
日本文化 (伝統的な行事) または環境 (地球温暖化)
- 第14回 Presentation for Summing Up
- 第15回 Presentation for Summing Up

6. Special Information (留意事項)

同時通訳の訓練はTOEICのスコアをupします。

できれば、TOEIC III の履修と併用して、TOEICスコアを600から700以上を目指すことを薦めます。

講義コード	20569101			
科目名	同時通訳法Ⅱ			
担当者	森 美恵子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医]			
前提科目				
テキスト	独自の教材を毎回配布			
参考文献				
備考	定員20人 TOEIC550点以上、又は「同時通訳法Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

世界の出来事が日常洪水のようにメディア情報で流れる昨今、我々は互いに理解し、国際的に協力し合って人類の平和と安定、繁栄を求めていかなければならない21世紀である。大切な国際交流の場になくはならないのが言葉であり、諸処の分野で、より高度な通訳者の活躍が求められている。このクラスでは入門・基礎のクラスを終了し、興味が増し、もっと通訳技能を学んでみたいと思う人を対象とする。英語・日本語のvoice Trainingも同時におこなう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 英語力 (Listening Comprehension, Speaking) 日本語力の強化、語彙増強
2. 一般常識、専門知識を増やす
3. 通訳者の諸知識と心得
4. 相手をひきつける話し方の研究
5. 逐次、同時通訳の実践

3. Course Method (教育・学習の方法)

スピーカーテープ、新聞、雑誌、BS放送、CNNテレビなどからの記事を使って通訳の基礎強化をする。時事問題を知り、必要な語彙を増やす。自ら時事問題に対して、意見を持ち日本語でも英語でもしっかり主張できるように学習する。復習を十分にすること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

TOEIC 600.700 を目標に音読しながら、書いていく。

アナウンサーの訓練、PCのスキル、所作を磨く。すべて英語磨きに通ずる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席、授業中の態度、意欲的な取り組み、単語テスト、筆記テスト、オラルテスト、通訳テストなどの結果を総合して評価する。特にやる気と熱意が必要である。

授業参加度30%、小テスト10%、プレゼンテーション 2回 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation / Introduction
- 第2回 Newspaper
- 第3回 Announcement
- 第4回 International Conference I
- 第5回 International Conference II
- 第6回 Plant Tour
- 第7回 International Operator
- 第8回 Flight / Cabin Attendant
- 第9回 Super Presentation
- 第10回 Super Presentation
- 第11回 NPR
- 第12回 NPR
- 第13回 NPR
- 第14回 Presentation I(Summing Up)
- 第15回 Presentation II(Summing Up)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20600101			
科目名	Global English Colloquium I Public Speaking & Debate			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[プ]			
前提科目				
テキスト	『The Art of Public Speaking (10th ed.)』 Lucas, S. E McGraw-Hill. 2010			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course is designed to develop the student's basic skills in public speaking and debate in English as a second language. It will also attempt to increase the student's effectiveness as a communicator at the intercultural level. Achievement of these goals requires emphasis both on knowledge and practice. From the outset, the course will attempt to balance knowledge with practical experiences, in-class exercises, and public speaking sessions.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

By the end of this semester, you should know:

- 1) How to prepare informative speech/presentation
- 2) How to perform informative speech/presentation
- 3) How to organize & hold debate

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1) Discussion Leader

Each student will be leading discussion on a designated topic (based on reading materials) at least once a semester. You will briefly summarize the chapter and then lead discussion focusing on some important issues. Each discussion will be for around 30 minutes.

(2) Individual Speech

After studying fundamentals of public speaking, you will be giving a public speech (informative speech) in front of the class. The speech should be 7 ~ 7 1/2 minutes long, and need to be accompanied with visual aid (PowerPoint, etc.). Further instructions will be given as the semester goes on.

(3) Team Debate

After leaning fundamentals of argumentation/persuasion and conducting practice sessions, you will compete in a formal debate session. The format will be "team debate", and the audience will evaluate and judge the debate. Further instructions will be given later in the semester.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected complete the assigned readings and prepare for individual speech & team debate.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Discussion leader 30%
Contribution to discussion 20%
Individual Speech 30%
Critical

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Preliminary SPEECH
- 第3回 Effective Presentation
- 第4回 Introduction to Informative Speech
- 第5回 Audience Analysis
- 第6回 Supporting Ideas
- 第7回 Organization of the Speech
- 第8回 Beginning and Ending of the Speech
- 第9回 Outlining the Speech
- 第10回 Vidual Aids
- 第11回 Impression Management
- 第12回 Delivery
- 第13回 Review
- 第14回 SPEECH: Day 1
- 第15回 SPEECH: Day 2

6. Special Information (留意事項)

This course is designed for the Global English Course students.

講義コード	20600201			
科目名	Global English Colloquium II Public Speaking & Debate			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Art of Public Speaking (10th ed.).』 Lucas, S. E McGraw-Hill. 2010			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course is designed to develop the student's basic skills in public speaking and debate in English as a second language. It will also attempt to increase the student's effectiveness as a communicator at the intercultural level. Achievement of these goals requires emphasis both on knowledge and practice. From the outset, the course will attempt to balance knowledge with practical experiences, in-class exercises, and public speaking sessions.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

By the end of this semester, you should know:

- 1) How to prepare informative speech/presentation
- 2) How to perform informative speech/presentation
- 3) How to organize & hold debate

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1) Discussion Leader

Each student will be leading discussion on a designated topic (based on reading materials) at least once a semester. You will briefly summarize the chapter and then lead discussion focusing on some important issues. Each discussion will be for around 30 minutes.

(2) Individual Speech

After studying fundamentals of public speaking, you will be giving a public speech (informative speech) in front of the class. The speech should be 7 ~ 7 1/2 minutes long, and need to be accompanied with visual aid (PowerPoint, etc.). Further instructions will be given as the semester goes on.

(3) Team Debate

After learning fundamentals of argumentation/persuasion and conducting practice sessions, you will compete in a formal debate session. The format will be "team debate", and the audience will evaluate and judge the debate. Further instructions will be given later in the semester.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected complete the assigned readings and prepare for individual speech & team debate.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Discussion leader 30%

Contribution to discussion 20%

Individual Speech 30%

Response to Guest Lectures 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Critical Thinking (1)
- 第3回 Critical Thinking (2)
- 第4回 Persuasion 1: Organization / Claims
- 第5回 Persuasion 2: Policy Claim
- 第6回 Persuasion 3: Methods
- 第7回 Persuasion 4: Reasoning
- 第8回 Persuasion 5: Definition
- 第9回 Persuasion 6: Social Psychology of Persuasion
- 第10回 Persuasion 6: Case Study
- 第11回 Persuasion 7: Case Stud
- 第12回 Debate (1)
- 第13回 Debate (2)
- 第14回 Speech Day 1
- 第15回 Speech Day 2

6. Special Information (留意事項)

This course is designed for the Global English Course students.

講義コード	20600501			
科目名	海外留学事前指導			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

グローバル英語コース生を対象とし、必修である海外留学の事前指導を行う。まず、留学中に渡航先の教育機関で行う日本文化紹介プレゼンテーションの準備を行う。次に、留学先の文化事情をリサーチし、地域研究を行う。最後に、渡航前の事務的な準備、異文化適応のための準備、等、留学前段階の準備を演習として行う。

留学を単なる語学研修ではなく、異文化コミュニケーションの実地訓練、および日本人としてのアイデンティティならびに日本文化への理解を深める場として捉え、留学が表面的な学習に留まらないよう本質的な準備を行う事が目的である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 自己紹介及び日本文化紹介を英語で行う力を身につける。
2. 留学先の文化事情について英語で議論する力を身につける。
3. 渡航前の事務的な準備及び心構えについて学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

グループワークを中心としたプレゼンテーション、及び、留学先で遭遇するであろう状況をシミュレートしたロールプレイを用いた演習を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うため、パワーポイントについての知識も身につける必要がある。日本文化や留学先の文化事情を詳しくリサーチすることが求められる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

プレゼンテーション60%

ディスカッション40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 海外留学にむけて
プレゼンテーションのグループ分け&準備学習
- 第2回 日本文化プレゼンテーション1 & ディスカッション
- 第3回 日本文化プレゼンテーション2 & ディスカッション
- 第4回 海外生活シミュレーション&ロールプレイ「自己紹介と他己紹介を中心に」
- 第5回 海外生活シミュレーション&ロールプレイ「海外生活を中心に」
- 第6回 留学先の文化事情紹介&ディスカッション
- 第7回 渡航前事前準備

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20600601			
科目名	海外留学事後指導			
担当者	杉村 美奈			
単位数	1	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	全7.5コマ			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目はグローバル英語コース生を対象とし、必修である海外留学の事後指導を行う。留学中の英語学習、異文化適応、グローバル視座の構築について評価し、留学後の学習/学生生活計画を行う。こうした評価を基に、留学体験や成果について、留学前の下級生に対して英語でプレゼンテーションを行う事が最終課題となる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 留学先で学んだ内容を英語で議論する。
2. 留学先の文化事情について英語で議論する。

3.上記1、2を含む全体的な留学の成果を留学前の下級生に対して英語でプレゼンテーションする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

グループワークを中心としたプレゼンテーション、及び、留学先で実際に遭遇した状況をもとにロールプレイを用いた演習を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

留学先での学びや体験及び文化事情などを英語で議論できるように、普段から物事を論理的に説明する習慣を身につけるよう心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

プレゼンテーション 60%

ディスカッション 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 海外留学を終えて
(それぞれの留学体験について全体的なディスカッション)
- 第2回 海外留学プレゼンテーション準備学習
(留学先での学びについて)
- 第3回 海外留学プレゼンテーション準備学習
(留学先での文化事情について)
- 第4回 プレゼンテーション中間報告
(フィードバック、ディスカッション)
- 第5回 留学前下級生に向けてのアドバイス
(留学前にリサーチしておくべき留学先大学の事情)
- 第6回 留学前下級生に向けてのアドバイス
(留学前にリサーチしておくべき留学先の文化事情)
- 第7回 留学前下級生に向けての海外留学プレゼンテーション
(留学先での成果発表)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20601101			
科目名	Global English Lecture I a Assessing Current Events in English			
担当者	フレストルイス ハウザー			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英][ブ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	The Japan Times online, NHK World English, BBC News, The Economist (London), as well as books, magazines, scholarly journals, etc. Some relevant printed material may be distributed during class.			
備考				
科目読替	205696 「時事英語Ⅰ」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

We will assess a variety of current topics concerning Japan as well as the international community. Students are expected to develop an aggressive attitude to the topics under discussion and to assert individual opinions in an informed, articulate, and professional manner.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Course goal: to nurture citizens capable of critical thinking. Students should expect to complete this course with enhanced reading, writing, presentation, and cognitive skills (which will aid students in international academic environments). A professional standard will be applied to all aspects of the course.

3. Course Method (教育・学習の方法)

A variety of methods will be employed during our course, primarily reading and writing. Note-taking, question-asking, group discussion, argumentation, and individual presentation will be used to assist in the preparation of written work. All written work must conform to MLA research guidelines for research papers. Proofreading, editing, and revision skills will be introduced.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to keep abreast of current topics under class discussion, as well as timely submission of written work.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Two Response Papers (25% each), One Position Paper (25%). In English and may be revised for higher or full score. Class participation, performance, assertiveness, presentation, etc. (25%).

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation to class style, grading, goals, written assignments, research skills, bibliographic methods, etc.

- 第2回 How to assess topics for discussion (fact, value, policy).
- 第3回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第4回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第5回 Guided group discussion, preparation, presentation
Response Paper #1 due
- 第6回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第7回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第8回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第9回 Guided group discussion, preparation, presentation
Response Paper #2 due
- 第10回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第11回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第12回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第13回 Guided group discussion, preparation, presentation
Position Paper #1 due
- 第14回 Guided group discussion, preparation, presentation
- 第15回 Final notes, comments, and closure

6. Special Information (留意事項)

Students generally appropriate the topics and determine the pace of the course. Students are expected to attend all class meetings (medical and/or family emergencies excepted).

講義コード	20601201			
科目名	Global English Lecture I b 英語圏文化実践講座			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	Print プリント			
参考文献				
備考	定員30人			
科目読替	205098 「加チルリスデーズワークショップ」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to familiarize students with the culture of English speaking countries especially the U.K., by actual practices such as making English tea, so that they will gain a deeper understanding of the nation and its culture.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The course will provide an overview and in-depth introduction to British history through films and reading materials in English. Students will also have chances to practice English culture.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Students will study the history of Britain. Students will often work and discuss in groups. In this way, they can gain a greater understanding of the British culture and language.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to attend classes regularly and to complete all assignments.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation (30%)

Report (20%)

Examination (50%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation オリエンテーション
- 第2回 How do you say 「英国」 in English? 英国を英語で言うと?
- 第3回 U.K. as a Nation 英国という国
- 第4回 Pre-history イギリスの歴史 (先史時代から)
- 第5回 Anglo-Saxon Invasion アングロサクソン侵略
- 第6回 Medieval Period and the Reign of the Tudors 中世とチューダー朝
- 第7回 Anne of the Thousand Days 「1000日のアン」
- 第8回 A Book Jacket or a Box ブックカバーもしくはカルトナージュ実習
- 第9回 Stained Glass ステンドグラス実習
- 第10回 A Christmas Wreath クリスマスリース実習
- 第11回 A Handful of Dust 「ハンドフルオブダスト」
- 第12回 English Sense of Class and Humor イギリス風階級意識とユーモア
- 第13回 English Tea and Recipe イギリスのお茶とレシピ

- 第14回 Tea Partyティーパーティー実習
第15回 Feedback, etc. フィードバックとその他

6. Special Information (留意事項)

The language of the course is mainly English but students not in Global course are welcome. Students will have to pay about 5,000 yen for materials. この授業は基本的には英語で行うがグローバル以外の学生も歓迎である。但し、実習材料費5,000円程度必要である。

講義コード	20601301			
科目名	Global English Lecture I c Intercultural Communication and Adjustment			
担当者	Gregory Peterson			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	Changes in Intercultural Communication			
参考文献	References will be available online.			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will help students understand intercultural contact, adapt to unfamiliar situations, prepare for overseas living, and communicate with confidence, empathy, and integrity.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Understand identity and affiliation.
2. Identify elements of subjective culture.
3. Recognize stereotypes and prejudices.
4. Appreciate diverse worldviews and lifestyles.
5. Develop strategies for sojourner adjustment.
6. Articulate important personal values.
7. Improve English communication skills.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. The class will be conducted in English.
2. Class sessions will include group discussions.
3. Students will exchange email in English.
4. Final projects will focus on global issues.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read the class text.
2. Exchange email in English.
3. Read and listen to online materials.
4. Plan and create final projects.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Participation (attendance, discussion) 30%, email 20%, projects 50%.

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Views of culture
- 第3回 Intercultural effectiveness
- 第4回 Global participatory culture
- 第5回 Group affiliation and cultural identity
- 第6回 Intergroup tension and prejudice
- 第7回 Outcomes of contact
- 第8回 Tolerance and mediation
- 第9回 Sojourner adjustment: overview
- 第10回 Sojourner adjustment: negative experiences
- 第11回 Sojourner adjustment: coping strategies
- 第12回 Empathy and worldviews
- 第13回 Ethical dilemmas
- 第14回 Universal Declaration of Human Rights
- 第15回 Final projects, evaluation

6. Special Information (留意事項)

See my Web site for more information:

<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>

講義コード	20602101			
科目名	Global English Lecture II a Comparative Culture Studies			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト	『American Perspectives: Readings on Contemporary U.S. Culture』 Maryanne Datesman, JoAnn Crandall, Edward N. Kearny Pearson 2014			
参考文献備考				
科目読替	205052 「日米比較文化(外国事情を含む。)」			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

The aim of this course is for students to gain a deeper understanding of both Japanese and American culture through cross-cultural comparison. The course will begin with an introduction to culture and its various dimensions. Students will then be introduced to a different aspect of culture each week and explore the differences between the two countries.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students are expected to be attentive to all lectures and take careful notes on their contents. Students will also be encouraged to ask questions and offer their own opinions when appropriate.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This lecture course will be conducted entirely in English. Handouts and slideshow presentations will be provided.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to complete reading assignments before each session. Students may also be asked to research the topics beforehand.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Final Exam 60%

Class Preparation 20%

Class Participation 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to Cross-Cultural Studies
- 第2回 Traditional Values and Beliefs
- 第3回 Religion
- 第4回 Business and the Economy
- 第5回 Politics and the Electoral Process
- 第6回 Status of Minorities
- 第7回 Education
- 第8回 Sports and Leisure
- 第9回 Family Structure and Child Raising
- 第10回 Gender Roles
- 第11回 Health and Welfare
- 第12回 Law and Order
- 第13回 Food and Diet
- 第14回 Popular Culture
- 第15回 Review

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20602201			
科目名	Global English Lecture II b (未定)			
担当者	(未定)			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献備考				
科目読替	205101 「フェミニズム文化論」			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20603101			
科目名	Global English Lecture III a English Readings in Japanese Culture			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『Religion in Contemporary Japan』			
参考文献				
備考				
科目読替	205680 『英語で学ぶ日本文化』			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This class provides an introduction to contemporary Japanese religion. The language of instruction is English.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The course will emphasize reading and discussion. It will be especially appropriate for advanced students who both are interested in the topic and wish to use English at a high level.

3. Course Method (教育・学習の方法)

Most of each class will be devoted to comprehension-checking and discussion in groups. This is not a lecture course.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students must do all the assigned reading according to the teacher's instructions.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and classroom performance : 30% Midterm : 25% Final exam : 45%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Am I Religious?
- 第2回 Introduction to Some Main Themes
- 第3回 Religious Activities
- 第4回 Kamis, Buddhas, and Ancestors: First half of the chapter
- 第5回 Kamis, Buddhas, and Ancestors: Second half of the chapter
- 第6回 Shinto
- 第7回 Buddhism: First half of the chapter
- 第8回 Buddhism: Second half of the chapter
- 第9回 Midterm test
- 第10回 Individual Religious Practice: First half of the chapter
- 第11回 Individual Religious Practice: Second half of the chapter
- 第12回 Religious Sites and Pilgrimages
- 第13回 New Religions
- 第14回 New Religions (video)
- 第15回 Final test

6. Special Information (留意事項)

Students are expected to attend class regularly. There will be a midterm and final exam, and grades will be based on attendance, class performance, and exam scores.

講義コード	20603201			
科目名	Global English Lecture III b			
担当者	(未定)			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替	205700 『Creative Writing I』			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20603301			
科目名	Global English Lecture III c			
担当者	(未定)			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20604101			
科目名	Global English Workshop I a			
担当者	嶋本 浩子			
単位数	3	配当学年	234	
資格	[英]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	週1.5コマ 定員30人			
科目読替	205647 『日本文化観ガイド』			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

別紙

講義コード	20604301		
科目名	Global English Workshop I c Media Production		
担当者	Gregory Peterson		
単位数	3	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	Class materials will be available on the class Web site.		
参考文献	The class Web site will include links to current examples, tutorials, reviews, and technical information.		
備考	週1.5コマ 定員30人		
科目読替	205468 「マルチメディアプロダクション」		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力 ✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力 ✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

In this workshop you will learn how to produce media for the global Internet. During the semester you will develop knowledge, skill, and personal interests in specific genres, styles, and topics as you study principles of photography, audio, and Web authoring. You will also become familiar with various issues that media producers face, for example, ethical and legal matters, security, and human rights. You will create original content with mobile technology such as smartphones, digital cameras, and digital audio recorders. Your work will appear in the form of multimedia projects for the Web, for example, photo essays, sound walks, and feature stories. Weekly class sessions will be conducted in a GNU/Linux computer laboratory, where you will edit English text, photographs, audio files, and original Web pages with free and open-source software (FOSS). Your work will reflect your development as a media producer and your growing confidence as a global communicator.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. Create Web pages with original text, images, and sounds.
2. Express personal interests and values with media.
3. Explain relevant legal, ethical, and cultural issues.
4. Master command-line software for file management.
5. Master basic photography and photo editing.
6. Master basic audio recording and postproduction.
7. Master editing of simple HTML markup and CSS styles.
8. Apply Web Content Accessibility Guidelines (WCAG).
9. Compose text in clear English for global audiences.

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. We will meet weekly in a GNU/Linux computer lab.
2. Brief lectures will include demonstrations.
3. We will share information and ideas by email.
4. Before class each week you will prepare media content.
5. In class you will edit texts, photos, and audio recordings.
6. Each student will present her work in a Web portfolio.
7. We will devote significant time to multimedia projects.
8. Class members may collaborate on multimedia projects.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. Read class materials.
2. Participate in email discussions.
3. Study media works on the Web.
4. Write texts, take photographs, and record audio.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and participation (30%), Web portfolios (70%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 Digital portfolio preparation
- 第3回 Photography
- 第4回 Photo editing
- 第5回 Photo albums
- 第6回 Digital audio
- 第7回 Audio recording
- 第8回 Audio editing
- 第9回 Audio on the Web
- 第10回 Project workflow
- 第11回 Project planning
- 第12回 Project production
- 第13回 Project postproduction
- 第14回 Portfolio preparation
- 第15回 Portfolio presentations

6. Special Information (留意事項)

1. All class work will be in English.
2. Student Web pages are visible only from computers on campus.
3. See my Web pages for more information: <<http://www.notredame.ac.jp/~peterson/>>

講義コード	20605101		
科目名	Global English Workshop II a Culture and Communication		
担当者	Jacoba Akazawa		
単位数	3	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	No text required. Students will be provided with weekly printed materials.		
参考文献			
備考	週1.5コマ		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力 ✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力 ✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course aims to have students look beyond the obvious differences in cultures such as language and food to develop a deeper understanding of the complexities of different cultures, some of which they have already experienced but may not have understood the reasons behind the problems whilst living overseas. Students will gain a better understanding of various cultural differences comparing the many cultural aspects of the following countries:- Africa, China, France, Germany, India, Japan, Mexico, Middle East, Russia, Spain, South East Asia, United Kingdom and the United States.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The course aims at giving students a wide cross section of numerous cultures differences enabling a solid foundation for future cross cultural communication

3. Course Method (教育・学習の方法)

Each class will have a short input, often in the form of a lecture or activity with video clips to help provide visual and audio information plus short readings to provide more detailed information. Students will then break into smaller groups for discussions, role plays and simulations. During the semester students will be given the opportunity to talk with and interview some 'foreigners' who live in Kyoto.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Excellent attendance. Students who are absent or late more than 5 times can expect to fail this course. A positive attitude and active participation, including the completion of homework in each class is essential for success.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

70% of the grade will be based on effort and class participation (being prepared for class, group work, attendance, quizzes, and continuous use of English)

20% Research and presentation

10% A binder of work which is a record of your learning and includes the notes you have taken, materials distributed during the course and weekly reflection comments

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 What is culture and different realities
- 第2回 Communication without words and the meaning of smiles in cultures
- 第3回 Communication Styles-Susan Steinbeck research comparing conversation styles with playing rugby, basketball and bowling.
- 第4回 Verbal Communication-Direct verses indirect, low context verses high context, importance of face
- 第5回 Perception-Description, interpretation and evaluation
- 第6回 Stereotypes verses Generalizations and Racism
- 第7回 Different concepts of time-Monochronic verses Polychronic
- 第8回 Personal verses societal responsibilities-Universalistic and Particularistic cultures
- 第9回 Culture Shock and Return Culture Shock - what are students doing to readjust back into Japan.
- 第10回 Culture of self - Individualist verses Collectivist, Universalist verses Particularist, Internal verses External
- 第11回 Presentations
- 第12回 Gender Issues - boys play - girls play, women's role - men's role in society

第13回 Gender Issues continued - differences in men and women's values and communication styles

第14回 Multicultural Japan

第15回 Final assessment

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20701001			
科目名	ホスピタリティ論Ⅰ			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[工][ホ][医]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なことについても学ぶ。
・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日常生活でのホスピタリティを体得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。

テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。

毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出来るだけ実践する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション-ホスピタリティへのアプローチ
ホスピタリティの概念を理解する。本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する。
- 第2回 ホスピタリティとは-言葉からのアプローチ
「ホスピタリティ」の語源からアプローチする。ホスピタリティの定義とはどのようなものであるのかを考察する。
- 第3回 ホスピタリティと人間-人間の感情とホスピタリティ
ホスピタリティを提供する動物としての人間の存在からホスピタリティを紐解いていく試みをする。
- 第4回 ホスピタリティと文化①-文化・感情表現・地域のおもてなし
ホスピタリティの表出の仕方、感じ方などに文化や時代による違いなど、地域や文化・文明による差異を考察してみる。
- 第5回 ホスピタリティと文化②-歴史とホスピタリティ
ホスピタリティの歴史を考察する。時代の変遷と社会の変遷においてなにか変わりがあるのかを考察する。
- 第6回 ホスピタリティと産業①-産業構造の変化とホスピタリティの重要性
サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。
- 第7回 ホスピタリティと産業②-産業・社会の変化とホスピタリティを考える
ホスピタリティ産業の変化を予測し、社会の変化にともなってホスピタリティ産業というものの変化を推測してみる。
- 第8回 ホスピタリティと産業③-エアラインにおけるホスピタリティ
航空機を運航する商品とはどのような特徴があるのかを考える。実際のエアライン (ANA) をモデルとして考えてみる。
- 第9回 ホスピタリティとチームワーク-チームの力と個人の力
企業や地域社会など、ホスピタリティをチームで生み出す為に必要な要素とは何かを検討する。
- 第10回 ホスピタリティとコミュニケーション-相互作用を生み出すコ

ミュニケーション-

ホスピタリティを相手に伝えるためにはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。

第11回 点と点をむすぶホスピタリティマインド-地域とホスピタリティとの関係-

人は航空機によって点と点を移動する。地域と航空輸送との関係からホスピタリティを考える。

第12回 ホスピタリティと観光産業①-観光産業で発揮されるホスピタリティ-

ホスピタリティが観光産業の中で発揮されるべきこととその必要性を考える。

第13回 ホスピタリティと観光産業②-旅行者心理を考える-

観光の主体である旅行者についてとりあげ、旅行者にとってのホスピタリティはどのようにあるべきかを考える。

第14回 ホスピタリティと観光産業③-現在の(場所)での観光産業でホスピタリティが発揮できるもの-

観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える。

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20701101			
科目名	ホスピタリティ論Ⅱ			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[工][ホ][医]			
前提科目	207011「ホスピタリティ論Ⅰ」又は101556「ホスピタリティ入門」			
テキスト	テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「ホスピタリティ」についての理解を深めると同時に、「ホスピタリティ」を発揮する側にとって必要な要素や構造について考察する。ホスピタリティ論Ⅰを理解した学生が、さらにホスピタリティをマネジメントを行うことができるまでを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・「ホスピタリティ論Ⅰ」で学んだことを更に一歩踏み込んで学習する。

・他者に対する思いやり・気遣いについての考察を深める。

・日常におけるホスピタリティに関する気付きや発揮が求められる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

ホスピタリティⅠ (ホスピタリティ入門) で学んだことがベースとなるため、以前の資料を振り返りながら、考察を深める。ホスピタリティが体現できるよう日常の中で実践を重ねる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション-授業概要の理解
授業概要説明。授業全体の進め方の理解とホスピタリティとはどのようなものかという復習を行う。
- 第2回 ホスピタリティの発揮①-ホスピタリティの高い人間とは-
個人のホスピタリティの発揮について、ひとりの人間としてどのようにあるべきなのかを考える。
- 第3回 ホスピタリティの発揮②-ホスピタリティと企業との関係-
ホスピタリティが企業にとって必要なものはどのような要素が必要とされるのかについて考察する。CSとの関係を考える。
- 第4回 ホスピタリティの発揮③-ホスピタリティの醸成-
ホスピタリティマインドを高めていく方法や個人の中その重要性を認識させることができるのかを考えてみる。人材教育。
- 第5回 ホスピタリティと評価①-評価方法の検討-
ホスピタリティはどのように評価するのか。ホスピタリティの評価尺度について考えてみる。

- 第6回 ホスピタリティと評価②-評価とフィードバック-
ホスピタリティを評価-フィードバックする効果的なサイクルを考える。
- 第7回 ホスピタリティとマニュアル-伝える/伝わる「ホスピタリティ」-
お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。
- 第8回 ホスピタリティとコミュニケーション①-場の重要性-
お客様にホスピタリティを届けるためにどのような場面を重要に考えるべきか、検証する。
- 第9回 ホスピタリティとコミュニケーション②-働く個人と集団の連携-
集団としてのホスピタリティが発揮される時に働く力を考える。
- 第10回 ホスピタリティマネジメント-ホスピタリティマインドを生み出す背景-
ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。
- 第11回 事例検討①-エアライン (ANA)<予定>-
事例とともにホスピタリティを考える
- 第12回 事例検討②-エアライン (ANA)<予定>-
事例とともにホスピタリティを考える
- 第13回 事例検討③-飲食店 <予定>-
ホスピタリティ産業の中から例をとりあげ検証する。
- 第14回 事例検討④-飲食店 <予定>-
ホスピタリティ産業の中から例をとりあげ検証する。
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20701201			
科目名	エアライン・ビジネス論			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	『航空産業入門』(株)ANA総合研究所 東洋経済新報社 2008			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

航空会社を一企業として取り上げ、受講生が現代の企業の仕組みや取り組みを理解することを目指す。また、受講生の広く受講生の就業意識を高めることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

世界及び国内の政治・経済・文化・環境情勢の変動が航空業界に与える影響を推考する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。

テーマによって関連DVDなど視聴する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・「航空産業入門」の該当の章を熟読して授業に臨むこと。
- ・日頃から航空関係のTVニュース、新聞記事などに目を配ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度 (50%)、確認テスト (50%) にて総合評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション-授業概要-
授業の進め方、学習内容と求めるレベル、授業上の注意事項などを理解する。自己紹介を実施する。
- 第2回 航空の歴史と変遷の理解
航空産業の変遷・流れを理解する
- 第3回 日本の空の体制と航空会社
戦後の民間航空の規制と緩和について理解する。
- 第4回 航空の自由化①
米国・欧州の航空の自由化について理解する。
- 第5回 航空の自由化②
日本の航空業界の自由化について理解する。
- 第6回 収入を増やす努力①
発着枠、ハブ空港の意味など航空会社の基本戦略について理解する。

- 第7回 LCC羅進
LCCの歴史、各地区の代表的なLCC,代表的ビジネスモデルについて学ぶ。
- 第8回 収入を増やす努力②
航空業界のグローバルアライアンスについて学ぶ。
- 第9回 収入を増やす努力③
CRSというマーケティング手法とレヴェニュー・マネジメントについて学ぶ。
- 第10回 航空会社とCSR
航空会社のCSRを参考として現代企業とCSRについて学ぶ。
- 第11回 顧客満足 (CS)
航空会社におけるCSの捉えかたを、考え方、具体例、対応の3点から紹介する。
- 第12回 ブランド戦略
ブランドについて学ぶ。
- 第13回 航空と安全
航空の安全について現状を知り、その重要性を理解する。
- 第14回 航空と環境問題
航空産業と環境との関係を考える。
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20701301			
科目名	エアライン・サービス論			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『エアラインオペレーション入門』(株)ANA総合研究所 (編集) (株)ぎょうせい 2010			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

エアライン業界を広く全般的に理解し、主にエアラインで提供しているサービス部分 (オペレーション部門・カスタマー部門) について焦点をあわせエアラインの業務の構成やエアライン・サービスに必要な要素を理解することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

ホスピタリティ産業の代表として、航空業界を取り上げ、エアラインサービスを幅広く学ぶなかで、多様な職種について理解を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマによって関連DVDなど視聴する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日頃より、航空業界やサービス業に関するTVニュース・新聞記事等に関心をもって目配りすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
講義の進め方、目的、評価など。エアラインのサービス全体を考える。
- 第2回 エアラインの提供するサービス
航空産業の概要を理解する。エアラインがお客様に提供するサービスとはどのような特徴があるのかを考える。
- 第3回 保安・安全について
公共交通機関としての役割を考える。他の公共交通機関との比較によりエアラインの優位と劣位を理解する。航空安全への取り組みや空港の保安体制を理解する。
- 第4回 予約部門
予約・販売部門の業務内容と求められる要素を理解する。航空券とは何か、また、世界の予約システムを理解する。
- 第5回 空港サービスⅠ
カスタマーラインの業務として旅客スタッフの業務を取り上げる。空港での仕事をお客様からの視点でとりあげ、旅客の流れにそって空港業務を理解する。
- 第6回 空港サービスⅡ

オペレーションラインの業務として、グランドハンドリング業務を取り上げる。航空機が空港に到着し、出発するまでの地上業務を理解する。

第7回 機内サービスI

客室乗務員の役割を考え、業務の流れを追いながら、その仕事の内容を理解する。

第8回 機内サービスII

機内の業務を支える業務について理解する。機内食ケータリング事業、航空機関連物品調達事業など、機内サービス全般を支える業務を取り上げる。

第9回 オペレーションIーパイロットの業務ー

飛行機の基礎知識を理解する。また、運航乗務員(パイロット)の養成の流れや業務内容を理解する。パイロットはお客様と接する機会は少ないが「運航」を通じたサービスを考える。

第10回 オペレーションIIー運航の定時性を守る業務ー

運行管理者とは何か、運航を支える定時性をコントロールする部門がどのような動きをしているのか概要を紹介する。

第11回 オペレーションIIIー整備部門の業務ー

運航を支える安全に一番近い整備部門がどのように構成されているのか、安全とサービスについて考える。

第12回 貨物輸送部門

貨物サービスを取り上げ、航空貨物の現状を考える。ハブ空港とは何か、日本のハブ空港の現状、アジアのハブ空港競争を紹介する。

第13回 エアラインサービスのその他の業務ーマイレージサービスとアライアンスー

顧客接点における営業戦略の一部としてのマイレージサービスやアライアンスの現状を理解する。

第14回 エアラインサービスの多様性

LCC(格安航空会社)の特徴とレガシーキャリア(既存航空会社)との違いを理解する。

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

く事も重要なことです。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度(25%)、小テスト(25%)、確認テスト(50%)に基づいて、総合的に評価する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	1.	オリエンテーション
第2回	2.	宿泊産業の歴史①世界
第3回	3.	宿泊産業の歴史②日本(第二次世界大戦まで)
第4回	4.	宿泊産業の歴史③日本(終戦から現代)
第5回	5.	現代の宿泊産業(チェーン化と業態の多様化)
第6回	6.	ホテルビジネスの特性
第7回	7.	ホテルの経営方式
第8回	8.	チェーンビジネスの基本・方式
第9回	9.	世界のホテルチェーン
第10回	10.	日本のホテルチェーン
第11回	11.	日本の宿泊産業(旅館業法と分類、評価)
第12回	12.	ホテルの収益構造
第13回	13.	ホテルの仕事と組織①宿泊部門
第14回	14.	ホテルの仕事と組織②料飲・宴会部門
第15回	15.	まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20701601			
科目名	ホスピタリティ・スキルA			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。			
参考文献				
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20701501			
科目名	ホテルビジネス研究 宿泊産業論			
担当者	坂下 正憲			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[医][工]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用せずパワーポイントに沿って講義する。尚、必要に応じて資料としてコピーを配布する。			
参考文献	[現代ホテル経営の基礎理論] (岡本伸之) 柴田書店 [基本ホテル経営教本] (鈴木博・大庭棋一郎) 柴田書店 [ホテル・ビジネス・ブック] (仲谷秀一・杉原淳子・森重喜三雄) 中央経済社 [ホテル事業論] (作古貞義) 柴田書店 「よくわかるホテル業界」 (土井久太郎) 日本実業出版社			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ホテルを一企業として取り上げ、受講生が現代の企業の仕組みや取り組みを理解することを目指す。また、受講生の就業意識を高めることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

近年様々な話題に取り上げられるホテル事業を分かり易く解説する。その特徴や歴史的背景、現在の様々な問題、日系ホテルと外資系ホテルの相違などについて、社会的、経済的背景をもとに、他産業の事例を交えながら、ホテル事業の基礎的な事業知識やその実態について学ぶ。また、利用者の視点から、ビデオ等視覚材料、様々なエピソードを交えながら「ホテル」がより身近となり更に関心を深められる授業になるよう配慮する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

最新のニュースを題材に講義を進める為、日頃より宿泊産業に関する新聞記事、TVニュース等に関心を持って目を配って下さい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

ホテル事業は経済の好・不況に敏感な業界であるため、日頃の新聞やTVのニュースに関心を持つと同時に、ホテルや類似する施設などの視察や見学を行ってください。また、旅行先での宿泊施設の感想などをまとめてお

講義コード	20701602			
科目名	ホスピタリティ・スキルB			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。			
参考文献				
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「ホスピタリティ」を他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスキルやマナー、社会生活上の好ましいルールの遵守など一般的な内容をとりあげ、ホスピタリティを感じさせる行動が適切にとれるようになることを目指す。各回必ず演習を行い繰り返し指導を受けることにより実践的な学びを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・ホスピタリティを表現することを実習形式で進めるが、内容は多岐に渡るため、授業で実施したことは、日々の生活で繰り返し表現し身につけることが大切である。考察、実習を繰り返すなかで、感性を磨くことを意識して参加すること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・配布資料に基づき、ホスピタリティについて考察しながら、実習を重ねる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回で実施する内容は、日常生活に直結するものばかりである。授業はきっかけにしか過ぎず、自身で出来るようにするという意識を持ち、繰り返しの実践によってのみ身につけることが出来る。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度(50%)実技習得度(50%)に基づいて総合的に評価する。授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション-授業概要-
授業の進め方、学習内容及と求めるレベル、授業上の注意事項などを理解する。自己紹介を実施する。
- 第2回 ホスピタリティを伝える要素-伝わるコミュニケーションとは-
コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する。聞くことと話すこと。
- 第3回 ホスピタリティを伝える基本-異文化コミュニケーション-
自己と他者とのコミュニケーションを考え表現する。
- 第4回 言葉で表すホスピタリティI-敬語で伝える気持ち-
言語コミュニケーションのうち、会話における敬語表
- 第5回 言葉で表すホスピタリティII-敬語を文章に表す-
言語コミュニケーションのうち、文章表現について基本を学ぶ。
- 第6回 表現力 I-非言語コミュニケーション-
非言語コミュニケーションにおいて相手に印象つける要素は何かを考える。自己表現と他者認知のずれを確認する。
- 第7回 表現力 II-印象を高めるために-
印象を左右するものは何か。印象をよくするためにはどのような工夫をすれば良いのかを理解する。
- 第8回 表現力 III-好印象の表情とは-
相手に与える印象において大きな影響を与える表情について個人ごとに指導を行う。
- 第9回 表現力 IV-行動で伝える思いやり-
礼儀作法を含め、一般的に体得しておくことを求められる一般社会の動作、振る舞いを体得する。
- 第10回 表現力 V-声だけのコミュニケーション-
電話応対をとりあげ、演習を行いながら好印象の応対を体得する。
- 第11回 表現力 VI-文字だけの思いやり-
文章やメールなど相手の立場にたった表現力を考え、実践する。
- 第12回 社会のルール・マナー-他者尊重のコミュニケーション-
人間は社会的な存在であることを認識し、社会上のコミュニケーションのあり方を考えて実践できるようにする。
- 第13回 総合演習I-ロールプレイング-
場面の設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第14回 総合演習II-ロールプレイング-
場面の設定を行い、習得状況を自己判断する。
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20701701			
科目名	フィールド研究			
担当者	岩田 真理子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「ホスピタリティ産業」について理解を深める。それぞれの学生が産業の中のホスピタリティ要素の高い業種や企業を探究し、実社会における「ホスピタリティ」のあり方を自分なりに評価・研究した内容をまとめあげる。課題の発見・調査と評価・発表までのプロセスを体験することを目指す。学生には考え抜く力を積極的な意見の発表を求める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

調査研究の中で、P-D-C-Aサイクルを理解し、体感すること。自分で考え抜く力を養い、考えたことを他人に伝える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

ホスピタリティ産業を紹介している資料に基づき、何社かをグループワークで事例検討を行う。その後、各自が研究したいホスピタリティ産業を選び、個人研究を進める。研究結果をプレゼンテーションにより発表する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日常生活の中で、ホスピタリティを発揮している産業に着目し、その背景を可能な限り探ることを求める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業態度(50%)プレゼンテーション(50%)に基づいて総合

的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション-授業理解- 授業の進め方の説明、及び、フィールドワークの意義やプロセスの踏み方を理解する。
- 第2回 ホスピタリティを再考する ホスピタリティとは何か、各自の学んできたこと、考えを述べ、振り返る。
- 第3回 ホスピタリティ産業とは ホスピタリティ産業の概要を確認するとともに、今後の授業方針を検討する。
- 第4回 事例検討I ホスピタリティが高いといわれる企業や集团の特徴を検討する。
- 第5回 事例検討II 同上
- 第6回 事例検討III 同上
- 第7回 事例検討IV I~IVで検討した企業や集团の共通項などを考察する。
- 第8回 課題検討I 研究する産業の決定を行う。意見交換を行いながら個人課題を決定する。
- 第9回 課題検討II 研究する産業の評価尺度の検討を行う。意見交換を行いながら個人評価の方法を検討する。
- 第10回 フィールドワーク PLAN 個人計画をたてる。PLAN-DO-CHECK-ACTIONのあり方を理解し、最終ゴールを確認する。
- 第11回 フィールドワーク ① フィールドワークの実施
- 第12回 フィールドワーク ② フィールドワークの実施
- 第13回 プレゼンテーション準備
- 第14回 プレゼンテーション② 個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加。
- 第15回 プレゼンテーション③ 個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加。

6. Special Information (留意事項)

自分の考えを表現し、積極的に授業に参加すること。

講義コード	20701801			
科目名	接遇のための英語 接遇のための英語: English Politeness Principles in an English for Specific Purposes Environment			
担当者	Jodie Campbell			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	There will be no textbook for this course. The instructor will provide handouts, worksheets, etc., for you.			
参考文献				
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

This course will introduce students to POLITENESS principles in English-speaking cultures and POLITE expressions in the English language in an English for Specific Purposes environment.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will improve their knowledge of POLITENESS principles in English-speaking cultures and POLITE expressions in the English language in an English for Specific Purposes environment. Active participation in all classroom-based activities is required.

3. Course Method (教育・学習の方法)

This course will be taught entirely (= 100%) IN ENGLISH.

Students will participate in pairs and small groups to practice dialogs, role-play activities, and discuss questions related to a variety of POLITE English situations in an English for Specific Purposes environment.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students should do all homework assigned by the teacher before the class day, and ON TIME!

NOTE: If homework or any assignment, etc. is LATE, you will get 0%!

NOTE: If you are ABSENT for a role-play, quiz, or presentation, you will get 0%!

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Students' grades in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task), role-plays, assignments, tasks, quizzes, etc., and a vocabulary portfolio.

CLASS PARTICIPATION 40%

ROLE-PLAYS, ASSIGNMENTS, TASKS, QUIZZES, PRESENTATIONS, ETC. 40%

VOCABULARY PORTFOLIO 20%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	Course Introduction
第2回	Topic 1
第3回	Topic 1
第4回	Topic 2
第5回	Topic 2
第6回	Topic 3
第7回	Topic 3
第8回	Topic 4
第9回	Topic 4
第10回	Topic 5
第11回	Topic 5
第12回	Topic 6
第13回	Topic 6
第14回	Topic 7 Review
第15回	Concluding Activities

6. Special Information (留意事項)

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

An ENGLISH-ENGLISH dictionary is highly recommended!

講義コード	20701901			
科目名	接遇のための日本語 相手に寄り添うことば学			
担当者	橋高 邦子			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[ホ][医][エ]			
前提科目				
テキスト	特になし。必要に応じてレジュメ配布			
参考文献	特になし。必要に応じて指示。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「接」とは近づくこと。「遇」とはもてなすこと。相手に近づきもてなす—という人間関係がよりよく築けるためのスムーズな「話しことば」の実践を通して社会で自信が持てるコミュニケーション能力を磨く

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 自分が発する「ことば」はどこへ向けられているのか。他者への意識を持ちながら適切な「ことば」の選択が出来るようにすること
- 2 自分らしい声をみつけ、誰にでもわかりやすく、心に届く表現を身につけること
- 3 様々な場面で敬語を自然に使いこなせるようにすること
- 4 「あがり」や「緊張」を克服してパブリックスピーキングを上達させること

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1 ロールプレイングにより社会の様々な立場や場面での会話実践力を磨く
- 2 テーマ指定のパブリックスピーキングにより 聞き手の心に響く会話術を養う
- 3 ワークショップ形式の中で、他の学生の意見も受け入れ自分のことばと思考の引き出しを増やす

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1 日常の読書習慣にコミュニケーション関連の書籍を取り入れ、ことばの感性を磨く
- 2 自分自身の日常会話を振り返って何が足りないかに気づく
- 3 社会の動きの中から生れた新しいことば、時事用語、トレンドワードに興味を持ち、ことばへの意識を高める

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度30%、課題への取り組み30%、レポート、習熟度テスト40%に基づいて総合的に行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション (授業のねらい、目標の確認、グループワークのすすめ方)
第2回	自分の声を見つける (発声、発音、滑舌について)
第3回	日本語の敬語を考える① (尊敬語)
第4回	日本語の敬語を考える② (謙譲語 I II)
第5回	日本語の敬語を考える③ (丁寧語と美化語)

第6回	マニュアル敬語、バイト敬語、イマドキ言葉について考える
第7回	ことばのコミュニケーショントレーニング①「聞く」「聴く」
第8回	ことばのコミュニケーショントレーニング②「訊く」
第9回	実践「話し方」のビジネスマナー
第10回	実践「聞き方」のビジネスマナー
第11回	ビジネスにおける電話のかけ方、受け方
第12回	パブリックスピーキング① (プロットを考える)
第13回	パブリックスピーキング② (エピソードを取り入れる)
第14回	実践「パブリックスピーキング」(聞き手を意識して)
第15回	ことばで人の心を動かす 接遇とは

6. Special Information (留意事項)

定員20人

講義コード	20702101			
科目名	ビジネスマナー演習 A			
担当者	岩田 真理子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[エ]			
前提科目				
テキスト	『ビジネスマナーの基本』 ANAラーニング 成美堂出版			
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20702102			
科目名	ビジネスマナー演習 B			
担当者	岩田 真理子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[エ]			
前提科目				
テキスト	『ビジネスマナーの基本』 ANAラーニング 成美堂出版			
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ホスピタリティを学んだ学生に対し、卒業後社会に出る前に一定程度のソーシャルマナーを体得しておくことを目指す。ビジネスマナーのみにかかわらず、ひろく社会においてホスピタリティの精神を自分以外の人間に伝えるようになることが目的である。(基礎的な表現方法を習得したことを前提とする。少人数8~10名程度で行い、実践力を身に付けさせる。)

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

課題テキストを参考としながら、必要に応じ、資料を配布する。説明を基に、実技も多く取り入れる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実践の内容を積み重ねていく。日常生活で取り入れることが身につけるためには大切である。社会で常識とされている事柄を広く体得する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

課題テキストの関連箇所を予習して臨むこと。習得したことは速やかに実践すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (60%)、確認テスト (40%) にて総合的に評価する。授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション -授業概要説明- ソーシャルマナーとはなにか
第2回	社会人の身だしなみと基本的心構え 身だしなみチェックと社会人としての基本的心構えを学ぶ
第3回	社会人としての立ち居振舞い 品位・印象度を高める動作、身振り、表現力
第4回	交通のマナー 交通関係一般的な知識、理解、同行者へのホスピタリティを考える
第5回	正しい言葉遣いと敬語 社会人にふさわしい言葉遣いと敬語のルールを学ぶ
第6回	感じのよい電話応対 ①

- 態度・表情を伴わない電話のマナーを体得する
- 第7回 感じのよい電話応対 ②
様々な事例を体得する
- 第8回 訪問のマナー
訪問時の一般的な手順を学ぶ。(名刺交換)
- 第9回 応接のマナー
一般的な来客応対を体得する。(受付、案内、応接席次など)
- 第10回 手紙のマナー
一般的な手紙(ビジネス文書、礼状、詫言状など)のマナーを体得する
- 第11回 ビジネス文書の基本
社内文書・社外文書など一般的な文書の作成方法を理解する
- 第12回 レストランのマナー
レストランで食事をとる際のマナーを体得する
※可能な限りレストラン利用により実習を行う(有料)
- 第13回 冠婚葬祭のマナー
結婚式に招かれた場合、訃報を受けた場合
- 第14回 ソーシャルマナー総合
総合的な表現力を体得・強化する。社会においてふさわしい、かつ品位のある言動がとれるように個別指導を行う
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

原則として、二回目からスーツ着用を求める。

講義コード	20702201			
科目名	キャリアデベロップメントA			
担当者	岩田 真理子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20702202			
科目名	キャリアデベロップメントB			
担当者	岩田 真理子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員16人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 私たちにとってのキャリアというものはどのように考えられているの基本的な点を理解する。
2. 講義全体を通して、自分の職業生活がイメージできるようになる。
3. 自分の考えを他の人の前で述べる際、文章を丸暗記したものではなく自分の言葉で述べるができるようになっていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

自分のキャリアを考えていくということは、自分の人生をどのように生きるかという点につながってくる。キャリアを単に就職先の選択というのではなく、自分の強みや弱み、自分の志望や将来図を描けるようになることが実りある学生生活を送ることになる。あわせて自分自身の未来をイメージすることが心の中にどのような変化を生み出すかを体感しながら臨むことを期待する。

キャリアの理解につとめ、自分が進むべき方向性を模索する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・配布資料に基づき、自分で考える
- ・インターネットを使用し、業界研究を行う
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・課題シートは確実に取り組んでいくこと。
- ・授業で学んだことを積み重ね、将来を見据えて自分の方向性を考える。
- ・日常的に新聞を読んだり日本・世界の出来事に関心をもつこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度 (40%)、課題達成度 (30%)、理解度確認 (30%) を総合的に評価する。

授業総日数の2/3以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション-授業理解-
授業の進め方、目的、注意事項などを理解する。
- 第2回 キャリア理解 <基礎>
・キャリアの基本的理解
・キャリアと自分の生き方との関連性を考える
- 第3回 社会で求められる力
・社会、産業、組織について
・社会で求められる力とは
・社会に出るまでに出来ること
- 第4回 自己理解①-
・自分自身に関心と興味を持つ
・自分自身に内在する力を整理する
・目指す方向性を理解する
- 第5回 自己理解②
・自分自身を客観的に理解する
・「就職」について考える
・職業の3つの機能を理解する
- 第6回 キャリア理解① <業界研究>
・業界-企業の関係を通して、日本企業の特徴を理解する
- 第7回 キャリア理解② <業界研究>
・仕事、業界、ライフキャリアの関連性をもとに職業選択において直面することを全体で考える。
- 第8回 キャリア理解③ <業界研究>
・グループプレゼンテーションを実施する
- 第9回 自己表現 STEP I ①
・言語、非言語の表現方法の基礎を学ぶ
・実習を通して自己の課題を発見する
- 第10回 自己表現 STEP I ②
・面接の模擬練習を通して、気付き・観察力を養う
- 第11回 自己表現 STEP II ①
・自分の意見を述べる
- 第12回 自己表現 STEP II ②
・グループディスカッションを体験する
- 第13回 自己理解とストレス
- 第14回 個別相談
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20702401			
科目名	エアライン研修			
担当者	須川 いずみ			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[工]			
前提科目				
テキスト	プリント			
参考文献				
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

エアラインプログラムを履修した者を対象として、ANAグループおよびホテルの主な職場を実際に訪れ、航空業界で働くということの内側から体験し、高い職業意識の育成、自主性・創造性のある人材育成を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. これまでに学んできたことの集大成として、ホテルや航空業界の現場を訪問し、実践してみる。何より、実際のお客様がいらっしゃる現場であることをしっかりと認識し、挨拶はもとより、良識ある行動を期待する。
2. 実際の現場を体験することにより、自身の適正との確認、ならびに業界の様々な職種を自分の目で確認し、将来への足がかりとする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

一般の人がなかなか目にするのが少ないコールセンター業務やグラウンドスタッフの業務の裏側などエアラインプログラムならではの業務体験を行う。また、全日空ゲートタワーホテル大阪では、ホテル業務全般に加えて、テーブルマナー講習会も開催し、サービスする側と受ける側のマナーやホスピタリティをベテランのホテルマンから学ぶ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

本研修を希望する方は、日常的にマナーや言葉遣いに関心を持ち、自己を高める努力を期待する。事前研修にて実施する内容を、現場訪問までの間、繰り返し復習し身につけること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

研修中の受講態度(40%)、事前課題シート(20%)、事後レポート(40%)を総合的に評価する。原則として、欠席した場合は単位認定が認められない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 事前教育
- 第2回 同上
- 第3回 スターゲートタワーホテル大阪 「ホテルの接客とは」
- 第4回 同上 「ホテルの仕事を学ぶ」
- 第5回 同上 「テーブルマナー研修」～宿泊～
- 第6回 ANA貨物セクション研修
- 第7回 同上 「貨物ハンドリングを学ぶ」
- 第8回 同上 貨物機等見学
- 第9回 関西空港(KIX) 「国内線、国際線の地上業務を学ぶ」
- 第10回 同上 ANA関空幹部講話
- 第11回 同上 関空島見学
- 第12回 同上 グランドスタッフの業務を学ぶ
- 第13回 同上 ANAコントロールルーム見学
- 第14回 同上 ANA客室部門見学
- 第15回 事後研修

6. Special Information (留意事項)

エントリーシートによる応募制とする。人数枠を超えた場合は原則として上級生を優先とする。実習費用は本人負担となる(宿泊費用、テーブルマナー実習、交通費)。訪問先企業は、調整により変更の可能性もある。

講義コード	20901102			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	沖原 勝昭			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20901103			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20901104			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20901105			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	小林 順			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20901106			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	小山 哲春			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20901107			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	須川 いずみ			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20901108			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	杉村 美奈			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	20901112			
科目名	卒業研究 卒業論文指導			
担当者	吉野 啓子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	クラス指定 4年次生で英文の卒業論文を作成し、学科会議で審査の上、教授会の承認を得て8単位が与えられる。(スペシャリストゼミ生のみ選択科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

卒業研究では、英語英文学特論(ゼミ)で学習した専門的知識を基盤に、それぞれの興味と関心に従って特定の研究テーマを選び、実際に研究を行い、これを研究論文(卒業論文)としてまとめ提出する。

卒業論文は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学を卒業してそれぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会となる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・各自の研究目的と明確なテーマの設定
- ・一次資料の収集と分析
- ・二次資料の収集と分析
- ・それぞれの研究テーマに相応しい論文構成の学習と実践
- ・それぞれの研究テーマに相応しい論述方法の学習と実践

3. Course Method (教育・学習の方法)

各指導教員(三年次に履修した英語英文学特論担当者)の個人指導による。本科目は集中開講となるため、指導教員のガイダンスに忠実に従い、必要なミーティング、面談、その他の形式での指導を受けること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。(上記教育・学習の方法欄も参照のこと)。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

提出された論文に対して、必ず査読を行う。評価は論文の内容、英語力、構成力、独自性、取組姿勢等を見る。90点以上もしくは60点を下回る場合は学科教員全体で評価する。詳細は手引きを参照すること。

5. Special Information (留意事項)

- ・各指導教員の説明および指示を十分に理解し、研究論文制作のための十分な個人指導を受けられるよう注意すること。
- ・各段階での締め切りや、要求されるフォーマットには忠実に従うこと。
- ・英語英文学科「卒業論文作成の手引き」を熟読し、理解すること。

講義コード	20901201			
科目名	入 ^o シャリストセミナー 英語スペシャリスト			
担当者	小山 哲春			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト	『Let the Debate Begin! Effective Argumentation and Debate Techniques』小西卓三他 東海大学出版会 2007			
参考文献				
備考	スペシャリストゼミ生対象の必修科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、スペシャリスト領域専攻の学生を対象に、将来英語を使う職業に就いた時に必要となる実践能力の訓練と習得を目指す。「英語を使って」実務をこなしていこうとする者は、英文を読解・作成する能力、日常会話の能力、あるいは映画・文学等を文化的に解釈できる能力などに加え、自分の信頼性をアピールし、自分の持つ情報・意見・プランなどを仕事上の仲間・相手に受け入れてもらうための能力が必要不可欠となる。このような目標を達成するため、本コースでは、主に多数の Audience を対象とした英語での Public Speaking の理論と実践、そして他の話者あるいはグループと議論を交わす Debate の初歩的な訓練を中心にすすめられる。

また、本コースでの必修プロジェクトとして、Portfolio の作成(特定のテーマについて行った個人の Speech をデジタル録画、本ゼミ・他の授業・その他の機会で行った英語に関する活動等を CD あるいは DVD 等に焼き付け、英語の履歴書などを添えて就職活動その他で使用できるような Portfolio を作成)、本学提携校との交流プログラム (Summer Communication Program) の学生自身による企画・参加、等を予定している。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 基礎英語力の向上: 具体的な目標を持てるよう、TOEFL/TOEIC 等の対策に役立つような教材を適宜使用する。
2. Public Speaking: 文献・資料の検索、アウトラインの作成、実際のスピーチの準備と実践、自己・相互評価等の訓練と実践を行う。(主に三年次: 英語英文学特論)
3. Debate: 特定のトピックを設定し、複数のチームがそれぞれ別の視点から議論を交わす。トピックに関するグループごとの予習、相手チームまたは audience を説得するための議論の構築、さらに相手チームの議論に適切に反駁する方法などの訓練と実践を行う。(四年次: スペシャリスト・セミナー)
4. Summer Communication Program: 本学の提携校であるカナダ・レジャイナ大学から CP (Conversation Partner) を招聘し、短期間の英語強化プログラムを行う。このプログラムは、企画の段階から実際の運営まで、すべて学生が主体となって行う。(四年次: スペシャリスト・セミナー)

3. Course Method (教育・学習の方法)

クラスは実践練習の場となり、積極的な参加態度が望まれる。その場での相互評価、さらにはビデオ録画を見ての自己評価などで、客観的に実践能力を評価してさらなるスキルの向上を目指す。ただし、英語を使って人前で英語を話す、他人と高度な議論を交わすといったスキルの向上には、不安・羞恥心・気後れなどが障壁となることも多く、こういった要因をクラス全体の協力で乗り越えていくことも一つの大切な目標となる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- (1) Debate の理論的な理解を達成するため、指定されたテキストを事前に熟読し、理解できなかった点、議論すべき点などを準備しておくことが求められる。
- (2) 各ミーティングでの Debate のための一般的知識を磨くため、時事問題、社会問題に関する日常的な学習が求められる。
- (2) 年度末の Public Speaking に関しては、指定されたスケジュールに従って、各々がクラス外で計画的に議論を構築し、リハーサルを重ねることが求められる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

演習型、プロジェクト型授業であり、Speech と Debate でのパフォーマンス

ス、Discussionへの参加・貢献、プロジェクト等を総合的に評価する。内訳の詳細は以下の通り：

- Performance on Debate 25%
- Contribution to discussion 25%
- Performance on Summer Communication Program 20%
- Public Speaking 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Orientation / Introduction
- 第2回 Framework of Debate
- 第3回 Constructing Argument
- 第4回 Cross-Examination
- 第5回 Refutation
- 第6回 Debate I (Prelim)
- 第7回 Debate Exercise (One-way)
- 第8回 Debate Exercise (One-way)
- 第9回 Debate Practice (Team)
- 第10回 Debate Practice (Team)
- 第11回 Debate Practice (Team)
- 第12回 Debate Practice (Team)
- 第13回 Debate Practice (Team)
- 第14回 Official Debate Session I
- 第15回 Official Debate Session II

6. Special Information (留意事項)

このコースを履修するには、TOEFL (CBT) で175点以上とっていること(あるいはTOEIC 600点以上)が望ましい。不安のある場合は担当教員に相談のこと。実際の授業の内容は、学生のレベル・目標によってある程度の変更がありえる。

講義コード	20901301			
科目名	英語英文学演習 I Sociolinguistics and Language Learning			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 John Edwards Oxford University Press 2013			
参考文献	『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』 Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller Wiley-Blackwell 2014 『An Introduction to Sociolinguistics, Fourth Edition』 Janet Holmes Routledge 2013			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to introduce students to the major topics in sociolinguistics, the study of the relationship between language and society. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

3. Course Method (教育・学習の方法)

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- In-class participation: 40%
- Presentations: 20%
- Project work: 10%
- Final paper: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to sociolinguistics
- 第2回 Regional variation
- 第3回 Social dialects
- 第4回 Language and social class
- 第5回 Language and ethnicity
- 第6回 Stylistic variation
- 第7回 Language and culture
- 第8回 Language and socialization
- 第9回 Language and identity
- 第10回 Gender and language
- 第11回 Sexuality and language
- 第12回 Language attitudes
- 第13回 Social networks and language variation
- 第14回 Language and power
- 第15回 Language planning

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901302			
科目名	英語英文学演習 I Herman Melvilleの短編小説を読む			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Piazza Tales』 Herman Melville Northwestern University Press 1987			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースでは19世紀中期に活躍した作家Herman Melvilleの短編を精読する。また19世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを一語一句意味を味わいながら読むことを目指す。これらの目標を超え、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得してもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

本コースで行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。

授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語(文法)レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。

プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 平常点 30% 出席点、授業態度、ゼミへの貢献度。
- 課題 40% Presentation、予習レポート
- 30% Final Paper Project

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 "The Piazza" Presentation 1 と Comments
- 第3回 "The Piazza" Presentation 2 と Comments
- 第4回 "The Piazza" Presentation 3 と Comments
- 第5回 "The Piazza" Presentation 4 と Comments

- 第6回 “The Piazza” Presentation 5 と Comments
- 第7回 “The Piazza” Presentation 6 と Comments
- 第8回 “The Piazza” Presentation 7 と Comments
- 第9回 “The Piazza” Presentation 8 と Comments
- 第10回 “The Piazza” Presentation 9 と Comments
- 第11回 “The Piazza” Presentation 10 と Comments
- 第12回 “The Piazza” Presentation 11 と Comments
- 第13回 “The Piazza” Presentation 12 と Comments
- 第14回 “The Piazza” Review と Final Paper の準備
- 第15回 “The Piazza” Review と Final Paper の準備

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901304			
科目名	英語英文学演習 I 教育関連の論文作成や(小・中・高校)英語教材の作成やハンドブック、ホームステイ・観光異文化・伝統・伝説・民話紹介等)ガイドブック・論文作成			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS (LONGMAN) 英語教育用語辞典(大修館)最新刊			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

(小・中・高校)英語教材の作成やハンドブック、(ホームステイ・観光異文化・伝統・伝説・民話紹介等)ガイドブック、教育関連の論文の作成をめざす。必ずしも、(小)中・高の英語教員志望者でなくても構わない。英語の教材・ガイドブック等の作成(個人/グループ)や論文作成(個人)が目標となる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語教材の作成とそのマニュアルの作成、および論文の作成をもって、卒業研究とする。

特に、教材作成は、個人または3～4人のグループで、英語教材(総合学習〈国際理解〉用教材、オーラル・コミュニケーション用英語教材、児童英語教育用教材、リーディング用英語教材、インターネット利用の英語教材等)を作成する活動に取り組むたい。

特に、教材作成は、3回生から4回生に及ぶ長期にわたる活動で、議論し、役割分担し、まとめ上げ、製作していく、根気と努力が必要となる。

英語教育に関連する研究会等への積極的な参加も期待したい。希望者には、公立学校(中学・高校)と私立学校・私塾等の(教員)採用試験対策も実施する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

昨年は、先輩達や社会人、他学科の学生達との宿泊研修会「第8回 教育を考える橋の会」(6月:希望者の参加)を実施し、教育問題、ワーキングホリデー参加、フランス留学を終えての感想、社会問題、社会人としての生き方等、多岐にわたり話し合う機会が持てた。

教育関連の学校等に勤務する先輩や教員たちとの研修会「教育を考える橋の会」参加や交流会、英語授業研究会等への参加の機会を作りたい。

(英語)教材作成に関連する話題や問題を、調査したり、議論したり、小論文にまとめたり、発表する活動が中心になる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 英語教育に関連する話題や問題を調査し、議論し、小論文にまとめ発表する。
2. 英語教材、ガイドブック等の製作/卒業論文の作成
3. 4回生のゼミ生による、3回生のゼミ生に対する、教材/卒論作成の中間発表(interimreport)を4月に課する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. ゼミ生各自の発表をもとにして、ディスカッションを行う。ゼミ生全員が、問題点を発見し、報告者の発表を聞き、活発な議論をすることを期待する。最近の教育問題の討議も時間の許す限り行う。30%
2. 上記の英語教材・ガイドブック等の個人/グループ製作、および論文をもって、評価する。演習室でワードやパブリッシャー等利用で毎回のゼミでノルマを課す。20%
3. 研修会やフィールドワーク、ボランティア・インターンシップ等の活動

への積極的な参加。10%

4. 論文、教材、ガイドブック作成40%

5. 出席減点法

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 京都府立植物園でフィールドワークオリエンテーション
- 第2回 興味・関心のゼミの研究、フィールドワークや活動希望の発表
- 第3回 興味関心による教材・ガイドブック作のグループ分け、論文:個人
- 第4回 教材・ガイドブックや論文の内容の発表
- 第5回 仮のアウトラインの作成:アドバイス
- 第6回 教材・ガイドブック・論文作成開始(演習室PC利用で、ワードやパブリッシャー、パワーポイント利用)
- 第7回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作
- 第8回 年間・夏休み中のフィールドワーク企画やボランティア企画・(スクール)インターンシップの運営企画(学園祭の企画含む):個人指導開始
- 第9回 論文、教材・ガイドブックのアウトライン作成指導:個人指導
- 第10回 教材・ガイドブックのアウトラインベースの作品制作決定:個人指導
- 第11回 宇治茶作り体験フィールドワーク計画と実施
- 第12回 教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人指導
- 第13回 卒論・ガイドブック等のパワーポイントによる初回中間発表(3回生)
- 第14回 ゼミ主催の社会人OG傘下の15年目の「教育を考える橋の会」の企画運営の話し合い
- 第15回 万博記念公園内 国立民族学博物館 フィールドワーク企画と計画、事前研究学習

6. Special Information (留意事項)

土・日曜日や長期休暇期間中にフィールドワークも実施する。

講義コード	20901305			
科目名	英語英文学演習 I Buddhism			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	【仏教】 Watanabe Shoko 【MLA 英語論文作成ガイド】			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ich is not only an important religion in Japan but also one of the major religions of the world. Most Japanese students have been exposed to various aspects of Buddhism in their daily lives, and many may come from families that consider themselves Buddhist. However, few students know about the original forms of Buddhism in India or the changes Buddhism underwent during its transmission from India to Japan via China and Korea. This course aims to help students understand the background of an important component of Japanese culture as well as to appreciate the religious messages of Buddhism.

Depending on students' schedules, one or two classes may be changed to field trips to Buddhist temples in Kyoto or Shiga

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will study both the history of Buddhism and its most important teachings. Topics covered may include: the life of the Buddha; an introduction to basic Buddhist doctrines (such as the teaching of the Four Noble Truths, karma, reincarnation, heavens and hells, meditation, and nirvana); the Buddhist monastic order; Buddhist sectarianism; the development of Mahayana Buddhism; and Buddhism in Japan.

3. Course Method (教育・学習の方法)

I have chosen a book in Japanese so that students will be able to absorb unfamiliar and difficult material more easily. However, most classroom activities and all papers will be in English. Additional reading in English will be assigned and provided in the form of photocopies.

Although I shall explain some of the material in class, students should not expect the classes to consist of lectures. Activities will include comprehension-checking, full-class discussions, group discussions, and in-

class writing. Students must be prepared to do all the assigned reading and to participate regularly in class.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students must do all assigned reading. They are responsible for looking up all unfamiliar vocabulary. They must also be ready for their presentation on the assigned day, and they must submit their zemi report on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and classroom performance : 40%

Presentation and zemi paper : 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to course
- 第2回 Pre-Buddhist Indian religion
- 第3回 Life of the Buddha 1
- 第4回 Life of the Buddha 2
- 第5回 Life of the Buddha 3
- 第6回 The First Sermon
- 第7回 Important Buddhist Ideas
- 第8回 Buddhist Order 1
- 第9回 Buddhist Order 2
- 第10回 Buddhist Languages and Councils
- 第11回 Discussion
- 第12回 Library Orientation
- 第13回 In-class material review
- 第14回 In-class writing
- 第15回 Writing returned, consultations on thesis topics, instructions for summer

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901306			
科目名	英語英文学演習Ⅰ イギリス、エンタメ (Entertainment) のふるさとを読み解く：ビートルズとハリー・ポッター			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『ビートルズ(上)』ハンター・デイビス 河出書房新社 2010 『Harry Potter and the Sorcerer's Stone』JKRolling Scholastic Paperbacks 2014 2014			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

第一に、科目教育目標の大前提として、英語圏文学・文化の理解という目標を掲げたい。そのために、教育目標の第二でもある、ザ・ビートルズの伝記を読解することによって、20世紀中期における英国エンタメの有様を知ることができる。続いて、ハリー・ポッター第一巻を読み、人間界と異世界の境界線に立つという娯楽の真髄を目の当たりできる。第二に、ビートルズでありハリーであっても、特定の地域に深く関わっている。リバプールでありボグワーツである。エンタメには特定の街であり地域が必須である。イギリスにはそのような場所が点在している。そして、そのような場人が集い非日常の世界を創出している。シェクスピアのストラットフォードアポンエイボン、シャーロック・ホームズのロンドン、等々。そのような場を提供するチャンピオンとしてビートルズとハリー・ポッターをとりあげたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

書物の詳細な「読み」に加えて以下のテーマを取り上げる。リバプールの歴史にこそザ・ビートルズの奇跡の淵源であることを探り、そして異界ボグワーツ探検したい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

作品の演習と講義。

2. 学習方法

作品の下読み。二次資料の網羅と調査。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・準備学習の具体的な方法

ビートルズ伝記ハリー・ポッターの読解を試みる。

映像でイギリスを旅したい。

情報・データはオンライン収集。

プレゼンもまたオンライン。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評点は100。その内訳は、期末試験が60点。小テスト20点。授業参加およびクラスでの発表に20点。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 代背景とザ・ビートルズの個人的バックグラウンドなどのトピックを講義。学生は歌詞の自習に取り掛かる。
- 第2回 時代背景とザ・ビートルズの個人的バックグラウンドなどのトピックを講義。学生は歌詞の自習に取り掛かる。
- 第3回 時代背景とザ・ビートルズの個人的バックグラウンドなどのトピックを講義。学生は歌詞の自習に取り掛かる。
- 第4回 ハリー・ポッター読解、演習。
- 第5回 ハリー・ポッター読解、演習。
- 第6回 ハリー・ポッター読解、演習。
- 第7回 リバプール探索、オンラインデータ利用。
- 第8回 少年期のビートルズとリバプール探索。
- 第9回 青年期のビートルズとハンブルグ探索。
- 第10回 ハリーの不思議。異界への入口、鉄道の意味。
- 第11回 ハリーの不思議。水平移動、垂直飛翔。
- 第12回 プレゼンテーションNo1
学生はおのおのテーマを定め、調査と研究を行い、その成果を教室で発表してもらう。
- 第13回 プレゼンテーションNo2
学生はおのおのテーマを定め、調査と研究を行い、その成果を教室で発表してもらう。
- 第14回 プレゼンテーションを基に、期末レポート作成準備。
- 第15回 プレゼンテーションを基に、期末レポート作成準備。

6. Special Information (留意事項)

オンライン状態を保持する。

空間の制約を打ち破る試みを行う。

研究の基本を体得する。

英語力を培うという根本命題を忘れるべから

講義コード	20901307			
科目名	英語英文学演習Ⅰ コミュニケーション研究			
担当者	小山 哲春			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『コミュニケーション研究法』末田清子他 ナカニシヤ出版. 2011			
参考文献	『コミュニケーション学：その展望と視点』末田清子・福田浩子 松柏社 2011 『コミュニケーションスタディーズ入門』鈴木謙他 大修館書店 2011 『ことばの社会心理学』岡本真一郎 ナカニシヤ出版 2010 『もし「右」や「左」がなかったら』井上京子 大修館書店 1998			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本ゼミは、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、説明できるようになることを目標とする。

上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論を学び、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する。

演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

<1> 理論習得 (コミュニケーションの基礎理論を概観する。)

<2> 方法論習得 (コミュニケーションを観察 (データ収集)、分析するための具体的方法論を習得する) :

- 行動観察法 (記録および記述)
- 質問紙調査 (アンケート) 法
- フィールドワーク (参加者観察) 法
- 実験デザイン

<3> 分析演習 (上記で学習した分析方法論を用いて実際にコミュニケーション

ン現象を分析し、これを発表する。)

<4> 論文作成法習得 (演習を通じて卒業研究のテーマを模索し、これを研究論文へと発展させる方法 (文献研究、データー収集、分析、説明) について学習する。「コミュニケーション概論」「対人コミュニケーション」「異文化間コミュニケーション/Global English Lecture IC」「言語・文化・コミュニケーション」といった関連科目で扱われたトピックの中から、自分の関心に従って具体的なコミュニケーション現象を卒論のテーマとして選定し、

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業： 本ゼミは、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。
発表： 研究方法論 (前期) およびコミュニケーションに関する学術論文 (後期) についての発表、および、自らが選んだトピック (コミュニケーション現象) を実際に分析した結果を口頭発表する。

卒業研究 Proposal 作成： 前期の間に複数のトピックを選んで簡単な分析演習を行い、後期にかけてこれを絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- (1) 指定されたテキスト (reading assignment) を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- (3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」へ落とし込むため、適宜 Proposal の執筆と相談を行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表1 (方法論・理論のサマリー発表) 25%

発表2 (実践演習：ミニ研究発表) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

卒業研究 Proposal Draft 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction to Communication Studies (概論)
- 第2回 方法論1：社会科学としてのコミュニケーション研究
- 第3回 方法論2：人文学としてのコミュニケーション研究
- 第4回 方法論3：観察法
- 第5回 方法論4：質問紙調査法 (On-line Surveyを含む)
- 第6回 方法論5：フィールドワーク法
- 第7回 方法論6：実験法
- 第8回 分析演習1：言語コミュニケーション現象
- 第9回 分析演習2：非言語コミュニケーション現象
- 第10回 分析演習3：対人コミュニケーション現象
- 第11回 分析演習4：異文化間コミュニケーション現象
- 第12回 分析演習5：説得のコミュニケーション現象
- 第13回 分析演習6：語用論的現象
- 第14回 卒業研究 Proposal 中間発表 Day 1
- 第15回 卒業研究 Proposal 中間発表 Day 2

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901308
科目名	英語英文学演習 I ジョイス文学と映画
担当者	須川 いずみ
単位数	2 配当学年 3
資格	
前提科目	
テキスト	プリント
参考文献	
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画鑑賞をし、作品分析方法をいくつか習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究法の習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

- (1) 個々の作品及びスクリプトの精読
- (2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)
- (3) 個人発表
- (4) ディスカッション

2. 学習方法

- (1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。
質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるのでその準備が必要である。
- (2) 指定された映画は観なければならない。
- (3) 個々の作品についてレポートを提出する。
- (4) 発表の時間がある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこななければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、提出レポート60%

クラス・レスポンス40%

試験はしないので、積極的授業への取り組みが不可欠である。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 映画の構造
- 第3回 ジョイスの"The Dead"を読む
- 第4回 ジョイスの"The Dead"を読む
- 第5回 ジョイスの"The Dead"を読む
- 第6回 ジョン・ヒューストンの『ザ・デッド』を考える
- 第7回 エピファニーを読む
- 第8回 原作と映画比較と作品分析
- 第9回 ヒューストン映画のアイランド的要素
- 第10回 ヒッチコックの『サイコ』を考える
- 第11回 『サイコ』の精神分析的読解
- 第12回 ヒッチコックの『めまい』を考える
- 第13回 『めまい』の深層構造
- 第14回 ハリウッド映画を考える
- 第15回 フィードバックと発表

6. Special Information (留意事項)

チームワークを考えて行動できるように、課外活動も計画あり。

講義コード	20901309
科目名	英語英文学演習 I 言語理論研究
担当者	杉村 美奈
単位数	2 配当学年 3
資格	
前提科目	
テキスト	扱うトピックに応じてリーディングは適宜用意する。 『現代言語学20章』 ジョージ・ユール 大修館書店 1987 『はじめて学ぶ言語学』 大津由紀雄 ミネルヴァ書房 2009 『Contemporary Linguistic Analysis 7th edition』 William O'Grady & John Archibald Pearson Education Canada 2011 『Introduction to Japanese Linguistics 3rd edition』 Natsuko Tsujimura WILEY Blackwell 2014 興味のあるトピックに応じて、参考文献は適宜指示していく。
備考	必修 クラス指定
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

我々が普段何気なく使っている言語について深く考察し、言語の仕組みと理論について学ぶことにより、最終的には言語の分析の仕方を学ぶことを目標とする。

言語学概論で得た知識を前提にコースを進めていくが、概論でカバーした Phonetics (音声学)、Phonology (音韻論)、Morphology (形態論)、Syntax (統語論)、Semantics/Pragmatics (意味論/語用論) の中から、Morphology と Syntax に焦点を絞り、語形成や文構造、文の意味に関する様々な言語現象を扱っていく。

主に英語と日本語を対象言語として扱うが、トピックに応じて他言語も積極的に扱っていく。言語間に潜む意外な共通性や差異を発見することを通

して、言語学の観点から「言語」の面白さをじっくり味わってもらいたい。また、卒業論文に関するテーマの選定と文献収集の仕方についても言及する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 言語データの収集と観察の仕方(observation)について学ぶ。
2. 観察した言語データから一般化(generalization)を導く。
3. 得られた一般化がどう説明されるのか(data analysis)を考える。
4. その説明が何を意味するのか(consequences)を考える。
5. 文献収集と論文作成について方法論を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業スタイルはディスカッションを中心とした演習形式とする。理論の補足的な説明などは適宜パワーポイントを用いて行うが、基本的には毎回異なる言語データを一緒に観察し、議論していく。

学期の最後までには興味のあるトピックがある程度見つけ、夏休み中に関連文献の収集と卒業論文の最終的なテーマを決定する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

言語学概論で得た知識が前提となるため、授業で扱ったスライドや参考文献として指定した入門書を各自読んでおくこと。課されたリーディングは必ず授業までに読んでくること。

リーディング及び授業に関して分からないことはすぐに担当教員に質問することを常に心がけてほしい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Class Participation 20 %

Assignments 30%

Critical Review Paper 50 %

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Introduction: What is Linguistics?
言語学とは何か |
| 第2回 | A Brief Review of Morphology
形態論の復習：語の定義と品詞 |
| 第3回 | Data Set 1: Word Formation in Japanese & English
日本語と英語の語形成：接辞、名詞化 |
| 第4回 | Data Set 2: Word Formation in Japanese & English
日本語と英語の語形成：複合語 |
| 第5回 | Data Set 3: Word Formation in Japanese
日本語の語形成：名詞と動詞の複合語 |
| 第6回 | Data Set 4: Word Formation in English
英語の語形成：名詞と動詞の複合語 |
| 第7回 | Data Set 5: Word Formation in Japanese
日本語の語形成：動詞の複合語 |
| 第8回 | Data Set 6: Word Formation in English
英語の語形成：動詞の複合語 |
| 第9回 | Interim Summary
これまでのまとめ |
| 第10回 | A Brief Review of Syntax/Semantics
統語論/意味論の復習 |
| 第11回 | Data Set 7: Sentence Formation in Japanese & English
英語の文形成：束縛理論 |
| 第12回 | Data Set 8: Sentence Formation in Japanese & English
日本語の文形成：束縛理論 |
| 第13回 | Data Set 9: Sentence Meaning in Japanese & English
文の意味解釈：英語における文の曖昧性 |
| 第14回 | Data Set 10: Sentence Meaning in Japanese & English
文の意味解釈：日本語における文の曖昧性 |
| 第15回 | Finding Sources
研究テーマ関連文献の収集(コンピュータ演習) |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901311			
科目名	英語英文学演習 I 英語生涯学習論			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学英語教育学-その方向性と諸分野』森住衛他編 英語教育学会系 第1巻 大修館書店 2010 『「教える」から「学ぶ」への教育改革：学習投資への道-学習開発シリーズ』学習開発研究所 Kindle 2014 その他トピックに応じて適宜指示します。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

インターネットの普及、映画やテレビ番組のグローバル化によって、英語を聞いたり話したりする機会は飛躍的に多くなっています。また、接客業、小売業、観光業などでも英語力は必須になってきました。このように、英語によるコミュニケーション能力は特定の人に求められるものではなく、あらゆる人に求められています。

本コースでは、生涯学習社会を見据えて、自分に合った英語の学びを選択できるように、人間が学ぶこと、また学び方など、学びのしくみについて考えていくこととします。そのため、自ら英語を勉強するために提供されている様々なプログラムおよび、オンラインサイトやスマホなどで提供されているソフトやアプリを、実践的に検証します。

また、演習を通じて、学びのしくみについて理解し、説明できるようになること、その結果として、目的に合った英語カリキュラムを提案できるようになることを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学びについて幅広い知識を身につける。
2. キャリアに求められる英語力に関する情報を収集する。
3. 学びに役立つ検定とその向上プログラムを実践検証する。
4. 発表した内容をもとに、レポートとしてまとめる方法を学ぶ。
5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

本コースでは、「科目の教育目標」に照らし、授業は協同学習形式で進めることとします。そのため、毎時必ず質疑応答など発言に、積極的に参加することが求められます。必要に応じて、適宜、教員による講義やフィードバックを行います。

2. 学習方法

前期は、生涯教育の観点から、様々な学びに関する知識を習得するとともに、発表と英語検定、および、その向上プログラムやソフトを、お互いに紹介しながら、自分の目的に合う英語学習プログラムを構築します。同時に、論文作成に必要な知識を獲得します。後期は、社会で求められる英語力に関する情報を収集するとともに、前期に紹介した検定、およびその向上プログラムやソフトを使いながら、目的別英語カリキュラムを構築します。前・後期ともに、授業終了時に振り返りシートに記入するとともに、発表に関して、各自コメントシートを記入し、発表者へフィードバックすることとします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・入手可能な英語プログラムやソフトを探し、試行する。
- ・授業中のディスカッションに参加できるように、質問、コメントを予め想定する。
- ・授業後、翌週までに振り返りシートを完成させる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表 30%

授業参加 40% (コメントシート、振り返りシート)

レポート 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|-----|---------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 英語から見えるキャリアとは |
| 第3回 | キャリアに求められる英語力 |
| 第4回 | 英語力を認定する検定の種類 |
| 第5回 | キャリア形成に役立つ検定に関する調査 |
| 第6回 | 自分に適する英語学習カリキュラム構築 |
| 第7回 | プレゼンテーションとディスカッション1 |
| 第8回 | プレゼンテーションとディスカッション2 |
| 第9回 | プレゼンテーションとディスカッション3 |

- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション4と総括
- 第11回 資料収集と検索方法について
- 第12回 論文作成について (方法論1)
- 第13回 論文作成について (方法論2)
- 第14回 卒業研究のための中間発表1
- 第15回 卒業研究のための中間発表2

6. Special Information (留意事項)

遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は欠席とします。授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。また、実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストを読んで、レポートにまとめて提出してください。

講義コード	20901312			
科目名	英語英文学演習 I			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『Katherine Mansfield Selected Stories』 Katherine Mansfield Penguin Books 『キャサリン・マンスフィールドの醍醐味』 吉野啓子 朝日出版			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

How to researchを念頭に、児童文学や英国小説を読み進める。作品に現れる子供や女性の世界、そして人間関係に含まれる様々な問題をはじめ、女性独自の繊細な心理や描写に対する理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

文学作品の理解と学術論文の書き方など。卒業論文のresearch方法は勿論のこと、作品の登場人物の分析、作者の技巧など、様々な観点から作品を理解する方法を探る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

作品の理解を中心に、参考文献との係り方などの習得。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

作品については勿論のこと、参考文献なども辞書を使って準備すること。方法については、授業で詳しく説明する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 40%、レポートなど提出物 20%、予習 20%、卒論1章 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の進め方などの説明
- 第2回 近代英国小説について
- 第3回 近代英国小説について
- 第4回 近代英国小説や児童文学と、卒業論文について
- 第5回 卒業論文の取り組み方について
- 第6回 卒業論文の書き方などを中心に
- 第7回 卒業論文の書き方などを中心に
- 第8回 卒業論文の書き方などを中心に
- 第9回 ビーターラビットについて
- 第10回 クマのプーさんについて
- 第11回 Blissにある作品から
- 第12回 日本の昔話から
- 第13回 日本の昔話から
- 第14回 The Garden Party にある作品から
- 第15回 The Garden Party にある作品から

6. Special Information (留意事項)

前もって必ず、準備して授業に臨んで下さい。

講義コード	20901401			
科目名	英語英文学演習 II Sociolinguistics and Language Learning			
担当者	York Weatherford			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 John Edwards Oxford University Press 2013			
参考文献	『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』 Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller Wiley-Blackwell 2014 『An Introduction to Sociolinguistics, Fourth Edition』 Janet Holmes Routledge 2013			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to introduce students to the major topics in sociolinguistics, the study of the relationship between language and society. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

3. Course Method (教育・学習の方法)

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

In-class participation: 40%

Presentations: 20%

Project work: 10%

Final paper: 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Multilingualism
- 第2回 Diglossia
- 第3回 Code mixing
- 第4回 English as an international language
- 第5回 World Englishes
- 第6回 Language change
- 第7回 Pidgins and creoles
- 第8回 Conversation analysis
- 第9回 Forensic linguistics
- 第10回 Sociolinguistic fieldwork
- 第11回 Analyzing sociolinguistic variation
- 第12回 Presentation preparation
- 第13回 Presentations
- 第14回 Presentations
- 第15回 Final paper due

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901402			
科目名	英語英文学演習Ⅱ Herman Melvilleの短編小説を読む			
担当者	大川 淳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『The Piazza Tales』 Herman Melville Northwestern University Press 1987			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースでは19世紀中期に活躍した作家Herman Melvilleの短編を精読する。また19世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。

前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを一語一句意味を味わいながら読むことを目指す。

これらの目標を超え、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得してもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

本コースで行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。

したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。

授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語(文法)レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。

プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。

プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点	30%	出席点、授業態度、ゼミへの貢献度。
課題	40%	Presentation、予習
レポート	30%	Final Paper Project

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Introduction
- 第2回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation1とComments
- 第3回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation2とComments
- 第4回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation3とComments
- 第5回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation4とComments
- 第6回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation5とComments
- 第7回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation6とComments
- 第8回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation7とComments
- 第9回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation8とComments
- 第10回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation9とComments
- 第11回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation10とComments
- 第12回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation11とComments
- 第13回 "Bartleby, the Scrivener" Presentation12とComments
- 第14回 "The Piazza" Review と Final Paperの準備
- 第15回 "The Piazza" Review と Final Paperの準備

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901404			
科目名	英語英文学演習Ⅱ (小・中・高校)英語教材の作成やハンドブック、(ホームステイ・観光異文化・伝統・伝説・民話紹介等)ガイドブック・論文作成			
担当者	橋堂 弘文			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS (LONGMAN) 英語教育用語辞典(大修館)最新刊 Presentations to Go(CENGAGE learning)			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

企業就職希望者や(小)中・高の英語教員志望者の卒業論文(個人)作成や(小・中・高校)英語教材の作成やハンドブック、(ホームステイ・観光異文化・伝統・伝説・民話、日本と外国の世界遺産の紹介等)のガイドブック、教育関連の論文の作成をめざす。3回生の間に1/2以上の卒業論文や英語の教材・ガイドブック等の作成(個人/グループ)完了が目標となる。フィールドワークの調査や文献研究のまとめを実施し、1か月に1回は、ハンドアウトのレジュメを作成し、そのプレゼンテーションを課す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

英語教材の作成とそのマニュアルの作成、および卒業論文の作成をもって、卒業研究とする。

特に、教材作成は、個人または3~4人のグループで、英語教材(総合学習〈国際理解〉用教材、オーラル・コミュニケーション用英語教材、児童英語教育用教材、リーディング用英語教材、インターネット利用の英語教材等)を作成する活動に取り組む。

特に、教材作成は、3回生から4回生に及ぶ長期にわたる活動で、議論し、役割分担し、まとめ上げ、製作していく、根気と努力が必要となる。

英語教育に関連する研究会等への積極的な参加も期待したい。希望者には、企業や公立学校(中学・高校)と私立学校・私塾等の(教員)採用試験対策も実施する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

昨年は、先輩達や社会人、他学科の学生達との宿泊研修会「第8回 教育を考える橋の会」(6月:希望者の参加)を実施し、教育問題、ワーキングホリデー参加、フランス留学を終えての感想、社会問題、社会人としての生き方等、多岐にわたり話し合う機会が持てた。

教育関連の学校等に勤務する先輩や教員たちとの研修会「教育を考える橋の会」参加や交流会、英語授業研究会等への参加の機会を作りたい。

(英語)教材作成に関連する話題や問題を、調査したり、議論したり、小論文にまとめたり、プレゼンテーションし発表する活動が中心になる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 卒業論文/英語教材、ガイドブック等の作成に関する課題や問題を調査したり文献研究し、議論し、レジュメにまとめハンドアウトを作成し発表する。
2. 卒業論文/英語教材、ガイドブック等の作成と学年終了時には、1/2以上の完成を目指す。
3. 4回生のゼミ生による、3回生のゼミ生に対する、卒業論文/教材/ガイドブック作成の中間発表(interimreport)を課する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. ゼミ生各自の発表をもとにして、ディスカッションを行う。ゼミ生全員が、問題点を発見し、報告者の発表を聞き、活発な議論と1か月に1回のプレゼンテーション等 30%
2. 上記の英語教材・ガイドブック等の個人/グループ製作、および論文をもって、評価する。演習室でワードやパブリッシャー等利用で毎回のゼミでノルマを課す。20%
3. 研修会やフィールドワーク、チャリティー・ボランティア・インターンシップ等の活動への積極的な参加。10%
4. 論文、教材、ガイドブック作成40%
5. 出席減点法

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 卒業論文(個人)、教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人指導
- 第2回 卒業論文(個人)、教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作:個人指導
- 第3回 4回生による卒業論文(個人)/教材・ガイドブックの3回生へ

- 向けた中間発表（34回生ゼミ生全員）
- 第4回 学園祭の日本盲導犬協会へのチャリティ活動の準備作業
- 第5回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作：個人指導
- 第6回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作：個人指導
- 第7回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作：個人指導
- 第8回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作：個人指導
- 第9回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックのアウトラインベースのノルマの作品制作：個人指導
- 第10回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックの校正作業：個人指導
- 第11回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックの校正作業：個人指導
- 第12回 卒業論文（個人）、教材・ガイドブックのアウトラインベースの中間発表のプレゼンテーション：個人指導
- 第13回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックの1/2以上作成へ向けた校正作業：個人指導
- 第14回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックの1/2以上作成へ向けた校正作業：個人指導
- 第15回 卒業論文（個人）/教材・ガイドブックの1/2以上作成へ向けた校正作業：個人指導

6. Special Information (留意事項)

土・日曜日や長期休暇期間中にフィールドワークも実施する。

講義コード	20901405			
科目名	英語英文学演習Ⅱ Buddhism			
担当者	Robert Kritzer			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『仏教』 Watanabe Shoko			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

The purpose of this course is to familiarize students with Buddhism, which is not only an important religion in Japan but also one of the major religions of the world. Most Japanese students have been exposed to various aspects of Buddhism in their daily lives, and many may come from families that consider themselves Buddhist. However, few students know about the original forms of Buddhism in India or the changes Buddhism underwent during its transmission from India to Japan via China and Korea. This course aims to help students understand the background of an important component of Japanese culture as well as to appreciate the religious messages of Buddhism. Depending on students' schedules, one or two classes may be changed to field trips to Buddhist temples in Kyoto or Shiga

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

Students will study both the history of Buddhism and its most important teachings. Topics covered may include: the life of the Buddha; an introduction to basic Buddhist doctrines (such as the teaching of the Four Noble Truths, karma, reincarnation, heavens and hells, meditation, and nirvana); the Buddhist monastic order; Buddhist sectarianism; the development of Mahayana Buddhism; and Buddhism in Japan.

3. Course Method (教育・学習の方法)

I have chosen a book in Japanese so that students will be able to absorb unfamiliar and difficult material more easily. However, most classroom activities and all papers will be in English. Additional reading in English will be assigned and provided in the form of photocopies.

Although I shall explain some of the material in class, students should not expect the classes to consist of lectures. Activities will include comprehension-checking, full-class discussions, group discussions, and in-class writing. Students must be prepared to do all the assigned reading and to participate regularly in class.

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

Students must do all assigned reading. They are responsible for looking up all unfamiliar vocabulary. They must also be ready for their presentation on the assigned day, and they must submit their zemi report on time.

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Attendance and classroom performance : 40%

Presentation and zemi paper : 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Consultation on thesis topics and progress
- 第2回 Schisms and abhidharma
- 第3回 Origins of Mahayana
- 第4回 Mahayana and Lotus Sutra
- 第5回 Kukai 1
- 第6回 Kukai 2
- 第7回 Shingo
- 第8回 Pure Land
- 第9回 References and citation workshop
- 第10回 Progress Conferences 1
- 第11回 Progress Conferences 2
- 第12回 Practice for Presentations
- 第13回 Presentations
- 第14回 Presentations
- 第15回 Seminar paper due

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901406			
科目名	英語英文学演習Ⅱ イギリス、エンタメ (Entertainment) のふるさと を読み解く：ビートルズとハリー・ポッター			
担当者	小林 順			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『ビートルズ(上)』ハンター・デイビス 河出書房新社 2010 『Harry Potter and the Sorcerer's Stone』 J.K. Rowling Scholastic Paperbacks 2014			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

第一に、科目教育目標の大前提として、英語圏文学・文化の理解という目標を掲げたい。そのために、教育目標の第二でもある、ザ・ビートルズの伝記を読解することによって、20世紀中期における英国エンタメの有様を知ることができる。続いて、ハリー・ポッター第一巻を読み、人間界と異世界の境界線に立つという娯楽の真髄を目の当たりできる。第二に、ビートルズであれハリーであっても、特定の地域に深く関わっている。リバプールでありボグワーツである。エンタメには特定の街であり地域が必須である。イギリスにはそのような場所が点在している。そして、そのような場に人が集い非日常的な世界を創出している。シェクスピアのストラットフォードアボンエイボン、シャーロック・ホームズのロンドン、等々。そのような場を提供するチャンピオンとしてビートルズとハリー・ポッターをとりあげたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

書物の詳細な「読み」に加えて以下のテーマを取り上げる。リバプールの歴史にこそザ・ビートルズの奇跡の淵源であることを探り、そして異界ボズワーツ探検したい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 授業方法
作品の演習と講義。
- 学習方法
作品の下読み。二次資料の網羅と調査。
・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
ハリーとビートルズ伝記の読解を試みる。
映像でイギリスを旅したい。
情報・データはオンライン収集。
プレゼンもまたオンライン。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評点は100。その内訳は、期末試験が60点。小テスト20点。出席およびクラスでの発表に20点。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ビートルズと共にリバプールへの仮想ツアー。I
- 第2回 ビートルズと共にリバプールへの仮想ツアー。II
- 第3回 ハリーは蒸気機関車に引かれてボグワーツへ異動。鉄道とエン

- タメ、歴史探索。
- 第4回 ハリーの懐古的世界を探ろう。19世紀ヘタイルスリップ。
- 第5回 世界初の旅行社。トマス・クックの偉業。
- 第6回 サークスの世界を探ろう。中心に円形舞台、周辺に闇、そそり立つ光の筒。明と暗の対比。
- 第7回 ザ・ビートルズが歌うサーカスの唄。
- 第8回 ハリーが吸い込まれた壁を潜ろう。
- 第9回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第10回 ハリー・ポッター第一巻に現れる現実と異界との境界ゾーンがどのように描かれているのかを考えた。
- 第11回 ザ・ビートルズの歌詞を中心に置いて、研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第12回 ハリー・ポッターに登場する存在の特徴を調べよう。先行研究の調査を基に研究するための読みにチャレンジしよう。研究とは何かというテーマに取り組む。資料の収集とその整理、それらの効率的な利用法がテーマとなる。
- 第13回 一次資料と二次資料を網羅した論文形式のレポートに挑戦してもらいたい。
- 第14回 プレゼンテーションを基に、期末レポート作成準備。
- 第15回 プレゼンテーションを基に、期末レポート作成準備。

6. Special Information (留意事項)

オンライン状態を保持する。

空間の制約を打ち破る試みを行う。

研究の基本を体得する。

英語力を培うという根本命題を忘れるべから

講義コード	20901407		
科目名	英語英文学演習Ⅱ コミュニケーション研究		
担当者	小山 哲春		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト	『コミュニケーション研究法』 末田清子他 ナカニシヤ出版 2011		
参考文献	『コミュニケーション学：その展望と視点』 末田清子・福田浩子 松柏社 2011 『コミュニケーションスタディーズ入門』 鈴木謙他 大修館書店 2011 『ことばの社会心理学』 岡本真一郎 ナカニシヤ出版 2010 『もし「右」や「左」がなかったら』 井上京子 大修館書店 1998		
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本ゼミは、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、説明できるようになることを目標とする。

上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類学的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論を学び、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する。

演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

<1> 理論習得 (コミュニケーションの基礎理論を概観する。)

<2> 方法論習得 (コミュニケーションを観察 (データ収集)、分析するための具体的方法論を習得する) :

- 行動観察法 (記録および記述)
- 質問紙調査 (アンケート) 法
- フィールドワーク (参与者観察) 法
- 実験デザイン

<3> 分析演習 (上記で学習した分析方法論を用いて実際にコミュニケーション現象を分析し、これを発表する。)

<4> 論文作成法習得 (演習を通じて卒業研究のテーマを模索し、これを研究論文へと発展させる方法 (文献研究、データー収集、分析、説明) について学習する。「コミュニケーション概論」「対人コミュニケーション」)

文化間コミュニケーション / Global English Lecture IC 「言語・文化・コミュニケーション」といった関連科目で扱われたトピックの中から、自分の関心に従って具体的なコミュニケーション現象を卒論のテーマとして選定し、

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業： 本ゼミは、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。
発表： 研究方法論 (前期) およびコミュニケーションに関する学術論文 (後期) についての発表、および、自らが選んだトピック (コミュニケーション現象) を実際に分析した結果を口頭発表する。

卒業研究 Proposal 作成： 前期の間に複数のトピックを選んで簡単な分析演習を行い、後期にかけてこれを絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- (1) 指定されたテキスト (reading assignment) を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- (3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」へ落とし込むため、適宜 Proposal の執筆と相談を行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表1 (方法論・理論のサマリー発表) 25%

発表2 (実践演習：ミニ研究発表) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

卒業研究 Proposal 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 研究計画と論文執筆概論
- 第2回 学術論文購読演習1：言語とコミュニケーション
- 第3回 学術論文購読演習2：非言語コミュニケーション
- 第4回 学術論文購読演習3：対人コミュニケーション
- 第5回 学術論文購読演習4：異文化間コミュニケーション
- 第6回 学術論文購読演習5：説得のコミュニケーション
- 第7回 学術論文購読演習6：社会認知とコミュニケーション
- 第8回 研究方法論1：Proposal作成の基礎
- 第9回 研究方法論2：基礎統計学と記述法
- 第10回 分析演習1：グループ発表とディスカッション
- 第11回 分析演習2：グループ発表とディスカッション
- 第12回 分析演習3：グループ発表とディスカッション
- 第13回 卒業研究 Proposal 発表 Day 1
- 第14回 卒業研究 Proposal 発表 Day 2
- 第15回 Course Review と卒業論文執筆要領

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901408		
科目名	英語英文学演習Ⅱ ヨーロッパ映画から日本映画そして世界へ		
担当者	須川 いずみ		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト	プリント		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画観賞をし、映像芸術の読み方を学び、やがて作品分析方法をいくつか習得する。次にそこに描かれている人間、文化、世界観について考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究法の習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

- (1) 個々の作品及びスクリプトの精読
- (2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)
- (3) 個人発表

(4) ディスカッション

2. 学習方法

- (1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。
質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるのでその準備が必要である。
- (2) 指定された映画は観なければならない。
- (3) 個々の作品についてレポートを提出する。
- (4) 発表の時間がある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこなければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、提出レポート60%

クラス・レスポンス40%

試験はしないので、積極的授業への取り組みが不可欠である。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 卒業論文テーマの発表
- 第2回 ヴィスコンティの『ベニスに死す』を考える
- 第3回 ヴィスコンティの『家族の肖像』を考える
- 第4回 ヴィスコンティの映像芸術
- 第5回 小津安二郎の『東京物語』
- 第6回 『東京物語』と家族のかたち
- 第7回 小津安二郎のヨーロッパ影響力
- 第8回 黒澤明の『乱』を考える
- 第9回 『乱』の映像メッセージ
- 第10回 黒澤明『蜘蛛の巣城』を考える
- 第11回 クロサワとシェイクスピア
- 第12回 論文テーマとアウトライン作成指導
- 第13回 2ゼミ4年次生の発表とディスカッション
- 第14回 ゼミ個人発表
- 第15回 総括とその他

6. Special Information (留意事項)

卒業論文を成功させるには、いち早く自分に合ったテーマを決めることなので、多くの映画作品を提供するつもりである。また、課外活動も活発に参加してもらいたい。

講義コード	20901409			
科目名	英語英文学演習Ⅱ 言語理論研究			
担当者	杉村 美奈			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	扱うトピックに応じてリーディングは適宜用意する。			
参考文献	興味のあるトピックに応じて、参考文献は適宜指示していく。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

我々が普段何気なく使っている言語について深く考察し、言語の仕組みと理論について学ぶことにより、最終的には言語の分析の仕方を学ぶことを目標とする。

言語学概論で得た知識を前提にコースを進めていくが、概論でカバーしたPhonetics (音声学)、Phonology (音韻論)、Morphology (形態論)、Syntax (統語論)、Semantics/Pragmatics (意味論/語用論)の中から、Morphologyに焦点を絞り、語形成に関する様々な言語現象を扱っていく。

主に英語と日本語を対象言語として扱うが、トピックに応じて他言語も積極的に扱っていく。言語間に潜む意外な共通性や差異を発見することを通して、言語学の観点から「言語」の面白さをじっくり味わってもらいたい。なお、卒業論文のアウトライン及び計画書(thesis outline/research proposal)を提出することと、論文のテーマに関する口頭発表が課せられる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 言語データの収集と観察の仕方(observation)について学ぶ。
- 2. 観察した言語データから一般化(generalization)を導く。
- 3. 得られた一般化がどう説明されるのか(data analysis)を考える。
- 4. その説明が何を意味するのか(consequences)を考える。
- 5. 文献収集と論文作成について方法論を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業スタイルはディスカッションを中心とした演習形式とする。理論の補

足的な説明などは適宜パワーポイントを用いて行うが、基本的には毎回異なる言語データを一緒に観察し、議論していく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

言語学概論で得た知識が前提となるため、授業で扱ったスライドや参考文献として指定した入門書を各自読んでおくこと。課されたリーディングは必ず授業までに読んでおくこと。リーディング及び授業に関して分からないことはすぐに担当教員に質問することを常に心がけてほしい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

Presentation 40%

Short Paper (Thesis Proposal) 60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 Thesis Topic & Discussion
研究テーマ及び関連文献についてディスカッション
- 第2回 How to Make a Presentation Handout 1
発表ハンドアウトの構成(セクション立ての演習)
- 第3回 How to Make a Presentation Handout 2
発表ハンドアウトの構成(参考文献リスト、その他のフォーマット)
- 第4回 Student Presentation 1 & Discussion
プレゼンテーションとディスカッション
関連トピックについての補足説明
- 第5回 Student Presentation 2 & Discussion
プレゼンテーションとディスカッション
関連トピックについての補足説明
- 第6回 Student Presentation 3 & Discussion
プレゼンテーションとディスカッション
関連トピックについての補足説明
- 第7回 Student Presentation 4 & Discussion
プレゼンテーションとディスカッション
関連トピックについての補足説明
- 第8回 Student Presentation 5 & Discussion
プレゼンテーションとディスカッション
関連トピックについての補足説明
- 第9回 Student Presentation 6 & Discussion
プレゼンテーションとディスカッション
関連トピックについての補足説明
- 第10回 Student Presentation 7 & Discussion
プレゼンテーションとディスカッション
関連トピックについての補足説明
- 第11回 From a Handout to a Thesis 1
発表ハンドアウトから論文へ(コンピュータ演習)
論文の章立て、セクション立てについて学ぶ
- 第12回 From a Handout to a Thesis 1
発表ハンドアウトから論文へ(コンピュータ演習)
論文の体裁について学ぶ
- 第13回 Thesis Proposal and Outline
プロポーザルとアウトライン作成
- 第14回 Review: Methodology in Theoretical Linguistics
研究方法論についての復習
- 第15回 How to Write a Thesis: Dos and Don'ts
卒論執筆に向けて

6. Special Information (留意事項)

講義コード	20901411			
科目名	英語英文学演習Ⅱ 英語生涯学習論			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『大学英語教育学-その方向性と諸分野』森住衛他編 英語教育学体系 第1巻 大修館書店 2010 『「教える」から「学ぶ」への教育改革：学習投資への道-学習開発シリーズ』学習開発研究所 Kindle 2014 その他トピックに応じて適宜指示します。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

インターネットの普及、映画やテレビ番組のグローバル化によって、英語を聞いたり話したりする機会は飛躍的に多くなっています。また、接客業、小売業、観光業などでも英語力は必須になってきました。このように、英語によるコミュニケーション能力は特定の人に求められるものではなく、あらゆる人に求められています。

本コースでは、生涯学習社会を見据えて、自分に合った英語の学びを選択できるよう、人間が学ぶこと、また学び方など、学びのしくみについて考えていくこととします。そのため、自ら英語を勉強するために提供されている様々なプログラムおよび、オンラインサイトやスマホなどで提供されているソフトやアプリを、実践的に検証します。

また、演習を通じて、学びのしくみについて理解し、説明できるようになること、その結果として、目的に合った英語カリキュラムを提案できるようにすることを目指します。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学びについて幅広い知識を身につける。
2. キャリアに求められる英語力に関する情報を収集する。
3. 学びに役立つ検定とその向上プログラムを実践検証する。
4. 発表した内容をもとに、レポートとしてまとめる方法を学ぶ。
5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

本コースでは、「科目の教育目標」に照らし、授業は協同学習形式で進めることとします。そのため、毎時必ず質疑応答など発言に、積極的に参加することが求められます。必要に応じて、適宜、教員による講義やフィードバックを行います。

2. 学習方法

前期は、生涯教育の観点から、様々な学びに関する知識を習得するとともに、発表と英語検定、および、その向上プログラムやソフトを、お互いに紹介しながら、自分の目的に合う英語学習プログラムを構築します。同時に、論文作成に必要な知識を獲得します。後期は、社会で求められる英語力に関する情報を収集するとともに、前期に紹介した検定、およびその向上プログラムやソフトを使いながら、目的別英語カリキュラムを構築します。前・後期ともに、授業終了時に振り返りシートに記入するとともに、発表に関して、各自コメントシートを記入し、発表者へフィードバックすることとします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・入手可能な英語プログラムやソフトを探し、試行する。
- ・授業中のディスカッションに参加できるよう、質問、コメントを予め想定する。
- ・授業後、翌週までに振り返りシートを完成させる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表 30%

授業参加 40% (コメントシート、振り返りシート)

レポート 30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会で求められる英語力1 (通訳・翻訳)
- 第3回 社会で求められる英語力2 (海外営業)
- 第4回 社会で求められる英語力3 (海外事務・財務)
- 第5回 社会で求められる英語力4 (航空業界・サービス業)
- 第6回 社会で求められる英語力5 (ジャーナリズム)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション1
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション2
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション3
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション4と総括
- 第11回 実証的研究について
- 第12回 実証的研究のまとめ方について
- 第13回 卒業研究概要に関する発表1
- 第14回 卒業研究概要に関する発表2
- 第15回 総括と卒業論文について

6. Special Information (留意事項)

遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は欠席とします。授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。また、実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストを読んで、レポートにまとめて提出してください。

講義コード	20901412			
科目名	英語英文学演習Ⅱ			
担当者	吉野 啓子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『Katherine Mansfield Selected Stories』 Katherine Mansfield Penguin Books 『キャサリンマンズフィールドの醍醐味』 吉野啓子 朝日出版			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

How to research を念頭に、児童文学や英国小説を読み進める。作品に現れる子供や女性の世界、そして人間関係に含まれる様々な問題をはじめ、女性独自の繊細な心理や描写に対する理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

文学作品の理解と学術論文の書き方など。卒業論文の research 方法は勿論のこと、作品の登場人物の分析、作者の技巧など様々な観点から作品を理解する方法を探る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

作品の理解を中心に、参考文献との係り方などの習得。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

作品については勿論のこと、参考文献なども辞書を使って準備すること。方法については、授業で詳しく説明する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 40%、レポートなど提出物 20%、予習 20%、卒論1章 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 個人発表
- 第2回 個人発表
- 第3回 個人発表
- 第4回 若草物語について
- 第5回 若草物語について
- 第6回 赤毛のアンについて
- 第7回 赤毛のアンについて
- 第8回 The Dave's Nest にある作品から
- 第9回 The Dave's Nest にある作品から
- 第10回 Bliss にある作品から
- 第11回 Bliss にある作品から
- 第12回 Something Childish にある作品から
- 第13回 Outline について
- 第14回 Outline と卒論について
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

後半は卒論の為にとっても重要な授業です。しっかりと、臨んで下さい。

講義コード	22301201			
科目名	比較文化概論 複眼思考の勧め			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『個人主義と集団主義』 H.C.トリアンディス (著) 神山・藤原編訳 北大路書房 2003 『日本人とユダヤ人』 イザヤ・ベンダサン 山本書店 1970 『比較文化入門』 狐野利久 北星書店 1995 『フランスの社会』 原輝史・宮島喬 (編) 早稲田大学出版会 1993 『個人主義の社会-日本』 浜口恵俊 東洋経済新聞社 1992			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

今日の日本において、異文化とりわけ西欧文化を語る時、そこにおける「西欧」とは、一般にヨーロッパ及び北アメリカを指している。しかし、私自身の25年間にわたる日本外での生活体験から得た結論は、ヨーロッパと北アメリカではかなりの相違があり、これら二つの地域・文化圏を西欧という一つの単語でとらえること自体、かなり無理があるということである。従って、この科目では、私自身の25年間にわたる海外生活（フランス・アルジェリア・イギリス・カナダなど）での体験も織り交ぜながら、ヨーロッパとアメリカ大陸、更には、アラブ文化圏等も含めた違いについて考察する。こうした考察を通して異文化を理解する窓口を学生と共に創っていきたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

21世紀の今日、否応なしに世界はグローバル化の時代を迎えている。そうした中で、インターネット、国際ビジネス、自然科学等の分野において英語が圧倒的強みを発揮している。今後とも、英語が国際交流において重要な言語であることに変わりはないであろう。同時に、世界とは多種多様な言語・民族より構成されており、その実体は、一つの言語のみで把握するには余りにも複雑であることも事実である。そこで、日本人が21世紀において、真の意味での国際的視野を持つには、英語の習得のみに止まらず、他の言語・文化圏に関する知識を深めることが不可欠である。こうした複数の言語・文化圏に関する考察を通して比較文化を行うことで、「複眼思考」の大切さを学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

下記の授業予定で紹介する幾つかのテーマごとに、日本と異文化圏とりわけ西欧社会の違いを採り上げ、そうした違いは一体どこからきているのかについて各自が考える。こうした考察を通して、異文化理解を自分の問題として捉える意識・習慣を育む。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教科書は特に定めないので、上記にあげた参考書のうち、少なくとも一つは読むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (20%)、学期末試験 (80%)

出席を重視する。期末試験は小論文形式で、自らの考えを論理的に展開し、文章にまとめる能力が問われる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 文化とは何か
- 第2回 エゴ (自我) をめぐる西欧と日本の違い
- 第3回 個人主義と集団主義
- 第4回 文化圏による「自然観」の違い
- 第5回 死と生をめぐる比較文化
- 第6回 仕事・労働に対する価値観
- 第7回 対立・紛争処理をめぐる異文化比較
- 第8回 時間の概念をめぐる東西比較
- 第9回 沈黙と雄弁に関する比較文化
- 第10回 教育の在り方-東西比較
- 第11回 偶然と必然をめぐる東西比較
- 第12回 信仰と宗教-東西比較
- 第13回 人間関係をめぐる比較文化
- 第14回 家族の在り方をめぐる比較文化
- 第15回 社会における女性の地位をめぐる比較文化

6. Special Information (留意事項)

授業中の私語は、他のクラスメートに迷惑となるので、つつむこと。大学生は、大人としてのマナーを身につけて下さい。

講義コード	22301301			
科目名	日本文化論			
担当者	阪口 由佳			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[国][日][ホ]			
前提科目				
テキスト	プリント配付			
参考文献	『比較生活文化事典』 金山宣夫 大修館書店 1977 『古代日本人の生活の謎』 武光誠 大和書房 1986 『万葉びとの生活空間』 上野誠 塙書房 2000 『異界と日本人』 小松和彦 角川書店 2003 そのほか、授業中に指示			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「日本文化」という言葉から連想されるのは、どのような単語でしょうか。伝統芸能としての能や歌舞伎、お茶・お花をはじめとする「〜道」という世界、或いは神社仏閣や庭園といった建築など、どちらかというと日常生活とは一線を画した世界を思い浮かべるかもしれません。この科目では、そういった「日本文化」の華に対する理解を深めるとともに、暮らしの中の「日本らしさ」を感じさせる風習についても学ぶことを目的としています。受講に際しては各自授業に参加するという意欲をもって臨んでくれることを願っています。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・日本を中心とした、文化の多様な表現や実態にふれ、その特徴を理解する。
- ・文化研究の方法を知り、現代や過去の文化の在り方を理解する。
- ・日本文化を生きたものとして理解し、自分の生活と結びつけて考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・配布したプリントにより、様々な文化表現や実態に触れ、講義をとおして、日本文化に対する理解を深める。
- ・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に対する感想・意見をまとめて提出する。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
 - ・授業で紹介した参考文献や文学、映像作品などを実際に自分で味わってみる。
 - ・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、日本文化について考えをまとめる。
 - ・京都を実際に自分で歩いてみる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (50%)、まとめテスト (50%) により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 日本文化とは何か
- 第2回 和服の文化
- 第3回 和食の文化
- 第4回 日本の世界遺産
- 第5回 日本の神話と世界の神話
- 第6回 奈良時代の文化-正倉院宝物
- 第7回 幻想と怪異の世界
- 第8回 日本の妖怪
- 第9回 芸能の発生
- 第10回 伝統芸能
- 第11回 京都の文化
- 第12回 昔話
- 第13回 日本語
- 第14回 現代日本文化の多様性
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22302101
科目名	日本語コミュニケーションⅠ
担当者	長沼 光彦
単位数	2 配当学年 1
資格	[国][情][日]
前提科目	
テキスト	『書き込み式 漢字ベーシック 漢検対応』 明治書院 プリント配布
参考文献	『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康 講談社現代新書 『「分かりやすい説明」の技術』 藤沢晃司 講談社ブルーバックス 『相手に「伝わる」話し方』 池上彰 講談社現代新書 『人生の教科書 人間関係』 藤原和博 ちくま文庫 『大人の敬語コミュニケーション』 蒲谷宏 ちくま新書
備考	必修 文章表現を含む
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

人に意思を伝えるのは難しい。頭に浮かぶまま言葉に置き換えても、なかなか理解してはもらえない。言葉にできない思いもある。思いを伝えるには、表現の工夫や言葉の知識が必要になる。

本講座では、コミュニケーションのための基礎知識や方法を紹介しながら、表現に慣れ親しんでもらうことを目的とする。作文を書くのは苦手だという人たちは、まずは気楽に言葉を書き連ねる習慣を身につけてほしい。そのうえで、人に自分の気持ちをよりうまく伝える方法を学んでいこう。

また、1年次の必修であるため、レポート作成方法など、大学で学ぶための方法も身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・コミュニケーションの基礎知識の学習
- ・漢字検定準2級から2級レベルの漢字能力の養成
- ・句読法・接続詞など文法事項の習得
- ・段落構成など、表現方法の習得
- ・レポートの書き方の学習
- ・敬語表現の基礎の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・プリントやビデオなどにより教材を提示する。
- ・毎回作文用紙やワークシートなどを用いて、文章表現の練習を行う。
- ・毎回漢字テストを行い、文章表現のための基礎力を身につける。
- ・グループ学習を通じて、コミュニケーション能力を養う。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・授業で紹介した参考文献などを読み、コミュニケーションに関する知識を広げる。
- ・授業で学んだことを、大学生活で実践し、自分のコミュニケーション活動を省みる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、毎時間の提出物(30%)、漢字テスト(10%)、学期末のレポート(30%)により行う。大学で学ぶための入門講座でもあるので、出席することを重視する。出席しなければ、毎時間の提出物や漢字テストの評価もできないので注意しよう。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 自己表現としての自己紹介
- 第2回 文の構造と句読点の使い方、原稿用紙の使い方
- 第3回 論理的に考える(案の出し方と単純化)
- 第4回 論理的に考える(対立点を見つける)
- 第5回 論理的に考える(カテゴリーに分ける)
- 第6回 グループワーク(異なる意見を整理する)
- 第7回 わかりやすく発表する
- 第8回 文章の整理・文章の組み立て
- 第9回 対比の構造(「しかし」を使いこなす)
- 第10回 敬語表現の基礎
- 第11回 手紙の書き方
- 第12回 レポートの書き方(形式を整える)
- 第13回 レポートの書き方(構成を意識する)
- 第14回 レポートの実践指導
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22302201
科目名	日本語コミュニケーションⅡA 口頭表現の基礎
担当者	平野 美保
単位数	2 配当学年 1
資格	[国][情][日]
前提科目	
テキスト	
参考文献	『声のトレーニング』 福島英 岩波ジュニア新書 2005 『テレビの日本語』 加藤昌男 岩波新書 2012
備考	必修 文章表現を含む
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

講義コード	22302202
科目名	日本語コミュニケーションⅡB 口頭表現の基礎
担当者	平野 美保
単位数	2 配当学年 1
資格	[国][情][日]
前提科目	
テキスト	
参考文献	『声のトレーニング』 福島英 岩波ジュニア新書 2005 『テレビの日本語』 加藤昌男 岩波新書 2012
備考	必修 文章表現を含む
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

苦手意識を克服し、口頭表現に関する基礎技法を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・口頭表現に関する基礎技法を習得する。
- ・よりよいコミュニケーションについて考え、普段の生活や実社会で役立てるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・理解するだけでなく、練習を通して、その基礎技法を習得する。
- ・学習してきたことについてグループで討議を行い、全体で発表する。
- ・人前で話すための練習をする。
- ・毎回、一週間のコミュニケーションに関する自己の振り返り、毎回の授業の自己目標、自己課題、学習内容、意見、感想について記述し、知識や技能向上に努める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- ・次回の課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段の生活でも改善に努める。

5. Course Schedule (授業予定)

評価は、発表(30%)、授業参加度(30%)、学習ノート(40%)に基づいて、総合的に行う。

6. Special Information (留意事項)

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 日本語コミュニケーション学習の必要性
- 第3回 発声・発音と音声表現の基礎
- 第4回 わかりやすく話すということ
- 第5回 もののいい方と心の姿勢
- 第6回 コンセンサス
- 第7回 アナウンサー体験：企画
- 第8回 アナウンサー体験：台本作り、他グループと意見交換
- 第9回 アナウンサー体験：視覚資料準備、練習、リハーサル①
- 第10回 アナウンサー体験：最終調整、リハーサル②
- 第11回 アナウンサー体験：本番と振り返り
- 第12回 スピーチの準備、グループ内練習
- 第13回 スピーチ：リハーサル
- 第14回 スピーチ本番
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22302301		
科目名	日本語コミュニケーションⅢ 国語力を磨くー漢字と書写を中心に		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	2
資格	[国][情][日]		
前提科目			
テキスト	『ことばの常識問題 1849』 日栄社		
参考文献	『日本語検定公式2級過去・練習問題集』 東京書籍 『日本語検定公式3級過去・練習問題集』 東京書籍 『漢字検定過去問題集2級』 漢字能力検定協会 『問題な日本語』 北原保雄編 大修館書店		
備考	必修 文章表現を含む		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

現代日本人は、歌を忘れたカナリヤのように、対人コミュニケーションが苦手である。ケータイやパソコンは駆使できても、挨拶ができない、敬語は使えない、手紙も書けない、漢字もあやふや、マナーを知らない……。こんなことでよいのだろうか。この科目の最大の目的は、「徳と知」を兼ね備えた大人にふさわしい高いコミュニケーション能力を養うことである。とくに、この「Ⅲ」の授業では、日本語検定3級、漢字検定2級程度の国語力習得を旨とするとともに、就職活動や社会に出た時にきっと役立つであろう、さまざまな文書の書き方、美しい文字を書くためのペン習字など、具体的、実践的なトレーニングを行い、国語力にいつもの磨きをかける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. コミュニケーションやマナーに関するさまざまな考え方や知識について学ぶ。
2. 二度にわたるレポート作成により、文章表現力を錬磨する。
3. 漢字検定2級程度の漢字能力を養成する。
4. 日本語検定準2級程度の日本語能力を養成する。
5. 手紙、履歴書、ビジネス文書など、さまざまなスタイルの文章表現を演習する。
6. 敬語を使えるようにする。
7. ペン習字などさまざまな書写課題にとりくみ、字を書くことの楽しさを味わう。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストにより、毎回範囲を決めて、漢字小テストを実施する。その他、日本語検定準2級程度の演習問題、視聴解問題、書写練習等、さまざまな学習課題に取り組む。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 課題テストの出題範囲を学習しておくこと
2. 事前に指示されたレポートや文章作成課題に取り組むこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度の評点40%、レポート点30%、平常点10%、学期末試験20%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業ーコミュニケーションとは何か
- 第2回 文字を書く
- 第3回 漢字検定、日本語検定など
- 第4回 就職活動に必要なコミュニケーション力
- 第5回 文章表現力をつける
- 第6回 語彙力をつける
- 第7回 レポート・論文の書き方再説
- 第8回 添え状の書き方
- 第9回 履歴書を書く
- 第10回 手紙を書く
- 第11回 ビジネス文書を書く
- 第12回 メールのマナー
- 第13回 ビジネスマナーを身につける
- 第14回 方言と標準語
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22401101		
科目名	西洋思想史 (近世)		
担当者	宮永 泉		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『西洋哲学史』 岩崎武雄 有斐閣 『デカルトー省察・情念論ー』 デカルト (井上庄七他訳) 中公クラシックス		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

17世紀の3人の哲学者(デカルト、ホッブズ、スピノザ)に焦点をあてつつ、近世の西洋思想史を概観し、人間と世界についての哲学的な考え方を学ぶ。受講生は、将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。前期の「西洋哲学史(古代・中世)」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 岩崎武雄著『西洋哲学史』を読む。
- 2) 上と平行して、各自でデカルト著(井上庄七訳)『省察』を読み、レポート提出。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 授業方法：講義と講読の併用。
- 2) 学習方法：テキストの予習。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

岩崎武雄著『西洋哲学史』について、授業で読む箇所を毎回必ず予習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以って総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 『西洋哲学史』講読：近世哲学史概観、過渡時代の哲学
- 第3回 同 上 : 過渡時代の哲学
- 第4回 同 上 : デカルト哲学(導入)
- 第5回 同 上 : 同 上(形而上学)
- 第6回 同 上 : 同 上(自然学)
- 第7回 同 上 : 同 上(道徳)
- 第8回 同 上 : ホッブズ哲学(導入)
- 第9回 同 上 : 同 上(人間論)
- 第10回 同 上 : 同 上(国家論)
- 第11回 同 上 : スピノザ哲学(導入)
- 第12回 同 上 : 同 上(能産的自然)
- 第13回 同 上 : 同 上(所産的自然)
- 第14回 同 上 : 同 上(神の直観)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22401401			
科目名	国際関係論 グローバル化時代の世界と日本			
担当者	片山 裕			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[情][日]			
前提科目				
テキスト	全体を通じてのテキストはありません。			
参考文献	『アジアの政治経済・入門新版』 片山裕・大西裕 有斐閣 2010 『国際関係論講義』 山影進 東京大学出版会 2012 全体を通じての参考書は上の2冊だけです。 個別テーマごとに、事前に示します。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 国際関係論の基礎的な用語を理解し使うことができる。2. 身近な問題が国際社会の動きと、どう結びついていることか理解できる。3. 自分たちの抱える問題を、どのように他の人達と(場合によっては国境を越えて)協力して解決できるか、その道筋を考えることができる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

次の5つの大きな論点について、基本的な知識を踏まえた上で、個別具体的な課題について、考察します。

1. 「主権国家」と「国民国家」
2. 貧困と開発
3. 地球環境問題
4. アジアの中の日本

3. Course Method (教育・学習の方法)

講師が一方的に受講生に対してレクチャーする方式ではなく、学生の授業への積極的な参加を促す双方向の講義、アクティブ・ラーニングの方式をとります。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

下の具体的なテーマについて、講師による講義のあと、いくつかのグループに分かれてグループ学習をし、その成果を発表してもらいます。この他に、毎回、コメント・質問票に授業の終わるときに全員が提出します。このコメント・質問票には、教員が次回までに、個別に回答します。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価の対象となるのは、(1) グループ学習のプレゼンテーション、(2) プレゼンテーションに対する質問・コメント、(3) 毎回提出するコメント・質問票です。いわゆる試験はありません。毎回の授業参加だけが、評価の対象です。

点数の配分は、発表40%、議論への参加30%、コメントおよび質問(各人が毎回提出)30%です。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入：授業の進め方とイントロダクション
- 第2回 「世界がもし100人の村だったら」
- 第3回 なぜ、多くの人が、「自分の国」をもちたいと思うのか。
- 第4回 小さな島や領土をめぐるって、どうして、国と国が争わなければならないのか。
- 第5回 戦争や紛争は防げるのか。
- 第6回 なぜ、多くの国は貧しいのか。
- 第7回 豊かさの格差は広がっているのか。
- 第8回 貧しい途上国のために何が出来るのか。
- 第9回 地球温暖化のために何が協力できるのか。
- 第10回 豊かで便利な生活と環境の保全との両立。
- 第11回 国際災害防災
- 第12回 アジアと世界
- 第13回 日本と近隣諸国
- 第14回 アジアの中の日本
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

アクティブ・ラーニングの方法を用いますが、決して難しいものではありません。皆さんが関心を持ちやすいところから国際関係のいくつかのテーマについて、具体的に考えることを手助けしたいと思います。積極的な参加を期待します。

講義コード	22401501			
科目名	現代ジャーナリズム論 ニュースから学ぶ「いま世界は」			
担当者	荻原 靖史			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[情][日]			
前提科目				
テキスト	テキストは新聞を中心にテレビやネットなどのニュース報道、時事問題を扱う雑誌など。			
参考文献	図書(ジャーナリズムおよびメディア関連本やノンフィクションなど)や雑誌などは講義の内容に合わせて紹介します。			
備考	定員60人(うち心理定員15人)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26522001			
科目名	現代ジャーナリズム論 ニュースから学ぶ「いま世界は」			
担当者	荻原 靖史			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト	テキストは新聞を中心にテレビやネットなどのニュース報道、時事問題を扱う雑誌など。			
参考文献	図書(ジャーナリズムおよびメディア関連本やノンフィクションなど)や雑誌などは講義の内容に合わせて紹介します。			
備考	定員15人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

18歳から選挙権。そんな時代にニュースを見る目は欠かせません。報道されているニュースをどう理解し、取り込むか。あらゆる専門に、そして将来に生かせる情報の整理と問題意識の初歩を学びます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 テキストを複眼思考で読むーリテラシーを養う
- 2 様々なキーワードを知り蓄積する
- 3 なにより自分と社会に関心をもつ
- 4 わかりやすく他人が読みたい文章を書いてみる

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1 活字メディア、電波・映像メディアのニュースを読む見る
- 2 気になるテーマを選んで文献や資料などを探す、読み解く
- 3 日常を細やかに観察する。意識して「聞く・話す・書く」

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

受講希望者はまず新聞をしっかりと読んでからのぞんでください。ニュースへの興味や問題意識をもつことが準備です。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績は授業参加度(40%)と3回のレポート(60%)の総合評価。欠席日数は3分の1まで(15回のうち5回)が評価対象です。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義の進め方解説・ジャーナリズムとは
- 第2回 まず新聞をたてよ斜めから読んでみる
- 第3回 あなたはどんなニュースに反応するか?
- 第4回 経済がよくわからないあなたへ
- 第5回 国際報道の現場から見える世界
- 第6回 なぜ選挙が大事かー政治の仕事
- 第7回 世の中のここがおかしいー社会面的感性
- 第8回 最先端の今と向き合う科学報道
- 第9回 文化・メディア面は知的な刺激
- 第10回 考古学報道は日本と日本人を知るために
- 第11回 スポーツ報道は興奮と人間を伝えている
- 第12回 羅針盤としての社説オピニオン
- 第13回 2016年を振り返り、2017年を予測する
- 第14回 なにを書くのか、どう書くのか
- 第15回 再び、ジャーナリズムとは何か

6. Special Information (留意事項)

上記はとりあえずの予定です。起きているニュースに対応するため順番通りにはいきません。「変わり続ける現代、動き続ける世界」を実感してください

さい。

講義コード	22401801		
科目名	日本美術史		
担当者	山田 由希代		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『日本の伝統文様』 並木誠士監修 東京美術 2006 『日本美術の歴史』 辻惟雄 東京大学出版会 2005		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

古代から近代まで、日本の美術作品について概観し、作品からそれぞれの時代の文化を探る。それによって、制作された作品と社会との関係性を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本美術の基礎的知識の習得
2. 作り手と受け手との関係

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心とする。その際、作品鑑賞のために情報機器を用いて、視覚によっても理解を深める。必要に応じて資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

あらかじめ、図書館などで日本美術に関する図書に目を通しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末のまとめテストおよび授業参加度をあわせて評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 日本美術とは
- 第2回 縄文―土器の華麗な変遷―
- 第3回 弥生―土器から金属器へ―
- 第4回 飛鳥―仏教がやって来た―
- 第5回 奈良―華やかな海外文化の移入―
- 第6回 平安―心機一転、新しい都へ―
- 第7回 平安―貴族の王朝文化とは―
- 第8回 平安―鎌倉―絵巻物の隆盛―
- 第9回 鎌倉―どこまでもリアルに―
- 第10回 室町・桃山―異国趣味・武將好み―
- 第11回 江戸―文様の流行―
- 第12回 江戸―和のデザイン・琳派―
- 第13回 江戸―浮世絵とは―
- 第14回 近代―もっと、リアルに―
- 第15回 期末のまとめ

6. Special Information (留意事項)

日頃から、美術館や博物館などで、なるべく多くの作品に接すること。

講義コード	22505001		
科目名	言語文化概論 漢字文化史		
担当者	朱 鳳		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	授業ごとにプリントを配布する。		
参考文献	『文字の文化史』 藤枝 晃 講談社学術文庫 『漢字文化の源流』 阿辻哲次 丸善株式会社 2010		
備考	漢字文化史 隔年開講2		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

漢字は中国語と日本語を記録するツールとして、世界の文明史の中でも、もっとも長く使用されてきた文字である。漢字文化史の変遷を考察することによって、漢字の誕生、発展の軌跡、日本への伝播および日本語への影響を明らかにしていく。この講義を通して、漢字に対する基本知識を身につけさせ、世界の中でもっとも歴史の古い文字を使っている誇りを持たせたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 漢字の歴史の流れを理解する。
2. 現代の日本語をとりまく漢字環境を的確に把握する。
3. コンピュータ社会において伝統的な文化遺産である漢字を扱う際の基本的な観点を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式で行う。
2. ディスカッションを行う。
3. 漢字の歴史を紹介する映像資料を多用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

漢字文化に関する書籍や、新聞記事を随時学生に紹介する。これらの書籍や記事を読むことを通して、授業の内容をより一層理解してもらうことが出来るようになる。また学生の授業内容の理解度を把握するために、授業内のディスカッションとワークシートを用いた練習も予定している。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業態度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 漢字の起源
- 第3回 甲骨文字と金文
- 第4回 文字を記録する素材
- 第5回 国家と文字
- 第6回 秦の始皇帝と小篆
- 第7回 紙の発明と文字文化
- 第8回 印刷術と文字文化
- 第9回 漢字の日本への伝来
- 第10回 戦後の漢字制限政策
- 第11回 常用漢字
- 第12回 人名漢字
- 第13回 コンピュータの開発と漢字環境の変化
- 第14回 漢字文化圏におけるさまざまな漢字問題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22505901		
科目名	日本伝統文化論 雅楽はどこからきたのか		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日][ホ]		
前提科目			
テキスト	『雅楽―時空を超えた遙かな調べ―』 鳥居本幸代 春秋社 2008年		
参考文献	『日本の古典芸能第2巻『雅楽・王朝の宮廷芸能』 芸能史研究会編 平凡社 1970年		
	『雅楽のデザイン・王朝装束の美意識』 多忠麿編 小学館 1990年		
	『日本音楽叢書1『雅楽』』 木戸敏郎編 音楽友之社 1990年		
	『雅楽・重要無形文化財』 下中記念財団編 平凡社 1990年		
備考	『雅楽入門』 増本伎共子 音楽友之社 2000年		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

雅楽は伝統芸能のなかで最も長い歴史を有しているが、日本古来のものではない。6世紀中葉、仏教伝来とともに中国、朝鮮、ベトナムなどから伝来した外来の音楽と舞である。大宝律令に雅楽寮を置いて育成保護に務め、平安時代には宮廷行事に不可欠な存在となり、貴族の教養科目の1つに数えられるほど愛好された。千年の時を隔てて継承された雅楽を通して、伝統文化の一端を探る。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 雅楽の歴史
2. 雅楽をとりまく環境
3. 雅楽と舞楽
4. 雅楽と装束
5. 平安朝文学作品と雅楽

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を進めるが、ビデオなどを活用してテキストの内容を補足する。さらに、雅楽器を手にとって演奏の体験をし、舞楽の観賞も実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

第1回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。その結果確認のため、授業冒頭で小テストを行う。

第2回 P3～13

第3回 P15～27

第4回 P5～12

第5回 P28～45

第6回 P46～65

第7回 P66～73

第8回 P75～94

第9回 P95～122

第10回 P218～250

第11回 P123～146、P172～182

第12回 P46～50、P183～196

第13回 P147～163

第14回 P251～268

第15回 P36～39、P200～201

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度(30%)、小テスト(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 序論 日本音楽の流れ

第2回 雅楽の定義

第3回 三韓楽と伎楽の伝来

第4回 雅楽器の演奏体験

第5回 外国音楽の消化

第6回 正倉院宝物の雅楽器を見る

第7回 正倉院宝物の伎楽面

第8回 雅楽の日本化

第9回 平安貴族のくらしと雅楽

第10回 舞楽の鑑賞

第11回 平安朝の宮廷行事と雅楽

第12回 東大寺大仏開眼会にみる法会と雅楽

第13回 祭礼と雅楽

第14回 雅楽の現代

第15回 『源氏物語』と雅楽

6. Special Information (留意事項)

講義冒頭10分間に小テストを実施するが、テスト時間に遅刻した者は受験できない。

講義コード	22506801			
科目名	ヨーロッパ文化論 異文化交流の視点から			
担当者	野田 四郎			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	①北村勇(訳)『中世近世日欧交流史』(原著:Richard Hildreath "Japan as it was and is", Boston, 1855), 現代思潮社, 1981. ②松田毅一『日欧のかけはし—南蛮学の窓から』(思文閣出版, 1990年) ③松田毅一『南蛮人の日本発見』(中央公論社, 1982年) ④松田毅一監修『日本の南蛮文化』(淡交社, 1993年) ⑤相川忠臣(長崎大学刊行会代表)『出島の科学』(九州大学出版会, 2002年) ⑥西川長夫・松宮秀治編『米欧回覧実記』を讀む』(法律文化社, 2000年) ⑦鳴岩宗三『幕末日本とフランス外交』(創元社, 1997年) ⑧川勝平太編『鎖国を開く』(同文館, 2000年) ⑨木村尚三郎監修・花上克己(訳)『ヨーロッパの歴史』(原著:Frederic DELOUCHE "Histoire de l'Europe", Hachette, Paris, 1992), 東京書籍, 2006. ⑩Julien Bastide & Anthony Prezman, "Guide des mangas", Bordas, Paris, 2006.			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ヨーロッパとは、実に様々な民族、伝統、文化が混在する多様性に富む地域であり、27というEU加盟国の数が象徴するように、ヨーロッパの多様な文化を包括的に捉えるのは至難の業である事が理解されよう。そこで本講では、ヨーロッパ文化を、基本的に日欧文化交流史の観点から見ていく。因みに、交流と言う場合、相互性が表現自体に含まれるが、実際には、日本は圧倒的にヨーロッパ文化の受信国であり、自国文化の積極的発信国であったとは言えない。そこで、それぞれの時代でヨーロッパにおける社会・文化がどのような状況にあったかを概観した後、そうしたヨーロッパの文化がどのように日本社会に受容されていったかについて考察する。こうして、各時代ごとに日本とヨーロッパの間を往還するのが、本講の特徴である。そうした中、日本の大衆文化がヨーロッパに発信され、且つ現地で根付いている極めて例外的なケースが「マンガ」や「アニメ」である。そこで、学期の最後(2～3回)では、今日のフランスにおけるマンガ・アニメの浸透と普及の実態を紹介すると同時に、現代ヨーロッパの若者文化について考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・ヨーロッパ文化の到来と戦後期におけるアメリカ文化流入の対比
- ・異文化の象徴たるヨーロッパ文化への日本人の反応
- ・ヨーロッパ文化の担い手とキリスト教
- ・ヨーロッパ政治・社会情勢の変化と担い手の新旧交代
- ・一方的受信から発信へ—日本の大衆文化「マンガ」・「アニメ」と現代ヨーロッパの若者文化

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は、基本的に講義形式で行う。随時、授業のテーマに沿って関連資料をプリント配布する。また、教員がパリでインタビューを行った「マンガ・カフェ」のビデオを紹介する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

特定の教科書は指定しないので、その代わりに、書店あるいは図書館において、「ヨーロッパ文化」を扱った書籍を必ず一冊選び、自分にとってヨーロッパ文化とは「何を意味するのか」について考えてみる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加度が(30%)、期末試験が(70%)として評価する。学期末の小論文形式による試験では、自らの考えを論理的に展開し、文章にまとめる能力が問われる。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 「文化」の定義

第2回 種子島への鉄砲伝来とヨーロッパ人との出会い

第3回 ザビエルの鹿児島来航とキリスト教

第4回 ヨーロッパの膨張：大発見の時代—スペインとポルトガル

第5回 信長とキリスト教の布教

- 第6回 バテレンと南蛮文化
- 第7回 秀吉と禁教政策への「兆し」
- 第8回 ヨーロッパにおける宗教改革：カトリックとプロテスタント間の分裂
- 第9回 家康と禁教令
- 第10回 禁教令から鎖国へ
- 第11回 ヨーロッパ文化の窓口としての「蘭学」
- 第12回 欧米列強からの外圧と開国
- 第13回 日本の近代化とヨーロッパ文化の積極的導入：遣欧使節団
- 第14回 明治の文明開化とヨーロッパ文化
- 第15回 受信から発信へ：フランスにおける社会現象-「マンガ・アニメ」の普及

6. Special Information (留意事項)

大学生は大人であるという自覚を持つと同時に、大人としてのマナーを守ること。講義中は私語を慎み、また携帯電話の電源は事前に切っておくこと。

講義コード	22507301			
科目名	多文化理解 映画を通して中東の文化を学ぶ			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	必要な資料は授業で配布する。			
参考文献	参考文献は適宜、授業で紹介する。			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目の目標は、中東を舞台とする映画を通して、そこに住む人々の歴史、生活、宗教、伝統などについて学ぶことである。戦争、抵抗運動、スポーツ、恋愛・結婚等のテーマを描いたイランやアラブ映画を鑑賞するが、各映画についての背景知識も学習する。映画に登場する人々の生活や思考・行動様式は、わたしたち日本人とどのように違うのか、その違いをどのように受け止めればいいのかを考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各映画が扱う主題の背景知識 (地理、歴史、宗教など)
2. 映画の理解
3. ほかの文化の理解
4. 日本の文化との比較

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義
2. 映画鑑賞
3. 映画のあらすじの作成
4. 作品に対する意見発表・討議
5. レポート作成

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 映画が舞台となっている国・地域に関して事前に調査する。
2. 鑑賞した映画のストーリーをまとめる。
3. 鑑賞した映画に対する意見をまとめる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加・課題プリント等 20%

映画を選んで、それについての発表 20%

レポートまたは試験 60%

5回以上の欠席者には単位を与えない。遅刻2回で欠席1回に数える。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 映画「オフサイド・ガールズ」(イラン) (テーマは女子サッカー)：背景知識と映画鑑賞
- 第3回 映画「オフサイド・ガールズ」：映画鑑賞とディスカッション
- 第4回 映画「シリアの花嫁」(フランス・ドイツ・イスラエル) (テーマは結婚と家族)：背景知識と映画鑑賞
- 第5回 映画「シリアの花嫁」：映画鑑賞とディスカッション
- 第6回 映画「パラダイス・ナウ」(フランス・ドイツ・オランダ・パレスチナ) (テーマは抵抗運動)：背景知識と映画鑑賞
- 第7回 映画「パラダイス・ナウ」：映画鑑賞とディスカッション
- 第8回 映画「黒い蜂蜜」(エジプト) (テーマは祖国)：背景知識と映画鑑賞
- 第9回 映画「黒い蜂蜜」(エジプト)：映画鑑賞とディスカッション
- 第10回 映画「少女は自転車に乗って」(サウジアラビア) (テーマは女

性)：背景知識と映画鑑賞

第11回 映画「少女は自転車に乗って」(サウジアラビア)：映画鑑賞とディスカッション

第12回 発表の準備

第13回 発表

第14回 発表

第15回 発表

6. Special Information (留意事項)

とりあげる映画作品は諸事情によりほかの作品に変更されることもある。また扱う順序が変わる可能性もある。

講義コード	22507401			
科目名	中東文化論			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格				
前提科目				
テキスト	必要な資料は、授業でプリント配布をする。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ニュースでは頻繁に見聞きするものの、日本人にとってはまだまだ異質の文化圏である中東・アラブ世界。そこはいくつかの重要な共通点をかかえつつも、異なる諸要素が複雑多様に絡み合った地域である。地域をより身近なものとして理解するために、さまざまな側面を幅広く観察・学習し、基本的知識を身に付ける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 中東・アラブについての基本的な知識
2. イスラーム文明
3. 中東・アラブの社会・文化

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 主に講義によって授業をすすめる。

2. 簡単な小テストによって、学んだことから基礎的な事柄の復習と確認を行う。

3. 各自テーマを領域から選び (または与えられ)、発表を行い、討論により他の学生とその知識を共有し意見交換する。受講者数によっては、グループ発表になることもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 講義内容を復習する。
2. 随時行われる小テストに備えて、学習を行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加30%、小テスト10%、試験 60% により行う。5回以上の欠席者には単位を与えない。遅刻2回で欠席1回に数える。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 中東・アラブの概念・定義・地理
- 第3回 言語
- 第4回 宗教 (3つの一神教)
- 第5回 宗教 (イスラームの興り)
- 第6回 宗教 (イスラームの教え)
- 第7回 女性をとりまく環境 (男女の空間分離)
- 第8回 女性をとりまく環境 (ヴェール)
- 第9回 食文化 (食物規定)
- 第10回 食文化 (主食・副食)
- 第11回 生活 (暦)
- 第12回 生活 (家庭生活)
- 第13回 近代史 (パレスチナ)
- 第14回 近代史 (シリア・イラク)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業をおこなうこともある。

講義コード	22507901		
科目名	国語学概論 日本語とはどんな言語か		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	12
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	使用しない		
参考文献	『国語学大辞典』 国語学会 東京堂出版 『国語概説』 佐伯哲夫他 和泉書院		
備考	音声言語を含む		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	92207501		
科目名	国語学概論 日本語とはどんな言語か		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	使用しない		
参考文献	『国語学大辞典』 国語学会 東京堂出版 『国語概説』 佐伯哲夫他 和泉書院		
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

毎日国語を使って生活していても、それを客観的に分析するとなるとなかなか難しいものである。「あ」と「い」は、音としてどう違うか、「生」という漢字は、中国語ではsheng一種類しか読み方がないのに、国語ではなぜ何種類もの読み方があるのか、「花が咲く」と「花は咲く」とどう違うのか…などなど。この授業は、そういった具体的な問題から説き起こして、音韻、文字、文法、語彙、文体、国語政策、方言、言語生活、系統論など、さまざまな観点から国語を概観し、国語学の基礎知識を習得することをねらいとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 世界の言語の中で、国語の特徴は何か考える
2. 国語の音声、音韻の概略を理解する
3. 国語の文字、表記の特徴、歴史について理解する
4. 国語の文法、文体、語彙、系統に関する基礎知識を習得する
5. 国語の方言について学習する

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式で授業を進める。
2. 毎時間、身近なテーマにより、国語を分析する小テストを出題する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に指示される課題やレポートについて、辞典類やインターネットで調べ、講義までに準備しておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度40%、定期試験の成績60%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業 一日本語の特徴は何か
- 第2回 音声器官
- 第3回 母音と子音
- 第4回 音節とモーラ
- 第5回 音韻変化
- 第6回 仮名遣い
- 第7回 アクセントとイントネーション
- 第8回 漢字と国語
- 第9回 平仮名と片仮名
- 第10回 国語の文法の特徴
- 第11回 国語語彙の諸問題
- 第12回 方言と共通語
- 第13回 国語の系統
- 第14回 国語・国字問題
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

国語科教諭免許課程履修者および日本語教員養成課程履修者必修科目

講義コード	22508101		
科目名	日本語文法 学校文法と日本語教育文法		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	使用しない。板書のみ。		
参考文献	『日本文法大辞典』 佐藤喜代治編 明治書院 『コミュニケーションのための日本語教育文法』 野田尚史編 くろしお出版 『日本語の謎を探る』 森本順子著 ちくま新書		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語は、世界でも難しい言語の一つとされる。助詞「が」と「は」の使い分け、「のだ」構文の用法、「なら」「たら」「と」「ば」の条件表現の区別など、その最たるものである。この授業は、そのような具体的な問題を取り上げつつ、日本語を文法的に概観することを目標とする。学校文法(口語文法)の概要を解説し、国語学や現代日本語学で用いられる術語、また日本語教育文法の考え方もまじえて、理解を深めていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本語文法の概略について理解する。
2. 伝統的文法論で用いられる術語について理解する。
3. 現代日本語学で用いられる術語について理解する。
4. 日本語教育文法の概略を把握し、伝統文法との違いについて理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義により、学校文法の概略を把握し、現代日本語学の主な述語について習熟する。

2. 日本語教育において問題にされる文法的事項について、具体的に考察する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指定された課題について取り組み、文法への問題意識をもって授業に臨む

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度40%、定期試験の成績60%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業 一文法とは何か
- 第2回 文法論と形態論
- 第3回 文の定義
- 第4回 品詞
- 第5回 接頭語と接尾語
- 第6回 名詞
- 第7回 代名詞
- 第8回 数詞
- 第9回 動詞の活用
- 第10回 動詞の文法 一自動詞・他動詞、補助動詞、受身など
- 第11回 動詞の文法 一テンス、アスペクト、ムード
- 第12回 形容詞と副詞
- 第13回 助詞
- 第14回 助動詞
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

日本語教員養成課程履修者必修科目。国語科教諭免許課程履修者も受講することが望ましい。

講義コード	22508301		
科目名	国文学概論		
担当者	長沼 光彦		
単位数	2	配当学年	12
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト	プリント配布		
参考文献	『哲学ってなんだ』 竹田青嗣 岩波ジュニア新書 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 『文学入門』 伊藤整 講談社文芸文庫 『精神としての身体』 市川浩 講談社 『都市空間のなかの文学』 前田愛 筑摩書店		
備考	国文学史を含む		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「文学とは何か」と問えば、多くの人は心の表現だと答えるかもしれない。だが、文学で描かれる人間は、心だけで生きているわけではない。肉体を持ち、人と関わり、行動する。それら人間の全体像を文学は描こうとするのである。また、文学が描くのは人間だけではない。人の生きる社会、世界のあり方を、私たちに示すのである。

本講義では、日本の近現代文学を中心に、モラル・身体・空間という言葉を用いて、文学に表されたテーマを考察する。テーマの多様性を知るとともに、自身の人間観を広げよう。特に国語科教員希望者は、具体的な文学表現の考察の仕方を学び、教材研究に生かしてほしい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・具体的な文学表現を読解しながら、多様なテーマを理解する。
- ・文学研究の方法について、基礎的な知識を身につける。
- ・自己の文学観を養い、人に伝える力を鍛える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・配布したプリントにより、様々な文学表現を実際に読み、講義をとおして、テーマやモチーフに対する理解を深める。
- ・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に関わる簡単なワークを行うか、または感想・意見をまとめて提出する。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・授業で紹介した参考文献や小説作品を実際に自分で読んでみる。
- ・紹介したものの以外にも読書体験を広げ、日本文学について自分の考えをまとめておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (30%)、毎時間の意見文 (30%)、学期末のレポート (40%) により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義の導入・紹介
- 第2回 文学のモラル (坂口安吾「文学のふるさと」)
- 第3回 壊すモラル・壊れる日常
- 第4回 文学と現実のモラルとの関係
- 第5回 現代のモラルと昔のモラル (芥川龍之介と「今昔物語集」)
- 第6回 モラルと空間 (芥川龍之介「羅生門」)
- 第7回 居場所と身体
- 第8回 見られる身体 (芥川龍之介「鼻」)
- 第9回 身体のイメージ
- 第10回 心と空間 (芥川龍之介「蜃気楼」)
- 第11回 心の広がり、人とのつながり
- 第12回 やつす都市 (谷崎潤一郎「秘密」)
- 第13回 夢想と都市空間
- 第14回 現実と夢想の間
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

講義コード	22508401		
科目名	書写研究		
担当者	安岡 素子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『中学校学習指導要領解説国語編』 東洋館出版社 2008年 『すぐわかる中国の書』 東京美術 2006年 『すぐわかる日本の書』 東京美術 2010年		
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

教育職員免許状取得 (中学校1種免許状国語科) で必要とされる「書写」の知識と技能の基本を理解し、実技を通して学習指導の方法や技術を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 漢字、平仮名、片仮名成立と特性を理解し、実技に於いては、中学校国語科書写教育指導で必要となる毛筆「楷書」、「行書」の基本用筆を習得する。
2. 中学校国語科書写教育指導で必要となる硬筆、および教育実習、就職活動に於いて求められる書写能力 (ペン字) を高める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義は参考文献をもとに、プリントを配布して行う。講義後は実習を行う。実技では、毛筆、硬筆を中心に、個人添削を行う。毛筆 (楷書、行書) および硬筆 (ペン字) については、まとめとして実習課題作品を提出。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

中国の歴史について (図書館等で) 事前に調べておくこと。

(楷書体が完成する) 唐代まで

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業内の積極性30%、(欠席は一回につき2点減点する。) 実習中提出物 (課題作品) 30%、学期末提出物 (レポート) 40%により総合的に行う。なお、出席は授業回数数の3分の2以上を必要とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義：書写教育について、実習について
- 第2回 講義：中国書道史概要、文房四宝について
- 第3回 講義：用筆法 実習：用筆法を理解して基本点画を書く
- 第4回 講義：楷書について 実習：楷書を書く
- 第5回 実習：楷書を書く (古典臨書)
- 第6回 実習：楷書を書く (古典臨書)、実習課題提出
- 第7回 実習：行書を書く
- 第8回 実習：行書を書く (古典臨書)、実習課題提出
- 第9回 講義：硬筆書写について 実習：(平仮名、片仮名を書く、ペン字)
- 第10回 講義：硬筆書写について 実習：(漢字、ペン字)
- 第11回 講義：教育実習現場における書写、ペン字 実習：教育実習簿、レポートの美しく見える書き方
- 第12回 実習：就職活動におけるペン字、履歴書、手紙の書き方
- 第13回 ペン字総合 (実習課題提出)
- 第14回 講義：日本書道史 (仮名成立まで) と日本の書写教育について、古筆鑑賞
- 第15回 書写教育まとめ (板書指導含む)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22508501			
科目名	日本古典文学講読 源氏物語を読む			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国][日]			
前提科目				
テキスト	『シグマ新日本文学史』 文英堂 『仮名手引』 和泉書院			
参考文献	『源氏物語大成』 池田亀鑑 中央公論社 『対校源氏物語新釈』 吉澤義則 平凡社 『源氏物語湖月抄』 北村季吟 講談社 『源氏物語評釈』 玉上琢弥 角川書店			
備考	<旧>225077日本文学講読I			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

和菓子に「玉椿」「錦秋」「淡雪」といった名前をつけたり、手紙に「新緑の候」「梅の花の香しい季節となりました」といった挨拶を書いたりする日本人の感性はどこから来たのか——その起源は、日本古典文学の伝統にあるとよい。この授業では、日本古典の代表作「源氏物語」をとりあげる。全編から印象的な一節をいくつか抄出し、講読する。また、別途テキストにより、日本文学史と変体仮名についても学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 源氏物語の書誌や受容史について学習する
2. 源氏物語の語彙や表現に習熟する
3. 源氏物語の主題について考える
4. 源氏物語本文の音読に熟達する
5. 白楽天「長恨歌」について学ぶ
6. 日本古代における男女関係、婚姻関係について理解する
7. 日本古典文学史について、大略を把握する
8. 変体仮名の読み方を学ぶ
9. 源氏物語について、発表を行う

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 源氏物語、古典文学史、変体仮名の三種の教材を毎回取り上げる
2. 源氏物語の原文を音読し、解釈する
3. 受講者には事前学習を義務づける
4. 口頭発表を求める。また適宜小テストを実施する
5. 電子辞書ではなく、紙媒体の古語辞典を各自用意すること

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 事前に配布する源氏物語のテキストを音読し、所定の課題に取り組むこと
2. 毎回課される小テストに向け、変体仮名と文学史のテキストを事前に学習しておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度の評点30%、課題発表点20%、定期試験50%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | | |
|------|----------|---------------|
| 第1回 | 導入授業 | 源氏物語の魅力 |
| 第2回 | 桐壺巻1 | 源氏物語の時代設定・モデル |
| 第3回 | 桐壺巻2 | 源氏物語と漢文学—長恨歌 |
| 第4回 | 桐壺巻3 | 源氏物語と和歌 |
| 第5回 | 桐壺巻4 | 源氏物語の自然描写 |
| 第6回 | 桐壺巻5 | 源氏物語と古注釈 |
| 第7回 | 夕顔巻1 | 源氏物語と平安京 |
| 第8回 | 夕顔巻2 | 源氏物語成立論 |
| 第9回 | 夕顔巻3 | 源氏物語の巻名と人物名 |
| 第10回 | 若紫巻1 | 源氏物語の有職故実 |
| 第11回 | 若紫巻2 | 源氏物語と日本古典文学 |
| 第12回 | 賢木巻 | 作者紫式部について |
| 第13回 | 御法巻 | 源氏物語の主題 |
| 第14回 | フィールドワーク | 調査課題 |
| 第15回 | 総括 | |

6. Special Information (留意事項)

国語科教諭免許課程履修者必修科目

講義コード	22508701			
科目名	日本文学特講 日本文学			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国][日]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	『近現代詩を学ぶ人のために』 和田博文 世界思想社 『対談現代詩入門』 大岡信 思潮社 『詩のこころを読む』 茨木のり子 岩波ジュニア新書 『詩ってなんだろう』 谷川俊太郎 ちくま文庫			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

文学の表現はわかりにくいものが多い。わざわざ複雑な表現をするのはなぜかと思う人も多いだろう。本講義では、文学表現が日常の表現と異なる理由を、萩原朔太郎や中原中也など日本の近現代詩の表現を中心に考察する。また詩の表現は、現実とは異なる世界を描くことが多い。詩をはじめとする文学が、なぜ夢想の世界を題材とするのか、考えてみたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・文学的表現の多様性を理解する。
- ・詩的表現の特殊性と普遍性を理解する。
- ・詩的表現との比較から身近な言語表現を見直す。
- ・文学的表現の現実のとらえ方を学び、多様な物の見方を知る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・配布したプリントにより、様々な文学研究方法や読解法を学び、文学に対する理解を深める。
・考えをまとめ表現する力を養うために、毎時間の終わりに、講義の内容に対する感想・意見をまとめて提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・授業で紹介した参考文献や文学作品を実際に自分で読んでみる。
- ・紹介したもの以外にも読書体験を広げ、文学表現について自分の考えをまとめる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業の参加度(30%)、毎時間の意見文(30%)、学期末のレポート(40%)により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 詩的表現とは何か
- 第2回 日本の近現代詩の歴史
- 第3回 日本近現代詩と伝統的詩歌との関係
- 第4回 日本近現代詩と海外の詩との関係
- 第5回 詩の言葉とイメージ
- 第6回 詩のリズム
- 第7回 詩の理論の変遷
- 第8回 日本の浪漫派
- 第9回 日本の象徴詩
- 第10回 抒情と叙事、詩的精神
- 第11回 心の現実と物質の現実
- 第12回 文学の描く目に見えない世界
- 第13回 文学の提示する世界観
- 第14回 詩と現代
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

講義コード	22508801		
科目名	日本語表現 職業を中心とした社会生活との関連から日本語表現を考える		
担当者	平野 美保		
単位数	2	配当学年	234
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版』 米田明美他 風間書房 2010 『日本語表現法』 沖森卓也・半沢幹一 三省堂 2007 『ビジネス文書458文例』 田辺麻紀他 こう書房 2003		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

職業生活を中心とした社会生活において、よりよいコミュニケーションとなるための日本語表現を学習する。そのために、次の3点を目標とする。

- (1) 授業で扱った内容から、自分の考えをもつ。
- (2) 自分の伝えたいことを具体的にわかりやすく説明し、相手に正しく理解してもらうための文章表現ができる。
- (3) 正しい日本語の理解をベースに、マナーやビジネスシーンでの公的な文書の書き方まで含め、効果的な意思伝達ができるよう、その知識、技能を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・授業で扱った内容について、自分はどう思うのか考える。
- ・正しい日本語を書けるようにする。
- ・コミュニケーションのあり方を考える。
- ・公的文書技能の基礎を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・受講生が書いたコメント(次回の授業時に紹介)や、各回の話題やテーマから、自分の意見を、正しい日本語表現になるよう留意して記述する。
- ・関連の内容から、知識を確認したり、意識を高めたりする。
- ・各回のテーマに関する練習をする。
- ・小テストを実施し、知識や技能の習得を確認する。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・授業内でできなかった課題を進める。
- ・学習した内容について、実生活でも実践する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(45%)、レポート(25%)、テスト(30%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 日本語を知ろう：日本語の特質
- 第3回 日本語を知ろう：話しことばと書きことばの違い
- 第4回 日本語を知ろう：表記
- 第5回 日本語を知ろう：敬語・敬意表現
- 第6回 ビジネス文書：ビジネス文書とは何か、「日本語を知ろう」小テスト
- 第7回 社外文書(1)慣用表現
- 第8回 社外文書(2)案内
- 第9回 社外文書(3)依頼
- 第10回 社内文書(1)連絡、「社外文書」小テスト
- 第11回 メール文書(1)基本
- 第12回 メール文書(2)依頼
- 第13回 メール文書(3)返信
- 第14回 「メール文書」小テスト
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22508901		
科目名	プレゼンテーション演習 口頭表現と身体表現		
担当者	平野 美保		
単位数	2	配当学年	234
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト	『ビジネスプレゼンテーション』 武田秀子編 実教出版 2011		
参考文献	『パブリックスピーキング人を動かすコミュニケーション術』 藤山洋介 NTT出版 2011 『シンプルプレゼン』 ガー・レイノルズ 日経ビジネスアソシエ 2011 『スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン』 カマイン・ガロ 日経BP社 2010 『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』 ジェレミー・ドノバン 新潮社 2013		
備考	定員30人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

プレゼンテーションの意義、目的、内容、進め方、ツールの活用等について学び、特に口頭表現・身体表現についての技法を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・充実したプレゼンテーションになるよう工夫を凝らしてプレゼンテーションに取り組む。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・口頭表現(論理表現、音声表現)や身体表現についての基礎を学習し、数多く練習する。
- ・事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に行う。

- ・授業時に、感想、意見、自己課題等について記述し提出する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、最終プレゼンテーション(30%)、授業参加度(40%)、レポート(30%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 プレゼンテーション技法に関する討議とプレゼンテーション(グループ)①
- 第3回 基礎スキル：身体表現とプレゼンテーション演習
- 第4回 基礎スキル：文章構造とプレゼンテーション演習
- 第5回 基礎スキル：音声表現とプレゼンテーション演習
- 第6回 プレゼンテーション演習①：準備と練習
- 第7回 プレゼンテーション演習①：発表と振り返り
- 第8回 プレゼンテーション演習②
- 第9回 プレゼンテーション演習③：企画(グループ)
- 第10回 プレゼンテーション演習③：準備・練習(グループ)、グループ間発表
- 第11回 プレゼンテーション演習③：リハーサル
- 第12回 プレゼンテーション演習③：発表と振り返り
- 第13回 最終のプレゼンテーション：準備
- 第14回 最終のプレゼンテーション：リハーサル
- 第15回 まとめ：最終のプレゼンテーション：発表

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22509001			
科目名	日本語の朗読			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『日本語の発声レッスン 俳優編』 川和孝 新水社 1981			
参考文献	『声のトレーニング 歌える！話せる！自信がつく！』 小林由紀子 NHK出版 2004 『新版NHKアナウンス・セミナー』 日本放送協会編 日本放送協会 2005 『日本語発音アクセント辞典新版』 NHK放送文化研究所編 NHK出版 1998			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

- ・発声・発音の基礎を習得し、豊かな表情ある音声表現力を身につける。
- ・朗読の難しさを楽しさを味わう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・自らの「音声表現」を聞き、その難しさなどを実感する。
- ・最初と最後の音声表現の違いから、その成長を実感する。
- ・恥ずかしがらず豊かな表情ある音声表現を目指してチャレンジし続ける。
- ・皆で協力して朗読コンサートを成功させる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・あらかじめ決められた文章で最初と最後に発話(朗読)する。それを録音しておき、聞き比べる。
- ・発声・発音の基礎を毎授業で行い、基礎技能を向上させる。
- ・朗読のコンサート準備や実施を通して、また、協同的に取り組むことを通して、楽しさや責任感を感じながら、音声表現力(朗読)の向上を目指す。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
 - ・課題の準備・練習をする。
 - ・発音練習等の基礎練習を、各人で毎日行う。
 - ・朗読作品を検討する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、最終の朗読(30%)、授業参加度(40%)、学習ノート(30%)に基づき、総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 音声表現の聴き比べ
- 第3回 音声表現に関する知識と発声・発音の基礎
- 第4回 グループ演習(作品の選定、練習)、発表①
- 第5回 「解釈」、グループ演習(作品の選定、解釈、練習)、発表②
- 第6回 「間」、グループ演習(作品の選定、解釈、練習)、発表③
- 第7回 「表現力」、グループ演習(準備、練習)、発表④
- 第8回 朗読ミニコンサートと討議
- 第9回 朗読コンサートの準備:作品の選定、解釈
- 第10回 朗読コンサートの準備:作品の選定、解釈、練習、発表⑤
- 第11回 朗読コンサートの準備:準備、練習、発表⑥
- 第12回 朗読コンサートの準備:練習、動きの確認、司会の準備、リハーサル①
- 第13回 朗読コンサートの準備:最終調整、リハーサル②
- 第14回 朗読コンサート:本番
- 第15回 まとめ:最初の録音(第2回の授業)とあわせて聴き比べ

6. Special Information (留意事項)

- ・朗読コンサートについては、教室外で実施したり、授業以外の日に設定したりする場合があります。
- ・皆で作上げる授業です。積極的な参加を期待します。

講義コード	22509101			
科目名	スピーチの基礎			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『パブリック・スピーキング—人を動かすコミュニケーション術—』 蔭山洋介 NTT出版 2011 『日本語の発声レッスン』 川和孝 親水社 1981			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

聞き手に受け入れられやすい話し方についての理解を深め、スピーチに関する基礎技法、考え方、心構えを習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・『スピーチ』チェック・ポイント」をグループや全体で作成し、毎回確認することを通して、深い理解とスピーチの改善に結びつける。
- ・スピーチのための準備・練習・本番を通して、難しさや楽しさを実感する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・スピーチに関する映像の視聴を通して、望ましい話し方についてのチェックポイントをグループや全体で検討する。
- ・毎回、チェックポイントを確認するとともに、自己課題、学習内容、意見・感想等について記録し、知識や技能向上に努める。
- ・様々なテーマや場面によるスピーチを練習する。
- ・グループおよび受講者全員で協力して準備をし、ゲストとの授業を作り上げる。
- ・最終のスピーチイベントを準備し実施する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、最終のスピーチ(30%)、授業参加度(40%)、レポート(30%)に基づいて、総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 この授業のオリエンテーション
- 第2回 スピーチのチェック・ポイントの検討①(グループ)
- 第3回 スピーチのチェック・ポイントの検討②(全体)、スピーチ
- 第4回 発声・発音の基礎と音声表現、スピーチ
- 第5回 ゲストインタビューの準備:グループで質問内容の検討、スピーチ
- 第6回 ゲストインタビューの準備:グループ・全体で準備・練習
- 第7回 ゲストインタビューの準備:全体で準備・練習
- 第8回 ゲストインタビュー
- 第9回 ゲストインタビューの振り返り
- 第10回 スピーチイベントの準備①(ペア)
- 第11回 スピーチイベントの準備②(各人)
- 第12回 スピーチイベントのリハーサル①(グループ)
- 第13回 スピーチイベントのリハーサル②(司会を入れて最終調整)
- 第14回 スピーチイベント
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・皆で作上げる授業です。積極的な参加を期待します。
- ・ゲストの状況次第で、土曜等に授業を実施する場合があります。

講義コード	22509301			
科目名	古文書読解 くずし字を読み解き古典の世界を知る			
担当者	平野 翠			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは使用しない。プリントを適宜授業内に配布する。			
参考文献	『古文書検定入門編』 油井宏子 柏書房 2005 『演習古文書選近世編』 日本歴史学会 吉川弘文館 1971 『古文書入門 くずし字で「おくのほそ道」を楽しむ』 中野三敏 角川学芸出版 2011 調べ物のときの手がかりなので、各自購入の必要はない。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

現在の日本文化に大きく影響している近代以前の文書・古典籍を身近に感じられるように、当時の特有の読みや、くずし字読解の基礎を身に付ける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

授業を通じて、近代以前、特に近世の文献(文書、版本や写本)特有の慣用語、変体仮名、くずし字に慣れ、近世文献の読解力を高めるとともに、当時の日本人の文化や生活に目をむけていく。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業はじめは、古文書と記録、図書の定義や、慣用語の読み方など、講義中心になるが、その後は、くずし字の読みを中心に、音読と演習形式で進めていく。また、読解力を確認するため、授業中に課題を与える。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

この授業では、現在あまり使われない漢字や仮名、くずし字の読みを対象とする。テキスト(プリント)を先に配布するので、漢和辞典・国語辞典等でテキストの文言を調べ、可能な限り、授業前にテキストの文書を解読しておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 20% 授業中の課題30% 最終のまとめ(読解力の確認)50%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 古文書・記録・図書について
- 第2回 古文書や記録の「慣用的読み」を知る
- 第3回 古文書や記録の翻刻文を読む
- 第4回 変体仮名を知る一かなの歴史
- 第5回 変体仮名を読む一かなの様々
- 第6回 版本を読む①-京都名所案内『京雀』
- 第7回 版本を読む②-京都名所案内『都名所図会』
- 第8回 版本を読む③-京都名所案内『都名所図会』つづき
- 第9回 版本を読む④-女性の教養「節用集」
- 第10回 近世文書を読む①-村の制度
- 第11回 近世文書を読む②-村の生活
- 第12回 近世文書を読む③-町の制度
- 第13回 近世文書を読む④-町的生活
- 第14回 近世文書を読む⑤-町的生活(事件)
- 第15回 「古文書読解」まとめ

6. Special Information (留意事項)

この授業は、現在では使用しない漢字や、くずし字をあつかう。幸い、京都は古くから続く老舗店が多い。街歩きのために老舗店の看板などを眺めて、くずし字を身近なものとしておく。また、授業中解読した文言は必ず、テキスト(プリント)にわかるように記述しておくこと。

講義コード	22509401			
科目名	日本美術特講 京都の仏像巡り～平安時代前期～			
担当者	高橋 早紀子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	特になし。			
参考文献	別途指示。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

京都には、各時代を代表する仏像や神像が数多く現存します。これらの遺品について学ぶことは、日本彫刻史を理解する上で重要です。

本年度は平安時代前期の作例を中心にとりあげ、講義と見学会を行います。

講義を通して平安時代彫刻史に関する基礎知識と最新の研究成果を学び、見学会で実際の作品を見て考える力を育むことにより、生きた知識を習得することができます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 仏像や神像に関する基礎的知識の習得
2. 実地見学を通しての鑑賞力の育成

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義形式で行い、パワーポイントを用いて多くの仏像や神像の画像を提示し、適宜レジュメを配布します。講義では、受講生自らが画像を見て積極的に学び考えることを求めます。また、授業内小テストを2回実施します。

見学会を2回行い、講義でとりあげる作品を実際に見に行きます。見学会では、仏像や神像の魅力や存在感を実感し、作品理解を深めることを期待します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

博物館・美術館・寺社へ仏像や神像を見に行き、興味関心や問題意識をもってのこと。

授業内小テストや見学会に向けて自主的に学習すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、授業内小テスト(20%)、期末テスト(50%)に基づいて総合的にを行います。

2回の見学会に参加することが履修条件。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 平安時代彫刻史の概要
- 第2回 見学会①(神護寺)に振替
- 第3回 見学会①(仁和寺)に振替
- 第4回 見学会①(松尾大社)に振替
- 第5回 見学会②(東寺)に振替
- 第6回 見学会②(京都国立博物館)に振替
- 第7回 見学会②(醍醐寺)に振替
- 第8回 木彫の展開
- 第9回 空海と密教美術
- 第10回 密教彫刻の隆盛
- 第11回 阿弥陀の展開
- 第12回 醍醐寺の造像
- 第13回 中国からの請来品
- 第14回 神像の成立
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

見学会の費用は、合計5050円程度(見学会①:拝観料1700円+交通費1320円、見学会②:拝観料1360円+交通費670円)。

初回授業で見学会の日程等について連絡しますので、受講希望者は出席するようにして下さい。

講義コード	22509501		
科目名	西洋美術史特講 西洋美術史における「かわいい」を考える		
担当者	吉田 朋子		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	プリント配布		
参考文献	適宜紹介する		
備考	隔年開講2		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

西洋美術史の作品に見られる「かわいらしさ」について考察し、日本との差異と共通点について考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- さまざまな作品について、詳細に観察し、記述できるようになる。
- 先行研究などから、より深い作品理解のための方法を学ぶ。
- 日頃の生活の中の自分の美意識を考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

基本的にスライド(パワーポイント)を用いた講義形式だが、学生による調査発表も求める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・指示された課題を準備すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度50%、発表とレポート50%で評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 18世紀美術(1) グルーズなど
- 第3回 18世紀美術(2) プーシェなど
- 第4回 18世紀美術(3) シノワズリなど
- 第5回 ヴィクトリア朝の美術(1) ラファエル前派と後継者
- 第6回 ヴィクトリア朝の美術(2) 子供向け挿絵本の世界
- 第7回 ゴシック美術の写本挿絵
- 第8回 15世紀ライン川流域の画家たち
- 第9回 工芸品の「かわいらしさ」
- 第10回 肖像画における「かわいらしさ」
- 第11回 19世紀～20世紀のイラストレーション
- 第12回 現代美術
- 第13回 受講生による発表(1)
- 第14回 受講生による発表(2)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

コミュニケーション能力(意思疎通、協調性、自己表現力)を高める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

学習したことを考え、討議し、全体の前で話す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

次回のテーマについて学習をしてくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(60%)、レポート(40%)に基づき、総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 話し合いの技法
- 第3回 キャリアに関する理論:生涯キャリア発達(スーパー)
- 第4回 キャリアに関する理論:計画された偶発性(クランボルツ)
- 第5回 キャリアに関する理論:転機(シュロスバーグ)
- 第6回 キャリアに関する理論:統合的ライフプランニング(ハンセン)
- 第7回 キャリアに関する理論:キャリア・アンカー(シャイン)
- 第8回 教え合いの技法
- 第9回 業界
- 第10回 企業(B to C)
- 第11回 企業(B to B)
- 第12回 企業比較
- 第13回 組織
- 第14回 人財
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

参加型の授業です。高い意識を持って参加することを期待しています。

講義コード	22510301		
科目名	音楽学特講		
担当者	小川 光		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

別紙

講義コード	22509601		
科目名	キャリアとコミュニケーション		
担当者	平野 美保		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『女性とライフキャリア』 矢澤澄子・岡村清子編 勁草書房 2009 『キャリア・アンカー』 エドガー・シャイン 白桃書房 2003 『キー・コンピテンシー』 ライチェン他 明石書房 2006 『キャリア開発と統合的ライフ・プランニング—不確実な今を生きる6つの重要課題』 サニー・ハンセン 福村出版 2013		
備考	<旧>225092 『ビジネスライティング』		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「キャリア」をテーマにコミュニケーション能力を高める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

キャリアに関する知識を習得し、自らのキャリアについて考える。

講義コード	22510701		
科目名	京都学 京都の食文化を知る		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日][ホ]		
前提科目			
テキスト	『精進料理と日本人』 鳥居本 幸代 春秋社 2007年 『日本食生活史』 渡辺 実 吉川弘文館 2007年 『食の文化を知る事典』 岡田 哲編 東京堂出版 2003年 『京都たべもの風土記』 京都新聞社編 京都新聞社 1988年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

京料理をキーワードに京都学を展開する。日本料理の歴史を探ることは、京料理の歴史を考察することであるといっても過言ではない。平安貴族の饗宴で提供された大饗料理をはじめに、室町時代には式正料理、その後、本膳料理、懐石料理、会席料理と展開したが、寺院の多い京都では食材を限定した精進料理が発展したのである。地の利を生かした野菜を多く用いる精進料理は懐石料理へと集約され、さらには京料理の特色ともなっている。精進料理に主眼を置きながら、京都の食文化を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①日本料理の変遷
- ②精進料理の確立
- ③京菓子
- ④京野菜
- ⑤京都の食習慣

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義で行い、第2回以降は予習として指定したテキストの該当ページに沿った小テストを授業開始10分間で行い、授業時間内で回答を示す。予習のない第13回、第15回については、講義終了後に確認小テストを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

下記のように指定されたテキストの該当ページを読んでおくこと。

- 第2回 P11～32
第3回 P32～48
第4回 P6～7,P49～61
第5回 P63～74,P98～102
第6回 P74～84
第7回 P103～124
第8回 P85～97
第9回 P124～133,P189～195
第10回 P212～228
第11回 P156～168,P172～174,P195～212
第12回 P135～141,P169～171,P174～180,P232～236
第14回 P141～156

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、小テスト(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論 日本料理の歴史の変遷から京料理の体系を明らかにする
第2回 大宮人の食生活を彩る食材と調味料
第3回 大饗料理 王朝人の食環境と食習慣
第4回 仏教伝来によって変貌する食文化
第5回 武士の台頭による食習慣の変化
第6回 茶の湯の展開と喫茶習慣
第7回 式正料理から本膳料理へ
第8回 禅と懐石料理 食事作法の誕生
第9回 卓袱料理と普茶料理
第10回 隠元と豆腐料理
第11回 江戸の料理本にみる精進料理
第12回 京料理と江戸前料理
第13回 京菓子の歴史
第14回 京野菜について
第15回 京料理と伝統行事

6. Special Information (留意事項)

講義冒頭10分間に小テスト実施するが、テスト時間に遅刻した者は小テストを受けることができない。

講義コード	22515001		
科目名	インターネット社会論 ～オープンソース・ソフトウェアとIoTの存在に注目してネット社会を考察～		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	『メイカース進化論～本当の勝者はIoTで決まる～』 小笠原治 NHK出版 2015		
参考文献	『角川インターネット講座(2) ネットを支えるオープンソース』 まつもとゆきひろ 監修 角川学芸出版 2014 『角川インターネット講座(10) 第三の産業革命経済と労働の変化』 山形浩生 監修 角川学芸出版 2015 『オープンソースの逆襲』 吉田智子 出版文化社 2007		
備考	平成22年度以前入学者は34年次配当		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

インターネットは1990年代以降、急速に世界中に広まった。これほど短期間に急速に普及したメディアは他にはないであろう。しかしこの新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。この科目では、インターネットが出現してからの歴史を整理し、インターネットが一般化した約二十年の間に生じた様々な問題点を列挙し、この新しいメディアを研究する基礎とする。特に、このネットワークコミュニティから生まれたオープンソース・ソフトウェアの意味と可能性について、モノのインターネットであるIoT(Internet of Things)の理解を深める。インターネットがもたらす変化の本質をふまえた上で、ネットの新時代についての考察を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・コンピュータおよびインターネットの歴史と発展
- ・ネットワークコミュニティから生まれたオープンソース・ソフトウェア(OSS)
- ・代表的なオープンソース・ソフトウェアの存在意義
- ・教育現場でのオープンソース環境の利用の意味
- ・インターネットがもたらす変化の本質
- ・ネット新時代に関する考察

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義中心で行うが、グループごとのディスカッションや発表も交える。さらには、各自が作成したレポートの発表も行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(20%)、課題・レポートなど(20%)、確認テスト(60%)の総合点で評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業概要、オープンソースとは?オープンソース文化とは?などの説明
第2回 インターネットの歴史(1) インターネット誕生と発展
第3回 インターネットの歴史(2) ビル・ゲイツの攻撃文書からの二十年
第4回 インターネットの歴史(3) ブラウザ戦争勃発からの約十年
第5回 インターネットの歴史(4) オープンソース運動の開始と発展
第6回 オープンソース誕生の歴史と種類について
第7回 教育現場でのオープンソース環境の利用の意味
第8回 進化する「モノづくり」の生態系(モノづくりとは、メイカースの定義、IoTとは)
第9回 メイカー運動とファブ社会、IoT(Internet of Things)の本質とは
第10回 大企業 vs. スタートアップ(新興企業)、ニッチな製品とは
第11回 モノを作るということ、インターネット時代にモノとコトで稼ぐ
第12回 ネット新時代に関する考察(1) 各自のレポートのテーマの決定
第13回 ネット新時代に関する考察(2) 各自のレポートの情報収集と構成
第14回 「ネット新時代に関する考察」に関するレポートの提出と情報共有
第15回 まとめ(復習問題と解説)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22515301			
科目名	情報科学概論A コンピュータの仕組みと働きを知ろう！			
担当者	中村 亮太			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情][ウ][プ]			
前提科目				
テキスト	配布プリントを中心に解説するので教科書は指定しない。			
参考文献	『情報とコンピューティング』 河村一樹 オーム社 2011 『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』 兼宗進 イーテキスト研究所 2007 『アルゴリズムの絵本』 (株)アंक 翔泳社 2003 『パソコンの仕組みの絵本』 (株)アंक 翔泳社 2010 『OSの仕組みの絵本』 (株)アंक 翔泳社 2011 上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。また、これらの参考文献以外も講義時に紹介する。			
備考	人間文化学部3年次生はAクラス、心理学部3年次生はBクラスを履修すること 4年次生はどちらを履修してもよい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになってきている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきている。
本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 情報のデータ表現について学ぶ
- コンピュータのデータ処理の仕組みについて学ぶ
- コンピュータを効率よく運用する仕組みについて学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

プリントを配布して講義を行い、講義中に課題プリントを配布する予定である。

また、フィードバックシートを講義ごとに配布し、授業への質問・感想などの記入を求める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。

なお、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架する予定である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験 60%

課題プリント 25%

フィードバックシート 15%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の概要紹介、情報とデータ
- 第2回 情報のデータ表現 - 数値の表現
- 第3回 情報のデータ表現 - コンピュータ内部の足し算と引き算
- 第4回 コンピュータの回路 - 論理回路の基本
- 第5回 コンピュータの回路 - 加算器の仕組み
- 第6回 情報のデータ表現とコンピュータの回路のおさらい
- 第7回 コンピュータのデータ表現
- 第8回 情報の効率的なデータ表現 - データ圧縮と情報量
- 第9回 情報の誤りを見つける、訂正する - 誤り検出
- 第10回 情報の誤りを見つける、訂正する - 誤り訂正
- 第11回 コンピュータでの問題解決 - データの検索アルゴリズム
- 第12回 コンピュータでの問題解決 - データの整列アルゴリズム
- 第13回 コンピュータでの問題解決 - さまざまなアルゴリズム
- 第14回 コンピュータでの問題解決 - アルゴリズムとプログラム
- 第15回 全体のまとめ、授業のポイントの整理

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22515701			
科目名	子どもの読書とメディア 豊かな人生を支える文化			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国][日][子]			
前提科目				
テキスト	プリントを配布			
参考文献	授業中に紹介			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

現代の社会状況や文化的背景を踏まえて、子どもの読書やメディアをめぐる諸問題や、文化における読書・メディアの位置づけを考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

基礎知識を学ぶと共に、自分なりの問題意識を持つよう心がける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 講義・演習を併せて行う。
- 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 子ども向けの絵本・文学・ノンフィクション・アニメ・映画などを読めるだけ読んだり、観たりしておく。
- 子どもをめぐる社会状況に日頃から関心を持つ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業回数の2/3以上の出席を前提条件とする。

筆記試験60%、授業中の課題・平常点40%として、その合計で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1. 子どもの読書の現状
- 第2回 2. 子どもと現代のメディア
- 第3回 3. 子ども向けの作品を読む
1) アニメ作品と原作を比べてみよう：『思い出のマーニー』を題材に(1)
- 第4回 3. 子ども向けの作品を読む
1) アニメ作品と原作を比べてみよう：『思い出のマーニー』を題材に(2)
- 第5回 3. 子ども向けの作品を読む
1) アニメ作品と原作を比べてみよう：『思い出のマーニー』を題材に(3)
- 第6回 3. 子ども向けの作品を読む
2) 絵本に込められたメッセージ(1)
- 第7回 3. 子ども向けの作品を読む
2) 絵本に込められたメッセージ(2)
- 第8回 3. 子ども向けの作品を読む
3) 行きて帰りし物語(1)
- 第9回 3. 子ども向けの作品を読む
3) 行きて帰りし物語(2)
- 第10回 3. 子ども向けの作品を読む
4) ノンフィクションの読み方(1)
- 第11回 3. 子ども向けの作品を読む
4) ノンフィクションの読み方(2)
- 第12回 4. 児童文学論と読書研究
- 第13回 5. 子どもの読書・メディアをめぐる諸問題(1)
- 第14回 5. 子どもの読書・メディアをめぐる諸問題(2)
- 第15回 6. まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22516401			
科目名	出版文化史			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[国][日]			
前提科目				
テキスト	『和本の招待：日本人と書物の歴史』 橋口候之助 角川学芸出版 2011			
参考文献	授業の中で随時紹介する			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

出版、書物に関する様々な事象の歴史について、江戸時代及びそれ以前の和本を中心に学習しつつ、新たな関心を引き出し、それらについての理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 出版文化の歴史の変遷についての基礎知識を得る
- 2 出版の歴史における文化的事象について発見、検証できる能力を身につける

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は、学生の主体的参加による内容を中心として進める。授業の前半はテキストの内容に沿って、江戸時代及びそれ以前の和本について学ぶ。学生は、それに関連する事項について事前に調べ、授業で発表、議論する。後半は、テキストの内容に捉われず、出版文化に関して自由にテーマを設定し、グループもしくは個人で調べ、発表することを通して、様々な事項について考え、能動的に学習する機会を提供する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1 テキストの内容を理解する。
- 2 テキストのうち担当部分の内容をまとめ、発表の準備をする。
- 3 担当する発表内容について必要な事項を調べ、プレゼンテーションの準備をする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

平常点(授業への参加) 20%
 前半における個人発表(1回) 30%
 後半の自由テーマの発表 30%
 期末レポート(発表のスライドの完成版を提出) 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業全般のオリエンテーション
- 第2回 個人発表課題の説明、参考資料、情報の紹介
和本について
- 第3回 『源氏物語』をめぐって(千年前の書物、装訂) テキスト1章
1、2節
- 第4回 『源氏物語』をめぐって(紙と表記) 1章3、4、5節
- 第5回 中世の本 2章
- 第6回 出版の始まり(古活字版、商業出版) 3章1、2節
- 第7回 出版の始まり(本屋仲間、本屋の経営) 3章3、4節
- 第8回 江戸時代の出版 4章
- 第9回 本と読者との関わり 5章
- 第10回 発表テーマ決定(グループの場合はグループ決定)
- 第11回 準備作業(テーマの検討と計画)
- 第12回 準備作業(情報の収集)
- 第13回 準備作業(発表内容、素材の作成)
- 第14回 テーマ発表
- 第15回 テーマ発表についてのディスカッション

6. Special Information (留意事項)

シラバスの内容は受講者の人数によって多少変更される場合がある。

講義コード	22516501			
科目名	博物館情報・メディア論 一人に伝えるための術を考えるー			
担当者	山下 晃平			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[博][情][日]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用せず、講義毎に適宜資料を配布します。			
参考文献	『博物館学Ⅲ 博物館情報・メディア論*博物館経営論』 大塚哲ほか 学文社 2012 『博物館情報・メディア論』 日本教育メディア学会/ 編 ぎょうせい 2013 『ミュージアムが社会を変える:文化による新しいコミュニティ創り』 福原義春/編 現代企画室 2015			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。その上で、今日の博物館を取り巻く環境の変化を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身につけ、活用するための基礎的な能力を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・博物館の役割や活動においてどのような「情報」があるのかを理解する。
- ・メディアの発達と博物館運営がどのように関わっているのかを知る。
- ・具体的な作品あるいは表現方法とメディアとの関わりを知り、自身の専門領域において応用し得る知を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

視聴覚機器(プロジェクター、DVD、PPT)を用いて、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、博物館における情報とメディアとの関わりについて講義を中心に進める。メディアの発達は常に現在進行形であるが、学芸員業務としての実践に密に関わる。本講義を導入として考え、自分なりの発想や応用を意識して授業に臨んで欲しい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

講義への参加だけでなく、自ら積極的に博物館を見学またイベントに参加し、「情報」をどのように扱っているのかを客観的に見てみる。また本講義で紹介するWebサイトやイベントを通して、現代社会の様々な「情報」のネットワークを体験すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、授業時の課題(20%)、定期試験(50%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 プロローグー博物館における情報・メディアの意義
- 第2回 情報・メディアを活用する1ー展覧会におけるメディアの活用
- 第3回 情報・メディアを活用する2ーデータベースの構築
- 第4回 情報・メディアを活用する3ー標本のデジタル化
- 第5回 情報・メディアを活用する4ーインターネットの活用
- 第6回 芸術とメディア1ー写真・映像
- 第7回 芸術とメディア2ー空間・環境
- 第8回 芸術とメディア3ー情報・デザイン
- 第9回 メディアの発展と博物館運営1ーデジタル・アーカイブの現状と課題
- 第10回 メディアの発展と博物館運営2ーバーチャルリアリティの活用
- 第11回 メディアの発展と博物館運営3ーデジタルミュージアム
- 第12回 博物館運営と情報発信1ー広報、記録、出版
- 第13回 博物館運営と情報発信2ーシンポジウム、ワークショップ、レジダンス
- 第14回 メディアコンテンツの諸問題ー知的財産と個人情報、著作権について
- 第15回 エビローグーインタラクティブ・メディアとしての博物館

6. Special Information (留意事項)

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

講義コード	22516701			
科目名	昔話とストーリーテリング 語りの文化を継承する			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国][日][子]			
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介			
備考	<旧>225160口承文化としての昔話・伝説			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本をはじめ世界中の昔話を知り、その特徴や歴史的な役割の変遷を知る。また、実践を通して、口承文化がどのように継承されてきたかを学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 昔話を数多く読み、その時代や地域による特徴や普遍性について学ぶ。
2. 昔話の生まれた文化的背景を学ぶ。
3. 子ども向けに編纂された昔話とその課題について学ぶ。
4. 昔話を実際に語ってみる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義では、基本的な事項を把握する。
2. 演習では、昔話をさまざまな方法で実際に語ってみる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 提示された昔話をあらかじめ読んでくる。
2. さまざまな工夫をこらして、昔話を語るための準備をする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中の課題40%、筆記試験60%で評価する。授業中の課題には、昔話を語る課題を含む。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 概論 昔話とは何か。
- 第2回 昔話を読む(1) 2、3、7、12：数字の持つ意味
- 第3回 昔話を読む(2) 異類婚：日本とヨーロッパの違い
- 第4回 昔話を読む(3) 異形のものたち：人の心が生み出した妖しい存在
- 第5回 昔話を読む(4) 由来話：ものの起源、ことの起こり
- 第6回 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景(1) 古代～中世
- 第7回 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景(2) 近代～現代
- 第8回 子どもと昔話(1) グリムの登場
- 第9回 子どもと昔話(2) 昔話絵本
- 第10回 子どもと昔話(3) 昔話の残酷性
- 第11回 昔話を語る(1) ストーリーテリング
- 第12回 昔話を語る(2) さまざまな語り方
- 第13回 昔話を語る(3-1) 実践
- 第14回 昔話を語る(3-2) 実践
- 第15回 まとめ 口承文化としての昔話の継承

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22516901			
科目名	グラフィックデザインと冊子制作			
担当者	大谷 俊郎			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員18人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Adobe Illustrator、InDesignを活用した冊子の制作。グラフィックデザインに関する講義と3つの課題制作を通して、情報を紙媒体に落とし込む「伝える力」と情報がデザインされたものを「見る力」の両方を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 課題1：名刺作成
- ・名刺の分析
 - ・情報の整理整頓

- ・文字について
 - ・Illustratorの基本操作（テキストの操作、ガイド、整列など）
 - ・プレゼンテーションと合評
- 課題2：見開きページの作成
- ・見開きページの画面構成
 - ・InDesignの基本操作（ドキュメント設定、テキスト入力、ガイド、マスターページ、画像挿入など）
 - ・文字組のルール
 - ・プレゼンテーションと合評
- 最終課題：小冊子の作成
- ・小冊子の分析
 - ・企画、ラフスケッチ
 - ・レイアウトフォーマットの作成
 - ・取材、素材収集、編集
 - ・Photoshopの操作（外部画像の取り込みと編集）
 - ・出力
 - ・校正と仕上げ
 - ・プレゼンテーションと合評

3. Course Method (教育・学習の方法)

Illustrator、InDesignの習得を目的とした実践と、グラフィックデザインについての講義によって進行する。また、課題1では名刺作成を、課題2では見開きページの作成を、最終課題では小冊子を作成する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

【予習・復習】

最終課題「インタビュー冊子」の制作に向けて、インタビュー対象者の検討、関連情報の調査、必要な素材の収集や撮影など準備を進めておくこと。
【課題】授業時間内に完成できなかった場合は、授業時間外に制作場所と時間を確保し完成させること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(25%)、課題1の完成度(15%)、課題2の完成度(20%)、最終課題の完成度(40%)の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 【オリエンテーション】授業アウトライン、紙媒体の分類
- 第2回 【小課題1】名刺/情報の整理整頓、Illustrator基本操作（整列、ガイド、文字パレット）
- 第3回 【小課題1】名刺/文字について
- 第4回 【小課題1】名刺/プレゼンテーションと合評
- 第5回 【小課題2】見開きページ/ページの基本構造、InDesignの基本操作（ドキュメント設定、マスターページ）
- 第6回 【小課題2】見開きページ/文字組のルール、InDesignの基本操作（テキスト関連ツール、外部ファイル読み込みなど）
- 第7回 【小課題2】見開きページ/視線をコントロールするレイアウト
- 第8回 【小課題2】見開きページ/プレゼンテーションと合評
- 第9回 【最終課題】インタビュー冊子/小冊子の分析・企画コンセプトシートの作成
- 第10回 【最終課題】インタビュー冊子/レイアウトフォーマットの設計
- 第11回 【最終課題】インタビュー冊子/画像素材の取り扱い(Photoshopの基本操作)
- 第12回 【最終課題】インタビュー冊子/中間チェック
- 第13回 【最終課題】インタビュー冊子/冊子の完成度を高める工夫
- 第14回 【最終課題】インタビュー冊子/校正と製本
- 第15回 【最終課題】インタビュー冊子/プレゼンテーションと合評

6. Special Information (留意事項)

人数制限:18名

講義コード	22521001			
科目名	日本年中行事論 日本の年中行事について考える			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[ホ]			
前提科目				
テキスト	『日本年中行事論講義資料集・同別冊』堀勝博 京都ノートルダム女子大学 平成23年			
参考文献	『日本年中行事辞典』鈴木棠三 角川書店 『日本民俗事典』弘文堂 大塚民俗学会 『年中行事大辞典』加藤友康他 吉川弘文館			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本には、さまざまな年中行事が今も行われているが、それぞれがどのような由来をもち、どのような意味をもつものであるのかということについては、存外知られていない。正月にしめ縄を飾るのはなぜ？ 盆踊りは、何の意味がある？ —この授業は、そのようにわれわれが忘れてしまった年中行事の意味について、由来や歴史をたどりつつ考察することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本の年中行事にはどのようなものがあるかを知る。
2. 日本の年中行事の特徴について学ぶ。
3. 日本の年中行事の由来や歴史について探求する。
4. 年中行事と関わり深い暦法について理解する。
5. 日本の年中行事にゆかりのある名所・旧蹟に出かけ、実地で学習を深める(受講者多数の場合は実施せず)。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 日本の主な年中行事の由来や意味について、講義形式で解説する。
2. 日本年中行事を記録した画像や映像を見る。
3. 京都市内の寺社へ出かけ、年中行事について、実地学習を行う、もしくは京都の寺社関係者を講師としてお招きし、年中行事に関する特別講義をしていただく(下鴨神社を予定)。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 事前にテキストを準備しておくこと。
2. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備してくること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度の評点40%、定期試験の成績60%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 年中行事とは何か(導入授業)
- 第2回 日本文化と日本年中行事
- 第3回 日本年中行事の種類
- 第4回 日本年中行事の特徴
- 第5回 日本年中行事の研究手法
- 第6回 日本年中行事の発祥と暦法
- 第7回 日本年中行事と改暦
- 第8回 日本年中行事各論—正月と年越し
- 第9回 正月行事の諸相
- 第10回 フィールドワークまたは特別講義
- 第11回 小正月の行事
- 第12回 フィールドワークまたは特別講義
- 第13回 雛祭り、涅槃会、彼岸、七夕など
- 第14回 盂蘭盆、中秋、重陽、七五三など
- 第15回 京都の祭り —祇園祭を中心に

6. Special Information (留意事項)

大学コンソーシアム京都 開放科目

講義コード	22521101			
科目名	京都フィールドワーク研究A 京都で学ぶ 京都を学ぶ			
担当者	福井 栄一			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ホ]			
前提科目				
テキスト	『説話をつれて京都古典漫步』 福井栄一 京都書房 2013 レジュメは各回の授業で必要に応じて配付する。			
参考文献	『小野小町は舞う』 福井栄一 東方出版 2005 『にんげん百物語』 福井栄一 技報堂出版 2007 『おもしろ日本古典ばなし115』 福井栄一 子どもの未来社 2008 『鬼・雷神・陰陽師』 福井栄一 PHP研究所 2004 『蛇と女と鐘』 福井栄一 技報堂出版 2012 授業中にも、随時、紹介する。			
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22521102			
科目名	京都フィールドワーク研究B 京都で学ぶ 京都を学ぶ			
担当者	福井 栄一			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ホ]			
前提科目				
テキスト	『説話をつれて京都古典漫步』 福井栄一 京都書房 2013 レジュメは各回の授業で必要に応じて配付する。			
参考文献	『小野小町は舞う』 福井栄一 東方出版 2005 『にんげん百物語』 福井栄一 技報堂出版 2007 『おもしろ日本古典ばなし115』 福井栄一 子どもの未来社 2008 『鬼・雷神・陰陽師』 福井栄一 PHP研究所 2004 『蛇と女と鐘』 福井栄一 技報堂出版 2012 授業中にも、随時、紹介する。			
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

フィールドワークにより、京都の歴史・文化・芸能などに関する活字・文献ベースの知識を血肉化する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

現地で得た情報・見聞した事物と自己の問題意識を有機的に結合させて、歴史認識や京都への理解をより深化させる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 座学や自己調査による、予備知識や全体像の把握。
2. フィールドワークで得た知見による掘り下げ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストや参考文献を活用した事前リサーチ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

「授業参加度：30%、フィールドワーク時のレポート：40%、定期試験：30%」とする。なお、フィールドワークへの参加は必須である。また、実地研修であるフィールドワーク前の授業数の3分の1の欠席をもって定期試験の受験資格を失うので、注意のこと。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 陰陽道の基礎知識
- 第2回 陰陽師 安倍晴明の秘密
- 第3回 土曜日にまとめてフィールドワーク①
(晴明神社を予定)
- 第4回 第5回と共に第3回に集約。
- 第5回 第4回と共に第3回に集約。
- 第6回 小野小町の足跡を辿る
- 第7回 在原業平の生涯を検証する
- 第8回 土曜日にまとめてフィールドワーク②
(隋心院を予定)
- 第9回 第10回と共に第8回に集約。
- 第10回 第9回と共に第8回に集約。
- 第11回 菅原道真の悲劇
- 第12回 菅原道真の文化史
- 第13回 土曜日にまとめてフィールドワーク③
(北野天満宮を予定)
- 第14回 第15回と共に第13回に集約。
- 第15回 第14回と共に第13回に集約。

6. Special Information (留意事項)

フィールドワークは、原則土曜日に、合計3回実施する。座学3コマ分を1回のフィールドワークに充当する。フィールドワークの日時・日程などは授業において伝える。(上記に示したフィールドワーク①～③の実施時期はあくまで目安であって、たとえば第3回目の欄に表記があるからといって、必ずしも第3回目の講義日時に行うという意味ではない。) 単位修得のためには、これらのフィールドワークに参加することが必須である。

講義コード	22521201		
科目名	日本語教育入門 外国人に日本語を教えるということ		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	234
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『日本語教育を学ぶ 第二版』 遠藤織枝 三修社		
参考文献	『日本語教育事典』 大修館書店 『講座 日本語と日本語教育』 明治書院 『日本語教師・分野別マスターシリーズ』 アルク		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	92205601		
科目名	日本語教育入門 外国人に日本語を教えるということ		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	23
資格	[日]		
前提科目			
テキスト	『日本語教育を学ぶ 第二版』 遠藤織枝 三修社		
参考文献	『日本語教育事典』 大修館書店 『講座 日本語と日本語教育』 明治書院 『日本語教師・分野別マスターシリーズ』 アルク		
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

グローバル化とともに、日本を訪れる外国人は年々増え、日本語を学ぶ外国人は世界全体で1000万人を超えていると言われていた。そのような内外の外国人学習者に日本語を教える「日本語教育」とはどのような仕事なのか。この授業は、日本語教育の現状、内容、方法、問題点等について概観し、日本語を教える人にとって必要な基礎知識を習得してもらうことをねらいとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本語教育とはどのような仕事なのか理解する。
2. 日本語教育の方法について理解する。
3. 日本語の学習段階N1～N5について理解する。
4. 日本語教育で用いられる専門用語に習熟する。
5. 日本語教育能力検定試験に関する知識を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テキストにもとづき講義を行う
2. 毎回課題を出し、その発表や提出を求める
3. 毎回テキストに関する小テストを実施する
4. 日本語教育能力検定試験の問題にとりくむ

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備してくること
2. 講義であつかう予定のテキスト該当箇所を読んでくること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度の評点40%、定期試験の成績60%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業 ー日本語教育とは
- 第2回 日本語教育の現状
- 第3回 日本語教育と言語学
- 第4回 日本語教育と異文化コミュニケーション
- 第5回 コースデザインとシラバス
- 第6回 学習段階別指導内容
- 第7回 読み書きの指導
- 第8回 技能別学習活動
- 第9回 さまざまな学習活動
- 第10回 さまざまな教授法
- 第11回 さまざまな評価法
- 第12回 海外における日本語教育
- 第13回 課題発表
- 第14回 課題発表
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

日本語教員養成課程必修科目。外国人への日本語教育や国際交流に関心をもつ人の受講を歓迎する。ただし、人間文化学科学学生以外は、卒業要件単位に入らない。

講義コード	22521301		
科目名	日本語研究		
担当者	日比 伊奈穂		
単位数	2	配当学年	234
資格	[国][日]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語の音韻、文字・表記、語彙、文法・文体、および言語学、第二言語習得について理解を深め、外国人に対しても客観的に説明できる日本語の基礎知識を実践的に習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本語の音韻的特徴について理解する。
2. 日本語の文字・表記に関する基本的知識を習得する。
3. 日本語語彙の種類や歴史について知る。
4. 日本語の文法や語構成について、具体例に触れつつ理解する。
5. 日本語の文体についてその種類や歴史を理解する。
6. 日本語教育や言語学の概略について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義を基本として授業を進めるが、小テストや課題など実践的スタイルも積極的に取り入れる。
2. 他の外国語との対照研究的視点も導入する。
3. 日本語教育能力検定試験の過去問題や模擬試験問題に取り組み、同試験への知識を深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で紹介する参考書などに自ら積極的にあたり、基礎知識を身につけておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加姿勢 (30%)、小テスト・課題 (20%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 音声 (1) 調音
- 第3回 音声 (2) 拍と音節
- 第4回 文字・表記
- 第5回 日本語史
- 第6回 文法 (1) 文の構成、助詞
- 第7回 文法 (2) 動詞の活用
- 第8回 文法 (3) ヴォイス、アスペクト
- 第9回 言語学 (1) 言語学概論
- 第10回 言語学 (2) 日本語学概論
- 第11回 第二言語習得
- 第12回 日本語教育
- 第13回 教授法 (1) 外国語教授法
- 第14回 教授法 (2) コース・デザイン、教室活動
- 第15回 授業総括

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22531101		
科目名	情報科学応用 ～Linuxを使ってOSのしくみを学ぶ～		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[情][ウ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『らくらくUNIX』 よしだともこ監修 技術評論社 2004		
備考	定員24人 Linux基礎		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力		
	思考・解決する力	✓	
	共生・協働する力		✓

1. Course Description (科目の教育目標)

複数のOS (WindowsとLinux) を使うことで、一つのOSしか使っていなかったときにはブラックボックスに思っていたコンピュータのハードウェア、ソフトウェアの理解が深まるものである。この科目では、情報科学を学ぶ目的で、LinuxというOSでの操作実習をおこなう。具体的には、UNIXコマンドを利用したファイル操作やディレクトリの理解、Linux上のソフトウェアの活用などを通じて、OSの働きやしくみを理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・コンピュータ操作に必要な基本知識と基本技術
- ・マルチユーザ、マルチタスクOSであるUNIXの概念理解と操作
- ・Linux OSとその上で動くアプリケーションソフトウェアの活用
- ・コンピュータネットワークシステムのしくみの理解と活用

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習を中心に授業を行なうが、必要に応じて講義も行なう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の講義対象となるテキスト(参考文献を貸し出します)のページを事前に伝えるので、その部分を熟読した上で、授業に参加することを望む。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(40%)、課題など(30%)、学期末レポート(30%)の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の概要説明。特にOS(WindowsとLinux)に関する講義
- 第2回 Linuxの起動、ホームディレクトリ、ファイルとディレクトリの理解、Webページの閲覧、日本語入力などの操作
- 第3回 LinuxというOSの機能と特長(マルチユーザ、マルチタスクなど)と、ディレクトリ(フォルダ)の階層構造(相対パス・絶対パス)の理解
- 第4回 UNIX基本コマンド(ls,pwd,cd,mkdir,rmdir,rm,cp,mv,head,tailなどの)理解と実践、シェルの便利な使い方の予告
- 第5回 「シェルの便利な使い方とコマンド」の実行(補完、ヒストリー、エイリアス、bg処理、パイプ、リダイレクトなど)
- 第6回 Emacsエディタの利用、アクセス権限(CGIを利用したWebページでの活用)
- 第7回 OSの機能(プロセス管理、メモリ管理、ファイルシステム、ユーザインタフェースの提供)についての理解
- 第8回 日本語の文字コードに関する講義と実習(1) ISO-2022-JPとは
- 第9回 日本語の文字コードに関する講義と実習(2) Unicodeとは
- 第10回 Linux上のワープロ、エディタの利用(利用されている文字コードにも注目)
- 第11回 FTP、遠隔ログイン、通信テスト用コマンドなどの利用
- 第12回 Linux OS上で動く画像処理アプリケーションの利用
- 第13回 正規表現とそのコマンドの利用
- 第14回 シェルスクリプト入門
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

本科目を履修するにあたっては、「情報処理」を履修済みか、その内容を修得していることが望ましい。

講義コード	22531201		
科目名	情報科学演習Ⅰ 情報技術に関する基礎知識の習得		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	『よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト & 過去問題集 平成28-29年度版』 富士通エフ・オー・エム株式会社(FOM出版) FOM出版 2016		
参考文献			
備考	定員25人 週2コマ連続		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「ITパスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT (information technology: 情報技術) 人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。主に、コンピュータのしくみ・基礎理論を理解し、どのような技術があり、それをどのように活用すべきかを学習していく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・コンピュータシステムのしくみと基礎知識
- ・コンピュータの基礎理論
- ・ヒューマンインターフェイスとマルチメディア
- ・データベース

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。
- ・定期的に小テストを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(40%)、小テスト、期末テスト(60%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コンピュータシステムのしくみ
- 第3回 ハードウェア
- 第4回 ソフトウェア
- 第5回 コンピュータの基礎理論
- 第6回 アルゴリズム
- 第7回 プログラミング
- 第8回 ヒューマンインターフェイス
- 第9回 マルチメディア
- 第10回 データベースの基礎知識
- 第11回 データベースの利用
- 第12回 データベースの作成
- 第13回 インターネットの基礎知識
- 第14回 インターネットサービス
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

「情報科学演習Ⅰ」と「情報科学演習Ⅱ」は合わせて履修することが好ましいが、どちらか一方のみの履修も可能である。

講義コード	22531301		
科目名	情報科学演習Ⅱ 情報技術を活用するための関連知識の習得		
担当者	伊藤 泰子		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	『よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト & 過去問題集 平成28-29年度版』 富士通エフ・オー・エム株式会社(FOM出版) FOM出版 2016		
参考文献			
備考	定員25人 週2コマ連続		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「ITパスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT (information technology: 情報技術) 人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータシステムを利用する場における問題分析手法や、情報技術の活用方法、ネットワーク社会における安全に活動するための知識、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・ネットワーク・セキュリティ
- ・企業と法務
- ・経営戦略
- ・システム戦略
- ・システム開発技術
- ・プロジェクト・サービスマネジメント

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。
- ・定期的に小テストを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50%)、小テスト、期末テスト (50%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ネットワークの基礎知識
- 第2回 ネットワークの活用
- 第3回 セキュリティに関する基礎知識
- 第4回 セキュリティの技術
- 第5回 企業活動における基礎知識
- 第6回 業務分析・解決手法
- 第7回 情報技術に関連する法律やガイドライン
- 第8回 経営・技術戦略
- 第9回 データ収集・分析技術 (ソフトウェアパッケージの利用)
- 第10回 システム戦略
- 第11回 システム開発に関する基礎知識
- 第12回 プロジェクトマネジメント
- 第13回 ITサービスマネジメント
- 第14回 システム監査
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

「情報科学演習Ⅰ」と「情報科学演習Ⅱ」は合わせて履修することが好ましいが、どちらか一方のみの履修も可能である。

講義コード	22531401		
科目名	現代出版事情 出版メディアの文化		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『出版メディア入門 (第2版)』 川井良介 (編) 日本評論社 2012		
参考文献	『出版産業の変遷と書籍出版流通 (増補版)』 蔡星慧 出版メディアパル 2012		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本や雑誌をめぐる状況は、大きく変貌をとげている。古書でありながらそれをコンビニ感覚で販売する「新古書店」、インターネットで便利に購入できる「オンライン書店」、さまざまな形でコンテンツが入手できる「オンデマンド出版」、そして街の本屋や古本屋など。そして電子出版の新しい動きにより、出版そのものの成り立ちも今後大きく変わりうる。この授業では、こうした出版の歴史と現代的な実情について、国際的な視点を取り入れつつ検討していく。また、まんがなどの日本独特の出版形態、事情についても考察し、理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 出版の歴史、現状および将来の展望について理解する。
2. 出版に関わる文化とその固有性と多様性について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を主体とするが、グループワーク、授業外課題も行う。講義内容に沿った課題についてレポートを作成することで理解を深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの事前に指定された箇所を読む。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート (2回) により、講義内容の理解度を評価する (各40%)。授業への参加度 (20%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業内容のレビュー (テキスト1章)
- 第2回 出版流通と書店 (テキスト7章)
- 第3回 出版メディアの歴史 (テキスト2章)
- 第4回 書籍と雑誌について (テキスト3、4章)
- 第5回 現代の読書形態 (テキスト10章)
- 第6回 出版社の概観 (テキスト6章)
- 第7回 出版の電子化 (テキスト5章)
- 第8回 インターネット社会における情報発信と出版 (レポート1提出)
- 第9回 レポート (1) 講評、出版の企画
- 第10回 出版文化の国際比較
- 第11回 出版に関する倫理と著作権 (テキスト8、9章)
- 第12回 まんがとその文化
- 第13回 フィールドトリップ
- 第14回 学術情報の流通
- 第15回 まとめ (レポート2提出)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22532101		
科目名	ウェブデザインⅠ		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	『改訂新版 インターネット講座』 吉田智子 他著 北大路書房 2014		
参考文献	『マルチメディア表現』 有賀妙子 他著 実教出版 2005		
備考	定員24人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	92301001		
科目名	ウェブデザインⅠ		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	『改訂新版 インターネット講座』 吉田智子 他著 北大路書房 2014		
参考文献	『マルチメディア表現』 有賀妙子 他著 実教出版 2005		
備考	定員24人 必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

インターネット技術の総括的な理解から、ウェブサイトの規格や使用する言語、文字・画像などの情報の関連付けと視覚化と各種形式、さらにサイト運営における著作権問題などを学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

毎回の授業は演習室で行うが、実習は概要を理解するための実験と位置付けているため、基本は講義となる。教科書として「改訂新版 インターネット講座」(北大路書房)を利用し、インターネットのしくみ、World Wide Webのしくみ、HTMLとCSSを利用したWebページの記述、JavaScriptを利用したWebページについて、CGIを利用したWebページのしくみについてを、操作実習も交えて学ぶ。

合わせて、各種の画像形式、動画ファイル形式、音楽データ形式について知識を整理し、最後に知的財産権、特に著作権について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式を基本とするが、実習を伴った方が理解が促進される内容については、パソコンを利用した操作実習をおこなう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・毎回の授業に関して、教科書の該当ページを示すので、事前に読んで参加すること。

・「Webページの批判的閲覧」に関して、一度ずつ発表する必要がある。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加 (30%)、提出物 (20%)、確認テスト (50%) の総合点で評価。なお、授業での発表点は、授業参加 (30%) の中に含む。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 ガイダンス

この授業と「ウェブデザイン実務士」資格について、大学内の各演習室で使えるアプリケーション (Adobe Photoshop CS2, Adobe DreamWeaver CS5.5) について、授業での発表内容 (Webページの批判的閲覧) に関して

第2回 マルチメディアコンテンツ、マルチメディア表現の基礎要素

第3回 インターネット技術に関して (IPアドレス、ドメイン名など)

第4回 インターネット標準のプロトコル「TCP/IP」の仕事とは、WWW以外のインターネットのサービス (電子メール、FTP、遠隔利用など)

第5回 World Wide Webのしくみ (TCP/IPとWWWを具体的に学ぶ)、Webブラウザの歴史とW3Cの役割とは

第6回 HTMLとCSSを利用したWebページの記述

第7回 JavaScriptを利用したインタラクティブなWebページの記述(1)教科書11章前半

第8回 JavaScriptを利用したインタラクティブなWebページの記述(2)教科書11章後半

第9回 CGIを利用したインタラクティブなWebページの記述(1)教科書12章前半

第10回 CGIを利用したインタラクティブなWebページの記述(2)教科書12章後半

第11回 ウェブマスターとしてのWebデザインとブランディング戦略について

第12回 各種の画像形式、動画ファイル形式、音楽データ形式について

第13回 知っておくべき法的知識 (著作権、意匠権、商標権、肖像権)

第14回 既存のWebページの批判的閲覧による総合復習

第15回 まとめ (確認問題と解説)

6. Special Information (留意事項)

「情報処理」を履修済であることが好ましい。

講義コード	22532201		
科目名	ウェブデザインⅡ		
担当者	大谷 俊郎		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	定員18人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

講義コード	92301101		
科目名	ウェブデザインⅡ		
担当者	大谷 俊郎		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	定員18人 必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

Adobe Dreamweaverを活用したwebサイトの制作。実習と課題制作をとおしてAdobe Dreamweaverの特性を理解し、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1) Adobe Dreamweaver基本操作

- ・ローカルサイト作成
- ・テキスト入力と画像配置
- ・html/css基本操作

2) Adobe Dreamweaver応用操作

- ・高度なレイアウトの作成
- ・css応用技術

3) Adobe Dreamweaverを活用したwebサイト制作

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の授業の前半60分ではAdobe Dreamweaverの機能を実習形式で紹介、後半30分ではその機能を活用した簡単な課題制作を行う。

最終課題では、Adobe Dreamweaverを活用してwebサイトを制作する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

【予習・復習】

授業内で配布するレジュメ、データを元に復習をしておくこと。またデザインや構造など参考になるウェブサイトを各自で調査・研究しておくこと。

【課題】

授業毎の課題制作や最終課題が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で取り組むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、授業毎の課題提出 (20%)、最終課題の完成度 (50%) の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 オリエンテーション、Adobe Dreamweaver基本操作

第2回 HTML基本操作 (ローカルサイト・HTMLファイル作成、テキスト・画像入力、リンクの設置)

第3回 CSS基本操作 (HTML・CSS復習、CSS記述と外部ファイルへの書き出し)

第4回 テーブル作成 (作成・編集、CSSの適応、ローカルサイトの書き出し)

第5回 クラスセレクタの活用 (テーブルを用いたクラスセレクタ活用例)

第6回 ボックスの活用 (divタグを活用したレイアウト作成)

第7回 ナビゲーションのレイアウト (ulタグを活用したナビゲーションバーの作成)

第8回 復習課題 (第7回までの知識を活用しwebページを作成)

第9回 復習課題 (第7回までの知識を活用しwebページを作成)

第10回 webデザイン応用技術1 (リストのデザイン)

第11回 webデザイン応用技術2 (リンク画像の設置)

- 第12回 webデザイン応用技術3（定義リストの活用）
 第13回 最終課題制作（Adobe Dreamweaverを活用したwebサイト制作）
 第14回 最終課題制作（動作確認、アドバイス等）
 第15回 最終課題制作、提出

6. Special Information（留意事項）

人数制限：18名

講義コード	22532301			
科目名	ウェブデザイン演習			
担当者	大谷 俊郎			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[ウ]			
前提科目				
テキスト	『改訂新版インターネット講座』 有賀妙子・吉田智子・大谷俊郎 北大路書房 2014			
参考文献	『マルチメディア表現 図形と画像の処理』 有賀妙子 渡部隆志 由良泰人 実教出版			
備考	定員18人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	92301201			
科目名	ウェブデザイン演習			
担当者	大谷 俊郎			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[ウ]			
前提科目				
テキスト	『改訂新版インターネット講座』 有賀妙子・吉田智子・大谷俊郎 北大路書房 2014			
参考文献	『マルチメディア表現 図形と画像の処理』 有賀妙子 渡部隆志 由良泰人 実教出版			
備考	定員18人 必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

webデザイン関連科目で学んだ内容の集大成として、具体的なwebサイトの制作に取り組む。企画から情報収集、デザイン、素材作成、コーディングまですべての流れをグループまたは個人で行い、学内ネットワークにて公開することを最終目標とする。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- 企画
 - ワークシートの作成
 - ラフスケッチ
- デザイン
 - Adobe Photoshopによるデザイン作成
 - 素材の書き出し
- コーディング
 - html/cssの手打ちまたはDreamweaverの活用
- 公開
 - 学内ネットワークへのアップ
 - プレゼンテーション

3. Course Method（教育・学習の方法）

グループまたは個人でwebサイトを企画、必要な情報を収集し、他の授業で得た知識を活用してページを作成し、学内ネットワークにて公開する。具体的には、テーマ企画、素材作成、インタラクション検討、コーディング、知的所有権を含む情報倫理の再確認、およびプレゼンテーションを行う。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

【復習】

「マルチメディア演習」「ウェブデザインII」の履修済みの者は、各授業で配布したレジュメとサーバーにアップされているデータを元に復習しておくこと。詳細は授業内に指示する。

【その他】

授業内容から遅れている場合は、必要に応じた作業を各グループで行う。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

webサイトの学内公開を単位取得の条件とする。

授業参加度（30%）、webサイトの完成度（70%）の総合点で評価する。

なお、「ウェブデザイン実務士」の資格認定を希望するものは、70点以上の

評価を受ける必要がある。

5. Course Schedule（授業予定）

- オリエンテーション、webサイトの企画（企画ワークシート作成）
- デザイン（全体の構成とテンプレート作成）
- デザイン（テンプレート作成、各自のサイトに必要な要素のデザイン）
- デザインチェック（グループごとにプレゼンテーション）
- デザイン修正（デザインチェックで指摘を受けた箇所の修正）
- ページ作成（素材の書き出し、HTMLのマークアップ）
- ページ作成（CSSによるスタイリング）
- ページ作成（その他インタラクションの実装）
- 中間チェック（グループごとにプレゼンテーション、チェックリストの記入）
- ページ作成（中間チェックで指摘を受けた箇所の修正）
- ページ作成（グループ別に修正箇所の再チェック）
- ページ作成（最終調整）
- 公開テスト
- 公開
- 合評（1グループ15分の持ち時間でwebサイトをプレゼン）

6. Special Information（留意事項）

人数制限：18名

本授業を受講するにあたり、「マルチメディア演習」を履修済み（もしくはIllustratorまたはPhotoshopが扱える）、および「ウェブデザインII」を履修済み（もしくはDreamweaverを扱える、またはHTMLとCSSの手打ちができる）であるか、その条件を満たす人物とグループを組むことを必須条件とする。

講義コード	22532401			
科目名	ウェブプログラミング演習 機能的なWebコンテンツを作成するため、インタラクティブなWeb情報発信技術を習得			
担当者	伊藤 泰子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ウ]			
前提科目				
テキスト	使用しない。 適宜、必要資料を配布。			
参考文献				
備考	定員24人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	92301301			
科目名	ウェブプログラミング演習 機能的なWebコンテンツを作成するため、インタラクティブなWeb情報発信技術を習得			
担当者	伊藤 泰子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[ウ]			
前提科目				
テキスト	使用しない。 適宜、必要資料を配布。			
参考文献				
備考	定員24人 選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

プログラム言語JavaScriptを利用して、動的なWebコンテンツを作成する。Webの情報を単に受け取るだけの利用者ではなく、インタラクティブな情報発信の技術を養い、プログラミングの技術、Webサーバとのやりとりなど、Webにおける一歩進んだ知識・技術を身につける。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- 基本制御構造
- オブジェクト指向プログラミング
- フォーム部品との連携
- ウィンドウ操作
- 応用技術

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習形式で行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

積み上げ式の授業なので、特に予習をする必要はないが、復習は必ず行う。毎回宿題を出すので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いていく。わからない部分は必ず質問すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50%)、課題 (50%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 JavaScriptとは
- 第2回 基本制御構造1 (順次、反復)
- 第3回 基本制御構造2 (選択)
- 第4回 オブジェクト指向とは (クラス概念、フィールドやメソッドの利用)
- 第5回 フォームタグとの連携1 (文字列操作、デザイン変更)
- 第6回 フォームタグとの連携2 (演算処理)
- 第7回 ウィンドウ操作 (alertメソッドの利用、ウィンドウの作成、ウィンドウ制御)
- 第8回 DOM CSSの操作1 (JSを利用して動的にデザインを変更する)
- 第9回 DOM CSSの操作2 (JSを利用して動的にHTMLコンテンツを変更する)
- 第10回 Ajaxの概要
- 第11回 Ajax 外部ファイルのデータをプログラムに反映させる
- 第12回 Ajax Google Mapsの操作・利用
- 第13回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ設計)
- 第14回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ作成)
- 第15回 課題作成、合評

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22532501		
科目名	マルチメディア演習		
担当者	大谷 俊郎		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『マルチメディア表現 図形と画像の処理』 有賀妙子 渡部隆志 由良泰人 実教出版		
備考	定員18人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

講義コード	92301401		
科目名	マルチメディア演習		
担当者	大谷 俊郎		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『マルチメディア表現 図形と画像の処理』 有賀妙子 渡部隆志 由良泰人 実教出版		
備考	定員18人 選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

デジタル画像編集ソフト Adobe Photoshop を活用した画像編集技術の習得。実習と課題制作をとおして、Photoshop の特性を理解し、魅力的かつ効率的な視覚情報の発信力を身につける。

画像加工に留まらず、web ページ全体のデザインを Photoshop で完成させることを本授業の最終目標とする。

また、制作した課題の合評を行うことにより、情報発信者としての在り方と理論的なデザインの構築能力を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) Adobe Photoshop 基本操作
 - ・画面構成
 - ・レイヤーの概念

- 2) 外部画像の取り込みと編集
 - ・保存形式
 - ・色調補正
 - ・トリミング

- 3) テキスト入力/編集
 - ・文字ツール活用

- 4) デザイン補助機能活用
 - ・ベジェ曲線

- 5) 中間課題：フライヤーデザイン

- ・画像解像度

- ・デザインのプレゼンテーション

※印刷を目的とした画像編集を行うことにより、

web 上での使用を目的とした画像編集 (最終課題)

との違いを明確化し、理解を深める

- 6) 最終課題：web ページデザイン

- ・「大学紹介 web ページ」作成

- ・デザインのプレゼンテーション

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の授業の前半60分では Adobe Photoshop の機能を実習形式で紹介、後半30分ではその機能を活用した簡単な課題制作を行う。

また、中間課題ではフライヤーデザインを、最終課題ではウェブページデザインを制作することにより、印刷物とインターネットという2種類のメディアの差異を理解し、それぞれに対応した画像編集技術を身につける。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

【課題】
授業毎の課題、中間課題、最終課題制作が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で取り組むこと。

【その他】
日常生活で目にするデザイン物 (チラシ、車内吊り広告、Web ページ等) を意識して見てどこが参考になるか、逆にどこを修正すべきか、などを考えておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (15%)、授業毎の課題提出 (15%)、中間課題の完成度 (20%)、最終課題の完成度 (50%) の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、Adobe Photoshop 基本操作 (画面構成、レイヤーの概念)
- 第2回 外部画像の取り込みと編集1 (保存形式の理解を含む)
- 第3回 外部画像の取り込みと編集2 (完成見本とそっくりの画像を作ってみる)
- 第4回 外部画像の取り込みと編集3 (授業時間に撮影したデジカメ画像の編集)
- 第5回 テキストの入力と編集 (文字ツール、文字パネル、文字編集)
- 第6回 デザイン補助機能の活用 (ベジェ曲線の解説や、ペンツール、アンカーポイントの追加と削除など)
- 第7回 印刷を目的とした画像編集 (画像解像度についての復習も含む)
- 第8回 中間課題制作：フライヤーデザイン (課題説明、制作)
- 第9回 中間課題制作：フライヤーデザイン (制作)
- 第10回 中間課題合評 (フライヤーデザインを一人3分の持ち時間でプレゼン)
- 第11回 最終課題制作：大学紹介 web ページのデザイン (課題説明、制作)
- 第12回 最終課題制作：大学紹介 web ページのデザイン (制作)
- 第13回 最終課題制作：大学紹介 web ページのデザイン (制作と合評の説明)
- 第14回 最終課題合評 (web ページデザインを一人10分の持ち時間でプレゼン)
- 第15回 最終課題合評 (web ページデザインを一人10分の持ち時間でプレゼン)

6. Special Information (留意事項)

人数制限：18名

講義コード	22532601		
科目名	色彩デザイン論 色によるイメージ伝達を体系的に学ぶ		
担当者	室 千草		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	『カラーコーディネーター入門 色彩』 大井義雄・川崎秀昭 日本色研事業(株) 2007年 『新配色カード199a』 日本色彩研究所		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

講義コード	22532901		
科目名	図書館情報技術論 情報検索、情報技術の基礎知識		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図][ウ][ブ]		
前提科目			
テキスト	『情報検索の知識と技術 基礎編』 吉井隆明 編著 情報科学技術協会 2015		
参考文献			
備考	定員46人 <旧>225318 情報機器論		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

講義コード	92301501		
科目名	色彩デザイン論 色によるイメージ伝達を体系的に学ぶ		
担当者	室 千草		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ウ]		
前提科目			
テキスト	『カラーコーディネーター入門 色彩』 大井義雄・川崎秀昭 日本色研事業(株) 2007年 『新配色カード199a』 日本色彩研究所		
参考文献			
備考	選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

講義コード	90101201		
科目名	図書館情報技術論 情報検索、情報技術の基礎知識		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図][ウ][ブ]		
前提科目			
テキスト	『情報検索の知識と技術 基礎編』 吉井隆明 編著 情報科学技術協会 2015		
参考文献			
備考	定員46人 [図]必修 H24以後入学者用		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

視覚のメカニズムを学ぶことによって、視認性や、色のもつ心理的なイメージなどを理解し、目的に合ったイメージを色で表現できるよう具体的な例を見ながら、色彩の基礎的な知識を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 12色相環、明度スケール、トーン一覧表 2. 色の三属性の理解、イメージと配色 3. 配色技法を用いたカラープランニング

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストの内容と画像資料を用いて理論を学び、配色カードによる確認作業を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

気に入ったグラフィックデザインやウェブページがどのような配色になっているかを観察すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業内の課題30%、筆記試験70%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入 (色とは)
- 第2回 色と光 (視覚のメカニズムについて)
- 第3回 色の記録、伝達の方法
- 第4回 様々な表色系① (色の三属性、PCCS、マンセルシステム)
- 第5回 様々な表色系② (オストワルト、XYZ表色系、L*a*b*表色系)
- 第6回 色の混合 (加法混色、減法混色について)
- 第7回 色彩の心理① 色の見えの効果
- 第8回 色彩の心理② 色のイメージ
- 第9回 色彩調和① 色相、明度、彩度、トーンを基準にした配色
- 第10回 色彩調和② 様々な効果をねらった配色
- 第11回 色彩調和③ イメージと配色
- 第12回 色彩調和論 (シュプールの色彩調和論など)
- 第13回 カラーユニバーサルデザイン (視認性、バリアフリーと色について)
- 第14回 カラープランニング① (配色技法を用いたカラープランニング)
- 第15回 カラープランニング② (カラープランニングの完成)

6. Special Information (留意事項)

配色カードを用いる課題を行う際は、はさみとのりが必要です。各自持参して下さい。

1. Course Description (科目の教育目標)

コンピュータとインターネットおよびネットワークを構成する仕組みと技術について学び、それらによって流通する情報についての理解とそれを検索する技術を習得し、図書館業務に関係する情報技術の基礎を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. データの作成から情報の検索、利用に至るまでのプロセスを理解する。
2. 図書館に関わる情報技術についての基礎知識を得る。
3. 社団法人 情報科学技術協会が実施している「情報検索基礎能力試験」等、関連する資格試験に通用する基礎力を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストの内容に沿った講義と演習を中心に授業を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回テキストの該当する箇所を読んでくること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度10%・中間テスト30%・期末テスト60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の進め方の説明
情報検索能力基礎試験について
情報とは何か
- 第2回 コンピュータに関する基礎知識 (テキスト4. 3)
- 第3回 インターネットに関する基礎知識 (テキスト4. 4)
- 第4回 情報資源と情報サービス (テキスト1)
- 第5回 データベースと情報の組織化 (テキスト1)
- 第6回 情報検索の基礎 (テキスト2)
- 第7回 情報検索の仕組みと評価 (テキスト2)
- 第8回 中間テスト
- 第9回 オンライン情報資源 (テキスト3. 1-2)
- 第10回 インターネット情報とその検索 (テキスト3. 3)
- 第11回 インターネット上の情報発信
- 第12回 情報セキュリティー (テキスト4. 5)
- 第13回 著作権、知的財産 (テキスト4. 6-4. 7)
- 第14回 電子資料とデジタルアーカイブ
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22541301		
科目名	キリスト教美術概論 基礎的知識をおさえる		
担当者	吉田 朋子		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献	『キリスト教美術図典』 柳宗玄・中森義宗 吉川弘文館 1990 このほか、適宜指示する。		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。さまざまな地域・時代に制作された作品を通して、未知の作品に出会ったときにも、ある程度主題を推測できる力を養うことを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- キリスト教美術の主要な主題と表現上の約束の基本を知る。
- キリスト教美術の歴史的な流れの基本を知る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とするが、意見や感想などの発言を求めることもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

配布資料の指示した箇所を読み、課題があればしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度50%、学期末試験50%で評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション・旧約聖書(1)
- 第2回 旧約聖書(2) 大洪水など
- 第3回 旧約聖書(3) モーセなど
- 第4回 旧約聖書(4) ユディトなど
- 第5回 旧約聖書(5) トビアスなど
- 第6回 マリア伝など
- 第7回 新約聖書(1) 受胎告知など
- 第8回 新約聖書(2) キリストの洗礼など
- 第9回 新約聖書(3) 受難伝など
- 第10回 新約聖書(4) 復活など
- 第11回 新約聖書(5) ヨハネ黙示録など
- 第12回 諸聖人(1) マグダラのマリアなど
- 第13回 諸聖人(2) 聖ゲオルギウスなど
- 第14回 諸聖人(3) 聖テロニウスなど
- 第15回 まとめ(歴史的概観)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22541701		
科目名	芸術への誘い 現代の芸術に親しむ		
担当者	久野 将健・吉田 朋子		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	プリント等を配布。		
参考文献	適宜、授業時に紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「現代音楽」「現代美術」と呼ばれる20世紀(とそれ以降)の芸術は、難しく親しみにくいと言われることもある。しかし、これらの芸術は、日常に埋もれがちな感性を研ぎ澄ませる力を持っており、ぜひ体験してほしいものである。この科目では、作品鑑賞を通して、現代の芸術についての基本的な知識を得るとともに、鑑賞のポイントをつかむことを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

音楽についてはストラヴィンスキーとメシアン、美術についてはピカソ以降の表現から選んだ作品を鑑賞し、現代の芸術表現に触れる。受講生の素直な感想を大切にしつつ、作品のしくみ、時代背景などを知ることで、さらに理解を深めることを目指す。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義が中心であるが、受講者に感想や意見を求めることがある。また、必要に応じて課題発表を課すことがある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- テキストや資料の指示された箇所を読んでくること。
- 指示された課題があれば、準備してくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

全授業数の1/3を超えて欠席すると評価対象にならない(6回欠席で単位認定不可)。評価は授業参加度30%、リアクションペーパー等20%、期末レポート50%とする。期末レポートについては、音楽分野・美術分野の両方について提出する必要がある。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション <久野、吉田>
- 第2回 ストラヴィンスキー その生涯と作風(音楽) <久野>
- 第3回 バレー音楽『ペトルーシユカ』 <久野>
- 第4回 バレー音楽『春の祭典』 <久野>
- 第5回 ピカソ(美術) <吉田>
- 第6回 抽象絵画 <吉田>
- 第7回 抽象彫刻 <吉田>
- 第8回 シュルレアリスム <吉田>
- 第9回 メシアン その生涯と作風(音楽) <久野>
- 第10回 ピアノ曲『幼子イエスに注ぐ20のまなざし』 <久野>
- 第11回 オルガン曲『主の降誕』 <久野>
- 第12回 歌劇『アッジジの聖フランシスコ』 <久野>
- 第13回 ポップ・アート(美術) <吉田>
- 第14回 コンセプチュアル・アート <吉田>
- 第15回 パフォーマンス <吉田>

6. Special Information (留意事項)

この授業の履修は「音楽文化概論」の単位認定後が望ましい。

講義コード	22541901		
科目名	哲学とキリスト教		
担当者	宮永 泉		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『サンとの対話』(プリント配付)		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

現代は科学の時代であるが、同時に思想的混迷の時代でもある。このような時代状況を踏まえた上で、人間は一体何のために生きているのか、また如何に生きるべきなのかを、十七世紀フランスの自然科学者にしてキリスト教思想家であったパスカルの著作を精読しつつ、共に考えたい。後期の「人間学」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- パスカルが、哲学とキリスト教の関係について、カトリック神学者サシと交わした対話の記録である『サンとの対話』を精読する。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキストの予習。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。教示された参考文献や配付されたプリントを読んでくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以って総合的に行う。毎回必ず予習をして授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 (1) パスカルについての概説

- (2) パスカルの宗教体験の記録である「覚書」講読
- 第3回 (1)「覚書」講読
(2)『サシとの対話』講読：導入
- 第4回 『サシとの対話』講読：モンテーニュ哲学（導入）
- 第5回 『サシとの対話』講読：モンテーニュ哲学（普遍的懐疑）
- 第6回 『サシとの対話』講読：モンテーニュ哲学（道徳）
- 第7回 『サシとの対話』講読：エビクテートス哲学（導入）
- 第8回 『サシとの対話』講読：エビクテートス哲学（神即世界）
- 第9回 『サシとの対話』講読：エビクテートス哲学（神の友）
- 第10回 『サシとの対話』講読：懐疑論と汎神論の「対立」（導入）
- 第11回 『サシとの対話』講読：懐疑論と汎神論の「対立」（魂の闇夜）
- 第12回 『サシとの対話』講読：キリスト教（恩寵の光）
- 第13回 『サシとの対話』講読：キリスト教（罪の自覚）
- 第14回 『サシとの対話』講読：キリスト教（審判）
- 第15回 まとめ（キリスト教と仏教）

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22542001			
科目名	日本思想			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	『十牛図－自己の現象学』 上田閑照・柳田聖山共著 ちくま学芸文庫			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ヨーロッパのカトリック思想と日本の禅思想とを比較研究することを通して、人間とは何か・如何に生きるべきかを哲学的に深く考える。受講生は、将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。前期講義「日本文化と宗教」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 西洋十七世紀のカトリック思想家パスカルが、哲学とキリスト教の関係について、神学者サシと交わした対話の記録である『サシとの対話』を絶えず念頭におきつつ、
- 禅宗の「十牛図」（人間が本来の自己と世界を見出す過程を絵解きしたもの）を哲学的に考察した上田閑照・柳田聖山共著『十牛図－自己の現象学』を精読する。
- その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 授業方法： 講義と講読の併用。
- 学習方法： テキストの予習。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。教示された参考文献や配付されたプリントを読んでくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポートまたはテストなど[60%]を以て総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切で、3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備（単位認定の仕方の説明等）
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 前期講義「日本文化と宗教」概括（前半）
- 第3回 同上（後半）
- 第4回 『十牛図』講読： 第八人牛俱忘（人とは何か）
- 第5回 同上： 同上（牛とは何か）
- 第6回 同上： 同上（俱忘とは何か）
- 第7回 同上： 第九返本還源（導入）
- 第8回 同上： 同上（ジレジウス）
- 第9回 同上： 同上（白隠）
- 第10回 同上： 第十入テン垂手（導入）
- 第11回 同上： 同上（鈴木大拙）
- 第12回 同上： 同上（西谷啓治）
- 第13回 同上： 絶対無／自一然／人一間（導入）
- 第14回 同上： 同上（場所的自己）
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22542301			
科目名	日中近代語彙比較論			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	授業毎にプリントを配布する。			
参考文献	『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』 朱鳳 白帝社 『近代日中語彙交流史』 沈国威 笠間書院 『近代日中新語の創出と交流 人文科学と自然科学の専門用語を中心に』 朱京偉 白帝社 『和製漢語の形成とその展開』 陳力偉 汲古社			
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日本語と中国語は漢字を共有しているのみならず、共通の語彙も非常に多いとよく言われている。それは日本語が一方向的に中国語から影響を受けているという単純なものではなく、中国語の中にも日本語の語彙が少なくない。この講義では近代西洋文明が押し寄せてきた際の日中両言語の変遷と双方向的な交流過程について考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 近代以前の日本語と中国語の語彙面における交流を把握する。
- 近代における日中語彙交流史の基本知識を把握する。
- 現代社会における日中語彙共有に関する情報を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 講義形式を取る。
- ディスカッションを行うこともある。
- 講義に映像情報も多用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日中語彙の共有に関する書籍や、最新情報に関する新聞記事を随時学生に紹介する。これらの書籍や、記事を読むことを通じて授業の内容をより一層理解してもらうことができると考えている。また学生の授業内容の理解度を把握するため、授業内でディスカッションとワークシートを用いた練習も予定している。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業態度（30点）、試験（70点）により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 古代における日本語と中国語の語彙
- 第3回 日本語にある漢字語彙の由来と成立
- 第4回 近代西洋文明を受容するための言語的背景
- 第5回 近代西洋知識の情報源としての英華字典漢訳西書
- 第6回 日本人の英華字典の利用について
- 第7回 英華字典と漢字翻訳語の関係
- 第8回 近代日本語における中国語語彙の受容
- 第9回 明治期の日本語語彙の変遷
- 第10回 中国人の日本留学と西洋知識の学習
- 第11回 近代中国語における日本語語彙の受容
- 第12回 現代社会における日中語彙の交流
- 第13回 両言語の双方向的交流の意義
- 第14回 日中語彙交流と共有の将来への展望
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22542401			
科目名	漢文学入門 教養のための漢文学			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	授業ごとに資料を配布する予定。			
参考文献	『中国古典を読むために』 頼惟勤 大修館書店 『漢文【まとめと要点】』 森野繁夫、佐藤利行 白帝社			
備考	定員50人 <旧>225071 文学特講Ⅱ			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

明治時代まで日本人によく読まれていた漢文を中心に講読し、漢文の歴史的、文学的背景を細かく解説しながら授業を進めていく。日本の言語、文学、思想などは、中国から影響を受けつつ独自の発展を遂げてきたが、古代中国人と日本人が共通に享受していた漢文の古典作品を現代人の視点より再読することによって、特に言語と文学の面において日本文化と中国文化の関係について考えたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 中国古典を読むことによって、現在使われている熟語の意味を出典にさかのぼり、さらに深く理解する。

2. 漢文訓読みの基礎を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 時代背景、人物背景などを通して、漢文の内容を丁寧に説明する。

2. 漢文の読み下しを朗読する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

課ごとに予習と復習することを学生に課す。予習の過程で、漢和字典の使い方、漢字の表外訓などの知識を身につけることができると考える。また、復習によって、漢文の基本的な語法、返り点の付け方などをマスターしてもらう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業態度 (30点)、試験 (70点) により行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 割鶏焉用牛刀 『論語』陽貨篇
- 第2回 五十歩百歩 『孟子』梁惠王上
- 第3回 渾沌 『莊子』庖丁解牛編
- 第4回 轍鮒之急 『莊子』外物篇
- 第5回 朝三暮四 『列子』黃帝篇
- 第6回 塞翁馬 『淮南子』人間訓
- 第7回 漁夫之利 『戦国策』燕策
- 第8回 牛山之木 『孟子』告子篇上
- 第9回 顧而言他 『孟子』梁惠王下
- 第10回 守株 『韓非子』五蠹
- 第11回 愛憎之変 『韓非子』說難
- 第12回 狐假虎威 『戦国策』楚策
- 第13回 蛇足 『戦国策』齊策
- 第14回 先從隗始 『戦国策』燕策
- 第15回 復習とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22542601			
科目名	アラブ文学特講 カリール・ジブラン			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	『預言者 携帯版』 カリール・ジブラン 至光社 1988 テキストのほかに必要な資料は授業で配布する。			
参考文献				
備考	隔年開講2			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

世界中の人びとに時空を超えて愛されてきたレバノン出身の詩人・画家カリール・ジブラン(1883-1931)著『預言者』(日本語訳)を読む。ジブランの経歴と思想を学んだ上で、『預言者』が扱う人間の普遍的な主題—愛、結婚、子ども、労働など—をとりあげ、ジブランのほかの著書や絵画も参考にしながら、彼のメッセージを読み解く。そうすることで現代に暮らす私たちにとって生きるヒントを見出したい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. カリール・ジブランの人生
2. 『預言者』
3. カリール・ジブランの著書
4. カリール・ジブランの絵画

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義
2. 文学テキストの読解・比較
3. 発表・討議
4. レポートの作成

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

文学テキストを事前に読んで理解する。課題をこなし、締切日に提出する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加・課題(小テストを含む)20%、発表20%、レポートまたは試験60%。

5回以上の欠席者には単位を与えない(遅刻2回で欠席1回に数える)。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 カリール・ジブランの生い立ち
- 第3回 カリール・ジブランのアメリカへの移住
- 第4回 カリール・ジブランの作品
- 第5回 『預言者』とは
- 第6回 『預言者』船の訪れ
- 第7回 『預言者』愛、結婚、子ども
- 第8回 『預言者』施し、飲食、労働
- 第9回 『預言者』喜びと悲しみ、家、着物
- 第10回 『預言者』売買、罪と罰、法律
- 第11回 『預言者』自由、理性と情熱、苦しみ
- 第12回 『預言者』自らを知ること、教えること、友情
- 第13回 『預言者』語ること、時、善と悪
- 第14回 『預言者』祈り、快樂、美
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22542901			
科目名	博物館概論			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	123	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	適宜配布する			
参考文献	適宜指示する			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	91000201			
科目名	博物館概論			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	123	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	適宜配布する			
参考文献	適宜指示する			
備考	必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

博物館に関する基礎的知識を身につける。身近にある博物館の活動内容を知り、博物館学的な観点からそれを考察できるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

博物館や学芸員の活動について、基本的な事項と実例、歴史を学ぶ。また、これらの活動の根拠となる法律や倫理規定を理解する。身近な博物館を知り、考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義が中心であるが、受講者に課題発表を求められることがある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. テキストや資料の指示された箇所を読んでくること。
2. 指示された課題を準備しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

講義への参加態度50%・レポート評価50% (3分の1以上の欠席で単位取得は困難となる)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 博物館と博物館学について
- 第3回 博物館の機能・学芸員の役割
- 第4回 博物館に関する法令(博物館法など)
- 第5回 諸外国の博物館史
- 第6回 諸外国の博物館の活動例
- 第7回 日本の博物館史
- 第8回 日本の博物館の活動例
- 第9回 博物館における「収集」
- 第10回 資料の「保存」
- 第11回 博物館における「展示」
- 第12回 博物館における「教育普及」
- 第13回 博物館における「調査研究」と情報発信
- 第14回 博物館の現状と課題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

- 第5回 同上：同上(善のアイデア)
- 第6回 同上：同上(魂の不死)
- 第7回 同上：同上(哲学と政治)
- 第8回 同上：アリストテレス哲学(導入)
- 第9回 同上：同上(純粋形相)
- 第10回 同上：ヘレニズム・ローマ時代の哲学、特にプロティノス哲学(導入)
- 第11回 同上：同上(一者)
- 第12回 同上：中世哲学史概観、アウグスティヌス哲学
- 第13回 同上：アウグスティヌス哲学(導入)
- 第14回 同上：同上(悪)
- 第15回 同上：同上(終末)、まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22543201		
科目名	朝鮮文化論		
担当者	金真須美		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『ロスの御輿太鼓』 金真須美 社会評論社		
参考文献			
備考	定員30人 <旧>225064 朝鮮文学講読		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

講義コード	22543101		
科目名	西洋思想史(古代・中世)		
担当者	宮永 泉		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『西洋哲学史』 岩崎武雄 有斐閣 『バイドン』 プラトン(岩田靖夫訳) 岩波文庫		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
備考	<旧>225108 西洋思想史(古代)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

古代ではプラトン、中世ではアウグスティヌス、に焦点をあてつつ古代・中世の西洋思想史を概観し、人間と世界についての哲学的な考え方を学ぶ。受講生は、将来自分自身の人生観・世界観を確立する為のヒントが得られるはずである。後期の「西洋思想史(近世)」と一対をなす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 岩崎武雄著『西洋哲学史』を読む。
- 2) 上と平行して、各自でプラトン著(岩田靖夫訳)『バイドン』を読み、レポート提出。
- 3) その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 授業方法：講義と講読の併用。
 - 2) 学習方法：テキストの予習。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

岩崎武雄著『西洋哲学史』について、授業で読む箇所を毎回必ず予習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度(40%)、レポートまたはテストなど(60%)を以って総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備(単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 『西洋哲学史』講読：古代哲学史概観、創始期の哲学、ソフィスト、ソクラテス
- 第3回 同上：同上(ソクラテス再説)
- 第4回 同上：プラトン哲学(導入)

1. Course Description (科目の教育目標)

韓半島と日本は、古来から親しい関係にあった。又、京都には渡来人ゆかりの場も多い。似ていて異なる国、最も近い国を、過去の悲劇にとらわれず、KPOPや韓流ブームを扉にして、文学を通じ、学ぶ事で、深い相互理解を育成する。美術や伝統舞、神話等、他方面からも文学を学習する。現役作家の講師として、文学創作秘話等も交え、真の国際交流を旨とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 朝鮮文学を学ぶための基礎知識の修得
- 2) 朝鮮文学と近現代史
- 3) 在日文学人の認識

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 発表
- 2) ディスカッション
- 3) テキスト『ロスの御輿太鼓』その他、配布プリントは毎回多数の本から用意します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

現代に人気のある韓流ドラマ、Kポップ、映画等を通じ、日韓文化の比較、又その根底となったコリアン文学の本質を学ぶ。又、希望者には現役作家の立場から、小説の書き方、創作方法等も講義し、コリアン文学のみならず広い観点から文学を研究し、時にコリアゆかりの歴史博物館等へも出かける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 1) 授業参加度 50点
- 2) 平常点 20点
- 3) テスト 30点

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論 朝鮮文学とは(配布冊子あり)「京都と韓国の交流の歴史」
- 第2回 日本文化の中の朝鮮文学(プリントあり)
- 第3回 朝鮮の神話と伝説(プリントあり)
- 第4回 韓国、近い者の旅(プリントあり)
- 第5回 分断と対立を越えて(近現代史)(配布プリントあり)
- 第6回 韓国現代作家(プリントあり)
- 第7回 在日文学について(プリントあり)
- 第8回 心で知る韓国文学(プリントあり)
- 第9回 在日女流作家を読む(プリントあり)
- 第10回 キリスト同信会の朝鮮伝道(プリントあり)
- 第11回 キリスト教と韓国の詩人(プリントあり)
- 第12回 近くて近いコリアン文学(プリントあり)
- 第13回 韓国伝統美術と文学の関係(プリントあり)
- 第14回 韓国文学と日本文学の関係(プリントあり)
- 第15回 まとめと試験

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22543301		
科目名	キリスト教とラテン語Ⅰ		
担当者	中里 郁子		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『はじめてのラテン語』 大西英文 講談社 1997		
参考文献	『Biblia Sacra Vulgata』 Robert Weber and Roger Gryson(eds.) American Bible Society 1990 『古典ラテン語辞典』 國原吉之助 大学書林 2005		
備考	<旧>225421 初歩のラテン語Ⅰ 隔年開講2		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

- 1.キリスト教の聖書や聖歌への理解を深める。
- 2.キリスト教とラテン語の関わりを理解すること。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1.聖書や聖歌の歌詞等を理解する
- 2.ラテン語で書かれたキリスト教の文書についての知識を得る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、キリスト教とラテン語の関わりの歴史および、ラテン語で書かれた聖歌の歌詞、聖書、教会の祈りなどの背景と意味を学びます。ラテン語の基礎知識をテキストに基づいて学びます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業の内容の予習と復習と併せてしっかりやってきてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 1.授業への取り組み(50%)とまとめのテスト(50%)に基づいて総合的に評価します。
- 2.総授業回数の2/3以上の出席が必要です。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ラテン語とは
- 第3回 キリスト教の歴史とラテン語
- 第4回 アルファベットと発音
- 第5回 ラテン語の品詞
- 第6回 ラテン語の語形変化と活用
- 第7回 ミサ曲とラテン語
- 第8回 ウルガタ聖書
- 第9回 グレゴリオ聖歌
- 第10回 マニフィカト
- 第11回 テ・デウム
- 第12回 アヴェ・マリア
- 第13回 レクイエム
- 第14回 主のいのり
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

必要に応じて、プリントを配布します。

講義コード	22543501		
科目名	音楽文化概論 作曲家でめぐる音楽の歴史と文化		
担当者	久野 将健		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	『学生のための音楽史と鑑賞』 教育芸術社 2011年 適宜プリントを配布する。		
参考文献	『新西洋音楽史 上中下』 グラウト/パリスカ 音楽之友社 1998年 『詳説総合音楽史年表』 皆川達夫/倉田喜弘監修 教育芸術社 2003年 適宜授業中に紹介する。		
備考	隔年開講2		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

音楽は時代の風潮や思想から大きな影響を受けている。それぞれの音楽が

どのような特徴を持ち変遷していったのか、大作曲家の生涯や作品、思想をたどりながら考えていきたいと思う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 西洋の歴史・文化に興味を持ち、理解に努める。
- 2) 音楽を静かに鑑賞し、味わう。
- 3) 学んだことや感じとったことを適切に文章化する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業実施方法 講義。レポートを課すことがある。
2. 学習の方法 音楽を聴く際には静かにする。テキストの次の範囲に目を通しておく。
3. 使用教材 テキスト、プリント、CD,DVD等。
・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
予習箇所を指定するので予め読んでおいてほしい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30点)、まとめ試験(50点)、レポート(20点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合(6回欠席)は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 はじめるにあたって
- 第2回 J.S.バッハ①初期・中期の作品
- 第3回 J.S.バッハ②後期の作品
- 第4回 ヘンデル
- 第5回 モーツァルト①初期・中期の作品
- 第6回 モーツァルト②後期の作品
- 第7回 ベートーヴェン①初期の作品
- 第8回 ベートーヴェン②中期の作品
- 第9回 ベートーヴェン③後期の作品
- 第10回 ブルックナー
- 第11回 ショパン
- 第12回 ワグナー
- 第13回 ドビュッシー
- 第14回 ラヴェル
- 第15回 メシアン

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22543601		
科目名	歌曲論 詩と音楽の関連性を探る		
担当者	久野 将健		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	適宜プリントを配布する。		
参考文献	『賛美、それは沈黙のあふれ』 新垣壬敏 教文館 2001年 『フォーレとその歌曲』 河本喜介 音楽之友社 1990年 『フランス歌曲とドイツ歌曲』 エヴラン・ルテール 白水社		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では歌詞(言葉)と音楽の関わりに重点を置き、日本、フランス、ドイツ歌曲の中からいくつかを選び考察する。それぞれの楽曲に込められた思い(感情)を理解し、感じ取ってほしい。なお楽譜や歌詞はプリントで配布する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 言葉と旋律 2. 音楽と感性 3. 歌詞とそのこころ

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法・・・①CD等で楽曲の演奏を聴く。②歌詞の意味を調べる。③歌詞と旋律がいかに対応しているかを考える。
2. 学習方法・・・①音楽の時代様式を理解する。②国によっての相違点を調べる。③理解したことを言葉にして発表する。
・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
外国語の歌詞の場合はあらかじめ意味を調べておくことが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30点)、定期試験(50点)、レポート(20点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合(6回欠席)は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 詩と音楽について概説
- 第2回 山田耕筰「この道」
- 第3回 山田耕筰「からたちの花」①導入
- 第4回 山田耕筰「からたちの花」②展開
- 第5回 信時潔「丹沢」
- 第6回 モーツァルト「すみれ」①導入
- 第7回 モーツァルト「すみれ」②展開
- 第8回 モーツァルト「寂しい森で」
- 第9回 シューベルト「冬の旅」より①「菩提樹」導入
- 第10回 シューベルト「冬の旅」より②「菩提樹」展開
- 第11回 シューベルト「冬の旅」より③「あふるる涙」導入
- 第12回 シューベルト「冬の旅」より④「あふるる涙」展開
- 第13回 フォーレ「リディア」
- 第14回 フォーレ「夢のあとで」
- 第15回 フォーレ「月の光」

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22543701		
科目名	典礼音楽特講 パイプオルガンへの誘い		
担当者	久野 将健		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	授業中にプリントを配布する。		
参考文献	『パイプオルガン』 ノルベール・デュフルク 白水社 1975年 授業中に適宜紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

日本のコンサートホールにも数多く設置されているパイプオルガンであるが、本来はヨーロッパを中心とした教会においてキリスト教と共に発展してきた。この授業ではパイプオルガンの歴史、構造、作品を中心に学ぶ。更にキリスト教典礼におけるオルガンの役割についても考えてみたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. オルガンの仕組み 2. オルガンの歴史 3. 時代と国によって異なるオルガン音楽

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1. 授業方法・・・①文献を読みながら理解を進める。②音楽を聴きながら、楽譜を検討する。

- 2. 学習方法・・・①CD、DVDによる理解。②演奏の實際を伴う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

次回に学ぶ箇所を指定しておくので、予習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30点)、レポート(70点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合(6回欠席)は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オルガンの構造①導入
- 第2回 オルガンの構造②展開
- 第3回 オルガンの歴史①導入
- 第4回 オルガンの歴史②展開
- 第5回 オルガン作品<中世・ルネッサンス>
- 第6回 オルガン作品<イタリアバロック>
- 第7回 オルガン作品<オランダ>
- 第8回 オルガン作品<スペイン・ポルトガル>
- 第9回 オルガン作品<フランス古典>
- 第10回 オルガン作品<ドイツバロック>
- 第11回 オルガン作品<J.S. バッハ>
- 第12回 オルガン作品<ドイツロマン派>
- 第13回 オルガン作品<フランス近代>
- 第14回 オルガン作品<現代>
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22543801		
科目名	西洋美術史Ⅰ ギリシア・ローマからルネサンスまで		
担当者	吉田 朋子		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	適宜資料を配布する		
参考文献	適宜紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

ギリシア・ローマからルネサンス、マネリスムにいたるまでの西洋美術の基本的な流れを把握する。代表的な作品を知り、様式の変化を学ぶ。また、作品を観察して、自分なりの感想を述べられるようにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・時代区分について基本的な知識をおさえる。
- ・代表的な作品をよく観察し、基本的な情報を知る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とするが、意見や感想などの発言を求めることもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

配布資料の指示された箇所を読んでおくこと。不明な地域や地名について、地図やインターネットで確認すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度50%、学期末試験またはレポート50%で評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ギリシア・ローマの美術
- 第3回 初期キリスト教美術
- 第4回 西欧初期中世美術
- 第5回 ビザンティン美術
- 第6回 ロマネスク美術
- 第7回 ゴシック美術
- 第8回 15世紀イタリア美術(1)
- 第9回 15世紀イタリア美術(2)
- 第10回 15世紀ネーデルラント美術
- 第11回 15世紀フランス・ドイツ美術
- 第12回 16世紀イタリア美術
- 第13回 16世紀ドイツ美術
- 第14回 16世紀ネーデルラント美術
- 第15回 16世紀フランス美術

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22543901		
科目名	西洋美術史Ⅱ バロックからポスト印象派以降まで		
担当者	吉田 朋子		
単位数	2	配当学年	1234
資格			
前提科目			
テキスト	適宜資料を配布する		
参考文献	適宜紹介する		
備考	<旧>225428「西洋美術史」		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

17世紀のバロック美術からポスト印象派に至る西洋美術の基本的な流れを把握する。代表的な作品を知り、様式の変化を学ぶ。また、作品を観察して、自分なりの感想を述べられるようにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・時代区分について基本的な知識をおさえる。
- ・代表的な作品をよく観察し、基本的な情報を知る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とするが、意見や感想など

の発言を求めることもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

配布資料の指示された箇所を読んでおくこと。不明な地域や地名について、地図やインターネットで確認すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度50%、学期末試験またはレポート50%で評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 17世紀美術 (1) イタリア-1 カラヴァッジョなど
- 第2回 17世紀美術 (2) イタリア-2 ベルニーニなど
- 第3回 17世紀美術 (3) フランドル-1 ルーベンスなど
- 第4回 17世紀美術 (4) フランドル-2 ヨルダースなど
- 第5回 17世紀美術 (5) オランダ-1 レンブラントなど
- 第6回 17世紀美術 (6) オランダ-2 フェルメールなど
- 第7回 17世紀美術 (7) スペイン
- 第8回 17世紀美術 (8) フランス
- 第9回 ロココ美術
- 第10回 新古典主義
- 第11回 ロマン主義
- 第12回 写実主義
- 第13回 印象派
- 第14回 ポスト印象派
- 第15回 近代美術の諸相

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22900101		
科目名	基礎演習 I P 大学でどう学ぶか		
担当者	吉田 智子		
単位数	2	配当学年	1
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22900102		
科目名	基礎演習 I Q 大学でどう学ぶか		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	1
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22900103		
科目名	基礎演習 I R 大学でどう学ぶか		
担当者	長沼 光彦		
単位数	2	配当学年	1
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22900104		
科目名	基礎演習 I S 大学でどう学ぶか		
担当者	久野 将健		
単位数	2	配当学年	1
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22900105		
科目名	基礎演習 I T 大学でどう学ぶか		
担当者	平野 美保		
単位数	2	配当学年	1
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22900107		
科目名	基礎演習 I W 大学でどう学ぶか		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	1
資格	[プ]		
前提科目			
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

大学の授業をどのように受ければよいのか、4年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、人間文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけること

をねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。さらに、この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることも目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
2. 大学生として必要な基礎力を身につける
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く
5. 関心領域の本や資料を計画的に読む

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 人間文化学科が制作したテキストを使用する
2. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
3. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
4. 半期15回の授業のうち、フレッシュマンセミナーやゲスト講師による合同授業も含む

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. テキストをあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容、提出課題の成績、試験の結果などを評価の基本とする(60%)が、授業や学期中の提出物に取り組む姿勢も重視する(40%)。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業ーキャリアチャレンジプログラムについて
- 第2回 フレッシュマンセミナー
- 第3回 大学での学習・評価の仕組み
- 第4回 大学での勉強法
- 第5回 合同授業(1)
- 第6回 大学生生活の送り方
- 第7回 検定試験対策法
- 第8回 フィールドワーク(1)
- 第9回 レポートの書き方
- 第10回 情報収集の方法
- 第11回 学生生活のデザイン
- 第12回 合同授業(2)
- 第13回 フィールドワーク(2)
- 第14回 現代諸事情を学ぶ
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22900201			
科目名	基礎演習ⅡP 大学でどう学ぶか			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[プ]			
前提科目				
テキスト	「大学生の学びのために」 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900202			
科目名	基礎演習ⅡQ 大学でどう学ぶか			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[プ]			
前提科目				
テキスト	「大学生の学びのために」 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900203			
科目名	基礎演習ⅡR 大学でどう学ぶか			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[プ]			
前提科目				
テキスト	「大学生の学びのために」 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900204			
科目名	基礎演習ⅡS 大学でどう学ぶか			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[プ]			
前提科目				
テキスト	「大学生の学びのために」 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900205			
科目名	基礎演習ⅡT 大学でどう学ぶか			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[プ]			
前提科目				
テキスト	「大学生の学びのために」 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22900207			
科目名	基礎演習ⅡW 大学でどう学ぶか			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『大学生の学びのために』 人間文化学科 人間文化学科で作成したサブテキストをクラスで配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

自ら学習テーマを見つけ、文献調査、資料まとめ、発表というプロジェクト型学習法の基本を身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。さらに、この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることも目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
2. 大学生として必要な基礎力を身につける
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く
5. 関心領域の本や資料を計画的に読む

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 人間文化学科が制作したテキストを使用する
2. 座学だけでなく、調査発表やフィールドワークといった方法も取り入れる
3. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
4. クラスごとに何らかのプロジェクトを企画し、その製作・発表に向けて取り組む
5. 半期15回の授業のうち、ゲスト講師による合同授業も含む。各クラスで取り組んだプロジェクトの発表会を後半に行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. テキストをあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容、提出課題の成績、試験の結果などを評価の基本とする(60%)が、授業や学期中の提出物に取り組む姿勢も重視する(40%)。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 前期の取得単位の確認、後期の追加登録についての説明
- 第2回 検定試験対策法
- 第3回 合同授業(1)
- 第4回 進路と就職を考える
- 第5回 プロジェクト発表について
- 第6回 プロジェクトのテーマについて
- 第7回 プロジェクトのテーマに沿った作業(1)ー学生各自の担当を決める
- 第8回 プロジェクトのテーマに沿った実地調査ー文献調査と写真撮影
- 第9回 プロジェクトのテーマに沿った作業(2)ー発表内容の選定と文章作成
- 第10回 合同授業(2)
- 第11回 プロジェクト発表のための準備(1)
- 第12回 プロジェクト発表のための準備(2)
- 第13回 プロジェクト発表(1)
- 第14回 プロジェクト発表(2)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22900501			
科目名	専門演習Ⅰ 子どもの文化ゼミ			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

〈共通目標〉 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

〈個別クラスのねらい〉 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係など、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各自が関心のあるテーマを探し、それについて学ぶと同時に、研究対象とするために明確な問題意識を持つ。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。
 - 1) 卒業論文の作成プロセスを学ぶと共に、文献探索法を身につける。
 - 2) 各自の研究テーマに基づき、研究計画を立てる。
 - 3) 各自のテーマに沿って、調査・研究を進める中で、情報の収集だけでなく、その選択・利用の方法を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
2. 子どもの文化、といっても幅が広いので、具体的な内容は受講生の関心に合わせて調整する。
3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する基本的な知識や現状、他者の考え方を把握する。
4. 3をもとに、ゼミの中で討論することで、他の学生の考え方を知り、自分の考察を深めていく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 文献読解では担当する文献を事前に読み、その要約に考察を加えたレジュメを作成する。
2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。
3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加30%とし、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 論文執筆のプロセス
- 第3回 卒業論文テーマの探し方
- 第4回 卒論のための図書館利用と文献探索の基礎
- 第5回 テーマ探索のための解説と討議
- 第6回 テーマ(1) 例) 図書館における子どもへのサービス
- 第7回 テーマ(2) 例) 子どもの発達と遊び
- 第8回 テーマ(3) 例) 子どもの絵本の選び方
- 第9回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用(1)
- 第10回 卒論テーマ探しのプロセス発表(ゼミ発表)
- 第11回 文献読解と発表
- 第12回 フィールドワーク(1)
- 第13回 文献読解と発表
- 第14回 研究方法の模索(ゼミ発表)
- 第15回 夏休みに向けての課題(ゼミ発表)

6. Special Information (留意事項)

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。
ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900502		
科目名	専門演習Ⅰ 芸術学ゼミ		
担当者	久野 将健		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト	特別なテキストは使用しないが、ゼミで資料を配布しテキストとすることがある。		
参考文献	ゼミで文献資料を適宜配布する。		
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門教育科目で得られた知識を踏まえ、個々の担当教員の指導の下に、より高度な専門分野の研究法を習得する。したがって、受講生の興味と関心による、小人数のゼミ単位の授業となる。この科目を通して、卒業論文作成の基礎知識を養成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

研究の第一歩は、適切な研究テーマを見つけることから始まる。各人が研究していく上で特に興味のあるテーマを見つけ、それをまとめた発表を試みる。発表後、発表者の学生とゼミ生間で発表内容について互いに討議し、そのことで発表者だけでなく全員が、芸術・音楽作品への造詣を深めることを目指す。

3. Course Method (教育・学習の方法)

少人数の演習(ゼミ)形式で、ゼミ生が主体の活発な討議を中心とする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

発表予定者は、ゼミ担当教員と事前に内容とフォーマットに関して詳細に打ち合わせをする。他のゼミ生は、前週に知らされた発表内容について可能な限り調べておき、発表後にコメントができるようにする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、学生一人ひとりの、諸芸術に対する理解度が試されるテーマごとの発表や研究の内容に対する成績評価80%、ゼミ時の質問に対する正答率や研究の進展の度合いへの評価を20%とする。また、一度の欠席により研究の進展が妨げられるので、毎回の出席は絶対条件。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ゼミナールというものの自体的説明
- 第2回 ゼミで芸術学を勉強することの意義の討論
- 第3回 1・2年次で履修した芸術学関係の授業で学んだ内容の再確認
- 第4回 ゼミ研究としての芸術学Ⅰ
- 第5回 ゼミ研究としての芸術学Ⅱ
- 第6回 ゼミ研究としての芸術学Ⅲ
- 第7回 各人が研究していく上で興味のあるテーマについて話す
- 第8回 ゼミ発表1
- 第9回 ゼミ発表2
- 第10回 ゼミ発表3
- 第11回 ゼミ発表4
- 第12回 ゼミ発表5
- 第13回 発表全体の講評
- 第14回 ゼミ発表と卒業論文との関連づけの試み
- 第15回 前期ゼミまとめ

6. Special Information (留意事項)

ゼミでは各人が積極的に自分の興味をもつテーマに関わるのが重要である。研究の第一歩となる適切な研究テーマを見つけることも、自分は何が分かっていないのか、という当たり前のようなことが明確に分かってはじめて可能となる。それにはゼミ生各自が自律して、自己の知的興味に則って様々な知識を吸収しながらそれらを教養に結びつけ、大学での勉強全体を進めることが基本にして最重要である。

講義コード	22900503		
科目名	専門演習Ⅰ 出版と情報文化ゼミ		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

出版、活字文化、そして、それと密接に関わってきた図書館は長い歴史を経て発展してきたが、現在の情報化社会においてそれらは大きく変わりつつある。このゼミでは、出版、図書館を含むが、それに捉われない、情報というものをテーマの一つとして、情報を探す、利用する、保存する、発信する、また提供する、といった点における様々な問題や過去から現在への流れについて、考える。さらにグローバル化社会における情報にかかわる諸問題、また文化と情報との関係、文化を発信する力といった面もとりあげる。そして、書物などの、過去から現在に至る多様な資料を読みとって、なにかを発見したり、検証する能力を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 出版、情報メディアの歴史、諸問題について理解を深める。
2. 情報を探索し、分析、または繋げて行くことで研究テーマを見つける。
3. 調査、研究、論文、プレゼンテーション等での発表の方法を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に指定した文献をよみ、その内容についてまとめ、発表の準備をする。調査、情報収集が必要な課題については、図書館、インターネット等で調べてくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加(40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価(60%)の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス(ゼミの進め方、各自の興味のあるテーマについてなど)
- 第2回 情報をどのように理解し、利用するか
- 第3回 フィールドワーク
- 第4回 論文講読、発表の準備
- 第5回 発表とディスカッション(出版)
- 第6回 発表とディスカッション(図書館)
- 第7回 発表とディスカッション(情報の利用)
- 第8回 発表とディスカッション(情報発信)
- 第9回 研究テーマ探求のための情報収集
- 第10回 調査、研究方法
- 第11回 論文の構成と各項目の役割
- 第12回 各自の興味あるテーマに関する発表
- 第13回 各自の興味あるテーマに関する発表(ディスカッション)
- 第14回 各自の興味あるテーマに関する発表(レポート作成)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900504			
科目名	専門演習Ⅰ ことばと多文化交流 ゼミ			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	適時にプリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。
2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な文章力、資料調査方法を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 明治以降のことば研究（西洋言語からの翻訳語、日本との共有）。
3. 現代日中ことばの交流（漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有）。
4. 東西およびアジアの多文化交流（文学、民俗、言語、人物などなど）。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 文献、研究論文を読む。
2. それぞれの興味のあるテーマを見つける。
3. 自分のテーマに関係のある参考書を調べ、文献リストを作る。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

上記の作業を繰り返し行い、参考文献の調査方法、参考書、研究論文の読み方を覚えてもらう。また前期では2回発表を行い、レジュメの作り方、図書調べ方なども身につけてもらう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加30点、発表内容及び課題提出70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 インTRODクッション
- 第2回 各自の研究題目について議論する
- 第3回 レジュメ及び参考文献リストの作成方法
- 第4回 中国語と日本語の漢字語彙について
- 第5回 近代日中ことばの交流（明治時代を中心に）に関する論文を読む (1)
- 第6回 近代日中ことばの交流（明治時代を中心に）に関する論文を読む (2)
- 第7回 フィールドワーカー京都の街にある漢字語彙を探そう (1)
- 第8回 発表 (1) 一日中の共通語彙について
- 第9回 現代日中ことばの交流に関する論文を読む (1)
- 第10回 現代日中ことばの交流に関する論文を読む (2)
- 第11回 フィールドワーク (2) 一京都の街にある漢字語彙を探そう (2)
- 第12回 発表 (2)
- 第13回 図書館での研究関連資料の探し方
- 第14回 卒業論文題目と章立てを考える
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900505			
科目名	専門演習Ⅰ アラブと魔法の文化			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

アラブと魔法の文化ゼミ (担当者: 鷲見朗子)

1. このゼミでは大きく分けて2つの異なる分野を扱い、ゼミ生はいずれの分野からテーマを選んでよい。

1つ目はアラブ・中東・イスラームの分野で、それらについての文学、歴史、宗教、政治、女性学、社会学、芸術等を調査し、明らかにする。中東の映画作品を扱ってもよい。

2つ目は魔法を含めたファンタジーの分野で、この分野は時代、地域の枠にとらわれず、幅広いファンタジー作品を対象にする。ファンタジーとは、魔法を含む超自然的、幻想的、空想的事物をテーマやストーリーの主要要素におき、それらの不可思議さに作品の魅力を求めたものを指す。

2. 各自が上の分野から卒業研究テーマを見つけるために、関心のある事柄について学術論文及び本を読む。

3. 論文を書くための基礎となる文献の探し方・読み方と論文の書き方や記述表現なども学んでいく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. アラブ・中東・イスラームの分野についての調査
2. ファンタジー分野についての調査
3. 文献調査・文献収集
4. 文献の読解・映画の分析
5. 論文の書き方

3. Course Method (教育・学習の方法)

卒業研究テーマを選ぶために、テキストを含めたさまざまな作品や文献を読む。文献読解によって、知識を深めるとともに、学生が自分自身で問題提起を行い、論理的に主張を組み立て、まとめる力を培う。また、論文を作成するのに必要な文献収集法および発表に必要な発表資料の作り方や発表の仕方などのスキルも学んでいく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 課題作品・文献や自分の興味のあるテーマに関する文献を読む。
2. 読んだ作品・文献についてほかのゼミ生と意見交換を行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度50%、発表・レポート50%によって評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 インTRODクッション
- 第2回 テーマの選び方
- 第3回 アラブ
- 第4回 中東
- 第5回 イスラーム
- 第6回 文献精読とパラフレース
- 第7回 ファンタジー (定義)
- 第8回 ファンタジー (種類)
- 第9回 ファンタジー (日本・西洋)
- 第10回 論文の書き方
- 第11回 文献調査法
- 第12回 文献収集法
- 第13回 発表の仕方
- 第14回 発表資料の作り方
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900506			
科目名	専門演習Ⅰ 日本語と古典の文化			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリントを配布する			
参考文献	授業や個別指導の際に指示する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> このゼミでは、日本語学と日本古典文学をあつかう。受講者の関心領域を中心に、さまざまな文献の読み方、調べ方について演習を行う。後期の「専門演習Ⅱ」で、卒業研究のよいテーマが見つけれられるよう、広く、時に深く、さまざまな視点から文献を読んでいきたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本古典文学の読み方、研究のしかたを学ぶ
2. 日本語学の研究法を学ぶ
3. 日本の祭祀や民間信仰に関する研究に触れる
4. 情報検索のしかた、参考文献の探し方を学ぶ
5. 仮テーマを設定し、口頭発表を行い、レポートを作成する
6. 何らかのテーマを決め、古典文学ゆかりの地にフィールドワークに出かける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義と文献講読を中心に授業を進める
2. 受講生の関心領域に関する口頭発表を行う
3. 先輩の論文や他大学の卒業論文を読む
4. 文献の調べ方について、図書館ツアーを実施する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 事前に指示された調査課題・発表課題の準備をしておくこと
2. 授業で配布された文献を事前に読んでおくこと
3. 文献調査や情報収集を行い、口頭発表を行うこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度の評点40%、発表やレポートの成績60%で評価を行う。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業 一よい卒業論文とは
- 第2回 古典籍を調べる参考書 一国書総目録、古書類類、広文庫
- 第3回 古語や漢字を調べる参考書 一日本国語大辞典、類聚名義抄、大漢和辞典、康熙字典
- 第4回 記紀神話や説話を読む
- 第5回 万葉集・古今集・新古今集を読み比べる
- 第6回 勅撰和歌集と家集を読む一国歌大観、八代集抄
- 第7回 平家物語を読む
- 第8回 小倉百人一首を読む
- 第9回 枕草子を読む
- 第10回 江戸時代の怪奇物語を読む
- 第11回 江戸時代の俳諧を読む
- 第12回 卒論仮テーマを決定する
- 第13回 フィールドワーク (実施回未定)
- 第14回 仮テーマに基づく研究発表
- 第15回 総括 (レポート提出)

6. Special Information (留意事項)

受講者の関心領域、卒業研究の方法によっては、ゲスト講師の招聘等、授業予定を変更する場合がある。

講義コード	22900507			
科目名	専門演習Ⅰ キリスト教と文化			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『聖書 旧約聖書統編つき』 日本聖書協会 2009 『聖書のなかの女性たち』 遠藤周作 講談社 1972			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 聖書の研究を通してキリスト教の思想と文化について理解を深めることを目的とする。イエス・キリストが弟子たちに教えた「主の祈り」やイエスの語った「たとえ話」や「弟子へのことば」等をイエス時代の文化との関連において考察し、聖書における世界観、人間観、キリスト教思想を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。2. 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。3. 発表の仕方を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テキストと福音書を読み、福音に登場する女性について理解する。
2. 聖書の研究方法を学び、イエス当時の文化的・社会的背景をも視野に入れて聖書のテキストを研究して発表する。
3. フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、聖書の理解を深める

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 聖書の読解では担当する箇所と参考文献を事前に読み、発表するためのレジュメを用意する。
2. 聖書に現れる女性とイエス時代の社会や文化とを関連付けながら考察し、地理や文化などの聖書の背景について発表するための視覚資料などを準備する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、発表・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 卒業論文のテーマの選び方
- 第3回 論文作成の方法
- 第4回 聖書と参考文献の読み方
- 第5回 聖書釈義の方法
- 第6回 一人の娼婦
- 第7回 ヴェロニカ
- 第8回 マルタ
- 第9回 フィールドワーク (聖書と美術)
- 第10回 聖母マリア
- 第11回 サロメとヘロディア
- 第12回 マグダラのマリア
- 第13回 フィールドワーク (聖書と教会建築)
- 第14回 卒業論文テーマ選びの経過発表
- 第15回 後期に向けて

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900508			
科目名	専門演習Ⅰ 日本の近代文学とまんが			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 表現文化研究は、自分の興味の方向により、作家論、物語の構造論、同時代の文化との比較、異文化との比較研究など、様々な研究方法がある。また、文化研究にも多様な方法があり、各自の興味にしたがって、題材や研究方法を選ぶことができる。

ただし、他の人に耳を傾けてもらうためには、共通の理解をふまえた手続が必要だ。意見を述べるには、その手続を学ばなければならない。口頭発表や話し合いを通じて、研究方法の習得、実践を行い、意見をまとめる力を身につけよう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・文学表現など文化研究を志す者が意見をまとめるための、研究方法を習得する。

・既存の研究論文などを参照し、意見の述べ方や、考えをまとめる方法を学ぶ。

・参考文献や資料を調べながら、文献収集の方法や整理の仕方を学ぶ。

・口頭発表を通じて、意見のまとめ方を実習する。

・発表をもとに討議を行い、相手の意見を理解し応答する力を養う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・プリントなどにより表現・文化研究の方法を学ぶ。

・参加者は全員、研究方法をふまえて発表をする。

・図書館などを利用し資料収集を実践する。

・フィールドワークを通じて観察力を養う。

・レジュメにまとめ発表し、プレゼンテーション能力を養う。

・討議を通じてコミュニケーション能力を養う。

・レポート作成を通じて、文章表現力を養う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・発表の題材となる作品をあらかじめ読むなどして、発表者に対し自分の意見を提示できるように考えをまとめておく。

・関連の参考文献を積極的に読み知識を広げ、自分の発表の準備をしておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加 (30%)、ゼミでの発言内容 (20%)、ゼミ発表およびレポート (50%) により行う。研究方法を学ぶための過程であり、ゼミでの質疑応答を通じてコミュニケーション能力を養うことも目標となるため、出席することを重視する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 ゼミの概説

第2回 表現研究の方法論について

第3回 文化研究の方法論について

第4回 資料収集の実践 (図書館利用)

第5回 フィールドワーク入門

第6回 ゼミ発表 (1) 日本近代小説 (太宰治など)

第7回 ゼミ発表 (2) 日本近代詩 (中原中也など)

第8回 ゼミ発表 (3) 日本現代小説 (森見登美彦など)

第9回 ゼミ発表 (4) 日本漫画 (青山剛昌など)

第10回 ゼミ発表 (5) 映画 (『下妻物語』など)

第11回 ゼミ発表 (6) 制作 (京都写真帳など)

第12回 ゼミ発表 (7) 制作 (京都の寺社巡り資料集)

第13回 フィールドワーク実践 (京都北山界隈)

第14回 フィールドワーク実践 (上賀茂神社)

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある

講義コード	22900509			
科目名	専門演習Ⅰ 話しことばゼミ			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『レポート・論文・プレゼン スキルズ』 石坂春秋 くらしお出版 2003 『現代日本のコミュニケーション研究』 日本コミュニケーション学会 三修社 2011 『日本語の発声レッスン』 川和孝 新水社 1981 『新版NHKアナウンス・セミナー』 NHKアナウンス・セミナー編集委員会編 NHK出版 2005			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 学習や実践を通して、話しことばに関する自らの興味・関心を見つけ、卒業研究に向けての「問い」を考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(1) 話しことばに関する基礎知識を深めるとともに、技能向上に努めることで、「話しことば」について考察し、卒業研究のテーマを検討する。

(2) 研究方法の基礎を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1) 各人のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。

(2) 研究に必要な方法について実践的に取り組み、卒業研究に活かせるようにする。

(3) 「話しことば」に関する技能を向上させる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・課題について、発表等の準備をする。

・研究に関連する文献を収集し、内容を把握する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 「話しことばに関する研究・制作」のための企画

第2回 「話しことばに関する研究・制作」のための企画、基礎練習

第3回 「話しことばに関する研究・制作」のための企画、資料収集

第4回 「話しことばに関する研究・制作」のための資料収集

第5回 「話しことばに関する研究・制作」のための内容・方法の検討

第6回 「話しことばに関する研究・制作」のための準備・練習

第7回 「話しことばに関する研究・制作」のための準備・練習と検討

第8回 「話しことばに関する研究・制作」のための最終調整

第9回 「話しことばに関する研究・制作」実践① (フィールドワーク等)

第10回 「話しことばに関する研究・制作」実践② (フィールドワーク等)

第11回 「話しことばに関する研究・制作」振り返り

第12回 論文作成方法

第13回 各人の研究・制作の検討：テーマ

第14回 各人の研究・制作の検討：目的、方法

第15回 各人の夏休みの研究・制作計画発表

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900511			
科目名	専門演習Ⅰ ネット社会の文化ゼミ			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『インターネットの基礎 ～革命を支えるインフラストラクチャー～』 村井純 他 角川学芸出版 2014			
参考文献	『オープンソースの逆襲』 吉田智子 著 出版文化社 2007			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

ゼミ生全体の共通理解として、インターネットの発展の歴史とその設計思想の基礎となるネットワーク技術の基礎を学ぶ。その後、この技術でどのようなコミュニケーションシステムが形成されているかの理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. まず、ゼミ生全体の共通理解として、インターネットの発展の歴史とその設計思想を学ぶ。この学習により、ネットの世界でのコンピュータシステムの理解を深める。

2. ゼミ生は、インターネットや情報システムなどを中心とした分野に関して、歴史や社会への影響という側面、教育や利用に関する側面などから、自分の興味あるテーマを見つける。

3. 各自、興味あるテーマの中から研究計画をたてて発表し、全員で討論を行う。

4. 同時に、論文を書くための文献検索、引用方法、論文独特の記述表現についても、配布する論文を読みながら、詳しく学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ゼミナール方式での輪講を実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自がレジメを用意する必要がある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

クラスの性格上、クラス活動に参加することが評価のひとつとなる。具体的には、次の通り。授業参加(40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価(60%)の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス(ゼミの進め方、テキストの説明、各自の興味のあるテーマについてなど)
- 第2回 卒業研究のテーマの見つけ方についてや、論文作成の10のステップなど
- 第3回 テキスト序章「フロンティアの流儀」の輪講と情報交換
- 第4回 テキスト第1章「技術の誕生と成長」の前半(インターネットにおけるUNIXの役割)の輪講と情報交換
- 第5回 テキスト第1章「技術の誕生と成長」の後半(インターネットの商用化とウェブ登場)の輪講と情報交換
- 第6回 テキスト第2章「インターネットの仕組み」の輪講と情報交換
- 第7回 テキスト第3章「変貌するインターネット(ウェブとIoT)」の輪講と情報交換
- 第8回 テキスト第4章「インターネットを誰がどのように運用するのか」の輪講と情報交換
- 第9回 テキスト第1部の技術解説「インターネットプロトコル」の輪講と情報交換
- 第10回 先行研究の収集のための「図書館オリエンテーション」、社会調査のための統計資料の読み方
- 第11回 論文の構成と各項目の役割 ～論文のサンプルを使って学ぶ～
- 第12回 テキスト第2部の「インターネットに関する研究課題」の輪講
- 第13回 各自の興味あるテーマに関しての発表(1)、テキストのまとめ
- 第14回 各自の興味あるテーマに関しての発表(2)、長期休暇中の課題
- 第15回 4年生の論文中間報告会への参加

6. Special Information (留意事項)

学内および学外の研究会・活動への積極的な参加を希望する。
ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900512			
科目名	専門演習Ⅰ 美術史ゼミ			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜配布する。			
参考文献	適宜紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このゼミでは、京都とヨーロッパの関係について学びながら、美術史の研究手法や論文の書き方になじむとともに、博物館や美術館に親しむ。また、各自が卒論として掘り下げてみたいテーマを見つける。担当教員の専門は17世紀末～19世紀初めの西洋美術史だが、卒論のテーマについてはなるべく希望に沿うように柔軟に対応する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

京都の美術館・博物館、京都とヨーロッパの関わりについて考察し、調査研究を試みる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テーマについてを調査し、発表を行う。
2. 課題文献についてレジメを作成し、発表する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 担当者は発表を用意する。
2. 日頃から、展覧会や寺社仏閣などで美術作品に触れる機会をつくる。
4. 卒論で扱ってみたいテーマについて気をつけて考えておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度50%、発表の成績50%で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 発表とディスカッション(1) 京都のキリシタン遺跡/博物館調査1
- 第3回 発表とディスカッション(2) 京都近辺のキリシタン遺跡/博物館調査2
- 第4回 発表とディスカッション(3) 祇園祭に見られる異国/博物館調査3
- 第5回 発表とディスカッション(4) 京都と輸出品/博物館調査4
- 第6回 発表とディスカッション(5) 京都の近代洋画1/博物館調査5
- 第7回 発表とディスカッション(6) 京都の近代洋画2/博物館調査6
- 第8回 発表とディスカッション(7) 京都の近代洋画3/博物館調査7
- 第9回 発表とディスカッション(8) 京都の近代日本画1/博物館調査8
- 第10回 発表とディスカッション(9) 京都の近代日本画2/博物館調査9
- 第11回 発表とディスカッション(10) 京都の近代建築1/博物館調査10
- 第12回 発表とディスカッション(11) 京都の近代建築2/博物館調査11
- 第13回 フィールドワーク(実施回未定)
- 第14回 フィールドワーク(実施回未定)
- 第15回 まとめ～卒業論文の作成について～

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900601			
科目名	専門演習Ⅱ 子どもの文化ゼミ			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係、現代社会における子どもの遊びなど、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各自のテーマについて明確な問題意識を持ち、そのテーマを多様な視点から考察する。

2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。(専門演習Ⅰの1)～3)から続く。

4) 研究テーマに関する知識を増やし、また、批判的思考を伴いながら、論文の目的に向かって内容を掘り下げていく。

5) 論文の内容を深めると共に、引用文献一覧・参考文献一覧の書き方など、論文作成の形式についても学ぶ。

3. 卒業論文のテーマを決め、その準備を進める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。

2. 各自が自分のテーマに取り組むと共に、他の受講生のテーマについても共に学び、考えていく。

3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する知識を深め、それについて討論する力を育成する。

4. 3をもとに、自分の「問い」をさらに掘り下げていく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. グループまたは個人で一つのテーマについて資料を集め、掘り下げて考察し、その結果を発表する。

2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。

3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加30%とし、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 前期及び夏休みの成果発表(ゼミ発表)

第2回 テーマについての合議

第3回 テーマ1についての講義・討論

第4回 テーマ2についての講義・討論

第5回 フィールドワーク(1)

第6回 テーマ3についての講義・討論

第7回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用

第8回 卒論テーマの明確化と問いの探求(ゼミ発表)

第9回 テーマ1に関する発表・討論

第10回 テーマ2に関する発表・討論

第11回 テーマ3に関する発表・討論

第12回 フィールドワーク(2)

第13回 ゼミ発表及び研究方法についての討論

第14回 卒業研究に向けての情報の整理と利用

第15回 4年次に向けての準備

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900602			
科目名	専門演習Ⅱ 芸術学ゼミ			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	特別なテキストは使用しないが、ゼミで資料を配布しテキストとすることがある。			
参考文献	ゼミで文献資料を適宜配布する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門教育科目で得られた知識を踏まえ、個々の担当教員の指導の下に、より高度な専門分野の研究法を習得する。したがって、受講生の興味と関心とによる、小人数のゼミ単位の授業となる。この科目を通して、卒業論文作成の基礎知識を養成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

前期では、各人が研究していく上で特に興味のあるテーマをまとめた発表の後、発表者の学生とゼミ生間での発表内容についての討議によって、ゼミ生全員が芸術・音楽作品への造詣を深めた。後期では、前期で発表し、その後展開してきたものを、さらに発展させた発表を行い、各人で卒業論文のテーマに収斂させていく。

3. Course Method (教育・学習の方法)

少人数の演習(ゼミ)形式で、ゼミ生が主体の活発な討議を中心とする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

発表予定者は、ゼミ担当教員と事前に内容とフォーマットに関して詳細に打ち合わせをする。他のゼミ生は、前週に知らされた発表内容について可能な限り調べておき、発表後にコメントができるようにする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、学生一人ひとりの、諸芸術に対する理解度が試されるテーマごとの発表や研究の内容に対する成績評価80%、ゼミ時の質問に対する正答率や研究の進展の度合いへの評価を20%とする。また、一度の欠席により研究の進展が妨げられるので、毎回の出席は絶対条件。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 卒業論文の意義と作成の方法論1(導入)

第2回 卒業論文の意義と作成の方法論2(展開)

第3回 卒業論文の意義と作成の方法論3(まとめ)

第4回 前期発表と卒業論文の関連づけを話す1(方法)

第5回 前期発表と卒業論文の関連づけを話す2(実際)

第6回 芸術学を意識したゼミ発表1(はじめに)

第7回 芸術学を意識したゼミ発表2(導入)

第8回 芸術学を意識したゼミ発表3(展開)

第9回 芸術学を意識したゼミ発表4(まとめ)

第10回 芸術学を意識したゼミ発表5(講評)

第11回 卒業論文構想発表1(導入)

第12回 卒業論文構想発表2(展開)

第13回 卒業論文構想発表3(まとめ)

第14回 芸術学ゼミの1年を振り返る-芸術学研究再考

第15回 後期ゼミまとめ

6. Special Information (留意事項)

ゼミでは各人が積極的に自分の興味をもつテーマに関わるのが重要である。研究の第一歩となる適切な研究テーマを見つけることも、自分は何が分かってないのか、という当たり前のようなことが明確に分かってはじめて可能となる。それにはゼミ生各自が自律して、自己の知的興味に則って様々な知識を吸収しながらそれらを教養に結びつけ、大学での勉学全体を進めることが基本にして最重要である。

講義コード	22900603			
科目名	専門演習Ⅱ 出版と情報文化ゼミ			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

専門演習Ⅰの内容に基づいて、関連する分野で自分の興味のある研究テーマを見つけ、それを研究課題として完成させ、研究計画を作成する方法、研究を進めるに必要な技術を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 発表、ディスカッションを通して、各自が関心のあるテーマから論文として完成可能な課題を見つける。

2. 論文作成の手順、技術またそれに必要な調査、研究方法を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

受講生全員が指示された事前学習を行ったことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で指示した資料を読み、また授業で提示された課題について図書館、インターネット等を利用して事前に調べてくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 テーマを研究課題にする
- 第2回 テーマを研究課題とするための調査、情報収集
- 第3回 課題の設定と解決方法：必要な調査、情報の同定
- 第4回 課題解決までのステップ：論文アウトライン
- 第5回 情報の入手、分析、課題解決への利用
- 第6回 課題の再確認：達成可能性のチェック
- 第7回 情報の利用、論文作成のルール
- 第8回 議論、論述の方法
- 第9回 実際の論文、論文報告から学ぶ
- 第10回 タスクマネジメント：作業、スケジュールの管理
- 第11回 各自の卒業研究に関する発表(1)
- 第12回 各自の卒業研究に関する発表(2)
- 第13回 各自の卒業研究に関する発表(3)
- 第14回 論文の序章の提出とディスカッション
- 第15回 まとめ (各自の卒業論文完成へのスケジュール管理についての確認)

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900604			
科目名	専門演習Ⅱ ことばと多文化交流ゼミ			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	適時にプリントを配布する。			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。

2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な文章力、資料調査方法を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 明治以降のことば研究 (西洋言語からの翻訳語、日本との共有)。
3. 現代日中ことばの交流 (漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有)
4. 東西およびアジアの多文化交流 (文学、民俗、言語、人物など)。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 参考書及び関連論文を読み、自分のテーマに関するレポートを提出し、授業で発表する。2. クラス全員でお互い発表したテーマについて議論する。3. 卒業論文のテーマを決める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

発表と議論を通して、研究論文の構成及び書き方の基本を身につけること。後半では卒業論文の章立てを構成し、4年次の卒業論文作成の基礎をつくる。前期と同様に2回の発表も予定している。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加30点、発表内容及び課題提出70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 卒業論文と卒業制作の構成について
- 第2回 多文化交流 (文学) に関する論文を読む (1)
- 第3回 多文化交流 (文学) に関する論文を読む (2)
- 第4回 多文化交流 (民俗) に関する論文を読む (1)
- 第5回 多文化交流 (民俗) に関する論文を読む (2)
- 第6回 フィールドワーカー京都の街にある多文化交流を探そう (1)
- 第7回 発表(1)
- 第8回 多文化交流 (人物) に関する論文を読む (1)
- 第9回 多文化交流 (人物) に関する論文を読む (2)
- 第10回 多文化交流 (出版物) に関する論文を読む (1)
- 第11回 多文化交流 (出版物) に関する論文を読む (2)
- 第12回 発表 (2)
- 第13回 フィールドワーカー京都の街にある多文化交流を探そう (2)
- 第14回 卒業論文、卒業制作に関するQ&A
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900605			
科目名	専門演習Ⅱ アラブと魔法の文化			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> アラブと魔法の文化ゼミ (担当者：鷲見朗子)

「専門演習Ⅰ」で培った基本的知識と方法論を土台に、卒業研究テーマを絞っていく。アラブ・中東・イスラームの分野からファンタジーの分野から関心のある事柄について学術論文及び本を読み、その内容を報告・発表する。各発表では意見交換を行い、知識を共有することをめざす。また、そ

それぞれにふさわしい方法論を選択し、それらに関する見解を深めていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テーマの選択
2. 発表の実践
3. 引用の仕方・参考文献の書き方

3. Course Method (教育・学習の方法)

本授業では各自が選んだテーマにそって、関連文献を読み、それについて発表を行うことで、知識を深めるとともに卒業論文を書く準備を整える。論文作成に不可欠となる引用方法や参考文献の明記法もさらに実践を通して習得していく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

選んだテーマに関連する文献を読んで、発表の準備をする。その際、発表資料も作成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度50%、発表・レポート50%によって評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 おおまかなテーマの発表
- 第2回 アラブ・中東分野の文献調査
- 第3回 アラブ・イスラーム分野の文献読解
- 第4回 ゼミ生による発表と討論①
- 第5回 ゼミ生による発表と討論②
- 第6回 ゼミ生による発表と討論③
- 第7回 ファンタジー分野の文献調査
- 第8回 ファンタジー分野の文献読解
- 第9回 ゼミ生による発表と討論④
- 第10回 ゼミ生による発表と討論⑤
- 第11回 ゼミ生による発表と討論⑥
- 第12回 引用の仕方
- 第13回 参考文献リストの作成
- 第14回 テーマまたは題目の確定と発表
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900606			
科目名	専門演習Ⅱ 日本語と古典の文化			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリントを配布する			
参考文献	授業や個別指導の際に指示する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。
<個別クラスのねらい> このゼミでは、日本語学と日本古典文学をあつかう。テキストにより、さまざまな文献の読み方、調べ方について演習を行う。前期「専門演習Ⅰ」で身につけた基礎知識をもとに、広く、時に深く、さまざまな視点から文献を読み、口頭発表を行い、討究を重ねて、早い時期に卒業研究のテーマを決定したい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本古典文学の読み方、研究のしかたを学ぶ
2. 日本語学の研究法を学ぶ
3. 情報検索のしかた、参考文献の探し方を学ぶ
4. 卒業研究のテーマを決定する
5. 古典文学ゆかりの地にフィールドワークに出かける

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 卒業研究のテーマを決定し、口頭発表を行う
2. 先輩の論文や他大学の卒業論文を読んでみる
3. 情報検索のしかた、参考文献の探し方について、学習情報センターで実習を行う
4. 卒業研究テーマを決定し、関連する文献を調べ、レポートを書く

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 事前に指示された調査課題・発表課題の準備をしておくこと
2. 授業で配布された文献を事前に読んでくること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度の評点40%、発表やレポートの成績60%で評価を行う。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業 一夏休みの研究成果発表
- 第2回 日本語を分析する 一語彙論を中心に
- 第3回 日本語を分析する 一文法論を中心に
- 第4回 日本語を分析する 一漢字・文字論を中心に
- 第5回 日本語を分析する 一地名・人名を中心に
- 第6回 日本語を分析する 一語源論を中心に
- 第7回 日本語を分析する 一現代の若者言葉を中心に
- 第8回 方言研究の方法について学ぶ
- 第9回 ゼミ合同アセンブリー (実施回未定)
- 第10回 卒業研究のテーマを決定する
- 第11回 卒業研究テーマにもとづく発表会
- 第12回 卒業研究テーマにもとづく発表会
- 第13回 卒業研究テーマにもとづく発表会
- 第14回 フィールドワーク (実施回未定)
- 第15回 総括 (卒業研究テーマに関するレポート提出)

6. Special Information (留意事項)

受講者の関心領域、卒業研究の方法によっては、ゲスト講師の招聘等、授業予定を変更する場合がある。

講義コード	22900607			
科目名	専門演習Ⅱ キリスト教と文化			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	『聖書 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2009			
参考文献	参考文献は授業中に紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。
<個別クラスのねらい> 専門演習Ⅰ 参照

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。
2. 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。
3. 発表の仕方を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 文化的背景を考慮しつつ聖書を解釈するためのさまざまな方法を学んで聖書のテキストを釈義する。
2. 福音書やキリスト教に関する書籍を読み、文化的・社会的背景を研究しつつ釈義する
3. フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、聖書の理解を深める

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自がテーマを選び、そのテーマに従って関連する論文や書籍を読んで発表を行う。専門分野の知識を深め、論文作成のための方法を実践的に学ぶ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、発表・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テーマの発表
- 第3回 論文の研究方法について
- 第4回 聖書学関連の文献調査
- 第5回 聖書学関連の文献の読解
- 第6回 学生による発表と討論1
- 第7回 学生による発表と討論2
- 第8回 学生による発表と討論3
- 第9回 フィールドワーク
- 第10回 キリスト教関連の文献調査
- 第11回 キリスト教関連の文献の読解
- 第12回 学生による発表と討論1

第13回 学生による発表と討論2

第14回 学生による発表と討論3

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900608			
科目名	専門演習Ⅱ 日本近代文学 マンガ 京都 編集			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

「専門演習Ⅰ」では、表現研究や文化研究の様々な方法論を学び実践してきた。これをふまえ、「専門演習Ⅱ」では、自分の興味の方向を再度確認し、自分が大学でまとめてみようとする研究や制作の計画を立てていこう。意見をまとめるための手続きはすでに学んできたが、これは最低限の約束事である。

今度はむしろ、自分のしたいこと、すべきことを、将来の生活設計を含めて構想してみよう。人のしてきたことを手本とするよりも、自分のしたいことを形にした方が、おもしろい研究や制作になる。自分のしたいことを見つけるのはなかなか難しいが、そこで悩んだ方が、卒業論文や卒業制作をまとめるときの力になる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・研究成果を卒業論文・制作をまとめる方法を、実践をとおして身につける。

・既存の研究方法を参照しながら、自分の課題にあったやり方を見つける。

・参考文献や資料を調べ、文献収集の方法や整理の仕方を実践する。

・口頭発表を通じて、意見や論のまとめ方を実践し応用していく。

・発表をもとに討議を行い、相手の意見を理解し応答する力を身につける。

・自分の目標を明確に決め、卒業論文や卒業制作とすべき題材や研究方法を選ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・参加者は全員、自分の選択した題材と方法に基づき発表する。

・他者の発表を参照し、自分の研究や制作に役立てる。

・目的に応じた、資料収集やフィールドワークを実践する。

・自分の発表に適したレジュメの形式を工夫する。

・相手の意見をくみ取りながら、自分の意見を提示する意識を高める。

・わかりやすく意図を伝える文章表現力を養う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・発表の題材となる作品をあらかじめ読むなどして、自身の研究や制作と比較しながら意見を提示できるように考えをまとめておく。

・関連の参考文献を積極的に読み知識を広げ、自身の研究や制作の幅を広げていく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加 (30%)、ゼミでの発言内容 (20%)、ゼミ発表およびレポート (50%) により行う。研究方法を学ぶための過程であり、ゼミでの質疑応答を通じてコミュニケーション能力を養うことも目標となるため、出席することを重視する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 卒業論文や卒業制作をまとめるための心構え

第2回 論文の構成法、制作のプレゼンテーションの方法

第3回 卒業論文、卒業制作に必要な準備

第4回 フィールドワーク実践 (京都御所近辺)

第5回 ゼミ発表 (1) 日本近代小説 (芥川龍之介など)

第6回 ゼミ発表 (2) 日本近代詩 (谷川俊太郎など)

第7回 ゼミ発表 (3) 日本現代小説 (万城目学など)

第8回 ゼミ発表 (4) 日本漫画 (尾田栄一郎など)

第9回 ゼミ発表 (5) アニメ (宮崎駿など)

第10回 ゼミ発表 (6) 制作 (小説で巡る京都・エッセイなど)

第11回 ゼミ発表 (7) 日本文化 (舞妓と現代日本)

第12回 フィールドワーク実践 (東山界隈)

第13回 卒論構想発表 (モチーフの決定)

第14回 卒論構想発表 (構成の決定)

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある

講義コード	22900609			
科目名	専門演習Ⅱ 話しことばゼミ			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『レポート・論文・プレゼン スキルズ』 石坂春秋 くろしお出版 2003 『論文ワークブック』 浜尾麻里他 くろしお出版 1997			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

(1) 各人のテーマ決定に向けて、関連の内容を学習する。

(2) 卒業論文作成のための方法を身につける。

(3) 話しことばに関する技能向上に努めることによって、各人のテーマを深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(1) 各人のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。

(2) 各人の興味・関心によるテーマについて発表し、ゼミで討議する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1) 論文作成のための内容・方法の基礎を把握する。

(2) 話しことばに関する文献をまとめ、発表し、全員で討議する。

(3) 各人の興味・関心によるテーマについて発表し、ゼミで討議する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各人の仮テーマについて調査し、まとめ、発表の準備をする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 夏休みの成果発表

第2回 成果発表を受けての発表

第3回 図書館での資料の探し方

第4回 資料、データの収集

第5回 引用

第6回 卒業論文・制作の検討: テーマ

第7回 卒業論文・制作の検討: 内容、方法

第8回 執筆の基礎: 書式

第9回 執筆の基礎: 構成

第10回 卒業論文・制作に関する報告と討議 (1) (2人)

第11回 卒業論文・制作に関する報告と討議 (2) (2人)

第12回 卒業論文・制作に関する報告と討議 (3) (2人)

第13回 一斉授業 (実施回未定)

第14回 一斉授業 (実施回未定)

第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900611			
科目名	専門演習Ⅱ ネット社会の文化ゼミ			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標>

人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

ゼミ生は、インターネットや情報システムなどを中心にした分野に関して、歴史や社会への普及という側面、教育方法に関する側面などから、自分の興味のある研究テーマを見つけて、研究計画の方法論を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・各自、興味あるテーマの中から研究計画をたてて発表し、全員で討論を行う。

・同時に、論文を書くための文献検索、引用方法、論文独特の記述表現についても、配布する論文を読みながら、詳しく学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ゼミナール方式での輪講を実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自がレジュメをレポートとして用意する必要がある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

クラスの性格上、クラス活動に参加することが評価のひとつとなる。具体的には、次の通り。 授業参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 前期に学んだテキストの内容まとめ、論文作成10のステップの実践(1)テーマの選択
- 第2回 夏休みに読んだ資料の発表、論文作成10のステップの実践(2)事前調査
- 第3回 論文作成10のステップの実践(3)仮アウトラインを考えてみる
- 第4回 論文作成10のステップの実践(4)関連文献の調査
- 第5回 論文作成10のステップの実践(5)文献入手
- 第6回 論文作成10のステップの実践(6)文献の読解と整理
- 第7回 論文作成10のステップの実践(7)最終アウトライン
- 第8回 論文作成10のステップの実践(8)これまで進めてきたテーマで卒業研究を続ける場合は、「執筆・校正」の段階に進む。テーマを変更する場合は、(1)からもう一度、やり直す。
- 第9回 4年生の論文報告会への参加
- 第10回 各自の卒業研究に関する発表(1)
- 第11回 各自の卒業研究に関する発表(2)
- 第12回 各自の卒業研究に関する発表(3)
- 第13回 最新の各種白書からのデータの活用方法
- 第14回 各自の序章および1章の内容を考える
- 第15回 総括 (各自の卒業研究のスケジュール管理についての確認)

6. Special Information (留意事項)

学内および学外の研究会・活動への積極的な参加を希望する。

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22900612			
科目名	専門演習Ⅱ 美術史ゼミ			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	プリント配布。			
参考文献	『はじめての美術史』 マルシア・ポイントン 木下哲夫訳 スカイデア 1995 『A Survival Guide for Art History Students』 Christina Maranci Prentice Hall 2004			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<共通目標> 人間文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 1. 専門演習Ⅰで学んだ知識を実践しながら、調査研究を進める。2. 発表と討論の中で、自分の考えを明確にする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 調査・発表・討論を繰り返しながら、卒論テーマを明確にする。2. 作品情報、参考文献の入手方法を学ぶ。3. 第三者に自分の考えを伝える訓練を行う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 卒業研究テーマについて、口頭発表を行う。ゼミ仲間や教員との討論を通して、問題点を明確にしていく。2. 情報検索のしかた、参考文献の探し方について指導する。3. 美術館などの施設で実作品を観察する機会をもつ。4. 卒業研究テーマをほぼ決定し、レポートを書いて提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 各自のテーマについて調査を行い、レジュメを作成する。必要に応じて、画像を用いたプレゼンテーション作成を指示する。2. 指示された調査課題や文献について、発表レジュメを作成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度50%、発表やレポートの成績50%で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション 仮テーマ確認
- 第2回 仮テーマについて基礎的な調査の発表
- 第3回 文献リストの発表
- 第4回 文献紹介
- 第5回 歴史的背景の紹介
- 第6回 先行研究の状況
- 第7回 関連分野について
- 第8回 アプローチの方針
- 第9回 図版リストの発表
- 第10回 学術論文の構成
- 第11回 アウトラインの発表
- 第12回 今後の作業について
- 第13回 美術館へのフィールドワーク (実施回未定)
- 第14回 資料収集のフィールドワーク (実施回未定)
- 第15回 総括、卒論仮テーマに関するレポート提出

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22901101			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	岩崎 れい			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901102			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	久野 将健			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901106			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	堀 勝博			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901103			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	鎌田 均			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901107			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	中里 郁子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901104			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	朱 鳳			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901108			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	長沼 光彦			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901105			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	鷺見 朗子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901109			
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために			
担当者	平野 美保			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	22901110		
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために		
担当者	宮永 泉		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22901111		
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために		
担当者	吉田 智子		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	22901112		
科目名	卒業研究 よい卒業研究のために		
担当者	吉田 朋子		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 卒業論文ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

3. Course Method (教育・学習の方法)

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか
詳細は手引きを参照すること。

5. Special Information (留意事項)

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については人間文化学科「論文作成の手引き」参照。

講義コード	22901201		
科目名	発展演習Ⅰ 和歌・俳句を読む 附 京都を学ぶプロジェクト		
担当者	堀 勝博		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	プリントを配付する		
参考文献	『新編国歌大観』 角川書店 『合本俳句歳時記』 角川書店 『日本国語大辞典』 小学館		
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、またその前段階である3年次のゼミ分属に向けて、2年次からは本格的に専門教育科目の履修が始まる。そして2年次専門教育の核となるのが、この「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる書物の講読を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについて考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(古代和歌と俳句歳時記を読む)

1. 古代和歌を読み、和歌独特の表現を理解し、味わう
2. 任意の和歌一首を選び、古語辞典をたよりに自分なりの解釈に挑戦する
3. 歳時記を抄読して、俳句の表現の妙を味わう
4. 和歌(短歌)と俳句(俳句)の違いについて理解する
5. 和歌・俳句にちなむ場所にフィールドワークに出かける
6. テーマを決め、京都市内外諸所を巡り、何らかの発表を行う

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 任意に選んだ和歌の解釈・鑑賞について口頭発表を行う。
2. 歳時記から気に入った俳句を選び、解釈・鑑賞文を書いたり、絵に描いたりする。
3. テーマを決め、京都諸所を巡る調査・報告活動を行い、何らかの形で報告する
4. 歌かるたに親しむ

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 発表を割り当てられた和歌・俳句について、所定の形式に則って関連文献を調べ、レジュメを用意すること
2. 発表が予定されている作品について、事前に予習しておくこと
3. プロジェクト発表について、課題制作に積極的に取り組むこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容、課題への取り組み姿勢、レポートの内容などを評価の基本とする(60%)が、授業参加度をも重視する(40%)。ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業 — 共同プロジェクトについて
- 第2回 共同プロジェクトの内容討議・決定
- 第3回 和歌・俳句の魅力について、歳時記所収発句・俳句を読む
- 第4回 和歌・俳句の基礎知識
- 第5回 国歌大観所収和歌に関する発表 -万葉集など
- 第6回 国歌大観所収和歌に関する発表 -古今集など
- 第7回 国歌大観所収和歌に関する発表 -新古今集など
- 第8回 国歌大観所収和歌に関する発表 -私家集のいろいろ
- 第9回 歌かるたに親しむ(実施会未定)
- 第10回 プロジェクト調査活動 — (例)京都市内旧跡をめぐる - 寺社
- 第11回 プロジェクト調査活動 — (例)京都市内旧跡をめぐる - 歌枕
- 第12回 プロジェクト調査活動 - (例)リーフレット作りの合同作業 - 編集作業
- 第13回 プロジェクト調査活動 - (例)リーフレット作りの合同作業 - 完成

- 第14回 プロジェクト調査活動 — (例) 調査活動報告作成・発表
 第15回 プロジェクト調査活動 — (例) 調査活動報告作成・発表・
 総括

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22901202			
科目名	発展演習Ⅰ 京都の博物館			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜配布する			
参考文献	適宜紹介する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 京都の博物館史について基本的な知識を得る
2. 博物館各館の特色を理解し、所蔵品に親しむ
3. 博物館見学会の企画・実施を通じて、行動力を伸ばすこと

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 実地調査の報告
2. 博物館見学会の企画・実施

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 担当者は、担当する博物館について、事前調査（文献、実地調査）を行ってこよう。

2. 担当していない場合も、インターネットなどで情報収集すること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容や提出課題の成績を評価の基本とするが、授業参加度や取りくむ姿勢をも重視する（欠席5回以上で、単位修得は困難となる）。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 京都の博物館
- 第2回 京都の博物館史（1）
- 第3回 京都の博物館史（2）
- 第4回 担当したい博物館についてのプレゼンテーション
- 第5回 共同調査（1）
- 第6回 共同調査（2）
- 第7回 共同調査（3）
- 第8回 発表とディスカッション（1）
- 第9回 発表とディスカッション（2）
- 第10回 発表とディスカッション（3）
- 第11回 発表とディスカッション（4）
- 第12回 発表とディスカッション（5）
- 第13回 博物館見学会の企画・準備
- 第14回 博物館見学会の実施
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業時間内/授業時間外に、グループ見学を行う。また、発表準備のためにも、各自で実地調査に行ってくる必要がある。そのための交通費・入館料は、自己負担となるので注意すること。
 ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22901203			
科目名	発展演習Ⅰ ファンタジーの世界			
担当者	鷲見 朗子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『マチルダは小さな大天才』 ロアルド・ダール 評論社 2012			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

本科目の前半は、ファンタジーとは何かという基本的な概念を理解し、実際にファンタジー作品を読解し、それをもとにした映画を鑑賞することで、それらが伝えようとしているメッセージについて、ほかの受講者とともに考え、意見を交わし、明らかにしていく。イギリス出身の児童文学作家ロアルド・ダール（1916-1990）の作品を扱う。部分的に原文を英語で読んで訳す作業によって、英語の読解力も育成する。

本科目の後半は、プロジェクト調査活動を行う。テーマは「京都のふあんたじー」で、京都にまつわる不思議な伝承や伝説を扱う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. ファンタジーの定義
2. 京都の伝承・伝説
3. 作品の読解と分析
4. 映画の鑑賞と理解
5. 英語原文の読解

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 課題とそれについての意見交換
2. プロジェクトの調査・作業
3. 発表
4. レポート作成

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. ロアルド・ダールの経歴（英文）を読む。
2. 作品のなかから課された部分を読んで理解する。
3. 発表とレポートの構想を練る。
4. 京都の伝説・伝承にまつわる地を調査・見学する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容や提出課題の成績、また試験結果を評価の基本とする（60%）が、授業参加度や取りくむ姿勢をも重視する（40%）。ただし、欠席5回以上で、単位修得は困難となる

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入・プロジェクトについて
- 第2回 ロアルド・ダールについて
- 第3回 『マチルダは小さな大天才』 1～7章
- 第4回 『マチルダは小さな大天才』 8～14章
- 第5回 『マチルダは小さな大天才』 15～21章
- 第6回 映画鑑賞
- 第7回 原作と映画の比較
- 第8回 プロジェクト調査活動（テーマの選定）
- 第9回 プロジェクト調査活動（文献調査・収集）
- 第10回 プロジェクト調査活動（課外活動①）
- 第11回 プロジェクト調査活動（課外活動②）
- 第12回 プロジェクト調査活動（紙芝居作成など）
- 第13回 プロジェクト調査活動（リーフレット作成など）
- 第14回 プロジェクト調査活動（ビデオ編集など）
- 第15回 プロジェクト調査活動 発表

6. Special Information (留意事項)

プロジェクト調査活動は紙芝居作成、リーフレット作成、ビデオ編集等から選択、あるいはそれらを混合して行う。
 ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22901204			
科目名	発展演習Ⅰ 四季折々の言葉を学ぶ+京都四季の自然巡り			
担当者	朱 鳳			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜に資料を配付する予定。			
参考文献	『ことばの歳月』 山下景子 広済堂出版 2010 授業中に適宜紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 日本語における漢語と和語の違いを説明する。
- 日本語と中国語における漢語共有の歴史を把握する。
- 四季を表現する季節感のある語彙を確認する。
- 京都四季の自然巡り

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回配付資料の数ページを読む。その上、語彙に関する歴史的背景を丁寧に説明する。その上、毎回学習したことばを使って、俳句も作ってみる予定。また後半では京都四季尾の自然巡りを実施し、最終的に京都を紹介するリーフレットかビデオを制作する予定。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

配付資料を読むことを通して、四季折々と日常生活を表現する和語、漢語を確認していく。また数回の俳句作品提出と発表によって、これらの語彙の応用も具体的に学習する。京都四季の自然巡りを通して、京都の美と品格について考察する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容、提出課題の成績、試験の結果などを評価の基本とする(60%)が、授業への参加態度や課題等に取りくむ姿勢をも重視する(40%)。ただし、欠席5回以上で、単位修得は困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本語にある和語と漢語について
- 第3回 『ことばの歳月』『星の章』『月の章』を読む
- 第4回 『ことばの歳月』『空の章』『雲の章』を読む
- 第5回 『ことばの歳月』『陽の章』『地の章』を読む
- 第6回 『ことばの歳月』『雨の章』『水の章』を読む
- 第7回 『ことばの歳月』『風の章』『雪の章』を読む
- 第8回 発表(1)
- 第9回 京都四季の自然巡り(1)－調査対象と学生各自の担当を決める
- 第10回 京都四季の自然巡り(2)－図書館での文献調査
- 第11回 京都四季の自然巡り(3)－実地調査
- 第12回 リーフレットかビデオの編集作業(1)－文章の編集
- 第13回 リーフレットかビデオの編集作業(2)－写真の編集
- 第14回 リーフレットかビデオの編集作業(3)－動画の編集
- 第15回 発表(2)

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22901205			
科目名	発展演習Ⅰ キリスト教のお祭り			
担当者	中里 郁子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『聖書 旧約聖書続編つき』 日本聖書協会 2009 『クリスマスの起源』 クルマン 教文館 2007 『ローマ史のなかのクリスマス』 保坂高殿 教文館 2005 その他の参考文献は授業中に紹介する			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- キリスト教の典礼暦を学ぶ
- キリスト教の祝祭日に基づく祭りについて学ぶ
- キリスト教の祝祭日の祭りの起源とその意味を学ぶ
- キリスト教の祭りに用いられるアイテムや食べ物について学ぶ
- キリスト教の祝祭日の祭りの祝い方と文化の関係を考察する

3. Course Method (教育・学習の方法)

学生による研究の発表と、それに基づく討論を行い、キリスト教の祭りの理解を深める

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

全員がその日の授業で扱うキリスト教の祭りについて事典や参考文献を用いて調べ、授業に臨むことを前提とする。さらに、その祭りが聖書の言葉とどのような関係があるかを調べる。祝祭日に基づく祭りが、どのように祝われるか、様々な地域について調べる。発表の担当者は、発表の準備として研究内容をレジュメにして用意する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容、提出課題の成績、試験の結果などを評価の基本とする(60%)が、授業参加度や課題等に取りくむ姿勢をも重視する(40%)。ただし、欠席5回以上で、単位修得は困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 キリスト教の典礼暦
- 第3回 キリスト教の祭りに関する文献調査方法
- 第4回 キリスト教の祭りに関する文献調査
- 第5回 フィールドワーク
- 第6回 カーニバルとイースター
- 第7回 ヴァレンタイン・デーとハローウィン
- 第8回 クリスマスの起源
- 第9回 サンタクロースの起源
- 第10回 クリスマスと文学
- 第11回 世界のクリスマスの祝われ方
- 第12回 キリスト教のお祭りのアイテム
- 第13回 キリスト教のお祭りのアイテム制作
- 第14回 キリスト教のお祭りの食べ物
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22901206			
科目名	発展演習Ⅰ イエス・キリスト研究（「キリスト教思想」の続き）			
担当者	宮永 泉			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	パスカル『要約イエス・キリスト伝』（プリント配布）			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、またその前段階である3年次のゼミ分属に向けて、2年次からは本格的に専門教育科目の履修が始まる。そして2年次専門教育の核となるのが、この「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる書物の講読を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについて考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

〈パスカル『要約イエス・キリスト伝』（以下『要約』と略）を読む〉

- 1) 『要約』の「前文」及び本文1～81 (pp.269-283) を自習してレポートを作成し授業開始1ヶ月以内に提出。
- 2) 『要約』本文82 (p.284) 以下の精読。
- 3) 以上を通してイエス・キリストとは何者であるかを探り、その結果を学期末レポートにまとめる。
- 4) その他、適当な講演会やビデオなどを利用して、レポートを提出して貰うことがある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) レポート計2本作成。
- 2) 『要約』全体を自分で読んでおく。
- 3) 各授業で精読する部分の予習を欠かさない。
- 4) パスカル以外の著者によるイエス・キリスト論を何冊か読み、知見を広め且つ深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1) 『要約』予習の際、絶えず聖書を参照する。
- 2) 詳細は授業中に指示する。教示された参考文献や配付されたプリントを読んでくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度・態度[40%]、レポート[60%]を以って総合的に行う。毎回授業に出て、しっかり耳を傾けることが最も大切です。3分の2以上の出席を要す。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 (1) 授業準備 (単位認定の仕方の説明等)
(2) 哲学の三つの型
- 第2回 『要約』の「前文」及び本文1～81 (pp.269-283) の内容紹介
- 第3回 『要約』の本文82 (p.284) 以下講読1 (過越祭)
- 第4回 『要約』講読2 (七つのパンの奇跡)
- 第5回 『要約』講読3 (ベテロ)
- 第6回 『要約』講読4 (変容)
- 第7回 『要約』講読5 (サマリア人)
- 第8回 『要約』講読6 (予言)
- 第9回 『要約』講読7 (ラザロ)
- 第10回 『要約』講読8 (最後の晩餐)
- 第11回 『要約』講読9 (ユダ)
- 第12回 『要約』講読10 (十字架)
- 第13回 『要約』講読11 (復活)
- 第14回 『要約』講読12 (最後の審判)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	22901301			
科目名	発展演習Ⅱ ～インタビューライター実践編～			
担当者	吉田 智子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	なし。読んできてもらう資料や作業の手順に関するプリントなどを適宜、配布する。			
参考文献	『改訂新版 インターネット講座』吉田智子 他著 北大路書房 2014 『よしだともこのルート訪問記 書籍版』吉田智子 編著 ソフトバンク 1999			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・インタビューライターとは
- ・インタビュー取材における準備の大切さ
- ・インタビュー取材の依頼と実施のコツ
- ・取材記事をまとめる際の工夫
- ・各種の公開方法（ネットでの公開）
- ・著作権や肖像権などへの対応

3. Course Method (教育・学習の方法)

・毎回、指定した資料を読んできたことを前提に、ゼミナール方式で内容に関する講義を行い、実践的に授業を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

次の授業の講義対象となる配布資料のページを伝えるので、その部分は必ず熟読し、授業に参加すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容、提出課題の成績、試験の結果などを評価の基本とする（60%）が、授業参加度や課題等に取りくむ姿勢をも重視する（40%）。ただし、欠席5回以上で、単位修得は困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス（この授業の概要および授業の進め方の説明など）
- 第2回 導入編(1)イントロダクション（インタビューとは、テーマの絞り方と知りたい情報を獲得するための対象者の選び方、プロのインタビュー番組や記事を読んでみよう）
- 第3回 導入編(2)実習（模擬「共同記者会見」を実施し、その後で記事を書いてみよう）
- 第4回 導入編(3)評価（お互いの記事の「タイトル、見出し、章構成」を評価してみよう）
- 第5回 実践編(1)企画と情報収集（取材したいテーマと取材先、対象読者の選択）
- 第6回 実践編(2)取材先の決定と準備、取材申し込み、当日の質問の絞り込みとシミュレーション、必要な用具の準備など
- 第7回 実践編(3)取材の実施とその後の依頼事項の連絡、記事のまとめ方を考える
- 第8回 取材記事のコンテンツ制作(1)～魅力的な構成を考える～
- 第9回 取材記事のコンテンツ制作(2)～魅力的なタイトルや見出しを考える～
- 第10回 取材記事のコンテンツ制作(3)～魅力的な写真を選択する～
- 第11回 Webでの公開に関して(1)～著作権、肖像権を守る～
- 第12回 Webでの公開に関して(2)～HTML+CSSのタグの追加～
- 第13回 Webでの公開に関して(3)～サーバーへのデータのアップと公開～
- 第14回 公開後の取材先への連絡やメンテナンスの重要性の確認
- 第15回 まとめ（次も一緒に仕事がしたいと言われるインタビューライターの極意とは）

6. Special Information (留意事項)

最終的にインタビューしたコンテンツをWeb公開する作業を伴うので、「情報処理」など、Web制作実習を含む授業を履修済みであることが好ましい。ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	22901304			
科目名	発展演習Ⅱ 京都を読む 京都を表現する			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	必要に応じて、テキストを購入し、プリントを配布する。			
参考文献	『京都大事典』 佐和隆研他 淡交社 『京都近代文学事典』 日本近代文学会関西支部 和泉書院 『都名所図会』 竹村俊則校注 角川書店 『京都古地図散歩』 平凡社 『京都魔界案内：出かけよう、「発見の旅」へ』 小松和彦 光文社			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

京都を素材として、調査・研究し、パネル展示、映像制作など、発表方法を創案し実践するまでの過程を、クラスのメンバーと協力して行う。

- ・自ら研究方法を選択し実践する力を身につける。
- ・資料読解の方法を学び、整理する力を身につける。
- ・小説、映画などの文化表現の分析方法を学ぶ。
- ・グループワークをとおして、協同する力を身につける。
- ・口頭発表を行い、意見をまとめ方法を実践する。
- ・意見交換を通じて、相手の意見を理解する力を養う。
- ・モチーフや知識を総合して、表現する力を養う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・「京都」を素材として、研究を企画する。
- ・京都資料を調査し、必要な情報をまとめる。
- ・小説や映画など、表現を分析し、特徴をまとめる。
- ・調査結果を発表し、相互に意見交換する。
- ・レジュメにまとめて発表するプレゼンテーション能力を養う。
- ・討議を通じてコミュニケーション能力を養う。
- ・企画意図に即して、文章、写真集などにまとめる力を養う。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・資料や作品をあらかじめ読み、自分の考えをまとめておく。
- ・関連の参考文献を積極的に読み、意見を提示する準備をする。
- ・取り上げた京都の各地に、実際に歩いてみる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表内容、提出課題の成績、試験の結果などを評価の基本とする(60%)が、授業参加度や課題等に取り組み姿勢をも重視する(40%)。ただし、欠席5回以上で、単位修得は困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 文学読解のための概説
- 第2回 京都フィールドワークの概説
- 第3回 資料収集の方法について
- 第4回 発表と討議(1) 企画の提示
- 第5回 発表と討議(2) 企画運営に必要な条件
- 第6回 発表と討議(3) 資料の取り扱いと整理
- 第7回 発表と討議(4) 資料の活用と関連づけ
- 第8回 発表と討議(5) 企画を形にする方法
- 第9回 発表と討議(6) 企画を形にするうえでの注意
- 第10回 発表と討議(7) 企画構成の実際とフィードバック
- 第11回 発表と討議(8) 取材と材料の活用
- 第12回 発表と討議(9) 企画完成物の提示
- 第13回 発表と討議(10) 全体的な反省と課題
- 第14回 研究実践のための心構え
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

ゲスト講師による授業を行うこともある

講義コード	22901305			
科目名	発展演習Ⅱ 楽譜の読み書きを学ぶ			
担当者	久野 将健			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『改訂版 楽譜が読めると音楽がおもしろい』 五代香蘭 メトロポリタンプレス 2012年			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

楽譜を読むことができない、或いは苦手という受講者のために初歩から教授する。

少し慣れたら、楽譜を書く練習もしてみる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

楽譜の基礎知識を勉強したのち、実際に楽譜を見ながらキーボード等で弾く練習もする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、宿題を出すので五線譜を忘れないように持参すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30点)、課題(30点)、まとめテスト(40点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合(6回以上の欠席)は、原則として単位を与えられないので注意すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 楽譜の読み方①ト音記号
- 第3回 楽譜の読み方②ヘ音記号
- 第4回 楽譜の読み方③大譜表
- 第5回 課題I
- 第6回 楽譜の書き方①ト音記号
- 第7回 楽譜の書き方②ヘ音記号
- 第8回 楽譜の書き方③大譜表
- 第9回 課題II
- 第10回 キーボードの弾き方①右手
- 第11回 キーボードの弾き方②左手
- 第12回 課題III
- 第13回 聴音①基礎
- 第14回 聴音②展開
- 第15回 まとめテスト

6. Special Information (留意事項)

予習・復習をしっかりとしてほしい。

講義コード	22901306			
科目名	発展演習Ⅱ インターネット番組制作			
担当者	平野 美保. 岩崎 れい. 鎌田 均			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『映像制作ハンドブック』 ビデオサロン編集部 玄光社 2014			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

4年次必修科目「卒業研究」、その前段階である3年次必修科目「専門演習」に向けて、2年次専門教育の核となるのが「発展演習」である。担当教員の専門分野に関わる演習を通して、さまざまな知識や発想、手法等について

て学びつつ、自分の関心分野は何か、自分の感性や適性に最も合った研究テーマは何かといったことについても考えて、授業を受けてもらいたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・インターネット番組制作にかかわる知識や技能を習得する。
- ・協同的に行うことを通して、チームワークやコミュニケーション力を高める。
- ・取材やコンテンツをインターネット上に発信することを通して、責任感やマナーを向上させる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 主な担当内容を中心に知識、技能を高める。
- 2) メンバーで協力して、1つのコンテンツを作り上げる(番組制作)。
- 3) 各チームで制作した番組を全体で検討し、番組としてより良いものにし、インターネット上にアップロードする。
- 4) プロジェクト学習を通して得たことを討議し、内容・方法について深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・各チームで必要な担当分について、次回までに準備しておくこと
- ・関連の内容に関して、情報収集に努めること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

コンテンツ50%、授業参加度30%、小レポート20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の概要、チーム作り、企画
- 第2回 企画、情報収集
- 第3回 情報収集、台本作り
- 第4回 著作権、台本作り
- 第5回 編集技術
- 第6回 資料準備、スケジュール調整
- 第7回 取材(学内外)や収録の練習
- 第8回 取材(学内外)
- 第9回 編集
- 第10回 収録
- 第11回 コンテンツの仕上げ
- 第12回 全体でコンテンツの検討会
- 第13回 コンテンツの修正
- 第14回 全体で番組視聴、インターネットにアップロード
- 第15回 まとめ:全体で討議

6. Special Information (留意事項)

この科目は演習的な性格をもつので、積極的に参加することが重要である。ゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード	24301301			
科目名	生活福祉文化概論			
担当者	萩原 暢子・桐野 由美子・竹原 広実			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

人間の生活上の基本的な願いである、健康で質の高い豊かな暮らしのあり方と、その実現のための方策についての基本的な考え方を、文化と生活を基礎としながらライフデザイン(生活)領域とソーシャルワーク(福祉)領域の各領域から学習し、さらに健康という角度からも検討することで、生活福祉文化とは何かを総合的に理解することを目標におく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

各分野のそれぞれの個別課題については下記のように定め、集中的に理解を深める。

1. ライフデザイン領域

- 1)生活福祉文化で何を学び、学んだものを実生活にどう生かすかをイメージする。
- 2)生活福祉文化の中に占めるライフデザイン領域を理解する。
- 3)自分のライフスタイルを知り、健康的なライフスタイルを考える。

2. ソーシャルワーク領域

- 1) 現代社会における社会福祉の意義の理念(人権尊重、権利擁護、自立支援等)を理解する。
- 2) 社会福祉分野の援助者であるソーシャルワーカーの専門性を明らかにし、その初歩を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1) 各領域ごとにオムニバス形式で全体で15回連続の講義をおこなう。
- 2) 必要に応じてパワーポイント、OHC、DVD、ビデオなどを使用して学習効果を図る。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバスに沿って予習を義務付ける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、レポートまたは授業後の小テスト(各担当教員ごとに評価したものの平均とする。70%)などで総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オムニバス/全15回
(萩原暢子/5回/ライフデザイン・ソーシャルワーク領域、健康について)
1) オリエンテーション
①「生活福祉文化概論」の意義と内容(目的と進め方)
②ライフデザイン基礎論、ソーシャルワーク基礎論との関係、生活福祉文化とは
- 第2回 2) (前回の続き 生活文化学部の教育理念と教育目標)、健康な生活とは、「食事と健康のかかわり」(DVD鑑賞)
- 第3回 3) 毎日の食事から、どれくらいのカロリーを摂取しているか調べる。
- 第4回 4) 朝起きてから夜寝るまで、どれくらいのカロリーを消費しているか調べる。
- 第5回 5) 「自分の食事と生活活動とのエネルギーのバランスについて」というテーマで、自分のデータに基づいてレポート作成
- 第6回 (竹原広実/5回/ライフデザイン領域)
1) 豊かな生活と持続可能性
- 第7回 2) ごみ問題、廃棄物リサイクル
- 第8回 3) 世界の食料安全保障
- 第9回 4) バーチャルウォーター
- 第10回 5) 世界の環境モデル都市
- 第11回 (桐野由美子/5回/ソーシャルワーク領域)
1) 現代社会における社会福祉の意義
- 第12回 2) 社会福祉の理念
- 第13回 3) 社会福祉分野の援助者であるソーシャルワーカーの専門性
- 第14回 4) ソーシャルワーカーの役割と機能
- 第15回 5) 人との関係がよくなるコミュニケーションスキル

6. Special Information (留意事項)

この科目は本学科の基礎的な重要科目であり、必修科目であるので全回出席を原則とする。本年度までの開講予定であり、来年度は開講予定はしていない。必修科目であり卒業にかかわるため、まだ単位が取れていないものは必ず本年度中に履修すること。本年度は集中講義とする。

講義コード	24401401			
科目名	社会福祉原論Ⅰ 現代社会と福祉Ⅰ			
担当者	小池 桂			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	特になし。毎回、プリントを配布する。			
参考文献	『社会福祉用語辞典』山縣文治、柏女霊峰編 ミネルヴァ書房 最新版 『よくわかる社会福祉の歴史』清水教恵、朴光駿編 ミネルヴァ書房 最新版 『社会福祉発達史キーワード』古川孝順、金子光一編 斐閣双書 2009 『現代福祉学概論』杉山博昭編 時潮社 2013 『新社会福祉とは何か(第2版)』大久保秀子 中央法規 2014			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会福祉原論の目的は「原論」と名付けられている通り、社会福祉の原理を学ぶことにあるが、そのためには社会福祉の全体像をつかんでおくことが求められる。よって原論Ⅰでは、まずは社会福祉を理解するための基礎的事項を重点的に講義する。

- ①社会福祉の展開過程をつかむことができる。

- ②現代社会における社会福祉の必要性を理解できる。
- ③福祉政策について理解できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①諸外国も含む社会福祉の歴史について理解する。
- ②現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関連を理解する。
- ③福祉政策の課題について、様々な社会問題との関わりで理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に進めるが、適宜、ビデオ等も取り入れていく。また重要なテーマについてはディスカッションも行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ①毎回、授業終了時に翌週の授業用プリントを配布するので、そこに記されたキーワードを調べておくこと。
- ②授業では積極的に発言すること
- ③社会福祉に関する新聞記事を読むこと (どのような領域でもよい)。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、平常点 (10点)、小テスト (20点)、定期試験 (70点) とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の概要とねらい
- 第2回 現代社会における福祉制度と福祉政策
- 第3回 イギリスにおける福祉制度の発達過程
- 第4回 アメリカにおける福祉制度の発達過程
- 第5回 日本における福祉制度の発達過程①：恤救規則の成立
- 第6回 日本における福祉制度の発達過程②：慈善事業の生成
- 第7回 日本における福祉制度の発達過程③：社会福祉の成立
- 第8回 日本における福祉制度の発達過程④：厚生事業の展開
- 第9回 日本における福祉制度の発達過程⑤：戦後社会福祉の展開
- 第10回 小テスト及び解説
- 第11回 福祉政策の課題Ⅰ：貧困とは何か
- 第12回 福祉政策の課題Ⅱ：貧困と生活保護制度
- 第13回 福祉政策の課題Ⅲ：少子高齢化と介護
- 第14回 福祉政策の課題Ⅳ：少子高齢化の地方における実態
- 第15回 福祉政策の課題Ⅴ：障害をもつ人と社会福祉

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24401601		
科目名	社会保障論Ⅰ		
担当者	小池 桂		
単位数	2	配当学年	23
資格	[社][精]		
前提科目			
テキスト	『現代の社会福祉士養成シリーズ社会保障』 川村匡由他編 久美 最新版		
参考文献	『よくわかる社会保障』 坂口正之、岡田 忠義編 ミネルヴァ書房 最新版 『脱貧困の社会保障』 唐鎌直義 旬報社 2012 『ベヴァリッジ報告』 一圓光瀾監訳 法律文化社 2014 『雇用身分社会』 森岡孝二 岩波新書 2015		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

20世紀以降、社会保障制度は人々の生活に欠かせないものとなった。社会保障論Ⅰでは現代社会における社会保障制度の存在意義、理念、歴史など社会保障の基礎を学ぶ。

- ①現代社会における社会保障制度の課題を理解できる。
- ②社会保障の概念、対象、理念、展開過程を理解できる。
- ③社会保障制度の概要について理解できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①少子高齢化社会における社会保障制度の課題を理解する。
- ②社会保障の概念、対象、理念を理解する。
- ③社会保障の展開過程を理解する。
- ④社会保障の財源と費用を理解する。
- ⑤社会保険と社会扶助の関係を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に進めるが、適宜、DVD等も取り入れていく。また重要なテーマについてはディスカッションも行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ①テキストを読んでくること。
- ②授業では積極的に発言すること
- ③社会保障に関する新聞記事には目を通しておくこと (どのような領域で

もよい)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、平常点 (10点)、小テスト (20点)、定期試験 (70点) とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の概要とねらい
- 第2回 現代社会における社会保障の課題 (テキスト「第1章、1回、2回」)
- 第3回 社会保障制度の発達Ⅰ～西洋における展開～ (テキスト「第2章、8回」)
- 第4回 社会保障制度の発達Ⅱ～戦前日本における展開①～ (テキスト「第2章、9回」)
- 第5回 社会保障制度の発達Ⅱ～戦後日本における展開②～ (同上)
- 第6回 社会保障の概念と機能 (テキスト「第2章、4回、5回」)
- 第7回 社会保障の理念①～自由の土台としての社会保障～ (テキスト「第2章、6回」)
- 第8回 社会保障の理念②～社会連帯としての社会保障～ (同上)
- 第9回 小テスト及び解説
- 第10回 社会保障の対象 (テキスト「第2章、7回」)
- 第11回 社会保障の財源及び給付費、実施体制 (テキスト「第3章、10回」)
- 第12回 国民負担率とその課題 (テキスト「第3章、11回、12回」)
- 第13回 社会保険の概念と範囲①～生活保障の方法としての保険～ (テキスト「第4章、13回」)
- 第14回 社会保険の概念と範囲②～社会保険の特質と具体的制度～ (同上)
- 第15回 社会扶助の概念と範囲 (テキスト「第4章、14回」)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24401701		
科目名	レクリエーション論 楽しさ、心地よさからセラピーにまで広がるレクリエーション		
担当者	森 美和子		
単位数	2	配当学年	2
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	適宜プリント等を配布する。		
参考文献	『(財)日本レクリエーション協会編「レクリエーション支援の基礎」 日本レクリエーション協会 2007 『レクリエーションの基礎理論』 池田勝 永吉宏英 西野仁 原田宗彦 杏林書院 1989 『レクリエーション活動援助法』 吉田圭一 茅野宏明 ミネルヴァ書房 2007 『楽しいをつくる やさしいレクリエーション実践』 日本レクリエーション協会 2000		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

外来語である「レクリエーション」の概念は、近年日本の様々な分野で活用されるようになってきている。医療福祉、地域の社会教育、そして個人の日常生活にいたるまで現代社会の中に浸透してきている。それぞれの分野で認識されているレクリエーション概念と実践は、その形態や意味合いに特徴がある。レクリエーションの基本的概念を学習し、様々な分野でのレクリエーション実践やその支援法を知ることを目指す。そして、それらの知識を活用し、レクリエーションプログラムの基本的な企画・運営・管理方法を体験を通して学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. レクリエーション発祥の歴史から基本的概念を学ぶ。
- 2. 様々な分野でのレクリエーション実践例を知り、レクリエーションへの認識を広げる。
- 3. 具体的なレクリエーション活動を体験し、その意義を理解する。
- 4. レクリエーションプログラムの立案方法を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業の実施方法

- 1. 主に講義形式で行い、適宜資料を配布する。
- 2. 講義の中で課題を提示し、個人もしくはグループで課題に取り組みながら解決していく。
- 3. 具体的なレクリエーション活動を実際に体験し、そのプログラムの意図と効果を理解する。
- 4. 実際の例からレクリエーションプログラムを構成する要素を学び、そ

の立案に必要な知識を獲得する。

学習の方法

1. 学習内容についてやグループワークの中での積極的な発言を意識する。
 2. 本講義で学んだものを自分の日常生活に照らし合わせ、活用できる部分は出来るように意識する。
 3. 課題を通して、事柄を分析する力、人に伝える力の向上を意識する。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
1. 自分的人生の中でレクリエーションに関係する要素を見つけ、振り返ってみる。
 2. 現代の日常生活に存在するレクリエーションに関する事柄があれば、それを紹介し共有する。
 3. 講義を通してレクリエーションプログラムの企画・運営に関する課題を提示する(ケーススタディやイベント企画等)。その発表を通して、レクリエーションプログラムを立案する能力と楽しさを知る。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、グループ課題達成度 (25%)、講義内の小レポート・小テスト (15%)、定期試験 (30%) 欠席が4回に達した受講者は原則として単位は認定できないものとする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 レクリエーションの基礎理論
- 第2回 レクリエーション支援の理論
- 第3回 教育現場でのレクリエーション
- 第4回 地域におけるレクリエーション
- 第5回 医療福祉現場でのレクリエーション
- 第6回 セラピューティックレクリエーション
- 第7回 ネイチャーゲーム、インシアティブゲームの実践
- 第8回 ものづくり系・暮らし遊び系活動種目の実践
- 第9回 室内レクリエーションの実践
- 第10回 対象者と支援の場の想定
- 第11回 ニーズの把握と目標設定
- 第12回 レクリエーション財の選び方
- 第13回 プログラム立案
- 第14回 プログラムの実践
- 第15回 講義のまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24402301		
科目名	ライフデザイン基礎論		
担当者	石井 浩子・牛田 好美・加藤 佐千子・竹原 広実・鳥居本 幸代・中村 久美・萩原 暢子・藤原 智子		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

新しいライフデザインを創造するため、現代の生活課題に関する文化的な背景を理解し、課題解決に必要な基礎知識を衣・食・住・健康・保育の分野といった多角的な視点から修得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 現代の生活課題を理解する。
- 2) 現代生活における解決課題を見出す
- 3) 快適な生活を送るために必要な知識と技術について理解する
- 4) 1)～3)をベースに、生活課題の解決方法を考える基礎力を養う

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義形式とする。講義は、ライフデザイン領域の衣・食・住・健康・保育の分野ごとに各教員連続2回のオムニバス形式で行う。授業内容に応じて、ビデオ、DVD、OHC、スライドを用い、参考資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

衣食住や保育と関連する事柄について日常生活や自分を取り巻く環境を見つめ、課題を見出し、整理しておくことよい。また、これらと関連する情報や新聞記事に目を通して、問題点や現状を理解しておくことよい。分野ごとに配付された資料を再度見直し、講義内容の振り返りやまとめを自分なりにしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度45%、形成テスト(各担当教員が授業内に実施する)55%で評

価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 鳥居本 幸代(1-2回担当)
- 第1回 日本の伝統衣裳であるキモノの形態的特徴、洋服と比較しながら相違点なども解説する。
 - 第2回 キモノの四季、キモノの種類などを知り、現在、もっとも身近なキモノである浴衣の起源・歴史などを学びながら、キモノのマナーについても考える。
- 牛田 好美(3-4回担当)
- 第3回 人はなぜ衣服を着用するのか、衣服の役割について、心理的、生理的機能の点から理解し、より快適な衣生活が営むことができるよう、現代の衣生活について考える。
 - 第4回 装いに関わる行動の中でも身近な化粧行動をとりあげ、その社会・心理的機能について解説する。
- 藤原 智子(5-6回担当)
- 第5回 ユネスコ無形文化遺産に登録され、その内容が世界から注目されている「和食：日本人の伝統的な食文化」について、地域に根ざした多様な食材と栄養バランスの視点から考察する。
 - 第6回 「和食：日本人の伝統的な食文化」について、季節感の表現と年中行事との関わり方の観点からも包括的に捉え、理解を深める。
- 加藤 佐千子(7-8回担当)
- 第7回 現代社会における肥満とやせの状況、肥満指標、太りすぎ・やせすぎのデメリットについて理解する。若い女性の肥満に対する考え方やダイエットの問題点について考える。
 - 第8回 肥満ややせを生み出す現代社会の食環境を振りかえる。また、自分の食生活上の課題を見出すとともに解決方法を考える。
- 中村 久美(9-10回担当)
- 第9回 住まいの根源的な機能を理解したうえで、「風土と住まい」の関係について、世界各地の風土と住まい、および日本の風土と住まいの関係を具体的な事例をみながら住まいの意味を考える。
 - 第10回 「社会と住まい」と題し、産業、経済の発達とともに人口が集中する都市の構造やそこでの人間関係について、欧米と日本を対比的に論じるとともに、その結果としての現在の都市の発展の仕方やまちなみの違いを理解する。
- 竹原 広実(11-12回担当)
- 第11回 住まいは人を容れる器である。よってそこに住む人の心理状態に影響を与える。人の特性に合ったよい住まいとはいかなるものかについて学ぶ。また持続可能な住まいとなるべく夏の涼しさについて環境工学の点から理解する。
 - 第12回 光環境について、光の正体、人の光特性(目の特性)を知り、自然照明(採光)と窓の形態の関連、人工照明の光源の種類と演色性、色温度といった光の特性を理解し住宅における照明計画を考察する。
- 萩原 暢子(13回担当)
- 第13回 健康的なライフデザインを築くためには、栄養・運動・休養の3つの要素をバランス良く取り入れることが不可欠である。特に女性の身体の健康管理の基本を学び、病気の予防法を理解する。
- 石井 浩子(14-15回担当)
- 第14回 保育所と幼稚園、認定こども園の制度や現状、保育者の役割などを理解した上で、現在の乳幼児の心とからだの実態を学ぶ。
 - 第15回 現在の子どもの生活実態と子どもたちの抱える問題を取り上げ、その原因と対策について考える。

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24402401		
科目名	ソーシャルワーク基礎論		
担当者	佐藤 純・植田 恵理子・桐野 由美子・小池 桂・酒井 久美子・畠山 寛・三好 明夫・矢島 雅子		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

現代社会における様々な領域について、その基礎的な知識、思想、課題などを学び、ソーシャルワークを展開するうえでの基礎的かつ総合的理解を

得ることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 社会福祉の意義 2. 対人援助の意義・基本原則 3. 現代の児童問題 4. 非行と家族の問題 5. 高齢者や障害者の問題や福祉の制度 6. 現代の子どもや保育の現状、地域での子育て 7. 子どもの成長と遊び 8. 地域の生活問題と福祉

3. Course Method (教育・学習の方法)

福祉関連教員によるオムニバス形式の授業で行う。授業のすすめ方としては各教員によって異なるが、講義、演習形式、学生による討議などで行う。授業ではプリントのほかに、授業によってはビデオ、パワーポイントなどを使用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に各回のテーマに沿った内容の新聞記事や情報など目を通して概要をつかんでおくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

以下の点を総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合・レポートの提出がない場合は、原則として単位を与えない。(1) 授業参加度 (60点) (2) レポート (40点)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 対人援助の意義と基本原則
- 第2回 現代社会福祉の意義と課題
- 第3回 今日の貧困問題と社会福祉
- 第4回 虐待する親や子どもへの援助
- 第5回 高齢者問題の現状と高齢者福祉
- 第6回 介護保険と介護専門職のあり方
- 第7回 障害者問題の現状と障害者福祉
- 第8回 事例から考える障害者地域生活支援のあり方
- 第9回 こころの健康と精神保健福祉士の役割
- 第10回 地域における生活問題と福祉
- 第11回 地域福祉の推進とネットワークの構築
- 第12回 現代の子どもの置かれた環境と保育のあり方
- 第13回 子どもの表現を引き出す保育と環境
- 第14回 子どもが成長するのは、どういうことか?
- 第15回 子どもの可能性を伸ばすためには?

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24402501		
科目名	生活福祉文化基礎演習 I A		
担当者	畠山 寛		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24402502		
科目名	生活福祉文化基礎演習 I B		
担当者	植田 恵理子		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24402503		
科目名	生活福祉文化基礎演習 I C		
担当者	竹原 広実		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24402504		
科目名	生活福祉文化基礎演習 I D		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24402505		
科目名	生活福祉文化基礎演習 I E		
担当者	三好 明夫		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24402506		
科目名	生活福祉文化基礎演習 I F		
担当者	酒井 久美子		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する		
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	24402507			
科目名	生活福祉文化基礎演習 I G			
担当者	矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 ころしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402508			
科目名	生活福祉文化基礎演習 I H			
担当者	青木 加奈子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ 改訂版』 学習技術出版会編 ころしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習は、生活福祉文化基礎演習Ⅱとともに生活福祉文化学科の入門科目として1年次学習の基礎科目として位置づけられる。

10数名の少人数に分かれて、全員、同一のシラバスに基づき演習を行う。本演習の目標は、現代日本の生活・福祉・文化の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的背景を主体的に考えることの重要性を理解し、自己のキャリア形成に向けてそのような思考力の養成をめざし、大学での学びの姿勢を身につけることである。

そのために読む・書く・発表する・まとめる・ディスカッションするといった演習を行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活福祉文化基礎演習Ⅱの評価に加える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活福祉文化基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。

3) 毎週出される課題は必ず行うこと。

4) テキスト：別途購入を指示する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス①
- 第2回 ノートのとり方 キャリア自己形成システムの確認
- 第3回 テキストの読み方、要約の仕方
- 第4回 テキスト1：「要約」、意見の書き方
- 第5回 テキスト1：「意見」、ディスカッション、議事録の書き方
- 第6回 テキスト1：「ディスカッション」、レポートの書き方
- 第7回 テキスト1：「レポート」

- 第8回 テキスト2：「要約」
- 第9回 テキスト2：「意見」
- 第10回 テキスト2：「ディスカッション」
- 第11回 テキスト2：「レポート」
- 第12回 テキスト3：「要約、意見」
- 第13回 テキスト3：「ディスカッション」
- 第14回 テキスト3：「レポート」
- 第15回 全体の振り返り

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24402601			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ A			
担当者	島山 寛			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402602			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ B			
担当者	植田 恵理子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402603			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ C			
担当者	竹原 広実			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402604			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ D			
担当者	鳥居本 幸代			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402605			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ E			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402606			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ F			
担当者	酒井 久美子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402607			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ G			
担当者	矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402608			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅱ H			
担当者	青木 加奈子			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習は、生活福祉文化基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」をさらに発展させて、深く現代日本の生活・福祉・文化の諸問題に取り組む資質の向上をめざす。そこで、生活福祉文化の基盤ともいえる「まとう」「たべる」「すまう」「そだてる」「ささえる」という5つのテーマについて体験的に学ぶことを中心として、人間の生活に基づいた実践活動に関する理解を深め、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養い、キャリア意識を啓発していくことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

5つのテーマワークでの体験から広く生活福祉文化の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1) 生活福祉文化基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。

この各クラス内で2～3人程度の小グループを構成し、小グループごとに5つのテーマワークに取り組む。

(2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。

(3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活・福祉・文化の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 ガイダンス キャリア形成カルテの確認

第2回 テーマワーク①-1「まとう」(着装のルールと着こなし)

第3回 テーマワーク①-2「まとう」(身体の形態理解と制作実習)

第4回 テーマワーク①のふりかえり・学びの共有

第5回 テーマワーク②-1「たべる」(日常の食事)

第6回 テーマワーク②-2「たべる」(ティータイムのもてなし)

第7回 テーマワーク③-1「すまう」(光について学ぶ)

第8回 テーマワーク③-2「すまう」(スケール感覚を養う)

第9回 テーマワーク②・③のふりかえり・学びの共有

第10回 テーマワーク④-1「そだてる」(沐浴を学ぶ)

第11回 テーマワーク④-2「そだてる」(子どもと児童文化)

第12回 テーマワーク⑤-1「ささえる」(傾聴)

第13回 テーマワーク⑤-2「ささえる」(車いす体験)

第14回 生活福祉文化基礎演習Ⅳと合同授業

第15回 全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

6. Special Information (留意事項)

「まとう」「たべる」「すまう」「そだてる」「ささえる」の各テーマワークを小グループごとに2回ずつ体験する。体験学習の順番は、グループにより異なります。

テーマワークの担当者

「まとう」: 牛田好美、鳥居本幸代

「たべる」: 加藤佐千子、藤原智子

「すまう」: 中村久美、竹原広実

「そだてる」: 植田恵理子、畠山 寛

「ささえる」: 三好昭夫、酒井久美子、矢島雅子

講義コード	24402701			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅲ A			
担当者	萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402702			
科目名	生活福祉文化基礎演習Ⅲ B			
担当者	桐野 由美子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402703			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅢC			
担当者	牛田 好美			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402704			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅢD			
担当者	石井 浩子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402705			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅢE			
担当者	佐藤 純			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402706			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅢF			
担当者	藤原 智子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402707			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅢG			
担当者	小池 桂			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習は、生活福祉文化基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「まとう」「たべる」「すまう」「そだてる」「ささえる」という5つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。そして学外フィールドワークを通して、生活福祉文化学に関連する活動の実践に触れる。地域や施設、企業、その他の生活現場での営為を実際に見学、確認して理解を深め、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(1) フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学、保育学といった実践の場に身を置く体験をし、実践現場を理解し、そこで働く実践者の実像に触れ、生活者の支援者をイメージする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1) 3回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。

(2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各フィールドワークに応じた事前学習をしていくことが必要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

(1) 授業参加度：50%

(2) フィールドワークレポート50%

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 オリエンテーション 授業のすすめ方の説明 フィールドワーク先の提示

第2回 フィールドワーク1「まとう」「たべる」「すまう」の事前学習 課題意識の醸成

第3回 フィールドワーク1「まとう」「たべる」「すまう」の実施

第4回 フィールドワーク2「そだてる」の事前学習 課題意識の醸成

第5回 フィールドワーク2「そだてる」の実施

第6回 フィールドワーク3「ささえる」の事前学習 課題意識の醸成

第7回 フィールドワーク3「ささえる」の実施

第8回 全体のふりかえり

6. Special Information (留意事項)

フィールドワークは金曜3講時、4講時の連続授業とする。

具体的な開講日程は別途周知する。フィールドワークの順番は、受講生の希望により、異なります。学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。

見学に必要な交通費は自己負担とする。

各フィールドワークの担当者

「まとう」「たべる」「すまう」：中村久美、牛田好美、藤原智子

「そだてる」：萩原暢子、石井浩子

「ささえる」：桐野由美子、小池 桂、佐藤 純

講義コード	24402801			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅣA			
担当者	萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402802			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅣB			
担当者	桐野 由美子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ』 学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402803			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅣC			
担当者	牛田 好美			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ』学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402804			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅣD			
担当者	石井 浩子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ』学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402805			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅣE			
担当者	佐藤 純			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ』学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402806			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅣF			
担当者	藤原 智子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ』学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24402807			
科目名	生活福祉文化基礎演習ⅣG			
担当者	小池 桂			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『知へのステップ』学習技術出版会編 くろしお出版 その他は別途案内する			
参考文献				
備考	必修 クラス指定 全7.5コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習は、生活福祉文化基礎演習ⅠからⅢを通して得た学びを踏まえて、学生自らの関心に応じて調査テーマを選択決定し、それについてグループで調べる・議論する・体験する・まとめる・発表する過程で、生活や福祉に関わるそれぞれのテーマの内容について理解を深めるとともに、グループワークの過程でコミュニケーション能力や協働力を身につける。さらに一連の作業を通して、人間の生活に基づいた実践活動に関する理解を深め、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1) 生活福祉文化基礎演習ⅠからⅢまでの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。

2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1) 基礎演習Ⅰ～Ⅲと同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。

2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

自ら取り組む課題について、文献その他の資料に事前にあたり、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則全出席とする。

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 ガイダンス

第2回 研究課題の情報収集、発表内容の検討

第3回 研究課題の決定

第4回 研究課題への取り組み・発表内容の整理

第5回 研究課題への取り組み・発表レジュメの作成

第6回 研究課題への取り組み・プレゼンテーション内容の確認

第7回 プレゼンテーション

第8回 全体のふりかえり

6. Special Information (留意事項)

プレゼンテーションは1年次生基礎演習Ⅱと合同授業とする。

講義コード	24501601			
科目名	食品学			
担当者	藤原 智子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[家][健][フ]			
前提科目				
テキスト	『イラスト食品学総論』種村安子 他 東京教学社 2015			
参考文献	『改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』 数研出版編集部 数研出版 2014			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

マスコミやインターネット上で日々大量に供給されている食品に関する情報

を適切に取捨選択する判断力を養うために、食品中に含有される主要な成分の化学的性質と特徴について学ぶ。さらに食品の貯蔵・加工・調理の過程で起こる食品成分の変化、また成分間での相互作用について理解し、多種多様な食品の特性を科学的に捉え、日常生活に生かすことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 食品学を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につける
- 食品をみた時に、その中に含まれる主要成分や特徴的な成分を挙げることができる。
- 食品中の主要成分や特徴的な成分の働きを説明できる。
- 貯蔵・調理・加工中に、食品に含まれる成分間で起こる化学反応を説明できる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を行うが、意見や質問など積極的な発言を求めている。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度20%、小テスト20%、定期試験60%で総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 水分
- 第2回 炭水化物(単糖類・少糖類・消化性多糖類)
- 第3回 炭水化物(難消化性多糖類)
- 第4回 脂質(脂肪酸)
- 第5回 脂質(酸化)
- 第6回 タンパク質(アミノ酸)
- 第7回 タンパク質(変性)
- 第8回 ビタミンの構造
- 第9回 ミネラルの種類
- 第10回 嗜好成分(色素)
- 第11回 嗜好成分(褐変)
- 第12回 嗜好成分(香り)
- 第13回 嗜好成分(味)
- 第14回 食品のコロイド特性
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24501901		
科目名	調理学		
担当者	藤原 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[フ]		
前提科目			
テキスト	『新スタンダード栄養・食物シリーズ調理学』 畑江敬子・香西みどり編 東京化学同人 2016		
参考文献	『NEW調理と理論』 山崎清子他 同文書院 2014		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

食生活における調理の意義を、基本的な調理操作や調理による食品成分の変化を学ぶことにより理解し、各々の食品素材に起こる調理過程の諸現象について科学的に説明でき、必要かつ適切な調理操作が判断できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- おいしさの要因を多角的に理解する。
- 各種調理操作の物理化学的メカニズムを理解する。
- 食品成分の調理過程における変化を学び、それぞれの調理特性を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を行うが、意見や質問など積極的な発言を求めている。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度20%、小テスト20%、期末試験60%で総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 おいしさの化学的要因
- 第2回 おいしさの物理的要因
- 第3回 調理操作(湿式加熱)
- 第4回 調理操作(乾式加熱)
- 第5回 調理操作(誘電加熱・誘導加熱・非加熱)
- 第6回 調味
- 第7回 米の調理

- 第8回 小麦粉の調理
- 第9回 いも類・豆類の調理
- 第10回 野菜・果物の調理
- 第11回 肉・魚の調理
- 第12回 卵・牛乳の調理
- 第13回 砂糖・油脂の調理
- 第14回 ゲル化剤の調理
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24502301		
科目名	空間意匠論		
担当者	竹原 広実		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『やさしいインテリアコーディネート』 宮後浩 学芸出版社		
参考文献	『モダンリビング』 婦人画報社 『新建築』 『インテリアコーディネータ』 町田ひろ子アカデミー エクスマレッジ		
備考	定員20人 [住居製図Ⅱ]の履修者であること(同時履修可)。 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

住環境学、福祉住環境学で修得した知識・感覚をさらに総合化し、かつ具体的な空間認識として会得し、それを具体的な住宅設計計画段階に組み込み、それを表現する方法を学ぶことを目的としている。まず住宅空間を特徴づける構成要素について学び、それらの構成要素をどのように配することによって雰囲気や計画することができるかを考える。また住宅計画への応用を具現化する手段として、居住者を設定し、その住宅コンセプトに合わせたインテリア計画をプレゼンテーションボードを作成することにより表現する

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 住宅内インテリア構成要素(家具、照明器具、ウインドウトリートメント)の種類と、それらを用いた室内雰囲気計画について学ぶ
- インテリアイメージと空間構成要素との関係学ぶ
- インテリア構成要素を含めた住宅設計の考え方を学ぶ
- 平面図、展開図、パース図、3D住宅イメージソフトを用いた表現手法を修得する

3. Course Method (教育・学習の方法)

前半は主に受講者ひとりひとりによる課題発表の実施とレポートが課せられる。後半はそれらの知識をもとに空間計画、意匠計画の作品課題に取り組む。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

常日頃から意識してインテリア雑誌を読むなど多くの事例に触れ、センスを養い、美しいものに対する関心を高めるようにしておきたい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、課題作成・課題発表とレポート、課題作成物(50)小テスト(20)、課題発表(20)、授業参加度(10)により行う。本科目の性格上、全出席を求める。また欠席回数が3分の1を超過した場合や課題未提出の場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 インテリアコーディネートとは
- 第3回 建築(家具)とインテリアの歴史1(1100~1800年代)
- 第4回 建築(家具)とインテリアの歴史2(1900年代~現在)
- 第5回 室内装備要因1(ウインドウトリートメント、照明)
- 第6回 室内装備要因2(色彩、家具、動物)
- 第7回 3D住宅イメージソフトを用いた表現1(平面計画)
- 第8回 3D住宅イメージソフトを用いた表現2(色彩計画)
- 第9回 3D住宅イメージソフトを用いた表現3(設備計画)
- 第10回 3D住宅イメージソフトを用いた表現4(設備計画)
- 第11回 3D住宅イメージソフトを用いた表現5(照明計画)
- 第12回 3D住宅イメージソフトを用いた表現6(仕上げ)
- 第13回 プレゼンテーションボードの作成(手法)

第14回 プレゼンテーションボードの作成（仕上げ）

第15回 発表及び講評

6. Special Information（留意事項）

1. 毎回の演習が中心であるので、全出席を求める
2. 本科目の受講者は住居製図の履修が前提条件となるが、住環境学、福祉住環境学、住生活学も受講していることが望ましい。
3. 本科目は定員制（20人まで）をとる。
4. 課題はすべて提出すること

講義コード	24502401		
科目名	住生活学		
担当者	中村 久美		
単位数	2	配当学年	234
資格	[家][建][イ]		
前提科目			
テキスト	『住環境の計画1 住まいを考える』 彰国社 住環境の計画1 住まいを考える 彰国社 あわせて適宜資料を配布する		
参考文献	『住まいを語る一体験記述による日本住居現代史』 鈴木成文 建築資料研究社 2002		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description（科目の教育目標）

居住面にあらわれる生活様式である「住様式」は、歴史的、社会的に発展し、それぞれの時代、社会に応じて特色ある様式を形成する。本講は、この住様式を主対象とし、その種々相について問題を論じる。その内容は、まず近代以降の住宅平面の発展とそれに伴う住様式の変化を概説したうえで、家族の変化や地球環境問題、地域問題や集住などの視点から、今日的な住生活の問題を考察する。本講は歴史的、社会的背景の認識のうえで住生活のあり方を深く掘り下げて考え、これからの発展すべき方向への探求力を身につけると同時に、住宅計画の基盤となる考え方への理解を目指す。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

1. 住生活、住様式の問題とその視点の重要性への理解
2. 住様式の問題に関する過去の研究成果の理解
3. 平面の発展と機能分化過程の把握
4. 授業のポイントをつかみそれを的確にまとめる力、それをもとに住生活の問題を考える力、さらには自分のまとめを発表したり、他の発表に対する意見や質問を行う力を養う。

3. Course Method（教育・学習の方法）

今回の授業内容に関連するテキストページをアナウンスするので、必ず目を通し予習すること。復習として、毎回授業ポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りを求める。その記述内容は次回授業冒頭で発表してもらうこととする。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

シラバスをみて次回授業のテーマを確認しておくこと。そのうえで上記のように予習のこと。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

まとめのテスト（55%）と授業への参加状況として毎回のポートフォリオの作成点（45%）により評価する。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 住まいの意味と住居観 生活様式と住様式
- 第2回 住宅平面の分化と住様式の変化
- 第3回 公私分離とリビングルーム
- 第4回 起居様式の洋式化と和室の動向
- 第5回 入浴様式と浴室
- 第6回 食生活、衣生活と住まい
- 第7回 家族と住生活 家族関係と住生活の問題
- 第8回 家族と住生活 ライフサイクルと住まい
- 第9回 家族と住生活 世帯の変化と新しい居住のあり方
- 第10回 地球環境問題と住まい 自然との応答性ある住まいと住み方
- 第11回 地球環境問題と住まい 住まいの寿命と住宅管理
- 第12回 地球環境問題と住まい モノの保有と生活財管理
- 第13回 住環境と地域生活 地域生活とコミュニティ
- 第14回 住環境と地域生活 集合住宅と住生活
- 第15回 住環境と地域生活 住民参加とまちづくり

6. Special Information（留意事項）

講義コード	24502501		
科目名	住宅論		
担当者	中村 久美		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『図説・近代日本住宅史』 内田青蔵ほか 鹿島出版会 テキストを補足する資料も併せて適宜配布する		
参考文献	図書館にある各種建築雑誌、住宅雑誌		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description（科目の教育目標）

この授業では、近代以降、現代までの日本住居そのものの変容と、その基盤となる住まいに対する思想的変化、計画論の変遷を、欧米の住宅思想や様々な建築運動と関連付けながら講義する。それにより、近代以降の日本の住宅の諸相を理解するとともに、住宅のとらえ方（住宅論）が地域や社会のあり様、階層により異なるものであることを理解する。さらに、日本においては歴史の浅い都市型高密度居住としての積層型共同住宅におけるさまざまな試みや、コーポラティブ住宅、コレクティブ住宅など、居住への新しい動きを解説する。以上の理解より、現在の住宅問題、および将来の住宅のあり方を考える素地をつくることを目標とする。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

1. 社会、地域、風土と住宅の関係の理解
2. 住宅の諸相の理解
3. 現代の住宅問題の認識
4. 毎回の授業で登場する諸住宅に対し、社会的見地から評価するとともに、自身の「住宅論」を構築し、主張できることを目指す

3. Course Method（教育・学習の方法）

パワーポイントと配布資料により授業をすすめる。授業配布資料による復習を行うこと。毎回の授業で登場する住宅について、その評価を述べたり、他者の意見を評価したりして、自身の「住宅論」を形成していく。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

シラバス、および初エンゲージメント時に配布した授業スケジュールにそって参考文献等を読んでおくこと

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

まとめのテスト（60%）、毎回、前回授業に関する振り返りの議論を行い、それへの積極的発言をもって授業への参加状況（40%）とし、評価する

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 住宅論とは 住宅の持続と変容
- 第2回 サラリーマンの住宅 - 近代化の過程
- 第3回 文化住宅 - 住宅改良の動き
- 第4回 都市・郊外と住まい
- 第5回 モダニズム住宅
- 第6回 現代日本住居の系譜
- 第7回 都市LDK型住宅
- 第8回 建築家の設計した住宅（戦後復興期～高度経済成長期）
- 第9回 建築家の設計した住宅（低成長期以降）
- 第10回 集合住宅 - 生活像と住戸の計画
- 第11回 集合住宅 - 集住のしくみ
- 第12回 居住者参加の集合住宅
- 第13回 新しい都市住宅の提案（高齢者居住と多様なサービスの付帯化）
- 第14回 新しい都市住宅の提案（共助型の住まい-コレクティブ住宅）
- 第15回 まとめ

6. Special Information（留意事項）

講義コード	24502601		
科目名	住居史		
担当者	中村 久美		
単位数	2	配当学年	234
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『日本建築史図集 新訂第三版』 日本建築学会編 彰国社		
参考文献	『図説日本住宅史』 太田博太郎 彰国社 『日本建築史』 藤田勝也 古賀秀策 昭和堂		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

日本の住まいの歴史を振り返り、そのよって立つところを明らかにすることは、これからの住宅の有り様を考えるうえで非常に重要である。住居史では、現在の住環境を歴史的視点から評価し、住宅建築の将来の発展を考えるための基礎的知識を習得することを目標とする。この講義は、先史から近代にいたる、日本の住居の空間構成や意匠の歴史的変容を、そこで展開される生活にまで目を向け講述するものである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各時代の様式を、そこで展開される生活も含めて理解する
2. 住宅平面や意匠における変容を理解する
3. 支配階級の住宅と庶民住宅それぞれの発展の過程を把握する

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストとパワーポイントにより授業をすすめる。
毎回授業冒頭で前回の振り返りをするので、配布資料やテキストによる復習を行うこと。また実際に授業で取り上げた建築の見学を奨励する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバス、およびレクチャー時に配布した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

まとめのテスト (60%) と授業参加状況として前回授業の振り返りの発表や議論での発言の積極性、および実際の建築見学の実績 (40%) より評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 住居史の視点
- 第2回 堅穴住居の復元
- 第3回 高床住居と平地住居 および原始集落
- 第4回 神社と住宅 古代初期の貴族の邸宅
- 第5回 古代の都市と宮殿
- 第6回 寝殿造1 敷地と建物構成
- 第7回 寝殿造2 空間構成としつらえ
- 第8回 平安末期の寝殿造
- 第9回 中世武士の住宅
- 第10回 書院造の成立
- 第11回 数奇屋風書院造
- 第12回 庶民住宅の流れ
- 第13回 明治の洋館 上流階級の住まいの近代化
- 第14回 中流層の住宅
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24502701		
科目名	家庭管理		
担当者	青木 加奈子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[家]		
前提科目			
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第2版]』 伊藤純・斎藤悦子(編著) ミネルヴァ書房 2015 『生活経営学』 赤星礼子・奥村美代子(編) 九州大学出版会 2013 『生活学としての家政学』 今井光映・山口久子(編) 有斐閣ブックス 1991		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

長引く経済の低迷や少子高齢化の進展によって、日本社会は、既存の社会システムからの大転換期を迎えている。このようななかで、いかに生きるか、どのようにしたらより良く生きることが出来るのかを考えることは重要である。この授業の前半から中盤では、生活の基本単位である家族に焦点を当て、現代の家族が抱える問題や、時間の経過とともに変化する家族メンバーの役割と葛藤、時間の管理について学ぶ。後半は、「社会のなかの家族」へと視点を広げる。持続可能な社会の構築が求められるなか地域社会における家族の役割や環境に配慮した家庭経営とはどのようなものかを考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・家族が抱える問題を社会とのかかわりから理解する。
- ・家族関係の変化とそれとともなって生じる問題や役割葛藤を理解し、問題解決のための方法を自ら発見する。
- ・家族は社会のなかで個別に存在しているのではないことを理解し、地域社会や環境とのかかわりのなかで家庭経営を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

●授業方法

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらう機会を多く設ける。

そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は、欠席とみなす。

●受講にあたっての注意事項

- ・授業開始後15分以上の無断遅刻は欠席扱いとする。
- ・6回以上の欠席は、評価の対象から外す。
- ・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末試験・レポート 60%、授業中の課題 30%、平常点・・・10%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション：家庭管理とその意義
- 第2回 家族のかたちとその機能
- 第3回 家族形成① 配偶者選択
- 第4回 家族形成② 子どもを持つ選択・持たない選択
- 第5回 ケア① 子育ての現状と課題
- 第6回 ケア② 介護が「問題」となるとき
- 第7回 子どもの貧困と格差社会
- 第8回 離婚と再婚の現状
- 第9回 現代社会の親子関係
- 第10回 「労働」を考える
- 第11回 生活時間の男女差
- 第12回 衣・食・住と生活
- 第13回 地域社会のなかの家庭生活
- 第14回 持続可能なライフスタイルをめざして
- 第15回 授業のまとめと確認

6. Special Information (留意事項)

受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合がある。

講義コード	24502801		
科目名	家庭経済		
担当者	青木 加奈子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[家]		
前提科目			
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第2版]』伊藤純・斎藤悦子(編著) ミネルヴァ書房 2015 『生活経営学』赤星礼子・奥村美代子(編) 九州大学出版会 2013 『生活学としての家政学』今井光映・山口久子(編) 有斐閣ブックス 1991		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

長引く経済の低迷や少子高齢化の進展によって、日本社会は、既存の社会システムからの大転換期を迎えている。このようななかで、いかに生きるか、どのようにしたらより良く生きることができのかを考えることは重要である。この授業の最終目標は、受講生に「主体的に生きる消費者」としての知識を習得してもらうことである。そのために、家庭でのお金の出入り(家庭経済)の視点を養い、生涯を見通した生活設計や生活マネジメントについての知識を学ぶ。また、生活が便利になる反面さまざまな消費者問題が発生している。これらの問題が発生する社会構造を理解し、問題に遭わないための予防策を身につけると同時に、問題に遭遇してしまった場合の対応の仕方についても学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・生涯を見通した家族の生活設計と家計の管理ができる。
- ・生活リスクを知り、不測の事態に対応できる知識を身につける。
- ・現代の消費者問題を学び、予防策と対応策についての知識を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

●授業方法

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらう機会を多く設ける。

そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は、欠席とみなす。

●受講にあたっての注意事項

- ・授業開始後15分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・6回以上の欠席は、評価の対象から外す。
- ・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末試験・レポート 60%、授業中の課題 30%、平常点・・・10%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション：家庭経済における5つの活動と家計
- 第2回 家計調査からみる世帯収入の現状
- 第3回 「消費」・「浪費」・「投資」とはなにか？
- 第4回 物価が家計に与える影響
- 第5回 ライフステージと家計の特徴
- 第6回 生活設計と家計管理①「子どもの教育費」はいくらかかるのか？
- 第7回 生活設計と家計管理②「自宅」の所有をどうするか？
- 第8回 生活設計と家計管理③「自家用車」の所有をどうするか？
- 第9回 家庭経営におけるリスクと不測の事態への備え
- 第10回 消費者相談からみる消費者問題の変遷
- 第11回 賢い消費者であるために①通信販売の利点と問題点
- 第12回 賢い消費者であるために②多重債務問題
- 第13回 消費者政策と法
- 第14回 女性のライフコースと家庭経済
- 第15回 授業のまとめと確認

6. Special Information (留意事項)

受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合があります。

講義コード	24503001		
科目名	家族関係		
担当者	青木 加奈子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[家][保][子]		
前提科目			
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	授業中に適宜指示する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

2011年3月に起こった東日本大震災の経験は、私たちの生活が家族や地域の人々に支えられて成り立っていることを再確認させてくれた。その一方で、少子化や未婚化が進み、ひとり親世帯が増加するなかで、現代の家族が、これまでのような家族機能を果たせなくなっているのも事実である。さらに、家庭内暴力(DV)や親戚間での殺人等連日メディアをにぎわす家族をめぐる問題は、家族とは一体なにかという問いを私たちに突きつける。この授業では、現代の家族が抱えるさまざまな問題を社会と関連させながら考えていく。夫婦関係や親子関係だけでなく、きょうだい関係や祖父母と孫関係の視点も含めて客観的・批判的に検討することを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・家族が抱える問題を社会とのかかわりから理解できるようになる。
- ・家族や家族関係が普遍的なものではなく、時代や社会状況によって変化するものであることが理解できるようになる。
- ・個人的な家族経験を振り返りつつも、価値観の多様化が進む現代社会における家族や家族関係を、批判的・客観的に議論できるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

●授業方法

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらう機会を多く設ける。そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は欠席とみなす。

●受講にあたっての注意事項

- ・授業開始後15分以上の無断遅刻は欠席扱いとする。
- ・6回以上の欠席は、評価の対象から外す。
- ・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。また、新聞などで取り上げられる家族に関わる記事を読むなどして、現代社会と家族との関わりについて知識を日々深めておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末試験 50%、授業中の課題 30%、平常点(プラス評価：積極的な発言・授業態度など、マイナス評価：授業中の居眠り・授業への消極的な姿勢など) 20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション：「個(孤)族」化する現代の家族関係
- 第2回 歴史のなかの家族
- 第3回 戦後の家族
- 第4回 未婚化・晩婚化を考える：結婚する？しない？
- 第5回 さまざまなパートナー関係
- 第6回 少子化を考える：現代社会の子ども観とは？
- 第7回 子育ての主体は誰？
- 第8回 高齢期と家族
- 第9回 「介護」と家族
- 第10回 「家族」という言葉が持つ重圧(プレッシャー)
- 第11回 現代社会と貧困問題
- 第12回 ひとり親、ステップファミリーが抱える問題
- 第13回 「ハーグ条約」から「親」を考える
- 第14回 親密な関係に潜む暴力
- 第15回 これからの家族：地域コミュニティの可能性

6. Special Information (留意事項)

・受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合があります。

・「平常点」には出席回数は含まない。

講義コード	24506701		
科目名	公的扶助論 低所得者に対する支援と生活保護制度		
担当者	小池 桂		
単位数	2	配当学年	34
資格	[保][社][精]		
前提科目			
テキスト	『新社会福祉士養成課程対応 低所得者への支援と生活保護制度』 渋谷哲編 みらい 最新版		
参考文献	『よくわかる公的扶助』 杉村宏他編 ミネルヴァ書房 最新版 『反貧困』 湯浅誠 岩波新書 2008 『生活保護とあたし』 和久井みちる あけび書房 2012 『マンガでわかる生活保護 陽のあたる家』 さいきまこ 秋田書店 2013 『下流老人』 藤田孝典 朝日新書 2015		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

公的扶助（生活保護）制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。本講義ではその原理、原則及び現在の諸課題について学ぶ。

①低所得層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解できる。

②相談援助活動に必要な生活保護制度やそれに係る諸制度を理解できる。

③自立支援プログラムの意義とその実際について理解できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

①日本社会で拡大している貧困の実態と、その社会的要因、および生活保護制度などの対策の実際を理解する。

②生活保護制度の原理、原則、組織について理解する。

③生活保護制度における専門職の役割を、他職種との連携も含めて理解する。

④低所得者対策として自立支援プログラムの意義、目的、実際を理解する。

⑤低所得者（特にホームレスの人々）にとっての住宅政策の重要性を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に進めるが、適宜、映像も取り入れていく。また重要なテーマについてはディスカッションも行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

①テキストを読んでおくこと。

②授業では積極的に発言すること。

③貧困や生活保護に関する新聞記事には目を通しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、平常点（10点）、小テスト（20点）、定期試験（70点）とする。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 本講義の概要とねらい

第2回 現代社会と貧困（テキスト「第1章」）

第3回 貧困と公的扶助の歴史（テキスト「第12章」）

第4回 社会保障制度と公的扶助（テキスト「第2章」）

第5回 生活保護制度の実施体制（テキスト「第3章」）

第6回 生活保護制度の原理①：国家責任、無差別平等（テキスト「第4章1,2節」）

第7回 生活保護制度の原理②：最低生活、保護の補足性（テキスト「第4章2節」）

第8回 生活保護制度の原理③：保護の補足性（同上）

第9回 小テスト及び解説

第10回 生活保護制度の原則①申請保護、基準及び程度（テキスト「第4章3節」）

第11回 生活保護制度の原則②必要即応、世帯単位（同上）

第12回 保護受給者の権利と義務（テキスト「第4章4節」）

第13回 生活保護基準と要否判定（テキスト「第5章」）

第14回 生活保護と自立支援（テキスト「第8章」）

第15回 ホームレス支援

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24506901		
科目名	老人福祉論Ⅰ 高齢社会の到来と福祉の課題		
担当者	三好 明夫		
単位数	2	配当学年	23
資格	[社]		
前提科目			
テキスト	『高齢者福祉学』 三好明夫、西尾隆司編著 学文社		
参考文献	随時紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

現代社会は階層性のある社会である。その階層性の中で低位に位置づけられる存在が安心して生活できるならば、その社会は多くの人が安心して生活できる社会である。低位に位置づけられる存在とはいわゆる社会的弱者であり、その中の最大の層が高齢者である。すなわち、高齢者が安心して生活できる社会は多くの人が安心して生活できる社会である。逆もまた真である。老人の福祉を問うことは自分自身の生活保障を問うことである。社会に階層性がある以上、若いにも階層性がある。この授業では生活困難に見舞われている高齢者の問題を中心に扱う。特に我が国における老いと高齢化、高齢者自身を巡る問題に焦点を当て、高齢者の福祉を考えていく基礎を構築する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 高齢者をめぐる福祉課題の拡大化について学ぶ

2. 高齢者福祉に関わる歴史について学ぶ

3. 高齢者福祉に関わる制度の概要と各種サービスについて学ぶ

4. 老人福祉法について理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書を使用しつつも授業時に配布する資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認するために指定する様式での小テストを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

高齢者福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めらるのでできるだけ日常の高齢者関連問題には留意すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度（30%）、小テスト・レポート（20%）、定期試験（50%）とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数が3分の1を超えた場合は原則単位認定しない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢

第2回 高齢者の福祉需要

第3回 高齢者の地域移行や就労の実態

第4回 老人福祉法の理解

第5回 高齢者福祉制度の発展過程

第6回 高齢者福祉の歴史

第7回 高齢者福祉に関する制度の体系

第8回 高齢者福祉の近年の政策動向

第9回 高齢者福祉の推進と事例

第10回 高齢者虐待防止法

第11回 高齢者に関する法規

第12回 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

第13回 高齢者向け優良賃貸住宅、高齢者専用賃貸住宅

第14回 高齢者居住支援センターの役割

第15回 高齢者福祉制度と実践の課題と将来

6. Special Information (留意事項)

社会福祉士資格の取得をめざす学生は、本科目と老人福祉論Ⅱを併せて履修しなければならない。

講義コード	24507301			
科目名	社会福祉援助技術演習 I A			
担当者	酒井 久美子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社][精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。			
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習では、相談援助に必要な知識と技術を理解し、それを事例的・体験的に学び、現場で活用できるよう修得することを目的とする。相談援助の知識や技術に関わる他の専門科目とも関連づけ、現場実習の事前授業として位置づける。そのため、本演習では学生は各福祉現場の現状や援助場面を想定しながら、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

相談援助の意味を明確にしつつ、その相談援助に必要な実践能力を身につけることである。そのために相談援助職としての専門的な「自己覚知」「ものの見方と考え方」「援助者の態度」「コミュニケーションスキル」「援助プロセスの実際」を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

前期：相談援助の知識や技術に必要な講義と体験を通じた学び、個別ワークやグループワーク（ディスカッション）、事例を通じた学びを中心に、学生の主体的な参加型授業であり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。

後期：「援助プロセスの実際」「事例検討」をおこなう。この場合も、個別ワーク、グループワーク（ディスカッション）、発表等実践的な授業とする。前期、後期ともに、グループ課題に取り組み、その内容を発表する機会を持つ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

グループ課題について、各グループで取り組みを進めておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加の態度(30%)、グループ課題(20%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 自己理解と自己覚知
- 第3回 他者を理解すること
- 第4回 自他の価値観
- 第5回 専門職としての価値・倫理
- 第6回 ソーシャルワーカーの使命と役割
- 第7回 利用者への姿勢・態度・距離
- 第8回 利用者への視線・表情・反応
- 第9回 相談援助の基本技術①(傾聴、共感)
- 第10回 相談援助の基本技術②(受容的態度など)
- 第11回 面接の基本技術①(反復の方法)
- 第12回 面接の基本技術②(質問の方法)
- 第13回 援助のプロセス①(援助することの意味)
- 第14回 援助のプロセス②(援助の方法)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 オリエンテーション
- 第17回 援助のプロセス①(インテーク)
- 第18回 援助のプロセス②(アセスメント)
- 第19回 援助のプロセス③(計画)
- 第20回 ケースカンファレンスの方法①(情報提供と情報共有)
- 第21回 ケースカンファレンスの方法②(課題分析と整理)
- 第22回 ケースカンファレンスの方法③(援助方法の検討)
- 第23回 援助計画の作成①(児童・高齢者の虐待事例)
- 第24回 援助計画の作成②(障がい児・者と家族の事例)
- 第25回 援助計画の作成③(生活困窮家庭の事例)
- 第26回 援助計画のまとめ
- 第27回 観察と記録
- 第28回 観察の視点
- 第29回 記録の方法
- 第30回 後期のまとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと
- ・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること

講義コード	24507358			
科目名	社会福祉援助技術演習 I Y			
担当者	矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	プリントを配付します。			
参考文献	『社会福祉士相談援助演習 第2版』日本社会福祉士養成校協会監 中央法規 2015 『新版 子ども家庭福祉のフロンティア』伊藤良高・永野典嗣・三好明夫・下坂剛編 晃洋書房 2015 『ワークブック社会福祉援助技術演習』山辺朗子 ミネルヴァ書房 2003 『ソーシャルワーク入門』空閑浩人編 ミネルヴァ書房 2009 『ソーシャルワーク演習ワークブック』相澤譲治、植戸貴子編 みらい 2013			
備考	定員20人 保育士養成課程専用(社会福祉士資格同時取得希望者専用)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習は「社会福祉援助技術論」の履修を基礎とした「社会福祉援助技術現場実習」の事前授業、ならびに現場実習後の事後指導科目として位置づけられる。本演習で学生は実習の体験を生かしつつ、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざしている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

社会福祉対人援助の意味を明確にしつつ、その対人援助実践能力を身につけることである。そのために対人援助職としての専門的なものの見方と考え方、＜援助者の態度＞、＜コミュニケーションスキル＞、＜援助プロセスの実際＞を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業方法：①資料/映像の提示 ②社会福祉援助技術の視点からの講義と解説 ③グループディスカッション、ロールプレイ、グループワークを中心とした参加型授業であり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。後期は、＜援助プロセスの実際＞、＜事例検討＞を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、次回の授業内容を示し、参考資料の予習を指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加の態度(30%)、レポート(50%)、毎回の授業振り返りシート(20%)の評価を以て総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、アイスブレイキング
- 第2回 自己理解と自己覚知
- 第3回 他者を理解すること
- 第4回 専門職としての価値・倫理
- 第5回 ソーシャルワーカーの使命と役割
- 第6回 相談援助のプロセス ①インテーク
- 第7回 相談援助のプロセス ②アセスメント
- 第8回 相談援助のプロセス ③プランニング
- 第9回 相談援助のプロセス ④支援の実施、モニタリング
- 第10回 相談援助のプロセス ⑤効果測定、評価、アフターケア
- 第11回 ニーズの把握(情報の収集と分析)
- 第12回 生活問題の理解
- 第13回 関係機関との協働
- 第14回 多様な専門職との連携
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 相談援助におけるコミュニケーションの特性
- 第17回 相談援助における基本的コミュニケーション
- 第18回 相談援助における非言語的コミュニケーション
- 第19回 相談援助における面接技術 ロールプレイ
- 第20回 相談援助における面接技術のまとめ
- 第21回 面接場面における記録の作成
- 第22回 ケース記録の作成
- 第23回 個別支援計画の作成 ①児童虐待の事例
- 第24回 個別支援計画の作成 ②障害のある子どもの事例
- 第25回 個別支援計画の作成 ③多問題家族の事例
- 第26回 住民に対するアウトリーチとニーズ把握

- 第27回 地域におけるネットワークング
- 第28回 社会資源の活用・調整・開発
- 第29回 住民エンパワメントとサービス評価
- 第30回 後期のまとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと
- ・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること

講義コード	24507359			
科目名	社会福祉援助技術演習 I Z			
担当者	矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	プリントを配付します。			
参考文献	『社会福祉士相談援助演習 第2版』 日本社会福祉士養成校協会監 中央法規 2015 『新版 子ども家庭福祉のフロンティア』 伊藤良高・永野典詞・三好明夫・下坂剛編 晃洋書房 2015 『ワークブック社会福祉援助技術演習』 山辺朗子 ミネルヴァ書房 2003 『ソーシャルワーク入門』 空閑浩人編 ミネルヴァ書房 2009 『ソーシャルワーク演習ワークブック』 相澤譲治、植戸貴子編 みらい 2013			
備考	定員20人 保育士養成課程専用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習は「社会福祉援助技術論」の履修を基礎とした「社会福祉援助技術現場実習」の事前授業、ならびに現場実習後の事後指導科目として位置づけられる。本演習で学生は実習の体験を生かしつつ、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざしている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

社会福祉対人援助の意味を明確にしつつ、その対人援助実践能力を身につけることである。そのために対人援助職としての専門的なくもの見方と考え方、＜援助者の態度＞、＜コミュニケーションスキル＞、＜援助プロセスの実際＞を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業方法：①資料／映像の提示 ②社会福祉援助技術の視点からの講義と解説 ③グループディスカッション、ロールプレイ、グループワークを中心とした参加型授業であり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。後期は、＜援助プロセスの実際＞、＜事例検討＞を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、次回の授業内容を示し、参考資料の予習を指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加の態度(30%)、レポート(50%)、毎回の授業振り返りシート(20%)の評価を以て総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、アイスブレイキング
- 第2回 自己理解と自己覚知
- 第3回 他者を理解すること
- 第4回 専門職としての価値・倫理
- 第5回 ソーシャルワーカーの使命と役割
- 第6回 相談援助のプロセス ①インテーク
- 第7回 相談援助のプロセス ②アセスメント
- 第8回 相談援助のプロセス ③プランニング
- 第9回 相談援助のプロセス ④支援の実施、モニタリング
- 第10回 相談援助のプロセス ⑤効果測定、評価、アフターケア
- 第11回 ニーズの把握(情報の収集と分析)
- 第12回 生活問題の理解
- 第13回 関係機関との協働
- 第14回 多様な専門職との連携
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 相談援助におけるコミュニケーションの特性
- 第17回 相談援助における基本的コミュニケーション
- 第18回 相談援助における非言語的コミュニケーション
- 第19回 相談援助における面接技術 ロールプレイ

- 第20回 相談援助における面接技術のまとめ
- 第21回 面接場面における記録の作成
- 第22回 ケース記録の作成
- 第23回 個別支援計画の作成 ①児童虐待の事例
- 第24回 個別支援計画の作成 ②障害のある子どもの事例
- 第25回 個別支援計画の作成 ③多問題家族の事例
- 第26回 住民に対するアウトリーチとニーズ把握
- 第27回 地域におけるネットワークング
- 第28回 社会資源の活用・調整・開発
- 第29回 住民エンパワメントとサービス評価
- 第30回 後期のまとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと
- ・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること

講義コード	24507401			
科目名	医学一般 I 人体の構造と機能及び疾病			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社][精][健]			
前提科目				
テキスト	『社会福祉士養成講座「1 人体の構造と機能及び疾病」-医学一般』 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2015			
参考文献	『からだの地図帳』 高橋長雄 講談社 1997 『病気の地図帳』 山口和克 講談社 2000			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目覚ましく、医療機関の機能は益々複雑になりつつある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 人の成長・発達と老化
2. 身体構造と心身の機能
3. 疾病の概要
4. 障害の概要
5. リハビリテーションの概要
6. 国際生活機能分類の概要
7. 健康のとらえ方

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

- (1)テキストに沿って行う、プリントで内容補充。
- (2)人体模型やOHC、パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。
- (3)毎回宿題を出すので、復習しながらやること。必ず次回提出すること。返却するときに、講義で解説する。

3. テキスト・文献など

- (1)テキストは社会福祉士養成講座『医学一般』（中央法規）を用いる。
- (2)参考文献
 - ①『からだの地図帳』（講談社）
 - ②『病気の地図帳』（講談社）

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 毎回宿題をやりながら復習をして、内容を理解すること。毎時間補助プリントを配付するので、しっかり読んでおくこと。分からないところは、次の授業で必ず質問すること。
2. テキストの大項目と太字のところを読んでおくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 成績は、中間テスト(15%)、定期テスト(70%)、授業参加度(10%)、毎回の宿題(5%)の総合評価とする。
2. 3分の2以上の出席がないものは、成績は評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	第1章人の成長・発達と老化 第1節、第2節、第3節
第2回	第2章身体構造と心身の機能 第1節、第2節10.1～5
第3回	第2章身体構造と心身の機能 第2節6～8
第4回	第2章身体構造と心身の機能 第2節9.11～13
第5回	第3章 疾病の概要第1節～第4節
第6回	第3章 疾病の概要 第5節～第8節
第7回	第3章 疾病の概要 第9節～第12節
第8回	第3章 疾病の概要 第13節～18節
第9回	中間テスト 第4章 障害の概要 第1節～第3節
第10回	中間テスト解答 第4章 障害の概要 第4節～第7節
第11回	第4章 障害の概要 第8節～第10節
第12回	第5章リハビリテーションの概要 第1節～第5節
第13回	第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 第1節～第4節、第7章 健康のとらえ方 第1節～第2節
第14回	第7章 健康のとらえ方 第3節～第7節
第15回	第7章 健康のとらえ方 第8節～第9節、まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24507501
科目名	介護概論 介護福祉の専門性と独自性
担当者	三好 明夫
単位数	2 配当学年 23
資格	[社][健]
前提科目	
テキスト	『介護福祉学』 三好明夫編著 学文社
参考文献	『ケアの本質』 ミルトン・メイヤロフ 著 田村真 他 訳 ゆみる出版
備考	
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 「介護福祉」とは何かを理解する。 2. 介護福祉の知識・技術・倫理への理解を深める。 3. 福祉・保健・医療の連携・統合の必要性を学ぶ。 4. 在宅福祉、介護機器・住宅改修の適用を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 介護福祉の意義や目標、機能
2. 介護福祉サービスを必要とする人間の理解
3. 介護保険制度における介護
4. 介護福祉を展開する際に必要な知識

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書を使用しつつも授業時に配布する資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認するために指定する様式での小テストを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

高齢者介護福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者介護福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めるので日常の高齢者介護の関連問題には留意すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、定期試験 (50%) とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数が3分の1を超えた場合は原則単位認定しない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	「介護福祉」とは何か
第2回	介護の概念と範囲
第3回	介護の理念と対象
第4回	介護保険制度と介護予防の必要性
第5回	介護予防プランの実践
第6回	介護過程の概要の概要と技法
第7回	認知症ケアの基本的考え方
第8回	認知症ケアの実践
第9回	終末期ケアの基本的考え方
第10回	終末期ケアにおける人間観と倫理
第11回	終末期ケアの実践
第12回	要介護高齢者の住環境
第13回	訪問介護員、介護職員の役割
第14回	介護に関連する専門職や関係者
第15回	高齢者介護の課題と将来展望

6. Special Information (留意事項)

社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しなければならない。

講義コード	24508301
科目名	リハビリテーション論 「リハビリテーション」の本当の意味を学ぶ。
担当者	赤木 祥範
単位数	2 配当学年 2
資格	
前提科目	
テキスト	特になし。
参考文献	『入門リハビリテーション概論 (第7版増補)』 中村隆一・佐直信彦編 医歯薬出版 2013年 『リハビリテーションの理論と実際』 上田敏編 ミネルヴァ書房 2009年 『リハビリテーション総論』 椿原彰夫編 診断と治療社 2013年 『一目でわかるリハビリテーションチーム医療』 久保俊一/堀井基行 診断と治療社 2014年 必ずしも購入の必要はありません。
備考	
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 ✓ 共生・協働する力 ✓ コミュニケーションする力 ✓ 創造・発信する力 ✓ 思考・解決する力 ✓ 主体的に行動する力 ✓

1. Course Description (科目の教育目標)

リハビリテーションという言葉は、いろいろな場面で用いられているが、機能回復のための「訓練」だけではない。

この授業では、リハビリテーションの持つ社会的役割、歴史的経過、実際の事例や疾患別リハビリテーションなどについて学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・WHOの国際生活機能分類の理解。
- ・リハビリテーションの手段についての理解。
- ・疾患についての理解。
- ・リハビリテーションを支える社会保障制度についての理解。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義 (プリント配布)。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前の時間に配るプリントを使用。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価 (期末試験90%、授業参加度10%)。
2. 欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	リハビリテーションの概略 (歴史、定義、目的)
第2回	リハビリテーションの基礎医学 (病気と障害)
第3回	健康とは (ICF: 国際生活機能分類)
第4回	廃用症候群 (生活不活発病)
第5回	リハビリテーションの事例
第6回	リハビリテーションの目標
第7回	リハビリテーションの手段 (理学療法)
第8回	リハビリテーションの手段 (作業療法)
第9回	リハビリテーションの手段 (言語・嚥下訓練など・その他の職種)
第10回	脳卒中のリハビリテーション
第11回	各種神経疾患のリハビリテーション
第12回	脊髄損傷・四肢切断・骨折のリハビリテーション
第13回	リハビリテーションを支える社会保障制度 (保健・医療)
第14回	リハビリテーションを支える社会保障制度 (福祉・介護)
第15回	まとめ (定期試験対策)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24508801		
科目名	介護技術 その人らしい生活を支援するための基礎技術を学ぶ		
担当者	中村 美智代		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『介護技術学』 三好明夫・仲田勝美 学文社 別途指示する。		
参考文献	『介護福祉士初任者のための実践ガイドブック』 日本 介護福祉士会・編 中央法規出版 『障がい者自立生活センターの介助サービストラブル の実態と予防・対処への提言』 松山光生 明石書店 別途指示する。		
備考	定員15名		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

個々の人権意識と利用者の多様性を理解する。

そのために必要なコミュニケーション技術、介護技術を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 介護技術を学ぶ意義と人権保障について習得する。
2. コミュニケーション技法、観察・技法について学習する。
3. 環境整備と福祉用具の用い方についての知識を習得する。
4. 認知症の理解。
5. 生活場面での移乗・移動介助について理解し、介助の技術を身につける。
6. 食事の介護について知識を身につけ、介助できるようにする。
7. 排泄の意義と目的を理解した上で、介助技術を習得する。
8. 着脱と整容の介護についてその意味を理解し、介助できるようにする。
9. 清潔の介護の意義を理解し、介助技術を習得する。
10. 医療との連携の必要性和意義を理解し、緊急時の対応について学習する。
11. 事例をもとに介護の実際を文章に落とし込み、実践する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業方法は講義・演習・小テスト・実技による。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1 人体の構造と機能についての予備学習 (プリント, DVD)
- 2 演習に入る前に講義による知識を得て、デモンストレーション・実技を実施する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

①欠席回数が3分の1を超越した場合受験資格を失う。

- ②授業参加度 40%
- ③小テスト 10%
- ④最終実技試験 50% で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | | |
|------|--|----------|
| 第1回 | 介護技術を学ぶ意義
介護技術と人権保障 | -その基本視点- |
| 第2回 | コミュニケーションの技法 | |
| 第3回 | 観察・記録の技法 | |
| 第4回 | 環境整備 住環境、寝具の整備
福祉用具の用い方 | |
| 第5回 | 認知症の理解 | |
| 第6回 | 社会生活維持拡大の技法
移乗・移動介助 I - ベッドサイドの移動・移乗の介護- | |
| 第7回 | 社会生活維持拡大の技法
移乗・移動介助 II - 歩行の介護と車いす利用時の介護- | |
| 第8回 | 食事の介護 | |
| 第9回 | 排泄介護 I - トイレでの排泄介護- | |
| 第10回 | 排泄介護 II - 介助用品利用の排泄介護- | |
| 第11回 | 着脱(整容)の介護 | |
| 第12回 | 清潔の介護 I - 入浴の介護- | |
| 第13回 | 清潔の介護 II - 身体の清潔・整容の介護- | |
| 第14回 | 医療との連携 急変・事故の時の対応 | |
| 第15回 | 事例検討 - コミュニケーション技術に焦点を当てて- | |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24510901		
科目名	食品加工学 (実験を含む)		
担当者	加藤 佐千子		
単位数	3	配当学年	234
資格	[フ]		
前提科目			
テキスト	『食品加工学実験書』 森 孝夫 化学同人 2008 必要に応じて資料を配布する		
参考文献	『基礎からの食品・栄養学実験』 村上俊男 建帛社 1998 『食品加工実習・実験書』 吉田企世子 医歯薬出版 2003		
備考	定員24人 週2コマ連続		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

私たちは、日頃から、食材を用いて簡単な食品加工を行っている。また、多くの加工食品を購入し利用している。これらの食品はどのような化学変化を利用して、あるいはどのような製造工程を経て製品となっているのであろうか。そこでこの授業では、これらの疑問を解決すべく、身近な加工食品について、定性実験、定量実験、及び加工実習を通して、食品成分の化学的変化、食品の物理的性質および加工過程や原理を理解することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 化学実験の基礎技術 (器具装置の扱い方、試料の調整法、試薬の扱い方、データの処理の仕方) を身につける。
2. 定量実験・定性実験の手法・原理を理解する。
3. 食品成分の化学変化、物理的性質を理解する。
4. 食品加工の製造過程、原理を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 3~4人のグループで実習する。
2. 実験法・操作法の講義と実験または実習で授業を構成する。
3. 原則として、所定の授業時間内に完了する内容とするが、必要に応じて時間割上の時間以外にも出席して実験する必要もある。
4. 事前に予習をする。
5. 実習後にレポート提出を行う。
6. 積極的に参加し、必ず自分の手で操作する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 教科書、配布冊子を熟読する (授業の内容と関連する教科書のページは以下の通り)。

第1回~第5回 (配布資料)、第6回 (61~69頁)、第7回 (配布資料)、第8回 (12~18頁)、第9回 (配布資料)、第10回 (27~38頁)、第11回 (75~86頁)、第12回 (43~45頁、81~91頁)、第13回 (配布資料)、第14回 (39~41、97~98頁)

2. レポート作成では、教科書や配布冊子以外に専門書や文献を用いて理解を深めて記述するとよい。
3. 食品成分表や食事摂取基準のデータを元に、実験で用いた食品や加工実験で製造した食品について調べて記述するとよい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価基準・レポートの提出ができたか。各実験の原理や食品加工の基礎を理解できたか。意欲的に取り組んでいたか。

評価方法・レポート提出59%、レポート内容30%、平常点 (実験への参加度・態度) 11%。

・10回以上の出席がない場合は、評価の対象とすることができない。

・5回以内の欠席なら自学習してレポートを提出すればレポート提出点が与えられる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 器具・簡単な装置の扱い方、試料の調整法、試薬の扱い方
- 第2回 食品、飲料のpHの測定、食品の塩分と糖度の測定
- 第3回 食品 (こんにゃく、はんぺん、かまぼこ、魚肉ソーセージ、畜肉ソーセージ、チーズ、絹ごし豆腐) の硬さの測定、食品の色の測定 (味噌の色の測定)
- 第4回 果実の有機酸の定量・ヨーグルトの酸度の定量 (pH、糖度の測定、規定液の秤量と中和滴定)
- 第5回 ベクテンゼリーに対するベクテン、pH及び糖濃度の影響 (粘度の測定)
- 第6回 果物の加工 (マーマレード、林檎ジャムの製造、糖度の測定、瓶詰め)
- 第7回 小麦粉に関する実験 (吸水率、湿麩・乾麩量、pHとドウの粘弾性との関係、デンプンの糊化)
- 第8回 穀物の加工 (うどん、中華麺、パスタの製造)
- 第9回 豆乳の凝固試験 (塩類の影響、塩濃度の影響、加熱温度の影響)

- 第10回 豆の加工（みそ・豆腐・湯葉の製造）
- 第11回 乳の加工（カッテージチーズ・発酵乳・バター・アイスクリームの製造とpHの測定）
- 第12回 卵の加工（マヨネーズの製造、粘度測定）、いもの加工（こんにゃくの製造）
- 第13回 野菜の加工（トマトピューレの製造、糖度の測定、瓶詰め）
- 第14回 海藻の加工（昆布のつくだに）、豆の加工（あんの製造）
- 第15回 授業のまとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・実験中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつけるとともに、私語は慎むこと。
- ・食品加工に使用する材料費（実費4000円位）が必要。
- ・白衣を着用すること。
- ・各回のレポート提出の期限は、翌週の授業開始前とする。
- ・上履きが必要。
- ・材料入手の都合により、予定日を変更する場合がある。

講義コード	24511001		
科目名	食品安全性学		
担当者	杉山 生		
単位数	2	配当学年	234
資格	[フ]		
前提科目			
テキスト	『三訂食品の安全性』 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2016		
参考文献	『健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康Ⅲ」食品の安全性』 有蘭幸司編 南江堂 2013		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

食品の安全性を図ること、つまり食品による健康障害を起こさないように予防対策を講じることは、多種多様な食品が様々な方法で入手できる現在、必要不可欠である。食生活の安全を確保するためには、生産者や製造・加工・流通に関わる者、行政だけでなく、消費者も正しい知識を持ち、的確に選択、保管、消費しなくてはならない。これらの観点から、食品の安全性を高めるための基本的知識を身につけることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 食品の安全を脅かす因子と発生原因を知る。
2. 食品の安全性を高めるための方策を学び、それを食生活に生かす方法を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業方法は講義形式で、テキストを使用して行い、プリントやスライド等で補足する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 予習
 - ・事前に授業予定部分のテキストを読む。また日頃から食の安全性に関するマスコミの話題に留意し、食の安全性の現状と問題点を把握しておく。
2. 復習
 - ・受講した内容を復習して知識を定着させるとともに、不明な点を明らかにして質問できるようにする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度（30%）、授業態度（10%）、レポート（20%）、形成テスト（40%）に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 食品の安全性
- 第2回 食品の腐敗・変敗とその防止
- 第3回 食中毒（食中毒の分類と発生状況）
- 第4回 食中毒（微生物性食中毒）
- 第5回 食中毒（自然毒食中毒、化学性食中毒、経口的寄生虫疾患）
- 第6回 食品の安全性の確保（食肉・食肉加工品、生鮮魚介類、水産加工品、野菜・果実類、牛乳・乳製品）
- 第7回 食品の安全性の確保（鶏卵、惣菜類、弁当・にぎり飯・米飯・調理パン、食用油脂および油脂を多く含む食品、冷凍食品）
- 第8回 家庭における食品の安全保持
- 第9回 環境汚染と食品
- 第10回 器具および容器包装
- 第11回 水の衛生
- 第12回 食品の安全流通と表示（食品の表示、食品添加物）
- 第13回 食品の安全流通と表示（輸入食品、遺伝子組換え食品、食品とアレルギー、発ガン物質）

- 第14回 食品の安全管理
形成テスト

- 第15回 形成テスト結果による理解度の確認、まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24511101		
科目名	栄養学概論		
担当者	小林 ゆき子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[家][保][健][フ]		
前提科目			
テキスト	『栄養の基本がわかる図解辞典』 中村丁次監修 成美堂出版		
参考文献	『NEXT 基礎栄養学』 木戸・中坊編 講談社		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

人が生命を維持し、健康を保ち活動するために必須である「栄養」について理解し、栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義を生活している人の観点から理解するとともに、食品機能成分の働きならびに生体調節機能に関する知識も習得することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 「栄養」とは何か、「食べる」意義について理解する
2. エネルギーの代謝とその生理的意義を理解する
3. 各栄養素の代謝とその生理的意義を理解する
4. 健康と栄養の関係について理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義形式で、板書中心で進行する。その他、必要に応じてテキスト、補足プリント、スライド、DVD等を使用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業内容について、教科書と板書を照らし合わせてまとめたノートを作成し、内容を把握してから次の授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

出席は試験受験資格として評価する。筆記試験80%およびレポート課題20% + a で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 食生活と健康とは・日本の「食糧」について考える
- 第2回 何をどれだけ食べればいいのか1～空腹と食欲のメカニズムを知る
- 第3回 何をどれだけ食べればいいのか2～日本人の食事摂取基準を知る
- 第4回 何をどれだけ食べればいいのか3～食生活指針と食事バランスガイドを知る
- 第5回 身体にとってエネルギーとは
- 第6回 身体にとって炭水化物とは
- 第7回 身体にとって脂質とは
- 第8回 身体にとってタンパク質とは
- 第9回 身体にとってビタミンとは
- 第10回 身体にとってミネラルとは
- 第11回 身体にとって水・アルコールとは
- 第12回 身体にとって食物繊維とは
- 第13回 健康情報の読み方～間違った情報から身を守る手段を知る
- 第14回 生活習慣病と栄養
- 第15回 健康保持、健康増進、疾病予防、疾病治療と栄養

6. Special Information (留意事項)

レポート課題は2回程度提出有り、詳細は講義中指示する。私語は厳禁。守れない場合は退席を求める。

講義コード	24511201			
科目名	ライフステージと食生活			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[保][健]			
前提科目				
テキスト	『<はじめて学ぶ>健康・栄養系教科書シリーズ⑥応用栄養学適切な食生活を実践するために』 奥田あかり、上山恵子、尾関清子ら 科学同人 2011			
参考文献	『応用栄養学ライフステージからみた人間栄養学第9版』 森 基子ら 医歯薬出版			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

現代の私たちの食生活は社会の変化とともに大きく変化し、同時に、多くの問題も抱えている。本講義では、食生活と栄養、健康についての基本的な知識を養うことを目的とする。特に、各ライフステージにおける食生活のあり方、問題点について興味を持ち、健康とは何か、そのためには食生活はどうあるべきかについて理解を深めることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・5大栄養素の働きを理解する。
- ・ライフステージ別の身体的、生理的特徴を理解する。
- ・各ライフステージの食生活の特徴、必要な栄養素、健康問題について基本的知識を養う。
- ・各ライフステージにおける食生活の課題について考える。
- ・食生活管理の具体的な方法を生活環境と関連付けて考える。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。
- ・課題についてまとめ、発表する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・テキスト、配布プリントを元に、演習形式や講義形式で行う。
- ・グループディスカッションやビデオ視聴、グループ発表などを取り入れながら授業を進める。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・内容については以下の頁を事前に読んで授業に臨むこと。
乳児期 (27-42頁)、幼児期 (43-54頁)、学童期 (55-66頁)、思春期 (69-76頁)、成人・更年期 (79-97頁)、高齢期 (99-114頁)。
また、各栄養素の働き(炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、水)について基本的な事柄を各自で整理しておくことよ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 評価基準・ライフステージごとの望ましい食事のあり方を理解できたか。
- ・積極的に討論できたか。
 - ・グループ発表に参加したか。
 - ・決められた課題のレポートを提出したか。

評価方法・テスト (50%)、レポート (35%)、発表 (15%) の総合点を最終評価とする。

欠席は1回につき、最終評価から3点を減点する。

30分以上の遅刻は欠席扱いとする。

10回以上出席しなければ、評価の対象としない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の進め方、評価の説明
加齢に伴うライフステージ。エイジングと食にまつわる機能の変化。
- 第2回 妊娠期の健康と食生活の解説
- 第3回 妊娠期の健康と食生活の解説、ビデオ視聴および討論
- 第4回 産褥期、授乳期の健康と食生活の解説
- 第5回 乳児の発育と食生活の解説
- 第6回 幼児の発育と食生活の解説とビデオ視聴
- 第7回 離乳食の解説とビデオ視聴および討論
学童期・思春期の発育と食生活の解説とビデオ視聴
- 第8回 若い女性の食生活の解説とビデオ視聴および討論
- 第9回 肥満と痩せの解説と摂食障害のビデオ視聴および討論
- 第10回 成人・更年期の特徴と食生活の解説
高齢期の症状と食生活の解説
- 第11回 食事カードを用いた演習
- 第12回 食事カードを用いた演習・発表
- 第13回 課題発表 (1) と討論
- 第14回 課題発表 (2) と討論
- 第15回 課題発表 (2) と討論
まとめ、試験対策

6. Special Information (留意事項)

授業中の私語、居眠り、飲食など著しく態度が悪い場合、他の受講者の迷惑となる場合は、退出してもらうこともある。

授業中に担当者が指示した場合を除き、スマートフォンの操作は禁止する。提出物と発表を必ず行い、欠席回数が5回以下の場合に試験を受けることができる。

講義コード	24511701			
科目名	衣生活学-福祉の視点より-			
担当者	牛田 好美			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[家]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『シリーズ 21世紀の社会心理学 8巻 被服行動の社会心理学』 北大路書房 『シリーズ 21世紀の社会心理学 9巻 化粧行動の社会心理学』 北大路書房			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

少子高齢社会が急速に進むにつれて、保護を必要とする乳幼児・高齢者・身体障がい者など社会的障がいを持つ人々だけでなく、すべての人が普通に生活できるような社会を構築できるよう支援しなければならない。そのためにはさまざまな暮らしをしている人々の衣食住に関する実践的・専門的知識が必要である。なかでも衣生活については、年齢に応じて異なる生理機能や障がいの種類などに最も影響を受けると思われる。そこで福祉の視点から、高齢者、障がい者、健常者すべての人々にもっとも適した衣服について考え、ファッションイメージを描き、それを実践する能力を養うことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 快適な衣服環境
2. 衣生活とユニバーサルデザイン
3. 衣生活とパーソナルデザイン
4. ユニバーサルファッションの実践

3. Course Method (教育・学習の方法)

主に講義形式で授業を行う。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的に快適な衣生活の実践方法が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日常生活の中で、被服や化粧のはたらきを意識すること、また、身体との関係を考え、より満足感を高めるための工夫をすること。あらゆる年代、障がいの方の声に耳をすませること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (30%)、授業中の課題 (50%)、授業への意欲・積極性 (20%) により総合判断する。欠席回数が3分の1を超過した場合原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 衣生活と福祉
- 第2回 衣生活とデザイン
- 第3回 ユニバーサルデザインについて
- 第4回 ユニバーサルファッションについて
- 第5回 ファッションイメージとパーソナルデザインについて
- 第6回 障がい者に適した衣生活について
- 第7回 高齢者に適した衣生活について
- 第8回 乳幼児に適した衣生活について
- 第9回 コスチュームデザインについて
- 第10回 ユニフォームについて①
- 第11回 ユニフォームについて② (ANAのユニフォームを例にあげて)
- 第12回 ライフサイクルと衣生活
- 第13回 ユニバーサルファッションの実践・評価
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24511801			
科目名	衣生活情報論			
担当者	牛田 好美			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

衣服は人間の身体の一部としての機能を持つものであり、衣服を着用することは人間のみに与えられた生活行為である。そして、人間はこの行為を自己表現の手段として用いる。すなわち、人間は自分で衣服を選択し、着装して外観的な面だけではなく、内面的な人間性までも表現する。現在はほとんど既製服が着用されているので、衣服の選択は購買行動である。衣服は素材・色柄・形の三要素によって構成され、それらの表現性を利用して商品はディスプレイされる。また情報技術の進化に伴い、衣服はアパレルCADというコンピュータにより製作され、着装感や着装状態はCGによって表現されるようになった。このように衣生活には情報という要素が深く関わるようになってきている。そこで、服飾環境を形成する要素と衣生活に関わる情報技術について、理解を深め、衣生活をよりよく整え営むことができる能力を養うことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 衣服と人間
2. 衣服と社会
3. 衣生活と文化
4. 衣生活と情報

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を進める。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素や情報環境が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

新聞、雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。ファッションとは何かを意識し、市場に出回っているものを、機会あるごとに多く見ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%) 課題 (50%) 授業への意欲・積極性(20%)を総合して評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 衣生活と情報について
- 第2回 ファッションビジネスについて
- 第3回 ファッション業界の仕事
- 第4回 ファッションマーケティング
- 第5回 ファッションマーチャンダイジング
- 第6回 ファッションマーチャンダイジング演習①-ブランド企画-
- 第7回 ファッションマーチャンダイジング演習②-ショップ企画-
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 ファッションコーディネート
- 第10回 ファッションコーディネート演習①-小物・アクセサリ-
- 第11回 ファッションコーディネート演習②-色の使い方-
- 第12回 ファッションコーディネート演習③-全体のバランス-
- 第13回 着装シミュレーションの仕組みと機能
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24511901			
科目名	衣生活文化史			
担当者	鳥居本 幸代			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	プリントを配布する			
参考文献	『万葉集の服飾文化 上・下』 小川安朗 六興出版			
	『奈良朝服飾の研究』 関根真隆 吉川弘文館			
	『有識故実図典』 鈴木敬三 吉川弘文館			
備考	『平安朝のファッション文化』 鳥居本幸代 春秋社			
	『江戸服飾史』 金沢康隆 青蛙房			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

人間が健全な生活し、活動するために不可欠である服飾は、それを取りまくさまざまな生活環境や文化の影響をうけながら発達し、展開する。服飾は文化の所産であり、時代背景を無視することはできない。本講義では、人類と衣服の出会いから現在のキモノのルーツである江戸時代の小袖までを概説する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①服飾発生の5つの起源説
- ②縄文・弥生文化の服飾
- ③古墳時代の服飾
- ④飛鳥・白鳳時代の服飾
- ⑤天平時代の服飾
- ⑥平安貴族の服飾
- ⑦鎌倉・室町時代の武家服飾
- ⑧江戸町衆の服飾

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式をとり、パワーポイントやビデオを活用しながら視覚的にも理解を深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

第1回目の授業以降、事前に時代背景を把握し、まとめておくことを指示する。講義終了前に、毎回、まとめの小テストを実施する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (30%)、小テスト (20%)、確認テスト (50%) に基づいて、総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論 服飾発生の起源
- 第2回 土偶から推測した縄文時代の服飾
- 第3回 『魏志倭人伝』にみる服飾
- 第4回 埴輪と記紀からみた古墳時代の服飾
- 第5回 冠位十二階の制にみる冠の制度
- 第6回 大宝律令・衣服令に定められた服飾
- 第7回 正倉院の染織
- 第8回 平安朝ファッションの特色
- 第9回 平安時代の男性ファッション
- 第10回 平安時代の女性ファッション
- 第11回 武家服飾の成立
- 第12回 小袖時代の幕開け
- 第13回 江戸時代前期のファッション 雛形本の登場
- 第14回 江戸時代中期のファッション 宮崎友禅齋と尾形光琳
- 第15回 江戸時代後期のファッション 俵約令と縞物

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24512001		
科目名	服飾文化論 王朝のファッション文化		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格			
前提科目			
テキスト	『平安朝のファッション文化』 鳥居本幸代 春秋社 2003年		
参考文献	『有識故実図典』 鈴木敬三 吉川弘文館 1995年 『かさねの色目』 長崎盛輝 京都書院 1998年 『日本の伝統色』 長崎盛輝 京都書院 1988年 『平安朝の生活と文学』 池田亀鑑 角川書店 1994年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

京都で誕生した平安王朝の貴族ファッション文化について、『源氏物語』や『枕の草子』などの記述を例に挙げながら、衣・食・住生活各分野の文化との関わりから考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 衣生活文化としては、王朝人の宗教観・自然観と色彩との関連について述べる。

2. 食生活文化としては食材、調理法、および容姿との関連、行食事などについて述べる。

3. 住生活文化としては都市計画、住生活環境、および衣生活文化との関わりについて述べる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パワーポイントやビデオなどを使用して講義を進める。とくに、文学作品をはじめ、絵巻物や肖像画などの絵画資料の提示を積極的に行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

第1回の授業以降、事前にテキストの指定ページを指示し、あらかじめ読んでおくことを求める。準備学習の成果を第2回以降、授業開始10分間で小テストを実施して見極める。ただし、第6回、第15回は講義終了後に行う。

- 第2回 p18～20
- 第3回 p118～120
- 第4回 P19～24
- 第5回 P25～38
- 第7回 P10～12
- 第8回 P13～16
- 第9回 P38～48
- 第10回 p50～60
- 第11回 P60～66
- 第12回 P66～74
- 第13回 P75～99
- 第14回 P99～117

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、小テスト(20%)、確認テスト(50%)に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論 平安時代の流れ
- 第2回 平安貴族の食生活
- 第3回 平安時代の年中行事と行食事
- 第4回 平安時代の美男・美女
- 第5回 平安貴族の教養
- 第6回 通過儀礼
- 第7回 平安京の都市計画
- 第8回 平安京の住生活環境
- 第9回 かぶり物からみた男性ファッション
- 第10回 男性の晴装束
- 第11回 くつろぎの女性ファッション
- 第12回 女性の晴装束
- 第13回 王朝の色彩感覚
- 第14回 王朝の模様
- 第15回 平安朝の教養あふれる娯楽

6. Special Information (留意事項)

講義冒頭10分間で小テストを実施するが、テスト時間に遅刻した者は受験することができない。

講義コード	24512101		
科目名	衣生活材料学		
担当者	牛田 好美		
単位数	2	配当学年	23
資格	[家]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

感性の時代といわれている現在、人々の衣服・服装に対する欲求が、自分なりの服装の確立を目指すものとなってきている。そのため繊維・アパレル業界はこの高度な消費者の欲求を満たすために様々な科学技術を開発して、従来の衣服素材を改良・改質し、全く新しい製品を作り出している。私達はこれらの衣服素材の種類や諸性能について理解し、種々の衣服素材の中から適切に目的に応じたものを選択することが出来る能力が必要である。この能力を取得することを目標に講義をすすめる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 衣服素材の種類と性能
2. 衣服素材の改良・改質法
3. 繊維の鑑別と品質表示

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。繊維素材の試料を見たり、様々な加工素材を見たり、必要に応じてビデオやスライドを観る。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

平日頃から、衣料品の素材について興味をもつこと。また、衣料品の洗濯や保管など、素材を扱う経験をできるだけ多くしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績評価は、授業参加度(30%)、学習意欲の有無(20%)、レポート(20%)、課題(30%)により総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 衣生活材料について
- 第2回 繊維について
- 第3回 繊維の種類
- 第4回 天然繊維について
- 第5回 化学繊維について
- 第6回 糸について
- 第7回 糸の構造
- 第8回 布について
- 第9回 織物と編物
- 第10回 織物構造について
- 第11回 衣生活材料の加工技術と機能性
- 第12回 繊維性能に関する実験
- 第13回 衣服の品質表示について
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24512201		
科目名	アパレルデザイン		
担当者	牛田 好美		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

人間は生活する上で快適な環境を構築するため、さまざまなモノをデザインし、造形している。生活とデザインには密接な関係があり、人間性に基づいたデザインが基本的な要素として必要になる。すなわち、デザインには「用」(機能性)と「美」(審美性)の2つの基本的な性能が必要であ

り、これらの2つを形として表現することがデザインである。アパレルデザインは他のさまざまなデザインと異なり、人間という動き、表情、個性など多くの要素が加わった形で表現される。人間らしく、快適で個性を尊重したアパレルデザインを追求することを目標に、衣服がアパレルデザインとして企画され、製作され、販売される過程を理解し、理想的なアパレルデザインについて学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

アパレルデザインの本質を正しく理解するためのデザインの基礎、および造形美の諸原則を中心に講義する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

主に講義形式で授業を進めるが、必要に応じて、演習形式の時間も設ける。授業はDVDやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

できるだけ多くの衣服を見たり、触ったり、すること。また、歴史や文化に関する本を多く読むこと。映画や舞台芸術を積極的に鑑賞し、身体、衣装、身体表現(パフォーマンス)について考え、自分の意見を持つこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、課題(50%)、授業への意欲・積極性(20%)を総合してして評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 アパレル業界のしくみとアパレルデザイン
- 第2回 ファッションの変遷とその背景①-歴史をふりかえって-
- 第3回 ファッションの変遷とその背景②-現代におけるファッション-
- 第4回 服飾デザインの基礎
- 第5回 フォーム
- 第6回 カラー①-基礎-
- 第7回 カラー②-応用-
- 第8回 テキスタイル
- 第9回 デザイン演習
- 第10回 ファッションイラストレーションの描き方(基礎)
- 第11回 ファッションイラストレーションの描き方(応用)
- 第12回 デザインとイメージ①-日常場面において-
- 第13回 デザインとイメージ②-非日常場面において-
- 第14回 課題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24512501		
科目名	福祉住環境学 建築の人間工学		
担当者	竹原 広実		
単位数	2	配当学年	23
資格	[家][建][イ]		
前提科目			
テキスト	『建築計画の基礎』 西出和彦 数理工学社		
参考文献	『空間デザインの原点』 岡田光正著 理工学社 『インテリアの計画と設計』 小原二郎編 彰国社 『人間の空間』 R.ソマー著 鹿島出版会 『人間工学入門』 人間工学研究会編 日刊工業新聞社 『建築計画(改訂版)』 長澤泰 市ヶ谷出版社		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

科学技術の進歩は住宅においても目覚ましいものがあり、こういった技術を導入するべく住まいの造りは変わり、新しい設備器具などが次々と開発されている。一方、人間の営みは長い年月の間に営々と築きあげられてきたものである。そのため、時には人がモノと均衡がとれない事態も生じ、この場合多くは人側に障害が表れ安全性が脅かされる。本来人間が持つ機能や特性を活かした住宅のあり方が求められる。講義では特に建築的側面からの人間工学について、人間の身体的、動作的、心理的、生理的特性に沿った住宅環境や設備のあり方について理解することを目的としている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 生活空間における建築・住宅意匠のあり方
2. 空間感覚の体得
3. 建築・住宅設備の基礎的デザインへの理解
4. 公共空間の建築計画の基礎知識の修得

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストを使った講義が中心であり、適宜配布するプリントで欠を補う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

人間工学的配慮が日常生活のどのような場面で活かされているか、関心をもつこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、形成テスト(90)と平常点(10)である。これにレポート課題が加わる場合は形成テスト(75)、レポート(15)、平常点(10)となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 人間工学とは
- 第2回 人体寸法を利用した建築・住宅各部位設計寸法
- 第3回 作業域
- 第4回 作業域を考慮した住宅設備環境のあり方
- 第5回 動作寸法
- 第6回 動作寸法と動作空間
- 第7回 単位空間の考え方(生活行為と動線からみた住宅計画)
- 第8回 行動・動作特性を考慮した空間・設備計画
- 第9回 心理特性を考慮した空間計画
- 第10回 公共空間の建築計画1(図書館、美術館、劇場)
- 第11回 公共空間の建築計画2(オフィスビル、病院、サイン計画)
- 第12回 高齢化に伴う身体機能の変化
- 第13回 高齢者のための建築環境のあり方1(段差・階段)
- 第14回 高齢者のための建築環境のあり方2(浴室)
- 第15回 形成テストとまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24512601		
科目名	建築材料学		
担当者	竹原 広実		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目	建築一般構造		
テキスト	『図説やさしい建築材料』 松本進 学芸出版社		
参考文献	『初学者のための建築材料入門』 櫻野紀元 鹿島出版社 『棟梁も学ぶ木材のはなし』 上村武 丸善株式会社		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

建築物は人間の生活や活動を営むための容器であり、同時に街や都市をつくるひとつの単位でもある。そして建築物を形づくるのは材料であり、建築物に使用される材料はその時代の分野や文明、その土地の風土を反映するものである。また、使用する材料によって建築物の性格や品質が左右され、強く長く持ち支るか、好感をもたれるか、など建築物がどのようなものになるかは材料の用い方にかかっており、建築材料に対する知識を持ち、それらを適材適所に使い分けることは重要である。授業では建築物をつくっていく上で必要な材料についての知識を深め、材料を用いる際の基本事項は何かについて考えていきたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 材料の種類や性質など知識の修得
2. 建築の用途・機能に適した材料の用い方への理解
3. 構造材と仕上材の使い分けの理解
4. 個別課題を自ら学習し、授業でプレゼンテーションする能力を高める

3. Course Method (教育・学習の方法)

- (1) テキストを用いる。
- (2) 小テストを複数回、実施する。
- (3) 住宅研究所において実習を行う。
- (4) 各自課題をこなし、それを人前でプレゼンテーションする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストやあらかじめ配布されたプリントを読むなどして予習をすること。また毎回前授業内容の小テストを行うので、復習が必要である。自分に与えられた課題について情報収集し、整理し、わかりやすくプレゼンテーションすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則として全出席を前提として評価は行われる。評価は、毎授業時に実施する小試験と確認テスト(60)と実習レポート(10)、課題発表(20)授業の参加度(10)で行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 建築材料とは
- 第2回 建築材料計画

- 第3回 天然材料1 (木材:種類、使われ方、特徴)
- 第4回 天然材料2 (木材:木取り、欠点)
- 第5回 天然材料3 (エンジニアリングウッド)
- 第6回 天然材料4 (石材、れんが)
- 第7回 近代建築における基幹材料1 (コンクリート:セメント)
- 第8回 近代建築における基幹材料2 (コンクリート:骨材、水、混和剤)
- 第9回 近代建築における基幹材料3 (コンクリート製品、ガラス)
- 第10回 部位別・性能別材料1 (床仕上げ材、壁仕上げ材、天井仕上げ材)
- 第11回 部位別・性能別材料2 (防水材料、防火材料、断熱材料、防音吸音材料)
- 第12回 その他の材料1 (左官材料、ボード類)
- 第13回 その他の材料2 (プラスチック材料、塗料、接着剤)
- 第14回 確認テスト
- 第15回 学外実習

- 第11回 住宅内部の仕上げ
- 第12回 開口部と建具
- 第13回 和風造作
- 第14回 地震による被害と耐震設計
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

建築、住居、インテリア分野の一番基礎となる科目である。本授業で住居のしくみ、基本知識をしっかり身に着けないと、他の住居学分野の科目についていけないのでそのつもりで受講のこと。

講義コード	24512901		
科目名	住計画演習 I		
担当者	岸 研一		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目	[住居製図Ⅰ][住居製図Ⅱ]		
テキスト			
参考文献			
備考	定員25人 週1.5コマ連続		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

6. Special Information (留意事項)

全出席を原則とする。

1. 本科目の受講者は前提科目として「建築一般構造を修得済み」であること
2. 全出席を前提とする。
3. 20名の定員とする。
4. 実習は平日の一日を要する。(実施日は初回授業時に伝える)現地までの交通費は自己負担
5. シラバスの順番は入れ替わることがある

講義コード	24512701		
科目名	建築一般構造		
担当者	中村 久美		
単位数	2	配当学年	234
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『初めての建築一般構造』 <建築のテキスト>編集委員会 芸出版社		
参考文献	『分り易く図で学ぶ 建築一般構造』 江上外人・林静雄 共立出版株式会社 『一般構造』 青木博文監修 実教出版		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

住宅や建築を学ぶうえでは、骨組みとしての構造や仕上げの仕組みなどの建築一般構造への理解が大前提となる。

この講義では、建築材料や施工法とも関連付けながら、建築構造の種別とそれぞれの概要、およびインテリアデザインの基礎となる内部造作の仕組みについて解説する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 構造種別を理解する。
2. 各構法の知識を養う。
3. インテリアとしての造作とその仕組みを理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストの内容をパワーポイントによって補足しながら授業をすすめる。授業後はテキストと配布資料で建築の部材や構造、施工に関する用語の復習を必ず行うこと。また毎回、次回の内容とテキストの関連ページをアナウンスするので予習すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバス、およびリエンション時に配布した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

確認試験 (55%)、および毎回の小テスト (45%) より評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 建築構造の種別
- 第2回 木構造の特徴と構造形式
- 第3回 軸組構法と枠組構法
- 第4回 鉄筋コンクリートの材料と力学的性質
- 第5回 鉄筋コンクリート造の架構と部材の力学
- 第6回 鉄筋コンクリート工事
- 第7回 鋼材とその接合
- 第8回 鉄骨構造
- 第9回 その他の構造
- 第10回 住宅被覆の仕組み

1. Course Description (科目の教育目標)

現代社会における個人と家族、社会との関係の考察や、情報化や環境問題の課題の検討を行いつつ、一戸建住宅、集合住宅の計画・設計の一連の作業を演習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 住宅設計における計画能力の養成
2. 空間構成能力及び造形能力の養成
3. 住宅および周辺環境に対する新たな視点の獲得

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 基本的に、半期1~2つの設計課題を通じて指導する。
2. 演習課題は担当者が作成する。
3. 各課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。
4. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。
5. 計画した住宅を立体的な空間として把握し、より効果的なプレゼンテーションを行う為、パースを作成する。
6. 各課題は、計画段階で何度かエスキスチェックを行い、1人ずつ講評する。

7. 各演習課題の内容やスケジュールについては変更することもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用して計画的に行うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、課題および授業の取り組み状況 (70%) により総合的に評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 「集合住宅のリノベーション設計」(課題発表)
リノベーションデザインの考え方
- 第2回 エスキスチェック(1) (コンセプト・ゾーニング)
- 第3回 モデルハウス見学 (予定)
- 第4回 エスキスチェック(2) (プラン)
- 第5回 エスキスチェック(3) (プラン、作図 CAD)
- 第6回 エスキスチェック(4)、作図 (CAD 通り芯、壁)
- 第7回 作図 (CAD 窓、出入口)
- 第8回 作図 (CAD 仕上、家具、外構、寸法等)
- 第9回 内観パースの書き方について、演習
- 第10回 内観パース演習(1) (トレース)
- 第11回 内観パース演習(2) (添景)
- 第12回 内観パース作成 (下描き)
- 第13回 内観パース作成 (仕上、着色)
- 第14回 作図 (仕上)
- 第15回 課題提出、プレゼンテーション、講評

6. Special Information (留意事項)

「設計方法論」を住計画演習の前段階として位置付けているので、同じ年度に両方合わせて受講することが望ましい。

講義コード	24513001		
科目名	住計画演習Ⅱ		
担当者	岸 研一		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目	「住居製図Ⅰ」「住居製図Ⅱ」「住計画演習Ⅰ」		
テキスト			
参考文献			
備考	定員25人 週1.5コマ連続 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

「住計画演習Ⅱ」の授業をふまえ、本演習では、個々の住宅のみならず、居住地全体を含めた住環境の計画・設計を演習する

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 住宅設計における計画能力の養成
2. 空間構成能力及び造形能力の養成
3. 住宅に対する新たな視点の獲得。
4. 効果的なプレゼンテーション手法の養成

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 基本的に、半期1～2つの設計課題を通じて指導する。
2. 演習課題は担当者が設定
3. 各課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。
4. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。また、グループワークを行なう場合もある。
5. 計画した住宅を立体的な空間とし、効果的なプレゼンテーションを行う為、パース等を作成する。
6. 各演習課題の内容やスケジュールについては変更することもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用し計画的に行うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、課題および授業の取り組み状況 (70%) により総合的に評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、課題発表、敷地見学
- 第2回 敷地レポート提出
課題建物についてレクチャー
- 第3回 エスキスチェック(1) (コンセプト、ゾーニング、参考事例検索)
- 第4回 エスキスチェック(2) (ゾーニング、プラン)
- 第5回 エスキスチェック(3) (プラン、作図 CAD)
- 第6回 エスキスチェック(4)、作図 (CAD 通り芯、壁)
- 第7回 作図 (1) (CAD 窓、出入口)
- 第8回 作図 (2) (CAD 仕上、家具、外交、寸法等)
- 第9回 内観パース作成 (1) (下描き)
- 第10回 内観パース作成 (2) (着色、仕上)
- 第11回 アクソメ・俯瞰図・断面パース等演習
- 第12回 アクソメ・俯瞰図・断面パース等 作成 (1) (下描き)
- 第13回 アクソメ・俯瞰図・断面パース等 作成 (2) (着色、仕上)
- 第14回 作図・仕上げ
- 第15回 課題提出とプレゼンテーション 講評

6. Special Information (留意事項)

「設計方法論」を住計画演習の前段階として位置付けているので、同じ年度に両方合わせて受講することが望ましい。

講義コード	24513401		
科目名	家族援助論		
担当者	山本 智也		
単位数	2	配当学年	234
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『家庭支援論/家庭支援と保育相談支援』『新保育士養成講座』編纂委員会 編 社会福祉法人全国社会福祉協議会 2015		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

保育士として、子どもの育ちを支える基盤ともいえる家族について、家族自体の動向、さらには家族をめぐる社会的状況を適切にとらえた上で、家庭支援の理論と方法を理解することができることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 家族の意味と機能
- (2) 今日の家族関係
- (3) 「子育て支援」を中心とした家族への支援体制
- (4) 子育て家庭のニーズに応じた支援の展開と関係機関との連携

3. Course Method (教育・学習の方法)

上記の課題について、配付資料をもとに、講義を進めていく。
各回授業終了時に、授業で学んだことをまとめたシートを作成することで学習の定着を図る。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で取り上げる内容について、事前にテキストを熟読しておく他、新聞などで取り上げられる家族に関する記事を読むなどして、現代社会と家族との関わりについて知識を日々深めておくことが求められる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(35%)、形成テスト(65%)により総合判断する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 家庭援助論を学ぶ意義と必要性を理解する。
- 第2回 家庭の意義と機能
- 第3回 保育士が行う家庭支援の原理
- 第4回 現代家族と人間関係
- 第5回 地域社会の変容と子育て家庭
- 第6回 男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス
- 第7回 子育て家庭の福祉を図るための法体系と社会資源及びその施策
- 第8回 子育て支援サービスの体系とその内容
- 第9回 保育所入所児童の家庭への支援
- 第10回 地域子育て家庭への支援
- 第11回 要保護児童及びその家族に対する支援1 (児童虐待への対応)
- 第12回 要保護児童及びその家族に対する支援2 (障害のある子どもと家族への対応)
- 第13回 子育て家庭支援における関係機関との連携と子育て支援サービスの課題
- 第14回 形成テストによる到達度の把握
- 第15回 授業の総括：保育士が行う家庭支援の専門性

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24514001			
科目名	社会福祉援助技術現場実習			
担当者	酒井 久美子, 桐野 由美子, 小池 桂, 三好 明夫, 矢島 雅子			
単位数	6	配当学年	3	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」履修者であること。「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会福祉援助に関する専門科目で学んだ理論、知識、技術をふまえて、主として相談援助に従事する社会福祉専門職（社会福祉士）に必要な専門知識、専門的な援助技術および関連技術を深め、援助者としての資質や能力の習得を目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深める。
2. 利用者とのコミュニケーション能力を高め、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を養う。
3. 実習を通して援助者としての自己の気づき（自己覚知）を深める。
4. 実習現場の指導者によるスーパービジョンを受けながら、特定の利用者やケースに対する援助計画を立案し、援助する経験をもつ。
5. 施設のみならず、地域や在宅での援助の方法を幅広く理解し、他の職種との連携を深めて、現代的なニーズへの総合的な対応について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 社会福祉士受験資格取得希望者に対して指定された社会福祉施設での180時間（24日）以上の現場実習をおこなう。
2. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録、教員の実習巡回の際にスーパービジョンなどにより指導をおこなう。
3. テキストは実習ハンドブックや配付資料を用いる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習修了者には60点、実習施設による評価（15点）、担当教員による評価（15点）、その他提出物、実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

5. Special Information (留意事項)

実習施設・機関等の指導のもと、180時間以上の実習に取り組む。

1. 社会福祉援助技術実習指導Ⅱを履修していること。
2. この科目は社会福祉士受験資格取得の必須科目である。現場実習修了後、社会福祉援助技術実習指導Ⅲを履修しなければならない。
3. 実習期間は施設・機関側との調整で決定されるため、8、9月以外の時期になる場合もある。
4. 実習状況によっては、実習途中で実習を中止することもある。

講義コード	24514101			
科目名	社会福祉援助技術実習指導Ⅲ			
担当者	酒井 久美子, 桐野 由美子, 小池 桂, 三好 明夫, 矢島 雅子			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[社]			
前提科目	「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」			
テキスト				
参考文献	社会福祉援助技術現場実習ハンドブック 社会福祉援助技術現場実習報告集 社会福祉援助技術現場実習記録			
備考	「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること。 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会福祉援助技術現場実習の振り返りとして、実習記録をもとにしたスーパービジョンを中心に、各自の援助技術を評価し、相談援助に従事する社会福祉専門職として専門知識や関連知識を深め、さらに援助者としての資質や能力を向上させることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 実習記録をもとに、利用者とのコミュニケーション、援助者としての役割のあり方、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を深める。
2. 実習記録をもとに、スーパービジョンを受けながら各自の援助、援助者としての役割や援助技術について再評価する。
3. 実習内容をふりかえり、自己覚知を深める。
4. 専門援助者としての次への展開のための新たな課題の認識を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

集中授業であり、小クラス方式および個別指導（スーパービジョン中心）によっておこなう。各クラスの担当教員指導のもとにおこなうこととする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

現場実習を各自振り返り、専門職としての自己覚知に努める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習レポートの提出および内容（80点）、事後指導の内容（10点）、実習報告会、事後指導などへの参加、授業参加度（10点）で総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 現場実習中に巡回指導をおこない、実習施設担当者との面談、実習生への指導、スーパービジョンをおこなう。
- 第2回 実習記録をもとに、小クラス、実習施設単位、個別に実習全体の振り返りをおこなう。そのうえで、実習総括レポート（社会福祉実習報告集）の作成をおこなう。
- 第3回 実習施設による実習評価票をもとに、各自の実習達成度、課題などについて個別に指導する。
- 第4回 実習の評価全体総括会として、「実習報告会」と「実習懇談会」をおこなう。実習報告会においては、相互評価をおこなう。実習懇談会においては、実習施設担当者、学生、大学の三者による懇談、実習報告と意見交換等をおこなう。
- 第5回 現場実習修了後には実習内容について、その達成度を評価しつつ、課題について個別指導をおこなう。

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24514201		
科目名	社会福祉運営論 社会福祉を運営することと管理すること		
担当者	三好 明夫		
単位数	2	配当学年	34
資格	[社]		
前提科目			
テキスト	できるだけタイムリーな社会福祉の現場実践の情報を印刷物で紹介していきたい。初回授業で紹介する。		
参考文献	『社会福祉士シリーズ「福祉サービスの組織と経営」』弘文社 授業時に適宜紹介する		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力		✓
	思考・解決する力	✓	
		共生・協働する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会福祉サービスに関する組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会）等について理解を深める。社会福祉のサービスの組織や団体と経営に関する基礎理論の理解を深める。社会福祉サービスの経営と管理運営について理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 社会福祉運営管理の基礎的な概念を把握する。
- 社会福祉の環境の中での社会福祉運営の展開方法と課題を学ぶ。
- さまざまな社会福祉サービス展開の中で注目されている組織団体の役割と経営全般について学ぶ。
- 社会福祉運営管理（ソーシャルアドミニストレーション）、社会福祉施設運営管理（ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション）を理解する。
- 社会福祉基礎構造改革、特定非営利活動促進法、介護保険法など社会福祉の運営枠組み変化での社会福祉運営管理について方法や展開について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

社会福祉サービスにおける運営と管理の具体的な内容と性格について確認していく。社会福祉行政の運営管理の方法、社会福祉施設の運営管理の方法、社会福祉協議会の運営管理の方法などを習得して課題や将来展望について考え、間接援助技術の技法のひとつとしてまとめることができるようにする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

社会福祉の運営や管理等についての話題提供と理解を深めるために社会福祉運営管理等に関する新聞記事などを紹介または印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求められるのでできるだけ日常の社会福祉運営管理等の関連問題には留意すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度（30%）、小テスト・レポート（20%）、最終レポート（50%）とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数が3分の1を超えた場合は原則単位認定しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会福祉運営管理の概念
- 第2回 社会福祉法人制度
- 第3回 特定非営利活動法人制度
- 第4回 その他の組織や団体
- 第5回 組織に関する基礎理論
- 第6回 経営に関する基礎理論
- 第7回 管理運営に関する基礎理論
- 第8回 集団の力学とリーダーシップの基礎理論
- 第9回 理事会の役割と財源
- 第10回 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス
- 第11回 福祉サービス提供組織における人材の養成と確保
- 第12回 福祉サービス提供組織の経営の実際
- 第13回 適切なサービス提供体制の確保の方法
- 第14回 働きやすい労働環境の整備の実際
- 第15回 福祉サービスの管理運営の実際

6. Special Information (留意事項)

社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しておく必要がある。

講義コード	24514501			
科目名	社会福祉調査法 I 社会調査の意義と目標、方法などを理解して、社会福祉の実態を明らかにする調査票の作成をおこなう。			
担当者	平尾 良治			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト	『社会調査の基礎(第3版)』社会福祉士養成講座編集委員会編著 中央法規出版 2014年			
参考文献	『社会福祉の基礎理論』林博幸・安井喜行編著 ミネルヴァ書房 2002年			
	『社会調査の基礎』岩永ほか編著 放送大学教育振興会 2003年			
備考	『新・社会調査へのアプローチ(第2版)』大谷信介ほか編著 ミネルヴァ書房 2013年			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会的現実を把握するときには、一定の理論や仮説をもちいながら、対象にアプローチし、現象を支配している何らかの法則を明らかにすることが求められます。その際に有効な技術としての「社会調査法」が必要となります。ここでは社会的現実の一つである「社会福祉」を対象として、質的調査と量的調査の具体的な方法を学びます。とくに社会福祉の対象である国民の生活問題をどのようにとらえ、どのように調査・分析すべきかについて、具体的な調査データの分析作業を通して考えます。同時に受講生とともに福祉現場の実態を明らかにする「調査票」づくりをおこないます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・社会福祉とは何か
- ・社会認識の方法としての社会・福祉調査
- ・社会調査の倫理および個人情報の保護
- ・社会・福祉調査の種類と内容（質的・量的調査）
- ・調査票の作成
- ・統計法の理解（標本・標本抽出・記述・推測）
- ・調査実施にあたってのIT活用法
- ・調査データの点検・集計・分析（統計法の基礎）

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業形式は、講義を中心にしながら、小グループでの討議、作業、発表などをおこなってすすめます。テキストは『社会調査の基礎(第3版)』中央法規出版を使用します。事前にテキストの学習範囲を指定するので、参考資料も併せて可能な限り目を通してください。この授業では集計・分析方法を理解した上で、具体的な調査票作成までを目標とします。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予習：テキストの指定範囲を読了し、授業に臨んでください。
復習：授業の最初に前回の「小テスト」を実施するので準備をしてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は学習状況（態度・発表）30%、小レポート30%、期末テスト40%により総合的にを行います。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的現実を見る視点
- 第3回 社会（福祉）調査とは何か（社会福祉士の役割と社会調査）
- 第4回 社会（福祉）調査の歴史
- 第5回 社会調査の概要（目的、対象、方法、統計法）
- 第6回 量的調査の特徴と種類
- 第7回 調査票の作成方法と留意点
- 第8回 調査仮説と調査票づくり
- 第9回 調査票の配布と回収・点検
- 第10回 量的調査におけるデータ解析
- 第11回 質的調査の特徴と種類
- 第12回 調査設計と対象者の選定
- 第13回 質的調査の調査手法、調査の実施、データ分析
- 第14回 社会調査における倫理と個人情報保護
- 第15回 社会調査におけるITの活用

6. Special Information (留意事項)

受講者のグループをつくり、役割を決めて発表し、討論をする学習形態をとるので受講者は主体的に参加して下さい。

講義コード	24514601			
科目名	社会福祉調査法Ⅱ 社会福祉調査の特徴をふまえて、調査データの集計・分析力を身につける			
担当者	平尾 良治			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『新・社会福祉調査へのアプローチ』 大谷信ほか編 ミネルヴァ書房 2013			
参考文献	『数学嫌いのための社会統計学』 津島昌寛ほか編 法律文化社 2010 授業で随時、紹介する。			
備考	「社会福祉調査法Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ここでは「社会福祉調査Ⅰ」で学んだことを基礎にして、調査データの集計・点検・分析を実際のデータをもとにして深めます。具体的には調査データの分析に必要な統計方法を基礎から学びつつ、統計ソフトExcelを駆使して、データのコーディング、データ・クリーニング、集計、分析を自分で出来るようにすることをめざします(受講者の習熟度を踏まえて統計ソフトSPSSの活用します)。あわせて社会福祉士試験準備をすすめます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・集計ソフトExcelの習熟
- ・理論仮説・作業仮説の理解
- ・サンプリングと調査の実施
- ・調査データの集計、分析
- ・SPSSの理解
- ・検定の種類と使い方

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では統計ソフトExcelやSPSSを使います。初心者にもわかりやすいように説明し徐々にソフトの操作に慣れてもらいます。テキストは「社会福祉調査Ⅰ」で用いた「社会調査へのアプローチ」の後半部分を活用します。数学の苦手な受講者でもわかるように、Excelを使いながら統計法の基本を身につけます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、作業に必要な調査データを配布し作業を行います。授業はゆっくりすすめますが、PC操作に慣れ、操作・分析を自分のものにするために、作業課題(Excel集計)を出します。受講者は授業後、必ず復習をするようにしてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は学習状況(態度・発表)30%、小レポート・ドリル 30%、期末テスト40%により総合的にを行います。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会福祉調査とはなにか
- 第2回 社会福祉の対象課題である生活問題の構造
- 第3回 社会福祉調査の分析枠組み、仮説づくり、調査票の設計
- 第4回 福祉調査分析の事前処理(回収、点検、コーディング、クリーニング)
- 第5回 福祉調査分析1(単純集計、クロス集計)
- 第6回 福祉調査分析2(仮説検証と統計的検定)
- 第7回 福祉調査分析3(自由回答の分析・テキストマイニング)
- 第8回 福祉調査分析4(インタビュー分析:準備・コーディング・ストーリーライン)
- 第9回 福祉調査分析5(ドキュメント分析:コーディング・要因連関)
- 第10回 福祉調査分析6(標準化)
- 第11回 福祉調査分析7(因果関係)
- 第12回 福祉調査分析6(相関関係)
- 第13回 福祉調査分析6(予測)
- 第14回 福祉調査分析6(要因分析)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

受講者のPC操作の力量を考慮して授業をすすめますが、可能であれば前半はExcelを活用して統計・調査の基本をおさえ、後半ではSPSSの操作の基本を習得する予定です。

講義コード	24515001			
科目名	食品官能評価論			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『新版 食品官能評価・鑑別演習第3版』 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社			
参考文献	『おいしさを測る食品官能評価の実際』 古川秀子 幸書房 『調理科学実験』 大羽和子, 川端明子 学研書院 『官能評価士テキスト』 日本官能評価学会 建帛社 『調理と食品の官能評価』 松元伸子 建帛社 2012			
備考	定員24人 週2コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

食品を選択するという行為には、多くの背景と動機が存在している。フードスペシャリストには、どんな場面においても種々の食品についての深い知識とそれらの品質を見抜く技能が必要である。そこで、本講義では、科学的・物理的な評価法、嗜好に結びつく官能的な食品の評価法の技術を実際の試験・演習を通して身につける。また、個々の食品の鑑別に役立つ知識の習得を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・食品の科学的評価法、物理的評価法を理解する。
- ・食品の官能評価の方法を理解する。
- ・個々の食品に関する知識を身につけ、食品の鑑別に役立てることが出来る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・3~4人のグループで実験・演習を行う
- ・講義と実験、演習を組み合わせた授業を構成する。
- ・事前に予習をする。
- ・理論を理解するにあたり、学習者の自立学習をもとに、学習者が主体となった授業を展開する。
- ・実験・演習後にレポートを提出する。
- ・積極的に参加し、必ず自分で評価してみる。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・個別食品鑑別についてのワークシートを分担して作成し、それを用いて予習・復習をすること。
- ・専門書を利用して、さらに深く学習し、それをレポートに記載するとよい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価基準・・・レポートの提出ができたか
各評価の方法を理解できたか
統計分析の方法が理解できたか
個別食品の鑑別に関する知識が身についたか

評価方法・・・レポート提出59%、レポート内容30%、授業への参加度11%
10回以上の出席がない場合は、評価の対象としない。

5回以内の欠席の場合は、自学習してレポートを提出すればレポート提出点が与えられる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の進め方・評価の方法、実験室・器具の使い方の説明
食品の品質、食品の官能評価の概要
- 第2回 食品官能評価の基本・実施法の講義とDVD視聴
食品官能評価演習1(5味の識別)
- 第3回 分析方法の解説
食品官能評価演習2(2点識別試験法、閾値の測定1)
- 第4回 分析方法の解説
食品官能評価演習3(2点嗜好試験法、閾値の測定2)
食品の鑑別理論1(米・小麦粉製品)
- 第5回 分析方法の解説
食品官能評価演習4(3点識別試験法、閾値の測定3・4)
食品の鑑別理論2(そば・イモ類)
- 第6回 分析方法の解説
食品官能評価演習5(順位法1:スピアマンの順位相関係数)
食品の鑑別理論3(豆類・種実類、海藻類)
- 第7回 分析方法の解説
食品官能評価演習6(順位法2:Newwell & MacFarlane)、(順位法3:ケンドールの一致性の係数)
食品の鑑別理論4(肉類)

第8回	食品の鑑別演習と実験1 卵の鮮度・調理性の実験(ハウユニット測定法) 食品の鑑別理論5 (卵とその加工品)
第9回	物理的評価法の解説と実験2 (色・粘度の測定) 食品の鑑別理論6 (野菜類・キノコ類・果実)
第10回	物理的評価法の解説と実験3 (レオロジー・テクスチャー測定) 食品の鑑別理論7 (乳と乳製品)
第11回	科学的評価法の解説と実験4 (酵素的褐変) 食品の鑑別理論8 (魚介類とその加工品・油脂)
第12回	科学的評価法の解説と実験5 (非酵素的褐変) 食品の鑑別理論9 (果実類・醸造食品・調味料)
第13回	科学的評価法の解説と実験6 (糖度・酸度) 食品の鑑別理論10 (コーヒー・ココア・茶類、清涼飲料)
第14回	分析方法の解説 官能評価法演習7 (評点法・SD法) グループによる食品官能評価の計画 食品の鑑別理論11 (菓子類インスタント食品・弁当・惣菜)
第15回	官能評価法演習8 (各グループが立案した食品官能評価の実践) まとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・実験・演習中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつけること。
- ・実験・演習中は、白衣を着用すること。
- ・実験・演習中、官能評価中は私語を慎むこと。
- ・1クラス定員24人とする。
- ・レポート提出は、翌週の授業開始前とする。
- ・官能評価の食品代金(500円)が必要
- ・食品官能評価の実践日は変更することがある。
- ・食品の鑑別理論は学習者主体の授業形式により進める。

講義コード	24515101		
科目名	食品流通論 食品の生産から流通、消費まで		
担当者	工藤 春代		
単位数	2	配当学年	234
資格	[フ]		
前提科目			
テキスト	『三訂 食品の消費と流通』 日本フードスペシャリスト協会 建帛社 2016		
参考文献	『食料経済—フードシステムからみた食料問題—』 高橋正朗 理工学社 2010 『フードシステムの経済学』 時山山ひろみ・荻開津典生 医歯薬出版株式会社 2008		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

食品が私たちの手元に届くまでには、生産・加工・流通という多段階にわたる複雑なプロセスをたどるため、その現状や実態は見えにくい。そこで本講義では、食品が消費者に届くまでの仕組みと、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動や各段階の特徴について理解することを目標とする。また食生活の変化やそれがフードシステムに与える影響についても理解する。食の現在と、私たちが直面している食をめぐる問題を考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

食生活の変化とその背景、フードビジネス (小売業、卸売業、外食産業、中食産業) の行動や全体的な構造、また現在の食品消費の課題 (環境問題や食品安全問題) について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストを用いて講義を行う。毎回レジュメを配布し、スライドやビデオ教材を活用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日ごろから食に関することに興味を持ち、新聞・ニュース等を通じて情報を収集すること。事前にテキスト (授業予定分) を読んでおくこと。授業終了後に課題を提示するので、次回の授業時に提出すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度と授業態度 (20%) および定期試験 (80%) で評価する。毎回講義後に、簡単な課題を提出してもらう。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス：食生活や食品生産・流通の仕組みを理解する意義について、フードシステムという概念をもとに説明する。
- 第2回 食生活形態と食品消費の変化①：現在の私たちの食生活の特徴

について理解する。食生活形態の変化や、変化の要因について説明する。

- 第3回 食生活形態と食品消費の変化②：コメ、野菜、畜産物などの品目別消費量の変化や、食の変化を示すキーワードについて学ぶ。
- 第4回 フードマーケティング①：マーケティングの基礎知識を学ぶ。またフードマーケティングの事例も紹介する。
- 第5回 フードマーケティング②：企業や消費者を取り巻く大きな環境変化について説明する。
- 第6回 食料品の中間流通①：生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場について説明する。
- 第7回 食料品の中間流通②：加工食品を扱う食品問屋 (食品卸) について、その役割と近年の動向を説明する。
- 第8回 食品市場と食品流通①：食品小売業について学ぶ。主にチェーン展開しているスーパーマーケットを取り上げ、その運営の仕組みや商品政策について説明する。
- 第9回 食品市場と食品流通②：外食産業について学ぶ。主にチェーンレストランを取り上げ、その運営の仕組みや食材供給システムについて解説する。
- 第10回 食品市場と食品流通③：中食産業について学ぶ。主にコンビニエンスストアを取り上げ、その運営の仕組みや今後の動向などについて説明する。
- 第11回 食品市場と食品流通④：第8～10回の授業に関連する具体的な事例について学ぶ (ビデオ教材)。
- 第12回 新しい食品消費の課題①：食にかかわる環境問題、また環境保全のための国や企業の取り組みについて解説する。さらに食品廃棄・ロスの現状についても説明する。
- 第13回 新しい食品消費の課題②：食品の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する (前半)。前半はリスクアナリシスの仕組みを学ぶ。
- 第14回 新しい食品消費の課題③：食の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する (後半)。後半は企業における食品安全管理システム (HACCP など) について学ぶ。
- 第15回 新しい食品消費の課題④：第12～14回の授業に関連する具体的な取り組み事例について学ぶ (ビデオ教材)。

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24515201		
科目名	フードスペシャリスト論		
担当者	今井 里佳		
単位数	2	配当学年	234
資格	[フ]		
前提科目			
テキスト	『四訂フードスペシャリスト論第3版』 (公社) 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2016		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

フードスペシャリストが社会から期待される活動のアウトラインを理解し、「食」に関する総合的な知識を得る。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①フードスペシャリストの概念や、その責務について理解する。
- ②世界や日本の食生活に関する基本的知識を学ぶ。
- ③現代の食生活の諸問題を知り、豊かで安全かつバランスのとれた「食」について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ①授業方法：講義形式を主とし、適宜演習を取り入れる。
- ②学習方法：適宜小テストやレポートを課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバスにそって、教科書の該当箇所を予習する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(20%)、小テスト(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 フードスペシャリストとは
- 第2回 人類と食物
- 第3回 世界の食①
食作法および食の禁忌と忌避について
- 第4回 世界の食②

- 世界各地域の食事情について
- 第5回 日本の食
- 第6回 現代日本の食生活①
現在日本が置かれている食の状況や変遷について
- 第7回 現代日本の食生活②
食料自給率や地球環境と食の問題について
- 第8回 食品産業の役割①
食産業の構造について
- 第9回 食品産業の役割②
食産業の実態について
- 第10回 食品の品質規格と表示①
食品の品質規格・表示に関わる法律について
- 第11回 食品の品質規格と表示②
JASによる規格と表示について
- 第12回 食品の品質規格と表示③
食品衛生法による規格と表示について
- 第13回 食品の品質規格と表示④
健康増進法による規格と表示について
- 第14回 食情報と消費者保護
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24520001			
科目名	アパレル造形学(実習を含む)			
担当者	牛田 好美・鳥居本 幸代			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[家]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員24人 週1.5コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

被服構成の方法には立体構成と平面構成とがある。日本において前者は洋服、後者は和服に代表される。今年度は、浴衣を課題とし、両者の考え方の違いを理解しながら、着衣基体である人体の理解と、家庭科教員免許状に必要な基礎技術の習得をはかる。立体裁断、平面製図について、それぞれの解説を行い、理解をうながす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

被服構成の理論を浴衣の製作を通じて理解し、実習技術を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

随時、プリントを配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

配布資料をよく読むこと。浴衣製作においては、その授業内で仕上げられなかったことは、必ず、次週までに仕上げ、次の授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

作品の提出(50%)、授業参加度(30%) 授業への意欲(20%)により、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 立体構成法と平面構成法の相違点について
- 第2回 採寸による人体把握
- 第3回 浴衣製作の概要説明
- 第4回 生地と裁縫用具について
- 第5回 浴衣製作① 柄合わせ、裁断
- 第6回 浴衣製作② しるしつけ
- 第7回 浴衣製作③ 袖
- 第8回 浴衣製作④ 背縫い
- 第9回 浴衣製作⑤ 脇縫い
- 第10回 浴衣製作⑥ おくみ付け
- 第11回 浴衣製作⑦ えり付け
- 第12回 浴衣製作⑧ 袖付け
- 第13回 仕上げ
- 第14回 着付け
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

材料費については、自己負担です。

実習を含む講義であるため、欠席した場合、履修生の負担は大きくなります。

講義コード	24520101			
科目名	ハーフシッキングイクスイーン			
担当者	藤原 智子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[家][フ]			
前提科目				
テキスト	『新版トータルクッキング健康のための調理実習健康のための調理実習』 大喜多祥子・濱口郁枝編著・濱口郁枝編著 講談社 2015			
参考文献	『NEW調理と理論』 山崎清子他 同文書院 2014 『日本食品標準成分表2015』			
備考	定員32人 週2コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

基本的な調理操作と食品素材の調理特性について理解し、調理技術の基礎を修得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 科学的な調理理論に基づいた調理操作を理解する。
- 基礎的な調理技術を身につける。
- 基本的な食事マナーやサーブの仕方を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習内容についての説明(資料配付)の後、グループごとに調理、試食を行う。片付け、掃除を終え、担当者の確認を得るまでが授業である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、課題レポートを作成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度(30%)、課題レポート(50%)、小テスト(20%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス・実習の進め方について
- 第2回 調理の基本操作① はかる 製菓
- 第3回 調理の基本操作② 浸出(だしを取る)・炊く 日本料理製作
- 第4回 調理の基本操作③ 切る・ゆでる 西洋料理製作
- 第5回 調理の基本操作④ 炒める 中国料理製作
- 第6回 調理の基本操作⑤ 煮る・味をつける 日本料理製作
- 第7回 調理の基本操作⑥ 焼く 西洋料理製作
- 第8回 調理の基本操作⑦ 天火焼 製菓
- 第9回 調理の基本操作⑧ 蒸す 中国料理(点心)製作
- 第10回 調理の基本操作⑨ 揚げる 日本料理製作
- 第11回 調理の基本操作⑩ 寄せる 製菓
- 第12回 調理の基本操作⑪ 混合 西洋料理製作
- 第13回 調理の基本操作⑫ 魚をさばく 日本料理製作
- 第14回 調理の基本操作⑬ 電子レンジ調理 西洋料理製作
- 第15回 小テスト、まとめ、実習室の掃除

6. Special Information (留意事項)

食材費、その他諸費として12,000円を徴収する。

実習時には白衣を着用する。

講義コード	24520201			
科目名	アドバンスクイクスイーン			
担当者	藤原 智子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目	ハーフシッキングイクスイーン(基礎調理実習)			
テキスト	『新版トータルクッキング健康のための調理実習』 大喜多祥子・濱口郁枝編著 講談社 2015			
参考文献	『NEW調理と理論』 山崎清子他 同文書院 2014 『日本食品標準成分表2015』			
備考	定員32人 週2コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

各国の料理や日本の行事食などの製作を通して、献立から調理、テーブルコーディネートに至る過程において必要不可欠な要素を理解し、食文化に関する様々な場面に対応することができる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 様々な場面における献立の組み方と調理操作の流れを理解する。
- 食卓の整え方を学び、食文化について造詣を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習内容についての説明(資料配付)の後、グループごとに調理、試食を行う。片付け、掃除を終え、担当者の確認を得るまでが授業である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、課題レポートを作成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、課題レポート(50%)、小テスト(20%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | | |
|------|------------------|-----------------|
| 第1回 | ガイダンス・テーブルマナー | |
| 第2回 | 日本料理の特徴について | 日本料理製作 |
| 第3回 | 西洋料理の特徴について | 西洋料理製作 |
| 第4回 | 中国料理の特徴について | 中国料理製作 |
| 第5回 | エスニック料理 | |
| 第6回 | ベジタブルカービング① | 大根のマーガレット・人参の麦穂 |
| 第7回 | ベジタブルカービング② | 西瓜のバラ |
| 第8回 | 酵母食品について | 製パン |
| 第9回 | 日本の飲み物について | 製菓 |
| 第10回 | 行事食① | クリスマス料理製作 |
| 第11回 | 行事食② | 正月料理製作 |
| 第12回 | 外国の飲み物について | 製菓 |
| 第13回 | 保存食品について | 保存食品製作 |
| 第14回 | 行事食③ | 雑祭り料理製作 |
| 第15回 | 小テスト、まとめ、実習室の大掃除 | |

6. Special Information (留意事項)

受講者は食材費、その他諸費として15,000円が必要。

授業時には白衣を着用する。

講義コード	24520301			
科目名	フードコーディネイト論			
担当者	藤原 智子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[フ]			
前提科目				
テキスト	『三訂フードコーディネイト論』(社)日本フードサービスリサーチ協会編 建邦社 2013			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

マナーを含む食文化に関する基本的な知識と、実践のための具体的な方法を習得する。また、食器、食空間など食のアメニティの創造要因について知り、フードビジネスに必要な知識を学び、食をコーディネートする力を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 食をコーディネートする基本的知識を学ぶ。
- 事業として食を提供する具体的な方法を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を行う。

授業中に小テストを実施したり、その場でのレポート作成と提出を指示する場合がある。

または授業外レポートを課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(20%)、授業内小テストおよび授業内レポート(40%)、授業外レポート(40%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|-----|-----------------|
| 第1回 | フードコーディネートの基本理念 |
| 第2回 | 日本の食事 |
| 第3回 | 外国の食事 |
| 第4回 | 日本料理の食卓のコーディネート |
| 第5回 | 外国料理の食卓のコーディネート |
| 第6回 | サービスとマナー |
| 第7回 | メニュープランニング |
| 第8回 | 料理モードとメニュー開発 |
| 第9回 | 食空間のレイアウト |

- | | |
|------|------------------|
| 第10回 | 食空間の設備 |
| 第11回 | フードサービスマネジメントの基本 |
| 第12回 | フードサービスの起業 |
| 第13回 | 食企画の実践コーディネート |
| 第14回 | 食企画書の作成 |
| 第15回 | まとめ |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24520401			
科目名	住環境学(製図を含む)			
担当者	竹原 広実			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[家][建][イ]			
前提科目				
テキスト	『基礎からわかる建築環境工学』横野 彰国社			
参考文献	『生活環境学』岩田利枝 井上書院 2008 『建築環境工学』加藤信介 彰国社 2002 『やさしい建築環境』辻原万規彦 学芸出版社 2009 『図解住居学5 住まいの環境』図解住居学編集委員会編 彰国社 『初学者の建築講座 建築環境工学(第2版)』市ヶ谷出版社 表題に環境工学、建築環境工学、建築環境 と銘打った書籍であれば参考になる			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

私たちの生活環境は向上し、快適な住宅に暮らしていると考えられている。しかし、現在の住環境において新たに発生している問題も多い。講義では健康で、安全で、より豊かな生活を実現するための住宅環境全般に渡る基礎的知識の習得をはかり、同時に住まいに対するより深い理解と実生活への積極的な応用を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 住宅を取り巻く環境について理解する。
- 物理的側面からの「快適」を把握する。
- 基礎的専門用語を正しく理解する。
- 建築材料の特性を知り、環境空間にどう影響するかを理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1)講義主体

(2)講義は教科書を中心に進行

(3)適宜配布するプリントで教科書の欠を補う

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストを読むなどして予習をするとともに、前回授業の復習をしっかりととして知識を定着させておくこと。学術的な単位や記号、式に関しては正しく理解するよう努力すること。また日常の生活体験を通して環境工学を理解すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は形成テスト(90)、授業の参加度(10)を基本として行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|---------------|
| 第1回 | 住環境計画とは、製図の基礎 |
| 第2回 | 音の三属性 |
| 第3回 | 音の特性、音の伝わり方 |
| 第4回 | 騒音と騒音対策 |
| 第5回 | 遮音 |
| 第6回 | 吸音 |
| 第7回 | 伝熱 |
| 第8回 | 熱損失、断熱 |
| 第9回 | 熱貫流 |
| 第10回 | 熱容量 |
| 第11回 | 日照 |
| 第12回 | 照明環境 |
| 第13回 | 空気汚染物質 |
| 第14回 | 換気計画 |
| 第15回 | 形成テストとまとめ |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24520501		
科目名	京都衣生活論 京都からキモノを知る		
担当者	鳥居本 幸代		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ホ]		
前提科目			
テキスト	プリントを配布する		
参考文献	『日本の染織4『小袖』長崎巖 京都書院 1993年 『日本の染織2『辻が花』河上繁樹 京都書院 1993年 『日本の染織5『友禪染』丸山伸彦 京都書院 1993年 『都風俗化粧伝』佐山半七丸 平凡社 1982年 『近世風俗志』喜田川守貞 名著刊行会 1979年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

京都は平安京遷都以来、ファッションの発信地であった。キモノを彩る染と織の技術は、奈良時代、中国との交流によって伝来し、平安時代には織部司を設置してその技法伝承に務めたが、応仁の乱によって高度な染織技術は灰燼に帰してしまう。その後、明貿易によって異国の目新しい染織品がもたらされ、戦禍を逃れた職人たちは西陣跡に大舎人座を結成し、新しい息吹を吹き込んだ。17～18世紀には友禪染が誕生し、小袖の上着化にともなう大いに発展した。本講義では、現代にも受け継がれているキモノの源流である安土桃山時代の近世初期小袖から江戸時代にもみる小袖の意匠、その染織技法について述べるとともに、キモノを通して「和」の文化を再認識し、京都の衣生活文化を探求する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ① 中世の京都
- ② 応仁の乱と染織界
- ③ 安土桃山時代の服飾
- ④ 小袖の形態的変遷
- ⑤ 雛形本にみる小袖意匠
- ⑥ 小袖を彩る染織技法
- ⑦ 京都の伝統産業と衣生活 - 西陣織・友禪染・縮緬
- ⑧ 京坂と江戸の衣生活比較
- ⑨ 『都風俗化粧伝』からみた化粧
- ⑩ 京都の仕事着
- ⑪ 現在のキモノ

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式をとり、パワーポイントやビデオを使用して視覚的理解を促す。第1回以降、授業終了後にまとめの小テストを行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業予定に則して、事前に与えられた課題（たとえば、第3回では友禪染についての知識）を調べてまとめておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度（30%）、小テスト（20%）、確認テスト（50%）に基づいて総合的に行う。欠席・遅刻は、減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序論 キモノのルーツを探る 大袖から小袖へ
- 第2回 近世初期小袖のデザイン
- 第3回 雛型本から流行の小袖を知る
- 第4回 友禪染
- 第5回 時代祭にみるファッションの変遷
- 第6回 尾形光琳の小袖製作と影響
- 第7回 江戸好みの小袖
- 第8回 『近世風俗志』による京坂と江戸の衣生活の比較
- 第9回 染と織の基礎
- 第10回 西陣織と縮緬 京都の伝統産業の現状についてもふれる
- 第11回 キモノの模様
- 第12回 祇園祭と染織品
- 第13回 『都風俗化粧伝』から知るメイク
- 第14回 販婦の衣裳からみた京都の仕事着
- 第15回 現代のキモノ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24520601		
科目名	京都食生活論		
担当者	藤原 智子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[ホ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	授業中に適宜、紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

京都で培われた伝統料理である京料理を中心に京都府の食文化について造詣を深め、科学的な情報が乏しかった時代にあっても経験的に選択し構築されてきた、現代にも通用する合理的な京都の食生活様式について理解することができる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 京料理の歴史と発展について学ぶ。
2. 京都の地域的特色（地理気候・風俗風習）から京都の食文化の特徴を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を行う。必要に応じて資料を配付する。

授業後に小レポートを課す場合がある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各授業の終わりに次回までに調べてくる課題を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度（30%）、レポート（70%）に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 京都の食文化
- 第2回 京料理の歴史と発展
- 第3回 有職料理
- 第4回 精進料理
- 第5回 懐石料理
- 第6回 おばんざい
- 第7回 四季の食事
- 第8回 行事とともにある食事
- 第9回 京都の食素材(1)農産物
- 第10回 京都の食素材(2)水産・畜産物
- 第11回 京都の食素材(3)加工品
- 第12回 京菓子の世界観
- 第13回 山城・丹波・丹後地域の食事
- 第14回 世界から見た京料理
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24520701		
科目名	京都住生活論		
担当者	増井 正哉		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ][ホ]		
前提科目			
テキスト	授業時間中に資料を配布する。		
参考文献	『まち祇園祭すまい』谷直樹・増井正哉編 思文閣出版 『京町家・千年のあゆみ 都にいきづく住まいの原型』高橋康夫 学芸出版社 『京町家づくり千年の知恵―「間口三間」を生かす独自のこしらえ』山本茂 祥伝社 『京町家』新谷昭夫 光村推古書院 『京町家のしきたり 218年の歳中覚』杉本節子 光文社 『東京育ちの京町家暮らし』麻生圭子、文芸春秋社 『京町家の春夏秋冬』小島富佐江、文芸堂 『町家再生の技と知恵―京町家のしくみと改修のてびき』京町家作事組、学芸出版社		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

京都における住生活と生活空間の関連性を、町家→町内→都市という空間的スケールを縦軸に、日常・非日常という横軸を組みあわせて考え、その歴史と現代的課題を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

講義を通して知識をえるとともに、できるだけ町家があるき、京都の住生活と生活空間に触れること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

第1-2回までを講義とする。途中に適宜、見学を行う。第5回目に京都における住生活に関するレポートを課し、第1-3、1-4回に各自その内容を発表し、相互に論評しあう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の授業の終わりに、授業内容の復習と準備学習のための参考図書・文献を指示し、次回までの小課題を課す。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポートの評価(40%)、最終プレゼンテーション(第13回、第14回)の評価(40%)、講義中の質疑応答(20%)で、最終評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 京都における住生活と都市・住宅
- 第2回 住生活の舞台 その1 町家
- 第3回 住生活の舞台 その2 町内と都市
- 第4回 生活空間の形成 その1 平安京から町家の都市へ
- 第5回 生活空間の形成 その2 伝統的都市空間とその近代の変容
- 第6回 町家のくらし
- 第7回 町内のくらし
- 第8回 都市祭礼と町家・町並み その1 祭りを支える基盤
- 第9回 都市祭礼と町家・町並み その2 祭りの空間演出
- 第10回 京都の町づくりと住生活
- 第11回 京町家再生の現状と課題
- 第12回 京都ブランドと住生活の未来
- 第13回 プレゼンテーション その1
- 第14回 プレゼンテーション その2
- 第15回 プレゼンテーションの講評とまとめ

6. Special Information (留意事項)

- 第3回 事前授業見学(京都の住文化)
- 第4回 事前授業実習(京都の衣文化)
- 第5回 町家見学①(京都のくらしを体験する)
- 第6回 町家見学②(京都の食文化を体験する)
- 第7回 町家見学③(京都の住文化を体験する)
- 第8回 町家見学④(京都の衣文化を体験する)
- 第9回 町家見学のまとめ
- 第10回 町家で体験実習①(おぼんざいを作る)
- 第11回 町家で体験実習②(型染め体験)
- 第12回 町家で体験実習③(扇子をつくる)
- 第13回 デザイン実習①(学生コンテストにむけて)
- 第14回 デザイン実習②(作品企画)
- 第15回 中間発表会
- 第16回 デザイン実習③(作品制作)
- 第17回 デザイン実習④(作品展示)
- 第18回 特別授業①(服飾作家の先生による)
- 第19回 衣分野実習①(企画)
- 第20回 衣分野実習②(制作)
- 第21回 衣分野実習③(発表)
- 第22回 住分野実習①(企画)
- 第23回 住分野実習②(制作)
- 第24回 住分野実習③(発表)
- 第25回 食分野実習①(企画)
- 第26回 食分野実習②(制作)
- 第27回 食分野実習③(発表)
- 第28回 特別授業②(マーケティング分野の先生による)
- 第29回 まとめ
- 第30回 全体発表会

6. Special Information (留意事項)

見学および実習は、土・日曜日や夏期休暇期間中に行うことがあります。見学および実習にかかる費用(交通費および材料費)は自己負担となります。特別授業の時期及び内容は、講師の都合で変更になることがあります。見学先や体験実習の内容については、授業内で発表します。

講義コード	24520801			
科目名	京都生活産業実習			
担当者	牛田 好美・加藤 佐千子・中村 久美・竹原 広実・鳥居本 幸代・藤原 智子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員20人 隔年開講2			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目では、京都での生活や伝統産業を学び、関連する地域や企業の見学研修および作品制作を行う。ライフデザイン領域で学んだ、専門的な「衣食住」の知識や技術を活かし、女性ならではの感性を活かした企画・提案を行う。京都の伝統を直接に感じ、地域へのより一層の理解や連携に発展することを期待する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 京都の歴史や伝統および地元産業への理解を深める
- 2 職業意識の向上
- 3 発想力の養成
- 4 専門分野に関して、現場での応用・実践をすることで、より確かな知識や技術の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1 事前授業
- 2 見学実習
- 3 担当教員の指導
- 4 実習報告および作品発表

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

京都の伝統や文化を感じるため、積極的に、京都の神社仏閣を訪れたり、街中にてかけてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、発表とレポート(50%)、授業への意欲・積極性(20%)で行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 事前授業(京都の食文化)

講義コード	24520901			
科目名	ビジネスの基礎 社会人として世の中が求める教養を身につけましよう			
担当者	新村 佳史			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは特に使用しません。毎回、受講者の意見を聞きながらプリントを準備します。			
参考文献	世界地図 好きな雑誌 世界について書かれた好きな本			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26524001			
科目名	ビジネスの基礎 社会人として世の中が求める教養を身につけましよう			
担当者	新村 佳史			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは特に使用しません。毎回、受講者の意見を聞きながらプリントを準備します。			
参考文献	世界地図 好きな雑誌 世界について書かれた好きな本			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業で学ぶは、社会人として求められる一般教養、そしてコミュニケー

ション力を育てよう、というものです。みなさんは「自分が考えていることをきちんと人に伝える」ことができているか？ちょっと苦手、という人はぜひ選択してください。それを楽しく身につけていくために、音楽やファッション、食べものなど身近なことをまず見つけます。そこから話題を深めていきましょう。覚えるのではなく考えるから身につく雑学ですね。そこから今度は、自分なりの考えをまとめていく、と言う企画力作りに入ります。短期間で成長が実感できる、そういう授業を目指しています。ことに自分の未来を考える力を育てます。書く、考える、話し合う、意見を発表する量が多くなります。就職試験で求められる面接やグループディスカッション対策にもなる講義です。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・基礎教養の再確認 世界を広げるための基礎力チェックとその養成、ことに宗教と民族の特性について
- ・メディアの特質とその個性 新聞、テレビ、映画、通信、広告などの役割
- ・社会参加の様々な方法を知ろう
- ・ビジネスにおける情報の価値を知る
- ・これから企業や社会はどうなるか
- ・コミュニケーション力とはなにか
- ・相手を知らないとは始まらない
- ・世代論の基礎 自分たち世代の強み、弱みを知ろう
- ・企画とはなにか すべては上手な目標設定から
- ・企画を実際に立ててみよう 上手に自分の考えを伝える手法

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回プリントを準備し、さまざまなテーマについて知り、考えるという作業を行います。また、企画書の作成はもちろんのこと、その回のテーマについて考えたことを多様なスタイルで「書く」ことで、自分の考え方の確認をするとともに、言葉を用いての情報発信の技術を身につけていきます。書くことがきつと、楽しくなります。プリント、作成物をまとめておくファイルを必ず準備してください。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

新聞を読む、ニュースを見るという習慣を身につけてください。また海外への関心の高い人を歓迎します。講義を通して、みなさんが旅行したくなる場所を見つけてくれれば幸いです。旅は生きるためのフォーム・基礎力を育ててくれます。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験は行いません。授業中の態度と制作物、小テストで判断します。
 授業態度・姿勢 30%
 授業中の課題(作文など) 30%
 最終制作物(企画書) 40%
 毎回の課題(小テスト)、授業態度の評価度合いが高いので、欠席が多いようだと単位の認定は難しくなります。注意してください。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 メディアについて知ろう 日本のメディアの特質と、広告論、聞く力の重要性
- 第2回 世界を知る基礎教養・1 世界のことをもっと知ろう 宗教、民族の基礎
- 第3回 世界を知る基礎教養・2 面白い現代史 アジアと西洋をつなぐもの
- 第4回 自分を伝える技術を持とう・1 上手な話の聞き方、まとめかた
- 第5回 自分を伝える技術を持とう・2 こう書けば、簡単に伝わる文章が書ける
- 第6回 国際コミュニケーション力とは何か 語学はツール、問題は中身
- 第7回 世代を知ろう 今の20代を大人はどう見ているか知ろう
- 第8回 さまざまな人の中での自分の客観化「私」はどこにいる
- 第9回 ターゲット、という考え方 自分と人とは似ているし、違う
- 第10回 企画力をつける・1 目的の立て方
- 第11回 企画力をつける・2 手順の確認と評価の仕方
- 第12回 企画書を作る・1 まず自分の旅行計画書を作ってみよう
- 第13回 企画書を作る・2 根拠を示すための数字の使い方
- 第14回 企画書を作る・3 課題に沿って企画書を作る
- 第15回 発表

6. Special Information (留意事項)

みなさんの興味によって授業内容は変わります。自分の関心あることを積極的に発言してください。

講義コード	24521001			
科目名	マーケティング論 数字に強い生活者になろう			
担当者	新村 佳史			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	今年度は特定のテキストは使用しません。毎回、プリントを準備します。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26524101			
科目名	マーケティング論 数字に強い生活者になろう			
担当者	新村 佳史			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト	今年度は特定のテキストは使用しません。毎回、プリントを準備します。			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「映画も好き、食べることも好き、音楽も好き、彼氏も好き」・好き、という言葉は何にでも使えますよね？でも、「好き」の中身は微妙に異なるはずです。なんとかその違いを、うまく言い表せないかな、と考えたときに、役に立つのが「数字」です。感覚的なことを、上手に数値化できないかな、というのが現在の「マーケティング」です。形容詞でなく、数字で語る事ができる、数字を読むことができる基礎を育てる授業です。また、数字を使うための上手な調査—アンケートの作り方については、時間をかけてじっくり学べるように考えています。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てます。数学が苦手でも、数字の面白さがわかるように進めていきます。これからの時代を上手に生きていくために必要な力を身につけてください。特に、大事なお金の使い方については丁寧に指導していきます。広告にだまされない知恵を身につけましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・データの読み方、集め方
- ・企業の商品開発の進め方・集めたデータから何を取り出すか
- ・イメージの数値化・好き、嫌いの感覚を分析する手法
- ・自分がビジネスをしたら・ビジネスチャンスをデータから発見する
- ・調査票を作る・データは取り方で変化する
- ・これからの時代のお金の運用・大事なお金を減らさないために

3. Course Method (教育・学習の方法)

基本的には自分の好みをなんとか数字にして、データを個々で蓄積していきます。また簡単なアンケート票の作成、発表をグループ単位で実施。実習的な演習を行いません。各自の趣味、関心について「自分がなぜそれを好きになったのか」を探りながら、現代社会における企業の戦略についても各々が「気づく」ことを意識して授業を進めます。それにより、社会や企業活動に関心が深まることを期待しています。また、「だまされない生活者」になってください。そのためにお金についても考えていきます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

自分が好きなこと(音楽、ファッション等なんでもいいです)の理由を考えておいてください。あなたはなぜ、それが好きなんですか？ペットと彼氏とスイーツの「好き」に順位をつけることはできますか？とにかく考えることを重視します。その良さを上手に他人に伝えましょう。きつと、友達が増えますよ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業に対する積極的な参加姿勢(30%)。
 授業内での課題への評価(30%)。
 授業期間内での試験(40%)。
 授業中の積極的な発言、課題への真剣な取り組みを高く評価します。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 自分たちの「好み」とその形成をふりかえって 好きになるっ

- て何？
- 第2回 企業が「好み」をつかまえる技術・・・マーケティングの考え方と流行の誕生
- 第3回 ニーズから行動へ 購買行動を考える・・・あなたの買い方はみんなと同じですか
- 第4回 リーダーはどこにいる イノベーターという考え方
- 第5回 テレビ番組やコマースのターゲットは誰でしょう
- 第6回 質問紙作成のテクニック 調査は『聞き方』で決まる
- 第7回 グループで調査計画、質問紙を作成してみよう
- 第8回 調査結果の上手な報告の仕方について
- 第9回 グループごとに調査結果を報告してみよう
- 第10回 消費者集団とはなにか 自分とはたして「普通」だろうか
- 第11回 差別化戦略とその具体的な方法論
- 第12回 マーケティングはどんな業種で求められているのか
- 第13回 これからの経済と、お金の守り方について
- 第14回 試験（1時間）これからのマーケティングの課題
- 第15回 試験解説、総論、まとめ

6. Special Information (留意事項)

グループ作業が多い授業です、積極的に人と話すことが求められます。

講義コード	24521101			
科目名	女性起業論 女性起業家が社会を変える			
担当者	吉村 恵			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業内で紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

女性が会社や組織を設立する動きが活発化している。こうした女性による起業の動機や背景、経営手法などをみると、男性とは異なる特徴が多く見出される。仕事や生活、地域活動等を通じた力量やネットワークを活かして起業し、「進化」を続ける女性起業家が少なくない。この科目では、生活・福祉の分野を中心に女性起業家の実像に迫っていく。また、一部の時間はグループワークにあて、アイデアを出し合って事業計画を立て、プレゼンテーションを行う。近年、企業においても、高い起業マインドや企画力、プレゼンテーション能力を持つ人材を求める傾向が強まっている。起業に興味のある人はもちろん、就職活動で必要な企画力、プレゼンテーション力を身につけたい人にも受講してほしい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 女性のライフスタイルと雇用環境の変化を把握する
- 自己分析と自己アピールの手法を学ぶ
- 女性起業家と事業の特徴を把握する
- 起業の多様な形態や起業支援策を把握する
- 新たなニーズに対応した商品・サービスに注目する
- 事業計画、経営計画をたてる
- 効果的なプレゼンテーションを行う

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回配布するレジメに沿った講義が基本である。適宜、ビデオやDVDを使用し、受講生が具体的なイメージを持てるように努める。グループ・ワークとプレゼンテーションも行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

受講生は、日頃から生活の様々な局面で、今、どのような商品やサービスが求められているかを常に意識してほしい。また、新聞や雑誌、文献を通じて、社会的ニーズや起業に関する情報収集が求められる。一方では、広く多くの情報を収集する訓練と他方では、一つの問題を深く多面的に掘り下げる訓練を行なってほしい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度30%、グループワーク、プレゼンテーション40%、提出物30%。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 はじめに一授業の目的と計画、起業とは何か
- 第2回 自己分析と自己アピールの効果的な方法-エントリーシートの書き方を中心に-
- 第3回 女性の雇用環境-ワークライフバランス、子育て支援など-
- 第4回 女性起業家の現状と課題
- 第5回 女性起業家支援策

- 第6回 女性起業家ケーススタディI
(コレボラボ、エニーズ、マザーネットなど)
- 第7回 Ⅱ
(エコトラック、みえちゃん工房など)
- 第8回 コミュニティビジネス
- 第9回 社会起業家
- 第10回 注目される会社・ショップ・商品
- 第11回 事業計画をどう立てるか
- 第12回 グループワーク (個別指導)
- 第13回 グループワーク (個別指導)
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24521201			
科目名	消費者教育 消費者として考えるべきこととは何か			
担当者	工藤 春代			
単位数	2	配当学年	234	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『新版 生涯消費者教育論—地域消費者力を育むために—』 谷村賢治・小川直樹編 晃洋書房 2007			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

私たちの生活は多くが商品やサービスを消費することで成り立っている。2004年の消費者基本法では、消費者の権利を尊重すると共に、消費者の自立を支援することが定められている。しかしここ数年で、消費者を取り巻く環境は大きく変化しており、消費者被害は後を絶たない。同時に消費者被害の対象は広範囲に及び、問題が複雑化・多様化しているのが現状である。本講義では、一人一人が適切な「選ぶ力、決める力」を身につけるにはどうすればよいかを考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

製品や取引をめぐる様々な消費者被害の実態を詳しく理解する。消費者を取り巻く新たな環境について学び、今後消費者に求められること、身につけておくべきことについて考える。また消費者は社会を形成する主体であることも認識し、どのような行動が必要かも考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストは使用せず、毎回資料を配布する。スライドやビデオを活用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日常的に消費者問題に関心を持ち、新聞やニュース等で情報を収集しておくこと。授業後に課題を提示するので、次回の授業時に提出すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度と授業態度(20%)、試験(80%)で評価する。毎回、授業後に小課題を提出してもらう。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス：消費者問題とは何か、消費者教育がなぜ必要かについて解説する。
- 第2回 消費者の意思決定プロセス①：私たちは商品・サービスを購入する際に、どのように情報を処理し、決定しているのだろうか。またものごとを認知するときにはどのようなバイアスがかかっているのだろうか。消費者の情報処理の特徴を知ることで、どのような問題が発生しやすいかの理解が可能になる。
- 第3回 消費者の意思決定プロセス②：第2回の続きを行う。
- 第4回 情報との付き合い方：私たちはメディア等を通して情報を受け取っている。メディアの情報提供方法や問題点を通じて、情報収集の際に気をつけるべきことを考える。
- 第5回 消費者問題の歴史：戦後から現在に至るまで、日本ではどのような消費者被害が発生し、問題はどのように変わってきたのかについて説明する。
- 第6回 消費者被害の実例①：様々な悪質商法による被害の実例とその対策について概説する。
- 第7回 消費者被害の実例②：生活用品に関する消費者被害の実例とその対策について概説する。
- 第8回 消費者被害の実例③：携帯・インターネット、金融問題などに関する消費者被害の実例とその対策について概説する。
- 第9回 食品に関する知識①：消費者の関心の高い食品を取り上げ、そ

の安全確保の仕組みや考え方を説明する。

- 第10回 食品に関する知識②：食品の表示制度について解説する。
 第11回 食品に関する知識③：「健康食品」に関してどのような問題があるのか、また情報収集や利用の際に注意すべき点を説明する。
 第12回 消費者行政・制度：消費者行政の仕組みや法律、消費者被害の救済制度について概説する。
 第13回 競争政策：事業者間の公正な競争を確保するために、どのような仕組みが整えられているかを説明する。
 第14回 消費行動の影響：私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例をもとに考える。
 第15回 消費者に必要とされること：これまでの内容を踏まえて、これから消費者に必要とされること、身につけておくべきことは何かを考える。

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24521301			
科目名	保育学（実習及び家庭看護を含む） 現代社会における子育て法			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[家]			
前提科目				
テキスト	『新保育学』 岡野雅子ほか 南山堂 2011			
参考文献	『育児の百科』 松田道雄 岩波書店 『子どもは素晴らしい』 牛尾信也ほか 金原出版 2007			
備考	全16コマ			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

人間の子どもは他の動物と異なり、自立のために親が長期にわたって世話をし、育てはぐくむ必要がある。子どもをしっかりと育てることは社会全体の最大の責任である。保育書を読んだり、ニュース等について考える時には、基礎となる正しい医学的・生物学的・社会学的知識を身に付けている必要がある。本講義の目的は、教養ある母親としての常識的な判断力を養い、世間の風評に左右されない保育者を育てることである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 保育を学ぶ 2. 子どもの発達 3. 子どもを育てる 4. 子どもの育つ環境の整備 5. 子どもとふれ合う（保育園実習） 6. 家庭における看護

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法 講義形式、見学実習では、現場へ出向する。
 2. 学習方法

- (1) テキストに沿って行く。プリント、OHC、パワーポイントで内容補充。
 (2) 提起された問題点を“一緒に考える”といった態度で授業に臨んで欲しい。
 3. テキスト・文献等
 (1) テキストは『新保育学』（南山堂）を用いる。
 (2) 参考文献『育児の百科』（岩波書店）、『子どもは素晴らしい』（金原出版）

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・ 次回の講義分のテキストを、しっかりと読んでくること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、レポート（10%）、授業参加度（10%）、定期試験（80%）の総合評価とする。 2. 3分の2以上の授業参加度がないものは、成績を評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
 第1章 保育を学ぶ（育児学と保育学）
 第2章 子どもの発達 A. 母体の健康管理と子どもの誕生
 第2回 第2章 子どもの発達 B. 子どもの心身の発育・発達（I）
 （新生児の生活現象）
 第3回 第2章 子どもの発達 B. 子どもの心身の発育・発達（II）
 （パーセントイル）
 第4回 第3章 子どもを育てる A. 愛着と自律
 宿題「愛着行動の重要性について」レポート、B. 親のかかわりと人格形成
 第5回 第3章 子どもを育てる C. 親の保育責任
 (DVD『頑張れ！お父さん』、基本的生活習慣)
 第6回 第3章 子どもを育てる D. 親の不適切なかかわりとその影響

(児童虐待)

- 第4章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊び
 1 子どもの生活（I）（母乳栄養と離乳の意義）
 第7回 第4章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊び
 1 子どもの生活（II）（衣生活、住生活）
 第8回 第4章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊び
 2 子どもの遊びと文化
 第9回 第4章 B. 家庭保育と集団保育子どもの育つ環境の整備
 C. 児童福祉、子育て支援
 第10回 第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て（I）
 (死因、感染症)
 第11回 第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て（II）
 (悪性新生物、アレルギー疾患など)
 第5章 子どもとふれ合う（保育園見学実習 事前指導）
 第12回 第6章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手当て（III）
 (小児生活習慣病、発達障害、不慮の事故)
 第13回 第6章 家庭における看護 B. 家庭における看護
 (事故、火傷、人工蘇生法)
 ・乳児の人工蘇生法実技演習
 まとめ（I）
 第14回 形成テスト
 第15回 形成テストの解説と評価、不登校の話
 第16回 第5章 子どもとふれ合う（保育園見学実習 事後指導）

6. Special Information (留意事項)

半日の保育園見学実習を行います。その日程により、事前・事後指導の日程が決まります。

講義コード	24521401			
科目名	健康科学概論 健康的に美しくあるために			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[保][健]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『テキスト健康科学』 佐藤祐造・竹内康浩・田中豊穂 南江堂 2007 『これからの健康とスポーツの科学』 安部 孝・琉子 友男 講談社サイエンティフィック 2001			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

平均寿命が世界第一位となった今、充実した人生を送るために、健康の意味をもう一度考え直し、健康を維持するための基本的な知識を理解する。特に、女性の体の仕組みを理解し、女性特有の健康を維持する方法を学ぶ。また、世界レベルの保健政策を行っている世界保健機関（WHO）の仕組みと役割を認識し、国際的視野から先進国日本の置かれている状況を学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 健康と体力の概念および世界保健機関の仕組みと役割 2. 骨粗しょう症について理解する。 3. 肥満とやせについて理解する。 4. 健康食品について理解する。 5. エイズの正体と予防、および感染症について理解する。 6. 女性の体の仕組みと妊娠および避妊について理解する。 7. 健康を害する疾病や喫煙、薬物などの、外的環境について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
 パワーポイントと配布プリントを中心に、DVDも使用して講義する。
 2. 学習方法
 (1) 講義をしっかりと聴いて、ノートを確実に取る。
 (2) 毎授業初めにスモールテスト（持ち込み）を行い、終了時に授業評価を行う。
 3. テキスト・文献など
 (1) テキストは、特に用いない。
 (2) 参考文献『これからの健康とスポーツの科学』（講談社サイエンティフィック）

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

分からないところは、FD用紙を使って質問し、必ず理解するように努めること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、授業参加度（15%）、定期テスト（80%）、DVDレポート（5%）

の総合評価とする。

2.3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 健康と体力、女性のオリンピック史
- 第2回 骨と健康Ⅰ (骨の役割、骨粗しょう症とは？栄養の効果、カルシウムとビタミンD)
- 第3回 骨と健康Ⅱ (運動の効果、女性ホルモンの役割、骨とダイエット)
- 第4回 健康食品の落とし穴 (肥満とやせ、医学的に安全なダイエット、サプリメントは大丈夫？)
- 第5回 世界保健機関 (WHO) の仕組みと役割 (組織の沿革と活動、わが国との関係、NGO、NPO、ODEとは？)
- 第6回 エイズそのⅠ (正体と予防、女性カウンセラーの体験実話と指導のDVD鑑賞)
- 第7回 エイズそのⅡ (実態と治療の現状)、恐ろしい性感染症の話Ⅰ (性感染症の知識、若者の現状、自分のこととして考える)
- 第8回 排卵の仕組み (女性の生殖器、排卵が起こる仕組み、男性の生殖器、受精・妊娠)
- 第9回 正しい避妊法Ⅰ (避妊法の知識、低用量ピルと緊急避妊ピルの話)
- 第10回 正しい避妊法Ⅱ、子宮頸がん予防について
- 第11回 健康を害するものⅠ (喫煙・薬物乱用)
- 第12回 健康を害するものⅡ (インフルエンザ、日本に定着したO-157、結核)
- 第13回 健康を害するものⅢ (環境ホルモンの正体、放射線の話など)
- 第14回 形成テスト
- 第15回 形成テストについて解説と評価

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24521501			
科目名	家庭科教育法Ⅰ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『中学校学習指導要領解説—技術・家庭科編—』 文部科学省 教育図書 『高等学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 開隆堂 『小学校家庭科教育法ワークブック』 鈴木洋子 家政教育社 『小学校家庭科概論—生活の学びを深めるために』 加地芳子・大塚真理子 ミネルヴァ書房 2011			
参考文献	『文部科学省検定済中学校技術・家庭教科書「家庭分野」』 開隆堂 『文部科学省検定済高等学校家庭基礎』 教育図書 『中学校学習指導要領』 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 文部科学省			
備考	[教] 家庭科必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

中学校家庭分野、および高等学校家庭科の学習指導の基礎となる専門的な内容・技術の中で、主に生活の自立や衣食住に関する内容を中心に切りあげ、それについての十分な理解と知識・技術の習得を目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。見学、特別講師による授業を取り入れることもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・テキストをよく読むこと。
- ・衣・食・住と関連する専門書を読んで、知識の習得に努めること。
- ・レポートは、教える立場に立って、学習者が理解しやすいようにするにはどのように工夫すればよいかを考えながら作成するとよい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価基準・学習指導要領を理解できたか

家庭科に必要な内容を理解できたか

家庭科に必要な基本的技術を習得できたか

教材の作成に積極的に取り組めたか

評価方法・試験 (50%)、レポート (30%)、発表 (20%)

・原則として遅刻・欠席は認めない

・10回以上の出席がなければ試験を受けることができない

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の進め方と評価についての説明、学習指導要領の解説Ⅰ
- 第2回 学習指導要領の解説Ⅱ
- 第3回 繊維・糸についての教授法の説明と演習
- 第4回 織・布についての教授法の講義と演習
- 第5回 界面活性剤の働きと、吸水性、吸湿性についての教授法の説明と実験
- 第6回 和装、洋装の原型の製図と教授法
- 第7回 基礎縫いの実技および和装の着用と和装キットの製作とその教授法
- 第8回 食品添加物の検出、だしのうま味を対比する実験とその教授法
- 第9回 栄養素、食品の組み合わせ、食事バランスガイドの解説と料理カードを使った演習及びその教授法
- 第10回 食品の成分 (小麦粉のグルテン抽出)、砂糖の温度変化についての解説と実験及びその教授法
- 第11回 住生活の自立の内容の解説と平面図とその記号を理解する演習とその教授法
- 第12回 学習ソフトを用いた教授法とソフトの使用法の理解 (栄養計算ソフト使用)
- 第13回 学習ソフトを用いた教授法とソフトの使用法の理解 (服飾ソフト使用)
- 第14回 食生活の課題発表
- 第15回 衣生活・住生活の課題発表

6. Special Information (留意事項)

・原則として2年次前期に履修すること。

・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。

・上記に示したテキスト以外に、「家庭科教育法」のテキストおよび、中学校家庭の教科書が必要 (授業の中で指示する)。

・受講生の理解度によって内容を変更することがある。

講義コード	24521601			
科目名	家庭科教育法Ⅱ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『中学校学習指導要領解説—技術・家庭科編—』 文部科学省 教育図書 『高等学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省 開隆堂 『小学校家庭科教育法ワークブック』 鈴木洋子 家政教育社 『小学校家庭科概論—生活の学びを深めるために』 加地芳子・大塚真理子 ミネルヴァ書房 2011			
参考文献	『中学校学習指導要領』 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 文部科学省			
備考	『家庭科教育法Ⅰ (生活の自立と衣食住)』 履修者であること [教] 家庭科必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

中学校家庭分野、および高等学校家庭科の学習指導の基礎となる専門的な内容・技術について、主に家族や家庭生活・福祉の内容を取り上げ、それについての十分な理解と知識・技術の習得を目的とする。また、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動についての実践方法を習得することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。見学、特別講師による授業を取り入れることもある。

- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・レポート作成は、教える立場に立って、学習者にどのような方法を用いて教えると理解しやすいかを考えて作成するとよい。
- ・日頃から子供や高齢者と接する機会を持つこと。
- ・家族に関する法律や保険制度などについて日頃から興味を持ち、知識を高めるよう努力すること。
- ・ホームプロジェクトを行うために、日常生活上の問題点や課題を見つけておくこととよい。
- ・専門書で、十分な知識の習得を行うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価基準・学習指導要領を理解できたか。

- 家庭科に必要な内容論を理解できたか。
- 家庭科に必要な基本的技術を習得できたか。
- 教材の作成に積極的に取り組めたか。

評価方法・試験 (50%)、レポート(20%)、発表 (30%)

- ・原則として遅刻・欠席は認めない。
- ・10回以上出席しなければ試験を受けることができない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の進め方、評価の仕方の説明、学習指導要領の解説
- 第2回 家族と家庭生活の歴史的变化、現代の家族の特徴の講義とその教授法
- 第3回 家庭・家族の機能についての講義と教授法 (ビデオ視聴)
- 第4回 自立に向けた人生を考えさせる教授法 (法律・保障を知るための冊子の利用法)
- 第5回 自立に向けた人生を考えさせる教授法 (人生すごろく作成法、家計費のゲームの利用法)
- 第6回 ホームプロジェクトの進め方と実践 (ビデオ視聴)
- 第7回 乳児の発達と保育を理解させる教授法 (教材ソフトの活用)
- 第8回 保育実習のための準備と心得の教授法 (DVD視聴)
- 第9回 高齢者福祉施設の種類と内容を理解するための教授法 (ビデオ)
- 第10回 高齢者理解の教授法 (高齢者疑似体験、ブラインド・ウォーク)
- 第11回 高齢者の介助と基礎介護の教授法 (排泄・着脱・清拭、食事介助体験、嚥下食体験)
- 第12回 消費者教育についての教授法 (消費者と販売者のロールプレイング)
- 第13回 消費者教育についての教授法 (カードの使い方のビデオ視聴)
- 第14回 課題発表 (家族に関するホームプロジェクト)
- 第15回 課題発表 (衣・食・住に関するホームプロジェクト)

6. Special Information (留意事項)

- ・原則として家庭科教育法Iを履修したものを対象とし、2年次後期で履修のこと。
- ・受講生の理解度に合わせて内容を変更することがある。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・著しく態度が悪い場合は退室させることもある。

講義コード	24521701			
科目名	家庭科教育法Ⅲ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『中学校教科書『新しい技術・家庭分野』東京書籍 『高等学校教科書『家庭総合』東京書籍 『評価基準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭科】』国立教育政策研究所教育課程センター 教育出版 『評価基準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【高等学校共通教科「家庭」』国立教育政策研究所教育課程センター 教育出版			
参考文献	『家庭科教育法』貴田康乃編著 佛教学部通信教育部 『平成14年度新観点別学習状況の評価基準表中学校・技術・家庭—ABC判定基準—』北尾倫彦 図書文化社 『中学校学習指導要領』文部科学省 『高等学校学習指導要領』文部科学省			
備考	『家庭科教育法Ⅱ(家族・家庭生活と福祉)』の履修者であること [教] 家庭科必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では、家庭科教育の意義、本質、家庭科の目標と指導内容、家庭

科の歴史の変遷についての基礎的理解と、家庭科の指導案の作成や教材作成の技術を身に付け、生徒の知識、実践および体験を生きる力に結びつけられるような授業を計画・設計し、実践する指導方法を身につけることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・中学校、高等学校における指導方法を理解する。
- ・指導案の作成、評価の仕方を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・講義、発表、教材制作、模擬授業等によって授業を進める。特別講師の講義も取り入れることもある。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
- ・人の前で話す練習や、大きな声を出す練習をしておくこととよい。
- ・板書の練習をしておくこととよい。
- ・教科に関する専門書をよく読み知識の習得につとめるとよい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価基準・学習指導要領を理解できたか

- ・指導案の作成方法がわかったか
- ・模擬授業を工夫して実施できたか
- ・授業観察の方法がわかったか

評価方法・試験 (60%)、発表 (10%)、レポート (30%)

特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。著しく態度が悪く、改善の様子がうかがえない場合、教師の資質に欠けると判断し、評価の対象から外すこともある。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の進め方と評価の説明、家庭科教育の特質と家庭科の歴史の変遷、家庭科の目標についての解説
- 第2回 学習指導要領の解説、改訂の経緯の説明
- 第3回 学習指導要領の見方、利用の仕方についての解説と演習
- 第4回 小学校、中学校、高等学校の家庭科の位置づけの解説
- 第5回 家庭科の学習指導の種類と内容、評価についての解説
- 第6回 消費者教育を題材にする教育方法の説明
- 第7回 教育機器の使用法 (黒板、カード、TP、OHC、OHP) の解説と実践
- 第8回 評価法についての解説、家庭科の施設と設備の説明
- 第9回 家庭科指導計画案の作成方法の説明
- 第10回 指導案作成と指導 (年間指導計画案作成と実践)
- 第11回 食生活に関する教材作成 (カード、表の作成)
- 第12回 保育に関する教材作成 (視聴覚教材の利用と演習)
- 第13回 指導案作成と指導 (題材指導計画案作成と実践)
- 第14回 指導案作成と指導 (本時の指導計画と実践)
- 第15回 教材作成と指導計画のまとめ

6. Special Information (留意事項)

- ・原則として家庭科教育法I (生活の自立と衣食住)、家庭科教育法II (家族・家庭生活と福祉) を履修済のもの。
- ・3年次前期で履修のこと。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・教科書は一部家庭科教育法I、IIで使用したものと同一。

講義コード	24521801			
科目名	家庭科教育法Ⅳ			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	家庭科教育法I・II・IIIで使用したものと同一。			
参考文献	『家庭科教育法』貴田康乃編著 佛教学部通信教育部 『平成14年度新観点別学習状況の評価基準表中学校・技術・家庭—ABC判定基準—』北尾倫彦 図書文化社 『中学校学習指導要領』文部科学省 『高等学校学習指導要領』文部科学省			
備考	『家庭科教育法III(指導法と教材作成)』の履修者であること [教] 家庭科必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では、模擬授業を通して、教育方法や教材の活用の仕方、授業評価について学び、指導や評価方法を体得することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・実際に教壇に立ち模擬授業を行う。
- ・模擬授業や教材開発・研究を通じて指導や評価方法を体得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・実際に授業を行う。
- ・他者の授業評価ができる。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
人の前で、喋る練習をしておくことよい。
大きな声を出す練習をしておくことよい。
教科に関する専門的な知識を身に付けておくことよい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

- 評価基準・学習指導要領を理解できたか
指導案の作成方法がわかったか
模擬授業を工夫して実施できたか
授業観察の方法がわかったか。
- 評価方法・指導案の提出 (50%)、指導案の内容 (25%)、
模擬授業 (25%)。
- ・試験は行わない。
 - ・特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。
 - ・10回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
 - ・著しく態度が悪く、改善の様子がうかがえない場合、教師の資質に欠けると判断し、評価の対象から外すこともある。
 - ・1回の模擬授業にあたり、数回の面接指導を受けなければならない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の進め方と評価についての説明、学習指導要領改訂の経緯の解説
- 第2回 家庭科の教育評価・学習評価、評価基準、観点別評価の説明
- 第3回 学習指導案の必要性・作成方法、学習指導の方法
- 第4回 家庭科の施設・設備の説明
- 第5回 学習指導案の作成と指導
- 第6回 作成した指導案(家庭分野Aの内容、人の一生の内容を中心に
行う)の指導と修正
- 第7回 模擬授業実施
- 第8回 作成した指導案(家庭分野Bの内容、生活の科学と環境の内容
を中心に行う)の指導と修正
- 第9回 模擬授業実施(Bの内容を中心に行う)
- 第10回 作成した指導案(家庭分野Cの内容、生活の科学と環境の内容
を中心に行う)の指導と修正
- 第11回 模擬授業実施
- 第12回 作成した指導案(家庭分野Dの内容、生活の科学と環境の内容
を中心に行う)の指導と修正
- 第13回 模擬授業実施
- 第14回 反省と評価(模擬授業収録ビデオの視聴)
- 第15回 まとめ(教育実習に向けて)

6. Special Information (留意事項)

- ・模擬授業を行う2週間位前に面接による指導を受けること(予約制)。
- ・原則として家庭科教育法I、II、IIIを履修済のもの。
- ・3年次後期で履修のこと。
- ・教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・教科書は家庭科教育法I、II、IIIで使用したものと同じものが必要。
- ・受講生の人数により「作成した指導案の指導」は授業時間外で行うこともある。

講義コード	24521901		
科目名	住居製図Ⅰ		
担当者	竹原 広実		
単位数	1	配当学年	2
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『建築製図 基本の基本』 櫻井良明 学芸出版社		
参考文献	『新しい建築の製図』 編集委員会編 学芸出版社		
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識の理解と製図技法の習得を目指すものである。基本図法を学んだ上で、各種図面の作図、表現方法を演習する。同時に様々な住宅図面を読み取り空間感覚を養うこと、空間に配置される多様なもののスケールへの認識を深めることも合わせて行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

製図法の基礎知識の理解 各種図面の理解と製図技法の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 課題の演習を基本とする
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
日常目に触れる広告などの図面に関心をもつこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業の性格上、全出席を求める。提出課題の評価(90)を中心に、授業への参加状況(10)などを加味して総合評価する。特段の理由のない遅刻は大きく減点対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合や課題がひとつでも未提出の場合は単位を与えない

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 図面の種類、図面記号、図面の描き方
- 第2回 木造住宅配置図 トレース課題演習1(下書き線)
- 第3回 木造住宅平面図 トレース課題演習2(壁、柱の下書き)
- 第4回 木造住宅平面図 トレース課題演習3(壁、柱の完成)
- 第5回 木造住宅平面図 トレース課題演習4(建具、設備)
- 第6回 木造住宅平面図 トレース課題演習5(文字)
- 第7回 木造住宅平面図 トレース課題演習6(寸法線)
- 第8回 住宅立面図トレース課題演習1(下書き線)
- 第9回 住宅立面図トレース課題演習2(屋根勾配線)
- 第10回 住宅立面図トレース課題演習3(寸法線)
- 第11回 住宅展開図トレース課題演習1(屋根勾配線)
- 第12回 住宅展開図トレース課題演習2(設備、部屋名、寸法線、記号)
- 第13回 住宅模型課題演習1(図面準備)
- 第14回 住宅模型課題演習2(パーツのカット)
- 第15回 住宅模型課題演習3(組立)

6. Special Information (留意事項)

科目の性格上、全出席が原則である。初回から必ずテキストを用意すること(テキストの図面をトレースする)

講義コード	24522001		
科目名	住居製図Ⅱ		
担当者	中村 久美		
単位数	1	配当学年	2
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	操作講習に関するオリジナルのマニュアル、資料を配布		
参考文献			
備考	定員20人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

CADによる製図の技法を学ぶ。実習課題(トレース)を通じ、住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識や、各種スペース・設備等のスケール感を養う。CAD操作の仕方を身につけたうえで、集合住宅の1室の間取りやインテリア装飾の設計・製図をCADを使って行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 製図法の基礎知識の理解
2. 各種図面の理解と製図技法の習得
3. CAD操作の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 課題の演習を基本とする。
2. 進捗状況により、授業空き時間を利用して課題の作成を各自すすめること。
3. 教員や他の受講者とのコミュニケーションから、積極的にCAD技術を習得する
4. 自分の習得レベルに応じて各種検定試験に挑戦するなど、能動的に学修する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

課題への取り組みは、締め切りを念頭に置いて、授業空き時間を利用して計画的に行うこと。様々な建築、都市空間を積極的に体感したり、日常の住生活において空間やモノのスケール感を養うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

提出された課題(70%)と授業参加状況(30%)により評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 CADの概要と基本操作
- 第2回 基本図形の演習
- 第3回 課題1「住宅部品の作成」
- 第4回 課題2「簡易なマンション平面図のトレース」レイヤーの理解
- 第5回 〃 壁と柱の包絡 開口部処理 文字記入
- 第6回 課題3「木造住宅平面図」グリッドを使った在来木造平面図の理解

第7回	〃	柱、壁、建具や家具記入
第8回	〃	畳の割付 寸法・文字記入
第9回	〃	仕上げ 印刷設定
第10回	課題4「木造住宅立面図」	CADによる立面図 USCアイコンの設定
第11回	〃	仕上げ レイアウトの作成
第12回	課題5「木造住宅増築案」	3Dモデリング レンダリングの理解
第13回	〃	住宅のモデリング 壁の押し出し、開口部の作成
第14回	〃	〃 屋根の作成
第15回	課題5の講評	まとめ

6. Special Information (留意事項)

CADの操作講習の授業であるので、毎回の出席が重要。欠席の場合はその授業分を次回までに授業の空き時間を利用して自習する必要があるので要注意のこと。

講義コード	24522101
科目名	設計方法論
担当者	岸 研一
単位数	2 配当学年 34
資格	[建]
前提科目	
テキスト	
参考文献	
備考	「住居製図Ⅰ」履修者であること(同時履修可)。
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 〃 共生・協働する力 〃 コミュニケーションする力 〃 創造・発信する力 〃 思考・解決する力 〃 主体的に行動する力 〃

1. Course Description (科目の教育目標)

建築・デザインについて興味を持ち、設計の手順・手法を含め、建築について幅広く知識を養う。建築は、常に人間の視点から計画し設計しなければならない。まずは人間の多様性、心理、行動など人間そのものを理解し、建築と住まう人並びに周辺環境との関係を考え、快適で、安全で、環境に配慮し、かつ美しい建築を計画・設計することを目標とし、小規模な住宅の計画(設計)が出来るようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 建築・デザインに興味を持つ
2. 作品事例や建築家の紹介を行い、幅広く建築(設計、デザイン)の知識を養う
3. 設計を行うために必要な知識の養成
4. 条件や周辺環境に対する視点の獲得
5. スケール感や、空間構成能力の養成
6. 発表やプレゼンテーションを通して、考え方を相手に理解させる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 建築作品事例の紹介
2. 実物の見学による空間、スケール感を体感する
3. 実測等によりスケール感を養う
4. 実例を基に一連の設計の流れを理解し、実際にコンセプトワークを行いディスカッションする
5. 小規模住宅の設計演習課題を通して計画やプレゼンテーションを行う。
6. 適宜小テストなどを行い、復習し、理解度を深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に配布する資料や参考文献の熟読。参考事例(建築物)を見に行き、レポートやスケッチ、写真撮影などを行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、授業への取り組み状況、及び小テスト、レポート又は課題提出など(70%)を総合して評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、設計とは・設計に必要な要素について
- 第2回 著名建築家、作品などの事例紹介(海外・巨匠)
- 第3回 著名建築家、作品などの事例紹介(海外)
- 第4回 著名建築家、作品などの事例紹介(日本)
- 第5回 身近にある著名建築作品の見学(予定)
- 第6回 建築の様々な形態や工法、素材の種類について
- 第7回 人間の行動について、スケール感について(ヒューマンスケール)、空間をデザインする方法(事例紹介)
- 第8回 安全性、福祉住環境、環境への配慮について
- 第9回 設計条件や周辺環境の解説について(事例紹介)
- 第10回 設計の手順(考え方、進め方)、設計の一連の流れ(実例を基に計画(エスキス)から竣工まで)
- 第11回 実例を基にしたコンセプトワーク(グループディスカッション)

- 第12回 製図演習
- 第13回 製図演習、演習課題発表
- 第14回 エスキス指導
- 第15回 演習課題提出・プレゼンテーション、講評

6. Special Information (留意事項)

住居製図Ⅰの履修者であること(同時履修可)

講義コード	24522201
科目名	建築法規
担当者	中村 久美・竹原 広実
単位数	2 配当学年 23
資格	[建]
前提科目	建築一般構造
テキスト	[[「建築法規用教材」(最新版)] 日本建築学会 [「建築基準法関係法令集 2016年版[平成28年版]」] 日 建学院 編 建築資料研究社
参考文献	
備考	
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 〃 共生・協働する力 〃 コミュニケーションする力 〃 創造・発信する力 〃 思考・解決する力 〃 主体的に行動する力 〃

1. Course Description (科目の教育目標)

建築物の計画・設計・工事管理や建築行政に関する法規の知識を習得し、法規的取り扱いや手続きのしくみを理解することを目標とする。建築基準法の単体規程、集団規程、制度規程を中心に、都市計画法、消防法、建築士法などについて学習する。建築計画における法規的課題の解決に必要な知識と建築士業務への倫理的態度を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 建築関係法令の法体系を理解する
2. 建築基準法の単体規程、集団規程の法知識を習得する
3. 建築士の位置づけ、業務のあり方を理解する
4. 法規の成立の背景や意図、さらには法規の遂行・順守によって発生する課題についても考える

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テキスト、配布資料、パワーポイントにより授業をすすめる
2. 毎回登場する法規についてその都度テキストや配布資料により復習しておくこと
3. 法規を現実に適用する際の考え方や実務、計画基準値の計算などの実際を演習する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

シラバスに書かれた授業予定にそってテキストを前もって読んでおくこと。また小テストのための復習は必須である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

確認試験(50%)と授業参加状況(20%)、授業途中で適宜行う小テスト(30%)により評価する

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 建築関連法規の体系、法令の読み方、建築士法<竹原>
- 第2回 単体規程1(建築物の用語と定義)<竹原>
- 第3回 単体規程2(防火上、設計及び工事上の用語と定義)<竹原>
- 第4回 単体規程3(面積及び高さの算定)<竹原>
- 第5回 単体規程4(単体規程総論 採光、換気)<竹原>
- 第6回 単体規程5(一般構造、天井高、階段)<竹原>
- 第7回 単体規程 テストと総括<竹原>
- 第8回 集団規程1(道路と敷地 用途地域)<中村>
- 第9回 集団規程2(建蔽率 容積率)<中村>
- 第10回 集団規程3(高さ制限)<中村>
- 第11回 集団規程4(まちづくり関係)<中村>
- 第12回 手続き規程と建築行政<中村>
- 第13回 消防法<中村>
- 第14回 都市計画法<中村>
- 第15回 集団規定 テストと総括<中村>

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24522301			
科目名	建築構造力学			
担当者	金澤 稔			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[建]			
前提科目	「建築一般構造」			
テキスト	『図解入門よくわかる構造力学の基本』 松本慎也 秀和システム 2003/11			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

建築物にはさまざまな外力が作用する。与えられた外力に対して構造物が安全であるためには、その外力によって構造物がどのように変形し、構造物を構成している各部材にどのような応力が発生するかを把握する必要がある。この科目では、主に二級建築士資格の取得に必須の静定構造物についての応力計算・断面設計、変形計算に関する基礎知識の取得を目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

難しいと思われがちな建築構造力学の基礎は、「中学の理科レベル + a」の知識で十分に対応できる。主に次の項目に関する理解に重点を置く。

- 1.作用・反作用の知識による反力の計算
- 2.反力と外力をもとにした単純支持ばりや門形骨組の曲げモーメントとせん断力の計算
- 3.Hookeの法則に基づくはり断面や柱断面の応力の計算
- 4.Hookeの法則を活用したはりの変形(たわみ)の計算等

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキスト内容の解説、プリントを使用した例題による解説、類似問題の板書きによる説明、類似問題での演習を適宜おまぜて実践的な内容の講義を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- (1)シラバスに書かれた授業予定に沿って、前もってテキストに目を通しておく。
- (2)前回の講義で作成したノートや配布されたプリントの内容、実施した演習問題の解答を再確認して、理解できない箇所については当日の講師への質問により解決できるように準備する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

5回程度の小テスト(30点を配分)と期末テスト(70点を配分)の総合評価による。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 構造力学とは
- 第2回 力とつりあい(1)
- 第3回 断面に作用する応力
- 第4回 荷重、せん断力および曲げモーメント
- 第5回 応力度、ひずみ度
- 第6回 断面の性質
- 第7回 部材の変形
- 第8回 仕事とエネルギー
- 第9回 静定構造と不静定構造
- 第10回 静定骨組みの応力(1) 両端支持はり
- 第11回 静定骨組みの応力(2) 片持ちばり
- 第12回 静定骨組みの応力(3) 門形骨組み
- 第13回 静定ばりの変形(1) たわみ角法
- 第14回 静定ばりの変形(2) 仮想仕事法
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24522401			
科目名	建築施工			
担当者	金澤 稔			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[建]			
前提科目	「建築一般構造」			
テキスト	『初学者の建築講座 建築施工』 中沢・角田共著 市谷出版社			
参考文献	『日本建築学会 建築工事標準仕様書』 『国交省営繕部 公共建築工事標準仕様書』			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

建築施工とは、設計図書に従って工事現場で実際に建築物をつくっていく行為であり、計画、材料、構造、法規などの広範な基礎的知識が要求される。しかし、建築施工は施工者に必須の知識であるばかりでなく、施工者の対極にある建築士やインテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーターなどをめざす人にも必須の知識でもある。講義では、テキストを補足するためにパワーポイントを使用して、施工法と施工管理について計画、材料、構造、法規とどのような関連があるのかということもあわせて取り上げる。二級建築士をはじめとする各種の資格取得に際して最も取っつき難い分野とされている建築施工に対する理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

女性の社会進出のためにも、建築生産現場に対する認識を深めて貰うとともに、二級建築士等の資格試験への備えとするために、次のような点を重点的に取り上げる。

- (1) 建築に関わる法律にはどのようなものがあるか
- (2) 建築工事の施工標準にはどのようなものがあるか
- (3) 建築工事の管理はどのようにして行われているか

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストの内容を図や写真を交えたパワーポイントで視覚化するとともに、黒板への板書きを併用して講義を進める。理解度を把握するために5問程度の簡単な小テストを5回程度実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前回の講義内容を、テキストに書き込んだマーキングやメモ書きを見ながら復習するとともに、次回の講義の内容は何かを確認しておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

5回の小テスト(30点を配分)と期末テスト(70点を配分)の総合評価による。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 請負契約・請負制度
- 第2回 施工計画と施工管理
- 第3回 地盤調査 仮設工事
- 第4回 土工事
- 第5回 地業工事
- 第6回 鉄筋コンクリート工事 (1) 鉄筋工事及び型枠工事
- 第7回 鉄筋コンクリート工事 (2) コンクリート工事
- 第8回 鉄骨工事 (1) 工場製作
- 第9回 鉄骨工事 (2) 工事現場施工
- 第10回 ブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 防水工事
- 第11回 石工事 タイル工事
- 第12回 木工事 屋根工事 金属工事
- 第13回 左官工事 建具工事
- 第14回 塗装工事 内装工事
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24522501		
科目名	西洋建築史 ヨーロッパ文化はどんな建物を建てて来たのか？		
担当者	西田 雅嗣		
単位数	2	配当学年	23
資格	[建]		
前提科目			
テキスト	『カラー版 図説建築の歴史 西洋・日本・近代』 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎/編 学芸出版社 2014年		
参考文献	『西洋建築史図集』 日本建築学会/編 彰国社 1981年 『もういちど読む山川世界史』 『世界の歴史』 編集委員会/編 山川出版社 2009年 『ヨーロッパ建築史』 西田雅嗣/編 昭和堂 1998年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

- (1) ヨーロッパ文化における建築とは何なのかを、代表的な歴史建築を見て行く事で学び、建物と人間の付き合い方のヨーロッパ的なあり方を知る。
- (2) 建築や環境を巡る現在の問題に対して、自分の意見を持てるようになるための基礎的な判断材料を、ヨーロッパの歴史建築を学ぶ事で習得する。
- (3) 建築を自分の身に引きつけて見る事が出来るようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) ヨーロッパの代表的な歴史建築物にはどのようなものがあり、それらがどのような姿・形をしていてどのような特徴を持っているのかを知る。
- (2) ヨーロッパの建築の歴史的な変遷について、基礎的な様式を覚えることで理解する。
- (3) 歴史建築を見る事を通じて、建築を身近に感じる感性を養う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- (1) 指定した教科書の<第1章>西洋建築史を教科書の順に講述します。教科書は様式の時代順です。原則として毎回一つの様式を扱います。
- (2) 各章で大きく扱われている、その様式を代表する個別のいくつかの建築を、毎回の講義の主人公として扱って解説します。
- (3) 教科書の記述では、各項目が断片的に扱われていますが、授業ではこれら断片的な要素をできるだけ一貫した話でまとめて講述するようつとめて、毎回一つのまとまった様式の理解ができるようにします。
- (4) 授業では、パワーポイントで建物の写真をたくさん写します。一回一回の講義が独立した講演のように考えてください。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- (1) 高等学校の「世界史」にあるヨーロッパの歴史程度の基礎的な知識があると、講義内容の理解の助けになります。参考文献にある『もういちど読む山川世界史』の様な本（もちろん高校の世界史の教科書でも結構です）を読んでおく授業がより分かりやすいです。
- (2) 毎回の授業は教科書の各章に原則的に対応しているので、授業の前には、その回の授業に対応する教科書の章を読んで来て下さい。いきなり教科書を読んでも良く理解できないかも知れませんが、理解できなくても構わないので、授業の前には教科書の該当箇所を目を通して来て下さい。事前に目を通すのと通さないのでは、授業への興味の度合いが違って来ます。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業最終日に提出するA4版5頁程度の長文レポートにより評価する。レポート課題出題日までの授業欠席回数、その時点までの授業総回数の3分の1以上の学生には、長文レポートの提出を認めません。出席は、毎回確認します。レポート課題の出題は、期間中の講義のどこかで出題します。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 建築とは？ 建築の歴史とは？ 様式とは？
- 第2回 古代—1 <古代オリエント・古代エジプト建築>：エジプト神殿の柱の意味
- 第3回 古代—2 <ギリシア建築1・2>：パルテノンの「美しさ」とは
- 第4回 古代—3 <ローマ建築1・2>：ローマのパルテノンと「建築」
- 第5回 中世—1 <古代末期・中世初期の建築>：キリスト教の建築のかたち
- 第6回 中世—2 <ビザンツ建築>：ドームの建築ハギア・ソフィア大聖堂
- 第7回 中世—3 <ロマネスク建築1・2>：修道院と教会堂、「神の国」としての建物
- 第8回 中世—4 <ゴシック建築1・2>：ノートル＝ダムの大聖堂たち、光の空間
- 第9回 近世—1 <ルネサンス建築1・2>：レオナルドたちが夢見た古代の建築

- 第10回 近世—2 <ルネサンス建築3>：イタリアに憧れるヨーロッパ
- 第11回 近世—3 <バロック建築1>：建築と教会
- 第12回 近世—4 <バロック建築2・3>：宮殿の魅惑と威厳
- 第13回 近世—5 <新古典主義建築1・2>：パリのパルテノンの古代
- 第14回 近世—6 <歴史主義建築1・2>：復活する中世
- 第15回 建築とは？ ウィトルウィウス、ヴィラール・ド・オヌクール、アルベルティの三人

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24525001		
科目名	社会福祉援助技術Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職(Ⅰ)		
担当者	桐野 由美子		
単位数	2	配当学年	1
資格	[保][社][精]		
前提科目			
テキスト	『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職 第3版』 社会福祉士養成講座編集委員会・編集 中央法規 2015年 授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。		
参考文献	『保育者のための社会福祉援助技術』 桐野由美子 (編著) 樹村房 2006 授業中に適宜プリントを配布しその他の参考文献等を提示する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉に関する基礎科目「相談援助の基盤と専門職」の前半部分に該当する。本科目の目標は、①ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士等）の役割と意義を理解する、②ソーシャルワーク（相談援助）の概念・範囲・理念を理解する、③ソーシャルワーク（相談援助）における権利擁護の意義と範囲を理解する、④ソーシャルワーク（相談援助）に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理を理解する、⑤総合的かつ包括的な援助と多職連携の意義と内容を理解する、の4点である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士等）の役割と意義を理解する。
2. ソーシャルワークの理念について理解する。
3. ソーシャルワークの形成過程について理解する。
4. ソーシャルワークにおける権利擁護の意義について理解する。
5. ソーシャルワーカーの専門性と倫理について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストを中心に講義をすすめる。必要に応じVHS、DVD等を使用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

本科目の評価の内訳は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、試験とまとめ（60%）とする。遅刻・欠席は減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士等）の役割と意義（第1章1節）
- 第2回 現代社会と地域生活におけるソーシャルワーカー（第1章2節）
- 第3回 ソーシャルワーク（相談援助）の定義と専門性：ソーシャルワーク（相談援助）の概念（第2章1節）
- 第4回 ソーシャルワーク（相談援助）の定義と専門性：ソーシャルワークの構成要素（第2章2節）
- 第5回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅰ：ソーシャルワークの源流（第3章1節）
- 第6回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅰ：ソーシャルワークの基礎確立期（～1930年代）（第3章2節）
- 第7回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅱ：ソーシャルワークの発展期（1940代～50年代半ば）（第4章1節）
- 第8回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅱ：ソーシャルワークの展開期（1950年代半ば～1960年代以降）（第4章2節）
- 第9回 ソーシャルワーク（相談援助）の形成過程Ⅱ：ソーシャルワーカー

- クの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク（第4章3節）
- 第10回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅰ：ソーシャルワーカーと価値（第5章1節）
- 第11回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅰ：ソーシャルワーク実践と価値（第5章2節）
- 第12回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅰ：ソーシャルワーク実践と権利擁護（第5章3節）
- 第13回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅱ：クライアントの尊厳と自己決定（第6章1節）
- 第14回 ソーシャルワーク（相談援助）の理念Ⅱ：ノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン（第6章2節）
- 第15回 総括（試験とまとめ）

6. Special Information（留意事項）

カードリーダーで出欠を確認するので、学生カードは必ず携帯すること。

講義コード	24525101			
科目名	社会福祉援助技術Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職（2）			
担当者	桐野 由美子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職第3版』社会福祉士養成講座編集委員会・編集 中央法規 2015年 授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。			
参考文献	授業中に適宜プリントを配布しその他の参考文献等を提示する。			
備考	[社会福祉援助技術Ⅰ]の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉に関する基礎科目「相談援助の基盤と専門職」の後半部分に該当する。科目の教育目標は、①ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士等）の役割と意義を理解する、②ソーシャルワーク（相談援助）の概念・範囲・理念を理解する、③ソーシャルワーク（相談援助）における権利擁護の意義と範囲を理解する、④ソーシャルワーク（相談援助）に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理を理解する、④総合的かつ包括的な援助と多職連携の意義と内容を理解する、の4点である。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

1. ソーシャルワーク（相談援助）の概念と範囲を理解する。
2. ソーシャルワーク（相談援助）に係る専門職の概念と範囲を理解する。
3. ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマを理解する。
4. 総合的かつ包括的な援助（ジェネラリスト・ソーシャルワーク）の意義と内容を理解する。
5. 多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容を理解する。

3. Course Method（教育・学習の方法）

テキストを中心に講義をすすめる。必要に応じてVHS、DVD等を使用する。また、受講生によるロールプレイを実施する。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

本科目の評価の内訳は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、試験とまとめ（60%）とする。欠席、遅刻は減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 ①オリエンテーション ②専門職倫理と倫理的ジレンマ：専門職倫理の概念（第7章1節）
- 第2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ：倫理綱領の意義と内容（第7章2節）
- 第3回 専門職倫理と倫理的ジレンマ：ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ（第7章3節）
- 第4回 「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景（第8章1節）
- 第5回 地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座（第8章2節）
- 第6回 地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能（第8章3節）
- 第7回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点（第9章1節）
- 第8回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質と基礎理論（第9章2節）

- 第9回 ソーシャルワーカー（相談援助専門職）の概念（第10章1節）
- 第10回 ソーシャルワーカー（相談援助専門職）の範囲（第10章2節）
- 第11回 諸外国におけるソーシャルワーカー（相談援助専門職）の動向（第10章3節）
- 第12回 「総合的かつ包括的な相談援助」の予防的機能（第11章1節）
- 第13回 「総合的かつ包括的な相談援助」の新しいニーズへの対応機能（第11章2節）
- 第14回 「総合的かつ包括的な相談援助」の総合的支援機能（第11章3節）
- 第15回 総括（試験とまとめ）

6. Special Information（留意事項）

カードリーダーで出欠を確認するので、学生カードは必ず携帯すること。

講義コード	24525201			
科目名	社会福祉援助技術Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅰ			
担当者	桐野 由美子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ第3版』社会福祉士養成講座編集委員会・編集 中央法規出版 2015 授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること。			
参考文献	授業中に適宜プリントを配布しその他の参考文献等を提示する。			
備考	[社会福祉援助技術Ⅰ・Ⅱ]の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉士必修科目「相談援助の基盤と専門職」の初めの部分に該当する。本科目では社会福祉援助技術ⅠⅡを踏まえ、ソーシャルワークをより深く、体系的に理解するために、以下5項目を目標とする：①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。③相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。④相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。⑤相談援助の実践（権利擁護活動を含む。）について理解する。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- ① 人と環境の交互作用
- ② 相談援助の対象
- ③ 相談援助の過程
- ④ 相談援助における援助関係
- ⑤ 相談援助のための面接技術
- ⑥ アウトリーチ
- ⑦ 相談援助における社会資源の活用・調整・開発

3. Course Method（教育・学習の方法）

テキスト『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版Ⅰ』（中央法規出版）を中心に講義と一部演習形式を交えて行う。必要に応じてVHS、DVD等を使用する。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目の授業の配布資料で提示する。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

本科目の評価の内訳は、授業参加度（30%）、授業中成果（10%）、試験とまとめ（60%）とする。欠席、遅刻は減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーク（相談援助）の定義・枠組み・構成要素とその事例（第1章1～3節）
- 第2回 ソーシャルワーカーの職場・所属組織（第1章4～5節）
- 第3回 ソーシャルワーク（相談援助）の構造（第2章1節）
- 第4回 ソーシャルワーク（相談援助）におけるニーズとソーシャルワークの機能（第2章2～3節）
- 第5回 人と環境の交互作用（第3章）
- 第6回 援助関係の意義・援助関係の形成プロセスに影響する要因・援助構造と援助関係（第4章1～3節）
- 第7回 援助関係の質と自己覚知・援助関係とマイクロからマクロ実践領域（第4章4～5節）
- 第8回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：展開過程の流れ・ケース発見（第5章1～2節）

- 第9回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：インターク・問題把握・ニーズ確定（第5章3～4節）
- 第10回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：アセスメントと支援標的・目的設定（第5章5～6節）
- 第11回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅰ：プランニングと支援の実施（第5章7～8節）
- 第12回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅱ：モニタリング・再アセスメント・支援の強化（第6章1～2節）
- 第13回 ソーシャルワーク（相談援助）の展開過程Ⅱ：支援の終結・効果測定・評価・アフターケア・予防的対応・サービス開発（第6章3～4節）
- 第14回アウトリーチの意義・目的・方法・留意点（第7章）
- 第15回 総括（試験とまとめ）

6. Special Information（留意事項）

この科目は社会福祉士受験資格及び高校福祉科教員資格の教職課程の必修科目である。全回数出席を原則とする。

講義コード	24525301			
科目名	社会福祉援助技術Ⅳ			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規出版 2015			
参考文献				
備考	『社会福祉援助技術Ⅰ-Ⅲ』の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

この科目は社会福祉援助技術Ⅲを踏まえ、より深く体系的に社会福祉援助技術について理解することを目的とする。具体的には 1. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する。 2. 社会福祉の展開過程を重視しながら、その目的価値・原則及び体系と、そこにおける共通課題について理解する。 3. アセスメントと介入の方法を中心に援助技術の実際とその基礎となる理論を深める。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

1. 直接援助技術の展開過程について、そのすすめ方、基本的な理念、援助の際の原則などについて理解させる。 2. 面接の実際的諸課題について考えさせる。 3. 相談援助のための記録について理解する。 4. これからの社会福祉援助技術の基礎となっている理論を概観する。

3. Course Method（教育・学習の方法）

テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ』を中心に講義、演習形式で行う。ビデオなど視聴覚素材を適宜使用する。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

毎回、次回の授業の見通しを示し、それに関連するテキスト部分や参考資料の予習を指示する。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

レポート（20%）、授業参加度（30%）、試験（50%）で総合的に評価する。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 授業紹介、社会福祉相談援助の方法・技術
- 第2回 相談援助のためのアセスメントの特性、援助的關係、面接
- 第3回 相談援助のためのアセスメント面接で得た情報の実際
- 第4回 相談援助のための介入の技術、介入の意義と目的
- 第5回 相談援助のための介入の技術、介入の方法とその問題点
- 第6回 相談援助のための経過観察（モニタリング）の技術
- 第7回 相談援助のための再アセスメントと効果測定の実際、評価とサービス開発
- 第8回 相談援助のための面接の目的とその技法
- 第9回 相談援助のための面接の技法とコミュニケーション
- 第10回 相談援助のための面接の技術と形態
- 第11回 相談援助のための記録の意義と活用
- 第12回 相談援助のための記録とIT化の試行および倫理的配慮の重要
- 第13回 相談援助のための記録の作成事例と今後の課題
- 第14回 相談援助のための交渉の意義、目的と問題点
- 第15回 相談援助における特性、援助的關係、面接のまとめ

6. Special Information（留意事項）

この科目は社会福祉士受験資格及び高校福祉科教員資格の教職課程の必修科目である。全回数出席を原則とする。

講義コード	24525401			
科目名	ボランティアマネジメント論 円滑なボランティア活動のための専門的支援			
担当者	酒井 久美子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

ボランティアに関する基礎的な知識を確認しうえて、ボランティア活動を円滑に進めるために必要なことが何かを検討する。ボランティア活動は多様化し、ボランティア活動をする人と求める人のニーズも多様である。そうしたなかでボランティアをマネジメントすることの重要性や課題について考える。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

1. ボランティアとは何かについて理解する。
2. ボランティア・マネジメントの必要性について理解する。
3. ボランティア活動を地域社会で展開するために必要なことが何かを学ぶ。

3. Course Method（教育・学習の方法）

配付資料などのプリントによって授業をおこなう。参考文献については随時紹介する。講義だけではなく、各自のボランティア体験やボランティアに対する意識などを踏まえて、ディスカッションやグループワークなどをおこなう。また、授業内課題として、各自のボランティア体験をもとに、ボランティアマネジメントの必要性について発表をおこなう。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

各自のボランティア体験などをもとにして、ボランティアとは何か、ボランティアマネジメントとは何か、またその必要性について事例を通して検討しておくこと。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

評価は授業参加度(40%)、発表(20%)レポート課題(40%)に基づいて総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておくこと。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ボランティアとは
- 第3回 ボランティア活動の役割と意義について
- 第4回 ボランティア活動の変遷
- 第5回 ボランティア活動の現状と課題
- 第6回 NPOとボランティア
- 第7回 ボランティア・コーディネーターとは
- 第8回 ボランティア・コーディネーターの役割
- 第9回 ボランティアセンターの役割
- 第10回 ボランティア・マネジメントとは
- 第11回 ボランティア・マネジメントの必要性
- 第12回 ボランティア・コーディネーターからボランティア・マネジメントへの展開
- 第13回 ボランティア・マネジメントの流れ
- 第14回 ボランティア活動を推進するために
- 第15回 各自のボランティア体験をもとにした発表と総括

6. Special Information（留意事項）

自発的活動であるボランティア、その円滑な活動や継続した活動への支援であるボランティア・マネジメントを学ぶ科目であるため、履修者は自発的、積極的な態度で臨むこと。過去のボランティア体験を明確にしておくこと。

講義コード	24526001			
科目名	精神保健学Ⅰ 「こころの健康」について学び考える			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「こころの健康」を保持増進するための精神保健学は、精神医学・公衆衛生学・発達心理学・臨床心理学などとともに発展してきた実践的な学問です。「こころの健康」を個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学びます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

該当する部分を教科書等で整理しておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・わたしたちとこころの健康
- 第2回 精神保健の歴史と課題
- 第3回 ライフサイクルと精神の健康
- 第4回 ストレスと精神の健康、精神保健に関する予防
- 第5回 精神保健に関するシステムと専門職
- 第6回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (1) 結婚と育児
- 第7回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (2) 社会的引きこもり
- 第8回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (3) 病気療養や介護
- 第9回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (1) 現代の学校教育と生徒児童の特徴
- 第10回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (2) 教員の精神保健
- 第11回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (3) 学校における精神保健福祉士の役割
- 第12回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (1) 現代日本の労働環境
- 第13回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (2) うつ病と過労自殺
- 第14回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (3) 職場における精神保健福祉士の役割
- 第15回 理解度確認テストと解説・まとめ

6. Special Information (留意事項)

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

講義コード	24526101			
科目名	精神保健学Ⅱ 「心の健康」について学び考える			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[保][精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 (2) 精神保健の課題と支援 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献				
備考	「精神保健学Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健学Ⅰの基本的知識をふまえて、「こころの健康」の個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している精神保健の課題に対する具体的な解決方法について学びます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

該当する部分を教科書等で整理しておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・こころの健康と支援
- 第2回 発達障害とこころの健康
- 第3回 アルコール問題とこころの健康
- 第4回 うつ病・自殺対策とこころの健康
- 第5回 認知症とこころの健康
- 第6回 災害とこころの健康
- 第7回 犯罪被害者とこころの健康
- 第8回 ニート・若年無業者とこころの健康
- 第9回 貧困問題とこころの健康
- 第10回 性同一性障害とこころの健康
- 第11回 ターミナルケアとこころの健康
- 第12回 精神保健に関する調査・資源開発
- 第13回 地域精神保健と関係法規
- 第14回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策
- 第15回 理解度確認テスト・解説とまとめ

6. Special Information (留意事項)

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

講義コード	24526201			
科目名	精神科リハビリテーション学Ⅰ			
担当者	橋本 史人			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座 (4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』中央法規 *テキストは使用しないが、適宜読むこと。			
参考文献	適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、グループワークなどを通して、身体(生物学的)・こころ(心理学的)・環境(社会的)から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 障害を疾患や生活、そして環境といった観点からとらえる力を身につ

ける

2. 障害を持つ人の人生を支援していくリハビリテーション理念とその構成について理解する

3. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションを理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義、小テスト、視聴覚教材、プリント、グループワーク、レポートなど。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの該当部分を読む。自分や周りの人々を含めて、メンタルヘルス(精神保健)について疑問を持つ。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験(50%)、授業参加(30%)、小テスト(20%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 精神障害とはー精神疾患と障害の理解
- 第2回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方
- 第3回 諸外国の精神保健医療福祉の歴史と動向
- 第4回 日本の精神保健医療福祉の歴史と動向
- 第5回 精神科リハビリテーションとはーその理念、意義
- 第6回 精神科リハビリテーションとはー構成と展開
- 第7回 日本における精神科リハビリテーションの現状ー諸外国との比較
- 第8回 精神科リハビリテーションのプロセスー回復と支援プロセス
- 第9回 精神科リハビリテーションのプロセスーライフサイクルと支援プロセス
- 第10回 精神保健福祉士の役割
- 第11回 医療的リハビリテーションー専門療法
- 第12回 医療的リハビリテーションー家族教育プログラム・デイケア
- 第13回 医療的リハビリテーションーアウトリーチ・チーム医療
- 第14回 精神障害者支援の実践モデル
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

講義コード	24526301
科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ
担当者	橋本 史人
単位数	2 配当学年 34
資格	[精]
前提科目	
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座(4)精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』中央法規 *テキストは使用しないが適宜読むこと。
参考文献	適宜紹介する
備考	「精神科リハビリテーション学」履修者であること
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 <input type="checkbox"/> 共生・協働する力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションする力 <input type="checkbox"/> 創造・発信する力 <input type="checkbox"/> 思考・解決する力 <input type="checkbox"/> 主体的に行動する力 <input type="checkbox"/>

1. Course Description (科目の教育目標)

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、演習などを通して、身体(生物学的)・心(心理学的)・環境(社会的)から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきましょう。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 障害を持つ人へのリハビリテーション技術を理解する
- 2 他職種等とのチームワーク、関係機関とのネットワークの重要性を理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義、小テスト、視聴覚教材、プリント、グループワーク、レポートなど。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの該当部分を読む。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験(50%)、授業参加(30%)、小テスト(20%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 精神科リハビリテーションの概念と歴史
- 第2回 精神科リハビリテーションの理念と現状
- 第3回 地域を基盤にした相談援助ー受理面接
- 第4回 地域を基盤にした相談援助ー支援の計画と終結
- 第5回 地域を基盤にした相談援助ー家族の支援
- 第6回 集団療法
- 第7回 行動療法

第8回 面接技法Ⅰ 種類

第9回 面接技法Ⅱ ロールプレイ

第10回 ケアマネジメントの概念と歴史

第11回 ケアマネジメントの理念と現状

第12回 スーパービジョン

第13回 コンサルテーション

第14回 ネットワーキングとセルフヘルプ

第15回 これからの精神科リハビリテーションの課題

6. Special Information (留意事項)

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

講義コード	24526401
科目名	精神保健福祉論Ⅰ
担当者	佐藤 純
単位数	2 配当学年 234
資格	[精]
前提科目	
テキスト	『新精神保健福祉士養成講座(7)精神障害者の生活支援システム 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規 2014
参考文献	授業時に紹介する
備考	
科目読替	
社会人基礎能力	自分を育てる力 <input checked="" type="checkbox"/> 共生・協働する力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションする力 <input type="checkbox"/> 創造・発信する力 <input type="checkbox"/> 思考・解決する力 <input type="checkbox"/> 主体的に行動する力 <input checked="" type="checkbox"/>

1. Course Description (科目の教育目標)

精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステムづくりを可能とする知識と技術を習得し、より実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解すること
- 2. 精神に「障害」のある人が置かれている現状を学び、地域で生活を支える方向性と視点を培うこと
- 3. 精神に「障害」のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解すること

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

理解度確認テスト(50点)、授業参加度(15点)、レポート点(35点)で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 精神障害者の概念Ⅰ 精神疾患とは
- 第2回 精神障害者の概念Ⅱ 精神疾患と精神障害
- 第3回 精神障害者の生活の実際
- 第4回 精神障害者の生活と人権
- 第5回 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援
- 第6回 雇用以外の就労
- 第7回 余暇活動
- 第8回 ソーシャルサポートネットワーク
- 第9回 精神障害者の居住支援
- 第10回 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割
- 第11回 精神障害者の雇用・就業支援Ⅰ 理念と制度
- 第12回 精神障害者の雇用・就業支援Ⅱ 就労支援
- 第13回 精神障害者の雇用・就業支援Ⅲ いわゆる福祉的就労
- 第14回 行政における精神保健福祉士の役割
- 第15回 理解度確認テスト・解説とまとめ

6. Special Information (留意事項)

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

講義コード	24526501			
科目名	精神保健福祉論Ⅱ			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座(6)精神保健福祉に関する制度とサービス 第4版』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献	授業時に紹介する			
備考	「精神保健福祉論Ⅱ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健福祉法やその施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士の視点を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 精神保健福祉法の意義と内容を理解する。
- 2 精神保健福祉施策の概要について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

理解度確認テスト(50点)、授業参加度(15点)、レポート点(35点)で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・精神保健福祉とは
- 第2回 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス
- 第3回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯Ⅰ 精神衛生法成立まで
- 第4回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯Ⅱ 精神衛生法の改正
- 第5回 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
- 第6回 精神保健福祉法成立の意義とその後の展開
- 第7回 精神保健福祉法の構成(1・目的と対象)
- 第8回 精神保健福祉法の構成(2・医療及び保護)
- 第9回 精神保健福祉法の構成(3・保健及び福祉)
- 第10回 精神保健福祉法の構成(4・課題)
- 第11回 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
- 第12回 障害者基本法と精神障害者施策との関わり
- 第13回 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際
- 第14回 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際
- 第15回 理解度確認テスト・解説とまとめ

6. Special Information (留意事項)

教科書を使って授業をするので必ず購入すること

講義コード	24526601			
科目名	精神保健福祉論Ⅲ			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座(6)精神保健福祉に関する制度とサービス 第4版』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献				
備考	「精神保健福祉論Ⅲ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健福祉法等の法や施策を理解し、立ち後れている精神障害者の支援関連の法や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士のあり方について検討する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

精神保健福祉の関連施策について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書に基づいて講義を行う。授業最初に毎回行う小テストで理解を確認する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(50点)、授業の最初に毎回行う小テスト(50点)で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 精神障害者と社会保障制度
- 第2回 社会保障制度と社会福祉制度
- 第3回 医療保険制度
- 第4回 介護保険制度
- 第5回 生活保護制度
- 第6回 年金保険制度
- 第7回 社会手当・雇用保険など
- 第8回 相談援助に係わる行政組織と民間組織
- 第9回 福祉サービス提供施設・機関の役割
- 第10回 刑事司法と更生保護制度(1)司法の仕組み
- 第11回 刑事司法と更生保護制度(2)更生保護
- 第12回 医療観察法の意義と内容(1)目的と対象
- 第13回 医療観察法の意義と内容(2)制度と課題
- 第14回 社会調査の意義と目的
- 第15回 量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点

6. Special Information (留意事項)

教科書を使って授業をするので必ず購入すること。なおこの教科書は精神保健福祉論Ⅱ(2年次配当)と同じであるので、その教科書でよい。

講義コード	24526901			
科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ 精神障害者のケースワーク、グループワーク			
担当者	知名 純子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『新・精神保健福祉士養成講座(新カリキュラム対応)第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成協会 中央法規 2012 参考文献については随時、授業で紹介いたします。			
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ・Ⅱ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを一緒に考えていきます。(1)地域移行支援について、(2)精神障害者と家族について、(3)個別支援について等を具体的事例に基づきながら理解を深めていきます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 人と「向き合い」、「寄り添い」、「支援する」について
- (2) 社会的入院-地域移行・地域定着について
- (3) 家族支援について
- (4) 個人に対する援助方法(ケースワーク)
- (5) グループを用いて援助する方法(グループワーク)
- (6) 専門性について

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義はグループ演習、ディスカッション、ロールプレイなど参加型で行います。また、現場の生の声を届けられるよう、新聞記事や動画を見ながら考えます。精神保健福祉士の実践の基礎を学べる授業を考えています。クライアントの課題を抽出して支援を計画する前に、まず知っておくべき自分自身の考え方の癖や特徴を客観的に把握できるようになること。そして同じ物事に直面したときの問題の捉え方の違いが人それぞれにあることを知った上で、事例や課題を検討します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

なぜ、あなたは精神保健福祉士を目指すのか、あなたの中の「精神保健福祉士」のイメージや理想像などについて、考えておいてください。(テキストの該当箇所を事前に読んで概要をつかんでおくこと。)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(60点)・試験(最終講義時試験とする)(40点)の総合評価とします。

参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になります。また演習に参加できないと授業で得られる成果が半減しますので、十分注意してください。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション～自分を知らう～
- 第2回 相談援助の周辺理論1：非言語コミュニケーション・防衛機制
- 第3回 相談援助の周辺理論2：交流分析
- 第4回 相談援助の周辺理論3：ナラティブ・アプローチ
- 第5回 精神障害者の支援モデル
- 第6回 相談援助の過程①：インテーク、契約、アセスメント
- 第7回 相談援助の過程②：インターベンション、モニタリング、効果測定・評価、終結とアフターケア
- 第8回 面接の意味と目的
- 第9回 面接技法と記録の内容
- 第10回 集団を活用した支援の実際と事例分析①：デイケアとグループワーク
- 第11回 集団を活用した支援の実際と事例分析②：SST(生活技能訓練)
- 第12回 集団を活用した支援の実際と事例分析③：セルフヘルプグループ
- 第13回 家族支援の方法
- 第14回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 第15回 まとめ 当事者から学ぶ

6. Special Information (留意事項)

予定は、授業の流れによって前後します。

毎回、グループワークを実施し、演習テーマを設けたり、動画を観て現状について考たりした上で、自分の考えや意見を述べてもらう時間があります。

講義コード	24527001			
科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ 精神保健福祉コミュニティ・ワーク			
担当者	知名 純子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『新・精神保健福祉士養成講座(新カリキュラム対応) 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成協会 中央法規 2012 参考文献は随時、紹介していきます。			
備考	「社会福祉援助技術Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ことについて考えます。(1) 地域生活支援について、(2) 精神障害者ケアマネジメントについて、(3) 障害者が地域で生活すること等について、「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」での学びをさらに展開させ、生活者支援の視点から具体的事例に基づき理解を深めていきます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの応用
- (2) 精神障害者支援のためのチームアプローチ
- (3) 個別支援に必要なコミュニティの構築について

3. Course Method (教育・学習の方法)

グループディスカッション、ロールプレイ、発表など参加型の授業を行いたいと思います。将来的に精神保健福祉士としての実践の基盤となる理論や技術の応用力の習得を目指します。

各課題、テーマについて、「自分はどう考えるのか」、そして「周囲の他の学生はどんな意見を持っているのか」に着目して授業を受けてください。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの該当箇所を事前に読んで概要をつかんでおくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(60点)・試験(最終講義時試験とする)(40点)の総合評価とする。

参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になりますし、授業で得られる成果も不十分なものになります。十分注意してください。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション～精神保健医療福祉の歴史と動向～
- 第2回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識
- 第3回 精神科リハビリテーションの概念と構成
- 第4回 精神科リハビリテーションのプロセス
- 第5回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開
- 第6回 精神障害者のケアマネジメント
- 第7回 精神障害者支援の実践モデル
- 第8回 地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開
- 第9回 地域において主体的に生活すること
- 第10回 地域に根ざした包括的な支援活動
- 第11回 地域における資源の動員とネットワークワーキングの実際
- 第12回 地域における支援の具体的事例検討
- 第13回 多職種の専門性
- 第14回 精神保健福祉士と多職種との連携
- 第15回 まとめ チーム医療における精神保健福祉士

6. Special Information (留意事項)

各回において、グループワークを基に、事例や現状の課題について一緒に考えます。

講義コード	24527401			
科目名	障害者福祉論			
担当者	矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第5版』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 2015			
参考文献	『よくわかる障害者福祉』小澤温 ミネルヴァ書房 2013 『障害者福祉の世界』佐藤久夫・小澤温 有斐閣 2013 『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉』竹端寛・山下幸子他編 ミネルヴァ書房 2014 授業時にも紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

わが国の人口の約6%を占める障害のある人は、様々なきっかけを通じ、障害のある状態となり、生活上の困難を抱えながら生活している。障害のある人が日常生活の中でどのような不自由さを感じているのかについて実際の事例を通して理解を深める。そして、生活のしづらさを解決する障害者福祉の法制度・サービス体系・支援方法を学び、どうすれば生活上の困難を解決することができるのか解決策を提示できるようにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 国際障害分類と国際生活機能分類を学び、障害を構造的に理解する。
- 2. 障害のある人の基本的人権、ノーマライゼーション、リハビリテーションと自立生活運動、エンパワーメントの理念を学び、理念を学ぶ意義を説明することができる。
- 3. 戦前から今日に至るまでの障害者福祉制度の発展過程を説明することができる。
- 4. 障害のある人の生活ニーズについて理解を深め、生活困難を解決する支援方法を提示することができる。
- 5. 障害者総合支援法における専門職の役割と多職種との連携について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

パワーポイントと配布資料に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前にテキストを読み、概要を把握した上で出席すること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験50%、授業参加度30%、レポート20%で評価を行う。

出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 障害とは－国際障害分類と国際生活機能分類－
- 第2回 障害のある人の生活実態
- 第3回 障害のある人の権利保障－障害者権利条約と差別解消法－
- 第4回 障害者福祉の理念－ノーマライゼーションとエンパワーメント－
- 第5回 障害者福祉の理念－リハビリテーションと自立生活運動－
- 第6回 障害者福祉法制度の発展過程－戦前の障害者福祉－
- 第7回 障害者福祉法制度の発展過程－戦後の障害者福祉－

- 第8回 障害のある人にかかわる法体系
- 第9回 障害者総合支援法の概要
- 第10回 障害のある人の生活基盤を支える福祉サービス
- 第11回 障害のある人の社会参加を支える福祉サービス
- 第12回 障害者総合支援法における組織・機関の役割
- 第13回 障害者総合支援法における専門職の役割と実際
- 第14回 障害者総合支援法における多職種連携・ネットワーク
- 第15回 今後の障害者福祉の展望

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24527501			
科目名	児童福祉論 子どもと家族への支援とその福祉制度			
担当者	桐野 由美子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保][社][子]			
前提科目				
テキスト	『MINERVA社会福祉士養成テキストブック13: 児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 [第3版]』 芝野 松次郎・高橋 重宏・松原 康雄 ミネルヴァ書房 2015			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

最近、少子化の進行、家庭や地域の子育て機能の低下、子どもや家族を取り巻く環境の変化は著しい。本科目ではまず、そうした状況の中で子どもが心身ともに健やかに生まれ、かつ育っていく子どもの権利を理解し、子どもと家族を支援するために、彼らの生活実態・社会情勢・福祉需要などを学ぶ。次に、保育、養護、自立支援、家族支援といった児童福祉の各領域における制度の発展過程及び諸機関における相談援助に係る法制度に関して、具体的な事例にも触れながら、理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 子どもとその家族の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や、子育て、一人親家庭、児童虐待およびドメスティックバイオレンス (DV) などの福祉需要について理解する。
2. 子どもと家族の福祉制度の発展過程について理解する。
3. 子どもの権利について理解する。
4. 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

講義を中心に行う。より理解を深めるためビデオ等も使用する。

2. テキスト・文献等

- (1) テキスト: 芝野松次郎, 松原康雄, 高橋重宏編著 (2015) 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック13: 児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 [第3版]』 ミネルヴァ書房を用いる。
- (2) 参考文献: 授業中に適宜紹介する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。その詳細は、第1回目授業の配布資料で提示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

本科目の評価の内訳は、授業参加度 (30%)、授業中成果 (10%)、試験とまとめ (60%) とする。遅刻・欠席は減点対象となる。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 子どもと家族の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際 (テキスト序章・第1章)
- 第2回 子どもの定義と権利 (テキスト第2章)
- 第3回 子どもと家族の福祉制度の発展過程 (テキスト第3章)
- 第4回 児童福祉法・児童虐待防止法・DV法 (テキスト第4章1・2・3節)
- 第5回 母子及び寡婦福祉法・母子保健法 (テキスト第4章4・5節)
- 第6回 児童手当法/児童扶養手当法/特別児童扶養手当等の支給に関する法律 (テキスト第4章6・7・8節)
- 第7回 次世代育成支援推進法/少子化社会対策基本法/売春防止法 (テキスト第4章9・10・11節)
- 第8回 子ども家庭福祉制度にかかわる組織・団体 (テキスト第5章)
- 第9回 児童相談所 (テキスト第6章)
- 第10回 児童福祉施設 (テキスト第7章)

- 第11回 ひとり親家庭への支援 (テキスト第8章)
- 第12回 子どもと家族の福祉制度における組織・団体・専門職の役割と実際 (テキスト第9章)
- 第13回 子どもと家族の福祉制度における他職種連携、ネットワークと実際 (テキスト第10章)
- 第14回 子どもと家族の福祉制度における他職種連携、ネットワークと実際 (テキスト終章)
- 第15回 総括 (試験とまとめ)

6. Special Information (留意事項)

カードリーダーで出欠を確認するので、学生カードを必ず携行すること。

講義コード	24527601			
科目名	社会福祉援助技術V			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』 社会福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献				
備考	『社会福祉援助技術I-IV』の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目では、社会福祉援助技術Ⅲ、Ⅳを踏まえ、主に間接援助技術を中心としたより専門的なソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を深める

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 集団援助に求められる知識と技術についてより深く理解する
- 2 ネットワーキングやケアマネジメントなどについてより深く理解する
- 3 スーパービジョンに求められる知識と技術についてより深く理解する
- 4 相談援助の実際 (権利擁護活動を含む) について理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの該当する部分を概読しておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート (35点) で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・相談援助とは
- 第2回 相談援助における対象の理解1 視点
- 第3回 相談援助における対象の理解2 方法
- 第4回 ケアマネジメントの理論と方法1 インテーク
- 第5回 ケアマネジメントの理論と方法2 アセスメント
- 第6回 ケアマネジメントの理論と方法3 ケア計画
- 第7回 ケアマネジメントの理論と方法4 モニタリング・終結
- 第8回 グループを活用した相談援助1 グループアプローチ
- 第9回 グループを活用した相談援助2 グループミーティングの進め方
グループの力を使う工夫
- 第10回 グループを活用した相談援助3 グループミーティングの進め方
問題解決技法を使って
- 第11回 コーディネーションとネットワーク1 ケアコーディネーション
- 第12回 コーディネーションとネットワーク2 ネットワーキング
- 第13回 相談援助における社会資源の活用・調整
- 第14回 相談援助における社会資源の開発
- 第15回 理解度確認テスト・解説とまとめ

6. Special Information (留意事項)

教科書を使って授業をするので必ず購入すること。

講義コード	24527701			
科目名	社会福祉援助技術VI			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』 社会福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献				
備考	『社会福祉援助技術I-V』の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目では、社会福祉援助技術Ⅲ、Ⅳを踏まえ、主に間接援助技術を中心としたより専門的なソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を深める

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 ソーシャルワークのさまざまなモデル、アプローチについて理解する
- 2 スーパービジョンに求められる知識と技術についてより深く理解する
- 3 相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの該当する部分を概読しておくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

理解度確認テスト(50点)、授業参加度(15点)、レポート(35点)で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション ソーシャルワークの実際
- 第2回 さまざまな実践モデルとアプローチⅠ 医学モデル、生活モデル
- 第3回 さまざまな実践モデルとアプローチⅠ ストレngthモデル
- 第4回 さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 心理社会的アプローチなど
- 第5回 さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 危機介入アプローチなど
- 第6回 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ エンパワメントアプローチなど
- 第7回 さまざまな実践モデルとアプローチⅢ ナラティブアプローチなど
- 第8回 相談援助の実際1 さまざまなアプローチを使って 児童福祉
- 第9回 相談援助の実際2 さまざまなアプローチを使って 障害者福祉
- 第10回 スーパービジョン
- 第11回 コンサルテーション
- 第12回 ケースカンファレンス
- 第13回 個人情報の保護
- 第14回 事例分析・事例検討
- 第15回 理解度確認テスト・解説とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24527801			
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅲ 地域を基盤にしたソーシャルワークへの展開			
担当者	酒井 久美子			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員20人 『社会福祉援助技術演習I-III』の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

相談援助には、個別支援にとどまらず、さまざまな問題を総合的・包括的

な視点で捉え、地域支援へと展開することが求められている。また、地域における各種の課題や問題状況を把握、分析したうえで、必要な専門職等との連携・協働を視野に入れながら、解決するための方法を模索することも求められる。そこで本演習では、社会福祉士(専門職)として必要な知識をもとに、実践的な力を習得することを目標とする。特に、地域支援や地域福祉の基盤整備と開発にかかわる実践力の習得をめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 利用者のニーズから地域課題を考える。
2. 地域の現状把握と地域における生活課題、福祉課題を考える。
3. 地域福祉を推進するための情報収集、課題の分析、計画づくりの過程について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

現場実習で体験した内容や具体的な事例をもとに、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション等をおこなう。そのために学生の主体的な参加、取り組みを求める。また、提示する課題に対して、グループワークによる発表、レポート作成に取り組む。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自の現場実習を振り返り、成果や課題を明確にしておくこと。
地域福祉にかかわる情報や社会資源について情報収集しておくこと。
グループワークによる課題への取り組みに対して、情報収集、情報共有、まとめの作業など、グループによる取り組みを進めておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、グループ課題発表(10%)、グループレポート課題(10%)、個人レポート課題(50%)で総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておくこと。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現場実習の振り返りと総括
- 第3回 実習の学びを事例にした演習①(地域連携の実際)
- 第4回 実習の学びを事例にした演習②(チームアプローチの可能性)
- 第5回 個別支援から地域支援を考える①(ソーシャルワーカーの援助方針と視点)
- 第6回 個別支援から地域支援を考える②(地域住民への働きかけ)
- 第7回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開①(相談への対応)
- 第8回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開②(情報収集の方法)
- 第9回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開③(ネットワーク形成)
- 第10回 地域福祉計画の策定過程について
- 第11回 地域の情報収集について
- 第12回 地域の課題把握・分析について
- 第13回 サービス評価について
- 第14回 計画づくりについて
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

社会福祉士受験資格取得を希望する場合は、必ず受講すること。
専門職に必要な演習科目のため、受講者一人ひとりが自主的、積極的に演習に取り組むこと。

講義コード	24527901			
科目名	社会福祉援助技術実習指導Ⅰ			
担当者	酒井 久美子・小池 桂・三好 明夫・矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	社会福祉援助技術現場実習ハンドブック 社会福祉援助技術現場実習報告書			
備考	週2コマ連続 『社会福祉援助技術I』『社会福祉原論I』を履修済であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 社会福祉施設での現場実習に先立つ総合的な事前学習として位置づけ、現場実習の効果的な導入をはかる。
2. 施設等の運営の実際、利用者、援助の内容、職員の役割等について理解を深める。

3. 実習場面を想定した事例研究や援助に関する演習などをおこない、実際的な実習指導を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

以下の点について掘り下げ、理解を深める。

1. 社会福祉援助技術現場実習の意義と目的を理解する。
2. 社会福祉施設等の総合的理解を獲得する。
3. 分野別の講義等で福祉現場や援助の基本的姿勢について学ぶ。
4. 見学により社会福祉施設等での援助の実際を学ぶ。
5. 体験学習により実習に必要な援助技術を知る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義、見学、体験学習などによる総合的な実習事前学習とする。社会福祉施設等現場経験のある講師による講義、全体クラスと小クラスによる事前指導、および見学、講義などの振り返りなどにより理解を深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各分野の講義、見学実習に備えて、事前に関係する法律、社会福祉現場の現状等について調べ、問題意識を持って参加し、質問などできるように準備しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50点)、レポート (40点)、その他授業中の態度や参加度など平常点 (10点) で総合的に評価する。欠席・遅刻は原則減点 (欠席1回につき、5点) とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 実習に関するオリエンテーション (授業のねらい、実習の意義、位置づけなど)
実際の社会福祉援助の理解 - 講義1 (高齢者福祉分野)
- 第2回 実習現場における現場体験学習及び見学実習 (実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む) 見学授業1 高齢者福祉施設
- 第3回 実際の社会福祉援助の理解 - 講義2 (児童福祉分野)
見学実習1の振り返り
- 第4回 実習現場における現場体験学習及び見学実習 (実際の各種サービスの利用体験を含む) 見学授業2 児童福祉施設
- 第5回 実際の社会福祉援助の理解 - 講義3 (障害者福祉分野)
見学実習2の振り返り
- 第6回 実習現場における現場体験学習及び見学実習 (実際の各種サービスの利用体験を含む) 見学授業3 障害児・者福祉施設
- 第7回 実際の社会福祉援助の理解 - 講義4 (福祉機関・社会福祉協議会)
見学実習3の振り返り
実習施設選択の相談
- 第8回 実際の社会福祉援助の理解 - 講義5 (母子生活支援施設)
実習を終えた学生による評価全体総括会 (実習報告会) への参加
- 第9回 実際の社会福祉援助の理解 - 講義6 (福祉機関・地域包括支援センター)
母子生活支援施設講義の振り返り
- 第10回 実習分野に関する個別面談
地域包括支援センター講義の振り返り
- 第11回 利用者体験学習 - 体験学習1 車いす介助とブラインドウォーク
- 第12回 利用者体験学習 - 体験学習2 高齢者疑似体験
- 第13回 実際の社会福祉援助の理解 - 講義7 (現代社会における生活困難状況の現状について)
- 第14回 総括 (小クラスにより、授業全体を振り返り、現場実習に向けて必要な援助のあり方や意欲の確認などグループワークで確認する)
- 第15回 実習指導Ⅰの振り返り (小クラスによる発表とディスカッション)
実習指導Ⅱ、現場実習、実習指導Ⅲに向けてのガイダンス

6. Special Information (留意事項)

1. この科目は社会福祉士受験資格の必修科目である。社会福祉援助技術Ⅰおよび社会福祉原論Ⅰを履修済みであることを原則とする。
2. 施設見学では大学より施設までの帰路を含む交通費は各自負担。
3. 原則として、欠席・遅刻は認めない。

講義コード	24528001			
科目名	社会福祉援助技術実習指導Ⅱ			
担当者	酒井 久美子・桐野 由美子・小池 桂・三好 明夫・矢島 雅子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[社]			
前提科目	[社会福祉援助技術実習指導Ⅰ]			
テキスト				
参考文献	社会福祉援助技術現場実習ハンドブック 社会福祉援助技術現場実習報告集			
備考	「社会福祉援助技術Ⅱ」「社会福祉原論Ⅱ」を履修済みであること。 「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること。 ※入学年度により履修条件が異なる。詳細は学生便覧を参照。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会福祉援助技術現場実習に必要な知識や技術などの具体的項目について、ガイダンス、相談指導など進め、実習に取り組む姿勢や態度を理解し、円滑で効果的な現場実習への導入を図ることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深め、専門職としての自覚を促す。
2. 行動観察と記録の作成について学ぶ。
3. 実習計画書の作成に取り組む。
4. 介護技術の必要な学生に対して介護の知識や技術を指導する。
5. 専門職として求められる資質や技能、倫理などについて、各分野に関する講義を通して理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 担当教員制による小クラスでのガイダンス、個別指導、スーパービジョンや全体クラスによる講義、ガイダンスなどをおこなう。
2. 社会福祉施設等現場経験のある講師による講義、前年度現場実習修了生による実習報告会などを実施し、必要な知識や方向づけをおこなう。
3. テキストは社会福祉援助技術現場実習ハンドブックや配付資料を用いる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各実習施設に関する根拠法や現状等に関する情報の収集に努めること。毎回の授業には、問題意識を持って臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50点)、レポート (40点)、その他授業中の態度や参加度など平常点 (10点) で総合的に評価する。欠席・遅刻は原則減点 (欠席1回につき、5点) とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 提出書類の書き方などの説明
- 第2回 分野別講義1 (実習生に期待する・障害者分野)
- 第3回 分野別講義2 (実習生に期待する・児童分野)
- 第4回 分野別講義3 (実習生に期待する・高齢者分野)
- 第5回 分野別講義4 (実習生に期待する・福祉機関・社会福祉協議会)
- 第6回 社会福祉援助技術集中セミナー
- 第7回 必要書類の提出、実習計画書の指導
- 第8回 前年度実習修了生による評価全体総括会 (実習報告会) への参加
- 第9回 講義「感染症について」
- 第10回 実習の意義、目的の理解・明確化、実習計画書の作成指導、事前オリエンテーションに向けての指導 (小クラスおよび個別指導)
- 第11回 実習に向けての直前ガイダンス
(視聴覚教材「介護の現場で学ぶ - 高校生のための社会福祉実習 -」を活用して、実習に向けての事前学習から現場実習までの流れや目的、実際を理解する。プライバシーの保護と守秘義務などに関する理解を促す)
- 第12回 実習記録の書き方1 実習記録とは
- 第13回 実習記録の書き方2 実習記録の方法
- 第14回 実習報告会 (前年度現場実習経験者を囲んで)
- 第15回 実習直前指導 (各自の実習目標、実習に臨む態度など再確認)

6. Special Information (留意事項)

*各分野別講義は専門職としての倫理、技術、専門性、実習生としての留意事項などについて包括的な内容のものである。

(注) 1 社会福祉援助技術現場実習を効果的に進めるため、実習生用の実習指導マニュアルとして「社会福祉援助技術現場実習ハンドブック」、実習記録として「社会福祉援助技術現場実習ノート」を作成し、実習指導に活用して、指導をおこなう。

2 分野別講義や実習に向けてのガイダンスなどにより、援助の基本的姿勢や福祉現場についての理解、個人のプライバシーの保護や守秘義務等について十分理解させる。

3 配属実習依頼時に実習指導担当教員が施設を訪問し、実習の内容、計画などについて協議をおこなう。直前には学生と実習指導担当教員、実習先の指導担当者との協議のもとに実習計画書の作成をおこなう。

履修上の留意事項

1. 社会福祉援助技術実習指導Ⅰ、社会福祉援助技術Ⅱおよび社会福祉原論Ⅱを履修済みであること。
2. 原則として、老人福祉論Ⅰ・Ⅱ、児童福祉論、障害者福祉論を履修済みであること。
3. 原則として、社会福祉援助技術演習Ⅰを履修済み、社会福祉援助技術演習Ⅱを履修中であること。
4. 受講態度や適性などによっては現場実習を認めない場合もある。
5. 原則として、欠席・遅刻は認めない。

講義コード	24528101		
科目名	地域福祉論Ⅰ 地域福祉の理論		
担当者	酒井 久美子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[保][社][精]		
前提科目			
テキスト	『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』成清美治・川島典子編著 学文社 2013		
参考文献	『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—』全国社会福祉協議会 2008		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々が暮らし、さまざまな生活問題や社会福祉問題が山積しているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安心・安全に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通じて考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方(概念)・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要なことについて学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

配付資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

地域福祉に関連する社会福祉法やテキストの該当箇所、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのかを確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習をして臨むこと。加えて、毎回授業の資料を事前に配付するので、必ず予習をして授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、復習クイズ(10%)、形成テスト(60%)に基づいて総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域福祉の概念 ①地域とは何か

第3回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か

第4回 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流(欧米の歴史的展開)

第5回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程

第6回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ

第7回 地域福祉の主体と対象

第8回 地域福祉計画と地域福祉活動計画

第9回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会

第10回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員

第11回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など

第12回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織

第13回 地域福祉の人材・財源

第14回 総括および形成テスト

第15回 地域福祉推進の課題と展望

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24528201		
科目名	地域福祉論Ⅱ 地域福祉推進のための主体と方法		
担当者	酒井 久美子		
単位数	2	配当学年	34
資格	[保][社][精]		
前提科目	「地域福祉論Ⅰ」※H23年度以後入学者に適用		
テキスト	『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』成清美治・川島典子編著 学文社 2013		
参考文献	「地域福祉論Ⅰ」の履修者であること※H22年度以前入学者に適用		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。地域住民の主体的な取り組みを推し進めていくためには、住民の主体形成、地域の組織化を進めていくことが必要である。そこで、住民主体の原則を再度確認し、なぜ住民が主体なのか、住民の主体的な取り組みの必要性について、理解を深め、地域福祉を推進するための方法について考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 住民の主体的な取り組みの必要性について考える。
2. 住民が主体的に取り組むために必要な支援について考える。
3. 特に小地域の取り組みについて検討する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

配付資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自が暮らしている地域の住民活動について調べておくことが望ましい。住民活動への支援体制について調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習をして臨むこと。加えて、毎回授業の資料を事前に配付するので、必ず予習をして授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、復習クイズ(10%)、形成テスト(60%)に基づいて総合的におこなう。欠席や遅刻は減点の対象とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域福祉と福祉教育
- 第3回 福祉教育の概念・展開
- 第4回 地域福祉と住民参加
- 第5回 コミュニティソーシャルワークについて
- 第6回 ソーシャルサポートネットワークについて
- 第7回 地域の組織化
- 第8回 社会資源の活用
- 第9回 地域特性の把握について
- 第10回 地域における生活問題、課題の把握について
- 第11回 地域活動への支援体制について
- 第12回 地域における連携・協働とは
- 第13回 小地域における住民活動の実際

第14回 総括および形成テスト

第15回 住民主体の地域福祉活動について課題と展望

6. Special Information (留意事項)

社会福祉士に必要な地域福祉推進にかかわる専門的知識や技術、方法に関する内容が中心となるため、その点を十分考慮したうえで、履修登録すること。

講義コード	24528301		
科目名	福祉行政と福祉計画		
担当者	小池 桂		
単位数	2	配当学年	34
資格	[社][精]		
前提科目			
テキスト	『新社会福祉士養成課程対応 福祉行政と福祉計画』 杉岡直人編 みらい 最新版		
参考文献	『自治型地域福祉の展開』 右田紀久恵編 法律文化社 1993 『日本の自治・分権』 松下圭一 岩波新書 1996 『新地方自治法』 兼子仁 岩波新書 1999 『財政のしくみがわかる本』 神野直彦 岩波ジュニア新書 2007		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では福祉行政の基礎的な知識をふまえた上で、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。

- ①福祉の行政の実施体制について理解できる。
- ②福祉行政の実態について理解できる。
- ③福祉計画の目的と意義、主体、方法について理解できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①福祉行政の実施体制（国、都道府県、市町村の役割、その際の国と地方の関係等）を学ぶ。
- ②福祉行政の動向を理解する。
- ③福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例を交えながら学ぶ。
- ④福祉計画を実際に策定してみる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に進めるが、特に重要なテーマについてはディスカッションも取り入れる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ①テキストを読んでおくこと。
- ②授業では積極的に発言すること。
- ③社会保障の財源に関する新聞記事やニュースに関心をもつこと。
- ④自分の居住市町村（出身地でもよい）の福祉について調べておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、平常点（10点）、小テスト（20点）、課題（10点）、定期試験（60点）とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の概要とねらい
- 第2回 福祉行政の動向と福祉計画の課題（テキスト「序章」）
- 第3回 地方公共団体の役割と行政組織（テキスト「第1章1節」）
- 第4回 福祉サービスにおける地方自治体の役割（テキスト「第1章2節、3節」）
- 第5回 福祉行政の組織と専門職①：福祉事務所、児童相談所等（テキスト「第2章1節～3節」）
- 第6回 福祉行政の組織と専門職②：婦人相談所等（テキスト「第2章4節～6節」）
- 第7回 福祉行政の組織と専門職③：地域包括支援センター（テキスト「第2章7節」）
- 第8回 小テスト及び解説
- 第9回 福祉財政と財源（テキスト「第3章1節、3節」）
- 第10回 地方における福祉財政（テキスト「第3章2節」）
- 第11回 福祉計画の意義と目的（テキスト「第4章1節～3節」）
- 第12回 福祉計画策定プロセスと方法（テキスト「第5章」）
- 第13回 福祉計画の具体例～地域福祉計画～
- 第14回 福祉計画の策定～オリジナルの福祉計画をつくってみよう～
- 第15回 福祉計画の発表

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24528401		
科目名	就労支援		
担当者	佐藤 純		
単位数	1	配当学年	34
資格	[社]		
前提科目			
テキスト	『新・社会福祉士養成講座（18）就労支援サービス』 社会福祉士養成講座編集委員会（編集） 中央法規 2013		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「働く」ということは単に収入を得るだけではなく、その人がその人らしく生活するために、重要な要素である。そのような観点から、「障害」者や生活保護受給者などの就労支援を中心に、当事者への相談援助や就労サポートシステムの構築など、社会福祉士に求められる役割について学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 相談援助活動における自立支援の観点から、各種の就労支援制度の概要について理解する
- 2 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する
- 3 就労支援分野との連携について理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書や授業開始時に配付する資料に基づいて講義を行う。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業で指示された事前学習の課題をしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験（50点）、授業参加度（50点）で評価を行う。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 「働く」とは何か
- 第2回 雇用・就労の動向、労働法規の概要
- 第3回 障害者福祉施策における就労支援制度
- 第4回 障害者雇用施策の概要と専門職の役割
- 第5回 生活保護制度における就労支援制度
- 第6回 生活保護制度に係る専門職の役割
- 第7回 生活保護制度におけるハローワークとの連携
- 第8回 理解度確認テスト

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24528501		
科目名	権利擁護と成年後見制度		
担当者	土井 裕明		
単位数	2	配当学年	34
資格	[社][精]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

悪徳商法被害や虐待など、講師が実際に取り扱った事件を紹介しながら、成年後見制度、民法、憲法を理解することを目標とする。基本的には法律の講義であるが、条文解釈ではなく、具体的な事例を通して、法制度の役割を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 日本国憲法の基本原則、民法（財産法、家族法）、行政法、刑法
- 2 成年後見制度
- 3 日常生活自立支援事業
- 4 成年後見制度利用支援事業
- 5 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際
- 6 権利擁護活動の実際

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に進める。教材は、講師が用意したプリントを使用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

必要に応じ、講義の中で指示する。準備学習に多くの負担は要しない。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

講義の中で、適宜、小テストを実施したり、レポートを提出させる。期末試験は予定していない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	序論 本講義の全体像 法律とソーシャルワーク 権利擁護を必要とする人たちが抱える諸問題と法律を活用して できる支援
第2回	1 相談援助活動に求められる法知識(1) 憲法, 行政手続, 行政争訟
第3回	1 相談援助活動に求められる法知識(2) 民法財産編
第4回	1 相談援助活動に求められる法知識(3) 民法親族相続編
第5回	2 成年後見制度の概要(1) 後見, 保佐, 補助, 任意後見の概要
第6回	2 成年後見制度の概要(2) 成年後見の実務, 成年後見制度の最近の動向
第7回	3 成年後見と関わる諸制度 地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業), 成年後見制度 利用支援事業, その他
第8回	4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(1) 認知症高齢者
第9回	4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(2) 消費者被害
第10回	4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(3) 多重債務
第11回	4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(4) 虐待
第12回	4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(5) 障がい者への支援
第13回	4 権利擁護支援の局面と法的制度の活用(6) アルコール・薬物依存, ホームレス支援
第14回	5 成年後見制度に関わる組織・団体とその役割
第15回	まとめ これからの権利擁護の課題と展望

6. Special Information (留意事項)

授業で取り上げる具体的な事件の内容は、実際に講師が取り扱ったものをアレンジしたものである。個人を特定できないように加工してあるが、センシティブなものが多いので、授業外で話題にしたり、ネットにアップしたりすることは差し控えてほしい。

講義コード	24528601		
科目名	更生保護制度		
担当者	大畑 好司		
単位数	1	配当学年	34
資格	[社]		
前提科目			
テキスト	『「更生保護制度」』 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2010年		
参考文献	『Q&A 少年非行を知るための基礎知識』 村尾泰弘 明 石書店 2008年		
備考	7.5コマ		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力		
	思考・解決する力	✓	

1. Course Description (科目の教育目標)

成人の犯罪、子どもの非行といった問題に対して、その解決のために裁判所などの刑事司法、少年司法諸機関や更生保護機関が関与している。しかし、こうした課題解決にあたっては、司法的な側面ばかりではなく、福祉的な側面も視野に入れ、関係機関との連携を図っていかなければならないという今日の状況を見出すことは出来ない。

また、ソーシャルワーカーとして取り組む相談援助活動の場面においても、更生保護制度を中心とした刑事司法・少年司法制度についての理解は不可欠な状況である。

こうした観点から、司法の枠組みの中で展開される社会福祉的機能や社会福祉的实践について、具体的な問題を中心に学ぶことを通して、更生保護制度について知識を深め、視点を広げることが目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 刑事司法・少年司法制度について理解する。
- 2 更生保護制度の枠組を理解する。
- 3 更生保護制度を支える組織、専門職について理解する。

4 関係機関との連携のあり方について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義より行う。

本科目は、社会福祉士国家試験科目であり、受験予定者は特に丹念な学習が不可欠である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前にテキストの講義で取り扱う箇所を熟読しておくことが不可欠である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート(30%)、形成テスト(70%)によって評価を行う。

ただし、レポートの提出がない場合、形成テストの点数如何に関わらず不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	刑事・少年司法制度と更生保護
第2回	仮釈放等の制度
第3回	保護観察の制度と生活環境の調整
第4回	更生保護制度の担い手
第5回	緊急更生保護と関係機関・団体との連携
第6回	医療観察制度の概要
第7回	更生保護における犯罪被害者等施策
第8回	形成テストと解説

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24528701			
科目名	精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎・専門) 第2 版』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献	授業中に示す			
備考	平成24年度以後入学者に適用			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健福祉士の役割、相談援助の定義・理念、精神保健福祉士と他の専門職の概念と範囲、多職種連携などについて学習することで、精神保健福祉士の行う相談援助の基盤となる理念・業務・役割などを習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 精神保健福祉士の役割と意義を学ぶ
- 2 精神保健福祉士の相談援助の定義、理念、権利擁護について学ぶ
- 3 精神保健福祉分野における相談援助の体系
- 4 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲と総合的・包括的な援助や多職種連携について学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

理解度確認テスト(50点)、授業参加度(15点)、レポート点(35点)で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション 精神保健福祉士の支援とは
第2回	精神保健福祉士の役割と意義Ⅰ(意義と役割)
第3回	精神保健福祉士の役割と意義Ⅱ(Y問題)
第4回	精神保健福祉士の役割と意義Ⅲ(精神保健福祉士法)
第5回	精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅰ(ソーシャルワーク)
第6回	精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅱ(支援技術)
第7回	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅰ(医療職)
第8回	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅱ(その他)
第9回	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅰ(偏見)
第10回	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅱ(医療)
第11回	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅲ

- (地域生活)
- 第12回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅳ (社会生活)
- 第13回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅰ (包括的な支援)
- 第14回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅱ (ネットワークング)
- 第15回 理解度確認テスト・解説とまとめ
6. Special Information (留意事項)

講義コード	24528801			
科目名	精神保健福祉援助演習 (専門) Ⅰ			
担当者	佐藤 純			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献				
備考	「精神保健福祉援助演習 (専門) Ⅰ」の履修者であること 選考合格者のみ履修可			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神に「障害」のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を養うために、見学やロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

精神保健福祉援助実習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの該当する部分を概読しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (100点) で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ケースワーク技術-面接相談
 第2回 ケースワーク技術-電話相談
 第3回 ケースワーク技術-訪問援助
 第4回 グループワーク技術-グループワーク体験
 第5回 グループワーク技術-SST
 第6回 コミュニティワーク技術-社会資源の活用
 第7回 コミュニティワーク技術-ネットワークング
 第8回 ケアマネジメント技術-インテークからアセスメント
 第9回 ケアマネジメント技術-プランニングから終わりで
 第10回 チームアプローチ
 第11回 精神科医療機関における事例の検討-地域移行
 第12回 相談支援事業所における事例の検討-ピアサポート
 第13回 就労支援事業所における事例の検討-就労
 第14回 行政機関における事例の検討-危機介入
 第15回 まとめ・精神保健福祉における支援とは

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24528901			
科目名	精神保健福祉援助演習 (専門) Ⅱ			
担当者	佐藤 純			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト	『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2015			
参考文献				
備考	「精神保健福祉援助演習 (専門) Ⅱ」の履修者であること 選考合格者のみ履修可			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神に「障害」のある人の「人生」を支援する精神保健福祉士の視点とその支援技術を養うために、見学やロールプレイ・事例検討などの演習を通じて修得する。それらを通じて自己を客視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。また、実習の振り返りから自己覚知を進め、実践力を強める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの該当する部分を概読しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (100点) で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 実習の振り返り-自己覚知 個別
 第2回 実習の振り返り-自己覚知 グループ
 第3回 実習事例の検討<実習生事例1, 2>
 第4回 実習事例の検討<実習生事例3, 4>
 第5回 実習事例の検討<実習生事例5, 6>
 第6回 精神保健福祉士の倫理1 実際
 第7回 精神保健福祉士の倫理2 ジレンマ
 第8回 事例演習-医療に結びつける援助
 第9回 事例演習-危機的状況における援助
 第10回 事例演習-児童虐待・DV
 第11回 事例演習-地域ネットワーク
 第12回 事例演習-社会資源の開発
 第13回 セルフヘルプへの支援技術
 第14回 セルフヘルプへの支援技術-事例に基づいて
 第15回 まとめ-精神保健福祉士の専門的援助技術とは何か

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24529001			
科目名	精神保健福祉援助実習指導			
担当者	佐藤 純			
単位数	3	配当学年	3	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業時に紹介する			
備考	選考合格者のみ履修可			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健福祉現場における実習の意義を理解するとともに、実習を通して精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶことができるよう、精神に「障害」のある人の現状やその生活実態と困難を理解し、精神保健福祉士として求められる資質、知識、技術等を総合的に発揮できるような能力を涵養する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- 2 精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の困難について理解する。
- 3 精神保健福祉援助にかかる知識と技術について具体的かつ实际的に理解する。
- 4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題などを把握し、総合的に能力を発揮できる力を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業開始時に配付する資料に基づいて講義演習実習を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前の講義で指示された準備学習をしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50点) とレポートなどの事前学習における評価 (50点) で評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ①②③実習オリエンテーション
- 第2回 ①精神科医療機関における精神保健福祉士の実際/②③精神科医療機関の見学実習
- 第3回 ①精神科診療所における精神保健福祉士の実際/②③精神科診療所の見学実習
- 第4回 ①生活支援事業所における精神保健福祉士の実際/②③生活支援事業所の見学実習
- 第5回 ①就労支援事業所における精神保健福祉士の実際/②③就労支援事業の見学実習
- 第6回 ①行政、相談機関における精神保健福祉士の実際/②③行政、相談機関における精神保健福祉士の実際
- 第7回 ①②③実習先施設の事前訪問・見学実習
- 第8回 ①②③自己覚知 1 (自分を知る)
- 第9回 ①②③自己覚知 2 (自分のフィルターを知る)
- 第10回 ①②実習計画書の作成 1 (目標設定) /③本人の体験談から学ぶ
- 第11回 ①②実習計画書の作成 2 (方法) /③家族の体験談から学ぶ
- 第12回 ①②③実習記録の書き方
- 第13回 ①②③支援計画の作り方1 (アセスメント)
- 第14回 ①②③支援計画の作り方2 (プランニング)
- 第15回 ①②③実習直前指導

6. Special Information (留意事項)

3コマ連続の授業である。見学先の都合により、曜日時間等の変更もある。

講義コード	24529101			
科目名	精神保健福祉援助実習 I			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	選考合格者のみ履修可			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができるようになり、またそれをもとに専門的技術として体系だてて概念化・理論化する能力を涵養する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習修了者には60点、実習施設による評価 (15点)、担当教員による評価 (15点)、その他提出物、実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

5. Special Information (留意事項)

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。なお社会福祉援助技術現場実習の単位修得者は、本科目は免除となるため、履修する必要はない。

講義コード	24529201			
科目名	精神保健福祉援助実習 II			
担当者	佐藤 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	選考合格者のみ履修可			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができるようになり、またそれをもとに専門的技術として体系だてて概念化・理論化する能力を涵養する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習修了者には60点、実習施設による評価 (15点)、担当教員による評価 (15点)、その他提出物、実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

5. Special Information (留意事項)

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。

講義コード	24529301			
科目名	精神保健福祉援助実習Ⅲ			
担当者	佐藤 純			
単位数	3	配当学年	3	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	選考合格者のみ履修可			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方の理解を深める。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができるようになり、またそれをもとに専門的技術として体系だてて概念化・理論化する能力を涵養する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習修了者には60点、実習施設による評価(15点)、担当教員による評価(15点)、その他提出物、実習ノートなど(10点)で総合的に評価する。

5. Special Information (留意事項)

指定された精神科病院、精神科診療所での指導のもと、90時間(13日)以上の実習に取り組む。

講義コード	24530001			
科目名	保育原理Ⅰ			
担当者	石井 浩子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『最新保育講座①保育原理〔第3版〕』 森上史朗・小林紀子・若月芳浩 ミネルヴァ書房 2015年 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言編 萌文書林 2014年			
参考文献	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『よくわかる保育原理第4版』 森上史朗・大豆生田啓友編 ミネルヴァ書房 2015年			
備考	保育士資格取得希望者は履修すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

現在の子どもを取り巻く環境は、社会の変化に影響を受け、大きく変化している。また、社会の変化により、保育所に求められる役割も多様化している。このような中で、健全な子どもたちの育ちを担うため、保育者として、まず、保育の意義や目的、保育の歴史と現状、保育所保育の原理と内容について理解する。さらに、子どもの発達とその過程に応じた保育の内容について学ぶ。また、乳幼児の生活実態を把握し、保育所保育の計画の基本、さらに、保育士の資質とその役割・任務について習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1)子どもを取り巻く環境や保育の現状について理解する。
- (2)保育の目的、保育実践の内容や方法を学ぶ。
- (3)子どもの発達や幼児理解、カリキュラムについて理解する。
- (4)保育者の資質について考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で、教科書に沿って授業を進める。適宜、プリントやパワーポイントによる資料提示をする。また、ディスカッション、レポート課題、テストを実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・教科書「第12章保育の現状と課題」について読んで把握しておくこと。
- また、「保育所保育指針」を事前に読んでおくこと。
- ・授業前後に教科書と資料を読んで、「保育」の理解に努めること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題の提出(20%)、定期試験(70%)に基づいて、総合的に評価する(欠席・遅刻は減点する)。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 保育の本質
(1)保育の意義とその思想
(2)保育の目標 |
| 第2回 | (3)子どもの発達特性
(4)保育の原理 |
| 第3回 | 保育の制度と現状 |
| 第4回 | 保育の歴史と現状
(1)西欧における保育施設の誕生と発展 |
| 第5回 | (2)日本における保育施設の誕生と発展 |
| 第6回 | 保育所保育の原理
(1)保育の特性
(2)保育の目標 |
| 第7回 | (3)保育の方法 |
| 第8回 | (4)保育の環境 |
| 第9回 | 保育所保育の内容
(1)保育の内容構成の基本方針 |
| 第10回 | (2)ねらい、内容、領域 |
| 第11回 | (3)遊びと生活
(4)保育形態と保育方法 |
| 第12回 | 保育所保育の計画
(1)保育の計画作成上の基本的視点 |
| 第13回 | (2)保育計画と指導計画
(3)保育の計画作成上の留意事項 |
| 第14回 | 保育士の資質と任務
(1)資格制度と専門性
(2)子ども、保護者とのかわり
(3)保育者間の連携 |
| 第15回 | 子どもが抱える問題 |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24530101			
科目名	保育原理Ⅱ 保育者論			
担当者	石井 浩子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
参考文献	『保育者の職能論』 田中亨胤・尾島重明・佐藤和順 ミネルヴァ書房 2012年			
備考	『保育原理Ⅰ』の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもを取り巻く地域社会や家庭のあり方の変化などにより、基本的な生活習慣の欠如やコミュニケーション能力の不足などが指摘されている。そのため、保育所の機能や保育者の役割が期待され、仕事も多様化している。

よって、このような状況に対して、子どもたちへの援助やその保護者、また、地域の子育て中の家庭への支援について、保育者としてできることやすべきことについて考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 乳幼児を取り巻く社会の状況や背景、家庭のあり方等について学ぶ。
2. 求められる保育者の専門性を学ぶ。
3. 家庭との連携や子育て支援について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

提示した資料や配布資料によって、講義形式ですすめていく。また、演習も行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・事前に、「保育所保育指針」と「保育所保育指針解説書」を読んでおくこと。
- ・前回の授業内容について、配布資料などを見るなど、復習をしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 成績評価は、授業参加度(10%)、提出課題(20%)、形成テスト(70%)等によって総合的に判断する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育者の資質・能力
- 第2回 保育士の制度的位置づけ
(1)資格 (2)要件 (3)責務
- 第3回 保育者に求められるもの
(1)保育者のさまざまな役割
- 第4回 保育者に求められるもの
(2)保育所保育指針からみた保育者の役割
- 第5回 保育者に求められるもの
(3)乳幼児、保護者、同僚、地域の家族からみた保育者の資質
- 第6回 保育者の職務と専門性
- 第7回 子どもと保育内容(1)子ども理解
- 第8回 子どもと保育内容(2)子どもの発達と生活
- 第9回 保育の実践と計画、評価
- 第10回 家庭支援
保護者とのさまざまな連携
- 第11回 地域における子育て支援
- 第12回 保育者の自己研鑽と研修について
- 第13回 保育評価と苦情処理について
- 第14回 保育の現状と課題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

保育士資格取得のための必修科目であるため、受講するにあたって、保育の基本的知識を必要とする(「保育原理Ⅰ」の履修者であること)。

講義コード	24530201			
科目名	養護原理			
担当者	芹澤 出			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護』 新 保育士養成講座編纂委員会/編 全国社会福祉協議会			
参考文献	児童憲章 児童の権利に関する条約 児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもは家庭で養育されることが望ましいが、事情により家庭だけで子育てを行うことが出来ない場合があり、家庭を離れて施設で生活をしたり、家庭から通園して養護を受けることがある。本科目では、児童福祉施設の目的と機能を理解し、児童の正常な成長・発達を保証するために必要な知識、技術について学ぶと共に、問題発生予防的側面や家族の再統合的機能についても学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

社会的養護において、一人ひとりの児童の権利が守られ、その正常な成

長・発達を保証し、援助することのできる知識、技術の理解と児童観 施設養護観の醸成を図るとともに、児童福祉施設の運営・管理、児童養護における今後の課題について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は教科書を中心に進めますが、事例やビデオを取り入れて知識を深めるとともに、実感としての理解を大切にします。必要に応じてプリントを配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

児童福祉施設でのボランティアやアルバイト、施設見学などを通して、児童福祉施設についての理解を深める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績評価は、発表内容(10%)、小レポート(10%)、期末テスト(80%)により判断する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 養護における子ども観(利用者の現状)
- 第2回 養護における子ども観(利用者との関わり)
- 第3回 養護における子ども観(施設の現状)
- 第4回 社会的養護の理念と概念
- 第5回 社会的養護の歴史的変換
- 第6回 児童家庭福祉と社会的養護の関係性
- 第7回 児童の権利養護と社会的養護
- 第8回 社会的養護の制度と法体系
- 第9回 社会的養護の仕組みと実施体制
- 第10回 社会的養護と施設養護
- 第11回 社会的養護の専門職
- 第12回 施設養護の実際
- 第13回 施設養護とソーシャルワーク
- 第14回 社会的養護の課題と展望
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業中に意見を求めたり、考えを整理して発表してもらう事があります。積極的に授業に参加する姿勢で受講して下さい。

講義コード	24530301			
科目名	教育学			
担当者	森本 眞一			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『改訂版学生のための教育学』 西川信廣・長瀬美子 ナカニシヤ出版 2014			
参考文献	講義中に適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26805701			
科目名	教育学			
担当者	森本 眞一			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『改訂版学生のための教育学』 西川信廣・長瀬美子 ナカニシヤ出版 2014			
参考文献	講義中に適宜紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	8001101			
科目名	教育学			
担当者	森本 眞一			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教][博]			
前提科目				
テキスト	『改訂版学生のための教育学』 西川信廣・長瀬美子 ナカニシヤ出版 2014			
参考文献	講義中に適宜紹介する			
備考	中高必修・幼小選択 生活福祉文化学部は専門教育科目(245303)を履修すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24530601			
科目名	小児保健Ⅰ 子どもの健やかな発達・発育を目指して			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保][子]			
前提科目				
テキスト	『子どもの保健-理論と実際-』 岸井勇雄ほか 同文書院 2015			
参考文献	『子どもの保健』 巷野悟郎編 診断と治療社 2011			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について、教育実践との関連から、基礎的、体系的な理解を深め、人間にとって教育とは何かを考えることを目標とする。

しかし、様々な子どもや家族をめぐる諸問題に直面している現在、教育の意義を単に知識としてのみとらえるのでは不十分である。そうした前提に立ち、本講義では、こうした問題行動に直面した子どもに関わる援助者、保護者、家族たちが教育をめぐる現実の問題をどのようにとらえ、どのように課題に取り組んでいくのかという教育実践の視点を重視していきたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 子どもの現状を踏まえ、教育の意味を考える。
- (2) 教育思想や教育制度の歴史的展開をとらえ、教育の基礎的概念と諸理論の今日的意義を考える。
- (3) 発達段階を踏まえ、教育の内容・方法を考える。
- (4) 生涯学習としての社会教育、家庭教育の現状と今後の方向性を考える。
- (5) 教育を担う者の人材育成のあり方を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

現実的教育問題について具体的に事例を挙げながら取り上げ、受講生との対話的な関わりを重視し、受講生が能動的に参加する授業にしたい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

特定の課題については、インターネット上の情報だけでなく、文献にあたることを強く推奨する。その上で、調べた内容と共に、自らの教育観を明確化するプロセスも求める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(20%)課題レポート(30%)及び形成テスト(50%)とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 人間形成と教育－育学実践の立場から－
- 第2回 教育思想の歴史と展開Ⅰ－ベスタロッチの教育思想を中心に－
- 第3回 教育思想の歴史と展開Ⅱ－デュエイの教育思想を中心に－
- 第4回 教育方法論の歴史と展開
- 第5回 教育思想と教育法規
- 第6回 就学前教育の現状と保幼小の連携
- 第7回 学級・学校経営の機能と構造
- 第8回 教員養成制度の歴史
- 第9回 教員養成をめぐる今日的課題
- 第10回 教育課程の変遷と子どもの学力
- 第11回 教育の現代的課題Ⅰ－生徒指導を中心に－
- 第12回 教育の現代的課題Ⅱ－情報モラル教育を中心に－
- 第13回 「新しい学校」の理念と可能性
- 第14回 形成テストによる到達度の把握
- 第15回 教育評価 全体のまとめ

6. Special Information (留意事項)

1. Course Description (科目の教育目標)

生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。また、子どもの発育・発達の状況を把握し、発育の中心となる食生活や栄養の意義を学習する。また、心の発達にも注目し、精神発達の過程を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 子どもの保健の基本について理解する
2. 子どもの身体発育・精神発達を理解する
3. 子どもの生理・運動機能を理解する
4. 子どもの食生活や栄養について理解する
5. 子どもの生活について理解する
6. 保育現場での保健の実際について理解する

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
講義形式
2. 学習方法
(1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充
(2) パワーポイント、DVDを用い、頭の中にイメージを作っていく。
(3) 授業の始めに設問を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。
(4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。
3. テキスト・参考文献
(1) テキストは「子どもの保健」(同文書院)
(2) 参考文献 子どもの保健(診断と治療社)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。
2. 分からないところは、直接尋ねるかあるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、設問への記入(10%)、授業参加度(10%)、定期試験(80%)の総合評価とする。
2. 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、第1章 子どもと保健、第2章 子どもの成長と発達(子どもの身体発育)
- 第2回 第2章 子どもの成長と発達Ⅱ(出産のDVD)
- 第3回 第2章 子どもの成長と発達Ⅲ 運動機能の発達と保健(ビデオ 0~6ヵ月)
- 第4回 第2章 子どもの成長と発達Ⅳ 運動機能の発達と保健(ビデオ 7~12ヵ月)
- 第5回 第3章 子どもの精神保健Ⅰ(概略、精神分析の歴史と発展)
- 第6回 第3章 子どもの精神保健Ⅱ(心の健康や行動の問題、不登校の話)
- 第7回 第4章 子どもの生活と保健Ⅰ(保育環境の整備、衛生管理)
- 第8回 第4章 子どもの生活と保健Ⅱ(保育現場の事故防止、危機管理、安全対策、SIDS)
- 第9回 第5章 子どもの食Ⅰ(特徴、栄養生理、食事摂取基準)
- 第10回 第5章 子どもの食Ⅱ(乳児期の食、母乳について)
- 第11回 第5章 子どもの食Ⅲ(育児用ミルク、混合栄養、離乳、幼児期の食、学齢期の食、食育)
- 第12回 第6章 保育現場での保健の実際Ⅰ(排泄、衣服、清潔)
- 第13回 第6章 保育現場での保健の実際Ⅱ(歯磨き、抱っこ、おんぶ、ベビーカー)、まとめ
- 第14回 形成テスト
- 第15回 形成テストの解説と評価

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24530701			
科目名	小児保健Ⅱ 子どもの病気や異常事態への対応			
担当者	萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保][子]			
前提科目				
テキスト	『子どもの保健-理論と実際-』 岸井勇雄ほか 同文書院 2015			
参考文献	『子どもは素晴らしい』 牛尾信也監修 金原出版 2007 『子どもの保健』 巷野悟郎編 診断と治療社 2011 『子どもの保健』 渡辺 博 中山書店 2012			
備考	「小児保健Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもの病気の特徴を理解し、特に感染症と予防接種について詳しく述べる。また、事故と安全対策については、その実態を学ぶとともに、救急処置を含む対処法および、事故を未然に防ぐ方策について述べる。さらに、保育所と家庭との連携を通じた保健の重要性を理解させ、母子保健の実際を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 子どもの病気の特徴、特に感染症と予防接種について
2. 事故と応急処置について
3. 母子保健の現状

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
講義形式
2. 学習方法
(1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充
(2) パワーポイント、DVD を用い、頭の中にイメージを作っていく。
(3) 授業の始めに設問を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。
(4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。
3. テキスト・参考文献
(1) テキスト 子どもの保健 (同文書院)
(2) 参考文献 子どもは素晴らしい (金原出版)
子どもの保健 (診断と治療社)
子どもの保健 (中山書店)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。
2. 分からないところは、直接質問するか、あるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、設問への記入 (10%)、授業参加度 (10%)、定期試験 (80%) の総合評価とする。
2. 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、第7章 子どもの病気と保育Ⅰ (子どもの健康状態の把握)
- 第2回 第7章 子どもの病気と保育Ⅱ (おもな症状の見方と対応)
- 第3回 第7章 子どもの病気と保育Ⅲ (アレルギー疾患)
- 第4回 第7章 子どもの病気と保育Ⅳ (感染症① 総論と各論)
- 第5回 第7章 子どもの病気と保育Ⅴ (感染症② 各論、食中毒)
- 第6回 第7章 子どもの病気と保育Ⅵ (予防接種)
- 第7回 第7章 子どもの病気と保育Ⅶ (循環器、血液、消化器、腎臓の病気)
- 第8回 第7章 子どもの病気と保育Ⅷ (呼吸器、内分泌、代謝、皮膚の病気)
- 第9回 第7章 子どもの病気と保育Ⅸ (障害のある子どもたち、発達障害)
- 第10回 第8章 救急処置について
- 第11回 第9章 保育所と家庭の連携Ⅰ (生活リズム、食事、睡眠、健康教育)
- 第12回 第9章 保育所と家庭の連携Ⅱ (睡眠の発達)、第10章 母と子どもの保健Ⅰ (母子保健の歴史)
- 第13回 第10章 母と子どもの保健Ⅱ (保育の現状と対策、児童虐待)
- 第14回 形成テスト
- 第15回 形成テストの解説と評価

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24530958			
科目名	小児栄養Ⅱ			
担当者	今井 里佳			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『最新子どもの食と栄養-食生活の基礎を築くために-』 飯塚美和子 他 編集 学建書院			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

栄養に関する基礎知識や、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ① 栄養に関する基本的な知識を身につける。
- ② 子どもの発育・発達について学ぶ。
- ③ 各発達過程における食生活について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ① 授業方法：講義形式を主とし、適宜演習を取り入れる。
- ② 学習方法：適宜、授業内小テストを実施する。
・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
シラバスにそって、教科書の該当箇所を予習する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(20%)、小テスト(10%)、期末試験(70%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 子どもの健康と食生活の意義
- 第2回 栄養に関する基本的知識①
食べ物の消化と吸収について
- 第3回 栄養に関する基本的知識②
食物中の栄養素 (炭水化物・脂質) のはたす役割について
- 第4回 栄養に関する基本的知識③
食物中の栄養素 (たんぱく質・ミネラル) のはたす役割について
- 第5回 栄養に関する基本的知識④
日本人の食事摂取基準について
- 第6回 妊娠・授乳期の発育・発達と食生活①
妊娠・授乳期の発育・発達について
- 第7回 妊娠・授乳期の発育・発達と食生活②
妊娠・授乳期の栄養と食生活について
- 第8回 乳・幼児期の発育・発達と食生活①
乳児期の発育・発達について
- 第9回 乳・幼児期の発育・発達と食生活②
幼児期の発育・発達について
- 第10回 乳・幼児期の発育・発達と食生活③
乳・幼児期の栄養と食生活について
- 第11回 学童期の発育・発達と食生活①
学童期の発育・発達について
- 第12回 学童期の発育・発達と食生活②
学童期の栄養と食生活について
- 第13回 食育の基本について
- 第14回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養について
- 第15回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24530959			
科目名	小児栄養P			
担当者	山中 裕佳子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『よくわかる小児栄養』 大谷貴美子編集 ミネルヴァ書房			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小児期の栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であること、保育における食生活が心の健康にも影響することを、栄養に関する基礎的な知識に関する内容も取り上げながら理解させる。また、保育との関連のなかで、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義、小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる。さらに、食生活と家族・地域との関連性、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解する。
2. 保育における食生活が心の健康にも影響することを理解する。
3. 小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解する。
4. 小児に適切な食事が提供できることの意義を理解する。
5. 食生活と家族・地域との関連性、生活全般や環境の望ましい姿を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法：講義形式を主とし、適宜演習を取り入れる。
 2. 学習方法：毎回確認テストを実施するとともに、講義の要点、質問事項を記入させ、次回に解説する。
 3. テキスト：大谷貴美子編『よくわかる小児栄養』（ミネルヴァ書房）
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
詳細は授業中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(20%)、確認テスト(10%)、期末テスト(70%)により総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 食べることの基本的な理解
- 第2回 食行動に関わる要因
- 第3回 子どもたちの食の背景
- 第4回 子どもたちの食の姿
- 第5回 食べる機能の発達と食行動
- 第6回 消化と吸収と排泄のちから
- 第7回 栄養とは
- 第8回 栄養の基礎知識
- 第9回 乳児期の特徴
- 第10回 乳児期の食事
- 第11回 幼児期の特徴
- 第12回 幼児期の食事
- 第13回 障害児の特徴と食事
- 第14回 楽しい食事の演出とその実際
- 第15回 栄養バランスをどのように教えるか

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531058			
科目名	保育内容 I Z			
担当者	石井 浩子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言編 萌文書林 2014年			
参考文献	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『乳幼児の健康第2版』 前橋明編著・石井浩子・岩城淳子・佐野裕子・宗高弘子・星 永・松尾瑞穂 大学教育出版 2010年			
備考	保育士養成課程専用クラス 半年の半分			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。ここでは、5領域のうち、「健康」について学ぶとともに、他領域との関連を踏まえながら総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、乳幼児の心身の発達を理解して適切な援助ができるように、保育者はどのような役割を果たし援助していけばよいのかを考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1)子どもの心身の成長・発達について理解する。
- (2)基本的生活習慣について理解し、その援助について考える。
- (3)領域「健康」のねらい及び内容を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

配布資料を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。配布資料やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・保育所保育指針や保育所保育指針解説書を事前に読んでおくこと。
- ・授業終了後には、配布資料などを見て復習をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育内容「健康」の意義
- 第2回 乳幼児の心身の発達
運動発達について
- 第3回 あそびを通じた指導
- 第4回 運動遊びの指導
指導計画と評価
- 第5回 基本的生活習慣とその指導
- 第6回 食生活と食育
- 第7回 安全環境と安全教育
- 第8回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531059			
科目名	保育内容 I P			
担当者	石井 浩子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言編 萌文書林 2014年 『乳幼児の健康第2版』 前橋明編著・石井浩子・岩城淳子・佐野裕子・宗高弘子・星 永・松尾瑞穂 大学教育出版 2010年			
備考	半年の半分 特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。ここでは、5領域のうち、「健康」について学ぶとともに、他領域との関連を踏まえながら総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、乳幼児の心身の発達を理解して適切な援助ができるように、保育者はどのような役割を果たし援助していけばよいかを考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1)子どもの心身の成長・発達について理解する。
- (2)基本的な生活習慣について理解し、その援助について考える。
- (3)領域「健康」のねらい及び内容を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

資料を配布して進めていくが、適宜演習を取り入れる。配布資料やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・保育所保育指針や保育所保育指針解説書を事前に読んでおくこと。
- ・授業終了後には、配布資料などを見て復習をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育内容「健康」の意義
- 第2回 乳幼児の心身の発達
運動発達について
- 第3回 あそびを通した指導
- 第4回 運動遊びの指導
指導計画と評価
- 第5回 基本的な生活習慣とその指導
- 第6回 食生活と食育
- 第7回 安全環境と安全教育
- 第8回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531158			
科目名	保育内容 II Z			
担当者	植田 恵理子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

保育所において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」「環境」の領域について学ぶ。子どもの主体的・創造的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助、具体的な指導方法を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1)発達を踏まえた表現活動の理解と、ふさわしい環境について理解を深める。
- (2)幼児の表現を引き出す、具体的な活動方法を学ぶ。
- (3)表現活動における保育者の役割・援助について理解を深める

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式とアクティブラーニングの演習を組み合わせで行う。適宜プリント等資料を配布する。課題に対する授業内発表を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

保育所保育指針を読む。

実習の振り返りを行いながら、幼児の遊びを生かした表現活動の指導方法について、日頃から考える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(10%)、提出物(30%)、確認テスト(60%)に基づいて、総合的に評価する。欠席、遅刻は減点対象とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 子どもの表現活動と環境
- 第2回 即興的な表現活動1 ～協同を意識した音楽活動と環境～
- 第3回 即興的な表現活動2 ～言葉・会話等から音楽活動につなげる方法～
- 第4回 即興的な表現活動3 ～遊びを発展させた音楽活動と環境～
- 第5回 演劇的要素を取り入れた表現活動1 ～歌詞を題材にした音楽活動と環境構成1～
- 第6回 演劇的要素を取り入れた表現活動2 ～歌詞を題材にした音楽活動と環境構成2～
- 第7回 演劇要素を取り入れた音楽表現1 ～個を生かしたグループ表現活動～
- 第8回 演劇要素を取り入れた音楽表現2 ～子どもの表現と他者との関わり～
- 第9回 素材を生かした表現活動1 ～即興劇を活かした導入方法と環境構成～
- 第10回 素材を生かした表現活動2 ～パペットを使用した活動と環境構成～
- 第11回 素材を生かした表現活動3 ～パントマイムを活かした活動と環境構成～
- 第12回 表現活動の企画1 ～遊びと環境～
- 第13回 表現活動の企画2 ～遊びと人間関係～
- 第14回 表現活動の企画3 まとめと発表準備
- 第15回 授業内発表

6. Special Information (留意事項)

動きやすい服装で参加すること。

講義コード	24531159			
科目名	保育内容 II P			
担当者	植田 恵理子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

保育所において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」「環境」の領域について学ぶ。子どもの主体的・創造的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助、具体的な指導方法を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1)発達を踏まえた表現活動の理解と、ふさわしい環境について理解を深める。
- (2)幼児の表現を引き出す、具体的な活動方法を学ぶ。
- (3)表現活動における保育者の役割・援助について理解を深める

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式とワークショップ形式の演習を組み合わせで行う。適宜プリント等資料を配布する。課題に対する授業内発表を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

保育所保育指針を読む。

実習の振り返りを行いながら、幼児の遊びを生かした表現活動の指導方法について、日頃から考える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(10%)、提出物(30%)、確認テスト(60%)

に基づいて、総合的に評価する。欠席、遅刻は減点対象とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 子どもの表現活動と環境
- 第2回 即興的な表現活動1 ～協同を意識した音楽活動と環境～
- 第3回 即興的な表現活動2 ～言葉・会話等から音楽活動につなげる方法～
- 第4回 即興的な表現活動3 ～遊びを發展させた音楽活動と環境～
- 第5回 演劇的要素を取り入れた表現活動1 ～歌詞を題材にした音楽活動と環境構成1～
- 第6回 演劇的要素を取り入れた表現活動2 ～歌詞を題材にした音楽活動と環境構成2～
- 第7回 演劇要素を取り入れた音楽表現1 ～個を生かしたグループ表現活動～
- 第8回 演劇要素を取り入れた音楽表現2 ～子どもの表現と他者との関わり～
- 第9回 素材を生かした表現活動1 ～即興劇を活かした導入方法と環境構成～
- 第10回 素材を生かした表現活動2 ～パペットを使用した活動と環境構成～
- 第11回 素材を生かした表現活動3 ～パントマイムを活かした活動と環境構成～
- 第12回 表現活動の企画1 ～遊びと環境～
- 第13回 表現活動の企画2 ～遊びと人間関係～
- 第14回 表現活動の企画3 まとめと発表準備
- 第15回 授業内発表

6. Special Information (留意事項)

動きやすい服装で参加すること。

講義コード	24531258			
科目名	保育内容Ⅲ Z			
担当者	畠山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	[保育所保育指針] [保育内容 人間関係] 濱名 浩 編 みらい 2009 [保育内容 ことば〔第2版〕] 成田徹男 編 みらい 2010			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目では、保育所において保育の目標のために展開される保育内容の「人間関係」、及び「言葉」について理解する。それぞれの領域について学ぶとともに、他の領域を含めた保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について理解する。さらに、発達過程に即して子ども理解することと、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 保育内容「人間関係」の内容・方法と課題
2. 保育内容「言葉」の内容・方法と課題
3. 保育内容と子どもの発達

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式と演習形式で行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は、授業時の課題(30%)、提出物(70%)で総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育内容とは何か? 「人間関係」と「言葉」について
- 第2回 「人間関係」の歴史の変遷
- 第3回 子どもの発達と「人間関係」: 愛着と基本的信頼
- 第4回 子どもの発達と「人間関係」: 仲間関係の育ち
- 第5回 「人間関係」における子どもの活動と保育環境と援助
- 第6回 「人間関係」と保育計画
- 第7回 「人間関係」の課題
- 第8回 「人間関係」のまとめ
- 第9回 「言葉」の歴史の変遷
- 第10回 子どもの発達と「言葉」: 言葉の発達
- 第11回 子どもの発達と「言葉」: 文字の理解

第12回 「言葉」における子どもの活動と保育環境と援助

第13回 「言葉」と保育計画

第14回 「言葉」の課題

第15回 「言葉」のまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531259			
科目名	保育内容Ⅲ P			
担当者	畠山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	[保育所保育指針] [保育内容 人間関係] 濱名 浩 編 みらい 2009 [保育内容 ことば〔第2版〕] 成田徹男 編 みらい 2010			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目では、保育所において保育の目標のために展開される保育内容の「人間関係」及び「言葉」について理解する。それぞれの領域について学ぶとともに、他の領域を含めた保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や保育の方法について理解する。さらに、発達過程に即して子ども理解すること、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 保育内容「人間関係」の内容・方法と課題、
2. 保育内容「言葉」の内容・方法と課題、
3. 保育内容と子どもの発達

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式と演習形式で行う

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は授業時の課題(30%)、提出物(70%)で総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育内容とは何か?
- 第2回 人間関係の歴史の変遷
- 第3回 子どもの発達と人間関係: 愛着と基本的信頼
- 第4回 子どもの発達と人間関係: 仲間関係
- 第5回 人間関係における子どもの活動と保育環境と援助
- 第6回 人間関係と保育計画
- 第7回 人間関係の課題
- 第8回 保育内容人間関係のまとめ
- 第9回 言葉の歴史の変遷
- 第10回 子どもの発達と言葉: 言葉の発達
- 第11回 子どもの発達と言葉: 文字の理解
- 第12回 言葉における子どもの活動と保育環境と援助
- 第13回 言葉と保育計画
- 第14回 言葉の課題
- 第15回 保育内容言葉のまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531358		
科目名	乳児保育Ⅱ		
担当者	石井 浩子		
単位数	2	配当学年	3
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『新訂 見る・考える・創りだす 乳児保育』 社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 萌文書林 2014年		
参考文献	『乳児の生活と保育』 松本園子編著 ななみ書房 2015年		
備考	保育士養成課程専用クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育者として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。広く乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学びながら、そこに関わる大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を討議しながら考え、問題解決の方法を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 乳幼児保育を取り巻く様々な問題について学ぶ。
2. 乳幼児の発達の理解とともに、その保育環境や実際の援助について学ぶ。
3. 保育所と家庭や他機関・地域との連携について考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を進めるが、適宜演習を取り入れる。教科書と資料の内容に沿って進め、適宜ビデオ視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に指定教科書の「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 乳児保育の意義
(1)乳児・乳児保育の概念
(2)保育ニーズと乳児保育の考え方の基本 |
| 第2回 | 乳児保育の発展の経緯と現状
(1)乳児に対する保育感の変遷
(2)乳児保育の一般化への過程 |
| 第3回 | (3)保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ |
| 第4回 | 乳児の発達と保育
(1)0歳児の発達と保育（新生時期、0歳児前期、0歳児後期） |
| 第5回 | (2)1才児の発達と保育 |
| 第6回 | (3)2歳児の発達と保育 |
| 第7回 | (4)乳児の発達と保育（援助の基本的視点の獲得） |
| 第8回 | 乳児の保育
(1)乳児保育の計画（保育課程、指導計画） |
| 第9回 | (2)保育形態と保育の環境構成 |
| 第10回 | (3)職員の協力体制 |
| 第11回 | (4)家庭・他機関・地域との連携 |
| 第12回 | 保育の計画と記録・評価
(1)記録・評価 |
| 第13回 | (2)保育者の専門性 |
| 第14回 | 今後の課題 |
| 第15回 | まとめ |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531359		
科目名	乳児保育P		
担当者	石井 浩子		
単位数	2	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト	『新訂 見る・考える・創りだす 乳児保育』 社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ 萌文書林 2014年		
参考文献	『乳児の生活と保育』 松本園子編著 ななみ書房 2015年		
備考	特別選択科目		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育者として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。広く乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学びながら、そこに関わる大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を討議しながら考え、問題解決の方法を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 乳幼児保育を取り巻く様々な問題について学ぶ。
2. 乳幼児の発達の理解とともに、その保育環境や実際の援助について学ぶ。
3. 保育所と家庭や他機関・地域との連携について考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で授業を進めるが、適宜演習を取り入れる。教科書と資料の内容に沿って進め、適宜ビデオ視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に指定教科書の「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 乳児保育の意義
(1)乳児・乳児保育の概念
(2)保育ニーズと乳児保育の考え方の基本 |
| 第2回 | 乳児保育の発展の経緯と現状
(1)乳児に対する保育感の変遷
(2)乳児保育の一般化への過程 |
| 第3回 | (3)保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ |
| 第4回 | 乳児の発達と保育
(1)0歳児の発達と保育（新生時期、0歳児前期、0歳児後期） |
| 第5回 | (2)1才児の発達と保育 |
| 第6回 | (3)2歳児の発達と保育 |
| 第7回 | (4)乳児の発達と保育（援助の基本的視点の獲得） |
| 第8回 | 乳児の保育
(1)乳児保育の計画（保育課程、指導計画） |
| 第9回 | (2)保育形態と保育の環境構成 |
| 第10回 | (3)職員の協力体制 |
| 第11回 | (4)家庭・他機関・地域との連携 |
| 第12回 | 保育の計画と記録・評価
(1)記録・評価 |
| 第13回 | (2)保育者の専門性 |
| 第14回 | 今後の課題 |
| 第15回 | まとめ |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531458			
科目名	障害児保育Ⅱ			
担当者	島山 寛			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『新・障害のある子どもの保育 [第2版]』 伊藤健次 編 みらい 2011			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

障害児保育の理念や多様な障害について理解するとともに、障害を持つ子どものニーズに基づいた保育の方法等について学ぶ。また、家族への支援や関係機関、地域との連携のありかたについても学ぶことを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 障害児保育の理念の理解 2. 保育の現状や専門機関との連携の理解 3. 個別の障害理解と保育支援の理解 4. 家庭に対する支援の理解

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義と演習の両方を用いる。 2. 適宜、プリント等を配布する。 3. 必要に応じて視聴覚教材の利用を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は授業時間内に実施する確認テスト (50%)、提出物 (50%)、で総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 障害児保育とは？－障害児保育の理念－
- 第2回 障害児保育の歴史
- 第3回 障害児保育の現状
- 第4回 障害の理解と保育：知的障害
- 第5回 障害の理解と保育：自閉症
- 第6回 障害の理解と保育：ADHD・LD
- 第7回 障害の理解と保育：視覚障害
- 第8回 障害の理解と保育：聴覚障害
- 第9回 障害の理解と保育：肢体不自由
- 第10回 障害の理解と保育：言語障害
- 第11回 障害児の家族への支援：保護者支援
- 第12回 障害児の家族への支援：きょうだい支援
- 第13回 個別の支援計画
- 第14回 専門機関や地域との連携
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531459			
科目名	障害児保育P			
担当者	島山 寛			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『新・障害のある子どもの保育 [第2版]』 伊藤健次 編 みらい 2011			
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

障害児保育の理念や多様な障害について理解するとともに、障害を持つ子どものニーズに基づいた保育の方法等について学ぶ。また、家族への支援や関係機関、地域との連携のありかたについても学ぶことを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 障害児保育の理念の理解 2. 保育の現状や専門機関との連携の理解 3. 個別の障害理解と保育支援の理解 4. 家庭に対する支援の理解

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義と演習の両方を用いる。 2. 適宜、プリント等を配布する。 3.

必要に応じて視聴覚教材の利用を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 成績は授業時間内に実施する確認テスト (50%)、提出物 (50%)、で総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 障害児保育とは？－障害児保育の理念－
- 第2回 障害児保育の歴史
- 第3回 障害児保育の現状
- 第4回 障害の理解と保育：知的障害
- 第5回 障害の理解と保育：自閉症
- 第6回 障害の理解と保育：ADHD・LD
- 第7回 障害の理解と保育：視覚障害
- 第8回 障害の理解と保育：聴覚障害
- 第9回 障害の理解と保育：肢体不自由
- 第10回 障害の理解と保育：言語障害
- 第11回 障害児の家族への支援：保護者支援
- 第12回 障害児の家族への支援：きょうだい支援
- 第13回 個別の支援計画
- 第14回 専門機関や地域との連携
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531558			
科目名	養護内容Ⅱ 子どもに寄り添う			
担当者	石塚 かおる			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『子どものニーズをみつめる児童養護施設のあゆみ』 大江ひろみ・山辺朗子・石塚かおる 編 ミネルヴァ書房 2013.12			
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

児童養護施設の子どもの現状・支援を通して、子どもの最善の利益・子どもの権利擁護について、一緒に考えたいと思います。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

児童福祉施設の現状 子どもの生活と支援 虐待への支援 ソーシャルワーク 自己決定支援 権利擁護

3. Course Method (教育・学習の方法)

基本的に、事例を中心とした講義形式です。1, 2回ディスカッションの時間をとることがあるかもしれません。毎回の講義後、用紙を配り、短い感想・質問等を書いてもらいます。その内容を、次の講義時に反映します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回授業のテーマに関し、保育実習1-2 (施設実習) で自らの経験を振り返りながら、準備学習をすすめてください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度50%。毎回の講義後の感想・質問カードに記載された内容を通しての理解度50%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会的養護の現状と課題 ー小規模化と家庭的養護の推進ー
- 第2回 児童養護施設の現状と課題 ー被虐待児のケアをめぐるー
- 第3回 児童福祉施設の歴史・成り立ち ①
- 第4回 児童福祉施設の歴史・成り立ち ②
- 第5回 児童福祉施設における援助の理念 ① ー権利擁護ー
- 第6回 児童福祉施設における援助の理念 ② ーソーシャルワーカーー
- 第7回 児童養護施設における生活援助 ① ー実際の支援ー
- 第8回 児童養護施設における生活援助 ② ー援助者の在り方ー
- 第9回 児童養護施設における生活援助 ③ ーその重要性ー
- 第10回 児童養護施設における生活援助 ④ ー援助者の姿勢ー
- 第11回 児童養護施設における援助の実際 ①
- 第12回 児童養護施設における援助の実際 ②
- 第13回 児童養護施設における性への援助
- 第14回 児童養護施設における暴力への対応 ①

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531559		
科目名	養護内容P		
担当者	徳岡 博巳		
単位数	1	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	特別選択科目		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

別紙

3. Course Method (教育・学習の方法)

童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。取り組みに対し、授業内発表を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度30% 実技テスト70%で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育現場における音楽的アプローチ
 第2回 子どもの音楽活動を支える1 音楽理論、リズムあそび1 弾き歌いの基礎
 第3回 子どもの音楽活動を支える2 音楽理論、リズムあそび2 弾き歌い
 第4回 リズムワーク1 コードの基礎 弾き歌い
 第5回 リズムワーク2 コードの展開 弾き歌い
 第6回 音楽活動の導入1 カデンツ1 弾き歌い
 第7回 音楽活動の導入2 カデンツ2 弾き歌い
 第8回 音楽活動の導入3 調と調号1 弾き歌い
 第9回 アンサンブル1 調と調号2 弾き歌い
 第10回 アンサンブル2 音階
 第11回 子どもの心に残る音楽活動1 身体表現を取り入れた弾き歌い1
 第12回 子どもの心に残る音楽活動2 身体表現を取り入れた弾き歌い2
 第13回 編曲1 伴奏法1 リズムのまとめ
 第14回 編曲2 伴奏法2 コードのまとめ
 第15回 課題発表会

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24531657			
科目名	基礎技能音楽 I Y			
担当者	植田 恵理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24531659			
科目名	基礎技能音楽 I P			
担当者	古庵 晶子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	適宜プリント配布			
参考文献	保育内容「表現」 黒川建一編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-03917-3			
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24531658			
科目名	基礎技能音楽 I Z			
担当者	植田 恵理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

保育・教育現場での音楽活動を展開するために必要な、基礎知識や技能を習得する。「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な子どもの歌の歌唱技能及び、その伴奏法、音楽表現について学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 音楽の基礎的知識…コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。
- 聴く…様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。
- 歌う・演奏する…発声法やピアノ演奏法、民族楽器や打楽器などの使い方を知る。
- 表現する…簡単なアンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

1. Course Description (科目の教育目標)

楽器あそび・楽音に縛られない音楽表現・オリジナル曲の創作で、自身の「幼児音楽」の幅が広がることを目標とする。保育所保育指針の5領域における「表現」の音楽に関する項目を理解し、保育に必要な音楽とはどのようなものであるか、常に自問自答し、自分の意見を言えるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 手作り楽器の教育的意義を学ぶ。
- リズム表現の面白さを学ぶ。
- 玩具楽器の活用法を考える。
- オリジナルの曲を作る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

簡易楽器を使った音楽あそびや身体あそびを実践し、グループ発表を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

子どもと子どもの音楽に関する雑誌や書籍、楽譜等に折に触れて目を通すこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度20% グループ発表40% レポート課題40%とし、総合的に評価する。欠席は減点の対象とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 保育と音楽について
 第2回 ボディーパーカッション (手拍子のリズムあそび)
 第3回 ボディーパーカッション (身体でリズムあそび)
 第4回 手作り楽器の製作と活用法 太鼓
 第5回 手作り楽器の製作と活用法 笛2種
 第6回 身体あそび (歌)
 第7回 身体あそび (ボール)

- 第8回 玩具楽器の活用①（ミュージックベル）
- 第9回 玩具楽器の活用②（ドレミパイプ）
- 第10回 わらべうたと手あそびについて
- 第11回 保育指導案の作成
- 第12回 保育音楽についてのグループディスカッション
- 第13回 視覚素材からの物語づくり
- 第14回 視覚素材からの音楽づくり
- 第15回 グループ発表

6. Special Information（留意事項）

手作り楽器作成のための材料の一部の購入が必要な場合がある（1回100円程度）

講義コード	24531757			
科目名	基礎技能音楽Ⅱ Y			
担当者	植田 恵理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	「基礎技能音楽Ⅰ」履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24531758			
科目名	基礎技能音楽Ⅱ Z			
担当者	植田 恵理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	「基礎技能音楽Ⅰ」履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

音楽が子どもの成長発達において重要な役割を担うという考え方を基に、ピアノの基本的な知識や演奏技能を習得する。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- (1) 音楽の基礎的知識…基礎技能音楽Ⅰで習得した、コード・カデンツ・読譜・リズム打ち等に必要知識・技術を深める。
- (2) 聴く…様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。
- (3) 歌う・演奏する…発声法・ピアノ演奏法・伴奏法の技術を深める。
- (4) 表現する…アンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

3. Course Method（教育・学習の方法）

童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、リズム打ち、合奏、キーボードアンサンブルに取り組む。取り組みに対し、授業内発表を行う。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

授業参加度30% 実技テスト70%で評価する。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 手遊び歌のイントロ1 音階1 コードの復習1
- 第2回 手遊び歌のイントロ2 音階2 コードの復習2
- 第3回 コードワーク1 グループワークによる編曲1
- 第4回 コードワーク2 グループワークによる編曲2
- 第5回 カデンツ1 子どもの歌を作曲する1
- 第6回 カデンツ2 子どもの歌を作曲する2
- 第7回 子どもの声域を考えた移調1
- 第8回 子どもの声域を考えた移調2
- 第9回 アンサンブル1 アンサンブル譜面の作成1
- 第10回 アンサンブル2 アンサンブル譜面の作成2
- 第11回 子どもの心に残る音楽活動1 身体表現を取り入れた弾き歌い

- 第12回 子どもの心に残る音楽活動2 身体表現を取り入れた弾き歌い2
- 第13回 編曲1 伴奏法のまとめ1
- 第14回 編曲2 伴奏法のまとめ2
- 第15回 課題発表会

6. Special Information（留意事項）

五線ノートを持参すること。

講義コード	24531759			
科目名	基礎技能音楽Ⅱ P			
担当者	古庵 晶子			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	「音楽科教育」で配布する曲集を使用する。その他適宜プリント配布。			
参考文献				
備考	「基礎技能音楽Ⅰ」履修者であること 特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

保育士試験の「保育実習」に対応できる音楽理論を習得する。保育者として最低限必要な子どもの音楽についての知識を習得する。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

1. 楽典を理解し、保育士試験の課題問に取り組む。
2. 子どもの歌の歌詞を20曲以上暗記する。
3. よく通る声・明瞭な発音で歌う。

3. Course Method（教育・学習の方法）

音楽理論を学ぶ。子どもの歌の弾き歌いのテストを行う。毎回子どもの歌の歌唱を実践する。毎回理論と歌詞2つの小テストを行う。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

コードによる弾き歌いを期間中10曲練習しておくこと。子どもの音楽に関する雑誌や書籍等に折に触れて目を通すこと。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

授業態度10% 弾き歌いのテスト40% 歌詞小テスト20% 理論小テスト30%とし、総合的に評価する。爪が伸びている場合と欠席は減点の対象とする。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 音程の理解（長音程） 音名と階名
- 第2回 音程の理解（短音程）
- 第3回 音程の理解（6度と7度）
- 第4回 音程の理解（完全音程）
- 第5回 和音の理解（増・減音程）
- 第6回 和音の理解（長三和音と短三和音）
- 第7回 和音の理解（増三和音と減三和音）
- 第8回 和音の理解（四和音）
- 第9回 シャープ系の音階
- 第10回 フラット系の音階
- 第11回 調判定
- 第12回 コード付け
- 第13回 移調
- 第14回 作曲家と作品
- 第15回 弾き歌いのテスト

6. Special Information（留意事項）

保育者としてすでにスタートしていることに留意し、爪を伸ばさないこと。

講義コード	24531858			
科目名	基礎技能造形Z 創造する喜び			
担当者	今尾 栄仁			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

日常生活上の感性の磨きや創造する事の喜びを根底におきながら、幼児教育にかかわりある造形の基礎的な技能や知識を作品の制作を通して体験的に学び、保育の実践時に取り扱う教材やそれらの展開に必要な基礎技能を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

平面(具象、抽象絵画)での造形活動時における用具、材料の基礎的知識と技能の習得。立体(紙工作、粘土塑造)での造形活動時における用具、材料の基礎的知識と技能の習得。

3. Course Method (教育・学習の方法)

スケッチブック・はさみ・カッターナイフ・のり・ボンド・鉛筆(B~4B)・消しゴム・水彩絵の具・筆(大、中、小)・クレパス等を使った実技演習。授業内容により他教材も使用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日常生活で美しいと感じた事柄に造形的視点(色、形)を持って関心を持ち接する。スケッチ、撮影・展覧会鑑賞等積極的な活動を伴う事が望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

作品作りへの取り組み意欲、関心。提出作品からオリジナリティーを感じられる時は高く評価。既成のキャラクター等を使用した作品の評価は低い。また、作業の正確さ、用具、材料の使い方の的確さ等から技術的な習熟度を判断する。

1回の講義10点の配点。提出作品に2回の講義を行なった時は20点、4回なら40点とする。

未提出の時は当該テーマの点数は0点とする。提出期限に遅れた時は作品の完成度を考慮し採点を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 自然物をモチーフとした描画(鉛筆画・室内)
- 第2回 自然物をモチーフとした描画(鉛筆したがき)
- 第3回 自然物をモチーフとした描画(絵の具で着色)
- 第4回 校内でのスケッチ(色鉛筆画・室外)
- 第5回 様々な描画材料、用具を使用した多様な表現(デカルコマニー、プリンティング、フィンガーペインティング、にじみ絵、スパッタリング、フロッターージュ、パチック、ドリッピング、スクラッチ等)
- 第6回 様々な描画材料、用具を使用した多様な表現(デカルコマニー、プリンティング、フィンガーペインティング、にじみ絵、スパッタリング、フロッターージュ、パチック、ドリッピング、スクラッチ等)
- 第7回 4、5で行った表現技法を使い作品制作
- 第8回 紙工作(切り紙による模様作り他)
- 第9回 紙工作(紙袋作り)
- 第10回 紙工作(切り絵)
- 第11回 紙工作(ポップアップカード)
- 第12回 粘土造形(紙粘土)
- 第13回 粘土造形(紙粘土)
- 第14回 児童作品鑑賞(ノートルダム学院小学校写生展鑑賞)
- 第15回 粘土造形(紙粘土)

6. Special Information (留意事項)

演習時の服装(汚れてもよい又はエプロン等を持参)。追加教材の必要な時は費用の負担があります。(約1000円~2000円)

講義コード	24531859			
科目名	基礎技能造形P			
担当者	藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「幼稚園教育要領」に示された「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の具現化を図るため、幼児教育における造形の指導を行ううえで必要となる基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、受講者自身が造形の楽しさや喜びを体験し、感性を豊かにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 造形活動に必要な材料・用具についての基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
- (2) さまざまな表現方法を体験し、「かくこと」「つくること」の楽しさや喜びを味わいつつ、感性を豊かにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- (1) 実技演習を中心としながら、適宜、講義を行う。
- (2) 個人の活動とともにグループでの活動も行う。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
 次回の演習に向けて、発想を広げたり、身の回りの素材を造形的視点を持ってみたり、集めたりする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(関心・態度)60%、課題提出40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 造形遊び①(材料・素材遊び…並べる・積む)
- 第3回 造形遊び②(材料・素材遊び…組み合わせる)
- 第4回 造形遊び③(技法・道具遊び)
- 第5回 絵や立体に表す①(材料・用具の使い方…パス・クレヨン他)
- 第6回 絵や立体に表す②(材料・用具の使い方…絵具他)
- 第7回 絵や立体に表す③(観察からの表現)
- 第8回 絵や立体に表す④(経験からの表現)
- 第9回 絵や立体に表す⑤(お話・空想からの表現)
- 第10回 絵や立体に表す⑥(まとめ…心象表現)
- 第11回 遊んだり・使ったりするものをつくる①(用途を考えた表現…「使う」)
- 第12回 遊んだり・使ったりするものをつくる②(用途を考えた表現…「飾る」)
- 第13回 遊んだり・使ったりするものをつくる③(機能を考えた表現…「動く」)
- 第14回 遊んだり・使ったりするものをつくる④(機能を考えた表現…「音が出る」)
- 第15回 遊んだり・使ったりするものをつくる⑤(まとめ…適用表現)

6. Special Information (留意事項)

実技演習に適した服装で授業に臨むこと。
 水彩絵の具セットを各自用意すること。
 必要により材料費を徴収することもある。

講義コード	24531958			
科目名	基礎技能体育Z 幼児体育			
担当者	岡 みゆき			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『幼児体育 理論と実践』 日本幼児体育学会 大学教育出版 2013			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

幼児の生活リズム・健康と運動あそびの密接な関係を学習し、現代社会における運動あそびの重要性を理解する。そのうえで、運動あそびの実践指導を行うことができる保育者を育成することを目標とする

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 保育者に必要な技術・知識を深め、身につける。(2) 子どもの生活リズムと運動との関連性を知る。(3) 子どもの発育・発達と運動発現メカニズムを知る。(4) 運動あそびでの指導上の留意点を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・演習形式で行う。実技で「実践」における運動あそびの指導実践を行い、講義で運動あそびの「理論」をまなぶ。また、幼児に対する運動あそびの指導をロールプレー形式で行い実践する。体力測定などの分析やPPを使つてのプレゼンテーション発表なども学習課題とする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

文部科学省「幼児期運動指針」を読んでおく。(文部科学省HPよりダウンロード可)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

・授業参加度(50%)、模擬実践(20%)、実技テスト(20%)、レポート課題(10%)において評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 今年の子どものからだの異変とその対策
- 第2回 実技①体育あそびの実際 からだを使ったあそび 体ほぐし、体づくり運動

第3回	実技②体育あそびの実際	用具を使ったあそび	ボール運動
第4回	実技③体育あそびの実際	フープ、なわを使ったあそび	
第5回	実技④体育あそびの実際	マット、とび箱、	
第6回	実技⑤体育あそびの実際	リズム運動	
第7回	実技⑥体育あそびの実際	組体操、チームゲーム	
第8回	実技⑦体育あそびの実際	コーナーあそびの設定のしかた、行い方からサーキット遊びへの発展	
第9回	実技⑧体育あそびの実際	運動会のローラープレイ	運動種目を楽しむ。用具の出し入れ注意事項を学ぶ
第10回	実技⑨体育あそびの実際	幼児の体力測定の実際を学ぶ	
第11回	理論①子どもの生活と運動		
第12回	理論②幼児体育の意義と役割		
第13回	理論③運動発現のメカニズム	体力測定評価	
第14回	理論④幼児体育指導上の留意事項		
第15回	まとめ		

6. Special Information (留意事項)

実技の時には更衣をすること。上靴を履くこと。安全面を考え大きなアクセサリーは着用しない。髪はまとめる。随時、指示する。
この授業における測定結果や提出物は、研究目的に使用する可能性があります。質問・相談等があれば事前に受け付けます。

講義コード	24531959			
科目名	基礎技能体育P 運動遊び、幼児体育			
担当者	住本 純			
単位数	1	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	特別選択科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

運動遊びの内容を理解し、展開するために必要な知識や技能について、子どもの発達段階や個々の状況も意識した理論・実践力を習得することを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・運動遊び実践において必要な知識と技能を習得する。
- ・運動遊びにおける安全管理を理解する。
- ・幼児の運動遊びや伝承遊びを自ら理解し、遊びを工夫する。
- ・幼児の表現力を引き出すための題材、環境、構成、援助について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・実習を中心とするので、積極的に自らが運動遊びを楽しむ。
- ・実践者、幼児役それぞれの観点からの議論を行う。
- ・グループ学習によって、相互理解を深める活動を行う。
- ・資料は適宜配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

ニュースや新聞の記事を注視し、幼児の運動についての問題点や疑問点を常に持つように心がけること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度、授業態度 (50%)、提出物・小レポート (30%)、実技に関する課題 (20%) とし、総合的に評価する。なお、4回以上の欠席者は、評価の対象としない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	オリエンテーション、幼児における運動の意義
第2回	用具を使用しない遊び① (ジャンケン遊びなど)
第3回	用具を使用しない遊び② (鬼遊びなど)
第4回	ボールを使った運動遊び
第5回	縄、フープを使った運動遊び
第6回	新聞、タオルなどを使った運動遊び
第7回	マットを使った運動遊び
第8回	跳び箱を使った運動遊び
第9回	表現遊び、リズム遊び
第10回	体育的行事の実際
第11回	幼児の運動について (ビデオを基に議論)
第12回	運動遊びの計画
第13回	運動遊びの実践①
第14回	運動遊びの実践②
第15回	基礎技能体育のまとめ、安全管理、事故への対処

6. Special Information (留意事項)

実技は運動できる服装 (ジャージ等) に更衣し、体育館シューズを履くこと。

その他、安全確保のために随時、用意するもの等の指示を行う。

講義コード	24532001			
科目名	基礎技能演習			
担当者	植田 恵理子			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	「基礎技能音楽I・II」「基礎技能造形」「基礎技能体育」履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

基礎技能音楽や保育内容で学んだことを演習を通して深め、保育者としての技能や表現力を高める。表現活動を作り上げることを通し、子どもの発達や遊びについての理解を深め、技術を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 保育現場における表現活動に必要な技能を高める。
- (2) グループ活動における協調性、調整力を身につける。
- (3) 豊かな表現力を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式とアクティブラーニングの演習を組み合わせで行う。適宜プリント等資料を配布する。課題に対する授業内発表を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

絵本や紙芝居について理解を深める。

保育に必要な遊び (ゲームや手遊び、歌など)、表現活動について理解を深める。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度 (10%)、提出物 (30%)、発表 (60%) に基づいて、総合的に評価する。欠席、遅刻は減点対象とする。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	教材研究1	協同することを大切にしたい歌唱活動1
第2回	教材研究2	協同することを大切にしたい歌唱活動2
第3回	教材研究3	歌遊びの展開1 歌を中心にした活動
第4回	教材研究4	歌遊びの展開2 リズムを中心にした活動
第5回	教材研究5	リズム遊び1 楽器を使ったリズムアンサンブル1
第6回	教材研究6	リズム遊び2 楽器を使ったリズムアンサンブル2
第7回	合奏1	合奏指導の留意点
第8回	合奏2	パート・全体指導の留意点
第9回	合奏3	表現活動としての合奏
第10回	合奏4	子どもと合奏 まとめ
第11回	表現活動の企画1	楽器の効果的な使用方法
第12回	表現活動の企画2	共感することを大切にしたい活動の企画
第13回	表現活動の企画3	協同することを大切にしたい活動の企画
第14回	音楽表現活動1	発表準備
第15回	音楽表現活動2	まとめと発表

6. Special Information (留意事項)

動きやすい服装で参加すること。

講義コード	24532201			
科目名	保育実習Ⅰ－1 保育所実習			
担当者	石井 浩子・植田 恵理子・鶴飼 真理子・萩原 暢子・畠山 寛			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型 認定こども園教育・保育要領の成立』民秋 言 萌文 書林 2014年 『保育所保育指針解説著』厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考	「保育実習指導Ⅰ」を同一年度に履修すること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

保育所において乳幼児と生活をともにし、乳幼児の理解を深めるとともに、保育士の仕事に助手的に携わることを通して、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。また、乳幼児をとりまく現代の家庭や社会についての考えを深め、保育士を志す者としての自覚を高める。

そして、これまでに学んだ知識・技術・考え方等と実践の統合を図り、さらに新しい学習課題を見出す契機とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(1) 保育所の概要を把握し、保育の一日の流れや乳幼児の発達の特性などをつかむ。

(2) 保育者の助手的な役割をしながら、保育の実践について学ぶ。

(3) 保育の指導案作成や準備を行ってから、実際に責任をもって保育をし、反省・評価して次への課題を見出す。

3. Course Method (教育・学習の方法)

(1) 実習園として決定した保育所において、おおむね10日間の現場実習を行う。

(2) 実習では、所(園)長や実習担当の保育士から指導を受ける。

(3) 実習中に、大学の実習担当教員が実習園に訪問し、実習生への指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・これまで履修した講義や演習について、保育での実践に役立つようまとめておく。

・保育所実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。

・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 実習施設について理解する。

第2回 保育における一日の生活の流れの全体的理解をして参加する。

第3回 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。

第4回 保育計画や指導計画を理解する。

第5回 生活指導の態度およびその技術、遊びの展開とその関わり方について学ぶ。

第6回 生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する。

第7回 人的・物的条件の理解、乳幼児の集団行動・個別行動の観察を行う。

第8回 保育士の職務内容や役割、他の職員とのチームワークなどを学ぶ。

第9回 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭や地域社会について理解する。

第10回 子どもの最善の利益を具体的に具体化する方法について学ぶ。

第11回 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。

第12回 乳幼児の健康・安全に対する配慮、疾病予防への配慮などについて理解する。

第13回 実習の段階と内容

①観察実習

②参加実習

③部分実習

保育士の指導のもと、指導案を作成して保育を行う。

6. Special Information (留意事項)

・「保育実習指導Ⅰ(前期)」を履修済みでなければ、「保育実習Ⅰ-1」を履修することはできない。また、履修済みであっても、その授業態度及び保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないこともあるので注意すること。

・説明会や事後指導などを行う際には、支持された日時に必ず参加すること。

・事前準備として健康診断受け、実習前に細菌(検便)検査をし、結果を実習施設に提出しなければならない。

・使用する教科書は、初回授業内で配布する。

講義コード	24532301			
科目名	保育実習Ⅰ－2 児童福祉施設実習(保育所を除く)			
担当者	畠山 寛・石井 浩子・植田 恵理子・鶴飼 真理子・萩原 暢子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』(株)みらい			
備考	「保育実習指導Ⅰ」を同一年度に履修すること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

居住型の乳児院や児童養護施設、障害児施設などの生活の場に参加し、施設の役割と機能、施設における保育士の職務、養護内容、乳幼児や利用者に対する理解を深めるとともに、施設と学校との連携や地域に果たす役割などを学ぶ。また、取得した知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践する応用力を養う。実習課題を個々が明確にし、保育士を志す者としての自覚を高めることをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

(1) 福祉施設の意義・機能などを実践の場で観察・体験を通して理解する。

(2) 親元を離れ、福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益の具現化について学ぶ。

(3) 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を実体験する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。指導には、施設長及び、施設長が任命する実習指導担当者が当たる。実習巡回時に、実習担当教員により指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・実習までに履修した講義や演習を実習での実践に役立つようまとめておく。

・施設実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 実習施設の沿革と現状(職員構成、各職種の職務分担、勤務形態、勤務時間、とくに保育士の職務内容や役割等)、施設の地理的条件、設備等について理解する。

第2回 施設の定員、在籍数、年齢、性別居室構成、措置理由、在所期間、心身の発達状況、障害の程度などについて個別に理解する。

第3回 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。

第4回 心身の発達や障害の程度を考慮して居室が配置・構成されている状況学ぶ。

第5回 養護の一日の流れを理解し、参加する。(子どもの日常生活がどのように確保され、指導されているのかを学ぶ。)

第6回 援助計画を理解し、子どもの日常生活における基本的な生活習慣の形成や生活技術の習得、移動・食事・排泄などの援助の一部を担当し、保育士の養護活動や援助技術、異業種との協力体制について体験を通じて習得する。

第7回 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。

第8回 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、施設と家庭や地域社会との連携の実態について理解する。

第9回 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。

第10回 保育士としての職業倫理(守秘義務)を具体的に学ぶ。

- 第11回 安全及び、疾病予防への配慮について理解する。
- 第12回 見学・観察実習（実習施設の役割や機能などを知り、施設や施設養護の特質について理解を深めるとともに、保育士や指導員の助手として手伝いながら、子どもの年齢や性別、入所理由、入所期間、心身の発達状況、障害の程度、生活居室の運営と職員の活動状況、職員の構成と勤務の状況、一日の生活など、子どもの状況と施設養護の実際を観察・理解する）
- 第13回 参加・助手実習（子どもの生活集団の構成員の一人として加わり、子どもの身の周りの世話や生活上の指導に補助的に関わりながら、子どもの個性や個人差などに応じた関わり方や生活面の指導の仕方などを学ぶ）

6. Special Information（留意事項）

・「保育実習指導」を履修済みでなければ、「保育実習Ⅰ-2」を履修することはできない。また、その授業態度及び他の保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないことがあるので注意すること。

・必要に応じて説明会、事後指導等を行うので必ず出席すること。

・事前準備として、健康診断と実習前に細菌（検便）検査（赤痢菌、サルモネラ菌、O-157、虫卵）をし、結果を実習施設に提出しなければならない。できれば、インフルエンザ予防接種も行うこと。

講義コード	24532401			
科目名	保育実習Ⅱ A 保育所実習			
担当者	石井 浩子・植田 恵理子・鶴飼 真理子・萩原 暢子・畠山 寛			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2、保育実習指導Ⅰ			
テキスト				
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言 萌文 書林 2014年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考	「保育実習指導Ⅱ」を同一年度に履修すること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

保育所の役割を踏まえ、実際に体験することで保育士としての資質・能力・機能などを学ぶ。子どもの最善の利益を保障することの意義、各関係機関との連携、保護者との連携、家庭への援助、地域とのかかわりや地域の在宅親子への支援など、保育所の担っている社会的役割への理解を深める。また、実習Ⅰ-1からの反省や課題を明確化し、自己課題への取り組みを積極的に行い、指導案の立案、実施をする。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- (1) 保育所の目的・役割、意義や機能など、保育現場での体験を通して理解を深める。
- (2) 保育所保育指針に基づき、子どもの発達過程を理解し、子どもの一人ひとりへの援助や集団としての保育を捉え、保育の指導案を立案して実践する。
- (3) 実習Ⅰ-1を振り返ることにより、自己課題を明確化し、課題への取り組みを積極的に行う。

3. Course Method（教育・学習の方法）

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。実習では、園長や実習担当の保育士から指導を受ける。実習の巡回指導時には、実習担当教員が指導を行う。

- ・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）
- ・実習Ⅰ-1で学んだことを振り返り、指導案や実習記録を見直す。
- ・指導案作成や教材研究、教材準備をしておくこと。
- ・関係授業の復習をしておく。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 保育所の目的と役割、その機能の理解
・保育所の社会的役割と責任
- 第2回 乳幼児の発達と生活全体の流れや展開の把握
- 第3回 子どもの最善の利益を保障することの配慮についての理解
- 第4回 観察に基づく保育理解
(1) 子どもの心身の状態や活動の観察

- 第5回 観察に基づく保育理解
(2) 保育士等の動きや実践の観察
- 第6回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(1) 環境を通して行う保育や生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
- 第7回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(2) 入所児の保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
- 第8回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(3) 各関係機関との連携
- 第9回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(4) 地域社会との連携
- 第10回 安全危機管理、衛生危機管理などの理解
- 第11回 指導計画の作成と実践、観察、記録、評価
(1) 保育課程に基づく指導計画の作成と実践、省察、評価と保育過程の理解
- 第12回 指導計画の作成と実践、観察、記録、評価
(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価
- 第13回 保育士の業務と職業倫理
(1) 多様な保育の展開と保育士の業務
- 第14回 保育士の業務と職業倫理
(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
- 第15回 自己課題の明確化
・保育士に求められる資質、能力、技術など

6. Special Information（留意事項）

・保育実習Ⅱ（保育所）と保育実習Ⅲ（施設）は、どちらかを選択すること。Ⅱ Aは春期休暇中、Ⅱ Bは夏期休暇中に実施。

・保育士資格関係科目の単位取得状況や履修状況によっては、実習を許可しないことがあるので注意すること。

・実習に向けての説明会や事後指導を行うため、必ず出席すること。

・事前準備として、健康診断を受けて実習前に細菌検査をし、結果を実習施設に提出しなければならない。インフルエンザ予防接種もしておくことが望ましい。

講義コード	24532402			
科目名	保育実習Ⅱ B 保育所実習			
担当者	石井 浩子・植田 恵理子・鶴飼 真理子・萩原 暢子・畠山 寛			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[保]			
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2、保育実習指導Ⅰ			
テキスト				
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言 萌文 書林 2014年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年			
備考	「保育実習指導Ⅱ」を同一年度に履修すること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

保育所の役割を踏まえ、実際に体験することで保育士としての資質・能力・機能などを学ぶ。子どもの最善の利益を保障することの意義、各関係機関との連携、保護者との連携、家庭への援助、地域とのかかわりや地域の在宅親子への支援など、保育所の担っている社会的役割への理解を深める。また、実習Ⅰ-1からの反省や課題を明確化し、自己課題への取り組みを積極的に行い、指導案の立案、実施をする。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- (1) 保育所の目的・役割、意義や機能など、保育現場での体験を通して理解を深める。
- (2) 保育所保育指針に基づき、子どもの発達過程を理解し、子どもの一人ひとりへの援助や集団としての保育を捉え、保育の指導案を立案して実践する。
- (3) 実習Ⅰ-1を振り返ることにより、自己課題を明確化し、課題への取り組みを積極的に行う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。実習では、園長や実習担当の保育士から指導を受ける。実習の巡回指導時には、実習担当教員が指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・実習 I-1 で学んだことを振り返り、指導案や実習記録を見直す。
- ・指導案作成や教材研究、教材準備をしておくこと。
- ・関係授業の復習をしておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 保育所の目的と役割、その機能の理解
・保育所の社会的役割と責任 |
| 第2回 | 乳幼児の発達と生活全体の流れや展開の把握 |
| 第3回 | 子どもの最善の利益を保障することの配慮についての理解 |
| 第4回 | 観察に基づく保育理解
(1)子どもの心身の状態や活動の観察 |
| 第5回 | 観察に基づく保育理解
(2)保育士等の動きや実践の観察 |
| 第6回 | 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(1)環境を通して行う保育や生活、遊びを通して総合的に行う保育の理解 |
| 第7回 | 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(2)入所児の保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 |
| 第8回 | 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(3)各関係機関との連携 |
| 第9回 | 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(4)地域社会との連携 |
| 第10回 | 安全危機管理、衛生危機管理などの理解 |
| 第11回 | 指導計画の作成と実践、観察、記録、評価
(1)保育過程に基づく指導計画の作成と実践、省察、評価と保育過程の理解 |
| 第12回 | 指導計画の作成と実践、観察、記録、評価
(2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価 |
| 第13回 | 保育士の業務と職業倫理
(1)多様な保育の展開と保育士の業務 |
| 第14回 | 保育士の業務と職業倫理
(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理 |
| 第15回 | 自己課題の明確化
・保育士に求められる資質、能力、技術など |

6. Special Information (留意事項)

- ・保育実習Ⅱ(保育所)と保育実習Ⅲ(施設)は、どちらかを選択して履修すること。
- ⅡBは夏期休暇中に実施(ⅡAは春期休暇中に実施)。
- ・保育士資格関係科目の単位取得状況や履修状況によっては、実習を許可しないことがあるので注意すること。
- ・実習に向けての説明会や事後指導を行うため、必ず出席すること。
- ・事前準備として、健康診断を受けて実習前に細菌検査をし、結果を実習施設に提出しなければならない。

講義コード	24532501												
科目名	保育実習ⅢA 児童福祉施設実習(保育所を除く)												
担当者	島山 寛・石井 浩子・植田 恵理子・ 鵜飼 真理子・萩原 暢子												
単位数	2 配当学年 3												
資格	[保]												
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2、保育実習指導Ⅰ												
テキスト													
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』(株)みらい												
備考	「保育実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること 保育士養成課程専用クラス												
科目読替													
社会人基礎能力	<table border="0"> <tr> <td>自分を育てる力</td> <td>✓</td> <td>共生・協働する力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションする力</td> <td>✓</td> <td>創造・発信する力</td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>思考・解決する力</td> <td>✓</td> <td>主体的に行動する力</td> <td>✓</td> </tr> </table>	自分を育てる力	✓	共生・協働する力		コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓
自分を育てる力	✓	共生・協働する力											
コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓										
思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓										

1. Course Description (科目の教育目標)

児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際に体験する

ことにより、保育士として必要な資質・能力・技術を学ぶ。実習施設は、児童厚生施設又は知的障害児通園施設、その他社会福祉関係法令の規定に基づき設置されている施設であり、保育実習を行う施設として適当と認められるもの(保育所を除く)である。実習では、家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。また、保育実習Ⅰ-2の反省点をふまえ、さらに自己の課題を明確化していく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 福祉施設の意義・機能などを実践の現での体験を通して理解する。
2. 指導担当者の指導の下、子ども(利用者)のニーズへの対応や援助計画の立案・実践を行う。
3. 保育実習Ⅰ-2の反省点をふまえ、自己課題を明確にして積極的に取り組む。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。指導には、施設長及び、施設長が任命する実習指導担当者が当たる。実習巡回時に、実習担当教員より指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・これまで履修した講義や演習を実習における実践に役立つようまとめておく。
- ・施設実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。
- ・保育実習Ⅰ-2での反省から、実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 養護全般に参加し、養護技術を習得する。 |
| 第2回 | 子ども(利用者)の個人差のニーズについて理解し、その対応を習得する。 |
| 第3回 | 援助計画を立案し、実践する。 |
| 第4回 | 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的な事例を通して学ぶ。 |
| 第5回 | 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について、具体的に学ぶ。 |
| 第6回 | 子ども(利用者)の最善の利益への配慮を学ぶ。 |
| 第7回 | 施設保育士として、職業倫理を理解する。 |
| 第8回 | 児童福祉施設などの保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 |

6. Special Information (留意事項)

- ・「保育実習指導」と「保育実習Ⅰ-1、Ⅰ-2」を履修済みでなければ、「保育実習Ⅲ」を履修することはできない。また、「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」はどちらかを選択し、履修する。
- ・保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないことがあるので注意すること。
- ・説明会やオリエンテーション、実習後には事後指導を行うので必ず出席しなければならない。
- ・事前準備として、健康診断と実習前に細菌(検便)検査〔赤痢菌、サルモネラ菌、O-157、虫卵〕をし、結果を実習施設に提出しなければならない。できれば、インフルエンザ予防接種も行うこと。

講義コード	24532502												
科目名	保育実習ⅢB 児童福祉施設実習(保育所を除く)												
担当者	島山 寛・石井 浩子・植田 恵理子・ 鵜飼 真理子・萩原 暢子												
単位数	2 配当学年 4												
資格	[保]												
前提科目	保育原理Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2、保育実習指導Ⅰ												
テキスト													
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』(株)みらい												
備考	「保育実習指導Ⅲ」を同一年度に履修すること 保育士養成課程専用クラス												
科目読替													
社会人基礎能力	<table border="0"> <tr> <td>自分を育てる力</td> <td>✓</td> <td>共生・協働する力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションする力</td> <td>✓</td> <td>創造・発信する力</td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>思考・解決する力</td> <td>✓</td> <td>主体的に行動する力</td> <td>✓</td> </tr> </table>	自分を育てる力	✓	共生・協働する力		コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓
自分を育てる力	✓	共生・協働する力											
コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓										
思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓										

1. Course Description (科目の教育目標)

児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際に体験することにより、保育士として必要な資質・能力・技術を学ぶ。実習施設は、児童厚生施設又は知的障害児通園施設、その他社会福祉関係法令の規定に基づき設置されている施設であり、保育実習を行う施設として適当と認められるもの(保育所を除く)である。実習では、家庭と地域の生活実態にふ

れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。また、保育実習Ⅰ-2の反省点をふまえ、さらに自己の課題を明確化していく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 福祉施設の意義・機能などを実践の現での体験を通して理解する。
2. 指導担当者の指導の下、子ども(利用者)のニーズへの対応や援助計画の立案・実践を行う。
3. 保育実習Ⅰ-2の反省点をふまえ、自己課題を明確にして積極的に取り組む。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。指導には、施設長及び、施設長が任命する実習指導担当者が当たる。実習巡回時に、実習担当教員より指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・これまで履修した講義や演習を実習における実践に役立つようまとめておく。
- ・施設実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。
- ・保育実習Ⅰ-2での反省から、実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 養護全般に参加し、養護技術を習得する。
- 第2回 子ども(利用者)の個人差のニーズについて理解し、その対応を習得する。
- 第3回 援助計画を立案し、実践する。
- 第4回 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的な事例を通して学ぶ。
- 第5回 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について、具体的に学ぶ。
- 第6回 子ども(利用者)の最善の利益への配慮を学ぶ。
- 第7回 施設保育士として、職業倫理を理解する。
- 第8回 児童福祉施設などの保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

6. Special Information (留意事項)

- ・「保育実習指導」と「保育実習Ⅰ-1、Ⅰ-2」を履修済みでなければ、「保育実習Ⅲ」を履修することはできない。また、「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」はどちらかを選択し、履修する。
- ・保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないことがあるので注意すること。
- ・説明会やオリエンテーション、実習後には事後指導を行うので必ず出席しなければならない。
- ・事前準備として、健康診断と実習前に細菌(検便)検査〔赤痢菌、サルモネラ菌、O-157、虫卵〕をし、結果を実習施設に提出しなければならない。できれば、インフルエンザ予防接種も行うこと。

講義コード	24532601			
科目名	保育総合演習			
担当者	石井 浩子・植田 恵理子・島山 寛			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立:民秋 言 編, 萌文書林, 2014. 保育所保育指針解説書:厚生労働省 編, フレーベル館, 2008.			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

保育士の社会的役割、保育所を含む児童福祉施設における職務等の理解を踏まえたうえで、現代の保育に関する課題や問題に対応できる力を養うことを目的とする。具体的には、課題・問題・ニーズなどを把握し、総合的に分析・判断する能力、対応する能力を科目横断的に習得することである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 現代の保育に関する課題や問題点を明確にし、対応方法・解決方法について考察する。
2. 保育実践のための計画や方法・援助について考察する。

3. 子どもの発達を援助するための保育技術を演習する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

3名によるオムニバス形式での演習であるが、担当者全員で実施する授業もある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績は3名の担当者がそれぞれの担当分において、授業参加・平常点40%、レポート・課題・制作等60%で評価する。最終的な成績は3名の平均点とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育者のための理論と演習①: グループ演習オリエンテーション<植田>
- 第2回 保育者のための理論と演習②: グループ活動<植田>
- 第3回 保育者のための理論と演習③: グループ活動<植田>
- 第4回 保育者のための理論と演習④: 創作活動<植田>
- 第5回 保育者のための理論と演習⑤: 活動発表とまとめ<植田>
- 第6回 保育に関する課題や問題点について~保育に関する課題や問題点とは何か?<島山>
- 第7回 保育に関する課題や問題点について~情報整理<島山>
- 第8回 保育に関する課題や問題点について~考察<島山>
- 第9回 保育に関する課題や問題点について~レジュメ及びパワーポイントの作成~<島山>
- 第10回 保育に関する課題や問題点について~全体発表会~<島山>
- 第11回 あそびの指導実習・評価①: 保育・育児について
グループ活動オリエンテーション<石井>
- 第12回 あそびの指導実習・評価②: グループ活動<石井>
- 第13回 あそびの指導実習・評価③: グループ活動<石井>
- 第14回 あそびの指導実習・評価④: 全体発表・評価<石井>
- 第15回 あそびの指導実習・評価⑤: 全体発表・評価、まとめ<石井>

6. Special Information (留意事項)

- ・持参物がある場合は、その都度支持する。
- ・授業内容によって、指定教室外で実施する場合もある。

講義コード	24532701			
科目名	子どもと言語表現			
担当者	島山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	成田徹男編 (2011) 保育内容 ことば (第2版)、みらい。			
備考	保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目では、子どもの言語表現の大切さを理解するとともに、子どもの言語表現を促す方法について理解したり、実践することを目標とする。具体的には、ペープサート、パネルシアター、言葉あそびなどの技術について理解を深め、実践できるようになることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 子どもの言語表現について理解する。
2. 子どもの言語表現、言語活動を促す方法について理解する。
3. 言語表現を促す実践的基礎技能を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

言語表現などに関する知識や技能を習得するために、講義形式・演習形式の両形式で実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各授業の最後に次回の授業の準備学習について案内する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 3分の2以上の出席以上の出席を満たさなければ単位を与えない。
2. 言語表現の内容と指導についての理解 (20点)
3. 各実践についての取り組み (80点)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 子どもと言語表現とは何か?
- 第2回 言語表現の内容
- 第3回 言語表現の指導
- 第4回 子どもの言語表現を促す実践的方法について
- 第5回 ペープサートの作り方

- 第6回 ペープサートを作る
- 第7回 ペープサートの演じ方
- 第8回 ペープサートを鑑賞する
- 第9回 パネルシアターの作り方
- 第10回 パネルシアターを作る
- 第11回 パネルシアターの演じ方
- 第12回 パネルシアターを鑑賞する
- 第13回 言葉あそび
- 第14回 手遊び
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534101		
科目名	保育の心理学Ⅰ		
担当者	畠山 寛		
単位数	2	配当学年	1
資格	[保][子]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 保育実践に関わる心理学の知識を習得する。
2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 人との相互的な関わりを通じた発達について理解する。
4. 生涯発達の観点から発達の過程や初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 心理学の基礎を学ぶとともに、保育に必要な発達理解を深める。
2. 発達理解の観点から、子ども理解を深める。
3. 発達の要因としての環境の重要性を理解する。
4. 生涯発達を踏まえたうえで乳幼児期の重要性を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で行う。適宜、プリント等を配布する。必要に応じて視聴覚教材を利用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回の授業終了時に、次週に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合には、原則として単位を与えない。
2. 成績は、提出物30%、試験70%で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス：保育の心理学とは何か？
- 第2回 発達の規定因と生涯発達
- 第3回 初期経験の重要性について
- 第4回 身体・運動機能の発達
- 第5回 知覚・認知の発達
- 第6回 自我、及び、感情の発達
- 第7回 言葉の発達
- 第8回 社会性の発達～基本的信頼感～
- 第9回 乳幼児期の社会的相互作用
- 第10回 児童期・青年期の社会的相互作用
- 第11回 個人差を知る
- 第12回 個人差に対応する
- 第13回 保育実践の評価の仕方
- 第14回 保育実践の評価の実際
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534258		
科目名	保育の心理学Ⅱ Z		
担当者	畠山 寛		
単位数	1	配当学年	2
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	授業の中で適宜紹介する。		
備考	保育士養成課程専用クラス		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
3. 保育における発達援助について学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 発達の基礎をふまえたうえで、適切な実践について理解する。
2. 生活や遊びの大切さを理解する。
3. 発達支援の重要性を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

演習形式で行う。適宜、プリント等を配布する。また、視聴覚教材を用いる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回の授業終了時に、次週に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合には原則として単位を与えない。2. 成績はレポートを含む提出物が70%。演習の取り組み状況が30%とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス：保育の心理学Ⅱとは何か？
- 第2回 子ども理解について
- 第3回 発達支援について
- 第4回 個人差や発達段階を考慮した保育実践
- 第5回 人との関わりを通じた保育実践
- 第6回 子どもの生活と遊び
- 第7回 子どもの遊びと遊び
- 第8回 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 第9回 主体性の形成と発達援助
- 第10回 発達課題に応じた援助
- 第11回 発達の連続性と就学
- 第12回 保護者との連携と発達援助
- 第13回 専門職との連携と発達援助
- 第14回 現代社会における発達と保育の問題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534259		
科目名	保育の心理学Ⅱ P		
担当者	畠山 寛		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	特に指定しない。		
参考文献			
備考	特別選択科目		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
3. 保育における発達援助について学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 発達の基礎をふまえたうえで、適切な実践について理解する。
2. 生活や遊びの大切さを理解する。
3. 発達支援の重要性を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

演習形式で行う。適宜、プリント等を配布する。また、視聴覚教材を用いる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合には原則として単位を与えない。2. 成績はレポートを含む提出物が70%。演習の取り組み状況が30%とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス：保育の心理学Ⅱとは何か？
- 第2回 子ども理解について
- 第3回 発達支援について
- 第4回 個人差や発達段階を考慮した保育実践
- 第5回 人との関わりと保育実践
- 第6回 子どもの生活と学び
- 第7回 子どもの遊びと学び
- 第8回 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 第9回 主体性の形成と発達援助
- 第10回 発達課題に応じた援助
- 第11回 発達の連続性と就学
- 第12回 保護者との連携と発達援助
- 第13回 専門職との連携と発達援助
- 第14回 現代社会における発達と保育の問題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534358			
科目名	小児保健演習Ⅱ			
担当者	萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	23	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『子どもの保健演習ガイド』 高内正子編 建帛社 2015			
参考文献	『子どもの保健Ⅱ演習』 白野幸子 医歯薬出版 2011			
備考	「小児保健Ⅰ」の履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小児の心身の健康維持への取り組みについては、現場を想定した学習が必要である。そのために乳児モデルを用いて、乳幼児の養護や症状に対する看護を学ぶ。沐浴についても、各自が実際に人形で演習する。また、救急事態に対しては、現場を再現し実際の人形を用いた人工蘇生法の実技を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 小児の健康状態の観察 2. 小児の異常症状と手当 3. 小児の養護と看護 4. 手洗いと沐浴指導 5. 小児の歯の健康 6. 応急処置と心肺蘇生法

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1. 授業方法 グループに分かれて演習を行う。
- 2. 学習方法
 - (1) 実際の実技を学ぶ。
 - (2) 毎回の実習記録をまとめて、最後に提出する。

3. テキスト・参考文献

- (1) テキストは 『子どもの保健演習ガイド』 (建帛社)
- (2) 参考文献 『子どもの保健Ⅱ演習』 (医歯薬出版)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. テキストの次回講義範囲を読んでおくこと。2. 分からないところは質問して、必ず解決しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

(1) 評価は、毎回提出用紙 (20%)、授業参加度 (30%)、形成テスト (50%) の総合評価とする。(2) 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、子どもの保健演習とは
- 第2回 子どもの健康状態の観察・健康観察の要点
- 第3回 乳幼児の養護 (抱き方、衣服の着せ方、おむつの替え方、ミルクの飲ませ方)
- 第4回 乳幼児の歯の健康
- 第5回 乳幼児の清潔 (手洗い演習)
- 第6回 沐浴の演習とテスト
- 第7回 乳幼児の事故と応急手当 (総論)
- 第8回 乳幼児の事故と応急手当 (各論)
- 第9回 応急手当でビデオ学習とグループディスカッション

第10回 乳幼児の異常症状と手当

第11回 心肺蘇生法DVD学習、心肺蘇生法の演習とテスト

第12回 保育演習の振り返りとグループディスカッション

第13回 グループ別発表と個別発表

第14回 形成テスト

第15回 形成テストの解説と評価

6. Special Information (留意事項)

グループで学習する。赤ちゃんの人形を使った実技を行う。

講義コード	24534359			
科目名	小児保健演習P			
担当者	萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	23	
資格				
前提科目				
テキスト	『子どもの保健演習ガイド』 高内正子 建帛社 2015			
参考文献	『子どもの保健Ⅱ演習』 白野幸子 医歯薬出版 2011			
備考	「小児保健Ⅰ」の履修者であること 特別選択科目 隔年開講2			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小児の心身の健康維持への取り組みについては、現場を想定した学習が必要である。そのために乳児モデルを用いて、乳幼児の養護や症状に対する看護を学ぶ。沐浴についても、各自が実際に人形で演習する。また、救急事態に対しては、現場を再現し実際の人形を用いた人工蘇生法の実技を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 小児の健康状態の観察 2. 小児の異常症状と手当 3. 小児の養護と看護 4. 手洗いと沐浴指導 5. 小児の歯の健康 6. 応急処置と心肺蘇生法

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1. 授業方法 グループに分かれて演習を行う。

2. 学習方法

- (1) 実際の実技を学ぶ。
- (2) 毎回の実習記録をまとめて、最後に提出する。

3. テキスト・参考文献

- (1) テキストは 『子どもの保健演習ガイド』 (建帛社)
- (2) 参考文献 『子どもの保健Ⅱ演習』 (医歯薬出版)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. テキストの次回講義範囲を読んでおくこと。2. 分からないところは質問して、必ず解決しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価は、毎回提出用紙 (20%)、授業参加度 (30%)、形成テスト (50%) の総合評価とする。2. 3分の2以上の出席がないものは、成績を評価しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、子どもの保健演習とは
- 第2回 子どもの健康状態の観察・健康観察の要点
- 第3回 乳幼児の養護 (抱き方、衣服の着せ方、おむつの替え方、ミルクの飲ませ方)
- 第4回 乳幼児の歯の健康
- 第5回 乳幼児の清潔 (手洗いテスト)
- 第6回 沐浴の演習とテスト
- 第7回 乳幼児の事故と応急手当 (総論)
- 第8回 乳幼児の事故と応急手当 (各論)
- 第9回 応急手当のビデオ学習とグループディスカッション
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当
- 第11回 心肺蘇生法DVD学習、心肺蘇生法の演習とテスト
- 第12回 小児保健演習の振り返りとグループディスカッション
- 第13回 グループ別発表と個別発表
- 第14回 形成テスト
- 第15回 形成テストの解説と評価

6. Special Information (留意事項)

グループで学習する。赤ちゃん人形を使った実技を行う。

講義コード	24534459		
科目名	保育課程論		
担当者	石井 浩子		
単位数	2	配当学年	23
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『保育課程論 保育の基盤の理解と実習への活用』 加藤敏子・岡田耕一 萌文書林 2014年 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言 編 萌文書林 2014年		
参考文献	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『保育課程・教育課程総論』 柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編 ミネルヴァ書房 2010年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 <input checked="" type="checkbox"/> 共生・協働する力 <input type="checkbox"/> コミュニケーションする力 <input type="checkbox"/> 創造・発信する力 <input type="checkbox"/> 思考・解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> 主体的に行動する力 <input type="checkbox"/>		

1. Course Description (科目の教育目標)

保育課程の意義と編成の方法についての基礎的事項を理解するとともに、指導計画の実際とその展開について具体的に学ぶ。保育は、「子ども理解から、計画・実践・評価・改善」と循環しながら行われており、この全体構造をとらえることを目指す。

また、計画を作成する際には、園の保育目標や子どもの発達、環境構成、保育者の援助のあり方、家庭や地域との連携など様々な内容を把握・検討した上で作成されることを学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 保育課程と指導計画の種類と役割について理解する。
- (2) 年齢別の指導計画の作成方法と展開について理解する。
- (3) 指導計画の評価とその意義について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。また、適宜、資料配布によっても講義を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・事前に、保育所保育指針と保育所保育指針解説書を読んでおくこと。
- ・授業終了後は、指定の教科書と資料を読んで復習をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題提出(20%)、定期試験(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション
保育所保育指針について |
| 第2回 | 保育課程とは |
| 第3回 | 指導計画とは |
| 第4回 | 保育課程の編成
保育課程編成の意義 |
| 第5回 | 保育課程編成の手順 |
| 第6回 | 保育課程編成の実際 |
| 第7回 | 指導計画の作成と作成上の留意事項 |
| 第8回 | 指導計画作成の手順 |
| 第9回 | 指導計画の実際と展開 |
| 第10回 | 3歳未満児クラスの指導計画 |
| 第11回 | 3歳以上児クラスの指導計画 |
| 第12回 | 保育の評価と記録 |
| 第13回 | 保育所における自己評価の実際 |
| 第14回 | 保育課程と指導計画の再編成 |
| 第15回 | 保育所児童保育要録について |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534558		
科目名	保育内容総論Ⅱ		
担当者	石井 浩子		
単位数	1	配当学年	2
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言 編 萌文書林 2014年		
参考文献	『新・保育内容総論第2版』 太田悦生編 (株)みらい 2010年 『保育内容総論』 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 2015年		
備考	半年の半分 保育士養成課程専用クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力 <input checked="" type="checkbox"/> 共生・協働する力 <input type="checkbox"/> コミュニケーションする力 <input type="checkbox"/> 創造・発信する力 <input type="checkbox"/> 思考・解決する力 <input checked="" type="checkbox"/> 主体的に行動する力 <input type="checkbox"/>		

1. Course Description (科目の教育目標)

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。そして、領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)別の教科の学びとともに、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、保育士として、子ども、保護者、保育所を取り巻く環境・社会情勢についての理解や発達過程に即した子どもの理解、そして、総合的に指導、援助が行えるよう、実践的な力を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 5領域を視野に入れた、子どもと保育内容について理解する。
- (2) 幼児理解や指導計画、援助方法、保育の評価と反省など、保育の流れを概観しながらそれぞれについて具体的に検討、考察する。
- (3) 保育内容の諸項目概観し、乳幼児期にどのような保育が必要かを理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。適宜、資料配布やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 事前に、保育所保育指針及び保育所保育指針解説書を読んでおくこと。
- 授業終了後にも復習をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 保育の基本と保育内容 |
| 第2回 | 「保育所保育指針」と保育内容
5領域について |
| 第3回 | 保育内容と子ども理解
3歳未満児と3歳以上児の生活と保育内容 |
| 第4回 | 発達のとらえ方と保育内容
保育所保育指針における発達のとらえ方 |
| 第5回 | 保育内容における遊びの意味
保育内容としての遊び
生活と遊びの関係 |
| 第6回 | 保育内容とその展開
保育計画と指導計画、保育の評価と記録 |
| 第7回 | 保育内容の歴史の変遷 |
| 第8回 | 現代の保育課題と保育内容
まとめ |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534559		
科目名	保育内容総論P		
担当者	石井 浩子		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 民秋 言編 萌文書林 2014年		
参考文献	『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『保育内容総論』 監修公益財団法人児童育成協会 中央法規 2015年		
備考	半年の半分 特別選択科目		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。そして、領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）別の教科の学びとともに、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、保育士として、子ども、保護者、保育所を取り巻く環境・社会情勢についての理解や発達過程に即した子どもの理解、そして、総合的に指導、援助が行えるよう、実践的な力を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 5領域を視野に入れた、子どもと保育内容について理解する。
- (2) 幼児理解や指導計画、援助方法、保育の評価と反省など、保育の流れを概観しながらそれぞれについて具体的に検討、考察する。
- (3) 保育内容の諸項目概観し、乳幼児期にどのような保育が必要かを理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で教科書を使って進めていくが、適宜演習を取り入れる。適宜、資料配布やパワーポイントによる資料提示で講義を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に、保育所保育指針及び保育所保育指針解説書を読んでおくこと。授業終了後にも復習をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(10%)、課題提出(20%)、確認テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育の基本と保育内容
- 第2回 「保育所保育指針」と保育内容
5領域について
- 第3回 保育の一日と保育の内容
3歳未満児と3歳以上児の生活と保育内容
- 第4回 発達のとらえ方と保育内容
保育所保育指針における発達のとらえ方
- 第5回 保育内容における遊びの意味
保育内容としての遊び
生活と遊びの関係
- 第6回 保育内容とその展開
保育計画と指導計画、保育の評価と記録
- 第7回 保育内容の歴史的変遷
- 第8回 現代の保育課題と保育内容
まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534658		
科目名	保育相談支援Z		
担当者	山本 智也		
単位数	1	配当学年	34
資格	[保]		
前提科目			
テキスト	『家庭支援論/家庭支援と保育相談支援』『新保育士養成講座』 編纂委員会 編 社会福祉法人全国社会福祉協議会 2015		
参考文献			
備考	保育士養成課程専用クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもの保育の専門性を有する保育士として、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して、保護者に対する支援を行っていくことが求められている。

本科目では、保護者に対する支援を行っていくための実践力の基礎を体得していくことを目指している。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

ロールプレイングやグループ討議、事例研究などの方法を取り入れながら授業を行う。

受講生による発表及び前回授業で取り上げた内容について的小テストを原則として毎回実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

発表準備のための予習、前回授業で取り上げた内容について的小テストのための復習が必須である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、小テスト(35%)、形成テスト(35%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育相談支援の意義
- 第2回 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
- 第3回 保育相談支援の基本1子どもの最善の利益と保護者の養育力向上に資する支援
- 第4回 保育相談支援の基本2信頼関係を基本とした支援
- 第5回 保育相談支援の基本3地域の資源の活用と関係機関との連携
- 第6回 保育相談支援の実際1保育に関する保護者に対する指導及び支援の内容
- 第7回 保育相談支援の実際2保育相談支援の方法と技術
- 第8回 保育相談支援の実際3ケースアセスメント
- 第9回 保育相談支援の実際4保育相談支援の展開場面と評価
- 第10回 児童福祉施設における保育相談支援1保育所における保育相談支援
- 第11回 児童福祉施設における保育相談支援2特別な対応を要する家庭への支援
- 第12回 児童福祉施設における保育相談支援3児童養護施設等における要保護児童の家庭に対する支援
- 第13回 児童福祉施設における保育相談支援4障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援
- 第14回 形成テストによる到達度の把握
- 第15回 授業の総括：保育士が行う保育相談支援の専門性

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534701			
科目名	保育実習指導Ⅰ 事前・事後指導			
担当者	石井 浩子・植田 恵理子・鵜飼 真理子・萩原 暢子・畠山 寛			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[保]			
前提科目				
テキスト	『福祉施設実習ハンドブック4訂 保育士養成課程』岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎（株）みらい2013年 『健康福祉シリーズ3実習指導概説 保育・教育・施設実習』前橋 明・石井浩子編著 ふくろう出版 2012年 初回授業時に、教科書について指示する。			
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』民秋 言 萌文書林 2014年 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008年 『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年			
備考	「保育原理Ⅰ・Ⅱ」の履修者であること 保育士養成課程専用クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

保育所及び施設における実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を実りあるものにするを目標とする。具体的には、保育所と施設の制度、役割、機能、子どもの発達、観察の仕方、援助の仕方、指導計画の立て方、記録の方法など、基礎的な項目について学ぶことにより、保育実習への理解を深めるとともに、実習の心構えを身につけることをめざす。

事後指導では、実習を通して学んだことや反省などから、今後の自己の学習内容や課題を探ることをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1)実習の目的や内容、方法、留意事項などを具体的に理解する。
- (2)保育観察の方法や「実習記録」の記入の仕方、指導計画の作成方法、基礎的な保育技能・技法を身につける。
- (3)実習を評価・反省し、実習後の学習課題を明確にする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。また、実習施設への見学や保育に参加することにより、事前に現場の状況を理解する。

実習に必要な保育技術や知識について、レポートを課す。

実習中に、施設の実習担当者との連携のもと、実習生への指導を行う。

事後指導は、実習終了後に行う。日時については、事前実習指導授業内に知らせるので、必ず出席すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

これまで履修した講義から、保育所や施設の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて再確認しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (50%)、確認テスト・課題・事前事後指導への出席・発表状況など (50%) に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育実習オリエンテーション
保育実習の意義と目的と概要
- 第2回 実習の内容と方法、実習の流れや手続きなど
- 第3回 保育所実習について
保育所とは
- 第4回 園行事や一日の流れの理解
- 第5回 乳幼児の園生活と保育環境
- 第6回 乳幼児の発達と保育、乳幼児の活動と保育者の関わり
- 第7回 保育園での具体的な援助と指導実践の基礎理解
- 第8回 観察方法、記録のとり方
実習記録の書き方の実際と注意事項
- 第9回 保育所・施設見学
- 第10回 児童文化財を使った実技を含む模擬保育指導計画の立て方
- 第11回 指導案の作成と模擬保育 (討議)
- 第12回 実習課題の明確化

- 第13回 実習に際しての留意事項
(1)子供の権利と最善の利益の考慮(2)プライバシー保護と守秘義務(3)実習の心構え
- 第14回 学内オリエンテーション
保育実習事前訪問
- 第15回 実習終了後
事後指導 [実習報告、成績開示、個別指導]

6. Special Information (留意事項)

- ・この授業を履修しなければ、「保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2」は履修できない。
- ・授業時間以外にも、必要に応じて授業を行う場合がある。必ず出席すること。
- ・出席状況や資格取得に必要な科目の履修状況から、履修や実習を中止することもあるので注意すること。

講義コード	24534801			
科目名	保育実習指導Ⅱ A 保育所実習Ⅱ 事前・事後指導 (3年後期)			
担当者	石井 浩子・植田 恵理子・鵜飼 真理子・萩原 暢子・畠山 寛			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2			
テキスト	『健康福祉シリーズ③ 実習指導概説 保育・教育・施設実習』前橋 明・石井浩子編著 ふくろう出版 2012年			
参考文献	『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年			
備考	保育士養成課程専用クラス 3年次後期から4年次前期まで			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目は、保育実習Ⅱ(保育所実習)の事前学習と事後指導を行うものである。保育実習Ⅱの意義と目的、その内容について理解を深め、保育について総合的に学ぶ。よって、これまで履修した科目の内容や「保育実習Ⅰ」での学び、また、新たな自己課題を踏まえ、総合的に実践する応用能力を培うことをめざす。

事後指導では、自己評価やグループディスカッションを通して、実習総括を行うとともに、今後の自己の課題を明確にすることをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・保育実習Ⅱでは、前回の実習からさらに進んだ実習の目的と内容であることを理解する。

・前回の実習の経験を生かし、保育や子どもたちの観察、子どもたちの関わり、実習記録への記入、指導計画の作成、保育技能・技法などの習得を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・講義によって、保育実習Ⅱに必要な事柄を理解するとともに、心構えについても学ぶ。

・実習前後に課題を出す。

・事後指導は、実習終了後に行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・保育実習Ⅰの実習内容をふりかえり、自己課題を明確にしておくこと。

・これまで履修した科目から、保育所の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて、再確認すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、提出物の状況 (30%)、確認テスト・課題 (40%) に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 保育実習Ⅱ(保育所実習)の意義と目的
- 第2回 実習記録の意義と方法の理解
- 第3回 実習の流れや手続きなど
実習に必要な書類作成、課題設定など
- 第4回 実習記録の理解①
実習日誌の意義と書き方
- 第5回 実習記録の理解②
実習日誌を振り返る (Ⅰ-1)
- 第6回 指導計画の理解①
指導実習について (部分実習)
- 第7回 指導計画の理解②
ねらいと内容
- 第8回 指導計画の理解③

第9回	環境構成と保育者の援助 指導計画の理解④ 部分実習指導案作成
第10回	指導計画の理解⑤ 指導実習について（半日実習・一日実習）
第11回	指導計画の理解⑥ 半日実習・一日実習指導案作成
第12回	実習の心構え 実習課題の明確化
第13回	学内オリエンテーション
第14回	事後指導① 実習報告
第15回	事後指導② まとめ、実習記録および成績票による個別面接指導

6. Special Information (留意事項)

- ・春期休暇期間での実習の事前授業として実施する。
- ・この授業を履修しなければ、「保育実習Ⅱ」は履修できない。
- ・原則として欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。

講義コード	24534802			
科目名	保育実習指導Ⅱ B 保育所実習Ⅱ 事前・事後指導（4年前期）			
担当者	石井 浩子・植田 恵理子・鵜飼 真理子・萩原 暢子・畠山 寛			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[保]			
前提科目	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2			
テキスト	『健康福祉シリーズ③ 実習指導概説 保育・教育・施設実習』前橋 明・石井浩子編著 ふくろう出版 2012年			
参考文献	『やさしく学べる保育実践ポートフォリオ』植原邦子 ミネルヴァ書房 2005年			
備考	保育士養成課程専用クラス 4年次通年			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目は、保育実習Ⅱ(保育所実習)の事前学習と事後指導を行うものである。保育実習Ⅱの意義と目的、その内容について理解を深め、保育について総合的に学ぶ。よって、これまで履修した科目の内容や「保育実習Ⅰ」での学び、また、新たな自己課題を踏まえ、総合的に実践する応用力を培うことをめざす。

事後指導では、自己評価やグループディスカッションを通して、実習総括を行うとともに、今後の自己の課題を明確にすることをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・保育実習Ⅱでは、前回の実習からさらに進んだ実習の目的と内容であることを理解する。

・前回の実習の経験を生かし、保育や子どもたちの観察、子どもたちの関わり、実習記録への記入、指導計画の作成、保育技能・技法などの習得を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・講義によって、保育実習Ⅱに必要な事柄を理解するとともに、心構えについても学ぶ。

・実習前後に課題を出す。

・事後指導は、実習終了後に行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・保育実習Ⅰの実習内容をふりかえり、自己課題を明確にしておくこと。

・これまで履修した科目から、保育所の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて、再確認をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(30%)、提出物の状況(30%)、確認テスト・課題(40%)に基づいて、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	保育実習Ⅱ(保育所実習)の意義と目的
第2回	実習記録の意義と方法の理解
第3回	実習の流れや手続きなど 実習に必要な書類作成、課題設定など
第4回	実習記録の理解① 実習日誌の意義と書き方
第5回	実習記録の理解② 実習日誌を振り返る(Ⅰ-1)

第6回	指導計画の理解① 指導実習について(部分実習)
第7回	指導計画の理解② ねらいと内容
第8回	指導計画の理解③ 環境構成と保育者の援助
第9回	指導計画の理解④ 部分実習指導案作成
第10回	指導計画の理解⑤ 指導実習について(半日実習・一日実習)
第11回	指導計画の理解⑥ 半日実習・一日実習指導案作成
第12回	実習の心構え 実習課題の明確化
第13回	学内オリエンテーション
第14回	事後指導① 実習報告
第15回	事後指導② まとめ、実習記録および成績票による個別面接指導

6. Special Information (留意事項)

- ・夏期休暇期間での実習の事前授業として実施する。
- ・この授業を履修しなければ、「保育実習Ⅱ」は履修できない。
- ・原則として欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。

講義コード	24534901			
科目名	保育実習指導Ⅲ A			
担当者	畠山 寛・石井 浩子・植田 恵理子・鵜飼 真理子・萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[保]			
前提科目	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1・Ⅰ-2			
テキスト				
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次・喜多一恵・児玉俊郎(株)みらい 2011年			
備考	保育士養成課程専用クラス 3年次後期から4年次前期まで			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 保育実習の意義と目的を理解し、養護・療育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1)実習の目的や内容、方法、留意事項などを具体的に理解する。
- (2)保育観察の方法や「実習記録」の記入の仕方、指導計画の作成方法、基礎的な保育技能・技法を身につける。
- (3)実習を評価・反省し、実習後の学習課題を明確にする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。また、実習施設への見学や保育に参加することにより、事前に現場の状況を理解する。

実習に必要な保育技術や知識について、レポートを課す。

実習中に、施設の実習担当者との連携のもと、実習生への指導を行う。

事後指導は、実習終了後に行う。日時については、事前実習指導授業内に知らせるので、必ず出席すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

これまで履修した講義から、保育所や施設の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて再確認しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(50%)、確認テスト・課題・事前事後指導への出席・発表状況など(50%)に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として欠席は認められない。提出物の制限は厳守すること。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回	事前指導①：保育実習Ⅲの内容と目的
第2回	事前指導②：子どもの最善の利益を考慮した養護・療育の具体的理解
第3回	事前指導③：子どもの養護・療育と保護者支援

- 第4回 事前指導④：子どもの状態に応じた適切な関わり方について考える～被虐待児との関わり～
- 第5回 事前指導⑤：子どもの状態に応じた適切な関わり方について考える～障がい児との関わり～
- 第6回 事前指導⑥：個別の指導計画について
- 第7回 事前指導⑦：個別の指導計画と実践について
- 第8回 事前指導⑧：養護・療育の観察、記録、自己評価に基づく養護・療育の改善
- 第9回 事前指導⑨：保育士の専門性と職業倫理
- 第10回 事前指導⑩：実習計画を作成する①～実習Ⅰ～Ⅱを振り返る～
- 第11回 事前指導⑪：実習計画を作成する②～実習Ⅲの課題を明確化する～
- 第12回 事前指導⑫：個人票等の作成
- 第13回 事後指導①：個人発表
- 第14回 事後指導②：グループ討議
- 第15回 事後指導③：面談

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24534902			
科目名	保育実習指導Ⅲ B			
担当者	畠山 寛・石井 浩子・植田 恵理子・ 鵜飼 真理子・萩原 暢子			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[保]			
前提科目	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ			
テキスト				
参考文献	『三訂 福祉施設実習ハンドブック』 岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 (株)みらい 2011年 保育士養成課程専用クラス			
備考	4年次通年			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 保育実習の意義と目的を理解し、養護・療育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 実習の目的や内容、方法、留意事項などを具体的に理解する。
- (2) 保育観察の方法や「実習記録」の記入の仕方、指導計画の作成方法、基礎的な保育技能・技法を身につける。
- (3) 実習を評価・反省し、実習後の学習課題を明確にする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。また、実習施設への見学や保育に参加することにより、事前に現場の状況を理解する。

実習に必要な保育技術や知識について、レポートを課す。

実習中に、施設の実習担当者との連携のもと、実習生への指導を行う。

事後指導は、実習終了後に行う。日時については、事前実習指導授業内に知らせるので、必ず出席すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

これまで履修した講義から、保育所や施設の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて再確認しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(50%)、確認テスト・課題・事前事後指導への出席・発表状況など(50%)に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として欠席は認められない。提出物の制限は厳守すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 事前指導①：保育実習Ⅲの内容と目的
- 第2回 事前指導②：子どもの最善の利益を考慮した養護・療育の具体的な理解
- 第3回 事前指導③：子どもの養護・療育と保護者支援
- 第4回 事前指導④：子どもの状態に応じた適切ななかかわり～被虐待児との関わり～
- 第5回 事前指導⑤：子どもの状態に応じた適切ななかかわり～障がい児との関わり～

- 第6回 事前指導⑥：個別の支援計画について
- 第7回 事前指導⑦：個別の支援計画と実践
- 第8回 事前指導⑧：養護・療育の観察、記録、自己評価に基づく養護・療育の改善
- 第9回 事前指導⑨：保育士の専門性と職業倫理
- 第10回 事前指導⑩：実習計画を作成する①～実習Ⅰ～Ⅱを振り返る～
- 第11回 事前指導⑪：実習計画を作成する②～実習Ⅲの課題を明確化する～
- 第12回 事前指導⑫：個人票等の作成
- 第13回 事後指導①：個人発表
- 第14回 事後指導②：グループ討議
- 第15回 事後指導③：面談

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24801101			
科目名	色彩学 A 色によるイメージ伝達を体系的に学ぶ			
担当者	室 千草			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[建][イ]			
前提科目				
テキスト	『新配色カード199a』 日本色彩研究所			
参考文献	『カラーコーディネーター入門 色彩』 大井義雄・川崎秀昭 日本色研事業(株) 2007年			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

講義コード	24801102			
科目名	色彩学 B 色によるイメージ伝達を体系的に学ぶ			
担当者	室 千草			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[建][イ]			
前提科目				
テキスト	『新配色カード199a』 日本色彩研究所			
参考文献	『カラーコーディネーター入門 色彩』 大井義雄・川崎秀昭 日本色研事業(株) 2007年			
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

「色」は造形活動のうえで、形、テキストチャーとともに、表現するための重要な要素ともいえる。「色」を体系的に学ぶことにより、色彩システムの基本知識を習得し、色彩表現、色彩計画において色を有効に活用できるような、色の区別、再現、配色方法に関する理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 12色相環の作成 2. 色の三属性を把握する配色演習 3. 季節感の色彩構成 4. 日本の色のブックカバーデザイン 5. 配色技法を用いたパターン制作 6. エクステリアの色彩設計 7. インテリアの色彩設計

3. Course Method (教育・学習の方法)

配付プリントと画像資料を用いて理論を学んだ後、配色カードや絵の具による実技演習を行う。必要な文具・画材等は適宜指示する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

気に入ったデザインやテキスタイルがどのような配色になっているかを観察すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業時の課題・授業参加度(50%)と筆記試験(50%)の総合評価とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 色の本質 (色と視覚、色の分類、色知覚の三属性)
- 第2回 演習課題1、12色相環の作成 (目的色の出し方、混色方法)
- 第3回 色の体系 (色名と日本色研配色体系、マンセル表色系)
- 第4回 演習課題2、色の三属性を把握する配色演習
- 第5回 色の見え方 (対比と同化、面積効果など)
- 第6回 演習課題3、季節感の色彩構成 (色のイメージ表現)
- 第7回 色の心理 (色のイメージと感情効果)
- 第8回 演習課題4、日本の色を用いたブックカバーデザイン
- 第9回 色の調和と配色

- 第10回 演習課題5、配色技法を用いたパターン制作
 第11回 建築の色彩設計
 第12回 演習課題6、エクステリアの色彩設計
 第13回 インテリアとエクステリアの色彩調和
 第14回 演習課題7、インテリアの色彩設計
 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

課題で配色カードを使用する際、のりとはさみが必要になります。この他に絵具やケント紙などの画材が必要となります。

講義コード	24801201		
科目名	デザイン論Ⅰ 近代デザインの歴史		
担当者	竹内 正明		
単位数	2	配当学年	12
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『カラー版 図説 建築の歴史』 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編 学芸出版社 2013		
参考文献	『近代建築史』 石田潤一郎・中川理編 昭和堂 1998 『テキスト 建築の20世紀』 本田昌昭・末包伸吾編 学芸出版社 2009		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

住環境にまつわる形態表現について考察する。具体的には、建築を中心として、私たちの身の回りに存在してきた数々の作品のなかから、「かたち」がどのように構成されているのかを読み解くことによって、近代デザインの歴史と特徴を習得することを目標とする。作品に込められた「かたち」や「空間」の捉え方を的確に把握するとともに、より豊かな表現を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 作品を鑑賞する。
2. 作品の制作背景を学ぶ。
3. 作品に込められた意味を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
画像資料を用いて講義を進める。
2. テキスト・参考文献など
テキスト・参考文献は、授業中に適宜指示する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

参考文献もしくは参考文献に準ずる近代建築史に関する図書に目を通しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末レポート (50%)、中間レポート (30%)、授業参加度 (20%) を総合して行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 近代建築の巨匠1 ル・コルビュジエ
- 第2回 近代建築の巨匠2 ミース・ファン・デル・ローエ
- 第3回 批判の対象としての古典主義 古代から近世までを見通す
- 第4回 近代への布石 近代建築の萌芽
- 第5回 近代建築の曙光 伝統性と近代性の相克
- 第6回 近代への多様な道のり 世紀末ヨーロッパの建築
- 第7回 切断される「過去」 建築のアヴァンギャルド
- 第8回 大量生産社会の建築へ 近代建築の実験場としてのドイツ
- 第9回 摩天楼と郊外住宅 アメリカにおける近代建築の形成
- 第10回 教義としての近代建築 近代建築の成立と成熟
- 第11回 合理性と固有性 近代建築のひろがりの変容
- 第12回 経験の多様性に向けて 近代建築への懐疑と超克
- 第13回 建築のポスト・モダン 領域の拡張
- 第14回 テーマ化するモダニティ 21世紀へ
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

建築物や作品の特徴をしっかりと把握すること。

講義コード	24801301		
科目名	デザイン論Ⅱ 空間の歴史		
担当者	竹内 正明		
単位数	2	配当学年	34
資格	[建][イ]		
前提科目			
テキスト	『カラー版 図説 建築の歴史』 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編 学芸出版社 2013		
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

絵画、彫刻、写真、音楽をはじめとして、あらゆる芸術分野の横断が活発となった今日、建築やインテリアのデザインが、どのような意味をもつのかについて考えることは重要である。本講義では、西洋および日本の建築の歴史を見ていくことで、人間が造りだしてきた空間がどのようなものであったのか、また、造りだされた空間にはどのような意味があるのかについて学ぶことを目的とする。東西の建築や空間を紹介し、その鑑賞を通して、なぜこのような空間が生まれたのか、あるいはこのような空間が何を表現するのかについて考察する。なお、すでに「デザイン論Ⅰ」を受講していること。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 各時代、分野を代表する作品を鑑賞する。
2. 各時代、分野を代表する作品の制作背景を学ぶ。
3. 作り手の思想を読み取る。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法
画像資料を用いて講義を進める。
2. テキスト・参考文献など
テキスト・参考文献は、授業中に適宜指示する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業予定一覧にあげた内容について、あらかじめ図書館などで確認しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末レポート (50%)、中間レポート (30%)、授業参加度 (20%) を総合して行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 建築ストックの活用 長屋の実践を通して
- 第2回 風景としての建築 建築とランドスケープ
- 第3回 表層の建築表現 環境と建築の接点
- 第4回 アートと建築 ミニマムからスーパーフラット
- 第5回 脱構築からプログラム論 現代建築へのパラダイムシフト
- 第6回 古典主義というはじまり 近代建築に至るまで
- 第7回 道標としての近代建築 ル・コルビュジエとミース・ファン・デル・ローエ
- 第8回 伝統性と地域主義 丹下健三と近代建築
- 第9回 日本のすまいとモダンリビング 戦後小住宅における建築家の提案
- 第10回 未来都市のイメージ 高度経済成長期の建築事情
- 第11回 建築の解体という手法 モダンからポストモダンへ
- 第12回 野武士と称された建築家 1940年代以降に生まれた建築家
- 第13回 機械のオマージュとしてのハイテク建築 建築表現におけるテクノロジーの系譜
- 第14回 リノベーションという方法 建築ストックの活用
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

空間に関連して、建築に限らず、表現における幅広い知識を得ること。

講義コード	24801401			
科目名	家庭電気・機械及び情報処理			
担当者	中森 伸行			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[家][イ]			
前提科目				
テキスト	テキスト使用せず：授業に関係した資料を配布、または、インターネットからダウンロードする。			
参考文献	『21世紀の生活環境をつくる家庭電気・情報・機械』松山正彦 医歯薬出版 『新家庭機械・電気』岡部 巍 編集 医歯薬出版 『電気がわかる本』松原洋平 オーム社 『知りたかった電気のおはなし』石橋千尋他 電気書院 2006年			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

豊かな人生を送るための基盤となる家庭生活を便利で快適にかつ安全なものにするために、家庭で使われる機器に対する、電気・機械・情報処理などに関する基礎知識を理解することにより、それらを安全で適切に使いこなす能力を養うことを目標とする。さらに、これら機器の利用にかかわる環境負荷についても学び、機器を利用した豊かな生活の継続を図るための意識を高める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 身近な機器（家庭の電化製品や機械、情報機器）の動作原理を理解し、適切・安全・効率的な使用方法を学ぶ。 2. 電気（電気・磁気現象、送配電）の基礎知識を学ぶ。 3. 機械の要素技術の基礎知識を学ぶ。 4. 情報・通信技術の基礎知識を学ぶ。 5. 環境への配慮について理解を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義と演習をセットとし、学習効果を確かめながら行う。 2. 適宜、資料を配布するが、プロジェクタ、板書を用いて進めるためノートをとること。 3. 受講生全員に、当日の講義内容に対する質問・コメント票を提出してもらい、学習効果の確認、講義内容の改善に資する。 4. 講義の進捗や受講者の理解度を勘案して、小テストを実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 受講者の理解度や、講義の進度に応じて、適宜、事前に準備課題を与える。 2. 学習結果をレポートとして提出することを求める場合もある。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、30% 授業参加率（質問・コメント等により確認）や授業態度（不適切な発言や行為）、20% 準備課題レポートや小テストの評価、50% 最終試験等を総合して実施する。なお、欠席回数が3分の1を超過した場合には原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の概要説明：人間-ロボット-家電製品
- 第2回 日本のモノ造り：機械人形に学ぶ
- 第3回 家電製品と機能
- 第4回 エネルギーの変換：電気-光-熱-動力
- 第5回 電気を光に変換する電化製品：照明器具
- 第6回 熱の変換を利用した電化製品：エアコン、冷蔵庫、湯沸し器
- 第7回 モーターを利用した電化製品：掃除機、洗濯機、(冷蔵庫、エアコン)
- 第8回 通信を利用した電化製品：テレビ、スマートフォン、リモコン
- 第9回 電化製品の視覚・聴覚：視覚センサー（カメラ）、聴覚センサー（マイク）
- 第10回 電化製品に利用される様々なセンサー：温度センサー、圧力センサー
- 第11回 脳とコンピュータ：人間の脳を真似たコンピュータ
- 第12回 家電製品を制御するプログラム：家電製品の機能の手順書
- 第13回 エネルギーと環境：環境負荷を考える
- 第14回 よりよき生活を目指して：スマートハウス、スマートシティを考える
- 第15回 当該授業全体にわたるまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24801901			
科目名	社会福祉原論Ⅱ 現代社会と福祉Ⅱ			
担当者	小池 桂			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	特になし。毎回、プリントを配布する。			
参考文献	『社会福祉用語辞典』山縣文治、柏女靈峰編 ミネルヴァ書房 最新版 『よくわかる社会福祉』山縣文治、岡田忠克編 ミネルヴァ書房 最新版 『現代福祉学概論』杉山博昭編 時潮社 2013 『新社会福祉とは何か（第2版）』大久保秀子著 中央法規 2014			
備考	「社会福祉原論Ⅰ」を履修していることが望ましい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会福祉原論Ⅱでは、社会福祉の基礎編ともいえる原論Ⅰをふまえ、より専門的な内容を講義する。特に福祉政策の構成要素、福祉の原理をめぐる理論と哲学は重要であり、後者は、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱの総まとめとして位置づけられる。

- ①福祉政策の構成要素を理解できる。
- ②福祉政策と関連政策、福祉実践との関連について理解できる。
- ③福祉の原理と哲学について理解できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①福祉政策の構成要素を政府の役割、福祉供給過程など多面的に学ぶ。
- ②福祉政策と関連政策との関係を理解する。
- ③福祉政策と福祉専門職や相談援助活動の関係について理解する。
- ④日本と欧米における福祉理論（哲学を含む）について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に進めるが、適宜、ビデオ等も取り入れていく。また重要なテーマについてはディスカッションも行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ①毎回、授業終了時に翌週の授業用プリントを配布するので、そこに記されたキーワードを調べておくこと。
- ②授業では積極的に発言すること。
- ③社会福祉に関する新聞記事を読むこと（どのような領域でもよい）。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、平常点（10点）、小テスト（20点）、定期試験（70点）とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の概要とねらい
- 第2回 福祉政策の構成要素①：福祉政策における政府等の役割
- 第3回 福祉政策の構成要素②：福祉政策の手法
- 第4回 福祉政策の構成要素③：福祉政策の決定過程
- 第5回 福祉政策の構成要素④：福祉供給部門と過程
- 第6回 福祉政策の構成要素⑤：福祉利用過程
- 第7回 福祉政策と関連政策
- 第8回 相談援助活動と福祉政策の関係①：日本における福祉専門職制度の展開
- 第9回 相談援助活動と福祉政策の関係②：福祉政策における福祉専門職の役割
- 第10回 小テスト及び解説
- 第11回 福祉の原理をめぐる理論と哲学①：日本における社会福祉理論
- 第12回 福祉の原理をめぐる理論と哲学②：社会のあり方を問う必要性
- 第13回 福祉の原理をめぐる理論と哲学③：みんなが合意できる社会のあり方とは
- 第14回 福祉の原理をめぐる理論と哲学④：J.ロールズの社会理論
- 第15回 福祉の原理をめぐる理論と哲学⑤：A.センの社会理論

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24802001			
科目名	老人福祉論Ⅱ 高齢者に対する援助と福祉サービス			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社]			
前提科目				
テキスト	『高齢者福祉学』 三好明夫 西尾隆司編著 学文社			
参考文献	随時紹介する			
備考	「老人福祉論Ⅰ」履修者であること H28年度まで			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

高齢者を対象とした主要な社会福祉援助は法的制度に裏付けられて展開される。そこで、高齢者を対象とした主要な社会制度である老人福祉法、老人保健法、介護保険法の概要と具体的なサービス内容を理解することを目指す。その上で、高齢者福祉に関する政策動向を吟味するとともに実際に援助を担う専門職について理解を深め、専門職が援助を展開する際に活用する社会福祉援助技術の手法の獲得を目指し、人権擁護に根差した高齢者社会の構築を模索する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 高齢者福祉サービスの概要を学ぶ
2. 介護保険法についての理解を深める
3. 高齢者福祉の関連施策について学ぶ
4. 高齢者を支援する社会福祉援助技術の実践について学ぶ
5. 高齢者の人権擁護の実践について学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書の活用とともに適宜配布する資料も活用して進めていく。限られた時間ではあるが資料の熟読も必要になってくる。講義終了時には理解度を確かめるための小テストを毎回実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

介護保険制度に関する新聞記事なども紹介、印刷するが、受講生にはその内容についての意見感想を求めると日頃から高齢者に関する話題については意識しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、小テスト (20%)、定期試験 (50%) とし、その総合点を最終評価とする。欠席回数が3分の1を超えた場合には原則単位認定しない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 介護保険制度の仕組み (1) 制度創設の経緯と背景
- 第2回 介護保険制度の仕組み (2) 目的と理念
- 第3回 介護保険制度の仕組み (3) 保険者 被保険者
- 第4回 介護保険制度の仕組み (4) 保険料 財源と公費
- 第5回 介護保険サービス (1) 要介護認定
- 第6回 介護保険サービス (2) 介護サービス計画
- 第7回 介護保険サービス (3) 事業者との契約
- 第8回 介護保険サービス (4) 審査請求
- 第9回 地域包括支援センター
- 第10回 地域包括ケアシステム
- 第11回 介護保険法でのネットワーク
- 第12回 介護保険法と介護支援専門員の役割
- 第13回 高齢者援助の方法 (1) 介護保険サービス事例 居宅
- 第14回 高齢者援助の方法 (2) 介護保険サービス事例 施設
- 第15回 介護保険法の課題と将来展望

6. Special Information (留意事項)

本科目と老人福祉論Ⅰは社会福祉士資格の取得をめざす学生は、併せて履修しなければならない。

講義コード	24802501			
科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ 支援を必要としている人たちの安心と安全をまもる			
担当者	三好 明夫			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[保][社][精]			
前提科目				
テキスト	演習事例を中心としてプリント、配布資料等で対応していく。			
参考文献	『相談援助演習』 弘文社 必要に応じて指示する。			
備考	定員20人 「社会福祉援助技術演習Ⅰ」の履修者であること			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本演習は「社会福祉援助技術」「社会福祉援助技術演習Ⅰ」の履修を基礎とした「社会福祉援助技術現場実習」の事後授業、ならびにこれまで修得した社会福祉援助技術のまとめの科目として位置づけられる。本演習で学生は実習の体験を活かしつつ、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としてのより専門的な能力を身につけることをめざしている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

社会福祉援助技術、対人援助の意味と役割を明確にしつつ、現場の実践に活かせる対人援助能力を身につけることである。そのために対人援助技術の基礎的理論を確認しつつ、対人援助専門 職としての専門的なく援助者の態度、＜コミュニケーション技術＞、＜援助プロセスの実践＞を、観察・考察する演習と事例検討を通して学習する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法：

- 1 社会福祉援助技術の実際資料／映像の提示
- 2 社会福祉援助技術の視点からの講義と解説
- 3 ロールプレイ、カンファレンスを含んだ演習、事例検討を行う。

本演習では、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に参加し行動発言することを求める。後半では受講生が1事例ずつソーシャルワーカー役となり担当していく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

社会福祉実践の現場はさまざまに変化を続けている。生身の人間の生活を支援するというこの演習は将来対人援助に携わることを想定しているため、日常からテレビや新聞等で社会福祉関連の話題や記事を見つけて理解度を深めておく必要がある。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (グループワーク、ロールプレイ等) (50%) と演習課題レポート (50%) をもって総合評価する。欠席回数3分の1を超えた場合には原則単位認定することはできない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会福祉援助技術実践とは何か
- 第2回 社会福祉援助技術演習の意義と方法
- 第3回 インテークの実際
- 第4回 アセスメントの実際
- 第5回 プランニングの実際
- 第6回 支援の実施の実際
- 第7回 モニタリングの実際
- 第8回 効果測定の実際
- 第9回 終結とアフターケアの実際
- 第10回 アウトリーチの実際
- 第11回 チームアプローチの実際
- 第12回 ネットワーキングの実際
- 第13回 社会資源の活用・調整・開発
- 第14回 事例研究の意義と方法
- 第15回 事例研究とケースカンファレンス
- 第16回 ケースカンファレンスの具体的方法
- 第17回 ケースカンファレンスの実際
- 第18回 援助過程についての検討
- 第19回 援助過程の各段階について
- 第20回 事例の分析について
- 第21回 事例理解のための学び
- 第22回 事例検討 児童のモデル
- 第23回 事例検討 障害児のモデル
- 第24回 事例検討 身体障害者のモデル
- 第25回 事例検討 知的障害者のモデル

- 第26回 事例検討 精神障害者のモデル
- 第27回 事例検討 在宅要介護高齢者のモデル
- 第28回 事例検討 施設要介護高齢者のモデル
- 第29回 事例検討 地域包括支援センター介入モデル
- 第30回 事例検討の総括と振り返り、演習の意義

6. Special Information (留意事項)

社会福祉士受験予定者は必ず受講すること

講義コード	24802901			
科目名	医学一般Ⅱ			
担当者	大野 まどか			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社][精][健]			
前提科目				
テキスト	『イントロダクションシリーズ 保健医療サービス』 児島美都子・成清美治・牧洋子編著 学文社 2015年			
参考文献	『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』第4版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2014			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

傷病は時として人間の生活に大きな社会的、心理的問題を引き起こすことがあり、医療と福祉は相互に深い関連性を持っている。本講義では、現代の日本の保健医療をとりまく状況と其中で望まれる保健医療サービスのあり方を考察する。また保健医療分野を理解するために必要な医療保障制度（医療保険制度、公費負担制度等）・診療報酬制度・介護保険制度について理解する。さらに、保健医療サービスの各専門職の役割を理解し、特に保健医療ソーシャルワークについて、その援助過程や援助の実例を事例を通して検討し、理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①保健医療領域を理解するための基本的な医療、社会福祉、社会保障制度に関する知識を習得する。
- ②疾患から生ずる生活問題と患者・家族のニーズについて理解する。
- ③保健医療分野でのソーシャルワークについて理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

- ①講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。
- ②事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。
- ③授業においてわからないことがあった場合には積極的に質問をすること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

一つのテーマについての講義が終了した時点で次のテーマとその予習箇所を指示します。必ず予習をして講義に臨むこと。また、ソーシャルワークの価値や方法、知識に関連付けながら講義を進めます。これらの知識を統合して講義を聞くこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験（80％）と講義内において実施する数回の小レポート・小テスト（20％）の総合評価とします。全講義の2/3以上の出席を必要とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現代社会における保健医療サービスの意義
- 第3回 医療保険制度と医療システム
- 第4回 診療報酬制度
- 第5回 公費負担医療
- 第6回 医療機関の機能分化
- 第7回 保健・医療・福祉の連携と介護保険制度
- 第8回 保健医療サービスにおける専門職の役割
- 第9回 保健医療ソーシャルワークの援助の実例～療養中の心理的・社会的問題への援助、社会復帰援助、受診・受療援助～
- 第10回 保健医療ソーシャルワークの援助の実例～退院援助、経済的問題への援助、地域活動～
- 第11回 保健医療ソーシャルワークの援助の実例～個別援助に係る業務の具体的展開、患者の主体性の尊重、プライバシーの保護～
- 第12回 保健医療ソーシャルワークの援助の実例～他の保健医療スタッフ及び地域の関係機関との連携、受診・受療援助と医師の指示～
- 第13回 保健医療ソーシャルワークの援助の実例～問題の予測と計画的対応、記録の作成等～
- 第14回 事例検討
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

テキストを必ず購入すること

講義コード	24803001			
科目名	社会保障論Ⅱ			
担当者	小池 桂			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[社][精]			
前提科目				
テキスト	『現代の社会福祉士養成シリーズ社会保障』 川村匡由他編 久美 最新版			
参考文献	『よくわかる社会保障』 坂口正之、岡田 忠克編 ミネルヴァ書房 最新版 『自分たちで生命を守った村』 菊池武雄 岩波新書1968 『国民皆保険の時代』 新村拓 法政大学出版会 2011 『脱貧困の社会保障』 唐鎌直義 旬報社 2012			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義では社会保障の各制度を具体的事例を交えながら学ぶとともに、それらの課題について考える。

- ①社会保障制度の体系を理解できる。
- ②特に年金保険及び医療保険の具体的内容を理解できる。
- ③諸外国の社会保障制度の概要を理解できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①複雑に入り組んでいる日本の社会保障制度を体系立てて理解する。
- ②社会保険制度の支柱である社会保険制度の概要を理解した上で、年金保険と医療保険について新聞記事、事例などを交えながら学ぶ。
- ③欧米を中心とした社会保障制度を、日本の社会保障制度と比較しながら概観する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に進めるが、適宜、DVD等も取り入れていく。また重要なテーマについてはディスカッションも行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ①テキストを読んでおくこと。
- ②授業では積極的に発言すること。
- ③社会保障（特に社会保険）に関する新聞記事には目を通しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、平常点（10点）、小テスト（20点）、定期試験（70点）とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 本講義の概要とねらい
- 第2回 年金保険制度の歩みと概要（テキスト「第6章、16回」）
- 第3回 国民年金の概要と課題（テキスト「第7章、24回」）
- 第4回 厚生年金と共済年金の概要（テキスト「第7章、25回、26回」）
- 第5回 医療保険制度の歩みと概要（テキスト「第6章、17回」）
- 第6回 国民健康保険制度の概要（テキスト「第8章、27回」）
- 第7回 被用者保険及び後期高齢者医療制度の概要（テキスト「第8章、28回、29回」）
- 第8回 小テスト及び解説
- 第9回 介護保険制度の概要（テキスト「第6章、18回」）
- 第10回 労働者災害補償保険の概要（テキスト「第6章、19回」）
- 第11回 雇用保険制度の概要（テキスト「第6章、20回」）
- 第12回 生活保護、家族手当制度の概要（テキスト「第6章、21回から23回」）
- 第13回 社会福祉の概要（同上）
- 第14回 諸外国における社会保障制度①～福祉国家の類型論～（テキスト「第9章、30回」）
- 第15回 諸外国における社会保障制度②～欧米福祉国家の沿革と現状～（同上）

6. Special Information (留意事項)

講義コード	24901001			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	青木 加奈子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901006			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	桐野 由美子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901002			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	石井 浩子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901007			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	小池 桂			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901003			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	植田 恵理子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901008			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	酒井 久美子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901004			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	牛田 好美			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901009			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	佐藤 純			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901005			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901010			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	竹原 広実			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901011			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	鳥居本 幸代			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901016			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	三好 明夫			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901012			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	中村 久美			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901017			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	矢島 雅子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901013			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	萩原 暢子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901014			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	畠山 寛			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901015			
科目名	生活福祉文化特論			
担当者	藤原 智子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト	各クラス（ゼミ）において指定			
参考文献	各クラス（ゼミ）において指定			
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life, QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要だと考えられる。

そこで、専門的かつ個別的なテーマを探索するために、これまで基礎科目や専門科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における研究動向、研究方法についての理解を深め、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化することを目標とする。同時に課題探索を通じ、卒業後の社会貢献や自己実現の方向性などについても考えていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3) までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- (1) 各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習を行う。
 - (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習を行う。
 - (3) 各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業も行う。
- *後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施し、専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

原則全出席とする（全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は不合格とする）。授業参加度(30%)、平常点（形成テスト等を含む）(40%)、レポート(30%)により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

6. Special Information (留意事項)

クラス（ゼミ）への分属については、本科目の履修に先立ち実施するゼミ分属説明会（2年次12月）及び学生による分属希望調査（2年次1月）を踏まえ、受け入れ可能人員などを勘案して、指定する。

講義コード	24901102			
科目名	卒業研究			
担当者	石井 浩子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901107			
科目名	卒業研究			
担当者	小池 桂			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901103			
科目名	卒業研究			
担当者	植田 恵理子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901108			
科目名	卒業研究			
担当者	酒井 久美子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901104			
科目名	卒業研究			
担当者	牛田 好美			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901109			
科目名	卒業研究			
担当者	佐藤 純			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901105			
科目名	卒業研究			
担当者	加藤 佐千子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901110			
科目名	卒業研究			
担当者	竹原 広実			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901106			
科目名	卒業研究			
担当者	桐野 由美子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901111			
科目名	卒業研究			
担当者	鳥居本 幸代			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901112			
科目名	卒業研究			
担当者	中村 久美			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901117			
科目名	卒業研究			
担当者	矢島 雅子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901113			
科目名	卒業研究			
担当者	萩原 暢子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901114			
科目名	卒業研究			
担当者	島山 寛			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901115			
科目名	卒業研究			
担当者	藤原 智子			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	24901116			
科目名	卒業研究			
担当者	三好 明夫			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要だと考えられる。そこで、これまで基礎科目や専門科目、3年次の生活福祉文化特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別的に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- (1) 各専門分野別のクラス (ゼミ) に分かれて学習を行う。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外の活動は必須である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文 (論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等)
 - (2) 卒業論文要旨 (体裁、構成力)
 - (3) 口頭試問結果 (プレゼンテーション、質疑応答)
- 詳細は手引きを参照すること。

5. Special Information (留意事項)

前年度生活福祉文化特論のクラスで継続して履修する。

講義コード	26301101			
科目名	心理学概論(心と行動)			
担当者	上田 恵津子			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学の対象は、我々が日常生活で経験している行動である。

本科目では、人間のさまざまな行動をよりよく理解し、その精神活動の内面をうかがい知るために、人間の心理や行動の基礎にある原理について概説する。特に、知覚、学習、記憶、パーソナリティ、欲求、適応、発達について、そのしくみを概観し、心理学の基本的な考え方を学ぶ。

これらの講義を通して、人間の日常的な行動が示す心理現象を理解すること、および心理学の基礎用語や知識を習得することを旨とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 知覚、特に視覚を通して外界を認識するしくみを理解する。
2. 学習と記憶のメカニズムを理解する。
3. 心理学において人間の個性をどのように捉えるのかを理解する。
4. 欲求と適応について考える。
5. 人間の発達の過程を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 各自、手書きでノートをとること。

3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験(90%)、授業時の課題(10%)を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知覚(知覚の特性、形の成立)
- 第3回 知覚(空間知覚、運動の知覚)
- 第4回 学習(古典的条件づけ)
- 第5回 学習(オペラント条件づけ)
- 第6回 学習(学習曲線、転移、動機づけ)
- 第7回 記憶
- 第8回 パーソナリティ(類型論)
- 第9回 パーソナリティ(特性論)
- 第10回 欲求
- 第11回 発達(発達の一般の特徴)
- 第12回 発達(乳児期、幼児期)
- 第13回 発達(児童期、青年期、成人期、老年期)
- 第14回 対人行動
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

- 第12回 意思決定
- 第13回 環境の認知
- 第14回 社会への応用
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

本年度は授業方法や内容を変更する可能性があるが、その際は第1回の授業で伝える。

講義コード	26301201		
科目名	心理学概論(心と社会)		
担当者	廣瀬 直哉		
単位数	2	配当学年	1
資格	[情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

人は、他者によって、また自分自身の所属する、あるいは取り巻く集団、社会的環境の存在によって、自己の思考・感情・行動に影響を受ける社会的存在である。本科目では、他者の存在や集団、社会的環境によって人々の思考、感情、および行動がどのように影響を受けるか、また、自己の思考、感情、行動が他者にどのような影響を与えるのか、その仕組みについて心理学的に考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 人は、日常生活の中で他者をどのように知覚し印象を形成しているか。
2. 人は、言語を通して、あるいは言語を用いずに、どのように他者とのコミュニケーションをとるのか。
3. 人は、様々な対人関係の中でどのように意志決定をし、振舞うのか。
4. 人は、社会の中でどのように学び、発達するのか。
5. 人は、社会的な環境の中でどのように行動しているのか。

3. Course Method (教育・学習の方法)

PowerPointや映像資料を使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。テキストは使用しない。必要な授業資料等は、webから入手してもらう。授業内にショートレポートを書いてもらう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業前に、授業資料を読んで予習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

ショートレポート(50%)と学期末に行うテスト(50%)を総合して評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 心理学の歴史
- 第3回 対人認知
- 第4回 言語
- 第5回 非言語コミュニケーション
- 第6回 援助行動
- 第7回 集団の影響
- 第8回 支配と服従
- 第9回 発達
- 第10回 学習
- 第11回 感情

講義コード	26301401		
科目名	質問紙調査法		
担当者	向山 泰代		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『あなたもできるデータ処理と解析』 岩淵千明 福村出版 1997		
参考文献	『質問紙調査の手順』 小塩真司ほか ナカニシヤ出版 2007		
	『質問紙調査と心理測定尺度』 宮本聡介ほか サイエンス社 2014		
	『改訂新版 心理学論文の書き方』 松井豊 河出書房新社 2010		
備考	必修 学校心理専攻は選択		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

あらかじめ定めた質問項目に対する回答をもとに、個人の内面を幅広くとらえる質問紙調査法は、用途が広く実施も比較的容易であることから、人間の内面に迫る心理学の研究分野では欠かせない方法である。しかし、質問紙によるデータを有効に活用するためには、質問項目の作成や調査対象者の選出をはじめとする、専門的な知識・技術と入念な準備が必要である。講義では、質問紙調査法の基礎から質問紙の作成、データ処理や結果の表現法、調査の倫理などについて卒業論文での活用を視野に入れて解説する。また講義の後半では、質問紙調査では見落とされがちなデータの質的側面を捉える方法として、インタビューや観察などの質的研究法についても解説する。講義に加え、データ処理や図表の作成などの課題を通して実践的な知識と技術の習得を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 質問紙調査法の特徴、利点と限界について学ぶ。
2. 質問紙の作成に関する知識や技術を習得する。
3. 調査の計画や実施の際に考慮すべき事柄を知る。
4. 集計やデータ処理に関する基礎的知識を習得する。
5. 結果の表現法や調査の倫理について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業では、テキストを補足するために必要に応じてプリントを配布するので、各自で整理して学習に活用すること。講義期間の半ばに中間テストを行う。また、適宜、講義内容に関連した課題や提出物を課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストを開講時までに各自で購入し、事前に通読しておくこと。また講義の中では「心理統計法」「推測統計学」「心理学研究法」での学習内容が参照されることがあるため、これらの科目との対応ができるように、各自で資料等を整えておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末に実施するテスト(70%)、中間テスト(15%)、課題・提出物・授業への取り組み態度(15%)により評価する。授業への出欠に関しては、オーバーカットを適用する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 データの種類：質的データと量的データ
- 第2回 仮説と変数の設定、測定と尺度
- 第3回 データ収集の方法
- 第4回 調査対象者の選出：全数調査と標本調査
- 第5回 研究のデザインと調査の方法
- 第6回 質問項目の作成(1)：質問と回答の種類
- 第7回 質問項目の作成(2)：質問項目の収集と作成
- 第8回 調査票や質問紙の作成
- 第9回 調査における信頼性と妥当性
- 第10回 調査データの整理(1)：基礎整理
- 第11回 調査データの整理(2)：データ処理
- 第12回 データにおける質的側面
- 第13回 質的研究法
- 第14回 結果の表現法
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26301701		
科目名	心理テスト入門 心理テストは人の心をどのように捉えるのか？		
担当者	伊藤 一美		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	授業中にプリントを配布する。		
参考文献	『心理検査法入門』 渡辺洋 (編著) 福村出版 1993 『心理尺度のつくり方』 村上宜寛 北大路出版 2006 『心理テスト法入門 (第4版)』 松原達哉 (編著) 日本文化科学社 2002 『臨床心理アセスメントハンドブック』 村上宜寛・村上千恵子 北大路出版 2004		
備考	※平成24年度入学者は全専攻必修 ※平成25年度以後入学者は臨床心理専攻必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、心理テストの成り立ちと有効に活用するための基礎知識を得ることを目的とする。後に学ぶ「心理テスト実習」「臨床心理アセスメント」といった、心理アセスメントに関する科目群の入門編である。心の「個人差」を捉えようとしてきた心理学の歴史をたどりつつ、知能・発達・パーソナリティ・適性などを測る代表的な心理テストについて、その特徴や理論的背景を学ぶ。そのうえで、テストに必要な信頼性と妥当性、標準化テストとそうでないテストのちがいを理解する。さらに、心理テストを使用する際の倫理的配慮についても学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 心理テストの成り立ちと歴史を学ぶ。
2. 心理テストの利用目的を知る。
3. 代表的な心理テストの理論と特徴を知る。
4. 心理テストが備えておくべき条件を学び、その効用と限界を学ぶ。
5. テストの実施、結果の利用にあたっての倫理を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

スライドと配布プリントによる講義形式。ワークプリントで、心理テストの模擬体験なども行う。その中で、心理テストの組み立てや心理テストが備えるべき条件を理解する。また、さまざまな側面から個人差を捉えることの難しさと興味深さを学ぶ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

※授業中に実施したプリントワークなどの内容について、必要に応じて教員に尋ねる、上記の参考図書で学ぶなど、自主的に学習すること。

※日ごろから一般向けの雑誌やネットなどで紹介されている「心理テスト的なもの」のものにも興味を持つ。そして、どんな内容が多いのか、人々がどのように関心を向けているのか、それにどのような問題点があるのかについて考えておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (20%)、期末定期試験および授業時間中のプリント課題 (80%) の提出に基づき、総合的に評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・・・人の「人となり」はどうやったら測れるのか？
- 第2回 心理テストのなりたちと利用の目的
- 第3回 心理テストの歴史
- 第4回 知能の理論
- 第5回 知能テスト (1) ビネーの知能検査
- 第6回 知能テスト (2) ウェクスラーの知能検査
- 第7回 子どもの発達検査
- 第8回 パーソナリティの理論
- 第9回 パーソナリティテスト (1) 質問紙法・作業検査法
- 第10回 パーソナリティテスト (2) 投影法
- 第11回 心理テストの信頼性と妥当性・・・測りたいものがちゃんと測れているのか？
- 第12回 心理テストの標準化・・・まっとうな心理検査にするために
- 第13回 テスト・バッテリーと現場での心理テスト
- 第14回 心理テストを利用する際の倫理的配慮
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26301801		
科目名	心理テスト実習		
担当者	向山 泰代・田中 誉樹・鶴田 薫・空間 美智子・福山 幸子		
単位数	1	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	臨床心理専攻必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目では、臨床心理の実践現場で用いられている心理テストを被検者として実際に受検することを通して、心理テストについて体験的に学ぶ。体験後はレポートを作成し、被検者として感じた事柄を言葉にし文章としてまとめていくことで、心理テストについて理解を深めていく。一部の実習では、受講生ペアが検査者および被検者となり、ロールプレイ形式で実習を行うことがある。こうした体験学習を通して、検査者の役割や姿勢についても理解するとともに、心理テストに関する倫理感覚の基礎を養っていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

質問紙法、作業検査法、投影法の中から、性格、認知の特性、対人関係のあり方をはかる心理テストの実習を行う。各テストの目的を理解するとともに、実施方法、結果の整理の仕方、分析・解釈の方法について学ぶ。また、検査者の役割や姿勢、心理テストを行う上で注意すべき点についても、体験を通して学んでほしい。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 受講生は4つのグループに分かれて、合計4つの実習を行う。実習ごとに担当教員が交代し、それぞれの指導を受ける。1つの実習は、3週間連続で行う。
2. 遅刻、欠席は実習の妨げになるため、厳禁である。欠席すると、その実習レポートの評価を受ける資格がなくなるので、注意すること。
3. 各実習終了後は、レポートが課される。担当教員の指示に従って、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 配布された資料や返却されたレポートは、次年度以降も参考にできるようにきちんとファイリングして、保存しておくこと。
5. テキストは使用しない。教材・資料は、実習ごとに適宜、配布や貸し出しを行う。参考文献についても、実習ごとに適宜、指示する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 各心理テストについて、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 1年次前期「心理テスト入門」の受講者は、その授業内容を復習しつつ授業に臨むこと。
3. 返却されたレポートを見直し、文章やレポートの書き方を習得しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

各実習のレポート得点を総合して評価を行う (各実習の評価25点満点×4)。ただし、オリエンテーション、合同講義、および、各実習における欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション①
- 第2回 オリエンテーション②
- 第3回 質問紙法による心理テスト①
- 第4回 質問紙法による心理テスト②
- 第5回 質問紙法による心理テスト③
- 第6回 作業検査法による心理テスト①
- 第7回 作業検査法による心理テスト②
- 第8回 作業検査法による心理テスト③
- 第9回 投影法による心理テストA①
- 第10回 投影法による心理テストA②
- 第11回 投影法による心理テストA③
- 第12回 投影法による心理テストB①
- 第13回 投影法による心理テストB②
- 第14回 投影法による心理テストB③
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

・12回目のオリエンテーションと15回目のまとめの授業は、全員で行う。グループ分けや各実習の教室等については、12回目のオリエンテーションの際に伝達する。

・複数のグループに分かれて実習を行うことから、実習の順序は上記と入れ替わることがある。

講義コード	26302801		
科目名	初級実験実習Ⅰ		
担当者	尾崎 仁美、上田 恵津子、中村 千珠、 廣瀬 直哉		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『教材心理学』 木下富雄他(編) ナカニシヤ出版 1990		
参考文献			
備考	※現代心理専攻必修、学校心理専攻・臨床心理専攻選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法(仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく)に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
- 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
- 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのかを考える。
- 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
- 刺激と反応の関係を理解する。
- 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
- 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用の意味を知る。
- 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
- 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数(試行数)の記載方法を習得する。
- 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
- 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
- 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 4課題の実験を実施する。
- 課題ごとの実験実習は3週にわたって行うため、担当者と実験場所が変わるので注意する。
- レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
- 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

各実験のレポート(25%)×4回分を総合して評価を行う。なお、オリエンテーション、まとめ、合同講義、および、各実験への欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的認知(実験)
- 第3回 社会的認知(分析)
- 第4回 社会的認知(執筆)
- 第5回 錯視(実験)
- 第6回 錯視(分析)
- 第7回 錯視(執筆)
- 第8回 語の記銘(実験)
- 第9回 語の記銘(分析)
- 第10回 語の記銘(執筆)
- 第11回 鏡映描写(実験)
- 第12回 鏡映描写(分析)
- 第13回 鏡映描写(執筆)
- 第14回 合同講義
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業は実験実習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するの

で、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

講義コード	26302901		
科目名	初級実験実習Ⅱ		
担当者	廣瀬 直哉、上田 恵津子、尾崎 仁美、 中村 千珠		
単位数	1	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『教材心理学』 木下富雄他(編) ナカニシヤ出版 1990		
参考文献			
備考	※現代心理専攻必修、学校心理専攻・臨床心理専攻選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法(仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく)に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
- 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
- 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのかを考える。
- 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
- 刺激と反応の関係を理解する。
- 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
- 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用の意味を知る。
- 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
- 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数(試行数)の記載方法を習得する。
- 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
- 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
- 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 4課題の実験を実施する。
- 課題ごとの実験実習は3週にわたって行うため、担当者と実験場所が変わるので注意する。
- レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
- 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

各実験のレポート(25%)×4回分を総合して評価を行う。なお、オリエンテーション、まとめ、合同講義、および、各実験への欠席・遅刻は、減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 一対比較法(実験)
- 第3回 一対比較法(分析)
- 第4回 一対比較法(執筆)
- 第5回 認知的葛藤(実験)
- 第6回 認知的葛藤(分析)
- 第7回 認知的葛藤(執筆)
- 第8回 重さの弁別閾(実験)
- 第9回 重さの弁別閾(分析)
- 第10回 重さの弁別閾(執筆)
- 第11回 大きさの恒常性(実験)
- 第12回 大きさの恒常性(分析)
- 第13回 大きさの恒常性(執筆)

- 第14回 合同講義
第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業は実験実習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

講義コード	26303201			
科目名	中級実験実習			
担当者	高井 直美・薦田 未央・廣瀬 直哉・松島 るみ			
単位数	1	配当学年	3	
資格				
前提科目	「初級実験実習Ⅰ」または「初級実験実習Ⅱ」※平成25年度以後入学者に適用			
テキスト				
参考文献				
備考	臨床心理専攻選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

初級実験実習で学んだ心理学実験に関する基礎知識を復習しながら、さらに現代の心理学で活用されることの多い研究方法を具体的に学ぶ。受講生は実験計画や刺激素材の作成、実験・観察の設定などを主体的に行い、実験法・調査法・観察法によりデータを収集し、分析を行う。そして、データに基づいた心理学研究方法、つまり実証科学的方法の基盤となる力を身につけることを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 実験の目的および仮説の立て方から実験の実施・結果の整理、レポート作成までのプロセスを、4種類の実験課題で体験する。
2. 仮説を検証するにはどのような実験計画がもっとも有効か、考える力を身につける。
3. 刺激材料の作成や実験機器の準備については、教員の指導のもと、受講生も主体的に関与する。
4. 実験者の立場にあるものが実験を行う際に留意すべき点(手続き、教示のしかた、倫理的配慮など)について具体的に学ぶ。
5. データの整理方法や統計的検定について、複数の実験でいろいろな方法を学ぶ。
6. 必要に応じて、パソコンを使って統計ソフトによるデータ解析も学ぶ。
7. 操作的定義に基づく概念の定義やデータの分類に習熟する。
8. レポートの書き方については、初級実験実習で学習した要点を復習し、さらなる熟達を促す。
9. 参考文献を熟読することは、問題設定や考察において重要である。行う実験に関連する文献を探ることを通して、実験の位置づけを明確にする。
10. 実験結果をまとめ、考察することを通して、新たな実験計画を立てる力をつけていく。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 受講生をいくつかのグループに分け、少人数で効率よく実験実習を行う。
2. 半期で4つの課題に取り組む。
3. 課題ごとの実験実習は、連続して3週にわたり、1つの課題が終わると、担当者や実験場所が変わる。受講生は、自分のグループの集合場所を確認し遅刻することがないように十分注意すること。
4. 課題ごとにレポートが課せられる。受講生は実験終了後、レポートを所定の期日までに教務学事課に提出すること。
5. レポートは、担当教員が添削を行って返却する。受講生は添削された問題点を次のレポート作成に生かすよう復習しておくこと。
6. 授業全体に関わるテキストは用いない。参考図書は、各課題を担当する教員が随時紹介する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 実験課題のテーマとなる心理学的事象について、背景理論を文献などで調べ理解しておくこと。
2. それぞれの課題において学ぶ研究方法について、授業で配られたレジュメや解説、紹介された文献などで理解を深めておくこと。
3. レポート・論文の基本的な書き方について初級実験実習を振り返り、復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の受講態度、レポートによって総合的に評価する。評価の内訳は、各担当者がレポートを採点し評価する(25%×4実験)。また、合同講義、各課題への欠席・遅刻は減点の対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 合同講義(オリエンテーション・実験研究の方法について)
- 第2回 記憶に関する実験(1)
- 第3回 記憶に関する実験(2)
- 第4回 記憶に関する実験(3)
- 第5回 知覚と認知に関する実験(1)
- 第6回 知覚と認知に関する実験(2)
- 第7回 知覚と認知に関する実験(3)
- 第8回 イメージや態度の測定を行う質問紙による調査的研究(1)
- 第9回 イメージや態度の測定を行う質問紙による調査的研究(2)
- 第10回 イメージや態度の測定を行う質問紙による調査的研究(3)
- 第11回 事象見本法あるいは時間見本法を用いた観察的研究(1)
- 第12回 事象見本法あるいは時間見本法を用いた観察的研究(2)
- 第13回 事象見本法あるいは時間見本法を用いた観察的研究(3)
- 第14回 研究方法についての補足説明
- 第15回 合同講義(実験研究についてのまとめ)

*なお、各実験課題については、グループにより順番が入れ替わる。

6. Special Information (留意事項)

実験実習は、授業に参加し経験的に研究方法を学ぶため、やむを得ない事情がない限り出席すること。遅刻した場合は、実験に参加できない場合もある。

講義コード	26303301			
科目名	心理統計法ⅠA 心理学における統計的な考え方を身につける			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『よくわかる心理統計』山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004			
参考文献				
備考	必修(学校心理専攻は選択必修) クラス指定			
科目読替	263016「心理統計法」(Ⅰ・Ⅱ合わせて)※H23年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26303302			
科目名	心理統計法ⅠB 心理学における統計的な考え方を身につける			
担当者	古賀 一男			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト	『よくわかる心理統計』山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004			
参考文献				
備考	必修(学校心理専攻は選択必修) クラス指定			
科目読替	263016「心理統計法」(Ⅰ・Ⅱ合わせて)※H23年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

前期に配当されるこの科目では、まず統計的な考え方になじむため、日常的な具体例などで、心理統計の基礎的な考え方の理解を促していく。そして、記述統計に関する重要な基礎知識を具体例を通して理解し、統計的手法を実践的に身に付けていくことを課題とする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせ、授業を

進めていく。復習のための課題も適宜出していく。

また授業時間内に理解の程度を確認するための、小テストを行うこともある。理解度の悪い場合は、再テストを行うなどして、完全習得学習を目指す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

新聞、雑誌、TV、インターネットなどのメディアで公表された各種統計データに日頃から関心をもっておいてもらいたい。また図表を作成したり、熟練された表計算をするためには、情報関係の授業や休み時間を利用して、Excelの使用になじんでおくことも重要となる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト・課題の提出状況(20%)、学期末テスト(80%)による総合的な評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 心理学と数字 (心理統計の基本的な考え方)
- 第2回 心理統計の実際 (一般的な統計資料の収集方法)
- 第3回 変数と尺度水準
- 第4回 データの図表化① (既存統計資料の読み方)
- 第5回 データの図表化② (ヒストグラムと棒グラフの作成)
- 第6回 データの代表値 (平均、中央値、最頻値など)
- 第7回 データの散らばり (分散と標準偏差)
- 第8回 既存統計資料における標準偏差の読み方
- 第9回 データの標準化 (z得点と偏差値)
- 第10回 散布図と共分散
- 第11回 既存統計資料の散布図の読み方
- 第12回 相関係数が示す相関関係
- 第13回 クロス集計とφ係数 (連関)
- 第14回 理解度を測るテスト
- 第15回 因果関係と相関関係の違い

6. Special Information (留意事項)

受講生の理解度を見ながら進めていくので、授業予定で示した順番や内容が、多少変わることもある。

講義コード	26303401		
科目名	心理統計法Ⅱ A 心理学における統計的な考え方を身につける		
担当者	高井 直美		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004		
参考文献			
備考	必修 (学校心理専攻は選択必修) クラス指定 「心理統計法Ⅰ」履修者であること		
科目読替	263016「心理統計法」(Ⅰ・Ⅱ合わせて) ※ H23年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26303402		
科目名	心理統計法Ⅱ B 心理学における統計的な考え方を身につける		
担当者	古賀 一男		
単位数	2	配当学年	1
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史、村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004		
参考文献			
備考	必修 (学校心理専攻は選択必修) クラス指定 「心理統計法Ⅰ」履修者であること		
科目読替	263016「心理統計法」(Ⅰ・Ⅱ合わせて) ※ H23年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

後期に配当されているこの科目では、記述統計学と推測統計学を区別し、統計的仮説検定の基本的な考え方について学び、基本的な検定の初歩的な方法を身に付けることを課題とする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

心理統計法Ⅰと同様に、講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせ、授業を進めていく。復習のための課題も適宜出していく。また授業時間内に理解の程度を確認するための、小テストを行うこともある。理解度の悪い場合は、再テストを行うなどして、完全習得学習を目指す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

心理統計法Ⅰで学んだことをテキストおよびプリント教材で復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テスト・課題の提出状況(20%)、学期末テスト(80%)による総合的な評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 記述統計と推測統計
- 第2回 母集団と標本
- 第3回 正規分布とは
- 第4回 標準正規分布表
- 第5回 標本分布
- 第6回 「統計的仮説検定」の考え方
- 第7回 「統計的仮説検定」の実例
- 第8回 復習のための小テスト
- 第9回 有意水準とは
- 第10回 両側検定と片側検定
- 第11回 「基礎的な統計的仮説検定」の実例
- 第12回 「基礎的な統計的仮説検定」の練習問題
- 第13回 「基礎的な統計的仮説検定」の応用問題
- 第14回 理解度を測るまとめのテスト
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業の内容や順番は変わることもある。

講義コード	26303501		
科目名	心理学研究法 サイエンスとしての心理学研究を目指して		
担当者	古賀 一男		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『新編・感覚知覚心理学ハンドブック』 大山正・他 誠信書房 1994 『新編 感覚・知覚心理学ハンドブック・Part2』 大山正・他 誠信書房 2007 『講座 感覚・知覚の科学 第1巻 視覚Ⅰ』 内川恵二・編 朝倉書店 2007 『シリーズ心理学研究法・第1巻 知覚』 村上郁也・編 誠信書房 2011 『知覚の正体』 古賀一男 河出書房新社 2011		
備考	※平成24年度入学者は全専攻必修 ※平成25年度以後入学者は現代心理専攻・臨床心理専攻必修、学校心理専攻選択必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学研究法では基本的な研究の方法について知識を学習し、各研究法について一定の理解をすることで心理学が自然科学(ナチュラリス)の一部であることを学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

大きくわけて質的研究法と量的研究法について各種の方法論を概説するが、両者の研究法にとって最も基本的な方法論である観察法を深く理解するために隣接諸科学で現在行われている観察法について紹介することから始まっ

て、心理学独自の研究方法である実験法の基礎を教授する。具体的には知覚と運動の関係を例として研究をおこなうには広汎な技術が必須であることも学んでゆく。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と各回に配布する資料によって学習を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

参考文献にあげた書籍をあらかじめ必読しておくことが必要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験を課す。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義計画の紹介と目的の説明
- 第2回 心理学における研究法の原理・原則の概説
- 第3回 心理学の隣接諸科学における研究法の概説・神経科学における研究法
- 第4回 心理学の隣接諸科学における研究法の概説・社会学における研究法
- 第5回 心理学における研究法・質的分析
- 第6回 心理学における研究法・定量的分析・質問紙法の概略
- 第7回 心理学における研究法・定量的分析・質問紙法の実際
- 第8回 心理学における研究法・定量的分析・投影法
- 第9回 心理学における研究法・定量的分析・知能検査
- 第10回 心理学における研究法・定量的分析・観察と研究
- 第11回 心理学における研究法・定量的分析・実験の方法と原理
- 第12回 心理学における研究法・定量的分析・実験による分析
- 第13回 心理学における研究法・定量的分析・実験による研究の実例
- 第14回 心理学における研究法・定量的分析・実験によるデータの解釈
- 第15回 試験と解説

6. Special Information (留意事項)

- 第9回 「日本語活用術」テーマB
- 第10回 「日本語活用術」テーマB
- 第11回 「日本語活用術」テーマB
- 第12回 「データ活用術」テーマB
- 第13回 「データ活用術」テーマB
- 第14回 「データ活用術」テーマB
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによって「日本語活用術」(テーマA・B)、「データ活用術」(テーマA・B)の実施順は異なり、回によって教室が異なるので、気を付けること。

講義コード	26311101			
科目名	心理学基礎演習Ⅱ 心理学部専門教育への導入			
担当者	尾崎 仁美, 松島 るみ, 向山 泰代, 三好 智子, 薦田 未央, 大西 慎也, 古庵 晶子, 佐藤 睦子, 河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26311001			
科目名	心理学基礎演習Ⅰ 大学での学びの基盤づくり			
担当者	上田 恵津子, 伊藤 一美, 高井 直美, 空間 美智子, 小川 博士, 工藤 哲夫, 神月 紀輔, 住本 純, 廣瀬 直哉			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

共に学ぶ友人や心理学部教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。そして、「読むこと」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①アカデミックリテラシーの習得(大学教育に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎を学ぶ)
- ②人間関係の構築(学生同士および担任を核とする心理学部教員との関わり)

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ①教員によるオリエンテーション ②ドリル学習 ③グループでの作業
- ④討論 ⑤発表 ⑥小レポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

小学校～高校での国語・数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習を繰り返す。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度70%、発表・レポート30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 全体オリエンテーション(全体は8グループに分けられる)。
- 第2回 「日本語活用術」テーマA
- 第3回 「日本語活用術」テーマA
- 第4回 「日本語活用術」テーマA
- 第5回 「データ活用術」テーマA
- 第6回 「データ活用術」テーマA
- 第7回 「データ活用術」テーマA
- 第8回 中間オリエンテーション

1. Course Description (科目の教育目標)

友人や心理学部教員との関わりを深め、心理学部の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1.アカデミックリテラシー(日本語活用術やデータ活用術を極める)
- 2.人間関係の構築(学生同士および担任を核とする心理学部教員との関わりを深める)
- 3.専門教育への導入(心理学部の専門教育を受けるための基盤形成)

3. Course Method (教育・学習の方法)

教員によるオリエンテーション、ドリル学習、グループでの作業、討論、発表、小レポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

心理学基礎演習Ⅰでの学習内容を繰り返す。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度70%、発表・レポート30%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション(全体は8クラスに分けられる)
- 第2回 「日本語活用術」テーマC
- 第3回 「日本語活用術」テーマC
- 第4回 「日本語活用術」テーマC
- 第5回 「データ活用術」テーマC
- 第6回 「データ活用術」テーマC
- 第7回 「データ活用術」テーマC
- 第8回 中間オリエンテーション
- 第9回 「日本語活用術」テーマD
- 第10回 「日本語活用術」テーマD
- 第11回 「日本語活用術」テーマD
- 第12回 「データ活用術」テーマD
- 第13回 「データ活用術」テーマD
- 第14回 「データ活用術」テーマD
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

クラスによって「日本語活用術」(テーマ3,4)、「データ活用術」(テーマ3,4)の実施順は異なる。

講義コード	26401701			
科目名	臨床心理学概論			
担当者	向山 泰代			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト	開講前に掲示にて指示する。			
参考文献	『よくわかる臨床心理学』 下山晴彦（編） ミネルヴァ書房 2003 『臨床心理学入門』 岩壁茂ほか 有斐閣 2013			
備考	臨床心理専攻必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

臨床心理学は心理学の一つの研究分野であると共に、こころに問題や悩みを抱えた人々を理解し、支援するという実践的な活動を行う際の基礎となる学問でもある。本科目は、臨床心理学を初めて学ぶ受講生を対象に、臨床心理学の基礎的な理論・研究法・臨床心理学史などについて学び、臨床心理学による支援の実践について、知識や関心を広げることを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 臨床心理学の基礎用語を理解すること。
2. 臨床心理学の様々な理論と背景となる人間観を理解すること。
3. 臨床心理学における諸種の研究が、どのような科学性を保つ工夫の上になされているのかを理解すること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義に沿ったプリントを準備するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して、各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストは掲示にて指定するので、開講までに各自で購入し、通読しておくこと。臨床心理学に関連する講義や実習で学んだ事項について復習し、この授業においても適宜参照できるようにしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中に実施する到達度確認テスト(70%)、課題・提出物・授業への取り組み態度(30%)で評価する。授業への出欠に関しては、オーバーカットを適用する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理学における基礎用語
- 第3回 臨床心理学の歴史と成り立ち
- 第4回 理論と臨床の実際：精神力動アプローチ1（フロイトの生涯と業績）
- 第5回 理論と臨床の実際：精神力動アプローチ2（フロイト以降）
- 第6回 理論と臨床の実際：行動主義的アプローチ
- 第7回 理論と臨床の実際：認知主義的アプローチ
- 第8回 理論と臨床の実際：人間性心理学アプローチ
- 第9回 理論と臨床の実際：生理学的精神医学的アプローチ
- 第10回 理論と臨床の実際：折衷的アプローチ
- 第11回 臨床心理学的アセスメント1：観察・面接
- 第12回 臨床心理学的アセスメント2：心理検査
- 第13回 臨床心理学領域での仕事・訓練・成長・倫理
- 第14回 臨床心理学の課題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業中に講義内容に関連した簡単な教材に反応を求めたり、作業を課したりすることがある。

講義コード	26501501			
科目名	教育評価			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『学習評価基本ハンドブック』 辰野千壽 図書文化			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教育評価は学校教育の中で極めて基本的な活動である。評価と測定についての基礎と実践について具体的に学習し、学校における評価を考えるきっかけとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教育評価の理論の理解
2. 教育評価の類型の理解
3. 評価の妥当性の理解
4. 学校現場の教育評価方法の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 模擬評価
5. 小レポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 小学校時代の通知表やテストを見直す。
2. 小学校時代の通知表やテストで、持って来られるものは、一回目の授業に持ってくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の出席と授業参加と小レポート提出(50%)。発表(20%)。課題提出またはテスト(30%)。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育評価の基本概念
- 第3回 教育評価の立場の変遷
- 第4回 教育評価の位相と展開
- 第5回 教育目標と教育評価の関係
- 第6回 指導に活かす評価のありかた
- 第7回 教育評価の方法原理
- 第8回 学力評価のさまざまな方法
- 第9回 各教科における学力評価
- 第10回 指導要録
- 第11回 通知表
- 第12回 入試制度
- 第13回 教育評価の経営
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26501601			
科目名	教育方法学 主体的な学びを創造する			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領』 文部科学省 東京書籍 2008			
参考文献	授業中にその都度提示します			
備考	情報機器及び教材の活用を含む			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

幼稚園、小学校の各発達段階において、望ましい教育方法を探求し、その実践を行えるようにする。具体的には、主体的な学びの創造、情報活用能力の育成、アクティブラーニング、社会的構成主義学習理論に基づくコミュ

ネーションを生かした教育方法等である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

下記の3項目について、理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中でできるようにする。

- ・ 思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動
- ・ 情報活用の実践力を育む授業実践方法
- ・ 社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり

3. Course Method (教育・学習の方法)

グループによる自律型の学習を主とする。積極的にグループディスカッションに参加し、学習を深めることを期待する。2回程度、インターネットを介したe-Learningによる授業を取り入れる予定である。評価は基本的に自己評価により行う。

・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業内で話し合う機会が多いので、教員が提示する各トピックに対して準備を行う必要がある。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

基本的には下記の項目について、自己評価を取り入れる。

授業に参加する態度 (40%) 各個人の状況に応じて、出席したかどうかのみだけでなく、授業中の態度も含めて、最終授業時に40点満点で自己採点を行う。

レポート (40%) 3回提出の予定である。その都度、教員からレポート内容についての評価項目を示すので、それに従って自己評価を行う。

グループへの参加態度 (20%) 最終授業時に行うグループ内相互評価をもとに、教員の示す評価基準で自己採点を行う。

上記の自己採点を基本とし、教員が総合的に判断し、評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 教育とは
- 第3回 学習理論 (e-Learningの予定)
- 第4回 主体的な学び、アクティブラーニングとは
- 第5回 主体的な学びを促進する授業1 (グループディスカッション)
- 第6回 主体的な学びを促進する授業2 (グループディスカッション)
- 第7回 主体的な学びを促進する教師の役割 (パネル発表)
- 第8回 情報教育の目標 (e-Learningの予定)
- 第9回 情報活用能力の育成 (グループディスカッション)
- 第10回 情報活用の実践力を育てる授業1 (グループディスカッション)
- 第11回 情報活用の実践力を育てる授業2 (パネル発表)
- 第12回 コミュニケーションを生かした授業 (e-Learningの予定)
- 第13回 コミュニケーションを生かした授業の実践1 (グループディスカッション)
- 第14回 コミュニケーションを生かした授業の実践2 (パネル発表)
- 第15回 理想の教育方法とは (グループディスカッション)

6. Special Information (留意事項)

自ら進んで学ぶ態度が必要になります。

講義コード	26501701			
科目名	現代社会の心理学			
担当者	上田 恵津子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

人間は社会の一員として生活している。いいかえれば、他者との関わりの中で、互いに影響を与え合いながら日常生活を送っている。そのような人と人の関わりや相互作用のあり方を研究するのが、社会心理学である。

本科目では、社会的相互作用における様々な心理過程のメカニズムを論じる。特に、他者との関わりの中で生じる認知や行動のしくみ、個人と集団との関わり、集団の中で人間行動、集団間関係などについて詳述する。主要なトピックスに関する具体的な研究例とそこから見出された知見を解説しながら、社会心理学の代表的な理論や概念を理解することを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 社会的相互作用における個人の心理過程を理解する。
2. 対人行動のメカニズムを理解する。
3. 集団の中で人間行動について考える。
4. 集団間関係について考える。

5. マスコミュニケーションの影響と集合現象を学ぶ。

6. 文化と人間行動との相互関係を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 各自、手書きでノートをとること。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・ Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験 (90%)、授業態度 (10%) を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会的態度 (1) 社会的態度の理論
- 第2回 社会的態度 (2) 説得と態度変化
- 第3回 帰属過程
- 第4回 援助行動と攻撃行動
- 第5回 化粧行動
- 第6回 被服行動
- 第7回 集団の影響
- 第8回 集団の構造
- 第9回 協同と競争
- 第10回 リーダーシップ
- 第11回 社会的勢力、集団間関係
- 第12回 マスコミュニケーション
- 第13回 集合現象
- 第14回 文化と人間
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

「対人関係の心理学」を履修していることが望ましい。

講義コード	26501801			
科目名	情報科学概論B コンピュータの仕組みと働きを知ろう!			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情][ウ][プ]			
前提科目				
テキスト	配布プリントを中心に解説するので教科書は指定しない。			
参考文献	『情報とコンピューティング』 河村一樹 オーム社 2011 『コンピュータを使わない情報教育アンブレグドコンピュータサイエンス』 兼宗進 イーテキスト研究所 2007 『アルゴリズムの絵本』 (株)アंक 翔泳社 2003 『パソコンの仕組みの絵本』 (株)アंक 翔泳社 2010 『OSの仕組みの絵本』 (株)アंक 翔泳社 2011 上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。また、これらの参考文献以外も講義時に紹介する。			
備考	人間文化学部3年次生はAクラス、心理学部3年次生はBクラスを履修すること 4年次生はどちらを履修してもよい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっていく。便利な電子機器が当たり前のように身の回りに溢れるようになっているがゆえに、それらがどのように動いているかなど気がすることが少なくなっている。

本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. コンピュータの構造について学ぶ
2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

プリントを配布して講義を行い、講義中に課題プリントを配布する予定である。

また、フィードバックシートを講義ごとに配布し、授業への質問・感想などの記入を求める。

なお、BクラスはMoodleを使用した教材配信・フィードバックを行う予定である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。

なお、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架する予定である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

30点満点の小テストを3回実施し、授業への参加度(ディスカッションを含む)・毎回のMoodleへの授業コメント・自己評価10点を加算し100点満点で評価を行う。

3回の小テストで合計点が60点に満たない場合は、補講期間に追試を実施する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の概要紹介
- 第2回 情報理論とデジタル・アナログ
- 第3回 ハードウェアとソフトウェア
- 第4回 コンピュータの仕組みとOS
- 第5回 コンピュータの歴史
- 第6回 小テスト1回目
- 第7回 情報のデジタル化 数・文字
- 第8回 情報のデジタル化 音声・画像
- 第9回 問題解決とアルゴリズム
- 第10回 小テスト2回目
- 第11回 情報の信頼性と信憑性
- 第12回 知的財産権の保護
- 第13回 情報を守るセキュリティの仕組み
- 第14回 小テスト3回目
- 第15回 全体のまとめ、自己評価

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26502101		
科目名	学習の心理学		
担当者	上田 恵津子		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習心理学である。

まず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、洞察説、社会的学習理論などの学習理論について説明し、学習成立の基礎過程を理解させる。次に、記憶や思考などの人間の認知過程について述べる。さらに、何をいかに教えるかという教授・学習の問題や、どのようにすれば主体的に学習に取り組ませることができるかという学習意欲の問題に関する教授・学習過程について講述する。

これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、教育と学習との関わりについて考察することを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学習のメカニズムを理解する。
2. 記憶や思考のしくみを知り、人間の認知過程を理解する。
3. 教授・学習法を理解し、効果的な学習指導のあり方を考える。
4. 動機づけのメカニズムを理解し、学習意欲を高める教育を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。

2. 各自、手書きでノートをとること。

3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験(90%)、授業時の課題(10%)を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 学習とは
- 第2回 学習理論(古典的条件づけ)
- 第3回 学習理論(オペラント条件づけ)
- 第4回 学習理論(強化スケジュール、強化と罰)
- 第5回 学習理論(洞察説、社会的学習理論)
- 第6回 記憶
- 第7回 思考
- 第8回 技能学習
- 第9回 適応のための学習
- 第10回 教授・学習法
- 第11回 動機づけ、達成動機
- 第12回 自己効力感、原因帰属
- 第13回 動機づけを高めるために、学習支援
- 第14回 評価
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26502201		
科目名	学校教育の心理学 教育を心理学的側面から理解する		
担当者	松島 るみ		
単位数	2	配当学年	1
資格	[教][情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『心理学事典』 中島義明ら(編) 有斐閣 『教育心理学事典』 辰野千寿ら(編) 教育出版 『新教育心理学事典』 依田新(監) 金子書房 『教育心理学キーワード』 森敏昭・秋田喜代美(編) 有斐閣		
備考	定員180人 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む 学校心理専攻必修(平成25年度以後入学者に適用)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

教育過程における人間の心の働きや、学校教育現場における課題について、心理学的な知識、方法、視点から理解することを目指す。特に幼児、児童、生徒の心身の発達、学習の過程、知的・情意的側面の測定・評価を中心に学び、教育心理学の基本用語の習得を目指す。また、障害をもつ幼児、児童および生徒の心身の発達、学習過程について概説し、各障害についての理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 子どもの身体的、心理的諸側面の発達とその特徴を理解し、年齢・発達に応じた教育について考察する。
2. 効果的な学習を援助する教授法や認知の働きを学ぶ。
3. 知能や学力、性格における個人差の評価を学ぶ。
4. 障害をもつ幼児、児童、生徒の心身の発達の特徴と学習過程、その関連事項について理解する。
5. 学級集団における児童・生徒について学ぶ。
6. 現代の学校教育の現状や問題点を心理学の立場から考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・講義形式で進める。

・毎回授業後に、授業内容のコメントを求める。

・講義内容をただ覚えるだけではなく、自分の身のまわりから事例を探したり、これまで自身が学校教育で経験してきたことと関連づけるなど、受け身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。その際、本やインターネットの丸写し等、機械的な予習にならないように注意すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

持ち込みなしの期末テスト(75%)、毎回の予習・振り返り(25%)により総合的に判断する。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、原則として期末テストは受けられない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教育心理学とは
- 第2回 教育心理学の研究法
- 第3回 教育と発達
- 第4回 子どもの個人差(知能・性格)
- 第5回 動機づけ理論1(古典的な動機づけ理論)
- 第6回 動機づけ理論2(近年の動機づけ理論)
- 第7回 原因帰属理論
- 第8回 学習を阻害する要因
- 第9回 知識の獲得方法
- 第10回 学級集団
- 第11回 学級環境が子どもに及ぼす影響
- 第12回 学校カウンセリング、障害をもつ子どもの理解
- 第13回 生徒指導、進路指導、進路選択
- 第14回 教育評価、教育評価の目的と方法
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26502501		
科目名	教育相談論 教育現場における子どもの問題理解と相談機能の意義を考える		
担当者	薦田 未央		
単位数	2	配当学年	34
資格	[教][情]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『よくわかる教育相談』春日井敏之・伊藤美奈子(編) ミネルヴァ書房 2011 『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談(小学校編)』長谷川啓三・佐藤宏平・花田里欧子(編) 遠見書房 2014 『世界の学校予防教育』山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生(編著) 金子書房 2013		
備考	カウンセリングに関する基礎的な知識を含む		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

学校現場における教育相談の意義や役割を理解し、基礎知識を習得する。また、幼児・児童・生徒の発達課題を理解し、心身の発達状態を把握する視点と方法を学ぶ。さらに、幼児・児童・生徒およびその保護者や教師が抱える悩みや問題についても理解を深め、カウンセリングの基礎理論や教育相談における支援方法を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校教育相談についての基礎知識を習得する。
2. 個々の幼児・児童・生徒を理解する発達の視点と方法を学ぶ。
3. 学校現場で生じる「問題行動」や「特別支援ニーズ」について理解を深める。
4. 学校現場で生じる問題への対処・支援および予防方法を学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テキストは用いず、適宜資料を配布する。
2. 講義が中心の授業であるが、授業時間中に小課題を課すことがある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

学校における諸問題や現代の子どもたちの発達における諸問題について、日常生活の中でも意識的に関心に向けて新聞やニュース、文献などを通して情報を収集し、考える機会を持つておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中に行う小課題(20%)、学期末に実施するテスト(80%)により総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教育相談とは
- 第2回 幼児・児童・生徒の発達課題(認知・精神の発達)
- 第3回 幼児・児童・生徒の発達課題(社会性・道徳性の発達)
- 第4回 学級経営と教育相談(予防的・開発的教育)
- 第5回 予防的・開発的教育の実践
- 第6回 幼児・児童・生徒の理解
- 第7回 カウンセリング理論とカウンセリングマインド
- 第8回 問題行動の理解と支援①不登校(児童期)
- 第9回 問題行動の理解と支援②不登校(思春期・青年期)
- 第10回 問題行動の理解と支援③いじめ
- 第11回 問題行動の理解と支援④発達障害

第12回 問題行動の理解⑤二次障害・精神医学的問題

第13回 保護者・教師の心理と支援

第14回 教育相談における校内連携

第15回 専門家・専門機関との連携、まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義の内容は、上記の順序が入れ替わることもある。

講義コード	26502601		
科目名	学校教育概論 学校教育の基本を知ろう		
担当者	神月 紀輔		
単位数	2	配当学年	1
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省 東京書籍 2008 『小学校学習指導要領解説 総則編, 総合的な学習の時間編』文部科学省		
参考文献			
備考	学校心理専攻必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

学校教育の現状を理解し、これから学ぶ教職課程の授業内容につなげていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

学校教育とは何か理解する。学校教育の現状を知り、問題点を把握する。教育・学習と心理学の接点を理解し、積極的に心理学を活用する姿勢を作る。学校における教職員・児童・生徒・保護者・地域の方々の関係を理解し、広い視点で教育を見れるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

グループによる自学自習を基本とし、自律的に学習を進める。学習の進捗を共有するために、コメントの提出を毎回求める。評価を自己評価で行うので、他者の意見やコメントに留意し、自分の学習を把握しておく必要がある。必要に応じて、グループ内やグループ間での相互評価も行う。期間中、1・2回インターネットを介したe-Learningを行うことがある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

大学に入って初めての授業であるので、自学自習に慣れ、自分から主体的に学習できるように準備しておきたい。具体的には、わからない単語や言葉は、次の時間までに自分で調べるか、友だちや教員に聴くなどして解決しておくなどである。出席することだけや、レポートを出すだけでは、現在の自分の学習が広がらない。他者の意見を聴くことや文献を調べる習慣をつけていきたい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業に参加する態度(40%)単に出席したかどうかだけでなく、グループ活動への参画度や自分で学習を深めるなど、授業をどう生かそうとしているかを、最終授業時に教員の示す評価規準によって数値で自己評価する。

小テスト(20%)復習と重要ポイントの確認のため、期間中月に1回ペースで3回実施する。

レポート(20%)期間中数回出題する。レポート提出時に教員の示す評価規準によって数値で自己評価する。

グループ活動への参加態度(20%)グループのメンバーによる相互評価や、他のグループからの相互評価をもとに自分で数値で自己評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション、学習の進め方、グループ編成
- 第2回 学校教育とは何か
- 第3回 教育・学習・アクティブラーニングと心理学
- 第4回 学校教育の歴史
- 第5回 教育基本法と教育法規
- 第6回 教育課程と学習指導要領
- 第7回 各教科の学習・総合的な学習の時間と子どもの学力
- 第8回 教育評価
- 第9回 特別活動と学級活動
- 第10回 生徒指導・心の病と学校
- 第11回 人権教育、保護者・地域と学校
- 第12回 環境教育と食育
- 第13回 国際理解教育と外国語教育
- 第14回 国際的な学力とこれからの教育
- 第15回 自己評価、相互評価

6. Special Information (留意事項)

グループ活動が主になるので、積極的に授業に参加し、グループ内で協力すること。本講義は概論であるので、詳しい内容は各授業で深めること。

講義コード	26502901			
科目名	教育社会学A 学校をめぐる諸問題の実態とその背景にあるメカニズムを理解する			
担当者	原 清治			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『増補版教育の比較社会学』原清治他 学文社 2008年 2008年に改訂された増補版をテキストとして用いるため、購入時は注意すること。			
参考文献	適宜、指示する。			
備考	隔年開講2 (A) 心理学部対象クラス (B) 人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	80001301			
科目名	教育社会学A 学校をめぐる諸問題の実態とその背景にあるメカニズムを理解する			
担当者	原 清治			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『増補版教育の比較社会学』原清治他 学文社 2008年 2008年に改訂された増補版をテキストとして用いるため、購入時は注意すること。			
参考文献	適宜、指示する。			
備考	隔年開講2 (A) 心理学部対象クラス (B) 人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年未就労者と教育」などである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

教育社会学は、現代社会の変化と、それに伴って変動する学校世界との因果関係を明確にすることを目的とした学問領域である。したがって、本講の目的は以下の3点となる。

1. 教育と社会の因果関係について理解する視点をもつ。
2. 実証的な調査データにもとづいて分析する方法論を身につける。
3. 現状を正確に理解した上で、それをどのような方向へ転換すればよいのかの視点を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストによる講義形式を原則とするが、学生とのツウウェイによる討論も毎回おこなう予定である。

原則として出席を重視する。また、コンテキストごとに期限厳守で小レポートを課す場合がある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教育と社会との関連について学習するため、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層」「若年未就労者」等の用語については、新聞やインターネット等を参考にしながらその事柄について理解しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期試験(教室) 60%

授業内課題 40%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教育社会学とは何か、イントロダクション
- 第2回 学校をとりまくさまざまな問題
- 第3回 いじめ問題のとりえ方
- 第4回 学歴社会とは何か

- 第5回 学歴社会への批判と考察
- 第6回 学力低下論の構造
- 第7回 力低下論の構造
- 第8回 学力低下の解釈をめぐって
- 第9回 教育改革を考える 日本の教育改革
- 第10回 教育改革を考える アメリカの教育改革
- 第11回 教育改革を考える イギリスの教育改革
- 第12回 教育のあり方を問う 学校病理からみる
- 第13回 教育のあり方を問う フリーター・ニート問題からみる
- 第14回 教育のあり方を問う 学力問題からみる
- 第15回 まとめ、教育改革のパラダイム

6. Special Information (留意事項)

講義計画は受講生の状況により予定を変更することもある。実習などで長期に欠席する場合は単位修得に影響するので事前に報告すること。

講義コード	26503001			
科目名	教育課程論(初)			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教][情]			
前提科目				
テキスト	『よくわかる教育課程』田中耕治編 ミネルヴァ書房			
参考文献				
備考	小幼専用科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教育課程に関する基礎的理論を学習し、教育課程策定の実際や課題を具体的に理解する。そして、学校における教育課程の実際を検討するきっかけとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教育課程の理論
2. 教育課程の類型
3. 学校現場の教育課程

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 教育課程の作成
5. 小レポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 小学校時代の通知票に書かれている教育目標をよく読んでおく。
2. 小学校時代の通知票に書かれている教育目標を一回目の授業に記録して持ってくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の出席と授業参加と小レポート提出(50%)。発表(20%)。課題提出またはテスト(30%)。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
教育課程(カリキュラム)とは何か
- 第2回 学校づくりと学習指導要領とカリキュラム
- 第3回 内容選択の基準
- 第4回 カリキュラム編成の原理
- 第5回 子どもの発達とカリキュラム
- 第6回 教科書
- 第7回 カリキュラムと教育環境
- 第8回 教科のカリキュラム
- 第9回 教科外のカリキュラム
- 第10回 ポートフォリオ評価法、実践例：VDO、検討会
- 第11回 ポートフォリオ評価法、ワークショップ(KJ法)、検討会
- 第12回 近年のカリキュラム改革の動向
- 第13回 日本の教育改革の歴史
- 第14回 学力調査と学力
- 第15回 諸外国におけるカリキュラム改革の動向とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26503101		
科目名	保育概論 幼児教育・保育を中心に		
担当者	小川 圭子		
単位数	2	配当学年	1
資格	[幼]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年 『乳幼児保育の理論と実践』 寺見陽子・西垣吉之編 株) ミネルヴァ書房 2008年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

少子化、親の子育てのあり方、社会状況等、現在の幼児を取り巻く現状は大きく変化しつつある。そこで、わが国における保育の変遷と幼稚園や保育所、家庭の状況を確認しながら、幼稚園や保育所の果たすべき役割や保育を担当する保育者としての役割について理解する。具体的には、幼稚園・保育所の教育・保育の基本や役割、乳幼児期の発達の特徴、幼児理解、教育課程・保育課程と指導計画、指導・援助、保育内容の変遷などである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 幼稚園や保育所の教育・保育の基本と役割等について学ぶ。
2. 乳幼児期の発達の特徴、幼児理解、教育課程・保育課程と指導計画、指導・援助などについて学ぶ。
3. 乳幼児教育の重要性を認識するとともに考察をする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

適宜、資料を配布したり、DVDやパワーポイントなどによる資料提示を行う。

自習学習による課題レポート、小テストにより学修内容を定着させる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指定の教科書と資料を事前に読んでくるとともに、授業終了後も復習をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業への取り組み姿勢10%、課題レポートなど40%、小テスト50%などで、総合的に評価する。
2. 3分の2以上の出席を求める。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 乳幼児保育の現状と課題－今日の乳幼児を取り巻く環境と生活
- 第2回 子どもの育ちと環境－「発達」と「環境」の関係
- 第3回 環境を通して行う保育－子ども主体の保育について－
- 第4回 西洋における保育の歴史－西洋の幼児教育・保育の歩み
- 第5回 日本における保育の歴史－日本の幼児教育・保育の歩み
- 第6回 集団とのかかわりと個の育ち
- 第7回 保育の計画と実践－保育の見通しをたてるということ－
- 第8回 子どもの発達について－乳幼児期の発達の特徴や幼児理解
- 第9回 子どものあそび－あそびのとらえ方、あそびを見る視点とその援助－
- 第10回 乳幼児保育の実際①－園生活をつくる
- 第11回 乳幼児保育の実際②－子どもと出会う
- 第12回 乳幼児保育の実際③－個の理解と援助
- 第13回 障がいのある子どもの保育－障がいの特性と対応
- 第14回 保育の評価と保育者に求められる姿
- 第15回 まとめ (学習成果と課題の確認)

6. Special Information (留意事項)

この授業では、幼児教育・保育をめぐる「問題」を通じて、幼児教育・保育とは何なのか、幼児教育・保育のあるべき姿を問います。日ごろから幼児教育・保育についての情報を得るよう努めてください。

講義コード	26503201		
科目名	学校臨床心理学 スクールカウンセラーの事例を通じてクライアントについて考える		
担当者	佐藤 睦子		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

学校臨床には、幅広い領域に関する知識が必要とされる。また、対象となるクライアントも、児童生徒・教員・保護者と多岐にわたる。本講義では、初めにすべての心理学に共通な学校臨床心理の基本的概念を学んだ後、学校における実践例を提示しながら、さまざまな症状を訴える児童生徒に対するカウンセリング、教員・保護者に対するコンサルテーションのありかたについて、実践例を交えて考察し、学んでいく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校臨床におけるクライアントと面接における目的を明らかにし、学校臨床の特色や、スクールカウンセラーとはどのような仕事をするのかを学ぶ。
2. 学校で相談活動を行なう上でのクライアントとスクールカウンセラーとの関係性・責任・倫理について学ぶ。
3. スクールカウンセラーが学校に存在する意味について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義とディスカッションを中心に行なう。実践例を提示した場合には、クライアントに対するアプローチについてのディスカッションと、クライアントの病理について解説する講義を2回に分けて行ない、時間をかけて考察することとなる。各自のディスカッションへの積極的な参加姿勢を期待している。また、実践例の授業が終了するごとにレポートを課す。

これらの体験の中から、学校臨床とは何か、スクールカウンセラーの役割とは何かを考え理解することを目標として学習を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業内で課されるレポートの提出回数約30%と期末に行なわれる課題が50%、その他、授業参加度(ディスカッションに積極的に参加しているかどうか)を20%として評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 学校臨床とは何か
- 第2回 学校現場における事例の提示とディスカッション (不登校生母親の事例)
- 第3回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第4回 学校現場における事例の提示とディスカッション (神経症の生徒の事例)
- 第5回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第6回 学校現場における事例の提示と個人課題 (非行の事例)
- 第7回 学校現場における事例の提示とディスカッション (虐待が疑われる事例)
- 第8回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第9回 学校現場における事例の提示とディスカッション (PTSDの生徒の事例)
- 第10回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第11回 学校現場における事例の提示とディスカッション (発達障害の事例)
- 第12回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第13回 これまでの事例に関する振り返りとまとめ
- 第14回 到達度確認の課題
- 第15回 到達度確認課題結果の振り返りとまとめ

6. Special Information (留意事項)

ディスカッションのグループは、前半と後半で組み替える予定である。

講義コード	26503301			
科目名	生徒指導・進路指導			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『最新 生徒指導・進路指導論—ガイダンスとキャリア教育の理論と実践』 吉田辰雄 図書文化			
参考文献	『規範意識をはぐむ生徒指導体制—小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ(生徒指導資料)』 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 東洋館出版社			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教育目標達成のために学習指導を通して確かな学力が身についた実感をさせることと同時に、生徒指導・進路指導を行うことによって、社会人としてどのように社会に貢献していくのかを、児童・生徒に考える事ができるようにする。また実際の事例を通し、学校の教育目標と生徒指導・進路指導の関連を学習指導要領上の位置づけの中で学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 生徒指導・進路指導の意義の理解
2. 生徒指導・進路指導の実際の理解
3. 学校現場の指導方法の習得

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 小学校中学校時代の通知票に書かれている所見欄をよく読んでおく。
2. 小学校中学校時代の通知票に書かれている所見欄の中から、印象的なものを一回目の授業に記録して持ってくる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の出席と授業参加と小レポート提出 (50%)。発表 (20%)。課題提出またはテスト (30%)。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生徒指導・進路指導の歴史と発展
- 第3回 学習指導要領・教育課程における生徒指導・進路指導
- 第4回 ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論
- 第5回 生徒指導の理念と性格
- 第6回 進路指導の理念と性格
- 第7回 児童生徒理解の方法・技術
- 第8回 生徒指導・進路指導の組織と運営
- 第9回 教育相談・進路相談の方法・技術
- 第10回 学校における生徒指導の計画と実践
- 第11回 学校におけるキャリア教育の計画と実践
- 第12回 児童生徒の問題行動
- 第13回 生徒指導・進路指導のアセスメント
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26503701			
科目名	環境教育			
担当者	小川 博士			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	特になし 授業の資料は、適宜提示する。			
参考文献	『よくわかる環境教育』 水山光春 編著 ミネルヴァ書房 2013 『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版社 2014 『私たちと環境』 太田和子 他 東京教学社 2015			
備考	定員40人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

環境問題は、現在人類共通の最重要課題の1つとなっている。それに応じて、環境教育は世界的視野から見て、ますますその必要性が高まっている。将来、教員免許状を取得し子どもたちへの教育に携わることを考えている学生には、環境問題の認識や環境教育の目的、指導法について、少しでも理解してほしいと願っている。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・「環境」「環境問題」について理解すること
- ・環境教育の背景や目的、指導について理解すること
- ・環境教育の重要性を認識すること
- ・学校における環境教育の現状や課題を知ること

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義に加え、学外学習や調べ学習・発表等、参加・体験型の授業を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示するが、今日話題となっている環境問題に目を向け、その問題や課題について自分なりに考えてみる事が大切である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題レポート60%、授業内小レポート20%、授業参加度20%で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 環境問題の顕在化
- 第3回 調べ学習(環境問題レポートの作成・発表準備)
- 第4回 レポート発表
- 第5回 環境教育の系譜、目的、ESD
- 第6回 環境教育と学校教育(理科とのかかわりを中心に)
- 第7回 エコバスツアー(外部機関との連携について)
- 第8回 エコバスツアー(見学)
- 第9回 エコバスツアー(振り返り・グループディスカッション)
- 第10回 自然体験教育
- 第11回 エネルギー教育
- 第12回 防災教育
- 第13回 ごみの分別・減量化の取り組み
- 第14回 総括レポートの作成
- 第15回 レポート発表とまとめ

6. Special Information (留意事項)

受講者の実態や教材の準備状況によって学習内容を変更することがある。第7～9回は、授業日以外の日に学外学習として連続して実施するので留意すること。具体的な日程は、初回のオリエンテーションで伝える。

講義コード	26503901			
科目名	情報教育 A 情報活用能力の育成と授業でのICT活用			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教][情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『高等学校学習指導要領解説情報編』 文部科学省 開隆館出版販売 2010			
備考	教員免許取得希望者はAクラスの履修が望ましい。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

情報教育の目標やその教育方法に関して解説し、学校園における学習指導要領で定められている情報教育の授業実践が行えるよう実践的指導力の育成をめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

情報活用能力の3つの構成要素、
・情報活用の実践力
・情報の科学的理解
・情報社会に参画する態度の育成
に関して正しく理解し、児童生徒に指導できるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義による解説と受講者の小グループによるディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。

また、e-learningを行うことがある。
・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
前回までの復習をしておくこと。

学習指導要領や教育要綱をよくみておくこと。
自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。
グループでの活動に積極的に参加すること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加意欲・態度 (40%)
課題やレポートに対する自己評価・相互評価 (30%)
期末レポート (30%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義オリエンテーション
学習理論の復習
- 第2回 情報教育の目標、アクティブラーニングとの接点
- 第3回 授業におけるICT活用と、教員に求められるICT活用指導能力
- 第4回 教員によるICT活用での授業計画
- 第5回 教員によるICT活用の授業実践
- 第6回 情報の科学的理解とデジタル化
- 第7回 情報のデジタル化の仕組み
- 第8回 児童生徒が主体的に情報を活用するために
- 第9回 児童生徒が主体的に情報を活用するための授業実践
- 第10回 情報社会に参画する態度
- 第11回 情報モラル教育の事例研究
- 第12回 コミュニケーションの活性化とICTの役割
- 第13回 情報活用能力を社会で生かすために
- 第14回 本当の意味での情報活用能力とは
- 第15回 学校における情報教育の今後の課題

6. Special Information (留意事項)

Aクラスは教員志望学生向け、Bクラスは一般の情報教育を学ぶ人向けです。大まかな講義内容は同じですが、Aクラスは教員になるためのより実践的な講義にします。校種(幼・小・中・高)は問いません。

毎回、小グループによるディスカッションを行うので、講義に主体的に参加することが重要である。ディスカッションに主体的に参加することで、教育実習時の実践的指導力につながる。

講義コード	26503902			
科目名	情報教育B 情報活用能力の育成と授業でのICT活用			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教][情]			
前提科目				
テキスト	『情報活用力』 noa出版 noa出版 2014			
参考文献	『高等学校学習指導要領解説情報編』 文部科学省 開隆館出版販売 2010			
備考	教員免許取得希望者はAクラスの履修が望ましい。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

情報教育の目標である「情報活用能力の育成」について理解し、今後の生活に役立てるとともに、地域で指導できる人材の育成を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

情報活用能力の3つの構成要素、
・情報活用の実践力
・情報の科学的理解
・情報社会に参画する態度の育成
に関して正しく理解し、社会で生かせるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義による解説と受講者の小グループによるディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。

また、e-learningを行うことがある。
・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
前回までの復習をしておくこと。

学習指導要領や教育要綱をよくみておくこと。
自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。
グループでの活動に積極的に参加すること

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加意欲・態度 (40%)
課題やレポートに対する自己評価・相互評価 (30%)
期末レポート (30%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義オリエンテーション
- 第2回 情報活用力について
- 第3回 情報教育の重要性と課題
- 第4回 情報活用能力と学習指導要領
- 第5回 情報活用の実践力の現状と課題
- 第6回 情報活用の実践力を育む教材
- 第7回 学校現場における情報活用の実践力
- 第8回 学校で子供たちが情報活用能力を養うためのポイント
- 第9回 情報社会に参画する態度
- 第10回 ソーシャルメディアによる問題点
- 第11回 スマートフォンとゲーム依存
- 第12回 消費者教育から見た問題点
- 第13回 これからの高度情報化社会
- 第14回 理想の情報活用力とは
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

毎回、小グループによるディスカッションを行うので、講義に主体的に参加することが重要である。
外部講師を招いての授業の可能性もある。

講義コード	26504001			
科目名	食と健康の教育 健康づくりにおける食と運動			
担当者	青井 涉			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

現代の食生活は、文化、経済、歴史、社会など様々な背景と密接がかかわりあいながら形成されている。食生活は健康の基盤となるだけでなく娯楽や人間関係においても重要な役割を果たす。自分自身の生活習慣の現状を把握した上で、どのような食生活、運動習慣が健康づくり・疾病予防あるいは様々な個々の目的を達成するために効果的であるのかについて講義・討論する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

・栄養素の基礎について学び、バランスの良い食事について理解する。
・食生活の果たす役割を理解し、現状と問題点を踏まえたうえで健全な食生活とは何か考える。
・自分自身の食生活について振り返り、栄養バランス等について考察する。
・身体能力を高めるための食条件について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・講義と討論を中心とした形式で進める。
・各テーマにもとづいて、各自まとめと発表を行うことにより理解を深める。
・毎回の講義で資料を配布するとともに、参考書籍・文献についての情報提供を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

予め授業で取り扱うテーマについて情報収集を行う。自身の食習慣、運動習慣に関する調査を行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末試験 (50%)、授業内における活動 (30%)、小レポート (20%) から評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 栄養素の基礎
食生活の現状を把握する
- 第2回 栄養バランスとは
- 第3回 食事におけるタイミング・食べ合わせの重要性
- 第4回 肥満・痩せと食事の関係
- 第5回 母子栄養
- 第6回 生活習慣病予防と食習慣
- 第7回 健康づくりのため運動・身体活動
- 第8回 スポーツ栄養：持久能力と食事
- 第9回 スポーツ栄養：筋力と食事
- 第10回 現代における食に関する諸問題
- 第11回 食生活と安全
- 第12回 食生活とアンチエイジング
- 第13回 機能性食品
- 第14回 食生活の自己評価
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26504102			
科目名	教育経営論B			
担当者	河佐 英俊			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	「特になし」 必要に応じてレジュメを配布する。			
参考文献	『教育学の探求－教師の専門的思索のために』 佐藤博志編著 川島書店 2013年 『新しい時代の教育方法』 橋本美保他 有斐閣 2012年 『中学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領』			
備考	隔年開講2 (A) 心理学部対象クラス (B) 人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	80003002			
科目名	教育経営論B			
担当者	河佐 英俊			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	「特になし」 必要に応じてレジュメを配布する。			
参考文献	『教育学の探求－教師の専門的思索のために』 佐藤博志編著 川島書店 2013年 『新しい時代の教育方法』 橋本美保他 有斐閣 2012年 『中学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領』			
備考	隔年開講2 (A) 心理学部対象クラス (B) 人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

今日的な教育課題に適切に対応する学校経営の在り方、また教育目標を達成するための教育の在り方など、教育の本質的な理解を基盤として、これからの教育経営について、自分の考えが明確に論じられるよう認識を深めていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 公教育制度の歴史と基本的な原理について理解する。
2. 日本の教育行政・学校教育の変遷と特徴を理解する。
3. 学校経営における諸問題について理解し、その解決方法を見出せるようにする。
4. これからの学校教育のあり方を考察していく。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義により教育経営の基本的な考え方を習得していく。
プロジェクターによる映像や参考資料を活用しながら、現在の学校教育経

営に関するテーマについてディスカッションする等問題解決的な学習を重視する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日常のニュース等に関心をもち、教育に関する今日の課題を見つけておく。
A4版のノートまたはファイルを準備し、学習のまとめをする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題テスト (70%)、授業後のコメントやレポート (30%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション：教育経営の全体像
- 第2回 社会の変化と教育
- 第3回 公教育制度の基本原則
- 第4回 初等中等教育制度の展開と改革
- 第5回 教育行政の動向 「学習指導要領改訂の動向」
- 第6回 カリキュラム・マネジメントの重要性
- 第7回 学級経営と学校経営 「学校教育目標の具現化」
- 第8回 学校経営と予算財務
- 第9回 開かれた学校経営 「市民ぐるみ・地域ぐるみの教育」
- 第10回 教職員評価・学校評価と学校改善
- 第11回 学校教育の今日の課題
- 第12回 学校の危機管理 「リスクマネジメントの必要性」
- 第13回 学校・教師を取り巻く課題への組織的対応
- 第14回 望ましい教育経営とは 「教師に求められるリーダーシップ」
- 第15回 教育経営論のまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26505201			
科目名	児童心理学 子どもの心を理解する			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教][日][子]			
前提科目				
テキスト	使用しない。プリントを配布。			
参考文献	『児童心理』 岡本夏木 岩波書店 1991			
備考	定員180人 学校心理専攻必修 (平成25年度以後入学者に適用)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもの心の発達過程を学ぶことは、人間のさまざまな精神的機能の発生のメカニズムを理解することにもつながる。子どもの心理を理解することを通して、人間の精神活動の仕組みに関する基礎知識を身につけることを第1の目標とする。そして、その知識をもとにして、子どもと関わったり、子どもを教育するための素養を身につけることを第2の目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 児童期を中心として、さまざまな発達段階の特徴について学ぶ。
2. 対人活動の発達・認知発達・言語発達等について、おおまかな発達のプロセスを理解する。
3. 発達を規定する要因として、個人的要因、子どもを取り巻く学校・社会・文化といった環境的役割について理解を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義を中心に配布プリントを用いて行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日常生活において、子どもを観察したり、子どもと関わることを通じて、子どもの心理に触れて、さまざまな問題意識を持ってほしい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

学期末テストによって評価するが、欠席が5回を超えると学期末テストは受けられない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 発達の要因および発達段階の考え方
- 第2回 初期経験はその後の発達にどの程度影響を及ぼすのか?
- 第3回 対人活動の発達① (親子関係を中心に)
- 第4回 対人活動の発達② (友達との遊びを中心に)
- 第5回 乳幼児の認知発達
- 第6回 幼児期から学童期にかけての認知発達
- 第7回 認知発達と学校教育
- 第8回 言語発達の基盤
- 第9回 言語発達の要因
- 第10回 象徴機能の発達
- 第11回 自分と他者の認知の発達

- 第12回 概念形成や思考の発達
 第13回 道徳性および向社会的行動の発達
 第14回 障害児の発達
 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業の順番や内容が変わることがある。

講義コード	26505401		
科目名	乳幼児心理学 乳幼児期の発達を科学的に理解し、その後に影響する要因を探る		
担当者	薦田 未央		
単位数	2	配当学年	2
資格	[幼][日][子]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『よくわかる乳幼児心理学』 内田伸子(編) ミネルヴァ書房 2008 『乳幼児の心理』 麻生武 サイエンス社 2002 『発達心理学Ⅰ』 無藤隆・子安増生(編著) 東京大学出版会 2011 『発達科学入門(2) 胎児期～児童期』 高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子(編) 東京大学出版会 2012		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

ヒトの発達において乳幼児期の特徴やその後の発達に影響する要因を学び、発達のメカニズムを探究する。ヒトが生まれてから加齢とともに老いていく中、乳幼児期の発達は質・量ともに様々な機能が著しく発達する時期である。近年では、科学的な発達研究から乳児の有能さが明らかになっている。この様な新しい知見も含め、乳幼児期における認知発達、言語発達、人間関係の形成、自我の形成等の発達について学び、乳幼児の理解を通してヒトの発達についての理解を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. ヒトを理解するために重要な発達の理論を学ぶ。
2. ヒトの発達に影響する生理的要因や社会的要因の相互作用を学び、理解する。
3. 乳幼児期の認知発達、言語発達、人間関係の形成、自我形成等の発達の特徴を学ぶ。
4. 乳幼児期の発達が阻害する要因について学び、理解する。
5. 乳幼児期の発達がその後の発達にどのように影響するのか理解を深め、発達支援について考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で行う。授業中に適宜資料を配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

参考文献に提示した文献や授業中に提示する参考文献を中心に、乳幼児期を中心とした子どもの発達について勉強しておくこと。また、積極的に子どもと接する機会をもつことや、日常生活の中で見かける子どもの姿を観察をして、イメージづくりを心がけると授業の理解も深まるだろう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中に行う課題(30%)、期末テスト(70%)で総合評価とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 乳幼児期とは
- 第2回 胎児・乳幼児期の身体的・心理的特徴
- 第3回 乳児の有能さ(生得的な力)
- 第4回 乳児の有能さ(感覚・知覚の発達)
- 第5回 主要な発達の理論(成熟論・学習理論)
- 第6回 主要な発達の理論(認知発達・社会的発達)
- 第7回 親子関係の基盤づくり
- 第8回 親子関係(親子の相互作用要因)
- 第9回 言語発達(コミュニケーションの基盤)
- 第10回 言語発達(象徴機能、文法の発達)
- 第11回 概念の発達
- 第12回 記憶の発達
- 第13回 思考の発達
- 第14回 自己・他者理解の発達
- 第15回 仲間関係・遊び・社会性の発達、まとめ

6. Special Information (留意事項)

予定された授業は順序が入り替わることもある

講義コード	26505501		
科目名	老年期の心理学 成人期以降の人生を考える		
担当者	伊藤 一美		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト	授業中にプリントを配布する。		
参考文献	『老年心理学』 下仲順子(編) 培風館 1997 『老いることの意味』 南・山田(編) 金子書房 1995 『高齢期の心理と臨床心理学』 下仲順子(編) 培風館 2007 『エピソードでつかむ老年心理学』 大川・宇都宮・日下・奥村・土田(著) ミネルヴァ書房 2011		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

高齢化社会の到来とともに、発達心理学においても老年期をも含めた生涯発達の観点から理論が再構築されつつある。この講義では、個人差が拡大する成人期から老年期について、心理・社会学的データを背景に、生涯発達の観点から生理・認知・パーソナリティ・対人関係・病理などの特徴や変化について学ぶ。さらに、心理臨床現場で必要となる高齢者に対する心理的な検査・治療・援助などの方法論についても学ぶ。また、異世代が共存する社会の中で若年層の果たす役割と、老いゆく存在として必要になるエイジング・エデュケーションに関しても考察を深めたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 成人期から中年期、老年期へと向かう過程での、心理・社会的な変化について学ぶ。
2. 現代の高齢者の心理社会的な位置付けと心理的諸側面を発達および臨床の両面から学ぶ。
3. 実践の場で必要になるテストや援助のスキルを学ぶ。
4. 老若の関係性と若年層へのエイジング・エデュケーションについて、実践を通して学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

指定テキストはなし。適宜資料を配布、テキストの紹介をする。

講義を中心に、映像やワークなど実際に体験できるような課題も行い、それらを素材に共有・ディスカッションも行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

*授業中に提示された資料、テキストなどを積極的に参照し、持ち帰りとなるワークについては、自らの経験と学んだ知識とを関連付けて自主的に学ぶ。

*新聞・テレビ・インターネット等メディアで取り上げられる「老い」や「高齢者」の問題について、トピックを拾っておく。

*身近な人々の年代、発達課題などを考えるべく、さまざまな年代の方と接点を持つように心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(20%)、授業内のワークプリント(30%)、期末レポート試験(50%)に基づき、総合的に行う。また、欠席が3分の1を超えた場合には、原則として期末レポートの提出ができない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ライフサイクルの諸理論(1)
- 第3回 ライフサイクルの諸理論(2)
- 第4回 青年期から成人前期へ
- 第5回 中年期の心理社会的特徴
- 第6回 老化・加齢・老年期に関する概念および理論
- 第7回 老年期の知能
- 第8回 老年期の認知機能
- 第9回 老年期のパーソナリティと適応
- 第10回 老年期の対人関係と社会生活
- 第11回 老年期の精神疾患
- 第12回 終末期について
- 第13回 高齢者に対する心理テストと心理療法
- 第14回 異世代間の交流とエイジング・エデュケーション
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26505601			
科目名	発達検査論 検査を通して子どもを知り、発達の支援方法を学ぶ			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	テキストは用いない。			
参考文献	授業中に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

まず、発達検査・知能検査の歴史を学ぶ。次に、発達検査を通して発達の見方について学んでいく。また代表的な発達検査・知能検査の実施方法、結果の読み取り方について、理解する。さらにその結果をどのように発達支援や学校教育に生かしていくのかということについて、応用的に考えていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 発達検査・知能検査の歴史を学ぶ。 2. 発達検査・知能検査の目的と有効性について知る。 3. 新版K式発達検査の歴史を知る。 4. 新版K式発達検査を通して、乳幼児期の発達のプロセスについて学ぶ。 5. WISC-IVやK-ABCの特長を理解し、教育への応用のしかたを探る。 6. 発達検査を行ってわかることとわからないことは何か考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に行うが、授業中(あるいは宿題で)筆記課題を行うことがある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

身近な子どもを観察し、何歳の子どもがどのような行動をしているのか、知っておく。また同じ年齢でも一人ひとり行動に違いが見られる。人の個性はどのような点に見られるか、考えてみよう。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

学期末の試験(90%)と授業内課題(10%)を総合して評価を行うが、出席状況が悪い場合は減点する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 発達検査・知能検査の歴史
- 第2回 発達の遅れや障がいについて
- 第3回 発達のアセスメントの目的
- 第4回 新版K式発達検査①(乳児期前半)
- 第5回 新版K式発達検査②(乳児期後半)
- 第6回 新版K式発達検査③(幼児期前半)
- 第7回 新版K式発達検査④(幼児期後半)
- 第8回 新版K式発達検査のまとめ
- 第9回 K-ABC心理・教育アセスメントバッテリーの基礎
- 第10回 K-ABC心理・教育アセスメントバッテリーの実際
- 第11回 WISC-IVの基礎
- 第12回 WISC-IVの実際
- 第13回 発達検査、知能検査を通して障がいや問題行動の理解方法について学ぶ
- 第14回 検査者に必要な資質および倫理的配慮
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

順番は入れ替わることがある。

講義コード	26506001			
科目名	障害児心理学 障害の概念や子どもの実態について理解を深める			
担当者	薦田 未央			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教][日][子]			
前提科目				
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。			
参考文献	『発達障害の基礎』 有馬正高(監修) 日本文化科学社 1999 『障害臨床学ハンドブック』 中村義行・大石史博(編) ナカニシヤ出版 2011 『発達障害とその周辺の問題』 宮本信也 他 中山書店 2008 『発達障害の子どもの心と行動がわかる本』 田中康雄 西東社 2014 その他、授業中に適宜紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

障害という言葉の持つ意味は多様であり、それを定義する概念も難しい。当然、障害を持つ子どもといってもその様相は多様である。それらの障害の内容と特徴を理解する。具体的には、障害の要因やその生理的、身体的問題について考え、行動特徴や精神機能、心理的特徴の理解を深めていく。更に、障害を持つ子どもの親の心理、社会的資源を含めた環境の問題、また、子どもの発達過程における社会・心理的問題などにも触れる。特に、学校教育の中での特別支援についても取り上げる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 障害とは何かを理解する。
- 2. 障害の生理的基盤を理解する。
- 3. 各障害の定義や種類と実際の子どもの状態について考える。
- 4. 障害による心理的特徴を理解する。
- 5. 障害を持つ子どもがおかれる環境と発達過程における問題について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で行い、必要に応じてワーク等を実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1. 授業中に紹介する文献やテキストを参考に、障害や疾病についての理解を深めておくこと。
- 2. 3～4回に一度、講義の振り返りとまとめて小テストを行う。授業で提示された資料やレジュメをもとに、復習しておくこと。
- 3. 多様な障害について考えるため、日ごろから社会で取り上げられる障害や疾病にまつわるトピックスには関心をもって調べておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

期末試験は行わない。授業中に実施する小テストや課題への取り組み、授業態度を総合的に評価する。内訳は、小テストを60%(15%×4回分)、授業中の小課題や取組の態度を40%とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 「障害」とは
- 第2回 障害児・者に関する施策の歴史と現状
- 第3回 障害の概念と定義
- 第4回 障害の要因(身体メカニズムと発達)
- 第5回 障害の要因(遺伝的要因と環境要因)
- 第6回 障害の分類(1) 知的障害(定義と状態像)
- 第7回 障害の分類(2) 知的障害(心理的特徴)
- 第8回 障害の分類(3) 運動障害と重複障害
- 第9回 障害の分類(4) 発達性の協調運動障害
- 第10回 障害の分類(5) 視覚障害・聴覚障害
- 第11回 障害の分類(6) 学習障害(限局性学習障害)
- 第12回 障害の分類(7) 注意欠如・多動性障害
- 第13回 障害の分類(8) 自閉症スペクトラム障害
- 第14回 障害児の親(養育者)の心理について
- 第15回 学校教育における現状と問題について、まとめ

6. Special Information (留意事項)

予定されている授業内容は、順序が入れ替わることがある。授業中に行われる小テストについては、初回授業で実施日程を告知する。やむを得ない事情を除いて、欠席のためテストを受けなかった場合、そのテストについては評価点0となることがある。

講義コード	26506101			
科目名	対人関係の心理学 二者関係の社会心理学			
担当者	上田 恵津子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[情][ホ]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員150人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目では、対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸現象を、社会心理学の立場から論じる。

友人関係や恋愛関係をはじめとする対人関係の形成、維持・進展、崩壊の過程、他者との関係を築く上で基礎となる自己認知のしくみ、対人関係と対人行動、日本人の対人関係などについて詳述する。具体的な研究例とそこから見出された知見を解説することを通して、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 対人関係の形成過程、維持と進展の過程、および葛藤と崩壊のメカニズムを理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 対人関係における自己表現について理解する。
5. 日本人の対人関係の特徴を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 各自、手書きでノートをとること。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験(90%)、授業態度(10%)を総合して評価する。欠席は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 対人関係と人間関係
- 第2回 対人認知(1) 印象形成
- 第3回 対人認知(2) 対人情報処理
- 第4回 対人魅力
- 第5回 対人的コミュニケーション
- 第6回 対人関係の形成(1) 友人関係
- 第7回 対人関係の形成(2) 恋愛関係
- 第8回 対人関係の維持
- 第9回 対人関係の崩壊
- 第10回 対人関係における自己(1) 自己とは、自己概念
- 第11回 対人関係における自己(2) 自己評価
- 第12回 対人関係における自己(3) 自己開示、自己呈示
- 第13回 対人関係における自己(4) 自己意識、対人不安
- 第14回 日本人の対人関係
- 第15回 試験とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26506201			
科目名	現代青年の心理学			
担当者	尾崎 仁美			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

青年期とは、人生の発達段階の一ステージである。この時期は、子どもから大人への移行期であるが、第二の誕生と言われるように、心身ともに重要な変容の段階でもある。青年にまつわる問題は古くから存在するが、同時に青年の行動や思考とは、時代を如実に反映するものであり、常に新しい問題を含んでいる。この授業では、青年期がどのようにとらえられてきたかに始まり、青年期に特有な身体と心の問題、自己意識、対人関係(友人関係、親子関係、異性との関係)、進路決定等の観点から、現代青年の心理について理解を深めることを目標とする。また、受講生の多くが青年期にあることから、受講生自身の自己理解に結びつくような作業や実習等も取り入れながら授業を進めていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 従来の諸学説を学び、青年期がどのようにとらえられてきたかを理解する。
2. さまざまなデータや現象記述を通して、現代青年の心理について多面的に考察する。
3. 体験的学習をもとに、自分自身への理解を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
2. 講義を中心に進めていくが、適宜、受講者の自己理解に結びつくような体験的学習も取り入れる。その際、課題レポートの提出を求める。
3. 講義内容を受身的に覚えるのではなく、自分自身の体験や周囲の人たちと関連づけて考える主体的な受講態度が望まれる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に前回の授業内容を復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題レポート・期末に実施するテスト(90%)、授業参加度(10%)により総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 青年期とは
- 第2回 青年期のとらえ方
- 第3回 青年期の身体と心
- 第4回 現代青年の身体と心をめぐる問題
- 第5回 青年期の自己意識
- 第6回 青年期におけるアイデンティティ
- 第7回 現代青年の自己・アイデンティティをめぐる問題
- 第8回 青年期の親子関係
- 第9回 現代青年の親子関係
- 第10回 青年期の友人関係
- 第11回 現代青年の友人関係
- 第12回 青年期の異性関係
- 第13回 青年期の進路決定
- 第14回 現代青年の進路をめぐる問題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26509501			
科目名	臨床心理アセスメント			
担当者	伊藤 一美			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目	「心理検査法実習」(平成24年度以前入学者に適用) 「心理テスト実習」(平成25年度以後入学者に適用)			
テキスト	授業中に資料を配布			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

臨床心理アセスメントとは、対象となる患者やクライアントの治療方針や処遇・援助の方針を立てるために、症状・問題行動・パーソナリティなどの個人的な状態像を面接・心理テスト・観察といった手法により見立て、また種々の環境要因の状況を把握していくことである。また、そこで得られたデータを臨床的・発達の・精神医学的理論と臨床経験を基盤に読み取り、複数の情報を組み立て、問題の改善に向けての指針を出していくという、専門的作業でもある。

アセスメントを行う者として心理検査の技法に習熟することはもちろんのこと、相手と信頼関係を築き、かつ、スタンスをどう取るか、自らの主観的判断をどう扱うかという自分自身の理解も必要となる。

この講義では、先に学んだ「心理テスト入門」や「心理テスト実習」を手

がかりとしながら、心理学や精神医学の理論を背景に、対象者にどのようなデータが必要とされるのか見直しを立て、データを得る方法を検討する。そのうえで、得られたデータをもとに対象者を多面的・統合的に捉え、最終的に対象者に還元できるよう、知識や姿勢を学ぶことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. データの読み取りに必要な理論背景を学ぶ。
2. アセスメントのための観察や面接の方法を学ぶ。
3. 心理テストの種類や技法、臨床場面での扱い方を学ぶ。
4. テスターとしての態度やスタンス、倫理的な常識について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

基本的には講義形式だが、ペアやグループでの実習の内容も多い。テキストは指定せず、適宜資料を配布、テキストの紹介を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

*授業で紹介されたテキストやプリントなどについて、自主的に理解を深める。*日ごろから、直接あるいはメディアなどを通じて人の営みに関心を持ち、個々人の抱える問題や背景に対する配慮を持つように心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度20%、授業時間内のワーク課題30%、期末課題(レポート等)50%に基づいて、総合的に行う。欠席や遅刻は減点の対象となる。欠席回数が3分の1を超えた場合には、原則として期末課題を提出できない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨床心理アセスメントとは
- 第3回 臨床心理アセスメントの活用現場
- 第4回 アセスメントの流れ(1) はじまりと目的の整理
- 第5回 アセスメントの流れ(2) 仮想事例でシミュレーションする
- 第6回 観察によるアセスメント(1) 概要
- 第7回 観察によるアセスメント(2) ビデオを用いたワーク
- 第8回 インテーク面接(1) 概要
- 第9回 インテーク面接(2) ロールプレイを用いたワーク
- 第10回 心理テスト(1) 概要
- 第11回 心理テスト(2) 質問紙法のワーク
- 第12回 心理テスト(3) 投影法のワーク
- 第13回 データの読み方とまとめ方〜テストバッテリーも含めて〜
- 第14回 アセスメントを実施・報告する際の倫理的問題
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

平成25年度以降入学者は「心理テスト実習」(1年後期)、平成24年度以前入学者は「心理検査法実習」(2年前期)を履修していること。

講義コード	26509601			
科目名	臨床相談実習			
担当者	佐藤 睦子・鶴田 薫・福山 幸子・三好 智子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修(平成25年度以後入学者に適用)週2コマ連続			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

心理臨床における代表的な技法を体験的に学ぶ。具体的には、受講者は、個人面接の技法、集団療法、イメージ、自己表現と瞑想の技法の4実習を順に体験する。実際に体験することを通して、各技法の特徴を体験的に理解するとともに、各技法を用いる上でどのような事柄に留意する必要があるのか、留意点や危険性についても学んでいく。各技法を体験した後は、グループでの振り返りや、実習終了後のレポート課題において、体験を言葉にしたり、学んだ事柄を整理していくことで、さらに学びを深めていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 心理臨床における代表的な技法を体験的に学ぶ。
2. 各技法を用いる上での留意点や危険性について、体験的に学ぶ。
3. グループでの振り返りやレポート作成において、体験を言葉にしていることを通して、学びを深めていく。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習形式。1つの実習は3回かけて行う。#1のオリエンテーションのうち、受講生は4グループに分かれ、4つの実習を順に行っていく。#8は全体実習、#15はまとめの授業を行う。各実習終了後は、実習ごとにレポート課題を課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業時間中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習形式の授業のため、全回の出席が前提である。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、実習での取り組みの姿勢(50%)、グループごとに課されるレポートの内容(50%)から、総合的に評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 個人面接の技法(カウンセリング体験実習:学生相談)
- 第3回 個人面接の技法("聴かない"実習)
- 第4回 個人面接の技法(カウンセリング体験実習:教育相談/医療機関)
- 第5回 集団療法(第一印象)
- 第6回 集団療法(価値観の違い)
- 第7回 集団療法(感情の扱い方)
- 第8回 全体実習
- 第9回 イメージ技法(描画療法)
- 第10回 イメージ技法(芸術療法)
- 第11回 イメージ技法(描画検査法)
- 第12回 様々な技法(箱庭療法)
- 第13回 様々な技法(各種療法)
- 第14回 様々な技法(リラクゼーション)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

1. グループごとに4つの実習を順に行っていくため、実習の順序はグループによって異なる。
2. 様々な技法のリラクゼーションについては、身体を動かしやすい服装を持参すること。
3. 体験的な学びの場であるため、自分自身、そして他の受講生の体験を尊重し、大切に扱う心構えで臨むこと。
4. 心理臨床の技法を実際に体験するため、場合によっては、個人の問題に直面するなどして、精神的な負担が生じることも考えられる。実習に臨む上で特に心配な事柄がある場合、また、万が一、そのような状況に陥った場合には、担当教員に相談してほしい。

講義コード	26509901			
科目名	臨床心理学文献講読			
担当者	空間 美智子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『カウンセリングの実際』 河合隼雄 岩波書店 2009			
参考文献				
備考	臨床心理専攻必修※H24年度以前入学者に適用 閉講の時期は学部が別に定める。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、カウンセリングの基本的態度を学ぶとともに、臨床心理学を学ぶ上で必要とされる基礎的な用語を身につけ、専門的な文献を読みこなすための基礎づくりを行う。さらに、テキスト以外にも、論文紹介や体験的内容も取り入れ、幅広く臨床心理学を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テキストを各自予習する。
2. 発表者はテキストを熟読のうえ、要点をまとめたレジュメを作成し発表する。
3. レジュメをもとにディスカッションを行い、さらに理解を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

演習形式で進める。発表者は要点をレジュメにまとめ、各自の問題意識を伝える。発表をもとにディスカッションを行い、テキストを多面的により深く理解する。授業の最後には、学んだことをレポートにまとめる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストの熟読が基本である。理解できない用語などは各自調べたり、授業中に不明な点を質問できるように準備をすること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表とディスカッションが主体の授業であるため、受講者の主体的参加が大前提である。授業参加度50%、発表内容、レポート、および、ディスカッションへの参加状況50%。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業オリエンテーション
 第2回 カウンセリングの入門講義とレジュメの書き方指導
 第3回 テキスト 第1章 カウンセリングとは何か
 第4回 テキスト 第2章 カウンセリングの過程 (1): カウンセリングの過程、初回面接
 第5回 テキスト 第2章 カウンセリングの過程 (2): 動機づけのないクライエント
 第6回 テキスト 第3章 心の構造 (1): 自我と適応
 第7回 テキスト 第3章 心の構造 (2): 自我防衛と自己実現
 第8回 テキスト 第4章 カウンセラーの態度と理論 (1): カウンセリングにおける二律背反性
 第9回 テキスト 第4章 カウンセラーの態度と理論 (2): 態度と理論
 第10回 テキスト 第4章 カウンセラーの態度と理論 (3): カウンセラーの基本的態度
 第11回 テキスト 第5章 事例 (1): 事例報告の前提条件
 第12回 テキスト 第5章 事例 (2): 不登校の事例
 第13回 テキスト 第7章 カウンセラーとクライエントの関係 (1): 転移と逆転移
 第14回 テキスト 第7章 カウンセラーとクライエントの関係 (2): 限界設定の意味
 第15回 まとめとふりかえり

6. Special Information (留意事項)

講義内容にそって体験の内容を取り入れたり、レポートを課すことがある。

講義コード	26510001		
科目名	カウンセリング概論		
担当者	三好 智子		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	授業時間内に適宜紹介する。		
備考	臨床心理専攻必修 (平成25年度以後入学者に適用)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

カウンセリング・心理療法には、様々な理論や技法があり、そのもととなる考え方や背景にある人間観もまた様々である。他方、どんな理論や技法にも共通する、基本的な考え方、姿勢、話を聴くスキルなども存在する。本科目では専門的学習への基礎作りとして、カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴くスキルについて学ぶとともに、代表的な理論や技法について知ること、カウンセリング・心理療法について全般的に理解することを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. カウンセリング・心理療法の基本的な考え方、姿勢、話を聴くスキルについて、具体的に学ぶ。
2. カウンセリング・心理療法における代表的な理論や技法、背景にある人間観について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式で授業を行う。基本的には毎回レジュメを配布し、それに基づき授業を進める。
 2. 随時、確認のための小テストを行う。
 3. 体験的内容の授業の際には、小レポートの提出を求める。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
 必要に応じて授業中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、授業時間内に行う小テスト・小レポート (30%)、定期試験 (40%) から総合的に評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・カウンセリングとは何か
 第2回 カウンセリングと時代性
 第3回 科学とカウンセリング
 第4回 カウンセリングの枠組み・方法
 第5回 カウンセリングにおける見立て
 第6回 カウンセリングの過程①
 第7回 カウンセリングの過程②
 第8回 カウンセラーの姿勢と聴き方
 第9回 カウンセリングの理論と技法① (精神分析的な心理療法)
 第10回 カウンセリングの理論と技法② (クライエント中心療法)

- 第11回 カウンセリングの理論と技法③ (認知行動療法)
 第12回 カウンセリングの理論と技法④ (イメージを用いた技法)
 第13回 心の健康
 第14回 カウンセラーの訓練と倫理
 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

テーマにそって視聴覚教材や体験の内容を取り入れる。また、進行状況によって授業内容に変更が生じることがある。

講義コード	26510101		
科目名	無意識の心理学 心の深層を理解するために		
担当者	田中 誉樹		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	必要に応じて教員が準備する。		
参考文献	授業中に、適宜、紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

普段の生活の中で、私たちは、「自分には、そんなつもりはないのに、思わぬ失敗をしてしまった」というような経験をするのが、よくある。例えば、毎日顔を合わせている友達の名前を急に「度忘れ」したり、「いい間違え」たりするなどである。

また、別に怖い夢を見たいと思って眠る訳ではないのに、悪夢にうなされて目覚めたり、行ったこともない場所や見知らぬ人が夢の中に出てくるといったことも、多くの人が経験していることであろう。

私たちは、自分の「心」を、自分の意志する通りにコントロールしたいと思っている。

しかし、上にあげた例のように、他にもない自分自身の「心」であるにも拘らず、感情・態度・夢の内容を思うようにコントロールできないのも事実である。

Freud.Sは、このような、日常の何気ない「言い間違い」、「度忘れ」、「訳のわからない感情」「夢」などは、私たちの意志とは異なる原理、原則に則って機能する、普段は意識されていない心の働きによるものではないかと考え、これを「無意識」と呼んだ。

そして、神経症を始めとする様々な心理的問題の背景にも、この「無意識」が関与していると主張したのである。現代においても、「無意識」という概念は、精神分析的な方向性を持つ心理療法の基本的な前提となる概念である。

この講義では、主にFreud.Sの精神分析理論を概説し、無意識の基本的な機能、構造、性質などを概観することによって、より深い人間理解の眼を養うことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 精神分析における「無意識」発見の歴史について学び、「無意識」という心的領域の存在を想定するに到る過程を理解する。
2. 「無意識」が抽象的、思弁的な概念ではなく、私達の日常生活にも大きな影響を与えている現実的、経験的な現象であることを理解する。
3. 神経症、人格障害、統合失調症などの精神疾患や、自傷・自殺など、無差別殺人など、現代において問題となっている事柄と「無意識」との関係について理解する。
4. 自由連想、夢分析など、「無意識」を理解するための精神分析的方法についても言及する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講生にも発現、発表の機会を与える。適宜、ビデオ、パワーポイント、プロジェクター等の視聴覚教材を用いる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価については、以下のように行う。

本授業は、「出席したかどうか」ではなく、「如何に授業を受けたか」、すなわち受講態度の回数だけではなく質 (授業参加度) を評価の対象として重視する。出席していても、授業を聴くこと以外の行為 (居眠り、内職、私語、携帯を見るなど) が見られる場合は、これを「受講」とは認めず、教員の判断で欠席扱いとし、減点の対象とする。減点点数は、その態度の頻度、甚だしさ、等をもとに、教員の裁量で判断する。正当な理由なく無断欠席を繰り返している場合も同様である。1/3を超えて欠席した場合は、単位を修得できない。

授業評価は、基本的にレポート試験の評価、100点満点から「レポート内容上の誤り」および「遅刻、欠席」を減点する形で行う。

尚、忌引き、法定伝染病その他の病気、その他しかるべき理由により、やむを得ず欠席する場合は、授業の事前・事後に担当教員まで申告すれば、事情を勘案の上、「欠席」扱いとしない場合もある。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 「無意識」概念の臨床心理学における重要性について（臨床心理学の歴史から）
- 第2回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(1)…日常的な錯誤行為への注目
- 第3回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(2)…シャルコーのヒステリー治療
- 第4回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(3)…神経症と無意識(症例O, アンナ)
- 第5回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(4)…神経症症状と無意識(症例エリザベト嬢)
- 第6回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(5)…フロイトの自己分析
- 第7回 精神分析の誕生と「無意識」発見の過程(6)…夢と無意識
- 第8回 フロイトの人格論(1)…局所論
- 第9回 フロイトの人格論(2)…構造論
- 第10回 フロイトの人格論(3)…神経症のメカニズム
- 第11回 精神分析の方法(1)…治療法の発展（催眠から自由連想法へ）
- 第12回 精神分析の方法(2)…抵抗と徹底操作
- 第13回 精神分析の方法(3)…退行
- 第14回 精神分析の方法(3)…転移と逆転移
- 第15回 無意識と文化…フロイトの芸術論

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26510301			
科目名	家族心理学			
担当者	福山 幸子			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。			
参考文献	授業のテーマに沿ったものを授業時間内に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

私たちは誰もが家族としての体験をもっており、それぞれの家族観をもっている。しかし、その限定された体験から現代社会の家族の問題や現象を読み解くことはできない。私たちは家族についてのより広い視野を持ち、問題の背景を考えるべきではないだろうか。家族心理学は比較的歴史の浅い分野であるが、そのような理解を手助けしてくれる学問である。

本科目では、社会の最小単位として家族が成立し、家族関係が変化していく様子を改めて見直していく。その過程で現代の家族が直面している課題を様々な側面からとらえ、理解を深めるとともに、心理的援助の実践を学んでいく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 家族心理学の枠組みを知る
2. 家族とは何かということ問い直す
3. 家族への心理的援助の実践を学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

主として講義形式で行うが、必要に応じてグループでのディスカッションや発表を取り入れる。また、授業時にミニレポートを課し、学んだことを基に自分で考え、表現する力を養う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前回までの講義資料を見直し、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。興味をもった分野については図書館で文献を探し、自主的にさらに深く学ぶこと。また、メディアで取り上げられている家族心理学関連の情報を積極的に取り入れること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績評価は授業参加度および授業時のミニレポート(50%)、期末レポート及び提出課題(50%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション：家族心理学とは
- 第2回 家族とは何だろう①：家族システム理論
- 第3回 家族とは何だろう②：家族ライフサイクル

- 第4回 家族づくりの前の時期
- 第5回 家族の成立期
- 第6回 乳幼児を育てる時期
- 第7回 子育ての時期
- 第8回 若者世代とその家族
- 第9回 老年期の家族
- 第10回 家族とジェンダー
- 第11回 家族の中のコミュニケーション
- 第12回 家族への心理的援助の実際①：子育て支援
- 第13回 家族への心理的援助の実際②：夫婦関係の危機
- 第14回 家族への心理的援助の実際③：家族心理教育
- 第15回 まとめとふりかえり

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26510401			
科目名	パーソナリティ心理学			
担当者	向山 泰代			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	「性格心理学の技法」 杉山憲司・堀毛一也（編著） 福村出版 1999 「パーソナリティ心理学」 小塩真司（著） サイエンス社 2014 「パーソナリティ心理学」 榎本博明他（著） 有斐閣 2009 「パーソナリティと臨床の心理学」 杉浦義典・丹野義彦（共著） 有斐閣 2008			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、パーソナリティ形成や変化における個体内要因と環境要因の影響、パーソナリティと対人認知・対人行動等のトピックについて、具体的かつ日常的な例を通して学習する。また、パーソナリティに関する代表的アプローチである類型論、特性論、精神分析学、現象学、認知・行動主義等について講述し、各理論が基礎とする人間観について学ぶ。この他、パーソナリティの測定と査定についての基礎知識を習得するため、代表的な検査や測定法を紹介し、各方法の特徴について論じる。また測定や査定にあたっての心構えや倫理の問題にも言及する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. パーソナリティの形成や変化の要因について考える。
2. パーソナリティに関する代表的アプローチについて学ぶ。
3. パーソナリティの測定法およびその特徴について学ぶ。
4. 価値や道徳による評価とは異なる立場から、個人差を捉える視点を持つ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業中にプリントを配布するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

テキストは使用しない。講義の中で紹介する参考資料や書籍を各自が読み込み、学んだことを理解したり、深めたりすること。「心理学概論」「心理テスト入門」「心理テスト実習」の講義で学んだ性格や性格検査に関連する事項について復習し、この授業においても適宜参照できるようにしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業中に実施する到達度確認テスト（70%）、課題・提出物・授業への取り組み態度（30%）で評価する。授業への出欠に関しては、オーバーカットを適用する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 パーソナリティとは
- 第2回 パーソナリティ研究の歴史
- 第3回 パーソナリティ形成と変化の要因：遺伝と環境
- 第4回 パーソナリティの理論（1）：類型論と特性論
- 第5回 パーソナリティの理論（2）：精神分析理論からみたパーソナリティ
- 第6回 パーソナリティの理論（3）：行動理論からみたパーソナリティ
- 第7回 パーソナリティの理論（4）：認知理論からみたパーソナリティ

- 第8回 パーソナリティと対人認知
- 第9回 パーソナリティと対人行動
- 第10回 パーソナリティ測定史
- 第11回 パーソナリティ測定法：質問紙法
- 第12回 パーソナリティ測定法：作業検査法・投影法
- 第13回 パーソナリティ測定法：観察法・実験法・面接法
- 第14回 測定・査定における留意点と倫理
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業中に講義内容に関連した簡単な教材に反応を求めたり、作業を課したりすることがある。

講義コード	26510501			
科目名	心理療法概論 なぜ人の心は心理療法によって変わっていくのか			
担当者	多田 昌代			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	特に指定しない。			
参考文献	適宜、授業時間内に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

心理療法には様々な技法があり、理論、アプローチの仕方、何を重要と考えるかなどの点で異なっている。その一方で共通点も多く、異なる技法を組み合わせて使う折衷派・統合派のセラピストも多い。本科目ではそうした異なる技法の主要なものについて学び、その特徴を理解するとともに、心理療法全般に共通する点、普遍的に重要である点についても理解することを目標とする。またそうした学びから、なぜ人の心は変わるのかについて考えていく。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 多様な心理療法の理論・技法を理解する。
2. 各心理療法に共通の重要な点を理解する。
3. なぜ人の心は変わるのかについて考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 主として講義形式で行う。教科書は使用せず、毎回レジュメを配布してそれに応じた内容で進める。
2. 視聴覚教材の観賞を取り入れ、体験的理解を促す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

心理療法を行うには、長期の専門的訓練が必要となる。本科目は将来そうした訓練を受けることを希望する学生が受講することを想定している。参考文献を紹介するので、自ら意欲を持って学習して欲しい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業時間内に行う小テストと小レポート (50%)、定期試験 (50%) の総合評価とする。

欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 心理療法とは
- 第2回 精神分析療法・精神分析的な心理療法 (治療構造・転移・逆転移)
- 第3回 精神分析療法・精神分析的な心理療法 (抵抗・治療機序)
- 第4回 精神分析療法・精神分析的な心理療法 (フロイト以後の発展)
- 第5回 映画の中の心理療法① (力動的な心理療法の例)
- 第6回 映画の中の心理療法① (解説)
- 第7回 認知行動療法 (行動)
- 第8回 認知行動療法 (認知)
- 第9回 認知行動療法 (マインドフルネス)
- 第10回 プレイセラピー
- 第11回 箱庭療法
- 第12回 アートセラピー
- 第13回 映画の中の心理療法② (統合的・折衷的心理療法の例)
- 第14回 映画の中の心理療法② (解説)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26510601			
科目名	生活環境の心理学			
担当者	廣瀬 直哉			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『アフォーダンスの心理学—生態心理学への道』 エドワード・S・リード 新曜社 2000 『環境心理学—人間と環境の調和のために』 羽生和紀 サイエンス社 2008 『新版 アフォーダンス』 佐々木正人 岩波書店 2015			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

人間の行動は、すべて人間の内的過程 (脳における情報処理など) によって規定されるわけではなく、外部の様々な要因による影響を受ける。本科目では、私たちが生活している環境が私たちの行動にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目指す。具体的には、環境心理学・生態心理学の観点から、環境における知覚・認知・行為などについて研究を紹介し、人間と環境の関わりについて考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 環境の知覚・認知についての理解
2. 自然・都市環境の心理的影響についての理解
3. ギブソンの生態学的視覚論についての理解
4. 環境のアフォーダンスについての理解

3. Course Method (教育・学習の方法)

PowerPointや映像資料を使った講義形式とグループでのワークや演習などを組み合わせて行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等は配布またはwebから入手する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業前に授業資料を読んで予習しておく。また、Moodleから課題を提出する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

テストは行わず、課題提出(100%)に基づき評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 環境心理学とは
- 第3回 環境の認知
- 第4回 環境の評価
- 第5回 自然環境における行動
- 第6回 都市環境における行動
- 第7回 物理的痕跡
- 第8回 対人環境
- 第9回 学校・教室環境
- 第10回 環境ストレス
- 第11回 アフォーダンスの知覚
- 第12回 デザインとアフォーダンス
- 第13回 環境行動の観察
- 第14回 身体と環境の関係
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業資料の入手、レポートの提出はMoodleを使って行う予定である。

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

講義コード	26510701			
科目名	現代社会調査入門 リサーチリテラシーを身につけよう			
担当者	松島 るみ			
単位数	2	配当学年	1	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員150人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会調査は、学術的な関心によって行われるだけではなく、官公庁やマスメディア、一般企業におけるマーケティング（市場調査）、実態調査など幅広い領域で利用される方法である。本講義では、社会調査の目的、意義、倫理、量的調査や質的調査の方法を中心に説明を進める。さらに、新聞やテレビ等のマスメディアで取り上げられる様々な調査について、実例を挙げ、適切な社会調査の実施や結果の見方を学ぶことを目的とする。そして、調査データを正しく読み取る力、リサーチ・リテラシーを身につけることを目指したい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・社会調査の目的と調査の種類を修得する。
- ・社会調査の過程（調査内容、調査対象の決定、実施方法、分析方法）を修得する。
- ・社会調査結果の見方や問題点を捉える力を修得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・講義形式で進める。
- ・毎回授業後に、授業内容のコメントを求める。
- ・社会調査の実例を探したり、問題点を見つける等、受け身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。
- ・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。その際、本やインターネットの丸写し等機械的な予習にならないように気をつけること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

持ち込みなしの期末テスト（75%）、毎回の予習・振り返り（25%）により総合的に判断する。欠席が授業回数 $1/3$ を超えた場合、原則として期末テストは受けられない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション 社会調査とは
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査の目的
- 第4回 社会調査の方法1（課題の設定）
- 第5回 社会調査の方法2（調査の積み上げと活用）
- 第6回 社会調査の倫理
- 第7回 量的調査（方法）
- 第8回 量的調査（事例）
- 第9回 質的調査（方法）
- 第10回 質的調査（事例）
- 第11回 世論調査・マーケティングリサーチ
- 第12回 国勢調査と官庁統計
- 第13回 質問紙調査法の基礎
- 第14回 フィールドワーク
- 第15回 インターネット調査

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26510801			
科目名	産業心理学			
担当者	石田 正浩			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	特になし			
参考文献	『産業・組織心理学エッセンシャルズ改訂三版』 田中堅一郎編 ナカニシヤ出版 2011 『新版 組織行動のマネジメント』 スティーブンP. ロビンズ ダイアモンド社 2009			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

組織と関わる中で生じる心理・行動上の問題を、心理学の概念を用いて理解し、対処が考えられるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・ワークモチベーションの高低が生じる仕組みを理解する。
- ・組織・キャリアへコミットすることの意義を理解する。
- ・集団生産性・リーダーシップの有効性を規定する要因を理解し、集団作業を効率的に進める際の対処の視点を獲得する。
- ・組織ストレスの特徴を理解し、その対処法を考えられるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

基本は講義形式だが、毎回、授業時間の最後に授業内容の振り返りを行い、質問・コメントを書く。次の時間のはじめに、前回の復習と学生からの質問に答え、コメントの概要をフィードバックする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎時間、授業の最後に次回につながる小課題を出す。それを考えることで、次回の授業の予習とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入：産業心理学とは
- 第2回 ワークモチベーション1 基本概念、欲求階層説
- 第3回 ワークモチベーション2 内容理論
- 第4回 ワークモチベーション3 過程理論
- 第5回 応用行動分析
- 第6回 ワークモチベーション理論と実践 目標管理・成果主義・ジョブデザイン
- 第7回 組織とキャリアへのコミットメント
- 第8回 集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
- 第9回 集団生産性2 シュタイナーの課題分類とパフォーマンス
- 第10回 集団生産性3 集団意思決定
- 第11回 リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
- 第12回 リーダーシップ2 条件即応理論
- 第13回 リーダーシップ3 変革型リーダーシップ、LMX
- 第14回 組織ストレス1 基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
- 第15回 組織ストレス2 パンアウト、ストレス管理
総括

6. Special Information (留意事項)

授業内容は、授業時間までに新たに学習すべき内容が発生することがあるので、その場合は柔軟に変更していく。

講義コード	26511001			
科目名	現代社会調査演習 I			
担当者	尾崎 仁美			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。現代社会調査演習Ⅰでは、「大学生活」に関わるテーマについて、受講生がいくつかのグループに分かれ、各班で小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。各班から出された質問項目を元に質問紙を完成させ、調査の実施、データ入力を行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・演習室において、実習・演習形式で行う。
- ・調査の企画・立案、分析・報告などは少人数のグループで行う。
- ・グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に指示するが、「質問紙調査法」や「現代社会調査入門」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、授業後の小レポートや課題の提出、および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 調査の企画
- 第3回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第4回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第5回 先行研究・文献の収集、整理
- 第6回 仮説の構成
- 第7回 質問項目・尺度の資料収集
- 第8回 質問項目・尺度の検討
- 第9回 質問紙の作成
- 第10回 質問紙の完成
- 第11回 調査の実施に向けて
- 第12回 調査の実施
- 第13回 データ入力
- 第14回 エディティング
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

現代社会調査演習Ⅱと合わせて履修すること。

講義コード	26511101			
科目名	現代社会調査演習Ⅱ			
担当者	尾崎 仁美			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。現代社会調査演習Ⅱでは、現代社会調査演習Ⅰで得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
2. 統計的検定の基本概念を理解する。
3. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
4. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・演習室において、実習・演習形式で行う。
- ・調査の企画・立案、分析・報告などは少人数のグループで行う。
- ・グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に指示するが、「心理統計法」や「推測統計学」で学んだ内容を復習

しながら授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、授業後の小レポートや成果発表、報告書、最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第2回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第3回 相関係数①分析の実施
- 第4回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第5回 t検定①分析の実施
- 第6回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第7回 分散分析①分析の実施
- 第8回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第9回 χ^2 検定①分析の実施
- 第10回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第11回 仮説の検証
- 第12回 成果発表に向けての準備
- 第13回 成果発表
- 第14回 報告書案の作成
- 第15回 報告書の完成

6. Special Information (留意事項)

現代社会調査演習Ⅰと合わせて履修すること。

講義コード	26520001			
科目名	臨床相談演習			
担当者	三好 智子・鶴田 薫・福山 幸子			
単位数	2	配当学年	3	
資格				
前提科目	「臨床相談実習」※H25年度以後入学者に適用			
テキスト				
参考文献				
備考	定員30人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

臨床相談実習のアドバンス編であり、大学院進学志望者や、心理臨床の技法をより専門的に学びたい人のための実践科目である。臨床相談実習における学びを踏まえ、より専門性の高い技法について体験的に学ぶ。具体的には、臨床心理査定技法A・B (知能検査・パーソナリティ検査)、臨床心理面接の技法、の3演習を順に行う。実際に体験することで、各技法の特徴を体験的に理解するとともに、各技法を用いる上でどのような事柄に留意する必要があるのか、留意点や危険性についても学んでいく。また、演習によっては、受講者同士でロールプレイを行い、セラピストや検査者の役割を体験することで、実践的技能的基礎を学ぶ。各演習終了後は、レポートを作成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 臨床相談実習を踏まえ、より専門性の高い心理臨床の技法を体験的に学ぶ。
2. 各技法を用いる上で留意点や危険性について、体験を通して学ぶ。
3. 受講者同士でロールプレイを行い、セラピストや検査者の役割を体験することで、実践的技能的基礎を学ぶ。
4. 各演習終了後、レポートを作成する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

演習形式。1つの演習は4回かけて行う。#1のオリエンテーションのうち、受講生は3グループに分かれ、3つの演習を順に行っていく。#14は全体演習、#15はまとめの授業を行う。各演習終了後は、レポートを作成する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

臨床心理査定および臨床心理面接に関する3年次までの学習を適宜復習すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

体験的な内容を多く含むため、毎回の参加が前提となる。その上で、各演習での取り組みの姿勢(50%)、演習ごとに課されるレポートの内容(50%)から、総合的に評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨床心理査定技法A① (WISC-IVの概要)
- 第3回 臨床心理査定技法A② (ロールプレイの練習)
- 第4回 臨床心理査定技法A③ (ロールプレイ)
- 第5回 臨床心理査定技法A④ (結果の監視)
- 第6回 臨床心理査定技法B① (ロールシャッハ・テストの概要)

- 第7回 臨床心理査定技法B② (テスト体験)
- 第8回 臨床心理査定技法B③ (結果の解釈)
- 第9回 臨床心理査定技法B④ (症例検討)
- 第10回 臨床心理面接技法① (ロールプレイの概要)
- 第11回 臨床心理面接技法② (ロールプレイ実践 インテーク面接)
- 第12回 臨床心理面接技法③ (ロールプレイ実践 沈黙)
- 第13回 臨床心理面接技法④ (ロールプレイ実践 相植)
- 第14回 全体演習
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

1. グループごとに3つの演習を順に行っていくため、演習の順序はグループによって異なる。
2. 体験的な学びの場であるため、自分自身、そして他の受講生の体験を尊重し、大切に扱う心構えで臨むこと。

講義コード	26521001			
科目名	心理・教育フィールド研修 a 自然と遊ぼう！			
担当者	伊藤 一美、小川 博士、薦田 未央、 高井 直美、藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	1234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

地域の子どもや家族と大学生が、自然素材を活用し、野外や屋内で交流する。年2回実施予定の「自然と遊ぼう！」プログラムに企画段階から関わることを通して、地域社会への能動的発信力や対人関係スキルを身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①自然科学の面白さ・不思議さを子どもに伝える力・感性を身につける
- ②新たな遊びを考案する創造力を養う
- ③他者と共同作業を行う際の協調性を身につける
- ④幼児・児童の心理や関わり方を実践的に学ぶ
- ⑤イベント情報を発信するためのスキルと作法を学ぶ

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ①教員によるオリエンテーション
- ②グループでの自然科学体験 (観察や実験など) および遊びの企画
- ③参加者募集のチラシ作成
- ④フィールドの下見や実施の準備
- ⑤「自然と遊ぼう！」の実施
- ⑥討論による振り返りとショートレポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

身近な自然 (草木花、木の実、昆虫、自然現象など) に興味を持ち、観察や実験を行う。

自然物や身近なものを使った造形遊びやゲームのアイデアを広げる。

身近にいる子どもに関心を持ち、どのくらいの年齢の子どものような行動をするか、何に興味を示すか、しっかりと観察する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度80%、ショートレポート20%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「自然と遊ぼう！①」を実施する野外フィールドに出かけ、企画のイメージ作りと、実施に関する準備。
- 第3回 「自然と遊ぼう！①」の企画・実施案に関する準備を行う。自然体験企画と遊び企画のグループに分かれて準備を行う。
- 第4回 「自然と遊ぼう！①」の実施
- 第5回 「自然と遊ぼう！①」についての振り返り (ショートレポートを作成)
- 第6回 「自然と遊ぼう！①」の振り返りに基づき、「自然と遊ぼう！②」の企画案を作成・提出する。
- 第7回 全体会で「自然と遊ぼう！②」の企画案についてまとめ、枠組みを決める。自然体験企画と遊び企画のグループに分かれる。
- 第8回 各グループで「自然と遊ぼう！②」で行う企画を整理し具体的な実施案を検討する。
- 第9回 各グループで、企画で使用する素材の試作を行う。
- 第10回 「自然と遊ぼう！②」を実施する野外フィールドに出かけ、グループごとに試作を実践的に試行してみる。
- 第11回 各グループで野外での試行に基づき修正・準備を進める。
- 第12回 各グループで修正した企画の準備を進める。
- 第13回 各グループで実践の最終準備を行う。

第14回 「自然と遊ぼう！②」の実施

第15回 「自然と遊ぼう！②」についての振り返り (ショートレポートを作成)

6. Special Information (留意事項)

授業日時は不定期 (土曜、日曜も含む) となるため、登録前に必ず確認しておくこと。

講義コード	26521101			
科目名	心理・教育フィールド研修 b マーケティング・リサーチの基本を身につけよう			
担当者	松島 るみ、尾崎 仁美			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員20人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会調査に関する知識を背景に、企業や店舗が行うマーケティング・リサーチや商品企画開発に関する一連の調査過程について体験することを目標とする。企業や店舗の現状を把握した上で、課題設定・調査・分析を行い、最終的には協力企業や店舗に対して、分析結果を踏まえた具体的な提案を行うという一連の過程を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ①社会調査の一連の過程 (問題の設定・調査の実施及び分析・結果の解釈) を学ぶ。
- ②マーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。
- ③分析結果について発信する力を身につける。
- ④日頃から消費者心理や消費者行動に関心を持ち、課題を設定したり、問題解決する能力を養う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ①事前指導として、社会調査やマーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。
- ②協力企業や協力店舗に関する情報の共有及び課題の設定を行う。
- ③調査内容の検討と調査実施、データ分析と結果のまとめを行う。
- ④協力企業や協力店舗への結果報告会を実施し、調査結果をどの様に活用出来るかの提案を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

「心理統計法Ⅰ・Ⅱ」や「現代社会調査入門」を受講していることが望ましい。授業前に出された課題や作業は必ず次の授業までに完成させておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度・他者との協働 (50%)、結果の分析・プレゼンテーション (40%)、ショートレポート (10%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーションと心構え
- 第2回 社会調査の基礎
- 第3回 マーケティング・リサーチの基礎
- 第4回 協力企業または協力店舗担当の打ち合わせ
- 第5回 課題の設定・企画
- 第6回 調査項目の収集
- 第7回 調査用紙の作成
- 第8回 調査データの入力
- 第9回 調査データの分析 (基礎的統計)
- 第10回 調査データの分析 (統計的検定)
- 第11回 調査結果の考察
- 第12回 調査結果を協力企業や店舗でどの様に役立てるかの検討
- 第13回 報告書の作成
- 第14回 結果報告会
- 第15回 まとめと振り返り

6. Special Information (留意事項)

時には、授業の時間外にもデータ分析や報告書の作成等を行うことがあるが、本研修では学外の企業や店舗に協力して頂くため、決められた期間内に受講生が協力して作業を行うことが求められる。責任感を持って、最後までやり遂げられる学生の受講を求める。

授業日時は不定期となるため、登録前に日程を必ず確認し、登録後は全ての授業・実習に参加すること。

講義コード	26521201			
科目名	心理・教育フィールド研修c 教育現場の観察実習			
担当者	大西 慎也, 小川 博士, 工藤 哲夫, 古庵 晶子, 神月 紀輔, 薦田 未央, 住本 純, 高井 直美, 藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に紹介する			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

幼稚園・小学校・障害児施設などの観察実習を行い、それぞれの教育現場の現状を知り、その後履修する教育実習などに備える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

①教育現場での子どもの姿をていねいに見る ②教育現場における指導者の言動の意義を理解する ③教室や廊下など施設をどのように活用しているのかを細かくとらえて観察する ④教育現場が全体としてどのように機能しているのかを知る ⑤教育現場での観察実習におけるふさわしい態度・服装などを考え実践する

3. Course Method (教育・学習の方法)

①教員によるオリエンテーション ②教育現場の観察計画の立案 ③教育現場の見学 ④見学後の振り返り、まとめの発表とレポート
・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

自分の子どもの頃の学習の記録・学習の作品類を見直すことで、幼稚園・小学校・障害児施設などのそれぞれの教育現場で、子どもの姿はどのようなものなのか、指導者の言動はどのようなものかなどの観察の観点を整理しておく。また、観察実習する者としての、態度・服装なども充分考えておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度70%・まとめの発表とレポート30%

なお、集中講義・観察実習中心の授業なので、教育現場での観察実習はすべて出席すること

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 幼稚園での観察実習の計画立案
- 第3回 幼稚園での観察実習
- 第4回 幼稚園での観察実習(第3回の続き)
- 第5回 幼稚園での観察実習のふりかえり、まとめと発表
- 第6回 小学校での観察実習の計画立案
- 第7回 小学校での観察実習
- 第8回 小学校での観察実習(第7回の続き)
- 第9回 小学校での観察実習のふりかえり、まとめと発表
- 第10回 障害児施設での観察実習の計画立案
- 第11回 障害児施設での観察実習
- 第12回 障害児施設での観察実習(第11回の続き)
- 第13回 障害児施設での観察実習のふりかえり、まとめと発表
- 第14回 すべての教育現場での観察実習をふりかえり、比較対照できるまとめを作成する。
- 第15回 まとめ発表会を行い、レポートを作成する。

6. Special Information (留意事項)

授業日は不定期(土曜日、日曜日も含む終日を使用することもある)となるため、登録時に必ず確認すること。また、訪問する教育現場の種類・訪問教育現場数・訪問順なども、シラバス通りではない可能性があるため、登録時に確認すること。観察実習にふさわしい態度・服装などにこころがけること。

講義コード	26521301			
科目名	心理・教育フィールド研修d 現場研修を通じて臨床心理学を学ぶ			
担当者	空間 美智子, 河瀬 雅紀, 佐藤 睦子			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	定員15人			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

臨床心理学が必要とされる実践現場は、一昔前よりも裾野が広がってきている。心の専門家が活躍している場面は、医療・教育・産業・福祉・司法領域などの様々な現場である。これは、臨床心理学がたくさんの人に必要とされていると捉えても良いだろう。そこで、本研修では、それぞれの教員が経験を重ねてきたフィールドの現場に赴き、臨床心理学が実際にどのように役に立っているのかを学ぶことを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

受講生は、医療・教育・福祉など臨床心理地域援助に関わる施設研修を必須とする。さらに、施設研修において事前事後の指導を受け、施設研修の意義やその振りかえりによって、施設研修の意義を深める。事後指導においては、研修によって感じたことをレポートとして提出し、さらに施設研修を終えた時には、それぞれの施設を通じて得られた知識についてレポートを作成し、それをもとにグループディスカッションを行う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

担当教員が専門とする医療・教育・福祉などの各領域における施設研修を通じて、臨床心理学が現場でどのように役立っているのかについて学ぶ。学生は、それぞれの施設見学について、事前指導後、各領域での施設研修に臨む。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

臨床心理学が、医療領域・教育領域・福祉領域などの中でどのように活用されているのかを文献を通じて熟知した上で、事前指導に臨んでほしい。そのような知識が全くないままに研修を行うことは、研修先に対して失礼となりうることも知っておくべきである。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

学外研修であるため、全回の出席が前提となる。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、研修に対する取り組みの姿勢、振り返りレポートの内容から総合的に評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 施設見学医療/福祉領域①事前指導
- 第3回 医療/福祉領域①施設見学(1)
- 第4回 医療/福祉領域①施設見学(2)
- 第5回 施設見学医療/福祉領域①事後指導
- 第6回 施設見学医療/福祉領域②事前指導
- 第7回 医療/福祉領域②施設見学(1)
- 第8回 医療/福祉領域②施設見学(2)
- 第9回 施設見学医療/福祉領域②事後指導
- 第10回 施設見学教育領域事前指導
- 第11回 教育領域施設見学(1)
- 第12回 教育領域施設見学(2)
- 第13回 施設見学教育領域事後指導
- 第14回 各施設見学の振り返りレポート作成
- 第15回 レポート返却とディスカッション

6. Special Information (留意事項)

本研修は、実際に対象者を受け入れている施設に何って見学させてもらうと言う大変貴重な経験ができるものである。そのため、事前事後指導・見学における遅刻欠席は、社会的常識をもってしても許されるものではない。自分の将来を見据えて、真摯に取り組もうとする学生の参加を待っている。

講義コード	26801201		
科目名	神経心理学 心と行動の不思議を脳から探る		
担当者	河瀬 雅紀		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献	『脳のふしぎ-神経心理学の臨床から』 山鳥 重 そうろん社 2003 『神経心理学入門』 山鳥 重 医学書院 1985		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

神経心理学は、話す、理解する、想像する、道具を使うなど日常生活のさまざまな行為を可能にしているメカニズムを脳の働きから理解する、心理学と医学に関連した学問領域である。そこで、授業の内容を理解するためには、心理学に関する十分な知識と論理的な思考が要求され、また講義後の復習が重要である。

本科目では、

「大脳の主な構造と機能を神経心理学の専門用語を用いて説明することができる」「人間の心理・行動を脳のメカニズムから説明することができる」「子どもの発達障害に関連する症状を脳のメカニズムから説明することができる」ことを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 大脳皮質の構造(葉、回など)と機能局在を説明できる。
2. ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語について説明できる。
3. 観念運動失行のメカニズムについて説明できる。
4. 各種視覚失認の違いを述べる事が出来る。
5. 純粋失読のメカニズムについて説明できる。
6. プレインイメージングを用いた実験から顔認知や表情認知のメカニズムを説明できる。
7. プレインイメージングを用いた実験からワーキングメモリーのメカニズムを説明できる。
8. プレインイメージングを用いた実験から心の理論と関連した脳のメカニズムを説明できる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. プリントを配布する。プリントには必要な基礎事項を掲載する。
2. 講義にはスライドや視聴覚教材も用いる。スライドでは、図を多く用いて理解の助けとする。

3. 授業後は配布プリントを用いて必ず復習をする

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

参考図書などで該当箇所を予習する

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(15%)と定期試験(85%)により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 神経心理学とは。脳の構造について(1)-ヒトの脳の特徴とは-
- 第2回 脳の構造について(2)-ヒトの脳の特徴とは-
- 第3回 失語症(1)「言っている意味はわかるのに、伝えることができない」
- 第4回 失語症(2)「話すことが出来るのに、人の言っていることが理解できない」
- 第5回 失語症(3)「言っている意味はわかるのに復唱ができない」
- 第6回 失行について(1)「目の前の道具の使い方は分かっているのに、使うことができない」
- 第7回 失行について(2)「わかっているのに、身振りの動作ができない」
- 第8回 失認について(1)「字が書けるのに字が読めない(失読)」など
- 第9回 失認について(2)-視覚性失認について-「顔を見ても誰かわからない、住みなれた街がどこなのかかわからない」など
- 第10回 心の理論と脳(1)
- 第11回 ワーキングメモリーについて
- 第12回 心の理論と脳(2)
- 第13回 情動について
- 第14回 まとめ(1)
- 第15回 まとめ(2)

6. Special Information (留意事項)

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント(レジュメ)を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	26801401		
科目名	知覚心理学		
担当者	古賀 一男		
単位数	2	配当学年	234
資格	[情]		
前提科目			
テキスト	『知覚の正体』 古賀一男 河出書房新社 2011		
参考文献	『心理学研究法 1』 村上郁也(編) 誠信書房 2011 『感覚知覚の科学 視覚 I』 篠森敬三(編) 朝倉書店 2007 『新編 感覚・知覚・心理学ハンドブック』 大山・今井・和氣(編) 誠信書房 1994 『新編 感覚・知覚・心理学ハンドブック Part 2』 大山・今井・和氣・菊池(編) 誠信書房 2007		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学はその黎明期から知覚と感覚の研究に始まり今日に至っている。それは心理学がどのような学問から派生したことに深く関係している。もとより心理学は生理学の一分野であるヒトの知覚と感覚の中核機能を研究するところから始まり、周辺の研究領域である医学、神経科学、生理工学と緊密な連絡を持ちながら軸足を知覚の研究の中核機能の解明においている。一報、他方の足を認知科学にも踏み込んでいることも確かである。もちろん心理学全体の研究領域は広い範囲をカバーしているが、本講義では知覚を中心にヒトの行動を解説することを目的とする。その応用的な研究として例えば宇宙飛行士の行動を例として視知覚と地球の重力との関係についても話題を広げる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 知覚の成立過程の生理学の基礎を末梢と中枢について学ぶ。2) 知覚の種類を末梢と中枢の双方について学ぶ。3) 知覚の中の視覚について詳しく解説する。4) 視覚と運動の関係、とりわけ眼の動きと運動知覚の関係について学ぶ。5) 知覚と『芸術』の関係について学ぶ。6) 異なる複数の知覚(感覚)が関連する複合感覚について解説する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

各種の視聴覚教材を用いて知覚の様々な機能を多面的に学習する。必要な資料は事前に配布するが各自が学内のLANから取得する場合もある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に配布された資料を講義の前と後共に十分に読みこなし理解すること。また参考文献のいくつかを副読本として読みながら受講することが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験で評価をおこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義計画の紹介と目的の解説
- 第2回 知覚の成立(1) 知覚の成立
- 第3回 知覚の成立(2) 視覚の成立機構
- 第4回 知覚の成立(3) 視覚が成立する様々な要件
- 第5回 知覚の機能(1) 末梢機能(視覚機能を中心に)
- 第6回 知覚の機能(2) 末梢機能(触覚、筋感覚、前庭感覚を中心に)
- 第7回 知覚の機能(1) 中枢機能(ブロードマン地図について)
- 第8回 知覚の機能(2) 中枢機能(ホムンクルスの感覚、運動中枢機能)
- 第9回 知覚の機能(3) 中枢機能(大脳以外の中枢機能)
- 第10回 運動と知覚
- 第11回 視覚と運動機能(1) 視覚と重力
- 第12回 視覚と運動機能(2) 視覚と眼球運動
- 第13回 視覚と芸術(1) 美醜の視覚機能
- 第14回 視覚と芸術(2) 対象型と視覚機能
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26801601			
科目名	認知心理学			
担当者	森下 正修			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[教][日][情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『対話で学ぶ認知心理学』 塩見邦雄 ナカニシヤ出版 2006 『認知心理学—知性のメカニズムの探求』 太田信夫・邑本俊亮・永井淳一 培風館 2011 『日常認知の心理学』 井上毅・佐藤浩一 北大路書房 2002 『認知心理学』 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010 『イラストレチャー 認知神経科学』 村上郁也 オーム社 2010			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味します。人が日常でおこなう様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれます。

顔や表情を認識すること。心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること。何かに注意を向けたり記憶したりすること。言葉を理解し、推理をしたり判断をしたりすること。そして、それらの情報処理を感情とのかかわりの中でおこなうこと。

学生は、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようになります。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 上記のような人の認知に関わる心理学理論を理解すること
2. 認知的な実験課題やデモに触れ、理論に対する具体的なイメージをもつこと
3. 日常の認知行動と、心理学的な説明を対応づけること
4. 人の認知行動と脳との関連を理解すること

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業の実施方法：独自に作成したプリントを配布し、PowerPointによるスライドで講義を進めます
2. 学習の方法（初回ガイダンスで説明します）：予習として、上記の認知行動が日常のどのような行動に当てはまるかを事前に考えてもらいます

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

参考文献に挙げた認知心理学の概論書んだり、人の心・行動に関する科学ニュースをチェックしたりしておく、講義が理解しやすくなると思います。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度（30%）と最終テスト（70%）により総合的に評価します。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、認知心理学の歴史と内容、研究手法
- 第2回 顔の認知① 顔の知覚
- 第3回 顔の認知② 顔の記憶
- 第4回 物体の認知、イメージ
- 第5回 記憶① 記憶の意味、感覚記憶
- 第6回 記憶② 短期記憶、長期記憶
- 第7回 記憶③ 日常の記憶①
- 第8回 記憶④ 日常の記憶②、記憶と脳
- 第9回 言語理解
- 第10回 注意① 視覚的注意
- 第11回 注意② 視覚的注意の障害、聴覚的注意
- 第12回 注意③ 注意資源、アクションスリップ
- 第13回 問題解決、推論
- 第14回 空間認知、認知地図
- 第15回 認知と感情

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26802001			
科目名	心理関係法規論 心理臨床場面での法と倫理			
担当者	大畑 好司			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献	『心の専門家が会える法律 第3版～臨床実践のために～』 佐藤監修、津川・元永編 誠信書房 2009 『ケースブック心理臨床の倫理と法』 松田・江口・正木編 知泉書房 2009 『社会福祉小六法2015』 ミネルヴァ書房編 ミネルヴァ書房 2016 『カウンセラーのための法律相談～心理援助をささえる実践的Q & A～』 <心理臨床と法>研究会編 新曜社 2009			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

現在、心理臨床家は、教育、医療、福祉、司法、産業などのさまざまな領域や職場で働いている。そこでは心理アセスメントや心理療法の技法を駆使して業務を遂行している。心理臨床場面で必要となる法の概要を理解し、どのような問題が法や職業倫理に結びついているかを理解する。また、法を理解することが心理臨床を進めるうえでどのように必要になるかを論じることができる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 心理臨床家としての倫理の理解
2. 心理臨床家が働く領域、関連する職種
3. 各領域と関連する法律等の知識の習得
4. 各領域の心理臨床実務の理解
5. 各臨床場面での具体的事例を通じた現場実務への理解

3. Course Method (教育・学習の方法)

新聞記事やパワーポイントなどの視聴覚教材を利用した講義形式が中心となる。また、実務での具体的な問題場面や社会事象を提示し、班別討議しながら理解を深め、さまざまな意見があることを学ぶ。授業で学んだ社会事象への法的な理解に関するレポートを課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

新聞やテレビ、インターネット等で、医療、保健、福祉、教育、司法等々に関する様々な社会的事象に触れ、その行政的、法的側面についての問題意識を明確にして授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度（50%）、レポート課題等（50%）にて評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 法と倫理（インフォームドコンセント、守秘義務等）
- 第2回 心理臨床に関係する法律全般（婚外子の問題等）
- 第3回 医療領域に関する関連法規（HIVの問題を含む）
- 第4回 LGBT等をめぐる諸問題
- 第5回 夫婦・家族の心理臨床と関連法規（離婚等）
- 第6回 親子の心理臨床と関連法規（親権等）
- 第7回 刑事法に関する問題（犯罪被害者等）
- 第8回 自死の問題（安楽死の問題等）
- 第9回 少年法に関する問題（非行に関する理解とその対処）
- 第10回 学校教育と法律（インクルーシブ教育等）
- 第11回 学校現場での問題と法律（いじめ等）
- 第12回 社会福祉関係に関する法律（障害者の権利条約等）
- 第13回 児童福祉に関する法律と問題（里親等の問題）
- 第14回 児童虐待に関する法律と問題
- 第15回 労働災害に関する法律と問題（過労死等）

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26802101		
科目名	心理学情報処理 A 心理データの処理と解析		
担当者	松島 るみ		
単位数	2	配当学年	3
資格	[情]		
前提科目	推測統計学Ⅰ・Ⅱ		
テキスト			
参考文献			
備考	定員45人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

講義コード	26802102		
科目名	心理学情報処理 B 心理データの処理と解析		
担当者	松島 るみ		
単位数	2	配当学年	3
資格	[情]		
前提科目	推測統計学Ⅰ・Ⅱ		
テキスト			
参考文献			
備考	定員45人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

情報処理とは入力されたデータに何らかの加工を施して情報をあらわにすることである。したがって、この科目では、心理学の実験・調査において得られた数値的・非数値的なデータを、コンピュータを利用して解析することによって、心理学的事実を見つけ出す技法に習熟することを目的とする。

統計学の基礎的な知識の上に、統計解析に関わる知識の獲得と統計解析プログラムソフトの活用技法について習得しなければならない。あわせて、データをコンピュータ処理する場合のさまざまな問題点(データ入力でのエラー、処理プログラムの適用エラーなど)について認識を深めることが期待される。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 測定及び記述統計学の基礎知識を獲得していること。
- 2) Excel, SPSSの基本操作に習熟すること。
- 3) 統計的検定の基本概念を理解すること。
- 4) 分散分析の概念を理解すること。
- 5) 多変量解析の概要を理解すること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・授業は演習室での実習・演習形式で行う。
・統計解析について考え方を理解することと適用方法を具体的に把握するために、各自でコンピュータ操作をしなければならない。時には授業時間以外の時間帯にコンピュータ操作が必要となることもある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

「心理統計法」「推測統計学」の授業内容を常に復習しつつ授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

各分析ごとの課題提出(各分析法の解説の後、その分析プログラムを実行し、得られた結果をもとに文章化する)(50%)と最終課題の内容(30%)および授業参加度(20%)により、総合的に評価を行う。なお、遅刻、欠席は減点の対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 統計学基礎知識の復習
- 第2回 統計的検定の考え方の復習
- 第3回 ExcelとSPSSの基礎操作の確認
- 第4回 相関係数の解説、相関係数の算出と結果の記述
- 第5回 t検定の概要と解説
- 第6回 t検定の実行と結果の記述
- 第7回 分散分析の概要と解説
- 第8回 1要因分散分析(被験者間要因)の実行と結果の記述
- 第9回 1要因分散分析(被験者内要因)の実行と結果の記述
- 第10回 2要因分散分析の実行と結果の記述1(2要因被験者間)
- 第11回 2要因分散分析の実行と結果の記述2(2要因被験者内)
- 第12回 2要因分散分析の実行と結果の記述3(2要因混合計画)
- 第13回 多変量解析の概要と解説、因子分析の概要の解説
- 第14回 因子分析の実行と結果の記述

第15回 重回帰分析の概念の解説と実行および結果の記述

6. Special Information (留意事項)

受講者の進捗状況によって、授業内容が入れ替わることがあったり、時間的制約のためある種のプログラムの実行が省略されることがなくはないが、予定している項目は上記の通りである

講義コード	26802201		
科目名	心理学英文講読		
担当者	中村 千珠		
単位数	2	配当学年	34
資格			
前提科目			
テキスト	心理学の文献を適宜配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この授業では、心理学演習や実験、卒業論文の準備などをする際に必要となる、心理学の英語文献を自力で読めるようになるため、心理学の主要分野からいくつかトピックを選び読解することで、専門用語、基本的概念を英語により確認し、習得することを目的とする。さらに、英語の論文を通じて、最新の心理学の知見に触れる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 心理学の専門用語や基本的概念を英語により確認し、意味を理解する。
2. 心理学の英語の文献や論文の内容を理解できるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 各自が、適宜配布した文献を丁寧に和訳して授業に臨む。
2. 授業による読解を通して、各自の理解度をチェックする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に配布した文献を予習することを基本とする。理解できない用語は各自調べておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表など授業への参加状況50%、まとめの課題50%で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献読解 発達心理学1
- 第3回 文献読解 発達心理学2
- 第4回 文献読解 学習心理学1
- 第5回 文献読解 学習心理学2
- 第6回 文献読解 認知心理学1
- 第7回 文献読解 認知心理学2
- 第8回 文献読解 人格心理学1
- 第9回 文献読解 人格心理学2
- 第10回 文献読解 臨床心理学1
- 第11回 文献読解 臨床心理学2
- 第12回 論文紹介
- 第13回 論文紹介
- 第14回 論文紹介
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

事前予習が不可欠である。

講義コード	24525801			
科目名	精神医学Ⅰ 精神医学の基礎を理解する			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』伊藤哲寛 ミネルヴァ書房 『うつ病 知る・治す・防ぐ』福居顯二 金芳堂 『医療心理学』忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』河瀬雅紀 金芳堂 精神保健福祉士資格取得を目指す場合は、「精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学」を利用することを勧めます			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26802301			
科目名	精神医学Ⅰ 精神医学の基礎を理解する			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』伊藤哲寛 ミネルヴァ書房 『うつ病 知る・治す・防ぐ』福居顯二 金芳堂 『医療心理学』忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』河瀬雅紀 金芳堂 精神保健福祉士資格取得を目指す場合は、「精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学」を利用することを勧めます			
備考	[旧]精神保健学(学校心理専攻平成23年度以前入学者は他専攻科目)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解していく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者の支援のあり方について説明することができる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 統合失調症の特徴と治療・対応について説明できる
2. 躁病・うつ病の特徴と治療・対応について説明できる
3. 各種神経症性障害の特徴と治療・対応について説明できる
4. 統合失調症と躁病・うつ病、神経症性障害の違いについて説明できる
5. 摂食障害の特徴と治療・対応について説明できる

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で、参考図書、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する毎回の講義後、配付資料および参考図書などにより復習をする

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

該当箇所を参考図書で予習する

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・授業態度(15%)と定期試験(85%)により総合判断する。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 精神医学概論(精神保健・福祉の歴史を含む)
- 第2回 統合失調症とは(1)概論
(精神保健・福祉の歴史を含む)

- 第3回 統合失調症とは(2)幻覚・妄想など
- 第4回 統合失調症とは(3)自我障害、陰性症状など
- 第5回 統合失調症とは(4)治療
- 第6回 躁うつ病概論・うつ病
(精神保健・福祉の歴史を含む)
- 第7回 うつ病および躁病(1)症状・診断について
- 第8回 うつ病および躁病(2)治療・対応について
- 第9回 神経症性障害・総論
- 第10回 神経症性障害・各論(1)ーパニック障害などー
- 第11回 神経症性障害・各論(2)ー対人恐怖・社会不安障害などー
- 第12回 神経症性障害・各論(3)ー強迫性障害などー
- 第13回 神経症性障害・各論(4)ー転換性障害、解離性障害などー
- 第14回 摂食障害(1)病態について
- 第15回 摂食障害(2)合併症・対応について

6. Special Information (留意事項)

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント(レジュメ)を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	24525901			
科目名	精神医学Ⅱ 精神医学の理解を深める			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[精]			
前提科目	「精神医学Ⅰ」※H25年度以後入学者に適用			
テキスト				
参考文献	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』伊藤哲寛 ミネルヴァ書房 『うつ病 知る・治す・防ぐ』福居顯二 金芳堂 『医療心理学』忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』河瀬雅紀 金芳堂 精神保健福祉士資格取得を目指す場合は、「精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学」の利用を勧めます。			
備考	「精神医学Ⅰ」履修者であること ※H24年度以前入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26802401			
科目名	精神医学Ⅱ 精神医学の理解を深める			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[情]			
前提科目	「精神医学Ⅰ」※H25年度以後入学者に適用			
テキスト				
参考文献	『精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学』伊藤哲寛 ミネルヴァ書房 『うつ病 知る・治す・防ぐ』福居顯二 金芳堂 『医療心理学』忠井俊明 星和書店 『がん患者 グループ療法の実際』河瀬雅紀 金芳堂 精神保健福祉士資格取得を目指す場合は、「精神保健福祉士養成テキストブック 精神医学」の利用を勧めます。			
備考	「精神医学Ⅰ」の履修者であること※H24年度以前入学者に適用			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

精神的健康の保持や増進のため、またカウンセリングや臨床心理学、精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の原因、診断方法、治療法などを体系的に理解し、また地域精神保健の展開についても理解を深めていく。ていく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる

3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる

4. 精神障害者の支援のあり方について説明することができる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. PTSD、適応障害の特徴と治療・対応について説明できる
2. 人格障害の特徴と治療・対応について説明できる
3. 発達障害の特徴と治療・対応について説明できる
4. アルコール依存・薬物依存の特徴と治療・対応について説明できる
5. 心身症の特徴と治療・対応について説明できる
6. 主な睡眠障害の特徴を説明できる
7. 主な認知症の症状と対応について説明できる
8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べる事ができる
9. 社会的問題について精神医学的視点から説明することができる

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式を中心とし、参考図書、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。

毎回の講義後、配付資料および参考図書などにより復習をする

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

参考図書で、該当箇所を読んでおくこと

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

討議を含む授業参加度・授業態度 (15%)、試験 (確認テストなど) (85%) による総合評価。欠席・遅刻は減点対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ストレス関連障害 (1) - PTSD -
- 第2回 ストレス関連障害 (2) - 急性ストレス障害、適応障害など -
- 第3回 人格障害 (1) 概論
- 第4回 人格障害 (2) 各論
- 第5回 アルコール依存、薬物依存
- 第6回 発達障害 (1) 概論
- 第7回 発達障害 (2) 自閉スペクトラム症
- 第8回 発達障害 (3) ADHD、学習障害など
- 第9回 心身症、睡眠障害 (1)
- 第10回 睡眠障害 (2)、てんかん (1)
(精神医学-診断法を含む)
- 第11回 てんかん (2)
(精神医学-診断法を含む)
- 第12回 器質性精神障害 (認知症など) について
(精神医学-神経系の構造と機能および症候学を含む)
- 第13回 精神医学・治療法-精神療法を中心に
- 第14回 精神保健福祉の歴史と現在、病院精神医療および地域精神医療
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント (レジュメ) を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

講義コード	26802601		
科目名	心理学英文講読 (基礎)		
担当者	中村 千珠		
単位数	2	配当学年	23
資格			
前提科目			
テキスト	心理学の文献を適宜配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

最新の心理学の知見に触れるためには、英語の文献にあたること大事である。そこで、この授業では、心理学演習や実験、卒業論文の準備などをする際に必要となる、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための基礎的な訓練をおこなう。そのために、心理学の入門書を通して、主要分野から、いくつかトピックを選び、そこの専門用語、基本的概念を英語により確認し、習得することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 英語の文献を読むことに慣れる。
2. 心理学の専門用語や基本的概念を英語により確認し、意味を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 各自が、適宜配布した文献を丁寧に和訳して授業に臨む。

2. 授業による読解を通して、各自の理解度をチェックする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に配布した文献を予習することを基本とする。理解できない用語は各自調べておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

発表など授業への参加状況 50%、まとめの課題 50% で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献読解 発達心理学1
- 第3回 文献読解 発達心理学2
- 第4回 文献読解 学習心理学1
- 第5回 文献読解 学習心理学2
- 第6回 文献読解 認知心理学1
- 第7回 文献読解 認知心理学2
- 第8回 文献読解 人格心理学1
- 第9回 文献読解 人格心理学2
- 第10回 文献読解 臨床心理学1
- 第11回 文献読解 臨床心理学2
- 第12回 文献読解 臨床心理学3
- 第13回 文献読解 臨床心理学4
- 第14回 論文紹介など
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

事前予習が不可欠である。

講義コード	26803001		
科目名	国語科教育		
担当者	工藤 哲夫		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	[小学校 国語科授業研究] 田近 洵一、塚田 泰彦、大熊 徹 教育出版 [小学校学習指導要領解説 国語編 2008年8月] 文部科学省		
参考文献	[実践へのヒント 国語科 授業用語の手引き 第二版] 中原國明・大熊徹 編 教育出版		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

国語科の教科構造・目標・内容・学習指導要領・教科書の理解を深め、学習者のことばの力を育てるための学習指導法や教材研究の方法などを身につけ、どのような姿勢で国語教育に臨むかを考えるきっかけとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 国語科の目標と指導内容
2. 各領域の具体的な指導内容
3. 指導計画・教材研究・評価・指導案作りの方法
4. 授業の基本事項

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 小学校時代に学習した国語教材で心に残るものを読み返す。
2. 小学校時代に使用した国語の教科書を一回目の授業に持参する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の出席と授業参加と小レポート提出 (50%)。発表 (20%)。課題提出またはテスト (30%)。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 国語科の目標
- 第3回 「話すこと・聞くこと」の指導
- 第4回 「話し合い」の指導
- 第5回 「課題作文」の指導
- 第6回 「生活作文・創作」の指導
- 第7回 「説明的文章」の指導
- 第8回 「文学的文章」の指導
- 第9回 学習指導の計画と評価
- 第10回 授業と指導法

- 第11回 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導
 第12回 読書指導の方法・国語以外の教科や総合との関連指導
 第13回 書写の指導 国語科の基礎知識
 第14回 レポートの作成
 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26803101		
科目名	社会科教育		
担当者	大西 慎也		
単位数	2	配当学年	2
資格	[小]		
前提科目			
テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』 文部科学省 東洋館出版 2008		
参考文献	『社会科固有の授業理論30の提言』 岩田一彦 明治図書 2001 『「習得・活用・探究」の社会科授業&評価問題プラン 小学校編』 米田豊 明治図書 2011		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小学校社会科の目標、育てる子ども像、そのために必要な授業のあり方について理解する。さらに、各学年で学習すべき内容を系統的に理解する。近年の社会科教育の課題である、道徳や総合的な学習の時間との関連についても理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1.社会科で育てる子ども像を理解する。
- 2.社会科で育てる子ども像の実現のための授業のあり方を理解する。
- 3.生活科や道徳、総合的な学習の時間との関連を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。必要に応じて予習課題を出す。(ノートはA4判のものを用意する。)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、ノート記述(30%)、レポート(40%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 「社会科の目標」と「社会科で育てる子ども像」
- 第2回 学習指導要領の変遷とその背景
- 第3回 「わかる子ども」を育てる授業構成
- 第4回 「わかる子ども」を育てる授業例
- 第5回 「論争問題を考える子ども」を育てる授業構成
- 第6回 「論争問題を考える子ども」を育てる授業例
- 第7回 小学校社会科の内容構成①(主として第3・4学年)
- 第8回 小学校社会科の内容構成②(主として第5・6学年)
- 第9回 社会科授業における評価
- 第10回 小学校社会科教科書分析
- 第11回 代表的な小学校社会科授業の分析
- 第12回 生活科との関連
- 第13回 道徳との関連
- 第14回 総合的な学習の時間との関連
- 第15回 まとめ「社会科の木」

6. Special Information (留意事項)

欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

講義コード	26803201		
科目名	算数科教育 算数の授業を創造しよう		
担当者	神月 紀輔		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省 東洋館出版社 2008		
参考文献	『初等算数科教育法』 黒田恭史 ミネルヴァ書房 2010		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小学校算数科の学習指導要領の内容を理解した上で、幼稚園・中学校の教育課程も考慮しながら、小学校算数科の授業内容を考え、実践力を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・小学校算数科の学習指導要領の内容を理解する。
- ・実践的指導力を身につけ、教材研究の方法を学ぶ。
- ・一般的な小学校算数科学習指導案の作成ができるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・基本的にはグループ学習による自学自習で自律的に学習する。
- ・グループ間での発表活動を数回行い、相互評価を行う。
- ・1~2回、インターネットを利用したe-Learningを行うことがある。
- ・学習を進めるために、ほぼ毎回コメントの提出を求める。
- ・評価に関しては、自己評価を取り入れる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

評価方法にあるように、この授業は自己評価が中心となるので、自分の学習の進捗状況を自分で毎回とらえる必要がある。そのため、毎回提出する授業コメントは授業内にて紹介し、他の学習者がどの程度の学習を行っているかを常に把握しておく必要がある。教育制度は改革期を向かえ、テキストの内容だけを学習しては追いつかなくなっている。自ら、新聞・テレビ・インターネットなどの情報源を駆使して、教育改革についての情報を集めておく姿勢が必要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

この授業は、自らが小学校教員として算数教育を進めることができるかを、授業内で得た知識や自分での学習を総合して、自ら下記項目によって評価を行う。

授業における態度(40%) 単に出席したかどうかだけでなく、授業に主体的に取り組んだか、グループ活動への参加意欲はどうか、算数への理解を自ら行おうとしたか、などを最終授業において教員の提示する項目に数値による自己評価を行う。

レポート(40%) 期間中3回程度出題されるレポートについて、教員からの評価基準に基づき、自己採点を行う。

グループ活動(20%) 期間中数回行われるグループ間相互評価の内容とグループ内の構成員からの相互評価をもとに自己評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 なぜ小学校で算数を学ぶのか
- 第3回 算数・数学教育の歴史
- 第4回 4領域と算数的活動および新学習指導要領での改革ポイント
- 第5回 グループディスカッションと相互評価1
- 第6回 教育課程の編成と幼小、小中連携
- 第7回 評価と4観点
- 第8回 グループディスカッションと相互評価2
- 第9回 教科書をどう扱うか
- 第10回 教材研究のポイント
- 第11回 教材研究の実際
- 第12回 グループディスカッションと相互評価3
- 第13回 学習指導案の作成とポイント
- 第14回 実践的指導案の作成
- 第15回 グループディスカッションと相互評価4

6. Special Information (留意事項)

・グループでの活動や討議が授業の中心になるので、積極的に授業に参加すること。

・講師・他の学習者を含め、他者からの学びを重視し、様々な角度から算数科教育について考える姿勢で臨むこと。

・常に自分の学習の進捗を意識し、足りないところはグループ内で解決するか、講師への質問を行うなど、自ら解決しようとする。

講義コード	26803301			
科目名	理科教育			
担当者	小川 博士			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説理科編』 文部科学省 大日本図書 2008 その他、必要な資料がある場合は授業時に適宜提示する。			
参考文献	小学校理科の教科書			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小学校理科の学習内容は、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域から構成されている。本講義では、その学習内容についての基礎知識や教材・教具についての理解を深めることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・小学校理科の学習内容についての基礎知識を身に付ける。
- ・小学校で使用される教材や教具の知り、その扱い方を理解する。
- ・理科における観察・実験技能を身に付ける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と実験を主とする。

具体的な教材を扱いながら実感を伴う理解ができるように進める。また、理科の自由研究に取り組み、発表する時間を設ける。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

本講義の中で、小学校理科のすべての内容を扱うことは難しい。扱えなかった内容については、講義の内容をもとに各自で学習することが望ましい。自由研究については発表当日に向けて、各自、こつこつと取り組むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験50%、自由研究レポート20%、授業参加度30%で評価する。出席回数が授業全体の2/3未満である場合には不可とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校理科の目標と内容
- 第3回 日本の理科教育の課題 (全国学力学習状況調査から)
- 第4回 生命① (植物の発芽・成長・養分)
- 第5回 生命② (人体・動物)
- 第6回 地球① (気象・天体)
- 第7回 地球② (流水のはたらき・地層)
- 第8回 理科における実験や観察の基礎技能 (危険防止と安全指導)
- 第9回 エネルギー① (振り子)
- 第10回 エネルギー② (てこ)
- 第11回 エネルギー③ (電磁石)
- 第12回 粒子① (水溶液)
- 第13回 粒子② (燃焼)
- 第14回 自由研究レポートの発表
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

受講者の実態や教材の準備状況によって学習内容を変更することがあります。

講義コード	26803401			
科目名	生活科教育			
担当者	大西 慎也			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説生活編』 文部科学省 日本文芸出版 2008			
参考文献	『気付きの質を高める生活科指導法』 原田信之、須本良夫、友田靖雄 東洋館出版 2011			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

生活科設立の趣旨、生活科の目標、育てる子ども像、そのために必要な授

業のあり方について理解する。さらに、生活科の内容構成について理解する。また、幼児教育や、他教科、総合的な学習の時間との関連についても理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1.生活科で育てる子ども像と授業のあり方を理解する。
- 2.探究活動と表現活動による生活科の授業方法を理解する。
- 3.幼児教育や総合的な学習の時間とのつながりや、他教科との関連について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。必要に応じて予習課題を出す。(ノートはA4判のものを用意する。)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (30%)、ノート記述 (30%)、レポート (40%) に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 「生活科の目標」と「生活科で育てる子ども像」
- 第2回 学習指導要領の変遷とその背景
- 第3回 小学校低学年の児童像
- 第4回 生活科における「気付き」
- 第5回 体験を重視した学習活動
- 第6回 生活科における表現活動
- 第7回 合理的な学習活動
- 第8回 幼児教育や総合的な学習の時間との関連
- 第9回 理科や社会科との関連
- 第10回 生活科授業における評価
- 第11回 生活科の内容構成① (主として社会・自然との関わり)
- 第12回 生活科の内容構成② (主として自分との関わり)
- 第13回 生活科教科書分析
- 第14回 生活科授業の分析・検討
- 第15回 生活科の課題

6. Special Information (留意事項)

欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

講義コード	26803501			
科目名	音楽科教育 A			
担当者	古庵 晶子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	適宜プリントを配布する。			
参考文献	以下は、経験の有無や進度等によるので、初回時に説明する。 ①「どこから始めてもOK なるほど!バイエル1」 古庵晶子他著 サーベル社 ②「#・bだってOK なるほど!バイエル2」 古庵晶子他著 サーベル社 ③「どんな表現だってOK なるほど!大人のブルグミュラー-25」 古庵晶子他著 サーベル社 ④「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」 全国大学音楽教育学会編 音楽之友社 他			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26803502			
科目名	音楽科教育 B			
担当者	古庵 晶子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	適宜プリントを配布する。			
参考文献	以下は、経験の有無や進度等によるので、初回時に説明する。 ①「どこから始めてもOK なるほど! バイエル1」古庵晶子他著 サーベル社 ②「#・b だってOK なるほど! バイエル2」古庵晶子他著 サーベル社 ③「どんな表現だってOK なるほど! 大人のブルグミュラー25」古庵晶子他著 サーベル社 ④「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」全国大学音楽教育学会編 音楽之友社 他			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26803503			
科目名	音楽科教育 C			
担当者	古庵 晶子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	適宜プリントを配布する。			
参考文献	以下は、経験の有無や進度等によるので、初回時に説明する。 ①「どこから始めてもOK なるほど! バイエル1」古庵晶子他著 サーベル社 ②「#・b だってOK なるほど! バイエル2」古庵晶子他著 サーベル社 ③「どんな表現だってOK なるほど! 大人のブルグミュラー25」古庵晶子他著 サーベル社 ④「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」全国大学音楽教育学会編 音楽之友社 他			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

音楽教育の持つ力は計り知れず、学校教育における音楽の体験が、生涯にわたり音楽を愛好する心や活動に継続するきっかけとなることが理想である。そのように導く授業を構築するための知識や技術を習得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 共通教材の歌唱を通じ、音楽理論の理解を深める。
2. ピアノ楽譜の読譜の前段階として、子どもの歌の基礎的なコード奏を習得する。
3. 各自課題のコード奏の楽譜を書く。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 学習指導要領における共通教材を多角的に検討・実践し、音楽理論を理解する。
2. 歌唱共通教材や保育音楽教材を使用してコード奏の基本を身につける。
3. 毎回授業の初めに、前回の内容についての確認小テストを行うとともに、課題のコード奏を弾く。
4. 楽譜を書く。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

ピアノの実技は毎日の積み重ねが不可欠なため、自宅での練習を怠らないこと。3回生前期の「音楽科指導演法」で行う既製楽譜による共通教材の弾き歌い演習では、一定以上の読譜力を要するため、未経験者は前期のうちに参考文献の①を各自で必ず自習しておくこと。課外でも構わないので積極的な質問を期待する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度10% 確認小テスト20% コード奏テスト30% 音楽理論のテスト40% とし、総合的に評価する。爪が伸びていた場合と、授業中の携帯電話使用等、授業外の態度が見られた場合は減点の対象とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 楽譜の基礎 共通教材「ひのまる」「春の小川」ハ長調のコード 2拍子と4拍子
- 第2回 ハ長調の音階 共通教材「虫のこえ」
- 第3回 ハ長調のコード 三拍子 共通教材「もみじ」「冬げしき」
- 第4回 ハ長調の音階 共通教材「こいのぼり」「ふるさと」「夕やけこやけ」
- 第5回 イ短調のコード 共通教材「ひらいたひらいた」「さくらさくら」
- 第6回 記号について 共通教材「かくれんぼ」「まきばの朝」
- 第7回 ト長調のコード 共通教材「うみ」「茶つみ」
- 第8回 ト長調の音階 共通教材「うさぎ」「子もり歌」
- 第9回 6拍子 ニ長調のコード 共通教材「かたつむり」「われは海の子」
- 第10回 ニ長調の音階 音楽用語について 共通教材「越天楽今様」「おほろ月夜」
- 第11回 強弱記号 共通教材「うさぎ」「スキーの歌」
- 第12回 コードアレンジについて 共通教材歌唱:「とんぴ」「こもりうた」
- 第13回 記譜法
- 第14回 コード奏のテスト
- 第15回 音楽理論のテスト

6. Special Information (留意事項)

可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。ピアノ演奏に支障が出ることに加え、将来教育者になることの自覚を持ち、安全のために爪を伸ばさないこと。

講義コード	26803601			
科目名	図工科教育			
担当者	藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『美術教育概論(改訂版)』大橋 功 日本文教出版 2009 『小学校学習指導要領解説 図画工作』文部科学省 日本文教出版 2008			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

図画工作科が担うべき役割とその目指すところ、内容構成の考え方や、各領域の内容の概要について、小学校学習指導要領、教科書等から理解する。そして、その目標を具現化するための方法を、美術と教育の本質から考える。そのために、各領域の題材についての教材研究や学校教育現場での実践例等を通して、子どもたちが、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科教育のあるべき姿を考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・図画工作科の性格と目標について理解する。
- ・図画工作科教育の変遷と今日的課題について理解する。
- ・図画工作科の内容構成について理解する。
- ・図画工作科の指導内容について、各領域の題材についての教材研究を通して把握する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義、討論、実習、演習を中心に進める。具体的な題材に関する実習も必要に応じて行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回の学習内容と対応する教科書の章を読んでおくこと(第1回「図画工作科の担うべき役割と目指すもの」は第1部 第1章「美術教育の目標」、第2回以降は講義の中で指示する)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、小レポート[作品等の提出課題も含む](40%)、試験に替えてのレポート(30%)により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 図画工作科の担うべき役割と目指すもの
- 第2回 図画工作科教育の変遷
- 第3回 小学校学習指導要領の変遷と今日的課題
- 第4回 図画工作科の性格と目標
- 第5回 図画工作科の内容構成

- 第6回 造形遊び①（指導内容についての理論研究）
- 第7回 造形遊び②（演習）
- 第8回 絵や立体に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第9回 絵や立体に表す②（演習）
- 第10回 工作に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第11回 工作に表す②（演習）
- 第12回 鑑賞①（指導内容についての理論研究）
- 第13回 鑑賞②（演習）
- 第14回 図画工作科の指導と評価
- 第15回 指導計画の作成及び各教科・領域等との関連、まとめ

6. Special Information（留意事項）

講義コード	26803701			
科目名	家庭科教育			
担当者	大路 雅子			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説（家庭編）』 文部科学省 東洋館出版社 『新編新しい家庭5・6』 東京書籍			
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

家庭科教育の意義、目標、特質、歴史など基礎的事項の理解と家庭科の授業実践に関する内容を習得し、家庭科教育の課題と展望について考察する。小学校における家庭科教育について理解を深めるため、家庭生活に視点をあて、食生活・衣生活を中心とする基礎的事項と各領域の研究動向等を理解する。さらに、自分の生活を見直し、充実した家庭生活を営むために応用・発展できる力、自信を持って教育実習に臨める知識と技能を身につける。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- ・家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割について理解する。
- ・具体的な学習指導内容を通して、実践的能力を養う。
- ・家族との関わりを考えながら、家庭生活に必要な知識と技能を身につける。
- ・家族の一員としての自覚と生活を工夫できる実践的な態度を養うにはどうすればよいか探究する。

3. Course Method（教育・学習の方法）

基本的には講義。発表・レポート・小テスト。実技に必要な物は事前に指示する。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

テキストを熟読する

詳細は授業時に指示する。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

課題・提出物（40%）、テスト（40%）、授業参加度（20%）

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 家庭科教育の意義・目標・変遷
- 第2回 小学校教育の中で家庭科が果たす役割と教科の特質
- 第3回 家庭生活と家族①自分の成長と家族
- 第4回 ②家庭の仕事と生活時間
- 第5回 ③家族・近隣の人々との関わり
- 第6回 日常の食事と調理の基礎①食事の役割と工夫
- 第7回 ②栄養素の種類と働き
- 第8回 ③食品の組み合わせと献立
- 第9回 ④調理計画・調理方法の基礎
- 第10回 快適な衣服と住まい①着用と手入れ
- 第11回 ②快適な住まい方
- 第12回 ③生活に役立つ物
- 第13回 消費生活と環境①物や金銭の使い方と買物
- 第14回 ②環境に配慮した生活の工夫
- 第15回 まとめテストと解説

6. Special Information（留意事項）

講義コード	26803801			
科目名	体育科教育 楽しい「よい体育授業」を考える			
担当者	住本 純			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説 体育編』 文部科学省 東洋館出版社			
参考文献	『体育授業を観察・評価する』 高橋建夫編著 明和出版 『新版 体育科教育学入門』 高橋建夫ほか編著 大修館書店			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

児童にとって意味のある「よい体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術の習得、授業づくり・教材づくり・観察分析及評価法の要点を理解する。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- ・生涯スポーツと学校体育について考察する。
- ・体育科の特性と役割について学習指導要領から理解する。
- ・実践を通して、各運動領域の特性とねらいについて理解する。
- ・体育授業の指導者になるという意識を持ち、授業に取り組む。

3. Course Method（教育・学習の方法）

・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

- ・次回の授業内容について、学習指導要領を確認しておく。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

授業参加度、授業態度（30%）、小レポート（20%）、テスト（50%）として総合的に評価を行う。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツ、体育の歴史
- 第3回 学校体育の現状、小学校体育科の目的
- 第4回 体育科の目標論と教育課程論：学習指導要領の目標・内容
- 第5回 体育授業における教材づくり、学習指導方法論
- 第6回 体育授業の観察・分析・評価
- 第7回 各運動領域の特性を理解した授業づくり① 体づくり運動
- 第8回 各運動領域の特性を理解した授業づくり① 体づくり運動（実技）
- 第9回 各運動領域の特性を理解した授業づくり② 表現運動、器械運動
- 第10回 各運動領域の特性を理解した授業づくり② 表現運動、器械運動（実技）
- 第11回 各運動領域の特性を理解した授業づくり③ ボール運動
- 第12回 各運動領域の特性を理解した授業づくり③ ボール運動（実技）
- 第13回 各運動領域の特性を理解した授業づくり④ 陸上運動
- 第14回 各運動領域の特性を理解した授業づくり④ 陸上運動（実技）
- 第15回 まとめ

6. Special Information（留意事項）

実技時は、運動できる服装（ジャージ等）に更衣し、体育館シューズを履くこと。

安全確保のために、適宜、持ち物等の指示を行う。

講義コード	26803901			
科目名	国語科指導法			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校子どもが生きる国語科学習用語』大熊徹・片山守道・工藤哲夫 編 東洋館出版社 『小学校学習指導要領解説 国語編2008年8月』文部科学省			
参考文献				
備考	書写を含む 「国語科教育」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国語科の基礎・基本を実践例にもとづき、国語科の授業用語の観点から学習する。これにより、学習者のことばの力をどのような時点でどのように育てるのか具体的に理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 国語科の授業の具体的な構想
2. 国語の授業の工夫
3. 各領域の具体的な指導方法
4. 国語科の評価の方法

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 模擬授業
5. 小レポート

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 小学校時代の国語のノートを見直す。
2. 小学校時代の国語のノートを一回目の授業に持参する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の出席と授業参加と小レポート提出 (60%)。発表 (20%)。課題提出またはテスト (20%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教材研究と指導計画作り
- 第3回 国語の授業の展開の方法と授業技術
- 第4回 低学年言語事項の授業の構想と指導計画の立案
- 第5回 低学年言語事項の授業の学習指導案と板書計画の作成
- 第6回 低学年言語事項に関する教材の模擬授業
- 第7回 低学年言語事項の授業の理想的な指導案作成
- 第8回 国語科の教材を焦点化した授業の構想と指導計画の立案
- 第9回 国語科の教材を焦点化した授業の学習指導案と板書計画の作成
- 第10回 国語科の教材を焦点化した模擬授業
- 第11回 国語科の教材を焦点化した授業の理想的な指導案作成
- 第12回 文学的文章の授業の構想と指導計画の立案
- 第13回 文学的文章の授業の学習指導案と板書計画の作成
- 第14回 文学的文章に関する教材の模擬授業
- 第15回 文学的文章の授業の理想的な指導案作成

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26804001			
科目名	社会科指導法			
担当者	大西 慎也			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省 東洋館出版 2008			
参考文献	『社会科固有の授業理論30の提言』岩田一彦 明治図書 2001 『「習得・活用・探究」の社会科授業 & 評価問題プラン 小学校編』米田豊 明治図書 2011			
備考	「社会科教育」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

先人が行ってきた授業事例に学びながら、教材研究、単元づくりを行い、社会科の授業づくりと学習指導案の作成方法を理解する。模擬授業を実践し、授業内容と共に発問、板書についても理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教材研究、単元づくりの進め方を理解する。
2. 学習指導案の作成方法を理解する。
3. 授業の展開方法や発問、板書の方法を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。
(ノートはA4判のものを用意する。)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (10%)、ノート記述 (10%)、学習指導案の作成 (30%)、模擬授業 (50%) に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 社会科の授業事例の紹介と分析① (第3・4学年内容)
- 第2回 社会科の授業事例の紹介と分析② (第5・6学年内容)
- 第3回 模擬授業の在り方と意義
- 第4回 学習指導案の作成方法
- 第5回 学習指導案の作成① (個人)
- 第6回 学習指導案の作成② (グループ)
- 第7回 教材の開発
- 第8回 学習指導案の分析
- 第9回 模擬授業の実施と検討① (第3・4学年「地域の産業、消費生活、生活環境、安全の学習」)
- 第10回 模擬授業の実施と検討② (第3・4学年「地域の地理的環境、先人の働きの学習」)
- 第11回 模擬授業の実施と検討③ (第5学年「国土と環境の学習」)
- 第12回 模擬授業の実施と検討④ (第5学年「産業の学習」)
- 第13回 模擬授業の実施と検討⑤ (第6学年「歴史的分野の学習」)
- 第14回 模擬授業の実施と検討⑥ (第6学年「公民的分野の学習」)
- 第15回 模擬授業の総括

6. Special Information (留意事項)

欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

講義コード	26804101			
科目名	算数科指導法 算数科指導の実践力をあげる			
担当者	神月 紀輔			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説 算数編』文部科学省 東洋館出版社 2008			
参考文献	『初等算数科教育法』黒田恭史 ミネルヴァ書房 2010			
備考	「算数科教育」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

算数科教育で学んだ算数科教育の基礎をもとに、実践的指導力をつける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

2～3回のマイクロティーチングにより、自らの指導力の向上を目指すとともに、子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し、相互評価できるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

2～3回、定められたテーマについて1時間(45分)分の指導計画を考え、そのうちの5分間をマイクロティーチングとして行う。3回目は複数指導(ティームティーチング)を取り入れた授業設計をする。単に授業演習をするだけでなく、他の学習者の授業に参加し、相互評価する中で、仲間とともに成長するようにディスカッションを多く取り入れる。マイクロティーチングは、ビデオ撮影し、自分の反省の材料とする。また、事後にはグループによる反省会を設ける。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

できるだけたくさんの資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し、広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。授業内では、他の学習者と多くディスカッションを行い、指導法についてさまざまな方法を模索するので、事前に自分の考え方を整理しておきたい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

2～3回のマイクロティーチングについての自己評価(40%)他の学習者からの指導法についての相互評価(20%)出席点(20%)グループ学習への参加態度(20%)以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション、グループ編成
- 第2回 トピック1による学習指導案の作成
- 第3回 作成した指導案のグループでの検討
- 第4回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
- 第5回 5分間のマイクロティーチング(全員が行う)
- 第6回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第7回 トピック2による学習指導案の作成
- 第8回 作成した指導案のグループでの検討
- 第9回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
- 第10回 5分間のマイクロティーチング(全員が行う)
- 第11回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第12回 ICT機器を活用した学習指導案の作成
- 第13回 作成した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
- 第14回 5分間のマイクロティーチング(全員が行う)
- 第15回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

6. Special Information (留意事項)

文部科学省検定小学校教科書は貸し出しをします。マイクロティーチングだけが重要なのではなく、総合的に実践力を上げることが目的です。そのためには他者の授業から学び、相互評価できるようにしましょう。

講義コード	26804201												
科目名	理科指導法												
担当者	小川 博士												
単位数	2 配当学年 2												
資格	[小][情]												
前提科目													
テキスト	『小学校学習指導要領解説理科編』文部科学省 大日本図書 2008												
参考文献	『今こそ理科の学力を問う』日本理科教育学会編 東洋館出版 2012 小学校理科の教科書												
備考	『理科教育』履修者であること												
科目読替													
社会人基礎能力	<table border="1"> <tr><td>自分を育てる力</td><td>✓</td><td>共生・協働する力</td><td>✓</td></tr> <tr><td>コミュニケーションする力</td><td>✓</td><td>創造・発信する力</td><td>✓</td></tr> <tr><td>思考・解決する力</td><td>✓</td><td>主体的に行動する力</td><td>✓</td></tr> </table>	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓
自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓										
コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓										
思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓										

1. Course Description (科目の教育目標)

前半は、理科の教授・学習論、学習評価の方法を踏まえ、小学校理科の指導方法の要点を概説する。さらに、実践的な力を養っていくことを目的として、授業の組み立て方について、具体的な演習や事例の紹介を通して解説する。

後半は、前半の基礎理論を踏まえ、学習指導案の作成及び模擬授業を中心として授業を構成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・小学校における理科の目標及び内容、教授・評価方法について理解する。
- ・学習指導を実践していく上で必要とされる具体的な技能や方法を知り、学習指導案を作成することができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義及び演習(学習指導案作り及び模擬授業)を併用しながら展開する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

小学校理科の教科書を詳細に見ておくこと
可能であれば、小学校の研究発表会等へ参加し、理科授業を参観しておくイメージがもちやすいと思います。講義中に、研究発表会の案内についてもアナウンスしたいと思います。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

作成した学習指導案30%、模擬授業コメント30%、改善指導案30%、授業参加度10%で評価する。

出席回数が授業全体の2/3未満である場合には不可とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校理科授業のつくり方
- 第3回 学習指導案の作成方法
- 第4回 理科学習の評価の方法
- 第5回 学習指導案の作成
- 第6回 指導案個別検討と教材研究
- 第7回 模擬授業①(小学校3年の内容:A区分)
- 第8回 模擬授業②(小学校3年の内容:B区分)
- 第9回 模擬授業③(小学校4年の内容:A区分)
- 第10回 模擬授業④(小学校4年の内容:B区分)
- 第11回 模擬授業⑤(小学校5年の内容:A区分)
- 第12回 模擬授業⑥(小学校5年の内容:B区分)
- 第13回 模擬授業⑦(小学校6年の内容:A区分)
- 第14回 模擬授業⑧(小学校6年の内容:B区分)
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

受講生のニーズや教材の準備状況によっては、変更する場合もある。

講義コード	26804301												
科目名	生活科指導法												
担当者	大西 慎也												
単位数	2 配当学年 2												
資格	[小][情]												
前提科目													
テキスト	『小学校学習指導要領解説生活編』文部科学省 日本文芸出版 2008												
参考文献	『気付きの質を高める生活科指導法』原田信之、須本良夫、友田靖雄 東洋館出版 2011												
備考	『生活科教育』履修者であること												
科目読替													
社会人基礎能力	<table border="1"> <tr><td>自分を育てる力</td><td>✓</td><td>共生・協働する力</td><td>✓</td></tr> <tr><td>コミュニケーションする力</td><td>✓</td><td>創造・発信する力</td><td>✓</td></tr> <tr><td>思考・解決する力</td><td>✓</td><td>主体的に行動する力</td><td>✓</td></tr> </table>	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓
自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓										
コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓										
思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓										

1. Course Description (科目の教育目標)

前期に履修した「生活科教育」で学習した内容を活用して、生活科の具体的な指導方法を習得する。単元づくり、学習指導案の作成方法を理解する。実際に体験的な活動を行いながら、社会、自然、自分との関わりの重要性を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1.生活科設立の趣旨である社会と自然と自分との関わりについて理解する。
- 2.学習指導案の作成方法を理解する。
- 3.体験的な学習の指導方法を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。学習指導案の作成、模擬授業の準備にあたって、文献調査や実地調査など、授業時間外の学習を求める。(ノートはA4判のものを用意する。)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(10%)、ノート記述(10%)、学習指導案(30%)、模擬授業(50%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 生活科の授業事例と分析
- 第2回 体験的な活動
- 第3回 模擬授業の在り方と意義

- 第4回 学習指導案の作成方法
 第5回 学習指導案の作成①(個人)
 第6回 学習指導案の作成②(グループ)
 第7回 教材の開発
 第8回 学習指導案の検討
 第9回 模擬授業の実施と検討①・・・社会との関わり(社会との関わり「地域のよさ」)
 第10回 模擬授業の実施と検討②・・・自然との関わり(自然との関わり「自然のすばらしさ」)
 第11回 模擬授業の実施と検討③・・・自分との関わり(自分との関わり「家族とのかかわり」)
 第12回 模擬授業の実施と検討④・・・社会との関わり(社会との関わり「集団や社会の一員として」)
 第13回 模擬授業の実施と検討⑤・・・自然との関わり(自然との関わり「自然を活かした遊びや生活の工夫」)
 第14回 模擬授業の実施と検討⑥・・・自分との関わり(自分との関わり「自分の良さや可能性」)
- 第15回 模擬授業の総括

6. Special Information (留意事項)

欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

講義コード	26804401			
科目名	音楽科指導法			
担当者	古庵 晶子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説 音楽編』 文部科学省 教育芸術社 2008 適宜プリント配布			
参考文献	『最新 初等科音楽教育法 改訂版 小学校教員養成課程用』 初等科音楽教育研究会編 音楽之友社 2014			
備考	『音楽科教育』履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小学校音楽科の理念と目標を踏まえ、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できることは何かを考える。表現・音楽づくり・鑑賞の各領域の授業プランを構想することができる。ピアノ楽譜の読譜ができ、共通教材の弾き歌いができる。バロック式リコーダーの利点を理解し、演奏できるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学習指導要領について理解する。
2. 共通教材の既製楽譜による弾き歌いができる。
3. 音楽づくり・器楽・歌唱の学習指導案を作成し、模擬授業をする。
4. バロック式リコーダーの実践と手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。
6. ピアノの弾き歌いをする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. リコーダー演奏と手作り楽器製作のどちらかを毎回行う。
2. 器楽および歌唱の模擬授業を行う。
3. 鑑賞や講義を織り交ぜて授業を行う。
4. グループによる音楽づくりと発表を行い、音楽会の計画・運営を学ぶ。
5. リコーダーの実技試験を行う。
6. ピアノの実技試験を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

リコーダーとピアノ課題は毎日の積み重ねが不可欠なため、練習を怠らないこと。手作り楽器製作のため、材料の準備をしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度・リコーダー、手作り楽器(10%) 模擬授業、音楽づくり(20%) 学習指導案(20%) 弾き歌い課題テスト(40%)とし、総合的に評価する。授業中の携帯電話使用等、授業外の態度が見られた場合は減点の対象とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 小学校学習指導要領(音楽)の概説 手作り楽器の教育的意義
 第2回 音楽科教育の歴史 手作り楽器：牛乳パックとストローの笛
 第3回 音楽史と鑑賞・指揮法 リコーダー演奏：タンギングの重要性
 手作り楽器：ペットボトルの打楽器
 第4回 音楽教育の今日的課題 リコーダー演奏：2～3音の曲とフ

レージング

- 第5回 共通教材の伴奏法 リコーダー演奏：4～5音の曲
 第6回 歌唱指導の研究と演習 リコーダー演奏：高音の練習
 第7回 学習指導案の作成①歌唱と器楽 リコーダー演奏：スタッカートとスラー
 第8回 評価の方法 リコーダー演奏：低音の練習
 第9回 模擬授業－歌唱と器楽
 第10回 音楽づくりの研究と演習 リコーダー演奏：アンサンブル
 第11回 学習指導案の作成②音楽づくり
 第12回 音楽科教育の展望(グループディスカッション) 手作り楽器：ペットボトルのラッパ
 第13回 音楽会の運営
 第14回 リコーダーのテスト
 第15回 総合演習(音楽づくりのグループ発表) 弾き歌い課題曲のテストを行う

6. Special Information (留意事項)

『音楽科教育』履修者のみ受講できる。なお、バロック式のソプラノリコーダーを持っていない場合は、初回授業時に購入の申し込みをすること。

講義コード	26804501			
科目名	図工科指導法			
担当者	藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『美術教育概論(改訂版)』 大橋 功 日本文教出版 2009 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 文部科学省 日本文教出版 2008			
参考文献				
備考	『図工科教育』履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもたちが表現や鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科の実践的な指導力を習得する。そのために、小学校学習指導要領の内容や教科の特質を踏まえつつ、各領域の題材についての教材研究、学習指導案の作成、模擬授業とその分析等を通して、授業づくりの基礎を身につけ、具体的な指導法を学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・図画工作科の性格、目標、内容について、小学校学習指導要領、教科書等を通して理解する。
- ・指導計画及び学習指導案の作成方法を理解する。
- ・各領域の題材についての教材研究を通して、その内容と指導法を理解する。
- ・学習指導案を作成し、模擬授業とその分析を通して、授業づくりの基礎を身につける。
- ・材料・用具の使い方や安全面での配慮について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義、討論、演習及び実習を中心に進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

第1回から第7回の受講に際しては、毎回の学習内容と対応する教科書の章を読んでおくこと。(第1回「図画工作科の性格、目標について」は第Ⅲ部 第1章「図画工作科の性格と目標」、第2回以降は講義の中で指示する)第8回から第13回については、題材について各自で教材研究するとともに、個別に必要な物を準備する。第14回・第15回については、授業についての分析を整理しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(30%)、学習指導案、模擬授業とその分析(40%)、試験に替えるレポート(30%)により行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 図画工作科の性格、目標について
 第2回 図画工作科の授業づくりについて、教科書、学校教育現場における授業実践等から学ぶ
 第3回 指導計画と評価、学習指導案の作成方法について
 第4回 「造形遊び」の指導について
 第5回 「絵や立体に表す」の指導について
 第6回 「工作」の指導について
 第7回 「鑑賞」の指導について
 第8回 模擬授業の題材選択と教材研究

- 第9回 模擬授業の題材についての教材研究
- 第10回 模擬授業の学習指導案作成（題材についての項目）
- 第11回 模擬授業の学習指導案作成（本時についての項目）
- 第12回 模擬授業（前半）
- 第13回 模擬授業（後半）
- 第14回 模擬授業の分析、考察（各班ごと）
- 第15回 模擬授業の分析、考察（全体）、まとめ

6. Special Information（留意事項）

講義コード	26804601			
科目名	家庭科指導法			
担当者	大路 雅子			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説（家庭編）』 文部科学省 東洋館出版社 『新編「新しい家庭5・6」』 東京書籍			
参考文献				
備考	『家庭科教育』履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

小学校家庭科の学習指導に必要な知識と技能を習得する。指導計画・評価計画の作成、指導方法などの学習を通して、豊かな教育観をもち、自ら学び、判断し、行動できる、優れた家庭科教師としての資質を養う。

生きる力を育む家庭科教育を進めるための授業づくりに関する方法と情報活用・実践的能力を身につける。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- ・小学校家庭科の内容とねらいについて理解を深める。
- ・授業設計について理解し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・模擬授業を評価することで授業の改善点・改善方法を理解する。

3. Course Method（教育・学習の方法）

講義と演習・実習を併用する。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

詳細は授業時に指示する。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

毎時間の学習事項をファイルしたポートフォリオ（20%）、学習指導案作成力（20%）、模擬授業実践力（30%）、授業評価分析（30%）

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 生きる力を育む家庭科教育の在り方
- 第2回 学習指導計画の作成手順
- 第3回 授業設計の基本的な考え方
- 第4回 年間指導計画の作成
- 第5回 題材の指導計画の作成手順
- 第6回 学習指導案（本時）の作成
- 第7回 家庭科の学習評価
- 第8回 教材・教具の工夫と教材開発
- 第9回 模擬授業① 家庭生活と家族に関する学習指導
- 第10回 模擬授業② 食生活（食事の役割、栄養）に関する学習指導
- 第11回 模擬授業③ 衣生活（衣服の着用と手入れ、生活に役立つ物の製作）に関する学習指導
- 第12回 模擬授業④ 住生活（快適な住まい方）
- 第13回 模擬授業⑤ 身近な消費生活と環境に関する学習指導
- 第14回 模擬授業⑥ 実習指導と合評会
- 第15回 まとめ（模擬授業後の修正学習指導案の作成）

6. Special Information（留意事項）

受講者数の多寡により模擬授業と授業計画時数の変更あり

講義コード	26804701			
科目名	体育科指導法 楽しい体育授業の理論と実践			
担当者	住本 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[小][情]			
前提科目				
テキスト	『小学校学習指導要領解説 体育編』 文部科学省 東洋館出版社			
参考文献	『新版 体育科教育学入門』 高橋健夫ほか 大修館書店			
備考	『体育科教育』履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

体育科の目標、学習内容、運動の特性などに関する基本的な知識について理解する。小学校において児童が熱中して運動に取り組む体育授業を実践する能力（教材の工夫・指導方法・授業計画）を養うことを目標とする。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

- ・教科の内容、各運動領域の特性とねらいについて理解を深める。
- ・学習指導案の作成、学習カードの作成、発問の仕方等について理解する。
- ・運動の苦手な児童に対する支援や助言の仕方について理解する。
- ・指導案を作成し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・模擬授業を評価することで授業の改善点に気づき、改善方法を理解する。

3. Course Method（教育・学習の方法）

講義と演習（教材作成、発表、模擬授業、グループ別活動等）を中心に行う。

資料については適宜配布する。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

小学校学習指導要領解説体育編を熟読した上で参加すること。

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

授業参加度、授業態度（30%）、指導案（20%）、模擬授業（30%）、小テスト・小レポート（20%）として総合的に評価を行う。

5. Course Schedule（授業予定）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校体育科の目標、教科内容
- 第3回 運動の特性を理解した授業の組み立て
- 第4回 効果的な運動の学習指導方法
- 第5回 各運動領域の内容、特性、教材づくり①（体づくり運動、陸上運動系）
- 第6回 各運動領域の内容、特性、教材づくり②（器械運動系、水泳系）
- 第7回 各運動領域の内容、特性、教材づくり③（ボール運動系、表現運動系）
- 第8回 模擬授業に向けた準備①（指導案の書き方）
- 第9回 模擬授業に向けた準備②（授業観察法について）
- 第10回 模擬授業①（陸上運動）
- 第11回 模擬授業②（体づくり運動）
- 第12回 模擬授業③（器械運動）
- 第13回 模擬授業④（ボール運動）
- 第14回 模擬授業⑤（表現運動）
- 第15回 まとめ

6. Special Information（留意事項）

模擬授業は、実技を伴う。

実技時は運動できる服装（ジャージ等）に更衣し、体育館シューズを履くこと。

講義コード	26804801			
科目名	保育内容指導法（健康） 保育実践のための領域「健康」			
担当者	住本 純			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト	『保育内容 健康<新版>』 民秋言・穂丸武臣編著 北大路書房			
参考文献	『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

領域「健康」に関する内容をとおして子どもの心身の健康について理解し、保育実践の場で配慮すべき事柄について学習する。そのために、心身の発育や発達、運動遊びの意義、安全管理、基本的生活習慣の形成など、健康に関する基礎的事項について理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 子どもの心身の発育・発達についての基礎理論・知識について学ぶ。
2. 子どもの健康問題や事件・事故について学び、予防をするための知識を深める。
3. 運動遊について学び、安全に配慮した計画・運営ができるようになる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 子どもの身体能力・運動能力の様子が見える映像等を用いて授業を進める。
2. 保育実践力を培うため、運動遊びの計画・実践を行う。
3. 資料等は、授業中に適宜配布する。
4. 講義、ディスカッション、実技など、様々な方法で授業を進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

日頃から「子どもの健康」や「子どもを取り巻く事件・事故」といったキーワードに関心を持ち、新聞・テレビ等で情報収集しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績評価は、授業参加度・授業態度 (30%)、小レポート (20%)、運動遊びの実践 (20%)、試験 (30%)

4回以上の欠席は、評価の対象としない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション (身体と健康)
- 第2回 領域「健康」がめざすもの
- 第3回 乳幼児の健康
- 第4回 乳幼児の発達理解
- 第5回 乳幼児の心身の発育・発達
- 第6回 乳幼児のあそびの発達と健康
- 第7回 乳幼児の体格・運動能力の現状と問題
- 第8回 乳幼児の生活スタイル
- 第9回 安全教育と安全管理、応急処置
- 第10回 乳幼児の運動機能の発達と運動遊びの意義
- 第11回 運動遊びの計画と準備
- 第12回 運動遊びの実践
- 第13回 運動遊びの実践
- 第14回 実践の省察と体育的行事
- 第15回 授業のまとめ

6. Special Information (留意事項)

運動遊びの実践は、運動できる服装 (ジャージ、体育館シューズ等) で参加すること。

講義コード	26804901		
科目名	保育内容指導法 (人間関係)		
担当者	田中 文昭		
単位数	2	配当学年	3
資格	[幼]		
前提科目			
テキスト	『保育内容「人間関係」』 小田豊・奥野正義 北大路書房 2009年		
参考文献	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

領域「人間関係」の意義や基本的な考え方を知り、子どもにとっての人間関係の大切さを学ぶとともに、保育者としての基本姿勢についても学ぶ。また、保育実践事例を通して人と関わる力を育む保育の指導方法についても学ぶ。授業では実践事例を適宜紹介し、学びが深まるようにする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいや内容について学ぶ。
2. 領域「人間関係」の側面から見た幼児の遊びと育ちについて学ぶ。
3. 領域「人間関係」のねらい・内容を育てるための、指導方法について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式を中心にしながら演習も行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業前の課外学習として指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度 (20%) 授業態度 (20%) 期末試験 (60%) に基づいて総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、これからの幼児教育で大切なものとは
- 第2回 現代社会と子どもの「人間関係」
- 第3回 幼稚園と保育所保育指針における領域「人間関係」(1)
幼稚園教育要領における領域「人間関係」、幼稚園・保育所の目的、目標、幼稚園教育要領の変遷、幼稚園教育要領の改訂について
- 第4回 幼稚園と保育所保育指針における領域「人間関係」(2)
保育における領域「人間関係」、幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」の相違点、認定こども園とは、認定こども園の型と特徴について
- 第5回 「人間関係」と道徳性 (1)
幼児期の道徳性、道徳性の芽生えについて
- 第6回 「人間関係」と道徳性 (2)
保育者の姿勢、集団の中で子どもの道徳性を育むポイント、子どもの規範意識を育てるには
- 第7回 乳幼児の「人間関係」の特徴と問題 (1)
発達の方向性、発達段階、自己意識の発達、乳幼児期の人間関係の特徴、愛着の重要性について
- 第8回 乳幼児の「人間関係」の特徴と問題 (2)
仲間との関わりを通して育つもの、乳幼児期の人間関係の発達における特徴と問題について
- 第9回 あそびの中で育つ「人間関係」
- 第10回 集団の「人間関係」とその指導
- 第11回 保育者と子どもの「人間関係」
- 第12回 子育て支援にかかわる「人間関係」
- 第13回 気になる子どもとの関わり
- 第14回 保育実践例 (1)
園内での異年齢活動を例にして子どもの人間関係を考えてみる
- 第15回 保育実践例 (2) とまとめ
園行事を紹介し、継続的な園行事による子どもの育ちについて考えてみる

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26805001		
科目名	保育内容指導法 (環境)		
担当者	小川 圭子		
単位数	2	配当学年	2
資格	[幼]		
前提科目			
テキスト	『保育と環境』 矢野正 小川圭子 嵯峨野書院 2011年 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2008年 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 2008年		
備考			
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力		主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもを取り巻く環境は変化している。人的・物的・空間的環境が、子どもにどのような影響を与え、どのような役割があるのかを共に考察していくこととする。また、保育内容「環境」の意義やねらいを明らかにし、保育を行う上での基礎知識を身につけることを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 「幼稚園教育要領」の領域「環境」のねらいや内容について学ぶ。
2. 一人一人の発達の特性に応じた環境構成や教師の援助等について学ぶ。
3. 領域「環境」のねらい・内容を育てるための、指導方法について学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義形式を中心にしながら演習も行う。
2. 学修方法として、学生自身がお互いに協議し合い考え合うことも重要視する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

幼稚園教育要領の「環境」領域について読んでおく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 授業への取り組み姿勢10%、課題レポートなど40%、確認テスト50%

などで、総合的に評価する。

2. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション 保育内容「環境」とは
- 第2回 保育の基本と領域「環境」
- 第3回 子どもの発達と保育内容「環境」
- 第4回 好奇心・探究心を豊かに育む
- 第5回 思考力の芽生えを育む指導
- 第6回 身近な生活の中でのかかわりと指導
- 第7回 環境を生活に取り入れる指導
- 第8回 人的環境としての保育者・友だち
- 第9回 物的環境としての園具・遊具・素材
- 第10回 自然環境としての動植物
- 第11回 安全教育・保育環境のデザイン
- 第12回 保育計画と指導
- 第13回 小学校教育との連携
- 第14回 保育内容「環境」の実践事例
- 第15回 確認テストと解説

6. Special Information (留意事項)

この授業では、子どもの発達を促す保育内容「環境」とはどのようなものかについて、日ごろから幼児教育の現場(幼稚園等)から情報を得るように努めてください。

講義コード	26805101			
科目名	保育内容指導法(言葉) 子どもの言葉・想像性を育てる			
担当者	高井 直美			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト	テキストは用いない。			
参考文献	参考図書は授業中に紹介する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

幼児期は言葉の発達の著しい時期である。幼児期初期の1語発話から始まって、3歳ころには比較的スムーズな日常会話が可能となる。さらに、言語的概念の発達や言語的思考の発達は、3～5歳の幼児期後半に著しい。これらの発達を支えるのは家庭でのコミュニケーションや幼稚園等における集団での保育者あるは友だちとの関わりである。本科目では、言葉の発達のメカニズムを理解したうえで、その発達を支えるために行う幼稚園教育での言葉に関する取り組みを実践的に学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 幼児期における言葉の発達全般について概観し、言葉の発達がスムーズにいかない場合の諸問題についても理解する。
2. 言葉が育つ環境として、家庭と幼稚園のもつそれぞれの役割を理解する。
3. 「しつけの言葉」「思考の発達を促す言葉」など、親や保育者から伝わる言葉が、幼児の自我形成や認識・思考の発達に及ぼす影響について学ぶ。
4. 遊びを通して言葉はどのように育つのかについて理解する。
5. 絵本の世界に子どもが浸ることとイメージの発達との関係を学ぶ。
6. 絵本の読み聞かせの練習を行う。
7. ペープサートの台本を作成し上演を行う。
8. 言葉を使ったさまざまな遊びを行う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と実習の両方を行う。実習では絵本の読み聞かせの練習とペープサートの作成と上演を行う。絵本の読み聞かせは1人1冊は必ず行う。ペープサートは班に分かれて、受講生がアイデアを出しながら台本と材料を作成し、上演する。各班によって上演されたペープサートを視聴し、お互いに批判しながら、よりよい上演をするにはどのようにしたらよいか考える機会を提供する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

書店に行ったときに、絵本コーナーに立ち寄ってみよう。興味を引く絵本が見つかるはずである。自分で多くの絵本をよく見て、時には声に出して読み、楽しんでおいてほしい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は受講態度・実習への取り組み(30%)、レポート(70%)によって、総合的に行う。不真面目な態度は、厳しく減点の対象とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 言葉の発達のしくみ①(生得説と環境説)

- 第2回 言葉の発達のしくみ②(0歳から5歳までの言語発達プロセス)
- 第3回 言葉の発達の障害
- 第4回 言葉の発達支援
- 第5回 ごっこ遊び・想像性の発達
- 第6回 言葉が育つ環境
- 第7回 絵本の読み聞かせの意義
- 第8回 絵本の読み聞かせの基礎
- 第9回 絵本の読み聞かせの実践
- 第10回 ペープサートの企画
- 第11回 ペープサート作成
- 第12回 ペープサート上演と振り返り
- 第13回 言葉の発達を促す遊び
- 第14回 幼稚園教育における言葉の発達を促す試み
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業予定の順番は変わることもある

講義コード	26805201			
科目名	保育内容指導法(表現)			
担当者	松岡 宏明			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『美術教育概論(改訂版)』松岡宏明他編著 日本文教出版 2009 『事例で学ぶ保育内容表現』浜口順子編著代表 萌文書林 2007 『保育をひらく造形表現』横英子 萌文書林 2008			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力		主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

幼稚園教育要領の領域「表現」について、五領域の中における位置づけを確認し、そのねらいと内容について歴史的考察を踏まえて把握するとともに、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深める。また、様々な表現方法を体験して自らの表現技術を高めるとともに、「学生」の目線から「保育者」の視点獲得へと意識のステップアップを図り、幼児の表現を引き出し、育てるための「受容-共感-反応」していく力量を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。
2. 造形、音楽、劇(ごっこ)、身体、言葉といった表現媒体についてそれぞれ理解を深めるとともに、それらが未分化な形として表(現)れる幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。
3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想をあげ、仲間とともに感性を磨く。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・講義と演習、実技を織り交ぜて行う。
- ・演習、実技においてはチームで学習を進める。
- ・授業の終わりの5分程度で、毎回質問や感想を「受講ノート」(授業内に詳述)に記入する。(担当者は毎回返事を書く。)
- ・「授業ノート」(授業内に詳述)を創造的にしっかり記入、管理していくこと。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 「幼稚園教育要領」のねらい及び内容の「表現」について目を通しておくこと。
2. 心と体の調子を整え、優しく受容的な気持ちで、かつアクティブな姿勢を携えて授業にやってくること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

受講ノート(20%)、表現・発表内容(20%)、レポート(20%)、作成保育案(20%)、授業ノート(20%)

具体的なルーブリック(評価基準)は授業内に示します。なお、保育者にとっては自ら表現する力よりもむしろ、幼児の表現を受け入れ、共感し、反応していく力が重要です。ゆえに、「表現・発表内容」といっても、その技術を評価するわけではありませんので安心を。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ・オリエンテーション(本授業のねらい、内容、評価について)
・講義「表現(教育)を学ぶキーワード」
- 第2回 ・チーム編成
・講義「幼児と大人の世界観の違い」その1
・活動「見立て遊びからの表現(造形・音楽・劇・言葉)」そ

- の1
- 第3回 ・講義「幼児と大人の世界観の違い」その2
・活動「見立て遊びからの表現（造形・音楽・劇・言葉）」その2
- 第4回 ・講義「子供の造形活動への発達の側面からのアプローチ」その1
・活動「見立て遊びからの表現（造形・音楽・劇・言葉）」その3
- 第5回 ・講義「子供の造形活動への発達の側面からのアプローチ」その2
・活動「見立て遊びからの表現（造形・音楽・劇・言葉）」その4
- 第6回 ・講義「子供の造形活動への発達の側面からのアプローチ」その3
・活動「見立て遊びからの表現（造形・音楽・劇・言葉）」その5
- 第7回 ・講義「子供の造形活動への特徴的側面からのアプローチ」
・活動「見立て遊びからの表現（造形・音楽・劇・言葉）」その6
- 第8回 ・活動「見立て遊びからの表現（造形・音楽・劇・言葉）」その7
- 第9回 ・活動「見立て遊びからの表現（造形・音楽・劇・言葉）」その8
- 第10回 ・講義「幼児が初めて出会う芸術（表現）としての絵本」その1
・活動「『名作絵本』のすごいところ探し」
- 第11回 ・講義「幼児が初めて出会う芸術（表現）としての絵本」その2
・活動「絵本からの表現活動」その1
- 第12回 ・講義「幼児が初めて出会う芸術（表現）としての絵本」その3
・講義「幼稚園教育要領のねらいと内容」
・講義「幼稚園教育要領における領域の変遷と『表現』について」
・活動「絵本からの表現活動」その2
- 第13回 ・講義「子供の造形活動への心理的側面からのアプローチ」
・活動「絵本からの表現活動」その3
●上記保育案提出
- 第14回 ・講義「子供の造形活動への美的側面からのアプローチ」
・活動「絵本からの表現活動」その4
●レポート提出
●授業ノート提出
- 第15回 ・講義「園における造形活動」
・講義「発達に合わせた題材設定」
・講義「幼児の豊かな表現を引き出す保育者の感性」
・まとめ

6. Special Information (留意事項)

A4サイズのノート（40枚）を一冊準備しておいてください。それが上記の「授業ノート」です。これに板書を写し、ノートを取り、配布のプリント、仲間からの配布物、レポートなどの全てを貼り付けていきます。自分なりの創造的なノートにしていくことを求めます。

講義コード	26805301			
科目名	犯罪心理学 司法面接の重要性			
担当者	藤川 洋子			
単位数	2	配当学年	34	
資格				
前提科目				
テキスト	『子どもの面接ガイドブック』 藤川洋子 日本評論社 2003			
参考文献	『発達障害と少年非行』 藤川洋子 金剛出版 2008 『触法発達障害者への複合的支援』 藤川洋子、井出浩（編著） 福村出版 2011			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

2009年5月から裁判員制度が始まり、国民すべてが、犯罪を裁く立場になる可能性が生じた。誰にとっても犯罪が身近になった現在、重大事件を前に、私たちは何をどのように整理して考える必要があるのか。法の仕組みを理

解しながら、被害者支援の在り方、加害者を更生させる手法を学ぶ。また、冤罪防止のために、司法面接（事実を明らかにする面接）のテクニックに対する需要が高まっており、子どもなど弱者に対する誘導を排した面接のスキルを学び、治療的面接との違いを理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

一般の学生にとっては、犯罪や処遇機関は縁遠い存在であると思われることから、DVDなど視聴覚教材を利用して、冤罪の成り立ちや犯罪者処遇のイメージを持ってもらう。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式が中心であるが、随時、小テストや意見発表を挿入する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

犯罪報道に接する機会は多いが、臨床心理学的視点から分析するような心構えが必要である。テキストを熟読することによって、司法面接のスキルが犯罪のみならず、いじめなどの解明にも寄与することを理解する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

講義とテキストの理解を試験によって評価する。授業参加度50%、試験50%。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 犯罪心理学が明らかにできること
第2回 プロファイリングとは一犯人像を絞り込む
第3回 加害者と被害者—ジェノグラムを書こう
第4回 犯罪者処遇の流れ—少年、成人それぞれについての司法機関の仕組み
第5回 犯罪者処遇の流れ—少年、成人それぞれについての司法機関の役割
第6回 冤罪はなぜ起きるか① (DVD「誘導尋問」を視聴)
第7回 冤罪はなぜ起きるか② (DVDの論点の整理)
第8回 事実を明らかにするテクニック (司法面接の実際①面接場面の設定)
第9回 事実を明らかにするテクニック (司法面接の実際②面接のポイント)
第10回 事実を明らかにするテクニック (司法面接の実際③治療面接との相違を中心に)
第11回 冤罪が起きる心理的背景
第12回 加害者、被害者のために心理学ができること
第13回 犯罪心理学の最前線
第14回 犯罪の予防と更生のために我々ができること
第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26805601			
科目名	教師論 A			
担当者	大西 慎也			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『教職概論』 佐久間裕之 玉川大学出版部 2012			
参考文献	『教職概論』 佐藤晴雄 学陽書房 2001 『教師論』 米山弘 玉川大学出版部 2001			
備考	心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教職の意義や教員の役割、教員の職務内容、教員の採用や評価について理解すること。教員のあるべき姿を考察し、専門職として教員に求められる資質、能力を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校教育の現状と課題を理解する。
2. 教員の職務や求められる教員の資質を理解する。
3. 教員採用の状況、教員に対する評価について理解する。
4. 教員としての適格性をもつために必要なことを探究する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。必要に応じて予習課題を出す。(ノートはA4判のものを用意する。)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度（10%）、ノート記述（30%）、レポート（30%）、最終試験（30%）に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教職とは
- 第2回 学校教育の現状と課題
- 第3回 「聖職者論」「労働者論」「専門職論」からみた教職の意義と現状と課題
- 第4回 教員の職務①(教員の身分、職務と権利)
- 第5回 教員の職務②(教員の服務、現状と課題)
- 第6回 求められる教員の資質①(学習指導、生活指導、学級経営、校務分掌)
- 第7回 求められる教員の資質②(学校・家庭・地域の連携、常に学び続ける社会人として)
- 第8回 教員としての資質を養うために
- 第9回 教員養成(歴史と現状と課題)
- 第10回 教員資格と教員の採用
- 第11回 教員の研修と評価
- 第12回 教員と学校経営
- 第13回 先人から学ぶ教師論
- 第14回 目指す教師像
- 第15回 目指す教師像についてのディスカッション

6. Special Information (留意事項)

欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

講義コード	26805801		
科目名	道徳の指導法 A		
担当者	野本 玲子		
単位数	2	配当学年	23
資格	[小]		
前提科目			
テキスト	<p>『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省 平成28年(予定) 『道徳教育2015年8月号(予定)』明治図書出版 2015年</p> <p>1の学習指導要領解説は、現在平成20年出版のものが出ていますが、28年に新しいものが出版される予定です。</p> <p>2の教育雑誌は、既刊で入手しにくいので、授業担当で取り寄せて初回にお渡しします。</p>		
参考文献			
備考	心理学部対象クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	80001901		
科目名	道徳の指導法 A		
担当者	野本 玲子		
単位数	2	配当学年	23
資格	[小]		
前提科目			
テキスト	<p>『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省 平成28年(予定) 『道徳教育2015年8月号(予定)』明治図書出版 2015年</p> <p>1の学習指導要領解説は、現在平成20年出版のものが出ていますが、28年に新しいものが出版される予定です。</p> <p>2の教育雑誌は、既刊で入手しにくいので、授業担当で取り寄せて初回にお渡しします。</p>		
参考文献			
備考	心理学部対象クラス(小のみ)		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

平成30年度より小学校では道徳が「特別な教科」になる。教科化に伴い、教科書の使い方、適切な評価、「考え議論する」授業づくり、指導案づくり、21世紀型の学力も意識し、アクティブラーニングに取り組む。子どもも大人も心を元気にする道徳教育ができるよう、指導の内容と方法を研究し、魅力ある道徳授業づくり・教材開発ができる力をつけることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教育課程における道徳の位置づけと、その目標、内容、方法について

理解する。

2. 道徳教育の方法原理とその実現のための方法について学問的知識を身につける。
3. 子どもたちと共に生き方を考えられるような道徳の授業ができる力をつける。
4. 小学校の発達段階に応じて、目の前の子どもの心を揺さぶる魅力ある教材を開発する力をつける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

学習指導要領の理解や魅力ある授業づくりについての講義、及び、指導案の作成や発問・板書を検討した模擬授業とその評価による指導力の養成、学生による道徳教育についてのプレゼンテーション演習等。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示するが、学習指導要領及び解説は新旧を意識してよく読み、子どもたちの心を育てる授業づくりと自分自身がより善く生きることに對して、常にアンテナを高くして関心と問題意識を持っておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の積極的授業参加による到達目標の評価・小レポートによる平常点満点5点×15回(75%)、模擬授業・プレゼンテーション・テスト(25%)で、総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション(この授業の目標と評価方法)『私たちの道徳』について・教育課程と道徳教育の位置づけ ◎自分が受けた道徳教育の振り返り
- 第2回 諸外国の道徳教育の方法、伝統的アプローチ(本質主義・価値の内面化)
進歩主義的アプローチ(価値の明確化・認知発達理論)
- 第3回 道徳性発達理論(フロイト・ピアジェ・コールバーグ)とモラルジレンマ授業
「読み取り道徳から考え議論する道徳へ」子どもの考えを引き出し伸ばす討論の授業を成功させるコツ(葛藤・発問・板書など)
- 第4回 学習指導要領解説道徳編の理解(道徳内容項目)
教育方法からみた特徴と指導及び評価のあり方
- 第5回 道徳教育推進教師の役割・学校全体で取り組む道徳教育・全体計画・年間計画
道徳教育と教育臨床・ストレスマネジメント教育
- 第6回 ささまざまな副読本と資料 魅力的な授業づくり「感謝の授業」生徒指導と道徳のアプローチのちがいがいい問題に道徳教育は何か
第7回 「要」となる道徳の時間の基本 指導案の書き方・中心発問の考え方
読み物資料の読み方 資料分析
- 第8回 道徳指導における体験的な学び
道徳教育と教科教育 道徳教育と人権教育 道徳教育と宗教教育
- 第9回 魅力的な授業づくり「いのちのつながり」
問題解決的な授業づくり
- 第10回 魅力的な授業づくり「苦しみをのりこえる力」
学びのメタ認知
- 第11回 読み物資料を用いた授業の組み立て方
学生のプレゼンテーション
- 第12回 模擬授業から学ぶこと
学生のプレゼンテーション
- 第13回 道徳教育の評価(ポートフォリオ評価・パフォーマンス評価・ルーブリック評価)
学生のプレゼンテーション
- 第14回 道徳教育と家庭地域社会
学生のプレゼンテーション
- 第15回 魅力的な授業づくり「生き方を考える」
全体のリフレクション

6. Special Information (留意事項)

「特別な教科 道徳」の実施に向けて、道徳教育は過渡期であり、日々新しい情報が発信されている。中央の動向に注目してほしい。またニーズに応じてシラバスを若干変更することもある。

講義コード	26805901			
科目名	特別活動の指導法 A 「よりよい生活・よりよい人間関係を築こうとする態度」を育む特別活動			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト	『よりよい人間関係を築く特別活動』 杉田 洋 図書文化 2009年 講義の中で資料を配布する。			
参考文献	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省 東洋館出版社 2008年			
備考	心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	80002001			
科目名	特別活動の指導法 A 「よりよい生活・よりよい人間関係を築こうとする態度」を育む特別活動			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『よりよい人間関係を築く特別活動』 杉田 洋 図書文化 2009年 講義の中で資料を配布する。			
参考文献	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省 東洋館出版社 2008年			
備考	心理学部対象クラス (小のみ)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

近年、子ども達を取り巻く社会の状況は急激に変化してきている。少子化、都市化、情報化、核家族化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちが社会性、自主性などを身に付ける機会は激減している。そのため、望ましい集団活動を通して人格の調和的な発達を図り、健全な社会生活を営む上で必要な資質を養うことを目標とする特別活動は、一層重要視されている。

本科目では、特別活動の目標を具現化する理論や実践を明らかにし、特別活動の教育的意義を踏まえた実践的な指導力をつける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校教育における特別活動の位置づけとその意義
2. 子ども達の現状と特別活動の特質
3. 特別活動の変遷と今日的意義
4. 特別活動の内容とその具体的な活動内容
5. 特別活動の指導計画
6. 特別活動と他の教育活動との関連
7. 特別活動の評価

3. Course Method (教育・学習の方法)

一方的な講義に終始するのではなく、話し合いや担当者自身の実践の紹介等を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追究していく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

児童・生徒の現状と問題に関心を持ち、その要因と対策、解決への道筋などを教育課題として主体的に考えて授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

長文レポート(80%) 授業時の課題・授業参加度・授業態度(20%)により総合的に評価する。欠席5日以上は原則として評価対象外とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 特別活動の概要
- 第2回 特別活動の特質
- 第3回 特別活動の変遷
- 第4回 特別活動の目標と内容
- 第5回 学級活動の目標と内容
- 第6回 児童会活動の目標と内容
- 第7回 クラブ活動の目標と内容
- 第8回 学校行事の目標と内容
- 第9回 特別活動の指導計画

- 第10回 特別活動と他の教育活動との関連
- 第11回 特別活動と学校・学年・学級経営
- 第12回 特別活動の指導実践(学級活動を中心に)
- 第13回 特別活動の評価
- 第14回 特別活動をめぐる諸問題
- 第15回 これからの学校教育と特別活動・まとめ

6. Special Information (留意事項)

「為すことによって学ぶ」という特別活動の指導原理に基づいて、講義中のグループワークにも自主的・実践的に参加すること。

講義コード	26806101			
科目名	推測統計学 I A			
担当者	松島 るみ			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。			
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ミネルヴァ書房 1988			
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定			
科目読替	268011「推測統計学」(I・II合わせて) ※H23年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

講義コード	26806102			
科目名	推測統計学 I B			
担当者	篠原 恵介			
単位数	2	配当学年	2	
資格				
前提科目				
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。			
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ミネルヴァ書房 1988			
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定			
科目読替	268011「推測統計学」(I・II合わせて) ※H23年度以前入学者に適用			
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる(できている)者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な事例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立していることを理解していくこと。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

持込みなしの筆記テスト(90%)、小テスト・授業参加度(10%)を併せて総合的に評価を行う。なお、授業への遅刻・欠席は減点の対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 記述統計の復習①(代表値)
- 第3回 記述統計の復習②(散布度)
- 第4回 統計的検定の考え方①(統計的検定とは何か)
- 第5回 統計的検定の考え方②(標本と母集団、標本抽出)
- 第6回 統計的検定の考え方③(統計的検定・帰無仮説)

- 第7回 統計的検定の考え方④ (有意水準、検定結果の報告)
- 第8回 統計的検定の考え方⑤ (統計的検定における2種類の誤り)
- 第9回 統計的検定の考え方⑥ (両側検定・片側検定)
- 第10回 相関係数① (ピアソンの相関係数)
- 第11回 相関係数② (順位相関係数)
- 第12回 相関係数③ (偏相関)
- 第13回 t検定① (独立2平均のt検定)
- 第14回 t検定② (連関する2平均のt検定)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

講義コード	26806201		
科目名	推測統計学ⅡA		
担当者	松島 るみ		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ナカニシヤ 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	268011「推測統計学」(I・II合わせて) ※H23年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

講義コード	26806202		
科目名	推測統計学ⅡB		
担当者	篠原 恵介		
単位数	2	配当学年	2
資格			
前提科目			
テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004 クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。		
参考文献	『初歩の心理教育統計法』 住田幸次郎 ナカニシヤ 1988		
備考	必修 学校心理専攻は選択 クラス指定		
科目読替	268011「推測統計学」(I・II合わせて) ※H23年度以前入学者に適用		
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる(できている)者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立していることを理解していくこと。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

持込みなしの筆記テスト(90%)、小テスト・授業参加度(10%)を併せて総合的に評価を行う。なお、授業への遅刻・欠席は減点の対象となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 前期の復習(1)
- 第2回 前期の復習(2)

- 第3回 χ^2 検定① (χ^2 検定の前提条件)
- 第4回 χ^2 検定② (χ^2 検定：一標本の検定)
- 第5回 χ^2 検定③ (χ^2 検定：2×2分割表の検定)
- 第6回 χ^2 検定④ (χ^2 検定：イエーツの修正)
- 第7回 分散分析とは
- 第8回 一要因分散分析① (被験者間要因)
- 第9回 一要因分散分析② (被験者内要因)
- 第10回 二要因分散分析① (被験者間要因)
- 第11回 二要因分散分析② (被験者内要因)
- 第12回 二要因分散分析③ (混合計画)
- 第13回 二要因分散分析④ (交互作用)
- 第14回 二要因分散分析⑤ (多重比較)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

講義コード	26807001			
科目名	書写			
担当者	奥 小風			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	85010102			
科目名	書写			
担当者	奥 小風			
単位数	1	配当学年	2	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	教職専用科目(小学校のみ)卒業要件単位とならない			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小学校教員免許状の取得を目指す者、書写能力の基礎を養うことを目標とする。硬筆と毛筆の両面にわたって、実技・技能とその理論、書写指導の能力をさらに高めるとともに、いろいろな立場から、さまざまな変化と調和に伝統的な言語文化と国語の特質を支える文字教育の一環としての書写教育、単に教員養成のためではなく、広く小学校教育現場における指導力強化のため、さらに、社会教育、あるいは自己学習としても活用できるように、新たな機軸を追求していくことである。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 知識・理解と書写指導力の目標
文字の書き方の技能を知的に理解させることで、知覚、識別力、学習用語力、技能説明力等が関わる。
2. 技能・能力の目標
用具の使い方、姿勢、腕法、指法、書写技能形成力(練習を含む)等である。
3. 態度・習慣の目標
文字を正しく整えて速く書くための目的意識、必要感、興味、意欲、身構え等の学習持続力がある。
4. 鑑賞・評価の目標
教材文字の価値の感得、文字の善し悪しの価値づけをする評価眼(感性)等がある。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業は講義と実技形式で行う。
2. 授業中に補助プリント配布と視聴覚教材の活用、書写指導力の理解を深める為に模擬授業を実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業中に指示する。特に模擬授業実施のため、学習指導案作成は事前に指示される。さまざまな課題に、しっかり取り組むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度と毎回課題の提出、模擬授業の指導案と発表、期末の課題レポートに基づいて評価する。欠席回数が授業総数の3分の1を超える者には、特段の事情がある場合を除き単位を認めない。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 総説

文字の特質と書写教育・国語表記の特質・文字と書写・書写教育の役割・字形、字体、書体など・学習指導要領と書写の指導・書写指導の内容及び授業時数・書写の指導計画(年間、単元、毎時の指導計画・硬筆、硬筆と毛筆)・書写の指導方法。

第2回 第1学年と第2学年の書写指導(1)

硬筆書写に用いる用具・字を書く姿勢や筆記具の持ち方・硬筆平仮名の字形、点画の長短・方向、点画の接し方、交わり方・方向、筆順、書き方。

第3回 第1学年と第2学年の書写指導(2)

硬筆片仮名の字形、点画の長短・方向、点画の接し方、交わり方・方向、筆順、書き方・硬筆文字の形、点画の長短・方向、点画の接し方、交わり方・方向、文字の中心、筆順、書き方。

第4回 第1学年と第2学年の書写指導(3)

第1・2学年の書写指導のまとめの模擬授業とその評価及び検討。

第5回 第3学年と第4学年の書写指導(1)

毛筆書写に用いる用具・毛筆の姿勢、筆の持ち方、筆の部分の名前・用具の置き方と扱い方・筆使いと基本点画(始筆、送筆、終筆)・基本点画の書き方(1)・漢字の組み立て方、形、筆順、字形、配列などと書き方。

第6回 第3学年と第4学年の書写指導(2)

基本点画の書き方(2)・毛筆の漢字の組み立て方、形、文字の大きさや配列、筆順と書き方・硬筆の漢字の組み立て方、筆順と字形、文字の中心・横書き。

第7回 第3学年と第4学年の書写指導(3)

筆使い平仮名の字源と書き方・始筆の筆使い、送筆の筆使い、終筆の筆使い。

第8回 第3学年と第4学年の書写指導(4)

硬筆と毛筆の関連・漢字や仮名の大きさ、配列、字配り、点画・硬筆と毛筆それぞれの本来の性能を発揮する・諸書式の書き方(原稿用紙、封筒、葉書、年賀状など)。

第9回 第3学年と第4学年の書写指導(5)

第3・4学年の書写指導のまとめの模擬授業とその評価及び検討。

第10回 第5学年と第6学年の書写指導(1)

姿勢と筆記具の選択・いろいろな筆記具の持ち方を確かめよう・学習の進め方(漢字・楷書、いろいろな点画と点画のつながり、筆順と字形、文字の大きさや配列、配置、用紙と文字の大きさ、筆圧・筆速のコントロール)。

第11回 第5学年と第6学年の書写指導(2)

筆使い片仮名の字源と書き方・始筆の筆使い、送筆の筆使い、終筆の筆使い。

第12回 第5学年と第6学年の書写指導(3)

硬筆と手紙、メモなどの書き方(横書き、縦書き)・硬筆の点画のつながりを書く速さ・筆順と字形、用紙と文字の大きさ・配列、筆記具の選び方・ローマ字の書き方。

第13回 第5学年と第6学年の書写指導(4)

毛筆の漢字と仮名の書き方・漢字仮名交じりの書の書き方(点画のつながり、漢字と仮名の筆順と字形、筆の筆圧、字配り、用紙と文字の大きさ、書く速さなど)。

第14回 第5学年と第6学年の書写指導(5)

毛筆と硬筆の姿勢再度確認・筆記具の持ち方の確認・いろいろな筆記具の特性の理解・学習の進め方を考える(書写で培った知識や技能を、日常生活の文字を書く場面に生かすこと)。学んだことを生かして、作品を作ろうと発表展示評価。

第15回 第5学年と第6学年の書写指導(6)

第5・6学年の書写指導のまとめの模擬授業とその評価及び検討。

6. Special Information (留意事項)

やむを得ず欠席する場合は、前回の補助プリントなどに自己学習して、次の授業に支障のない状態で臨んでください。

講義コード	26808001			
科目名	教職専門ゼミナール			
担当者	藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	授業で資料プリントを配布する。			
参考文献	授業において指示する。			
備考				
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本講義は文献の講読を通して、教員として必要な資質や知識を身につけることを目標とする。教育現場において教員は教育に関わる法規に則り、その職責の遂行に努めなければならない。また、保育園、幼稚園、小学校、中学校等、他校種間での連携、家庭・地域との連携のあり方等を始めとする様々な教育の今日的課題について理解し、日々実践することが求められる。

そこで本講義では、教育法規に関する知識、及び教育の今日的課題についての知識を身につけることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・教育六法をはじめとする教育法規の通読と考察
- ・西洋教育史、日本教育史についての理解と考察
- ・教育の今日的課題に関する考察と小論文作成

3. Course Method (教育・学習の方法)

テキストを用いて講義を行う。小グループでの討論も必要に応じて行う。後半では教育の今日的課題についての考察をもとに小論文を作成、知識の定着をはかる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に配布する文献資料を精読し、理解を深めておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

成績は授業参加度(30%)、小論文(40%)、最終レポート(30%)によって総合的に判断する。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 オリエンテーション 教職に必要な教養とは何か

第2回 日本国憲法と教育基本法についての理解

第3回 学校教育法および学校教育法施行令、学校教育法施行規則についての理解

第4回 教育公務員特例法、教育職員免許法、学校保健法および学校図書館法についての理解

第5回 教育行政、教育福祉および人権に関する法規等についての理解

第6回 西洋教育史についての理解

第7回 日本教育史についての理解

第8回 教育の今日的課題についての考察(1) 他校種間、家庭・地域との連携

第9回 教育の今日的課題についての考察(2) 人権教育

第10回 教育の今日的課題についての考察(3) 特別支援教育他

第11回 教育の今日的課題についての考察(4) キャリア教育他

第12回 小論文(教育の今日的課題について…他校種間、家庭・地域との連携)作成

第13回 小論文(教育の今日的課題について…人権教育)作成

第14回 小論文(教育の今日的課題について…特別支援教育・キャリア教育他)作成

第15回 ふりかえり

6. Special Information (留意事項)

講義コード	26901301			
科目名	卒業研究			
担当者	伊藤 一美			
単位数	8	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901302		
科目名	卒業研究		
担当者	上田 恵津子		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901307		
科目名	卒業研究		
担当者	工藤 哲夫		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901303		
科目名	卒業研究		
担当者	大西 慎也		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901309		
科目名	卒業研究		
担当者	古庵 晶子		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901304		
科目名	卒業研究		
担当者	小川 博士		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901310		
科目名	卒業研究		
担当者	神月 紀輔		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901305		
科目名	卒業研究		
担当者	尾崎 仁美		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901311		
科目名	卒業研究		
担当者	薦田 未央		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901306		
科目名	卒業研究		
担当者	河瀬 雅紀		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901312		
科目名	卒業研究		
担当者	佐藤 睦子		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901313		
科目名	卒業研究		
担当者	高井 直美		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901319		
科目名	卒業研究		
担当者	向山 泰代		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901314		
科目名	卒業研究		
担当者	田中 誉樹		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901315		
科目名	卒業研究		
担当者	廣瀬 直哉		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901317		
科目名	卒業研究		
担当者	松島 るみ		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901318		
科目名	卒業研究		
担当者	三好 智子		
単位数	8	配当学年	4
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学部における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

各自が卒業研究として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
- 5.決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

各ゼミ別に個別指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業時間以外の学習が重要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

5. Special Information (留意事項)

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

講義コード	26901401		
科目名	心理学演習 I		
担当者	伊藤 一美		
単位数	4	配当学年	3
資格			
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修 クラス指定		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	26901402			
科目名	心理学演習 I			
担当者	上田 恵津子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901407			
科目名	心理学演習 I			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901403			
科目名	心理学演習 I			
担当者	大西 慎也			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901408			
科目名	心理学演習 I			
担当者	住本 純			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901404			
科目名	心理学演習 I			
担当者	小川 博士			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901409			
科目名	心理学演習 I			
担当者	古庵 晶子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901405			
科目名	心理学演習 I			
担当者	尾崎 仁美			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901410			
科目名	心理学演習 I			
担当者	神月 紀輔			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901406			
科目名	心理学演習 I			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901411			
科目名	心理学演習 I			
担当者	薦田 未央			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901412			
科目名	心理学演習 I			
担当者	佐藤 睦子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901417			
科目名	心理学演習 I			
担当者	三好 智子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901413			
科目名	心理学演習 I			
担当者	高井 直美			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901418			
科目名	心理学演習 I			
担当者	向山 泰代			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901414			
科目名	心理学演習 I			
担当者	田中 誉樹			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901419			
科目名	心理学演習 I			
担当者	空間 美智子			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901415			
科目名	心理学演習 I			
担当者	廣瀬 直哉			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901416			
科目名	心理学演習 I			
担当者	松島 るみ			
単位数	4	配当学年	3	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業論文作成のための研究へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員(指導教員)の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

各担当教員から個別に指示する。

6. Special Information (留意事項)

水曜日4講時、出席必須

講義コード	26901501			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	伊藤 一美			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901506			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	河瀬 雅紀			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901502			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	上田 恵津子			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901507			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	工藤 哲夫			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901503			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	大西 慎也			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901509			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	古庵 晶子			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901504			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	小川 博士			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901510			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	神月 紀輔			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901505			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	尾崎 仁美			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901511			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	薦田 未央			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901512			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	佐藤 睦子			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901518			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	三好 智子			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901513			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	高井 直美			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901519			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	向山 泰代			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901514			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	田中 誉樹			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901515			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	廣瀬 直哉			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	26901517			
科目名	心理学演習Ⅱ			
担当者	松島 るみ			
単位数	4	配当学年	4	
資格				
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 クラス指定			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

心理学演習Ⅰで学習した内容を踏まえ、卒業論文の作成に取り組む。基礎文献の探索と理解及びまとめ、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習と実施、収集したデータの分析と考察など、その分野の特徴を活かした個別指導により、卒業論文の完成を目指す。

1. 適切に研究を遂行することができる
2. 卒業論文を執筆することができる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する

3. Course Method (教育・学習の方法)

ゼミ別に個別指導を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業時間以外の学習活動が重要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度、卒業研究に取り組む熱意や態度を総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

各担当教員から個別に指示する。

6. Special Information (留意事項)

1. 各ゼミごとに曜日・講時を設定する。出席必須。
2. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
3. 配布される「卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

講義コード	80001001			
科目名	教師論A			
担当者	大西 慎也			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『教職概論』 佐久間裕之 玉川大学出版部 2012			
参考文献	『教職概論』 佐藤晴雄 学陽書房 2001 『教師論』 米山弘 玉川大学出版部 2001			
備考	心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教職の意義や教員の役割、教員の職務内容、教員の採用や評価について理解する。教員のあるべき姿を考察し、専門職として教員に求められる資質、能力を理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校教育の現状と課題を理解する。
2. 教員の職務や求められる教員の資質を理解する。
3. 教員採用の状況、教員に対する評価について理解する。
4. 教員としての適格性をもつために必要なことを探究する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。必要に応じて予習課題を出す。(ノートはA4判のものを用意する。)

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(10%)、ノート記述(30%)、レポート(30%)、最終試験(30%)に基づいて総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教職とは
- 第2回 学校教育の現状と課題
- 第3回 「聖職者論」「労働者論」「専門職論」からみた教職の意義と現状と課題
- 第4回 教員の職務①(教員の身分、職務と権利)
- 第5回 教員の職務②(教員の含む、現状と課題)
- 第6回 求められる教員の資質①(学習指導、生活指導、学級経営、校務分掌)
- 第7回 求められる教員の資質②(学校・家庭・地域の連携、常に学び続ける社会人として)
- 第8回 教員としての資質を養うために
- 第9回 教員養成(歴史と現状と課題)
- 第10回 教員資格と教員の採用
- 第11回 教員の研修と評価
- 第12回 教員と学校経営
- 第13回 先人から学ぶ教師像
- 第14回 目指す教師像
- 第15回 目指す教師像についてのディスカッション

6. Special Information (留意事項)

欠席が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

講義コード	80001002		
科目名	教師論B		
担当者	河佐 英俊		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	「特になし」 必要に応じてレジュメを配布する。		
参考文献	『教職とは』 砂田信夫他 編 教育出版 2012 『現代教育概論』 佐藤晴雄 学陽書房 2011 『求められる教師像と教員養成』 山崎英則 他編著 ミネルヴァ書房 2008 『中学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領』		
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 教員に対する社会的要請をとらえ、教職の意義・使命・専門性、教諭の職務内容、教職に必要な資質・能力について理解する。
2. 受講生自身が何を大切に教師をめざすか等、教師としてどのように成長・自己変革を図っていくのかを考える。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教員の役割を理解することをとおして教員としての自覚の素地を養うことができる。
2. 自己の個性が発揮できる教員像をもつことができる。
3. 実践的な知見を身につけ即応性のある教員としての力量の素地を養うことができる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

受講生が教職の意義や使命、専門性について理解を深め、教員としての資質能力の素地を形成することを目的とする。授業形態は講義を基本としながら適宜プレゼンテーション、グループディスカッション等を取り入れる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

配布したプリントはノート(A4判)やファイルに貼り付け、その日の講義のまとめや考えを次回講義までにまとめておく。必要に応じて予習課題を出す。

題を出す。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート(50%)、小テスト(30%)、授業への関心・意欲・態度(20%)
レポート提出期日は授業中に指示する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教職を考えることの意義
- 第2回 学校教育の現状と課題
- 第3回 教育公務員としての教師(身分保障、分限、懲戒)
- 第4回 求められる教員の資質能力
- 第5回 教職員の研修
- 第6回 学び続ける教師
- 第7回 学校組織の一員としての教師
- 第8回 校務と教育課程
- 第9回 授業をつくる(指導と評価の一体化)
- 第10回 学級経営づくり
- 第11回 生徒指導(児童生徒の理解と問題行動)
- 第12回 これからの道徳教育
- 第13回 学校、家庭、地域の連携と教員のかかわり
- 第14回 これからの教師に求められる資質・能力
- 第15回 理想としての教員像と自己の課題

6. Special Information (留意事項)

教員の仕事は専門性の高い職業である。それゆえ人間性を磨くとともに教養、専門的知見、指導技術を修得する必要がある、その過程では苦勞があり、相応の努力がいる。しかし教員として職に就けば得がたい喜びや充実感を味わうことができるだろう。本講義では社会的要請に応えられる教員の具体的なイメージを確立し、教員としての基礎的資質の素地を醸成してくれることを期待する。

講義コード	80001201		
科目名	発達と学習の教育心理		
担当者	畠山 寛		
単位数	2	配当学年	2
資格	[教][日]		
前提科目			
テキスト	特に指定しない		
参考文献	講義の中で適宜知らせる		
備考	障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む 中高必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義することによって、適切で効果的な教育活動について理解することを目標にする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教育に関する心理学的法則
2. 教育の対象である児童・生徒の心身の発達、及び、障害等の理解
3. 効果的な教育活動

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業は講義形式・演習形式で行う。適宜必要なプリントなどを配布する。
2. 必要に応じてパワーポイント、ビデオなどを使用する。
3. 毎授業終了時に、授業内容の理解度評価を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。
2. 評価は試験(90%)、及び、課題の提出状況(10%)を総合して評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教育心理学とは何か?教育心理学の役割・意義について
- 第2回 記憶
- 第3回 学習:条件付け
- 第4回 学習:認知的学習
- 第5回 動機づけ
- 第6回 教授過程
- 第7回 教育評価
- 第8回 乳児・幼児期の発達
- 第9回 児童・青年期の発達

- 第10回 発達障害の理解：知的障害、自閉症
- 第11回 発達障害の理解：ADHD,LD
- 第12回 個人差の理解
- 第13回 学級集団の理解：教師－生徒関係
- 第14回 学級集団の理解：生徒間関係
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	80001401			
科目名	教育課程論 グローバル化社会における学校教育のあり方を考えよう			
担当者	福嶋 祐貴			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『新しい時代の教育課程 第3版』 田中耕治ほか 有斐閣アルマ 2011年 授業では、テキストおよび配布プリントを使用する。各回のテーマに沿った参考書は授業中に紹介する。			
参考文献	『よくわかる教育課程』 田中耕治編 ミネルヴァ書房 2009年 中学校学習指導要領 (解説あるいは本文) 高等学校学習指導要領 (解説あるいは本文) 上記2点は、文部科学省のHPでも公開されている。紙媒体が必要な場合は購入を薦める。			
備考	必修 中高専科科目			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業では、教育課程の編成に関する基本的な概念・原理を検討するとともに、日本における教育課程の歴史の変遷や諸外国のカリキュラム改革の遺産に学びつつ、近年の教育課程改革(学習指導要領改訂など)をめぐる課題について考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

教育課程の編成に関する基礎的な理論と具体的な方法を理解することをめざす。

具体的には、次の3点を主な内容として取り上げる。

1. 教育課程とは何か、教育課程の編成原理と類型、領域論
2. 日本における教育課程の歴史の変遷・現状と課題
3. 教育課程改革に関する近年の動向

3. Course Method (教育・学習の方法)

・テキストおよび配布プリントに沿った講義に加え、具体的な教材やワークシートなどを使った作業も行う。

・授業中に必要な資料をプリントとして配布する。また、参考書は授業の中で適宜紹介する。

・興味や関心を持った課題については、それらをもとに積極的に追究してほしい。

・毎時間、一枚ポートフォリオにコメントを書いて提出してもらう。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・配布プリントは毎回持ってくる。

・一枚ポートフォリオは毎回の授業の最後に回収し、翌週の授業開始時にするので、資料と一緒に蓄積し、自分の学習履歴として活用してほしい。

・毎回、テキストの対応箇所は指定するので、該当部分は事前に読み、わからない用語にはチェックを入れておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

(1) 平常点 (50%)

一枚ポートフォリオおよび講義中に作成してもらったワークシートなどの提出を求め、成績に反映させる。提出がない場合や、無記入、ないし十分な思考の形跡が窺えない場合は減点対象とする。

(2) 期末レポート (50%)

講義中に扱った内容をもとにした課題を課し、執筆してもらう。課題は中盤に発表する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 教育課程とは何か
- 第3回 教育課程の編成原理①：経験主義
- 第4回 教育課程の編成原理②：系統主義
- 第5回 教育課程の構造(領域論)①：学力とモラルの問題
- 第6回 教育課程の構造(領域論)②：総合的な学習の時間
- 第7回 日本の教育課程改革史①：明治期・大正期・国民学校期

- 第8回 日本の教育課程改革史②：戦後学習指導要領の変遷
- 第9回 学力調査と学力実態
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の現代的課題①：いのちの教育
- 第12回 教育課程の現代的課題②：メディア・リテラシーの教育
- 第13回 諸外国における教育課程改革
- 第14回 近代学校批判
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

授業内で適宜指示する。その他、授業で扱うテーマについて問題意識を持ち、自分なりの探究を行い、授業でのディスカッションに生かしてほしい。

講義コード	80001902			
科目名	道徳の指導法B			
担当者	野本 玲子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[中]			
前提科目				
テキスト	『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省 平成28年(予定) 『道徳教育2015年8月号(予定)』 明治図書出版 2015年 1の学習指導要領解説は、現在平成20年出版のものが出ていますが、28年に新しいものが出版される予定です。 2の教育雑誌は、既刊で入手しにくいので、授業担当で取り寄せて初回にお渡しします。			
参考文献				
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス 中学校必修。高校のみの免許取得者も履修することが望ましい(教科又は教職に関する科目に充当)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「特別の教科 道徳」に向けての理解を深め、子どもも大人も心を元気にする道徳教育ができるよう、指導の内容と方法を研究し、魅力ある授業づくり・教材開発ができる力をつけることを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教育課程における道徳の位置づけと、その目標、内容、方法について理解する。

2. 道徳教育の方法原理とその実現のための方法について学問的知識を身につける。

3. 子どもたちと共に生き方を考えられるような道徳の授業ができる力をつける。

4. 中学・高校生の発達に応じた、目の前の子どもの心をはさぶる魅力ある教材を開発する力をつける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

学習指導要領の理解や魅力ある授業づくりについての講義、及び、指導案の作成や発問・板書を検討した模擬授業とその評価による指導力の養成、学生による内容項目についてのプレゼンテーション演習

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示するが、学習指導要領はよく読み、子どもたちの心を育てる授業づくりと自分自身がより善く生きることに對して、常にアンテナを高くして関心と問題意識を持っておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

毎回の積極的授業参加による到達目標の評価・小レポートでの平常点満点5点×15回(75%)、模擬授業・プレゼンテーション・テスト(25%)で総合的に評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション(この授業の目標と評価方法)『私たちの道徳』について
教育課程と道徳教育の位置づけ ◎自分が受けた道徳教育の振り返り
- 第2回 諸外国の道徳教育の方法、伝統的アプローチ(本質主義・価値の内面化)
進歩主義的アプローチ(価値の明確化・認知発達理論)
- 第3回 道徳性発達理論(フロイト・ピアジェ・コールバーグ)とモラルジレンマ授業
「読み取り道徳から考え議論する道徳へ」子どもの考えを引き出し伸ばす討論の授業を成功させるコツ(発問・板書など)
- 第4回 学習指導要領解説道徳編の理解(道徳内容項目)

- 教育方法からみた特徴と指導及び評価のあり方
- 第5回 道徳教育推進教師の役割・学校全体で取り組む道徳教育・全体計画・年間計画
道徳教育と教育臨床・ストレスマネジメント教育
- 第6回 ささまざまな副読本と資料 魅力的な授業づくり「感謝の授業」
生徒指導と道徳のアプローチのちが いじめ問題に道徳教育は何か
ができるか
- 第7回 「要」となる道徳の時間の基本 指導案の書き方・中心発問の
考え方
読み物資料の読み方 資料分析
- 第8回 道徳指導における体験的な学び
道徳教育と教科教育 道徳教育と人権教育 道徳教育と宗教教育
- 第9回 魅力的な授業づくり「いのちのつながり」
問題解決的な授業づくり
- 第10回 魅力的な授業づくり「苦しみをのりこえる力」
学びのメタ認知
- 第11回 読み物資料を用いた授業の組み立て方
学生のプレゼンテーション
- 第12回 模擬授業から学ぶこと
学生のプレゼンテーション
- 第13回 道徳教育の評価（ポートフォリオ評価・パフォーマンス評価・
ルーブリック評価）
学生のプレゼンテーション
- 第14回 道徳教育と家庭地域社会
学生のプレゼンテーション
- 第15回 魅力的な授業づくり「生き方を考える」
全体のリフレクション

6. Special Information (留意事項)

「特別の教科 道徳」実施に向けて道徳は過渡期であり、日々新しい情報が
発信される。中央の動向に注目してほしい。また、ニーズに応じてシラ
スを若干変更することもある。

講義コード	80002002		
科目名	特別活動の指導法B 「よりよい生活・よりよい人間関係を築こうとする 態度」を育む特別活動		
担当者	天野 義美		
単位数	2	配当学年	23
資格	[教]		
前提科目			
テキスト	講義の中で資料を配布する。		
参考文献	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学 省 ぎょうせい 2008年 『よりよい人間関係を築く特別活動』杉田 洋 図書 文化 2009年 『特別活動と人間形成』山口 満 学文社 2011年		
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス		
科目読替			
社会人 基礎能力	自分を育てる力		✓
	コミュニケーションする力	✓	
	思考・解決する力		✓

1. Course Description (科目の教育目標)

近年、子ども達を取り巻く社会の状況は急激に変化してきている。少子
化、都市化、情報化、核家族化や地域社会における人間関係の希薄化など
が進む中で、子どもたちが社会性、自主性などを身に付ける機会は激減し
ている。そのため、望ましい集団活動を通して人格の調和的な発達を図り、
健全な社会生活を営む上で必要な資質を養うことを目標とする特別活動は、
一層重要視されている。

本科目では、特別活動の目標を具現化する理論や実践を明らかにし、特
別活動の教育的意義を踏まえた実践的な指導力をつける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校教育における特別活動の位置づけとその意義
2. 子ども達の現状と特別活動の特質
3. 特別活動の変遷と今日的意義
4. 特別活動の内容とその具体的な活動内容
5. 特別活動の指導計画
6. 特別活動と他の教育活動との関連
7. 特別活動の評価

3. Course Method (教育・学習の方法)

一方的な講義に終始するのではなく、話し合いや担当者自身の実践の紹
介等を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追究していく。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

児童・生徒の現状と問題に関心を持ち、その要因と対策、解決への道筋
などを教育課題として主体的に考えて授業に臨むこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

長文レポート(80%) 授業時の課題・授業参加度・授業態度(20%)に
より総合的に評価する。欠席5日以上は原則として評価対象外とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 特別活動の概要
- 第2回 特別活動の特質
- 第3回 特別活動の変遷
- 第4回 特別活動の目標と内容
- 第5回 学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容
- 第6回 生徒会活動の目標と内容
- 第7回 学校行事の目標と内容
- 第8回 特別活動の指導計画
- 第9回 特別活動と他の教育活動との関連
- 第10回 特別活動と学校・学年・学級経営
- 第11回 特別活動の指導実践(学級活動(1)を中心に)
- 第12回 特別活動の評価
- 第13回 特別活動をめぐる諸問題
- 第14回 これからの学校教育と特別活動
- 第15回 特別活動の指導法のまとめ

6. Special Information (留意事項)

「為すことよって学ぶ」という特別活動の指導原理に基づいて、講義中
のグループワークにも自主的・実践的に参加すること。

講義コード	80002101			
科目名	教育の方法及び技術 学習者を主体とする授業設計のために			
担当者	東郷 多津			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	教えるから学ぶへの変革 [電子書籍,Kindle] (学習開発 研究所) 2014			
参考文献	『新しい教育の方法と技術』篠原正典、宮寺晃夫編著 ミネルヴァ書房 2012 『学習ガイドブック教育の技術と方法 チームによる問 題解決のために』西之園晴夫編著 ミネルヴァ書房 『学習ガイドブッカー「教える」から「学ぶ」への変革』 (学習開発研究所) 2014 http://www.u-manabi.org/nc2/ htdocs/			
備考	情報機器及び教材の活用を含む 中高必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における学習指導の方法と技
術およびその評価の方法について、クラス内のメンバーと協働しながら習
得することを目指します。同時にさまざまな教育器械とその使用方法につ
いて理解を深めます。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の特質を、指導と評価のあり方
に関して、学習者主体の視点から理解する
2. テキスト及び関連文献をもとに、授業設計のあり方を理解する。
3. 実際に模擬授業を行う中で、クラス内のメンバー相互で学習指導の技
術について理解し習得する。
4. 模擬授業をもとに、授業を修正する技術について理解し習得する。
5. 基本的な教育器械の操作方法について実践的に理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

演習を中心として授業を展開します。学生のみなさんは教師役と生徒役の
両者を体験することにより、教師主導に偏らない学習指導方法の習得を
目指します。演習中はクラス全体が「学習する組織」として機能するよう活
発な意見交換が求められます。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回該当する章を読んで、お互いに議論や質問できる状態になっているこ
と

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価方法は最初に提示しますので、各自到達目標をめざして計画的に学習
を進めてください。

- 授業中の参加度 30%、
発表 30%、
課題レポート 40%、

(自己査定と教師採点を合わせ)上記3観点をもとに、教員が総合的に判

断し、評価します。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義の概要とアイスブレイキング
- 第2回 「教える」から「学ぶ」への変換
まとめとディスカッション 「私が学ぶ」意味と自己改革
- 第3回 「教える」から「学ぶ」への変換
まとめとディスカッション 学びの場と内容と制約
- 第4回 「教える」から「学ぶ」への変換
まとめとディスカッション 学ぶ目標と学習活動
- 第5回 ポスター発表準備 理想の学校を構想する1
- 第6回 ポスター発表準備 理想の学校を構想する2 (ポスター制作)
- 第7回 ポスター発表 理想の学校1 (中学校)
- 第8回 ポスター発表 理想の学校2 (高等学校)
- 第9回 ポスター発表 理想の学校3 (中高一貫校、その他)
- 第10回 学習者主体の授業設計と授業設計の記録および修正方法
- 第11回 マイクロ模擬授業と記録とディスカッション 学習者主体の授業を実践する1
- 第12回 マイクロ模擬授業と記録とディスカッション 学習者主体の授業を実践する2
- 第13回 マイクロ模擬授業と記録とディスカッション 学習者主体の授業を修正する1
- 第14回 マイクロ模擬授業と記録とディスカッション 学習者主体の授業を修正する2
- 第15回 まとめと情報機器のデモ

6. Special Information (留意事項)

遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は欠席とします。授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。また、実習等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストを読んで、レポートにまとめて提出してください。希望により、実際の中高등학교に出向いて情報機器を利用した授業についてのお話を伺うことができます。

講義コード	80002201				
科目名	生徒指導・進路指導の理論及び方法				
担当者	池島 徳大				
単位数	2	配当学年	23		
資格	[教]				
前提科目					
テキスト	『ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！—指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディエーションとクラスづくり』池島徳大監修・他著 ほんの森出版 2011				
参考文献	『図説生徒指導と教育臨床』秋山俊夫監修 北大路書房 1993 『いじめ解決への教育的支援』池島徳大 日本教育新聞社 1997 『学校カウンセリングの理論と実践』佐藤修策総監修、池島徳大他著 ナカニシヤ出版 2007 必要に応じて資料を配布する。				
備考	中高必修				
科目読替					
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本授業では、すべての生徒の健全な発達を促す生徒指導の視点から、思春期・青年期の心理に触れながら、生徒指導上の諸問題について、講義と演習を織り混ぜて行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 生徒指導 (進路指導) の意義と課題が分かる。
2. 思春期・青年期の心理と多様な生徒理解の方法が分かる。
3. 学校で生起する生徒指導上の諸問題への対応と方法が分かる。
4. 生徒指導における教育相談の意義と方法が分かる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

上記課題1については、講義形式で主として進める。2については、適宜、関連する文献及び資料を参照しながらワーク形式で進める。3については、いじめや不登校、非行等の指導事例をグループで議論し、各自の意見を発表することを通して理解を深める。4については、講義と演習を取り入れて行う。最後は、まとめとしてレポートを課す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

いじめや不登校などup-to-dateな問題も取り上げるので、強い課題意識を持っての受講を期待します。そのため、本講義と関わる書籍や文献を読ん

でおくこと。また、自身が中・高等学校で体験したことなどについて発表できるように準備しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

おおよそ以下の割合で評価を行う。

- ①まとめのレポートにて、学習内容に関する知識・理解の定着度をみる。(評価割合60%)
- ②生徒指導に関する意欲・態度の評価を以下で行う。・毎回の「感想ノート」の提出 (評価割合15%)
- ・生徒指導に関するレポートの提出2回<課題は、講義中に提示> (評価割合25%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション・生徒指導の意義と課題
- 第2回 生徒指導の原理
- 第3回 青年期の心理と生徒指導
- 第4回 生徒理解
- 第5回 生徒指導と教育課程
- 第6回 進路指導の意義と課題
- 第7回 進路指導の原理と方法
- 第8回 学校における生徒指導・進路指導体制
- 第9回 生徒指導における教育相談の意義と進め方
- 第10回 進路指導における教育相談の意義と進め方
- 第11回 少年非行の現状と対応
- 第12回 いじめの現状と対応
- 第13回 不登校の現状と対応
- 第14回 開発的・予防的視点にたつ生徒指導の在り方
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

生徒指導に関する知識の獲得、演習によるスキルの獲得、感受性の開発の3つをキーワードに進めます。講義中心からできる限り演習を取り入れた授業を展開します。生徒指導に関して多様な視点からの確に対応できる基礎能力の育成を目指します。従って、強い課題意識を持つての受講を期待します。

講義コード	80002301				
科目名	教育相談の理論及び方法				
担当者	山本 健治				
単位数	2	配当学年	23		
資格	[教]				
前提科目					
テキスト	特になし				
参考文献	『よくわかる教育相談』春日井敏之・伊藤美奈子編 ミネルヴァ書房 2011 『学校カウンセリングの考え方・進め方』樺澤徹二 金子書房 2003				
備考	カウンセリングに関する基礎的な知識を含む 中高必修				
科目読替					
社会人基礎能力	自分を育てる力 コミュニケーションする力 思考・解決する力	✓	共生・協働する力 創造・発信する力 主体的に行動する力	✓	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

不登校、いじめ問題等、学校教育現場には児童生徒が抱える様々な課題が山積している。そこであらためて教育相談の重要性を認識し、その理論や技法を学ぶことを通じてこれらの問題行動や抱える発達課題についての理解を深めることを目指す。また、児童生徒への関わり方はもとより、保護者やスクールカウンセラー等との連携の在り方について学ぶことをねらいとする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教育相談の基礎 (意味と意義) を知る。
2. カウンセリングの理論・技法を知る。
3. 様々な問題の理解と対応を学ぶ。
4. ロールプレイング体験を通しての実践力を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

資料、VTR等を活用しながら、より具体的に学習ができるように工夫する。また、ロールプレイングや紙上応答訓練等の演習も取り入れ、実践的な学びも体験する。また、あわせて適宜ミニレポートを求め、授業で学んだことから、考察する機会を取り入れる予定である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

講義に際し、具体的な事例を扱うが、その際には事前に事例と事例考察記入用紙を配付するので、事例を熟読し考察記入用紙に自らの考えを記入した上で、授業時に持参すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

定期テストにかわるレポート (50%)、授業の参加度 (30%) 及び平常評価 (20%) で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 学校における教育相談とは
- 第2回 カウンセリングとは
- 第3回 来談者中心療法の考え方
- 第4回 精神分析的カウンセリングの考え方
- 第5回 行動療法の考え方
- 第6回 ロールプレイングⅠ(聴き方)
- 第7回 紙上応答訓練(事例)
- 第8回 不登校の理解と対応
- 第9回 家庭内暴力の理解とその対応
- 第10回 神経症的な問題の理解とその対応
- 第11回 いじめ問題の理解とその対応
- 第12回 反社会的な行動の理解とその対応
- 第13回 発達障害の理解とその支援
- 第14回 教員とスクールカウンセラーとの連携
- 第15回 保護者支援と関係機関との連携・総括

- 学校経営、児童理解と指示支援について
幼稚園(特別講師)
- 第13回 教育実習に当たっての最終確認及び心構え等
- 第14回 教育実習事後指導:実習で学んだことをグループで話し合う、
報告書の書き方等も含む
- 第15回 教育実習事後指導:実習における問題点の整理、討論

6. Special Information (留意事項)

6. Special Information (留意事項)

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてきている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。
 2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。
 3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。
- ※日程は、原則として月、火5講時、土3-4講時に行う。ただし事後指導、実習報告会あり。

講義コード	80002501			
科目名	教育実習事前事後指導A			
担当者	神月 紀輔・大西 慎也・小川 博士・ 工藤 哲夫・古庵 晶子・住本 純・藤本 陽三			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	集中 必修 教育実習と同一年度に履修すること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

講義コード	80002502			
科目名	教育実習事前事後指導B			
担当者	河佐 英俊・橋堂 弘文・堀 勝博・加藤 佐千子			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	集中 必修 教育実習と同一年度に履修すること。各教科の教育法の合格者であること。			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教育実習を有効かつ円滑に行い、実りあるものにするため、事前指導においては、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄や、心構えを確実に身につけることをめざす。さらに事後指導においては、実習を通して学んだ成果や反省をもとに、今後の自己の学習の方向づけを援助することをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

実習の意義をよく理解すること。教育に関する知識や技能を教育の場で再構成できるよう準備すること。実習体験を、今後の自己の教育に活かすよう心掛けること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 事前事後指導 事前指導にあつては、教育実習に当たって必要な事柄を理解し、教育実習の心構え等を学ぶ。事後指導においては、教育実習の報告反省会、レポート提出等を行う。

2. 文献、参考資料等はその都度配布する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

各教科・保育の指導法で学んだ内容を復習しておくこと。

事前に配布された資料には目を通して置き、わからない言葉などは辞書やこれまでの使用したテキストなどを用いて、明確にしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教育実習オリエンテーション・教育実習の意義、内容、目的、実習手続、評価の観点
- 第2回 教育実習の具体的な内容と心構え:心構えと自覚、服装、授業の予習復習、礼儀等
- 第3回 教育実習ノートの書き方
- 第4回 教育実習担当教員との打ち合わせ等について
- 第5回 人権教育(特別講師)
- 第6回 人権教育(特別講師)
- 第7回 授業参観で学ぶこと・字の書き方・板書の書き方
- 第8回 授業についての指導技術
- 第9回 特別支援教育(特別講師)
- 第10回 特別支援教育(特別講師)
- 第11回 校種別指導Ⅰ(幼稚園・小学校別)に実施)教科教育から見た授業の進め方
幼稚園(特別講師)
- 第12回 校種別指導Ⅱ(幼稚園・小学校別)に実施)

1. Course Description (科目の教育目標)

「教育実習事前・事後指導」は、教育実習の事前と事後に行う教育実習に関する指導を通して、教育実習の目的達成をより確かなものとするために行う。そのため「事前指導」では、大学での教育と教育実習との間の距離を可能な限り埋め、教育実習に抵抗感なく臨めるようにするため、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄を確実に身につけることをめざす。「事後指導」では、教育実習での学び、体験、反省をもとに、実習前の自己の教育観、学校観、生徒観との比較、整理を行い、教職への意義を高めることを目的とする。また、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、自らの学習や研究課題に役立てることをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1.教育実習の意義・心構えを理解する。
- 2.実習に意欲的に取り組もうとする意識を持つ。
- 3.特別支援教育・人権教育について理解する。
- 4.記録や参観の意義、方法がわかる。
- 5.実習を振り返り客観的に自己を見つめる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義、演習形式および特別講師による講義により行う。事後指導は、個別指導、全体学習および、報告会での発表形式により行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教育実習に行くための自覚を持つこと。

各教科の教材研究や資料の準備を常に心がけること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

<評価基準>

実習における意義や心構えを理解し、意欲的な態度であったか
指導案の書き方、基本的な事柄が理解できたか
実習を振り返り、客観的に自己を見つめることができたか

<評価方法>

記録・レポートの内容 (50%)
発表内容・態度 (50%)
原則として欠席・遅刻・早退は認めない

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教育実習オリエンテーション、実習の手続き、評価の観点
- 第2回 教育実習の意義、内容、心構えと自覚、服装、授業の予習・復習、礼儀、実習日誌の書き方
- 第3回 教員に求められる資質(特別講師)

- 第4回 教育課程と教育目標
- 第5回 人権教育（特別講師）
- 第6回 人権教育（特別講師）
- 第7回 学級経営・道徳・特別活動・生徒指導
- 第8回 教員の仕事内容、服務等（特別講師）
- 第9回 特別支援教育（特別講師）
- 第10回 特別支援教育（特別講師）
- 第11回 教科別指導
- 第12回 教科別指導
- 第13回 実習直前指導・報告書の書き方
- 第14回 事後指導（実習の報告・反省・まとめ）
- 第15回 事後指導（実習の報告・反省・まとめ）

6. Special Information（留意事項）

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席は認めない。

特別講師による講義のときは、スーツで講義を受け、礼儀正しくすること「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

各教科の指導法をすべて合格しているものしか履修できない。

教育実習に関する各種説明会への出席、書類提出など、重要な連絡事項は掲示によって行われるので注意されたい。

講義コード	80002601			
科目名	教育実習Ⅰ			
担当者	河佐 英俊. 橋堂 弘文. 堀 勝博. 加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深める。

教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できるようにする。

教員としての専門的な知識や技能を習得する。

教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つ。

教員としての自分の長所と短所に気づき、資質向上のための努力目標を知る。

学校という組織の一員としての職責・義務を自覚する。

指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認する。

3. Course Method（教育・学習の方法）

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談を行い、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

教育実習生としての自覚を持つこと

教材研究を十分に行うこと

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

<評価基準>

実習に積極的に臨んだか

<評価方法>

レポート（20%）

実習校の評価（60%）

教育実習ノート（20%）

原則として欠席・遅刻・早退は認めない

5. Special Information（留意事項）

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席は認めない。

就職活動、スポーツ・文化クラブ活動などの欠席も認めない。

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

講義コード	80002701			
科目名	教育実習Ⅱ			
担当者	河佐 英俊. 橋堂 弘文. 堀 勝博. 加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	中学校必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description（科目の教育目標）

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

2. Course Objectives（教育・学習の個別課題）

教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深める。

教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できるようにする。

教員としての専門的な知識や技能を習得する。

教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つ。

教員としての自分の長所と短所に気づき、資質向上のための努力目標を知る。

学校という組織の一員としての職責・義務を自覚する。

指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認する。

3. Course Method（教育・学習の方法）

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動など、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談を行い、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

・Class Preparation（準備学習の具体的な方法）

教育実習生としての自覚を持つこと

教材研究を十分に行うこと

4. Evaluation（評価方法・評価基準）

<評価基準>

実習に積極的に臨んだか

<評価方法>

レポート（20%）

実習校の評価（60%）

教育実習ノート（20%）

原則として欠席・遅刻・早退は認めない

5. Special Information（留意事項）

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席は認めない。

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

講義コード	80004401			
科目名	国語科教育法Ⅰ 国語科教育入門			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『新しい国語2 (文科省検定済教科書)』 東京書籍 『新国語の研究』 明治書院 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社			
参考文献	『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版社 『教育実習生のための学習指導案作成教本国語科』 教育実習を考える会 蒼丘書林 『評論・論説の教え方』 右文書院 『小説の教え方』 右文書院 『近代詩の教え方』 右文書院			
備考	国語科必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

中等国語教育の準拠すべき学習指導要領について認識を深めながら、模擬授業を行い、国語教師とはどのような仕事か、どのような視点や知識が求められるのかを学習し考察する。

学習指導要領や指導法に関わる知識を身につけたうえで、学習指導案を作成し、模擬授業を行い、実践的に教育方法を学ぶ。

また、さまざまな補助教材により、国語教師として身につけておくべき教科内容に関する基礎知識について学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 教育文化行政の動向と国語科教育の意義について理解する。
2. 中学校・高等学校国語科学習指導要領について理解する。
3. 中等国語教育であつかわれる言語事項について習熟する。
4. 授業実施のために必要な基本的知識を習得する。
5. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する力を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義も行うが、主として体験的・実践的学習により知識を身につける。
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、相互に批評し合う。
3. 文部科学省発行「学習指導要領」を読解し理解する。
4. 漢字力や語彙力を養成するため、毎時間小テストを実施する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・指示される課題について取り組む。
- ・毎時間課される小テストの勉強を行う。
- ・模擬授業実施のための学習指導案作成を、入念に行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

小テストおよび模擬授業の実践(40%)、相互の批評的態度や発言の妥当性など平常点(30%)、レポート(30%)によって評価する。ただし、出席回数(30%)によって評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。また、常用漢字の書き取り試験の成績が6割未満の者は、単位認定対象外とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 はじめに
- 第2回 国語科教師に求められるもの
- 第3回 国語教育の目的と学習指導要領
- 第4回 学習指導計画について
- 第5回 学習指導案の作り方
- 第6回 授業の組み立て方
- 第7回 教材研究の仕方(1) 教員に必要な基礎知識
- 第8回 教材研究の仕方(2) 生徒に教えるための知識
- 第9回 教材研究の仕方(3) 授業の組み立てを意識する
- 第10回 模擬授業の実践と相互批評(1) 評論文を用い、2名による発表(「食の世界遺産—鰹節」序論部分)
- 第11回 模擬授業の実践と相互批評(2) 評論文を用い、2名による発表(「食の世界遺産—鰹節」本論部分)
- 第12回 模擬授業の実践と相互批評(3) 評論文を用い、2名による発表(「食の世界遺産—鰹節」結論部分)
- 第13回 模擬授業の実践と相互批評(4) 相互批評を活かし、再度の発表3名(「短歌を楽しむ」「小さな労働者」「恥ずかしい話」)
- 第14回 模擬授業の実践と相互批評(5) 相互批評を活かし、再度の発表3名(「伝えたいと思うから」「字のない葉書」「卒業ホームラン」)
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

・国語科教諭免許課程履修者は必修科目である。

講義コード	80004501			
科目名	国語科教育法Ⅱ 国語科教育入門			
担当者	長沼 光彦			
単位数	2	配当学年	2	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『新しい国語2 (文科省検定済教科書)』 東京書籍 『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 東洋館出版			
参考文献	『教育実習生のための学習指導案作成教本』 教育実習を考える会 蒼丘書林 『古典の教え方(物語・小説編)』 右文書院 『古典文法の教え方』 右文書院 『豊かな国語教室』 右文書院 『(銀の匙)の国語教室』 橋本武 岩波ジュニア新書			
備考	国語科必修「国語科教育法Ⅰ」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国語科教育法Ⅰで学んだ知識や心得をふまえ、実際に教室で授業を運営できる伎倆を養う。模擬授業を中心に、学習指導案の作成や授業の進め方、生徒との関わり方を、実践的に学んでいく。とくに、教科書や研究書を読むだけでは気づきにくい、教室でとるべき教師の態度、生徒への目配り、授業展開上の方法などを、自身の実践を振り返りながら身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
2. 国語科教育に必要な種々の方法を実践的に習得する。
3. 教室で生徒と関わる意義を実践的に理解する。
4. 様々な国語教育の知識を、教室で生かすことができるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 模擬授業を中心に実施する。実践をととして、知識を定着させ、教育の方法を理解する。
2. 教育現場で教師がどのような工夫をして授業に望んでいるか、いくつかの事例をととして理解し、自分の模擬授業に応用する。
3. プリントや補助教材の作り方を学び、自分の模擬授業に応用する。
4. 相互に授業を評価し合い、自己の模擬授業に生かす。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・授業で紹介する参考文献を中心に、国語教育に対する予備知識を増やす。
- ・模擬授業の準備を十分に行う。
- ・模擬授業の実践を振り返り、必要な参考文献を広く読みまとめていく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

模擬授業の実践(40%)、相互の批評的態度や発言の妥当性など平常点(30%)、レポート(30%)によって評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 教室における教師の役割
- 第2回 生徒と教師の関わり方
- 第3回 プリントや補助教材の作り方
- 第4回 話すこと・聞くことの指導(1) 求められる教員の技能
- 第5回 話すこと・聞くことの指導(2) 生徒が身につけるべき技能
- 第6回 模擬授業実施(現代文)(1) 3名による授業実践および相互批評(「走れメロス」)
- 第7回 模擬授業実施(現代文)(2) 3名による授業実践および相互批評(「神奈川県沖裏」)
- 第8回 模擬授業実施(韻文)(1) 3名による授業実践および相互批評(「木とともに人とともに」)
- 第9回 模擬授業実施(韻文)(2) 3名による授業実践および相互批評(「わたしが一番きれいだったとき」)
- 第10回 現代文の指導における留意点
- 第11回 模擬授業実施(古文)(1) 3名による授業実践および相互批評(「枕草子」)
- 第12回 模擬授業実施(古文)(2) 3名による授業実践および相互批評(「平家物語」)
- 第13回 模擬授業実施(漢文)(1) 3名による授業実践および相互批評(「漢詩 春望」)
- 第14回 模擬授業実施(漢文)(2) 3名による授業実践および相互批評(「漢詩 黄鶴楼にて、孟浩然の広陵に之くを送る」)
- 第15回 古典の指導における留意点

6. Special Information (留意事項)

・国語科教諭免許課程履修者は必修科目である。

講義コード	80004601			
科目名	国語科教育法Ⅲ 国語科教育 実践力を磨く			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『高等学校 国語総合【国総323】』 筑摩書房 『体系古典文法』 数研出版 『パスワード古文単語』 浜島書店 『発展30日完成漢文高校初級用』 日栄社			
参考文献	『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 『高等学校 国語総合 教師用指導書』 筑摩書房			
備考	国語科必修「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国語科の教育実践に必要なさまざまな知識や心得について学び、教壇の即戦力となれるような伎倆を身につける。講義をまじえつつ、学習指導案の作成や模擬授業実施など、実践的学習を多くとり入れる。また、補助教材により、古典文法、有戦故実、漢文、古典単語などについても学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 国語科の教育実践に必要なさまざまなノウハウを習得する
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する
3. 観点別評価について理解する
4. 補助教材により、古典文法、古文単語、漢文などについて学習する

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 高校の教科書を用いて、指導案を作成し、模擬授業を実施する。各受講者、数回の模擬授業実施をめざす。学期末には、公開研究授業を実施する。
2. 古文単語に関する小テストを実施する。
3. 古典文法への理解を深めるため、小テストを実施する。
4. 漢文テキストを夏休みの独習テキストとする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に指示されるさまざまな課題について取り組むこと。毎時間課される小テストの勉強を怠らぬこと。また、模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度の評点20%、平常点10%、模擬授業の内容30%、定期試験の成績40%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。また、常用漢字の書き取り試験の成績が70点未満の者は、単位認定対象外とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業
- 第2回 国語科教師の使命
- 第3回 観点別評価とは
- 第4回 教材研究の方法
- 第5回 文学的文章(散文)の授業
- 第6回 文学的文章(韻文)の授業
- 第7回 説明的文章の授業
- 第8回 古文の授業
- 第9回 漢文の授業
- 第10回 模擬授業実施(中学校 説明的文章の授業)
- 第11回 模擬授業実施(中学校 文学的文章の授業)
- 第12回 模擬授業実施(高校 小説の授業)
- 第13回 模擬授業実施(高校 古文の授業)
- 第14回 模擬授業実施(高校 漢文の授業)
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者に限る。

講義コード	80004701			
科目名	国語科教育法Ⅳ 教育実習に向けた授業力錬成			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[国]			
前提科目				
テキスト	『高等学校 国語総合【国総323】』 筑摩書房 『体系古典文法』 数研出版 『パスワード古文単語』 浜島書店 『発展30日完成漢文高校初級用』 日栄社			
参考文献	『中学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 『高等学校 国語総合 教師用指導書』 筑摩書房			
備考	国語科必修「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」履修済みであること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国語科の教育実践に必要なさまざまな知識や心得について学び、教壇の即戦力となれるような伎倆を身につける。講義をまじえつつ、学習指導案の作成や模擬授業実施など、実践的学習を多くとり入れる。また、補助教材により、古典の音読、古典文法、有戦故実、漢文、古典単語などについても学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 国語科の教育実践に必要なさまざまなノウハウを習得する。
2. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
3. 観点別評価について理解する。
4. 補助教材により、古典の音読、古典文法、古文単語、漢文などについて学習する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 教育実習を念頭において各自任意の教材をとりあげ、指導案を作成し、模擬授業を実施する。各受講者、数回の模擬授業実施をめざす。学期末には、公開研究授業を実施する。
2. 古典の文章の音読に習熟する。
3. 古文単語に関する小テストを実施する。
4. 古典文法への理解を深めるため、小テストを実施する。
5. 漢文テキストを独習テキストとし、漢文読解力の見きわめ試験を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に指示されるさまざまな課題について取り組むこと。毎時間課される小テストの勉強を怠らぬこと。また、模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業態度の評点20%、平常点10%、模擬授業の内容30%、定期試験の成績40%で評価する。ただし、出席回数が総授業時数の3分の2に満たない者は、不合格とする。また、常用漢字の書き取り試験の成績が80点未満の者、古典文法の試験、漢文読解力試験いずれも成績が60点未満の者は、単位認定対象外とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 導入授業
- 第2回 話すこと・聞くことの指導
- 第3回 書くことの指導
- 第4回 読むことの指導
- 第5回 書写の指導
- 第6回 読書指導
- 第7回 ノート指導
- 第8回 模擬授業実施(中学校 説明的文章の授業)
- 第9回 模擬授業実施(中学校 文学的文章の授業)
- 第10回 模擬授業実施(中学校 古典の授業)
- 第11回 模擬授業実施(高校 評論の授業)
- 第12回 模擬授業実施(高校 小説の授業)
- 第13回 模擬授業実施(高校 古文の授業)
- 第14回 模擬授業実施(高校 漢文の授業)
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ～Ⅲの単位を修得した者に限る。

講義コード	80103901			
科目名	小学校教育実習Ⅰ 理論から実践へ			
担当者	神月 紀輔・大西 慎也・小川 博士・ 工藤 哲夫・古庵 晶子・住本 純・藤 本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位選択必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。

これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

5. Special Information (留意事項)

1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80104001			
科目名	小学校教育実習Ⅱ 理論から実践へ			
担当者	神月 紀輔・大西 慎也・小川 博士・ 工藤 哲夫・古庵 晶子・住本 純・藤 本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[小]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位選択必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。

これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的

な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

5. Special Information (留意事項)

1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80104101			
科目名	幼稚園教育実習Ⅰ			
担当者	神月 紀輔・大西 慎也・小川 博士・ 工藤 哲夫・古庵 晶子・住本 純・藤 本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位選択必修			
科目読替				
社会人 基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいえるべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておくなければならない。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. Special Information (留意事項)

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月初より開

講)

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。
3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80104201			
科目名	幼稚園教育実習Ⅱ			
担当者	神月 紀輔・大西 慎也・小川 博士・ 工藤 哲夫・古庵 晶子・住本 純・藤本 陽三			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[幼]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	小又は幼のどちらか計4単位選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身につけた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

5. Special Information (留意事項)

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。
2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。
3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

講義コード	80105001			
科目名	教職実践演習(幼・小)			
担当者	藤本 陽三・大西 慎也・小川 博士・ 工藤 哲夫・古庵 晶子・神月 紀輔・住本 純			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料等を配布する。			
参考文献				
備考	心理学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

将来教員になる上で必要な知識・技能等に関して、自己の課題を自覚するとともに、必要に応じて不足している点を補うなどし、その定着を図る。授業は、「教育・学習の個別課題」で示された4つの項目の領域を中心に、主として、各テーマに沿った講義を踏まえて、討論やロールプレイングなどの演習を行い、各人の教師の資質に関わる課題について、問題解決を図ることを目標とする。最終段階の授業では、各教科における課題を各自が取り上げ、それを深化、研究し、その成果を模擬授業や授業研究を行うことにより、課題の共有化を図る。授業を通し、教師としての生きる意思を再確認し、自己の教職への使命を認識することを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

これまでに学んだ教職および教科に関する知識と、教育実習体験を通して得られた実践的指導力との統合を図りながら、主に以下の4つの事項についての講義・演習を通して学び、教師としての資質の向上を図る。

- ①現代社会において教師に求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②教職に必要な社会性や対人関係能力に関する事項
- ③生徒の心理発達および集団としての生徒理解に関する事項
- ④教科および道徳の指導力に関する事項

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義と演習(グループ討議・ロールプレイング・学級通信及び学級経営案の作成・模擬授業と授業研究)及び学校教育現場の見学・調査を中心に行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 第1回・第2回：これまでの教職に関する学習を振り返り、成果と課題をまとめる。
- 第3回・第4回：資料「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」を熟読する。
- 第5回：資料「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(答申)」第2部第4章「学校・家庭・地域社会の連携」を熟読する。
- 第6回・第7回：資料「授業の観察と記録の方法」を読む。
- 第8回：作成した授業記録をもとに学んだことをまとめる。
- 第9回：資料「学級・学年通信」を読むとともに、学級・学年通信作成(演習)に向けて準備する。
- 第10回～第13回：指導案作成に向けて、教科等及び単元(題材)を決め、資料等を準備する。
- 第14回：資料「学級経営案」を読むとともに、学級経営案作成(演習)に向けて準備する。
- 第15回：これまでの教職に関する学習を振り返り、成果と教職についた時の自己の課題をまとめる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実技指導、グループ討議、補完授業、模擬授業、総括レポートの結果などを踏まえ、教員としての資質能力が身に付いているかを総合的に判断するとともに授業参加度も加味して評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらい・授業計画・履修履歴の確認等)
- 第2回 これまでの教職に関する学習の振り返り
- 第3回 教職人生を実現させる意味についての講義(京都市内小学校校長・本学OGによる講話)
- 第4回 子どもに対する責任等についてのグループ討議・ロールプレイング
- 第5回 地域と連携した取組についての講義(京都市内小学校校長講話)
- 第6回 学校現場の見学・調査についての事前指導
- 第7回 学校現場の見学・調査(京都市内小学校)
- 第8回 実習及び見学から学んだことについてのグループ討議
- 第9回 学級通信を通じた自己実現についての講義、作成演習
- 第10回 模擬授業と授業研究(Ⅰ)教材研究
- 第11回 模擬授業と授業研究(Ⅱ)指導案作成
- 第12回 模擬授業と授業研究(Ⅲ)模擬授業
- 第13回 模擬授業と授業研究(Ⅳ)分析・考察
- 第14回 学級経営案についての講義と作成演習
- 第15回 総括(教職に就いたときの自己の課題についての討議)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	80105101			
科目名	教職実践演習(中・高)			
担当者	河佐 英俊、橋堂 弘文、堀 勝博、加藤 佐千子			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料等を配布する。			
参考文献	必要に応じて担当教員から提示する。			
備考	人間文化学部・生活福祉文化学部対象クラス			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

教員として求められる実践的指導力を学生が体得すること及び教職課程での学びにおける実践的指導力の体得過程を可視化することを通して、教員としての適格性を最終確認することを目的とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 (A領域)
- ② 社会性や対人関係能力に関する事項 (B領域)
- ③ 生徒理解や学級経営等に関する事項 (C領域)
- ④ 教科内容等の指導力に関する事項 (D領域)

3. Course Method (教育・学習の方法)

教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科内容等の指導力などに関する事項について、ロールプレイングやグループ討議、事例研究、模擬授業などの方法を取り入れながら授業を行う。こうした多様な方法を取り入れた授業という性質上、2コマ連続の開講方式を導入する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

ロールプレイング、グループ討議のための準備資料作り、模擬授業の指導案など、授業内容に応じて適宜準備学習が必須となる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度(10%) 提出物(20%)、レポート(30%)、試験(40%)として評価するが、学習状況が著しく不良で、教員としての実践的指導力の適格性がないと判断する場合は、全担当教員の合意の上で、評定点にかかわらず不合格とする。

また、10回以上の出席を前提に評価するが、その場合においても、A～Dの各領域中、いずれかが全て欠席の場合、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 11月26日1講時 学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情①(グループ討議)(A領域)
- 第2回 11月26日2講時 学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情②(外部講師による講話、事例研究)(A領域)
- 第3回 12月3日1講時 教員としての基本的対人関係能力(ロールプレイング)(B領域)
- 第4回 12月3日2講時 教員における対人援助職としての専門性(グループ討議)(B領域)
- 第5回 12月10日1講時 生徒指導上当面する諸問題に対する対応①(ロールプレイング)(C領域)
- 第6回 12月10日2講時 生徒指導上当面する諸問題に対する対応②(グループ討議)(C領域)
- 第7回 12月17日1講時 学級経営上当面する諸問題に対する対応①(ロールプレイング)(C領域)
- 第8回 12月17日2講時 学級経営上当面する諸問題に対する対応②(グループ討議)(C領域)
- 第9回 12月23日1講時 授業研究(英語科)(計画、実践、分析)①(模擬授業)(D領域)
- 第10回 12月23日2講時 授業研究(英語科)(計画、実践、分析)②(事例研究)(D領域)
- 第11回 12月23日3講時 授業研究(国語科)(計画、実践、分析)②(模擬授業)(D領域)
- 第12回 12月23日4講時 授業研究(国語科)(計画、実践、分析)②(事例研究)(D領域)
- 第13回 1月7日1講時 授業研究(家庭科)(計画、実践、分析)⑤(模擬授業)(D領域)
- 第14回 1月7日2講時 授業研究(家庭科)(計画、実践、分析)⑥(事例研究)(D領域)
- 第15回 1月14日2講時 教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認(A,B,C,D領域)

6. Special Information (留意事項)

11月から毎週木曜日1,2講時及び12月23日(祝)1～4講時の開講とする。

講義コード	80201001			
科目名	介護等体験			
担当者	矢島 雅子			
単位数	1	配当学年	23	
資格	[教]			
前提科目				
テキスト	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特殊学校長会編 ジアース教育新社 2014 『新版・よくわかる社会福祉施設 第3班』増田雅暢・浦野正男・榎田匠他 社会福祉法人全国社会福祉協議会 2013			
参考文献	『介護等体験マニュアルノート』東京都社会福祉協議会 東京都社会福祉協議会 2012 『介護等体験の手引き』徳田克己、名川勝雄 協同出版 2002 『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』現代教師養成研究会編 東京大修館書店 2008			
備考	小・中学校免許取得者に必要			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

小学校・中学校の免許状取得の必要条件である介護等体験について理解した上で、実際に特別支援学校、社会福祉施設その他の施設において計7日間の体験を行う。単に免許のために必要だからということではなく、教職をめざすための貴重な体験であることを自覚すること。併せて、お互いを尊重し、思いやりのある、共に生きる社会の実現をめざす原動力になること。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 介護等体験の制度とその趣旨について理解し、手続きを適切に行う。
2. 体験にあたっての心構えや体験先でのマナーについて理解する。
3. 特別支援学校における介護等体験の実際について理解する。
4. 社会福祉施設その他の施設における介護等体験の実際について理解する。
5. 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、介護等の体験を行う。
6. 体験を振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 事前指導は講義を中心とするが、適宜演習等も取り入れる。
2. 事後指導ではグループ討議等を行う。
3. 毎講義後レポート提出を義務づけている。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業が始まるまでに、テキストを必ず購入しておくこと。大学を離れて体験に行くため、社会人としての心構えを日頃からしておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

事前指導・事後指導への皆出席、レポート課題提出(毎時間)、介護等体験証明書(合計7日間分)提出すること。以上すべてを満たした者に単位を与える。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 事前指導：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて
- 第2回 事前指導：介護等体験にあたっての心構え(上級生の体験発表)
- 第3回 事前指導：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法
- 第4回 事前指導：体験日誌の記入について
- 第5回 事前指導：特別支援学校における介護等体験(外部特別講師による講義)
- 第6回 事前指導：社会福祉施設その他の施設における介護等体験(外部特別講師による講義)
- 第7回 事前指導のまとめ
- 第8回 事後指導：体験の振り返り

6. Special Information (留意事項)

1. 学生便覧の該当ページを熟読しておくこと。
2. 正当な理由なく欠席することは認めない。
3. 事前指導において申込書・誓約書の提出を求める。
4. 4年次生は、体験時期が2月以降になった場合、単位認定できないことがある。
5. 多くの人に迷惑をかけながら実施するため、しっかりとした意識を持って受講すること。

講義コード	90001001			
科目名	生涯学習概論 生涯学習社会の基本的理念と現状			
担当者	池内 正史			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図][博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

「生涯学習」という用語そのものはすでに社会的に定着しているが、その理念・現状についての理解が共有されているとはいえない。本講義では、生涯学習の理念やその社会的・歴史的背景、日本における政策的展開と課題などを紹介・検討しつつ、それらの理解を目指す。また、特に生涯学習社会の重要課題の一角に位置づく「学校外・地域における子ども・青少年の育ち・学び」の現状に注目していくことにしたい。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 生涯学習の基本的理念を理解する
- (2) 国・地方の各レベルでの生涯学習政策・施策の現状を理解する
- (3) 生涯学習のおこなわれる多様な機会や場所、専門職員等についての基本的知識を得る
- (4) 生涯学習社会における「子ども・青少年の育ちや学び」についての理解を深める

3. Course Method (教育・学習の方法)

毎回の授業で配布するプリントに基づき、講義を進めていきます。受講生には授業内でコメントを求める場合や、グループでの活動・発表なども取り入れていく予定です。積極的な参加を期待します。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

生涯学習・社会教育をはじめ、広く子ども・教育・学習に関する資料や新聞記事等に関心を持ち、目を通していただきます。参考文献などは、随時、授業中にも紹介していきます。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 [50%]

課題レポート [50%]

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義計画・評価方法等のガイダンス
- 第2回 ユネスコにおける生涯教育論の提唱とその展開
- 第3回 日本における生涯教育論の登場と「生涯学習」政策への転換
- 第4回 国・地方の各レベルでの生涯学習政策・施策の概要
- 第5回 生涯学習の諸領域と学習者像
- 第6回 生涯学習と学校教育
- 第7回 生涯学習と社会教育
- 第8回 社会教育の諸施設と専門職員
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 学校外・地域での青少年の育ち・学び（「青少年の社会教育」の意義）
- 第11回 「青少年の社会教育」をめぐる国・地方レベルでの政策・施策の実態
- 第12回 生涯学習社会の実態をめぐる調査・報告① - 私たちの身近な生涯学習施策・施設のあり方を調査する -
- 第13回 生涯学習社会の実態をめぐる調査・報告② - 調査の結果を分析する -
- 第14回 生涯学習社会の実態をめぐる調査・報告③ - 調査・分析の結果を報告する -
- 第15回 全体のまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	90001101			
科目名	図書館概論			
担当者	鎌田 均			
単位数	2	配当学年	1	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『新しい時代の図書館情報学』 山本順一（編） 有斐閣 2013			
参考文献				
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

図書館情報学の基礎を学ぶ。司書課程を履修するにあたり、まず図書館についての基本事項を理解し、さらに図書・雑誌から電子出版物にいたる多種多様な情報資源と、それらを扱う図書館の役割と機能を理解する。また、これら情報と利用者をつなげる様々なサービス、試みについて学び、情報ネットワークの時代における図書館の責任や役割について認識を深める。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 図書館の役割、背景、社会的位置づけを理解し、最近の動向について学ぶ。
2. 情報資源と図書館との関係、図書館サービスの基礎を学ぶ。
3. 図書館の機能と仕組みについて理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テキストの内容、講義を通して図書館の基本的事項を学ぶ。
2. 与えられた課題についてレポートを作成することで講義内容、テキストの内容の理解を深める。
3. 授業内での活動（グループワークが主体）を通して、図書館について考え、実践的に学ぶ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

次回講義までにテキストの該当する章を事前に読み、理解しておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業での諸活動への参加 (60%)

期末レポート (40%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の進め方と課題の説明
- 第2回 図書館の意義と役割 (テキスト1章)
- 第3回 図書館の歴史 (テキスト2章)
- 第4回 図書館の機能と種類 (テキスト3章)
- 第5回 図書館のサービス (テキスト4章)
- 第6回 情報・資料の流通と図書館 (テキスト5章)
- 第7回 情報の組織と情報へのアクセス (テキスト6章)
- 第8回 情報ネットワークと電子資料 (テキスト8章)
- 第9回 情報リテラシー教育 (テキスト9章)
- 第10回 図書館経営 (テキスト10章)
- 第11回 図書館司書とは (テキスト11章)
- 第12回 図書館の自由、図書館関連法規 (テキスト12章)
- 第13回 海外の図書館とサービス、図書館ネットワーク (テキスト7章)
- 第14回 越境する図書館：図書館以外の分野、機関との関係
図書館情報学
- 第15回 図書館をめぐる諸課題

6. Special Information (留意事項)

1年次生に履修するのが望ましい。

講義コード	90002101			
科目名	児童サービス論 豊かな子ども時代のために			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[図][日]			
前提科目				
テキスト	『児童サービス論』 鈴木佳苗編 樹村房 2012			
参考文献	授業中に紹介します。			
備考	[図]必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

児童サービスの基本を知識として身につけるだけでなく、実践的に学んで雰囲気をつかむこと、読書や情報サービスに関わる社会的問題にも広く目を向けることをめざす。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 児童サービスの理念及び基本的事項をしっかりと把握する。 2. 児童サービスに深く関連する子どもの心理、子どもの読書、子ども観の移り変わり、児童書などについても併せて学ぶ。 3. ブックトークやストーリーテリングなどの読書プログラムについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義・実習を併せて行う。 2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。 3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム実習を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 公共図書館の児童サービスコーナーを見る機会をできるだけ多く持つ。
2. 児童書をできるだけたくさん読んでおく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

筆記試験60%、読書プログラム実習を含む授業中の課題40%とし、その合計で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 1. 児童サービス概論
- 第2回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 1) 読み聞かせ 2) 紙芝居
- 第3回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 3) ストーリーテリング
- 第4回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 4) ペープサート 5) パネルシアター
 - 6) エプロンシアター
- 第5回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 7) ブックトーク
- 第6回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 7) ブックトーク(続き) 8) 読書のアニメーション
- 第7回 3. 児童サービスの歴史
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第8回 4. 乳幼児サービス
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第9回 5. ヤングアダルトサービス
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第10回 6. 児童サービスをめぐる課題
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第11回 7. 児童資料論(1)
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第12回 7. 児童資料論(2)
 - ※読書プログラム実習を合わせて実施
- 第13回 8. 児童書選択
- 第14回 9. 子どもと読書・情報をめぐる諸問題
- 第15回 10. まとめ

6. Special Information (留意事項)

前提として、児童書に関する知識も必要です。できるだけ多くの児童書を読む機会を持ってください。

講義コード	90101101		
科目名	図書館制度・経営論		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	34
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『図書館制度・経営論』 柳 与志夫 学文社 2013		
参考文献			
備考	必修 <旧>900012図書館経営論		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

図書館という組織を経営することの意味を理解し、図書館を有機的に機能、発展させるための図書館経営、および図書館関係の法律、政策に関する知識を習得する。図書館司書に求められる基礎知識、図書館経営に必要な基礎事項について講義しつつ、国内外の図書館経営の実例、最近の動向等を紹介し、検討することにより、図書館経営について多角的視点をもって考察する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 図書館経営、及び図書館関係法律、政策の基礎知識を得る
- 2 図書館経営に応用できるマネジメント技術を理解する
- 3 図書館経営に関する幅広い視野、柔軟な思考力を身につける

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業外でテキストを読み、内容を理解することを踏まえて、授業ではケーススタディーなどを通して、図書館経営の理念から図書館経営に応用できるマネジメント技術などを能動的に学習する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

毎回、テキストの指定された章を読み、内容を理解すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

2回の期間レポート(各35%)から、授業で取り上げた内容の理解度と応用力を評価し、期末レポート(15%)で科目全般の総合的理解度を判定する。さらに、授業への参加を平常点として評価する(15%)。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義内容及び課題のプレビュー
- 第2回 図書館の法的、組織的、政策的な位置づけ
 - テキスト1、12章
- 第3回 図書館経営概観
 - テキスト2、3章
- 第4回 図書館のミッションとビジョン：運営目的の設定
 - テキスト11章
- 第5回 運営戦略(ストラテジックプラン)：戦略の意義と策定
 - テキスト9、10章
- 第6回 図書館評価：評価の方法と実践
- 第7回 図書館内組織：組織構成例と比較
 - テキスト4章、期間レポート(1)提出
- 第8回 期間レポート(1)講評
- 第9回 予算編成と管理：予算構成例と比較、予算獲得
 - テキスト5、6章
- 第10回 人的資源管理：人材の確保、配置、育成と評価
- 第11回 業務プロセス、サービス提供、PRとマーケティング
 - テキスト8章
- 第12回 図書館設備、場所としての図書館
 - テキスト7章
- 第13回 新規サービス、業務の開発(プロジェクトマネジメント)
- 第14回 図書館経営と図書館環境の変化
 - 期間レポート(2)提出
- 第15回 全体のまとめと期間レポート(2)講評

6. Special Information (留意事項)

講義コード	90101301		
科目名	図書館サービス概論 市民の生涯学習を支援する図書館サービス		
担当者	岩崎 れい		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『現代図書館情報学シリーズ 4 図書館サービス概論』 宮部頼子 樹村房 2012		
参考文献			
備考	定員35人 必修 <旧>900013図書館サービス論 『図書館概論』履修者であること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

市民社会において、生涯学習の環境が整っていることは不可欠であり、図書館はそのための必須の施設である。高度情報社会においてその重要性はさらに増している。その中で、日常生活や学習環境を豊かにするために、利用者の立場に立って、利用者のニーズを充たすのが図書館サービスであることを基礎とし、図書館サービスの専門的意義を知り、サービスの種類と特質について深く理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 図書館が一つのサービス機関であることを理解する。特に、すべての人に図書館のサービスを受ける権利があることを学ぶ。
2. 図書館サービスに対するニーズを充たすためには、どのような業務が必要であるかを理解する。
3. テーマ展示の意義を理解し、実際に企画から展示までの実習をする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義・実習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. テキスト・プリント・ビデオ等を利用する。
4. テーマ展示実習を行う。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 事前に予習する箇所を提示するので、教科書を読んで、割り当てられた箇所については要約し、コメントをつけてくる。
2. テーマ展示実習については、各自企画書を書くことも含めて選書・作業を分担するので、グループごとに指定の授業日までに準備してくる。
3. このクラスではメーリングリストを実習・演習のために利用するので、各自随時必要な情報をメーリングリストに送り、また他のグループの情報や授業の指示をチェックする。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

学期末試験70%、実習を含む授業中の課題30%とし、その合計で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 図書館サービスの理念、関連法・条例
- 第2回 図書館サービスのPRと企画(1)
- 第3回 図書館サービスのPRと企画(2)
- 第4回 図書館におけるテーマ展示の準備(1)
- 第5回 図書館におけるテーマ展示の準備(2)
- 第6回 図書館におけるテーマ展示の実施
- 第7回 日本の図書館サービスの発達史
- 第8回 公共図書館の社会的機能
- 第9回 学術情報基盤としての大学図書館の機能、図書館サービスと著作権
- 第10回 図書館施設の計画と利用
- 第11回 対象者の理解と利用対象別サービスの意義・高齢者サービス
- 第12回 障がい者サービス
- 第13回 多文化サービス
- 第14回 病院患者サービス
- 第15回 図書館サービスの連携・協力

6. Special Information (留意事項)

1. 〈図書館概論〉を履修していることを前提とする。
2. 図書館実習・演習のため、人数制限がある。

講義コード	90101401		
科目名	情報サービス論 図書館をより身近なものに		
担当者	川原 亜希世		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『情報サービス論』 小田光宏編著 日本図書館協会 2012 『レファレンスブック 選びかた・使いかた』 長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会 2015 ※2015年度以前に情報サービス論を履修し、その時のテキスト『レファレンスブック 選びかた・使いかた』(2013年度版)を持っている受講生は改めて購入する必要はありません。		
参考文献	『まちの図書館でしらべる』『まちの図書館でしらべる』編集委員会 柏書房 2002 『図書館のプロが教える「調べるコツ」：誰でも使えるレファレンス・サービス事例集』 浅野高史、かながわレファレンス探検隊著 柏書房 2006 『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』 長澤雅男、石黒祐子共著 日本図書館協会 2007 『夜明けの図書館1-3』 荻野タオ 双葉社 2011-2013		
備考	必修 <旧>900014情報サービス概説		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

図書館における情報サービスの意義を理解し、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて知識を身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 情報サービスの意義と様々な情報サービスについて理解する。
2. 情報ニーズに合った適切な情報を提供する、あるいは利用者の情報探索を支援するために、図書館員の果たす役割を知る。

3. さまざまな情報源の特徴、活用のしかたについて基本的な知識を得る。
4. 近年、公共図書館で盛んに提供されるビジネス支援や健康情報支援などについて実情と課題について考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 基本的な事項については、講義及びビデオを通して学ぶ。
2. 近年、図書館で行われているビジネス支援や健康情報支援などについて、新聞記事、雑誌記事、DVD教材などを通じて学ぶ。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 図書館のレファレンスサービスやILLを利用してみる。
2. 授業前に、テキストを読んで予習する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

試験(80%)、授業中の課題(10%)、授業時間外の課題(10%)を総合して評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 情報サービスの概要
- 第2回 情報サービスの基礎
- 第3回 情報サービスの展開
- 第4回 多様な情報サービス
- 第5回 デジタルレファレンスサービス
- 第6回 情報源整備の実際
- 第7回 利用者の情報利用に対する理解
- 第8回 レファレンス質問への対応
- 第9回 情報の検索と回答
- 第10回 情報検索のしくみ
- 第11回 情報サービスの管理
- 第12回 情報源の特質
- 第13回 事実情報の検索の実際
- 第14回 文献情報の検索の実際
- 第15回 まとめと試験

6. Special Information (留意事項)

この科目は〈情報サービス演習〉の前提科目である。
『レファレンスブック-選びかたと使いかた』は、この授業ではあまり使わないが、この後の後期科目で主に使うので、購入しておくこと。

講義コード	22533001		
科目名	情報サービス演習 I 様々な種類の情報を探索する技術		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図][ブ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	定員46人		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

講義コード	90101501		
科目名	情報サービス演習 I 様々な種類の情報を探索する技術		
担当者	鎌田 均		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図][ブ]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	定員46人 必修 <旧>900016情報検索演習		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力

1. Course Description (科目の教育目標)

情報の氾濫する状況のもとで情報検索を行う場合には、まず何が検索の主題であるかを明確にし、それを各種データベース、情報探索ツールで効果的、効率的に検索できる技術が必要となる。それは、情報へのニーズを理解し、情報ニーズを実際に検索語に適切に変換し、個々のデータベース、情報探索ツール、必要とする情報の特性を理解して適切な検索ができる能力である。本演習では実習を通して、効果的な情報検索を行うことができる能力を習得する。また、情報へのニーズを認識し、評価・選択し、利用する能力も身につける。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. データベース検索インターフェイスの利用に習熟する。 2. 論理演算等の情報検索の基礎的事項を学ぶ。 3. 探索事項と検索語の関係を分析できるようにする。 4. 利用するデータベースの性質を理解し効果的な検索が行えるようになる。 5. 情報の入手、評価・選択、利用の方法を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業での説明を基に、実際のデータベースを利用して情報を検索し、毎回与えられる課題を完了する。回答の講評は当日もしくは次回の授業で行われる。これを通して課題の内容を復習する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

この演習においては課題についての授業中の説明を理解し、提示された課題に取り組むことが重要となる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

演習課題の提出100%とし、その合計で総合的に評価する。(演習課題1～13は各7%、総合演習問題は9%)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 演習方法説明、基本事項に関する講義
- 第2回 情報検索の基礎技術 (演習課題1)
- 第3回 本学図書館OPACの利用法 (演習課題2)
- 第4回 図書資料の検索 (国立国会図書館サーチ) (演習課題3)
- 第5回 図書資料の検索 (CiNii Books) (演習課題4)
- 第6回 雑誌記事、論文の検索 (雑誌記事索引) (演習課題5)
- 第7回 雑誌記事、論文の検索 (CiNii Articles) (演習課題6)
- 第8回 雑誌記事、論文の検索 (引用文献の検索) (演習課題7)
- 第9回 新聞記事の検索 (朝日新聞) (演習課題8)
- 第10回 新聞記事の検索 (読売新聞) (演習課題9)
- 第11回 外国文献の検索 (演習課題10)
- 第12回 インターネット情報の検索 (演習課題11)
- 第13回 各種情報探索法 (単位・通貨の換算、日時情報、就職情報、画像、映像情報の検索) (演習課題12)
- 第14回 情報の評価・選択と利用法 (演習課題13)
- 第15回 総合演習問題

6. Special Information (留意事項)

1. 演習室利用のため、人数制限がある。 2. 出席し、演習に参加することが第一条件である。

講義コード	90101601			
科目名	情報サービス演習Ⅱ 情報探索のプロセスを学ぶ			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『レファレンスブックス 選びかた・使いかた』長澤雅男 石黒祐子共著 日本図書館協会 2015 ※2015年度以前に情報サービス論を履修し、その時のテキスト『レファレンスブックス 選び方・使い方』(2013年度版)を持っている受講生は改めて購入する必要はありません。			
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介します。			
備考	定員 40人 必修 <旧>900015レファレンスサービス演習「情報サービス論」履修者であること			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

レファレンス・サービスは、多様な利用者の質問に対して情報を提供する図書館の重要な業務のひとつである。利用者の情報要求を正確に把握し、適切な資料を使って、適切なプロセスで情報を得ることができるようにする。また、レポート作成のプロセスを学び、そのプロセスに従って、情報探索を行いながらレポート執筆の練習をする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 調べる事柄によって、利用する情報源を使い分けることを知り、それぞれの資料についての知識を得、情報探索のプロセスを体験しながら習得する。 2. 未知の事柄について知識を得る楽しさを知る。 3. レポート作成のプロセスを学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. テキストを中心にレファレンス・サービスのための参考図書についての知識や利用方法を把握する。(「情報サービス論」で学習したことを各自復習する。) 2. 図書館で各自課題をこなし、授業中に発表する。 3. レ

ポート作成のプロセスを学ぶと共に、文献探索の技術を身につける。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. (情報サービス概説)の授業内容を踏まえて演習を実施するため、復習しておく。 2. 前の週までに各回の課題を配布するので、各自割り当てられた課題をこなし、所定の様式でレジュメを作成し、クラス人数分準備する。 3. レポートについては、その作成プロセスも提出する。授業中の指示に従い、ステップ1・2はメール提出、ステップ3は授業中にレジュメを利用し発表(レポート中間発表第1回)、ステップ4・5・6は所定の提出場所に文献カード・情報カードを提出、ステップ7は授業中にレジュメを利用し発表(レポート中間発表第2回)となるので、各自締切日・発表日までに課題を終えるよう準備しておく。 4. パスファインダーの作成演習を授業中に行う。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

レポート(学期中のレポート関連の提出物及び中間発表を含む)40%、演習課題の発表及び提出60%とし、その合計で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 演習方法説明、レポート作成プロセスに関する講義
- 第2回 レポート作成プロセスに関する講義/情報源解説
- 第3回 演習課題発表(3章:事物・事象情報の探索)
- 第4回 演習課題発表(2章:言語・文字情報の探索)
- 第5回 演習課題発表(5章:地理・地名情報の探索)
- 第6回 レポート中間発表(第1回)(1)
- 第7回 レポート中間発表(第1回)(2)
- 第8回 パスファインダーの作成演習
- 第9回 演習課題発表(4章:歴史・日時情報の探索)
- 第10回 演習課題発表(6章:人物・団体情報の探索)
- 第11回 演習課題発表(7章:図書・叢書情報の探索)
- 第12回 演習課題発表(8章:新聞・雑誌情報の探索)
- 第13回 レポート中間発表(第2回)(1)
- 第14回 レポート中間発表(第2回)(2)
- 第15回 演習課題発表(1章:参考図書・データベース情報の探索)

6. Special Information (留意事項)

〈情報サービス論〉を先に履修すること。その内容を学んでいることを前提に演習を進める。

講義コード	90101701			
科目名	図書館情報資源概論			
担当者	米谷 優子			
単位数	2	配当学年	12	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	『図書館情報資源概論』馬場俊明 日本図書館協会 2012			
参考文献	授業時に指示する			
備考	必修 <旧>900017図書館資料論			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

図書館を構成する要素の一つである、図書館情報資源について、歴史的経緯を概観したのち、その類型と各資料の特質ならびに、出版流通のしくみや、情報資源の選択・収集、及び蔵書管理など、図書館情報資源についての基本的知識を学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

図書館情報資源についての基本的知識を獲得し、図書館業務の実践に活用する

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に、ビデオ視聴等も含める。製本技術講習会には必ず参加すること。

授業内容に関連して、課題を課す場合もある。その場合は指示を厳守のうえ期限内に提出すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

教科書や参考書の該当箇所を読んで、内容を把握するように予習するとともに、授業後は図書館に向かい、授業で学習した内容について実際に観察して、実践に即した知識の定着を図ること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

まとめの確認テスト(65%)、授業中の課題および参加度(25%)、製本技術講習会参加及びレポート提出(10%)で総合的に評価する。3分の2以上出席が、確認テスト受験の要件である。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション/情報とメディア
- 第2回 情報と記録の歴史

- 第3回 図書館情報資源の定義とその類型
- 第4回 図書館情報資源1 (印刷資料1: 図書)
- 第5回 図書館情報資源2 (印刷資料2: 逐次刊行物その他)
- 第6回 図書館情報資源3 (非印刷資料)
- 第7回 図書館情報資源4 (特殊な資料)
- 第8回 出版流通システム
- 第9回 図書館情報資源と「図書館の自由」・著作権
- 第10回 コレクションの形成
- 第11回 情報資源の収集と選択
- 第12回 蔵書管理
- 第13回 情報資源の組織化
- 第14回 書庫管理
- 第15回 まとめ(確認テスト)

6. Special Information (留意事項)

授業予定は、理解度その他によって変更する場合があります

講義コード	90101801		
科目名	情報資源組織論		
担当者	川崎 秀子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『情報資源組織論』 田窪直規編 樹村房 2013 『書誌ユーティリティ』 宮澤彰 丸善 2002 『情報資源組織論』 日本図書館協会 日本図書館協会 2013 『図書館目録とメタデータ』 菅根原登 [ほか] 編著 勉誠出版 2004		
備考	必修 <旧>900019資料組織概説 『図書館概論』履修者であること		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会の記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化について、その意義と方法論の理解を進める。電子書籍やネットワーク情報資源の組織化についても触れる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

実務で用いるツール等の基礎知識を獲得することを目的とする。『資料組織概説』は、大きく分けて記述目録法と主題索引法で構成される。記述目録法は、『日本目録規則1987年版改訂3版』、『Resource Discliption and Access』(「資源の記述とアクセス」版)の規則構成を理解する。主題索引法は、『日本十進分類法第9版』、『基本件名標目表第4版』の規則構成を理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

教科書に従って、上記の資料組織の基本ツールの規則構造、規則適用の考え方を講義する。必要に応じて、理解を助けるための補助プリントを配布する。また、理解度の自己確認のために、自己評価用の確認問題を示す。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

『日本目録規則1987年版改訂3版』、『基本件名表目録第4版』、『日本十進分類法第9版』を一度手にとっておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

課題提出 20%、受講態度 20%、小テスト 60%。成績は合算で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 情報資源組織(その目的・意義と概要)
- 第2回 書誌コントロール(意義、歴史、諸活動と成果)
- 第3回 記述目録法の歴史、意義
- 第4回 『日本目録規則1987年版』の特徴と概要
- 第5回 『AACR2』『RDA』の特徴と概要
- 第6回 主題分析の意義と考え方
- 第7回 分類の基本原則、分類法の種類
- 第8回 『日本十進分類法』の概要、分類規程
- 第9回 語による主題組織法(自然語と統制語)
- 第10回 語による主題組織法(シソーラスの構造、件名標目表)
- 第11回 情報通信技術と情報資源組織(図書館の機械化、MARC)
- 第12回 情報通信技術と情報資源組織(書誌ユーティリティ)
- 第13回 情報通信技術と情報資源組織(オンライン閲覧目録の管理と運用)
- 第14回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
- 第15回 最終まとめと理解度確認

6. Special Information (留意事項)

講義コード	90102001		
科目名	図書館情報資源特論 京都資料を知る		
担当者	鎌田 均		
単位数	1	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	授業の中で紹介する		
備考	必修 <旧>900018専門資料論 半年の半分		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

図書館情報資源のうちの「地域資料(郷土資料)」をとりあげ、地元である京都の情報資料について理解を深めていく。具体的には、選択したテーマに関する代表的な資料を探索し、パスファインダーとしてまとめることで、さまざまな京都関係資料を知る体験をする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1 書籍、雑誌、地域資料、古典籍や古地図、またその古典籍の複製版や活字版、インターネットサイトなど情報資源の形態を知る。
- 2 京都関係の文献目録や辞典、年表などの参考資料を使いこなせるようにする。

3. Course Method (教育・学習の方法)

選択したテーマについて、グループもしくは個人で京都関連の資料を調べ、パスファインダーを作成して発表する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

パスファインダーを作成する為に必要な資料を探索する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

パスファインダー作成と発表の内容(選択した資料の適切度、網羅度、構成など)、授業への参加度によって評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の進め方について
発表テーマの紹介: 宗教(社寺)、芸術・芸能、衣食住、その他
- 第2回 地域資料の概要と京都資料、一次資料と二次資料
- 第3回 フィールドワーク
- 第4回 発表準備(テーマの探求、決定)
- 第5回 発表準備(情報資源の探索)
- 第6回 発表準備(パスファインダーの完成)
- 第7回 テーマについての発表
- 第8回 発表と授業全体のまとめ

6. Special Information (留意事項)

発表の準備は図書館ラーニングcommonsで行うことを予定している。

講義コード	90102201		
科目名	図書館サービス特論 視覚障害者等への資料・情報サービス		
担当者	襟川 茂		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	自作プリント、点字読み教材ほか別途指示		
参考文献	『点訳のてびき 第3版』全国視覚障害者情報提供施設協会 読書工房（販売）2013 『G-10とマナブくんの点字教室』全国視覚障害者情報提供施設協会 読書工房（販売）2011 『音訳テキスト【音訳入門編】』全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会音訳テキスト【音訳入門編】製作プロジェクト 読書工房（販売）2013 『音訳テキスト【デジター編集入門編】』全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会音訳テキスト【デジター編集入門編】製作プロジェクト委員会 読書工房（販売）2012 『1からわかる図書館の障害者サービス』佐藤聖一 学文社 2015 適宜資料配布		
備考	定員25人 選択必修 <旧>900023資料特論		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

視覚障害者等の情報環境と情報支援・障害者サービスについて理解できる

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 視覚障害者等の情報入手環境と情報支援・障害者サービスの課題を理解する。
2. 図書館や視覚障害者情報提供施設を中心とする障害者サービスの歴史と現状を理解する。
3. 視覚障害者情報提供施設における事業内容と利用者サービスの現状について、見学を通して学習する。
4. インターネットやネットワークを活用した障害者サービスの方法を理解する。
5. 情報伝達の手段である点訳と点字資料について体験学習を行い基礎的な知識と技能を習得する。
6. 情報伝達の手段である音訳と Daisy (デジター) 資料について体験学習を行い、基礎的な知識と技能を習得する。
7. 様々な暮らしの場面で情報入手の工夫とボランティア活動の意義について理解する。
8. 情報保障を支持する法制度について理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義は資料配付を原則とする。
2. 便利グッズ、点字・録音資料の紹介や映像でのプレゼンテーションを多用し、受講者が課題を容易に理解できるよう工夫する。
3. 小单元ごと的小テストを行い、知識の定着を図る。
4. ワークショップを行う。
 - A. インターネット上のサビエ図書館での資料検索実習。
 - B. 点字体験学習（点字の読み方・書き方実習）
 - C. 音訳養成講座体験学習
 - D. 音声デジター製作実習
 - E. 視覚障害者情報提供施設の見学実習

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 街中での「合理的配慮」の事例に着目する。
2. 「声がけ」などの視覚障害者への支援を体験する。
3. 近くの公共図書館等で障害者サービスの具体例を確認する。
4. 「見えない、見えにくい」シュミレーションの体験があれば、そのことを通じて視覚閉鎖の状況についての考えを整理しておく。
5. 障害者サービスに関係する各種サイトを閲覧する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 評価方法：小单元終了後の小テスト（1回あたり10点満点×6回）、最終講義での小論文課題（30点満点）、授業への参加態度（10点満点）
2. 評価基準
 - ・小单元終了後の小テストと、最終講義での論文課題と、授業への参加態度の点数合計で判定。
 - ・100点満点で60点以上が合格、59点以下が不合格。ただし、講義を1回休むごとに10点の減点
3. その他確認事項

・出欠確認は、各授業ごとに受講者名簿に基づいて口頭で行うことを原則とする。

・遅刻、またはやむを得ない事態が発生した時は、速やかに連絡する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 講義1 「視覚障害者等の情報入手環境と障害者サービスの課題」
- 第2回 講義2 「"本を貸す" だけではなく、視覚障害者情報提供施設のユニークなサービス」
- 第3回 ワークショップ1 「見学事前学習—視覚障害児・者福祉施設の役割と事業内容について」（DVD「施設案内」等から学ぶ）
- 第4回 施設見学 「社会福祉法人京都ライトハウス見学」
- 第5回 見学実習 「京都ライトハウス情報ステーション見学実習」
 - ・サービスカウンターでの日常的な事業運営の見聞
 - ・所蔵資料の分類・配架状況の閲覧
 - ・点訳・音訳等の資料製作から貸出までのプロセスの学習
 - ・ボランティア活動の見聞
 - ・対面読書、読み書きサービス等の利用者との直接サービスの見聞
- 第6回 講義3 「インターネットやネットワークを活用した障害者サービスの方法」
- 第7回 ワークショップ2 「視覚障害者総合ネットワーク・サビエなどを活用した資料・情報検索実習」
- 第8回 講義4 「さまざまな場面で情報入手の工夫と合理的配慮」
- 第9回 ワークショップ3 「点字の読み書きを体験する」
- 第10回 ワークショップ4 「点字で文を読む」
- 第11回 講義5 「何を提供すべきか—図書以外の資料・情報サービス」
- 第12回 講義6 「視覚障害者等への情報提供を担うボランティア活動」
- 第13回 ワークショップ5 「音訳ボランティア養成講習体験」
- 第14回 ワークショップ6 「デジタル録音図書（音声デジター図書）を製作する」
- 第15回 障害者サービス関連法規・規則の学習と講義のまとめ

6. Special Information (留意事項)

<施設見学先案内>

施設名：社会福祉法人京都ライトハウス

所在地：京都市北区千本北大路西側下がる50メートル

(市バス「京都ライトハウス前」)

住所：〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町1-1 京都ライトハウス

TEL 075-462-4400

講義コード	90102301			
科目名	図書・図書館史 知識集積の歴史とその継承			
担当者	平野 翠			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト	担当者が作成したレジュメと資料を配布する。			
参考文献	『日本図書館史概説』岩猿敏生 日外アソシエーツ 2007.1 『図説図書館の歴史』スチュアート・A.P. マレー 原書房 2011.11 『本と図書館の歴史-ラクダの移動図書館から電子書籍まで』モーリン・サワ 西村書店 2010.12 その他、授業のなかで随時紹介していく。			
備考	選択必修 <旧>900022図書及び図書館史			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

様々なメディアによる図書の歴史や図書館の歴史を、日本を中心に西洋、中国に及んで学習し、現在の日本の図書や図書館がどのようになりたってきたかを知る。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

各種の情報資源（主に図書）のメディア及び形態の歴史、流通の歴史、またそれを収集保存してきた図書館の歴史的発展について、日本を中心に、近代以降に大きな影響を与えた西洋や、それまでの文化に大きな影響を与えてきた中国について学び、今私たちの身近にある図書や図書館がどのように成立してきたかを学ぶ。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1 西洋の図書館の発展と中国・日本の図書館の発展の違いを認識する。
- 2 図書史については、現物と図版を示して理解を深める。
- 3 現在の図書館を例にあげながら、知の集積としての図書館の様々を考

える。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

博物館や展覧会に行つて、古典籍をみておく。
国立国会図書館などのHPの電子展示会を閲覧する。
自分が住んでいる地域図書館の歴史を知つておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業に取り組む態度20% 授業中課題20% 授業最終日の確認試験60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 文字の誕生と様々なメディアー紙発明以前のメディア
- 第2回 西洋の図書・図書館史①ー古代 アレクサンドリア図書館
- 第3回 西洋の図書・図書館史②ー中世ー近世 修道院図書室から王室の図書館へ、活版印刷の誕生
- 第4回 西洋の図書・図書館史③ー近代 国立図書館と公共図書館の発展、大量印刷の時代
- 第5回 東洋(中国・日本)の図書のすがたとかたち
- 第6回 中国の図書・図書館史①ー竹簡・木簡、紙の発明、写本から刊本へ
- 第7回 中国の図書・図書館史②ー四部目録の完成、『永楽大典』と『四庫全書』
- 第8回 日本の図書・図書館史①古代ー文字・紙の移入と『百万塔陀羅尼』
- 第9回 日本の図書・図書館史②古代ー貴族の文庫(芸亭など)と摺經・摺仏、平安朝物語
- 第10回 日本の図書・図書館史③中世ー武家文庫(金沢文庫、足利学校)と寺院版
- 第11回 日本の図書・図書館史④近世ーきりしたん版と古活字版から商業出版へ
- 第12回 日本の図書・図書館史⑤近世ー徳川幕府の文庫、大名文庫、個人文庫
- 第13回 日本の図書・図書館史⑥近代ー近代図書館制度
- 第14回 日本の図書・図書館史⑦近代ー活字印刷の時代、新聞発行と大手出版社の登場
- 第15回 図書・図書館史の確認とまとめ

6. Special Information (留意事項)

授業中配布のプリントは、順番がわかるように綴ること。授業の範囲が広いので、必ず、その国・時代の図書史、図書館史の特徴を把握しておくこと。

講義コード	90102401			
科目名	図書館総合演習 図書館の新しい試みと動向			
担当者	鎌田 均			
単位数	1	配当学年	234	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業の中で紹介する			
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

国内外の各種図書館などが発信するインターネット上の情報から、図書館が展開している新しいサービス、動向を探り、個別の事例を検討する。これを通して図書館全般における現状、また今後の展望を総合的に理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 図書館における現在の諸問題、動向について理解する。
- 2. さまざまな図書館で実践されている新しい動向を発見し、検証する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1. 他学生の発表、教員の講義から、図書館における現状、動向に関する大きなテーマについて理解する。
- 2. 図書館ウェブサイト、文献などを調べ、新しい動き、取組みを発見し、それについて検証し、授業で発表する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

インターネット、図書館などを利用して課題について調べ、授業の発表で利用するプレゼンテーションの材料、資料を作成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度40%、プレゼンテーションおよびレポート60%

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 授業の進め方についての説明
- 第2回 テーマの紹介 (1) 新しい図書館の「場」の創出 (2) ヴァーチャルな場での図書館サービス (3) 図書館と利用者を繋げる試

み (4) 電子資料と、情報へのアクセスの変化 (5) 資料のデジタル化とデジタル資料の管理、保存 (6) 他分野、機関との連携

第3回 準備作業 (事例発表のスケジュール)

第4回 準備作業 (仮テーマを選択)

第5回 準備作業 (テーマの探索)

第6回 準備作業 (テーマを確定)

第7回 準備作業 (必要な情報源の探索、収集)

第8回 準備作業 (プレゼンテーションの作成)

第9回 事例発表 (1) 新しい図書館の「場」の創出

第10回 事例発表 (2) ヴァーチャルな場での図書館サービス

第11回 事例発表 (3) 図書館と利用者を繋げる試み

第12回 事例発表 (4) 電子資料と情報へのアクセスの変化

第13回 事例発表 (5) 資料のデジタル化とデジタル資料の管理、保存

第14回 事例発表 (6) 他分野、機関との連携

第15回 まとめ: 各テーマを総合する (プレゼンテーションを完成)

6. Special Information (留意事項)

講義コード	90102501			
科目名	図書館実習			
担当者	岩崎 れい、鎌田 均			
単位数	1	配当学年	4	
資格	[図]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	選択必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

図書館での実習を通して、図書館司書の業務を深く理解する。実習前の準備と事後の振り返り学習を通じて、図書館での仕事の内容と課題を的確に把握する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1. 実習前に図書館業務の概要を復習し、また、実習先について詳しく知る。
- 2. 実習中は、実習先の指示に従い、できるだけ多くの学びを得る。
- 3. 実習後は、振り返り学習を行い、実習中の経験や学習成果について、発表し、レポートを書く。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- 1. 図書館業務と実習先について学ぶ。
- 2. 実習の際、必要な事柄について整理する。
- 3. 図書館サービスの課題を把握する。
- 4. 実習の経験を自分のものとする事ができるよう、発表やレポートを通して振り返り学習を行う。

<Course Schedule (授業予定)>

事前授業: 第1回 (4月14日5講時)、第2回 (4月21日5講時)、第3回 (4月28日5講時)

図書館実習:

事後授業: 第1回 (1月12日5講時)、第2回 (1月19日5講時)、第3回 (1月26日5講時)

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- 1. 司書課程で学んだことについて復習しておく。
- 2. 実習先の図書館のサービスや特徴についてできるだけ詳しい情報を収集しておく。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

実習日誌・実習先の評価40%、実習後の発表・レポート40%、事前事後指導における取り組み20%の割合で、総合的に評価する。

5. Special Information (留意事項)

実習費として、5,000円が必要となる。内訳は、先方への実習委託費及び実習日誌印刷・実習受入作業にかかる郵送費等の実費である。

講義コード	90102601		
科目名	情報資源組織演習Ⅰ		
担当者	川崎 秀子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『資料組織演習—書誌ユーティリティ、コンピュータ目録改訂第3版』北 克一・村上泰子共著 エム・ビー・エー 2014		
参考文献	『日本目録規則1987年版改訂3版』日本図書館協会 2006 『情報資源組織論』田窪直規 樹村書房 2013 『情報資源組織演習』小西和信 樹村書房 2013 『情報資源組織演習』JLA 2015		
備考	定員46人 必修 <旧>900020資料組織演習 [図書館概論][情報資源組織論]履修者であること		
科目読替	情報資源組織演習(Ⅰ・Ⅱ合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<ねらい>「情報資源組織論」において学習した、記述目録法の内容について、更に理解を深めるため、実際の目録作成を行う。<到達目標>①書誌作成のルールが理解できる。②書誌ユーティリティ環境下で、目録作成することの意義、ルール、方法、などの実際が理解できる。③ネットワーク情報資源のメタデータを作成できる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

情報資源組織演習(目録)では、書誌ユーティリティを活用した書誌レコードの作成(和図書、洋図書、雑誌)、所蔵データの作成等を行う。

3. Course Method (教育・学習の方法)

情報資源組織演習(目録)では、コンピュータを使用し、書誌ユーティリティを活用して、書誌データベース構築を演習する。多くの演習問題を通じて、実践的能力を獲得する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

「情報資源組織論」で学習した内容をよく復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

目録(書誌レコード)作成について、

1. 演習課題またはレポート提出 20%
2. 授業参加度 20%
3. 理解度テスト 60%

で合算して最終的評価とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 科目概要の確認、目録作成の基礎
- 第2回 書誌ユーティリティの基礎、和図書目録作成の実際(1)
- 第3回 和図書目録作成の実際(2)
- 第4回 和図書目録作成の実際(3)
- 第5回 和図書目録作成の実際(4)
- 第6回 洋図書目録作成の実際(1)
- 第7回 洋図書目録作成の実際(2)
- 第8回 洋図書目録作成の実際(3)
- 第9回 洋図書目録作成の実際(4)
- 第10回 著者名典拠コントロールの実際(1)
- 第11回 著者名典拠コントロールの実際(2)
- 第12回 雑誌目録作成の実際
- 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際
- 第14回 総復習
- 第15回 理解度テストとまとめ

6. Special Information (留意事項)

目録演習では、コンピュータを使用するため、マウスやキーボードの操作、かな漢字変換などは事前に習得しておくことが望ましい。また、各自の演習データ保存用に、USBメモリーを毎回必ず持参すること。USBを持参しない場合は大学のサーバに割り当てられる個人用ファイルへの保存方法・取り出し方法を確認しておくこと。

講義コード	90102701		
科目名	情報資源組織演習Ⅱ		
担当者	米谷 優子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[図]		
前提科目			
テキスト	『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会 日本図書館研究会 2015		
参考文献	『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会 2014 『基本件名標目表第4版』日本図書館協会 1999		
備考	定員46人 必修 <旧>900020資料組織演習 [図書館概論][情報資源組織論]履修者であること		
科目読替	情報資源組織演習(Ⅰ・Ⅱ合わせて)		
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力		創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

<ねらい>「情報資源組織論」において学習した、記述目録法および主題索引法の内容について更に理解を深め実践力を養うための演習として、本科目では、主題索引作業の実際を取り上げる。<到達目標>①日本十進分類法(NDC)を使用し適切な分類記号の付与ができる、②基本件名標目表(BSH)を使用し、適切な件名標目を付与することができる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

『日本十進分類法』および『基本件名標目表』を使用し、適切に主題索引を実施する能力を身に付ける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

分類付与ならびに件名付与に関する問題演習を多数実施し、実践的能力を育成する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

「情報資源組織論」で学習した内容をよく復習しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

1. 演習課題またはレポート提出 20%
 2. 授業参加度 10%
 3. 理解度テスト 70%
- で合算して最終的評価とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション、主題索引
- 第2回 日本十進分類法
- 第3回 分類規程
- 第4回 分類演習1(相関索引)
- 第5回 分類演習2(一般補助表1(形式区分))
- 第6回 分類演習3(一般補助表2(地理区分、海洋区分))
- 第7回 分類演習4(一般補助表3(言語区分))
- 第8回 分類演習5(固有補助表)
- 第9回 分類演習6(各類概説)
- 第10回 分類総復習、件名標目表と件名規程
- 第11回 件名演習1
- 第12回 件名演習2
- 第13回 件名演習3
- 第14回 分類・件名総復習
- 第15回 理解度テストとまとめ

6. Special Information (留意事項)

ほぼ毎回、授業外課題を課す。課題は必ず仕上げてから、授業に臨むこと。

講義コード	91000301		
科目名	博物館経営論		
担当者	明珍 健二		
単位数	2	配当学年	1234
資格	[博]		
前提科目			
テキスト			
参考文献			
備考	必修		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力
			✓

1. Course Description (科目の教育目標)

博物館の経営における形態面および活動面における適切な管理・運営手法について理解し、ミュージアムマネジメントに関する基礎的能力を養成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

博物館の経営基盤に関し、職員と組織がスムーズに連動するために財務・行財政システム・施設と設備がいかにあるべきかを理解し、博物館の使命とは何か、その評価とは何かを考えるものとする。また博物館における行動規範を理解し、危機管理対応も理解する。さらに博物館の連携体制について、市民参画に必要な体制作りが友の会・ボランティアにとどまらず他館との連携あるいは産官学の連携までを含み、その結果、地域社会と博物館の連携が地域活性化する原動力となることを理解する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式とするが、テーマによっては討論を行うことがある。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

詳細は授業時に指示するが、多くの博物館を見学することを望む。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度(本講義は、出席率70%以上をもって評価するものとし、それに満たない場合は大幅な減点をする。)およびレポートによる評価を行う。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ミュージアムマネジメントとは何か
- 第2回 公立・私立博物館の行財政制度
- 第3回 博物館活動における財務とは何か
- 第4回 博物館施設および設備はどのようにあるべきか
- 第5回 博物館施設の在り方(諸法例との関連)
- 第6回 博物館設備の在り方(諸法令との関連)
- 第7回 博物館の組織および職員体制
- 第8回 博物館の使命、事業計画、博物館評価とは
- 第9回 博物館倫理(行動規範)とは何か
- 第10回 博物館における危機管理とは何か
- 第11回 友の会、ボランティア、支援組織と市民参画の在り方
- 第12回 博物館のネットワーク化・他館との連携
- 第13回 行政、大学、研究機関等との連携
- 第14回 地域社会との連携・活性化をはかる博物館とは
- 第15回 まとめ(博物館経営基盤とは)

6. Special Information (留意事項)

博物館は、知的装置をたくさん備えています。それを知ることは、博物館の楽しさを理解する役に立ちます。ぜひ議論しましょう。

講義コード	91000401			
科目名	博物館資料論 博物館資料についての理解			
担当者	山田 由希代			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	

1. Course Description (科目の教育目標)

博物館を他の社会教育施設や研究書等と区別する指標は、博物館資料の存在である。博物館におけるさまざまな活動は、博物館資料なしには成り立たない。そして、博物館資料の取り扱い、学芸員の最も基本的な業務である。そのため、博物館資料とは何かといったことから、どのように収集、整理、保管、展示するのか、その活用に至るまでを学習する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 博物館資料の種類と分類に関する視点を理解する。
2. 資料の収集・保管について理解する。
3. 資料の調査・研究について理解する。
4. 資料の展示・公開について理解する。
5. 資料を取り巻く多様な課題について考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 授業方法

* 必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2. テキスト・参考資料

* テキストは使用しない。

* 参考文献については必要に応じて紹介する。

3. その他

* 他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

* 博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

講義が中心であるが、履修者の積極的な発言を求めるため、博物館や美術

館に足を運び、展覧会および博物館施設の諸活動を現場で観察する機会を多く持つように心がけること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(態度、発言内容)やレポート等により、総合的に行う。

評価基準は、授業への参加態度50%、まとめのレポート50%とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 博物館資料とはなにか
- 第3回 文化財に関する法律
- 第4回 資料化の過程
- 第5回 収集1 購入、価格評価、寄託制度
- 第6回 収集2 コレクション
- 第7回 分類、整理、記録など
- 第8回 調査方法
- 第9回 保管
- 第10回 展示
- 第11回 運搬
- 第12回 研究
- 第13回 修復
- 第14回 活用
- 第15回 まとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	91000801			
科目名	博物館実習Ⅰ			
担当者	吉田 朋子			
単位数	1	配当学年	34	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	適宜配布する			
参考文献	適宜紹介する			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

学芸員資格に向けた最終段階の科目の一つとして、学芸員業務に関する実践的な力を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

様々な館の見学、作品取り扱いの実習、学内展示の企画・実施を通して、博物館学の知識を実地に応用する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

・博物館施設を見学し、展示等について検討する

・作品管理に関わる実務、取り扱いについて実習を行い、博物館実習Ⅱに備える

・学内展示の企画・実施

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

・指示された課題を準備すること

・施設のスケジュールによっては、時間内に見学を実施することが不可能なので、各自が個別に見学を行うことを求める可能性もある

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

・参加態度50%、課題の成果50% (3分の1以上の欠席で単位取得は困難となる)

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 博物館実習の意義について・展示企画の検討
- 第2回 美術系博物館の見学と検討
- 第3回 考古系博物館の見学と検討
- 第4回 自然系博物館の見学と検討
- 第5回 調査の作成について
- 第6回 自記記録計・照度計の扱い
- 第7回 作品の取り扱い(平面)
- 第8回 作品の取り扱い(立体)
- 第9回 作品の写真撮影
- 第10回 展示内容の企画案発表会(より早い回に実施する可能性がある)
- 第11回 博物館における印刷物の作成について
- 第12回 展示図面の作成
- 第13回 作品貸出・借用の実際について
- 第14回 解説・キャプションの作成
- 第15回 展示作業とギャラリー・トーク

6. Special Information (留意事項)

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。

講義コード	91000901			
科目名	博物館実習Ⅱ			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献				
備考	必修 現場実習			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

博物館・美術館での実習を通して、学芸員の業務を深く理解する。事前準備と事後報告を行い、博物館学的な観点から総括する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学芸員の業務 2. 美術品・資料の取り扱いについて 3. 美術館・博物館の様々な業務について

3. Course Method (教育・学習の方法)

・実習前に、派遣先についての調査を行い、発表する。
・実習は、学芸員の業務を体験するために行うが、具体的な内容は、各博物館、美術館、資料館により、異なる。
・実習後は、実習内容についてのレポートを書き、発表する。

<Course Schedule (授業予定)>

事前・事後の研修を行う。

具体的な実習スケジュールは施設により異なるが、一例として、次のような日程が考えられる。

- (1日目) オリエンテーション 施設見学 講義(展覧会について)
- (2日目) 講義(特別展について) イベント補助
- (3日目) 展覧会補助
- (4日目) ワークショップ補助 保存修復施設の見学と体験
- (5日目) 展覧会補助
- (6日目) イベント(スタッフとして)実施
- (7日目) 展覧会補助
- (8日目) グループワークとまとめ

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

博物館学芸員資格科目で学習したことを実習で活かせるように復習し、実習先の施設についてできるだけ多くの情報を収集しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

事前・事後の取り組み、博物館などから返却された博物館日誌の内容と実習後に提出するレポートとを合わせて評価する。

5. Special Information (留意事項)

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。また、各受入施設は、多忙な業務の中で、実習生を受け入れていることを念頭に置き、大学を代表していることを忘れずに、礼儀正しく真摯な態度で実習に参加すること。

講義コード	91001001			
科目名	博物館資料保存論			
担当者	上羽 真弓			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『博物館資料保存論』 石崎武志(編著) 講談社 2012 『文化財の保存環境』 東京文化財研究所(編) 中央公論美術出版 2011 その他、適宜紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

博物館における資料の保存及び展示・収蔵環境を科学的に捉え、資料保存を良好な状態でおこなって行くための必要な知識を習得することを通じて、

資料保存に関する基礎的能力を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

資料保存の歴史・意義を学び、その重要性を知る。

資料保存のための環境管理について学ぶ。

資料の種類ごとに修復処置の内容と意味を理解する。

美術館における保存修復活動を見学し、理解を深める。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に授業を進める。

第14回、第15回の授業は「美術館における保存修復活動」の見学に充てる。

※施設見学に関わる費用は履修者の負担とする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

授業中に適宜指示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加態度30%、小レポート20%、定期試験50%に基づいて総合的に行う。欠席回数が3分の1を超過した場合には単位を与えない。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 博物館における資料保存の意義、文化財保護の歴史
- 第3回 資料の保存環境-温湿度-
- 第4回 資料の保存環境-空気汚染物質-
- 第5回 資料の保存環境-生物被害とIPM(総合的有害生物管理)-
- 第6回 資料の保存環境-光と照明-
- 第7回 資料の保存環境-振動・衝撃-
- 第8回 資料の保存環境-伝統的な保存方法-
- 第9回 資料の修復-理念・調査-
- 第10回 資料の修復-日本画-
- 第11回 資料の修復-洋画・紙資料-
- 第12回 資料の修復-屋外文化財-
- 第13回 まとめ
- 第14回 美術館の保存修復活動の見学(第15回と連続実施)
- 第15回 美術館の保存修復活動の見学(第14回と連続実施)

6. Special Information (留意事項)

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

講義コード	91001101			
科目名	博物館展示論			
担当者	山田 由希代			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

展示の歴史、展示メディア、展示の諸形態等に関する知識及び方法に関する知識を習得するとともに、博物館および美術館での展示技術に関する基礎的能力を養う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1.博物館において中心的活動のひとつである展示についての知識を身につける。

2.展示方法、技術について学び、博物館において展示が及ぼす影響について多角的に考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1.授業方法

*必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2.テキスト・参考資料

*テキストは使用しない。

*参考文献については必要に応じて紹介する。

3.その他

*他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

*博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

講義のほか演習も行う。履修者の積極的な発言を求め、博物館や美術館で展示を観察する機会を多く持つように心がけること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、授業参加度(態度、発言内容)やレポート等により、総合的に行う。

評価基準は、授業への参加態度50%、まとめのレポート50%とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 博物館展示の意義について
- 第2回 展示と展示論の歴史
- 第3回 博物館の見学
- 第4回 展示製作の流れ (企画・デザイン・照明など)
- 第5回 展示パネル・解説パネル・人や機器による解説
- 第6回 展示解説 (図録・パンフレット)
- 第7回 関係者との協力 (業者等)
- 第8回 美術館の見学
- 第9回 展示を企画してみる (企画概要作成)
- 第10回 出品リストを作ってみる
- 第11回 展示の構成を作って整理してみる
- 第12回 企画展の見学
- 第13回 展示図面を作ってみる (画像の配置)
- 第14回 展示図面を作ってみる (全体の調整)
- 第15回 発表とまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	91001201			
科目名	博物館教育論			
担当者	吉田 朋子			
単位数	2	配当学年	1234	
資格	[博]			
前提科目				
テキスト	適宜配布する。			
参考文献	適宜指示する。			
備考	必修			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

社会教育施設としての博物館の特性を理解する。博物館の教育は双方向的なものであり、すべての人に開かれなければならないことを理解する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

博物館での教育活動の基礎となる理論や知識、方法論を習得する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義形式、ディスカッション、ワークショップ。適宜、課題を提示する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指示された課題に取り組むこと。また、機会があれば、美術館や博物館で行われているワークショップや解説会などを体験すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

参加態度50%、課題の成果50%で評価する。3分の1以上の欠席で、単位修得は著しく困難となる。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 博物館における教育とはなにか
- 第2回 博物館教育の歴史
- 第3回 博物館の利用実態と様々な学びの形態
- 第4回 博物館教育の双方向性について
- 第5回 展示をとおした教育
- 第6回 学校教育と博物館
- 第7回 生涯学習と博物館
- 第8回 地域と博物館
- 第9回 ユニヴァーサルな博物館を目指して
- 第10回 博物館教育活動の様々な手法について
- 第11回 博物館教育活動の企画と実施の実務について
- 第12回 ワークショップの企画
- 第13回 ワークショップの準備
- 第14回 ワークショップの実施
- 第15回 博物館教育の評価について

6. Special Information (留意事項)

講義コード	92000101			
科目名	学校経営と学校図書館 学校図書館の基本を知る			
担当者	西尾 純子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[図][司教]			
前提科目				
テキスト				
参考文献	『学校経営と学校図書館、その展望 改訂版』北克一 青弓社 2009 『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2012 発展的な学習のために、参考文献を手元に置いて勉強してください。 その他、授業の進度にそって適宜紹介します。			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

学校図書館の教育的意義や経営、その現状について総合的に学習する。また、学校図書館の運営・管理にあたる司書教諭の任務と役割について、学校図書館職員や地域との連携についても触れる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校図書館の意義と役割
2. 学校図書館の機能
3. 司書教諭の使命

3. Course Method (教育・学習の方法)

履修する学生の理解度などを見て、授業予定を変更する可能性があります。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

科目理解のために、参考文献を活用してください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度(50%)、小レポート(50%)

小レポートでは、授業で習得した知識・技術などを評価の対象とします。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンス、学校図書館の現状
- 第2回 学校図書館の歴史
- 第3回 教育行政・教育課程と学校図書館
- 第4回 学校図書館の制度・法規・基準
- 第5回 学校経営と学校図書館
- 第6回 メディアセンターとしての学校図書館
- 第7回 学校図書館職員
- 第8回 学校図書館メディアの構成
- 第9回 学校図書館メディアの管理
- 第10回 学校図書館の施設・設備
- 第11回 学校図書館活動の対象と領域
- 第12回 学校図書館活動の内容と方法
- 第13回 地域と学校図書館の連携
- 第14回 学校図書館の評価と改善
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

講義コード	92000201			
科目名	学校図書館メディアの構成			
担当者	米谷 優子			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	『学校図書館メディアの構成 改訂新版』北克一/平井 尊士 放送大学教育振興会 2016			
参考文献	授業中適宜紹介する			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力		共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力		創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

学校図書館が、「学習情報センター」・「読書センター」として、その機能を発揮していくには、教育課程の展開に必要な情報資源が具備され、それらが児童生徒ならびに教職員等の利用者にわかりやすく使いやすく提供され

必要がある。本科目では、学校図書館の情報資源（学校図書館メディア）の種類と特性ならびにその選択・収集・管理について基本的内容を学習するとともに、学校図書館メディアを使いやすくするための工程である組織化についての理解を深め、実践力を養成する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- 1) 学校図書館に備えるべき情報資源・資料について、その種別・特性ならびに、選択・収集・管理の基本的な内容を学習する
- 2) 学校図書館メディアの組織化の意義を理解したうえで、目録作成、分類・件名の付与の作業を実習する

3. Course Method (教育・学習の方法)

講義を中心に、組織化に関しては演習も適宜設定する。授業外課題も課す予定である。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

図書館を利用し、図書館資料やその提供の仕方等をよく観察しておくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

まとめの試験60% 課題提出30% 授業参加度10%

5. Course Schedule (授業予定)

- | | | |
|------|---------------------------------|------------------|
| 第1回 | 授業計画・オリエンテーション | 学校図書館の機能と司書教諭の役割 |
| 第2回 | 学校図書館と情報メディア | |
| 第3回 | 学校図書館メディアの種類とその特性 | |
| 第4回 | 学校図書館メディアの蔵書構築 | |
| 第5回 | 学校図書館メディアの収集・選択 | |
| 第6回 | 学校図書館メディアの組織化-記述目録法と主題索引法 | |
| 第7回 | 学校図書館メディアの組織化-目録の意義と目録規則 | |
| 第8回 | 学校図書館メディアの組織化-コンピュータ目録の作成1 | |
| 第9回 | 学校図書館メディアの組織化-コンピュータ目録の作成2 | |
| 第10回 | 学校図書館メディアの組織化-主題索引法の基礎(分類法・件名法) | |
| 第11回 | 学校図書館メディアの組織化-分類法の実際1 | |
| 第12回 | 学校図書館メディアの組織化-分類法の実際2 | |
| 第13回 | 学校図書館メディアの組織化-一件名法 | |
| 第14回 | 学校図書館メディアの管理・運用 | |
| 第15回 | まとめ | |

6. Special Information (留意事項)

授業計画は、理解度その他の理由により、変更することがある。

講義コード	92000301			
科目名	学習指導と学校図書館 学校図書館による学習支援			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	プリントを配布			
参考文献	『学校教育と図書館』志保田務他編著 第一法規 上記以外は授業中に紹介			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

学校図書館は、学校における教育・学習の重要な支援機関である。具体的には、どのような支援を行うのか、また、情報の溢れる現代社会の中で新たにどのような役割が求められるようになるのかを学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 学校教育・子どもの学習において学校図書館が果たす役割を学ぶ。
2. 現代社会において求められる情報リテラシーの獲得に、学校図書館がどのような支援を行うことができるかを米国の学校図書館基準などをもとに考察する。
3. 学校図書館を活用する教科学習の具体案を作成する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義・課題発表を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. 学校図書館の具体的な活用方法を考え、実際に計画を立ててみる。
4. プリント・ビデオ等を利用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 提示する教材にあらかじめ目を通してくる。
2. 教科学習と学校図書館との関わりについて自分の考えを構築する。
3. 各学習項目についての具体的な準備学習の方法は授業中に提示する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

筆記試験60%、授業中の課題及び提出物40%とし、その合計で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- | | |
|-----|-----------------------|
| 第1回 | 1. 学校教育の支援機関としての学校図書館 |
|-----|-----------------------|

- | | |
|------|---|
| | 1) 学校図書館と関連法 |
| | 2) 学校図書館の役割についての基本理念 |
| 第2回 | 2. 子どもの学習と情報利用 |
| | 1) 子どもの学習の基本概念 |
| | 2) 情報メディアの探索と収集 |
| 第3回 | 2. 子どもの学習と情報利用 |
| | 3) 情報メディアの利用 |
| | 4) 情報のまとめ方および伝達・評価 |
| 第4回 | 2. 子どもの学習と情報利用 |
| | 5) 学校図書館が子どもの学習に果たす役割 |
| 第5回 | 3. 情報探索とレファレンスサービス(1) (演習) |
| 第6回 | 3. 情報探索とレファレンスサービス(2) (演習) |
| 第7回 | 4. パスファインダーの作成(1) (演習) |
| 第8回 | 4. パスファインダーの作成(2) (演習) |
| 第9回 | 5. 情報リテラシーの獲得 |
| | 1) 情報リテラシー概説 |
| | 2) 情報リテラシーと学校図書館 |
| 第10回 | 6. 学習のプロセスと情報リテラシー |
| | 1) 米国の学校図書館基準 |
| | 2) 学習プロセスと情報探索プロセス |
| 第11回 | 6. 学習のプロセスと情報リテラシー |
| | 3) 学習の評価と学校図書館 |
| 第12回 | 7. 学習支援機関としての学校図書館の新しい潮流 |
| 第13回 | 8. 学校図書館を活用する教科学習の具体案(1)
(課題の作成・発表を含む) |
| 第14回 | 8. 学校図書館を活用する教科学習の具体案(2)
(課題の作成・発表を含む) |
| 第15回 | 9. まとめ |

6. Special Information (留意事項)

講義コード	92000401			
科目名	読書と豊かな人間性 子どもの読書における学校図書館の役割			
担当者	岩崎 れい			
単位数	2	配当学年	234	
資格	[司教]			
前提科目				
テキスト	必要に応じて、プリントを配布			
参考文献	『学校教育と図書館』志保田務他編著 第一法規 その他の参考文献は、授業中に紹介する。			
備考	必修 教職課程履修者に限る			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

子どもが成長していく過程において読書がどのような意義を持つかを考察する。また、子どもが読書の楽しさを知るために、学校図書館はどのような役割を果たすことができるかを、実習を交えながら学ぶ。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 子どもの読書能力と読書興味の発達段階を学ぶ。
2. 子ども観の移り変わりの中で、子どもの読書の意義についての考え方がどのように変わってきたかを把握する。
3. ブックトークやストーリーテリングなど読書に関する学校図書館の重要なサービスについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。
4. 読書に関する日・英・米の行政施策や民間の取り組みについて学ぶ。
5. 子どもの読書や文化を取り巻く問題点について考察する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

1. 講義・実習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。(ワークシートを利用した学習、方法論習得のための作業を伴う学習など)
3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム実習を行う。
4. プリント・ビデオ等を利用する。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

1. 講義に関しては、各学習項目ごとに、事前学習や作業の方法を指示する。
2. 読書プログラム実習に関しては、準備方法を授業中に指示する。
3. ある程度児童文学や絵本を読んでいることが学習効果を高めるので、各自積極的に読んでおくことが望ましい。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

筆記試験60%、読書プログラム実習を含む授業中の課題40%とし、その合計で評価する。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 序 「読む」とは
- 第2回 1. 読書能力・読書興味の発達段階
- 第3回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 1) 読み聞かせ 2) 紙芝居
- 第4回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 3) ストーリーテリング
- 第5回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 4) パネルシアター 5) ペープサート
 - 6) エプロンシアター
- 第6回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 7) ブックトーク
- 第7回 2. 子どものための読書プログラム (実習を含む)
 - 7) ブックトーク (続き) 8) 読書のアニメーション
 - 9) ビブリオバトル
- 第8回 3. 児童資料論(1)
- 第9回 3. 児童資料論(2)
- 第10回 4. 子ども観の移り変わり
- 第11回 5. 子どもへの読書支援
 - 1) 日本の行政施策と民間の取り組み
- 第12回 5. 子どもへの読書支援
 - 2) 英国の行政施策と民間の取り組み
 - 3) 米国の行政施策と民間の取り組み
- 第13回 6. 子どもと読書・情報をめぐる諸問題
- 第14回 7. 子どもにとっての読書の意義
- 第15回 8. まとめ

6. Special Information (留意事項)

- アの意義と活用
- 第4回 情報メディアの特性と選択 (1) 情報メディアの種類、特性
- 第5回 情報メディアの特性と選択 (2) 情報メディアの選択、機器や設備の管理
- 第6回 情報メディアの教育利用 (1) コンピュータ、ソフトウェア、周辺機器
- 第7回 情報メディアの教育利用 (2) 情報検索のしくみ、データベース検索、インターネット
- 第8回 情報メディアの活用事例 (1) 授業におけるコンテンツの活用
- 第9回 情報メディアの活用事例 (2) 授業におけるICTの活用
- 第10回 情報メディアの活用事例 (3) 学校図書館Webサイトの活用
- 第11回 情報メディアの活用事例 (4) 特別な支援を要する児童生徒への活用
- 第12回 情報メディアと児童生徒の保護・支援 (1) 情報メディアの活用と知的財産権
- 第13回 情報メディアと児童生徒の保護・支援 (2) 情報モラルと個人情報保護
- 第14回 情報メディアと児童生徒の保護・支援 (3) 情報メディアに関連するトラブルと対策
- 第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

講義コード	92000501		
科目名	情報メディアの活用 情報を学習につなぐ		
担当者	西尾 純子		
単位数	2	配当学年	234
資格	[司教]		
前提科目			
テキスト			
参考文献	『情報メディアの活用』 シリーズ学校図書館学編集委員会編 全国学校図書館協議会 2010 『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2012 その他、授業の進度にそって適宜紹介します。		
備考	定員46人 必修 教職課程履修者に限る		
科目読替			
社会人基礎能力	自分を育てる力	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

学校図書館の役割には、「学習情報センター」、「教材・教育情報センター」、「読書センター」の三つがある。司書教諭はこれらの役割を実現するキーパーソンとなることが求められる。本科目では学校図書館におけるメディア活用能力を身に付け、さらに生徒を指導する能力を獲得することを目標とする。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- (1) 司書教諭としての必要な各種メディアの現状、特性、活用等について学習する。
- (2) 関連法規、情報倫理等について学習する。
- (3) 課題に沿って自ら企画し、調べた結果を発表する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業は講義だけでなく、演習も行います。履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する可能性があります。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

科目理解のために、発展的学習として参考文献を活用してください。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加態度(50%)、小レポート(50%)
小レポートでは理論だけでなく、実際に演習で習得した知識・技術などを評価の対象とします。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 ガイダンスおよび情報メディアに関する基礎知識
- 第2回 知識基盤社会と学校図書館 (1) 情報メディアとは何か、歴史、知識基盤社会、生涯学習
- 第3回 知識基盤社会と学校図書館 (2) 学校教育における情報メディア

講義コード	92205701			
科目名	日本語教授法			
担当者	田中 貴子			
単位数	2	配当学年	23	
資格	[日]			
前提科目				
テキスト	毎回、ハンドアウトを配布する			
参考文献	『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』 西口光一 バベルプレス 1995 『日本語教授法を理解する本 実践編』 三牧陽子 バベルプレス 1996 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』 川口義一&横溝紳一郎 ひつじ書房 2005 『日本語教授法』 石田敏子 大修館書店 1995 『日本語教育ハンドブック』 林大他 大修館書店 1990 国際交流基金日本語教授法シリーズ 第1巻〜14巻 凡人社 日本語教育演習シリーズ①②教えるためのことばの整理①〜② 凡人社 日本語教育演習シリーズ③④さまざまな表現 凡人社 日本語教育演習シリーズ⑤教え方の基本 凡人社 日本語教育演習シリーズ⑥授業の組み立て 凡人社 初級を教える人のための日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク			
備考	必修 日本語教員養成課程専用科目 (言語と教育)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

本科目は、前期「日本語教育入門」での学習をふまえた上で、実際の授業を行うために必要な知識やスキル、考え方を身につけることを目標とする。日本語教育を行う上で必要な第二言語習得理論や、教授法の変遷、日本語の言語的な特徴、教室運営スキルなどを学ぶ。現在、日本語学習者の増加に伴い、その背景や学習動機などは実に多様化しており、授業の実践方法もさまざまである。日本国内、国外を問わず、様々な状況に応じて、学習者のために自ら考え、実践できる教師の育成を目指す。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

国内外の日本語教育の現状およびその背景を知る。
さまざまな教授法を学び、その特徴や問題点を考える。
外国語としてとらえた日本語に関する知識を学ぶ。
外国語教育の技能を学ぶ。
教材や教室活動、授業の組み立て方を学び、実践を行う。
教師としての資質を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

ハンドアウトに沿って講義を行う。
外国語としての観点から、日本語を分析する。
さまざまな教授法を考え、各自あるいはグループで教案作成や教材分析を行う。
教室実習を行う。

授業への積極的な参加が求められる。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前に資料を読んでおくこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業参加度 (30%)、課題・実習 (40%)、試験 (30%) の総合評価とする。

出席回数が3分の2に満たない場合は、不合格とする。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 国内外の日本語教育の現状
- 第2回 コースデザイン、シラバス
- 第3回 教授法の歴史と言語学習理論1 (構造言語学に基づいた教授法まで)
- 第4回 教授法の歴史と言語学習理論2 (コミュニケーション型教授法から現代にいたるまで)
- 第5回 教室活動の種類と目的1 (教室環境や教師のインターアクションなど)
- 第6回 教室活動の種類と目的2 (授業の組み立て、クラスの活動)
- 第7回 日本語の音声
- 第8回 授業の実際1 会話教育と教材分析
- 第9回 授業の実際2 聴解教育と教材分析
- 第10回 授業の実際3 読解教育と教材分析
- 第11回 授業の実際4 作文教育、日本語の語彙
- 第12回 評価論、教科書分析、授業案作成
- 第13回 授業の実践1 (教材研究・模擬授業 初級1)
- 第14回 授業の実践2 (教材研究・模擬授業 初級2)
- 第15回 授業の実践3 (教材研究・模擬授業 初級3) 今までのまとめ

6. Special Information (留意事項)

講義コード	92205801			
科目名	日本語教育実習 I			
担当者	日比 伊奈穂			
単位数	2	配当学年	3	
資格	[日]			
前提科目	「日本語教育入門」※H26年度以後入学者に適用			
テキスト	ハンドアウト配布。			
参考文献	授業中、適宜指示する。			
備考	必修 日本語教員養成課程専用科目 (言語と教育)			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

模擬授業を通して、日本語を教えるための技術を身につける。どのような学習者にも対応できるよう、初級、中級、上級というレベルに応じた指導法はもちろん、文法、会話、読解、作文といった科目別の具体的な指導方法も学ぶ。実践を通して、日本語教授法で学んだ知識を日本語教師として必要な技術に結びつけることが本科目の目標である。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・日本語教育における日本語文法を学ぶ。
- ・レベル別、科目別の模擬授業を通して、指導法の基礎を身につける。
- ・どのような授業を行うか、自ら考え、工夫する。
- ・さまざまな教材の特徴を学び、効果的な使用法を考える。

3. Course Method (教育・学習の方法)

授業前半は日本語文法の基礎を学ぶ。後半は教授法を確認しながら、グループ、あるいは個人で模擬授業の準備、実践を行う。自らの実践だけでなく、他学生の模擬授業からも学べることは多い。積極的に授業に参加すること。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

- ・日本語文法や教授法はさまざまな書物にあり、自ら積極的に学ぶこと。
- ・模擬授業の前には教案を提出すること。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

授業への参加度：40%、課題・実習：60%

出席が3分の2以上に満たない者は評価しない (不合格)。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 はじめに (オリエンテーション)
- 第2回 初級文法「品詞」、初級授業の概論
- 第3回 初級文法「格助詞」、初級模擬授業準備 (1)
- 第4回 初級文法「活用」、初級模擬授業準備 (2)
- 第5回 初級文法「受身」、初級模擬授業 (1)
- 第6回 初級文法「使役」、初級模擬授業 (2)
- 第7回 初級文法「条件」、初級模擬授業 (3)
- 第8回 初級模擬授業 (4)
- 第9回 中上級の授業概論

第10回 中上級の授業「文法」、中級模擬授業 (1)

第11回 中上級の授業「読解」、中級模擬授業 (2)

第12回 中上級の授業「会話」、中級模擬授業 (3)

第13回 中上級の授業「作文」、中級模擬授業 (4)

第14回 評価方法 (評価基準、試験問題作成など)

第15回 総括

6. Special Information (留意事項)

講義コード	92205901			
科目名	日本語教育実習 II			
担当者	田中 貴子			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目	「日本語教育実習I」※H26年度以後入学者に適用			
テキスト	「日本語初級大地」 山崎佳子ほか スリーエーネットワーク 「トピックによる日本語総合演習中級前期・中級後期」 スリーエーネットワーク 「楽しく読もう」 文化外国語専門学校 凡人社 日本語初級・初中級・中級テキスト			
参考文献	「みんなの日本語I・II」 スリーエーネットワーク 「初級を教える人のための日本語文法ハンドブック」 スリーエーネットワーク 「中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」 スリーエーネットワーク 「日本語文型辞典」 くらしお出版 「くらべてわかる日本語表現文型辞典」 Jリサーチ 「日本語初級大地 文型説明と翻訳 英語版」 スリーエーネットワーク 「日本語初級大地 教師用ガイド 教え方と文型説明」 スリーエーネットワーク 「どなたときどう使う日本語表現文型辞典」 アルク 「生きた例文で学ぶ日本語表現文型辞典」 アスク 「初級日本語文法と教え方のポイント」 スリーエーネットワーク 「中級日本語文法と教え方のポイント」 スリーエーネットワーク 「みんなの日本語I・II 書いて覚える文型練習帳」 スリーエーネットワーク 「おたすけタスク」 くらしお出版 「コミュニケーション・ゲーム」 凡人社 「コミュニケーションのためのクラス活動40」 スリーエーネットワーク 「絵で導入・絵で練習」 凡人社 「クラス活動集101」 スリーエーネットワーク 「続クラス活動集131」 スリーエーネットワーク 「日本語かな入門」 凡人社 「くらべてわかる日本語表現文型辞典」 Jリサーチ 「教師と学習者のための日本語文型辞典」 くらしお出版 「短期集中初級日本語文法総まとめポイント20」 スリーエーネットワーク 「中級日本語文法要点整理ポイント20」 スリーエーネットワーク 「語学留学生のための日本語I」 『フォローアップ問題集』 凡人社 「語学留学生のための日本語II」 『フォローアップ問題集』 凡人社 「絵とタスクで学ぶにほんご」 凡人社 「絵でマスター日本語基本文型85」 凡人社 「新文化初級日本語」 凡人社 「文化中級日本語」 凡人社 「初級日本語げんき [改訂版]」 ジャパンタイムス 「まるごと 日本のことばと文化」 三修社			
備考	選択必修 日本語教員養成課程専用科目 (言語と教育) 学外実習			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

1. 教育実習

本科目は1,2,3年で学習した日本語教員養成科目の総仕上げとして、実

際に外国人学習者に日本語教育の授業実践を行なうことにより、日本語教師としての知識、技能、考えなどを身につけることを目標とする。実習において円滑な実践が行なわれるよう、十分な課題準備が求められる。既に実施している教室内実習とは異なり、多様な学習者に対応した指導技術、問題解決能力、コミュニケーション力などが求められる。グローバル社会において、自ら考え実践できる日本語教師の育成を目指す。

2. 事前事後授業

実習を実りあるものにするため、事前授業では基本的な授業技能や心構えを身につけ、自主的に様々な準備を行う。事後指導においては、実習体験が今後の自立学習に活かされるように意識付けを行う。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

1. 日本語教育実習に対する教師としての心構えを身につける。
2. 学習者に応じたコースデザイン・指導内容を考える。
3. 実習のオリエンテーション、プレースメントテスト、シラバスなどの作成を行う。
4. さまざまな教授法をふまえて、指導案作成・教材準備を行う。
5. 実践を通して、効果的な指導技能、教室活動を学ぶ。
6. 日本語学習者との相互理解を深める。
7. 実習を総括し、レポートにまとめる。

3. Course Method (教育・学習の方法)

実習の事前事後に、講義による授業を行なう。実習先では授業を実践し、その後フィードバックを行なう。授業実践の前には指導案の提出が求められる。学生は授業実践および授業見学を通して共に日本語教育における技能を深める。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

事前授業では、さまざまな学習者に対するコースデザインを行う。また、日本語教材の比較・分析を通して授業実践の準備を行う。実習中は、指導内容の研究が不可欠で、授業に対する適切で効果的な指導法や教材・教具などを考えて指導案を作成することが求められる。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は授業参加度、指導案提出、教育実習、課題提出により総合的に行う。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

5. Course Schedule (授業予定)

- 第1回 事前指導1. コースオリエンテーション、教育実習の意義及び心構え、学習者の多様性と異文化コミュニケーション
- 第2回 事前指導2. コースデザイン、プレースメントテスト作成、実習オリエンテーション準備
- 第3回 事前指導3. 教材研究、指導案作成、教材および教具作成(初級)
- 第4回 事前指導4. 教材研究、指導案作成、教材および教具作成(初級および中級)
- 第5回 実習1. 実習オリエンテーション、プレースメントテスト実施、クラス分け
- 第6回 実習2. 初級授業実践(ひらがな、挨拶、自己紹介、こそあど、数字)
- 第7回 実習3. 初級授業実践(ひらがな、基本的な動詞・形容詞、存在の表現)
- 第8回 実習4. 初級授業実践(カタカナ、希望の表現、授受表現)
- 第9回 実習5. 初級授業実践(カタカナ、比較の表現、過去の表現)
- 第10回 実習6. 初中級授業実践(動詞「辞書形」「て形」「た形」の文型)
- 第11回 実習7. 初中級授業実践(動詞「ない形」「普通形」の文型)
- 第12回 実習8. 初中級授業実践(可能な表現、時の表現、自動詞・他動詞)
- 第13回 実習9. 中級授業実践(日本文化に関する読解)
- 第14回 実習10. 中級授業実践(日本文化に関する会話)
- 第15回 事後指導1. 振り返り、実習日誌・レポート・最終指導案提出、総括、今後の自己学習

6. Special Information (留意事項)

講義コード	92206001			
科目名	日本語教育実習Ⅲ 海外での日本語教育実習			
担当者	堀 勝博			
単位数	2	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目	「日本語教育実習Ⅰ」※H26年度以後入学者に適用			
テキスト				
参考文献				
備考	定員8人 選択必修 日本語教員養成課程専用科目(言語と教育) 学外実習			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

初級から上級まで各レベルの日本語授業の実践を通して、日本語教育の方法について体得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

詳細は、海外実習校との打ち合わせによって決定し、授業の中で指示する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

この科目は、本学日本語教員養成課程の主要科目を修得した最終年次生が、実際に海外の日本語教育の現場(香港中文大学專業進修学院の予定)に赴き、外国人学習者を直接教えることで、日本語教育の実践的知識を体得することを目的とするものである。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指示された課題は、事前にきちんと準備すること。とくに、海外実習校においては、事前学習・教材研究は周到に行うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

取り組み姿勢の評点30%、作成教材、指導案および実施模擬授業の内容60%、最終レポートの内容10%で評価する。なお、この科目に関しては、遅刻はゆるぎされない。欠席した者は単位不認定となる。

5. Special Information (留意事項)

別途渡航費が必要である。また、この授業の履修条件は、以下の通りである。日本語教育実習Ⅰの単位を修得済みであり、かつ必修科目22単位のうち16単位以上(平成26年度以降入学者は24単位中18単位)を修得済みであること。留学生は、日本留学試験日本語科目(3領域総合得点)320点以上の成績を取得していることが求められる。卒業後、日本語教員として就職することを考えている人は、本科目を含む実習科目をすべて履修することが望ましい。

講義コード	92210101			
科目名	日本語教育実習Ⅳ 海外での長期日本語教育実習			
担当者	堀 勝博			
単位数	4	配当学年	4	
資格	[日]			
前提科目	「日本語教育実習Ⅰ」※H26年度以後入学者に適用			
テキスト				
参考文献				
備考	定員2人 選択必修 日本語教員養成課程専用科目(言語と教育) 学外実習			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

初級から上級まで各レベルの日本語授業の実践を通して、日本語教育の方法について体得する。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

詳細は、海外実習校との打ち合わせによって決定し、授業の中で指示する。

3. Course Method (教育・学習の方法)

この科目は、本学日本語教員養成課程の主要科目を修得した最終年次生が、実際に海外の日本語教育の現場(香港YMCA系列の教育施設を予定)に赴き、外国人学習者を直接教えることで、日本語教育の実践的知識を体得することを目的とするものである。

・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)

指示された課題は、事前にきちんと準備すること。とくに、海外実習校においては、教材研究・指導案作成は周到に行うこと。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

現地教員の評価をもとに、実習期間中に作成した教材や指導案、最終レポートなどにより、総合的に判定する。なお、遅刻・欠席した者は単位不認定となる。

5. Special Information (留意事項)

別途渡航費が必要である。また、この授業の履修条件は、以下の通りである。日本語教育実習Iの単位を修得済みであり、かつ必修科目22単位のうち16単位以上(平成26年度以降入学者は24単位中18単位)を修得済みであること、また、Toeic600点程度の英語能力を有すること。留学生は、日本留学試験日本語科目(3領域総合得点)320点以上の成績を取得していることが求められる。卒業後、日本語教員として就職することを考えている人は、本科目を含む実習科目をすべて履修することが望ましい。

シヨン演習 (発表③)

第12回 プレゼンテーション演習：準備 (企画)

第13回 プレゼンテーション演習：準備 (視覚資料作成、練習)

第14回 プレゼンテーション演習：準備 (リハーサル、相互評価)

第15回 まとめ：発表④

6. Special Information (留意事項)

講義コード	94001001			
科目名	応用プレゼンテーション演習			
担当者	平野 美保			
単位数	2	配当学年	34	
資格	[ブ]			
前提科目				
テキスト	『ビジネスプレゼンテーション』 武田秀子編 実教出版 2011			
参考文献	『シンプル・プレゼン』 ガー・レイノルズ 日経ビジネスアソシエ 2011 『プレゼンテーションZEN 第2版』 ガー・レイノルズ ピアソン桐原 2012 『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』 ジェレミー・ドノバン 新潮社 2013			
備考	定員30人 「プレゼンテーション演習」履修済みが望ましい			
科目読替				
社会人基礎能力	自分を育てる力	✓	共生・協働する力	✓
	コミュニケーションする力	✓	創造・発信する力	✓
	思考・解決する力	✓	主体的に行動する力	✓

1. Course Description (科目の教育目標)

視覚資料の特性や作成上の留意点などを理解した上で資料作成を行い、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

2. Course Objectives (教育・学習の個別課題)

- ・プレゼンテーションの基礎知識をもとに、視覚資料に関する意義、種類、特徴などを理解する。
- ・商品企画など図表や図解表現などを使った資料作成をしながら実践的なプレゼンテーション力を身につける。

3. Course Method (教育・学習の方法)

- ・各課題について、学習、準備、練習、発表を、個別ないしはグループで行う。
- ・発表ごとに、発表に関する自己評価(工夫点、反省点)、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する(3回)。
- ・Class Preparation (準備学習の具体的な方法)
 - ・毎回のテーマについて、準備・練習を行う。
 - ・授業内でできなかったことは、次週までに仕上げておく。
 - ・プレゼンテーション後に「報告書」を作成する。

4. Evaluation (評価方法・評価基準)

評価は、最終プレゼンテーション(30%)、授業参加度(40%)、報告書(30%)に基づき、総合的に行う。

5. Course Schedule (授業予定)

第1回 オリエンテーション

第2回 ビジュアル化の意義：視覚資料のポイントと図解、プレゼンテーション演習(準備)

第3回 ビジュアル化の意義：図解を使ったプレゼンテーション演習(発表①)

第4回 視覚資料の種類と特徴：視覚資料の理解と視覚資料を使ったプレゼンテーション演習(準備)

第5回 視覚資料の種類と特徴：視覚資料を使ったプレゼンテーション(準備)

第6回 視覚資料の種類と特徴：視覚資料を使ったプレゼンテーション演習(リハーサル)

第7回 視覚資料の種類と特徴：視覚資料を使ったプレゼンテーション演習(発表②)

第8回 資料引用と著作権への配慮

第9回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点：特徴と留意点の把握、プレゼンテーション演習(準備)

第10回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点：プレゼンテーション演習(準備)

第11回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点：プレゼンテ

平成28年度
SYLLABUS
(講義概要)

平成28年3月10日発行

発行 京都ノートルダム女子大学
〒606-0847
京都市左京区下鴨南野々神町1
編集 京都ノートルダム女子大学教務課
TEL. (075)706-3745
FAX. (075)706-3790
印刷 為国印刷株式会社



KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

京都ノートルダム女子大学

学 籍 番 号	氏 名